

## 基本計画書

基 本 計 画							備 考		
事 項	記 入 欄						備 考		
計 画 の 区 分	研究科の設置								
フ リ ガ ナ 設 置 者	コリツカダクホシノツツカダク 国立大学法人筑波大学								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	ツツカダクダク 筑波大学大学院（University of Tsukuba Graduate School）								
大 学 本 部 の 位 置	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1								
大 学 の 目 的	<p>本学大学院において、修士課程及び博士前期課程は、幅広く深い学識の涵養を図り、専門分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。</p> <p>一貫制博士課程、博士後期課程及び3年制博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p> <p>専門職学位課程は、幅広い分野の学士課程の修了者や社会人を対象として、特定の高度で専門的な職業能力を有する人材の養成に特化して、国際的に通用する高度で専門的な知識・能力を涵養することを目的とする。</p> <p>法科大学院の課程は、専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とする。</p>								
新 設 学 部 等 の 目 的	<p>【人間総合科学学術院】 人間の心身及び諸活動に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な教育研究を通して、固有の学問領域において高度でグローバルな視点に基づいた研究を計画実行でき、人間に関する幅広い知識をもち優れた学際的な学術研究や国際的かつ学際的な教育研究環境を背景に異分野の先端的な融合が図れる優れた学術研究を計画実行できる研究者と大学教員、及び複合的な視点から人間を捉え、柔軟かつ適切な援助・支援を研究・設計して社会的ニーズに対応できる高度専門職業人を養成する。</p>								
	<p>&lt;人間総合科学研究群&gt; 人間の心身及び諸活動に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な教育研究を通して、固有の学問領域において高度でグローバルな視点に基づいた研究を計画実行でき、人間に関する幅広い知識をもち優れた学際的な学術研究や国際的かつ学際的な教育研究環境を背景に異分野の先端的な融合が図れる優れた学術研究を計画実行できる研究者と大学教員、及び複合的な視点から人間を捉え、柔軟かつ適切な援助・支援を研究・設計して社会的ニーズに対応できる高度専門職業人を養成する。</p>								
	<p>&lt;スポーツ国際開発学共同専攻&gt;（修士課程/共同教育課程） スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与し、指導的役割を担うことのできる高度専門職業人・研究者を養成する。</p>								
	<p>&lt;大学体育スポーツ高度化共同専攻&gt;（後期3年の課程のみの博士課程/共同教育課程） 筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。</p>								
	<p>&lt;国際連携食料健康科学専攻&gt;（修士課程/国際連携専攻） 人類が地球規模で直面する健康の維持・増進や食料の安全供給等の課題に対して、「医食同源」の理念に基づき、食料が健康に及ぼす影響を科学的に理解し、グローバル社会のニーズと研究開発を橋渡しすることのできる専門力と実践力を備えた国際的な高度専門職業人を養成する。</p>								
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	開 設 時 期 及 び 開 設 年 次	所 在 地	備 考
	人間総合科学学術院 [Graduate School of Comprehensive Human Sciences]	2	575	-	1,150	修士（教育学） [Master of Arts in Education]  修士（心理学） [Master of Arts in Psychology]	令和2年4月 第1年次	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1	【基礎となる学部】 人間学群（教育学類、心理学類、障害科学類） 情報学群（情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類） 医学群（医学類、看護学類、医療科学類） 体育専門学群 芸術専門学群

									14条特例の実施
						修士（障害科学） [Master of Arts in Disability Sciences]			
						修士（カウンセリング） [Master of Science in Counseling]			
						修士（リハビリテーション科学） [Master of Science in Rehabilitation]			
						修士（医科学） [Master of Science in Medical Sciences]			
						修士（公衆衛生学） [Master of Public Health]			
						修士（神経科学） [Master of Neuroscience]			
						修士（看護科学） [Master of Science in Nursing]			
						修士（体育学） [Master of Physical Education, Health and Sport Sciences]			
						修士（スポーツ・オリンピック学） [Master of Arts in Sport and Olympic Studies]			

						修士（スポーツウエルネス学） [Master of Sport and Wellness Promotion]  修士（芸術学） [Master of Science in Art]  修士（デザイン学） [Master of Design]  修士（世界遺産学） [Master of Heritage Studies]  修士（情報学） [Master of Science in Informatics]  修士（病態機構学） [Master of Disease Mechanism]			
	人間総合科学研究群(D) [Degree Programs in Comprehensive Human Sciences]	3	141	-	423	博士（教育学） [Doctor of Philosophy in Education]  博士（心理学） [Doctor of Philosophy in Psychology]  博士（障害科学） [Doctor of Philosophy in Disability Sciences]  博士（カウンセリング科学） [Doctor of Philosophy in Counseling Psychology]	令和2年4月 第1年次	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1	

						<p>博士（リハビリテーション科学） [Doctor of Philosophy in Rehabilitation Science]</p> <p>博士（ヒューマン・ケア科学） [Doctor of Philosophy in Human Care Science]</p> <p>博士（公衆衛生学） [Doctor of Philosophy in Public Health]</p> <p>博士（神経科学） [Doctor of Philosophy in Neuroscience]</p> <p>博士（看護科学） [Doctor of Philosophy in Nursing]</p> <p>博士（スポーツ医学） [Doctor of Philosophy in Sports Medicine]</p> <p>博士（体育科学） [Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences]</p> <p>博士（スポーツウエルネス学） [Doctor of Sport and Wellness Promotion]</p> <p>博士（コーチング学） [Doctor of Philosophy in Coaching Science]</p>			
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

						博士（芸術学） [Doctor of Philosophy in Art]  博士（デザイン学） [Doctor of Philosophy in Design]  博士（世界遺産学） [Doctor of Philosophy in Heritage Studies]  博士（情報学） [Doctor of Philosophy in Informatics]  博士（病態機構学） [Doctor of Philosophy in Disease Mechanism]  博士（医科学） [Doctor of Philosophy in Medical Science ]			
		4	80	-	320	博士（医学） [Doctor of Philosophy in Medical Sciences]			
		5	8	-	40	博士（人間生物学） [Doctor of Philosophy in Human Biology]			
	スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程） [Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport]	2	5	-	10	修士（スポーツ国際開発学） [Master of Arts in International Development and Peace through Sport]	令和2年4月第1年次	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1	【基礎となる学部】 体育専門学群

	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年の課程のみの博士課程) [Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education]	3	3	-	9	博士(体育スポーツ学) [Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]	令和2年4月第1年次	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1	【基礎となる学部】 体育専門学群
	国際連携食料健康科学専攻(修士課程) [International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health]	2	9	-	18	修士(食料健康科学) [Master of Agro-Biomedical Science in Food and Health]	令和2年4月第1年次	茨城県つくば市天王台一丁目1番1	【基礎となる学部】 医学群(医学類、看護学類、医療科学類)
	計	-	821	-	1,970				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>人文社会ビジネス科学学術院(平成31年4月事前伺い)</p> <p>人文社会科学研究群(M)(139) 人文社会科学研究群(D)(66) ビジネス科学研究群(M)(63) ビジネス科学研究群(D)(21) 法曹専攻(P)(36) 国際経営プロフェッショナル専攻(P)(30)</p> <p>理工情報生命学術院(平成31年4月事前伺い)</p> <p>数理物質科学研究群(M)(276) 数理物質科学研究群(D)(88) システム情報工学研究群(M)(431) システム情報工学研究群(D)(102) 生命地球科学研究群(M)(311) 生命地球科学研究群(D)(118) 国際連携持続環境科学専攻(M)(6)</p> <p><del>教育研究科(廃止)</del> <del>スクールリーダーシップ開発科学専攻(M)(△20)</del> <del>教科教育専攻(M)(△80)</del> ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>人文社会科学研究科(廃止)</p> <p>現代語・現代文化専攻(M)(△10) 国際公共政策専攻(M)(△15) 国際日本研究専攻(M)(△25) 国際地域研究専攻(M)(△36) 現代語・現代文化専攻(D)(△8) 国際公共政策専攻(D)(△10) 国際日本研究専攻(D)(△19) 哲学・思想専攻(D)(△6) 歴史・人類学専攻(D)(△12) 文芸・言語専攻(D)(△20) ※令和2年4月学生募集停止</p>								

	<p>ビジネス科学研究科 (廃止)  経営システム科学専攻 (M) (△30)  企業法学専攻 (M) (△30)  企業科学 (D) (△23)  法曹専攻 (P) (△36)  国際経営プロフェッショナル専攻 (P) (△30)  ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>数理解物科学研究科 (廃止)  数学専攻 (M) (△27)  物理学専攻 (M) (△50)  化学専攻 (M) (△48)  電子・物理工学専攻 (M) (△54)  物性・分子工学専攻 (M) (△61)  数学専攻 (D) (△12)  物理学専攻 (D) (△20)  化学専攻 (D) (△16)  ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (D) (△25)  電子・物理工学専攻 (D) (△16)  物性・分子工学専攻 (D) (△13)  物質・材料工学専攻 (D) (△9)  ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>システム情報工科学研究科 (廃止)  社会工学専攻 (M) (△108)  リスク工学専攻 (M) (△30)  コンピュータサイエンス専攻 (M) (△113)  知能機能システム専攻 (M) (△108)  構造エネルギー工学専攻 (M) (△68)  社会工学専攻 (D) (△26)  リスク工学専攻 (D) (△12)  コンピュータサイエンス専攻 (D) (△28)  知能機能システム専攻 (D) (△24)  構造エネルギー工学専攻 (D) (△16)  ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>生命環境科学研究科 (廃止)  地球科学専攻 (M) (△39)  生物科学専攻 (M) (△49)  生物資源科学専攻 (M) (△106)  環境科学専攻 (M) (△69)  地球環境科学専攻 (D) (△11)  地球進化科学専攻 (D) (△8)  生物科学専攻 (D) (△26)  国際地縁技術開発科学専攻 (D) (△22)  生物圏資源科学専攻 (D) (△20)  生物機能科学専攻 (D) (△21)  生命産業科学専攻 (D) (△12)  持続環境科学専攻 (D) (△12)  先端農業技術科学専攻 (D) (△6)  環境バイオマス共生学専攻 (D) (△21)  国際連携持続環境科学専攻 (M) (△6)  ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>人間総合科学研究科 (廃止)  <del>スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (M) (△24)</del>  <del>フロンティア医科学専攻 (M) (△50)</del>  <del>教育学専攻 (M) (△18)</del>  <del>心理専攻 (M) (△16)</del>  <del>障害科学専攻 (M) (△45)</del>  <del>生涯発達専攻 (M) (△46)</del>  <del>感性認知脳科学専攻 (M) (△14)</del>  <del>看護科学専攻 (M) (△15)</del>  <del>体育学専攻 (M) (△115)</del>  <del>芸術専攻 (M) (△60)</del>  <del>世界遺産専攻 (M) (△15)</del>  <del>教育基礎学専攻 (D) (△8)</del>  <del>学校教育学専攻 (D) (△6)</del>  <del>心理学専攻 (D) (△6)</del>  <del>障害科学専攻 (D) (△10)</del>  <del>生涯発達科学専攻 (D) (△6)</del>  <del>ヒューマン・ケア科学専攻 (D) (△18)</del>  <del>感性認知脳科学専攻 (D) (△10)</del>  <del>スポーツ医学専攻 (D) (△10)</del></p>	
--	--	--

	<del>看護科学専攻 (D) (△8)</del> <del>体育科学専攻 (D) (△15)</del> <del>コーチング学専攻 (D) (△5)</del> <del>芸術専攻 (D) (△10)</del> <del>世界文化遺産学専攻 (D) (△7)</del> <del>生命システム医学専攻 (D) (△28)</del> <del>疾患制御医学専攻 (D) (△34)</del>  <del>スポーツ国際開発学共同専攻 (M) (△5)</del> <del>大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) (△3)</del> <del>国際連携食料健康科学専攻 (M) (△9)</del> <del>※令和2年4月学生募集停止</del>  <del>図書館情報メディア研究科 (廃止)</del> <del>図書館情報メディア専攻 (M) (△37)</del> <del>図書館情報メディア専攻 (D) (△21)</del> <del>※令和2年4月学生募集停止</del>						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	※学位プログラムごとに定める。
		講義	演習	実験・実習	計		
	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 (博士前期課程)	678 科目	493 科目	196 科目	1367 科目	30単位以上※	
	人間総合科学研究群 (博士後期課程)	142 科目	223 科目	108 科目	473 科目	3単位以上※	
	スポーツ国際開発学 共同専攻 (修士課程)	29 科目	7 科目	2 科目	38 科目	30単位	
	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (3年制 博士課程)	5 科目	10 科目	1 科目	16 科目	14単位	
国際連携食料健康科学専攻 (修士課程)	32 科目	5 科目	11 科目	48 科目	45単位		

	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	人	
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
教員組織の概要	新	人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群（博士前期課程）	64 (64)	71 (71)	3 (3)	19 (19)	157 (157)	0 (0)	109 (109)	平成31年4月事前伺い
		人文社会科学研究群（博士後期課程）	55 (55)	69 (69)	3 (3)	16 (16)	143 (143)	0 (0)	90 (90)	
		ビジネス科学研究群（博士前期課程）	17 (17)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	145 (145)	
		ビジネス科学研究群（博士後期課程）	20 (20)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	96 (96)	
		法曹専攻（専門職学位課程）	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	48 (48)	
		国際経営プロフェッショナル専攻（専門職学位課程）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	
	設	理工情報生命学術院 数理物質科学研究群（博士前期課程）	60 (60)	67 (67)	28 (28)	50 (50)	205 (205)	0 (0)	269 (269)	平成31年4月事前伺い
		数理物質科学研究群（博士後期課程）	75 (75)	73 (73)	27 (27)	42 (42)	217 (217)	0 (0)	124 (124)	
		システム情報工学研究群（博士前期課程）	66 (66)	78 (78)	5 (5)	49 (49)	198 (198)	0 (0)	326 (326)	
		システム情報工学研究群（博士後期課程）	64 (64)	79 (79)	5 (5)	49 (49)	197 (197)	0 (0)	160 (160)	
		生命地球科学研究群（博士前期課程）	68 (68)	75 (75)	11 (11)	60 (60)	214 (214)	0 (0)	259 (259)	
		生命地球科学研究群（博士後期課程）	71 (71)	79 (79)	10 (10)	56 (56)	216 (216)	0 (0)	158 (158)	
		国際連携持続環境科学専攻（博士前期課程）	7 (7)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
		人間総合科学学術院 人間総合科学研究群（博士前期課程）	199 (199)	174 (174)	48 (48)	112 (112)	533 (533)	0 (0)	184 (184)	
		人間総合科学研究群（博士後期課程）	185 (185)	169 (169)	108 (108)	98 (98)	560 (560)	1 (1)	133 (133)	
		スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程）	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	
		大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程）	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	11 (11)	
		国際連携食料健康科学専攻（修士課程）	12 (12)	8 (8)	1 (1)	10 (10)	31 (31)	0 (0)	21 (21)	
		計	981 (981)	981 (981)	249 (249)	567 (567)	2,778 (2,778)	1 (1)	2144 (2,144)	
		既設分	(令和2年4月学生募集停止)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
計	- (-)		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
合 計		981 (981)	981 (981)	249 (249)	567 (567)	2,778 (2,778)	1 (1)	2,144 (2,144)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		712人 (712)		345人 (345)		1,057人 (1,057)			
	技 術 職 員		580人 (580)		950人 (950)		1,530人 (1,530)			
	図 書 館 専 門 職 員		52人 (52)		4人 (4)		56人 (56)			
	そ の 他 の 職 員		8人 (8)		32人 (32)		40人 (40)			
計		1,352人 (1,352)		1,331人 (1,331)		2,683人 (2,683)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地		1,373,254 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		1,373,254 m <sup>2</sup>	
	運 動 場 用 地		344,887 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		344,887 m <sup>2</sup>	
	小 計		1,718,141 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		1,718,141 m <sup>2</sup>	
	そ の 他		797,247 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		797,247 m <sup>2</sup>	
合 計		2,515,388 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		2,515,388 m <sup>2</sup>		
校 舎		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		478,742 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		478,742 m <sup>2</sup>		
		( 478,742 m <sup>2</sup> )		( 0 m <sup>2</sup> )		( 0 m <sup>2</sup> )		( 478,742 m <sup>2</sup> )		

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請大学全体				
	332室	300室	2,031室	30室 (補助職員 12人)	7室 (補助職員14人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		申請大学全体		1,831 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	専攻単位での特定 不能なため、申請 大学全体の数		
		冊	種	種	点	点	点			
	申請大学全体	2,681,796 [1,044,194]	30,364 [12,874]	31,466 [31,404]	17,262	24,989	551			
	(2,681,796 [1,044,194])	(30,364 [12,874])	(31,466 [31,404])	(17,262)	(24,989)	(551)				
計	2,681,796 [1,044,194]	30,364 [12,874]	31,466 [31,404]	17,262	24,989	551				
	(2,681,796 [1,044,194])	(30,364 [12,874])	(31,466 [31,404])	(17,262)	(24,989)	(551)				
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数					
		30,041 m <sup>2</sup>		2,230	2,606,501					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		22,713 m <sup>2</sup>		テニスコート、ハンドボール場、ラグビー場、サッカー場、陸上競技場、屋内プール						
経費及び 維持方法 の概要	経費の 見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							
既設 大学等 の 状況	大学の名称		筑波大学							
	学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	<学士課程> 人文・文化学群 人文学類		4	120	—	480	学士 (人文学)	1.07 1.07	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	比較文化学類		4	80	—	320	学士 (比較文化)	1.05	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	日本語・日本文化学類		4	40	—	160	学士 (文学) (日本語教育)	1.11	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	社会・国際学群 社会学類		4	80	3年次10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	1.13 1.10	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	国際総合学類		4	80	—	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	1.15	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	人間学群 教育学類		4	35	—	140	学士 (教育学)	1.06 1.04	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	心理学類		4	50	—	200	学士 (心理学)	1.06	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	障害科学類		4	35	—	140	学士 (障害科学) (特別支援教育学) (社会福祉学)	1.08	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生命環境学群 生物学類		4	80	—	320	学士 (理学)	1.12 1.14	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生物資源学類		4	120	3年次10	500	学士 (生物資源学) (農学)	1.13	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

地球学類	4	50	—	200	学士 (理学)	1.06	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
理工学群						1.03			
数学類	4	40	—	160	学士 (理学)	1.02	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
物理学類	4	60	—	240	学士 (理学)	1.03	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
化学類	4	50	—	200	学士 (理学)	1.03	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
応用理工学類	4	120	3年次10	500	学士 (工学)	1.05	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
工学システム学類	4	130	—	520	学士 (工学)	1.04	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
社会工学類	4	120	—	480	学士 (社会工学)	1.02	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
情報学群						1.06			
情報科学類	4	80	3年次10	340	学士 (情報科学) (情報工学)	1.05	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
情報メディア創成学類	4	50	3年次10	220	学士 (情報メディア科学)	1.09	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2	
知識情報・図書館学類	4	100	3年次10	420	学士 (図書館情報学)	1.05	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2	
医学群						1.00			修業年限6年 修業年限4年 臨時定員増含む
医学類	6	135	2年次5	813	学士 (医学)	1.03 1.00	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
看護学類	4	70	3年次10	300	学士 (看護学) (ヘルスケア)	1.03	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
医療科学類	4	37	3年次3	154	学士 (医療科学) (国際医療科学)	1.03	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
体育専門学群	4	240	—	960	学士 (体育学)	1.05	昭和49年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
芸術専門学群	4	100	—	400	学士 (芸術学)	1.08	昭和50年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
<大学院>									
教育研究科									
スクーラー・タラップ開発専攻 (修士課程)	2	20	—	39	修士 (教育学)	1.50	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
教科教育専攻 (修士課程)	2	80	—	160	修士 (教育学)	0.80	昭和53年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
人文社会科学研究科									
現代語・現代文化専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (文学) (言語学) (学術)	0.95	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際公共政策専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	0.93	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学)	1.44	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	36	—	72	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策) (経済学)	0.73	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	

					(学術)								
現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (文学) (言語学) (学術)	0.70	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	0.50	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	19	—	57	博士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) (学術)	1.04	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	6	—	30	博士 (文学)	1.19	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	12	—	60	博士 (文学)	1.01	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	20	—	100	博士 (文学) (言語学)	0.81	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (経営学) (経営システム科学)	1.01	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間				
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (法学)	0.91	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間				
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	23	—	69	博士 (経営学) (システム・マネジメント) (法学)	0.99	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間				
法曹専攻 (専門職学位課程・法科大学院)	3	36	—	108	法務博士 (専門職)	0.98	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間				
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	国際経営修士 (専門職)	1.06	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間				
数理物質科学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士 (理学)	0.82	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
物理学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100	修士 (理学)	1.14	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
化学専攻 (博士前期課程)	2	48	—	96	修士 (理学)	0.98	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	54	—	108	修士 (工学)	1.24	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	61	—	122	修士 (工学)	1.20	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
数学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (理学)	0.36	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
物理学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (理学)	0.41	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
化学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (理学)	0.41	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (理学) (工学)	0.33	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	0.57	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (工学)	0.71	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					
物質・材料工学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	1.66	平成16年度	茨城県つくば市千現1-2-1他 (物質・材料研究機構)					
システム情報工科学研究科 社会工学専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (社会工学)	1.20	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1					

					(サービス工学)				
リスク工学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (社会工学) (工学)	1.34	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
コンピュータ工学専攻 (博士前期課程)	2	113	—	226	修士 (工学)	1.26	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (工学)	1.18	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
構造エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	68	—	136	修士 (工学)	1.32	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
社会工学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (社会工学)	0.63	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会工学) (工学)	0.88	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
コンピュータ工学専攻 (博士後期課程)	3	28	—	84	博士 (工学)	0.61	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	24	—	72	博士 (工学)	1.14	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	0.62	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生命環境科学研究科 地球科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (理学) (地球科学) (地球環境科学)	1.59	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	49	—	98	修士 (理学) (生物学)	1.15	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	2	106	—	212	修士 (農学) (生物資源工学) (生物工学) (イノベーション) (学術)	1.24	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
環境科学専攻 (博士前期課程)	2	69	—	138	修士 (環境科学)	1.01	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際連携持続環境科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (持続環境科学)	0.72	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (理学) (地球環境科学)	0.87	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (理学) (地球科学)	0.99	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (理学) (生物学) (学術)	1.02	平成23年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	0.67	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (農学) (学術)	0.78	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (農学) (生物工学) (学術)	0.56	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (農学) (生物工学) (生物学) (学術)	0.83	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (環境学)	1.91	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
先端農業技術科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	6	—	18	博士 (農学)	0.55	平成17年度	茨城県つくば市観音台3-1-1 (農業・食品産業技術総合研究機構)	

環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	21	—	105	博士 (学術)	0.64	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (修士課程)	2	24	—	48	修士 (体育学) (保健学)	0.99	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間
フロンティア医科学専攻 (修士課程)	2	50	—	100	修士 (医科学) (公衆衛生学) (ヒューマン・ケア科学)	1.27	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
教育学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (教育学)	0.69	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
心理専攻 (博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (心理学)	0.78	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
障害科学専攻 (博士前期課程)	2	45	—	90	修士 (障害科学) (特別支援教育学)	0.75	平成25年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	46	—	92	修士 (カウンセリング) (リハビリテーション)	1.06	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	1.24	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
看護科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (看護科学)	0.99	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
体育学専攻 (博士前期課程)	2	115	—	230	修士 (体育学) (コーチング学) (スポーツ・オリンピック学)	1.11	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
芸術専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	修士 (芸術学) (デザイン学)	0.94	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
世界遺産専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (世界遺産学) (学術)	1.06	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (スポーツ国際開発学)	1.20	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
国際連携食料健康科学専攻 (博士前期課程)	2	9	—	18	修士 (食料健康科学)	1.16	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	9月のみ入学
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (教育学)	0.62	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (教育学) (学術)	1.38	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
心理学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (心理学) (学術)	0.49	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
障害科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (障害科学)	1.10	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (生涯発達科学) (カウンセリング科学) (リハビリテーション科学)	1.11	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1	専ら夜間
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	18	—	54	博士 (ヒューマン・ケア科学) (教育学) (心理学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	1.29	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	1.13	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (看護科学)	0.91	平成21年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	

体育科学専攻 (博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	1.06	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
コーチング学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	5	—	15	博士 (コーチング学) (学術)	1.66	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
スポーツ医学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	10	—	30	博士 (スポーツ医学) (学術)	1.16	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
芸術専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (芸術学) (デザイン学)	0.90	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (世界遺産学) (学術)	0.56	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
生命システム医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	28	—	112	博士 (医学) (学術)	1.23	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	34	—	136	博士 (医学) (学術)	1.71	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	—	9	博士 (体育スポーツ学)	1.00	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	
図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士 (図書館情報学) (情報学)	1.24	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2	
図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (図書館情報学) (情報学) (学術)	0.50	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2	
<学生募集を停止している専攻> 社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	—	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1	平成26年度より学生募集停止

附属施設の概要	<p>&lt;先端研究センター群&gt;</p> <p>名称：計算科学研究センター  目的：科学の諸領域における超高速シミュレーション、大規模データ解析等を中心とする研究、超高速計算システム及び超高速ネットワーク技術の開発並びに情報技術の革新的な応用方法の研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成16年4月  規模等：延床面積 5,242㎡  備考：旧計算物理学研究センター（平成4年度設置）</p> <p>名称：生存ダイナミクス研究センター  目的：生物の持つ環境変化へのダイナミックな応答機能を「生物の生存戦略」と捉えた新しい生命動態科学の領域を切り拓く研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成30年4月  規模等：延床面積 6,546㎡  備考：旧生命領域学際研究センター（平成22年度設置）</p> <p>名称：つくば機能植物イノベーション研究センター  目的：食料・生物資源の安定的な確保に向けた植物バイオテクノロジーと遺伝資源保全利用を基調とした基盤的遺伝子研究から生産・流通を見据えた応用的研究ならびに研究成果を活用したイノベーションの創出支援と教育への展開  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成29年4月  規模等：延床面積 5,404㎡  備考：遺伝子実験センター（昭和59年度設置）（新館2,341㎡、旧館1,487㎡）・旧農林技術センターの一部（昭和48年度設置）（本館1,576㎡）と統合</p>
---------	---

<p>名称：下田臨海実験センター  目的：海洋及びその沿岸に生息する生物の発生学、生理生化学、生態学等並びに海洋学、海洋環境等に関連する生命科学及び地球科学（地理地学）の研究及び教育  所在地：静岡県下田市5-10-1  設置年月：昭和51年4月  規模等：延床面積 3,083.1㎡</p>	
<p>名称：プラズマ研究センター  目的：プラズマ物理学及びその応用に関する研究教育（特に電位・電場によるプラズマ閉じ込めの向上及びプラズマの高性能化に係る研究教育）並びに関連機器の開発等  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：昭和54年4月  規模等：延床面積 6,402㎡</p>	
<p>名称：地中海・北アフリカ研究センター  目的：地中海・北アフリカにおける新時代志向型の戦略的学際研究の推進  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成30年4月  規模等：延床面積 630㎡  備考：旧北アフリカ研究センター（平成16年度設置）</p>	
<p>名称：サイバニクス研究センター  目的：人間の身体機能を支援・増幅・拡張する人支援技術によるイノベーションの創出と新産業創出  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成23年10月  規模等：延床面積 3,210㎡</p>	
<p>名称：アイソトープ環境動態研究センター  目的：放射性同位元素、核燃料物質及びエックス線発生装置等の学内管理・安全教育、並びにこれらを用いた基礎、環境移行及び環境動態予測に係る調査・研究・開発  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成24年12月  規模等：延床面積 5,113㎡  備考：旧アイソトープ総合センター（平成18年度設置）、旧アイソトープセンター（昭和50年度設置）、旧陸域環境研究センター（平成12年度設置）、旧水理実験センター（昭和50年度設置）</p>	
<p>名称：人工知能科学センター  目的：AI 及びビッグデータ解析技術を集結し、実用に繋がる基盤技術開発拠点の構築  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成29年4月  規模等：延床面積 158㎡</p>	
<p>名称：陽子線医学利用研究センター  目的：医学及び関連分野の研究、教育の場としての機能並びに機器の改善・開発を行うことによるがん診療における陽子線療法の有効性の確立  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成12年4月  規模等：延床面積 5,278㎡  備考：旧粒子線医科学センター（昭和55年設置）</p>	
<p>名称：山岳科学センター  目的：菅平高原実験所、八ヶ岳演習林、川上演習林、井川演習林、筑波実験林等を活用した生物科学、農林学、地球科学、環境科学等山岳科学に関する教育研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1/長野県上田市菅平高原1278-294/長野県南佐久郡南牧村野辺山462-4/静岡県静岡市葵区井川1621-2  設置年月：平成29年4月  規模等：延床面積4978㎡  備考：旧菅平高原実験センター（昭和52年度設置）（教育研究棟A棟877㎡、B棟639㎡、宿泊棟633㎡、その他261㎡）、旧農林技術センター（昭和48年度設置）の井川演習林、八ヶ岳、筑波実験林（建物面積 筑波地区674㎡、八ヶ岳・川上地区1,206㎡、井川地区688㎡）</p>	

<p>名称：微生物サステナビリティ研究センター  目的：持続可能な社会の構築に向けた次世代の微生物制御と微生物利用に関わる新たな学問分野を切り拓く基礎及び応用研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成30年10月1日  規模等：延床面積48㎡</p> <p>名称：ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター  目的：人間の統合的な身体活動能力を多角的に研究並びに最適パフォーマンスを引き出す科学的手法の開発・社会実装  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成27年7月  規模等：延床面積 39㎡</p> <p>名称：トランスボーダー医学研究センター  目的：医科学の研究拠点と研究分野の創生  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成29年4月  規模等：延床面積300㎡</p> <p>名称：宇宙史研究センター  目的：時空の発祥から物質の起源、宇宙の進化及び生命の起源までの宇宙史の統括的解明  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成29年10月  規模等：延床面積 404㎡  備考：旧数理物質融合科学センター（平成26年度設置）</p> <p>名称：エネルギー物質科学研究センター  目的：エネルギーの高効率の利用、貯蔵、変換及び制御に関わる新規物質や材料の創製のための基盤的及び応用的研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成29年10月  規模等：延床面積1144㎡  備考：旧学際物質科学研究センター（平成15年度設置）</p> <p>名称：大学研究センター  目的：大学の機能に関する総合研究並びに実践可能なモデルの開発、試行及び提供  所在地：東京都文京区大塚3-29-1  設置年月：昭和61年4月  規模等：延床面積 276㎡</p> <p>&lt;研究支援センター群&gt;  名称：研究基盤総合センター  目的：実験研究基盤設備の管理運用による研究及び教育の支援並びにこれらの設備による広域学際研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成16年4月  規模等：延床面積 6,841㎡  備考：旧加速器センター（昭和49年度設置）、旧低温センター・旧分析センター（昭和51年度設置）、旧工作センター（昭和52年度設置）</p> <p>名称：生命科学動物資源センター  目的：遺伝子改変動物をはじめとする研究用動物資源の開発、保存、供給及び関連施設の適切な管理  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成13年4月  規模等：延床面積 9,173.638㎡  備考：旧動物実験センター（昭和51年度設置）</p> <p>名称：学術情報メディアセンター  目的：実験研究基盤設備の管理運用による研究及び教育の支援並びにこれらの設備による広域学際研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成16年4月  規模等：延床面積 5,202㎡  備考：旧学術情報処理センター（昭和53年度設置）</p>	
--	--

	<p>&lt;教育等センター群&gt;</p> <p>名称：グローバルコミュニケーション教育センター  目的：学生の外国語教育。留学生等に対する日本語等に関する教育  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成27年4月  規模等：延床面積 4,985㎡  備考：旧外国語センター（昭和49年度設置）、旧留学生センター（平成3年度設置）</p> <p>名称：体育センター  目的：学生の体育指導（専門の体育指導を除く。）、社会体育の実施指導及びスポーツ指導者の養成  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：昭和48年10月  規模等：延床面積 131,952㎡（各種体育施設を含む）</p> <p>名称：アドミッションセンター  目的：アドミッションセンター入試及び国際科学オリンピック特別入試の実施並びに教育目標に適合した入学者の選抜方法等の調査研究  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：平成11年4月  規模等：延床面積 157.62㎡</p> <p>名称：保健管理センター  目的：学生及び職員の健康管理等  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：昭和48年10月  規模等：延床面積 1,189㎡</p> <p>&lt;上記以外の施設&gt;</p> <p>名称：附属図書館  目的：地域社会及び国内外の研究・教育機関と連携し、学術情報の中枢的拠点として機能する。  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：昭和48年10月  規模等：延床面積 30,041㎡</p> <p>名称：附属病院  目的：医科学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに、診療を通して医療の進展に寄与する。  所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1  設置年月：昭和51年10月  規模等：延床面積 70,953㎡</p> <p>名称：附属小学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。  所在地：東京都文京区大塚3-29-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 47,072㎡</p> <p>名称：附属中学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。  所在地：東京都文京区大塚1-9-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 51,793㎡(附属高等学校との合算)</p> <p>名称：附属駒場中学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。  所在地：東京都世田谷区池尻4-7-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 34,905㎡(附属駒場高等学校との合算)</p> <p>名称：附属高等学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。  所在地：東京都文京区大塚1-9-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 51,793㎡(附属中学校との合算)</p>	
--	--	--

<p>名称：附属駒場高等学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：東京都世田谷区池尻4-7-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 34,905㎡(附属駒場中学校との合算)</p> <p>名称：附属坂戸高等学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：埼玉県坂戸市千代田1-24-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 74,223㎡</p> <p>名称：附属視覚特別支援学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：東京都文京区目白台3-27-6  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 12,658㎡</p> <p>名称：附属聴覚特別支援学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：千葉県市川市国府台2-2-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 42,243㎡</p> <p>名称：附属大塚特別支援学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：東京都文京区春日1-5-5  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 5,096㎡</p> <p>名称：附属桐が丘特別支援学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：東京都板橋区小茂根2-1-12  設置年月：昭和53年4月  規模等：学校土地面積 16,701㎡</p> <p>名称：附属久里浜特別支援学校  目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的な研究を行う。  所在地：神奈川県横須賀市野比5-1-2  設置年月：平成16年4月  規模等：学校土地面積 15,521㎡</p> <p>名称：理療科教員養成施設  目的：盲学校の理療の教科を担当する教員等を養成する。  所在地：東京都文京区大塚3-29-1  設置年月：昭和53年4月  規模等：延床面積 857㎡</p>	
---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

基本計画書（共同学科等）

事項	記入欄																				
計画の区分	研究科の設置																				
構成大学の設置者	国立大学法人筑波大学						国立大学法人鹿屋体育大学														
構成大学の名称	筑波大学大学院						鹿屋体育大学大学院														
構成大学の本部の位置	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1						鹿児島県鹿屋市白水町1番地														
共同学科等の名称	スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程）[Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport]																				
共同学科等の目的	スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与し、指導的役割を担うことのできる高度専門職業人・研究者を養成する。																				
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	/	入学定員	編入学定員	収容定員	/	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)									
	5	-	10		3	-	6		2	8	-	16									
学位	修士（スポーツ国際開発学）[Master of Arts in International Development and Peace through Sport]																				
開設時期及び開設年次	令和2年4月 1年次																				
教育課程 (各構成大学が開設する授業科目数)	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計									
	25科目	7科目	2科目	34科目	7科目	2科目	1科目	10科目	29科目	7科目	2科目	38科目									
教員組織の概要	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等（合計）				兼任 教員等 （合計）						
	教授	准教授	講師	助教		計	助手	教授	准教授		講師	助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計	助手
	2人	1人	0人	1人	4人	0人	10人	2人	3人	0人	0人	5人	0人	2人	4人	4人	0人	1人	9人	0人	12人
	(2)	(1)	(0)	(1)	(4)	(0)	(10)	(2)	(3)	(0)	(0)	(5)	(0)	(2)	(4)	(4)	(0)	(1)	(9)	(0)	(12)
研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等（合計）				その 他の 教員 （合計）							
教授	准教授	講師	助教		計	教授	准教授	講師		助教	計	教授	准教授		講師	助教	計				
2人	1人	0人	1人	4人	10人	1人	3人	0人	0人	4人	3人	4人	0人	1人	8人	0人	13人				
(2)	(1)	(0)	(1)	(4)	(10)	(1)	(3)	(0)	(0)	(4)	(3)	(4)	(0)	(1)	(8)	(0)	(13)				
教員 以外の 職員 の 概 要 (大学 全体)	職務職員	712人 (712)	345人 (345)	1,057人 (1,057)	60人 (60)	27人 (27)	87人 (87)														
	技術職員	580人 (580)	950人 (950)	1,530人 (1,530)	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)														
	図書館専門職員	52人 (52)	4人 (4)	56人 (56)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)														
	その他の職員	8人 (8)	32人 (32)	40人 (40)	1人 (1)	18人 (18)	19人 (19)														
	計	1,352人 (1,352)	1,331人 (1,331)	2,683人 (2,683)	68人 (68)	45人 (45)	113人 (113)														

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用(合計)	共用(合計)	共用する他の学校等の専用(合計)	計	
	校舎敷地	1,373,254 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,373,254 m <sup>2</sup>	139,909 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	139,909 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>	
	運動場用地	344,887 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	344,887 m <sup>2</sup>	168,701 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	168,701 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>	
	小計	1,718,141 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,718,141 m <sup>2</sup>	308,610 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	308,610 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>	
	その他	797,247 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	797,247 m <sup>2</sup>	33,072 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	33,072 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>	
合計	2,515,388 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,515,388 m <sup>2</sup>	341,682 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	341,682 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>		
大学全体の収容定員(うち共同学科に係る収容定員を除いた数)		14,418人(14,409)				760人(748)								
教室等		講義室	演習室	実験実習室		講義室	演習室	実験実習室						
		332室	300室	2,031室		14室	9室	30室						
		情報処理学習施設		語学学習施設			情報処理学習施設		語学学習施設					
		30室(補助職員12人)		7室(補助職員14人)			2室(補助職員1人)		2室(補助職員0人)					
専任教員研究室数		1,831室				室								
図書・設備		図書	学術雑誌	視聴覚資料	機械器具	標本	図書	学術雑誌	視聴覚資料	機械器具	標本			
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]		
		冊	種	種	冊	冊	冊	種	種	冊	冊	冊		
		2,681,796 [1,044,194]	30,364 [12,874]	31,466 [31,404]	17,262	24,989	551	116,221 [24,512]	2,508 [586]	4,437 [4,437]	867	31	0	
		(2,681,796 [1,044,194])	(30,364 [12,874])	(31,466 [31,404])	(17,262)	(24,989)	(551)	(116,221 [24,512])	(2,508 [586])	(4,437 [4,437])	(867)	(31)	(0)	
図書館		面	積	閲覧座席数	収納可能冊数	面	積	閲覧座席数	収納可能冊数					
		30,041 m <sup>2</sup>	2,230	2,606,501		1,288 m <sup>2</sup>	106	108,667						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次					
		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次						
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		共同研究費等	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		学生1人当り金納	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次					
		第5年次	第6年次			第5年次	第6年次							
			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		— 千円	— 千円			— 千円	— 千円							
		該当なし				該当なし								
備考	国費による				国費による									

既設学部等の状況	大学の名称		筑波大学					
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人			
	<学士課程> 人文・文化学群 人文学類	4	120	—	480	学士 (人文学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	比較文化学類	4	80	—	320	学士 (比較文化)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	日本語・日本文化学類	4	40	—	160	学士 (文学) (日本語教育)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	社会・国際学群 社会学類	4	80	3年次10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	国際総合学類	4	80	—	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	人間学群 教育学類	4	35	—	140	学士 (教育学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	心理学類	4	50	—	200	学士 (心理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	障害科学類	4	35	—	140	学士 (障害科学) (特別支援教育学) (社会福祉学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生命環境学群 生物学類	4	80	—	320	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生物資源学類	4	120	3年次10	500	学士 (生物資源学) (農学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	地球学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	理工学群 数学類	4	40	—	160	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	物理学類	4	60	—	240	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	化学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	応用理工学類	4	120	3年次10	500	学士 (工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	工学システム学類	4	130	—	520	学士	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

社会工学類	4	120	—	480	(工学) 学士 (社会工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報学群 情報科学類	4	80	3年次10	340	学士 (情報科学) (情報工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報メディア創成学類	4	50	3年次10	220	学士 (情報メディア科学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
知識情報・図書館学類	4	100	3年次10	420	学士 (図書館情報学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
医学群 医学類 (臨時定員増含む)	6	135	2年次5	813	学士 (医学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護学類	4	70	3年次10	300	学士 (看護学) (ヘルスケア)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
医療科学類	4	37	3年次3	154	学士 (医療科学) (国際医療科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育専門学群	4	240	—	960	学士 (体育学)	昭和49年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専門学群	4	100	—	400	学士 (芸術学)	昭和50年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
<大学院> 教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻 (修士課程)	2	20	—	39	修士 (教育学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教科教育専攻 (修士課程)	2	80	—	160	修士 (教育学)	昭和53年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	36	—	72	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策) (経済学)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	(学術) 博士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	19	—	57	博士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	6	—	30	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	12	—	60	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	20	—	100	博士 (文学) (言語学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (経営学) (経営システム科学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	23	—	69	博士 (経営学) (システムズ・マネジメント) (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
法曹専攻 (専門職学位課程・法科大学院)	3	36	—	108	法務博士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	国際経営修士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
数理解物質科学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻 (博士前期課程)	2	48	—	96	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	54	—	108	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	61	—	122	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
数学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻	3	16	—	48	博士	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

(博士後期課程) ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	25	—	75	(理学) 博士 (理学) (工学)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物質・材料工学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	平成16年度	茨城県つくば市千現1-2-1他 (物質・材料研究機構)
システム情報工学研究科 社会工学専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (社会工学) (サービス工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	2	113	—	226	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	68	—	136	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
社会工学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (社会工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータサイエンス専攻 (博士後期課程)	3	28	—	84	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	24	—	72	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命環境科学研究科 地球科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (理学) (地球科学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	49	—	98	修士 (理学) (生物科学)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	2	106	—	212	修士 (農学) (生物資源工学) (生物工学) (バイオテクノロジー) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
環境科学専攻 (博士前期課程)	2	69	—	138	修士 (環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携持続環境科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (持続環境科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (理学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (理学) (地球科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (理学) (生物科学) (学術)	平成23年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (農学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (農学) (生物工学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (農学) (生物工学) (生物科学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (環境学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
先端農業技術科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	6	—	18	博士 (農学)	平成17年度	茨城県つくば市観音台3-1-1 (農業・食品産業技術総合研究機構)
環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	21	—	105	博士 (学術)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (修士課程)	2	24	—	48	修士 (体育学) (保健学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
フロンティア医科学専攻 (修士課程)	2	50	—	100	修士 (医科学) (公衆衛生学) (ヒューマン・ケア科学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理専攻 (博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (心理学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士前期課程)	2	45	—	90	修士 (障害科学) (特別支援教育学)	平成25年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	46	—	92	修士 (カウセリング) (リハビリテーション)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (看護科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育学専攻 (博士前期課程)	2	115	—	230	修士 (体育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

芸術専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	(コーチング学) (スポーツ・オリンピック学) 修士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界遺産専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (世界遺産学) (学術)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携食料健康科学専攻 (博士前期課程)	2	9	—	18	修士 (食料健康科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (心理学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (障害科学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (生涯発達科学) (カンセリク <sup>®</sup> 科学) (リハビリテーション科学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	18	—	54	博士 (ヒューマン・ケア科学) (教育学) (心理学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (看護科学)	平成21年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コーチング学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	5	—	15	博士 (コーチング学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ医学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	10	—	30	博士 (スポーツ医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (世界遺産学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命システム医学専攻	4	28	—	112	博士	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

(医学を履修する博士課程)					(医学) (学術)		
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	34	—	136	博士 (医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	—	9	博士 (体育スポーツ学)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士 (図書館情報学) (情報学)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2
図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (図書館情報学) (情報学) (学術)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2
<以下は学生募集を停止している専攻>							
社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

校 舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計
	478,742㎡ (478,742㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	478,742㎡ (478,742㎡)

既設学部等の 状況	大 学 の 名 称	鹿屋体育大学						
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
		年	人	年次	人			
	<学士課程>							
	スポーツ総合課程	4	120	—	480	学士 (体育学)	平成18年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	武道課程	4	50	—	200	学士 (体育学)	昭和59年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	3年次編入学	2	—	20	40	学士 (体育学)	平成20年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	<大学院>							
	体育学研究科							
	体育学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士 (体育学)	昭和63年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
体育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (体育学)	平成16年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	2	—	6	博士 (体育スポーツ学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	

校 舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計
	14,549 ㎡ (14,549 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	14,549 ㎡ (14,549 ㎡)

基本計画書（共同学科等）

事項	記入欄																				
計画の区分	研究科の設置																				
構成大学の設置者	国立大学法人筑波大学						国立大学法人鹿屋体育大学														
構成大学の名称	筑波大学大学院						鹿屋体育大学大学院														
構成大学の本部の位置	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1						鹿児島県鹿屋市白水町1番地														
共同学科等の名称	大学体育スポーツ高度化共同専攻（後期3年の課程のみの博士課程）[Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education]																				
共同学科等の目的	筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に進める学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。																				
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	/	入学定員	編入学定員	収容定員	/	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)									
	3	-	9		2	-	6		3	5	-	15									
学位	博士（体育スポーツ学）[Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]																				
開設時期及び開設年次	令和2年4月 1年次																				
教育課程 (各構成大学が開設する授業科目数)	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計									
	3科目	6科目	1科目	10科目	2科目	6科目	0科目	8科目	5科目	10科目	1科目	16科目									
教員組織の概要	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等(合計)				兼任 教員等 (合計)						
	教授	准教授	講師	助教		計	助手	教授	准教授		講師	助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計	助手
	5人	1人	0人	0人	6人	0人	11人	3人	0人	0人	0人	3人	0人	1人	8人	1人	0人	0人	9人	0人	12人
	(5)	(1)	(0)	(0)	(6)	(0)	(11)※	(3)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(1)	(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(12)
研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等(合計)				その 他の 教員 (合計)							
教授	准教授	講師	助教		計	教授	准教授	講師		助教	計	教授	准教授		講師	助教	計				
5人	1人	0人	0人	6人	11人	3人	0人	0人	0人	3人	1人	8人	1人	0人	0人	9人	0人	12人			
(5)	(1)	(0)	(0)	(6)	(11)※	(3)	(0)	(0)	(0)	(3)	(1)	(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(12)			
教員以外の職員 (大学の職員全体の概要)	専任			兼任			兼任			兼任			兼任								
	事務職員	712人 (712)	345人 (345)	1,057人 (1,057)	60人 (60)	27人 (27)	87人 (87)														
	技術職員	580人 (580)	950人 (950)	1,530人 (1,530)	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)														
	図書館専門職員	52人 (52)	4人 (4)	56人 (56)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)														
	その他の職員	8人 (8)	32人 (32)	40人 (40)	1人 (1)	18人 (18)	19人 (19)														
	計	1,352人 (1,352)	1,331人 (1,331)	2,683人 (2,683)	68人 (68)	45人 (45)	113人 (113)														

※大学院共通科目担当の教員1名を含む。

校地等	区分	専用				共用				共用する他の学校等の専用				計											
		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用(合計)	共用(合計)	共用する他の学校等の専用(合計)	計								
校地等	校舎敷地	1,373,254 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,373,254 m <sup>2</sup>	139,909 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	139,909 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,513,163 m <sup>2</sup>								
	運動場用地	344,887 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	344,887 m <sup>2</sup>	168,701 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	168,701 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	513,588 m <sup>2</sup>								
	小計	1,718,141 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,718,141 m <sup>2</sup>	308,610 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	308,610 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,026,751 m <sup>2</sup>								
	その他	797,247 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	797,247 m <sup>2</sup>	33,072 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	33,072 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	830,319 m <sup>2</sup>								
	合計	2,515,388 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,515,388 m <sup>2</sup>	341,682 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	341,682 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,857,070 m <sup>2</sup>								
大学全体の収容定員 (うち共同学科に係る収容定員を除いた数)		14,418人 (14,409)								760人 (748)															
教室等	講義室	332室				300室				2,031室				14室				9室				30室			
	情報処理学習施設	30室 (補助職員12人)				7室 (補助職員14人)				2室 (補助職員1人)				2室 (補助職員0人)											
	演習室	300室				300室				2,031室				9室				30室							
	実験実習室	300室				300室				2,031室				9室				30室							
専任教員研究室数	1,831室																								
図書・設備	図書	2,681,796 [1,044,194] (2,681,796 [1,044,194])	30,364 [12,874] (30,364 [12,874])	31,466 [31,404] (31,466 [31,404])	17,262 (17,262)	24,989 (24,989)	551 (551)	116,221 [24,512] (116,221 [24,512])	2,508 [586] (2,508 [586])	4,437 [4,437] (4,437 [4,437])	867 (867)	31 (31)	0 (0)												
	学術雑誌	電子ジャーナル				視聴覚資料	機械器具	標本	電子ジャーナル				視聴覚資料	機械器具	標本										
図書館	30,041 m <sup>2</sup>				2,230				2,606,501				1,288 m <sup>2</sup>				106				108,667				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次																
		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次																	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																
	学納	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次																
		第5年次	第6年次			第5年次	第6年次																		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																
	学生納付金以外の維持方法の概要	該当なし								該当なし															
	備考	国費による								国費による															

既設学部等の状況	大学の名称		筑波大学					所在地
	学部の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	
		年	人	年次人	人			
	<学士課程> 人文・文化学群 人文学類	4	120	—	480	学士 (人文学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	比較文化学類	4	80	—	320	学士 (比較文化)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	日本語・日本文化学類	4	40	—	160	学士 (文学) (日本語教育)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	社会・国際学群 社会学類	4	80	3年次10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	国際総合学類	4	80	—	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	人間学群 教育学類	4	35	—	140	学士 (教育学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	心理学類	4	50	—	200	学士 (心理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	障害科学類	4	35	—	140	学士 (障害科学) (特別支援教育学) (社会福祉学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生命環境学群 生物学類	4	80	—	320	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	生物資源学類	4	120	3年次10	500	学士 (生物資源学) (農学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	地球学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	理工学群 数学類	4	40	—	160	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	物理学類	4	60	—	240	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	化学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	応用理工学類	4	120	3年次10	500	学士 (工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	工学システム学類	4	130	—	520	学士	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

社会工学類	4	120	—	480	(工学) 学士 (社会工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報学群 情報科学類	4	80	3年次10	340	学士 (情報科学) (情報工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報メディア創成学類	4	50	3年次10	220	学士 (情報メディア科学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
知識情報・図書館学類	4	100	3年次10	420	学士 (図書館情報学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
医学群 医学類 (臨時定員増含む)	6	135	2年次5	813	学士 (医学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護学類	4	70	3年次10	300	学士 (看護学) (ヘルスケア)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
医療科学類	4	37	3年次3	154	学士 (医療科学) (国際医療科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育専門学群	4	240	—	960	学士 (体育学)	昭和49年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専門学群	4	100	—	400	学士 (芸術学)	昭和50年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
<大学院> 教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻 (修士課程)	2	20	—	39	修士 (教育学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教科教育専攻 (修士課程)	2	80	—	160	修士 (教育学)	昭和53年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	36	—	72	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策) (経済学)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	(学術) 博士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	19	—	57	博士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	6	—	30	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	12	—	60	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	20	—	100	博士 (文学) (言語学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (経営学) (経営システム科学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	23	—	69	博士 (経営学) (システムズ・マネジメント) (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
法曹専攻 (専門職学位課程・法科大学院)	3	36	—	108	法務博士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	国際経営修士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
数理物質科学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻 (博士前期課程)	2	48	—	96	修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	54	—	108	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	61	—	122	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
数学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻	3	16	—	48	博士	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

(博士後期課程) ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (理学)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物質・材料工学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	平成16年度	茨城県つくば市千現1-2-1他 (物質・材料研究機構)
システム情報工学研究科 社会工学専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (社会工学) (サービス工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	2	113	—	226	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	68	—	136	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
社会工学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (社会工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータサイエンス専攻 (博士後期課程)	3	28	—	84	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	24	—	72	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命環境科学研究科 地球科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (理学) (地球科学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	49	—	98	修士 (理学) (生物科学)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	2	106	—	212	修士 (農学) (生物資源工学) (生物工学) (バイオテクノロジー) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
環境科学専攻 (博士前期課程)	2	69	—	138	修士 (環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携持続環境科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (持続環境科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (理学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (理学) (地球科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (理学) (生物科学) (学術)	平成23年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (農学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (農学) (生物工学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (農学) (生物工学) (生物科学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (環境学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
先端農業技術科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	6	—	18	博士 (農学)	平成17年度	茨城県つくば市観音台3-1-1 (農業・食品産業技術総合研究機構)
環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	21	—	105	博士 (学術)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (修士課程)	2	24	—	48	修士 (体育学) (保健学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
フロンティア医科学専攻 (修士課程)	2	50	—	100	修士 (医科学) (公衆衛生学) (ヒューマン・ケア科学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理専攻 (博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (心理学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士前期課程)	2	45	—	90	修士 (障害科学) (特別支援教育学)	平成25年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	46	—	92	修士 (カウセリング) (リハビリテーション)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (看護科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育学専攻 (博士前期課程)	2	115	—	230	修士 (体育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

芸術専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	(コーチング学) (スポーツ・オリンピック学) 修士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界遺産専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (世界遺産学) (学術)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携食料健康科学専攻 (博士前期課程)	2	9	—	18	修士 (食料健康科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (心理学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (障害科学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (生涯発達科学) (カンセンク <sup>®</sup> 科学) (リハビリテーション科学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	18	—	54	博士 (ヒューマン・ケア科学) (教育学) (心理学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (看護科学)	平成21年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コーチング学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	5	—	15	博士 (コーチング学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ医学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	10	—	30	博士 (スポーツ医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (世界遺産学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命システム医学専攻	4	28	—	112	博士	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

(医学を履修する博士課程)						(医学) (学術)		
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	34	—	136	博士	(医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	—	9	博士	(医学) (学術)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士	(図書館情報学) (情報学)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2
図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士	(図書館情報学) (情報学) (学術)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2
<以下は学生募集を停止している専攻>								
社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士	(社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

校 舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計
	478,742㎡ (478,742㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	478,742㎡ (478,742㎡)

既設学部等の 状況	大 学 の 名 称	鹿屋体育大学						
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
		年	人	年次	人			
	<学士課程>							
	スポーツ総合課程	4	120	—	480	学士 (体育学)	平成18年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	武道課程	4	50	—	200	学士 (体育学)	昭和59年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	3年次編入学	2	—	20	40	学士 (体育学)	平成20年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	<大学院>							
	体育学研究科							
	体育学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士 (体育学)	昭和63年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
体育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (体育学)	平成16年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	2	—	6	博士 (体育スポーツ学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	

校 舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計
	14,549㎡ (14,549㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	14,549㎡ (14,549㎡)



国立大学法人筑波大学 設置申請に係わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
筑波大学				筑波大学				
人文・文化学群				人文・文化学群				
人文学類	120	-	480	人文学類	120	-	480	
比較文化学類	80	-	320	比較文化学類	80	-	320	
日本語・日本文化学類	40	-	160	日本語・日本文化学類	40	-	160	
社会・国際学群		3年次		社会・国際学群		3年次		
社会学類	80	10	340	社会学類	80	10	340	
国際総合学類	80	-	320	国際総合学類	80	-	320	
人間学群				人間学群				
教育学類	35	-	140	教育学類	35	-	140	
心理学類	50	-	200	心理学類	50	-	200	
障害科学類	35	-	140	障害科学類	35	-	140	
生命環境学群				生命環境学群				
生物学類	80	-	320	生物学類	80	-	320	
		3年次				3年次		
生物資源学類	120	10	500	生物資源学類	120	10	500	
地球学類	50	-	200	地球学類	50	-	200	
理工学群				理工学群				
数学類	40	-	160	数学類	40	-	160	
物理学類	60	-	240	物理学類	60	-	240	
化学類	50	-	200	化学類	50	-	200	
		3年次				3年次		
応用理工学類	120	10	500	応用理工学類	120	10	500	
工学システム学類	130	-	520	工学システム学類	130	-	520	
社会工学類	120	-	480	社会工学類	120	-	480	
情報学群				情報学群				
		3年次				3年次		
情報科学類	80	10	340	情報科学類	80	10	340	
		3年次				3年次		
情報メディア創成学類	50	10	220	情報メディア創成学類	50	10	220	
		3年次				3年次		
知識情報・図書館学類	100	10	420	知識情報・図書館学類	100	10	420	
医学群				医学群				
		2年次				2年次		
医学類	98	5	613	医学類	98	5	613	臨時定員増分を除く
		3年次				3年次		
看護学類	70	10	300	看護学類	70	10	300	
		3年次				3年次		
医療科学類	37	3	154	医療科学類	37	3	154	
体育専門学群	240	-	960	体育専門学群	240	-	960	
芸術専門学群	100	-	400	芸術専門学群	100	-	400	
		2年次				2年次		
計	2,065	5	8,627	計	2,065	5	8,627	
		3年次				3年次		
		73				73		
筑波大学大学院				筑波大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会ビジネス科学学術院				研究科の設置（事前 伺い）
現代語・現代文化専攻（M）	10	-	20	人文社会科学研究群（M）	139	-	278	
国際公共政策専攻（M）	15	-	30					
国際日本研究専攻（M）	25	-	50					
国際地域研究専攻（M）	36	-	72	人文社会科学研究群（D）	66	-	198	
現代語・現代文化専攻（D）	8	-	24					
国際公共政策専攻（D）	10	-	30					
国際日本研究専攻（D）	19	-	57					
哲学・思想専攻（D）	6	-	30					
歴史・人類学専攻（D）	12	-	60					
文芸・言語専攻（D）	20	-	100					
ビジネス科学研究科		-		ビジネス科学研究群（M）	63	-	126	
経営システム科学専攻（M）	30	-	60					
企業法学専攻（M）	30	-	60	ビジネス科学研究群（D）	21	-	63	
企業科学専攻（D）	23	-	69	法曹専攻（P）※1	36	-	108	
法曹専攻（P）※1	36	-	108	国際経営プロフェッショナル専攻（P）※1	30	-	60	
国際経営プロフェッショナル専攻（P）※1	30	-	60					
数理物質科学研究科				理工情報生命学術院		-		研究科の設置（事前 伺い）
数学専攻（M）	27	-	54	数理物質科学研究群（M）	276	-	552	
物理学専攻（M）	50	-	100					
化学専攻（M）	48	-	96					
電子・物理工学専攻（M）	54	-	108	数理物質科学研究群（D）	88	-	264	
物性・分子工学専攻（M）	61	-	122					
数学専攻（D）	12	-	36					
物理学専攻（D）	20	-	60					
化学専攻（D）	16	-	48					
ナノイシ・ナノカクビ <sup>®</sup> -専攻（D）	25	-	75					
電子・物理工学専攻（D）	16	-	48					
物性・分子工学専攻（D）	13	-	39					
物質・材料工学専攻（D）	9	-	27					

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
システム情報工学研究科				システム情報工学研究群 (M)	431	-	862	
社会工学専攻 (M)	108	-	216					
リスク工学専攻 (M)	30	-	60					
コンピュータ工学専攻 (M)	113	-	226					
知能機能システム専攻 (M)	108	-	216					
構造エネルギー工学専攻 (M)	68	-	136					
社会工学専攻 (D)	26	-	78	システム情報工学研究群 (D)	102	-	322	
リスク工学専攻 (D)	12	-	36					
コンピュータ工学専攻 (D)	28	-	84					
知能機能システム専攻 (D)	24	-	72					
構造エネルギー工学専攻 (D)	16	-	48					
生命環境科学研究科				生命地球科学研究群 (M)	311	-	622	
地球科学専攻 (M)	39	-	78					
生物科学専攻 (M)	49	-	98					
生物資源科学専攻 (M)	106	-	212					
環境科学専攻 (M)	69	-	138					
国際連携持続環境科学専攻 (M) ※2	6	-	12	国際連携持続環境科学専攻 (M) ※2	6	-	12	
地球環境科学専攻 (D)	11	-	33	生命地球科学研究群 (D)	118	-	354	
地球進化科学専攻 (D)	8	-	24					
生物科学専攻 (D)	26	-	78					
国際地縁技術開発科学専攻 (D)	22	-	66					
生物圏資源科学専攻 (D)	20	-	60					
生物機能科学専攻 (D)	21	-	63					
生命産業科学専攻 (D)	12	-	36					
持続環境学専攻 (D)	12	-	36					
先端農業技術科学専攻 (D)	6	-	18					
環境バイオマス共生学専攻 (D)	21	-	105					
教育研究科				人間総合科学学術院		-		研究科の設置 (事前 伺い)
スクーラーシップ 開発専攻 (M)	20	-	39	人間総合科学研究群 (M)	575	-	1,150	
教科教育専攻 (M)	80	-	160					
人間総合科学研究科								
スポーツ健康システムマネジメント専攻 (M)	24	-	48					
フロンティア医学専攻 (M)	50	-	100					
教育学専攻 (M)	18	-	36					
心理専攻 (M)	16	-	32					
障害科学専攻 (M)	45	-	90					
生涯発達専攻 (M)	46	-	92					
感性認知脳科学専攻 (M)	14	-	28					
看護科学専攻 (M)	15	-	30					
体育学専攻 (M)	115	-	230	スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※3	5	-	10	
芸術専攻 (M)	60	-	120		(8)		(16)	
世界遺産専攻 (M)	15	-	30	国際連携食料健康科学専攻 (M) ※2	9	-	18	
スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※3	5	-	10					
	(8)		(16)					
国際連携食料健康科学専攻 (M) ※2	9	-	18					
図書館情報メディア研究科				人間総合科学研究群 (D)	229	-	783	
図書館情報メディア専攻 (M)	37	-	74					
人間総合科学研究科								
教育基礎学専攻 (D)	8	-	24					
学校教育学専攻 (D)	6	-	18					
心理学専攻 (D)	6	-	18					
障害科学専攻 (D)	10	-	30					
生涯発達科学専攻 (D)	6	-	18					
ヒューマンケア科学専攻 (D)	18	-	54					
感性認知脳科学専攻 (D)	10	-	30					
スポーツ医学専攻 (D)	10	-	30					
看護科学専攻 (D)	8	-	24					
体育科学専攻 (D)	15	-	45					
コーチング学専攻 (D)	5	-	15					
芸術専攻 (D)	10	-	30					
世界文化遺産学専攻 (D)	7	-	21					
生命システム医学専攻 (D)	28	-	112					
疾患制御医学専攻 (D)	34	-	136					
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※3	3	-	9	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※3	3	-	9	
	(5)		(15)		(5)		(15)	
図書館情報メディア研究科								
図書館情報メディア専攻 (D)	21	-	63					
計	2,396	-	5,686	計	2,508	-	5,791	

※1は、専門職大学院設置基準に基づく専門職学位課程の専攻である。

※2は、大学院設置基準第35条第1項に基づく国際連携専攻である。

※3は、大学院設置基準第31条第1項に基づく共同教育課程の専攻であって、その定員は本学に係るものである。なお、( )内は当該共同教育課程全体の定員である。

教育課程等の概要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程/修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理・環境科目群	応用倫理	1・2後		1		○								兼2 集中, オムニバス
		環境倫理学概論	1・2後		1		○								兼2 集中, オムニバス
		研究倫理	1・2前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
		生命倫理学	1・2前		1		○			3	3	1	1		兼2 オムニバス
		企業と技術者の倫理	1・2前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	シ情報伝達力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	1・2前		1		○								兼1 ※演習, 集中
		英語発表	1・2前		1		○								兼1 ※演習, 集中
		異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2通		2			○		1		1			集中
		Global Communication Skills Training	1・2前		1			○							兼1 ※講義, 集中
		サイエンスコミュニケーション概論	1・2前		1		○								兼1 集中
		サイエンスコミュニケーション特論	1・2後		1		○								兼1
		サイエンスコミュニケーション養成実践講座	1・2休		2				○						兼1 集中
	人文知コミュニケーション: 人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2後		1		○								兼3 集中, オムニバス	
	国際性養成科目群	21世紀的中国 ー現代中国の多相ー	1・2後		1		○								兼1
		国際研究プロジェクト	1・2通		1										兼1
国際インターンシップ		1・2通		1										兼1 集中	
地球規模課題と国際社会: 食料問題		1・2後		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会: 海洋環境変動と生命		1・2後		1		○								兼2 集中, オムニバス	
地球規模課題と国際社会: 社会脳		1・2休		1		○			1					集中	
地球規模課題と国際社会: 感染症・保健医療問題		1・2後		1		○			2			1		集中, オムニバス	
地球規模課題と国際社会: 社会問題		1・2後		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会: 環境汚染と健康影響	1・2後		1		○			1					集中		
キャリアマネジメント科目群	JAPICアドバンスドイノベーションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2後		1				○						兼1 集中	
	JAPICアドバンスドイノベーションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2前		1				○						兼1 集中	
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2休		1				○				1		※講義, 集中	
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2前		1				○						兼1 集中	
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2休		1									○	兼9 集中, オムニバス 共同(一部)	
	アクセシビリティリーダー特論	1・2前		1				○	3	2	1			兼2 オムニバス, 共同(一部)	
知的基盤形成科目群	脳の多様性とセルフマネジメント	1・2休		1				○	1					※演習, 集中	
	生物多様性と地球環境	1・2前		1		○								兼4 ※実習, 集中, オムニバス	
	内部共生と生物進化	1・2前		1										兼1 集中	
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2休		1									○	兼2 ※講義, 集中	
	科学的発見と創造性	1・2前		1		○								兼1 集中	
	自然災害にどう向き合うか	1・2前		1		○								兼1	
「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2休		1		○								兼5 集中, オムニバス		
身心基盤形成科目群	21世紀と宗教	1・2前		1		○								兼2 集中, オムニバス	
	塑造実習	1・2後		1				○	1			1		隔年	
	コミュニケーションアート&デザインA	1・2前		1		○			2	3		3		隔年, オムニバス	
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2後		1		○			2	2		3		隔年, オムニバス	
	日本画実習	1・2前		1						2				隔年	
	ヨーガコース	1・2前		1					1					※講義, 集中	
	絵画実習A	1・2前		1					1		1			隔年	
	現代アート入門	1・2前		1		○			1					隔年	
	大学院体育Ia	1・2通		1					3	1					
	大学院体育Ib	1・2前		1					2					兼1	
大学院体育Ic	1・2後		1					1	2						
大学院体育IIa	1・2通		1					3	1						
大学院体育IIb	1・2前		1					2					兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	大学院体育IIc	1・2後		1				○	1	2							
	大学院体育IIIa	1・2通		1				○	3	1						兼1	
	大学院体育IIIb	1・2前		1				○	2							兼1	
	大学院体育IIIc	1・2後		1				○	1	2						兼1	
	大学院体育IVa	1・2通		1				○	3	1						兼1	
	大学院体育IVb	1・2前		1				○	2							兼1	
	大学院体育IVc	1・2後		1				○	1	2						兼1	
	大学院体育Va	1・2通		1				○	3	1						兼1	
	大学院体育Vb	1・2前		1				○	2							兼1	
	大学院体育Vc	1・2後		1				○	1	2						兼1	
	小計 (59科目)	—	0	61	0			—	20	16	3	10	0	兼46	—		
学 術 院 共 通 専 門 基 盤 科 目	研究のビジュアルデザイン	1・2前		1				○	1		2					オムニバス	
	スポーツ芸術表現学への招待	1・2後		1			○		3	2						兼2 オムニバス	
	世界遺産を科学する	1・2後		1			○		5	2		2				兼1 オムニバス	
	研究者のための学術情報流通論	1前		1			○		1							兼1 オムニバス	
	音響メディア情報	1後		1			○		1	1		1				兼1 オムニバス	
	こころの神経科学	1・2通		1			○		4	3		2				兼1 オムニバス	
	人間総合科学基礎論	1・2前		1				○	2							共同	
	武道学	1・2前		1			○				1						共同
	健康増進学特講	1・2前		1			○				1						共同
	トレーニング学	1通		2			○				2						共同
	Olympic and Paralympic History (オリンピック・パラリンピック史)	1後		1			○				1						共同
	心理統計学特講	1・2前		2			○						1				オムニバス
	社会医学概論	1前		2			○			8	3		7				オムニバス
	医科学セミナーI(ブレインサイエンス)	1・2通		1			○			1							オムニバス
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1			○			1							オムニバス
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1			○			1	1						オムニバス
	医科学セミナーIV(プライマリケア)	1・2通		1			○			1	1						オムニバス
	医科学セミナーVII(臨床研究セミナー)	1・2通		1			○			1							オムニバス
	医科学セミナー基礎	1・2通		1			○			1		1					オムニバス
	神経科学先端セミナー	1・2通		1			○			1			1				オムニバス
	教育学理論研究	1・2前		1			○			2	3						兼1
	次世代教育開発研究	1・2前		1			○			10	4						兼1
	Theory of International Education Research Foundation	1・2後		1			○			1	1		2				オムニバス
	情報アクセス	1・2後		2			○			1	3		1				オムニバス
	カウンセリング方法論基礎 I	1通		1			○			5	3						オムニバス
	リハビリテーション方法論基礎 I	1前		1			○			3	2	2	1				オムニバス
スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1・2前		1			○			3	2						オムニバス	
大学を開くデザインプロデュース A	1・2前		1					○			4					共同	
大学を開くデザインプロデュース B	1・2前		1					○			4					共同	
大学を開くデザインプロデュース C	1・2後		1					○			4					共同	
小計 (31科目)	—	—	0	36	0			—	54	40	4	17	0	兼7	—		
教 育 学 関 連 科 目	専 門 基 礎 科 目	日本教育史特講	1・2通	2			○			1							
		日本教育史演習	1・2通	2				○			1						
		教育哲学特講	1・2通	2				○					1				
		教育哲学演習	1・2通	2					○				1				
		生涯学習・社会教育学特講	1・2通	2				○			1						
		生涯学習・社会教育学演習	1・2通	2					○			1					
		教育制度学特講	1・2通	2				○			1						
		教育制度学演習	1・2通	2					○			1					
		学校経営学特講	1・2通	2				○				1					
		学校経営学演習	1・2通	2					○				1				
		比較・国際教育学特講	1・2通	2				○						1			
		比較・国際教育学演習	1・2通	2					○					1			
		道德教育学特講	1・2通	2				○				1					
		道德教育学演習	1・2通	2					○			1					
		カリキュラム論特講	1・2通	2				○			1						
		カリキュラム論演習	1・2通	2					○			1					
		教育方法学特講	1・2通	2				○			1						
		教育方法学演習	1・2通	2					○		1						
		キャリア教育学特講	1・2通	2				○			1						
		キャリア教育学演習	1・2通	2					○		1						
教育社会学特講	1・2通	2				○						1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	教育社会学演習	1・2通		2				○					1		
	高等教育論特講	1・2通		2			○					1			
	高等教育論演習	1・2通		2				○				1			
	特別活動学特講	1・2通		2			○						1		
	特別活動学演習	1・2通		2				○					1		
	学校教育論	1・2後		2			○			1					
	学校心理学	1・2前		2			○				1				
	スクールリーダーシップ論	1・2前		2			○				1				
	青年の発達	1・2前		2			○				1				
	国際・多文化教育論	1・2後		2			○						1		
	生涯学習論	1・2前		2			○					1			
	道徳と人権	1・2後		2			○					1			
	心理教育的アセスメント	1・2前		2						○					兼1
	スクールカウンセリング実習I	1・2通		2						○		1			
	スクールカウンセリング実習II	1・2前		2						○		1			
	学校の社会学	1・2前		2			○						1		
	学校安全と危機管理	1・2前		2				○							兼1
	学校経営事例研究	1・2前		2			○					1			
	学習指導と授業	1・2後		2			○					1			
	学習と学級の心理	1・2後		2			○								兼1
	学校臨床心理	1・2後		2			○					1			
	教育臨床学特講	1・2通		2			○					1			
	教育臨床学演習	1・2通		2				○				1			
	国語科教育学a	1・2前		1			○					1			
	国語科教育学b	1・2後		1			○					1			
	国語科教育史研究 a	1・2前		1			○					1			
	国語科教育史研究 b	1・2後		1			○					1			
	国語科教育実践論研究 a	1・2前		2				○				1			
	国語科教育実践論研究 b	1・2後		1				○				1			
	表現教育論a	1・2前		1			○					1			
	表現教育論b	1・2後		1			○					1			
	文学教育論a	1・2前		1			○								兼1
	文学教育論b	1・2後		1			○								兼1
	古典教育論 a	1・2前		1			○								兼1
	古典教育論 b	1・2後		1			○								兼1
	国語科リテラシー教育論 a	1・2前		1			○								兼1
	国語科リテラシー教育論 b	1・2後		1			○								兼1
	国語教育特講	1・2後		1			○					1			
	国語科研究法	1・2通		3			○					1			兼1
	国語科研究法演習	1・2通		3				○				1			兼1
	社会日本語論 I a	1・2前		1			○								兼1
	社会日本語論 I b	1・2後		1			○								兼1
	社会日本語論 II a	1・2前		1			○								兼1
	社会日本語論 II b	1・2後		1			○								兼1
	古典日本語論 I a	1・2前		1			○								兼1
	古典日本語論 I b	1・2後		1			○								兼1
	古典日本語論 II a	1・2前		1			○								兼1
	古典日本語論 II b	1・2後		1			○								兼1
	現代日本語論 I a	1・2前		1			○								兼1
	現代日本語論 I b	1・2後		1			○								兼1
	現代日本語論 II a	1・2前		1			○								兼1
	現代日本語論 II b	1・2後		1			○								兼1
	日本文学研究 I a	1・2前		1			○								兼1
	日本文学研究 I b	1・2後		1				○							兼1
	日本文学研究 II a	1・2前		1			○								兼1
	日本文学研究 II b	1・2後		1				○							兼1
	日本文学演習 I a	1・2前		1			○								兼1
	日本文学演習 I b	1・2後		1				○							兼1
	日本文学演習 II a	1・2前		1			○								兼1
	日本文学演習 II b	1・2後		1				○							兼1
	日本文学表現論a	1・2前		1			○								兼1
	日本文学表現論b	1・2後		1				○							兼1
	中国文学研究a	1・2前		1				○							兼1
	中国文学研究b	1・2後		1				○							兼1
	中国文学演習 a	1・2前		1				○							兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	中国文学演習b	1・2後		1				○							兼1	
	社会科学教育学特講	1・2通		2			○			1						※演習
	社会科学教育学内容論(地理歴史)	1・2前		3			○			2	1					
	社会科学教育学内容論(公民)	1・2前		3			○			2	1					
	社会科学教育学実践論(地理歴史)	1・2後		3				○		2	1					
	社会科学教育学実践論(公民)	1・2後		3				○		2	1					
	地理教育特講Ⅰ	1・2前		1			○			1						隔年
	地理教育特講Ⅱ	1・2後		1			○			1						隔年
	地理教育特講Ⅲ	1・2通		1			○			1						
	地理教育演習Ⅰ	1・2前		1				○		1						隔年
	地理教育演習Ⅱ	1・2後		1				○		1						隔年
	地理教育演習Ⅲ	1・2通		1				○		1						
	歴史教育特講Ⅰ	1・2前		1			○				1					隔年
	歴史教育特講Ⅱ	1・2後		1			○				1					隔年
	歴史教育特講Ⅲ	1・2通		1			○				1					
	歴史教育演習Ⅰ	1・2前		1				○			1					隔年
	歴史教育演習Ⅱ	1・2後		1				○			1				兼2	隔年
	歴史教育演習Ⅲ	1・2通		1				○			1				兼2	
	歴史教育学特講	1・2後		2					○		1					
	公民教育特講Ⅰ	1・2前		1			○			1						隔年
	公民教育特講Ⅱ	1・2後		1			○			1						隔年
	公民教育特講Ⅲ	1・2通		1			○			1						
	公民教育演習Ⅰ	1・2前		1				○		1						隔年
	公民教育演習Ⅱ	1・2後		1				○		1						隔年
	公民教育演習Ⅲ	1・2通		1				○		1						
	人文地理学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	人文地理学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	人文地理学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	人文地理学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	自然地理学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	自然地理学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	地理学野外実験	1・2後		3					○	1					兼2	
	日本史特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	日本史特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	日本史演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	日本史演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	民俗学実習	1・2後		3					○						兼1	
	考古学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	考古学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	考古学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	考古学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	考古学実習	1・2前		3					○						兼1	
	社会学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	社会学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	社会学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	社会学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	政治学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	政治学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	政治学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	政治学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	経済学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	経済学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	経済学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	経済学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	法学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	隔年
	法学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼2	隔年
	法学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼2	隔年
	法学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼2	隔年
	哲学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	哲学特講Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	哲学演習Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	隔年
	哲学演習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	隔年
	倫理学特講Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	倫理学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	倫理学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	倫理学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	基礎数理学A	1・2前		1		○									兼5	
	基礎数理学B	1・2後		1		○									兼5	
	基礎数理学C	1・2後		1		○									兼5	
	総合数理学A	1・2前		1			○								兼5	
	総合数理学B	1・2後		1			○	○							兼5	
	総合数理学C	1・2後		1				○							兼5	
	現代数学基礎A	1・2前		1		○									兼4	
	現代数学基礎B	1・2後		1		○									兼4	
	現代数学基礎C	1・2後		1		○									兼4	
	現代数学特別研究A	1・2前		1				○							兼4	
	現代数学特別研究B	1・2後		1				○	○						兼4	
	現代数学特別研究C	1・2後		1				○	○						兼4	
	現代数学特別研究D	1・2前		1				○	○						兼4	
	現代数学特別研究E	1・2後		1				○	○						兼4	
	現代数学特別研究F	1・2後		1				○	○						兼4	
	数学教育研究方法論	1・2前		2		○				1						
	数学教育学習論	1・2後		2		○				1						
	数学教育カリキュラム論	1・2後		2		○					1					
	数学教育内容論	1・2前		2		○				1						
	数学教育実践論演習(代数・幾何)	1・2前		2				○			1					
	数学教育実践論演習(解析・確率統計・ICT利用)	1・2後		2				○		1						
	理科教育基礎論	1前		2		○							1			
	理科教育学演習	1後		2				○					1			
	理科教育学習論	1・2前		1		○									兼1	
	理科教育研究方法論	1通		1		○									兼1	
	理科教育実践演習	1・2後		1				○					1			
	基礎物理学1	1・2前		1		○									兼1	
	基礎化学1	1・2前		1		○									兼4	
	基礎生物学1	1・2前		1		○									兼3	
	基礎地学1	1・2前		1		○									兼2	
	基礎物理学2	1・2後		1		○									兼1	
	基礎化学2	1・2後		1		○									兼4	
	基礎生物学2	1・2後		1		○									兼3	
	基礎地学2	1・2前		1		○									兼2	
	理科教育実験1	1・2前		2						○					兼4	
	理科教育実験2	1・2後		2						○					兼4	
	物理学教育実験	1・2後		1						○					兼1	
	化学教育実験	1・2後		1						○					兼2	
	生物学教育実験	1・2前		1						○					兼6	
	地学教育実験	1・2前		1						○					兼2	
	地学教育野外実験1	1・2前		1						○					兼1	
	地学教育野外実験2	1・2前		1						○					兼1	
	理科野外実習インターンシップ	1・2前		2						○					兼1	
	物理学特講	1・2通		1		○									兼1	
	化学特講	1・2前		1		○									兼4	
	生物学特講	1・2通		1		○									兼2	
	地学特講	1・2後		1		○									兼1	
	理科教育学特講	1・2後		1		○									兼1	
	英語教育研究方法論	1・2前		2		○							1			隔年
	英語教育学習論	1・2後		2		○							1			隔年
	英語教育内容論	1・2前		2		○							1			隔年
	英語教育実践論	1・2後		2		○							1			隔年
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○				1						隔年
	芸術科教育実践論演習A	1・2前		1				○		1						隔年
	芸術科教育実践論演習B	1・2後		1				○		1						隔年
	芸術鑑賞論A-1	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論A-2	1・2後		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○				1						隔年
	保健体育教育内容論	1・2通		3		○						1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	保健体育教育実践論演習Ⅰ	1 後		1				○		1						
	保健体育教育実践論演習Ⅱ	2 前		1				○		1						
	保健体育教育実践論演習Ⅲ	2 前		1				○		1						
	保健体育カリキュラム論	1・2 前		1		○				1						
	保健体育授業づくり論	1・2 後		1		○				1						
	Education and an Interconnected World	1・2 前		2		○						1				
	Research Methodology	1・2 前		1		○							1			
	Research Design and Methods	1・2 前		2		○								1		
	Pedagogy for a Changing World I	1・2 前		2		○									2	
	Pedagogy for a Changing World II	1・2 後		2		○										2
	Assessment for Learning I	1・2 前		2		○				1						1
	Assessment for Learning II	1・2 後		2		○				1						1
	Curriculum as Process I	1・2 前		2		○				1						1
	Curriculum as Process II	1・2 後		2		○				1						1
	The IB Primary Years Programme	1・2 後		2		○				1						1
	The IB Middle Years Programme	1・2 後		2		○				1						1
	The IB Diploma Programme	1・2 後		2		○				1						1
	Professional Learning and Reflective Practice	1・2 前		1		○				1						1
	Field Research	1・2 前		1				○		1						2
	国際理解教育論	1・2 後		2		○										1
	グローバル化と教育	1・2 後		2		○										1
	国際教育開発論	1・2 前		2		○										1
	国際教育協力論	1・2 前		2		○										1
	教員養成の国際比較	1・2 前		2		○										1
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	1・2 前		1		○										2
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	1・2 前		2		○				1	1					1
	初等国語特講A	1・2 前		1		○										兼2
	初等国語特講B	1・2 後		1		○					1					兼1
	初等社会特講	1・2 前		1		○				2	1					
	初等数学特講	1・2 後		1		○					1					
	初等理科特講	1・2 後		1		○										兼1
	初等英語特講	1・2 後		1		○										1
	初等図画工作特講	1・2 後		1		○				1						
	初等体育特講	1・2 後		1		○					1					
	小計 (249科目)			0	348	0		—		14	11	0	9	0	兼50	
専 門 科 目	教育学研究Ⅰ	1通		3				○		6	4					4
	教育学研究Ⅱ	2通		3				○		6	4					4
	教育学研究Ⅲ	2通		3				○		6	4					4
	次世代教育研究Ⅰ	1通		3				○		7	3					2
	次世代教育研究Ⅱ	2通		3				○		7	3					2
	次世代教育研究Ⅲ	2通		3				○		7	3					2
	国語教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1	1					兼1
	国語教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1	1					兼1
	国語教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1	1					兼1
	地理教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1						兼2
	地理教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1						兼2
	地理教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1						兼2
	歴史教育学研究Ⅰ	1通		3				○			1					兼2
	歴史教育学研究Ⅱ	2通		3				○			1					兼2
	歴史教育学研究Ⅲ	2通		3				○			1					兼2
	公民教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1						兼3
	公民教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1						兼3
	公民教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1						兼3
	数学教育学研究Ⅰ	1通		3				○		2	1					兼9
	数学教育学研究Ⅱ	2通		3				○		2	1					兼9
	数学教育学研究Ⅲ	2通		3				○		2	1					兼9
	理科教育学研究Ⅰ	1通		3												2
	理科教育学研究Ⅱ	2通		3												兼17
	理科教育学研究Ⅲ	2通		3												兼17
	英語教育学研究Ⅰ	1通		3				○								1
	英語教育学研究Ⅱ	2通		3				○								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	英語教育学研究III	2通		3				○					1			
	芸術科教育学研究 I	1通		3				○		1						
	芸術科教育学研究 II	2通		3				○		1						
	芸術科教育学研究 III	2通		3				○		1						
	保健体育教育学研究 I	1通		3				○			1					
	保健体育教育学研究 II	2通		3				○			1					
	保健体育教育学研究 III	2通		3				○			1					
	国際教育学研究 I	1通		3				○		1	2		3			
	国際教育学研究 II	2通		3				○		1	2		3			
	国際教育学研究 III	2通		3				○		1	2		3			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	1通		3				○		1	2		3			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	2通		3				○		1	2		3			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	2通		3				○		1	2		3			
	小計 (39科目)	—	0	117	0			—		14	9	0	9	0	兼44	—
心理学関連科目	基礎科目	心理学方法論 I	1前	2				○		3	4		1		兼2	オムニバス
		心理学方法論 II	1後	2				○		4	4		2		兼2	オムニバス
		心理学特別研究A	2前	2					○	5	3		2		兼1	
		心理学特別研究B	2後	2					○	5	3		2		兼1	
		心理学特別研究S	2通	2					○	5	3		2		兼1	
		心理学先端研究1	1・2通	1					○						兼1	集中
		心理学先端研究2	1・2通	1					○						兼1	集中
		心理学キャリア形成	1・2通	1					○						兼1	集中
		心理学インターンシップ	1・2通	1					○	5	2		2		兼1	
		小計 (9科目)	—	0	14	0			—		8	6	0	2	0	兼5
専門科目	心理基礎科学共通科目	心理基礎科学演習 I	1前	2				○		2	2		2		兼1	
		心理基礎科学演習 II	1後	2				○		2	2		2		兼1	
		心理基礎科学演習 III	2前	2					○	2	2		2		兼1	
		心理基礎科学演習 IV	2後	2					○	2	2		2		兼1	
	心理基礎科学領域専門科目	心理統計学基礎	1・2前	2					○		1					
		心理基礎科学英語1	1・2前	1					○	2	2		2		兼1	
	心理基礎科学領域専門科目	心理基礎科学英語2	1・2後	1					○	2	2		2		兼1	
		感覚知覚心理学特講	1・2後	2					○	1						
		心理学と認知支援工学特論	1・2後	2					○						兼1	
		認知心理学特講	1・2後	2					○	1					兼1	
		学習心理学特講	1・2後	2					○							
		教育心理学特講	1・2前	2					○		1					
		行動デザイン特講	1・2後	2					○				1			
		青年心理学特講	1・2後	2					○	1						
	臨床社会心理学特講 (心の健康教育に関する理論と実践)	1・2前	2					○						兼1		
	小計 (16科目)	—	0	30	0			—		3	3	0	2	0	兼3	—
心理臨床学共通科目	臨床心理学特講 I	1前	2					○	1							
	臨床心理学特講 II	1後	2					○	1							
	臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践)	1前	2					○		1						
	臨床心理面接特講 II	1前	2					○	1							
	臨床心理基礎実習	1通	2					○	3	1		4		兼1	共同	
	臨床心理実習 I (心理実践実習 II C)	2前	2					○	2	1		4		兼1	共同	
	臨床心理実習 II	2後	2					○	1	1		4		兼1	共同	
	発達臨床心理実習 I (心理実践実習 II D)	2前	2					○	2					兼1	共同	
	発達臨床心理実習 II	2後	2					○	2					兼1	共同	
	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1通	2					○	1							
臨床心理査定演習 II	2前	2					○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理臨床学領域専門科目	児童臨床心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		2		○			1						隔年
	発達臨床心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2後		2		○			1						隔年
	アセスメント心理学特講I	1・2前		2		○			1						隔年
	アセスメント心理学特講II	1・2後		2		○			1						隔年
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		1		○			1		1				
	神経心理学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2後		1		○				1					隔年
	産業臨床心理学特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2前		2		○				1					
	学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Z）	1・2前		2		○				1					
	老年心理学特講	1・2前		2		○				1					
	キャリアカウンセリング特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		2		○				1					
	非行・犯罪心理学（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○				1		1	2		
	臨床心理家族・地域援助特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後		2		○				1			1		隔年
	心理実践実習 I A	1前		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 I B	1後		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 II A	2前		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 II B	2後		2				○	3	1			3		
心理臨床 I	1・2前		1		○									兼1	
心理臨床 II	1・2後		1		○									兼1	
小計（29科目）		—	0	54	0	—	—	8	4	1	4	0	兼2	—	
障害科学関連科目	基礎科目														
	障害科学調査・実験実習 I	1前		1				○							共同
	障害科学調査・実験実習 II	1後		1				○	8		1	1			共同
	障害科学研究法 I	2通		1				○	8						
	障害科学研究法 II	2通		1				○	8						
	障害科学研究法 III	2通		1				○	8						
	海外特別研修セミナー	1・2通		2			○		2						共同
障害科学講究	1通		1			○			2					共同	
小計（7科目）		—	0	8	0	—	—	8	3	1	1	0	0	—	
専門科目（共通）	特別支援教育総論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	視覚障害教育学	1・2後		2		○				1					オムニバス
	視覚障害指導法	1・2後		2		○				1		1			オムニバス
	視覚障害心理学	1・2前		2		○				1					
	視覚障害病態生理学	1・2前		2		○			1						
	肢体不自由教育学	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由指導法	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由心理学	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由病態生理学	1・2後		1		○			1						
	障害児教育課程論	1・2後		1		○				1					
	知的障害教育学	1・2前		1		○				1					
	知的障害指導法	1・2後		1		○				1					
	知的障害心理学	1・2前		1		○				1					
	知的障害病態生理学	1・2前		1		○				1					兼1
	聴覚障害指導法	1・2通		2		○			1	1					オムニバス
	重複障害指導法	1・2後		1		○			1	1					オムニバス
	特別支援学校教育実習	1・2通		3				○		4					
	発達・行動・言語障害指導法	1・2前		1		○			2	1					オムニバス
	発達・行動障害生理・心理学	1・2前		1		○			1	1					オムニバス
	言語障害生理・心理学	1・2前		1		○				1					
	病弱教育学	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱指導法	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱心理学	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱病態生理学	1・2前		1		○			1						
	聴覚障害教育学	1・2後		2		○			1	1					オムニバス
聴覚障害心理学	1・2前		2		○			1	1					オムニバス	
聴覚障害病態生理学	1・2前		2		○			1							
知的・発達障害心理学特講	1・2後		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	知的・発達障害指導法特講	1・2前		2		○			1	1					兼1 オムニバス ※講義 隔年,オムニバス
	行動障害指導法特講	1・2後		2			○		1						
	臨床発達心理学	1・2前		2		○									
	教育臨床発達援助論	1・2前		2		○			2						
	行動問題面接指導法特講	1・2前		2		○			1						
	臨床発達心理査定法特講	1・2前		2		○			2	1					
	行動臨床心理学	1・2前		2		○			1						
	障害学生支援学特講	1・2前		1		○			1	2	1				
	障害学生支援学演習	1・2後		1			○		1	1	1				
	特別支援教育学	1・2前		1		○				1					
	Special Lecture on Disability Sciences	1・2前		1		○			1			1			オムニバス
専門科目	視覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			1	2		1			オムニバス
	視覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			1	2		1			オムニバス
	視覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	3		1			共同
	視覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	3		1			共同
	視覚障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1	3		1			
	聴覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			2	1					オムニバス
	聴覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			2	1					オムニバス
	聴覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		2	1					共同
	聴覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		2	1					共同
	聴覚障害学演習Ⅲ	2通		3			○		2	1					
	運動障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	運動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	運動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	病弱特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	病弱特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	病弱演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			3	3					オムニバス, 共同(一部)
	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			3	3					オムニバス
	知的・発達・行動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		3	3					共同
	知的・発達・行動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		3	3					共同
	知的・発達・行動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		3	3					
	言語障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○				1					
	言語障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○				1					
	言語障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	言語障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	言語障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	障害福祉学特講Ⅰ	1・2前		1		○					1	2			オムニバス
	障害福祉学特講Ⅱ	1・2後		1		○					1	2			オムニバス
	障害福祉学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1	1	2			共同
	障害福祉学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	1	1	2			共同
	障害福祉学演習Ⅲ	2通		3			○		1	1	1	2			
	障害原理論特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	障害原理論特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	障害原理論演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	障害原理論演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	障害原理論演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	理療科教育特講Ⅰ	1・2前		1		○			1	1					オムニバス
	理療科教育特講Ⅱ	1・2後		1		○			1	1					オムニバス
	理療科教育演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1					共同
	理療科教育演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	1					共同
	理療科教育演習Ⅲ	2通		3			○		1	1					
	小計(84科目)	—	0	121	0	—	—	—	11	10	1	3	0	兼3	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
カウンセリング 関連科目	基礎科目	カウンセリング方法論基礎Ⅱ	1通	1			○		5	3					
		カウンセリング方法論基礎Ⅲ	1通	1			○		5	3					
		カウンセリング研究法Ⅰ	2通	1			○		5	3					
		カウンセリング研究法Ⅱ	2通	1			○		5	3					
		小計(4科目)	—	0	4	0		—	5	3	0	0	0	0	—
カウンセリング 関連科目	専門科目	カウンセリング心理学	1前	2		○		1							
		カウンセリング特別研究Ⅰ	2通	1			○		5	3					
		カウンセリング特別研究Ⅱ	2通	1			○		5	3					
		カウンセリング特別研究Ⅲ	2通	1			○		5	3					
		生涯発達臨床心理学Ⅰ	1・2前	2			○		1						
		生涯発達臨床心理学Ⅱ	1・2前	2			○		1						
		学校心理学	1・2後	2			○			1					
		学校教育相談	1・2後	2			○		1					隔年	
		健康心理学	1・2前	2			○			1					
		職場のメンタルヘルス	1・2後	2			○			1					
		組織心理学	1・2後	2			○		1						
		キャリア心理学	1・2後	2			○		1						
		人格心理学	1・2前	2			○		1						
		人間関係論	1・2前	2				○						兼1	
		非行・犯罪心理学	1・2後	2			○		1					兼1	
		家族心理学	1・2後	1			○							兼1	
		グループプロセス	1前	2			○			1					
		心理・教育アセスメント	1後	2			○		1						
		ヘルピング・スキル	1・2後	2			○		1					隔年	
		カウンセリング方法論	1・2後	2			○		1						
		心理療法	1・2通	2			○		1					隔年, 集中	
		認知行動療法	1・2後	2			○			1				集中	
		心理診断法	1・2通	2			○							兼1 隔年, 集中	
		心身医学	1・2前	1			○		1					隔年, 集中	
		心理・教育統計法	1前	2			○			1					
		社会調査法	1前	2				○		1					
		データ解析法	1後	2				○		1					
		事例研究法	1・2前	2			○			1				集中	
		人間行動基礎論Ⅰ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		人間行動基礎論Ⅱ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		人間行動基礎論Ⅲ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		人間行動基礎論Ⅳ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	1・2通	1			○							兼1 隔年, 集中	
		生涯発達カウンセリング基礎面接実習	1通	1					○	5	2		1		
		生涯発達カウンセリング応用面接実習	2通	1					○	5	1				
		生涯発達カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	1	1				
		産業カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	1	1				
		非行・犯罪心理学特別面接実習	2通	2					○	1					
		教育カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	1					
		家族カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	1					
		学校カウンセリング特別面接実習	2通	2					○		1				
		健康心理カウンセリング特別面接実習	2通	2					○		1				
		精神衛生カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	2					
		臨床心理カウンセリング特別面接実習	2通	2					○	2	1				
		生涯発達カウンセリング実践面接実習	2通	2					○	1	1				隔年
小計(48科目)	—	0	81	0		—		5	3	0	1	0	兼1	—	
リハビリテーション 科学	基礎科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	1前・後	1			○		4	2		1			
		リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	1後	1			○		4	2		1			
		リハビリテーション研究法Ⅰ	2通	1			○		5	3		1			
		リハビリテーション研究法Ⅱ	2通	1			○		5	3		1			
		リハビリテーション概説	1前	2			○		6	2		1			
		リハビリテーション研究基礎論	1前	1			○		5	3	2	1			
		リハビリテーション特別研究	2通	1			○		5	3		1			
		医学的リハビリテーション	1・2前	1			○		1						
		特別支援教育特講	1・2前	1			○		1	2					
		ダイバーシティ概論	1・2前	1			○					1			
		職業リハビリテーション	1・2前	1			○			1					
		共同													

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	地域リハビリテーション	1・2前		2		○			1						共同
	統計学	1・2前		3		○			2	2					
	小計 (13科目)	—	0	17	0	—			9	5	2	1	0	0	—
	特別支援教育授業論	1・2後		1		○			1	2					共同
	特別支援教育教育課程論	1・2後		1		○			1	2					共同
	特別支援教育コーディネーター論	1・2後		1		○			1						
	障害者福祉論	1・2前		1		○			1						
	職業指導論	1・2前		1		○				1					
	リハビリテーション事例研究	1・2後		2			○		4	2		1			共同
	特別支援教育事例研究	1・2後		2			○		4	2		1			共同
	視覚障害学特論	1・2前		2		○				1					共同
	聴覚障害学特論	1・2前		2		○			1	1					共同
	言語障害学特論	1・2後		2		○			1						
	運動障害学特論	1・2前		2		○			1						
	知的障害学特論	1・2後		2		○			1	1					共同
	精神障害学特論	1・2後		2		○						1			
	高次脳機能障害特論	1・2前		2		○				1					
	健康障害学特論	1・2前		1		○			2						共同
	高齢障害学特論	1・2後		1		○			1						
	発達障害学特論	1・2前		2		○			1						
	視覚障害学演習	1・2後		1			○			1					
	運動障害学演習	1・2後		1			○	○	1						
	高齢障害学演習	1・2後		1			○	○	1						
	発達障害学演習	1・2後		1			○	○	1						
	社会リハビリテーション演習	1・2後		1			○	○	1						
	職業リハビリテーション演習	1・2後		1			○	○		1					
	リハビリテーションカウンセリング	1・2前		1			○	○		1					
	リハビリテーション課題研究	1・2通		1			○	○	5	2		1			
	リハビリテーション英語	1・2前		1			○			1					
国際リハビリテーション演習	1・2前		1				○		1						
質的研究法	1・2通		1			○			1					集中	
多変量解析法	1・2通		1			○						1		集中	
小計 (29科目)	—	0	39	0	—			7	6	0	1	0	0	—	
フロンティア医科学関連科目	基礎科目														
	人体構造学概論	1前		2		○			1		1	1			オムニバス
	人体構造学実習	1・2前		1					1	1					
	臨床医学概論	1後		2		○			8	1	2				オムニバス
	医科学特講	1・2前		1		○			1						
	医情報処理学特論	1前		1		○			1						
	医学英語I	1前		1		○				1					
	医学英語II	1後		1		○				1					
	研究マネジメント基礎	1前		1			○		1						※講義
	医科学特別演習	2通		8			○	○	59	9	1	2			兼2
	インターンシップI	1・2通		1			○	○	60	55	37	34			兼3
	インターンシップII	1・2通		1			○	○	60	55	37	34			兼3
	基礎医科学演習	1通		3			○		83	59	35	27			兼5
	留学生セミナー	1・2通		1			○		1						
	医科学セミナーV(キャリアパス)	1・2通		1			○		1	1	3	2			
	医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通		2			○		2			1			
	人体生理学特論	1前		1			○		2			3			オムニバス
	生化学特論	1前		1			○		2	2	2	1			オムニバス
	国際実践医科学研究特論I	1・2通		1			○		1	1		1			
	国際実践医科学研究特論II	1・2通		2			○		1	1		1			
国際実践医科学研究特論III	1・2通		3			○		1	1		1				
小計 (20科目)	—	0	35	0	—			86	63	37	34	0	兼5	—	
専門基礎科目	人体病理学概論	1前		2		○			2	2	1				オムニバス
	実験動物科学特論・同実習	1前		2		○			1						
	内科学概論	1前		2		○			9	5	2				オムニバス
	外科学概論	1前		1		○			5	4					オムニバス
	ライフサイエンスにおける病態生化学	1後		2		○			4	3					兼1
	臨床検査総論	1・2後		1		○			2	1	3				オムニバス
	English Discussion & Presentation I	1・2前		2			○		1						
	English Discussion & Presentation II	1・2後		2			○		1						
	神経科学特論	1・2前		1		○			2	3		1			オムニバス
	神経科学英語	1後		2		○						1			
神経回路	1後		3		○						1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 科 目	認知神経科学	1後		3		○							1				
	分子細胞神経生物学	1後		3		○							1				
	Scientific Ethics	1・2前		1		○							1				
	Scientific Critical Reading & Analysis	1・2前		1		○							1				
	小計 (15科目)	—	0	28	0	—			23	17	6	3	0	兼1	—		
	機能形態学特論・同実習	1前		2		○			1		1	2				オムニバス	
	腫瘍学	1後		2		○			9	3	1					オムニバス	
	薬理学	1前		1		○			2	1	3	2				オムニバス	
	ゲノム医学概論	1・2後		2		○			7	1	2	1				オムニバス	
	医工学概論	1前		1		○					2				兼1	オムニバス	
	放射線医学特論	1後		2		○			3	1		2				オムニバス	
	精神医学概論	1後		1		○			2	3	1					オムニバス	
	臨床老年病学	1後		1		○					1	2				オムニバス	
	臨床薬理学特論	1後		1		○			1	1	1					オムニバス	
	橋渡し研究概論	1前		2		○			2	2						オムニバス	
	創薬フロンティア科学	1・2後		1		○			1								
	ヒトの感染と免疫	1前		2		○			1	4	2	1				オムニバス	
	Stem cell therapy	1前		1		○			1								
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1後		1		○			1								
	適正技術教育	1・2通		3		○			1								
	医学物理学詳論IA	1前		2		○			2	1		1				オムニバス	
	医学物理学詳論IB	1後		2		○			2			2				オムニバス	
	医学物理学詳論II	1後		2		○			2	1		1				オムニバス	
	医学物理学詳論III	1後		2		○			2	1						オムニバス	
医学物理学詳論IV	1後		2		○			2	1		1				オムニバス		
医学物理学詳論V	1後		2		○			4	1						オムニバス		
医学物理問題解決型演習	1前		1			○		2	1						オムニバス		
医学物理問題解決型実習	1後		1				○	2	1						オムニバス		
環境医学概論	1・2後		2		○			1									
小計 (24科目)	—	0	39	0	—			27	18	14	8	0	兼1	—			
公 衆 衛 生 学 関 連 科 目	基礎科目	疫学概論	1前	1		○			1			1				オムニバス	
	医生物統計学概論	1前	1		○			1	1							共同	
	医生物統計学実習	1前	1					1	1							共同	
	公衆衛生学特別演習	2通	8				○		11	4							
	疫学・生物統計学セミナー	1通	2				○		2			1				共同	
	量的研究の批判的評価法	1前	1			○						1					
	システムティックレビュー・メタアナリシス入門	1後	2			○						1					
	小計 (7科目)	—	0	16	0	—			11	5	0	2	0	0	—		
	専門科目	健康行動科学論	1・2後	1		○			2	2		3					オムニバス
	疫学特論	1・2後	2		○				1			1					オムニバス
臨床試験論	1・2後	1		○				2			1					オムニバス	
ヘルスプロモーション	1・2後	1		○				1									
環境保健学	1・2前	1		○									兼1		共同		
医生物統計学特論	1・2後	2		○				1	1								
保健医療政策学	1・2後	1		○				1									
医療管理学	1・2後	1		○				1									
医療経済学	1・2後	1		○				1									
ヘルスサービスリサーチ概論	1・2前	1		○				1			1				オムニバス		
精神保健学	1・2前	1		○				1	1		1				オムニバス		
高齢者ケアリング学特論	1・2前	1		○					1		1				オムニバス		
小計 (12科目)	—	0	14	0	—			7	4	0	6	0	兼1	—			
ニ ュ ー ロ サ イ エ ン ス 関 連 科 目	基礎科目	Seminar for Career Development/ キャリアプランセミナー	1前	1				○	7	12	2	7			兼7	共同	
	小計 (1科目)	—	0	1	0	—			7	12	2	7	0	兼7	—		
	専門基礎科目	Introduction to Neuroscience A/神 経科学基礎論A	1前	2		○			3	2	1	1		兼3	オムニバス 共同(一部)		
	Introduction to Neuroscience B/神 経科学基礎論B	1前	2		○			2	2		5				オムニバス 共同(一部)		
	Introduction to Neuroscience C/神 経科学基礎論C	1前	2		○			1	4		1		兼2	オムニバス			
	Introduction to Neuroscience D/神 経科学基礎論D	1前	2		○			2	4	1			兼2	オムニバス 共同(一部)			
	Research Proposal Writing in English 1/基礎科学英語1	1・2通	2			○		1	2						共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	Research Proposal Writing in English 2/基礎科学英語2	2通		2				○		1	2				共同	
	小計 (6科目)	—	0	12	0			—		7	12	2	7	0	兼7	
専門科目	Neuroscience Laboratories A/神経科学実験・実習A	1前		1				○		2	3	1	3		兼3 共同	
	Neuroscience Laboratories B/神経科学実験・実習B	1前		1				○		2	1		4		共同	
	Neuroscience Laboratories C/神経科学実験・実習C	1前		1				○		2	4				兼1 共同	
	Neuroscience Laboratories D/神経科学実験・実習D	1前		1				○		2	4	1			兼2 共同	
	English journal Club 1/英語ジャーナルクラブ1	1・2通		2				○					2		共同	
	English journal Club 2/英語ジャーナルクラブ2	2通		2				○					2		共同	
	Neuroscience Research seminar 1/神経科学先端セミナー1	1・2通		1				○			1		1		共同	
	Neuroscience Research seminar 2/神経科学先端セミナー2	2通		1				○			1		1		共同	
	Translational Neuroscience Internship/実践的神経科学インターンシップ	1・2通		3					○			2				兼1 共同, 集中
	Neuroscience Thesis Research 1/修士論文研究指導1	1前		2					○		7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 2/修士論文研究指導2	1後		2					○		7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 3/修士論文研究指導3	2前		2					○		7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 4/修士論文研究指導4	2後		2					○		7	10		2		兼5
小計 (13科目)	—	0	21	0			—		7	12	2	7	0	兼7		
看護科学関連科目	専門基礎科目															
	看護科学論	1前		2				○		3	2		3		オムニバス	
	看護コミュニケーション論	1前		2				○		2	2		1		オムニバス	
	看護コンサルテーション論	1前		2				○		2					オムニバス	
	看護学研究法	1前		3				○		2			3		オムニバス	
	保健統計学	1前		2				○		1	1		1		オムニバス	
	国際看護学	1後		2				○		1					オムニバス	
	看護倫理学	1前		2				○		3	2		2		オムニバス	
	看護教育論	1前		2				○		2			1		オムニバス	
	フィジカルアセスメント	1前		2					○	2			4		オムニバス	
	病態生理学	1前		2				○		1			2		オムニバス	
	臨床薬理学	1前		2				○		2	1		2		オムニバス	
	看護教育学	1前		2				○		2	1				オムニバス	
	地域母子保健論	1前		1				○		1	1		2		オムニバス	
	女性と健康	1前		2				○		2	1				オムニバス	
	女性の精神保健学	1前		1				○		2			2		オムニバス	
	生殖生命倫理学	1前		2				○		4	1		1		オムニバス	
周産期のフィジカルアセスメント	1前		1					○	1	2		1		オムニバス		
小計 (17科目)	—	0	32	0			—		11	7	0	11	0	0		
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	1・2前		2				○		4	1		4		オムニバス	
	国際保健・公衆衛生看護学演習	1後		2				○		3	1		4		オムニバス	
	ウィメンズヘルス看護学特論	1前		2				○		1	1		1		共同	
	ウィメンズヘルス看護学演習I	1前		2				○		1	1		1		オムニバス	
	ウィメンズヘルス看護学演習II	1後		2				○		1	1		1		オムニバス	
	ウィメンズヘルス看護学演習III	1後		3				○		1	1		1		オムニバス	
	ウィメンズヘルス看護学演習IV	2前		3				○		1	1		1		オムニバス	
	助産学特論I	1前		2				○		1	1				オムニバス	
	助産学演習I	1前		2				○		1	1		1		オムニバス	
	助産学特論II	1前		2				○		1	1		1		オムニバス	
	助産学演習II	1前		2				○			1		1		オムニバス	
	助産学特論III	2前		1				○		1					共同	
	助産学演習III	2前		1				○		1	1		1		共同	
	助産学実習I	1後		8					○	1	1		1		共同	
助産学実習II	1・2通		3					○	1	1		1		共同		
発達支援看護学特論	1前		2				○			1		1		共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	家族看護学特論	1前		2		○				1		1		共同		
	家族看護学演習	1後		2			○			1		1		共同		
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	1後		2			○		2	2		3		オムニバス		
	家族生活アセスメント学	1前		2		○			2	2		3		オムニバス		
	家族アセスメント/インターベンション学	1前		2		○				3		5		オムニバス		
	家族看護実践学	1後		2		○				1		1		オムニバス		
	家族看護学基盤実習	1後		2				○		1		1		共同		
	家族看護学展開実習	1後		4				○		1		1		共同		
	家族看護学統合実習	2通		2				○		1		1		共同		
	がん看護学特論I	1前		2		○			1			2		オムニバス		
	がん看護学演習I	1後		2			○		1			2		オムニバス		
	がん看護学特論II	1後		2		○			1			2		オムニバス		
	がん看護学演習II	1後		2			○		1			2		共同		
	がん看護学特論III	1後		2		○			1			3		オムニバス		
	基礎腫瘍学特論	1前		1		○			1			2		オムニバス		
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○			1			2		オムニバス		
	緩和ケア特論	1後		2		○			1			2		オムニバス		
	がん看護学実習I	1後		2				○	1			2		共同		
	がん看護学実習II	2前		4				○	1			2		共同		
	がん看護学実習III	2前		2				○	1			2		共同		
	精神保健看護学特論	1・2前		2		○			1			1		共同		
	精神保健看護学演習	1後		2			○		1			1		オムニバス		
	精神看護学特論I	1前		2		○			1			1		共同		
	精神看護学特論II	1後		2		○			1			1		オムニバス		
	精神看護学特論III	1後		2		○			1			1		共同		
	精神看護学演習I	1後		2			○		1			1		共同		
	精神看護学演習II	1後		2			○		1			1		共同		
	精神看護学実習I	1後		4				○	1			1		共同		
	精神看護学実習II	2前		4				○	1			1		共同		
	慢性看護学特論I	1前		2		○			1	2		2		オムニバス, 共同(一部)		
	慢性看護学演習I	1前		2			○		1	1		1		共同		
	慢性看護学特論II	1後		2		○			1	1				共同		
	慢性看護学演習II	1後		2			○		1	1		1		共同		
	慢性看護学特論III	1前		2		○			2	1				オムニバス		
	慢性看護学特論IV	1後		2		○			2	2		2		オムニバス		
	慢性看護学演習IV	2前		2			○		1	1		1		共同		
	慢性看護学実習I	2通		4				○	1	1		1		共同		
	慢性看護学実習II	2通		4				○	1	1		1		共同		
	小計(54科目)	—	0	125	0	—	—	—	9	5	0	12	0	—		
(共通)	専門科目	1・2通		2				○	7	5		11				
	看護科学特別実習	1・2通		2				○	7	5		11				
	看護科学特別研究	2通		4			○		7	5		11				
	小計(3科目)	—	0	8	0	—	—	—	7	5	0	11	0	—		
体育学関連科目	専門基礎科目	研究基礎科目	1・2後	1		○			2	3		2		兼1 オムニバス		
		健康体力学分野研究方法論	1・2前	1		○			8	2					オムニバス	
		コーチング学分野研究方法論	1・2前	1		○				1					オムニバス	
		研究ワークショップ	1後	1			○		1	1		1			オムニバス	
		研究基礎共通実習(PBL)	1・2前	1									1		兼1 共同	
		健康・スポーツ科学のための統計学	1・2前	2			○		1	1					オムニバス	
		つくばサマーインスティテュート	1・2前	2				○	1	3					兼1 ※講義, 集中	
		International Sport Policy Studies(国際スポーツ政策研究)	1・2前	1			○								兼1 集中	
		Advanced Coach Education(上級コーチ教育論)	1・2前	1			○				1		1		兼2 オムニバス	
		Management and Organization(経営マネジメント論)	1・2前	1			○								兼1 集中	
		Project Management(プロジェクトマネジメント論)	1・2後	1			○								兼1 集中	
		JSC Seminar(JSCセミナー)	1・2通	1				○							兼3 共同	
		JSC Project(JSCプロジェクト)	1・2通	1			○								兼3 共同	
		On the Job Practice (Domestic)	1通	2					○						兼3 共同	
		Sport, Culture and Society(スポーツ・文化・社会)	1・2後	1			○								兼1	
		スポーツ経営学	1前	1			○			1						集中
		体育・スポーツ哲学	1後	1			○			1						集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スポーツ文化・経営政策系列	スポーツ史学	1後		1		○						1			兼1 オムニバス 兼1 オムニバス 集中, オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 集中 兼1 共同 隔年
	スポーツ産業学	1・2前		1		○			3						
	スポーツ社会学	1・2通		1		○									
	スポーツ政策学	1前		1		○			2			1			
	フェアプレイ論	1・2後		1		○			1						
	身体文化論	1・2前		1		○			1			1			
	スポーツ法学	1後		1		○			1						
	スポーツ行政学	1前		1		○						1			
	スポーツビジネス論	1・2後		1		○				3					
	スポーツを通じた開発論	1前		1		○									
	スポーツメディア論	1・2後		1		○									
	スポーツ文化・経営政策共通実習	1・2通		1			○		2	1					
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ秋	1後		1				○				1			
	地域スポーツ経営論	1・2後		1		○			1						
スポーツリスクマネジメント論	1後		1		○			1							
健康・スポーツ教育系列	体育科学習指導論	1後		1		○			1						集中 共同 隔年 兼1 オムニバス 集中 隔年 集中, オムニバス 集中, 共同 隔年
	学校健康教育論	1前		1		○						1			
	アダプテッド・スポーツ教育論	1後		1		○			2						
	スポーツカウンセリング論	1前		1		○			1						
	保健社会学	1後		1		○			1						
	学校体育経営論	1後		1		○			1						
	武道授業指導論	1前		1		○			1	4					
	スポーツ心理学	1休		1		○			1						
	保健教材論	1後		1		○						1			
	野外教育プログラム論	1前		1		○						1			
	野外教育指導論	1前		1		○			1						
	体育授業観察分析法I	1後		1			○			1					
	体育授業観察分析法II	1後		1			○			2					
	健康・スポーツ教育インターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	健康・スポーツ教育インターンシップ秋	1後		1				○				1			
野外教育実習(キャンプ)	1通		1				○	1				1			
舞踊授業指導論	1・2後		1		○				1						
ヘルスフィットネス系列	体力学特講	1・2前		1		○			2	2					兼1 オムニバス 共同 共同 兼1 オムニバス, 共同(一部) 集中 共同 共同 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス, 共同(一部)
	スポーツ生理学特講	1前		1		○			2			1			
	スポーツ生化学特講	1後		1		○			2						
	スポーツ栄養学特講	1・2後		1		○				1					
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1後		1		○			7	4					
	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1・2前		1		○			1						
	スポーツ栄養学実験実習	1・2後		2				○		1					
	スポーツ生理学実験	1・2通		2				○	2						
	スポーツ生化学実験	1・2後		2				○	2						
	体力学実習	1・2通		2				○	2	2					
	健康増進学実習	1・2通		2				○	1	1					
	体育測定評価学実習(発育発達学を含む)	1・2通		2				○	1						
	基礎ヘルスフィットネス演習	1・2後		1				○	7	4					
	ヘルスフィットネスインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	ヘルスフィットネスインターンシップ秋	1後		1				○				1			
アスレティックコンディショニング系列	運動器のしくみと働き(基礎編)	1・2前		1		○				1					隔年 兼1 オムニバス 集中 共同 共同 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス 集中, オムニバス 集中, 共同 集中, 隔年, 共同 共同 共同 兼1 共同
	スポーツバイオメカニクス特講	1・2後		1		○			1						
	スポーツ用具と動きのしくみ	1・2前		1		○				1					
	女性スポーツ医学論特講	1後		1		○				2					
	機能解剖学実験	1・2前		1				○		1					
	運動器のしくみと働き(応用編)	1・2後		1		○				1					
	スポーツ医学基礎論実習I	1・2通		2				○	1	1					
	スポーツ医学基礎論実習II	1・2通		2				○	1	2		1			
	アスレティックコンディショニング論特講	1後		2		○			2	3		1			
	アスレティックリハビリテーション論特講	1前		2		○			1	2		1			
	アスレティックトレーナー特講	1・2後		1		○			1	1		1			
	テーピング・マッサージ実習	1・2後		2				○	1	1		1			
	スポーツ内科学特講	1・2後		2		○				2					
	アスレティックコンディショニング論演習	1・2通		3				○	1	2		1			
	アスレティックリハビリテーション論演習	1・2通		3				○	1	2		1			
アスレティックコンディショニング論実習	1・2通		2				○	1	2		1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ナショナルリーディングコース系列	アスレティックリハビリテーション論実習	1・2通		2				○	1	2		1		共同 集中, 共同	
	アスレティックトレーナー演習	1・2後		1			○	1	1		1				
	アスレティックコンディショニングインターンシップ春	1・2前		1				○			1				
	アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	1後		1				○			1				
	コーチングのバイオメカニクス	1・2後		1			○		1				隔年 共同		
	コーチング論(事例討議)	1後		1			○		2						
	身体技法論	1後		1			○		1				オムニバス		
	身体表現論	1・2前		1			○		1						
	スポーツ運動学	1前		1			○		1				オムニバス		
	武道文化論	1・2後		1			○		1						
	体操コーチング総合演習	1前		1				○	1		1		共同		
	体操競技コーチング総合演習	1後		1				○	1						
	陸上競技コーチング総合演習	1前		1				○	1		1		共同		
	水泳競技コーチング総合演習	1後		1				○	1		1				
	バレーボールコーチング総合演習	1後		1				○	1		1		共同		
	バスケットボールコーチング総合演習	1・2前		1				○	1						
	ハンドボールコーチング総合演習	1前		1				○	1		2		オムニバス		
	サッカーコーチング総合演習	1前		1				○	1						
	ラグビーコーチング総合演習	1前		1				○		1			共同		
	テニスコーチング総合演習	1後		1				○	1						
	バドミントンコーチング総合演習	1前		1				○			1		共同		
	野球コーチング総合演習	1前		1				○	1		1				
	柔道コーチング総合演習	1前		1				○		2			共同		
	剣道コーチング総合演習	1後		1				○	1	2					
	弓道コーチング総合演習	1後		1				○		1			兼1 共同		
	舞踊指導総合演習	1前		1				○		1					
	スポーツコーチング総合演習	1前		1				○	1	2			兼1 共同		
	コーチングインターンシップ春	1・2前		1							1				
	コーチングインターンシップ秋	1後		1							1		集中, オムニバス		
	競技マネジメント論	1後		1			○		2	1					
	舞踊上演マネジメント論	1前		1			○			1					
	スポーツ情報戦略論	1後		1			○			1					
	ナショナルリーディングコース系列	プログラム特別インターンシップ春	1・2前		3				○			1			
プログラム特別インターンシップ秋		1後		3				○			1				
日本文化論(宗教, 思想, 古典芸能など)		1通		1			○		1						
小計 (116科目)		—	0	141	0	—	—	—	28	32	1	14	0	兼6	—
専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	1通		3				○	1			1		共同	
	体育・スポーツ哲学演習II	2通		3				○	1				兼1 共同		
	体育史・スポーツ人類学演習I	1通		3				○			1			兼1 共同	
	体育史・スポーツ人類学演習II	2通		3				○			1				
	スポーツ社会学演習I	1通		3				○					兼1		
	スポーツ社会学演習II	2通		3				○							
	武道学演習I	1通		3				○	1				共同		
	武道学演習II	2通		3				○	1						
	体育・スポーツ経営学演習I	1通		3				○	1				共同		
	体育・スポーツ経営学演習II	2通		3				○	1						
	スポーツ政策学演習I	1通		3				○	1		1		共同		
	スポーツ政策学演習II	2通		3				○	1		1				
	スポーツ法学演習	1通		2				○	1				共同		
	スポーツ産業学演習I	1通		3				○		2					
	スポーツ産業学演習II	2通		3				○		2			共同		
	体育科教育学演習I	1通		3				○		1					
	体育科教育学演習II	2通		3				○		1			共同		
体育授業観察分析演習	1前		2				○		1						
アダプテッド体育・スポーツ学演習I	1通		3				○		2			オムニバス, 共同(一部)			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	2通		3				○		2					共同	
	体育心理学演習I	1通		3				○		1			1		共同	
	体育心理学演習II	2通		3				○		1			1		共同	
	体育心理学実習	1通		2					○	1			1		共同	
	体育・スポーツ学特別演習	2通		3				○		1					共同	
	体育・スポーツ学特別演習II	2通		3				○		1					共同	
	健康 体力学 分野	健康教育学演習I	1通		3				○		1			2		共同
		健康教育学演習II	2通		3				○		1			2		共同
		運動生理学演習I	1通		3				○		2					共同
		運動生理学演習II	2通		3				○		2					共同
		運動生化学演習I	1通		3				○		2			1		共同
		運動生化学演習II	2通		3				○		2			1		共同
		運動栄養学演習I	1通		3				○			1				
		運動栄養学演習II	2通		3				○			1				
		体力学演習I	1通		3				○		2	2				オムニバス
		体力学演習II	2通		3				○		2	2				オムニバス
		健康増進学演習I	1通		3				○			1				
		健康増進学演習II	2通		3				○			1				
		体育測定評価学演習I	1通		3				○		1					
		体育測定評価学演習II	2通		3				○		1					
		内科系スポーツ医学演習I	1通		3				○		1	1				共同
		内科系スポーツ医学演習II	2通		3				○		1	1				共同
		スポーツ医学基礎論特講I	1・2通		2			○			2	1				オムニバス
		外科系スポーツ医学演習I	1通		3				○		1	2			1	共同
		外科系スポーツ医学演習II	2通		3				○		1	2			1	共同
		スポーツ医学基礎論特講II	1・2前		1			○				1				兼1
		スポーツバイオメカニクス演習I	1通		3				○		1	1				共同
		スポーツバイオメカニクス演習II	2通		3				○		1	1				共同
		スポーツバイオメカニクス実験	1・2通		2					○	1	1				共同
	応用解剖学演習I	1通		3					○		1					
	応用解剖学演習II	2通		3					○		1					
	コー チ ン グ 学 分 野	コーチング論・トレーニング学演習I	1通		3				○		1	3				兼1 共同
		コーチング論・トレーニング学演習II	2通		3				○		1	3				兼1 共同
		スポーツ運動学演習I	1通		3				○		1	1				オムニバス
		スポーツ運動学演習II	2通		3				○		1	1				共同
体操コーチング論演習I		1通		3				○		1		1			オムニバス	
体操コーチング論演習II		2通		3				○		1		1			共同	
体操競技コーチング論演習I		1通		3				○		1			1		オムニバス	
体操競技コーチング論演習II		2通		3				○		1			1		オムニバス	
陸上競技コーチング論演習I		1通		3				○			1		1		オムニバス	
陸上競技コーチング論演習II		2通		3				○			1		1		オムニバス	
水泳競技コーチング論演習I		1通		3				○					1			
水泳競技コーチング論演習II		2通		3				○		2			1		共同	
バレーボールコーチング論演習I		1通		3				○			1		1		共同	
バレーボールコーチング論演習II		2通		3				○			1		1		共同	
バスケットボールコーチング論演習I		1通		3				○		1	1				共同	
バスケットボールコーチング論演習II		2通		3				○		1					共同	
ハンドボールコーチング論演習I		1通		3				○		1			2		オムニバス	
ハンドボールコーチング論演習II		2通		3				○		1			2		オムニバス	
サッカーコーチング論演習I		1通		3				○		2			1		共同	
サッカーコーチング論演習II		2通		3				○		2				1	共同	
ラグビーコーチング論演習I		1通		3				○			1			1	オムニバス	
ラグビーコーチング論演習II		2通		3				○			1					
ラケットバドミントンコーチング論演習I		1通		3				○			2		2		共同	
ラケットバドミントンコーチング論演習II		2通		3				○			2		2		共同	
柔道コーチング論演習I		1通		3				○			2				オムニバス	
柔道コーチング論演習II		2通		3				○			2				共同	
柔道コーチング論実習「形」		1・2通		1					○		1					
剣道コーチング論演習I		1通		3				○		1	2				共同	
剣道コーチング論演習II		2通		3				○		1	2				共同	
弓道コーチング論演習I		1通		3				○			1					
弓道コーチング論演習II		2通		3				○			1					
野外運動論演習I		1通		3				○		1				1	オムニバス	
野外運動論演習II	2通		3				○		1				1	共同		
野外運動論実習	1通		2				○		1				1	共同		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	舞踊論演習I	1通		3				○			2					オムニバス 共同
	舞踊論演習II	2通		3				○			2					
	舞踊表現技術実習	1通		1				○			1					
	コーチング学特別演習	1通		3				○		1						
	コーチング学特別演習II	2前		3				○		1						
	コーチング特別課題研究I(設計)	1通		3				○		1						
	コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	2通		3				○		3	1				共同	
	小計(91科目)	—	0	261	0			—		29	31	1	19	0	兼4	—
スポーツ・オリンピック学関連科目	専門基礎科目	Olympic Movement Studies(オリンピックムーブメント論)	1後	1				○		1	1					集中 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 集中
		Olympic Movement and Sport Law(オリンピックムーブメントとスポーツ法)	1後	1				○		1						
		International Sport Event Management(国際スポーツイベントマネジメント論)	1前	1				○			1					
		Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後	1				○			1					
		Japanese Culture(日本文化)	1後	1				○								
		Sport and Diversity(スポーツとダイバーシティ)	1前	1				○			1					
		Olympic and Paralympic Education(オリンピック・パラリンピック教育)	1前	1				○			1					
		Taiku(Physical Education)(体育)	1前	1				○								
		Cross-Cultural Communication(異文化コミュニケーション)	1前	1				○		1						
		Research Project Management(研究プロジェクトマネジメント)	1後	2				○		1						
	小計(10科目)	—	0	11	0			—		3	3	0	0	0	兼4	—
専門科目(共通)		TIAS Internship A(TIASインターンシップ A)	1後	4					○	1	1					兼1
		TIAS Internship B(TIASインターンシップ B)	1前	4					○	1	1					兼1
		TIAS Research Project(TIAS課題研究)	1後	4					○	4	4					
		小計(3科目)	—	0	12	0			—		4	4	0	0	0	兼1
専門科目(専門分野)		Seminar in Olympic and Paralympic Education I(オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	1後	2					○		1					兼1 集中 兼1 集中
		Seminar in Olympic and Paralympic Education II(オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	1前	2					○		1					
		Seminar in Sport Management I(スポーツマネジメント演習 I)	1後	2					○		1					
		Seminar in Sport Management II(スポーツマネジメント演習 II)	1前	2					○		1					
		Seminar in Sport Science and Medicine I(スポーツ医学演習 I)	1後	2					○	3	1					
		Seminar in Sport Science and Medicine II(スポーツ医学演習 II)	1前	2					○	3	1					
		Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I(ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	1後	2					○		2		1			
		Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II(ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	1前	2					○		2		1			
		Olympism and Legacy(オリンピズムとレガシー)	1後	1					○		1					
		Sport Organisation and Governance(スポーツ組織とガバナンス論)	1後	1					○							
		International Sport Marketing(国際スポーツマーケティング)	1後	1					○							
		Sport Technology and Biomechanics(スポーツ工学とバイオメカニクス)	1前	1					○		1					
		Sport Medicine(スポーツ医学)	1前	1					○		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Exercise Physiology and Human Performance(運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	1前		1		○			1	1					集中
	Elite Sport Coaching(エリートスポーツコーチング論)	1前		1		○					1				
	Budo(武道)	1前		1		○				1					
	小計(16科目)	—	0	24	0	—	—	—	5	5	0	1	0	兼2	
スポーツウエルネス学関連科目	分野共通 (必修科目)	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1・2前		2		○			5	2				オムニバス
		スポーツ健康研究方法論Ⅰ	2前		1			○		5	2				
	(選択科目)	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	2後		1			○		5	2				
		スポーツ健康研究方法論Ⅲ	2前		1			○		5	2				
	専門科目(選択)	スポーツプロモーション論特講	1・2前		2		○			1					
		スポーツプロモーション論演習1	1・2前		1			○		1					
	スポーツプロモーション分野	スポーツプロモーション論演習2	1・2後		2			○		1					
		スポーツプロモーション論実習	1・2通		1				○	1					
	スポーツプロモーション領域	スポーツイベント論特講	1・2後		2		○			1					
		スポーツイベント論演習1	1・2後		1			○		1					
	スポーツプロモーション領域	スポーツイベント論演習2	1・2前		2			○		1					
		スポーツイベント論実習	1・2通		1				○	1					
	スポーツプロモーション領域	スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ	2後		2			○		1	1				
		スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ	2前		2			○		1	1				
	スポーツプロモーション領域	スポーツマネジメント論特講	1・2前		2		○			1					
		スポーツマネジメント論演習1	1・2前		1			○		1					
	スポーツプロモーション領域	スポーツマネジメント論演習2	1・2後		2			○		1					
		スポーツマネジメント論実習	1・2通		1				○	1					
	スポーツプロモーション領域	高度競技マネジメント論特講	1・2後		2		○			1					
		高度競技マネジメント論演習1	1・2後		1			○		1					
	スポーツプロモーション領域	高度競技マネジメント論演習2	1・2前		2			○		1					
		高度競技マネジメント論実習	1・2通		1				○	1					
	スポーツプロモーション領域	スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	2後		2			○		2					
		スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	2前		2			○		2					
	専門科目(関連)	スポーツプロモーション法制論特講	1・2前		1		○			1					隔年
		スポーツの倫理と教育	1・2前		1		○			1	1				オムニバス, 隔年
	専門科目(関連)	スポーツプロモーションとビジネス	1・2後		1		○			2					オムニバス, 隔年
		トップアスリートのトレーニング	1・2後		1		○			1	2				オムニバス
	専門科目(関連)	トップコーチング	1・2後		1		○			3		2			オムニバス
		生涯スポーツのトータルマネジメント	1・2前		1		○			1	3	1			オムニバス
	専門科目(選択)	ヘルスプロモーション論特講	1・2前		2		○			1					
		ヘルスプロモーション論演習1	1・2前		1			○		1					
	ヘルスプロモーション分野	ヘルスプロモーション論演習2	1・2後		2			○		1					
		ヘルスプロモーション論実習	1・2通		1				○	1					
	ヘルスプロモーション領域	健康開発プログラム論特講	1・2前		2		○			1					
		健康開発プログラム論演習1	1・2前		1			○		1					
	ヘルスプロモーション領域	健康開発プログラム論演習2	1・2後		2			○		1					
		健康開発プログラム論実習	1・2通		1				○	1					
	ヘルスプロモーション領域	ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ	2後		2			○		1	1				
		ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ	2前		2			○		1	1				
	ヘルスプロモーション領域	ストレスマネジメントシステム論特講	1・2後		2		○			1					
		ストレスマネジメントシステム論演習1	1・2後		1			○		1					
	ヘルスプロモーション領域	ストレスマネジメントシステム論演習2	1・2前		2			○		1					
		ストレスマネジメントシステム論実習	1・2通		1				○	1					
	ヘルスプロモーション領域	ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ	2後		2			○		1					
		ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ	2前		2			○		1					
	専門科目(関連)	生活機能増進法論特講	1・2後		1		○			1	2	1	1		オムニバス
		健康増進基礎論特講	1・2前		1		○			2	1		1		オムニバス
	専門科目(関連)	健康社会論	1・2前		1		○			1		1			オムニバス
		健康支援の理論と実践	1・2前		1		○			3	2				オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	ヒューマン・ケア科学概論	1・2後		1		○			1	3		1			オムニバス	
	スポーツ健康統計学特講	1・2前		1		○				1						
	小計 (6科目)	—	0	6	0	—	—	—	7	8	1	4	0	0	—	
芸術学 関連科目	基礎科目	西洋美術史-1	1・2前	1		○			1						隔年	
		西洋美術史-2	1・2後	1		○				1					隔年	
		日本美術史	1・2前	1		○						1			隔年	
		美術論	1・2後	1		○					1				隔年	
		芸術教育論-1	1・2前	1		○			1						隔年	
		芸術教育論-2	1・2後	1			○		1						隔年	
		美術技法論-1	1・2前	1			○		2	1		1			隔年, オムニバス	
		美術技法論-2	1・2前	1			○		2	2		1			隔年, オムニバス	
		書論	1・2通	3			○		1						隔年	
		書鑑賞論	1・2通	3			○		1						隔年	
		ダイナミックインタラクションデザイン演習	1・2前	1				○			1		1			
		インターンシップ	1・2通	1					○	1	1		1			
	小計 (12科目)	—	0	16	0	—	—	—	7	7	0	5	0	0	—	
専門科目	専門科目	西洋近世美術史特講I-1	1・2前	1		○				1					隔年	
		西洋近世美術史特講I-2	1・2後	1		○				1					隔年	
		西洋近世美術史特講II-1	1・2前	1			○				1				隔年	
		西洋近世美術史特講II-2	1・2後	1			○				1				隔年	
		西洋近世美術史演習I-1	1・2前	1				○			1				隔年	
		西洋近世美術史演習I-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		西洋近世美術史演習II-1	1・2前	1				○	○		1				隔年	
		西洋近世美術史演習II-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		近・現代美術論特講I-1	1・2前	1			○				1				隔年	
		近・現代美術論特講I-2	1・2後	1			○				1				隔年	
		近・現代美術論特講II-1	1・2前	1			○				1				隔年	
		近・現代美術論特講II-2	1・2後	1			○				1				隔年	
		近・現代美術論演習I-1	1・2前	1				○			1				隔年	
		近・現代美術論演習I-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		近・現代美術論演習II-1	1・2前	1				○	○		1				隔年	
		近・現代美術論演習II-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		西洋古代美術史特講I-1	1・2前	1			○			1					隔年	
		西洋古代美術史特講I-2	1・2後	1			○			1					隔年	
		西洋古代美術史特講II-1	1・2前	1			○			1					隔年	
		西洋古代美術史特講II-2	1・2後	1			○			1					隔年	
		西洋古代美術史演習I-1	1・2前	1				○			1				隔年	
		西洋古代美術史演習I-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		西洋古代美術史演習II-1	1・2前	1				○	○		1				隔年	
		西洋古代美術史演習II-2	1・2後	1				○	○		1				隔年	
		日本美術史特講I-1	1・2前	1			○						1		隔年	
		日本美術史特講I-2	1・2後	1			○						1		隔年	
		日本美術史特講II-1	1・2前	1			○						1		隔年	
		日本美術史特講II-2	1・2後	1			○						1		隔年	
		日本美術史演習I-1	1・2前	1				○					1		隔年	
		日本美術史演習I-2	1・2後	1				○	○				1		隔年	
		日本美術史演習II-1	1・2前	1				○	○				1		隔年	
		日本美術史演習II-2	1・2後	1				○	○				1		隔年	
		美術史学外演習I	1後	2				○	○		1	2		1		
		美術史学外演習II	2後	2				○	○		1	2		1		
		芸術支援学学外演習A-1	1前	1				○	○		2					
		芸術支援学学外演習A-2	2前	1				○	○		2					
芸術支援学学外演習B-1	1前	1				○	○		2							
芸術支援学学外演習B-2	2前	1				○	○		2							
芸術教育方法論A-1	1・2前	1			○			1						隔年		
芸術教育方法論A-2	1・2後	1			○			1						隔年		
芸術教育方法論B-1	1・2前	1			○			1						隔年		
芸術教育方法論B-2	1・2後	1			○			1						隔年		
芸術学習支援論A	1・2前	2				○		1						※講義, 隔年		
芸術学習支援論B	1・2後	2				○		1						※講義, 隔年		
芸術支援ワークショップI	1後	1				○	○		1					隔年		
芸術支援ワークショップII	2後	1				○	○		1					隔年		
芸術支援ワークショップIII	2前	1				○	○		1					隔年		
芸術学習支援演習A	1・2前	1				○	○		1					隔年		
芸術学習支援演習B	1・2後	1				○	○		1					隔年		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	洋画技法論特講	1・2前		1		○			1						
	西洋美術技法演習-1	1・2前		2			○		2						オムニバス
	西洋美術技法演習-2	1・2後		2			○			1		1			
	洋画制作A-1	1前		2				○	1						
	洋画制作A-2	1後		1				○	1						
	洋画制作B-1	1前		2				○	1						
	洋画制作B-2	1後		1				○	1						
	洋画制作C-1	1前		2				○		1					
	洋画制作C-2	1後		1				○		1					
	洋画制作D-1	1前		2				○				1			
	洋画制作D-2	1後		1				○				1			
	洋画特別制作A-1	1前		2				○	1						
	洋画特別制作A-2	2後		1				○	1						
	洋画特別制作B-1	2前		2				○				1			
	洋画特別制作B-2	2後		1				○				1			
	洋画特別制作C-1	2前		2				○		1					
	洋画特別制作C-2	2後		1				○		1					
	洋画特別制作D-1	2前		2				○	1						
	洋画特別制作D-2	2後		1				○	1						
	洋画野外風景実習	1・2前		1				○	2	1					集中, 共同
	版画制作A-1	1前		2				○	1						
	版画制作A-2	1後		1				○	1						
	版画制作B-1	1前		2				○	1						
	版画制作B-2	1後		1				○	1						
	版画特別制作-1	2前		2				○	1						
	版画特別制作-2	2後		1				○	1						
	版画技法演習A	1・2後		2			○		1						隔年
	版画技法演習B	1・2後		2			○		1						隔年
	版画学外演習	1・2前		1			○		1						集中
	日本美術技法演習-1	1・2前		2			○		1	2					
	日本美術技法演習-2	1・2後		2			○		1	2					
	日本画制作A-1	1前		2				○	1						一部集中
	日本画制作A-2	1後		1				○	1						
	日本画制作B-1	1前		2				○		1					一部集中
	日本画制作B-2	1後		1				○		1					
	日本画制作C-1	1前		2				○		1					一部集中
	日本画制作C-2	1後		1				○		1					
	日本画特別制作A-1	2前		2				○	1						
	日本画特別制作A-2	2後		1				○	1						
	日本画特別制作B-1	2前		2				○		1					
	日本画特別制作B-2	2後		1				○		1					
	日本画特別制作C-1	2前		2				○		1					
	日本画特別制作C-2	2後		1				○		1					
	日本画野外風景実習	1・2前		1				○	1	2					集中
	彫塑学外演習	1・2通		1			○		1			1			集中
	塑造制作-1	1・2前		3				○	1			1			
	塑造制作-2	1・2後		3				○	1			1			
	彫刻制作-1	1・2前		3				○	1			1			
	彫刻制作-2	1・2後		3				○	1			1			
	金属彫刻制作	1・2通		2				○	1			1			集中
	テラコッタ制作	1・2前		2				○	1			1			
	彫塑特別制作A	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作B	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作C	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作D	2前		1				○	1			1			
	漢字演習A	1・2通		3				○	1						隔年
	漢字演習B	1・2通		3				○	1						隔年
	漢字演習C	1・2通		3				○	1						隔年
	漢字演習D	1・2通		3				○	1						隔年
	仮名演習A	1・2通		3				○	1						隔年
	仮名演習B	1・2通		3				○	1						隔年
	書学外演習A	1・2通		1				○	1						
	書学外演習B	1・2通		1				○	1						隔年
	書学外演習C	1・2通		1				○	1						隔年
	平面・立体構成論特講	1・2前		1			○					1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	平面・立体構成演習A	1・2後		2			○						1		隔年,一部集中	
	平面・立体構成演習B	1・2後		2			○						1		隔年,一部集中	
	現代アート表現論	1・2前		1		○							1			
	現代アート表現演習	1・2後		2			○						1			
	メディア表現論	1・2前		1		○							1			
	メディア表現演習	1・2後		2			○						1			
	現代美術論	1・2後		1		○			1							
	現代美術演習	1・2前		2			○		1							
	陶磁造形演習I	1・2前		1			○			1						
	陶磁造形演習II	1・2後		1			○			1						
	陶磁造形論特講	1・2前		1		○				1						
	木材造形演習	1・2前		2			○			1						
	ガラス造形演習	1・2前		2			○						1			
	ガラス特別演習	1・2前		2			○						1			
	漆芸演習	1・2前		2			○									
	視覚伝達設計論特講	1・2後		1		○				1						
	視覚伝達設計演習	1・2前		2			○			1						
	グラフィックデザイン演習A	1・2前		1			○			1						
	グラフィックデザイン演習B	1・2後		1			○			1						
	画像表現論特講	1・2前		2		○							1			
	画像表現演習	1・2後		1			○						1			
	ビジュアル・コミュニケーション演習	1・2通		1			○			1					集中,隔年	
	環境デザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年	
	パッシブデザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年	
	都市・地域デザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年	
	ランドスケープデザイン論特講	1・2前		2		○				2					隔年	
	環境デザイン演習1	1前		2			○			2	2					
	環境デザイン演習2	1後		2			○			2	2					
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習I	1・2前		2			○				3		2			
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習II	1・2後		2			○				3		2			
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習I	1・2前		2			○				3		2			
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習II	1・2後		2			○				3		2			
	研究・制作発表特別演習I	1通		2			○			13	10		9			
	研究・制作発表特別演習II	2通		2			○			13	10		9			
	芸術学学位プログラム特別演習	1通		3			○			13	10		9			
	芸術学学位プログラム特別研究	2通		3			○			13	10		9		14条対応	
	小計(150科目)	—	0	226	0		—			13	10	0	9	0	0	
デザイン学 関連科目	科目基礎	デザイン学基礎論	1前	2		○				4	5	1	1		兼4 オムバス,共同(一部)	
	小計(1科目)	—	0	2	0		—			4	5	1	1	0	兼4	
デザイン学 関連科目	専門科目	感性脳科学特講	1・2前	2		○						1			隔年	
		視覚情報デザイン論特講	1・2後	2		○				1					隔年	
		色彩デザイン論特講	1・2前	2		○					1				隔年	
		感性情報学特講	1・2後	2		○					1				隔年	
		デザイン思考	1・2前	2		○						1			隔年	
		デザインイノベーション特講	1・2後	2		○						1			隔年	
		建築計画論特講	1・2前	2		○					1				隔年	
		建築意匠論特講	1・2後	2		○						1			隔年	
		建築構法論特講	1・2前	2		○							1		隔年	
		建築・都市フィールドデザイン論特講	1・2後	2		○						1			隔年	
		プレイスメイキング論	1・2前	2		○						1			隔年	
		人間工学と生体計測特講	1・2後	1		○									兼1 隔年	
		エンタテインメントデザイン特講	1・2前	1		○									兼1 隔年	
		デザインとケア特講	1・2後	1		○						1			隔年	
		形態学とデザイン	1・2前	1		○						1			隔年	
		プロジェクト演習A-I	1前	3			○				3	2	1			
		プロジェクト演習A-II	1前	3			○				1	2		1		
		プロジェクト演習B-I	1後	3			○				3	2	1			
		プロジェクト演習B-II	1後	3			○				1	2		1		
		プロジェクト演習C-I	2前	3			○				3	2	1			
		プロジェクト演習C-II	2前	3			○				1	2		1		
		プロジェクト演習D-I	2後	3			○				3	2	1			
		プロジェクト演習D-II	2後	3			○				1	2		1		
インターンシップ	1・2通	1			○				4	4	1	1				
アドバンスインターンシップ(長期)	1・2通	4			○				3	2	1					
建築デザインインターンシップ1	1・2前	4			○				1	2		1				

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	建築デザインインターンシップ2	1・2後		4				○		1	2		1		兼7 兼7 兼7 兼7 兼7 兼7 兼7		
	建築デザインインターンシップ3	1・2前		4				○		1	2		1				
	建築デザインインターンシップ4	1・2後		4				○		1	2		1				
	海外研修	1・2通		1				○		4	4	1	1				
	デザイン学特別演習1	1後		3				○		4	6	1	1				
	デザイン学特別演習2	2前		3				○		4	6	1	1				
	小計 (32科目)	—	0	78	0			—		4	7	1	1	0			
世界遺産学関連科目	基礎科目	世界遺産論	1・2前		2			○		6	2		2		兼1 兼1 兼1 兼1		
		世界遺産特別演習	1通		3			○		5	2		2				
		世界遺産特別研究	2通		6				○		5	2		2			
		小計 (3科目)	—	0	11	0			—		6	2	0	2		0	
	専門科目	全分野共通	文化遺産論	1・2前		1			○					1		兼1	
			文化遺産演習	1・2休		2				○		1					
			自然遺産論	1・2前		1				○		1					
			自然遺産演習	1・2休		2				○		1					
			宗教論	1・2後		1				○					1		
			無形遺産論	1・2後		1				○				1			
			遺産保護行政論	1・2後		1				○				1			
			世界遺産特別講義	1・2後		1				○		1					
			世界遺産学インターンシップ	1・2通		3					○	5	2		2		
			国際遺産学分野	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	1・2後		1				○		1				
UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産)	1・2前			1				○		1							
World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1・2前			1				○		1							
World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1・2後			1				○				1					
World heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1・2後			1				○		1							
Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1・2後			1				○		1							
International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1・2前			1				○		1							
Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	1・2休			2					○	1							
遺産の評価と保存分野	建築遺産論	1・2後		1				○					1				
	建築遺産演習	1・2後		3					○				1				
	美術遺産論I	1・2前		1				○		1							
	美術遺産論II	1・2後		1				○		1							
	美術遺産演習	1・2後		2					○	1							
	保存科学概論	1・2前		1				○		1							
	保存科学演習	1・2休		2					○	1							
遺産のマネジメントとブランニング分野	遺産整備計画論	1・2前		1				○		1							
	遺産整備計画演習	1・2前		2					○	1							
	文化的景観論	1・2前		1				○		1							
	遺産観光論	1・2後		1				○			1						
	ブランニング演習	1・2後		3					○		1						
	インタープリテーション概論	1・2後		1				○			1						
	小計 (30科目)	—	0	42	0			—		5	2	0	2	0			
情報学関連科目	専門科目	データサイエンス実践	1・2前		2			○		2					オムニバス		
		機械学習とパターン認識	1・2前		2			○		1	1		1		オムニバス		
		メディアデザイン	1・2後		2			○			2				オムニバス		
		ビジュアライゼーション	1・2後		2			○				1	1		オムニバス		
		生体生命情報	1・2前		2			○			1		1		オムニバス		
		感性認知情報	1・2前		2			○		1	2				オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	構造化データ	1・2後		2		○				2					オムニバス	
	知識情報分析	1・2前		2		○			1	1					オムニバス	
	情報プラクティス	1・2前		2		○				1	1	1			オムニバス	
	情報推薦	1・2後		2		○				1		1			オムニバス	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	1・2後		2		○			1	1					オムニバス	
	コミュニケーション行動	1・2前		2		○			1			1			オムニバス	
	コミュニティ分析	1・2後		2		○			1			1			オムニバス	
	デジタルヒューマンニティーズ	1・2後		2		○				2					オムニバス	
	知的財産と情報の安全	1・2前		2		○				2					オムニバス	
	図書館メディア文化史	1・2前		2		○			3						オムニバス	
	パブリックサービス	1・2前		2		○			1		1				オムニバス	
	ライブラリーマネジメント	1・2前		2		○				1	1	1			オムニバス	
	学術情報基盤	1・2後		2		○			1		1				オムニバス	
	アーカイブズ	1・2後		2		○			1			1		兼1	オムニバス	
	博物館情報メディア	1・2後		2		○			1					兼2	オムニバス	
情報組織化	1・2前		2		○				2	1				オムニバス		
メディア教育	1・2後		2		○			1	2					オムニバス		
専攻(専門科目群) 基盤	研究法基礎	1前		2			○		3	2					オムニバス	
	文献調査法	1前		2			○			4	1				オムニバス	
	Literature Survey	1後		2			○		2	1		2			オムニバス	
	調査とデータ分析 Survey and Data Analysis	1後		2			○		2	1	1	1			オムニバス	
専攻(専門科目群) 実践科目指導	研究計画	1後		2			○		2			1			共同	
	業務計画	1前		2			○		2	1					東京開講, 共同	
専攻(専門科目群) 研究科目指導	情報学特別演習a	2前		2			○		18	21					つくば・東京開講	
	情報学特別演習b	2後		2			○		18	21					つくば・東京開講	
	グローバル研究演習I	1前・後		1			○		18	21					つくば・東京開講	
	グローバル研究演習II	2前・後		1			○		18	21					つくば・東京開講	
小計 (34科目)		—	0	66	0	—	—	—	18	21	5	10	0	兼3	—	
ライフィノペーション(病態機構/創薬開発) 関連科目	基礎科目(共通)	医学概論	1前		1		○			6	2	2				オムニバス, 共同(一部)
		創薬概論	1前		1		○								兼3	オムニバス
		食品科学概論	1前		1		○								兼4	オムニバス
		バイオリソース概論	1後		1		○								兼5	オムニバス
		自然史概論	1後		1				○						兼3	※講義
		バイオインフォマティクス基礎	1前		1			○							兼3	※講義
		医薬品・食品マネジメント学	2前		1		○								兼4	オムニバス
		レギュラトリーサイエンス	2前		1		○								兼2	オムニバス
		ライフィノペーション実習	1通		1				○		1				兼11	※講義
		ライフィノペーションチーム型演習	1通		2				○						兼2	
	責任ある研究行為: 基盤編	1通		1			○							兼1		
	博士前期ライフィノペーションセミナー	1前		1			○							兼9		
	博士前期インターンシップI	1・2通		1					○					兼1		
	博士前期インターンシップII	1・2通		1					○					兼1		
小計 (14科目)		—	0	15	0	—	—	—	6	3	2	0	0	兼39	—	
専攻(専門科目群) 共通	ライフィノペーション博士前期演習I秋	1後		1			○		1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期演習I春	1前		1			○		1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期研究I秋	1後		2				○	1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期研究I春	1前		2				○	1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期演習II秋	2後		1			○		1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期演習II春	2前		1			○		1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期研究II秋	2後		2				○	1						兼16	
	ライフィノペーション博士前期研究II春	2前		2				○	1						兼16	
小計 (8科目)		—	0	12	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼16	—	
専攻(専門科目群) 病態機構	疾患の分子細胞生物学I	1前		1		○									兼5	オムニバス, 共同(一部)
	疾患の分子細胞生物学II	1前		1		○									兼5	オムニバス
	細胞制御論	1前		1		○				1					兼4	オムニバス
小計 (3科目)		—	0	3	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼12	—	
専攻(専門科目群) 創薬開発	創薬化学概論	1後		1		○				1		3			兼4	
	創薬トランスレーショナルサイエンス	1前		1		○									兼5	オムニバス
	薬剤設計工学	1前		1		○									兼4	オムニバス, 共同(一部)
小計 (3科目)		—	0	3	0	—	—	—	0	1	0	3	0	兼12	—	
合計 (1367科目)		—	0	2259	0	—	—	—	199	174	48	112	0	兼184	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(障害科学) 修士(カウンセリング) 修士(リハビリテーション科学) 修士(医科学) 修士(公衆衛生学) 修士(神経科学) 修士(看護科学) 修士(体育学) 修士(スポーツ・オリンピック学) 修士(スポーツウエルネス学) 修士(芸術学) 修士(デザイン学) 修士(世界遺産学) 修士(情報学) 修士(病態機構学)		学位又は学科の分野						文学関係、教育学・保育学関係、工学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学及びリハビリテーション関係を除く)					
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。  (履修方法) ※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。  <b>■教育学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。  (1) 基礎科目 必修3単位 学術院共通専門基礎科目から以下の科目を履修 ・教育学理論研究 ・次世代教育開発研究 ・Theory of International Education (2) 教育学関連科目－専門基礎科目 選択必修18単位 (3) 教育学関連科目－専門科目 選択必修 9単位  <b>■心理学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。  (1) 心理学関連科目－基礎科目 次の科目を含む8単位以上 ・必修4単位(心理学方法論 I, II) ・選択必修4単位(特別研究A, B, S) (2) 心理学関連科目－専門科目 <心理基礎科学サブプログラム> ・心理基礎科学共通科目 8単位(心理基礎科学演習I,II,III,IV) ・両サブプログラムの領域専門科目から14単位以上 <心理臨床学サブプログラム> ・心理臨床学共通科目 18単位選択(臨床心理実習I及びIIまたは発達臨床心理実習I及びIIを含む) ・両サブプログラムの領域専門科目から4単位以上  上記のほか、学位プログラムの指定する科目を専門科目に含めることができる。  <b>■障害科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。  (1) 障害科学関連科目－基礎科目 必修5単位(以下の5科目) ・障害科学調査・実験実習 I ・障害科学調査・実験実習 II ・障害科学研究法 I ・障害科学研究法 II ・障害科学研究法 III (2) 障害科学関連科目－専門科目 選択必修7単位(専門領域の特講I,II及び演習I, II, III) (3) 上記以外(大学院共通科目、障害科学関連科目のうち基礎科目の選択科目、専門科目(共通)、専門科目における専門領域の科目以外の特講I,II、演習I,II)から18単位以上						1 学年の学期区分		2 学期						
						1 学期の授業期間		1 5 週						
						1 時限の授業時間		7 5 分						
						※修士論文に代えて特定課題研究を選択可とする学位プログラムは次のとおりである。 ・スポーツ・オリンピック学学位プログラム ・スポーツウエルネス学学位プログラム ・看護科学学位プログラム ・芸術学学位プログラム ・デザイン学学位プログラム								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p><b>■カウンセリング学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修5単位(以下の5科目) ・学院共通専門基盤科目:カウンセリング方法論基礎 I ・カウンセリング関連科目-基礎科目:カウンセリング方法論基礎 II 及び III、カウンセリング研究法 I 及び II</p> <p>(2) カウンセリング関連科目-専門科目 必修5単位(以下の4科目) ・カウンセリング心理学 ・カウンセリング特別研究I, II, III</p> <p>(3) カウンセリング関連科目-専門科目 選択20単位</p>														
<p><b>■リハビリテーション科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修 9単位(以下の8科目) ・学院共通専門基盤科目:リハビリテーション方法論基礎 I ・リハビリテーション科学関連科目-基礎科目:リハビリテーション方法論基礎 II 及び III、リハビリテーション研究法 I 及び II、リハビリテーション概説、リハビリテーション研究基礎論、リハビリテーション特別研究</p> <p>(2) リハビリテーション科学関連科目-基礎科目 選択0~9単位</p> <p>(3) リハビリテーション科学関連科目-専門科目 選択12~21単位</p>														
<p><b>■フロンティア医科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) フロンティア医科学関連科目-基礎科目 必修9単位(以下の2科目) ・医科学特別演習 ・インターンシップ I</p> <p>(2) フロンティア医科学関連科目-基礎科目(必修科目以外)、専門基礎科目、専門科目、大学院共通科目、他学位プログラムの科目 21単位以上</p> <p>※大学院共通科目と他学位プログラムの科目は6単位まで含めることができる。また、学位プログラムの指定する科目はフロンティア医科学関連科目に含めることができる。</p>														
<p><b>■公衆衛生学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修14単位(以下の5科目) ・学院共通専門基盤科目:社会医学概論 ・公衆衛生学関連科目-基礎科目:疫学概論、医生物統計学概論、公衆衛生学特別演習、疫学・生物統計学セミナー</p> <p>(2) 公衆衛生学関連科目-専門科目 必修9単位(以下の7科目) 健康行動科学論、疫学特論、医生物統計学特論、保健医療政策学、医療管理学、医療経済学、ヘルスサービスリサーチ概論</p> <p>(3) 公衆衛生学関連科目の基礎科目・専門科目 選択必修6単位</p> <p>(4) 公衆衛生学関連科目の基礎科目・専門科目、大学院共通科目 1単位以上</p> <p>※上記のほか、学位プログラムの指定する科目は公衆衛生学関連科目に含めることができる。</p>														
<p><b>■ニューロサイエンス学位プログラム(M)</b> 次の科目を含む30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修3単位 ・大学院共通科目:研究倫理 ・学院共通専門基盤科目から1単位 ・ニューロサイエンス関連科目-基礎科目:キャリアプランセミナー</p> <p>(2) ニューロサイエンス関連科目-専門基礎科目 必修10単位(以下5科目) 神経科学基礎論A~D、基礎科学英語1</p> <p>(3) ニューロサイエンス関連科目-専門科目 必修11単位(以下6科目) 英語ジャーナルクラブ1、神経科学先端セミナー1、修士論文研究指導1~4 選択必修1単位 神経科学実験・実習A~Dから1科目選択</p> <p>(4) 上記以外の本学位プログラムの開設科目、学院共通専門基盤科目、他の学位プログラムの開設科目から5単位以上</p>														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
<b>■看護科学学位プログラム(M)</b>														
次の科目を含む30単位以上を修得すること。														
(1) 大学院共通科目 研究倫理(1単位)														
(2) 看護科学関連科目－専門基礎科目 「看護科学論」(必修2単位)を含む8単位以上(大学院共通科目、学術院共通専門基 盤科目、人間総合科学研究群の他の学位プログラムの開設科目を含めてよい)														
(3) 看護科学関連科目－専門科目 各自の専門研究領域が指定する「特論」(2単位)と 「演習」(2単位)を含む8単位以上														
(4) 看護科学関連科目－専門科目(共通)「看護科学特別研究」(必修4単位)のほか 「インターンシップ」(2単位)と「看護科学特別実習」(2単位)のいずれかを含む6単位														
・専門看護師養成課程は、専門看護師の受験要件となる38単位を含む43単位以上、助 産師養成課程は、助産師国家資格の受験要件となる28単位を含む59単位以上を修得 することとし、いずれも特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験の合 格をもって修士論文の審査および最終試験の合格に代えることができる。														
<b>■体育学学位プログラム(M)</b>														
次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 体育学関連科目－専門科目 6～8単位(所属する個別研究領域の演習I,IIを含む)														
(2) 体育学関連科目－専門基礎科目 ・系列科目 12～17単位 ・研究基礎科目 1～6単位(所属分野の研究方法论1単位を含む) ※上記のほか、学位プログラムの指定する科目を体育学関連科目の専門基礎科目に 含めることができる。														
(3) 基礎科目 0～6単位(体育学関連科目のうち所属領域外の科目、所属系列外の科 目、大学院共通科目等)														
<b>■スポーツ・オリンピック学学位プログラム(M)</b>														
次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門基礎科目に掲げる10科目 必修11単位														
(2) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門科目(共通) 8～12単位														
(3) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門科目(専門分野) 4～10単位 ※専門科目(専門分野)には学術院共通専門基礎科目のうちオリンピック・パラリンピッ ク史を含めることができる。														
(4) 選択した専門分野以外の専門科目、他学位プログラムの科目等 上記のほか学術院共通専門基礎科目、大学院共通科目から1単位の履修を推奨する。 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることがで きる。														
<b>■スポーツウエルネス学学位プログラム(M)</b>														
次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) スポーツウエルネス学関連科目－分野共通 必修4単位(学術院共通専門基礎科目 のスポーツ・ヘルスプロモーション方法论を含む。)														
(2) 選択した分野における所属領域専門科目の特講、演習、実習及び隣接領域の特講 を中心に11単位以上														
(3) 研究主題に関連する専門科目を、他分野の専門科目から4単位以上 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることがで きる。														
<b>■芸術学学位プログラム(M)</b>														
次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 芸術学関連科目－基礎科目 学術院共通専門基礎科目を含む6単位以上(大学院 共通科目を2単位まで含めることができる)														
(2) 芸術学関連科目－専門科目 研究・制作発表特別演習Ⅰ及びⅡ、芸術学学位プロ グラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究(計10単位)を含む24 単位以上(主と する教育研究領域の科目を中心に最も関係の深い科目を選択) ・修了研究は、各専門分野の特性に応じて、純粋理論の研究から特定の課題に対する 研究成果までを評価する次のいずれかの方法による。 a.論文 b. 作品及び論文 c. 作品及び研究報告書														
<b>■デザイン学学位プログラム(M)</b>														
次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 基礎科目 必修4単位(以下3科目)を含めて4単位以上 ・デザイン学関連科目－基礎科目:デザイン学基礎論 ・学術院共通専門基礎科目:人間総合科学基礎論 ・大学院共通科目:研究倫理 上記のほか、学位プログラムが指定する科目を基礎科目に含めることができる。														
(2) デザイン学関連科目－専門科目 デザイン学特別演習1及び2(計6単位)を含めて 15単位以上 上記のほか、学術院共通専門基礎科目、大学院共通科目の履修を推奨する。 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることがで きる。														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<b>■世界遺産学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 世界遺産学関連科目－基礎科目 必修11単位(以下3科目) ・世界遺産論 ・世界遺産特別演習 ・世界遺産特別研究 (2) 世界遺産学関連科目－専門科目 19単位以上(大学院共通科目等を10単位まで含めることができる)														
<b>■情報学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 講義科目 情報学関連科目のうち専門科目群から12単位以上(大学院共通科目、 大学院共通専門基盤、他学位プログラム科目から8単位まで) (2) 演習科目 情報学関連科目のうち方法論的基盤科目群・実践指導科目群から6単 位、研究指導科目群から4単位以上														
<b>■ライフノバーション(病態機構)学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により34単位以上を修得すること。														
(1) 基礎科目(共通) 14単位(医学概論、創薬概論、食品科学概論、バイオリソース概 論、自然史概論、バイオインフォマティクス基礎、医薬品・食品マネジメント学、レギュラ トリーサイエンス、ライフノバーション実習、ライフノバーションチーム型演習、責任ある 研究行為:基盤編、博士前期ライフノバーションセミナー(計13単位)、博士前期イン ターンシップI又はIIのうちから1単位) (2) 専門科目(共通) 12単位 (3) 専門科目(病態機構) 3単位 (4) 大学院共通科目 1～3単位 (5) ライフノバーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、学 術院共通専門基盤科目、大学院共通科目 0～4単位														
<b>■ライフノバーション(創薬開発)学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により34単位以上を修得すること。														
(1) 基礎科目(共通) 14単位(医学概論、創薬概論、食品科学概論、バイオリソース概 論、自然史概論、バイオインフォマティクス基礎、医薬品・食品マネジメント学、レギュラ トリーサイエンス、ライフノバーション実習、ライフノバーションチーム型演習、責任ある 研究行為:基盤編、博士前期ライフノバーションセミナー(計13単位)、博士前期イン ターンシップI又はIIのうちから1単位) (2) 専門科目(共通) 12単位 (3) 専門科目(創薬開発) 3単位 (4) 大学院共通科目 1～3単位 (5) ライフノバーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、学 術院共通専門基盤科目、大学院共通科目 0～4単位														

※教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として学位プログラムごとに定める  
 範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要  
 件となる単位として認めることができる。

※ライフノバーション学位プログラムについて

「ライフノバーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医  
 科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報  
 学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフノバーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフノ  
 バーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会(筑波研究学園都市の企業・研究機関)の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・  
 運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライ  
 フサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフノバーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目(13単位)を履修した上で、各専門領域の専門科目と研究指導科目を履  
 修する。  
 \*本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジーズ(株)、大鵬薬品工業  
 (株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境  
 研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford, University of Iceland, Universidad Rey Juan Carlos, Molecular Biology Institute of Barcelona, Institut Curie, University  
 of Montpellier, Wageningen University, University of Bordeaux, Center of Biotechnology of Borj Cedria, Tunisia, University of California, San Diego

教育課程等の概要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程/一貫制博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理・環境理科目群	応用倫理	1・2・3後		1		○								兼2 集中,オムニバス
		環境倫理学概論	1・2・3後		1		○								兼2 集中,オムニバス
		研究倫理	1・2・3前		1		○								兼2 ※演習,集中,オムニバス
		生命倫理学	1・2・3前		1		○			2	3	1	1		兼3 オムニバス
		企業と技術者の倫理	1・2・3前		1		○								兼2 ※演習,集中,オムニバス
	シ情報伝達力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	1・2・3前		1		○								兼1 ※演習,集中
		英語発表	1・2・3前		1		○								兼1 ※演習,集中
		異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2・3通		2			○		1					兼1 集中
		Global Communication Skills Training	1・2・3前		1			○							兼1 ※講義,集中
		サイエンスコミュニケーション概論	1・2・3前		1		○								兼1 集中
		サイエンスコミュニケーション特論	1・2・3後		1		○								兼1
		サイエンスコミュニケーション養成実践講座	1・2・3休		2				○						兼1 集中
	人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2・3後		1		○								兼3 集中,オムニバス	
	国際性養成科目群	21世紀的中国 一現代中国の多相一	1・2・3後		1		○								兼1
		国際研究プロジェクト	1・2・3通		1				○						兼1
国際インターンシップ		1・2・3通		1				○						兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:食料問題		1・2・3後		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命		1・2・3後		1		○								兼2 集中,オムニバス	
地球規模課題と国際社会:社会脳		1・2・3休		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:感染症・保健医療問題		1・2・3後		1		○			2			1		集中,オムニバス	
地球規模課題と国際社会:社会問題		1・2・3後		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1・2・3後		1		○			1					集中	
地球規模課題と国際社会:環境・エネルギー	1・2・3休		1		○								兼1 集中		
キャリアマネジメント科目群	JAPIC7 <sup>th</sup> バンストディセッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2・3後		1				○						兼1 集中	
	JAPIC7 <sup>th</sup> バンストディセッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2・3前		1				○						兼1 集中	
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2・3休		1				○				1		※講義,集中	
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2・3前		1				○						兼1 集中	
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2・3休		1									○	兼9 集中,オムニバス共同(一部)	
知的基盤形成科目群	アクセシビリティリーダー特論	1・2・3前		1		○			3	2	1			兼2 オムニバス,共同(一部)	
	脳の多様性とセルフマネジメント	1・2・3休		1		○			1					※演習,集中	
	生物多様性と地球環境	1・2・3前		1		○								兼4 ※実習,集中,オムニバス	
	内部共生と生物進化	1・2・3前		1		○								兼1 集中	
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2・3休		1				○						兼2 ※講義,集中	
身心基盤形成科目群	科学的発見と創造性	1・2・3前		1		○								兼1 集中	
	自然災害にどう向き合うか	1・2・3前		1		○								兼1	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2・3休		1		○								兼5 集中,オムニバス	
	21世紀と宗教	1・2・3前		1		○								兼2 集中,オムニバス	
	塑造実習	1・2・3後		1				○	1			1		隔年	
大学院体育	コミュニケーションアート&デザインA	1・2・3前		1		○			1			1		兼6 隔年,オムニバス	
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2・3後		1		○			2	1		2		兼2 隔年,オムニバス	
	日本画実習	1・2・3前		1				○						兼2 隔年	
	ヨーガコース	1・2・3前		1				○	1					※講義,集中	
	絵画実習A	1・2・3前		1				○						兼1 隔年	
	現代アート入門	1・2・3前		1		○								兼1 隔年	
	大学院体育Ia	1・2・3通		1				○	2					兼2	
	大学院体育Ib	1・2・3前		1				○	1	1				兼1	
	大学院体育Ic	1・2・3後		1				○		1				兼2	
	大学院体育IIa	1・2・3通		1				○	2					兼2	
	大学院体育IIb	1・2・3前		1				○	1	1				兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	大学院体育IIc	1・2・3後		1				○		1					兼2
	大学院体育IIIa	1・2・3通		1				○	2						兼2
	大学院体育IIIb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1
	大学院体育IIIc	1・2・3後		1				○		1					兼2
	大学院体育IVa	1・2・3通		1				○	2						兼2
	大学院体育IVb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1
	大学院体育IVc	1・2・3後		1				○		1					兼2
	大学院体育Va	1・2・3通		1				○	2						兼2
	大学院体育Vb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1
	大学院体育Vc	1・2・3後		1				○		1					兼2
	小計 (59科目)	—	0	61	0			—	15	8	2	7	0	兼63	—
教育学 関連科目	科 基 礎	教育学特論Ⅰ	1後	1				○	10	8		9			
		教育学特論Ⅱ	2前	1				○	10	8		9			
		小計 (2科目)	—	0	2	0			—	10	8	0	9	0	0
	科 専 門 基 礎	教育学演習Ⅰ	2後		1				○	10	8		9		
教育学演習Ⅱ		2通		1				○	10	8		9			
フィールドワーク研究		2前		1				○	10	8		9			
	小計 (3科目)	—	0	3	0			—	10	8	0	9	0	0	—
専 門 科 目	教育哲学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○				1			
	教育哲学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○				1			
	教育哲学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○				1			
	高等教育論研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○		1					
	高等教育論研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○		1					
	高等教育論研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○		1					
	日本教育史研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○		1					
	日本教育史研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○		1					
	日本教育史研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○		1					
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○		1					
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○		1					
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○		1					
	教育制度学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1						
	教育制度学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1						
	教育制度学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1						
	学校経営学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1	1					
	学校経営学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1	1					
	学校経営学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1	1					
	比較・国際教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○				3			
	比較・国際教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○				3			
	比較・国際教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○				3			
	教育社会学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○				1			
	教育社会学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○				1			
	教育社会学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○				1			
	カリキュラム研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1						
	カリキュラム研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1						
	カリキュラム研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1						
	教育方法学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1						
	教育方法学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1						
	教育方法学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1						
	道德教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○		1					
	道德教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○		1					
	道德教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○		1					
	キャリア教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1			1			
	キャリア教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1			1			
	キャリア教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1			1			
	社会科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	2	1					
	社会科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	2	1					
	社会科教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	2	1					
	人文科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	1	1		1			
人文科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	1	1		1				
人文科教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	1	1		1				
数学教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○	2	1						
数学教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○	2	1						
数学教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3				○	2	1						
理科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3				○				2				
理科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3				○				2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	理科教育学研究法III	1・2・3通		3				○					2			
	小計 (48科目)	—	0	144	0			—		10	8	0	9	0	0	
心理学関連科目	共通	心理学実験実習	1・2・3通		2				○	1				2		
		心理学研究マネジメント実習1	1・2・3前		1				○	6	3			2		兼1
		心理学研究マネジメント実習2	1・2・3後		1				○	6	3			2		兼1
		心理学先端研究1	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学先端研究2	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学先端研究3	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学特別研究D1	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
		心理学特別研究D2	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
		心理学特別研究D3	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
	小計 (9科目)	—	0	10	0			—	6	3			2		兼4	—
	心理基礎科学	心理基礎科学英語1	1・2・3前		1				○	3	2			2		兼1
		心理基礎科学英語2	1・2・3後		1				○	3	2			2		兼1
		心理学インターンシップ	1・2・3通		1				○	3	2			2		兼1
	小計 (3科目)	—	0	3	0			—	3	2			2		兼1	—
心理臨床学	臨床心理学特講D	1通		1			○		3				4			
	臨床心理学実習DI	1・2・3通		2				○	3				4			
	臨床心理学実習DII	1・2・3通		2				○	3				4			
	小計 (3科目)	—	0	5	0			—	3	0	0		4	0	0	—
障害科学関連科目	基礎科目	障害科学研究実践法	1・2・3通		1				○	10	10	1	3			
		海外研究活動 I	1・2・3通		1				○	1						
		海外研究活動 II	1・2・3通		1				○	1						
		小計 (3科目)	—	0	3	0			—	10	10	1	3	0	0	—
	専門科目	視覚障害講究 I	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		視覚障害講究 II	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		視覚障害講究 III	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		聴覚障害講究 I	1・2・3通		1				○	2	1					
		聴覚障害講究 II	1・2・3通		1				○	2	1					
		聴覚障害講究 III	1・2・3通		1				○	2	1					
		知的・発達・行動障害講究 I	1・2・3通		1				○	3	3					
		知的・発達・行動障害講究 II	1・2・3通		1				○	3	3					
		知的・発達・行動障害講究 III	1・2・3通		1				○	3	3					
		運動障害・病弱講究 I	1・2・3通		1				○	2						
		運動障害・病弱講究 II	1・2・3通		1				○	2						
		運動障害・病弱講究 III	1・2・3通		1				○	2						
		音声・言語障害講究 I	1・2・3通		1				○		1					
		音声・言語障害講究 II	1・2・3通		1				○		1					
		音声・言語障害講究 III	1・2・3通		1				○		1					
障害福祉学講究 I	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害福祉学講究 II	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害福祉学講究 III	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害原理論講究 I	1・2・3通		1				○	1								
障害原理論講究 II	1・2・3通		1				○	1								
障害原理論講究 III	1・2・3通		1				○	1								
小計 (21科目)	—	0	21	0			—	10	10	1	3	0	0	0	—	
カウンセリング科学関連科目	基礎科目	カウンセリング科学基礎論	1・2通		1				○	5	3					
		カウンセリング科学演習I	1・2通		1				○	5	3					
		カウンセリング科学演習II	1・2通		1				○	5	3					
		カウンセリング科学特論I	2・3通		1				○	5	3					
		カウンセリング科学特論II	2・3通		1				○	5	3					
		カウンセリング科学特論III	2・3通		1				○	5	3					
		小計 (6科目)	—	0	6	0			—	5	3	0	0	0	0	—
	専門科目	産業社会心理学特論	1・2・3通		1				○	1						
		組織メンタルヘルズ特論	1・2・3通		1				○		1					
		対人社会心理学特論	1・2・3通		1				○		1					
		キャリア形成特論I	1・2・3通		1			○								兼1
		キャリア形成特論II	1・2・3通		1			○								兼1
		カウンセリング科学特別演習I	1・2通		1				○	5	3					
カウンセリング科学特別演習II	1・2通		1				○	5	3							
カウンセリング科学特別演習III	2・3通		1				○	5	3							
カウンセリング科学特論	1・2・3通		1				○	1								
学校生活支援カウンセリング特論	1・2・3通		1				○		1							
生涯発達心理学特論	1・2・3通		1				○	1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	生涯発達支援特論I	1・2・3通		1		○									兼1 隔年, 集中	
	生涯発達支援特論II	1・2・3通		1		○									兼1 隔年, 集中	
	コミュニティ発達援助特論	1・2・3通		1			○			1						
	家族発達援助特論	1・2・3通		1				○		1						
	精神健康科学特論	1・2・3通		1				○		1						
	生涯発達システム特論I	1・2・3通		1		○									兼1 隔年, 集中	
	生涯発達システム特論II	1・2・3通		1		○									兼1 隔年, 集中	
	小計 (18科目)	—	0	18	0	—	—	—	5	3	0	0	0	0	兼6	—
リハビリテーション科学関連科目	基礎科目	リハビリテーション科学基礎論	1・2通	1				○		8	3	1	1			
	リハビリテーション科学演習I	1・2通	1				○		6	3						
	リハビリテーション科学演習II	1・2通	1				○		6	3						
	リハビリテーション科学特論I	2・3通	1				○		8	3	1	1				
	リハビリテーション科学特論II	2・3通	1				○		8	3	1	1				
	リハビリテーション科学特論III	2・3通	1				○		8	3	1	1				
	小計 (6科目)	—	0	6	0	—	—	—	8	3	1	1	0	0	—	
	専門科目	職業リハビリテーション特論	1・2・3通	1				○			1					隔年, 集中
	障害科学特論	1・2・3通	1				○			1						隔年, 集中
	発達支援科学特論	1・2・3通	1					○			1					隔年, 集中
	発達支援評価特論	1・2・3通	1					○			1					隔年, 集中
	コミュニケーション発達支援特論	1・2・3通	1				○			1						隔年, 集中
	リハビリテーション科学特別演習I	1・2通	1					○		6	3					
	リハビリテーション科学特別演習II	1・2通	1					○		6	3					
	リハビリテーション科学特別演習III	1・2通	1					○		6	3					
リハビリテーション科学特論	1・2・3通	1					○		1							
教育支援システム特論	1・2・3通	1					○		1							
ケアマネジメント特論	1・2・3通	1					○		1							
中高年・障害者発達支援特論	1・2・3通	1				○			1						隔年, 集中	
小計 (12科目)	—	0	12	0	—	—	—	6	3	0	0	0	0	0	—	
クヒューマン・ケア科学関連科目	専門基礎科目	ヒューマン・ケア科学特論I	1・2前	1			○			2	1		1			オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論II	1・2前	1			○			2	1		1				オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論III	1・2後	1			○			1	3		1				オムニバス
	パブリックヘルス特論I	1・2前	1			○			2			2				兼1 オムニバス
	パブリックヘルス特論II	1・2後	1			○			1	2		1				兼1 オムニバス
	パブリックヘルス特論III	1・2後	1			○			2	1		1				兼1 オムニバス
	小計 (6科目)	—	0	6	0	—	—	—	10	8	0	7	0	兼3	—	
	専門科目	ヒューマン・ケア科学演習	1・2通	3				○		5	5		3			
	ヒューマン・ケア科学特別研究	2・3通	3					○		4	5					
	パブリックヘルス演習	1・2通	3					○		5	3		4			兼3
パブリックヘルス特別研究	2・3通	3					○		5	2					兼3	
小計 (4科目)	—	0	12	0	—	—	—	10	8	0	7	0	兼3	—		
ニューロサイエンス関連科目	基礎科目	Neuroscience Professional Career Development/キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー	1前	1				○		5	12	2	7			兼7
	小計 (1科目)	—	0	1	0	—	—	—	5	12	2	7	0	兼7	—	
	専門基礎科目	Advanced Scientific Research Proposal in English 1/高度専門科学英語1	1・2通	2				○		1	2					
	Advanced Scientific Research Proposal in English 2/高度専門科学英語2	2・3通	2				○		1	2						
	小計 (2科目)	—	0	2	2	—	—	—	1	2	0	0	0	0	—	
	専門科目	Advanced Neuroscience Seminer 1/神経科学専門セミナー1	1・2通	1					○	1	3					
	Advanced Neuroscience Seminer 2/神経科学専門セミナー2	2・3通	1						○	1	3					
	Advanced Neuroscience Seminer 3/神経科学専門セミナー3	3通	1						○	1	3					
	Advanced Neuroscience Internship/神経科学専門研究インターンシップ	1・2・3通	3						○	1	3					兼1 集中
	Neuroscience Dissertation Research 1/博士論文研究指導1	1前	2						○	5	9		2			兼5
Neuroscience Dissertation Research 2/博士論文研究指導2	1後	2						○	5	9		2			兼5	
Neuroscience Dissertation Research 3/博士論文研究指導3	2前	2						○	5	9		2			兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	Neuroscience Dissertation Research 4/博士論文研究指導4	2後		2				○	5	9		2		兼5	QE3の合格が単位認定必須条件	
	Neuroscience Dissertation Research 5/博士論文研究指導5	3前		2				○	5	9		2		兼5		
	Neuroscience Dissertation Research 6/博士論文研究指導6	3後		2				○	5	9		2		兼5		
	小計 (10科目)	—	0	14	4			—	5	9	0	2	0	兼5	—	
看護科学関連科目	専門基礎科目	応用看護科学	1前		3			○	2			2			オムニバス	
	応用統計学	1前		2				○	1	2					オムニバス	
	看護研究方法論	1前		2				○	1	5		2			オムニバス	
	看護学教育	1後		2				○	1							
	小計 (4科目)	—	0	9	0			—	4	5	0	3	0	0	—	
	専門科目	看護科学特論	1・2前		2			○	7	5		6			オムニバス	
	研究倫理学演習	1後		1					1	1		1			共同	
	看護科学演習I	1後		2				○	2			3			オムニバス	
	看護科学演習II	2後		1				○	3	5		6			共同	
	看護科学研究	3通		9				○	7							
小計 (5科目)	—	0	15	0			—	7	5	0	6	0	0	—		
スポーツ医学関連科目	科基礎	スポーツ医学概論 I	1前		1			○	4	5				兼1	オムニバス	
	スポーツ医学概論 II	1後		1				○	3	2	2	2		兼1	オムニバス	
	小計 (2科目)	—	0	2	0			—	7	7	2	2		兼1	—	
	専門科目	スポーツ医学セミナー I	1・2通		1				4	5				兼1		
	スポーツ医学セミナー II	1・2通		1					3	2	2	2				
	スポーツ医学セミナー III	1・2・3通		1			○		1	3						
	博士論文研究指導 I	1通		1				○	6	3	1			兼1		
	博士論文研究指導 II	2通		1				○	6	3	1			兼1		
	博士論文研究指導 III	3通		1				○	6	3	1			兼1		
	小計 (6科目)	—	0	6	0			—	7	7	2	2		兼1	—	
体育科学関連科目	専門基礎科目	研究方法論 I	1前		1			○	4	2		2			オムニバス	
	研究方法論 II	1後		1				○				3			共同	
	研究セッション	1通		3				○	15	8		8			兼2	
	小計 (3科目)	—	0	5	0			—	15	8	0	8	0	兼2	—	
	専門科目	研究応用科目	健康スポーツ科学研究演習 I	1通		1			○	13	3		1			
	健康スポーツ科学研究演習 II	2通		1				○	13	3		1				
	小計 (2科目)	—	0	2	0			—	13	3	0	1	0	0	—	
	研究実践科目	プロジェクトローテーション	1通		1								3			
	課題解決研究 I	2通		2				○	1	3		1				
	課題解決研究 II	2通		2				○	1	3		1				
	プロジェクトフォーラム I	1後		1				○				2			集中	
	プロジェクトフォーラム II	2後		1				○				2			集中	
	小計 (5科目)	—	0	7	0			—	1	3	0	6	0	0	—	
	国際研究科目	国際ディベート合宿 I	1後		1				○		2		1			集中
	国際ディベート合宿 II	2後		1					○		2		1			集中
国際フォーラム I	1後		1					○				2			集中	
国際フォーラム II	2後		1					○				2			集中	
小計 (4科目)	—	0	4	0			—	0	2	0	3	0	0	—		
スポーツウエルネス学関連	基礎科目	課題解決型データ分析論特講1	1前		1			○							兼1	
	課題解決型データ分析論特講2	1後		1				○							兼1	
	小計 (2科目)	—	0	2	0			—	0	0	0	0	0	兼1	—	
	専門科目	スポーツウエルネス研究演習 I	1通		1			○	5	2						
	スポーツウエルネス研究演習 II	2通		1				○	5	2						
	スポーツウエルネス研究演習 III	3通		1				○	5	2						
	課題解決型プロジェクトワーク I	1通		1					5	3						
課題解決型プロジェクトワーク II	2・3通		2					5	3							
小計 (5科目)	—	0	6	0			—	5	3	0	0	0	0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関連科目 コーチング学	専門科目 コーチング学 コーチング学研究法Ⅰ コーチング学研究法Ⅱ コーチング学事例研究法 コーチングの哲学と倫理	1後		1		○			1	5		2		兼2	オムニバス	
		2通		1			○		6	10		3		兼4	集中	
		1前		1			○		2	2						オムニバス
		1前		1			○		4	2					兼3	オムニバス
		—	0	4	0				8	11	0	3	0	兼6	—	
目芸術学 芸術学関連科目	専門科目 芸術学特別演習IA 芸術学特別演習IB 芸術学特別演習IIA 芸術学特別演習IIB	1前		2			○		12	4		6				
		1後		2			○		12	4		6				
		2前		2			○		12	4		6				
		2後		2			○		12	4		6				
		—	0	8	0				12	4	0	6	0	0	—	
デザイン学 デザイン学関連科目	専門科目 デザイン学特別研究A デザイン学特別研究B デザイン学特別研究C デザイン学特別研究D インターンシップ 海外研修	1前		2			○		4	5	1	0		兼7		
		1後		2			○		4	5	1	0		兼7		
		2前		2			○		4	5	1	0		兼7		
		2後		2			○		4	5	1	0		兼7		
		1・2通		2			○		4	3	1	0			集中	
		1・2通		2			○		4	3	1	0			集中	
—	0	12	0				4	5	1	0	0	兼7	—			
関連科目 世界遺産学	専門科目 世界遺産学特別研究	1～3通		3			○		5	2		2		兼2		
		—	0	3	0				5	2	0	2	0	兼2	—	
医学 医学関連科目	基礎科目 医学研究概論 医学セミナー 医学特殊研究 医学特別演習 国際実践医学研究特論 最先端医学研究セミナー 橋渡し研究マネジメント 医科学教育実習 キャリアパス・セミナー 医学専門英語 メディカルコミュニケーション演習Ⅰ メディカルコミュニケーション演習Ⅱ 研究発表と討論 医科学国際討論Ⅰ 医科学国際討論Ⅱ 臨床研究方法論 外国人医学者とのコミュニケーション演習 インターンシップⅠ インターンシップⅡ English Topics in ScienceⅠ English Topics in ScienceⅡ	1・2前		1		○			2	3	1	1			※演習,オムニバス	
		1・2通		3			○		2							
		1・2通		2			○		59	8	2	2		兼1		
		1・2通		5			○		59	8	2	2		兼1		
		1・2・3・4通		3			○		1			1			共同	
		1・2通		3			○		73	74	102	31	1	兼3	共同	
		1・2後		2			○		2	2					オムニバス	
		2・3通		1				○	59	8	2	2		兼1		
		1・2後		1				○	1		1					
		1・2通		2				○		1						
		1・2前		1				○		1						
		2・3通		3				○		1						
		2・3前		1				○		1		1				
		1前		2				○		1				兼1		
		1後		2				○		1				兼1		
		1・2通		3				○		56	53	94	3			
		1・2後		2				○		1			1		共同	
		1・2・3・4通		1				○		1						
		1・2・3・4通		1				○		1						
		1・2・3・4前		1				○					1			
		1・2・3・4後		1				○					1			
—	0	41	0				75	74	102	31	1	兼3	—			
専門科目	統合医学研究特論 分子医科学特論Ⅰ 分子医科学特論Ⅱ 分子医科学演習Ⅰ 分子医科学演習Ⅱ 分子医科学実験実習Ⅰ 分子医科学実験実習Ⅱ システム統御医学特論Ⅰ システム統御医学特論Ⅱ システム統御医学演習Ⅰ システム統御医学演習Ⅱ システム統御医学実験実習Ⅰ システム統御医学実験実習Ⅱ ゲノム環境医学特論Ⅰ ゲノム環境医学特論Ⅱ ゲノム環境医学演習Ⅰ ゲノム環境医学演習Ⅱ ゲノム環境医学実験実習Ⅰ ゲノム環境医学実験実習Ⅱ 睡眠医学特論Ⅰ 睡眠医学特論Ⅱ	1・2後		2			○		59	8	2	2		兼1		
		1・2前		2			○		4	4	3	5				
		1・2後		2			○		4	4	3	5				
		1・2前		2				○	4	4	3	5				
		1・2後		2				○	4	4	3	5				
		1・2前		2				○	4	4	3	5				
		1・2後		2				○	4	4	3	5				
		1・2前		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2後		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2前		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2後		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2前		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2後		2				○	6	7	3	9		兼1		
		1・2前		2				○	6	3	1	7				
		1・2後		2				○	6	3	1	7				
		1・2前		2				○	6	3	1	7				
		1・2後		2				○	6	3	1	7				
1・2前		2				○	4	2	1	7						
1・2後		2				○	4	2	1	7						
1・2前		2				○	3	4				兼1				
1・2後		2				○	3	4				兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	睡眠医学演習I	1・2前		2				○		3	4					兼1	
	睡眠医学演習II	1・2後		2				○		3	4					兼1	
	睡眠医学実験実習I	1・2前		2					○	3	4					兼1	
	睡眠医学実験実習II	1・2後		2					○	3	4					兼1	
	臨床病態解明学特論I	1・2前		2			○			14	14	22	2	1			
	臨床病態解明学特論II	1・2後		2			○			14	14	22	2	1			
	臨床病態解明学演習I	1・2前		2				○		14	14	22	2	1			
	臨床病態解明学演習II	1・2後		2				○		14	14	22	2	1			
	臨床病態解明学実験実習I	1・2前		2					○	14	14	22	2	1			
	臨床病態解明学実験実習II	1・2後		2					○	14	14	22	2	1			
	臨床外科学特論I	1・2前		2			○			20	12	37					
	臨床外科学特論II	1・2後		2			○			21	13	38					
	臨床外科学演習I	1・2前		2				○		21	13	38					
	臨床外科学演習II	1・2後		2				○		21	13	38					
	臨床外科学実験実習I	1・2前		2					○	21	14	38					
	臨床外科学実験実習II	1・2後		2					○	21	14	38					
	臨床内科学特論I	1・2前		2			○			16	25	29					
	臨床内科学特論II	1・2後		2			○			16	25	29					
	臨床内科学演習I	1・2前		2				○		16	25	29					
	臨床内科学演習II	1・2後		2				○		16	25	29					
	臨床内科学実験実習I	1・2前		2					○	16	25	29					
	臨床内科学実験実習II	1・2後		2					○	16	25	29					
	社会医学特論I	1・2前		2			○			3							
	社会医学特論II	1・2後		2			○			3							
	社会医学演習I	1・2前		2				○		3							
	社会医学演習II	1・2後		2				○		3							
	社会医学実験実習I	1・2前		2					○	3							
	社会医学実験実習II	1・2後		2					○	3							
	臨床試験論	1・2後		2			○			2			1			ホニハス	
	医生物統計学概論	1・2前		1			○			1	1					共同	
	医生物統計学特論	1・2後		2			○			1	1					共同	
	医生物統計学実習	1・2前		2				○		1	1					共同	
	疫学特論	1・2後		1			○			1			1			ホニハス	
	小計 (54科目)	—	0	106	0			—		81	70	96	23	1	兼2	—	
専門科目 (国際協力型がん臨床指導者養成プログラム)	eがん基礎 ラーニング講義	がんの基盤的知識	1・2通	2			○			2	1					共同	
		総論:臨床腫瘍学	1・2通	1			○			2	1					共同	
		各論:臨床腫瘍学	1・2通	1			○			4	1	2				共同	
		臨床研究と統計学	1・2通	1			○			2						共同	
		がんと倫理	1・2通	1			○			1							
		精神腫瘍学・社会腫瘍学	1・2通	1			○				1						
		緩和医療とチーム医療	1・2通	1			○			2							共同
		がんゲノム医療	1・2通	1			○			3	1						共同
		小児・AYA・希少がん	1・2通	1			○			4							共同
		ライフステージに応じたがん医療	1・2通	1			○			1		1					共同
	選択科目	保健医学物理学講義	1・2通		2			○			2	1					共同
		臨床腫瘍学(消化器内科)講義及び実習	1・2通		5				○			2	3				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(消化器外科)講義及び実習	1・2通		5				○		2		1				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(呼吸器内科)講義及び実習	1・2通		5				○		2						※講義, 共同
		臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	1・2通		5				○		1		2				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	1・2通		5				○		1	4					※講義, 共同
		臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	1・2通		5				○		2	2	1				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	1・2通		5				○		1		1				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	1・2通		5				○		1	2	1				※講義, 共同
		臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1	1				※講義, 共同
臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1					※講義, 共同		
臨床腫瘍学(乳腺・内分泌)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1					※講義, 共同		
臨床腫瘍学(頭頸部)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1	1				※講義, 共同		
臨床腫瘍学(画像診断)講義及び実習	1・2通		5				○			1	1				※講義, 共同		
臨床腫瘍学(病理診断)講義及び実習	1・2通		5				○		2	1					※講義, 共同		
基礎腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		5				○		4	2	1				※講義, 共同		
臨床緩和医療学・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		5				○		1						※講義		
臨床腫瘍学(皮膚)講義及び実習	1・2通		5				○			1	1				※講義, 共同		
臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	1・2通		5				○		2		1				※講義, 共同		
臨床腫瘍学特論講義及び実習	1・2通		5				○		1						※講義		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
がん専門選り講義	基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	1・2通		5				○	1						※講義
	診断医学物理学講義	1・2通		2			○		2	1					共同
	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		4			○		4	2	1				※実習, 共同
	臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習	1・2通		4			○		1	1					※実習, 共同
	臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習	1・2通		4			○		2						※実習, 共同
	緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習
	基礎腫瘍学・がん医療開発講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習
	基礎医学物理学	1・2通		6			○		2	1					共同
	治療医学物理学	1・2通		6			○		2	1					共同
	医学物理学総合実習	1・2通		4					2	1					共同
臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習	
小計(41科目)		—	0	155	0			—	29	22	16	0	0	0	—
た社会医学専門養成プログラム	社会精神保健学特講	1・2通		3			○			1					
	福祉医療学特講	1・2通		3			○			1					
	保健医療政策学特講	1・2通		3			○		1						
	ヘルスサービスリサーチ特講	1通		3			○		1						
小計(4科目)		—	0	12	0			—	2	2	0	0	0	0	—
材に線専門養成(放射線)	放射線健康リスク管理学	1・2通		4			○		1						
	放射線災害医療学	1・2通		2			○		1						
	放射線科学—その基礎理論と応用—	1・2前		1			○		1						※実習
	課題解決型放射線科学演習	1・2通		2				○	1						
小計(4科目)		—	0	9	0			—	3	0	0	0	0	0	—
成)た専門基礎研究医養	病理学・法医学概論	1・2通		1			○		3	1					共同
	先端医学概論I	1・2通		1				○	3	1					共同
	先端医学概論II	1・2通		1				○	3	1					共同
	病理診断学実習I	1・2通		1					3	1					共同
	病理診断学実習II	1・2通		1					3	1					共同
小計(5科目)		—	0	5	0			—	3	1	0	0	0	0	—
情報学関連科目	情報学セミナー a	1・2後		1				○	14	21	1	9			兼1 共同
	情報学セミナー b	1・2前		1				○	14	21	1	9			兼1 共同
	研究インターンシップ	2前		2				○	1	2		2			共同
	研究指導実践	2後		2				○		2		2			共同
	PBL	1前		2				○	2	2					共同
	情報学総合演習Ia	1前		1				○	14						
	情報学総合演習Ib	1後		1				○	14						
	情報学総合演習IIa	3前		1				○	14						
	情報学総合演習IIb	3後		1				○	14						
	グローバル研究演習III	1前・後		1				○	14						
	グローバル研究演習IV	2前・後		1				○	14						
	グローバル研究演習V	3前・後		1				○	14						
小計(12科目)		—	0	15	0			—	14	21	1	9	0	兼1	—
ヒューマンバイオロジー関連科目	イニシエーションセミナー	1前		1				○	1	1					集中
	世界のサイエンスリーダーズセミナー	1通		1				○	1						
	ビジネスリーダーズセミナー	1通		1				○	1						
	ヒューマンバイオロジーのセレンディビティ	1前		1				○							兼2
	科学倫理	1前		1				○			1				
	ヒューマンバイオロジーの国際討論I	1前		1				○	1						兼1 ※演習
	ヒューマンバイオロジーの国際討論II	1後		1				○	1						兼1 ※演習
	国際研究室ローテーション	2後		5					1						
	海外企業におけるインターンシップ	2後		5					1						
	適正技術	2後		5					1						
	起業家マインド育成	2後		5					1						
	国際研究室ローテーション上級コース	3・4・5通		10											兼1
	海外企業におけるインターンシップ上級コース	3・4・5通		10					1						
	適正技術上級コース	3・4・5通		10					1						
	起業家マインド育成・実践コース	3・4・5通		10					1						
	キャリアマネジメント学習	3・4・5通		10					1						
小計(16科目)		—	0	77	0			—	4	1	0	1	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人体解剖学・発生学	1後		2		○			1							
	人体病理学・腫瘍学	1後		2		○			3	2	1	2			オムニバス	
	ヒトの感染・免疫学	1前		2		○			1	4	2	2			オムニバス	
	ヒトの内分泌・代謝学	1前		2		○			2	3					兼1 オムニバス	
	環境医学	1前		1		○			1							
	生化学・分子生物学	1前		1		○			2	1	2	1			オムニバス	
	分子細胞生物学	1後		1		○			1						兼1	
	基礎毒性学	1後		1		○			1							
	創薬フロンティア科学	1後		1		○			1							
	神経科学特論	1・2前		1		○			2	3		1			オムニバス	
	神経生物学	1後		1			○			1						
	サイエンスにおけるITの活用	1休		2		○									兼1 ※実習	
	基礎計算生物学	1後		2		○									兼2	
	数理アルゴリズム	2後		2		○									兼2 ※実習	
	高性能計算技術	2後		2		○									兼2	
	計算構造生物学・創薬	2後		1		○									兼1 ※実習	
	ゲノムクスデータベースへのアクセスと利用	1前		1				○		1						
	遺伝子工学と遺伝子改変マウス	2前		1				○		1						
	エピゲノム生理学	2前		1				○							兼2	
	シグナル伝達と創薬デザイン	2前		1				○		3	1	1	1		オムニバス	
幹細胞再生医学	2前		1				○		1			1				
小計 (21科目)		—	0	29	0				15	14	5	8	0	兼10	—	
専門科目	ヒューマンバイオロジー基礎実験	1前		4				○	9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー特論Ⅰ	1後		1		○			9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー演習Ⅰ	1後		1			○		9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー特論Ⅱ	2前		1		○			9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー演習Ⅱ	2前		1			○		9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー実験実習Ⅱ	2前		1				○	9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅰ	1後		2			○		9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅱ	2通		10				○	9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー研究室演習Ⅰ	1後		5				○	9	7		1			兼9	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅲ	3通		10				○	9	7		1			兼9	
小計 (10科目)		—	0	36	0				9	7	0	1	0	兼9	—	
科目 ライ フイ ノベ ーシ ョン (病 態 機 構 / 創 薬 開 発) 開 連	基礎科目															
	人を対象とした研究:基盤編	1通		1		○										兼1
	博士後期ライフイノベーションセミナー	1前		1		○										兼9
	博士後期インターンシップⅠ	1・2・3通		1				○		1						
	博士後期インターンシップⅡ	3通		1				○		1						
	小計 (4科目)		—	0	4	0				0	1	0	0	0	兼10	—
	専門科目															
	ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ秋	1後		1				○		1						兼16
	ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春	1前		1				○		1						兼16
	ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ秋	1後		2				○		1						兼16
	ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春	1前		2				○		1						兼16
	ライフイノベーション博士後期演習Ⅱ秋	2後		1				○		1						兼16
	ライフイノベーション博士後期演習Ⅱ春	2前		1				○		1						兼16
ライフイノベーション博士後期研究Ⅱ秋	2後		2				○		1						兼16	
ライフイノベーション博士後期研究Ⅱ春	2前		2				○		1						兼16	
ライフイノベーション博士後期演習Ⅲ秋	3後		1				○		1						兼16	
ライフイノベーション博士後期演習Ⅲ春	3前		1				○		1						兼16	
ライフイノベーション博士後期研究Ⅲ秋	3後		2				○		1						兼16	
ライフイノベーション博士後期研究Ⅲ春	3前		2				○		1						兼16	
小計 (12科目)		—	0	18	0				1	0	0	0	0	兼16	—	
合計 (473科目)		—	0	921	6				185	169	108	98	1	兼133	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(障害科学) 博士(カウンセリング科学) 博士(リハビリテーション科学) 博士(ヒューマン・ケア科学) 博士(公衆衛生学) 博士(神経科学) 博士(看護科学) 博士(スポーツ医学) 博士(体育科学) 博士(スポーツウエルネス学) 博士(コーチング学) 博士(芸術学) 博士(デザイン学) 博士(世界遺産学) 博士(医学) 博士(情報学) 博士(人間生物学) 博士(病態機構学) 博士(医科学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、工学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(修了要件)		1学年の学期区分	2学期
<p>&lt;博士後期課程及び後期3年だけの博士課程&gt;            3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>&lt;一貫制博士課程&gt;            5年(医学の課程にあっては4年)以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(履修方法)            ※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。</p> <p>■教育学学位プログラム(D)            次の履修方法により6単位以上を修得すること。</p> (1) 教育学関連科目の基礎科目 2単位 (2) 教育学関連科目の専門基礎科目 1単位以上 (3) 教育学関連科目の専門科目 3単位以上 <p>■心理学学位プログラム(D)            次の履修方法により6単位以上を修得すること。</p> ・心理学関連科目の専門科目(共通) 心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習1、同2、心理学特別研究D1、同D2 ・心理臨床学サブプログラムにおいては、心理学関連科目の臨床心理学実習DIもしくは臨床心理学実習DIIのいずれかを合計4単位以上 <p>■障害科学学位プログラム(D)            次の履修方法により4単位以上を修得すること。</p> (1) 障害科学関連科目の基礎科目 障害科学研究実践法(1単位) (2) 障害科学関連科目の専門科目 専攻分野の講義から3単位 <p>■カウンセリング科学学位プログラム(D)            次の履修方法により10単位以上を修得すること。</p> (1) カウンセリング科学関連科目の基礎科目 6単位 (2) カウンセリング科学関連科目の専門科目 4単位以上		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	75分

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
<b>■リハビリテーション科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。 (1) リハビリテーション科学関連科目の基礎科目 6単位 (2) リハビリテーション科学関連科目の専門科目 4単位以上														
<b>■ヒューマン・ケア科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により12単位以上を修得すること。 (1) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門基礎科目 6単位 (2) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門科目 ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。														
<b>■パブリックヘルス学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により12単位以上を修得すること。 (1) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門基礎科目 6単位 (2) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門科目 パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。														
<b>■ニューロサイエンス学位プログラム(D)</b> 次の科目を含む17単位以上を修得すること。 (1) ニューロサイエンス関連科目の基礎科目 1単位 (2) ニューロサイエンス関連科目の専門基礎科目 高度専門科学英語1 (3) ニューロサイエンス関連科目の専門科目 神経科学専門セミナー1、同2、博士論文研究指導1～6 上記のほか、神経科学専門研究インターンシップ等の本学位プログラム開設の自由科目、学術院共通専門基盤科目の履修を推奨する。														
<b>■看護科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により25単位以上を修得すること。 (1) 看護科学関連科目の専門基礎科目等 10単位以上 ・応用看護科学(3単位)、応用統計学(2単位)、看護研究方法論(2単位) ・看護学教育、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目の中から3単位以上 (2) 看護科学関連科目の専門科目 15単位														
<b>■スポーツ医学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により5単位以上を修得すること。 (1) スポーツ医学関連科目の基礎科目 2単位 (2) スポーツ医学関連科目の専門科目 博士論文研究指導I(1単位)を含む3単位 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する														
<b>■体育科学学位プログラム(D)</b> <標準履修モデル> 体育科学関連科目の中から、次の科目6単位を含む7単位以上の修得 (1) 専門基礎科目 研究方法論I、研究セッション (2) 研究応用科目 健康スポーツ科学研究演習I、同II 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。  <次世代健康スポーツ科学履修モデル:スポーツ・リサーチ・イノベーター(SRI)認定> 体育科学関連科目の中から、次の科目12単位を含む14単位以上の修得 (1) 専門基礎科目 研究方法論I、研究セッション (2) 研究応用科目 健康スポーツ科学研究演習I、同II (3) 研究実践科目 プロジェクトローテーション、課題解決研究I、プロジェクトフォーラムI (4) 国際研究科目 国際ディベート合宿I、国際フォーラムII 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。														
<b>■スポーツウエルネス学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により8単位以上を修得すること。 (1) スポーツウエルネス学関連科目の基礎科目 2単位 (2) スポーツウエルネス学関連科目の専門科目 6単位														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<b>■コーチング学学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により4単位以上を修得すること。														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチング学関連科目の専門科目 4単位</li> </ul> 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位を履修することを推奨する。 なお、体育系以外の博士前期課程を修了した者は研究の基礎となる専門知識に関する科目を1年次に博士前期課程体育学学位プログラムが開設している科目から10単位程度履修すること。														
<b>■芸術学学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により8単位以上を修得すること。														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術学関連科目の専門科目 8単位</li> </ul> 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。														
<b>■デザイン学学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により6単位以上を修得すること。														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン学関連科目の専門科目 デザイン学特別研究B及びDを含む6単位以上</li> </ul> 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を奨励する。														
<b>■世界遺産学学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により3単位以上を修得すること。														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産学関連科目の専門科目 3単位</li> </ul> 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。														
<b>■医学学位プログラム(医学を履修する博士課程)</b>														
次の科目を含めて30単位以上を修得すること。														
(1) 医学関連科目の基礎科目 次の科目により11単位 医学研究概論、医学セミナー、医学特殊研究、医学特別演習 (2) 医学関連科目の専門科目 統合医学研究特論 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位の履修を推奨する。														
<b>■情報学学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により10単位以上を修得すること。														
(1) 情報学関連科目の研究指導科目 6単位(情報学セミナー、情報学総合演習I,II) (2) 情報学関連科目の実践指導科目 4単位(研究指導実践、PBL、研究インターンシップ) なお、実践指導科目のうち2単位までは、大学院共通科目および他学位プログラム科目を修了の要件となる単位として認める。														
<b>■ヒューマンバイオロジー学位プログラム(5D)</b>														
次の履修方法により72単位以上を修得すること。														
(1) ヒューマンバイオロジー関連科目の1,2年次の配当科目のうち、次の科目を含めて合計60単位以上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目 イニシエーションセミナー、世界のリーダーズサイエンスセミナー、ビジネスリーダーズセミナー、科学倫理により4単位、及び選択必修5単位以上</li> <li>・専門基礎科目 人体解剖学・発生学、人体病理学・腫瘍学、ヒトの感染・免疫学、ヒトの内分泌・代謝学、基礎計算生物学</li> <li>・専門科目の1,2年時配当科目 26単位</li> </ul> (2) ヒューマンバイオロジー関連科目の専門科目の3年次の配当科目 10単位														
<b>■ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム(D)</b>														
次の履修方法により24単位以上を修得すること。														
(1) ライフイノベーション関連科目の基礎科目 次の科目を含む3単位 人を対象とした研究:基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー (2) ライフイノベーション関連科目の専門科目 18単位 (3) 大学院共通科目 1~3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<b>■ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により24単位以上を修得すること。														
(1) ライフイノベーション関連科目の基礎科目 次の科目を含む3単位 人を対象とした研究:基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー (2) ライフイノベーション関連科目の専門科目 18単位 (3) 大学院共通科目 1~3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大 学院共通科目														

※教育上有益と認められる場合には、学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会(筑波研究学園都市の企業・研究機関)の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目(2単位以上)を履修した上で、各専門領域の研究指導科目を履修する。  
 \*本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジーズ(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford, University of Iceland, Universidad Rey Juan Carlos, Molecular Biology Institute of Barcelona, Institut Curie, University of Montpellier, Wageningen University, University of Bordeaux, Center of Biotechnology of Borj Cedria, Tunisia, University of California, San Diego

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2			1		オムニバス, ｽﾀｼﾞｲ
	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1・2前	鹿屋体育大学	1			○				2					ｽﾀｼﾞｲ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○									兼2 ｽﾀｼﾞｲ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後	筑波大学		1		○				1					兼1 ｽﾀｼﾞｲ
	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	1・2後	鹿屋体育大学		1		○				1					集中, ｽﾀｼﾞｲ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前	筑波大学		1		○				1					集中, ｽﾀｼﾞｲ
	Sport Management (スポーツマネジメント論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○				1					兼1 ｽﾀｼﾞｲ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｼﾞｲ
	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○				1					集中, ｽﾀｼﾞｲ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前	筑波大学		1		○				1					ｽﾀｼﾞｲ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2	1		1		兼1 オムニバス, ｽﾀｼﾞｲ
Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	筑波大学	1			○				1					ｽﾀｼﾞｲ	
小計 (12科目)	—			5	7	0	—			4	4	0	1	0	兼0	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	筑波大学	1			○				1	1		1		兼1 オムニバス, ｽﾀｼﾞｲ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前	筑波大学		1		○							1		集中, ｽﾀｼﾞｲ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後	筑波大学		1		○							1		兼1 集中, ｽﾀｼﾞｲ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｼﾞｲ
	Research Project Management【Practical】(研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｼﾞｲ
小計 (5科目)	—			1	4	0	—			1	1	0	1	0	兼0	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後	筑波大学		2		○									兼1 ｽﾀｼﾞｲ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｼﾞｲ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｼﾞｲ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｼﾞｲ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｼﾞｲ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後	筑波大学		1		○						1		集中, ｽﾀｲﾌﾟ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ
	小計 (12科目)	—		0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾟ
	Research Project (課題研究)	2後	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾟ
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1					集中
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼1 集中
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○					1		集中
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通	筑波大学		2				○	1			1		兼3 集中
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	6					○	1	2		1		兼2 集中
	小計 (9科目)	—		14	7	0	—			4	4	0	1	0	兼5
合計 (38科目)		—		20	31	0	—			4	4	0	1	0	兼12
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等							
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学	47 (19)			1 学年の学期区分		2期					
								1 学期の授業期間		15週					
(履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。				鹿屋体育大学	21 (18)			1 時限の授業時間		筑波大学 : 75分 鹿屋体育大学 : 90分					

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	講義・基礎 International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	1			○						1			オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	1			○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○			1						兼1 ｽﾃｲｱ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○			1						集中, ｽﾃｲｱ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前		1		○				1					ｽﾃｲｱ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	1			○			1				1		兼1 オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	1			○			1						ｽﾃｲｱ
小計 (8科目)	—	—	4	4	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼4	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	1			○			1	1					兼1 オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前		1		○						1			集中, ｽﾃｲｱ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○						1			兼1 集中, ｽﾃｲｱ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
小計 (5科目)	—	—	1	4	0	—	—	—	1	1	0	1	0	兼3	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後		2		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後		1		○						1			集中, ｽﾃｲｱ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイア
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイア
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経 済学I)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイア
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発 経済学II)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイア
	小計 (12科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2		
演習・ 学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際 開発学課題演習)	1・2通	4				○		2	1		1		兼1	ステイア	
	Research Project (課題研究)	2後	4				○		2	1		1		兼1	ステイア	
演習・ 学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼3	集中	
	JSC Project (JSCプロジェク ト)	1・2通		1			○		1			1		兼3	集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通		1			○		1						集中	
	International Conference and Seminar (国際カンファレン ス・セミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼1	集中	
	NGO Activities (NGO等プロ ジェクト)	1・2通		1			○					1			集中	
実践・ 母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通		2				○	1			1		兼3	集中	
実践・ 海外	On the Job Practice (International)	1・2通	6					○	1	1		1			集中	
	小計 (9科目)	—	14	7	0	—			2	1	0	1	0	兼3	—	
合計 (34科目)		—	19	28	0	—			2	1	0	1	0	兼10	—	
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)			学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必 要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成 果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目か らそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。								1 学年の学期区分		2期						
								1 学期の授業期間		15週						
								1 時限の授業時間		75分						

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻 3年制博士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	実践的教育能力育成科目																
	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1						兼1 ※演習 メ <sup>o</sup> イ	
	大学体育授業演習Ⅰ	1後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ	
	大学体育授業演習Ⅱ	2・3後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ	
	大学体育授業演習Ⅲ	2・3通	筑波大学		2			○		5	1					兼1 集中,メ <sup>o</sup> イ	
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同(一部), ホ <sup>o</sup> バ <sup>o</sup> ス,メ <sup>o</sup> イ	
	小計(5科目)	—		1	8	0		—		8	1	0	0	0		兼3	
	実践的研究能力育成科目																
	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2			○		1							メ <sup>o</sup> イ
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1				○		3							兼1 ホ <sup>o</sup> バ <sup>o</sup> ス,集中, メ <sup>o</sup> イ
体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後	鹿屋体育大学		2			○		3							兼1 共同,メ <sup>o</sup> イ	
体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前	鹿屋体育大学		2			○		3							兼1 共同,メ <sup>o</sup> イ	
体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通	鹿屋体育大学		2			○		3							兼1 共同,集中, メ <sup>o</sup> イ	
小計(5科目)	—		1	8	0		—		4	0	0	0	0		兼1		
博士論文研究基礎科目																	
博士論文課題演習Ⅰ	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1						兼1 メ <sup>o</sup> イ	
博士論文課題演習Ⅱ	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1						兼1 メ <sup>o</sup> イ	
小計(2科目)	—		4	0	0		—		8	1	0	0	0		兼1		
専門基礎科目	高度指導者教養育成科目																
	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2		○			1						集中,演習	
	国際インターンシップ*	1・2・3通	筑波大学		1			○								兼1 集中	
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1		○			1						兼8 ホ <sup>o</sup> バ <sup>o</sup> ス,メ <sup>o</sup> イ	
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1		○			3						兼1 共同(一部), ホ <sup>o</sup> バ <sup>o</sup> ス,メ <sup>o</sup> イ	
小計(4科目)	—		0	5	0		—		4	1	0	0	0		兼10		
合計(16科目)				—		6	21	0	—	8	1	0	0	0		兼12	
学位又は称号		博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等									
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)				筑波大学	17(5)	1学年の学期区分		2期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分									
				*大学院共通科目として開設している科目。													

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	実践的教育能力育成	大学体育論	1前	1			○			1					兼1	※演習 メ <sup>o</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅰ	1後		2			○		5	1				兼1	メ <sup>o</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅱ	2・3後		2			○		5	1				兼1	メ <sup>o</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅲ	2・3通		2			○		5	1				兼1	集中,メ <sup>o</sup> イ
		小計（4科目）	—	1	6	0		—		5	1	0	0	0	兼2	
育成科目	実践的研究能力	大学体育研究演習	1通		2			○		1						メ <sup>o</sup> イ
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0	0	
基礎力育成科目	博士論文研究基	博士論文課題演習Ⅰ	1通	2				○		5	1				兼1	メ <sup>o</sup> イ
		博士論文課題演習Ⅱ	2通	2				○		5	1				兼1	メ <sup>o</sup> イ
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		5	1	0	0	0	兼1	
専門基礎科目	高度指導者教養	つくばサマーインスティトゥート	1・2前		2		○				1					集中,演習
		国際インターンシップ*	1・2・3通		1			○							兼1	集中
		コーチングの哲学と倫理	1前		1		○			1					兼8	オムニバス,メ <sup>o</sup> イ
		小計（3科目）	—	0	4	0		—		1	1	0	0	0	兼9	
合計（10科目）		—	5	12	0		—		5	1	0	0	0	兼11		
学位又は称号		博士（体育スポーツ学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
（修了要件） 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位（必修） ・実践的研究能力育成科目：3単位（必修） ・高度指導者教養育成科目：1単位（必修） ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位（必修）								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		75分						
								*大学院共通科目として開設している科目。								

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学									
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6						0	6	兼19	オムニバス・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3						0	3	兼1	オムニバス
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1						0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1						0	1	兼1	集中
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2			○							0	1					1	1		
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1				3	3		共同 ※講義
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2						0	2		オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0						0	0	兼1	
小計(8科目)		—	—	—	6.5	6	0	—	—	4	2	0	5	0	11	3	1	0	0	0	4	15	兼21		
専門科目 I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7						0	7	兼5	
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1				6	6		
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○							0	3					3	3		
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8						0	8	兼5	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1				6	6		
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2				○						0	6	1				7	7		
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5				10	10		オムニバス
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3				○						0	5	1				6	6		
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2				4	4		
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2						0	2	兼1	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3				○						0	1					1	1		
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15				○						0	1					1	1		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15				○						0	2	2				4	4		
小計(13科目)		—	—	—	10	44	0	—	—	4	1	0	3	0	8	11	8	0	0	0	19	27	兼5		
専門科目 II	健康と食資源科目群 I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3						0	3		オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4						0	4		オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2				○	3	4		3		10						0	10		オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2				○	3	2	1	2		8						0	8		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2			○		3	2	1	2		8						0	8		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	
食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	集中	
小計(8科目)		—	—	—	1	12	0	—	—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	24	兼2		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考							
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計					
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員				助手に相当する教員				
健康と食資源科目群II	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			○							0	1						1	1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			○							0	3						5	5	オムニバス				
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○							0	3	2					5	5	オムニバス				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		○							0	2	2					5	5	オムニバス				
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2	オムニバス				
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2					
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					1	1					
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○							0	8	9		1			18	18	オムニバス・共同(一部)				
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○							0	1						1	1					
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○							0	1						1	1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○							0	1						1	1	※実験・実習				
小計(11科目)		—	—		7	18	0		—					0	0	0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38	
健康と食資源科目群III	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	3	5					8	8	オムニバス ※演習				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1						1	1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3					
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3					
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3	※演習				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	3					5	5					
小計(8科目)		—	—		0	12	0		—					0	0	0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27	
(研究指導)		1~2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学		—	—	—	—	—					5	1	0	0	0	0	6	37	30	0	1	0	68	74	
合計(48科目)		—	—		24.5	92	0		—					12	8	1	10	0	31	48	44	0	5	0	97	128		
学位又は称号	修士(食料健康科学)			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)																							
卒業要件及び履修方法				開設大学等	開設単位数(必修)	授業期間等																						
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学	29(10)	1学年の学期区分										2期												
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)				国立台湾大学	53(7)	1学期の授業期間										15週												
				ボルドー大学	34.5(7.5)	1時限の授業時間										筑波大学：75分 国立台湾大学：50分 ボルドー大学：120分												
				共同開設科目																								

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考						
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	申請大学					連携外国大学											
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授に 相当 員	准 教 授に 相当 員	講 師に 相当 員	助 教に 相当 員		助 手に 相当 員	小 計	合 計			
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6									兼19	オムニバス・共同(一部)	
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3									兼1	オムニバス	
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1									兼1	集中	
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1									兼1	集中	
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2										兼1	オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0										兼1	
小計(6科目)		—			5	4	0		—	4	2	0	5	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11	兼21		
専門科目I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7										兼5	
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8										兼5	
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2										兼1	
	小計(3科目)		—		4	3	0		—	4	1	0	3	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	兼5		
専門科目II	健康と食資源科目群I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3										兼1	オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4										兼1	オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2				○	3	4		3		10										兼1	オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2				○	3	2	1	2		8										兼1	オムニバス・共同(一部)
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2			○		3	2	1	2		8										兼1	オムニバス・共同(一部)
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1										兼1	オムニバス・共同(一部)
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1										兼1	オムニバス・共同(一部)
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0										兼1	オムニバス・共同(一部)
食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0										兼1	オムニバス・共同(一部)	
小計(8科目)		—			1	12	0		—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	24	兼2		
(研究指導)			1~2通	筑波大学							5	1	0	0	0	6											
合計(17科目)									—	12	8	1	10	0	31	0	0	0	0	0	0	0	31				

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員			助教に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																	
卒業要件及び履修方法				開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等																
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）				筑波大学	29 (10)	1 学年の学期区分	2 期															
				共同開設科目		1 学期の授業期間	1 5 週															
				1 時限の授業時間		7 5 分																

教育課程等の概要（国際連携学科等）																												
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（国立台湾大学）																												
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考							
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学												
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計				
基礎科目	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		○								0	1				1	1						
	小計（1科目）		—		0	2	0	—								0	1	0	0	0	0	1	1					
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1				6	6					
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1				6	6					
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2					○					0	6	1				7	7					
	フィールドと実験室の融合（台湾）		1後	国立台湾大学		3						○				0	5	1				6	6					
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3							○			0	1					1	1					
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15								○		0	1					1	1					
	小計（6科目）		—		0	26	0	—								0	6	1	0	0	0	7	7					
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅱ	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			○								0	1					1	1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			○								0	3			2		5	5	オムニバス				
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○								0	3	2				5	5	オムニバス				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		○								0	2	2		1		5	5	オムニバス				
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○								0		1		1		2	2	オムニバス				
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○								0	1	1				2	2					
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○								0		1				1	1					
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○								0	8	9		1		18	18	オムニバス・共同（一部）				
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○								0	1					1	1					
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○								0	1					1	1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○								0	1					1	1	※実験・実習				
小計（11科目）		—		7	18	0	—								0	0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38	
(研究指導)			1～2通	国立台湾大学	—	—	—	—	—	—						0	22	9	0	0	0	31	31					
合計（18科目）			—		7	46	0	—								0	0	0	0	0	0	33	22	0	5	0	60	60

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員				助教に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		
卒業要件及び履修方法				開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等																	
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）				国立台湾大学	53 (7)	1 学年の学期区分	2 期																
						1 学期の授業期間	1 5 週																
						1 時限の授業時間	5 0 分																
				共同開設科目																			

教育課程等の概要（国際連携学科等）																								
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（ボルドー大学）																								
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学								
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計
基礎科目	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1			3	3	共同 ※講義	
	小計（1科目）		—		1.5	0	0			—		0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	3	
専門科目Ⅰ	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○	○						0	3				3	3	オムニバス	
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5			10	10		
	フィールドと実験室の融合（フランス）		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2			4	4		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学						○						0	2	2			4	4		
	小計（4科目）		—		6	15	0			—		0	0	0	0	0	5	7	0	0	0	12	12	
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅲ	水性及び食源性微生物と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	3	5			8	8	オムニバス ※演習	
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1				1	1		
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1			3	3		
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3		
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3		
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3		
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1			3	3		
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	3			5	5		
	小計（8科目）		—		0	12	0			—		0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27	
	（研究指導）		1～2通	ボルドー大学	—	—	—	—	—	—						0	15	21	0	0	0	36	36	
	合計（13科目）		—		7.5	27	0			—		0	0	0	0	0	15	22	0	0	0	37	37	
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																	
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等																	
（修了要件） 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）	ボルドー大学			34.5（7.5）			1学年の学期区分			2期														
							1学期の授業期間			15週														
							1時限の授業時間			120分														
	共同開設科目																							

教育課程等の概要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程/修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	応用倫理	1・2後		1		○									兼2 集中, オムニバス
	環境倫理学概論	1・2後		1		○									兼2 集中, オムニバス
	研究倫理	1・2前		1		○									兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	生命倫理学	1・2前		1		○			3	3	1	1			兼2 オムニバス
	企業と技術者の倫理	1・2前		1		○									兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	テクニカルコミュニケーション	1・2前		1		○									兼1 ※演習, 集中
	英語発表	1・2前		1		○									兼1 ※演習, 集中
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2通		2			○		1		1				集中
	Global Communication Skills Training	1・2前		1			○								兼1 ※講義, 集中
	サイエンスコミュニケーション概論	1・2前		1		○									兼1 集中
	サイエンスコミュニケーション特論	1・2後		1		○									兼1
	サイエンスコミュニケーション養成実践講座	1・2休		2				○							兼1 集中
	人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2後		1		○									兼3 集中, オムニバス
	21世紀的中国 ー現代中国の多相ー	1・2後		1		○									兼1
	国際研究プロジェクト	1・2通		1				○							兼1
	国際インターンシップ	1・2通		1				○							兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:食料問題	1・2後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	1・2後		1		○									兼2 集中, オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会脳	1・2休		1		○			1						集中
	地球規模課題と国際社会:感染症・保健医療問題	1・2後		1		○			2			1			集中, オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会問題	1・2後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響	1・2後		1		○			1						集中
	地球規模課題と国際社会:環境・エネルギー	1・2休		1		○									兼1 集中
	JAPICアドバンスドイノベーションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2後		1				○							兼1 集中
	JAPICアドバンスドイノベーションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2前		1				○							兼1 集中
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2休		1				○				1			※講義, 集中
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2前		1				○							兼1 集中
魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2休		1					○						兼9 集中, オムニバス 共同(一部)	
アクセシビリティリーダー特論	1・2前		1				○		3	2	1			兼2 オムニバス, 共同(一部)	
脳の多様性とセルフマネジメント	1・2休		1				○		1					※演習, 集中	
生物多様性と地球環境	1・2前		1				○							兼4 ※実習, 集中, オムニバス	
内部共生と生物進化	1・2前		1					○						兼1 集中	
海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2休		1											兼2 ※講義, 集中	
科学的発見と創造性	1・2前		1				○							兼1 集中	
自然災害にどう向き合うか	1・2前		1				○							兼1	
「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2休		1				○							兼5 集中, オムニバス	
21世紀と宗教	1・2前		1				○							兼2 集中, オムニバス	
塑造実習	1・2後		1					○	1			1		隔年	
コミュニケーションアート&デザインA	1・2前		1				○		2	3		3		隔年, オムニバス	
コミュニケーションアート&デザインB	1・2後		1				○		2	2		3		隔年, オムニバス	
日本画実習	1・2前		1					○		2				隔年	
ヨーガコース	1・2前		1					○	1					※講義, 集中	
絵画実習A	1・2前		1					○		1				隔年	
現代アート入門	1・2前		1				○		1					隔年	
大学院体育Ia	1・2通		1					○	3	1					
大学院体育Ib	1・2前		1					○	2					兼1	
大学院体育Ic	1・2後		1					○	1	2					
大学院体育IIa	1・2通		1					○	3	1					
大学院体育IIb	1・2前		1					○	2					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	大学院体育IIc	1・2後		1				○	1	2						
	大学院体育IIIa	1・2通		1				○	3	1						
	大学院体育IIIb	1・2前		1				○	2						兼1	
	大学院体育IIIc	1・2後		1				○	1	2						
	大学院体育IVa	1・2通		1				○	3	1						
	大学院体育IVb	1・2前		1				○	2						兼1	
	大学院体育IVc	1・2後		1				○	1	2						
	大学院体育Va	1・2通		1				○	3	1						
	大学院体育Vb	1・2前		1				○	2						兼1	
	大学院体育Vc	1・2後		1				○	1	2						
	小計 (59科目)	—	0	61	0			—	20	16	3	10	0	兼46	—	
学術院 共通 専門 基盤 科目	研究のビジュアルデザイン	1・2前		1				○	1		2					オムニバス
	スポーツ芸術表現学への招待	1・2後		1			○		3	2					兼2	オムニバス
	世界遺産を科学する	1・2後		1			○		5	2		2			兼1	オムニバス
	研究者のための学術情報流通論	1前		1			○		1						兼1	オムニバス
	音響メディア情報	1後		1			○		1	1		1			兼1	オムニバス
	こころの神経科学	1・2通		1			○		4	3		2			兼1	オムニバス
	人間総合科学基礎論	1・2前		1				○	2							
	武道学	1・2前		1				○			1					
	健康増進学特講	1・2前		1				○			1					
	トレーニング学	1通		2				○			2					共同
	Olympic and Paralympic History (オリンピック・パラリンピック史)	1後		1				○			1					
	心理統計学特講	1・2前		2				○					1			
	社会医学概論	1前		2				○		8	3		7			オムニバス
	医科学セミナーI(ブレインサイエンス)	1・2通		1				○		1						
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1				○		1						
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1				○			1					
	医科学セミナーIV(プライマリケア)	1・2通		1				○		1	1					
	医科学セミナーVII(臨床研究セミナー)	1・2通		1				○		1						
	医科学セミナー基礎	1・2通		1				○		1		1				
	神経科学先端セミナー	1・2通		1				○			1		1			
	教育学理論研究	1・2前		1				○		2	3					
	次世代教育開発研究	1・2前		1				○		10	4					兼1
	Theory of International Education Research Foundation	1・2後		1				○			1		2			
情報アクセス	1後		2					○	1	3		1			オムニバス	
大学を開くデザインプロデュース A	1・2後		2					○	2	1					オムニバス	
大学を開くデザインプロデュース B	1・2前		1					○		4					共同	
大学を開くデザインプロデュース C	1・2前		1					○		4					共同	
1・2後	1		1					○		4					共同	
小計 (28科目)	—	0	33	0			—		43	33	2	16	7	兼7	—	
教育学 関連 科目	専門 基礎 科目	日本教育史特講	1・2通	2				○		1						
		日本教育史演習	1・2通	2				○			1					
		教育哲学特講	1・2通	2				○					1			
		教育哲学演習	1・2通	2				○					1			
		生涯学習・社会教育学特講	1・2通	2				○			1					
		生涯学習・社会教育学演習	1・2通	2				○			1					
		教育制度学特講	1・2通	2				○		1						
		教育制度学演習	1・2通	2				○		1						
		学校経営学特講	1・2通	2				○		1						
		学校経営学演習	1・2通	2				○			1					
		比較・国際教育学特講	1・2通	2				○				1		1		
		比較・国際教育学演習	1・2通	2				○					1			
		道德教育学特講	1・2通	2				○			1					
		道德教育学演習	1・2通	2				○			1					
		カリキュラム論特講	1・2通	2				○			1					
		カリキュラム論演習	1・2通	2				○			1					
		教育方法学特講	1・2通	2				○			1					
		教育方法学演習	1・2通	2				○			1					
		キャリア教育学特講	1・2通	2				○			1					
		キャリア教育学演習	1・2通	2				○			1					
		教育社会学特講	1・2通	2				○					1			
		教育社会学演習	1・2通	2				○					1			
		高等教育論特講	1・2通	2				○				1				
高等教育論演習	1・2通	2				○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	特別活動学特講	1・2通		2		○							1		
	特別活動学演習	1・2通		2			○						1		
	学校教育論	1・2後		2		○			1						
	学校心理学	1・2前		2		○				1					
	スクールリーダーシップ論	1・2前		2		○			1						
	青年の発達	1・2前		2		○			1						
	国際・多文化教育論	1・2後		2		○							1		
	生涯学習論	1・2前		2		○				1					
	道徳と人権	1・2後		2		○				1					
	心理教育的アセスメント	1・2前		2				○							兼1
	スクールカウンセリング実習I	1・2通		2				○	1						
	スクールカウンセリング実習II	1・2前		2				○	1						
	学校の社会学	1・2前		2		○						1			
	学校安全と危機管理	1・2前		2			○								兼1
	学校経営事例研究	1・2前		2		○				1					
	学習指導と授業	1・2後		2		○			1						
	学習と学級の心理	1・2後		2		○									兼1
	学校臨床心理	1・2後		2		○			1						
	教育臨床学特講	1・2通		2		○			1						
	教育臨床学演習	1・2通		2			○		1						
	国語科教育学a	1・2前		1		○			1						
	国語科教育学b	1・2後		1		○			1						
	国語科教育史研究 a	1・2前		1		○			1						
	国語科教育史研究 b	1・2後		1		○			1						
	国語科教育実践論研究 a	1・2前		2			○				1				
	国語科教育実践論研究 b	1・2後		1			○				1				
	表現教育論a	1・2前		1		○					1				
	表現教育論b	1・2後		1		○					1				
	文学教育論a	1・2前		1		○									兼1
	文学教育論b	1・2後		1		○									兼1
	古典教育論 a	1・2前		1		○									兼1
	古典教育論 b	1・2後		1		○									兼1
	国語科リテラシー教育論 a	1・2前		1		○									兼1
	国語科リテラシー教育論 b	1・2後		1		○									兼1
	国語教育特講	1・2後		1		○				1					
	国語科研究法	1・2通		3		○			1						兼1
	国語科研究法演習	1・2通		3			○				1				兼1
	社会日本語論 I a	1・2前		1		○									兼1
	社会日本語論 I b	1・2後		1		○									兼1
	社会日本語論 II a	1・2前		1		○									兼1
	社会日本語論 II b	1・2後		1		○									兼1
	古典日本語論 I a	1・2前		1		○									兼1
	古典日本語論 I b	1・2後		1		○									兼1
	古典日本語論 II a	1・2前		1		○									兼1
	古典日本語論 II b	1・2後		1			○								兼1
	現代日本語論 I a	1・2前		1		○									兼1
	現代日本語論 I b	1・2後		1		○									兼1
	現代日本語論 II a	1・2前		1		○									兼1
	現代日本語論 II b	1・2後		1		○									兼1
	日本文学研究 I a	1・2前		1		○									兼1
	日本文学研究 I b	1・2後		1			○								兼1
	日本文学研究 II a	1・2前		1		○									兼1
	日本文学研究 II b	1・2後		1			○								兼1
	日本文学演習 I a	1・2前		1			○	○							兼1
	日本文学演習 I b	1・2後		1			○	○							兼1
	日本文学演習 II a	1・2前		1			○	○							兼1
	日本文学演習 II b	1・2後		1			○	○							兼1
	日本文学表現論a	1・2前		1		○									兼1
	日本文学表現論b	1・2後		1			○								兼1
	中国学研究a	1・2前		1			○	○							兼1
	中国学研究b	1・2後		1			○	○							兼1
	中国文学演習 a	1・2前		1			○	○							兼1
	中国文学演習 b	1・2後		1			○	○							兼1
	社会科教育学特講	1・2通		2		○			1						
	社会科教育学内容論 (地理歴史)	1・2前		3		○			2	1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	社会科教育学内容論 (公民)	1・2前		3		○			2	1					
	社会科教育学実践論 (地理歴史)	1・2後		3			○		2	1					
	社会科教育学実践論 (公民)	1・2後		3			○		2	1					
	地理教育特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						隔年
	地理教育特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						隔年
	地理教育特講Ⅲ	1・2通		1		○			1						
	地理教育演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						隔年
	地理教育演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						隔年
	地理教育演習Ⅲ	1・2通		1			○		1						
	歴史教育特講Ⅰ	1・2前		1		○				1					隔年
	歴史教育特講Ⅱ	1・2後		1		○				1					隔年
	歴史教育特講Ⅲ	1・2通		1		○				1					
	歴史教育演習Ⅰ	1・2前		1			○			1					隔年
	歴史教育演習Ⅱ	1・2後		1			○			1				兼2	隔年
	歴史教育演習Ⅲ	1・2通		1			○			1				兼2	
	歴史教育学特講	1・2後		2				○		1					
	公民教育特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						隔年
	公民教育特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						隔年
	公民教育特講Ⅲ	1・2通		1		○			1						
	公民教育演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						隔年
	公民教育演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						隔年
	公民教育演習Ⅲ	1・2通		1			○		1						
	人文地理学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	人文地理学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	人文地理学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	人文地理学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	自然地理学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	自然地理学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	地理学野外実験	1・2後		3				○	1					兼2	
	日本史特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	日本史特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	日本史演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	日本史演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	民俗学実習	1・2後		3				○						兼1	
	考古学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	考古学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	考古学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	考古学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	考古学実習	1・2前		3				○						兼1	
	社会学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	社会学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	社会学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	社会学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	政治学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	政治学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	政治学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	政治学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	経済学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	経済学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	経済学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	経済学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	法律学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼2	隔年
	法律学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼2	隔年
	法律学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼2	隔年
	法律学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼2	隔年
	哲学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	哲学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	哲学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	哲学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年
	倫理学特講Ⅰ	1・2前		1		○								兼1	隔年
	倫理学特講Ⅱ	1・2後		1		○								兼1	隔年
	倫理学演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	隔年
	倫理学演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	基礎数理学A	1・2前		1		○									兼5
	基礎数理学B	1・2後		1		○									兼5
	基礎数理学C	1・2後		1		○									兼5
	総合数理学A	1・2前		1			○								兼5
	総合数理学B	1・2後		1			○	○							兼5
	総合数理学C	1・2後		1				○							兼5
	現代数学基礎A	1・2前		1		○									兼4
	現代数学基礎B	1・2後		1		○									兼4
	現代数学基礎C	1・2後		1		○									兼4
	現代数学特別研究A	1・2前		1				○							兼4
	現代数学特別研究B	1・2後		1				○	○						兼4
	現代数学特別研究C	1・2後		1				○	○						兼4
	現代数学特別研究D	1・2前		1				○	○						兼4
	現代数学特別研究E	1・2後		1				○	○						兼4
	現代数学特別研究F	1・2後		1					○						兼4
	数学教育研究方法論	1・2前		2		○				1					
	数学教育学習論	1・2後		2		○				1					
	数学教育カリキュラム論	1・2後		2		○					1				
	数学教育内容論	1・2前		2		○				1					
	数学教育実践論演習(代数・幾何)	1・2前		2				○			1				
	数学教育実践論演習(解析・確率統計・ICT利用)	1・2後		2					○	1					
	理科教育基礎論	1前		2		○						1			
	理科教育学演習	1後		2				○				1			
	理科教育学習論	1・2前		1		○									兼1
	理科教育研究方法論	1通		1		○									兼1
	理科教育実践演習	1・2後		1				○				1			
	基礎物理学1	1・2前		1		○									兼1
	基礎化学1	1・2前		1		○									兼4
	基礎生物学1	1・2前		1		○									兼3
	基礎地学1	1・2前		1		○									兼2
	基礎物理学2	1・2後		1		○									兼1
	基礎化学2	1・2後		1		○									兼4
	基礎生物学2	1・2後		1		○									兼3
	基礎地学2	1・2前		1		○									兼2
	理科教育実験1	1・2前		2					○						兼4
	理科教育実験2	1・2後		2					○	○					兼4
	物理学教育実験	1・2後		1					○	○					兼1
	化学教育実験	1・2後		1					○	○					兼2
	生物学教育実験	1・2前		1					○	○					兼6
	地学教育実験	1・2前		1					○	○					兼2
	地学教育野外実験1	1・2前		1					○	○					兼1
	地学教育野外実験2	1・2前		1					○	○					兼1
	理科野外実習インターンシップ	1・2前		2					○	○					兼1
	物理学特講	1・2通		1		○									兼1
	化学特講	1・2前		1		○									兼4
	生物学特講	1・2通		1		○									兼2
	地学特講	1・2後		1		○									兼1
	理科教育学特講	1・2後		1		○									兼1
	英語教育研究方法論	1・2前		2		○						1			隔年
	英語教育学習論	1・2後		2		○						1			隔年
	英語教育内容論	1・2前		2		○						1			隔年
	英語教育実践論	1・2後		2		○						1			隔年
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○				1					隔年
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○				1					隔年
	芸術科教育実践論演習A	1・2前		1				○		1					隔年
	芸術科教育実践論演習B	1・2後		1				○		1					隔年
	芸術鑑賞論A-1	1・2前		1		○				1					隔年
	芸術鑑賞論A-2	1・2後		1		○				1					隔年
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○				1					隔年
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○				1					隔年
	保健体育教育内容論	1・2通		3		○						1			
	保健体育教育実践論演習Ⅰ	1後		1				○				1			
	保健体育教育実践論演習Ⅱ	2前		1				○				1			
	保健体育教育実践論演習Ⅲ	2前		1				○				1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	保健体育カリキュラム論	1・2前		1		○				1					
	保健体育授業づくり論	1・2後		1		○				1					
	Education and an Interconnected World	1・2前		2		○						1			
	Research Methodology	1・2前		1		○						1			
	Research Design and Methods	1・2前		2		○						1			
	Pedagogy for a Changing World I	1・2前		2		○						2			
	Pedagogy for a Changing World II	1・2後		2		○						2			
	Assessment for Learning I	1・2前		2		○				1		1			
	Assessment for Learning II	1・2後		2		○				1		1			
	Curriculum as Process I	1・2前		2		○				1		1			
	Curriculum as Process II	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Primary Years Programme	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Middle Years Programme	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Diploma Programme	1・2後		2		○				1		1			
	Professional Learning and Reflective Practice	1・2前		1		○				1		1			
	Field Research	1・2前		1			○			1		2			
	国際理解教育論	1・2後		2		○						1			
	グローバル化と教育	1・2後		2		○						1			
	国際教育開発論	1・2前		2		○						1			
	国際教育協力論	1・2前		2		○						1			
	教員養成の国際比較	1・2前		2		○						1			
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	1・2前		1		○						2			
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	1・2前		2		○			1	1		1			
	初等国語特講A	1・2前		1		○									兼2
	初等国語特講B	1・2後		1		○				1					兼1
	初等社会特講	1・2前		1		○			2	1					
	初等数学特講	1・2後		1		○				1					
	初等理科特講	1・2後		1		○									兼1
	初等英語特講	1・2後		1		○						1			
	初等図画工作特講	1・2後		1		○			1						
	初等体育特講	1・2後		1		○				1					
	小計 (249科目)		0	348	0	-			14	11	0	9	0	兼50	
専門科目	教育学研究Ⅰ	1通		3				○		6	4		4		
	教育学研究Ⅱ	2通		3				○		6	4		4		
	教育学研究Ⅲ	2通		3				○		6	4		4		
	次世代教育研究Ⅰ	1通		3				○		7	3		2		
	次世代教育研究Ⅱ	2通		3				○		7	3		2		
	次世代教育研究Ⅲ	2通		3				○		7	3		2		
	国語教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1	1				兼1
	国語教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1	1				兼1
	国語教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1	1				兼1
	地理教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1					兼2
	地理教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1					兼2
	地理教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1					兼2
	歴史教育学研究Ⅰ	1通		3				○			1				兼2
	歴史教育学研究Ⅱ	2通		3				○			1				兼2
	歴史教育学研究Ⅲ	2通		3				○			1				兼2
	公民教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1					兼3
	公民教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1					兼3
	公民教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1					兼3
	数学教育学研究Ⅰ	1通		3				○		2	1				兼9
	数学教育学研究Ⅱ	2通		3				○		2	1				兼9
	数学教育学研究Ⅲ	2通		3				○		2	1				兼9
	理科教育学研究Ⅰ	1通		3								2			兼17
	理科教育学研究Ⅱ	2通		3								2			兼17
	理科教育学研究Ⅲ	2通		3								2			兼17
	英語教育学研究Ⅰ	1通		3				○				1			
	英語教育学研究Ⅱ	2通		3				○				1			
	英語教育学研究Ⅲ	2通		3				○				1			
	芸術科教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1					
	芸術科教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	芸術科教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1							
	保健体育教育学研究Ⅰ	1通		3				○			1						
	保健体育教育学研究Ⅱ	2通		3				○			1						
	保健体育教育学研究Ⅲ	2通		3				○			1						
	国際教育学研究Ⅰ	1通		3				○		1	2		3				
	国際教育学研究Ⅱ	2通		3				○		1	2		3				
	国際教育学研究Ⅲ	2通		3				○		1	2		3				
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	1通		3				○		1	2		3				
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	2通		3				○		1	2		3				
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	2通		3				○		1	2		3				
	小計 (39科目)	—	0	117	0			—		14	9	0	9	0	兼44	—	
心理学関連科目	基礎科目	心理学方法論Ⅰ	1前		2			○		3	4		1		兼2	オムニバス	
		心理学方法論Ⅱ	1後		2			○		4	4		2		兼2	オムニバス	
		心理学特別研究A	2前		2					5	3		2		兼1		
		心理学特別研究B	2後		2				○	5	3		2		兼1		
		心理学特別研究S	2通		2				○	5	3		2		兼1		
		心理学先端研究1	1・2通		1				○						兼1	集中	
		心理学先端研究2	1・2通		1				○						兼1	集中	
		心理学キャリア形成	1・2通		1				○						兼1	集中	
		心理学インターンシップ	1・2通		1					○	5	2		2		兼1	
		小計 (9科目)	—	0	14	0			—		8	6	0	2	0	兼5	—
専門科目	心理基礎科学共通科目	心理基礎科学演習Ⅰ	1前		2			○		2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習Ⅱ	1後		2			○		2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習Ⅲ	2前		2				○	2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習Ⅳ	2後		2				○	2	2		2		兼1		
		心理統計学基礎	1・2前		2				○		1						
		心理基礎科学英語1	1・2前		1				○	2	2		2		兼1		
		心理基礎科学英語2	1・2後		1				○	2	2		2		兼1		
心理基礎科学領域専門科目	感覚知覚心理学特講	1・2後		2				○	1								
	心理学と認知支援工学特論	1・2後		2				○						兼1			
	認知心理学特講	1・2後		2				○	1								
	学習心理学特講	1・2後		2				○						兼1			
	教育心理学特講	1・2前		2				○		1		1					
	行動デザイン特講	1・2後		2				○									
	青年心理学特講	1・2後		2				○	1								
	社会心理学特講	1・2前		2				○							兼1		
	臨床社会心理学特講 (心の健康教育に関する理論と実践)	1・2後		2				○			1						
	小計 (16科目)	—	0	30	0			—		3	3	0	2	0	兼3	—	
心理臨床学共通科目	臨床心理学特講Ⅰ	1前		2				○	1								
	臨床心理学特講Ⅱ	1後		2				○	1								
	臨床心理面接特講Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	1前		2				○		1							
	臨床心理面接特講Ⅱ	1前		2				○	1								
	臨床心理基礎実習	1通		2					3	1		4		兼1	共同		
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習ⅡC)	2前		2					2	1		4		兼1	共同		
	臨床心理実習Ⅱ	2後		2					1	1		4		兼1	共同		
	発達臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習ⅡD)	2前		2					2						共同		
	発達臨床心理実習Ⅱ	2後		2					2						共同		
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1通		2					○	1							
臨床心理査定演習Ⅱ	2前		2					○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理臨床学領域専門科目	児童臨床心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		2		○			1						隔年
	発達臨床心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2後		2		○			1						隔年
	アセスメント心理学特講I	1・2前		2		○			1						隔年
	アセスメント心理学特講II	1・2後		2		○			1						隔年
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		1		○			1		1				
	神経心理学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2後		1		○				1					隔年
	産業臨床心理学特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y）	1・2前		2		○				1					
	学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Z）	1・2前		2		○				1					
	老年心理学特講	1・2前		2		○				1					
	キャリアカウンセリング特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		2		○				1					
	非行・犯罪心理学（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○				1		1	2		
	臨床心理家族・地域援助特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後		2		○				1			1		隔年
	心理実践実習 I A	1前		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 I B	1後		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 II A	2前		2				○	3	1			3		
	心理実践実習 II B	2後		2				○	3	1			3		
心理臨床 I	1・2前		1		○									兼1	
心理臨床 II	1・2後		1		○									兼1	
小計（29科目）		—	0	54	0	—	—	8	4	1	4	0	兼2	—	
障害科学関連科目	基礎科目														
	障害科学調査・実験実習 I	1前		1				○							共同
	障害科学調査・実験実習 II	1後		1				○	8		1	1			共同
	障害科学研究法 I	2通		1				○	8						
	障害科学研究法 II	2通		1				○	8						
	障害科学研究法 III	2通		1				○	8						
	海外特別研修セミナー	1・2通		2			○		2						共同
障害科学講究	1通		1			○			2					共同	
小計（7科目）		—	0	8	0	—	—	8	3	1	1	0	0	—	
専門科目（共通）	特別支援教育総論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	視覚障害教育学	1・2後		2		○				1					オムニバス
	視覚障害指導法	1・2後		2		○				1		1			オムニバス
	視覚障害心理学	1・2前		2		○				1					
	視覚障害病態生理学	1・2前		2		○			1						
	肢体不自由教育学	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由指導法	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由心理学	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由病態生理学	1・2後		1		○			1						
	障害児教育課程論	1・2後		1		○				1					
	知的障害教育学	1・2前		1		○				1					
	知的障害指導法	1・2後		1		○				1					
	知的障害心理学	1・2前		1		○				1					
	知的障害病態生理学	1・2前		1		○				1					兼1
	聴覚障害指導法	1・2通		2		○			1	1					オムニバス
	重複障害指導法	1・2後		1		○			1	1					オムニバス
	特別支援学校教育実習	1・2通		3				○		4					
	発達・行動・言語障害指導法	1・2前		1		○			2	1					オムニバス
	発達・行動障害生理・心理学	1・2前		1		○			1	1					オムニバス
	言語障害生理・心理学	1・2前		1		○				1					
	病弱教育学	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱指導法	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱心理学	1・2前		1		○			1						兼1 隔年, オムニバス
	病弱病態生理学	1・2前		1		○			1						
聴覚障害教育学	1・2後		2		○			1	1					オムニバス	
聴覚障害心理学	1・2前		2		○			1	1					オムニバス	
聴覚障害病態生理学	1・2前		2		○			1							
知的・発達障害心理学特講	1・2後		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	知的・発達障害指導法特講	1・2前		2		○			1	1				オムニバス ※講義 兼1 隔年,オムニバス  オムニバス 隔年 オムニバス 共同  オムニバス	
	行動障害指導法特講	1・2後		2			○		1						
	臨床発達心理学	1・2前		2		○									
	教育臨床発達援助論	1・2前		2		○			2						
	行動問題面接指導法特講	1・2前		2		○			1						
	臨床発達心理査定法特講	1・2前		2		○			2	1					
	行動臨床心理学	1・2前		2		○			1						
	障害学生支援学特講	1・2前		1		○			1	2	1				
	障害学生支援学演習	1・2後		1			○		1	1	1				
	特別支援教育学	1・2前		1		○				1					
	Special Lecture on Disability Sciences	1・2前		1		○			1			1			
専門科目	視覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			1	2		1		オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同(一部) オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同  オムニバス オムニバス 共同 共同	
	視覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			1	2		1			
	視覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	3		1			
	視覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	3		1			
	視覚障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1	3		1			
	聴覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			2	1					
	聴覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			2	1					
	聴覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		2	1					
	聴覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		2	1					
	聴覚障害学演習Ⅲ	2通		3			○		2	1					
	運動障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	運動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	運動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	病弱特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	病弱特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	病弱演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			3	3					
	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			3	3					
	知的・発達・行動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		3	3					
	知的・発達・行動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		3	3					
	知的・発達・行動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		3	3					
	言語障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○				1					
	言語障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○				1					
	言語障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○			1					
	言語障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○			1					
	言語障害学演習Ⅲ	2通		3			○			1					
	障害福祉学特講Ⅰ	1・2前		1		○					1	2			
	障害福祉学特講Ⅱ	1・2後		1		○					1	2			
	障害福祉学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1	1	2			
	障害福祉学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	1	1	2			
障害福祉学演習Ⅲ	2通		3			○		1	1	1	2				
障害原理論特講Ⅰ	1・2前		1		○				1						
障害原理論特講Ⅱ	1・2後		1		○				1						
障害原理論演習Ⅰ	1・2通		1			○			1						
障害原理論演習Ⅱ	1・2通		1			○			1						
障害原理論演習Ⅲ	2通		3			○			1						
理療科教育特講Ⅰ	1・2前		1		○				1	1					
理療科教育特講Ⅱ	1・2後		1		○				1	1					
理療科教育演習Ⅰ	1・2通		1			○			1	1					
理療科教育演習Ⅱ	1・2通		1			○			1	1					
理療科教育演習Ⅲ	2通		3			○			1	1					
小計(84科目)		—	0	121	0	—	—	—	11	10	1	3	0	兼3	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
フロンティア医学関連科目	基礎科目	人体構造学概論	1前	2		○			1		1	1			○	オムニバス	
		人体構造学実習	1・2前	1					1	1						○	オムニバス
		臨床医学概論	1後	2		○			8	1	2						オムニバス
		医科学特講	1・2前	1		○			1								
		医情報処理学特論	1前	1		○			1								
		医学英語I	1前	1		○				1							
		医学英語II	1後	1		○				1							
		研究マネジメント基礎	1前	1			○		1								※講義
		医科学特別演習	2通	8			○	○	59	9	1	2					兼2
		インターンシップI	1・2通	1			○	○	60	55	37	34					兼3
		インターンシップII	1・2通	1			○	○	60	55	37	34					兼3
		基礎医科学演習	1通	3			○	○	83	59	35	27					兼5
		留学生セミナー	1・2通	1			○		1								
		医科学セミナーV(キャリアパス)	1・2通	1			○		1	1	3	2					
		医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通	2			○		2			1					
		人体生理学特論	1前	1		○			2			3					オムニバス
		生化学特論	1前	1		○			2	2	2	1					オムニバス
		国際実践医科学研究特論I	1・2通	1		○			1	1		1					
	国際実践医科学研究特論II	1・2通	2		○			1	1		1						
	国際実践医科学研究特論III	1・2通	3		○			1	1		1						
	小計(20科目)	—	0	35	0	—	—	86	63	37	34	0	兼5	—			
専門基礎科目	人体病理学概論	1前	2		○			2	2	1						オムニバス	
	実験動物科学特論・同実習	1前	2		○			1									
	内科学概論	1前	2		○			9	5	2						オムニバス	
	外科学概論	1前	1		○			5	4							オムニバス	
	ライフサイエンスにおける病態生化学	1後	2		○			4	3							兼1	
	臨床検査総論	1・2後	1		○			2	1	3						オムニバス	
	English Discussion & Presentation I	1・2前	2				○	1									
	English Discussion & Presentation II	1・2後	2				○	1									
	神経科学特論	1・2前	1		○			2	3		1					オムニバス	
	神経科学英語	1後	2		○						1						
	神経回路	1後	3		○						1						
	認知神経科学	1後	3		○						1						
	分子細胞神経生物学	1後	3		○						1						
	Scientific Ethics	1・2前	1		○						1						
	Scientific Critical Reading & Analysis	1・2前	1		○						1						
小計(15科目)	—	0	28	0	—	—	—	23	17	6	3	0	兼1	—			
専門科目	機能形態学特論・同実習	1前	2		○			1		1	2					オムニバス	
	腫瘍学	1後	2		○			9	3	1						オムニバス	
	薬理学	1前	1		○			2	1	3	2					オムニバス	
	ゲノム医学概論	1・2後	2		○			7	1	2	1					オムニバス	
	工学概論	1前	1		○					2						兼1	
	放射線医科学特論	1後	2		○			3	1		2					オムニバス	
	精神医学概論	1後	1		○			2	3	1						オムニバス	
	臨床老年病学	1後	1		○				1	2						オムニバス	
	臨床薬理学特論	1後	1		○			1	1	1						オムニバス	
	橋渡し研究概論	1前	2		○			2	2							オムニバス	
	創薬フロンティア科学	1・2後	1		○			1									
	ヒトの感染と免疫	1前	2		○			1	4	2	1					オムニバス	
	Stem cell therapy	1前	1		○			1									
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1後	1		○			1									
	適正技術教育	1・2通	3		○			1									
	医学物理学詳論IA	1前	2		○			2	1		1					オムニバス	
	医学物理学詳論IB	1後	2		○			2			2					オムニバス	
	医学物理学詳論II	1後	2		○			2	1		1					オムニバス	
	医学物理学詳論III	1後	2		○			2	1							オムニバス	
	医学物理学詳論IV	1後	2		○			2	1		1					オムニバス	
	医学物理学詳論V	1後	2		○			4	1							オムニバス	
	医学物理問題解決型演習	1前	1			○		2	1							オムニバス	
	医学物理問題解決型実習	1後	1				○	2	1							オムニバス	
	環境医学概論	1・2後	2		○			1									
小計(24科目)	—	0	39	0	—	—	—	27	18	14	8	0	兼1	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生学関連科目	基礎科目	疫学概論	1前	1		○			1			1			オムニバス
		疫学統計学概論	1前	1		○			1	1					共同
		疫学統計学実習	1前	1				○	1	1					共同
		公衆衛生学特別演習	2通	8				○	11	4					
		疫学・生物統計学セミナー	1通	2				○	2			1			共同
		量的研究の批判的評価法	1前	1			○						1		
		システムティックレビュー・メタアナリシス入門	1後	2			○						1		
	小計(7科目)	—	0	16	0	—	—	11	5	0	2	0	0	—	
	専門科目	健康行動科学論	1・2後	1			○			2	2		3		オムニバス
		疫学特論	1・2後	2			○			1			1		オムニバス
		臨床試験論	1・2後	1			○			2			1		オムニバス
		ヘルスプロモーション	1・2後	1			○			1					
		環境保健学	1・2前	1			○								兼1
		疫学統計学特論	1・2後	2			○			1	1				共同
保健医療政策学		1・2後	1			○			1						
医療管理学		1・2後	1			○			1						
医療経済学		1・2後	1			○			1						
ヘルスサービスリサーチ概論		1・2前	1			○			1			1		オムニバス	
精神保健学		1・2前	1			○			1	1		1		オムニバス	
高齢者ケアリング学特論		1・2前	1			○				1		1		オムニバス	
小計(12科目)	—	0	14	0	—	—	7	4	0	6	0	兼1	—		
ニューロサイエンス関連科目	基礎科目	Seminar for Career Development/キャリアプランセミナー	1前		1			○	7	12	2	7		兼7 共同	
		小計(1科目)	—	0	1	0	—	7	12	2	7	0	兼7	—	
	専門基礎科目	Introduction to Neuroscience A/神経科学基礎論A	1前		2		○			3	2	1	1		兼3 共同(一部)
		Introduction to Neuroscience B/神経科学基礎論B	1前		2		○			2	2		5		オムニバス 共同(一部)
		Introduction to Neuroscience C/神経科学基礎論C	1前		2		○			1	4		1		兼2 共同
		Introduction to Neuroscience D/神経科学基礎論D	1前		2		○			2	4	1			兼2 共同(一部)
		Research Proposal Writing in English 1/基礎科学英語1	1・2通		2			○		1	2				共同
		Research Proposal Writing in English 2/基礎科学英語2	2通		2			○		1	2				共同
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	7	12	2	7	0	兼7	—	
	専門科目	Neuroscience Laboratories A/神経科学実験・実習A	1前		1				○	2	3	1	3		兼3 共同
		Neuroscience Laboratories B/神経科学実験・実習B	1前		1				○	2	1		4		共同
		Neuroscience Laboratories C/神経科学実験・実習C	1前		1				○	2	4				兼1 共同
		Neuroscience Laboratories D/神経科学実験・実習D	1前		1				○	2	4	1			兼2 共同
		English journal Club 1/英語ジャーナルクラブ1	1・2通		2			○					2		共同
English journal Club 2/英語ジャーナルクラブ2		2通		2			○					2		共同	
Neuroscience Research seminar 1/神経科学先端セミナー1		1・2通		1		○				1		1		共同	
Neuroscience Research seminar 2/神経科学先端セミナー2		2通		1		○				1		1		共同	
Translational Neuroscience Internship/実践的神経科学インターンシップ		1・2通		3				○		2					兼1 共同, 集中
Neuroscience Thesis Research 1/修士論文研究指導1		1前		2				○	7	10		2			兼5
Neuroscience Thesis Research 2/修士論文研究指導2		1後		2				○	7	10		2			兼5
Neuroscience Thesis Research 3/修士論文研究指導3		2前		2				○	7	10		2			兼5
Neuroscience Thesis Research 4/修士論文研究指導4	2後		2				○	7	10		2			兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小計 (13科目)	—	0	21	0	—	—	—	7	12	2	7	0	兼7	—
看護科学関連科目	看護科学論	1前		2		○			3	2		3			オムニバス
	看護コミュニケーション論	1前		2		○			2	2		1			オムニバス
	看護コンサルテーション論	1前		2		○			2						オムニバス
	看護学研究法	1前		3		○			2			3			オムニバス
	保健統計学	1前		2		○			1	1		1			オムニバス
	国際看護学	1後		2		○			1						
	看護倫理学	1前		2		○			3	2		2			オムニバス
	看護教育論	1前		2		○			2			1			オムニバス
	フィジカルアセスメント	1前		2			○		2			4			オムニバス
	病態生理学	1前		2		○			1			2			オムニバス
	臨床薬理学	1前		2		○			2	1		2			オムニバス
	看護教育学	1前		2		○			2	1					オムニバス
	地域母子保健論	1前		1		○			1	1		2			オムニバス
	女性と健康	1前		2		○			2	1					オムニバス
	女性の精神保健学	1前		1		○			2			2			オムニバス
	生殖生命倫理学	1前		2		○			4	1		1			オムニバス
	周産期のフィジカルアセスメント	1前		1			○		1	2		1			オムニバス
小計 (17科目)	—	0	32	0	—	—	—	11	7	0	11	0	0	—	
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	1・2前		2		○			4	1		4			オムニバス
	国際保健・公衆衛生看護学演習	1後		2			○		3	1		4			オムニバス
	ウイメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			1	1		1			共同
	ウイメンズヘルス看護学演習I	1前		2			○		1	1		1			オムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習II	1後		2			○		1	1		1			オムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習III	1後		3			○		1	1		1			オムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習IV	2前		3			○		1	1		1			オムニバス
	助産学特論I	1前		2		○			1	1					
	助産学演習I	1前		2			○			1		1			オムニバス
	助産学特論II	1前		2		○			1	1		1			オムニバス
	助産学演習II	1前		2			○			1		1			オムニバス
	助産学特論III	2前		1		○			1						
	助産学演習III	2前		1			○		1	1		1			共同
	助産学実習I	1後		8					1	1		1			共同
	助産学実習II	1・2通		3					1	1		1			共同
	発達支援看護学特論	1前		2		○				1		1			共同
	家族看護学特論	1前		2		○				1		1			共同
	家族看護学演習	1後		2			○			1		1			共同
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	1後		2			○		2	2		3			オムニバス
	家族生活アセスメント学	1前		2		○			2	2		3			オムニバス
	家族アセスメント/インターベンション学	1前		2		○				3		5			オムニバス
	家族看護実践学	1後		2		○				1		1			オムニバス
	家族看護学基盤実習	1後		2						1		1			共同
	家族看護学展開実習	1後		4						1		1			共同
	家族看護学統合実習	2通		2						1		1			共同
	がん看護学特論I	1前		2		○			1			2			オムニバス
	がん看護学演習I	1後		2			○		1			2			オムニバス
	がん看護学特論II	1後		2		○			1			2			オムニバス
	がん看護学演習II	1後		2			○		1			2			共同
	がん看護学特論III	1後		2		○			1			3			オムニバス
	基礎腫瘍学特論	1前		1		○			1			2			オムニバス
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○			1			2			オムニバス
	緩和ケア特論	1後		2		○			1			2			オムニバス
	がん看護学実習I	1後		2					1			2			共同
	がん看護学実習II	2前		4					1			2			共同
	がん看護学実習III	2前		2					1			2			共同
	精神保健看護学特論	1・2前		2		○			1			1			共同
精神保健看護学演習	1後		2			○		1			1			オムニバス	
精神看護学特論I	1前		2		○			1			1			共同	
精神看護学特論II	1後		2		○			1			1			オムニバス	
精神看護学特論III	1後		2		○			1			1			共同	
精神看護学演習I	1後		2			○		1			1			共同	
精神看護学演習II	1後		2			○		1			1			共同	
精神看護学実習I	1後		4					1			1			共同	
精神看護学実習II	2前		4					1			1			共同	
慢性看護学特論I	1前		2		○			1	2		2			オムニバス, 共同(一部)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	慢性看護学演習I	1前		2			○		1	1		1		共同	
	慢性看護学特論II	1後		2		○		1	1				共同		
	慢性看護学演習II	1後		2			○		1	1	1		共同		
	慢性看護学特論III	1前		2		○		2	1				オムニバース		
	慢性看護学特論IV	1後		2		○		2	2		2		オムニバース		
	慢性看護学演習IV	2前		2			○		1	1	1		共同		
	慢性看護学実習I	2通		4				○	1	1	1		共同		
	慢性看護学実習II	2通		4				○	1	1	1		共同		
	小計(54科目)	—	0	125	0			—	9	5	0	12	0	0	—
	専門科目 (共通)	インターンシップ	1・2通		2				○	7	5		11		
	看護科学特別実習	1・2通		2				○	7	5		11			
	看護科学特別研究	2通		4			○		7	5		11			
	小計(3科目)	—	0	8	0			—	7	5	0	11	0	0	—
体育学 関連科目	専門基礎科目	研究基礎科目	1・2後	1		○			2	3		2		兼1	オムニバース
		健康体力学分野研究方法論	1・2前	1		○			8	2				兼1	オムニバース
		コーチング学分野研究方法論	1・2前	1		○				1					
		研究ワークショップ	1後	1			○		1	1		1		兼1	オムニバース
		研究基礎共通実習(PBL)	1・2前	1				○				1		兼1	共同
		健康・スポーツ科学のための統計学	1・2前	2		○			1	1				兼1	オムニバース
		つくばサマーインスティトゥート	1・2前	2			○		1	3				兼1	※講義, 集中
		International Sport Policy Studies(国際スポーツ政策研究)	1・2前	1		○								兼1	集中
		Advanced Coach Education(上級コーチ教育論)	1・2前	1		○				1		1		兼2	オムニバース
		Management and Organization(経営マネジメント論)	1・2前	1		○								兼1	集中
		Project Management(プロジェクトマネジメント論)	1・2後	1		○								兼1	集中
		JSC Seminar(JSCセミナー)	1・2通	1			○							兼3	共同
		JSC Project(JSCプロジェクト)	1・2通	1		○								兼3	共同
		On the Job Practice (Domestic)	1通	2				○						兼3	共同
		Sport, Culture and Society(スポーツ・文化・社会)	1・2後	1		○								兼1	
	スポーツ 文化・ 経営政策 系列	スポーツ経営学	1前		1		○			1					
		体育・スポーツ哲学	1後		1		○			1					集中
		スポーツ史学	1後		1		○					1			
		スポーツ産業学	1・2前		1		○				3				オムニバース
		スポーツ社会学	1・2通		1		○							兼1	
スポーツ政策学		1前		1		○			2		1			オムニバース	
フェアプレイ論		1・2後		1		○			1						
身体文化論		1・2前		1		○			1		1			集中, オムニバース	
スポーツ法学		1後		1		○			1						
スポーツ行政学		1前		1		○					1				
スポーツビジネス論		1・2後		1		○				3				オムニバース	
スポーツを通じた開発論		1前		1		○							兼1		
スポーツメディア論		1・2後		1		○							兼1	集中	
スポーツ文化・経営政策共通実習		1・2通		1			○		2	1				共同	
スポーツ文化・経営政策インターンシップ春		1・2前		1				○			1				
スポーツ文化・経営政策インターンシップ秋	1後		1				○			1					
地域スポーツ経営論	1・2後		1		○			1						隔年	
スポーツリスクマネジメント論	1後		1		○			1							
健康・ スポーツ 教育 系列	体育科学習指導論	1後		1		○				1				集中	
	学校健康教育論	1前		1		○					1			共同	
	アダプテッド・スポーツ教育論	1後		1		○				2					
	スポーツカウンセリング論	1前		1		○			1						
	保健社会学	1後		1		○			1						
	学校体育経営論	1後		1		○			1					隔年	
	武道授業指導論	1前		1		○			1	4				オムニバース	
	スポーツ心理学	1休		1		○			1					集中	
	保健教材論	1後		1		○					1				
	野外教育プログラム論	1前		1		○					1				
	野外教育指導論	1前		1		○			1						
	体育授業観察分析法I	1後		1			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ヘルスフィットネス系系列	体育授業観察分析法II	1後		1				○			2				集中, オムニバス
	健康・スポーツ教育インターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	健康・スポーツ教育インターンシップ秋	1後		1				○				1			
	野外教育実習(キャンプ)	1通		1				○		1			1		集中, 共同
	舞踊授業指導論	1・2後		1				○			1				隔年
	体力学特講	1・2前		1				○		2	2				オムニバス
	スポーツ生理学特講	1前		1				○		2			1		共同
	スポーツ生化学特講	1後		1				○		2					共同
	スポーツ栄養学特講	1・2後		1				○			1				
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1後		1				○		7	4				オムニバス, 共同(一部)
	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1・2前		1				○		1					
	スポーツ栄養学実験実習	1・2後		2					○			1			集中
	スポーツ生理学実験	1・2通		2					○		2				共同
	スポーツ生化学実験	1・2後		2					○		2				共同
	体力学実習	1・2通		2					○		2	2			オムニバス
健康増進学実習	1・2通		2					○		1	1			オムニバス	
体育測定評価学実習(発育発達学を含む)	1・2通		2					○		1					
基礎ヘルスフィットネス演習	1・2後		1					○		7	4			オムニバス, 共同(一部)	
ヘルスフィットネスインターンシップ春	1・2前		1					○				1			
ヘルスフィットネスインターンシップ秋	1後		1					○				1			
アスレティックコンディショニング系系列	運動器のしくみと働き(基礎編)	1・2前		1				○			1				
	スポーツバイオメカニクス特講	1・2後		1				○		1					隔年
	スポーツ用具と動きのしくみ	1・2前		1				○			1				
	女性スポーツ医学論特講	1後		1				○			2				オムニバス
	機能解剖学実験	1・2前		1					○		1				集中
	運動器のしくみと働き(応用編)	1・2後		1				○			1				
	スポーツ医学基礎論実習I	1・2通		2					○		1	1			共同
	スポーツ医学基礎論実習II	1・2通		2					○		1	2	1		共同
	アスレティックコンディショニング論特講	1後		2				○		2	3		1		兼1 オムニバス
	アスレティックリハビリテーション論特講	1前		2				○		1	2		1		兼1 オムニバス
	アスレティックトレーナー特講	1・2後		1					○		1	1	1	1	集中, オムニバス
	テーピング・マッサージ実習	1・2後		2					○		1	1	1	1	集中, 共同
	スポーツ内科学特講	1・2後		2					○		2				集中, 隔年, 共同
	アスレティックコンディショニング論演習	1・2通		3					○		1	2	1		共同
	アスレティックリハビリテーション論演習	1・2通		3					○		1	2	1		共同
アスレティックコンディショニング論実習	1・2通		2					○		1	2	1		兼1 共同	
アスレティックリハビリテーション論実習	1・2通		2					○		1	2	1		共同	
アスレティックトレーナー演習	1・2後		1					○		1	1	1		集中, 共同	
アスレティックコンディショニングインターンシップ春	1・2前		1					○				1			
アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	1後		1					○				1			
コーチング系系列	コーチングのバイオメカニクス	1・2後		1				○		1					隔年
	コーチング論(事例討議)	1後		1				○			2				共同
	身体技法論	1後		1				○		1					
	身体表現論	1・2前		1				○			1				
	スポーツ運動学	1前		1				○		1					
	武道文化論	1・2後		1				○		1					
	体操コーチング総合演習	1前		1					○		1	1			オムニバス
	体操競技コーチング総合演習	1後		1					○		1				
	陸上競技コーチング総合演習	1前		1					○		1		1		オムニバス
	水泳競技コーチング総合演習	1後		1					○				1		
	バレーボールコーチング総合演習	1後		1					○		1		1		共同
	バスケットボールコーチング総合演習	1・2前		1					○		1				
	ハンドボールコーチング総合演習	1前		1					○		1		2		オムニバス
	サッカーコーチング総合演習	1前		1					○		1				
	ラグビーコーチング総合演習	1前		1					○			1			
	テニスコーチング総合演習	1後		1					○		1				
	バドミントンコーチング総合演習	1前		1					○				1		
	野球コーチング総合演習	1前		1					○		1		1		共同
	柔道コーチング総合演習	1前		1					○			2			共同
	剣道コーチング総合演習	1後		1					○		1	2			オムニバス
弓道コーチング総合演習	1後		1					○			1				
舞踊指導総合演習	1前		1					○			1				
スポーツコーチング総合演習	1前		1					○		1	2			兼1 共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ナショナルリーディングコース系列	コーチングインターンシップ春	1・2前		1				○			1			集中, オムニバス	
	コーチングインターンシップ秋	1後		1				○			1				
	競技マネジメント論	1後		1		○			2	1					
	舞踊上演マネジメント論	1前		1		○				1					
	スポーツ情報戦略論	1後		1		○				1					
	プログラム特別インターンシップ春	1・2前		3				○				1			
	プログラム特別インターンシップ秋	1後		3				○				1			
	日本文化論(宗教, 思想, 古典芸能など)	1通		1		○			1						
	小計 (116科目)	—	0	141	0	—	—	—	28	32	1	14	0	兼6	—
	専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	1通		3				○		1		1		共同
	体育・スポーツ哲学演習II	2通		3				○		1					
	体育史・スポーツ人類学演習I	1通		3				○				1		兼1 共同	
	体育史・スポーツ人類学演習II	2通		3				○				1		兼1 共同	
	スポーツ社会学演習I	1通		3				○						兼1	
	スポーツ社会学演習II	2通		3				○						兼1	
	武道学演習I	1通		3				○		1					
	武道学演習II	2通		3				○		1					
	体育・スポーツ経営学演習I	1通		3				○		1					
	体育・スポーツ経営学演習II	2通		3				○		1					
	スポーツ政策学演習I	1通		3				○		1		1		共同	
	スポーツ政策学演習II	2通		3				○		1		1		共同	
	スポーツ法学演習	1通		2				○		1					
	スポーツ産業学演習I	1通		3				○			2			共同	
	スポーツ産業学演習II	2通		3				○			2			共同	
	体育科教育学演習I	1通		3				○		1					
	体育科教育学演習II	2通		3				○		1					
	体育授業観察分析演習	1前		2				○		1					
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	1通		3				○		2				オムニバス, 共同(一部)	
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	2通		3				○		2				共同	
	体育心理学演習I	1通		3				○		1		1		共同	
	体育心理学演習II	2通		3				○		1		1		共同	
	体育心理学実習	1通		2				○		1		1		共同	
	体育・スポーツ学特別演習	2通		3				○		1					
	体育・スポーツ学特別演習II	2通		3				○		1					
健康体力学分野	健康教育学演習I	1通		3				○		1		2		共同	
	健康教育学演習II	2通		3				○		1		2		共同	
	運動生理学演習I	1通		3				○		2				共同	
	運動生理学演習II	2通		3				○		2				共同	
	運動生化学演習I	1通		3				○		2		1		共同	
	運動生化学演習II	2通		3				○		2		1		共同	
	運動栄養学演習I	1通		3				○			1				
	運動栄養学演習II	2通		3				○			1				
	体力学演習I	1通		3				○		2	2			オムニバス	
	体力学演習II	2通		3				○		2	2			オムニバス	
	健康増進学演習I	1通		3				○			1				
	健康増進学演習II	2通		3				○			1				
	体育測定評価学演習I	1通		3				○		1					
	体育測定評価学演習II	2通		3				○		1					
	内科系スポーツ医学演習I	1通		3				○		1	1			共同	
	内科系スポーツ医学演習II	2通		3				○		1	1			共同	
	スポーツ医学基礎論特講I	1・2通		2		○			2	1				オムニバス	
	外科系スポーツ医学演習I	1通		3				○		1	2	1		共同	
	外科系スポーツ医学演習II	2通		3				○		1	2	1		共同	
	スポーツ医学基礎論特講II	1・2前		1		○				1				兼1	
	スポーツバイオメカニクス演習I	1通		3				○		1	1			共同	
	スポーツバイオメカニクス演習II	2通		3				○		1	1			共同	
	スポーツバイオメカニクス実験	1・2通		2				○		1	1			共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
コーチング学分野	応用解剖学演習I	1通		3				○		1							
	応用解剖学演習II	2通		3				○		1							
	コーチング論・トレーニング学演習I	1通		3				○		1	3				兼1	共同	
	コーチング論・トレーニング学演習II	2通		3				○		1	3				兼1	共同	
	スポーツ運動学演習I	1通		3				○		1	1					オムニバス	
	スポーツ運動学演習II	2通		3				○		1	1					共同	
	体操コーチング論演習I	1通		3				○		1		1				オムニバス	
	体操コーチング論演習II	2通		3				○		1		1				共同	
	体操競技コーチング論演習I	1通		3				○		1			1			オムニバス	
	体操競技コーチング論演習II	2通		3				○		1			1			オムニバス	
	陸上競技コーチング論演習I	1通		3				○			1		1			オムニバス	
	陸上競技コーチング論演習II	2通		3				○			1		1			オムニバス	
	水泳競技コーチング論演習I	1通		3				○					1			共同	
	水泳競技コーチング論演習II	2通		3				○		2			1			共同	
	バレーボールコーチング論演習I	1通		3				○			1		1			共同	
	バレーボールコーチング論演習II	2通		3				○			1		1			共同	
	バスケットボールコーチング論演習I	1通		3				○		1	1					共同	
	バスケットボールコーチング論演習II	2通		3				○		1						共同	
	ハンドボールコーチング論演習I	1通		3				○		1			2			オムニバス	
	ハンドボールコーチング論演習II	2通		3				○		1			2			オムニバス	
	サッカーコーチング論演習I	1通		3				○		2			1			共同	
	サッカーコーチング論演習II	2通		3				○		2						共同	
	ラグビーコーチング論演習I	1通		3				○			1		1			オムニバス	
	ラグビーコーチング論演習II	2通		3				○			1					共同	
	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	1通		3				○			2		2			共同	
	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	2通		3				○			2		2			共同	
	柔道コーチング論演習I	1通		3				○			2					オムニバス	
	柔道コーチング論演習II	2通		3				○			2					共同	
	柔道コーチング論実習「形」	1・2通		1					○		1					共同	
	剣道コーチング論演習I	1通		3				○		1	2					共同	
	剣道コーチング論演習II	2通		3				○		1	2					共同	
	弓道コーチング論演習I	1通		3				○			1					共同	
	弓道コーチング論演習II	2通		3				○			1					共同	
	野外運動論演習I	1通		3				○		1			1			オムニバス	
	野外運動論演習II	2通		3				○		1			1			共同	
	野外運動論実習	1通		2				○		1			1			共同	
	舞踊論演習I	1通		3				○			2					オムニバス	
	舞踊論演習II	2通		3				○			2					共同	
	舞踊表現技術実習	1通		1				○			1					共同	
	コーチング学特別演習	1通		3				○		1						共同	
	コーチング学特別演習II	2前		3				○		1						共同	
コーチング特別課題研究I(設計)	1通		3				○		1						共同		
コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	2通		3				○		3	1					共同		
小計 (91科目)		—	0	261	0			—	29	31	1	19	0	兼4	—		
スポーツ・オリンピック学関連科目	専門基礎科目																
	Olympic Movement Studies(オリンピックムーブメント論)	1後		1				○	1	1							
	Olympic Movement and Sport Law(オリンピックムーブメントとスポーツ法)	1後		1				○	1								
	International Sport Event Management(国際スポーツイベントマネジメント論)	1前		1				○		1						集中	
	Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後		1				○		1						集中	
	Japanese Culture(日本文化)	1後		1				○								兼1	
	Sport and Diversity(スポーツとダイバーシティ)	1前		1				○		1						兼1	
	Olympic and Paralympic Education(オリンピック・パラリンピック教育)	1前		1				○		1						兼1	
	Taiku(Physical Education)(体育)	1前		1				○								兼1	集中
	Cross-Cultural Communication(異文化コミュニケーション)	1前		1				○		1							
Research Project Management(研究プロジェクトマネジメント)	1後		2				○		1								
小計 (10科目)		—	0	11	0			—	3	3	0	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(共通)	TIAS Internship A(TIASインターンシップ A)	1後		4				○	1	1				兼1	
	TIAS Internship B(TIASインターンシップ B)	1前		4				○	1	1				兼1	
	TIAS Research Project(TIAS課題研究)	1後		4			○		4	4					
	小計(3科目)	—	0	12	0	—	—	—	4	4	0	0	0	兼1	—
専門科目(専門分野)	Seminar in Olympic and Paralympic Education I(オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	1後		2				○		1					
	Seminar in Olympic and Paralympic Education II(オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	1前		2				○		1					
	Seminar in Sport Management I(スポーツマネジメント演習 I)	1後		2				○	1						
	Seminar in Sport Management II(スポーツマネジメント演習 II)	1前		2				○	1						
	Seminar in Sport Science and Medicine I(スポーツ医科学演習 I)	1後		2				○	3	1					
	Seminar in Sport Science and Medicine II(スポーツ医科学演習 II)	1前		2				○	3	1					
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I(ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	1後		2				○		2		1			
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II(ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	1前		2				○		2		1			
	Olympism and Legacy(オリンピズムとレガシー)	1後		1				○	1						
	Sport Organisation and Governance(スポーツ組織とガバナンス論)	1後		1				○						兼1	集中
	International Sport Marketing(国際スポーツマーケティング)	1後		1				○						兼1	集中
	Sport Technology and Biomechanics(スポーツ工学とバイオメカニクス)	1前		1				○	1						
	Sport Medicine(スポーツ医学)	1前		1				○		1					
	Exercise Physiology and Human Performance(運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	1前		1				○	1	1					
	Elite Sport Coaching(エリートスポーツコーチング論)	1前		1				○				1			
Budo(武道)	1前		1				○							集中	
小計(16科目)	—	0	24	0	—	—	—	5	5	0	1	0	兼2	—	
芸術学関連科目	基礎科目														
	西洋美術史-1	1・2前		1				○	1						隔年
	西洋美術史-2	1・2後		1				○		1					隔年
	日本美術史	1・2前		1				○			1				隔年
	美術論	1・2後		1				○		1					隔年
	芸術教育論-1	1・2前		1				○	1						隔年
	芸術教育論-2	1・2後		1				○	1						隔年
	美術技法論-1	1・2前		1				○	2	1		1			隔年, オムニバス
	美術技法論-2	1・2前		1				○	2	2		1			隔年, オムニバス
	書論	1・2通		3				○	1						隔年
	書鑑賞論	1・2通		3				○	1						隔年
	ダイナミックインタラクションデザイン演習	1・2前		1				○		1		1			
	インターンシップ	1・2通		1				○	1	1		1			
小計(12科目)	—	0	16	0	—	—	—	7	7	0	5	0	0	—	
専門科目	西洋近世美術史特講I-1	1・2前		1				○		1					隔年
	西洋近世美術史特講I-2	1・2後		1				○		1					隔年
	西洋近世美術史特講II-1	1・2前		1				○		1					隔年
	西洋近世美術史特講II-2	1・2後		1				○		1					隔年
	西洋近世美術史演習I-1	1・2前		1				○	1						隔年
	西洋近世美術史演習I-2	1・2後		1				○	1						隔年
	西洋近世美術史演習II-1	1・2前		1				○	1						隔年
	西洋近世美術史演習II-2	1・2後		1				○	1						隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	近・現代美術論特講I-1	1・2前		1		○				1					隔年
	近・現代美術論特講I-2	1・2後		1		○				1					隔年
	近・現代美術論特講II-1	1・2前		1		○				1					隔年
	近・現代美術論特講II-2	1・2後		1		○				1					隔年
	近・現代美術論演習I-1	1・2前		1			○			1					隔年
	近・現代美術論演習I-2	1・2後		1			○			1					隔年
	近・現代美術論演習II-1	1・2前		1			○			1					隔年
	近・現代美術論演習II-2	1・2後		1			○			1					隔年
	西洋古代美術史特講I-1	1・2前		1		○				1					隔年
	西洋古代美術史特講I-2	1・2後		1		○				1					隔年
	西洋古代美術史特講II-1	1・2前		1		○				1					隔年
	西洋古代美術史特講II-2	1・2後		1		○				1					隔年
	西洋古代美術史演習I-1	1・2前		1			○			1					隔年
	西洋古代美術史演習I-2	1・2後		1			○			1					隔年
	西洋古代美術史演習II-1	1・2前		1			○			1					隔年
	西洋古代美術史演習II-2	1・2後		1			○			1					隔年
	日本美術史特講I-1	1・2前		1		○						1			隔年
	日本美術史特講I-2	1・2後		1		○						1			隔年
	日本美術史特講II-1	1・2前		1		○						1			隔年
	日本美術史特講II-2	1・2後		1		○						1			隔年
	日本美術史演習I-1	1・2前		1			○					1			隔年
	日本美術史演習I-2	1・2後		1			○					1			隔年
	日本美術史演習II-1	1・2前		1			○					1			隔年
	日本美術史演習II-2	1・2後		1			○					1			隔年
	美術史学外演習I	2後		2			○			1	2		1		
	美術史学外演習II	2後		2			○			1	2		1		
	芸術支援学学外演習A-1	1前		1			○			2					
	芸術支援学学外演習A-2	2前		1			○			2					
	芸術支援学学外演習B-1	1前		1			○			2					
	芸術支援学学外演習B-2	2前		1			○			2					
	芸術教育方法論A-1	1・2前		1		○				1					隔年
	芸術教育方法論A-2	1・2後		1		○				1					隔年
	芸術教育方法論B-1	1・2前		1		○				1					隔年
	芸術教育方法論B-2	1・2後		1		○				1					隔年
	芸術学習支援論A	1・2前		2			○			1					※講義, 隔年
	芸術学習支援論B	1・2後		2			○			1					※講義, 隔年
	芸術支援ワークショップI	1後		1			○			1					隔年
	芸術支援ワークショップII	2後		1			○			1					隔年
	芸術支援ワークショップIII	2前		1			○			1					隔年
	芸術学習支援演習A	1・2前		1			○			1					隔年
	芸術学習支援演習B	1・2後		1			○			1					隔年
	洋画技法論特講	1・2前		1		○				1					
	西洋美術技法演習-1	1・2前		2			○			2					オムニバス
	西洋美術技法演習-2	1・2後		2			○				1		1		
	洋画制作A-1	1前		2				○		1					
	洋画制作A-2	1後		1				○		1					
	洋画制作B-1	1前		2				○		1					
	洋画制作B-2	1後		1				○		1					
	洋画制作C-1	1前		2				○			1				
	洋画制作C-2	1後		1				○			1				
	洋画制作D-1	1前		2				○				1			
	洋画制作D-2	1後		1				○				1			
	洋画特別制作A-1	1前		2				○		1					
	洋画特別制作A-2	2後		1				○		1					
	洋画特別制作B-1	2前		2				○				1			
	洋画特別制作B-2	2後		1				○				1			
	洋画特別制作C-1	2前		2				○			1				
	洋画特別制作C-2	2後		1				○			1				
	洋画特別制作D-1	2前		2				○		1					
	洋画特別制作D-2	2後		1				○		1					
	洋画野外風景実習	1・2前		1				○		2	1				集中, 共同
	版画制作A-1	1前		2				○		1					
	版画制作A-2	1後		1				○		1					
	版画制作B-1	1前		2				○		1					
	版画制作B-2	1後		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	版画特別制作-1	2前		2				○	1						
	版画特別制作-2	2後		1				○	1						
	版画技法演習A	1・2後		2			○		1						隔年
	版画技法演習B	1・2後		2			○		1						隔年
	版画学外演習	1・2前		1			○		1						集中
	日本美術技法演習-1	1・2前		2			○		1	2					
	日本美術技法演習-2	1・2後		2			○		1	2					
	日本画制作A-1	1前		2				○	1						一部集中
	日本画制作A-2	1後		1				○	1						
	日本画制作B-1	1前		2				○		1					一部集中
	日本画制作B-2	1後		1				○		1					
	日本画制作C-1	1前		2				○		1					一部集中
	日本画制作C-2	1後		1				○		1					
	日本画特別制作A-1	2前		2				○	1						
	日本画特別制作A-2	2後		1				○	1						
	日本画特別制作B-1	2前		2				○		1					
	日本画特別制作B-2	2後		1				○		1					
	日本画特別制作C-1	2前		2				○		1					
	日本画特別制作C-2	2後		1				○		1					
	日本画野外風景実習	1・2前		1				○	1	2					集中
	彫塑学外演習	1・2通		1			○		1			1			集中
	塑造制作-1	1・2前		3				○	1			1			
	塑造制作-2	1・2後		3				○	1			1			
	彫刻制作-1	1・2前		3				○	1			1			
	彫刻制作-2	1・2後		3				○	1			1			
	金属彫刻制作	1・2通		2				○	1			1			集中
	テラコッタ制作	1・2前		2				○	1			1			
	彫塑特別制作A	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作B	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作C	2前		1				○	1			1			
	彫塑特別制作D	2前		1				○	1			1			
	漢字演習A	1・2通		3			○		1						隔年
	漢字演習B	1・2通		3			○		1						隔年
	漢字演習C	1・2通		3			○		1						隔年
	漢字演習D	1・2通		3			○		1						隔年
	仮名演習A	1・2通		3			○		1						隔年
	仮名演習B	1・2通		3			○		1						隔年
	書学外演習A	1・2通		1			○		1						隔年
	書学外演習B	1・2通		1			○		1						隔年
	書学外演習C	1・2通		1			○		1						隔年
	平面・立体構成論特講	1・2前		1		○						1			
	平面・立体構成演習A	1・2後		2			○					1			隔年, 一部集中
	平面・立体構成演習B	1・2後		2			○					1			隔年, 一部集中
	現代アート表現論	1・2前		1		○						1			
	現代アート表現演習	1・2後		2			○					1			
	メディア表現論	1・2前		1		○						1			
	メディア表現演習	1・2後		2			○					1			
	現代美術論	1・2後		1		○			1						
	現代美術演習	1・2前		2			○		1						
	陶磁造形演習I	1・2前		1			○			1					
	陶磁造形演習II	1・2後		1			○			1					
	陶磁造形論特講	1・2前		1		○				1					
	木材造形演習	1・2前		2			○			1					
	ガラス造形演習	1・2前		2			○					1			
	ガラス特別演習	1・2前		2			○					1			
	漆芸演習	1・2前		2			○			1					
	視覚伝達設計論特講	1・2後		1		○				1					
	視覚伝達設計演習	1・2前		2			○			1					
	グラフィックデザイン演習A	1・2前		1			○			1					
	グラフィックデザイン演習B	1・2後		1			○			1					
	画像表現論特講	1・2前		2		○						1			
	画像表現演習	1・2後		1			○					1			
	ビジュアル・コミュニケーション演習	1・2通		1			○			1					集中, 隔年
	環境デザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年
	パシブデザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	都市・地域デザイン論特講	1・2前		2		○			1						隔年 隔年           14条対応	
	ランドスケープデザイン論特講	1・2前		2		○			2							
	環境デザイン演習1	1前		2			○		2	2						
	環境デザイン演習2	1後		2			○		2	2						
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅰ	1・2前		2			○			3		2				
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅱ	1・2後		2			○			3		2				
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ	1・2前		2			○			3		2				
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅱ	1・2後		2			○			3		2				
	研究・制作発表特別演習Ⅰ	1通		2			○			13	10		9			
	研究・制作発表特別演習Ⅱ	2通		2			○			13	10		9			
	芸術学学位プログラム特別演習	1通		3			○			13	10		9			
	芸術学学位プログラム特別研究	2通		3			○			13	10		9			
	小計 (150科目)	—		0	226	0	—	—	—	13	10	0	9	0		0
デザイン学関連科目	デザイン学基礎論	1前		2		○			4	5	1	1		兼4	ハニバス、共同(一部)	
	小計 (1科目)	—		0	2	0	—	—	4	5	1	1	0	兼4	—	
	感性脳科学特講	1・2前		2		○					1				隔年	
	視覚情報デザイン論特講	1・2後		2		○			1						隔年	
	色彩デザイン論特講	1・2前		2		○			1						隔年	
	感性情報学特講	1・2後		2		○			1						隔年	
	デザイン思考	1・2前		2		○				1					隔年	
	デザインイノベーション特講	1・2後		2		○				1					隔年	
	建築計画論特講	1・2前		2		○			1						隔年	
	建築意匠論特講	1・2後		2		○				1					隔年	
	建築構法論特講	1・2前		2		○						1			隔年	
	建築・都市フィールドデザイン論特講	1・2後		2		○				1					隔年	
	ブレイスメイキング論	1・2前		2		○				1					隔年	
	人間工学と生体計測特講	1・2後		1		○									兼1	隔年
	エンタテインメントデザイン特講	1・2前		1		○									兼1	隔年
	デザインとケア特講	1・2後		1		○				1					隔年	
	形態学とデザイン	1・2前		1		○				1					隔年	
	プロジェクト演習A-I	1前		3			○			3	2	1				
	プロジェクト演習A-II	1前		3			○			1	2		1			
	プロジェクト演習B-I	1後		3			○			3	2	1				
	プロジェクト演習B-II	1後		3			○			1	2		1			
	プロジェクト演習C-I	2前		3			○			3	2	1				
	プロジェクト演習C-II	2前		3			○			1	2		1			
	プロジェクト演習D-I	2後		3			○			3	2	1				
	プロジェクト演習D-II	2後		3			○			1	2		1			
	インターンシップ	1・2通		1			○			4	4	1	1			
	アドバンスインターンシップ (長期)	1・2通		4			○			3	2	1				
	建築デザインインターンシップ1	1・2前		4			○			1	2		1			
	建築デザインインターンシップ2	1・2後		4			○			1	2		1			
	建築デザインインターンシップ3	1・2前		4			○			1	2		1			
	建築デザインインターンシップ4	1・2後		4			○			1	2		1			
	海外研修	1・2通		1			○			4	4	1	1			
デザイン学特別演習1	1後		3			○			4	6	1	1		兼7		
デザイン学特別演習2	2前		3			○			4	6	1	1		兼7		
小計 (32科目)	—		0	78	0	—	—	—	4	7	1	1	0	兼7	—	
世界遺産学関連科目	基礎科目	世界遺産論	1・2前		2		○		6	2		2		兼1		
		世界遺産特別演習	1通		3			○	5	2		2				
		世界遺産特別研究	2通		6			○	5	2		2				
		小計 (3科目)	—		0	11	0	—	6	2	0	2	0	兼1	—	
	専門科目	全分野共通	文化遺産論	1・2前		1		○					1			
		文化遺産演習	1・2休		2			○		1						
		自然遺産論	1・2前		1		○			1						
		自然遺産演習	1・2休		2			○		1						
		宗教論	1・2後		1		○								兼1	
		無形遺産論	1・2後		1		○					1				
	遺産保護行政論	1・2後		1		○					1					
	世界遺産特別講義	1・2後		1		○			1							
	世界遺産学インターンシップ	1・2通		3			○		5	2		2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際遺産学分野	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	1・2後		1		○			1							
	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産)	1・2前		1		○			1							
	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1・2前		1		○			1							
	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1・2後		1		○						1				
	World heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1・2後		1		○			1							
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1・2後		1		○			1							
	International Conventions for Heritage Conservation(国際条約論)	1・2前		1		○			1							
	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	1・2休		2			○		1							
	遺産の評価と保存分野	建築遺産論	1・2後		1		○						1			
		建築遺産演習	1・2後		3			○					1			
		美術遺産論I	1・2前		1		○			1						
		美術遺産論II	1・2後		1		○			1						
		美術遺産演習	1・2後		2			○		1						
		保存科学概論	1・2前		1		○			1						
		保存科学演習	1・2休		2			○		1						
	遺産のマネジメントとブランニング分野	遺産整備計画論	1・2前		1		○			1						
		遺産整備計画演習	1・2前		2			○		1						
		文化的景観論	1・2前		1		○			1						
		遺産観光論	1・2後		1		○				1					
		ブランニング演習	1・2後		3			○			1					
		インタープリテーション概論	1・2後		1		○				1					
	小計 (30科目)		—	0	42	0	—			5	2	0	2	0	兼1	—
	情報連科学目	データサイエンス実践	1・2前		2		○			2						オムニバス
		機械学習とパターン認識	1・2前		2		○			1	1		1			オムニバス
		メディアデザイン	1・2後		2		○				2					オムニバス
		ビジュアルライゼーション	1・2後		2		○					1	1			オムニバス
		生体生命情報	1・2前		2		○				1		1			オムニバス
		感性認知情報	1・2前		2		○			1	2					オムニバス
		構造化データ	1・2後		2		○				2					オムニバス
		知識情報分析	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
情報プラクティス		1・2前		2		○				1	1	1			オムニバス	
情報推薦		1・2後		2		○				1		1			オムニバス	
ヒューマンコンピュータインタラクション		1・2後		2		○			1	1					オムニバス	
コミュニケーション行動		1・2前		2		○			1			1			オムニバス	
コミュニティ分析		1・2後		2		○			1			1			オムニバス	
デジタルヒューマニティーズ		1・2後		2		○				2					オムニバス	
知的財産と情報の安全		1・2前		2		○				2					オムニバス	
図書館メディア文化史		1・2前		2		○			3						オムニバス	
パブリックサービス		1・2前		2		○			1		1				オムニバス	
ライブラリーマネジメント		1・2前		2		○				1	1	1			オムニバス	
学術情報基盤		1・2後		2		○			1		1				オムニバス	
アーカイブズ		1・2後		2		○			1			1		兼1	オムニバス	
博物館情報メディア	1・2後		2		○			1					兼2	オムニバス		
情報組織化	1・2前		2		○				2	1				オムニバス		
メディア教育	1・2後		2		○			1	2					オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
盤(専門科目群)的基	研究法基礎	1前		2				○			3	2				オムニバス	
	文献調査法	1前		2				○				4	1			オムニバス	
	Literature Survey	1後		2				○			2	1		2		オムニバス	
	調査とデータ分析	1後		2				○			2	1	1	1		オムニバス	
	Survey and Data Analysis	1前		2				○				1		4		オムニバス	
	科(実践科目群)導	研究計画	1後		2				○			2			1		共同
		業務計画	1前		2				○			2	1				東京開講, 共同
	科(専門科目群)導	情報学特別演習a	2前		2				○			18	21				つくば・東京開講
		情報学特別演習b	2後		2				○			18	21				つくば・東京開講
		グローバル研究演習I	1前・後		1				○			18	21				つくば・東京開講
グローバル研究演習II		2前・後		1				○			18	21				つくば・東京開講	
小計(34科目)		—	0	66	0			—			18	21	5	10	0	兼3	—
ライフィノベーション(病態機構/創薬開発)関連科目	基礎科目(共通)	医学概論	1前		1			○			6	2	2				オムニバス, 共同(一部)
		創薬概論	1前		1			○									兼3 オムニバス
		食品科学概論	1前		1				○								兼4 オムニバス
		バイオリソース概論	1後		1				○								兼5 オムニバス
		自然史概論	1後		1					○							兼3 ※講義
		バイオインフォマティクス基礎	1前		1				○								兼3 ※講義
		医薬品・食品マネジメント学	2前		1				○								兼4 オムニバス
		レギュラトリーサイエンス	2前		1				○								兼2 オムニバス
		ライフィノベーション実習	1通		1						○		1				兼11 ※講義
		ライフィノベーションチーム型演習	1通		2					○							兼2
		責任ある研究行為: 基盤編	1通		1					○							兼1
		博士前期ライフィノベーションセミナー	1前		1					○							兼9
		博士前期インターンシップI	1・2通		1												兼1
		博士前期インターンシップII	1・2通		1												兼1
	小計(14科目)		—	0	15	0			—			6	3	2	0	0	兼39
専門科目(共通)	ライフィノベーション博士前期演習I秋	1後		1				○			1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期演習I春	1前		1				○			1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期研究I秋	1後		2					○		1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期研究I春	1前		2					○		1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期演習II秋	2後		1					○		1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期演習II春	2前		1					○		1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期研究II秋	2後		2						○	1					兼16	
	ライフィノベーション博士前期研究II春	2前		2						○	1					兼16	
小計(8科目)		—	0	12	0			—			1	0	0	0	0	兼16	—
構(専門科目)機	疾患の分子細胞生物学I	1前		1				○								兼5 オムニバス, 共同(一部)	
	疾患の分子細胞生物学II	1前		1				○								兼5 オムニバス	
	細胞制御論	1前		1				○				1				兼4 オムニバス	
小計(3科目)		—	0	3	0			—			0	1	0	0	0	兼12	—
発(専門科目)開	創薬化学概論	1後		1				○				1		3		兼4	
	創薬トランスレーショナルサイエンス	1前		1				○								兼5 オムニバス	
	薬剤設計工学	1前		1				○								兼4 オムニバス, 共同(一部)	
小計(3科目)		—	0	3	0			—			0	1	0	3	0	兼12	—
合計(1218科目)		—	0	2040	0			—			195	172	46	111	0	兼184	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(障害科学) 修士(医科学) 修士(公衆衛生学) 修士(神経科学) 修士(看護科学) 修士(体育学) 修士(スポーツ・オリンピック学) 修士(芸術学) 修士(デザイン学) 修士(世界遺産学) 修士(情報学) 修士(病態機構学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、工学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学及びリハビリテーション関係を除く)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。						1 学年の学期区分		2 学期						
						1 学期の授業期間		1 5 週						
						1 時限の授業時間		7 5 分						
(履修方法) ※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。						※修士論文に代えて特定課題研究を選択可とする学位プログラムは次のとおりである。 ・スポーツ・オリンピック学学位プログラム ・看護科学学位プログラム ・芸術学学位プログラム ・デザイン学学位プログラム								
<b>■教育学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 基礎科目 必修3単位 学術院共通専門基礎科目から以下の科目を履修 ・教育学理論研究 ・次世代教育開発研究 ・Theory of International Education (2) 教育学関連科目－専門基礎科目 選択必修18単位 (3) 教育学関連科目－専門科目 選択必修 9単位														
<b>■心理学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 心理学関連科目－基礎科目 次の科目を含む8単位以上 ・必修4単位(心理学方法論 I, II) ・選択必修4単位(特別研究A, B, S) (2) 心理学関連科目－専門科目 <心理基礎科学サブプログラム> ・心理基礎科学共通科目 8単位(心理基礎科学演習I,II,III,IV) ・両サブプログラムの領域専門科目から14単位以上 <心理臨床学サブプログラム> ・心理臨床学共通科目 18単位選択(臨床心理実習I及びIIまたは発達臨床心理実習I及びIIを含む) ・両サブプログラムの領域専門科目から4単位以上  上記のほか、学位プログラムの指定する科目を専門科目に含めることができる。														
<b>■障害科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。														
(1) 障害科学関連科目－基礎科目 必修5単位(以下の5科目) ・障害科学調査・実験実習 I ・障害科学調査・実験実習 II ・障害科学研究法 I ・障害科学研究法 II ・障害科学研究法 III (2) 障害科学関連科目－専門科目 選択必修7単位(専門領域の特講I,II及び演習I, II, III) (3) 上記以外(大学院共通科目、障害科学関連科目のうち基礎科目の選択科目、専門科目(共通)、専門科目における専門領域の科目以外の特講I,II、演習I,II)から18単位以上														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p><b>■フロンティア医科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) フロンティア医科学関連科目－基礎科目 必修9単位(以下の2科目) ・医科学特別演習 ・インターンシップ I</p> <p>(2) フロンティア医科学関連科目－基礎科目(必修科目以外)、専門基礎科目、専門科目、大学院共通科目、他学位プログラムの科目 21単位以上</p> <p>※大学院共通科目と他学位プログラムの科目は6単位まで含めることができる。また、学位プログラムの指定する科目はフロンティア医科学関連科目に含めることができる。</p>														
<p><b>■公衆衛生学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修14単位(以下の5科目) ・大学院共通専門基盤科目:社会医学概論 ・公衆衛生学関連科目－基礎科目:疫学概論、医生物統計学概論、公衆衛生学特別演習、疫学・生物統計学セミナー</p> <p>(2) 公衆衛生学関連科目－専門科目 必修9単位(以下の7科目) 健康行動科学論、疫学特論、医生物統計学特論、保健医療政策学、医療管理学、医療経済学、ヘルスサービスリサーチ概論</p> <p>(3) 公衆衛生学関連科目の基礎科目・専門科目 選択必修6単位</p> <p>(4) 公衆衛生学関連科目の基礎科目・専門科目、大学院共通科目 1単位以上</p> <p>※上記のほか、学位プログラムの指定する科目は公衆衛生学関連科目に含めることができる。</p>														
<p><b>■ニューロサイエンス学位プログラム(M)</b> 次の科目を含む30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修3単位 ・大学院共通科目:研究倫理 ・大学院共通専門基盤科目から1単位 ・ニューロサイエンス関連科目－基礎科目:キャリアプランセミナー</p> <p>(2) ニューロサイエンス関連科目－専門基礎科目 必修10単位(以下5科目) 神経科学基礎論A～D、基礎科学英語1</p> <p>(3) ニューロサイエンス関連科目－専門科目 必修11単位(以下6科目) 英語ジャーナルクラブ1、神経科学先端セミナー1、修士論文研究指導1～4 選択必修1単位 神経科学実験・実習A～Dから1科目選択</p> <p>(4) 上記以外の本学位プログラムの開設科目、大学院共通専門基盤科目、他の学位プログラムの開設科目から5単位以上</p>														
<p><b>■看護科学学位プログラム(M)</b> 次の科目を含む30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 大学院共通科目 研究倫理(1単位)</p> <p>(2) 看護科学関連科目－専門基礎科目 「看護科学論」(必修2単位)を含む8単位以上(大学院共通科目、大学院共通専門基盤科目、人間総合科学研究群の他の学位プログラムの開設科目を含めてよい)</p> <p>(3) 看護科学関連科目－専門科目 各自の専門研究領域が指定する「特論」(2単位)と「演習」(2単位)を含む8単位以上</p> <p>(4) 看護科学関連科目－専門科目(共通)「看護科学特別研究」(必修4単位)のほか「インターンシップ」(2単位)と「看護科学特別実習」(2単位)のいずれかを含む6単位</p> <p>・専門看護師養成課程は、専門看護師の受験要件となる38単位を含む43単位以上、助産師養成課程は、助産師国家資格の受験要件となる28単位を含む59単位以上を修得することとし、いずれも特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験の合格をもって修士論文の審査および最終試験の合格に代えることができる。</p>														
<p><b>■体育学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 体育学関連科目－専門科目 6～8単位(所属する個別研究領域の演習I,IIを含む)</p> <p>(2) 体育学関連科目－専門基礎科目 ・系列科目 12～17単位 ・研究基礎科目 1～6単位(所属分野の研究方法論1単位を含む) ※上記のほか、学位プログラムの指定する科目を体育学関連科目の専門基礎科目に含めることができる。</p> <p>(3) 基礎科目 0～6単位(体育学関連科目のうち所属領域外の科目、所属系列外の科目、大学院共通科目等)</p>														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p><b>■スポーツ・オリンピック学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門基礎科目に掲げる10科目 必修11単位 (2) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門科目(共通) 8～12単位 (3) スポーツ・オリンピック学関連科目－専門科目(専門分野) 4～10単位 ※専門科目(専門分野)には学術院共通専門基盤科目のうちオリンピック・パラリンピック史を含めることができる。 (4) 選択した専門分野以外の専門科目、他学位プログラムの科目等 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から1単位の履修を推奨する。 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p> <p><b>■芸術学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 芸術学関連科目－基礎科目 学術院共通専門基盤科目を含む6単位以上(大学院共通科目を2単位まで含めることができる) (2) 芸術学関連科目－専門科目 研究・制作発表特別演習Ⅰ及びⅡ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究(計10単位)を含む24 単位以上(主とする教育研究領域の科目を中心に最も関係の深い科目を選択) ・修了研究は、各専門分野の特性に応じて、純粋理論の研究から特定の課題に対する研究成果までを評価する次のいずれかの方法による。 a. 論文 b. 作品及び論文 c. 作品及び研究報告書</p> <p><b>■デザイン学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修4単位(以下3科目)を含めて4単位以上 ・デザイン学関連科目－基礎科目:デザイン学基礎論 ・学術院共通専門基盤科目:人間総合科学基礎論 ・大学院共通科目:研究倫理 上記のほか、学位プログラムが指定する科目を基礎科目に含めることができる。 (2) デザイン学関連科目－専門科目 デザイン学特別演習1及び2(計6単位)を含めて15単位以上 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p> <p><b>■世界遺産学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 世界遺産学関連科目－基礎科目 必修11単位(以下3科目) ・世界遺産論 ・世界遺産特別演習 ・世界遺産特別研究 (2) 世界遺産学関連科目－専門科目 19単位以上(大学院共通科目等を10単位まで含めることができる)</p> <p><b>■情報学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 講義科目 情報学関連科目のうち専門科目群から12単位以上(大学院共通科目、学術院共通専門基盤、他学位プログラム科目から8単位まで) (2) 演習科目 情報学関連科目のうち方法論的基盤科目群・実践指導科目群から6単位、研究指導科目群から4単位以上</p> <p><b>■ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目(共通) 14単位(医学概論、創薬概論、食品科学概論、バイオリソース概論、自然史概論、バイオインフォマティクス基礎、医薬品・食品マネジメント学、レギュラトリーサイエンス、ライフイノベーション実習、ライフイノベーションチーム型演習、責任ある研究行為:基盤編、博士前期ライフイノベーションセミナー(計13単位)、博士前期インターンシップⅠ又はⅡのうちから1単位) (2) 専門科目(共通) 12単位 (3) 専門科目(病態機構) 3単位 (4) 大学院共通科目 1～3単位 (5) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目 0～4単位</p>														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

<p>■<b>ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム(M)</b>                  次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目(共通) 14単位 (医学概論, 創薬概論, 食品科学概論, バイオリソース概論, 自然史概論, バイオインフォマティクス基礎, 医薬品・食品マネジメント学, レギュトリーサイエンス, ライフイノベーション実習, ライフイノベーションチーム型演習, 責任ある研究行為:基盤編, 博士前期ライフイノベーションセミナー(計13単位), 博士前期インターンシップI又はIIのうちから1単位)</p> <p>(2) 専門科目(共通) 12単位</p> <p>(3) 専門科目(創薬開発) 3単位</p> <p>(4) 大学院共通科目 1~3単位</p> <p>(5) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目 0~4単位</p>												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。

本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。

本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。

また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会(筑波研究学園都市の企業・研究機関)の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでになく幅広いライフ分野の教育研究が表現できている。

なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目(13単位)を履修した上で、各専門領域の専門科目と研究指導科目を履修する。

\*本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。

○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジーズ(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター

○海外の大学・研究機関……University of Oxford, University of Iceland, Universidad Rey Juan Carlos, Molecular Biology Institute of Barcelona, Institut Curie, University of Montpellier, Wageningen University, University of Bordeaux, Center of Biotechnology of Borj Cedria, Tunisia, University of California, San Diego

教育課程等の概要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程/一貫制博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理・環境科目群	応用倫理	1・2・3後		1		○								兼2 集中, オムニバス
		環境倫理学概論	1・2・3後		1		○								兼2 集中, オムニバス
		研究倫理	1・2・3前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
		生命倫理学	1・2・3前		1		○			2	3	1	1		兼3 オムニバス
		企業と技術者の倫理	1・2・3前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	シヨ報ン伝力養力成科ミユニケ	テクニカルコミュニケーション	1・2・3前		1		○								兼1 ※演習, 集中
		英語発表	1・2・3前		1		○								兼1 ※演習, 集中
		異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2・3通		2			○		1					兼1 集中
		Global Communication Skills Training	1・2・3前		1			○							兼1 ※講義, 集中
		サイエンスコミュニケーション概論	1・2・3前		1		○								兼1 集中
		サイエンスコミュニケーション特論	1・2・3後		1		○								兼1
	国際性養成科目群	21世紀的中国 一現代中国の多相一	1・2・3後		1		○								兼1
		国際研究プロジェクト	1・2・3通		1										兼1
		国際インターンシップ	1・2・3通		1										兼1 集中
		地球規模課題と国際社会:食料問題	1・2・3後		1		○								兼1 集中, オムニバス
地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命		1・2・3後		1		○								兼2 集中, オムニバス	
地球規模課題と国際社会:社会脳		1・2・3休		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:感染症・保健医療問題		1・2・3後		1		○			2			1		集中, オムニバス	
地球規模課題と国際社会:社会問題		1・2・3後		1		○								兼1 集中	
地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1・2・3後		1		○			1					集中	
キャリアアマネジメント科目群	JAPIC7 <sup>th</sup> バーストディスカッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2・3後		1			○							兼1 集中	
	JAPIC7 <sup>th</sup> バーストディスカッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2・3前		1			○							兼1 集中	
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2・3休		1			○					1		※講義, 集中	
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2・3前		1			○							兼1 集中	
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2・3休		1				○						兼9 集中, オムニバス 共同(一部)	
知的基盤形成科目群	脳アクセシビリティリーダー特論	1・2・3前		1		○			3	2	1			兼2 オムニバス, 共同(一部)	
	脳の多様性とセルフマネジメント	1・2・3休		1		○			1					※演習, 集中	
	生物多様性と地球環境	1・2・3前		1		○								兼4 ※実習, 集中, オムニバス	
	内部共生と生物進化	1・2・3前		1		○								兼1 集中	
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2・3休		1				○						兼2 ※講義, 集中	
	科学的発見と創造性	1・2・3前		1		○								兼1 集中	
身心基盤形成科目群	自然災害にどう向き合うか	1・2・3前		1		○								兼1	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2・3休		1		○								兼5 集中, オムニバス	
	21世紀と宗教	1・2・3前		1		○								兼2 集中, オムニバス	
	塑造実習	1・2・3後		1				○	1			1		隔年	
	コミュニケーションアート&デザインA	1・2・3前		1		○			1			1		兼6 隔年, オムニバス	
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2・3後		1		○			2	1		2		兼2 隔年, オムニバス	
	日本画実習	1・2・3前		1				○						兼2 隔年	
	ヨーガコース	1・2・3前		1				○	1					※講義, 集中	
	絵画実習A	1・2・3前		1				○						兼1 隔年	
	現代アート入門	1・2・3前		1			○							兼1 隔年	
大学院体育	大学院体育Ia	1・2・3通		1				○	2					兼2	
	大学院体育Ib	1・2・3前		1				○	1	1				兼1	
	大学院体育Ic	1・2・3後		1				○		1				兼2	
	大学院体育IIa	1・2・3通		1				○	2					兼2	
	大学院体育IIb	1・2・3前		1				○	1	1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	大学院体育IIc	1・2・3後		1				○		1					兼2	
	大学院体育IIIa	1・2・3通		1				○	2						兼2	
	大学院体育IIIb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1	
	大学院体育IIIc	1・2・3後		1				○		1					兼2	
	大学院体育IVa	1・2・3通		1				○	2						兼2	
	大学院体育IVb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1	
	大学院体育IVc	1・2・3後		1				○		1					兼2	
	大学院体育Va	1・2・3通		1				○	2						兼2	
	大学院体育Vb	1・2・3前		1				○	1	1					兼1	
	大学院体育Vc	1・2・3後		1				○		1					兼2	
小計 (59科目)		—	0	61	0			—	15	8	2	7	0	兼63	—	
教育学関連科目	科基礎	教育学特論 I	1後	1				○	10	8		9				
		教育学特論 II	2前	1				○	10	8		9				
	小計 (2科目)		—	0	2	0			—	10	8	0	9	0	0	—
	科専門基礎	教育学演習 I	2後	1				○	10	8		9				
	教育学演習 II	2通	1				○	10	8		9					
	フィールドワーク研究	2前	1				○	10	8		9					
小計 (3科目)		—	0	3	0			—	10	8	0	9	0	0	—	
専門科目	教育哲学研究法I	1・2・3通		3				○				1				
	教育哲学研究法II	1・2・3通		3				○				1				
	教育哲学研究法III	1・2・3通		3				○				1				
	高等教育論研究法I	1・2・3通		3				○		1						
	高等教育論研究法II	1・2・3通		3				○		1						
	高等教育論研究法III	1・2・3通		3				○		1						
	日本教育史研究法I	1・2・3通		3				○		1						
	日本教育史研究法II	1・2・3通		3				○		1						
	日本教育史研究法III	1・2・3通		3				○		1						
	生涯学習・社会教育学研究法I	1・2・3通		3				○		1						
	生涯学習・社会教育学研究法II	1・2・3通		3				○		1						
	生涯学習・社会教育学研究法III	1・2・3通		3				○		1						
	教育制度学研究法I	1・2・3通		3				○	1							
	教育制度学研究法II	1・2・3通		3				○	1							
	教育制度学研究法III	1・2・3通		3				○	1							
	学校経営学研究法I	1・2・3通		3				○	1	1						
	学校経営学研究法II	1・2・3通		3				○	1	1						
	学校経営学研究法III	1・2・3通		3				○	1	1						
	比較・国際教育学研究法I	1・2・3通		3				○				3				
	比較・国際教育学研究法II	1・2・3通		3				○				3				
	比較・国際教育学研究法III	1・2・3通		3				○				3				
	教育社会学研究法I	1・2・3通		3				○				1				
	教育社会学研究法II	1・2・3通		3				○				1				
	教育社会学研究法III	1・2・3通		3				○				1				
	カリキュラム研究法I	1・2・3通		3				○	1							
	カリキュラム研究法II	1・2・3通		3				○	1							
	カリキュラム研究法III	1・2・3通		3				○	1							
	教育方法学研究法I	1・2・3通		3				○	1							
	教育方法学研究法II	1・2・3通		3				○	1							
	教育方法学研究法III	1・2・3通		3				○	1							
	道德教育学研究法I	1・2・3通		3				○		1						
	道德教育学研究法II	1・2・3通		3				○		1						
	道德教育学研究法III	1・2・3通		3				○		1						
	キャリア教育学研究法I	1・2・3通		3				○	1			1				
	キャリア教育学研究法II	1・2・3通		3				○	1			1				
	キャリア教育学研究法III	1・2・3通		3				○	1			1				
	社会科教育学研究法I	1・2・3通		3				○	2	1						
	社会科教育学研究法II	1・2・3通		3				○	2	1						
	社会科教育学研究法III	1・2・3通		3				○	2	1						
	人文科教育学研究法I	1・2・3通		3				○	1	1		1				
人文科教育学研究法II	1・2・3通		3				○	1	1		1					
人文科教育学研究法III	1・2・3通		3				○	1	1		1					
数学教育学研究法I	1・2・3通		3				○	2	1							
数学教育学研究法II	1・2・3通		3				○	2	1							
数学教育学研究法III	1・2・3通		3				○	2	1							
理科教育学研究法I	1・2・3通		3				○				2					
理科教育学研究法II	1・2・3通		3				○				2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	理科教育学研究法III	1・2・3通		3				○					2			
	小計 (48科目)	—	0	144	0			—		10	8	0	9	0	0	
心理学関連科目	共通	心理学実験実習	1・2・3通		2				○	1				2		
		心理学研究マネジメント実習1	1・2・3前		1				○	6	3			2		兼1
		心理学研究マネジメント実習2	1・2・3後		1				○	6	3			2		兼1
		心理学先端研究1	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学先端研究2	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学先端研究3	1・2・3通		1			○								兼1
		心理学特別研究D1	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
		心理学特別研究D2	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
		心理学特別研究D3	1・2・3通		1				○	6	3			2		兼1
	小計 (9科目)	—	0	10	0			—	6	3			2		兼4	—
	心理基礎科学	心理基礎科学英語1	1・2・3前		1				○	3	2			2		兼1
		心理基礎科学英語2	1・2・3後		1				○	3	2			2		兼1
		心理学インターンシップ	1・2・3通		1				○	3	2			2		兼1
	小計 (3科目)	—	0	3	0			—	3	2			2		兼1	—
心理臨床学	臨床心理学特講D	1通		1			○		3				4			
	臨床心理学実習DI	1・2・3通		2				○	3				4			
	臨床心理学実習DII	1・2・3通		2				○	3				4			
小計 (3科目)	—	0	5	0			—	3	0	0		4	0	0	—	
障害科学関連科目	基礎科目	障害科学研究実践法	1・2・3通		1				○	10	10	1	3			
		海外研究活動 I	1・2・3通		1				○	1						
		海外研究活動 II	1・2・3通		1				○	1						
		小計 (3科目)	—	0	3	0			—	10	10	1	3	0	0	—
	専門科目	視覚障害講究 I	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		視覚障害講究 II	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		視覚障害講究 III	1・2・3通		1				○	1	4			1		
		聴覚障害講究 I	1・2・3通		1				○	2	1					
		聴覚障害講究 II	1・2・3通		1				○	2	1					
		聴覚障害講究 III	1・2・3通		1				○	2	1					
		知的・発達・行動障害講究 I	1・2・3通		1				○	3	3					
		知的・発達・行動障害講究 II	1・2・3通		1				○	3	3					
		知的・発達・行動障害講究 III	1・2・3通		1				○	3	3					
		運動障害・病弱講究 I	1・2・3通		1				○	2						
運動障害・病弱講究 II	1・2・3通		1				○	2								
運動障害・病弱講究 III	1・2・3通		1				○	2								
音声・言語障害講究 I	1・2・3通		1				○		1							
音声・言語障害講究 II	1・2・3通		1				○		1							
音声・言語障害講究 III	1・2・3通		1				○		1							
障害福祉学講究 I	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害福祉学講究 II	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害福祉学講究 III	1・2・3通		1				○	1	1	1		2				
障害原理論講究 I	1・2・3通		1				○	1								
障害原理論講究 II	1・2・3通		1				○	1								
障害原理論講究 III	1・2・3通		1				○	1								
小計 (21科目)	—	0	21	0			—	10	10	1	3	0	0	—		
クヒューヘルスマン関連科目/ケア科学/パブリック	専門基礎科目	ヒューマン・ケア科学特論 I	1・2前		1			○	2	1			1		オムニバス	
		ヒューマン・ケア科学特論 II	1・2前		1			○	2	1			1		オムニバス	
		ヒューマン・ケア科学特論 III	1・2後		1			○	1	3			1		オムニバス	
		パブリックヘルス特論 I	1・2前		1			○	2				2		兼1 オムニバス	
		パブリックヘルス特論 II	1・2後		1			○	1	2			1		兼1 オムニバス	
		パブリックヘルス特論 III	1・2後		1			○	2	1			1		兼1 オムニバス	
	小計 (6科目)	—	0	6	0			—	10	8	0	7	0	兼3	—	
	専門科目	ヒューマン・ケア科学演習	1・2通		3				○	5	5			3		
		ヒューマン・ケア科学特別研究	2・3通		3				○	4	5					
		パブリックヘルス演習	1・2通		3				○	5	3			4		兼3
パブリックヘルス特別研究		2・3通		3				○	5	2					兼3	
小計 (4科目)	—	0	12	0			—	10	8	0	7	0	兼3	—		
ニューロサイ	基礎科目	Neuroscience Professional Career Development/キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー	1前		1			○	5	12	2		7		兼7	
		小計 (1科目)	—	0	1	0		—	5	12	2	7	0	兼7	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
エンス関連科目	専門基礎科目	Advanced Scientific Research Proposal in English 1/高度専門科学英語1	1・2通	2				○		1	2						
		Advanced Scientific Research Proposal in English 2/高度専門科学英語2	2・3通		2			○		1	2						
		小計(2科目)	—	0	2	2			—	1	2	0	0	0	0	—	
	専門科目	Advanced Neuroscience Seminer 1/神経科学専門セミナー1	1・2通		1				○	1	3						
		Advanced Neuroscience Seminer 2/神経科学専門セミナー2	2・3通		1				○	1	3						
		Advanced Neuroscience Seminer 3/神経科学専門セミナー3	3通			1			○	1	3						
		Advanced Neuroscience Internship/神経科学専門研究インターンシップ	1・2・3通			3			○	1	3				兼1	集中	
		Neuroscience Dissertation Research 1/博士論文研究指導1	1前		2				○	5	9		2		兼5		
		Neuroscience Dissertation Research 2/博士論文研究指導2	1後		2				○	5	9		2		兼5	QE1の合格が単位認定必須条件	
		Neuroscience Dissertation Research 3/博士論文研究指導3	2前		2				○	5	9		2		兼5	QE2の合格が単位認定必須条件	
Neuroscience Dissertation Research 4/博士論文研究指導4		2後		2				○	5	9		2		兼5	QE3の合格が単位認定必須条件		
Neuroscience Dissertation Research 5/博士論文研究指導5	3前		2				○	5	9		2		兼5				
Neuroscience Dissertation Research 6/博士論文研究指導6	3後		2				○	5	9		2		兼5				
小計(10科目)	—	0	14	4			—	5	9	0	2	0	兼5	—			
看護科学関連科目	専門基礎科目	応用看護科学	1前		3			○				2				オムニバス	
		応用統計学	1前		2			○			1	2				オムニバス	
		看護研究方法論	1前		2			○			1	5		2		オムニバス	
		看護学教育	1後		2			○			1						
		小計(4科目)	—	0	9	0			—	4	5	0	3	0		—	
	専門科目	看護科学特論	1・2前		2			○			7	5		6		オムニバス	
		研究倫理学演習	1後		1				○	1	1		1			共同	
		看護科学演習I	1後		2				○	2			3			オムニバス	
		看護科学演習II	2後		1				○	3	5		6			共同	
		看護科学研究	3通		9				○	7							
小計(5科目)	—	0	15	0			—	7	5	0	6	0	0	—			
スポーツ医学関連科目	科基礎	スポーツ医学概論 I	1前		1			○				4	5			兼1	オムニバス
		スポーツ医学概論 II	1後		1			○			3	2	2	2		オムニバス	
		小計(2科目)	—	0	2	0			—	7	7	2	2		兼1	—	
	専門科目	スポーツ医学セミナー I	1・2通		1				○	4	5					兼1	
		スポーツ医学セミナー II	1・2通		1				○	3	2	2	2				
		スポーツ医学セミナー III	1・2・3通		1			○		1	3						
		博士論文研究指導 I	1通		1				○	6	3	1				兼1	
		博士論文研究指導 II	2通		1				○	6	3	1				兼1	
		博士論文研究指導 III	3通		1				○	6	3	1				兼1	
	小計(6科目)	—	0	6	0			—	7	7	2	2		兼1	—		
体育科学関連科目	専門基礎科目	研究方法論 I	1前		1			○				4	2		2		オムニバス
		研究方法論 II	1後		1			○					3			共同	
		研究セッション	1通		3				○	15	8		8			兼2	
		小計(3科目)	—	0	5	0			—	15	8	0	8	0	兼2	—	
	専門科目	健康スポーツ科学研究演習 I	1通		1				○	13	3		1				
		健康スポーツ科学研究演習 II	2通		1				○	13	3		1				
		小計(2科目)	—	0	2	0			—	13	3	0	1	0	0	—	
	研究実践科目	プロジェクトローテーション	1通		1				○				3				
		課題解決研究 I	2通		2				○	1	3		1				
		課題解決研究 II	2通		2				○	1	3		1				
プロジェクトフォーラム I		1後		1				○				2			集中		
プロジェクトフォーラム II	2後		1				○				2			集中			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	小計 (5科目)	—	0	7	0				1	3	0	6	0	0	—	
	国際ディベート合宿 I	1後		1			○			2		1			集中	
	国際ディベート合宿 II	2後		1			○			2		1			集中	
	国際フォーラム I	1後		1			○					2			集中	
	国際フォーラム II	2後		1			○					2			集中	
	小計 (4科目)	—	0	4	0				0	2	0	3	0	0	—	
関連科目 コーチング学	専門科目	コーチング学研究法 I	1後		1		○		1	5		2			兼2 オムニバス	
	コーチング学研究法 II	2通		1			○		6	10		3			兼4 集中	
	コーチング学事例研究法	1前		1			○		2	2					オムニバス	
	コーチングの哲学と倫理	1前		1			○		4	2					兼3 オムニバス	
	小計 (4科目)	—	0	4	0				8	11	0	3	0		兼6	
芸術学関連科目	専門科目	芸術学特別演習 IA	1前		2			○	12	4		6				
	芸術学特別演習 IB	1後		2			○	12	4		6					
	芸術学特別演習 IIA	2前		2			○	12	4		6					
	芸術学特別演習 IIB	2後		2			○	12	4		6					
	小計 (4科目)	—	0	8	0				12	4	0	6	0	0	—	
デザイン学関連科目	専門科目	デザイン学特別研究 A	1前		2			○	4	5	1	0			兼7	
	デザイン学特別研究 B	1後		2			○	4	5	1	0				兼7	
	デザイン学特別研究 C	2前		2			○	4	5	1	0				兼7	
	デザイン学特別研究 D	2後		2			○	4	5	1	0				兼7	
	インターンシップ	1・2通		2			○	4	3	1	0				集中	
	海外研修	1・2通		2			○	4	3	1	0				集中	
	小計 (6科目)	—	0	12	0				4	5	1	0	0	兼7		
世界遺産学	科専門	世界遺産学特別研究	1~3通		3			○	5	2		2			兼2	
	小計 (1科目)	—	0	3	0				5	2	0	2	0	兼2		
医学関連科目	基礎科目	医学研究概論	1・2前		1		○		2	3	1	1			※演習, オムニバス	
		医学セミナー	1・2通		3			○	2							
		医学特殊研究	1・2通		2			○	59	8	2	2			兼1	
		医学特別演習	1・2通		5			○	59	8	2	2			兼1	
		国際実践医学研究特論	1・2・3・4通		3		○		1			1			共同	
		最先端医学研究セミナー	1・2通		3			○	73	74	102	31	1		兼3 共同	
		橋渡し研究マネジメント	1・2後		2			○	2	2						オムニバス
		医科学教育実習	2・3通		1				59	8	2	2				兼1
		キャリアパス・セミナー	1・2後		1				1		1					
		医学専門英語	1・2通		2					1						
		メディカルコミュニケーション演習 I	1・2前		1					1						
		メディカルコミュニケーション演習 II	2・3通		3					1						
		研究発表と討論	2・3前		1						1		1			
		医科学国際討論 I	1前		2					1						兼1
		医科学国際討論 II	1後		2					1						兼1
		臨床研究方法論	1・2通		3					56	53	94	3			
		外国人医学者とのコミュニケーション演習	1・2後		2					1			1			共同
		インターンシップ I	1・2・3・4通		1					1						
		インターンシップ II	1・2・3・4通		1					1						
	English Topics in Science I	1・2・3・4前		1								1				
	English Topics in Science II	1・2・3・4後		1								1				
	小計 (21科目)	—	0	41	0				75	74	102	31	1	兼3		
専門科目	統合医学研究特論	1・2後		2			○		59	8	2	2			兼1	
	分子医科学特論 I	1・2前		2			○		4	4	3	5				
	分子医科学特論 II	1・2後		2			○		4	4	3	5				
	分子医科学演習 I	1・2前		2				○	4	4	3	5				
	分子医科学演習 II	1・2後		2				○	4	4	3	5				
	分子医科学実験実習 I	1・2前		2					4	4	3	5				
	分子医科学実験実習 II	1・2後		2					4	4	3	5				
	システム統御医学特論 I	1・2前		2			○		6	7	3	9			兼1	
	システム統御医学特論 II	1・2後		2			○		6	7	3	9			兼1	
	システム統御医学演習 I	1・2前		2				○	6	7	3	9			兼1	
	システム統御医学演習 II	1・2後		2				○	6	7	3	9			兼1	
	システム統御医学実験実習 I	1・2前		2					6	7	3	9			兼1	
システム統御医学実験実習 II	1・2後		2					6	7	3	9			兼1		
ゲノム環境医学特論 I	1・2前		2			○		6	3	1	7					
ゲノム環境医学特論 II	1・2後		2			○		6	3	1	7					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ゲノム環境医学演習I	1・2前		2			○		6	3	1	7			
	ゲノム環境医学演習II	1・2後		2			○		6	3	1	7			
	ゲノム環境医学実験実習I	1・2前		2				○	4	2	1	7			
	ゲノム環境医学実験実習II	1・2後		2				○	4	2	1	7			
	睡眠医科学特論I	1・2前		2			○		3	4				兼1	
	睡眠医科学特論II	1・2後		2			○		3	4				兼1	
	睡眠医科学演習I	1・2前		2				○	3	4				兼1	
	睡眠医科学演習II	1・2後		2				○	3	4				兼1	
	睡眠医科学実験実習I	1・2前		2					○	3	4				兼1
	睡眠医科学実験実習II	1・2後		2					○	3	4				兼1
	臨床病態解明学特論I	1・2前		2			○			14	14	22	2	1	
	臨床病態解明学特論II	1・2後		2			○			14	14	22	2	1	
	臨床病態解明学演習I	1・2前		2				○		14	14	22	2	1	
	臨床病態解明学演習II	1・2後		2				○		14	14	22	2	1	
	臨床病態解明学実験実習I	1・2前		2					○	14	14	22	2	1	
	臨床病態解明学実験実習II	1・2後		2					○	14	14	22	2	1	
	臨床外科学特論I	1・2前		2			○			20	12	37			
	臨床外科学特論II	1・2後		2			○			21	13	38			
	臨床外科学演習I	1・2前		2				○		21	13	38			
	臨床外科学演習II	1・2後		2				○		21	13	38			
	臨床外科学実験実習I	1・2前		2					○	21	14	38			
	臨床外科学実験実習II	1・2後		2					○	21	14	38			
	臨床内科学特論I	1・2前		2			○			16	25	29			
	臨床内科学特論II	1・2後		2			○			16	25	29			
	臨床内科学演習I	1・2前		2				○		16	25	29			
	臨床内科学演習II	1・2後		2				○		16	25	29			
	臨床内科学実験実習I	1・2前		2					○	16	25	29			
	臨床内科学実験実習II	1・2後		2					○	16	25	29			
	社会医学特論I	1・2前		2			○			3					
	社会医学特論II	1・2後		2			○			3					
	社会医学演習I	1・2前		2				○		3					
	社会医学演習II	1・2後		2				○		3					
	社会医学実験実習I	1・2前		2					○	3					
社会医学実験実習II	1・2後		2					○	3						
臨床試験論	1・2後		2			○			2			1		オムニバス	
医生物統計学概論	1・2前		1			○			1	1				共同	
医生物統計学特論	1・2後		2			○			1	1				共同	
医生物統計学実習	1・2前		2					○	1	1				共同	
疫学特論	1・2後		1			○			1			1		オムニバス	
小計 (54科目)		—	0	106	0	—	—	—	81	70	96	23	1	兼2	
専門科目 (国際協力型がん臨床指導者養成プログラム)	がんの基礎	1・2通		2		○			2	1				共同	
	総論:臨床腫瘍学	1・2通		1		○			2	1				共同	
	各論:臨床腫瘍学	1・2通		1		○			4	1	2			共同	
	臨床研究と統計学	1・2通		1		○			2					共同	
	がんと倫理	1・2通		1		○			1						
	精神腫瘍学・社会腫瘍学	1・2通		1		○				1					
	緩和医療とチーム医療	1・2通		1		○			2					共同	
	がんゲノム医療	1・2通		1		○			3	1				共同	
	小児・AYA・希少がん	1・2通		1		○			4					共同	
	ライフステージに応じたがん医療	1・2通		1		○			1		1			共同	
	保健医学物理学講義	1・2通		2		○			2	1					共同
	臨床腫瘍学(消化器内科)講義及び実習	1・2通		5				○	2	2	3				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(消化器外科)講義及び実習	1・2通		5				○	2		1				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(呼吸器内科)講義及び実習	1・2通		5				○	2						※講義, 共同
	臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	1・2通		5				○	1		2				※講義, 共同
臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	1・2通		5				○	1	4					※講義, 共同	
臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	1・2通		5				○	2	2	1				※講義, 共同	
臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	1・2通		5				○	1		1				※講義, 共同	
臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	1・2通		5				○	1	2	1				※講義, 共同	
臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	1・2通		5				○	1	1	1				※講義, 共同	
臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	1・2通		5				○	1	1					※講義, 共同	
臨床腫瘍学(乳腺・内分泌)講義及び実習	1・2通		5				○	1	1					※講義, 共同	
臨床腫瘍学(頭頸部)講義及び実習	1・2通		5				○	1	1	1				※講義, 共同	
臨床腫瘍学(画像診断)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1				※講義, 共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
がん専門選択講義	臨床腫瘍学(病理診断)講義及び実習	1・2通		5				○	2	1					※講義, 共同	
	基礎腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		5				○	4	2	1				※講義, 共同	
	臨床緩和医療学・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		5				○	1						※講義	
	臨床腫瘍学(皮膚)講義及び実習	1・2通		5				○		1	1				※講義, 共同	
	臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	1・2通		5				○	2		1				※講義, 共同	
	臨床腫瘍学特論講義及び実習	1・2通		5				○	1						※講義	
	基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	1・2通		5				○	1						※講義	
	診断医学物理学講義	1・2通		2			○		2	1					共同	
	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		4			○		4	2	1				※実習, 共同	
	臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習	1・2通		4			○		1	1					※実習, 共同	
	臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習	1・2通		4			○		2						※実習, 共同	
	緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習	
	基礎腫瘍学・がん医療開発講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習	
	基礎医学物理学	1・2通		6			○		2	1					共同	
	治療医学物理学	1・2通		6			○		2	1					共同	
	医学物理学総合実習	1・2通		4					2	1					共同	
	臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習	1・2通		4			○		1						※実習	
	小計(41科目)		—	0	155	0			—	29	22	16	0	0	0	—
	専門科目(トータル)	社会精神保健学特講	1・2通		3				○		1					
福祉医療学特講		1・2通		3				○		1						
保健医療政策学特講		1・2通		3				○	1							
ヘルスサービスリサーチ特講		1通		3				○	1							
小計(4科目)			—	0	12	0			—	2	2	0	0	0	0	
専門科目(放射線)	放射線健康リスク管理学	1・2通		4				○	1							
	放射線災害医療学	1・2通		2				○	1							
	放射線科学—その基礎理論と応用—	1・2前		1				○	1						※実習	
	課題解決型放射線科学演習	1・2通		2				○	1							
	小計(4科目)		—	0	9	0			—	3	0	0	0	0	0	
専門科目(基礎)	病理学・法医学概論	1・2通		1				○	3	1					共同	
	先端医学概論I	1・2通		1				○	3	1					共同	
	先端医学概論II	1・2通		1				○	3	1					共同	
	病理診断学実習I	1・2通		1				○	3	1					共同	
	病理診断学実習II	1・2通		1				○	3	1					共同	
	小計(5科目)		—	0	5	0			—	3	1	0	0	0	0	
情報学関連科目	情報学セミナー a	1・2後		1				○	14	21	1	9			兼1 共同	
	情報学セミナー b	1・2前		1				○	14	21	1	9			兼1 共同	
	研究インターンシップ	2前		2				○	1	2		2			共同	
	研究指導実践	2後		2				○		2		2			共同	
	PBL	1前		2				○	2	2					共同	
	情報学総合演習Ia	1前		1				○	14							
	情報学総合演習Ib	1後		1				○	14							
	情報学総合演習IIa	3前		1				○	14							
	情報学総合演習IIb	3後		1				○	14							
	グローバル研究演習III	1前・後		1				○	14							
	グローバル研究演習IV	2前・後		1				○	14							
	グローバル研究演習V	3前・後		1				○	14							
小計(12科目)		—	0	15	0			—	14	21	1	9	0	兼1		
基礎科目	イニシエーションセミナー	1前		1				○	1	1					集中	
	世界のサイエンスリーダーズセミナー	1通		1				○	1							
	ビジネスリーダーズセミナー	1通		1				○	1							
	ヒューマンバイオロジーのセレンディビティ	1前		1				○							兼2	
	科学倫理	1前		1				○			1					
	ヒューマンバイオロジーの国際討論I	1前		1				○	1						兼1 ※演習	
	ヒューマンバイオロジーの国際討論II	1後		1				○	1						兼1 ※演習	
	国際研究室ローテーション	2後		5				○	1							
	海外企業におけるインターンシップ	2後		5				○	1							
	適正技術	2後		5				○	1							
	起業家マインド育成	2後		5				○	1							
国際研究室ローテーション上級コース	3・4・5通		10											兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	海外企業におけるインターンシップ上級コース	3・4・5通		10				○	1								
	適正技術上級コース	3・4・5通		10				○	1								
	起業家マインド育成・実践コース	3・4・5通		10				○	1								
	キャリアマネジメント学習	3・4・5通		10				○	1								
	小計 (16科目)	—	0	77	0			—	4	1	0	1	0	兼4	—		
	専門基礎科目	人体解剖学・発生学	1後		2			○		1							
		人体病理学・腫瘍学	1後		2			○		3	2	1	2			オムニバス	
		ヒトの感染・免疫学	1前		2			○		1	4	2	2			オムニバス	
		ヒトの内分泌・代謝学	1前		2			○		2	3					兼1 オムニバス	
		環境医学	1前		1			○		1							
		生化学・分子生物学	1前		1			○		2	1	2	1			オムニバス	
		分子細胞生物学	1後		1			○								兼1	
		基礎毒性学	1後		1			○		1							
		創薬フロンティア科学	1後		1			○		1							
		神経科学特論	1・2前		1			○		1						オムニバス	
		神経生物学	1後		1				○	2	3		1				
サイエンスにおけるITの活用		1休		2			○				1				兼1 ※実習		
基礎計算生物学		1後		2			○								兼2		
数理アルゴリズム		2後		2			○								兼2 ※実習		
高性能計算技術		2後		2			○								兼2		
計算構造生物学・創薬	2後		1			○								兼1 ※実習			
ゲノクスデータベースへのアクセスと利用	1前		1				○	1									
遺伝子工学と遺伝子改変マウス	2前		1				○	1									
エピゲノム生理学	2前		1				○							兼2			
シグナル伝達と創薬デザイン	2前		1				○	3	1	1	1			オムニバス			
幹細胞再生医学	2前		1				○	1			1						
小計 (21科目)	—	0	29	0			—	15	14	5	8	0	兼10	—			
専門科目	ヒューマンバイオロジー基礎実験	1前		4				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー特論 I	1後		1			○		9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー演習 I	1後		1				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー特論 II	2前		1			○		9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー演習 II	2前		1				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー実験実習 II	2前		1				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー研究 I	1後		2				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー研究 II	2通		10				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー研究室演習 I	1後		5				○	9	7		1			兼9		
	ヒューマンバイオロジー研究 III	3通		10				○	9	7		1			兼9		
小計 (10科目)	—	0	36	0			—	9	7	0	1	0	兼9	—			
ライフィノベーション (病態機構/創薬開発) 関連	基礎科目	人を対象とした研究:基盤編	1通		1			○							兼1		
		博士後期ライフィノベーションセミナー	1前		1			○							兼9		
		博士後期インターンシップI	1・2・3通		1				○		1						
		博士後期インターンシップII	3通		1				○		1						
	小計 (4科目)	—	0	4	0			—	0	1	0	0	0	兼10	—		
	専門科目	ライフィノベーション博士後期演習I秋	1後		1				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期演習I春	1前		1				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期研究I秋	1後		2				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期研究I春	1前		2				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期演習II秋	2後		1				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期演習II春	2前		1				○	1						兼16	
		ライフィノベーション博士後期研究II秋	2後		2				○	1						兼16	
ライフィノベーション博士後期研究II春		2前		2				○	1						兼16		
ライフィノベーション博士後期演習III秋	3後		1				○	1						兼16			
ライフィノベーション博士後期演習III春	3前		1				○	1						兼16			
ライフィノベーション博士後期研究III秋	3後		2				○	1						兼16			
ライフィノベーション博士後期研究III春	3前		2				○	1						兼16			
小計 (12科目)	—	0	18	0			—	1	0	0	0	0	兼16	—			
合計 (424科目)		—	0	871	6			—	179	165	107	98	1	兼132	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(障害科学) 博士(ヒューマン・ケア科学) 博士(公衆衛生学) 博士(神経科学) 博士(看護科学) 博士(スポーツ医学) 博士(体育科学) 博士(コーチング学) 博士(芸術学) 博士(デザイン学) 博士(世界遺産学) 博士(医学) 博士(情報学) 博士(人間生物学) 博士(病態機構学) 博士(医科学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、工学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(修了要件)						1 学年の学期区分		2 学期						
<博士後期課程及び後期3年だけの博士課程> 3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。  <一貫制博士課程> 5年(医学の課程にあっては4年)以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については3年以上在学すれば足りるものとする。						1 学期の授業期間		1 5 週						
						1 時限の授業時間		7 5 分						
(履修方法)														
※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。														
<b>■教育学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。														
(1) 教育学関連科目の基礎科目 2単位 (2) 教育学関連科目の専門基礎科目 1単位以上 (3) 教育学関連科目の専門科目 3単位以上														
<b>■心理学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。														
・心理学関連科目の専門科目(共通) 心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習1、同2、心理学特別研究D1、同D2 ・心理臨床学サブプログラムにおいては、心理学関連科目の臨床心理学実習DIもしくは臨床心理学実習DIIのいずれかを合計4単位以上														
<b>■障害科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により4単位以上を修得すること。														
(1) 障害科学関連科目の基礎科目 障害科学研究実践法(1単位) (2) 障害科学関連科目の専門科目 専攻分野の講義から3単位														
<b>■ヒューマン・ケア科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により12単位以上を修得すること。														
(1) ヒューマン・ケア科学/パブリックヘルス関連科目の専門基礎科目 6単位 (2) ヒューマン・ケア科学/パブリックヘルス関連科目の専門科目 ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。														

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<p><b>■パブリックヘルス学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により12単位以上を修得すること。</p> <p>(1) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門基礎科目 6単位 (2) ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目の専門科目 パブリックヘルス演習、パブリックヘルス特別研究 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>														
<p><b>■ニューロサイエンス学位プログラム(D)</b> 次の科目を含む17単位以上を修得すること。</p> <p>(1) ニューロサイエンス関連科目の基礎科目 1単位 (2) ニューロサイエンス関連科目の専門基礎科目 高度専門科学英語1 (3) ニューロサイエンス関連科目の専門科目 神経科学専門セミナー1、同2、博士論文研究指導1～6 上記のほか、神経科学専門研究インターンシップ等の本学位プログラム開設の自由科目、学術院共通専門基盤科目の履修を推奨する。</p>														
<p><b>■看護科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により25単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 看護科学関連科目の専門基礎科目等 10単位以上 ・応用看護科学(3単位)、応用統計学(2単位)、看護研究方法論(2単位) ・看護学教育、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目の中から3単位以上 (2) 看護科学関連科目の専門科目 15単位</p>														
<p><b>■スポーツ医学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により5単位以上を修得すること。</p> <p>(1) スポーツ医学関連科目の基礎科目 2単位 (2) スポーツ医学関連科目の専門科目 博士論文研究指導I(1単位)を含む3単位 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する</p>														
<p><b>■体育科学学位プログラム(D)</b> &lt;標準履修モデル&gt; 体育科学関連科目の中から、次の科目6単位を含む7単位以上の修得</p> <p>(1) 専門基礎科目 研究方法論I、研究セッション (2) 研究応用科目 健康スポーツ科学研究演習I、同II 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。</p> <p>&lt;次世代健康スポーツ科学履修モデル:スポーツ・リサーチ・イノベーター(SRI)認定&gt; 体育科学関連科目の中から、次の科目12単位を含む14単位以上の修得</p> <p>(1) 専門基礎科目 研究方法論I、研究セッション (2) 研究応用科目 健康スポーツ科学研究演習I、同II (3) 研究実践科目 プロジェクトローテーション、課題解決研究I、プロジェクトフォーラムI (4) 国際研究科目 国際ディベート合宿I、国際フォーラムII 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。</p>														
<p><b>■コーチング学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により4単位以上を修得すること。</p> <p>・コーチング学関連科目の専門科目 4単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位を履修することを推奨する。 なお、体育系以外の博士前期課程を修了した者は研究の基礎となる専門知識に関する科目を1年次に博士前期課程体育学学位プログラムが開設している科目から10単位数履修すること。</p>														
<p><b>■芸術学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により8単位以上を修得すること。</p> <p>・芸術学関連科目の専門科目 8単位 上記のほか学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>														
<p><b>■デザイン学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。</p> <p>・デザイン学関連科目の専門科目 デザイン学特別研究B及びDを含む6単位以上 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を奨励する。</p>														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p><b>■世界遺産学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により3単位以上を修得すること。</p> <p>・世界遺産学関連科目の専門科目 3単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>														
<p><b>■医学学位プログラム(医学を履修する博士課程)</b> 次の科目を含めて30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 医学関連科目の基礎科目 次の科目により11単位 医学研究概論、医学セミナー、医学特殊研究、医学特別演習 (2) 医学関連科目の専門科目 統合医学研究特論 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位の履修を推奨する。</p>														
<p><b>■情報学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 情報学関連科目の研究指導科目 6単位(情報学セミナー、情報学総合演習I,II) (2) 情報学関連科目の実践指導科目 4単位(研究指導実践、PBL、研究インターンシップ) なお、実践指導科目のうち2単位までは、大学院共通科目および他学位プログラム科目を修了の要件となる単位として認める。</p>														
<p><b>■ヒューマンバイオロジー学位プログラム(5D)</b> 次の履修方法により72単位以上を修得すること。</p> <p>(1) ヒューマンバイオロジー関連科目の1,2年次の配当科目のうち、次の科目を含めて合計60単位以上 ・基礎科目 イニシエーションセミナー、世界のリーダーズサイエンスセミナー、ビジネスリーダーズセミナー、科学倫理により4単位、及び選択必修5単位以上 ・専門基礎科目 人体解剖学・発生学、人体病理学・腫瘍学、ヒトの感染・免疫学、ヒトの内分泌・代謝学、基礎計算生物学 ・専門科目の1,2年時配当科目 26単位 (2) ヒューマンバイオロジー関連科目の専門科目の3年次の配当科目 10単位</p>														
<p><b>■ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により24単位以上を修得すること。</p> <p>(1) ライフイノベーション関連科目の基礎科目 次の科目を含む3単位 人を対象とした研究: 基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー (2) ライフイノベーション関連科目の専門科目 18単位 (3) 大学院共通科目 1~3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目</p>														
<p><b>■ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により24単位以上を修得すること。</p> <p>(1) ライフイノベーション関連科目の基礎科目 次の科目を含む3単位 人を対象とした研究: 基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー (2) ライフイノベーション関連科目の専門科目 18単位 (3) 大学院共通科目 1~3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目</p>														

※教育上有益と認められる場合には、学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。

本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。

本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。

また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会(筑波研究学園都市の企業・研究機関)の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。

なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目(2単位以上)を履修した上で、各専門領域の研究指導科目を履修する。

\*本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。

○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジー(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター

○海外の大学・研究機関……University of Oxford, University of Iceland, Universidad Rey Juan Carlos, Molecular Biology Institute of Barcelona, Institut Curie, University of Montpellier, Wageningen University, University of Bordeaux, Center of Biotechnology of Borj Cedria, Tunisia, University of California, San Diego

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2			1		ホニバス, ｽﾀｲ
	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1・2前	鹿屋体育大学	1			○			2						ｽﾀｲ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○									兼2 ｽﾀｲ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後	筑波大学		1		○			1						兼1 ｽﾀｲ
	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	1・2後	鹿屋体育大学		1		○			1						集中, ｽﾀｲ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前	筑波大学		1		○			1						集中, ｽﾀｲ
	Sport Management (スポーツマネジメント論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○			1						兼1 ｽﾀｲ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲ
	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○			1						集中, ｽﾀｲ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前	筑波大学		1		○			1						ｽﾀｲ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○			2	1			1		兼1 ホニバス, ｽﾀｲ
Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	筑波大学	1			○			1						ｽﾀｲ	
小計 (12科目)		—		5	7	0				4	4	0	1	0	兼0	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	筑波大学	1			○			1	1			1		兼1 ホニバス, ｽﾀｲ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前	筑波大学		1		○							1		集中, ｽﾀｲ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後	筑波大学		1		○							1		兼1 集中, ｽﾀｲ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲ
	Research Project Management【Practical】(研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲ
小計 (5科目)		—		1	4	0				1	1	0	1	0	兼0	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後	筑波大学		2		○									兼1 ｽﾀｲ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後	筑波大学		1		○						1		集中, ｽﾀｲﾌﾞ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾞ
	小計 (12科目)	—		0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾞ
	Research Project (課題研究)	2後	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾞ
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1					集中
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼1 集中
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○					1		集中
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通	筑波大学		2				○	1			1		兼3 集中
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	6					○	1	2		1		兼2 集中
	小計 (9科目)	—		14	7	0	—			4	4	0	1	0	兼5
合計 (38科目)				—		20	31	0	—	4	4	0	1	0	兼12
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等							
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学	47 (19)			1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
				(履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。				鹿屋体育大学	21 (18)			1時限の授業時間		筑波大学 : 75分 鹿屋体育大学 : 90分	

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	講義・基礎 International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	1			○						1			オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	1			○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○			1						兼1 ｽﾃｲｱ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○			1						集中, ｽﾃｲｱ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前		1		○				1					ｽﾃｲｱ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	1			○			1				1		兼1 オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	1			○			1						ｽﾃｲｱ
小計(8科目)	—	—	4	4	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼4	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	1			○			1	1		1			兼1 オムニバス, ｽﾃｲｱ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前		1		○						1			集中, ｽﾃｲｱ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○						1			兼1 集中, ｽﾃｲｱ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Research Project Management【Practical】(研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後		1		○									兼1 ｽﾃｲｱ
小計(5科目)	—	—	1	4	0	—	—	—	1	1	0	1	0	兼3	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後		2		○									兼1 ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後		1		○						1			集中, ｽﾃｲｱ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲｱ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, スタイ
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, スタイ
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前		1		○									兼1 隔年, スタイ
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前		1		○									兼1 隔年, スタイ
	小計 (12科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2	
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	4				○		2	1		1		兼1 スタイ	
	Research Project (課題研究)	2後	4				○		2	1		1		兼1 スタイ	
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼3 集中	
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通		1			○		1			1		兼3 集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通		1			○		1					集中	
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼1 集中	
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通		1			○					1		集中	
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通		2				○	1			1		兼3 集中	
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	6					○	1	1		1		集中	
	小計 (9科目)	—	14	7	0	—			2	1	0	1	0	兼3	—
合計 (34科目)			—	19	28	0	—		2	1	0	1	0	兼10	—
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。								1 学年の学期区分		2期					
								1 学期の授業期間		15週					
								1 時限の授業時間		75分					

教育課程等の概要 (共同学科等)

(人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻 3年制博士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	実践的教育能力育成科目																	
	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1						兼1 ※演習 メ <sup>o</sup> イ		
	大学体育授業演習 I	1後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ		
	大学体育授業演習 II	2・3後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ		
	大学体育授業演習 III	2・3通	筑波大学		2			○		5	1					兼1 集中, メ <sup>o</sup> イ		
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同(一部), オムバス, メ <sup>o</sup> イ		
	小計 (5科目)	—		1	8	0		—		8	1	0	0	0		兼3		
	実践的研究能力育成科目																	
	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2			○		1							メ <sup>o</sup> イ	
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1				○		3						兼1 オムバス, 集中, メ <sup>o</sup> イ		
	体育スポーツ実践的研究演習 I	1後	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, メ <sup>o</sup> イ		
	体育スポーツ実践的研究演習 II	2前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, メ <sup>o</sup> イ		
	体育スポーツ実践的研究演習 III	2・3通	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, 集中, メ <sup>o</sup> イ		
	小計 (5科目)	—		1	8	0		—		4	0	0	0	0		兼1		
	博士論文研究基礎科目																	
博士論文課題演習 I	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1						兼1 メ <sup>o</sup> イ		
博士論文課題演習 II	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1						兼1 メ <sup>o</sup> イ		
小計 (2科目)	—		4	0	0		—		8	1	0	0	0		兼1			
専門基礎科目	高度指導者教養育成科目																	
	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2		○			1						集中, 演習		
	国際インターンシップ*	1・2・3通	筑波大学		1			○								兼1 集中		
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1		○			1						兼8 オムバス, メ <sup>o</sup> イ		
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1		○			3						兼1 共同(一部), オムバス, メ <sup>o</sup> イ		
小計 (4科目)	—		0	5	0		—		4	1	0	0	0		兼10			
合計 (16科目)				—			6	21	0		—		8	1	0	0	0	兼12
学位又は称号		博士 (体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係											
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等										
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位 (必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位 (必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位 (必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位 (必修)				筑波大学	17 (5)			1 学年の学期区分		2期								
				鹿屋体育大学				1 学期の授業期間		15週								
						1 時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分										
*大学院共通科目として開設している科目。																		

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	実践的教育能力育成	大学体育論	1前	1			○			1					兼1	※演習 メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅰ	1後		2			○		5	1				兼1	メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅱ	2・3後		2			○		5	1				兼1	メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅲ	2・3通		2			○		5	1				兼1	集中,メ <sup>テ</sup> イ
		小計（4科目）	—	1	6	0		—		5	1	0	0	0	兼2	
育成科目	実践的研究能力	大学体育研究演習	1通		2			○		1						メ <sup>テ</sup> イ
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0	0	
基礎力育成科目	博士論文研究基	博士論文課題演習Ⅰ	1通	2				○		5	1				兼1	メ <sup>テ</sup> イ
		博士論文課題演習Ⅱ	2通	2				○		5	1				兼1	メ <sup>テ</sup> イ
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		5	1	0	0	0	兼1	
専門基礎科目	高度指導者教養	つくばサマーインスティトゥート	1・2前		2		○				1					集中,演習
		国際インターンシップ*	1・2・3通		1			○							兼1	集中
		コーチングの哲学と倫理	1前		1		○			1					兼8	オムニバス,メ <sup>テ</sup> イ
		小計（3科目）	—	0	4	0		—		1	1	0	0	0	兼9	
合計（10科目）			—	5	12	0		—		5	1	0	0	0	兼11	
学位又は称号		博士（体育スポーツ学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
（修了要件） 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位（必修） ・実践的研究能力育成科目：3単位（必修） ・高度指導者教養育成科目：1単位（必修） ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位（必修）									1学年の学期区分		2期					
									1学期の授業期間		15週					
									1時限の授業時間		75分					
									*大学院共通科目として開設している科目。							

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考					
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学										
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計		
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6							0	6	兼19	オムニバス・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3							0	3	兼1	オムニバス
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1							0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1							0	1	兼1	集中
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2			○							0	1						1	1		
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1					3	3		共同 ※講義
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1			1								0	2		オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0							0	0	兼1	
小計(8科目)			—	—	6.5	6	0	—	—	4	2	0	5	0	11	3	1	0	0	0	0	4	15	兼21		
専門科目 I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7							0	7	兼5	
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1					6	6		
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○							0	3						3	3		
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8							0	8	兼5	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1					6	6		
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2				○						0	6	1					7	7		
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5					10	10		オムニバス
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3				○						0	5	1					6	6		
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2					4	4		
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2							0	2	兼1	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3				○						0	1						1	1		
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15				○						0	1						1	1		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15				○						0	2	2					4	4		
小計(13科目)			—	—	10	44	0	—	—	4	1	0	3	0	8	11	8	0	0	0	0	19	27	兼5		
専門科目 II	健康と食資源科目群 I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3							0	3		オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4							0	4		オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2				○	3	4				10							0	10		オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2				○	3	2	1	2		8							0	8		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		1			○		1					1							0	1		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1							0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1							0	1		
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0							0	0	兼1	
食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0							0	0	兼1	集中	
小計(8科目)			—	—	1	12	0	—	—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	0	24	兼2		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考							
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学												
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計				
健康と食資源科目群II	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			○							0	1						1	1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			○							0	3						5	5	オムニバス				
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○							0	3	2					5	5	オムニバス				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		○							0	2	2					5	5	オムニバス				
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2	オムニバス				
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2					
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					1	1					
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○							0	8	9		1			18	18	オムニバス・共同(一部)				
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○							0	1						1	1					
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○							0	1						1	1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○							0	1						1	1	※実験・実習				
小計(11科目)		—	—		7	18	0		—					0	0	0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38	
健康と食資源科目群III	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	3	5					8	8	オムニバス ※演習				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1						1	1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3					
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3					
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3	※演習				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	3					5	5					
小計(8科目)		—	—		0	12	0		—					0	0	0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27	
(研究指導)		1~2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学		—	—	—	—	—	—				5	1	0	0	0	0	6	37	30	0	1	0	68	74	
合計(48科目)		—	—		24.5	92	0		—					12	8	1	10	0	31	48	44	0	5	0	97	128		
学位又は称号	修士(食料健康科学)			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)																					
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数(必修)			授業期間等																					
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	筑波大学			29(10)			1学年の学期区分					2期																
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)	国立台湾大学			53(7)			1学期の授業期間					15週																
	ボルドー大学			34.5(7.5)			1時限の授業時間					筑波大学：75分 国立台湾大学：50分 ボルドー大学：120分																
	共同開設科目																											

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考						
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	申請大学					連携外国大学											
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授に 相当 員	准 教 授に 相当 員	講 師に 相当 員	助 教に 相当 員		助 手に 相当 員	小 計	合 計			
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6								0	6	兼19	オムニバース・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3								0	3	兼1	オムニバース
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1								0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1								0	1	兼1	集中
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2								0	2		オムニバース
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0								0	0	兼1	
小計(6科目)		—			5	4	0		—	4	2	0	5	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11	兼21		
専門科目I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7								0	7	兼5	
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8								0	8	兼5	
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2								0	2	兼1	
	小計(3科目)		—		4	3	0		—	4	1	0	3	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	兼5		
専門科目II	健康と食資源科目群I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3								0	3		オムニバース
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4								0	4		オムニバース
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2				○	3	4		3		10								0	10		オムニバース・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2				○	3	2	1	2		8								0	8		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		1			○		1					1								0	1		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1								0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		2			○							0								0	0	兼1	
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0								0	0	兼1	集中
小計(8科目)		—		1	12	0		—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	24	兼2			
(研究指導)			1~2通	筑波大学						5	1	0	0	0	6									0	6		
合計(17科目)									—	12	8	1	10	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	31			

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員			助教に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）		学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		
卒業要件及び履修方法					開設大学等		開設単位数（必修）		授業期間等													
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）					筑波大学		29 (10)		1 学年の学期区分					2 期								
									1 学期の授業期間					1 5 週								
									1 時限の授業時間					7 5 分								
					共同開設科目																	

教育課程等の概要（国際連携学科等）																								
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（国立台湾大学）																								
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	申請大学					連携外国大学								
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授 に 相 当 員 す	准 教 授 に 相 当 員 す	講 師 に 相 当 員 す	助 教 に 相 当 員 す		助 手 に 相 当 員 す	小 計	合 計
科 基 目 礎	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		○								0	1				1	1		
	小計（1科目）		—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
専 門 科 目 I	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1				6	6	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1				6	6	
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2					○					0	6	1				7	7	
	フィールドと実験室の融合（台湾）		1後	国立台湾大学		3						○				0	5	1				6	6	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3							○			0	1					1	1	
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15								○		0	1					1	1	
	小計（6科目）		—		0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	7	7	
専 門 科 目 II	健康と食資源科目群II		1後	国立台湾大学		3			○							0	1					1	1	
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学		2			○							0	3			2		5	5	オムニバス
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学		3			○							0	3	2				5	5	オムニバス
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3			○							0	2	2		1		5	5	オムニバス
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		2			○							0	1			1		2	2	オムニバス
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2			○							0	1	1				2	2	
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2			○							0	1	1				2	2	
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2			○							0	1	1				1	1	
	台湾農業		1後	国立台湾大学		2			○							0	8	9		1		18	18	オムニバス・共同(一部)
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2			○							0	1					1	1	
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1			○							0	1					1	1	
応用微生物学		1後	国立台湾大学		3			○							0	1					1	1	※実験・実習	
小計（11科目）		—		7	18	0	—			0	0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38		
(研究指導)			1～2通	国立台湾大学		—	—	—	—	—					0	22	9	0	0	0	0	31	31	
合計（18科目）			—		7	46	0	—		0	0	0	0	0	0	33	22	0	5	0	60	60		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員				助教に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		
卒業要件及び履修方法					開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等																
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）					国立台湾大学	53 (7)	1 学年の学期区分	2 期															
							1 学期の授業期間	1 5 週															
							1 時限の授業時間	5 0 分															
					共同開設科目																		

教育課程等の概要（国際連携学科等）																							
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（ボルドー大学）																							
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学							
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計
基礎科目	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1			3	3	共同 ※講義
	小計（1科目）		—		1.5	0	0			—		0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	
専門科目Ⅰ	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○	○						0	3				3	3	オムニバス
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5			10	10	
	フィールドと実験室の融合（フランス）		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2			4	4	
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学						○						0	2	2			4	4	
	小計（4科目）		—		6	15	0			—		0	0	0	0	0	5	7	0	0	0	12	12
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅲ	水性及び食源性微生物と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	3	5			8	8	オムニバス ※演習
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1				1	1	
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1			3	3	
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3	
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3	
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2			3	3	
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1			3	3	
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	3			5	5	
	小計（8科目）		—		0	12	0			—		0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27
	（研究指導）		1～2通	ボルドー大学	—	—	—	—	—	—						0	15	21	0	0	0	36	36
	合計（13科目）		—		7.5	27	0			—		0	0	0	0	0	15	22	0	0	0	37	37
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等																
（修了要件） 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）	ボルドー大学			34.5（7.5）			1 学年の学期区分					2 期											
							1 学期の授業期間					1 5 週											
							1 時限の授業時間					1 2 0 分											
			共同開設科目																				

教育課程等の概要														
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程/修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科専学 目門術 基院 盤共 通	カウンセリング方法論基礎Ⅰ	1通		1		○			5	3				
	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ	1前		1		○			3	2	2	1		オニハス
	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1・2前		1		○			3	2				オニハス
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	11	7	2	1	0	0
カウ ンセ リ ン グ 関 連 科 目	基礎科目 カウンセリング方法論基礎Ⅱ	1通		1			○		5	3				
	カウンセリング方法論基礎Ⅲ	1通		1			○		5	3				
	カウンセリング研究法Ⅰ	2通		1			○		5	3				
	カウンセリング研究法Ⅱ	2通		1			○		5	3				
小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	—	5	3	0	0	0	0	—
専門科目	カウンセリング心理学	1前		2		○			1					
カウンセリング特別研究Ⅰ	2通		1			○		5	3					
カウンセリング特別研究Ⅱ	2通		1			○		5	3					
カウンセリング特別研究Ⅲ	2通		1			○		5	3					
生涯発達臨床心理学Ⅰ	1・2前		2			○		1						
生涯発達臨床心理学Ⅱ	1・2前		2			○		1						
学校心理学	1・2後		2			○			1					隔年
学校教育相談	1・2後		2			○		1						
健康心理学	1・2前		2			○			1					
職場のメンタルヘルス	1・2後		2			○			1					
組織心理学	1・2後		2			○		1						
キャリア心理学	1・2後		2			○		1						
人格心理学	1・2前		2			○		1						
人間関係論	1・2前		2				○							兼1
非行・犯罪心理学	1・2後		2			○		1						兼1
家族心理学	1・2後		1			○								兼1
グループプロセス	1前		2			○			1					
心理・教育アセスメント	1後		2			○		1						
ヘルピング・スキル	1・2後		2			○		1						隔年
カウンセリング方法論	1・2後		2			○		1						
心理療法	1・2通		2			○		1						隔年, 集中
認知行動療法	1・2後		2			○			1					集中
心理診断法	1・2通		2			○								兼1 隔年, 集中
心身医学	1・2前		1			○		1						隔年, 集中
心理・教育統計法	1前		2			○			1					
社会調査法	1前		2						1					
データ解析法	1後		2						1					
事例研究法	1・2前		2			○			1					集中
人間行動基礎論Ⅰ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
人間行動基礎論Ⅱ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
人間行動基礎論Ⅲ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
人間行動基礎論Ⅳ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	1・2通		1			○								兼1 隔年, 集中
生涯発達カウンセリング基礎面接実習	1通		1					○	5	2		1		
生涯発達カウンセリング応用面接実習	2通		1					○	5	1				
生涯発達カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1	1				
産業カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1	1				
非行・犯罪心理学特別面接実習	2通		2					○	1					
教育カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1					
家族カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1					
学校カウンセリング特別面接実習	2通		2					○		1				
健康心理カウンセリング特別面接実習	2通		2					○		1				
精神衛生カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	2					
臨床心理カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	2	1				
生涯発達カウンセリング実践面接実習	2通		2					○	1	1				隔年
小計(48科目)	—	0	81	0	—	—	—	—	5	3	0	1	0	兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
リハビリテーション科学関連科目	基礎科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	1前・後	1				○		4	2		1		共同
		リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	1後	1				○		4	2		1		
		リハビリテーション研究法Ⅰ	2通	1					○	5	3		1		
		リハビリテーション研究法Ⅱ	2通	1					○	5	3		1		
		リハビリテーション概説	1前	2				○		6	2		1		
		リハビリテーション研究基礎論	1前	1				○		5	3	2	1		
		リハビリテーション特別研究	2通	1					○	5	3		1		
		医学的リハビリテーション	1・2前	1				○		1					
		特別支援教育特講	1・2前	1				○		1	2				
		ダイバーシティ概論	1・2前	1				○					1		
		職業リハビリテーション	1・2前	1				○			1				
		地域リハビリテーション	1・2前	2				○		1					
		統計学	1・2前	3				○		2	2				
小計 (13科目)		—	0	17	0			—	9	5	2	1	0	0	
リハビリテーション科学関連科目	専門科目	特別支援教育授業論	1・2後	1				○	1	2				共同	
		特別支援教育課程論	1・2後	1				○	1	2				共同	
		特別支援教育コーディネーター論	1・2後	1					○	1					
		障害者福祉論	1・2前	1				○		1					
		職業指導論	1・2前	1				○			1				
		リハビリテーション事例研究	1・2後	2					○	4	2		1		共同
		特別支援教育事例研究	1・2後	2					○	4	2		1		共同
		視覚障害学特論	1・2前	2				○		1					共同
		聴覚障害学特論	1・2前	2				○		1	1				共同
		言語障害学特論	1・2後	2				○		1					共同
		運動障害学特論	1・2前	2				○		1					共同
		知的障害学特論	1・2後	2				○		1	1				共同
		精神障害学特論	1・2後	2				○					1		共同
		高次脳機能障害特論	1・2前	2				○			1				共同
		健康障害学特論	1・2前	1				○		2					共同
		高齢障害学特論	1・2後	1				○		1					
		発達障害学特論	1・2前	2				○		1					
		視覚障害学演習	1・2後	1					○		1				
		運動障害学演習	1・2後	1					○		1				
		高齢障害学演習	1・2後	1					○		1				
		発達障害学演習	1・2後	1					○		1				
		社会リハビリテーション演習	1・2後	1					○		1				
		職業リハビリテーション演習	1・2後	1					○			1			
リハビリテーションカウンセリング	1・2前	1					○			1					
リハビリテーション課題研究	1・2通	1					○		5	2		1			
リハビリテーション英語	1・2前	1					○			1					
国際リハビリテーション演習	1・2前	1					○			1					
質的研究法	1・2通	1					○			1				集中	
多変量解析法	1・2通	1					○					1		集中	
小計 (29科目)		—	0	39	0			—	7	6	0	1	0	0	
スポーツウエルネス学関連科目	分野共通	(必修科目)	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1・2前	2			○		5	2				オムニバス
			スポーツ健康研究方法論Ⅰ	2前	1				○	5	2				
			小計 (2科目)	—	0	3	0			—	5	2	0	0	0
	分野共通	(選択科目)	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	2後	1				○	5	2				
			スポーツ健康研究方法論Ⅲ	2前	1				○	5	2				
			小計 (2科目)	—	0	2	0			—	5	2	0	0	0
スポーツプロモーション分野	専門科目(選択)	スポーツプロモーション論特講	1・2前	2				○		1					
		スポーツプロモーション論演習1	1・2前	1				○		1					
		スポーツプロモーション論演習2	1・2後	2					○	1					
		スポーツプロモーション論実習	1・2通	1						1					
		スポーツイベント論特講	1・2後	2				○			1				
		スポーツイベント論演習1	1・2後	1					○		1				
		スポーツイベント論演習2	1・2前	2					○		1				
		スポーツイベント論実習	1・2通	1						1					
		スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ	2後	2					○	1	1				
		スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ	2前	2					○	1	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
スポーツマネジメント領域	スポーツマネジメント論特講	1・2前		2		○			1							
	スポーツマネジメント論演習1	1・2前		1			○		1							
	スポーツマネジメント論演習2	1・2後		2			○		1							
	スポーツマネジメント論実習	1・2通		1				○	1							
	高度競技マネジメント論特講	1・2後		2		○			1							
	高度競技マネジメント論演習1	1・2後		1			○		1							
	高度競技マネジメント論演習2	1・2前		2			○		1							
	高度競技マネジメント論実習	1・2通		1				○	1							
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	2後		2				○	2							
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	2前		2				○	2							
	小計(20科目)		—	0	32	0			—	3	1	0	0	0	0	0
専門科目(関連)	スポーツプロモーション法制論特講	1・2前		1		○			1							隔年
	スポーツの倫理と教育	1・2前		1		○			1	1						オムニバス, 隔年
	スポーツプロモーションとビジネス	1・2後		1		○			1	2						オムニバス, 隔年
	トップアスリートのトレーニング	1・2後		1		○			1	2						オムニバス
	トップコーチング	1・2後		1		○			1	3		2				オムニバス
	生涯スポーツのトータルマネジメント	1・2前		1		○			1	3	1					オムニバス
小計(6科目)		—	0	6	0			—	4	10	1	2	0	0	0	—
ヘルスプロモーション分野	ヘルスプロモーション論特講	1・2前		2		○			1							
	ヘルスプロモーション論演習1	1・2前		1			○		1							
	ヘルスプロモーション論演習2	1・2後		2			○		1							
	ヘルスプロモーション論実習	1・2通		1				○	1							
	健康開発プログラム論特講	1・2前		2		○				1						
	健康開発プログラム論演習1	1・2前		1			○			1						
	健康開発プログラム論演習2	1・2後		2			○			1						
	健康開発プログラム論実習	1・2通		1				○		1						
	ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ	2後		2				○	1	1						
	ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ	2前		2				○	1	1						
	小計(16科目)		—	0	26	0			—	2	1	0	0	0	0	0
専門科目(関連)	生活機能増進法論特講	1・2後		1		○			1	2	1	1				オムニバス
	健康増進基礎論特講	1・2前		1		○			2	1		1				オムニバス
	健康社会論	1・2前		1		○			1			1				オムニバス
	健康支援の理論と実践	1・2前		1		○			3	2						オムニバス
	ヒューマン・ケア科学概論	1・2後		1		○			1	3		1				オムニバス
	スポーツ健康統計学特講	1・2前		1		○			1	1						
小計(6科目)		—	0	6	0			—	7	8	1	4	0	0	0	—
合計(149科目)			—	0	219	0			—	28	31	4	8	0	兼11	—
学位又は称号		修士(カウンセリング) 修士(リハビリテーション科学) 修士(スポーツウエルネス学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、体育関係、保健衛生学関係 (看護学及びリハビリテーション関係を除く)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
(修了要件) 2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			75分						
(履修方法) ※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。																

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<p><b>■カウンセリング学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修5単位(以下の5科目) ・学術院共通専門基盤科目:カウンセリング方法論基礎 I ・カウンセリング関連科目-基礎科目:カウンセリング方法論基礎 II 及び III、カウンセリング研究法 I 及び II</p> <p>(2) カウンセリング関連科目-専門科目 必修5単位(以下の4科目) ・カウンセリング心理学 ・カウンセリング特別研究I, II, III</p> <p>(3) カウンセリング関連科目-専門科目 選択20単位</p>													<p>※修士論文に代えて特定課題研究を選択可とする学位プログラムは次のとおりである。 ・スポーツウエルネス学学位プログラム</p>	
<p><b>■リハビリテーション科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修9単位(以下の8科目) ・学術院共通専門基盤科目:リハビリテーション方法論基礎 I ・リハビリテーション科学関連科目-基礎科目:リハビリテーション方法論基礎 II 及び III、リハビリテーション研究法 I 及び II、リハビリテーション概説、リハビリテーション研究基礎論、リハビリテーション特別研究</p> <p>(2) リハビリテーション科学関連科目-基礎科目 選択0~9単位</p> <p>(3) リハビリテーション科学関連科目-専門科目 選択12~21単位</p>														
<p><b>■スポーツウエルネス学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) スポーツウエルネス学関連科目-分野共通 必修4単位(学術院共通専門基盤科目のスポーツ・ヘルスプロモーション方法論を含む。)</p> <p>(2) 選択した分野における所属領域専門科目の特講、演習、実習及び隣接領域の特講を中心に11単位以上</p> <p>(3) 研究主題に関連する専門科目を、他分野の専門科目から4単位以上</p> <p>・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p>														

※教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

教育課程等の概要																
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程/一貫制博士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
カウンセリング科学関連科目	基礎科目	カウンセリング科学基礎論	1・2通	1				○		5	3					
		カウンセリング科学演習I	1・2通	1				○		5	3					
		カウンセリング科学演習II	1・2通	1				○		5	3					
		カウンセリング科学特論I	2・3通	1				○		5	3					
		カウンセリング科学特論II	2・3通	1				○		5	3					
		カウンセリング科学特論III	2・3通	1				○		5	3					
		小計(6科目)	—	0	6	0				5	3	0	0	0	0	—
専門科目	産業社会心理学特論	1・2・3通		1				○		1						
	組織メンタルヘルス特論	1・2・3通		1				○			1					
	対人社会心理学特論	1・2・3通		1				○			1					
	キャリア形成特論I	1・2・3通		1			○								兼1 隔年, 集中	
	キャリア形成特論II	1・2・3通		1			○								兼1 隔年, 集中	
	カウンセリング科学特別演習I	1・2通		1				○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習II	1・2通		1				○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習III	2・3通		1				○		5	3					
	カウンセリング科学特論	1・2・3通		1				○		1						
	学校生活支援カウンセリング特論	1・2・3通		1				○			1					
	生涯発達心理学特論	1・2・3通		1				○		1						
	生涯発達支援特論I	1・2・3通		1				○							兼1 隔年, 集中	
	生涯発達支援特論II	1・2・3通		1				○							兼1 隔年, 集中	
	コミュニティ発達援助特論	1・2・3通		1					○		1					
	家族発達援助特論	1・2・3通		1					○		1					
精神健康科学特論	1・2・3通		1					○		1						
生涯発達システム特論I	1・2・3通		1					○						兼1 隔年, 集中		
生涯発達システム特論II	1・2・3通		1					○						兼1 隔年, 集中		
	小計(18科目)	—	0	18	0				5	3	0	0	0	兼6	—	
リハビリテーション科学関連科目	基礎科目	リハビリテーション科学基礎論	1・2通	1				○		8	3	1	1			
		リハビリテーション科学演習I	1・2通	1				○		6	3					
		リハビリテーション科学演習II	1・2通	1				○		6	3					
		リハビリテーション科学特論I	2・3通	1				○		8	3	1	1			
		リハビリテーション科学特論II	2・3通	1				○		8	3	1	1			
		リハビリテーション科学特論III	2・3通	1				○		8	3	1	1			
		小計(6科目)	—	0	6	0				8	3	1	1	0	0	—
専門科目	職業リハビリテーション特論	1・2・3通		1				○			1					
	障害科学特論	1・2・3通		1			○			1						隔年, 集中
	発達支援科学特論	1・2・3通		1				○			1					
	発達支援評価特論	1・2・3通		1				○			1					
	コミュニケーション発達支援特論	1・2・3通		1				○		1						隔年, 集中
	リハビリテーション科学特別演習I	1・2通		1				○		6	3					
	リハビリテーション科学特別演習II	1・2通		1				○		6	3					
	リハビリテーション科学特別演習III	1・2通		1				○		6	3					
	リハビリテーション科学特論	1・2・3通		1				○		1						
	教育支援システム特論	1・2・3通		1				○		1						
	ケアマネジメント特論	1・2・3通		1				○		1						
	中高年・障害者発達支援特論	1・2・3通		1				○		1						隔年, 集中
	小計(12科目)	—	0	12	0				6	3	0	0	0	0	—	
スポーツウエルネス学関連	基礎科目	課題解決型データ分析論特講1	1前	1				○								兼1
		課題解決型データ分析論特講2	1後	1				○								兼1
		小計(2科目)	—	0	2	0				0	0	0	0	0	兼1	—
	専門科目	スポーツウエルネス研究演習I	1通	1				○		5	2					
	スポーツウエルネス研究演習II	2通	1				○		5	2						
	スポーツウエルネス研究演習III	3通	1				○		5	2						
	課題解決型プロジェクトワークI	1通	1					○		5	3					
	課題解決型プロジェクトワークII	2・3通	2					○		5	3					
	小計(5科目)	—	0	6	0				5	3	0	0	0		—	
合計(49科目)			—	0	50	0			16	9	1	1	0	兼7	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	博士(カウンセリング科学) 博士(リハビリテーション科学) 博士(スポーツウエルネス学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、体育関係、保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
(修了要件)						1学年の学期区分		2学期						
<博士後期課程及び後期3年だけの博士課程> 3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等)にあつては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。						1学期の授業期間		15週						
						1時限の授業時間		75分						
						(履修方法)								
※学位プログラム毎の科目構成及び必修・選択の別を示す参考資料を添付する。														
<b>■カウンセリング科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。														
(1) カウンセリング科学関連科目の基礎科目 6単位 (2) カウンセリング科学関連科目の専門科目 4単位以上														
<b>■リハビリテーション科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。														
(1) リハビリテーション科学関連科目の基礎科目 6単位 (2) リハビリテーション科学関連科目の専門科目 4単位以上														
<b>■スポーツウエルネス学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により8単位以上を修得すること。														
(1) スポーツウエルネス学関連科目の基礎科目 2単位 (2) スポーツウエルネス学関連科目の専門科目 6単位														

※教育上有益と認められる場合には、学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

<参考資料>

各学位プログラムの教育課程

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程/修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■大学院共通科目</b>															
群 研 究 倫 理 環 境 科 目 ・	応用倫理	1・2後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	環境倫理学概論	1・2後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	研究倫理	1・2前		1		○									兼2 ※演習,集中,オムニバス
	生命倫理学	1・2前		1		○			3	3	1	1			兼2 オムニバス
	企業と技術者の倫理	1・2前		1		○									兼2 ※演習,集中,オムニバス
力 情 報 成 伝 達 科 目 群 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	テクニカルコミュニケーション	1・2前		1		○									兼1 ※演習,集中
	英語発表	1・2前		1		○									兼1 ※演習,集中
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2通		2			○		1		1				集中
	Global Communication Skills Training	1・2前		1			○								兼1 ※講義,集中
	サイエンスコミュニケーション概論	1・2前		1		○									兼1 集中
	サイエンスコミュニケーション特論	1・2後		1		○									兼1
	サイエンスコミュニケーター養成実践講座	1・2休		2				○							兼1 集中
人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2後		1		○									兼3 集中,オムニバス	
国 際 性 養 成 科 目 群	21世紀的中国 ー現代中国的多相ー	1・2後		1		○									兼1
	国際研究プロジェクト	1・2通		1											兼1
	国際インターンシップ	1・2通		1											兼1
	地球規模課題と国際社会:食料問題	1・2後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	1・2後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会脳	1・2休		1		○			1						集中
	地球規模課題と国際社会:感染症・保健医療問題	1・2後		1		○			2	1					集中,オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会問題	1・2後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響	1・2後		1		○			1						集中
地球規模課題と国際社会:環境・エネルギー	1・2休		1		○									兼1 集中	
キ ャ リ ア マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	JAPICアドバンスドイノベーションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2後		1				○							兼1 集中
	JAPICアドバンスドイノベーションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2前		1				○							兼1 集中
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2休		1				○				1			※講義,集中
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2前		1				○							兼1 集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2休		1											兼9 集中,オムニバス 共同(一部)
	アクセシビリティリーダー特論	1・2前		1				○	3	2	1				兼2 オムニバス,共同(一部)
	脳の多様性とセルフマネジメント	1・2休		1				○	1						※演習,集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
知的 基盤 形成 科目 群	生物多様性と地球環境	1・2前		1		○								兼4	※実習, 集中, オムニバス
	内部共生と生物進化	1・2前		1		○								兼1	集中
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2休		1				○						兼2	※講義, 集中
	科学的発見と創造性	1・2前		1		○								兼1	集中
	自然災害にどう向き合うか	1・2前		1		○								兼1	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2休		1		○								兼5	集中, オムニバス
	21世紀と宗教	1・2前		1		○								兼2	集中, オムニバス
身 心 基 盤 形 成 科 目 群	塑造実習	1・2後		1				○		1			1		隔年
	コミュニケーションアート&デザインA	1・2前		1		○			2	3			3		隔年, オムニバス
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2後		1		○			2	2			3		隔年, オムニバス
	日本画実習	1・2前		1				○			2				隔年
	ヨーガコース	1・2前		1				○	1						※講義, 集中
	絵画実習A	1・2前		1				○		1					隔年
	現代アート入門	1・2前		1		○			1						隔年
	大学院体育Ia	1・2通		1				○	3	1					
	大学院体育Ib	1・2前		1				○	2						兼1
	大学院体育Ic	1・2後		1				○	1	2					
	大学院体育IIa	1・2通		1				○	3	1					
	大学院体育IIb	1・2前		1				○	2						兼1
	大学院体育IIc	1・2後		1				○	1	2					
	大学院体育IIIa	1・2通		1				○	3	1					
	大学院体育IIIb	1・2前		1				○	2						兼1
	大学院体育IIIc	1・2後		1				○	1	2					
	大学院体育IVa	1・2通		1				○	3	1					
	大学院体育IVb	1・2前		1				○	2						兼1
	大学院体育IVc	1・2後		1				○	1	2					
	大学院体育Va	1・2通		1				○	3	1					
	大学院体育Vb	1・2前		1				○	2						兼1
大学院体育Vc	1・2後		1				○	1	2						
小計 (59科目)		—	0	61	0	—			20	16	3	10	0	兼46	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■ 学術院共通専門基盤科目</b>															
共通 学術 院 専 門 基 盤 科 目	研究のビジュアルデザイン	1・2前		1			○		1		2				オムニバス
	スポーツ芸術表現学への招待	1・2後		1		○			3	2					兼2 オムニバス
	世界遺産を科学する	1・2後		1		○			5	2		2			兼1 オムニバス
	研究者のための学術情報流通論	1前		1		○			1						兼1 オムニバス
	音響メディア情報	1後		1		○			1	1		1			兼1 オムニバス
	こころの神経科学	1・2通		1		○			4	3		2			兼1 オムニバス
	人間総合科学基礎論	1・2前		1			○		2						
	武道学	1・2前		1		○					1				
	健康増進学特講	1・2前		1		○					1				
	トレーニング学	1通		2		○					2				共同
	Olympic and Paralympic History (オリンピック・パラリンピック史)	1後		1		○					1				
	心理統計学特講	1・2前		2		○							1		
	社会医学概論	1前		2		○			8	3		7			オムニバス
	医科学セミナーI(ブレインサイエンス)	1・2通		1		○			1						
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1		○			1						
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1		○				1					
	医科学セミナーIV(プライマリケア)	1・2通		1		○			1	1					
	医科学セミナーVII(臨床研究セミナー)	1・2通	1			○			1						
	医科学セミナー基礎	1・2通		1		○			1		1				
	神経科学先端セミナー	1・2通		1		○				1		1			
	教育学理論研究	1・2前		1		○			2	3					
	次世代教育開発研究	1・2前		1		○			10	4					兼1
	Theory of International Education Research Foundation	1・2後		1		○				1		2			
	情報アクセス	1後		2		○		○	1	3		1			オムニバス
	カウンセリング方法論基礎 I	1・2後		2		○			2	1					オムニバス
	カウンセリング方法論基礎 I	1通		1		○			5	3					
	リハビリテーション方法論基礎 I	1前		1		○			3	2	2	1			オムニバス
	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1・2前		1		○			3	2					オムニバス
	大学を開くデザインプロデュース A	1・2前		1			○				4				共同
	大学を開くデザインプロデュース B	1・2前		1			○				4				共同
	大学を開くデザインプロデュース C	1・2後		1			○				4				共同
小計(31科目)	—		0	35	0		—	54	40	4	17	0	兼7	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■教育学学位プログラム (M)</b>														
基礎科目	教育学理論研究	1・2前	1			○			2	3				
	次世代教育開発研究	1・2前	1			○			10	4				兼1
	Theory of International Education	1・2後	1			○				1		2		
	小計 (3科目)		3	0	0				12	8	0	2	0	兼1
専門基礎科目	日本教育史特講	1・2通		2		○				1				
	日本教育史演習	1・2通		2			○			1				
	教育哲学特講	1・2通		2		○						1		
	教育哲学演習	1・2通		2			○					1		
	生涯学習・社会教育学特講	1・2通		2		○				1				
	生涯学習・社会教育学演習	1・2通		2			○			1				
	教育制度学特講	1・2通		2		○			1					
	教育制度学演習	1・2通		2			○		1					
	学校経営学特講	1・2通		2		○			1					
	学校経営学演習	1・2通		2			○			1				
	比較・国際教育学特講	1・2通		2		○						1		
	比較・国際教育学演習	1・2通		2			○					1		
	道德教育学特講	1・2通		2		○				1				
	道德教育学演習	1・2通		2			○			1				
	カリキュラム論特講	1・2通		2		○			1					
	カリキュラム論演習	1・2通		2			○		1					
	教育方法学特講	1・2通		2		○			1					
	教育方法学演習	1・2通		2			○		1					
	キャリア教育学特講	1・2通		2		○			1					
	キャリア教育学演習	1・2通		2			○		1					
	教育社会学特講	1・2通		2		○						1		
	教育社会学演習	1・2通		2			○					1		
	高等教育論特講	1・2通		2		○				1				
	高等教育論演習	1・2通		2			○			1				
	特別活動学特講	1・2通		2		○						1		
	特別活動学演習	1・2通		2			○					1		
	学校教育論	1・2後		2		○			1					
	学校心理学	1・2前		2		○				1				
	スクールリーダーシップ論	1・2前		2		○			1					
	青年の発達	1・2前		2		○			1					
	国際・多文化教育論	1・2後		2		○						1		
	生涯学習論	1・2前		2		○				1				
	道徳と人権	1・2後		2		○				1				
	心理教育的アセスメント	1・2前		2				○						兼1
	スクールカウンセリング実習I	1・2通		2				○	1					兼1
	スクールカウンセリング実習II	1・2前		2				○	1					兼1
	学校の社会学	1・2前		2		○						1		
	学校安全と危機管理	1・2前		2			○							兼1
	学校経営事例研究	1・2前		2		○				1				
	学習指導と授業	1・2後		2		○			1					
学習と学級の心理	1・2後		2		○								兼1	
学校臨床心理	1・2後		2		○			1						
教育臨床学特講	1・2通		2		○			1						
教育臨床学演習	1・2通		2			○		1						
国語科教育学a	1・2前		1		○			1						
国語科教育学b	1・2後		1		○			1						
国語科教育史研究 a	1・2前		1		○			1						
国語科教育史研究 b	1・2後		1		○			1						
国語科教育実践論研究 a	1・2前		2			○			1					
国語科教育実践論研究 b	1・2後		1			○			1					
表現教育論a	1・2前		1		○				1					
表現教育論b	1・2後		1		○				1					
文学教育論a	1・2前		1		○								兼1	
文学教育論b	1・2後		1		○								兼1	
古典教育論 a	1・2前		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	古典教育論 b	1・2後		1		○									兼1	
	国語科リテラシー教育論 a	1・2前		1		○									兼1	
	国語科リテラシー教育論 b	1・2後		1		○									兼1	
	国語教育特講	1・2後		1		○				1						
	国語科研究法	1・2通		3		○			1							兼1
	国語科研究法演習	1・2通		3			○			1						兼1
	社会日本語論 I a	1・2前		1		○										兼1
	社会日本語論 I b	1・2後		1		○										兼1
	社会日本語論 II a	1・2前		1		○										兼1
	社会日本語論 II b	1・2後		1		○										兼1
	古典日本語論 I a	1・2前		1		○										兼1
	古典日本語論 I b	1・2後		1		○										兼1
	古典日本語論 II a	1・2前		1		○										兼1
	古典日本語論 II b	1・2後		1			○									兼1
	現代日本語論 I a	1・2前		1		○										兼1
	現代日本語論 I b	1・2後		1		○										兼1
	現代日本語論 II a	1・2前		1		○										兼1
	現代日本語論 II b	1・2後		1		○										兼1
	日本文学研究 I a	1・2前		1		○										兼1
	日本文学研究 I b	1・2後		1			○									兼1
	日本文学研究 II a	1・2前		1		○										兼1
	日本文学研究 II b	1・2後		1			○									兼1
	日本文学演習 I a	1・2前		1			○									兼1
	日本文学演習 I b	1・2後		1			○									兼1
	日本文学演習 II a	1・2前		1			○									兼1
	日本文学演習 II b	1・2後		1			○									兼1
	日本文学表現論a	1・2前		1		○										兼1
	日本文学表現論b	1・2後		1			○									兼1
	中国学研究a	1・2前		1			○									兼1
	中国学研究b	1・2後		1			○									兼1
	中国学演習 a	1・2前		1			○									兼1
	中国学演習 b	1・2後		1			○									兼1
	社会科教育学特講	1・2通		2		○			1							※演習
	社会科教育学内容論 (地理歴史)	1・2前		3		○			2	1						
	社会科教育学内容論 (公民)	1・2前		3		○			2	1						
	社会科教育学実践論 (地理歴史)	1・2後		3			○		2	1						
	社会科教育学実践論 (公民)	1・2後		3			○		2	1						
	地理教育特講 I	1・2前		1		○			1							隔年
	地理教育特講 II	1・2後		1		○			1							隔年
	地理教育特講 III	1・2通		1		○			1							
	地理教育演習 I	1・2前		1			○		1							隔年
	地理教育演習 II	1・2後		1			○		1							隔年
	地理教育演習 III	1・2通		1			○		1							
	歴史教育特講 I	1・2前		1		○				1						隔年
	歴史教育特講 II	1・2後		1		○				1						兼2 隔年
	歴史教育特講 III	1・2通		1		○				1						兼2
	歴史教育演習 I	1・2前		1			○			1						隔年
	歴史教育演習 II	1・2後		1			○			1						隔年
	歴史教育演習 III	1・2通		1			○			1						
	歴史教育学特講	1・2後		2				○		1						
	公民教育特講 I	1・2前		1		○			1							隔年
	公民教育特講 II	1・2後		1		○			1							隔年
	公民教育特講 III	1・2通		1		○			1							
	公民教育演習 I	1・2前		1			○		1							隔年
	公民教育演習 II	1・2後		1			○		1							隔年
	公民教育演習 III	1・2通		1			○		1							
	人文地理学特講 I	1・2前		1		○										兼1 隔年
	人文地理学特講 II	1・2後		1		○										兼1 隔年
	人文地理学演習 I	1・2前		1			○									兼1 隔年
	人文地理学演習 II	1・2後		1			○									兼1 隔年
	自然地理学特講 I	1・2前		1		○										兼1 隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	自然地理学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	自然地理学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	地理学野外実験	1・2後		3				○	1						兼2	
	日本史特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	日本史特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	日本史演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	日本史演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	民俗学実習	1・2後		3				○							兼1	
	考古学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	考古学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	考古学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	考古学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	考古学実習	1・2前		3				○							兼1	
	社会学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	社会学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	社会学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	社会学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	政治学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	政治学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	政治学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	政治学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	経済学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	経済学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	経済学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	経済学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	法学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼2	隔年
	法学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼2	隔年
	法学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	隔年
	法学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼2	隔年
	哲学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	哲学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	哲学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	哲学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	倫理学特講Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	隔年
	倫理学特講Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	隔年
	倫理学演習Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	隔年
	倫理学演習Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	隔年
	基礎数理学A	1・2前		1		○									兼5	
	基礎数理学B	1・2後		1		○									兼5	
	基礎数理学C	1・2後		1		○									兼5	
	総合数理学A	1・2前		1			○								兼5	
	総合数理学B	1・2後		1			○								兼5	
	総合数理学C	1・2後		1			○								兼5	
	現代数学基礎A	1・2前		1		○									兼4	
	現代数学基礎B	1・2後		1		○									兼4	
	現代数学基礎C	1・2後		1		○									兼4	
	現代数学特別研究A	1・2前		1			○								兼4	
	現代数学特別研究B	1・2後		1			○								兼4	
	現代数学特別研究C	1・2後		1			○								兼4	
	現代数学特別研究D	1・2前		1			○								兼4	
	現代数学特別研究E	1・2後		1			○								兼4	
	現代数学特別研究F	1・2後		1			○								兼4	
	数学教育研究方法論	1・2前		2		○			1							
	数学教育学習論	1・2後		2		○			1							
	数学教育カリキュラム論	1・2後		2		○				1						
	数学教育内容論	1・2前		2		○			1							
	数学教育実践論演習（代数・幾何）	1・2前		2			○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	数学教育実践論演習(解析・確率統計・ICT利用)	1・2後		2			○		1						
	理科教育基礎論	1前		2		○						1			
	理科教育学演習	1後		2			○					1			
	理科教育学習論	1・2前		1		○								兼1	
	理科教育研究方法論	1通		1		○								兼1	
	理科教育実践演習	1・2後		1			○					1			
	基礎物理学1	1・2前		1		○								兼1	
	基礎化学1	1・2前		1		○								兼4	
	基礎生物学1	1・2前		1		○								兼3	
	基礎地学1	1・2前		1		○								兼2	
	基礎物理学2	1・2後		1		○								兼1	
	基礎化学2	1・2後		1		○								兼4	
	基礎生物学2	1・2後		1		○								兼3	
	基礎地学2	1・2前		1		○								兼2	
	理科教育実験1	1・2前		2				○						兼4	
	理科教育実験2	1・2後		2				○						兼4	
	物理学教育実験	1・2後		1				○						兼1	
	化学教育実験	1・2後		1				○						兼2	
	生物学教育実験	1・2前		1				○						兼6	
	地学教育実験	1・2前		1				○						兼2	
	地学教育野外実験1	1・2前		1				○						兼1	
	地学教育野外実験2	1・2前		1				○						兼1	
	理科学野外実習インターンシップ	1・2前		2				○						兼1	
	物理学特講	1・2通		1		○								兼1	
	化学特講	1・2前		1		○								兼4	
	生物学特講	1・2通		1		○								兼2	
	地学特講	1・2後		1		○								兼1	
	理科教育学特講	1・2後		1		○								兼1	
	英語教育研究方法論	1・2前		2		○						1		隔年	
	英語教育学習論	1・2後		2		○						1		隔年	
	英語教育内容論	1・2前		2		○						1		隔年	
	英語教育実践論	1・2後		2		○						1		隔年	
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○			1					隔年	
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○			1					隔年	
	芸術科教育実践論演習A	1・2前		1			○		1					隔年	
	芸術科教育実践論演習B	1・2後		1			○		1					隔年	
	芸術鑑賞論A-1	1・2前		1		○			1					隔年	
	芸術鑑賞論A-2	1・2後		1		○			1					隔年	
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○			1					隔年	
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○			1					隔年	
	保健体育教育内容論	1・2通		3		○				1					
	保健体育教育実践論演習Ⅰ	1後		1			○			1					
	保健体育教育実践論演習Ⅱ	2前		1			○			1					
	保健体育教育実践論演習Ⅲ	2前		1			○			1					
	保健体育カリキュラム論	1・2前		1		○				1					
	保健体育授業づくり論	1・2後		1		○				1					
	Education and an Interconnected World	1・2前		2		○						1			
	Research Methodology	1・2前		1		○						1			
	Research Design and Methods	1・2前		2		○						1			
	Pedagogy for a Changing World I	1・2前		2		○						2			
	Pedagogy for a Changing World II	1・2後		2		○						2			
	Assessment for Learning I	1・2前		2		○				1		1			
	Assessment for Learning II	1・2後		2		○				1		1			
	Curriculum as Process I	1・2前		2		○				1		1			
	Curriculum as Process II	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Primary Years Programme	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Middle Years Programme	1・2後		2		○				1		1			
	The IB Diploma Programme	1・2後		2		○				1		1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Professional Learning and Reflective Practice	1・2前		1		○				1		1			
	Field Research	1・2前		1			○			1		2			
	国際理解教育論	1・2後		2		○						1			
	グローバル化と教育	1・2後		2		○						1			
	国際教育開発論	1・2前		2		○						1			
	国際教育協力論	1・2前		2		○						1			
	教員養成の国際比較	1・2前		2		○						1			
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	1・2前		1		○						2			
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	1・2前		2		○			1	1		1			
	初等国語特講A	1・2前		1		○									兼2
	初等国語特講B	1・2後		1		○				1					兼1
	初等社会特講	1・2前		1		○			2	1					
	初等数学特講	1・2後		1		○				1					
	初等理科特講	1・2後		1		○									兼1
	初等英語特講	1・2後		1		○						1			
	初等図画工作特講	1・2後		1		○			1						
	初等体育特講	1・2後		1		○				1					
	小計 (249科目)		0	348	0				14	11	0	9	0		兼50
専門科目	教育学研究 I	1通		3			○		6	4		4			
	教育学研究 II	2通		3			○		6	4		4			
	教育学研究 III	2通		3			○		6	4		4			
	次世代教育研究 I	1通		3			○		7	3		2			
	次世代教育研究 II	2通		3			○		7	3		2			
	次世代教育研究 III	2通		3			○		7	3		2			
	国語教育学研究 I	1通		3			○		1	1					兼11
	国語教育学研究 II	2通		3			○		1	1					兼11
	国語教育学研究 III	2通		3			○		1	1					兼11
	地理教育学研究 I	1通		3			○		1						兼2
	地理教育学研究 II	2通		3			○		1						兼2
	地理教育学研究 III	2通		3			○		1						兼2
	歴史教育学研究 I	1通		3			○			1					兼2
	歴史教育学研究 II	2通		3			○			1					兼2
	歴史教育学研究 III	2通		3			○			1					兼2
	公民教育学研究 I	1通		3			○		1						兼3
	公民教育学研究 II	2通		3			○		1						兼3
	公民教育学研究 III	2通		3			○		1						兼3
	数学教育学研究 I	1通		3			○		2	1					兼9
	数学教育学研究 II	2通		3			○		2	1					兼9
	数学教育学研究 III	2通		3			○		2	1					兼9
	理科教育学研究 I	1通		3				○				2			兼17
	理科教育学研究 II	2通		3				○				2			兼17
	理科教育学研究 III	2通		3				○				2			兼17
	英語教育学研究 I	1通		3			○					1			
	英語教育学研究 II	2通		3			○					1			
	英語教育学研究 III	2通		3			○					1			
	芸術科教育学研究 I	1通		3			○		1						
	芸術科教育学研究 II	2通		3			○		1						
	芸術科教育学研究 III	2通		3			○		1						
	保健体育教育学研究 I	1通		3			○			1					
	保健体育教育学研究 II	2通		3			○			1					
	保健体育教育学研究 III	2通		3			○			1					
	国際教育学研究 I	1通		3			○		1	2		3			
	国際教育学研究 II	2通		3			○		1	2		3			
	国際教育学研究 III	2通		3			○		1	2		3			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	1通		3			○		1	2		3			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	2通		3			○		1	2		3			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	2通		3			○		1	2		3		
	小計 (39科目)	—	0	117	0		—		14	9	0	9	0	兼44
	学位プログラム小計 (291科目)	—	3	465	0		—		14	11	0	9	0	兼50

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
<b>■心理学学位プログラム (M)</b>																	
基礎科目	心理学方法論 I	1前	2			○			3	4		1		兼2	オムニバス		
	心理学方法論 II	1後	2			○			4	4		2		兼1	オムニバス		
	心理学特別研究A	2前		2				○	5	3		2		兼1			
	心理学特別研究B	2後		2				○	5	3		2		兼1			
	心理学特別研究S	2通		2				○	5	3		2		兼1			
	心理学先端研究1	1・2通		1			○							兼1	集中		
	心理学先端研究2	1・2通		1			○							兼1	集中		
	心理学キャリア形成	1・2通		1			○							兼1	集中		
	心理学インターンシップ	1・2通		1					○	5	2		2		兼1		
	小計 (9科目)	—		4	10	0		—		8	6	0	2	0	兼5	—	
専門科目	心理基礎科学共通科目	心理基礎科学演習 I	1前		2			○		2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習 II	1後		2			○		2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習 III	2前		2			○		2	2		2		兼1		
		心理基礎科学演習 IV	2後		2			○		2	2		2		兼1		
	心理基礎科学サブプログラム	心理統計学基礎	1・2前		2			○			1						
		心理統計学特講	1・2前		2			○					1				
		心理基礎科学英語1	1・2前		1				○	2	2		2		兼1		
		心理基礎科学英語2	1・2後		1				○	2	2		2		兼1		
		領域専門科目	感覚知覚心理学特講	1・2後		2			○		1						
			心理学と認知支援工学特論	1・2後		2			○							兼1	
			認知心理学特講	1・2後		2			○		1					兼1	
	学習心理学特講		1・2後		2			○									
	教育心理学特講		1・2前		2			○			1						
	行動デザイン特講		1・2後		2			○					1				
	青年心理学特講		1・2後		2			○		1							
	社会心理学特講		1・2前		2			○							兼1		
	臨床社会心理学特講 (心の健康教育に関する理論と実践)	1・2後		2			○			1							
	神経科学基礎論A	1・2前		2			○		3	2	1	1		兼3	オムニバス		
	神経科学基礎論B	1・2前		2			○		2	2	0	5		兼1	オムニバス		
	神経科学基礎論C	1・2前		2			○		1	4	0	1		兼2	オムニバス		
	神経科学基礎論D	1・2前		2			○		2	4	1	0		兼2	オムニバス		
小計 (21科目)	—		0	40	0		—		9	15	2	9	0	兼10	—		
心理臨床学サブプログラム	心理臨床学サブプログラム共通	臨床心理学特講 I	1前		2			○		1							
		臨床心理学特講 II	1後		2			○		1							
		臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践)	1前		2				○			1					
		臨床心理面接特講 II	1前		2				○		1						
		臨床心理基礎実習	1通		2					3	1		4		兼1	共同	
		臨床心理実習 I (心理実践実習 II C)	2前		2					2	1		4		兼1	共同	
		臨床心理実習 II	2後		2					1	1		4		兼1	共同	
		発達臨床心理実習 I (心理実践実習 II D)	2前		2					2						共同	
		発達臨床心理実習 II	2後		2					2						共同	
		臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1通		2				○		1						
	臨床心理査定演習 II	2前		2				○			1						
	領域専門科目	児童臨床心理学特講 (教育分野に関する理論と支援の展開X)	1・2後		2				○		1					隔年	
		発達臨床心理学特講 (教育分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2後		2				○		1					隔年	
		アセスメント心理学特講I	1・2前		2				○			1				隔年	
アセスメント心理学特講II		1・2後		2				○			1				隔年		
精神医学 (保健医療分野に関する理論と支援の展開X)	1・2後		1				○		1		1						
神経心理学特講 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2後		1				○			1				隔年			
産業臨床心理学特講 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2前		2				○			1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Z）	1・2前		2		○				1					
	老年心理学特講	1・2前		2		○				1					
	キャリアカウンセリング特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開X）	1・2後		2		○				1					
	障害福祉学特講I（障害福祉支援の理論と方法）	1・2前		1		○					1	2			オムニバス
	障害福祉学特講II（障害福祉支援の理論と方法）	1・2後		1		○					1	2			オムニバス
	非行・犯罪心理学（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○				1	1	2			
	臨床心理家族・地域援助特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後		2		○				1		1			隔年
	心理実践実習 I A	1前		2				○		3	1		3		
	心理実践実習 I B	1後		2				○		3	1		3		
	心理実践実習 II A	2前		2				○		3	1		3		
	心理実践実習 II B	2後		2				○		3	1		3		
	心理臨床 I	1・2前		1		○									兼1
	心理臨床 II	1・2後		1		○									兼1
	小計（31科目）	—	0	56	0	—	—	—	—	8	4	2	6	0	兼2
	学位プログラム小計（52科目）	—	4	106	0	—	—	—	—	18	18	4	15	0	兼16

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■障害科学学位プログラム (M)</b>															
基礎科目	障害科学調査・実験実習Ⅰ	1前	1					○						共同	
	障害科学調査・実験実習Ⅱ	1後	1					○	8	1	1	1		共同	
	障害科学研究法Ⅰ	2通	1					○	8						
	障害科学研究法Ⅱ	2通	1					○	8						
	障害科学研究法Ⅲ	2通	1					○	8						
	海外特別研修セミナー	1・2通		2				○	2					共同	
	障害科学講究	1通		1			○		2					共同	
小計(7科目)	—		5	3	0		—		8	3	1	1	0	0	—
専門科目(共通)	特別支援教育総論	1・2前		2			○		1	1				オムニバス	
	視覚障害教育学	1・2後		2			○			1					
	視覚障害指導法	1・2後		2			○			1			1	オムニバス	
	視覚障害心理学	1・2前		2			○			1					
	視覚障害病態生理学	1・2前		2			○		1						
	肢体不自由教育学	1・2後		1			○		1						
	肢体不自由指導法	1・2後		1			○		1						
	肢体不自由心理学	1・2後		1			○		1						
	肢体不自由病態生理学	1・2後		1			○		1						
	障害児教育課程論	1・2後		1			○				1				
	知的障害教育学	1・2前		1			○				1				
	知的障害指導法	1・2後		1			○				1				
	知的障害心理学	1・2前		1			○				1				
	知的障害病態生理学	1・2前		1			○				1			兼1	
	聴覚障害指導法	1・2通		2			○			1	1			オムニバス	
	重複障害指導法	1・2後		1			○			1	1			オムニバス	
	特別支援学校教育実習	1・2通		3					○		4				
	発達・行動・言語障害指導法	1・2前		1			○			2	1			オムニバス	
	発達・行動障害生理・心理学	1・2前		1			○			1	1			オムニバス	
	言語障害生理・心理学	1・2前		1			○				1				
	病弱教育学	1・2前		1			○			1				兼1 隔年, オムニバス	
	病弱指導法	1・2前		1			○			1				兼1 隔年, オムニバス	
	病弱心理学	1・2前		1			○			1				兼1 隔年, オムニバス	
	病弱病態生理学	1・2前		1			○			1					
	聴覚障害教育学	1・2後		2			○				1	1		オムニバス	
	聴覚障害心理学	1・2前		2			○			1	1			オムニバス	
	聴覚障害病態生理学	1・2前		2			○			1					
	知的・発達障害心理学特講	1・2後		2			○				1				
	知的・発達障害指導法特講	1・2前		2			○			1	1			オムニバス	
	行動障害指導法特講	1・2後		2				○		1				※講義	
	臨床発達心理学	1・2前		2			○							兼1	
	教育臨床発達援助論	1・2前		2			○			2				隔年, オムニバス	
行動問題面接指導法特講	1・2前		2			○			1						
臨床発達心理査定法特講	1・2前		2			○			2	1			オムニバス		
行動臨床心理学	1・2前		2			○			1				隔年		
障害学生支援学特講	1・2前		1			○			1	2	1		オムニバス		
障害学生支援学演習	1・2後		1				○			1	1		共同		
特別支援教育学	1・2前		1			○				1					
Special Lecture on Disability Sciences	1・2前		1			○				1		1	オムニバス		
専門科目	視覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1			○		1	2		1		オムニバス	
	視覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1			○		1	2		1		オムニバス	
	視覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1				○	1	3		1		共同	
	視覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1				○	1	3		1		共同	
	視覚障害学演習Ⅲ	2通		3				○	1	3		1			
	聴覚障害学特講Ⅰ	1・2前		1			○		2	1				オムニバス	
	聴覚障害学特講Ⅱ	1・2後		1			○		2	1				オムニバス	
	聴覚障害学演習Ⅰ	1・2通		1				○	2	1				共同	
	聴覚障害学演習Ⅱ	1・2通		1				○	2	1				共同	
	聴覚障害学演習Ⅲ	2通		3				○	2	1					
運動障害学特講Ⅰ	1・2前		1				○	1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	運動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	運動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	運動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	病弱特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	病弱特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	病弱演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	病弱演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○			3	3					オムニバス, 共同(一部)
	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○			3	3					オムニバス
	知的・発達・行動障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○		3	3					共同
	知的・発達・行動障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○		3	3					共同
	知的・発達・行動障害学演習Ⅲ	2通		3			○		3	3					
	言語障害学特講Ⅰ	1・2前		1		○				1					
	言語障害学特講Ⅱ	1・2後		1		○				1					
	言語障害学演習Ⅰ	1・2通		1			○			1					
	言語障害学演習Ⅱ	1・2通		1			○			1					
	言語障害学演習Ⅲ	2通		3			○			1					
	障害福祉学特講Ⅰ	1・2前		1		○					1	2			オムニバス
	障害福祉学特講Ⅱ	1・2後		1		○					1	2			オムニバス
	障害福祉学演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1	1	2			共同
	障害福祉学演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	1	1	2			共同
	障害福祉学演習Ⅲ	2通		3			○		1	1	1	2			
	障害原理論特講Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	障害原理論特講Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	障害原理論演習Ⅰ	1・2通		1			○		1						
	障害原理論演習Ⅱ	1・2通		1			○		1						
	障害原理論演習Ⅲ	2通		3			○		1						
	理療科教育特講Ⅰ	1・2前		1		○			1	1					オムニバス
	理療科教育特講Ⅱ	1・2後		1		○			1	1					オムニバス
	理療科教育演習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1					共同
	理療科教育演習Ⅱ	1・2通		1			○		1	1					共同
	理療科教育演習Ⅲ	2通		3			○		1	1					
	小計(84科目)	—	0	121	0		—		11	10	1	3	0	兼3	—
	学位プログラム小計(91科目)	—	5	124	0		—		11	10	1	3	0	兼3	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■カウンセリング学位プログラム (M)</b>														
基礎科目	カウンセリング方法論基礎Ⅰ	1通	1			○			5	3				
	カウンセリング方法論基礎Ⅱ	1通	1				○		5	3				
	カウンセリング方法論基礎Ⅲ	1通	1				○		5	3				
	カウンセリング研究法Ⅰ	2通	1				○		5	3				
	カウンセリング研究法Ⅱ	2通	1				○		5	3				
	小計(5科目)	—	5	0	0		—		5	3	0	0	0	0
専門科目	カウンセリング心理学	1前	2			○			1					
	カウンセリング特別研究Ⅰ	2通	1				○		5	3				
	カウンセリング特別研究Ⅱ	2通	1				○		5	3				
	カウンセリング特別研究Ⅲ	2通	1				○		5	3				
	生涯発達臨床心理学Ⅰ	1・2前		2			○		1					
	生涯発達臨床心理学Ⅱ	1・2前		2			○		1					
	学校心理学	1・2後		2			○			1				隔年
	学校教育相談	1・2後		2			○		1					
	健康心理学	1・2前		2			○			1				
	職場のメンタルヘルス	1・2後		2			○			1				
	組織心理学	1・2後		2			○		1					
	キャリア心理学	1・2後		2			○		1					
	人格心理学	1・2前		2			○		1					
	人間関係論	1・2前		2				○						兼1
	非行・犯罪心理学	1・2後		2			○		1					兼1
	家族心理学	1・2後		1			○							兼1
	グループプロセス	1前		2			○			1				
	心理・教育アセスメント	1後		2			○		1					
	ヘルピング・スキル	1・2後		2			○		1					隔年
	カウンセリング方法論	1・2後		2			○		1					
	心理療法	1・2通		2			○		1					隔年,集中
	認知行動療法	1・2後		2			○			1				集中
	心理診断法	1・2通		2			○							兼1 隔年,集中
	心身医学	1・2前		1			○		1					隔年,集中
	心理・教育統計法	1前		2			○			1				
	社会調査法	1前		2						1				
	データ解析法	1後		2						1				
	事例研究法	1・2前		2			○			1				集中
	人間行動基礎論Ⅰ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅱ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅲ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅳ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	1・2通		1			○							兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング基礎面接実習	1通		1					○	5	2		1	
	生涯発達カウンセリング応用面接実習	2通		1					○	5	1			
	生涯発達カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1	1			
	産業カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1	1			
	非行・犯罪心理学特別面接実習	2通		2					○	1				
	教育カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1				
	家族カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	1				
	学校カウンセリング特別面接実習	2通		2					○		1			
	健康心理カウンセリング特別面接実習	2通		2					○		1			
	精神衛生カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	2				
	臨床心理カウンセリング特別面接実習	2通		2					○	2	1			
	生涯発達カウンセリング実践面接実習	2通		2					○	1	1			隔年
小計(48科目)	—	5	76	0		—		5	3	0	1	0	兼1	—
学位プログラム小計(53科目)	—	10	76	0		—		5	3	0	1	0	兼1	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■リハビリテーション科学学位プログラム (M)</b>														
基礎科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ	1前	1			○			3	2	2	1		オムニバス              共同              共同
	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	1前・後	1				○		4	2		1		
	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	1後	1				○		4	2		1		
	リハビリテーション研究法Ⅰ	2通	1				○		5	3		1		
	リハビリテーション研究法Ⅱ	2通	1				○		5	3		1		
	リハビリテーション概説	1前	2			○			6	2		1		
	リハビリテーション研究基礎論	1前	1			○			5	3	2	1		
	リハビリテーション特別研究	2通	1				○		5	3		1		
	医学的リハビリテーション	1・2前		1		○			1					
	特別支援教育特講	1・2前		1		○			1	2				
	ダイバーシティ概論	1・2前		1		○						1		
	職業リハビリテーション	1・2前		1		○				1				
	地域リハビリテーション	1・2前		2		○			1					
	統計学	1・2前		3		○			2	2				
小計 (14科目)		—	9	9	0		—	9	5	2	1	0	0	—
専門科目	特別支援教育授業論	1・2後		1		○			1	2				共同 共同    共同 共同   共同      共同    集中 集中
	特別支援教育教育課程論	1・2後		1		○			1	2				
	特別支援教育コーディネーター論	1・2後		1		○			1					
	障害者福祉論	1・2前		1		○			1					
	職業指導論	1・2前		1		○				1				
	リハビリテーション事例研究	1・2後		2			○		4	2		1		
	特別支援教育事例研究	1・2後		2			○		4	2		1		
	視覚障害学特論	1・2前		2		○				1				
	聴覚障害学特論	1・2前		2		○			1	1				
	言語障害学特論	1・2後		2		○			1					
	運動障害学特論	1・2前		2		○			1					
	知的障害学特論	1・2後		2		○			1	1				
	精神障害学特論	1・2後		2		○						1		
	高次脳機能障害特論	1・2前		2		○				1				
	健康障害学特論	1・2前		1		○			2					
	高齢障害学特論	1・2後		1		○			1					
	発達障害学特論	1・2前		2		○			1					
	視覚障害学演習	1・2後		1			○			1				
	運動障害学演習	1・2後		1			○		1					
	高齢障害学演習	1・2後		1			○		1					
	発達障害学演習	1・2後		1			○		1					
	社会リハビリテーション演習	1・2後		1			○		1					
	職業リハビリテーション演習	1・2後		1			○			1				
	リハビリテーションカウンセリング	1・2前		1			○			1				
	リハビリテーション課題研究	1・2通		1			○		5	2		1		
リハビリテーション英語	1・2前		1			○			1					
国際リハビリテーション演習	1・2前		1			○			1					
質的研究法	1・2通		1			○			1					
多変量解析法	1・2通		1			○					1			
小計 (29科目)		—	0	39	0		—	7	6	0	1	0	0	—
学位プログラム小計 (43科目)			—	9	48	0	—	11	7	2	1	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■フロンティア医科学学位プログラム (M)</b>														
基礎科目	人体構造学概論	1前		2		○			1		1	1		○ムニバス
	人体構造学実習	1・2前		1				○	1	1				
	臨床医学概論	1後		2		○			8	1	2			○ムニバス
	社会医学概論	1前		2		○			8	3		7		○ムニバス
	疫学概論	1前		1		○			1			1		○ムニバス
	医科学特講	1・2前		1		○			1					
	医情報処理学特論	1前		1		○			1					
	医生物統計学概論	1前		1		○			1	1				
	医生物統計学実習	1前		1				○	1	1				
	医学英語I	1前		1		○				1				
	医学英語II	1後		1		○				1				
	研究マネジメント基礎	1前		1				○	1					※講義
	医科学特別演習	2通	8					○	59	9	1	2		兼2
	インターンシップI	1・2通	1					○	60	55	37	34		兼3
	インターンシップII	1・2通	1					○	60	55	37	34		兼3
	基礎医科学演習	1通		3				○	83	59	35	27		兼5
	留学生セミナー	1・2通		1			○		1					
	医科学セミナーI(ブレインサイエンス)	1・2通		1			○		1					
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1			○		1					
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1			○			1				
	医科学セミナーIV(プライマリケア)	1・2通		1			○		1	1				
	医科学セミナーV(キャリアパス)	1・2通		1			○		1	1	3	2		
	医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通		2			○		2			1		
	医科学セミナーVII(臨床研究セミナー)	1・2通		1			○		1					
	人体生理学特論	1前		1			○		2			3		○ムニバス
	生化学特論	1前		1			○		2	2	2	1		○ムニバス
	国際実践医科学研究特論I	1・2通		1			○		1	1		1		
	国際実践医科学研究特論II	1・2通		2			○		1	1		1		
	国際実践医科学研究特論III	1・2通		3			○		1	1		1		
	生命倫理学	1・2前		1			○		3	3	1	1		兼2
小計(30科目)		—	9	37	0		—	86	63	37	34	0	兼7	—
専門基礎科目	人体病理学概論	1前		2		○			2	2	1			○ムニバス
	実験動物科学特論・同実習	1前		2		○			1					
	医療経済学	1・2後		1		○			1					
	内科学概論	1前		2		○			9	5	2			○ムニバス
	外科学概論	1前		1		○			5	4				○ムニバス
	ライフサイエンスにおける病態生化学	1後		2		○			4	3				兼1
	臨床検査総論	1・2後		1		○			2	1	3			○ムニバス
	English Discussion & Presentation I	1・2前		2				○	1					
	English Discussion & Presentation II	1・2後		2				○	1					
	神経科学特論	1・2前		1		○			2	3		1		○ムニバス
	神経科学英語	1後		2		○						1		
	神経回路	1後		3		○						1		
	認知神経科学	1後		3		○						1		
	分子細胞神経生物学	1後		3		○						1		
	Scientific Ethics	1・2前		1		○						1		
	Scientific Critical Reading & Analysis	1・2前		1		○						1		
小計(16科目)		—	0	29	0		—	24	17	6	3	0	兼1	—
専門科目	機能形態学特論・同実習	1前		2		○			1		1	2		○ムニバス
	腫瘍学	1後		2		○			9	3	1			○ムニバス
	薬理学	1前		1		○			2	1	3	2		○ムニバス
	ゲノム医学概論	1・2後		2		○			7	1	2	1		○ムニバス
	医工学概論	1前		1		○					2			兼1
	放射線医科学特論	1後		2		○			3	1		2		○ムニバス
	精神医学概論	1後		1		○			2	3	1			○ムニバス
	臨床老年病学	1後		1		○				1	2			○ムニバス
	臨床薬理学特論	1後		1		○			1	1	1			○ムニバス
	橋渡し研究概論	1前		2		○			2	2				○ムニバス
	創薬フロンティア科学	1・2後		1		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ヒトの感染と免疫	1前		2		○			1	4	2	1			オムニバス
	Stem cell therapy	1前		1		○			1						
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1後		1		○			1						
	適正技術教育	1・2通		3		○			1						
	医学物理学詳論IA	1前		2		○			2	1		1			オムニバス
	医学物理学詳論IB	1後		2		○			2			2			オムニバス
	医学物理学詳論II	1後		2		○			2	1		1			オムニバス
	医学物理学詳論III	1後		2		○			2	1					オムニバス
	医学物理学詳論IV	1後		2		○			2	1		1			オムニバス
	医学物理学詳論V	1後		2		○			4	1					オムニバス
	医学物理問題解決型演習	1前		1			○		2	1					オムニバス
	医学物理問題解決型実習	1後		1				○	2	1					オムニバス
	環境医学概論	1・2後		2		○			1						
	小計 (24科目)	—	0	39	0	—			27	18	14	8	0	兼1	—
	学位プログラム小計 (70科目)	—	9	105	0	—			86	63	37	35	0	兼7	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
<b>■公衆衛生学学位プログラム (M)</b>															
基礎 科目	社会医学概論	1前	2			○			8	3		7		オムニバス	
	疫学概論	1前	1			○			1			1		オムニバス	
	医生物統計学概論	1前	1			○			1	1				共同	
	医生物統計学実習	1前		1				○	1	1				共同	
	医学英語I	1前		1		○				1				共同	
	医学英語II	1後		1		○				1				共同	
	公衆衛生学特別演習	2通	8					○	11	4					
	インターンシップI	1・2通		1				○	60	55	37	34		兼3	
	インターンシップII	1・2通		1				○	60	55	37	34		兼3	
	疫学・生物統計学セミナー	1通	2					○	2			1		共同	
	量的研究の批判的評価法	1前		1			○					1			
システムティックレビュー・メタアナリシス入門	1後		2			○					1				
小計 (12科目)	—	—	14	8	0	—	—	—	70	59	37	34	0	兼3	—
専門 科目	健康行動科学論	1・2後	1			○			2	2		3		オムニバス	
	疫学特論	1・2後	2			○			1			1		オムニバス	
	臨床試験論	1・2後		1		○			2			1		オムニバス	
	ヘルスプロモーション	1・2後		1		○			1						
	環境保健学	1・2前		1		○								兼1	
	環境医学概論	1・2後		2		○			1						
	医生物統計学特論	1・2後	2			○			1	1				共同	
	保健医療政策学	1・2後	1			○			1						
	医療管理学	1・2後	1			○			1						
	医療経済学	1・2後	1			○			1						
	ヘルスサービスリサーチ概論	1・2前	1			○			1			1		オムニバス	
	精神保健学	1・2前		1		○			1	1		1		オムニバス	
高齢者ケアリング学特論	1・2前		1		○				1		1		オムニバス		
小計 (13科目)	—	—	9	7	0	—	—	—	7	4	0	6	0	兼1	—
学位プログラム小計 (25科目)	—	—	23	15	0	—	—	—	70	59	37	34	0	兼4	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■ニューロサイエンス学位プログラム (M)</b>															
基礎科目	Seminar for Career Development/ キャリアプランセミナー	1前	1					○		7	12	2	7		兼7 共同
	Introduction to Academic Integrity/ 研究倫理	1前	1				○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	小計 (2科目)	—	2	0	0			—		7	12	2	7		兼9 —
専門基礎科目	Introduction to Neuroscience A/ 神経科学基礎論A	1前	2				○			3	2	1	1		兼3 オムニバス 共同(一部)
	Introduction to Neuroscience B/ 神経科学基礎論B	1前	2				○			2	2		5		オムニバス 共同(一部)
	Introduction to Neuroscience C/ 神経科学基礎論C	1前	2				○			1	4		1		兼2 オムニバス
	Introduction to Neuroscience D/ 神経科学基礎論D	1前	2				○			2	4	1			兼2 オムニバス 共同(一部)
	Research Proposal Writing in English 1/ 基礎科学英語1	1・2通	2					○		1	2				共同
	Research Proposal Writing in English 2/ 基礎科学英語2	2通	2					○		1	2				共同
小計 (6科目)	—	10	2	0			—		7	12	2	7	0	兼7 —	
専門科目	Neuroscience Laboratories A/ 神経科学実験・実習A	1前		1					○	2	3	1	3		兼3 共同
	Neuroscience Laboratories B/ 神経科学実験・実習B	1前		1					○	2	1		4		共同
	Neuroscience Laboratories C/ 神経科学実験・実習C	1前		1					○	2	4				兼1 共同
	Neuroscience Laboratories D/ 神経科学実験・実習D	1前		1					○	2	4	1			兼2 共同
	English journal Club 1/ 英語ジャーナルクラブ1	1・2通	2					○					2		共同
	English journal Club 2/ 英語ジャーナルクラブ2	2通	2					○					2		共同
	Neuroscience Research seminar 1/ 神経科学先端セミナー1	1・2通	1					○			1		1		共同
	Neuroscience Research seminar 2/ 神経科学先端セミナー2	2通	1					○			1		1		共同
	Translational Neuroscience Internship/ 実践的神経科学インターンシップ	1・2通	3						○		2				兼1 共同, 集中
	Neuroscience Thesis Research 1/ 修士論文研究指導1	1前	2						○	7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 2/ 修士論文研究指導2	1後	2						○	7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 3/ 修士論文研究指導3	2前	2						○	7	10		2		兼5
	Neuroscience Thesis Research 4/ 修士論文研究指導4	2後	2						○	7	10		2		兼5
小計 (13科目)	—	11	10	0			—		7	12	2	7	0	兼7 —	
学位プログラム小計 (21科目)		—	23	12	0			—		7	12	2	7	0	兼9 —

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■看護科学学位プログラム (M)</b>														
専門基礎科目	看護科学論	1前	2			○			3	2		3		○ムニバス
	看護コミュニケーション論	1前		2		○			2	2		1		○ムニバス
	看護コンサルテーション論	1前		2		○			2					○ムニバス
	看護学研究法	1前		3		○			2			3		○ムニバス
	保健統計学	1前		2		○			1	1		1		○ムニバス
	国際看護学	1後		2		○			1					
	看護倫理学	1前		2		○			3	2		2		○ムニバス
	看護教育論	1前		2		○			2			1		○ムニバス
	フィジカルアセスメント	1前		2			○		2			4		○ムニバス
	病態生理学	1前		2		○			1			2		○ムニバス
	臨床薬理学	1前		2		○			2	1		2		○ムニバス
	看護教育学	1前		2		○			2	1				○ムニバス
	地域母子保健論	1前		1		○			1	1		2		○ムニバス
	女性と健康	1前		2		○			2	1				○ムニバス
	女性の精神保健学	1前		1		○			2			2		○ムニバス
	生殖生命倫理学	1前		2		○			4	1		1		○ムニバス
	周産期のフィジカルアセスメント	1前		1			○		1	2		1		○ムニバス
小計 (17科目)		—	2	30	0		—	11	7	0	11	0	0	—
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	1・2前		2		○			4	1		4		○ムニバス
	国際保健・公衆衛生看護学演習	1後		2			○		3	1		4		○ムニバス
	ウイメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			1	1		1		共同
	ウイメンズヘルス看護学演習I	1前		2			○		1	1		1		○ムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習II	1後		2			○		1	1		1		○ムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習III	1後		3			○		1	1		1		○ムニバス
	ウイメンズヘルス看護学演習IV	2前		3			○		1	1		1		○ムニバス
	助産学特論I	1前		2		○			1	1				
	助産学演習I	1前		2			○			1		1		○ムニバス
	助産学特論II	1前		2		○			1	1		1		○ムニバス
	助産学演習II	1前		2			○			1		1		○ムニバス
	助産学特論III	2前		1		○			1					
	助産学演習III	2前		1			○		1	1		1		共同
	助産学実習I	1後		8				○		1	1	1		共同
	助産学実習II	1・2通		3				○		1	1	1		共同
	発達支援看護学特論	1前		2		○				1		1		共同
	家族看護学特論	1前		2		○				1		1		共同
	家族看護学演習	1後		2			○			1		1		共同
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	1後		2			○		2	2		3		○ムニバス
	家族生活アセスメント学	1前		2		○			2	2		3		○ムニバス
	家族アセスメント/インターベンション学	1前		2		○				3		5		○ムニバス
	家族看護実践学	1後		2		○				1		1		○ムニバス
	家族看護学基盤実習	1後		2				○		1		1		共同
	家族看護学展開実習	1後		4				○		1		1		共同
	家族看護学統合実習	2通		2				○		1		1		共同
	がん看護学特論I	1前		2		○			1			2		○ムニバス
	がん看護学演習I	1後		2			○		1			2		○ムニバス
	がん看護学特論II	1後		2		○			1			2		○ムニバス
	がん看護学演習II	1後		2			○		1			2		共同
	がん看護学特論III	1後		2		○			1			3		○ムニバス
	基礎腫瘍学特論	1前		1		○			1			2		○ムニバス
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○			1			2		○ムニバス
	緩和ケア特論	1後		2		○			1			2		○ムニバス
	がん看護学実習I	1後		2				○		1		2		共同
がん看護学実習II	2前		4				○		1		2		共同	
がん看護学実習III	2前		2				○		1		2		共同	
精神保健看護学特論	1・2前		2		○			1			1		共同	
精神保健看護学演習	1後		2			○		1			1		○ムニバス	
精神看護学特論I	1前		2		○			1			1		共同	
精神看護学特論II	1後		2		○			1			1		○ムニバス	
精神看護学特論III	1後		2		○			1			1		共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	精神看護学演習I	1後		2			○		1			1		共同	
	精神看護学演習II	1後		2			○		1			1		共同	
	精神看護学実習I	1後		4				○	1			1		共同	
	精神看護学実習II	2前		4				○	1			1		共同	
	慢性看護学特論I	1前		2		○			1	2		2		オムニバス, 共同(一部)	
	慢性看護学演習I	1前		2			○		1	1		1		共同	
	慢性看護学特論II	1後		2		○			1	1				共同	
	慢性看護学演習II	1後		2			○		1	1		1		共同	
	慢性看護学特論III	1前		2		○			2	1				オムニバス	
	慢性看護学特論IV	1後		2		○			2	2		2		オムニバス	
	慢性看護学演習IV	2前		2			○		1	1		1		共同	
	慢性看護学実習I	2通		4				○	1	1		1		共同	
	慢性看護学実習II	2通		4				○	1	1		1		共同	
	小計(54科目)	—	0	125	0		—		9	5	0	12	0	0	—
(専門科目) (共通)	インターンシップ	1・2通		2				○	7	5		11			
	看護科学特別実習	1・2通		2				○	7	5		11			
	看護科学特別研究	2通	4				○		7	5		11			
	小計(3科目)	—	4	4	0		—		7	5	0	11	0	0	—
	学位プログラム小計(74科目)	—	6	159	0		—		13	7	0	13	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■体育学学位プログラム (M)</b>															
専門基礎科目	体育・スポーツ学分野研究方法論	1・2後		1		○			2	3			2	兼1	オムニバス
	健康体力学分野研究方法論	1・2前		1		○			8	2					オムニバス
	コーチング学分野研究方法論	1・2前		1		○				1					
	研究ワークショップ	1後		1			○		1	1		1			オムニバス
	研究基礎共通実習(PBL)	1・2前		1				○					1	兼1	共同
	健康・スポーツ科学のための統計学	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	つくばサマーインスティテュート	1・2前		2			○		1	3				兼1	※講義, 集中
	International Sport Policy Studies(国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○								兼1	集中
	Advanced Coach Education(上級コーチ教育論)	1・2前		1		○				1		1		兼2	オムニバス
	Management and Organization(経営マネジメント論)	1・2前		1		○								兼1	集中
	Project Management(プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○								兼1	集中
	JSC Seminar(JSCセミナー)	1・2通		1			○							兼3	共同
	JSC Project(JSCプロジェクト)	1・2通		1		○								兼3	共同
	On the Job Practice (Domestic)	1通		2				○						兼3	共同
	Sport, Culture and Society(スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○								兼1	
Olympic and Paralympic History(オリンピック・パラリンピック史)	1後		1		○				1						
Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後		1		○				1						
スポーツ文化・経営政策系列	スポーツ経営学	1前		1		○			1						
	体育・スポーツ哲学	1後		1		○			1						集中
	スポーツ史学	1後		1		○						1			
	武道学	1・2前		1		○				1					
	スポーツ産業学	1・2前		1		○				3					オムニバス
	スポーツ社会学	1・2通		1		○								兼1	
	スポーツ政策学	1前		1		○			2			1			オムニバス
	フェアプレイ論	1・2後		1		○			1						
	身体文化論	1・2前		1		○			1			1			集中, オムニバス
	スポーツ法学	1後		1		○			1				1		
	スポーツ行政学	1前		1		○							1		
	スポーツビジネス論	1・2後		1		○				3					オムニバス
	スポーツを通じた開発論	1前		1		○								兼1	
	スポーツメディア論	1・2後		1		○								兼1	集中
	スポーツ文化・経営政策共通実習	1・2通		1			○		2	1					共同
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ秋	1後		1				○				1			
地域スポーツ経営論	1・2後		1		○			1						隔年	
スポーツリスクマネジメント論	1後		1		○			1							
健康・スポーツ教育系列	体育科学習指導論	1後		1		○				1					
	学校健康教育論	1前		1		○						1			集中
	アダプテッド・スポーツ教育論	1後		1		○				2					共同
	スポーツカウンセリング論	1前		1		○			1						
	保健社会学	1後		1		○			1						
	学校体育経営論	1後		1		○			1						隔年
	武道授業指導論	1前		1		○			1	4					オムニバス
	スポーツ心理学	1休		1		○			1						集中
	保健教材論	1後		1		○						1			
	野外教育プログラム論	1前		1		○						1			
	野外教育指導論	1前		1		○			1						
	体育授業観察分析法I	1後		1			○			1					
	体育授業観察分析法II	1後		1			○			2					集中, オムニバス
	健康・スポーツ教育インターンシップ春	1・2前		1				○				1			
健康・スポーツ教育インターンシップ秋	1後		1				○				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	野外教育実習(キャンプ)	1通		1				○	1			1		集中, 共同
	舞踊授業指導論	1・2後		1		○				1				隔年
ヘルスフィットネス系列	体力学特講	1・2前		1		○			2	2				オムニバス
	スポーツ生理学特講	1前		1		○			2			1		共同
	スポーツ生化学特講	1後		1		○			2					共同
	スポーツ栄養学特講	1・2後		1		○				1				
	健康増進学特講	1・2前		1		○				1				
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1後		1		○			7	4				オムニバス, 共同(一部)
	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1・2前		1		○			1					
	スポーツ栄養学実験実習	1・2後		2				○		1				集中
	スポーツ生理学実験	1・2通		2				○	2					共同
	スポーツ生化学実験	1・2後		2				○	2					共同
	体力学実習	1・2通		2				○	2	2				オムニバス
	健康増進学実習	1・2通		2				○	1	1				オムニバス
	体育測定評価学実習(発育発達学を含む)	1・2通		2				○	1					
	基礎ヘルスフィットネス演習	1・2後		1				○	7	4				オムニバス, 共同(一部)
ヘルスフィットネスインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
ヘルスフィットネスインターンシップ秋	1後		1				○				1			
アスレティックコンディショニング系列	運動器のしくみと働き(基礎編)	1・2前		1		○				1				隔年
	スポーツバイオメカニクス特講	1・2後		1		○			1					
	スポーツ用具と動きのしくみ	1・2前		1		○				1				
	女性スポーツ医学論特講	1後		1		○				2				オムニバス
	機能解剖学実験	1・2前		1				○		1				集中
	運動器のしくみと働き(応用編)	1・2後		1		○				1				
	スポーツ医学基礎論実習I	1・2通		2				○	1	1				共同
	スポーツ医学基礎論実習II	1・2通		2				○	1	2		1		共同
	アスレティックコンディショニング論特講	1後		2		○			2	3		1		兼1 オムニバス
	アスレティックリハビリテーション論特講	1前		2		○			1	2		1		兼1 オムニバス
	アスレティックトレーナー特講	1・2後		1		○			1	1		1		集中, オムニバス
	テーピング・マッサージ実習	1・2後		2				○	1	1		1		集中, 共同
	スポーツ内科学特講	1・2後		2		○				2				集中, 隔年, 共同
	アスレティックコンディショニング論演習	1・2通		3			○		1	2		1		共同
	アスレティックリハビリテーション論演習	1・2通		3			○		1	2		1		共同
	アスレティックコンディショニング論実習	1・2通		2				○	1	2		1		兼1 共同
アスレティックリハビリテーション論実習	1・2通		2				○	1	2		1		共同	
アスレティックトレーナー演習	1・2後		1			○		1	1		1		集中, 共同	
アスレティックコンディショニングインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	1後		1				○				1			
コーチング系列	コーチングのバイオメカニクス	1・2後		1		○			1					隔年
	トレーニング学	1通		2		○				2				共同
	コーチング論(事例討議)	1後		1		○				2				共同
	身体技法論	1後		1		○			1					
	身体表現論	1・2前		1		○				1				
	スポーツ運動学	1前		1		○			1					
	武道文化論	1・2後		1		○			1					
	体操コーチング総合演習	1前		1			○		1		1			オムニバス
	体操競技コーチング総合演習	1後		1			○			1				
	陸上競技コーチング総合演習	1前		1			○			1		1		オムニバス
	水泳競技コーチング総合演習	1後		1			○					1		
	バレーボールコーチング総合演習	1後		1			○			1		1		共同
	バスケットボールコーチング総合演習	1・2前		1			○		1					
	ハンドボールコーチング総合演習	1前		1			○		1			2		オムニバス
	サッカーコーチング総合演習	1前		1			○		1					
	ラグビーコーチング総合演習	1前		1			○			1				
	テニスコーチング総合演習	1後		1			○			1				
	バドミントンコーチング総合演習	1前		1			○					1		
	野球コーチング総合演習	1前		1			○			1		1		共同
	柔道コーチング総合演習	1前		1			○			2				共同
剣道コーチング総合演習	1後		1			○		1	2				オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	弓道コーチング総合演習	1後		1			○			1					兼1 共同  集中,オムニバス	
	舞踊指導総合演習	1前		1			○			1						
	スポーツコーチング総合演習	1前		1			○		1	2						
	コーチングインターンシップ春	1・2前		1				○				1				
	コーチングインターンシップ秋	1後		1				○				1				
	競技マネジメント論	1後		1		○			2	1						
	舞踊上演マネジメント論	1前		1		○				1						
	スポーツ情報戦略論	1後		1		○				1						
	ナショナルリーダーディングコーチング系列															
	プログラム特別インターンシップ春	1・2前		3				○				1				
プログラム特別インターンシップ秋	1後		3				○				1					
日本文化論(宗教,思想,古典芸能など)	1通		1		○			1								
小計(121科目)	—		0	147	0		—		28	32	1	14	0	兼6 —		
専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	1通		3			○		1			1		共同		
	体育・スポーツ哲学演習II	2通		3			○		1					共同		
	体育史・スポーツ人類学演習I	1通		3			○					1		兼1 共同		
	体育史・スポーツ人類学演習II	2通		3			○					1		兼1 共同		
	スポーツ社会学演習I	1通		3			○							兼1		
	スポーツ社会学演習II	2通		3			○							兼1		
	武道学演習I	1通		3			○		1							
	武道学演習II	2通		3			○		1							
	体育・スポーツ経営学演習I	1通		3			○		1							
	体育・スポーツ経営学演習II	2通		3			○		1							
	スポーツ政策学演習I	1通		3			○		1			1		共同		
	スポーツ政策学演習II	2通		3			○		1			1		共同		
	スポーツ法学演習	1通		2			○		1							
	スポーツ産業学演習I	1通		3			○			2				共同		
	スポーツ産業学演習II	2通		3			○			2				共同		
	体育科教育学演習I	1通		3			○			1						
	体育科教育学演習II	2通		3			○			1						
	体育授業観察分析演習	1前		2			○			1						
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	1通		3			○			2				オムニバス,共同(一部)		
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	2通		3			○			2				共同		
	体育心理学演習I	1通		3			○		1			1		共同		
	体育心理学演習II	2通		3			○		1			1		共同		
体育心理学実習	1通		2				○	1			1		共同			
体育・スポーツ学特別演習	2通		3				○	1								
体育・スポーツ学特別演習II	2通		3				○	1								
健康体力学分野	健康教育学演習I	1通		3			○		1			2		共同		
	健康教育学演習II	2通		3			○		1			2		共同		
	運動生理学演習I	1通		3			○		2					共同		
	運動生理学演習II	2通		3			○		2					共同		
	運動生化学演習I	1通		3			○		2			1		共同		
	運動生化学演習II	2通		3			○		2			1		共同		
	運動栄養学演習I	1通		3			○			1						
	運動栄養学演習II	2通		3			○			1						
	体力学演習I	1通		3			○		2	2				オムニバス		
	体力学演習II	2通		3			○		2	2				オムニバス		
	健康増進学演習I	1通		3			○			1						
	健康増進学演習II	2通		3			○			1						
	体育測定評価学演習I	1通		3			○		1							
	体育測定評価学演習II	2通		3			○		1							
	内科系スポーツ医学演習I	1通		3			○		1	1				共同		
内科系スポーツ医学演習II	2通		3			○		1	1				共同			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツ医学基礎論特講I	1・2通		2		○			2	1					兼1 オムニバス 共同 共同 共同 共同 共同
	外科系スポーツ医学演習I	1通		3			○		1	2		1			
	外科系スポーツ医学演習II	2通		3			○		1	2		1			
	スポーツ医学基礎論特講II	1・2前		1		○			1	1					
	スポーツバイオメカニクス演習I	1通		3			○		1	1					
	スポーツバイオメカニクス演習II	2通		3			○		1	1					
	スポーツバイオメカニクス実験	1・2通		2				○	1	1					
	応用解剖学演習I	1通		3			○			1					
	応用解剖学演習II	2通		3			○			1					
コーチング学分野	コーチング論・トレーニング学演習I	1通		3			○		1	3					兼1 兼1 共同 共同
	コーチング論・トレーニング学演習II	2通		3			○		1	3					
	スポーツ運動学演習I	1通		3			○		1	1					オムニバス 共同
	スポーツ運動学演習II	2通		3			○		1	1					
	体操コーチング論演習I	1通		3			○		1		1				オムニバス 共同
	体操コーチング論演習II	2通		3			○		1		1				
	体操競技コーチング論演習I	1通		3			○		1			1			オムニバス オムニバス
	体操競技コーチング論演習II	2通		3			○		1			1			
	陸上競技コーチング論演習I	1通		3			○			1		1			オムニバス オムニバス
	陸上競技コーチング論演習II	2通		3			○			1		1			
	水泳競技コーチング論演習I	1通		3			○					1			共同 共同
	水泳競技コーチング論演習II	2通		3			○		2			1			
	バレーボールコーチング論演習I	1通		3			○				1		1		共同 共同
	バレーボールコーチング論演習II	2通		3			○				1		1		
	バスケットボールコーチング論演習I	1通		3			○		1	1					共同
	バスケットボールコーチング論演習II	2通		3			○		1						
	ハンドボールコーチング論演習I	1通		3			○		1				2		オムニバス オムニバス
	ハンドボールコーチング論演習II	2通		3			○		1				2		
	サッカーコーチング論演習I	1通		3			○		2				1		共同 共同
	サッカーコーチング論演習II	2通		3			○		2						
	ラグビーコーチング論演習I	1通		3			○				1		1		オムニバス
	ラグビーコーチング論演習II	2通		3			○				1				
	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	1通		3			○			2			2		共同 共同
	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	2通		3			○			2			2		
	柔道コーチング論演習I	1通		3			○			2					オムニバス 共同
	柔道コーチング論演習II	2通		3			○			2					
	柔道コーチング論実習「形」	1・2通		1						1					共同 共同
	剣道コーチング論演習I	1通		3			○		1	2					
	剣道コーチング論演習II	2通		3			○		1	2					
	弓道コーチング論演習I	1通		3			○			1					共同
弓道コーチング論演習II	2通		3			○			1						
野外運動論演習I	1通		3			○		1				1		オムニバス 共同	
野外運動論演習II	2通		3			○		1				1			
野外運動論実習	1通		2			○		1				1		共同 オムニバス	
舞踊論演習I	1通		3			○				2					
舞踊論演習II	2通		3			○				2				共同	
舞踊表現技術実習	1通		1			○				1					
コーチング学特別演習	1通		3			○		1						共同	
コーチング学特別演習II	2前		3			○		1							
コーチング特別課題研究I(設計)	1通		3			○		1							
コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	2通		3			○		3	1						
小計(91科目)		—	0	261	0			—	29	31	1	19	0	兼4	—
学位プログラム小計(212科目)		—	0	408	0			—	57	63	2	33	0	兼10	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■スポーツ・オリンピック学学位プログラム (M)</b>															
専門基礎科目	Olympic Movement Studies(オリンピックムーブメント論)	1後	1			○			1	1					
	Olympic Movement and Sport Law(オリンピックムーブメントとスポーツ法)	1後	1			○			1						
	International Sport Event Management(国際スポーツイベントマネジメント論)	1前	1			○				1					集中
	Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後	1			○				1					集中
	Japanese Culture(日本文化)	1後	1			○									兼1
	Sport and Diversity(スポーツとダイバーシティ)	1前	1			○				1					兼1
	Olympic and Paralympic Education(オリンピック・パラリンピック教育)	1前	1			○				1					兼1
	Taiku(Physical Education) (体育)	1前	1			○									兼1 集中
	Cross-Cultural Communication (異文化コミュニケーション)	1前	1			○			1						
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1後	2			○			1						
小計 (10科目)		—	11	0	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼4	—
専門科目 (共通)	TIAS Internship A(TIASインターンシップ A)	1後		4				○	1	1					兼1
	TIAS Internship B(TIASインターンシップ B)	1前		4				○	1	1					兼1
	TIAS Research Project(TIAS課題研究)	1後		4			○		4	4					
	小計 (3科目)		—	0	12	0	—	—	4	4	0	0	0	兼1	—
専門科目 (専門分野)	Seminar in Olympic and Paralympic Education I(オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	1後		2				○		1					
	Seminar in Olympic and Paralympic Education II(オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	1前		2				○		1					
	Seminar in Sport Management I(スポーツマネジメント演習 I)	1後		2				○		1					
	Seminar in Sport Management II(スポーツマネジメント演習 II)	1前		2				○		1					
	Seminar in Sport Science and Medicine I(スポーツ医学演習 I)	1後		2				○	3	1					
	Seminar in Sport Science and Medicine II(スポーツ医学演習 II)	1前		2				○	3	1					
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I(ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	1後		2				○		2		1			
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II(ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	1前		2				○		2		1			
	Olympic and Paralympic History(オリンピック・パラリンピック史)	1後		1				○		1					
	Olympism and Legacy(オリンピズムとレガシー)	1後		1				○		1					
	Sport Organisation and Governance(スポーツ組織とガバナンス論)	1後		1				○							兼1 集中
	International Sport Marketing(国際スポーツマーケティング)	1後		1				○							兼1 集中
Sport Technology and Biomechanics (スポーツ工学とバイオメカニクス)	1前		1				○		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	Sport Medicine(スポーツ医学)	1前		1		○				1					
	Exercise Physiology and Human Performance(運動生理学とヒューマ ンパフォーマンス)	1前		1		○			1	1					
	Elite Sport Coaching(エリートス ポーツコーチング論)	1前		1		○						1			
	Budo(武道)	1前		1		○				1					
	小計(17科目)	—	0	25	0		—		5	5	0	1	0	兼2	—
	学位プログラム小計(30科目)	—	11	37	0		—		6	6	0	1	0	兼7	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
<b>■スポーツウエルネス学学位プログラム (M)</b>																
分野共通	(専門科目)	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1・2前	2			○			5	2					オムニバス
		スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1・2前	1			○			3	2					オムニバス
		スポーツ健康研究方法論Ⅰ	2前	1				○		5	2					
		小計 (3科目)	—	4	0	0		—		5	2	0	0	0	0	—
		(選択科目)	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	2後	1			○		5	2					
		スポーツ健康研究方法論Ⅲ	2前	1			○		5	2						
	小計 (2科目)	—	0	2	0		—		5	2	0	0	0	0	—	
スポーツプロモーション分野	専門科目(選択)	スポーツプロモーション論特講	1・2前	2			○			1						
		スポーツプロモーション論演習1	1・2前	1				○		1						
		スポーツプロモーション論演習2	1・2後	2				○		1						
		スポーツプロモーション論実習	1・2通	1					○	1						
		スポーツイベント論特講	1・2後	2			○				1					
		スポーツイベント論演習1	1・2後	2				○			1					
		スポーツイベント論演習2	1・2前	2				○			1					
		スポーツイベント論実習	1・2通	1					○		1					
		スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ	2後	2				○		1	1					
		スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ	2前	2				○		1	1					
	スポーツマネジメント領域	スポーツマネジメント論特講	1・2前	2			○			1						
		スポーツマネジメント論演習1	1・2前	1				○		1						
		スポーツマネジメント論演習2	1・2後	2				○		1						
		スポーツマネジメント論実習	1・2通	1					○	1						
		高度競技マネジメント論特講	1・2後	2			○			1						
		高度競技マネジメント論演習1	1・2後	1				○		1						
		高度競技マネジメント論演習2	1・2前	2				○		1						
		高度競技マネジメント論実習	1・2通	1					○	1						
		スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	2後	2				○		2						
		スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	2前	2				○		2						
小計 (20科目)	—	0	32	0		—		3	1	0	0	0	0	—		
専門科目(関連)	スポーツプロモーション法制論特講	1・2前	1			○			1						隔年	
	スポーツの倫理と教育	1・2前	1			○			1	1					オムニバス, 隔年	
	スポーツプロモーションとビジネス	1・2後	1			○				2					オムニバス, 隔年	
	トップアスリートのトレーニング	1・2後	1			○			1	2					オムニバス	
	トップコーチング	1・2後	1			○				3		2			オムニバス	
	生涯スポーツのトータルマネジメント	1・2前	1			○			1	3	1				オムニバス	
小計 (6科目)	—	0	6	0		—		4	10	1	2	0	0	—		
ヘルスプロモーション分野	専門科目(選択)	ヘルスプロモーション論特講	1・2前	2			○			1						
		ヘルスプロモーション論演習1	1・2前	1				○		1						
		ヘルスプロモーション論演習2	1・2後	2				○		1						
		ヘルスプロモーション論実習	1・2通	1					○	1						
		健康開発プログラム論特講	1・2前	2			○				1					
		健康開発プログラム論演習1	1・2前	1				○			1					
		健康開発プログラム論演習2	1・2後	2				○			1					
		健康開発プログラム論実習	1・2通	1					○		1					
		ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ	2後	2				○		1	1					
		ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ	2前	2				○		1	1					
	ストレスマネジメント領域	ストレスマネジメントシステム論特講	1・2後	2			○			1						
		ストレスマネジメントシステム論演習1	1・2後	1				○		1						
		ストレスマネジメントシステム論演習2	1・2前	2				○		1						
		ストレスマネジメントシステム論実習	1・2通	1					○	1						
		ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ	2後	2				○		1						
		ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ	2前	2				○		1						
小計 (16科目)	—	0	26	0		—		2	1	0	0	0	0	—		
専門科目(関連)	生活機能増進法論特講	1・2後	1			○			1	2	1	1			オムニバス	
	健康増進基礎論特講	1・2前	1			○			2	1		1			オムニバス	
	健康社会論	1・2前	1			○			1			1			オムニバス	
	健康支援の理論と実践	1・2前	1			○			3	2					オムニバス	
	ヒューマン・ケア科学概論	1・2後	1			○			1	3		1			オムニバス	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツ健康統計学特講	1・2前		1		○				1					
	小計 (6科目)	—	0	6	0		—		7	8	1	4	0	0	—
	合計 (53科目)	—	4	72	0		—		15	21	2	6	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■芸術学学位プログラム (M)</b>														
基礎科目	コミュニケーションアート&デザインA	1・2前		1		○			2	3		3		隔年, オムニバス
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2前		1		○			2	2		3		隔年, オムニバス
	西洋美術史-1	1・2前		1		○			1					隔年
	西洋美術史-2	1・2後		1		○				1				隔年
	日本美術史	1・2前		1		○						1		隔年
	美術論	1・2後		1		○				1				隔年
	芸術教育論-1	1・2前		1		○			1					隔年
	芸術教育論-2	1・2後		1			○		1					隔年
	美術技法論-1	1・2前		1		○			2	1		1		隔年, オムニバス
	美術技法論-2	1・2前		1		○			2	2		1		隔年, オムニバス
	書論	1・2通		3		○			1					隔年
	書鑑賞論	1・2通		3		○			1					隔年
	ダイナミックインタラクショナルデザイン演習	1・2前		1			○			1			1	
	インターンシップ	1・2通		1				○		1	1		1	
小計 (14科目)		—	0	18	0		—		11	11	0	9	0	0
専門科目	西洋近世美術史特講I-1	1・2前		1		○				1				隔年
	西洋近世美術史特講I-2	1・2後		1		○				1				隔年
	西洋近世美術史特講II-1	1・2前		1		○				1				隔年
	西洋近世美術史特講II-2	1・2後		1		○				1				隔年
	西洋近世美術史演習I-1	1・2前		1			○			1				隔年
	西洋近世美術史演習I-2	1・2後		1			○			1				隔年
	西洋近世美術史演習II-1	1・2前		1			○			1				隔年
	西洋近世美術史演習II-2	1・2後		1			○			1				隔年
	近・現代美術論特講I-1	1・2前		1		○				1				隔年
	近・現代美術論特講I-2	1・2後		1		○				1				隔年
	近・現代美術論特講II-1	1・2前		1		○				1				隔年
	近・現代美術論特講II-2	1・2後		1		○				1				隔年
	近・現代美術論演習I-1	1・2前		1			○			1				隔年
	近・現代美術論演習I-2	1・2後		1			○			1				隔年
	近・現代美術論演習II-1	1・2前		1			○			1				隔年
	近・現代美術論演習II-2	1・2後		1			○			1				隔年
	西洋古代美術史特講I-1	1・2前		1		○			1					隔年
	西洋古代美術史特講I-2	1・2後		1		○			1					隔年
	西洋古代美術史特講II-1	1・2前		1		○			1					隔年
	西洋古代美術史特講II-2	1・2後		1		○			1					隔年
	西洋古代美術史演習I-1	1・2前		1			○		1					隔年
	西洋古代美術史演習I-2	1・2後		1			○		1					隔年
	西洋古代美術史演習II-1	1・2前		1			○		1					隔年
	西洋古代美術史演習II-2	1・2後		1			○		1					隔年
	日本美術史特講I-1	1・2前		1		○						1		隔年
	日本美術史特講I-2	1・2後		1		○						1		隔年
	日本美術史特講II-1	1・2前		1		○						1		隔年
	日本美術史特講II-2	1・2後		1		○						1		隔年
	日本美術史演習I-1	1・2前		1			○					1		隔年
	日本美術史演習I-2	1・2後		1			○					1		隔年
	日本美術史演習II-1	1・2前		1			○					1		隔年
	日本美術史演習II-2	1・2後		1			○					1		隔年
	美術史学外演習I	1後		2			○		1	2		1		
	美術史学外演習II	2後		2			○		1	2		1		
	芸術支援学外演習A-1	1前		1			○		2					
	芸術支援学外演習A-2	2前		1			○		2					
	芸術支援学外演習B-1	1前		1			○		2					
	芸術支援学外演習B-2	2前		1			○		2					
	芸術教育方法論A-1	1・2前		1		○			1					隔年
	芸術教育方法論A-2	1・2後		1		○			1					隔年
芸術教育方法論B-1	1・2前		1		○			1					隔年	
芸術教育方法論B-2	1・2後		1		○			1					隔年	
芸術学習支援論A	1・2前		2			○		1					※講義, 隔年	
芸術学習支援論B	1・2後		2			○		1					※講義, 隔年	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	芸術支援ワークショップI	1後		1				○		1						隔年
	芸術支援ワークショップII	2後		1				○		1						隔年
	芸術支援ワークショップIII	2前		1				○		1						隔年
	芸術学習支援演習A	1・2前		1				○		1						隔年
	芸術学習支援演習B	1・2後		1				○		1						隔年
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○				1						隔年
	芸術科教育実践論演習A	1・2前		1				○		1						隔年
	芸術科教育実践論演習B	1・2後		1				○		1						隔年
	芸術鑑賞論A-1	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論A-2	1・2後		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○				1						隔年
	洋画技法論特講	1・2前		1		○				1						
	西洋美術技法演習-1	1・2前		2				○		2						トニハス
	西洋美術技法演習-2	1・2後		2				○			1		1			
	洋画制作A-1	1前		2					○	1						
	洋画制作A-2	1後		1					○	1						
	洋画制作B-1	1前		2					○	1						
	洋画制作B-2	1後		1					○	1						
	洋画制作C-1	1前		2					○		1					
	洋画制作C-2	1後		1					○		1					
	洋画制作D-1	1前		2					○				1			
	洋画制作D-2	1後		1					○				1			
	洋画特別制作A-1	1前		2					○	1						
	洋画特別制作A-2	2後		1					○	1						
	洋画特別制作B-1	2前		2					○				1			
	洋画特別制作B-2	2後		1					○				1			
	洋画特別制作C-1	2前		2					○		1					
	洋画特別制作C-2	2後		1					○		1					
	洋画特別制作D-1	2前		2					○	1						
	洋画特別制作D-2	2後		1					○	1						
	洋画野外風景実習	1・2前		1					○	2	1					集中, 共同
	版画制作A-1	1前		2					○	1						
	版画制作A-2	1後		1					○	1						
	版画制作B-1	1前		2					○	1						
	版画制作B-2	1後		1					○	1						
	版画特別制作-1	2前		2					○	1						
	版画特別制作-2	2後		1					○	1						
	版画技法演習A	1・2後		2				○		1						隔年
	版画技法演習B	1・2後		2				○		1						隔年
	版画学外演習	1・2前		1				○		1						集中
	日本美術技法演習-1	1・2前		2				○		1	2					
	日本美術技法演習-2	1・2後		2				○		1	2					
	日本画制作A-1	1前		2					○	1						一部集中
	日本画制作A-2	1後		1					○	1						
	日本画制作B-1	1前		2					○		1					一部集中
	日本画制作B-2	1後		1					○		1					
	日本画制作C-1	1前		2					○		1					一部集中
	日本画制作C-2	1後		1					○		1					
	日本画特別制作A-1	2前		2					○	1						
	日本画特別制作A-2	2後		1					○	1						
	日本画特別制作B-1	2前		2					○		1					
	日本画特別制作B-2	2後		1					○		1					
	日本画特別制作C-1	2前		2					○		1					
	日本画特別制作C-2	2後		1					○		1					
	日本画野外風景実習	1・2前		1					○	1	2					集中
	彫塑学外演習	1・2通		1				○		1			1			集中
	塑造制作-1	1・2前		3					○	1				1		
	塑造制作-2	1・2後		3					○	1				1		
	彫刻制作-1	1・2前		3					○	1				1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	彫刻制作-2	1・2後		3				○	1				1		集中	
	金属彫刻制作	1・2通		2				○	1				1			
	テラコッタ制作	1・2前		2				○	1				1			
	彫塑特別制作A	2前		1				○	1				1			
	彫塑特別制作B	2前		1				○	1				1			
	彫塑特別制作C	2前		1				○	1				1			
	彫塑特別制作D	2前		1				○	1				1			
	漢字演習A	1・2通		3			○		1							隔年
	漢字演習B	1・2通		3			○		1							隔年
	漢字演習C	1・2通		3			○		1							隔年
	漢字演習D	1・2通		3			○		1							隔年
	仮名演習A	1・2通		3			○		1							隔年
	仮名演習B	1・2通		3			○		1							隔年
	書学外演習A	1・2通		1			○		1							隔年
	書学外演習B	1・2通		1			○		1							隔年
	書学外演習C	1・2通		1			○		1							隔年
	平面・立体構成論特講	1・2前		1		○						1				隔年,一部集中
	平面・立体構成演習A	1・2後		2			○					1				
	平面・立体構成演習B	1・2後		2			○					1				隔年,一部集中
	現代アート表現論	1・2前		1		○							1			
	現代アート表現演習	1・2後		2			○						1			
	メディア表現論	1・2前		1		○							1			
	メディア表現演習	1・2後		2			○						1			
	現代美術論	1・2後		1		○			1							
	現代美術演習	1・2前		2			○		1							
	陶磁造形演習I	1・2前		1			○			1						
	陶磁造形演習II	1・2後		1			○			1						
	陶磁造形論特講	1・2前		1		○				1						
	木材造形演習	1・2前		2			○			1						
	ガラス造形演習	1・2前		2			○					1				
	ガラス特別演習	1・2前		2			○						1			
	漆芸演習	1・2前		2			○			1						
	視覚伝達設計論特講	1・2後		1		○				1						
	視覚伝達設計演習	1・2前		2			○			1						
	グラフィックデザイン演習A	1・2前		1			○		1							
	グラフィックデザイン演習B	1・2後		1			○		1							
	画像表現論特講	1・2前		2		○						1				
	画像表現演習	1・2後		1			○						1			
	ビジュアル・コミュニケーション演習	1・2通		1			○			1					集中,隔年	
	環境デザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年	
	パッシブデザイン論特講	1・2前		2		○				1					隔年	
	都市・地域デザイン論特講	1・2前		2		○			1						隔年	
	ランドスケープデザイン論特講	1・2前		2		○			2						隔年	
	環境デザイン演習1	1前		2			○		2	2						
	環境デザイン演習2	1後		2			○		2	2						
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習I	1・2前		2			○			3			2			
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習II	1・2後		2			○			3			2			
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習I	1・2前		2			○			3			2			
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習II	1・2後		2			○			3			2			
	研究・制作発表特別演習I	1通	2				○		13	10			9			
	研究・制作発表特別演習II	2通	2				○		13	10			9			
	芸術学学位プログラム特別演習	1通	3				○		13	10			9			
	芸術学学位プログラム特別研究	2通	3				○		13	10			9		14条対応	
	小計 (158科目)	—	10	224	0			—	13	10	0	9	0	0	—	
	学位プログラム小計 (172科目)	—	10	242	0			—	13	11	0	9	0	0	—	

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■デザイン学学位プログラム (M)</b>															
基礎科目	デザイン学基礎論	1前	2			○			4	5	1	1		兼4	オムニバス, 共同(一部)
	人間総合科学基礎論	1・2前	1				○		2						
	研究倫理	1・2前	1			○								兼2	※演習, 集中, オムニバス
	サイエンスコミュニケーション概論	1・2前		1				○						兼1	集中
	自然災害にどう向き合うか	1・2前		1		○								兼1	
	こころの神経科学	1・2通		1		○			4	1		3		兼2	オムニバス
	音響メディア情報	1後		1		○			1	1		1		兼1	オムニバス
	大学を開くデザインプロデュース A	1・2前		1			○			4					共同
	大学を開くデザインプロデュース B	1・2前		1			○			4					共同
	大学を開くデザインプロデュース C	1・2後		1			○			4					共同
小計 (10科目)	—		4	7	0		—		10	9	1	5	0	兼9	—
専門科目	感性脳科学特講	1・2前		2		○					1				隔年
	視覚情報デザイン論特講	1・2後		2		○			1						隔年
	色彩デザイン論特講	1・2前		2		○			1						隔年
	感性情報学特講	1・2後		2		○			1						隔年
	デザイン思考	1・2前		2		○				1					隔年
	デザインイノベーション特講	1・2後		2		○				1					隔年
	建築計画論特講	1・2前		2		○			1						隔年
	建築意匠論特講	1・2後		2		○				1					隔年
	建築構法論特講	1・2前		2		○						1			隔年
	建築・都市フィールドデザイン論特講	1・2後		2		○				1					隔年
	プレイスメイキング論	1・2前		2		○				1					隔年
	人間工学と生体計測特講	1・2後		1		○								兼1	隔年
	エンタテインメントデザイン特講	1・2前		1		○								兼1	隔年
	デザインとケア特講	1・2後		1		○				1					隔年
	形態学とデザイン	1・2前		1		○				1					隔年
	プロジェクト演習A-I	1前		3			○			3	2	1			
	プロジェクト演習A-II	1前		3			○			1	2		1		
	プロジェクト演習B-I	1後		3			○			3	2	1			
	プロジェクト演習B-II	1後		3			○			1	2		1		
	プロジェクト演習C-I	2前		3			○			3	2	1		1	
	プロジェクト演習C-II	2前		3			○			1	2		1		
	プロジェクト演習D-I	2後		3			○			3	2	1			
	プロジェクト演習D-II	2後		3			○			1	2		1		
	インターンシップ	1・2通		1			○			4	4	1	1		
	アドバンスインターンシップ (長期)	1・2通		4			○			3	2	1			
	建築デザインインターンシップ1	1・2前		4			○			1	2		1		
	建築デザインインターンシップ2	1・2後		4			○			1	2		1		
	建築デザインインターンシップ3	1・2前		4			○			1	2		1		
	建築デザインインターンシップ4	1・2後		4			○			1	2		1		
	海外研修	1・2通		1			○			4	4	1	1		
	デザイン学特別演習1	1後	3				○			4	6	1	1		兼7
	デザイン学特別演習2	2前	3				○			4	6	1	1		兼7
小計 (32科目)	—		6	72	0		—		4	7	1	1	0	兼7	—
学位プログラム小計 (42科目)	—		10	79	0		—		10	10	1	5	0	兼12	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■世界遺産学学位プログラム (M)</b>															
基礎科目	世界遺産論	1・2前	2			○			6	2		2		兼1	
	世界遺産特別演習	1通	3				○		5	2		2			
	世界遺産特別研究	2通	6				○		5	2		2			
	小計 (3科目)		11	0	0		—		6	2	0	2	0	兼1	—
専門科目	文化遺産論	1・2前		1		○						1			
	文化遺産演習	1・2休		2			○		1						
	自然遺産論	1・2前		1		○			1						
	自然遺産演習	1・2休		2			○		1						
	宗教論	1・2後		1		○								兼1	
	無形遺産論	1・2後		1		○						1			
	遺産保護行政論	1・2後		1		○						1			
	世界遺産特別講義	1・2後		1		○			1						
	世界遺産学インターンシップ	1・2通		3				○	5	2		2			
国際遺産学分野	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	1・2後		1		○			1						
	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産)	1・2前		1		○			1						
	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1・2前		1		○			1						
	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1・2後		1		○						1			
	World heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1・2後		1		○			1						
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1・2後		1		○			1						
	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1・2前		1		○			1						
	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	1・2休		2			○		1						
遺産の評価と保存分野	建築遺産論	1・2後		1		○						1			
	建築遺産演習	1・2後		3			○					1			
	美術遺産論I	1・2前		1		○			1						
	美術遺産論II	1・2後		1		○			1						
	美術遺産演習	1・2後		2			○		1						
	保存科学概論	1・2前		1		○			1						
	保存科学演習	1・2休		2			○		1						
遺産のマネジメント分野	遺産整備計画論	1・2前		1		○			1						
	遺産整備計画演習	1・2前		2			○		1						
	文化的景観論	1・2前		1		○			1						
	遺産観光論	1・2後		1		○				1					
	プランニング演習	1・2後		3			○					1			
	インタープリテーション概論	1・2後		1		○						1			
小計 (30科目)	—	0	42	0		—		5	2	0	2	0	兼1	—	
学位プログラム小計 (33科目)			—	11	42	0	—		6	2	0	2	0	兼2	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■情報学学位プログラム (M)</b>														
専門科目	データサイエンス実践	1・2前		2		○			2					○ムニハス
	機械学習とパターン認識	1・2前		2		○			1	1		1		○ムニハス
	メディアデザイン	1・2後		2		○				2				○ムニハス
	ビジュアルライゼーション	1・2後		2		○					1	1		○ムニハス
	生体生命情報	1・2前		2		○				1		1		○ムニハス
	感性認知情報	1・2前		2		○			1	2				○ムニハス
	構造化データ	1・2後		2		○				2				○ムニハス
	情報アクセス	1・2後		2		○			2	1				○ムニハス
	情報アクセス	1・2後		2		○			2	1				東京開講, ○ムニハス
	知識情報分析	1・2前		2		○			1	1				○ムニハス
	知識情報分析	1・2前		2		○			1	1				東京開講, ○ムニハス
	情報ブラクティス	1・2前		2		○				1	1	1		○ムニハス
	情報推薦	1・2後		2		○				1		1		○ムニハス
	ヒューマンコンピュータインタラクション	1・2後		2		○			1	1				○ムニハス
	ヒューマンコンピュータインタラクション	1・2後		2		○			1	1				東京開講, ○ムニハス
	コミュニケーション行動	1・2前		2		○			1			1		○ムニハス
	コミュニティ分析	1・2後		2		○			1			1		○ムニハス
	デジタルヒューマニティーズ	1・2後		2		○				2				○ムニハス
	デジタルヒューマニティーズ	1・2後		2		○				2				東京開講, ○ムニハス
	知的財産と情報の安全	1・2前		2		○				2				○ムニハス
	知的財産と情報の安全	1・2前		2		○				2				東京開講, ○ムニハス
	図書館メディア文化史	1・2前		2		○			3					○ムニハス
	図書館メディア文化史	1・2前		2		○			3					東京開講, ○ムニハス
	パブリックサービス	1・2前		2		○			1		1			○ムニハス
	パブリックサービス	1・2前		2		○			1		1			東京開講, ○ムニハス
	ライブラリーマネジメント	1・2前		2		○				1	1	1		○ムニハス
	ライブラリーマネジメント	1・2前		2		○				1	1	1		東京開講, ○ムニハス
学術情報基盤	1・2後		2		○			1		1			○ムニハス	
学術情報基盤	1・2後		2		○			1		1			東京開講, ○ムニハス	
アーカイブズ	1・2後		2		○			1			1		兼1 ○ムニハス	
アーカイブズ	1・2後		2		○			1			1		兼1 東京開講, ○ムニハス	
博物館情報メディア	1・2後		2		○			1					兼2 ○ムニハス	
博物館情報メディア	1・2後		2		○			1					兼2 東京開講, ○ムニハス	
情報組織化	1・2前		2		○				2	1			○ムニハス	
情報組織化	1・2前		2		○				2	1			東京開講, ○ムニハス	
メディア教育	1・2後		2		○			1	2				○ムニハス	
メディア教育	1・2後		2		○			1	2				東京開講, ○ムニハス	
(専門科目論的基盤科目群)	研究法基礎	1前		2			○		3	2				○ムニハス
	研究法基礎	1前		2			○		3	2				東京開講, ○ムニハス
	Research Foundation	1後		2			○		1	3		1		○ムニハス
	文献調査法	1前		2			○			4	1			○ムニハス
	文献調査法	1前		2			○			4	1			東京開講, ○ムニハス
	Literature Survey	1後		2			○		2	1		2		○ムニハス
	調査とデータ分析	1後		2			○		2	1	1	1		○ムニハス
	調査とデータ分析	1後		2			○		2	1	1	1		東京開講, ○ムニハス
Survey and Data Analysis	1前		2			○			1			4	○ムニハス	
科(専門科目群)実践科目指導	研究計画	1後		2			○		2			1		共同
	業務計画	1前		2			○		2	1				東京開講, 共同
科(専門科目群)研究科目指導	情報学特別演習a	2前	2				○		18	21				つくば・東京開講
	情報学特別演習b	2後	2				○		18	21				つくば・東京開講
	グローバル研究演習I	1前・後	1				○		18	21				つくば・東京開講
	グローバル研究演習II	2前・後	1				○		18	21				つくば・東京開講
小計 (52科目)		—	4	98	0		—		18	21	5	10	0	兼3 —
学位プログラム小計 (52科目)		—	4	98	0		—		18	21	5	10	0	兼3 —

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム（M）</b>														
基礎科目	医学概論	1前	1			○			6	2	2			○ムニバ <sup>ス</sup> , 共同(一部)
	創薬概論	1前	1			○								兼3 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	食品科学概論	1前	1			○								兼4 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	バイオリソース概論	1後	1			○								兼5 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	自然史概論	1後	1					○						兼3 ※講義
	バイオインフォマティクス基礎	1前	1				○							兼3 ※講義
	医薬品・食品マネジメント学	2前	1			○								兼4 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	レギュラトリーサイエンス	2前	1			○								兼2 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	ライフイノベーション実習	1通	1					○		1				兼11 ※講義
	ライフイノベーションチーム型演習	1通	2				○							兼2
	責任ある研究行為：基盤編	1通	1			○								兼1
	博士前期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○								兼9
	博士前期インターンシップI	1・2通		1				○						兼1
	博士前期インターンシップII	1・2通		1				○						兼1
小計（14科目）	—		13	2	0	—	—	—	6	3	2	0	0	兼39
専門科目	疾患の分子細胞生物学I	1前	1			○								兼5 ○ムニバ <sup>ス</sup> , 共同(一部)
	疾患の分子細胞生物学II	1前	1			○								兼5 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	細胞制御論	1前	1			○				1				兼4 ○ムニバ <sup>ス</sup>
	ライフイノベーション博士前期演習I秋	1後	1				○		1					兼6
	ライフイノベーション博士前期演習I春	1前	1				○		1					兼6
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	1後	2					○	1					兼6
	ライフイノベーション博士前期研究I春	1前	2					○	1					兼6
	ライフイノベーション博士前期演習II秋	2後	1				○		1					兼6
	ライフイノベーション博士前期演習II春	2前	1				○		1					兼6
	ライフイノベーション博士前期研究II秋	2後	2					○	1					兼6
	ライフイノベーション博士前期研究II春	2前	2					○	1					兼6
小計（11科目）	—		15	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼16
学位プログラム小計（25科目）	—		28	2	0	—	—	—	7	3	2	0	0	兼43

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会（筑波研究学園都市の企業・研究機関）の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでになかった幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目（13単位）を履修した上で、各専門領域の専門科目と研究指導科目を履修する。  
 ＊本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジー(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford、University of Iceland、Universidad Rey Juan Carlos、Molecular Biology Institute of Barcelona、Institut Curie、University of Montpellier、Wageningen University、University of Bordeaux、Center of Biotechnology of Borj Cedria、Tunisia、University of California、San Diego

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■ライフイノベーション（創薬開発）学位プログラム（M）</b>															
基礎科目	医学概論	1前	1			○			6	2	2				○ムニバス, 共同(一部)
	創薬概論	1前	1			○									兼3 ○ムニバス
	食品科学概論	1前	1			○									兼4 ○ムニバス
	バイオリソース概論	1後	1			○									兼5 ○ムニバス
	自然史概論	1後	1					○							兼3 ※講義
	バイオインフォマティクス基礎	1前	1				○								兼3 ※講義
	医薬品・食品マネジメント学	2前	1			○									兼4 ○ムニバス
	レギュラトリーサイエンス	2前	1			○									兼2 ○ムニバス
	ライフイノベーション実習	1通	1					○		1					兼11 ※講義
	ライフイノベーションチーム型演習	1通	2				○								兼2
	責任ある研究行為：基盤編	1通	1			○									兼1
	博士前期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○									兼9
	博士前期インターンシップI	1・2通		1				○							兼1
	博士前期インターンシップII	1・2通		1				○							兼1
小計（14科目）	—		13	2	0	—	—	—	6	3	2	0	0	兼39	—
専門科目	創薬化学概論	1後	1			○				1			3		兼4
	創薬トランスレーショナルサイエンス	1前	1			○									兼5 ○ムニバス
	薬剤設計工学	1前	1			○									兼4 ○ムニバス, 共同(一部)
	ライフイノベーション博士前期演習I秋	1後	1				○								兼10
	ライフイノベーション博士前期演習I春	1前	1				○								兼10
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	1後	2					○							兼10
	ライフイノベーション博士前期研究I春	1前	2					○							兼10
	ライフイノベーション博士前期演習II秋	2後	1				○								兼10
	ライフイノベーション博士前期演習II春	2前	1				○								兼10
	ライフイノベーション博士前期研究II秋	2後	2					○							兼10
	ライフイノベーション博士前期研究II春	2前	2					○							兼10
小計（11科目）	—		15	0	0	—	—	—	0	1	0	3	0	兼18	—
学位プログラム小計（25科目）	—		28	2	0	—	—	—	6	4	2	3	0	兼51	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会（筑波研究学園都市の企業・研究機関）の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目（13単位）を履修した上で、各専門領域の専門科目と研究指導科目を履修する。  
 ＊本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジー(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford、University of Iceland、Universidad Rey Juan Carlos、Molecular Biology Institute of Barcelona、Institut Curie、University of Montpellier、Wageningen University、University of Bordeaux、Center of Biotechnology of Borj Cedria、Tunisia、University of California、San Diego

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数*			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計 (1454科目)		—	198	2187	0	—			199	174	48	112	0	兼184	—
学位又は称号	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(障害科学) 修士(カウンセリング) 修士(リハビリテーション科学) 修士(医科学) 修士(公衆衛生学) 修士(神経科学) 修士(看護科学) 修士(体育学) 修士(スポーツ・オリンピック学) 修士(スポーツウエルネス学) 修士(芸術学) 修士(デザイン学) 修士(世界遺産学) 修士(情報学) 修士(病態機構学)	学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、工学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学及びリハビリテーション関係を除く)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(修了要件) 2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			7 5 分						
(履修方法)						*「必修」「選択」「自由」の合計は、学位プログラムとしての必修、選択、自由として記載したものの合計である。									
<b>■教育学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 (1) 基礎科目 必修3単位 (2) 専門基礎科目 選択必修18単位 (3) 専門科目 選択必修 9単位						※修士論文に代えて特定課題研究を選択可とする学位プログラムは次のとおりである。 ・スポーツ・オリンピック学学位プログラム ・スポーツウエルネス学学位プログラム ・看護科学学位プログラム ・芸術学学位プログラム ・デザイン学学位プログラム									
<b>■心理学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 (1) 基礎科目 次の科目を含む8単位以上 ・必修4単位(心理学方法論 I, II) ・選択必修4単位(特別研究A, B, S) (2) 専門科目 <心理基礎科学サブプログラム> ・サブプログラム共通科目 8単位(心理基礎科学演習I,II,III,IV) ・両サブプログラムの領域専門科目から14単位以上 <心理臨床学サブプログラム> ・サブプログラム共通科目 18単位選択(臨床心理実習I及びIIまたは発達臨床心理実習I及びIIを含む) ・両サブプログラムの領域専門科目から4単位以上															
<b>■障害科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 (1) 基礎科目 必須5単位 (2) 専門科目 選択必修7単位(専門領域の特講I,II及び演習I, II, III) (3) 上記以外(大学院共通科目、基礎科目の選択科目、専門科目(共通)、専門科目における専門領域の科目以外の特講I,II、演習I,II)から18単位以上															
<b>■カウンセリング学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 (1) 基礎科目 必修5単位 (2) 専門科目 必修5単位、選択20単位															

<p><b>■リハビリテーション科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修 9単位、選択0～9単位 (学術院共通専門基盤科目の指定科目から1単位を含む) (2) 専門科目 選択12～21単位</p>
<p><b>■フロンティア医科学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修9単位 (2) 基礎科目(必修科目以外)、専門基礎科目、専門科目、大学院共通科目、他学位プログラムの科目 21単位以上</p> <p>※大学院共通科目と他学位プログラムの科目は6単位まで含めることができる。</p>
<p><b>■公衆衛生学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修14単位 (2) 専門科目 必修9単位 (3) 基礎科目、専門科目 選択必修6単位 (4) 基礎科目、専門科目、大学院共通科目 1単位以上</p>
<p><b>■ニューロサイエンス学位プログラム(M)</b> 次の科目を含む30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修3単位(学術院共通専門基盤科目から1単位を含む) (2) 専門基礎科目 必修10単位 (3) 専門科目 必修11単位、選択必修1単位(神経科学実験・実習A～Dから1科目選択) (4) 上記以外の本学位プログラムの開設科目、学術院共通専門基盤科目、他の学位プログラムの開設科目から5単位以上</p>
<p><b>■看護科学学位プログラム(M)</b> 次の科目を含む30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 大学院共通科目 研究倫理(1単位) (2) 専門基礎科目 必修科目2単位を含む8単位以上(大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、人間総合科学研究群の他の学位プログラムの開設科目を含めてよい) (3) 専門科目 各自の専門研究領域が指定する「特論」(2単位)と「演習」(2単位)を含む8単位以上 (4) 専門科目(共通) 「看護科学特別研究」(4単位)のほか「インターンシップ」(2単位)と「看護科学特別実習」(2単位)のいずれかを含む6単位</p> <p>・専門看護師養成課程は、専門看護師の受験要件となる38単位を含む43単位以上、助産師養成課程は、助産師国家資格の受験要件となる28単位を含む59単位以上を修得することとし、いずれも特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験の合格をもって修士論文の審査および最終試験の合格に代えることができる。</p>
<p><b>■体育学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 専門科目 6～8単位(所属する個別研究領域の演習I,IIを含む) (2) 専門基礎科目 ・系列科目 12～17単位 ・研究基礎科目 1～6単位(所属分野の研究手法論1単位を含む) (3) 基礎科目 0～6単位(所属領域外の科目、所属系列外の科目、大学院共通科目等)</p>
<p><b>■スポーツ・オリンピック学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 専門基礎科目 必修11単位 (2) 専門科目(共通) 8～12単位 (3) 専門科目(専門分野) 4～10単位 (4) 選択した専門分野以外の専門科目、他学位プログラムの科目等 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から1単位の履修を推奨する。 ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p>

<p><b>■スポーツウェルネス学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 分野共通の専門科目 必修4単位                      (2) 選択した分野における所属領域専門科目の特講、演習、実習及び隣接領域の特講を中心に11単位以上                      (3) 研究主題に関連する専門科目を、他分野の専門科目から4単位以上                      ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p>
<p><b>■芸術学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 学術院共通専門基盤科目を含む6単位以上(大学院共通科目を2単位まで含めることができる)                      (2) 専門科目 必修10単位を含む24 単位以上(主とする教育研究領域の科目を中心に最も関係の深い科目を選択)</p> <p>・修了研究は、各専門分野の特性に応じて、純粋理論の研究から特定の課題に対する研究成果までを評価する次のいずれかの方法による。                      a.論文 b. 作品及び論文 c. 作品及び研究報告書</p>
<p><b>■デザイン学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修4単位を含めて4単位以上                      (2) 専門科目 必修6単位を含めて15単位以上                      上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。                      ・特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。</p>
<p><b>■世界遺産学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修11単位                      (2) 専門科目 19単位以上(大学院共通科目等を10単位まで含めることができる)</p>
<p><b>■情報学学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 講義科目 専門科目群から12単位以上(大学院共通科目、学術院共通専門基盤、他学位プログラム科目から8単位まで)                      (2) 演習科目 方法論的基盤科目群・実践指導科目群から6単位、研究指導科目群から4単位以上</p>
<p><b>■ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修13単位、選択1単位                      (2) 専門科目 必修15単位                      (3) 大学院共通科目 1～3単位                      (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目 0～4単位</p>
<p><b>■ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム(M)</b> 次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修13単位、選択1単位                      (2) 専門科目 必修15単位                      (3) 大学院共通科目 1～3単位                      (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目 0～4単位</p>

※教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程／一貫制博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■大学院共通科目</b>															
群 研 究 倫 理 環 境 科 目 ・	応用倫理	1・2・3後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	環境倫理学概論	1・2・3後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	研究倫理	1・2・3前		1		○									兼2 ※演習,集中,オムニバス
	生命倫理学	1・2・3前		1		○			2	3	1	1			兼3 オムニバス
	企業と技術者の倫理	1・2・3前		1		○									兼2 ※演習,集中,オムニバス
力 情 報 成 伝 達 目 群 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	テクニカルコミュニケーション	1・2・3前		1		○									兼1 ※演習,集中
	英語発表	1・2・3前		1		○									兼1 ※演習,集中
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2・3通		2			○		1						兼1 集中
	Global Communication Skills Training	1・2・3前		1			○								兼1 ※講義,集中
	サイエンスコミュニケーション概論	1・2・3前		1		○									兼1 集中
	サイエンスコミュニケーション特論	1・2・3後		1		○									兼1
	サイエンスコミュニケータ養成実践講座	1・2・3休		2				○							兼1 集中
人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2・3後		1		○									兼3 集中,オムニバス	
国 際 性 養 成 科 目 群	21世紀的中国 ー現代中国的多相ー	1・2・3後		1		○									兼1
	国際研究プロジェクト	1・2・3通		1											兼1
	国際インターンシップ	1・2・3通		1											兼1
	地球規模課題と国際社会:食料問題	1・2・3後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	1・2・3後		1		○									兼2 集中,オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会脳	1・2・3休		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:感染症・保健医療問題	1・2・3後		1		○			2			1			集中,オムニバス
	地球規模課題と国際社会:社会問題	1・2・3後		1		○									兼1 集中
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響	1・2・3後		1		○			1						集中
地球規模課題と国際社会:環境・エネルギー	1・2・3休		1		○									兼1 集中	
キ ャ リ ア マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	JAPICアドバンステイカッションコースIー流動化する世界とこれからの日本	1・2・3後		1			○								兼1 集中
	JAPICアドバンステイカッションコースIIIーテクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2・3前		1			○								兼1 集中
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2・3休		1			○					1			※講義,集中
	ワークライフミックスーモーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2・3前		1		○									兼1 集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2・3休		1				○							兼9 集中,オムニバス共同(一部)
	アクセシビリティリーダー特論	1・2・3前		1		○			3	2	1				兼2 オムニバス,共同(一部)
脳の多様性とセルフマネジメント	1・2・3休		1		○			1						※演習,集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
知的基盤形成科目群	生物多様性と地球環境	1・2・3前		1		○									兼4 ※実習, 集中, オムニバス
	内部共生と生物進化	1・2・3前		1		○									兼1 集中
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2・3休		1				○							兼2 ※講義, 集中
	科学的発見と創造性	1・2・3前		1		○									兼1 集中
	自然災害にどう向き合うか	1・2・3前		1		○									兼1
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2・3休		1		○									兼5 集中, オムニバス
	21世紀と宗教	1・2・3前		1		○									兼2 集中, オムニバス
身心基盤形成科目群	塑造実習	1・2・3後		1				○		1			1		隔年
	コミュニケーションアート&デザインA	1・2・3前		1		○				1			1		兼6 隔年, オムニバス
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2・3後		1		○				2	1		2		兼2 隔年, オムニバス
	日本画実習	1・2・3前		1				○							兼2 隔年
	ヨーガコース	1・2・3前		1				○		1					※講義, 集中
	絵画実習A	1・2・3前		1				○							兼1 隔年
	現代アート入門	1・2・3前		1		○									兼1 隔年
	大学院体育Ia	1・2・3通		1				○		2					兼2
	大学院体育Ib	1・2・3前		1				○		1	1				兼1
	大学院体育Ic	1・2・3後		1				○			1				兼2
	大学院体育IIa	1・2・3通		1				○		2					兼2
	大学院体育IIb	1・2・3前		1				○		1	1				兼1
	大学院体育IIc	1・2・3後		1				○			1				兼2
	大学院体育IIIa	1・2・3通		1				○		2					兼2
	大学院体育IIIb	1・2・3前		1				○		1	1				兼1
	大学院体育IIIc	1・2・3後		1				○			1				兼2
	大学院体育IVa	1・2・3通		1				○		2					兼2
	大学院体育IVb	1・2・3前		1				○		1	1				兼1
	大学院体育IVc	1・2・3後		1				○			1				兼2
	大学院体育Va	1・2・3通		1				○		2					兼2
	大学院体育Vb	1・2・3前		1				○		1	1				兼1
	大学院体育Vc	1・2・3後		1				○			1				兼2
	小計 (59科目)		—	0	61	0			—		15	8	2	7	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■教育学学位プログラム (D)</b>														
科基礎	教育学特論Ⅰ	1後	1				○		10	8		9		
	教育学特論Ⅱ	2前	1				○		10	8		9		
	小計 (2科目)	—	2	0	0		—		10	8	0	9	0	0
科専門基礎	教育学演習Ⅰ	2後		1			○		10	8		9		
	教育学演習Ⅱ	2通		1			○		10	8		9		
	フィールドワーク研究	2前		1			○		10	8		9		
	小計 (3科目)	—	0	3	0		—		10	8	0	9	0	0
専門科目	教育哲学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○					1		
	教育哲学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○					1		
	教育哲学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○					1		
	高等教育論研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○			1				
	高等教育論研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○			1				
	高等教育論研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○			1				
	日本教育史研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○			1				
	日本教育史研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○			1				
	日本教育史研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○			1				
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○			1				
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○			1				
	生涯学習・社会教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○			1				
	教育制度学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1					
	教育制度学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1					
	教育制度学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1					
	学校経営学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1	1				
	学校経営学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1	1				
	学校経営学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1	1				
	比較・国際教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○					3		
	比較・国際教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○					3		
	比較・国際教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○					3		
	教育社会学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○					1		
	教育社会学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○					1		
	教育社会学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○					1		
	カリキュラム研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1					
	カリキュラム研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1					
	カリキュラム研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1					
	教育方法学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1					
	教育方法学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1					
	教育方法学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1					
	道德教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○			1				
	道德教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○			1				
	道德教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○			1				
	キャリア教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1			1		
	キャリア教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1			1		
	キャリア教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1			1		
	社会科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		2	1				
	社会科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		2	1				
	社会科教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		2	1				
	人文科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		1	1		1		
	人文科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		1	1		1		
	人文科教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		1	1		1		
	数学教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○		2	1				
	数学教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○		2	1				
	数学教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○		2	1				
	理科教育学研究法Ⅰ	1・2・3通		3			○					2		
	理科教育学研究法Ⅱ	1・2・3通		3			○					2		
	理科教育学研究法Ⅲ	1・2・3通		3			○					2		
小計 (48科目)	—	—	0	144	0		—		10	8	0	9	0	0
学位プログラム小計 (53科目)	—	—	2	147	0		—		10	8	0	9	0	0

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
<b>■心理学学位プログラム (D)</b>																
専門科目	共通	心理学実験実習	1・2・3通	2					○	1			2			
		心理学研究マネジメント実習1	1・2・3前	1					○	6	3		2			兼1
		心理学研究マネジメント実習2	1・2・3後	1					○	6	3		2			兼1
		心理学先端研究1	1・2・3通		1		○									兼1 集中
		心理学先端研究2	1・2・3通		1		○									兼1 集中
		心理学先端研究3	1・2・3通		1		○									兼1 集中
		心理学特別研究D1	1・2・3通	1				○		6	3		2			兼1
		心理学特別研究D2	1・2・3通	1				○		6	3		2			兼1
		心理学特別研究D3	1・2・3通		1			○		6	3		2			兼1
		小計 (9科目)	—	6	4	0		—		6	3		2			兼4
プログラム 心理基礎科学サブ		心理基礎科学英語1	1・2・3前		1			○		3	2		2			兼1
		心理基礎科学英語2	1・2・3後		1			○		3	2		2			兼1
		心理学インターンシップ	1・2・3通		1				○	3	2		2			兼1
		小計 (3科目)	—	0	3	0		—		3	2		2			兼1
プログラム 臨床心理学サブ		臨床心理学特講D	1通		1		○			3			4			
		臨床心理学実習DI	1・2・3通		2			○		3			4			
		臨床心理学実習DII	1・2・3通		2			○		3			4			
		小計 (3科目)	—	0	5	0		—		3	0	0	4	0	0	
学位プログラム小計 (15科目)		—	6	12	0		—		6	3	0	6	0	0	兼5	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■障害科学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	障害科学研究実践法	1・2・3通	1					○	10	10	1	3			
	海外研究活動Ⅰ	1・2・3通		1				○	1						
	海外研究活動Ⅱ	1・2・3通		1				○	1						
	小計(3科目)	—	1	2	0	—			10	10	1	3	0	0	—
専門科目	視覚障害講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	1	4		1			
	視覚障害講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	1	4		1			
	視覚障害講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	1	4		1			
	聴覚障害講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	2	1					
	聴覚障害講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	2	1					
	聴覚障害講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	2	1					
	知的・発達・行動障害講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	3	3					
	知的・発達・行動障害講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	3	3					
	知的・発達・行動障害講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	3	3					
	運動障害・病弱講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	2						
	運動障害・病弱講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	2						
	運動障害・病弱講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	2						
	音声・言語障害講究Ⅰ	1・2・3通		1				○		1					
	音声・言語障害講究Ⅱ	1・2・3通		1				○		1					
	音声・言語障害講究Ⅲ	1・2・3通		1				○		1					
	障害福祉学講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	1	1	1	2			
	障害福祉学講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	1	1	1	2			
	障害福祉学講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	1	1	1	2			
	障害原理論講究Ⅰ	1・2・3通		1				○	1						
	障害原理論講究Ⅱ	1・2・3通		1				○	1						
	障害原理論講究Ⅲ	1・2・3通		1				○	1						
小計(21科目)	—	0	21	0	—			10	10	1	3	0	0	—	
学位プログラム小計(24科目)		—	1	23	0	—			10	10	1	3	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■カウンセリング科学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	カウンセリング科学基礎論	1・2通	1				○		5	3					
	カウンセリング科学演習I	1・2通	1				○		5	3					
	カウンセリング科学演習II	1・2通	1				○		5	3					
	カウンセリング科学特論I	2・3通	1				○		5	3					
	カウンセリング科学特論II	2・3通	1				○		5	3					
	カウンセリング科学特論III	2・3通	1				○		5	3					
	小計 (6科目)	—	6	0	0		—		5	3	0	0	0	0	—
専門科目	産業社会心理学特論	1・2・3通		1			○		1						
	組織メンタルヘルス特論	1・2・3通		1			○			1					
	対人社会心理学特論	1・2・3通		1			○			1					
	キャリア形成特論I	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中	
	キャリア形成特論II	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中	
	カウンセリング科学特別演習I	1・2通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習II	1・2通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習III	2・3通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特論	1・2・3通		1			○		1						
	学校生活支援カウンセリング特論	1・2・3通		1			○			1					
	生涯発達心理学特論	1・2・3通		1			○		1						
	生涯発達支援特論I	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中	
	生涯発達支援特論II	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中	
	コミュニティ発達援助特論	1・2・3通		1			○			1					
	家族発達援助特論	1・2・3通		1			○		1						
	精神健康科学特論	1・2・3通		1			○		1						
	生涯発達システム特論I	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中	
生涯発達システム特論II	1・2・3通		1		○								兼1 隔年, 集中		
	小計 (18科目)	—	0	18	0		—		5	3	0	0	0	兼6	—
	学位プログラム小計 (24科目)	—	6	18	0		—		5	3	0	0	0	兼6	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■リハビリテーション科学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	リハビリテーション科学基礎論	1・2通	1				○		8	3	1	1			
	リハビリテーション科学演習I	1・2通	1				○		6	3					
	リハビリテーション科学演習II	1・2通	1				○		6	3					
	リハビリテーション科学特論I	2・3通	1				○		8	3	1	1			
	リハビリテーション科学特論II	2・3通	1				○		8	3	1	1			
	リハビリテーション科学特論III	2・3通	1				○		8	3	1	1			
	小計 (6科目)	—	6	0	0		—		8	3	1	1	0	0	—
専門科目	職業リハビリテーション特論	1・2・3通		1			○			1					隔年, 集中
	障害科学特論	1・2・3通		1		○				1					
	発達支援科学特論	1・2・3通		1			○		1						隔年, 集中
	発達支援評価特論	1・2・3通		1			○			1					
	コミュニケーション発達支援特論	1・2・3通		1			○		1						隔年, 集中
	リハビリテーション科学特別演習I	1・2通		1			○		6	3					
	リハビリテーション科学特別演習II	1・2通		1			○		6	3					隔年, 集中
	リハビリテーション科学特別演習III	1・2通		1			○		6	3					
	リハビリテーション科学特論	1・2・3通		1			○		1						隔年, 集中
	教育支援システム特論	1・2・3通		1			○		1						
	ケアマネジメント特論	1・2・3通		1			○		1						隔年, 集中
	中高年・障害者発達支援特論	1・2・3通		1			○		1						
	小計 (12科目)	—	0	12	0		—		6	3	0	0	0	0	—
	学位プログラム小計 (18科目)	—	6	12	0		—		8	3	1	1	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■ヒューマン・ケア科学学位プログラム (D)</b>														
専門基礎科目	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ	1・2前	1			○			2	1		1		オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論Ⅱ	1・2前	1			○			2	1		1		オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論Ⅲ	1・2後	1			○			1	3		1		オムニバス
	パブリックヘルス特論Ⅰ	1・2前	1			○			2			2		兼1 オムニバス
	パブリックヘルス特論Ⅱ	1・2後	1			○			1	2		1		兼1 オムニバス
	パブリックヘルス特論Ⅲ	1・2後	1			○			2	1		1		兼1 オムニバス
	小計 (6科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	10	8	0	7	0
専門科目	ヒューマン・ケア科学演習	1・2通	3				○		5	5		3		
	ヒューマン・ケア科学特別研究	2・3通	3				○		4	5				
	小計 (2科目)	—	—	6	0	0	—	—	5	5	0	3	0	0
学位プログラム小計 (8科目)			—	—	12	0	0	—	—	—	—	—	—	兼3 —

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■パブリックヘルス学位プログラム (D)</b>															
専門基礎科目	パブリックヘルス特論Ⅰ	1・2前	1			○			2			2		兼1	オムニバス
	パブリックヘルス特論Ⅱ	1・2後	1			○			1	2		1		兼1	オムニバス
	パブリックヘルス特論Ⅲ	1・2後	1			○			2	1		1		兼1	オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ	1・2前	1			○			2	1		1			オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論Ⅱ	1・2前	1			○			2	1		1			オムニバス
	ヒューマン・ケア科学特論Ⅲ	1・2後	1			○			1	3		1			オムニバス
	小計 (6科目)	—	6	0	0	—			10	8	0	7	0	兼3	—
専門科目	パブリックヘルス演習	1・2通	3				○		5	3		4		兼3	
	パブリックヘルス特別研究	2・3通	3				○		5	2				兼3	
	小計 (2科目)	—	6	0	0	—			5	3	0	4	0	兼3	—
学位プログラム小計 (8科目)		—	12	0	0	—			10	8	0	7	0	兼3	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
<b>■ニューロサイエンス学位プログラム (D)</b>																
基礎科目	Neuroscience Professional Career Development/キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー	1前	1					○		5	12	2	7		兼7	
	Introduction to Academic Integrity/研究倫理	1前			1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス	
	Applied Ethics/応用倫理	1後			1		○								兼2 集中, オムニバス	
	小計 (3科目)	—	1	0	2			—		5	12	2	7	0	兼11	—
専門基礎科目	Advanced Scientific Research Proposal in English 1/高度専門科学英語1	1・2通	2					○		1	2					
	Advanced Scientific Research Proposal in English 2/高度専門科学英語2	2・3通			2			○		1	2					
	小計 (2科目)	—	2	0	2			—		1	2	0	0	0	0	—
専門科目	Advanced Neuroscience Seminer 1/神経科学専門セミナー1	1・2通	1					○		1	3					
	Advanced Neuroscience Seminer 2/神経科学専門セミナー2	2・3通	1					○		1	3					
	Advanced Neuroscience Seminer 3/神経科学専門セミナー3	3通			1			○		1	3					
	Advanced Neuroscience Internship/神経科学専門研究インターンシップ	1・2・3通			3			○		1	3				兼1 集中	
	Neuroscience Dissertation Research 1/博士論文研究指導1	1前	2					○		5	9		2		兼5	
	Neuroscience Dissertation Research 2/博士論文研究指導2	1後	2					○		5	9		2		兼5 QE1の合格が単位認定必須条件	
	Neuroscience Dissertation Research 3/博士論文研究指導3	2前	2					○		5	9		2		兼5 QE2の合格が単位認定必須条件	
	Neuroscience Dissertation Research 4/博士論文研究指導4	2後	2					○		5	9		2		兼5 QE3の合格が単位認定必須条件	
	Neuroscience Dissertation Research 5/博士論文研究指導5	3前	2					○		5	9		2		兼5	
	Neuroscience Dissertation Research 6/博士論文研究指導6	3後	2					○		5	9		2		兼5	
小計 (10科目)	—	14	0	4			—		5	9	0	2	0	兼5	—	
学位プログラム小計 (15科目)		—	17	0	8			—		5	12	2	7	0	兼11	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■看護科学学位プログラム (D)</b>															
専門基礎科目	応用看護科学	1前	3			○			2			2		オムニバス	
	応用統計学	1前	2			○			1	2				オムニバス	
	看護研究方法論	1前	2			○			1	5		2		オムニバス	
	看護学教育	1後		2		○			1						
	小計 (4科目)	—	7	2	0			—	4	5	0	3	0	0	—
専門科目	看護科学特論	1・2前	2			○			7	5		6		オムニバス	
	研究倫理学演習	1後	1				○		1	1		1		共同	
	看護科学演習I	1後	2				○		2			3		オムニバス	
	看護科学演習II	2後	1				○		3	5		6		共同	
	看護科学研究	3通	9				○		7						
小計 (5科目)	—	15	0	0			—	7	5	0	6	0	0	—	
学位プログラム小計 (9科目)		—	22	2	0			—	7	5	0	6	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■スポーツ医学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	スポーツ医学概論 I	1前	1			○			4	5				兼1	オムニバス
	スポーツ医学概論 II	1後	1			○			3	2	2	2		兼1	オムニバス
	小計 (2科目)	—	2	0	0			—	7	7	2	2		兼1	—
専門科目	スポーツ医学セミナー I	1・2通		1				○	4	5				兼1	
	スポーツ医学セミナー II	1・2通		1				○	3	2	2	2			
	スポーツ医学セミナー III	1・2・3通		1		○			1	3					
	博士論文研究指導 I	1通	1				○		6	3	1			兼1	
	博士論文研究指導 II	2通		1			○		6	3	1			兼1	
	博士論文研究指導 III	3通		1			○		6	3	1			兼1	
	小計 (6科目)	—	1	5	0			—	7	7	2	2		兼1	—
	学位プログラム小計 (8科目)	—	3	5	0			—	7	7	2	2		兼1	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■体育科学学位プログラム (D)</b>														
専門基礎科目	研究方法論Ⅰ	1前	1			○			4	2		2		ホニバス
	研究方法論Ⅱ	1後		1		○						3		共同
	研究セッション	1通	3				○		15	8		8		兼2
	小計(3科目)	—	4	1	0		—		15	8	0	8	0	兼2
専門応用科目	健康スポーツ科学研究演習Ⅰ	1通	1				○		13	3		1		
	健康スポーツ科学研究演習Ⅱ	2通	1				○		13	3		1		
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		13	3	0	1	0	0
研究実践科目	プロジェクトローテーション	1通		1				○				3		
	課題解決研究Ⅰ	2通		2			○		1	3		1		
	課題解決研究Ⅱ	2通		2			○		1	3		1		
	プロジェクトフォーラムⅠ	1後		1			○					2		集中
	プロジェクトフォーラムⅡ	2後		1			○					2		集中
	小計(5科目)	—	0	7	0		—		1	3	0	6	0	0
国際研究科目	国際ディベート合宿Ⅰ	1後		1			○			2		1		集中
	国際ディベート合宿Ⅱ	2後		1			○			2		1		集中
	国際フォーラムⅠ	1後		1			○					2		集中
	国際フォーラムⅡ	2後		1			○					2		集中
	小計(4科目)	—	0	4	0		—		0	2	0	3	0	0
学位プログラム小計(14科目)		—	6	12	0		—		15	8	0	8	0	兼2

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
<b>■スポーツウエルネス学学位プログラム (D)</b>															
基 礎 科 目	課題解決型データ分析論特講1	1前	1			○								兼1	
	課題解決型データ分析論特講2	1後	1			○								兼1	
	小計 (2科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
専 門 科 目	スポーツウエルネス研究演習 I	1通	1				○		5	2					
	スポーツウエルネス研究演習 II	2通	1				○		5	2					
	スポーツウエルネス研究演習 III	3通	1				○		5	2					
	課題解決型プロジェクトワーク I	1通	1					○	5	3					
	課題解決型プロジェクトワーク II	2・3通	2					○	5	3					
	小計 (5科目)	—	6	0	0		—		5	3	0	0	0	0	—
	学位プログラム小計 (7科目)	—	8	0	0		—		5	3	0	0	0	兼1	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
<b>■ コーチング学学位プログラム (D)</b>														
専 門 科 目	コーチング学研究法Ⅰ	1後	1			○			1	5		2		兼2 オムニバス
	コーチング学研究法Ⅱ	2通	1				○		6	10		3		兼4 集中
	コーチング学事例研究法	1前	1			○			2	2				オムニバス
	コーチングの哲学と倫理	1前	1			○			4	2				兼3 オムニバス
	小計 (4科目)	—	4	0	0		—		8	11	0	3	0	兼6 —
学位プログラム小計 (4科目)		—	4	0	0		—		8	11	0	3	0	兼6 —

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
<b>■芸術学学位プログラム (D)</b>															
専 門 科 目	芸術学特別演習IA	1前	2				○		12	4		6			
	芸術学特別演習IB	1後	2				○		12	4		6			
	芸術学特別演習IIA	2前	2				○		12	4		6			
	芸術学特別演習IIB	2後	2				○		12	4		6			
	小計 (4科目)	—	8	0	0		—		12	4	0	6	0	0	—
学位プログラム小計 (4科目)		—	8	0	0		—		12	4	0	6	0	0	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■デザイン学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	応用倫理*	1・2・3後		1		○								兼2	集中, オムニバス
	サイエンスコミュニケーション特論*	1・2後		1		○								兼1	
	国際インターンシップ*	1・2通		1		○								兼1	
	小計 (3科目)	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—
専門科目	デザイン学特別研究A	1前		2			○		4	5	1	0		兼7	
	デザイン学特別研究B	1後	2				○		4	5	1	0		兼7	
	デザイン学特別研究C	2前		2			○		4	5	1	0		兼7	
	デザイン学特別研究D	2後	2				○		4	5	1	0		兼7	
	インターンシップ	1・2通		2			○		4	3	1	0		兼7	集中
	海外研修	1・2通		2			○		4	3	1	0		兼7	集中
小計 (6科目)	—	4	8	0	—			4	5	1	0	0	兼7	—	
学位プログラム小計 (9科目)		—	4	11	0	—			4	5	1	0	0	兼11	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ \*を付した科目は大学院共通科目

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
<b>■世界遺産学学位プログラム (D)</b>															
科基 目盤	研究倫理* 世界遺産を科学する**	1・2前 1・2後		1 1		○ ○								兼2 兼2	※演習, 集中, オムニバス
科専 目門	世界遺産学特別研究	1～3通	3				○							兼2	
学位プログラム小計 (3科目)		—	3	2	0	—			5	2	0	2	0	兼6	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ \*を付した科目は大学院共通科目、\*\*を付した科目は学術院共通専門基盤科目。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■医学学位プログラム (D)</b>															
基礎科目	医学研究概論	1・2前	1			○			2	3	1	1			※演習, オムニバス
	医学セミナー	1・2通	3				○		2						
	医学特殊研究	1・2通	2				○		59	8	2	2		兼1	
	医学特別演習	1・2通	5				○		59	8	2	2		兼1	
	国際実践医学研究特論	1・2・3・4通		3			○		1			1		共同	
	最先端医学研究セミナー	1・2通		3				○	73	74	102	31	1	兼3	共同
	橋渡し研究マネジメント	1・2後		2			○		2	2					オムニバス
	医科学教育実習	2・3通		1					59	8	2	2		兼1	
	キャリアパス・セミナー	1・2後		1				○	1		1				
	医学専門英語	1・2通		2						1					
	メディカルコミュニケーション演習I	1・2前		1				○		1					
	メディカルコミュニケーション演習II	2・3通		3				○	1						
	研究発表と討論	2・3前		1						1		1			
	医科学国際討論I	1前		2				○	1					兼1	
	医科学国際討論II	1後		2				○	1					兼1	
	臨床研究方法論	1・2通		3				○	56	53	94	3			
	外国人医学者とのコミュニケーション演習	1・2後		2				○	1			1			共同
	インターンシップ I	1・2・3・4通		1				○	1						
	インターンシップ II	1・2・3・4通		1				○	1						
	English Topics in Science I	1・2・3・4前		1				○				1			
English Topics in Science II	1・2・3・4後		1				○				1				
小計 (21科目)		—	11	30	0		—	75	74	102	31	1	兼3	—	
専門科目	統合医学研究特論	1・2後	2			○			59	8	2	2		兼1	
	分子医科学特論I	1・2前		2			○		4	4	3	5			
	分子医科学特論II	1・2後		2			○		4	4	3	5			
	分子医科学演習I	1・2前		2				○	4	4	3	5			
	分子医科学演習II	1・2後		2				○	4	4	3	5			
	分子医科学実験実習I	1・2前		2					4	4	3	5			
	分子医科学実験実習II	1・2後		2					4	4	3	5			
	システム統御医学特論I	1・2前		2			○		6	7	3	9		兼1	
	システム統御医学特論II	1・2後		2			○		6	7	3	9		兼1	
	システム統御医学演習I	1・2前		2				○	6	7	3	9		兼1	
	システム統御医学演習II	1・2後		2				○	6	7	3	9		兼1	
	システム統御医学実験実習I	1・2前		2					6	7	3	9		兼1	
	システム統御医学実験実習II	1・2後		2					6	7	3	9		兼1	
	ゲノム環境医学特論I	1・2前		2			○		6	3	1	7			
	ゲノム環境医学特論II	1・2後		2			○		6	3	1	7			
	ゲノム環境医学演習I	1・2前		2				○	6	3	1	7			
	ゲノム環境医学演習II	1・2後		2				○	6	3	1	7			
	ゲノム環境医学実験実習I	1・2前		2					4	2	1	7			
	ゲノム環境医学実験実習II	1・2後		2					4	2	1	7			
	睡眠医科学特論I	1・2前		2			○		3	4				兼1	
	睡眠医科学特論II	1・2後		2			○		3	4				兼1	
	睡眠医科学演習I	1・2前		2				○	3	4				兼1	
	睡眠医科学演習II	1・2後		2				○	3	4				兼1	
	睡眠医科学実験実習I	1・2前		2					3	4				兼1	
	睡眠医科学実験実習II	1・2後		2					3	4				兼1	
	臨床病態解明学特論I	1・2前		2			○		14	14	22	2	1		
	臨床病態解明学特論II	1・2後		2			○		14	14	22	2	1		
	臨床病態解明学演習I	1・2前		2				○	14	14	22	2	1		
	臨床病態解明学演習II	1・2後		2				○	14	14	22	2	1		
	臨床病態解明学実験実習I	1・2前		2					14	14	22	2	1		
	臨床病態解明学実験実習II	1・2後		2					14	14	22	2	1		
	臨床外科学特論I	1・2前		2			○		20	12	37				
	臨床外科学特論II	1・2後		2			○		21	13	38				
臨床外科学演習I	1・2前		2				○	21	13	38					
臨床外科学演習II	1・2後		2				○	21	13	38					
臨床外科学実験実習I	1・2前		2				○	21	14	38					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	臨床外科学実験実習II	1・2後		2				○			21	14	38				
	臨床内科学特論I	1・2前		2			○				16	25	29				
	臨床内科学特論II	1・2後		2			○				16	25	29				
	臨床内科学演習I	1・2前		2				○			16	25	29				
	臨床内科学演習II	1・2後		2				○			16	25	29				
	臨床内科学実験実習I	1・2前		2					○		16	25	29				
	臨床内科学実験実習II	1・2後		2					○		16	25	29				
	社会医学特論I	1・2前		2			○				3						
	社会医学特論II	1・2後		2			○				3						
	社会医学演習I	1・2前		2				○			3						
	社会医学演習II	1・2後		2				○			3						
	社会医学実験実習I	1・2前		2					○		3						
	社会医学実験実習II	1・2後		2					○		3						
	臨床試験論	1・2後		2			○				2			1		ホムパス	
	医生物統計学概論	1・2前		1			○				1	1				共同	
	医生物統計学特論	1・2後		2			○				1	1				共同	
	医生物統計学実習	1・2前		2					○		1	1				共同	
	疫学特論	1・2後		1			○				1			1		ホムパス	
	小計 (54科目)	—	2	104	0						81	70	96	23	1	兼2	—
専門科目 (国際協力型がん臨床指導者養成プログラム)	e ライニング講義 がん基礎	がんの基盤的知識	1・2通	2			○				2	1					共同
	総論:臨床腫瘍学	1・2通	1			○					2	1					共同
	各論:臨床腫瘍学	1・2通	1			○					4	1	2				共同
	臨床研究と統計学	1・2通	1			○					2						共同
	がんと倫理	1・2通	1			○					1						
	精神腫瘍学・社会腫瘍学	1・2通	1			○						1					
	緩和医療とチーム医療	1・2通	1			○					2						共同
	がんゲノム医療	1・2通	1			○					3	1					共同
	小児・AYA・希少がん	1・2通	1			○					4						共同
	ライフステージに応じたがん医療	1・2通	1			○					1		1				共同
選択科目	保健医学物理学講義	1・2通		2			○				2	1					共同
	臨床腫瘍学(消化器内科)講義及び実習	1・2通		5					○			2	3				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(消化器外科)講義及び実習	1・2通		5					○			2	1				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(呼吸器内科)講義及び実習	1・2通		5					○			2					※講義, 共同
	臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	1・2通		5					○			1	2				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	1・2通		5					○			1	4				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	1・2通		5					○			2	2	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	1・2通		5					○			1		1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	1・2通		5					○			1	2	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	1・2通		5					○			1	1	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	1・2通		5					○			1	1				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(乳腺・内分泌)講義及び実習	1・2通		5					○			1	1				※講義, 共同
	臨床腫瘍学(頭頸部)講義及び実習	1・2通		5					○			1	1	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(画像診断)講義及び実習	1・2通		5					○				1	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(病理診断)講義及び実習	1・2通		5					○			2	1				※講義, 共同
	基礎腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		5					○			4	2	1			※講義, 共同
	臨床緩和医療学・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		5					○			1					※講義
	臨床腫瘍学(皮膚)講義及び実習	1・2通		5					○				1	1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	1・2通		5					○					1			※講義, 共同
	臨床腫瘍学(薬学)講義及び実習	1・2通		5					○			1					※講義
基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	1・2通		5					○			1					※講義	
診断医学物理学講義	1・2通		2				○				2	1					共同
e ライニング選択講義	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		4			○				4	2	1				※実習, 共同
	臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習	1・2通		4			○				1	1					※実習, 共同
	臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習	1・2通		4			○				2						※実習, 共同
	緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		4			○				1						※実習
	基礎腫瘍学・がん医療開発講義及び実習	1・2通		4			○				1						※実習
	基礎医学物理学	1・2通		6			○				2	1					共同
	治療医学物理学	1・2通		6			○				2	1					共同
	医学物理学総合実習	1・2通		4					○			2	1				共同
臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習	1・2通		4			○					1					※実習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小計 (41科目)	—	0	155	0	—			29	22	16	0	0	0	—
大学院 社会 医学 専門 アカ デミ ック 養成 プロ グ ラ ム	社会精神保健学特講	1・2通		3		○				1					
	福祉医療学特講	1・2通		3		○				1					
	保健医療政策学特講	1・2通		3		○				1					
	ヘルスサービスリサーチ特講	1通		3		○				1					
	小計 (4科目)	—	0	12	0	—			2	2	0	0	0	0	—
放射線 健康 リスク 管理 学 専 門 科 目 に 対 し て の 全 時 分 野 に 関 連 す る 専 門 的 知 識 を 修 得 す る 専 門 的 科 目	放射線健康リスク管理学	1・2通		4		○				1					
	放射線災害医療学	1・2通		2		○				1					
	放射線科学—その基礎理論と応用—	1・2前		1		○				1					※実習
	課題解決型放射線科学演習	1・2通		2			○			1					
	小計 (4科目)	—	0	9	0	—			3	0	0	0	0	0	—
専門 基礎 研究 を 担 う 専 門 的 科 目 に 関 連 す る 専 門 的 知 識 を 修 得 す る 専 門 的 科 目	病理学・法医学概論	1・2通		1		○				3	1				共同
	先端医学概論I	1・2通		1			○			3	1				共同
	先端医学概論II	1・2通		1			○			3	1				共同
	病理診断学実習I	1・2通		1				○		3	1				共同
	病理診断学実習II	1・2通		1				○		3	1				共同
小計 (5科目)	—	0	5	0	—			3	1	0	0	0	0	—	
学位プログラム小計 (129科目)		—	13	315	0	—			84	79	103	31	1	兼3	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
<b>■情報学学位プログラム (D)</b>															
専 門 科 目	情報学セミナー a	1・2後	1				○		14	21	1	9		兼1	共同
	情報学セミナー b	1・2前	1				○		14	21	1	9		兼1	共同
	研究インターンシップ	2前		2			○		1	2		2			共同
	研究指導実践	2後		2			○			2		2			共同
	PBL	1前		2			○		2	2					共同
	情報学総合演習Ia	1前	1				○		14						
	情報学総合演習Ib	1後	1				○		14						
	情報学総合演習IIa	3前	1				○		14						
	情報学総合演習IIb	3後	1				○		14						
	グローバル研究演習III	1前		1			○		14						
	グローバル研究演習III	1後		1			○		14						
	グローバル研究演習IV	2前		1			○		14						
	グローバル研究演習IV	2後		1			○		14						
	グローバル研究演習V	3前		1			○		14						
	グローバル研究演習V	3後		1			○		14						
小計 (15科目)		—	6	12	0		—	14	21	1	9	0	兼1	—	
学位プログラム小計 (15科目)		—	6	12	0		—	14	21	1	9	0	兼1	—	

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>■ヒューマンバイオロジー学位プログラム (D)</b>														
基礎科目	イニシエーションセミナー	1前	1			○			1	1				集中
	世界のサイエンスリーダーズセミナー	1通	1			○			1					
	ビジネスリーダーズセミナー	1通	1			○			1					
	ヒューマンバイオロジーのセレンディピティ	1前		1		○								兼2
	科学倫理	1前	1			○					1			
	ヒューマンバイオロジーの国際討論I	1前		1		○			1					兼1 ※演習
	ヒューマンバイオロジーの国際討論II	1後		1		○			1					兼1 ※演習
	研究発表と討論	2前		1			○			1				
	国際研究室ローテーション	2後		5				○	1					
	海外企業におけるインターンシップ適正技術	2後		5				○	1					
	適正技術	2後		5				○	1					
	起業家マインド育成	2後		5			○		1					
	国際研究室ローテーション上級コース	3・4・5通		10				○						兼1
	海外企業におけるインターンシップ上級コース	3・4・5通		10				○	1					
適正技術上級コース	3・4・5通		10				○	1						
起業家マインド育成・実践コース	3・4・5通		10				○	1						
キャリアマネジメント学習	3・4・5通		10				○	1						
小計 (17科目)	—	—	4	74	0	—	—	—	4	2	0	1	0	兼4 —
専門基礎科目	人体解剖学・発生学	1後	2			○			1					
	人体病理学・腫瘍学	1後	2			○			3	2	1	2		オムニバス
	ヒトの感染・免疫学	1前	2			○			1	4	2	2		オムニバス
	ヒトの内分泌・代謝学	1前	2			○			2	3				兼1 オムニバス
	環境医学	1前		1		○			1					
	生化学・分子生物学	1前		1		○			2	1	2	1		オムニバス
	分子細胞生物学	1後		1		○								兼1
	基礎毒性学	1後		1		○			1					
	創薬フロンティア科学	1後		1		○			1					
	神経科学特論	1・2前		1		○			2	3		1		オムニバス
	神経生物学	1後		1			○				1			
	サイエンスにおけるITの活用	1休		2		○								兼1 ※実習
	基礎計算生物学	1後	2			○								兼2
	数理アルゴリズム	2後		2		○								兼2 ※演習
	高性能計算技術	2後		2		○								兼2
	計算構造生物学・創薬	2後		1		○								兼1 ※実習
	ゲノミクスデータベースへのアクセスと利用	1前		1			○		1					
遺伝子工学と遺伝子改変マウス	2前		1			○		1						
エピゲノム生理学	2前		1			○							兼2	
シグナル伝達と創薬デザイン	2前		1			○		3	1	1	1		オムニバス	
幹細胞再生医学	2前		1			○		1			1			
小計 (21科目)	—	—	10	19	0	—	—	—	15	14	5	8	0	兼10 —
専門科目	ヒューマンバイオロジー基礎実験	1前	4					○	9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー特論I	1後	1			○			9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー演習I	1後	1				○		9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー特論II	2前	1			○			9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー演習II	2前	1				○		9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー実験実習II	2前	1					○	9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー研究I	1後	2				○		9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー研究II	2通	10					○	9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー研究室演習I	1後	5					○	9	7		1		兼9
	ヒューマンバイオロジー研究III	3通	10					○	9	7		1		兼9
小計 (10科目)	—	—	36	0	0	—	—	—	9	7	0	1	0	兼9 —
学位プログラム小計 (48科目)			—	50	93	0	—	—	17	15	5	9	0	兼19 —

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム（D）</b>															
基礎科目	人を対象とした研究:基盤編	1通	1			○								兼1	
	博士後期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○								兼9	
	博士後期インターンシップI	1・2・3通		1					1						
	博士後期インターンシップII	3通		1					1						
	小計（4科目）	—	2	2	0	—			0	1	0	0	0	兼10	—
専門科目	ライフイノベーション博士後期演習I秋	1後	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期演習I春	1前	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究I秋	1後	2					○	1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究I春	1前	2					○	1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	2前	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	2後	2					○	1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	2前	2					○	1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期演習III秋	3後	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期演習III春	3前	1				○		1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究III秋	3後	2					○	1					兼6	
	ライフイノベーション博士後期研究III春	3前	2					○	1					兼6	
	小計（12科目）	—	18	0	0	—			1	0	0	0	0	兼6	—
学位プログラム小計（16科目）		—	20	2	0	—			1	1	0	0	0	兼16	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ライフイノベーション学位プログラムについて

「ライフイノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフイノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフイノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会（筑波研究学園都市の企業・研究機関）の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフイノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目（2単位以上）を履修した上で、各専門領域の研究指導科目を履修する。  
 \* 本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジー(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford、University of Iceland、Universidad Rey Juan Carlos、Molecular Biology Institute of Barcelona、Institut Curie、University of Montpellier、Wageningen University、University of Bordeaux、Center of Biotechnology of Borj Cedria、Tunisia、University of California、San Diego

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>■ライフィノベーション（創薬開発）学位プログラム（D）</b>															
基礎科目	人を対象とした研究:基盤編	1通	1			○									兼1
	博士後期ライフィノベーションセミナー	1前	1			○									兼9
	博士後期インターンシップI	1・2・3通		1					○			1			
	博士後期インターンシップII	3通		1					○			1			
	小計（4科目）	—	2	2	0	—				0	1	0	0	0	兼10
専門科目	ライフィノベーション博士後期演習I秋	1後	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期演習I春	1前	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期研究I秋	1後	2						○						兼10
	ライフィノベーション博士後期研究I春	1前	2						○						兼10
	ライフィノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期演習II春	2前	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期研究II秋	2後	2						○						兼10
	ライフィノベーション博士後期研究II春	2前	2						○						兼10
	ライフィノベーション博士後期演習III秋	3後	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期演習III春	3前	1				○								兼10
	ライフィノベーション博士後期研究III秋	3後	2						○						兼10
	ライフィノベーション博士後期研究III春	3前	2						○						兼10
	小計（12科目）	—	18	0	0	—				0	0	0	0	0	兼10
学位プログラム小計（16科目）		—	20	2	0	—			0	1	0	0	0	兼19	—

※「必修」は学位プログラムとしての必修を表す。

※ライフィノベーション学位プログラムについて

「ライフィノベーション学位プログラム」は、国立大学の機能強化事業により平成27年度に開設した学位プログラムである。  
 本学位プログラムは、複数の研究科の協力による学際プログラムであり、「病態機構」「創薬開発」「食料革新」「環境制御」の4領域を設定し、領域に応じて「病態機構学」「医科学」「食料革新学」「環境制御学」の学位を授与しており、今回の改組を機に、領域を拡充して「生物情報」及び「生体分子材料」の2領域を置き、これに対応した「生物情報学」及び「生物工学」の学位を設ける。  
 本改組後は、引き続きライフィノベーション学位プログラムとして一体的な運営を確保しつつ、本学位プログラムを6つの領域毎に区分し、学位プログラムの名称「ライフィノベーション」にその領域名を付記して、各々の領域に対応する研究群に各学位プログラムを置く。  
 また、本学位プログラムは、つくばライフサイエンス推進協議会（筑波研究学園都市の企業・研究機関）の参画機関及び海外の大学・研究機関と筑波大学が協働して実施・運営する博士課程の学位プログラムである。構成する学位の分野は、理学関係、農学関係、工学関係、医学関係、社会学・社会福祉学関係と幅広く、筑波大学とつくばライフサイエンス推進協議会から参画する研究機関、さらに海外の大学・研究機関の教員を配置することで、これまでにない幅広いライフ分野の教育研究が実現できている。  
 なお、教育課程については、ライフィノベーションという共通の学びの場で、6領域共通の授業科目（2単位以上）を履修した上で、各専門領域の研究指導科目を履修する。  
 \* 本学位プログラムに参画する企業・研究機関は以下のとおり。  
 ○筑波研究学園都市の企業・研究機関……アステラス製薬(株)、エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、協和発酵バイオ(株)、藻バイオテクノロジー(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)島津製作所、医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医学研究センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、理化学研究所バイオリソースセンター  
 ○海外の大学・研究機関……University of Oxford、University of Iceland、Universidad Rey Juan Carlos、Molecular Biology Institute of Barcelona、Institut Curie、University of Montpellier、Wageningen University、University of Bordeaux、Center of Biotechnology of Borj Cedria、Tunisia、University of California、San Diego

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数*			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計 (510科目)		—	229	741	8	—			185	169	108	98	1	兼133	—
学位又は称号	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(障害科学) 博士(カウンセリング科学) 博士(リハビリテーション科学) 博士(ヒューマン・ケア科学) 博士(公衆衛生学) 博士(神経科学) 博士(看護科学) 博士(スポーツ医学) 博士(体育科学) 博士(スポーツウエルネス学) 博士(コーチング学) 博士(芸術学) 博士(デザイン学) 博士(世界遺産学) 博士(医学) 博士(情報学) 博士(人間生物学) 博士(病態機構学) 博士(医科学)	学位又は学科の分野	文学関係、教育学・保育学関係、医学関係、美術関係、体育関係、保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)												
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(修了要件)						1 学年の学期区分		2 学期							
< 博士後期課程及び後期3年だけの博士課程 > 3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。						1 学期の授業期間		1 5 週							
						1 時限の授業時間		7 5 分							
< 一貫制博士課程 > 5年(医学の課程にあっては4年)以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については3年以上在学すれば足りるものとする。						*「必修」「選択」「自由」の合計は、学位プログラムとしての必修、選択、自由として記載したものの合計である。									
(履修方法)															
<b>■教育学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。															
(1) 基礎科目 必修2単位 (2) 専門基礎科目 1単位以上 (3) 専門科目 3単位以上															
<b>■心理学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。															
・専門科目(共通) 必修6単位 ・心理臨床学サブプログラムにおいては臨床心理学実習DIもしくは臨床心理学実習DIIのいずれかを合計4単位以上															
<b>■障害科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により4単位以上を修得すること。															
(1) 基礎科目 必修1単位 (2) 専門科目 専攻分野の講究から3単位															
<b>■カウンセリング科学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。															
(1) 基礎科目 必修6単位 (2) 専門科目 4単位以上															

<p>■リハビリテーション科学学位プログラム(D) 次の履修方法により10単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修6単位 (2) 専門科目 4単位以上</p>
<p>■ヒューマン・ケア科学学位プログラム(D) 次の履修方法により12単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 専門基礎科目 必修6単位 (2) 専門科目 必修6単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>
<p>■パブリックヘルス学位プログラム(D) 次の履修方法により12単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 専門基礎科目 必修6単位 (2) 専門科目 必修6単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>
<p>■ニューロサイエンス学位プログラム(D) 次の科目を含む17単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修1単位 (2) 専門基礎科目 必修2単位 (3) 専門科目 必修14単位 上記のほか、神経科学専門研究インターンシップ等の本学位プログラム開設の自由科目、学術院共通専門基盤科目の履修を推奨する。</p>
<p>■看護科学学位プログラム(D) 次の履修方法により25単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 専門基礎科目 10単位以上 ・必修7単位 ・看護学教育、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目の中から3単位以上 (2) 専門科目 必修15単位</p>
<p>■スポーツ医学学位プログラム(D) 次の履修方法により5単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修2単位 (2) 専門科目 必修1単位、選択2単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する</p>
<p>■体育科学学位プログラム(D) &lt;標準履修モデル&gt; 指定された必修科目6単位を含む7単位以上の修得(選択科目から1単位以上を修得すること。 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。</p> <p>&lt;次世代健康スポーツ科学履修モデル:スポーツ・リサーチ・イノベーター(SRI)認定&gt; 指定された必修科目6単位、SRI必修科目6単位を含む14単位以上の修得(SRI必修科目以外の選択科目から2単位以上を修得すること。 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修を推奨する。</p>
<p>■スポーツウェルネス学学位プログラム(D) 次の履修方法により8単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修2単位 (2) 専門科目 必修6単位</p>
<p>■コーチング学学位プログラム(D) 次の履修方法により4単位以上を修得すること。</p> <p>・専門科目 必修4単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位を履修することを推奨する。 なお、体育系以外の博士前期課程を修了した者は研究の基礎となる専門知識に関する科目を1年次に博士前期課程体育学学位プログラムが開設している科目から10単位程度履修すること。</p>

<p><b>■芸術学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により8単位以上を修得すること。</p> <p>・専門科目 必修8単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する</p>
<p><b>■デザイン学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により6単位以上を修得すること。</p> <p>・専門科目 必修4単位 ・専門科目 選択2単位以上 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を奨励する。</p>
<p><b>■世界遺産学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により3単位以上を修得すること。</p> <p>・専門科目 必修3単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目の履修を推奨する。</p>
<p><b>■医学学位プログラム(医学を履修する博士課程)</b> 次の科目を含めて30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修11単位 (2) 専門科目 必修2単位 上記のほか、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位の履修を推奨する。</p>
<p><b>■情報学学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により10単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 研究指導科目 6単位(情報学セミナー、情報学総合演習I,II) (2) 実践指導科目 4単位(研究指導実践、PBL、研究インターンシップ) なお、実践指導科目のうち2単位までは、大学院共通科目および他学位プログラム科目を修了の要件となる単位として認める。</p>
<p><b>■ヒューマンバイオロジー学位プログラム(5D)</b> 次の履修方法により72単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 1,2年次において、当該履修年次で履修する基礎科目のうち必修4単位及び選択必修5単位以上、専門基礎科目のうち必修10単位並びに専門科目の必修26単位を含めて合計60単位以上を履修する (2) 3年次において、当該履修年次で履修する専門科目10単位を履修する。</p>
<p><b>■ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により24単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修2単位、選択1単位 (2) 専門科目 必修18単位 (3) 大学院共通科目 1～3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目</p>
<p><b>■ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム(D)</b> 次の履修方法により24単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 基礎科目 必修2単位、選択1単位 (2) 専門科目 必修18単位 (3) 大学院共通科目 1～3単位 (4) ライフイノベーション学位プログラムの他領域の科目、他の学位プログラムの科目、大学院共通科目</p>

※教育上有益と認められる場合には、学位プログラムごとに定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

教育課程等の概要 (共同学科等)

(人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2			1		オムニバス, ｽﾃｲ
	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1・2前	鹿屋体育大学	1			○				2					ｽﾃｲ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○									兼2 ｽﾃｲ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後	筑波大学		1		○				1					兼1 ｽﾃｲ
	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	1・2後	鹿屋体育大学		1		○				1					集中, ｽﾃｲ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前	筑波大学		1		○				1					集中, ｽﾃｲ
	Sport Management (スポーツマネジメント論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○				1					兼1 ｽﾃｲ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾃｲ
	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○				1					集中, ｽﾃｲ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前	筑波大学		1		○				1					ｽﾃｲ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2	1		1		兼1 オムニバス, ｽﾃｲ
Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	筑波大学	1			○				1					ｽﾃｲ	
小計 (12科目)		—		5	7	0	—			4	4	0	1	0	兼0	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	筑波大学	1			○				1	1		1		兼1 オムニバス, ｽﾃｲ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前	筑波大学		1		○							1		集中, ｽﾃｲ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後	筑波大学		1		○							1		兼1 集中, ｽﾃｲ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾃｲ
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾃｲ
小計 (5科目)		—		1	4	0	—			1	1	0	1	0	兼0	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後	筑波大学		2		○									兼1 ｽﾃｲ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後	筑波大学		1		○						1		集中, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1 隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	小計 (12科目)	—		0	13	0	—		0	0	0	1	0	兼2		
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾟ	
	Research Project (課題研究)	2後	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		4	4		1		兼1 ｽﾀｲﾌﾟ	
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中	
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼3 集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1					集中	
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1			1		兼1 集中	
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○					1		集中	
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通	筑波大学		2				○	1			1		兼3 集中	
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	6					○	1	2		1		兼2 集中	
	小計 (9科目)	—		14	7	0	—		4	4	0	1	0	兼5	—	
合計 (38科目)				—		20	31	0	—	4	4	0	1	0	兼12	—
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学	47 (19)			1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
				(履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。				鹿屋体育大学	21 (18)			1時限の授業時間		筑波大学 : 75分 鹿屋体育大学 : 90分		

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	講義・基礎 International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	1			○						1			オムバス, ステイ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	1			○									兼1 ステイ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○			1						兼1 ステイ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○			1						集中, ステイ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後		1		○									兼1 ステイ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前		1		○				1					ステイ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	1			○			1				1		兼1 オムバス, ステイ
	Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	1			○			1						ステイ
小計 (8科目)	—	—	4	4	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼4	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	1			○			1	1		1			兼1 オムバス, ステイ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前		1		○						1			集中, ステイ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○						1			兼1 集中, ステイ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後		1		○									兼1 ステイ
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後		1		○									兼1 ステイ
小計 (5科目)	—	—	1	4	0	—	—	—	1	1	0	1	0	兼3	—
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後		2		○									兼1 ステイ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後		1		○						1			集中, ステイ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ステイ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲﾌﾞ
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲﾌﾞ
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲﾌﾞ
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前		1		○									兼1 隔年, ｽﾃｲﾌﾞ
	小計 (12科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2	
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	4				○		2	1		1		兼1 ｽﾃｲﾌﾞ	
	Research Project (課題研究)	2後	4				○		2	1		1		兼1 ｽﾃｲﾌﾞ	
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼3 集中	
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通		1			○		1			1		兼3 集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通		1			○		1					集中	
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通		1			○		1			1		兼1 集中	
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通		1			○					1		集中	
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通		2				○	1			1		兼3 集中	
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	6					○	1	1		1		集中	
	小計 (9科目)	—	14	7	0	—			2	1	0	1	0	兼3	—
合計 (34科目)			—	19	28	0	—		2	1	0	1	0	兼10	—
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)	学位又は学科の分野				体育関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。								1 学年の学期区分		2期					
								1 学期の授業期間		15週					
								1 時限の授業時間		75分					

教育課程等の概要 (共同学科等)

(人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻 3年制博士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門科目	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1						兼1 ※演習 メ <sup>o</sup> イ				
	大学体育授業演習 I	1後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ				
	大学体育授業演習 II	2・3後	筑波大学		2			○		5	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ				
	大学体育授業演習 III	2・3通	筑波大学		2			○		5	1					兼1 集中, メ <sup>o</sup> イ				
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同(一部), オムバス, メ <sup>o</sup> イ				
	小計 (5科目)	—			1	8	0		—	8	1	0	0	0		兼3				
実践的研究能力育成科目	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2			○		1						メ <sup>o</sup> イ				
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1			○			3						兼1 オムバス, 集中, メ <sup>o</sup> イ				
	体育スポーツ実践的研究演習 I	1後	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, メ <sup>o</sup> イ				
	体育スポーツ実践的研究演習 II	2前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, メ <sup>o</sup> イ				
	体育スポーツ実践的研究演習 III	2・3通	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1 共同, 集中, メ <sup>o</sup> イ				
	小計 (5科目)	—			1	8	0		—	4	0	0	0	0		兼1				
博士論文研究基礎科目	博士論文課題演習 I	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ				
	博士論文課題演習 II	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1					兼1 メ <sup>o</sup> イ				
	小計 (2科目)	—		4	0	0		—	8	1	0	0	0		兼1					
専門基礎科目	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2		○				1					集中, 演習				
	国際インターンシップ*	1・2・3通	筑波大学		1				○							兼1 集中				
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1		○			1						兼8 オムバス, メ <sup>o</sup> イ				
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1		○			3						兼1 共同(一部), オムバス, メ <sup>o</sup> イ				
	小計 (4科目)	—			0	5	0		—	4	1	0	0	0		兼10				
合計 (16科目)				—						6	21	0		—	8	1	0	0	0	兼12
学位又は称号		博士 (体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係													
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等												
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位 (必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位 (必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位 (必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位 (必修)				筑波大学	17 (5)			1 学年の学期区分		2期										
				鹿屋体育大学				1 学期の授業期間		15週										
						14 (5)		1 時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分										
				*大学院共通科目として開設している科目。																

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	実践的教育能力育成	大学体育論	1前	1			○			1						兼1 ※演習 メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅰ	1後		2			○		5	1					兼1 メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅱ	2・3後		2			○		5	1					兼1 メ <sup>テ</sup> イ
		大学体育授業演習Ⅲ	2・3通		2			○		5	1					兼1 集中, メ <sup>テ</sup> イ
		小計（4科目）	—	1	6	0		—		5	1	0	0	0		兼2
育成科目	実践的研究能力	大学体育研究演習	1通		2			○		1						メ <sup>テ</sup> イ
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0	0	
基礎力育成科目	博士論文研究基	博士論文課題演習Ⅰ	1通	2				○		5	1					兼1 メ <sup>テ</sup> イ
		博士論文課題演習Ⅱ	2通	2				○		5	1					兼1 メ <sup>テ</sup> イ
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		5	1	0	0	0		兼1
専門基礎科目	高度指導者教養	つくばサマーインスティトゥート	1・2前		2		○				1					集中, 演習
		国際インターンシップ*	1・2・3通		1			○								兼1 集中
		コーチングの哲学と倫理	1前		1		○			1						兼8 オムニバス, メ <sup>テ</sup> イ
		小計（3科目）	—	0	4	0		—		1	1	0	0	0		兼9
合計（10科目）		—	5	12	0		—		5	1	0	0	0		兼11	
学位又は称号		博士（体育スポーツ学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
<p>（修了要件） 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>（履修方法） 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位（必修） ・実践的研究能力育成科目：3単位（必修） ・高度指導者教養育成科目：1単位（必修） ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位（必修）</p>									1学年の学期区分		2期					
									1学期の授業期間		15週					
									1時限の授業時間		75分					
									*大学院共通科目として開設している科目。							

別記様式第2号（その2の3）

（用紙 日本工業規格A4横型）

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学									
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6						0	6	兼19	オムニバス・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3						0	3	兼1	オムニバス
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1						0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1						0	1	兼1	集中
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2			○							0	1					1	1		
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1				3	3		共同 ※講義
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2						0	2		オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0						0	0	兼1	
小計(8科目)		—	—	—	6.5	6	0	—	—	4	2	0	5	0	11	3	1	0	0	0	4	15	兼21		
専門科目 I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7						0	7	兼5	
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1				6	6		
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○							0	3					3	3		
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8						0	8	兼5	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1				6	6		
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2				○						0	6	1				7	7		
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5				10	10		オムニバス
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3				○						0	5	1				6	6		
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2				4	4		
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2						0	2	兼1	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3				○						0	1					1	1		
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15				○						0	1					1	1		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15				○						0	2	2				4	4		
小計(13科目)		—	—	—	10	44	0	—	—	4	1	0	3	0	8	11	8	0	0	0	19	27	兼5		
専門科目 II	健康と食資源科目群 I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3						0	3		オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4						0	4		オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2				○	3	4				10						0	10		オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2				○	3	2	1	2		8						0	8		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2			○		3	2	1	2		8						0	8		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	
食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	集中	
小計(8科目)		—	—	—	1	12	0	—	—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	24	兼2		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考							
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学												
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計				
健康と食資源科目群II	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			○							0	1						1	1					
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			○							0	3						5	5	オムニバス				
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○							0	3	2					5	5	オムニバス				
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		○							0	2	2					5	5	オムニバス				
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2	オムニバス				
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2					
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					1	1					
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○							0	8	9		1			18	18	オムニバス・共同(一部)				
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○							0	1						1	1					
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○							0	1						1	1					
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○							0	1						1	1	※実験・実習				
小計(11科目)		—	—		7	18	0		—					0	0	0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38	
健康と食資源科目群III	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	3	5					8	8	オムニバス ※演習				
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1						1	1					
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3					
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3					
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習				
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3	※演習				
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	3					5	5					
小計(8科目)		—	—		0	12	0		—					0	0	0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27	
(研究指導)		1~2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学		—	—	—	—	—	—				5	1	0	0	0	0	6	37	30	0	1	0	68	74	
合計(48科目)		—	—		24.5	92	0		—					12	8	1	10	0	31	48	44	0	5	0	97	128		
学位又は称号	修士(食料健康科学)			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)																							
卒業要件及び履修方法				開設大学等	開設単位数(必修)	授業期間等																						
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学	29(10)	1学年の学期区分										2期												
(履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)				国立台湾大学	53(7)	1学期の授業期間										15週												
				ボルドー大学	34.5(7.5)	1時限の授業時間										筑波大学：75分 国立台湾大学：50分 ボルドー大学：120分												
				共同開設科目																								

別記様式第2号（その2の3）

（用紙 日本工業規格A4横型）

教育課程等の概要（国際連携学科等）																											
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（筑波大学）																											
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考						
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	申請大学					連携外国大学											
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授に 相当 する 教 員	准 教 授に 相当 する 教 員	講 師に 相当 する 教 員	助 教に 相当 する 教 員		助 手に 相当 する 教 員	小 計	合 計			
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			3	1		2		6					0	6	兼19	オムニバース・共同(一部)			
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3					0	3	兼1	オムニバース			
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1					0	1	兼1	集中			
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1					0	1	兼1	集中			
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2					0	2		オムニバース			
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0					0	0	兼1				
小計（6科目）		—			5	4	0		—	4	2	0	5	0	11	0	0	0	0	0	0	11	兼21				
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		4	1		2		7					0	7	兼5				
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	4	1		3		8					0	8	兼5				
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2					0	2	兼1				
	小計（3科目）		—		4	3	0		—	4	1	0	3	0	8	0	0	0	0	0	0	8	兼5				
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅰ	基礎毒性学		1前	筑波大学	1			○			1			2		3					0	3		オムニバース			
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2			○		2	2				4					0	4		オムニバース			
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2			○		3	4		3		10					0	10		オムニバース・共同(一部)			
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2			○		3	2	1	2		8					0	8					
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1					0	1					
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1					0	1					
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0					0	0	兼1				
	食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0					0	0	兼1	集中			
小計（8科目）		—		1	12	0		—	9	7	1	7	0	24	0	0	0	0	0	0	24	兼2					
(研究指導)			1～2通	筑波大学						5	1	0	0	0	6						0	6					
合計（17科目）										10	19	0		—	12	8	1	10	0	31	0	0	0	0	0	31	

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員		助教に相当する教員	助手に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																	
卒業要件及び履修方法					開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等															
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）					筑波大学	29 (10)	1 学年の学期区分	2 期														
							1 学期の授業期間	1 5 週														
							1 時限の授業時間	7 5 分														
					共同開設科目																	

教育課程等の概要（国際連携学科等）																								
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（国立台湾大学）																								
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学								
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計
基礎科目	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		○								0	1				1	1		
	小計（1科目）		—		0	2	0	—				0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1				6	6	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1				6	6	
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2					○					0	6	1				7	7	
	フィールドと実験室の融合（台湾）		1後	国立台湾大学		3						○				0	5	1				6	6	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3										0	1					1	1	
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15										0	1					1	1	
	小計（6科目）		—		0	26	0	—				0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	7	7	
専門科目Ⅱ	健康と食資源科目群Ⅱ		1後	国立台湾大学	3			○								0	1					1	1	
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	2			○								0	3			2		5	5	オムニバス
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学		3		○								0	3	2				5	5	オムニバス
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○								0	2	2		1		5	5	オムニバス
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		2		○								0		1		1		2	2	オムニバス
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○								0		1				2	2	
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○								0	1	1				2	2	
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○								0		1				1	1	
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○								0	8	9		1		18	18	オムニバス・共同（一部）
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○								0	1					1	1	
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○								0	1					1	1	
応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○								0	1					1	1	※実験・実習	
小計（11科目）		—		7	18	0	—				0	0	0	0	0	19	14	0	5	0	38	38		
（研究指導）			1～2通	国立台湾大学	—	—	—	—	—	—					0	22	9	0	0	0	31	31		
合計（18科目）			—		7	46	0	—			0	0	0	0	0	33	22	0	5	0	60	60		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員				助教に相当する教員
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野	医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		
卒業要件及び履修方法				開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等																	
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）				国立台湾大学	53 (7)	1 学年の学期区分	2 期																
						1 学期の授業期間	1 5 週																
						1 時限の授業時間	5 0 分																
				共同開設科目																			

教育課程等の概要（国際連携学科等）																									
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（ボルドー大学）																									
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学									
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計	
基礎科目	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1				3	3	共同 ※講義	
	小計（1科目）		—		1.5	0	0					0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	3		
専門科目Ⅰ	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○	○						0	3					3	3	オムニバス	
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5				10	10		
	フィールドと実験室の融合（フランス）		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2				4	4		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学						○						0	2	2				4	4		
	小計（4科目）		—		6	15	0					0	0	0	0	0	5	7	0	0	0	12	12		
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅲ	水性及び食源性微生物と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	3	5				8	8	オムニバス ※演習	
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1					1	1		
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1				3	3		
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3		
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3		※演習
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3		※演習
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1				3	3		※演習
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	3				5	5		
	小計（8科目）		—		0	12	0					0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27		
	（研究指導）		1～2通	ボルドー大学	—	—	—	—	—	—						0	15	21	0	0	0	36	36		
	合計（13科目）		—		7.5	27	0					0	0	0	0	0	15	22	0	0	0	37	37		
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等																		
（修了要件） 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） ・基礎科目から7.5単位以上（うち必修6.5単位）、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱから37.5単位以上（うち必修18単位）、合計45単位以上（うち必修24.5単位）を修得すること。（筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得）	ボルドー大学			34.5（7.5）			1 学年の学期区分					2 期													
							1 学期の授業期間					1 5 週													
							1 時限の授業時間					1 2 0 分													
			共同開設科目																						

## 既設の研究科の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
(教育研究科 スクールリーダーシップ開発専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 基 目 礎	教育デザイン論	1・2前	1			○			1				1	
	小計(1科目)	—	1	0	0	—			1	0	0		1	0
専 攻 共 通 科 目	学校教育論	1・2後	2			○			1					※演習
	学校心理学	1・2前	2			○								兼1
	スクールリーダーシップ論	1・2前	2			○			1					※演習
	公教育の歴史	1・2前		2		○				1				※演習
	学校の組織論	1・2前		2		○								兼1 集中
	学校安全と危機管理	1・2前		2			○							兼1 集中
	国際教育論	1・2前		2		○		○				1		※演習
	多文化教育論	1・2後		2		○						1		※演習
	生涯学習論	1・2前		2		○				1				※演習
	道徳と人権	1・2後		2		○			1					兼1 ※演習
	現代子ども・若者論	1・2後		2			○							兼1
	児童の発達	1・2通		2			○							兼1 集中
	青年の発達	1・2後		2		○			1					
	学校神経心理	1・2通		2		○								兼1 演習 集中
	心理教育的アセスメント	1・2通		2				○						兼1 集中
	スクールカウンセリング実習I	1・2通		2				○		1				兼1 ※演習
	学校の社会学	1・2通		2		○								兼1 ※演習
	地域教育支援論	1・2通		2		○					1			※演習 集中
	スクールカウンセリング実習II	1・2通		2				○		1				集中
	初等国語特論A	1・2前		1		○								兼2 集中
	初等国語特論B	1・2後		1		○								兼2 集中
	初等社会特論	1・2前		1.5		○								兼2 ※演習 集中
	初等数学基礎	1・2前		1		○								兼2 集中
	初等体育特論A	1・2後		1		○								兼1
	初等体育特論B	1・2後		1		○								兼2
	初等図画工作特論	1・2前		1		○								兼1
	初等理科特論	1・2通		1		○								兼1
小計(27科目)	—		6	40.5	0	—			2	1	0	1	0	兼23
専 門 科 目	学校経営と教育法	1・2後		2		○			1					
	カリキュラム・マネジメント	1・2後		2		○				1				集中
	スクールリーダー実践研究	2通		3			○		2	1			2	兼7
	スクールリーダー特別研究	2通		3			○		2	1			2	兼7
	学校経営事例研究	1・2後		2		○				1				※演習 集中
	学習指導と授業	1・2後		2		○			1					
	カリキュラム開発	1・2前		2		○				1				※演習 集中
	学習と学級の心理	1・2後		2		○								兼1
	学校臨床心理	1・2後		2		○			1					
	学習・生活支援コーディネータ実践研究	2通		3				○	2	1			2	兼7
	学習・生活支援特別研究	2		3				○	2	1			2	兼7
小計(11科目)	—		0	26	0	—			2	1	0	2	0	兼1
合計(39科目)		—	7	66.5	0	—			2	1	0	3	0	兼31
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							

教育課程等の概要														
(教育研究科 教科教育専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目基礎	教育デザイン論	1・2前	1			○								兼2
	小計(1科目)	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2
専攻共通科目	教科教育論	1・2前	1			○				1				兼1
	学校教育論	1・2後		2		○								兼1
	学校心理学	1・2前		2		○								兼1 ※演習
	公教育の歴史	1・2前		2		○								兼1 ※演習
	学校の組織論	1・2前		2		○								兼1 集中
	多文化教育論	1・2後		2		○								兼1 ※演習
	生涯学習論	1・2前		2		○								兼1 ※演習
	道徳と人権	1・2後		2		○								兼2 ※演習
	現代子ども・若者論	1・2後		2			○							兼1
	学校神経心理	1・2通		2		○								兼1 集中
	地域教育支援論	1・2通		2		○								兼1 ※演習 集中
小計(11科目)	—	1	20	0	—			0	1	0	0	0	兼10	
専門科目	国語科教育学a	1・2前		1.5		○			1					
	国語科教育学b	1・2後		1.5		○			1					
	国語科教育学a	1・2前		1.5		○			1					
	国語科教育史b	1・2後		1.5		○			1					
	言語表現論a	1・2前		1.5		○				1				
	言語表現論b	1・2後		1.5		○				1				
	国語科教育実践演習a	1・2前		1.5			○			1				
	国語科教育実践演習b	1・2後		1.5			○			1				
	日本語学研究a	1・2前		1.5		○				1				
	日本語学研究b	1・2後		1.5			○			1				
	日本語音韻論2a	1・2前		1.5		○				1				
	日本語音韻論2b	1・2後		1.5		○				1				
	日本語音韻論a	1・2前		1.5		○				1				
	日本語音韻論b	1・2後		1.5		○				1				
	日本語文法論a	1・2前		1.5		○			1					
	日本語文法論b	1・2後		1.5		○			1					
	日本文学研究II3a	1・2前		1.5		○				1				
	日本文学研究II3b	1・2後		1.5		○				1				
	日本文学研究II2a	1・2前		1.5		○				1				
	日本文学研究II2b	1・2後		1.5		○				1				
	日本文学演習a	1・2前		1.5			○		1					
	日本文学演習b	1・2後		1.5			○		1					
	日本文学史a	1・2前		1.5		○								兼1
	日本文学史b	1・2後		1.5			○							兼1
	中国文学演習a	1・2前		1.5			○		1					
	中国文学演習b	1・2後		1.5			○		1					
	日本語史2a	1・2前		1.5		○			1					
	日本語史2b	1・2後		1.5		○			1					
	日本語史3a	1・2前		1.5		○			1					
	日本語史3b	1・2後		1.5		○			1					
	日本文学研究I3a	1・2前		1.5			○			1				
	日本文学研究I3b	1・2後		1.5			○			1				
	日本文学研究I2a	1・2前		1.5			○			1				
	日本文学研究I2b	1・2後		1.5			○			1				
	中国文学特講2a	1・2前		1.5			○			1				
	中国文学特講2b	1・2後		1.5			○			1				
	中国文学演習2a	1・2前		1.5			○		1					
	中国文学演習2b	1・2後		1.5			○		1					
	文学教育論a	1・2前		1.5			○			1				
	文学教育論b	1・2後		1.5			○			1				
古典教育論a	1・2前		1.5			○			1					
古典教育論b	1・2後		1.5			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国語科教材論a	1・2前		1.5		○									兼1
	国語科教材論b	1・2後		1.5		○									兼1
	日本語学特講a	1・2前		1.5		○						1			
	日本語学特講b	1・2後		1.5		○						1			
	中国文学特講a	1・2前		1.5			○		1						
	中国文学特講b	1・2後		1.5			○		1						
	国語教育特講a	1・2後		1.5		○									兼1
	国語科研究法a	1・2前		1.5		○			2						
	国語科研究法b	1・2後		1.5		○			2						
	国語科研究法演習a	1・2前		1.5		○				2					
	国語科研究法演習b	1・2後		1.5		○				2					
	社会科教育学特講(地理歴史)	1・2後		3		○			2	1					※演習
	社会科教育学特講(公民)	1・2後		3		○			2	1					※演習
	歴史教育学特講	1・2前		2		○			1	1					集中
	社会科教育学実践演習(地理歴史)	1・2後		3		○			2	1					※演習
	社会科教育学実践演習(公民)	1・2後		3		○			2	1					※演習
	地理学特講I	1・2前		1		○			1						
	地理学特講II	1・2後		1		○					1				
	地理学特講III	1・2通		1		○									兼1 集中
	地理学演習I	1・2前		1			○		1						
	地理学演習II	1・2後		1			○				1				
	地理学演習III	1・2通		1			○								兼1 集中
	地理学野外実験	1・2後		3				○	1	1	1				
	日本史演習I	1・2前		1.5			○		1						
	日本史演習II	1・2後		1.5			○		1						
	日本史特講I	1・2前		1.5		○			1						
	日本史特講II	1・2後		1.5		○			1						
	民俗学実習	1・2後		3				○	1						集中
	考古学演習I	1・2前		1.5			○			1					
	考古学演習II	1・2後		1.5			○			1					
	考古学特講I	1・2前		1.5		○				1					
	考古学特講II	1・2後		1.5		○				1					
	考古学実習	1・2前		3				○		1					集中
	東洋史特講I	1・2通		1		○									兼1 集中
	東洋史特講II	1・2通		1		○									兼1 集中
	東洋史特講III	1・2通		1		○									兼1 集中
	西洋史特講I	1・2通		1		○									兼1 集中
	西洋史特講II	1・2通		1		○									兼1 集中
	西洋史特講III	1・2通		1		○									兼1 集中
	政治学特講I	1・2前		1.5		○					1				※演習
	政治学特講II	1・2後		1.5		○					1				※演習
	政治学演習I	1・2前		1.5			○				1				
	政治学演習II	1・2後		1.5			○				1				
	経済学特講I	1・2前		1.5		○									兼1 ※演習
	経済学特講II	1・2後		1.5		○									兼1 ※演習
	経済学演習I	1・2前		1.5		○									兼1 ※演習
	経済学演習II	1・2後		1.5		○									兼1 ※演習
	文化社会学I	1・2前		1.5		○									兼1 ※演習
	文化社会学II	1・2後		1.5		○									兼1 ※演習
	社会学特講I	1・2前		1.5		○				1					
	社会学特講II	1・2後		1.5		○				1					
	社会調査実習	1・2通		3				○							兼1
	社会学演習I	1・2前		1.5			○			1					
	社会学演習II	1・2後		1.5			○			1					
	法律学特講I	1・2通		1		○									兼1 集中
	倫理学特講I	1・2前		1.5		○			1						※演習
	倫理学特講II	1・2後		1.5		○			1						※演習
	倫理学演習I	1・2前		1.5			○		1						
	倫理学演習II	1・2後		1.5			○		1						
	法律学特講I	1・2前		1.5		○				1					※演習
	法律学特講II	1・2後		1.5		○				1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	法律学演習I	1・2前		1.5		○				1					※演習
	法律学演習II	1・2後		1.5		○				1					※演習
	哲学特講I	1・2前		1.5		○				1					※演習
	哲学特講II	1・2後		1.5		○				1					※演習
	哲学演習I	1・2前		1.5			○			1					
	哲学演習II	1・2後		1.5			○			1					
	自然地理学特講I	1・2前		1		○				1					
	自然地理学特講II	1・2通		1		○								兼1	
	自然地理学特講III	1・2通		1		○				1				兼1	集中
	人文地理学特講I	1・2通		1		○			1					兼1	
	人文地理学特講II	1・2後		1		○			1						
	人文地理学特講III	1・2通		1		○								兼1	
	地誌学特講I	1・2通		1		○								兼1	集中
	地誌学特講II	1・2後		1		○			1						
	地誌学特講III	1・2通		1		○								兼1	集中
	地域調査法I	1・2前		1		○				1					※演習
	地域調査法II	1・2通		1		○								兼1	※演習
	地域調査法III	1・2前		1		○					1				※演習
	地理教育論I	1・2前		1.5		○			1						※演習
	地理教育論II	1・2後		1.5		○			1						※演習
	歴史教育論I	1・2前		1.5		○				1					※演習
	歴史教育論II	1・2後		1.5		○				1					※演習
	公民教育論I	1・2前		1.5		○			1						※演習
	公民教育論II	1・2後		1.5		○			1						※演習
	地理教育研究法I	1・2前		1.5			○		1	1		1			
	地理教育研究法II	1・2後		1.5			○		1	1		1			
	地理教育研究法IV	1・2前		1.5		○			1						※演習
	地理教育研究法V	1・2後		1.5		○			1						※演習
	歴史教育研究法I	1・2前		1.5			○		1	2					
	歴史教育研究法II	1・2後		1.5			○		1	2					
	歴史教育研究法IV	1・2前		1.5		○			1						※演習
	歴史教育研究法V	1・2後		1.5		○			1	1					※演習
	公民教育研究法I	1・2前		1.5			○		2	3		1			
	公民教育研究法II	1・2後		1.5			○		2	3		1			
	公民教育研究法IV	1・2前		1.5		○			1						※演習
	公民教育研究法V	1・2後		1.5		○			1						※演習
	地理教育演習I	1・2前		1.5			○		1						
	地理教育演習II	1・2後		1.5			○		1						
	歴史教育演習I	1・2前		1.5			○		1						
	歴史教育演習II	1・2後		1.5			○		1						
	公民教育演習I	1・2前		1.5			○		1						
	公民教育演習II	1・2後		1.5			○		1						
	数学教育研究方法論	1・2前		2		○			1						
	数学教育学習論	1・2後		2		○			1						
	数学教育カリキュラム論	1・2後		2		○				1					
	数学教育教材開発論	1・2前		2		○			1						
	数学教育実践演習(代数・幾何)	1・2前		2			○			1					
	数学教育実践演習(確率・統計)	1・2前		2			○			1					
	数学セミナーA	1・2前		1.5			○			1					
	数学セミナーB	1・2後		1.5			○			1	1				
	代数学概論I	1・2前		3		○			1	1		2			
	情報数学概論I	1・2前		3		○			1	1					
	情報数学概論II	1・2後		3		○				1					
	幾何学概論I	1・2前		3		○			1						
	解析学概論I	1・2後		3		○				1					
	数学教育特別研究IA	1・2後		1.5		○			2	1					※演習
	数学教育特別研究IB	1・2後		1.5		○			2	1					※演習
	数学教育特別研究IIA	2前		1.5		○			2	1					※演習
	数学教育特別研究IIB	2後		1.5		○			2	1					※演習
	数学教育特別研究IIIA	2前		1.5		○			2	1					※演習
	数学教育特別研究IIIB	2後		1.5		○			2	1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	数学教育特別研究IIIA演習	2前		1.5				○		2	1					
	数学教育特別研究IIIB演習	2後		1.5				○		2	1					
	数学特別研究IA	1前		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IB	1後		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IIA	2前		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IIB	2後		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IIIA	1前		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IIIB	1後		1.5			○			7	10	5				※演習
	数学特別研究IIIA演習	2前		1.5				○		7	10	5				
	数学特別研究IIIB演習	2後		1.5				○		7	10	5				
	数学特論I	1・2後		1			○									兼1 集中
	数学特論II	1・2後		2			○									兼1 集中
	数学特論III	1・2後		1			○									兼1 集中
	数学教育学特論I	1・2後		1			○									兼1 集中
	数学教育学特論II	1・2前		2			○									兼1 集中
	理科教育基礎論	1前		2			○						1			
	理科教育学演習	1通		2				○						1		
	理科教育学習論	1・2前		2			○			1						
	理科教育研究方法論	1通		1			○			1						
	理科教育実践演習	1・2後		1				○						1		
	基礎物理学1	1・2前		1			○				1					
	基礎化学1	1・2前		1			○			2	1	1	1			
	基礎生物学1	1・2前		1			○			1	1			1		
	基礎地学1	1・2前		1			○			1	1					
	基礎物理学2	1・2後		1			○			2						
	基礎化学2	1・2後		1			○			2	1	1	1			
	基礎生物学2	1・2後		1			○			1	1	1				
	基礎地学2	1・2前		1			○				1	1				
	理科教育実験1	1・2前		1.5					○		2	2				
	理科教育実験2	1・2後		1.5					○	2	1	1				
	物理学教育実験	1・2後		1					○	2						
	化学教育実験	1・2後		1					○			1	1			
	生物学教育実験	1・2前		1					○	3	2	1				
	地学教育実験	1・2前		1					○	1	1	1				
	地学教育野外実験1	1・2通		1					○		1					
	地学教育野外実験2	1・2前		1					○	1	1					
	理科野外実習インターンシップ	1・2前		2			○			2	1					
	物理学特論	1・2前		1			○			2						
	化学特論	1・2前		1			○			2	1	1	1			
	生物学特論	1・2前		1			○			1				1		集中
	地学特論	1・2後		1			○									兼2 集中
	理科教育学特論1	1・2前		1			○			1				2		集中
	理科教育学特論2	1・2前		1			○									兼1
	理科教育特別研究1	1後		1.5				○		11	7	3	4			
	理科教育特別研究2	2通		3				○		11	7	3	4			
	理科教育特別研究3	2通		3				○		11	7	3	4			
	理科教育特論	2通		3				○		11	7	3	4			
	英語科教育学I	1・2前		1.5			○			1						※演習
	英語科教育学II	1・2前		1.5			○			1						※演習
	英語科教育学III	1・2前		1.5			○			1						※演習
	英語科教育学IV	1・2前		1.5			○			1						※演習
	英語科教育学V	1・2後		1.5			○			1						※演習
	英語科教育学VI	1・2後		1.5			○									※演習
	英語科教育学VII	1・2前		1.5				○		1						
	英語科教育学VIII	1・2前		1.5				○		1						
	英語科教育学IX	1・2後		1.5			○				1					※演習
	英語科教育学X	1・2後		1.5			○				1					※演習
	英語科教育学XI	1・2後		1.5			○				1					※演習
	英米文学研究I	1・2通		1.5				○		1						集中
	英米文学研究II	1・2通		1.5				○		1						集中
	英米文学研究III	1・2前		1.5				○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	英米文学研究IV	1・2前		1.5				○			1				
	英米文学研究V	1・2後		1.5				○		1					
	英米文学研究VI	1・2後		1.5				○		1					
	英米文学研究VII	1・2前		1.5				○		1					
	英米文学研究VIII	1・2前		1.5				○		1					
	英語学研究I	1・2前		1.5				○				1			
	英語学研究II	1・2前		1.5				○				1			
	英語学研究III	1・2後		1.5		○			1						※演習
	英語学研究IV	1・2後		1.5		○			1						※演習
	英語学研究V	1・2前		1.5		○				1					※演習
	英語学研究VI	1・2前		1.5		○				1					※演習
	英語学研究VII	1・2後		1.5		○			1						※演習
	英語学研究VIII	1・2後		1.5		○			1						※演習
	英語科教育学実践演習I	1・2前		1.5				○	2						
	英語科教育学実践演習II	1・2前		1.5				○	2						
	英米文学演習I	1・2前		1.5				○		1					
	英米文学演習II	1・2前		1.5				○		1					
	英米文学演習III	1・2前		1.5				○	1						
	英米文学演習IV	1・2前		1.5				○	1						
	英語学演習IV	1・2後		1.5		○						1			
	英語学演習III	1・2後		1.5		○						1			
	英語科教育学特別研究I	2前		1.5		○	○		9	4			2		
	英語科教育学特別研究II	2後		1.5		○	○		9	4			2		
	英語科教育学特別演習I	2前		1.5			○		9	4			2		
	英語科教育学特別演習II	2後		1.5			○		9	4			2		
	保健体育教材開発論実習	1・2通		3						1					
	保健体育教育実践演習I	1前		1				○		1					集中
	保健体育教育実践演習II	2前		1				○		1					集中
	保健体育教育実践演習III	2前		1				○		1					集中
	保健体育カリキュラム論	1・2前		1		○				1					
	保健体育授業づくり論	1・2後		1		○				1					※演習
	体育科学習指導論	1・2後		1		○									兼1
	体育科教育学演習I	1・2通		3				○							兼1
	体育授業観察分析演習	1・2前		2				○							兼1
	体育授業観察分析法I	1・2前		1		○				1					兼1 ※演習
	体育授業観察分析法II	1・2後		1		○									兼2 ※演習
	学校体育経営論	1・2後		1		○									兼1
	アダプテッド・スポーツ教育論	1・2後		1		○									兼2
	保健体育教育特別研究I	1通		3		○	○			1					※演習
	保健体育教育特別研究II	2通		3		○	○			1					※演習
	保健教材論I	1・2後		1		○									兼2 ※演習
	保健教材論II	1・2後		1		○									兼2 ※演習
	身体表現論	1・2前		1		○									兼2
	舞踊授業指導論	1・2後		1		○									兼1
	舞踊指導総合演習	1・2後		1				○							兼1 ※実習
	体操コーチング総合演習	1・2前		1				○							兼2 ※実習
	身体技法論	1・2後		1		○									兼1 ※実習
	身体技法論実習	1・2前		1				○							兼1 ※実習
	体操競技コーチング総合演習	1・2後		1				○							兼1 ※実習
	陸上競技コーチング総合演習	1・2前		1				○							兼2 ※実習
	水泳競技コーチング総合演習	1・2後		1				○							兼1 ※実習
	バレーボールコーチング総合演習	1・2後		1				○							兼2 ※実習
	バスケットボールコーチング総合演習	1・2前		1				○							兼1 ※実習
	ハンドボールコーチング総合演習	1・2前		1				○							兼3 ※実習
	サッカーコーチング総合演習	1・2前		1				○							兼1 ※実習
	ラグビーコーチング総合演習	1・2前		1				○							兼1 ※実習
	テニスコーチング総合演習	1・2後		1				○							兼1 ※実習
	野球コーチング総合演習	1・2前		1				○							兼2 ※実習
	柔道コーチング総合演習	1・2前		1				○							兼2 ※実習
	武道授業指導論	1・2前		1		○									兼5 ※演習
	剣道コーチング総合演習	1・2後		1				○							兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	コーチングのバイオメカニクス	1・2後		1		○									兼1
	体力学特講	1・2前		1		○									兼4
	健康・スポーツ科学のための統計学	1・2前		2		○									兼2
	健康増進学特講	1・2前		1		○									兼1
	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1・2前		1		○									兼1
	スポーツ行政学	1・2前		1		○									兼1
	スポーツリスクマネジメント論	1・2後		1		○									兼1
	スポーツ社会学	1・2前		1		○									兼1
	武道文化論	1・2後		1		○									兼1
	スポーツ心理学	1前		1		○									兼2 集中
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○			1						
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○			1						
	芸術科教育実践演習A	1・2通		1			○								兼1 集中
	芸術科教育実践演習B	1・2前		1			○		1						
	芸術教育方法論A-1	1・2前		1		○									兼1
	芸術教育方法論A-2	1・2後		1		○									兼1
	芸術教育方法論B-1	1・2前		1		○									兼1
	芸術教育方法論B-2	1・2後		1		○									兼1
	芸術教育論A-1	1・2前		1		○									兼1
	芸術教育論A-2	1・2後		1		○									兼1
	西洋美術史-1	1・2前		1		○									兼1
	西洋美術史-2	1・2後		1		○									兼1
	日本美術史	1・2前		1		○									兼1
	美術論	1・2後		1		○									兼1
	美術論特講-1	1・2前		1		○									兼1
	美術論特講-2	1・2後		1		○									兼1
	芸術学習支援論A	1・2通		2		○									兼1
	芸術学習支援論B	1・2通		2		○									兼1
	芸術鑑賞論A-1	1・2後		1		○			1						
	芸術鑑賞論A-2	1・2前		1		○			1						
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○			1						
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○			1						
	構成論特講I	1・2前		1.5		○									兼1
	構成論特講II	1・2後		1.5		○									兼1
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習A-I	1・2前		1.5			○								兼4
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習A-II	1・2後		1.5			○								兼4
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習B-I	1・2春		1.5			○								兼3
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習B-II	1・2後		1.5			○								兼3
	書論特講I	1・2前		1.5		○									兼1
	書論特講II	1・2後		1.5		○									兼1
	書鑑賞論特講I	1・2前		1.5		○									兼1
	書鑑賞論特講II	1・2後		1.5		○									兼1
	芸術科教育研究A-1	1・2前		1			○		1						
	芸術科教育研究A-2	1・2後		1			○		1						
	芸術科教育研究B-1	1・2前		1			○		1						
	芸術科教育研究B-2	1・2後		1			○		1						
	芸術支援学特講-1	1・2前		1		○									兼1
	芸術支援学特講-2	1・2後		1		○									兼1
	西洋近世美術史特講I-1	1・2前		1		○									兼1
	西洋近世美術史特講I-2	1・2後		1		○									兼1
	西洋近世美術史特講II-1	1・2前		1		○									兼1
	西洋近世美術史特講II-2	1・2後		1		○									兼1
	近・現代美術論特講I-1	1・2前		1		○									兼1
	近・現代美術論特講I-2	1・2後		1		○									兼1
	近・現代美術論特講II-1	1・2前		1		○									兼1
	近・現代美術論特講II-2	1・2後		1		○									兼1
	西洋古代美術史特講I-1	1・2前		1		○									兼1
	西洋古代美術史特講I-2	1・2後		1		○									兼1
	西洋古代美術史特講II-1	1・2前		1		○									兼1
	西洋古代美術史特講II-2	1・2後		1		○									兼1
	日本美術史特講I-1	1・2前		1		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	日本美術史特講I-2	1・2後		1		○									兼1
	日本美術史特講II-1	1・2前		1		○									兼1
	日本美術史特講II-2	1・2後		1		○									兼1
	洋画技法論特講	1・2通		2		○									兼5
	日本美術特別技法演習-1	1・2前		1.5			○								兼1
	日本美術特別技法演習-2	1・2後		1.5			○								兼1
	テラコッタ制作	1・2前		1.5				○							兼2
	隸・楷漢字制作	1・2通		3				○							兼1
	行・草漢字制作	1・2通		3				○							兼1
	古文字書法A	1・2通		3				○							兼1
	古文字書法B	1・2通		3				○							兼1
	仮名制作A	1・2通		3				○							兼1
	仮名制作B	1・2通		3				○							兼1
	書学外演習A	1・2通		1.5			○								兼3
	書学外演習B	1・2通		1.5			○								兼3
	現代美術論	1・2後		1.5		○									兼1
	陶磁造形演習I	1・2前		1.5			○								兼1
	陶磁造形演習II	1・2後		1.5			○								兼1
	グラフィックデザイン論特講	1・2前		1		○									兼1
	小計 (366科目)	—	0	530.5	0		—		15	17	3	3	0	兼89	—
合計 (378科目)		—	2	550.5	0		—		15	17	3	3	0	兼99	—
学位又は称号	修士 (教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

教育課程等の概要															
※研究科内の複数専攻の協力により運営する学位プログラム (教育研究科 教育学(国際教育) 修士プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	Education and an Interconnected World	1前	2			○				1		1		兼1  兼3 兼2	
	Pedagogy for a Changing World I	1前	2			○									
	Research Methodology	1前	1			○						1			
	Research Design and Methods	1後	2			○						1			
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar	2通	3					○		2		3			
	国際教育特別研究	2通	3					○		1		3			
小計(6科目)		—	13	0	0	—			0	1	0	2	0	兼3	—
専門応用科目	Pedagogy for a Changing World II	1・2後		2		○								兼1         兼1 兼1       兼2	
	Assessment for Learning I	1前		2		○				1					
	Assessment for Learning II	1・2後		2		○				1					
	Curriculum as Process I	1前		2		○				1					
	Curriculum as Process II	1・2後		2		○				1					
	The IB Primary Years Programme	1・2後		2		○				1					
	The IB Middle Years Programme	1・2後		2		○				1					
	The IB Diploma Programme	1・2後		2		○				1					
	Professional Learning and Reflective Practice	1・2後		1		○				1					
	Field Research	1・2通		1				○							
	国際理解教育論	1・2後		2		○						1			
	グローバル化と教育	1・2後		2		○						1			
	国際教育開発論	1・2前		2		○						1			
	国際教育協力論	1・2前		2		○						1			
	教員養成の国際比較	1・2通		2		○						1			
	高等教育論	1・2前		1		○				1					
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	1前		1		○						2			
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	1・2通		2		○				1		1			
小計(18科目)		—	0	32	0	—			0	1	0	2	0	兼3	—
合計(24科目)			—	13	32	0	—		0	1	0	2	0	兼3	—
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野					教育学・保育学関係							

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
コース共通	必修専門	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1・2前	2			○			5	2					兼1	オムニバス		
		スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1・2前	1			○			5	2						オムニバス		
		スポーツ健康研究方法論Ⅰ	2前	1				○		5	2								
		小計(3科目)	—	4	0	0			—	5	2	0	0	0	兼1	—			
	選択専門	門科目	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	2後		1			○		5	2							
スポーツ健康研究方法論Ⅲ			2前		1			○		5	2								
小計(2科目)			—	0	2	0			—	5	2	0	0	0		—			
スポーツプロモーションコース	選択専門科目	スポーツプロモーション領域	スポーツプロモーション論特講	1・2後		2		○			1								
			スポーツプロモーション論演習1	1・2後		1			○		1								
			スポーツプロモーション論演習2	1・2前		2				○		1							
			スポーツプロモーション論実習	1・2通		1					1				○				
			スポーツイベント論特講	1・2前		2			○			1							
			スポーツイベント論演習1	1・2前		1				○			1						
			スポーツイベント論演習2	1・2後		2				○			1						
			スポーツイベント論実習	1・2通		1						1				○			
			スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ	2後		2				○		1	1						
			スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ	2前		2				○		1	1						
	選択専門科目	スポーツマネジメント領域	スポーツマネジメント論特講	1・2前		2			○		1								
			スポーツマネジメント論演習1	1・2前		1				○		1							
			スポーツマネジメント論演習2	1・2後		2					○		1						
			スポーツマネジメント論実習	1・2通		1						1				○			
			高度競技マネジメント論特講	1・2後		2			○			1							
			高度競技マネジメント論演習1	1・2後		1					○		1						
			高度競技マネジメント論演習2	1・2前		2					○		1						
			高度競技マネジメント論実習	1・2通		1						1				○			
			スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	2後		2					○		2						
			スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	2前		2					○		2						
小計(20科目)	—	0	32	0			—		3	1	0	0	0		—				
関連専門科目	関連専門科目	スポーツプロモーション法制論特講	1・2前		1			○								兼1	隔年		
		スポーツの倫理と教育	1・2前		1			○								兼2	オムニバス, 隔年		
		スポーツプロモーションとビジネス	1・2後		1			○								兼2	オムニバス, 隔年		
		トップアスリートのトレーニング	1・2後		1			○								兼3	オムニバス		
		トップコーチング	1・2後		1			○								兼5	オムニバス		
		生涯スポーツのトータルマネジメント	1・2前		1			○								兼5	オムニバス		
小計(6科目)	—	0	6	0			—		0	0	0	0	0	兼18	—				
ヘルスプロモーションコース	選択専門科目	ヘルスプロモーション領域	ヘルスプロモーション論特講	1・2前		2		○			1								
			ヘルスプロモーション論演習1	1・2前		1				○		1							
			ヘルスプロモーション論演習2	1・2後		2					○		1						
			ヘルスプロモーション論実習	1・2通		1						1				○			
			健康開発プログラム論特講	1・2後		2			○				1						
			健康開発プログラム論演習1	1・2後		1					○		1						
			健康開発プログラム論演習2	1・2前		2					○		1						
			健康開発プログラム論実習	1・2通		1						1				○			
			ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ	2後		2					○		1	1					
			ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ	2前		2					○		1	1					
	選択専門科目	ストレスマネジメント領域	ストレスマネジメントシステム論特講	1・2前		2			○			1							
			ストレスマネジメントシステム論演習1	1・2前		1					○		1						
			ストレスマネジメントシステム論演習2	1・2後		2						○							
			ストレスマネジメントシステム論実習	1・2通		1							1			○			
ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅳ	2後		2					○		1									
ストレスマネジメントシステム研究方法論Ⅴ	2前		2					○		1									
小計(16科目)	—	0	26	0			—		2	1	0	0	0		—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関連 専門 科目	生活機能増進法論特講	1・2後		1		○									兼5	オムニバス
	健康増進基礎論特講	1・2前		1		○				1					兼3	オムニバス
	健康社会論	1・2前		1		○									兼2	オムニバス
	健康支援の理論と実践	1・2前		1		○									兼5	オムニバス
	ヒューマン・ケア科学概論	1・2後		1		○									兼5	オムニバス
	スポーツ健康統計学特講	1・2前		1		○									兼1	
	小計 (6科目)		—	0	6	0		—		0	1	0	0	0	兼19	—
合計 (53科目)		—	4	72	0		—		5	3	0	0	0	兼36	—	
学位又は称号	修士 (体育学) 修士 (保健学)	学位又は学科の分野			体育関係、保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)											

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	人体構造学概論	1前		2		○										兼2
	人体構造学実習	1・2前		1				○								兼2
	人体生理学特論	1前		1		○										兼5
	生化学特論	1前		1		○			2	3	2	1				
	臨床医学概論	1後		2		○			11	1	2					
	社会医学概論	1前	2			○			7	4		6				兼1
	国際保健学特論	1・2後		1		○			2			1				
	疫学概論	1前	1			○			1			1				
	医科学特講	1・2前		1		○			1							
	生命倫理学	1・2前		1		○			2	1		1				
	医情報処理学特論	1前		1		○			1							
	医生物統計学概論	1前		1		○			1	1						
	医生物統計学実習	1前		1				○	1	1						
	医学英語I	1前		1		○				1		2				
	医学英語II	1後		1		○				1		2				
	研究マネジメント基礎	1前		1		○			1			1				
	医科学特別演習	2通	8					○	66	10	1	2				兼18
	インターンシップI	1・2通		1				○	79	58	37	30				兼31
	インターンシップII	1・2通		1				○	79	58	37	30				兼31
	基礎医科学演習	1通		3				○	79	58	37	30				兼31
	国際実践医科学研究特論I	1・2通		1		○			1			1				
	国際実践医科学研究特論II	1・2通		2		○			1			1				
	国際実践医科学研究特論III	1・2通		3		○			1			1				
	留学生セミナー	1・2通		1		○			1							
	医科学セミナーI(ブレインサイエンス)	1・2通		1		○										兼1
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1		○			1							
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1		○				1						
医科学セミナーIV(プライマリケア)	1・2通		1		○				1							
医科学セミナーV(キャリアパス)	1・2通		1		○			1		3	7					
医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通		2		○			2			1					
医科学セミナーVII(臨床研究セミナー)	1・2通	1			○			1								
小計(31科目)		—	12	35	0			—	79	58	37	30	0	兼31	—	
共通専門科目	内科学概論	1後		2		○			11	8	1					
	外科学概論	1後		1		○			4	3						
	ライフサイエンスにおける病態生化学	1後		2		○			4	3	1					
	臨床検査総論	1・2後		1		○			2	1	2					
	English Discussion & Presentation I	1・2前		2				○	1	1		1				兼1
	English Discussion & Presentation II	1・2後		2				○	3	1		2				兼1
	神経科学特論	1・2前		1		○										兼7
	神経科学英語	1後		2		○						1				
	神経回路	1後		3		○						1				
	認知神経科学	1後		3		○						1				
	分子細胞神経生物学	1後		3		○						1				
	Scientific Ethis	1・2前		1		○						1				
	Scientific Critical Reading & Analysis	1・2前		1		○						1				
小計(13科目)		—	0	24	0			—	22	15	4	4	0	兼8	—	
医科学プログラム	人体病理学概論	1前		2		○			3	3	1					
	実験動物科学特論・同実習	1前		2				○	1			1				※講義
	機能形態学特論・同実習	1前		2				○				1				兼2 ※講義
	腫瘍学	1後		2		○			9	3	1					
	薬理学	1前		1		○			2	1	3	2				兼1
	ヒトの感染と免疫	1前		2		○			2	5	1	2				兼1
	ゲノム医学概論	1・2後		2		○			7	1	1					
	医工学概論	1前		1		○						2				兼1
Stem cell therapy	1前		1		○			1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	放射線医科学特論	1後		2		○			5						兼1
	精神医学概論	1後		1		○			1	1	1				
	臨床老年病学	1後		1		○			2	1	1				
	臨床薬剤学特論	1後		1		○			1	1	1				
	橋渡し研究概論	1後		2		○			3	1	1	1			
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1後		1		○			1						
	適正技術教育	1・2通		3		○			1						
	創薬フロンティア科学	1・2後		1		○			1						
	小計(17科目)	—	0	27	0	—			34	16	13	9	0	兼5	—
	人体構造学概論	1前				○						1	1	兼31	
	生命倫理学	1・2前		1		○			2	1		1			
	基礎医科学演習	1通		3			○		79	58	37	30			
	医学物理学詳論IA	1前		2		○			2	1	1				
	医学物理学詳論IB	1後		2		○			2	1	1				
	医学物理学詳論II	1後		2		○			2	1	1				
	医学物理学詳論III	1後		2		○			2	1	1				
	医学物理学詳論IV	1後		2		○			2	1	1				
医学物理学詳論V	1後		2		○			4	1						
医学物理問題解決型演習	1前		1			○		2	1						
医学物理問題解決型実習	1後		1				○	2	2	1					
小計(11科目)	—	0	18	0	—			79	58	37	30	0	兼31	—	
臨床医学概論	1後		2		○			11	1	2			兼1		
社会医学概論	1前	2			○			7	4		6				
医療経済学	1・2後		1		○			1							
医生物統計学概論	1前		1		○			1	1						
医科学セミナーV(キャリアパス)	1・2通		1		○			1		2	1				
橋渡し研究概論	1前		2		○			3	1	1	1				
医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	1後		1		○			1							
臨床試験論	1・2後		1		○			2			1				
医生物統計学特論	1・2後		2		○			1	1						
小計(9科目)	—	2	11	0	—			21	8	5	9	0	—		
公衆衛生学プログラム	基礎科目	健康行動科学論	1・2後	1			○		2	2		3		兼1 兼1	
		保健医療政策学	1・2後	2			○		1						
		医療管理学	1・2後	2			○		1						
		医療経済学	1・2後	1			○		1						
		ヘルスサービスリサーチ概論	1・2前	1			○		1						
		量的研究の批判的評価法	1前		1		○		1						
		システムティックレビュー・メタアナリシス入門	1後		2		○		1						
	小計(7科目)	—	7	3	0	—			6	2	0	3	0	兼1	—
	専門科目	疫学特論	1後	2			○			1			1		兼1 兼1
		臨床試験論	1・2後	1			○			2			1		
		ヘルスプロモーション	1・2前	1			○			1					
		環境保健学	1・2前	1			○								
		環境医学概論	1・2後	2			○			1					
		医生物統計学特論	1・2後	2			○			1	1				
精神保健学		1・2前	1			○			1	1		1			
小計(7科目)	—	4	6	0	—			6	2	0	2	0	兼2	—	
ヒューマン・ケア科学プログラム	基礎科目	ヒューマン・ケア科学基礎論I	1・2前	1			○		3					—	
		ヒューマン・ケア科学基礎論II	1・2前	1			○		4						
		ヒューマン・ケア科学基礎論III	1・2後	1			○		4	1					
		ヒューマン・ケア科学方法論I	1・2前	1			○			2		1			
		ヒューマン・ケア科学方法論II	1・2後	1			○			2		2			
		ヒューマン・ケア科学方法論III	1・2後	1			○			2		1			
	小計(6科目)	—	0	6	0	—			11	7	0	4	0		
	専門科目	保健医療政策学	1・2後	2			○			1					
		医療管理学	1・2後	2			○			1					
		医療経済学	1・2後	1			○				1				
		高齢福祉医療学	1・2前	1			○			1	1				
		緩和医療学	1後				○					1			
		ヘルスサービスリサーチ概論	1・2	1			○			1			1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	精神保健学	1・2		1		○			1	1		1			
	高齢者ケアリング学特論	1・2		1		○			1	1		1			
	認知症高齢者ケアリング学特論	1・2		1		○			1	1		1			
	小計(9科目)	—	4	6	0	—			6	5	1	3	0		—
Master of Public Health Program	基礎科目	社会医学概論	1前	2		○			7	4		6		兼1	
		国際保健学特論	1・2後	1		○			2			1			
		疫学概論	1前	1		○			1			1			
		医生物統計学概論	1前	1		○			1	1					
		医生物統計学実習	1前	1				○	1	1					
		医学英語I	1前	1		○				1			2		
		医学英語II	1後	1		○				1			2		
		医学英語III	1通	1		○				1			2		集中
		医科学特別演習	2通	8				○	66	10	1	2		兼18	
		基礎医科学演習	1通		3			○	79	58	37	30		兼31	
		留学生セミナー	1・2通		1		○		1						
		健康行動科学論	1・2後	1			○		2	2		3			
		保健医療政策学	1・2後	2			○		1						
		医療管理学	1・2後	2			○		1						
		医療経済学	1・2後	1			○		1						
		ヘルスサービスリサーチ概論	1・2前	1			○		1						
		量的研究の批判的評価法	1前		1		○		1						兼1
		システマティックレビュー・メタアナリシス入門	1後		2		○		1						兼1
	小計(18科目)	—	18	13	0	—			79	58	37	30	0	兼31	—
Master of Public Health Program	専門科目	ゲノム医学概論	1・2後	2		○			7	1	1				
		疫学特論	1後	2		○			1			1			
		ヘルスプロモーション	1・2前	1		○			1						兼1
		環境保健学	1・2後	1		○									
		予防環境医学	1・2後	2		○			1			1			
		医生物統計学特論	1・2後	2		○			1	1					
		精神保健学	1・2前	1		○			1	1		1			
		医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通	2		○			2			1			
	小計(8科目)	—	4	9	0	—			14	3	1	3	0	兼1	—
Dual Master Degree Program	基礎科目	人体生理学特論	1前	1		○						1		兼5	
		生化学特論	1前	1		○			2	3	2	1			
		社会医学概論	1前	2		○			7	4		6		兼1	
		国際保健学特論	1・2後	1		○			2			1			
		疫学概論	1前	1		○			1			1			
		医生物統計学概論	1前	1		○			1	1					
		医生物統計学実習	1前	1				○	1	1					
		医学英語I	1前	1		○				1			2		
		医学英語II	1後	1		○				1			2		
		基礎医科学演習	1通	3				○	79	58	37	30		兼30	
		医科学特別演習	2通	8				○	59	9	1	3		兼16	
		人体病理学概論	1前	2		○			3	3	1				
		実験動物科学特論・同実習	1前	2				○	1			1			※講義
	小計(13科目)	—	11	14	0	—			79	58	37	30	0	兼31	—
Master of Public Health Program	専門科目	English Discussion & Presentation on Medical Sciences I	1・2前	2				○	1	1		1		兼1	
		English Discussion & Presentation on Medical Sciences II	1・2後	2				○	3	1		2		兼1	
		腫瘍学	1後	2		○			9	3	1				
		薬理学	1前	1		○			2	1	3	2		兼1	
		ヒトの感染と免疫	1前	2		○			2	5	1	2		兼1	
		ゲノム医学概論	1・2後	2		○			7	1	1				
		Stem cell therapy	1前	1		○			1			1			
		橋渡し研究概論	1前	2		○			3	1	1	1			
		創薬フロンティア科学	1・2後	1		○			1						
		疫学特論	1後	2		○			1			1			
	予防環境医学	1・2後	2		○			1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	保健医療政策学	1・2後	2			○			1						
	医療管理学	1・2後	2			○			1						
	ヘルスサービスリサーチ概論	1・2前	1			○			1						
	医科学セミナーII(生化学、分子生物学)	1・2通		1		○			1						
	医科学セミナーIII(免疫学)	1・2通		1		○				1					
	医科学セミナーVI(疫学・生物統計学)	1・2通		2		○			2				1		
	小計(17科目)	—	7	21	0		—		37	14	7	11	0	兼4	—
合計(166科目)		—	69	193	0		—		79	58	37	30	0	兼31	—
学位又は称号	修士(医科学) 修士(公衆衛生学) 修士(ヒューマン・ケア 科学)	学位又は学科の分野					医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 教育学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	教育学セミナーI(歴史と政策)	1・2通		2		○			1	1					
	教育学セミナーII(学校の内と外)	1・2通		2		○			2						
	教育学セミナーIII(地球と環境)	1・2通		2		○						1			
	教育学セミナーIV(教育と社会)	1・2通		2		○				1		1			
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	3	1	0	2	0		—
専門基礎科目	教育学研究方法論A(文献研究)	1・2前	2				○		2	1					
	教育学研究方法論B(実験・観察・フィールドワーク)	1・2後	2				○		2	2					
	小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	4	3	0	0	0		—
専門科目	教育哲学特講	1・2通		2		○							1		
	教育哲学演習	1・2通		2			○						1		
	日本教育史特講	1・2通		2		○				1					
	日本教育史演習	1・2前		2			○			1					
	外国教育史特講	1・2通		2		○									兼1
	外国教育史演習	1・2通		2			○								兼1
	生涯学習・社会教育学特講	1・2通		2		○				1					
	生涯学習・社会教育学演習	1・2通		2			○			1					
	教育制度学特講	1・2通		2		○			1						
	教育制度学演習	1・2通		2			○		1						
	教育行政学特講	1・2通		2		○									兼1
	教育行政学演習	1・2通		2			○								兼1
	学校経営学特講	1・2通		2		○			1						
	学校経営学演習	1・2通		2			○		1	1					
	比較・国際教育学特講	1・2通		2		○							1		
	比較・国際教育学演習	1・2通		2			○						1		
	高等教育論特講	1・2通		2		○				1					
	カリキュラム論特講	1・2通		2		○				1					
	カリキュラム論演習	1・2通		2			○			1					
	教育方法学特講	1・2通		2		○			1						
	教育方法学演習	1・2通		2			○		1						
	道德教育学特講	1・2通		2		○			1						
	道德教育学演習	1・2通		2			○		1						
	社会科教育学特講	1・2通		2		○			1	1					
	社会科教育学演習	1・2通		2			○		1						
	人文科教育学特講	1・2通		2		○			1	1					
	人文科教育学演習	1・2通		2			○		1	1					
	数学教育学特講	1・2通		2		○			2	1					
	数学教育学演習	1・2通		2			○		2	1					
	理科教育学特講	1・2通		2		○			1						
	理科教育学演習	1・2通		2			○		1						
	キャリア教育学特講	1・2前		2		○			1						
	キャリア教育学演習	1・2通		2			○		1						
	共生教育学特講	1・2通		2		○			1						
	共生教育学演習	1・2通		2			○		1						
	共生社会学特講	1・2通		2		○									兼1
	共生社会学演習	1・2通		2			○								兼1
	教育社会学特講	1・2通		2		○				1					
	教育社会学演習	1・2通		2			○								兼1
	教育臨床学特講	1・2前		2		○			1						
	教育経営開発論特講	1・2通		2		○									兼1
	教育経営開発論演習	1・2通		2			○								兼1
	教育臨床学演習	1・2通		2			○								兼1
	初等教育学特論	1・2通		2		○			1	1					
	初等教育応用実習	1・2通		4					1	1					
	初等教育応用研究	1・2通		4			○		1	1					
小計(46科目)	—	0	96	0	—	—	—	8	6	0	4	0	兼5	—	
合計(52科目)	—	4	104	0	—	—	—	8	6	0	6	0	兼5	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	修士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 心理専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	心理学方法論I	1前	2			○			6	3		1		オムニバス オムニバス  兼1 集中 兼1 集中 兼1 集中 兼1 集中 兼1 集中 兼1 集中	
	心理学方法論II	1後	2			○			6	3		1			
	心理学インターンシップ	1・2通		1				○	1						
	心理学特別研究A	2前		2				○	6	3		1			
	心理学特別研究B	2後		2				○	6	3		1			
	心理学特別研究S	2通		2				○	6	3		1			
	心理学先端研究M1	1・2通			0.5		○								
	心理学先端研究M2	1・2通			0.5		○								
	心理学先端研究M3	1・2通			0.5		○								
	心理学先端研究M4	1・2通			0.5		○								
	心理学キャリア形成M1	1・2通			0.5		○		1						
	心理学キャリア形成M2	1・2通			0.5		○		1						
小計(12科目)	—	—	4	6	4	—	—	—	6	3	0	4	0	兼1	—
専門科目	心理基礎コース														
	感覚知覚心理学特講	1・2前		2		○									兼1
	認知心理学特講	1・2前		2		○			1						
	認知心理学演習I	1前		2			○		1						
	認知心理学演習II	2後		2			○		1						
	言語心理学特講	1・2後		2		○									兼1
	言語心理学演習I	1前		2			○								兼1
	言語心理学演習II	2後		2			○								兼1
	学習心理学特講	1・2前		2		○									兼1
	心理学と認知支援工学特講	1・2通		2		○									兼1
	心理学と認知支援工学演習I	1前		2			○								兼1
	心理学と認知支援工学演習II	2後		2			○								兼1
	教育心理学特講	1・2後		2		○				1					
	教育心理学演習I	1後		2			○			1					
	教育心理学演習II	2後		2			○			1					
	心理統計学特講	1・2後		2		○					1				
	教育測定学演習I	1前		2			○				1				
	教育測定学演習II	2後		2			○				1				
	青年心理学特講	1・2前		2		○			1						
	青年心理学演習I	1前		2			○		1						
	青年心理学演習II	2後		2			○		1						
	社会心理学特講	1・2前		2		○			1						
	社会心理学演習I	1前		2			○		1						
	社会心理学演習II	2後		2			○		1						
	臨床社会心理学特講(心の健康教育に関する理論と実践)	1・2前		2		○				1					
	臨床社会心理学演習I	1後		2			○			1					
臨床社会心理学演習II	2後		2			○			1						
小計(26科目)	—	—	0	52	0	—	—	—	6	2	0	1	0	兼5	—
心理臨床コース	臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1通		2			○		1						集中
	臨床心理査定演習II	2前		2			○			1					
	児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X)	1・2後		2		○			1						
	発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2後		2		○			1						
	アセスメント心理学特講 I	1・2前		2		○				1					
	心理臨床I	1・2通		2		○									兼1
	心理臨床II	1・2通		2		○									兼1
	臨床心理学特講 I	1前		2		○			1						
	臨床心理学特講 II	1後		2		○			1						
	臨床心理面接特講 I(心理支援に関する理論と実践)	1前		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	臨床心理面接特講 II	1前		2		○			1							
	精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開X)	1・2後		1		○									兼1	
	アセスメント心理学特講 II	1・2前		2		○				1						
	老年心理学特講	1・2前		2		○									兼1	
	臨床心理家族・地域援助特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1・2後		2		○			1			1				
	非行・犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2後		2		○									兼1	
	学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Z)	1・2前		2		○									兼1	
	キャリア特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開X)	1・2後		2		○									兼1	
	産業臨床心理学特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2前		2		○									兼1	
	神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開Y)	1・2通		1		○			1						集中	
	臨床心理基礎実習	1通		2				○	2	1	0	3			兼3	
	臨床心理実習I(心理実践実習IIC)	2通		2				○	2	1	0	3			兼1	
	臨床心理実習II	2通		2				○	2	1	0	3			兼1	
	発達臨床心理実習 I (心理実践実習IID)	2通		2				○	3							
	発達臨床心理実習II	2通		2				○	2							
	心理実践実習IB	1通		2				○	3	1		3			兼1	
	心理実践実習IIA	2通		2				○	3	1		3			兼1	
	心理実践実習IIB	2通		2				○	3	1		3			兼1	
	小計(28科目)	—	0	54	0			—	3	1	0	3	0	兼14	—	
	合計(66科目)	—	4	112	4			—	6	3	0	4	0	兼20	—	
学位又は称号	修士(心理学)		学位又は学科の分野			文学関係										

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 障害科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	障害科学	1前	1			○			1	1					オムニバス
	障害科学調査・実験実習I	1前	1					○		4	1	2			
	障害科学調査・実験実習II	1後	1					○		1	1				
	障害科学研究法I	1・2通	1					○	9	9	1	3			兼5
	障害科学研究法II	2通	1					○	9	9	1	3			兼5
	障害科学研究法III	2通	1					○	9	9	1	3			兼5
	小計(6科目)		—	6	0	0			—	9	9	1	3	0	兼5
専門基礎科目 / 専門共通科目	特別支援教育総論	1・2前		2		○			2	1					
	視覚障害教育学	1・2後		2		○				1					
	視覚障害指導法	1・2後		2		○				1		1			
	視覚障害心理学	1・2前		2		○									兼1
	視覚障害病態生理学	1・2前		2		○			1						
	肢体不自由教育学	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由指導法	1・2後		1		○			1						
	肢体不自由心理学	1・2後		1		○									兼1
	肢体不自由病態生理学	1・2後		1		○			1						
	障害児教育課程論	1・2後		1		○					1				
	知的障害教育学	1・2春		1		○					1				
	知的障害指導法	1・2後		2		○			1	1					
	知的障害心理学	1・2前		1		○					1				
	知的障害病態生理学	1・2前		1		○					1				兼1 集中
	聴覚障害指導法	1・2通		2		○			1	1					
	重複障害指導法	1・2後		1		○			1	1					
	特別支援学校教育実習	1・2通		3				○	1	4					
	発達・行動・言語障害指導法	1・2前		1		○			1						
	発達・行動障害生理・心理学	1・2前		1		○			1	1					
	言語障害生理・心理学	1・2前		1		○					1				
	病弱教育学	1・2前		1		○			1						兼1 集中
	病弱指導法	1・2前		1		○			1						兼1 集中
	病弱心理学	1・2前		1		○			1						兼1 集中
	病弱病態生理学	1・2後		1		○			1						
	聴覚障害教育学I	1・2後		1		○			1						
	聴覚障害教育学II	1・2後		1		○					1				
	聴覚障害心理学I	1・2前		1		○			1						
聴覚障害心理学II	1・2前		1		○					1					
聴覚障害病態生理学I	1・2前		1		○			1							
聴覚障害病態生理学II	1・2前		1		○					1					
小計(30科目)		—	0	39	0			—	9	7	0	1	0	兼4	—
専門科目	特別支援教育学(特別支援教育学)	1後		1				○		1		1			
	視覚障害教育実践学セミナー	1後		1				○		1		1			兼1
	視覚障害教育開発演習	2通		2				○		2		1			
	聴覚障害教育実践学セミナー	1後		1				○		2					
	聴覚障害教育開発演習	2通		2				○		2					
	知的障害教育実践学セミナー	1後		1				○			1				
	知的障害教育開発演習	2通		2				○			2				
	肢体不自由教育実践学セミナー	1後		1				○		1					
	肢体不自由教育開発演習	2通		2				○		2					兼1
	病弱教育実践学セミナー	1後		1				○		1					
	自閉症教育実践学セミナー	1後		1				○		1					
	自閉症教育開発演習	2通		2				○		3					
	発達障害教育実践学セミナー	1後		1				○		1					
	発達障害教育開発演習	2通		2				○		1	1				
	言語・コミュニケーション障害教育実践学セミナー	1後		1				○			1				
自立活動論	1・2後		1				○		1						
理療教育学特講	1前		1				○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	医療科教育実践演習	2通		1			○			1						
	東洋医学概論	1前		1		○				1						
	理療臨床論特講	1前		1		○				1						
	理療教育学演習	2通		2			○			1						
	理療研究法	1通		2				○		1						
	理療教育指導実習	1前		1				○		1						
	理療教育授業開発演習	1通		1			○			1						
	視覚障害教育実践学特講	1前		1		○			1	1		1			兼1	
	知的障害教育実践学特講	1前		1		○				1						
	肢体不自由教育実践学特講	1前		1		○			1							
	病弱教育実践学特講	1前		1		○			1							
	自閉症教育実践学特講	1前		1		○			1							
	発達障害教育実践学特講	1前		1		○			1							
	言語・コミュニケーション障害教育実践学特講	1前		1		○									兼1	集中
	特別支援教育実践学実習	1後		2				○	5	4		1			兼1	
	特別支援教育カリキュラム・授業開発論	1・2前		1		○			1							
	特別支援教育学	1・2前		1		○				1						
	理療臨床論	1通		1		○				1						
	理療臨床実習	1・2通		2				○		1						
小計 (35科目)	—		0	45	0		—	9	9	0	1	0		兼3	—	
障害支援学 (障害臨床支援学)	臨床発達心理学	1・2前		2		○								兼1		
	教育臨床発達援助論	1・2前		2		○			3						集中	
	知的・発達障害心理学特講	1・2後		2		○				1						
	知的・発達障害指導法特講	1・2前		2		○			1	1						
	行動障害指導法特講	1・2後		2		○			1			1				
	行動問題面接指導法特講	1・2後		2		○			1			1				
	障害支援保育論	1・2前		2		○			1							
	臨床発達心理学査定法特講	1・2前		2		○			2	1					集中	
	自閉症スペクトラム障害専門実習	1・2通		3				○	2			1				
	行動臨床心理学	1・2前		2		○			1						集中	
言語・コミュニケーション障害心理学	1・2後		2		○				1							
小計 (11科目)	—		0	23	0		—	4	3	0	1	0		兼1	—	
障害支援学 (障害福祉支援)	障害福祉支援の理論と方法 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2通		2		○						1				
	障害者の生活と権利擁護研究	1・2通		2		○					1					
	地域福祉研究	1・2後		1		○						1				
	障害福祉支援学演習	2通		2			○				1	2			兼1	
	障害福祉支援学実践実習	1通		3				○			1	2			兼1	
	高齢福祉心理学特講	1・2前		1		○									兼1	
小計 (6科目)	—		0	11	0		—	0	0	1	2	0		兼1	—	
障害共通	視覚障害生理・心理学セミナー	1・2後		1			○		1							
	聴覚障害生理・心理学セミナー	1・2後		1			○		2	2						
	運動障害生理・心理学セミナー	1・2後		1			○		1						兼1	
	病弱生理・心理学セミナー	1・2前		1			○		1							
	言語障害生理・心理学セミナー	1・2後		1			○			1						
	障害学生支援学特講	1・2前		1		○			1	2	1					
	障害学生支援学セミナー	1・2後		1			○			1	1					
	障害児教育国際教育開発論	1・2前		1		○			1							
	海外特別研修セミナー	1・2通		2			○		4							
	学習障害特講	1・2前		1		○									兼1	
	障害原理論特講	1・2前		1		○			1						集中	
	障害原理論セミナー	1・2後		1			○		1							
	知的・発達障害生理・心理学セミナー	1・2後		1			○			1						
	Special Lecture on Disability Sciences	1・2前		1		○				1		2			集中	
小計 (14科目)	—		0	15	0		—	5	2	0	2	0		兼2	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
後 期 科 目 接 続	障害科学講究I	1後		1				○		1	1				
	障害科学講究II	1・2通		1				○	9	9	1	3		兼5	
	障害科学講究III	2通		1				○	9	9	1	3		兼5	
	小計 (3科目)	—	0	3	0	—			9	9	1	3	0	兼5	
合計 (105科目)		—	6	136	0	—			9	9	1	3	0	兼5	
学位又は称号	修士 (障害科学) 修士 (特別支援教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 生涯発達専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
カウンセリングコース	基礎科目	生涯発達方法論基礎Ⅰ	1			○			5	3					オムニバス
	生涯発達方法論基礎Ⅱ	1	1				○		5	3					オムニバス
	生涯発達方法論基礎Ⅲ	1	1				○		5	3					オムニバス
	生涯発達研究法Ⅰ	2	1				○		5	3					オムニバス
	生涯発達研究法Ⅱ	2	1				○		5	3					オムニバス
	小計(5科目)	—	5	0	0	—	—	—	5	3	0	0	0	—	—
カウンセリングコース	専門科目	カウンセリング心理学	1前	2			○		1						
	家族・福祉カウンセリング特別研究	2通	2					○	2	1					
	学校・教育カウンセリング特別研究	2通	2					○	2	1					
	産業・社会カウンセリング特別研究	2通	2					○	1	1					
	生涯発達臨床心理学Ⅰ	1・2前	2				○		1						
	生涯発達臨床心理学Ⅱ	1・2前	2				○		1						
	学校心理学	1・2後	2				○			1					
	学校教育相談	1・2後	2				○		1						隔年
	健康心理学	1・2後	2				○			1					
	キャリア心理学	1・2後	2				○		1						
	心理・教育統計法	1前	2				○			1					
	社会調査法	1前	2					○			1				
	データ解析法	1後	2					○			1				
	グループプロセス	1前	2				○				1				
	心理・教育アセスメント	1後	2				○		1						
	人格心理学	1・2前	2				○		1						
	人間関係論	1・2前	2					○		1					兼1
	組織心理学	1・2後	2				○		1						
	ヘルピング・スキル	1・2後	2				○		1						隔年
	カウンセリング方法論	1・2後	2				○		1						
	職場のメンタルヘルス	1・2後	2				○			1					
	非行・犯罪心理学	1・2後	2				○		1						
	カウンセリング方法論基礎	1前	2				○								兼1 隔年
	心理療法	1・2通	2				○								兼1 隔年
	心理診断法	1・2通	2				○								兼1 隔年
	心身医学	1・2前	1				○								兼1 隔年,集中
	家族心理学	1・2後	1				○								兼1
	認知行動療法	1・2後	2				○								兼2 集中
	事例研究法	1・2前	2				○								兼1 集中
	人間行動基礎論Ⅰ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅱ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅲ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	人間行動基礎論Ⅳ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	1・2通	1				○								兼1 隔年,集中
	生涯発達カウンセリング基礎面接実習	1通	1						○	5	2				兼2 ※講義・演習
	生涯発達カウンセリング応用面接実習	2通	1						○	5	2				兼1 ※講義・演習
	生涯発達カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	1					※講義・演習
	産業カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	1					※講義・演習
	教育カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	1					※講義・演習
	家族カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	1					※講義・演習
	学校カウンセリング特別面接実習	2通	2						○		1				※講義・演習
	健康心理カウンセリング特別面接実習	2通	2						○		1				※講義・演習
	精神衛生カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	2					※講義・演習
	臨床心理カウンセリング特別面接実習	2通	2						○	2	1				※講義・演習
	生涯発達カウンセリング実践面接実習	2通	2						○						兼1 隔年
小計(48科目)	—	8	76	0	—	—	—	—	5	3	0	0	0	兼10	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
リハビリテーションコース	基礎科目	生涯発達方法論基礎Ⅰ	1			○			3	2					兼1	オムニバス
		生涯発達方法論基礎Ⅱ	1				○		3	2					兼1	オムニバス
		生涯発達方法論基礎Ⅲ	1				○		3	2					兼1	
		生涯発達研究法Ⅰ	2				○		3	2					兼1	
		生涯発達研究法Ⅱ	2				○		3	2					兼2	
		リハビリテーション概説	1				○		3	2					兼2	
		リハビリテーション研究基礎論	1				○		3	2					兼4	
		リハビリテーション特別研究	2					○	3	2					兼1	
		小計(8科目)	—	9	0	0	—	—	3	2	0	0	0	0	兼5	—
	専門科目	医学的リハビリテーション	1・2前		1		○			1						
特別支援教育総論		1・2前		1		○			1	1						
社会リハビリテーション		1・2前		1		○			1							
職業リハビリテーション		1・2前		1		○				1						
地域リハビリテーション		1・2前		2		○			1							
リハビリテーションカウンセリング		1・2前		1			○			1						
視覚障害学特論		1・2前		2		○				1						
聴覚障害学特論		1・2前		2		○									兼1	
言語障害学特論		1・2後		2		○									兼1	
運動障害学特論		1・2前		2		○			1							
知的障害学特論		1・2後		2		○			1						兼1	
精神障害学特論		1・2後		2		○			1							
健康障害学特論		1・2前		1		○			2							
高齢障害学特論		1・2後		1		○				1						
発達障害学特論		1・2前		2		○									兼1	
リハビリテーション特論Ⅰ		1・2後		1		○									兼5	
リハビリテーション特論Ⅱ		1・2後		1		○									兼5	
特別支援教育授業論		1・2後		1		○			1	1					兼1	
特別支援教育教育課程論		1・2後		1		○			1	1					兼1	
特別支援教育コーディネーター論		1・2後		1		○									兼1	
職業指導論		1・2前		1		○				1						
障害者福祉論		1・2前		1		○			1							
リハビリテーション事例研究		1・2後		2			○		3	2					兼1	
特別支援教育事例研究		1・2後		2			○		3	2					兼1	
リハビリテーション課題研究		1・2通		1			○		3	2					兼1	
統計学Ⅰ		1・2前		2		○			2	2						
統計学Ⅱ		1・2前		1			○		1						集中	
リハビリテーション英語		1・2前		1			○			1					集中	
視覚障害学演習		1・2後		1			○			1						
聴覚障害学演習		1・2後		1			○								兼1	
言語障害学演習		1・2後		1			○								兼1	
運動障害学演習		1・2後		1			○		1							
健康障害学演習		1・2後		1			○		1							
高齢障害学演習		1・2後		1			○		1							
知的障害学演習		1・2後		1			○		1						兼1	
発達障害学演習		1・2後		1			○								兼1	
精神障害学演習		1・2後		1			○		1							
社会リハビリテーション演習		1・2後		1			○		1							
職業リハビリテーション演習		1・2後		1			○			1						
リハビリテーション特殊講義Ⅰ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
リハビリテーション特殊講義Ⅱ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
リハビリテーション特殊講義Ⅲ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
リハビリテーション特殊講義Ⅳ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
リハビリテーション特殊講義Ⅴ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
リハビリテーション特殊講義Ⅵ		1・2前		1			○								兼1	隔年,集中
小計(45科目)	—	0	56	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0	兼21	—	
合計(106科目)			—	22	132	0	—	—	8	5	0	0	0	0	兼31	—
学位又は称号	修士(カウンセリング) 修士(リハビリテーション)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通大学院科目	研究倫理	1・2・3・4・5前		1							1			兼1	
	応用倫理	1・2・3・4・5後		1						1				兼1	
	小計(2科目)	—	0	2	0				0	1	1	0	0	兼2	—
基礎科目	感性認知脳科学基礎論1A	1前	6			○			9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学基礎論1B	1前	2			○			9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学基礎論2	1後	3			○			1						
	感性認知脳科学セミナー	2前	1				○		1						
	感性認知脳科学実験実習I	1前	2					○	9	12	1	5		兼9	※講義
	感性認知脳科学実験実習II	1前	2					○	9	12	1	5		兼9	※講義
	感性認知脳科学実習1	1前	1					○	2						※講義, 集中
	感性認知脳科学実習2	2前	1					○	2						※講義, 集中
	感性認知脳科学総合演習A	1前	1				○		1	2		4			
	感性認知脳科学総合演習B	1後	1				○		1	2		4			
	感性認知脳科学総合演習C	2前	1				○		1	2		4			
	専門科学英語1	1・2通	2				○		3						隔年
	専門科学英語2	1・2通	2				○		3						隔年
	英語ジャーナルクラブ1	1・2通	2				○		3	1					隔年
	英語ジャーナルクラブ2	1・2通	2				○		3	1					隔年
	プレミアム論文研究セミナー1	1・2通	2				○		4						※講義, 隔年
	プレミアム論文研究セミナー2	1・2通	2				○		4						※講義, 隔年
	「こころ」の科学演習1	1・2通	1				○		1	1					隔年
	「こころ」の科学演習2	1・2通	1				○		1	1					隔年
	「こころ」の科学セミナー1	1・2通	1				○		9	12	1	5		兼9	隔年
	「こころ」の科学セミナー2	1・2通	1				○		9	12	1	5		兼9	隔年
	感性認知脳科学特講1	1・2通	1				○		9	12	1	5		兼9	集中
	感性認知脳科学特講2	1・2通	1				○		9	12	1	5		兼9	集中
	感性認知脳科学特講3	1・2通	1				○		9	12	1	5		兼9	集中
	小計(25科目)	—	—	17	23	0				9	12	1	5	0	兼9
専門科目	感性科学特別研究A	2前		1.5				○	9	9		1		兼8	
	行動科学特別研究A	2前		1.5				○	9	9		1		兼8	
	神経科学特別研究A	2前		1.5				○	9	9		1		兼8	
	感性科学特別研究B	2後		1.5				○	9	9		1		兼8	
	行動科学特別研究B	2後		1.5				○	9	9		1		兼8	
	神経科学特別研究B	2後		1.5				○	9	9		1		兼8	
	感性科学特別研究S	2通		1.5				○	9	9		1		兼8	集中
	行動科学特別研究S	2通		1.5				○	9	9		1		兼8	集中
	神経科学特別研究S	2通		1.5				○	9	9		1		兼8	集中
	感性認知脳科学研究法1A	1前	1.5				○		9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学研究法2A	2前	1.5				○		9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学研究法1B	1後	1.5				○		9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学研究法2B	2後	1.5				○		9	12	1	5		兼9	
	感性認知脳科学研究法1S	1通	1.5		1.5		○		9	12	1	5		兼9	集中
	感性認知脳科学研究法2S	2通	1.5		1.5		○		9	12	1	5		兼9	集中
	小計(16科目)	—	—	6	16.5	0				9	12	1	5	0	兼9
合計(43科目)		—	23	41.5	0				9	12	1	5	0	兼11	—
学位又は称号	修士(感性科学) 修士(行動科学) 修士(神経科学) 修士(学術)		学位又は学科の分野			文学関係、美術関係、医学関係									

## 教育課程等の概要 (事前伺い)

(人間総合科学研究科 看護科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	看護科学論	1前	2			○			3	2		3			
	看護コミュニケーション論	1前		2		○			1	2		2		兼1	
	看護コンサルテーション論	1前		2		○			2					兼3	
	看護学研究法	1前		3		○			2			3			
	保健統計学	1前		2		○			1	1		1			
	国際看護学	1後		2		○			1						
	看護倫理学	1前		2		○			3	2		2			
	看護教育論	1前		2		○			2			1		兼2	
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			2			4			
	病態生理学	1前		2		○			1			2			
	臨床薬理学	1前		2		○			1	1		2		兼1	
	看護教育学	1前		2		○			2	1					
	地域母子保健論	1前		1		○				1		3		兼1	
	女性と健康	1前		2		○			1					兼2	
	女性の精神保健学	1前		1		○			2			1		兼2	
生殖生命倫理学	1前		2		○			3	1		1		兼2		
周産期のフィジカルアセスメント	1前		1		○				1		1		兼2		
小計 (17科目)		—	2	30	0			—	7	5	0	11	0	兼15	—
専門科目	ウィメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			1	1		1			
	ウィメンズヘルス看護学演習I	1前		2		○			1	1		1			
	ウィメンズヘルス看護学演習II	1後		2			○		1	1		1			
	ウィメンズヘルス看護学演習III	1後		3			○		1	1		1			
	ウィメンズヘルス看護学演習IV	2前		3			○		1	1		1			
	助産学特論I	1前		2		○			1					兼1	
	助産学演習I	1前		2			○			1		1		兼2	
	助産学特論II	1前		2		○				1		1		兼1	
	助産学演習II	1前		2			○			1		1		兼1	
	助産学特論III	2前		1		○			1					兼1	
	助産学演習III	2前		1			○			1		1			
	助産学実習I	1後		8				○		1	1	1			
	助産学実習II	1・2通		3				○		1	1	1			
	発達支援看護学特論	1前		2		○				1		1			
	発達支援看護学演習	1前		2			○			1		1			
	家族看護学特論	1前		2		○				1		1		兼1	
	家族看護学演習	1後		2			○			1	1	1		兼1	
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	1後		2			○			2	2	3			
	養育期家族援助学	1前		2		○				1	1	1			
	家族生活アセスメント学	1前		2		○				3	3	3			
	家族アセスメント/インターベンション学	1前		2		○				3	3	4		兼2	
	家族看護実践学	1後		2		○				1	1	1		兼4	
	家族看護学基盤実習	1後		2				○			1	1			
	家族看護学展開実習	1後		4				○			1	1			
	家族看護学統合実習	2通		2				○			1	1			
	国際発達ケア特論	1前		2		○				1					
	国際発達ケア演習	1後		2			○			1					
	がん看護学特論I	1前		2		○				1		2			
	がん看護学演習I	2後		2			○			1		2			
	がん看護学特論II	1後		2		○				1		2		兼4	
	がん看護学演習II	2後		2			○			1		2			
がん看護学特論III	1後		2		○				1		3		兼1		
基礎腫瘍学特論	1前		1		○				1		2				
臨床腫瘍学特論	1前		1		○				1		2				
緩和ケア特論	1後		2		○				1		2				
がん看護学実習I	1後		2				○		1		2				
がん看護学実習II	2前		4				○		1		2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	がん看護学実習III	2前		2				○	1				2		兼1
	精神保健看護学特論	1・2前		2		○			1				1		
	精神保健看護学演習	1後		2			○		1				1		兼1
	精神看護学特論I	1前		2		○			1				1		
	精神看護学特論II	1後		2		○			1				1		兼2
	精神看護学特論III	1後		2		○			1				1		
	精神看護学演習I	1後		2			○		1				1		兼2
	精神看護学演習II	1後		2			○		1				1		
	精神看護学実習I	1後		4				○	1				1		兼2
	精神看護学実習II	2前		4				○	1				1		
	地域健康・公衆衛生看護学特論	1・2前		2		○			1	1			1		兼2
	地域健康・公衆衛生看護学演習	1後		2			○		1	1			1		
	国際看護学特論	1・2前		2		○			1				3		兼2
	国際看護学演習	1後		2			○		1				3		
	療養調整看護学特論	1・2前		2		○			1	2			2		兼2
	療養調整看護学演習	1・2後		2			○		1	2			2		
	慢性看護学I特論	1前		2		○			1	1			1		兼2
	慢性看護学II特論・演習	2前		2			○		1	1			1		
	慢性看護学III特論	1後		2		○			1	1			1		兼2
	慢性看護学III演習	1後		2			○		1	1			1		
	慢性看護学IV特論	1前		2		○			2	1					兼2
	慢性看護学V特論	1後		2		○			1	1			1		
	慢性看護学V演習	2後		2			○		1	1			1		兼2
	慢性看護学実習I	2通		4				○	1	1			1		
	慢性看護学実習II	2通		4				○	1	1			1		兼2
	小計 (62科目)	—	0	141	0			—	7	5	0	11	0	兼19	
専攻共通科目	インターンシップ	1・2通		2				○	7	5			11		兼19
	看護科学特別実習	1・2通		2				○	7	5			11		
	看護科学特別研究	2通	4			○			7	5			11		
	小計 (3科目)	—	4	4	0			—	7	5	0	11	0	—	
合計 (82科目)		—	6	175	0			—	7	5	0	11	0	兼19	—
学位又は称号		修士 (看護科学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係)							

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 体育学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	体育・スポーツ学分野研究方法論	1・2後		1		○			1							
	健康体力学分野研究方法論	1・2前		1		○			1							
	コーチング学分野研究方法論	1・2前		1		○				1			1			
	研究ワークショップI	1後		1			○		1	1			1			
	研究ワークショップII	2通		1			○		1	1			1			
	研究基礎共通実習(PBL)	1・2前		1				○		1			4			兼1
	健康・スポーツ科学のための統計学	1・2前		2		○			1	1						
	健康・スポーツ科学のための英語上級	1・2前		1		○			1							
	つくばサマーインスティテュート	1・2前		2		○				1						集中
	International Sport Policy Studies(国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○										兼2 集中
	Advanced Coach Education(上級コーチ教育論)	1・2前		1		○										兼1
	Management and Organization(経営マネジメント論)	1・2前		1		○										兼1 集中
	Project Management(プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○										兼1 集中
	JSC Seminar(JSCセミナー)	1・2通		1			○									兼3
	JSC Project(JSCプロジェクト)	1・2通		1		○										兼3
	On the Job Practice (Domestic)	1通		2				○								兼3
	Sport, Culture and Society(スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○										兼1
	Olympic and Paralympic History(オリンピック・パラリンピック史)	1後		1		○				1						兼1
	Sport and Policy(スポーツと政策)	1後		1		○										兼1
Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後		1		○				1							
コース科目	スポーツ経営学	1前		1		○			2							
	体育・スポーツ哲学	1後		1		○			1				1			兼1
	スポーツ史学	1後		1		○							1			
	武道学	1・2前		1		○										兼1
	スポーツ産業学	1・2前		1		○				2						兼1
	スポーツ社会学	1・2通		1		○										兼1
	スポーツ政策学	1前		1		○			1				1			兼1
	フェアプレイ論	1・2後		1		○			1							
	オリンピック論	2前		1		○										兼1
	武道文化論	1・2後		1		○			1							
	身体文化論	1・2前		1		○			1				1			兼1
	スポーツ法学	1後		1		○			1							
	スポーツ行政学	1前		1		○							1			
	スポーツビジネス論	1・2後		1		○				2						兼1
	スポーツを通じた開発論	1前		1		○										兼1
	スポーツメディア論	1・2後		1		○										兼2 集中
	スポーツ文化・経営政策コース共通実習	1・2通		1			○		3	1			1			兼1
	スポーツ文化・経営政策コースインターンシップ春	1・2前		1									1			
	スポーツ文化・経営政策コースインターンシップ秋	1後		1									1			
	地域スポーツ経営論	1・2後		1		○			1							隔年
	スポーツマーケティング論	1・2後		1		○			1							
	スポーツリスクマネジメント論	1後		1		○			1							
	スポーツカウンセリング論	1前		1		○			1							
	体育科学習指導論	1後		1		○				1						
	学校健康教育論	1前		1		○			1							兼1 集中
	アダプテッド・スポーツ教育論	1後		1		○				2						
	保健社会学	1後		1		○			1				1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	学校体育経営論	1後		1		○			1						隔年
	武道授業指導論	1前		1		○			1	4					集中
	大学体育教育論	1前		1		○			5	1					兼2 集中
	スポーツ心理学	1休		1		○			1						集中
	運動学習心理学	1後		1		○						1			
	保健教材論I	1後		1		○			1			1			隔年
	保健教材論II	1後		1		○			1			1			隔年
	野外教育基礎理論	1後		1		○			1						
	野外教育プログラム論	1前		1		○						1			
	野外教育指導論	1前		1		○			1						
	体育授業観察分析法I	1後		1		○				1					
	体育授業観察分析法II	1後		1		○				2					集中
	体力学特講	1・2前		1		○			2	2					
	健康・スポーツ教育コースインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	健康・スポーツ教育コースインターンシップ秋	1後		1				○				1			
	野外教育実習(キャンプ)	1通		1.5				○	2			1			集中
	舞踊授業指導論	1後		1		○				1					隔年
	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1・2前		1		○			1						
	コーチングのバイオメカニクス	1後		1		○			1						隔年
	トレーニング学	1通		2				○		2					
	スポーツ運動学	1前		1		○			1						
	スポーツ生理学特講	1前		1		○			2						
	スポーツ生化学特講	1後		1		○			2						
	スポーツ栄養学特講	1・2後		1		○				1					
	健康増進学特講	1・2前		1		○				1					
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1後		1		○			7	4					
	スポーツ栄養学実験実習	1・2後		2				○		1					集中
	ヘルスフィットネスコースインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	スポーツ生理学実験	1・2通		2				○	2						
	スポーツ生化学実験	1・2後		2				○	2						
	体力学実習	1・2通		2				○	2	2					
	健康増進学実習	1・2通		2				○		1					
	体育測定評価学実習(発育発達学を含む)	1・2通		2				○	1						
	基礎ヘルスフィットネス演習	1・2後		1				○	7	4					
	ヘルスフィットネスコースインターンシップ秋	1後		1				○				1			
	アスレティックコンディショニング論特講	1後		2		○			2	3		1			兼1
	アスレティックリハビリテーション論特講	1前		2		○			1	2		1			兼1
	運動器のしくみと働き(基礎編)	1・2前		1		○				1					
	アスレティックトレーナー特講	1・2後		1		○			1	1		1			兼1 集中
	テーピング・マッサージ実習	1・2後		1.5				○	1	1		1			集中
	スポーツバイオメカニクス特講	1・2後		1		○			1						隔年
	スポーツ用具と動きのしくみ	1・2前		1		○				1					
	女性スポーツ医学論特講	1後		1		○				2					
	機能解剖学実験	1・2前		1				○		1					集中
	運動器のしくみと働き(応用編)	1・2後		1		○				1					
	スポーツ医学基礎論実習I	1・2通		1.5				○	1	1					
	スポーツ医学基礎論実習II	1・2通		1.5				○	1	2		1			
	スポーツ内科学特講	1・2後		2		○			1	2					集中, 隔年
	アスレティックコンディショニング論演習	1・2通		3				○	1	2		1			兼1
	アスレティックリハビリテーション論演習	1・2通		3				○	1	2		1			兼1
	アスレティックコンディショニング論実習	1・2通		1.5				○	1	2		1			兼1
	アスレティックリハビリテーション論実習	1・2通		1.5				○	1	2		1			兼1
	アスレティックトレーナー演習	1・2後		1				○	1	1		1			集中
	アスレティックコンディショニングコースインターンシップ春	1・2前		1				○				1			
	アスレティックコンディショニングコースインターンシップ秋	1後		1				○				1			
	コーチング論(事例討議)	1後		1		○				2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	身体技法論	1後		1				○	1							
	身体表現論	1・2前		1		○				1						
	体操コーチング総合演習	1前		1			○		1		1					
	体操競技コーチング総合演習	1後		1				○		1						
	陸上競技コーチング総合演習	1前		1			○			1		1				
	水泳競技コーチング総合演習	1後		1				○				1				
	バレーボールコーチング総合演習	1後		1				○		1		1				
	バスケットボールコーチング総合演習	1・2前		1		○			1							
	ハンドボールコーチング総合演習	1前		1			○		1				2			
	サッカーコーチング総合演習	1前		1			○			1						
	ラグビーコーチング総合演習	1前		1			○			1						
	テニスコーチング総合演習	1後		1				○	1							
	バドミントンコーチング総合演習	1前		1				○				1				
	野球コーチング総合演習	1前		1				○		1		1				
	柔道コーチング総合演習	1前		1						2						
	剣道コーチング総合演習	1後		1				○	1	2						
	弓道コーチング総合演習	1後		1				○		1						
	舞踊指導総合演習	1前		1				○		1						
	スポーツコーチング総合演習	1前		1				○	1	3						
	コーチングコースインターンシップ春	1・2前		1				○					1			
	コーチングコースインターンシップ秋	1後		1				○					1			
	競技マネジメント論	1後		1		○										兼3 集中
	舞踊上演マネジメント論	1前		1		○				1						
	スポーツ情報戦略論	1後		1		○				1						
	プログラム特別インターンシップ春	1・2前		3				○					1			
	プログラム特別インターンシップ秋	1後		3				○					1			
	高度スポーツ指導者の英語会話	1通		3				○								兼1
	高度スポーツ指導者の実践英語演習	2前		1				○								兼1 集中
	日本文化論(宗教, 思想, 古典芸能など)	1通		1		○			1							兼2
	小計 (132科目)	—	0	158	0			—	27	29	1	14	0	兼24	—	
専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	1通		3				○	1			1				
	体育・スポーツ哲学演習II	2通		3				○	1							
	体育史・スポーツ人類学演習I	1通		3				○				1				兼2
	体育史・スポーツ人類学演習II	2通		3				○				1				兼2
	スポーツ社会学演習I	1通		3				○								兼1
	スポーツ社会学演習II	2通		3				○								兼1
	武道学演習I	1通		3				○	1							
	武道学演習II	2通		3				○	1							
	体育・スポーツ経営学演習I	1通		3				○	2							
	体育・スポーツ経営学演習II	2通		3				○	2							
	スポーツ政策学演習I	1通		3				○	1			1				
	スポーツ政策学演習II	2通		3				○	1			1				
	スポーツ法学演習	1通		2				○	1							
	スポーツ産業学演習I	1通		3				○		2						
	スポーツ産業学演習II	2通		3				○		2						
	体育科教育学演習I	1通		3				○		1						
	体育科教育学演習II	2通		3				○		1						
	体育授業観察分析演習	1前		2				○		1						
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	1通		3				○		2						
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	2通		3				○		2						
	体育心理学演習I	1通		3				○	1			1				
	体育心理学演習II	2通		3				○	1			1				
	体育心理学実習	1通		2					1			1				
	体育・スポーツ学特別演習	2通		3				○	1							
	体育・スポーツ学特別演習II	2通		3				○	1							
健康体力学分野	健康教育学演習I	1通		3				○	2			1				
	健康教育学演習II	2通		3				○	2			1				
	環境保健学演習I	1通		3				○								
	環境保健学演習II	2通		3				○								
	運動生理学演習I	1通		3				○	2							
	運動生理学演習II	2通		3				○	2							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	運動生化学演習I	1通		3			○		2						
	運動生化学演習II	2通		3			○		2						
	運動栄養学演習I	1通		3			○			1					
	運動栄養学演習II	2通		3			○			1					
	体力学演習I	1通		3			○		2	2					
	体力学演習II	2通		3			○		2	2					
	健康増進学演習I	1通		3			○			1					
	健康増進学演習II	2通		3			○			1					
	体育測定評価学演習I	1通		3			○		1						
	体育測定評価学演習II	2通		3			○		1						
	内科系スポーツ医学演習I	1通		3			○		1	1					
	内科系スポーツ医学演習II	2通		3			○		1	1					
	スポーツ医学基礎論特講I	1・2通		2		○			1	1					兼2
	外科系スポーツ医学演習I	1通		3			○		1	2		1			
	外科系スポーツ医学演習II	2通		3			○		1	2		1			
	スポーツ医学基礎論特講II	1・2前		1		○				1					兼1
	スポーツバイオメカニクス演習I	1通		3			○		1	1					兼1
	スポーツバイオメカニクス演習II	2通		3			○		1	1					兼1
	スポーツバイオメカニクス実験	1・2通		2				○	1	1					兼1
	応用解剖学演習I	1通		3			○								兼1
	応用解剖学演習II	2通		3			○								兼1
	健康体力学特別演習	2通		3			○		1						
	健康体力学特別演習II	2前		3			○		1						
コーチング学分野	コーチング論・トレーニング学演習I	1通		3			○		1	3					兼1
	コーチング論・トレーニング学演習II	2通		3			○		1	3					兼1
	スポーツ運動学演習I	1通		3			○		1	1					
	スポーツ運動学演習II	2通		3			○		1	1					
	体操コーチング論演習I	1通		3			○		1		1				
	体操コーチング論演習II	2通		3			○		1		1				
	体操競技コーチング論演習I	1通		3			○		1			1			
	体操競技コーチング論演習II	2通		3			○		1			1			
	陸上競技コーチング論演習I	1通		3			○			1		1			
	陸上競技コーチング論演習II	2通		3			○			1		1			
	水泳競技コーチング論演習I	1通		3			○					1			
	水泳競技コーチング論演習II	2通		3			○		2			1			
	バレーボールコーチング論演習I	1通		3			○				1		1		
	バレーボールコーチング論演習II	2通		3			○				1		1		
	バスケットボールコーチング論演習I	1通		3			○		1	1					
	バスケットボールコーチング論演習II	2通		3			○		1						
	ハンドボールコーチング論演習I	1通		3			○		1				2		
	ハンドボールコーチング論演習II	2通		3			○		1				2		
	サッカーコーチング論演習I	1通		3			○		2				1		
	サッカーコーチング論演習II	2通		3			○		2						
	ラグビーコーチング論演習I	1通		3			○		1	1			1		
	ラグビーコーチング論演習II	2通		3			○		1	1					
	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	1通		3			○		1	2			2		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	2通		3			○		1	2			2		
	柔道コーチング論演習I	1通		3			○				2				
	柔道コーチング論演習II	2通		3			○				2				
	柔道コーチング論実習「形」	1・2通		1							1				
	剣道コーチング論演習I	1通		3			○		1	2					
	剣道コーチング論演習II	2通		3			○		1	2					
	弓道コーチング論演習I	1通		3			○				1				
	弓道コーチング論演習II	2通		3			○				1				
	野外運動論演習I	1通		3			○		2				1		
	野外運動論演習II	2通		3			○		2				1		
	野外運動論実習	1通		2			○		2				1		
舞踊論演習I	1通		3			○				2					
舞踊論演習II	2通		3			○				2					
舞踊表現技術実習	1通		1			○				1					
コーチング学特別演習	2通		3			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	コーチング学特別演習II	2前		3			○		1							
	コーチング特別課題研究I(設計)	1通		3			○		1							
	コーチング特別課題研究II(展開とまとめ)	2通		3			○		4	1						
	小計(95科目)	—	0	273	0		—		32	29	1	17	0	兼8	—	
寄附講座	アダプテッド体育・スポーツ指導理論実習	1・2通			2			○	1	1					兼2	
	小計(1科目)	—	0	0	2		—		1	1	0	0	0	兼8	—	
スポーツ・オリンピック学学位プログラム	Olympic Movement Studies(オリンピックムーブメント論)	1後	1			○				1		1		兼2		
	International Sport Marketing, Sponsorship and Media Management(国際スポーツマーケティング、スポンサーシップ、そしてメディアマネジメント)	1後	1			○								兼1	集中	
	Sport Finance and Economics(スポーツファイナンスと経済学概論)	1後	2			○								兼1	集中	
	Anti-Doping(アンチ・ドーピング)	1後	1			○				1				兼1	集中	
	Japanese Culture(日本文化)	1後	1			○								兼1		
	Sport and Gender(スポーツとジェンダー)	1前	1			○								兼1	オムニバス	
	Olympic and Paralympic Education(オリンピック・パラリンピック教育)	1前	1			○				2		1		兼1		
	International Relations(国際関係論)	1前	1			○								兼1		
	Research Project Management II(研究プロジェクトマネジメントII)	1後	2			○						1				
	Cross-Cultural Communication II(異文化コミュニケーションII)	1後	2			○			1							
小計(10科目)	—	13	0	0		—		1	3	0	1	0	兼6	—		
専門科目(共通)	TIAS Internship IA(TIASインターンシップ IA)	1後		4				○				1				
	TIAS Internship IIA(TIASインターンシップ IIA)	1後		2				○				1				
	TIAS Internship IB(TIASインターンシップ IB)	1前		4				○				1				
	TIAS Internship IIB(TIASインターンシップ IIB)	1前		2				○				1				
	TIAS Research Project(TIAS課題研究)	1後		4			○		1	3		1		兼10		
	Seminar in Event Production Management I(イベント総合演習 I)	1後		1			○		1			1		兼2		
	Seminar in Event Production Management II(イベント総合演習 II)	1前		1			○		1			1		兼2		
	TIAS Research Project II(TIAS課題研究II)	1前		4			○		1	3		1		兼10		
小計(8科目)	—	0	22	0		—		1	3	0	1	0	兼10	—		
専門科目(専門分野)	Seminar in Olympic and Paralympic Education I(オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	1後		2			○			1				兼2		
	Seminar in Olympic and Paralympic Education II(オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	1前		2			○			1				兼2		
	Seminar in Sport Management I(スポーツマネジメント演習 I)	1後		2			○					1		兼1		
	Seminar in Sport Management II(スポーツマネジメント演習 II)	1前		2			○					1		兼1		
	Seminar in Sport Science and Medicine I(スポーツ医科学演習 I)	1後		2			○		1					兼3		
	Seminar in Sport Science and Medicine II(スポーツ医科学演習 II)	1前		2			○		1					兼3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	Seminar in Sport for Development and Peace I(開発と平和のためのスポーツ演習 I)	1後		2			○			1					兼2	
	Seminar in Sport for Development and Peace II(開発と平和のためのスポーツ演習 II)	1前		2			○			1					兼2	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I(ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	1後		3			○			1					兼2	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II(ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	1前		1			○			1					兼2	
	Olympic and Paralympic History(オリンピック・パラリンピック史)	1後		1			○			1					兼2	オムニバス
	Olympism and Legacy(オリンピズムとレガシー)	1後		1			○								兼1	
	Sport Organisation and Governance(スポーツ組織とガバナンス論)	1後		1			○						1			集中
	Sport and Policy(スポーツと政策)	1後		1			○						1			
	International Sport Event Management(国際スポーツイベントマネジメント論)	1前		2			○								兼1	集中
	Sport Technology and Biomechanics(スポーツ工学とバイオメカニクス)	1前		1			○								兼5	オムニバス
	Sport Medicine(スポーツ医学)	1前		1			○								兼2	
	Exercise Physiology and Human Performance(運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	1前		1			○			1					兼4	オムニバス
	Topics in Environmental Health(環境保健学)	1前		1			○								兼1	
	International Sport Policy Studies(国際スポーツ政策研究)	1前		1			○						1		兼1	集中
	Management and Organization(経営マネジメント論)	1前		1			○								兼1	集中
	Project Management(プロジェクトマネジメント論)	1後		1			○								兼1	集中
	Sport, Culture and Society(スポーツ・文化・社会)	1後		1			○								兼1	
	International Development and Peace through Sport II(スポーツ国際開発論II)	1後		1			○								兼3	オムニバス
	Sport and Person with Disabilities (PWDs)(スポーツと障がい者)	1後		1			○								兼2	
	Taiku(Physical Education)(体育)	1前		1			○			1						
	Elite Sport Coaching(エリートスポーツコーチング論)	1前		1			○								兼1	
	Budo(武道)	1前		1			○								兼1	集中
	小計(28科目)	—	0	39	0		—			1	3	0	1	0	兼20	—
	合計(274科目)	—	13	492	2		—			36	32	1	23	0	兼28	—
学位又は称号	修士(体育学) 修士(コーチング学) 修士(スポーツ・オリンピック学)		学位又は学科の分野				体育関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻共通科目	西洋美術史-1	1・2後		1		○			1							隔年
	西洋美術史-2	1・2後		1		○				1						隔年
	日本美術史	1・2前		1		○						1				隔年
	美術論	1・2前		1		○				1						隔年
	芸術教育論A-1	1・2前		1		○			1							隔年
	芸術教育論A-2	1・2前		1			○		1							隔年
	書論特講I	1・2前		1.5		○			1							隔年
	書論特講II	1・2後		1.5		○			1							隔年
	書鑑賞論特講I	1・2前		1.5		○			1							隔年
	書鑑賞論特講II	1・2後		1.5		○			1							隔年
	構成論特講I	1・2前		1.5		○			2	4		5				隔年
	構成論特講II	1・2後		1.5		○			2	4		5				隔年
	創造的復興:ローカルデザイン特別演習I	1前		2			○			3		1				隔年
	創造的復興:チャレンジ学外特別演習I	1通		2			○			3		1				隔年
	創造的復興:ローカルデザイン特別演習II	2後		2			○			3		1				隔年
	創造的復興:チャレンジ特別学外演習II	2通		2			○			3		1				隔年
	創造的復興:国際学外演習	1・2通		2			○			3		1				隔年
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習A-I	1・2前		1.5			○		1	2						隔年
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習A-II	1・2後		1.5			○		1	2						隔年
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習B-I	1・2前		1.5			○		1	2						隔年
	大学を開くデザインプロデュース特講・演習B-II	1・2後		1.5			○		1	2						隔年
	デザイン特講A	1・2通		1		○			1							隔年
	デザイン特講B	1・2通		1		○			1							隔年
	デザイン特講C	1・2通		1		○				1		1				隔年
	デザイン特講D	1・2通		1		○				1		1				隔年
小計(25科目)		—	0	35	0			—	6	8	0	7	0		—	
複合科目	デザイン総合演習	1・2前		2			○		4	3		1			兼4	
	インターンシップ	1・2通		1				○	4	3		1			兼3	
	小計(2科目)	—	0	3	0			—	4	3	0	1	0		兼4	
美術史領域専門科目	西洋近世美術史特講I-1	1・2前		1		○				1						隔年
	西洋近世美術史特講I-2	1・2後		1		○				1						隔年
	西洋近世美術史特講II-1	1・2前		1		○				1						隔年
	西洋近世美術史特講II-2	1・2後		1		○				1						隔年
	西洋近世美術史演習I-1	1・2前		1			○			1						隔年
	西洋近世美術史演習I-2	1・2後		1			○			1						隔年
	西洋近世美術史演習II-1	1・2前		1			○			1						隔年
	西洋近世美術史演習II-2	1・2後		1			○			1						隔年
	近・現代美術論特講I-1	1・2前		1		○				1						隔年
	近・現代美術論特講I-2	1・2後		1		○				1						隔年
	近・現代美術論特講II-1	1・2前		1		○				1						隔年
	近・現代美術論特講II-2	1・2後		1		○				1						隔年
	近・現代美術論演習I-1	1・2前		1			○			1						隔年
	近・現代美術論演習I-2	1・2後		1			○			1						隔年
	近・現代美術論演習II-1	1・2前		1			○			1						隔年
	近・現代美術論演習II-2	1・2後		1			○			1						隔年
	西洋古代美術史特講I-1	1・2前		1		○			1							隔年
	西洋古代美術史特講I-2	1・2後		1		○			1							隔年
	西洋古代美術史特講II-1	1・2前		1		○			1							隔年
	西洋古代美術史特講II-2	1・2後		1		○			1							隔年
	西洋古代美術史演習I-1	1・2前		1			○			1						隔年
	西洋古代美術史演習I-2	1・2後		1			○			1						隔年
	西洋古代美術史演習II-1	1・2前		1			○			1						隔年
	西洋古代美術史演習II-2	1・2後		1			○			1						隔年
	日本美術史特講I-1	1・2前		1		○						1				隔年
	日本美術史特講I-2	1・2後		1		○						1				隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本美術史特講II-1	1・2前		1		○							1		隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 14条対応
	日本美術史特講II-2	1・2後		1		○							1		
	日本美術史演習I-1	1・2前		1			○						1		
	日本美術史演習I-2	1・2後		1			○						1		
	日本美術史演習II-1	1・2前		1			○						1		
	日本美術史演習II-2	1・2後		1			○						1		
	美術史学外演習I	1通		1.5			○			1	2		1		
	美術史学外演習II	2通		1.5			○			1	2		1		
	美術史領域特別演習	1通		3			○			1	2		1		
	美術史領域特別研究	2通		3			○			1	2		1		
	小計(36科目)	-		0	41	0	-			1	2	0	1	0	
芸術支援領域専門科目	美術論特講-1	1・2前		1		○							1		隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 兼1 隔年 隔年 兼1 隔年 隔年 隔年 隔年 兼1 兼1 14条対応 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年
	美術論特講-2	1・2後		1		○							1		
	美術論演習-1	1・2前		1			○						1		
	美術論演習-2	1・2後		1			○						1		
	芸術支援学特講-1	1・2前		1		○							1		
	芸術支援学特講-2	1・2後		1		○							1		
	芸術支援学演習-1	1・2前		1			○						1		
	芸術支援学演習-2	1・2後		1			○						1		
	芸術支援学学外演習I	1通		1.5			○			1			1	兼1	
	芸術学習支援論A	1・2前		2		○				1				兼1	
	芸術学習支援論B	1・2後		2		○				1				兼1	
	芸術支援学学外演習II	2通		1.5			○			1		1		兼1	
	芸術支援ワークショップI	1通		1			○			1				兼1	
	芸術支援ワークショップII	2通		1			○			1				兼1	
	芸術教育方法論A-1	1・2前		1		○				1				兼1	
	芸術教育方法論A-2	1・2後		1		○				1				兼1	
	芸術教育方法論B-1	1・2前		1		○				1				兼1	
	芸術教育方法論B-2	1・2後		1		○				1				兼1	
	芸術支援領域特別演習	1通		3			○			1		1		兼1	
	芸術支援領域特別研究	2通		3			○			1		1		兼1	
	芸術科教育特講A	1・2前		1		○				1				兼1	
	芸術科教育特講B	1・2後		1		○				1				兼1	
	芸術科教育実践演習A	1・2前		1			○			1				兼1	
	芸術科教育実践演習B	1・2後		1			○			1				兼1	
	芸術鑑賞論A-1	1・2前		1		○						1		兼1	
	芸術鑑賞論A-2	1・2後		1		○						1		兼1	
	芸術鑑賞論B-1	1・2前		1		○						1		兼1	
	芸術鑑賞論B-2	1・2後		1		○						1		兼1	
小計(28科目)	-		0	35	0	-			1	0	0	1	0	兼1	
洋画領域専門科目	洋画技法論特講	1・2通		2		○			3	2					オムニバス 14条対応
	西洋美術技法演習	1・2通		6			○		3	1					
	洋画制作A-1	1前		1.5				○	1						
	洋画制作A-2	1後		1.5				○	1						
	洋画制作B-1	1前		1.5				○	1						
	洋画制作B-2	1後		1.5				○	1						
	洋画制作C-1	1前		1.5				○		1					
	洋画制作C-2	1後		1.5				○		1					
	洋画制作D-1	1前		1.5				○	1						
	洋画制作D-2	1後		1.5				○	1						
	洋画特別制作A-1	2前		1.5				○	1						
	洋画特別制作A-2	2後		1.5				○	1						
	洋画特別制作B-1	2前		1.5				○	1						
	洋画特別制作B-2	2後		1.5				○	1						
	洋画特別制作C-1	2前		1.5				○		1					
	洋画特別制作C-2	2後		1.5				○		1					
	洋画特別制作D-1	2前		1.5				○	1						
	洋画特別制作D-2	2後		1.5				○	1						
	洋画野外風景実習	1・2前		1				○	3	1					
	洋画領域特別演習	1通		3			○		3	1					
	洋画領域特別研究	2通		3			○		3	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	版画制作A-1	1・2前		1.5				○		1					隔年
	版画制作A-2	1・2後		1.5				○		1					
	版画制作B-1	1・2前		1.5				○		1					
	版画制作B-2	1・2後		1.5				○		1					
	版画特別制作-1	2前		1.5				○		1					
	版画特別制作-2	2後		1.5				○		1					
	平版演習	1・2通		4			○			1					
	版画領域特別演習	1通		3			○			1					
	小計 (29科目)	—	0	55	0			—		3	2	0	0	0	
日本画領域専門科目	日本画表現技法・材料特講	1通		2		○			1	2					14条対応
	日本美術技法演習-1	1・2前		1.5			○			2					
	日本美術技法演習-2	1・2後		1.5			○			2					
	日本美術特別技法演習-1	1・2前		1.5			○			2					
	日本美術特別技法演習-2	1・2後		1.5			○			2					
	日本画制作A-1	1前		1.5				○	1						
	日本画制作A-2	1後		1.5				○	1						
	日本画制作B-1	1前		1.5				○		1					
	日本画制作B-2	1後		1.5				○		1					
	日本画制作C-1	1前		1.5				○		2					
	日本画制作C-2	1後		1.5				○		2					
	日本画制作D-1	1前		1.5				○		1					
	日本画制作D-2	1後		1.5				○		1					
	日本画特別制作A-1	2前		1.5				○	1						
	日本画特別制作A-2	2後		1.5				○	1						
	日本画特別制作B-1	2前		1.5				○		1					
	日本画特別制作B-2	2後		1.5				○		1					
	日本画特別制作C-1	2前		1.5				○		1					
	日本画特別制作C-2	2後		1.5				○		1					
	日本画特別制作D-1	2前		1.5				○	1						
	日本画特別制作D-2	2後		1.5				○	1						
	日本画野外風景実習	1・2前		1				○	1	2					
	日本画領域特別演習	1通		3				○	1	2					
	日本画領域特別研究	2通		3				○	1	2					
小計 (24科目)	—	0	39	0			—		1	2	0	0	0	—	
彫塑領域専門科目	彫塑技法論特講-1	1・2前		1		○			1	1					集中
	彫塑技法論特講-2	1・2後		1		○			1	1					
	彫塑技法演習-1	1・2前		2			○		1	1					
	彫塑技法演習-2	1・2後		2			○		1	1					
	彫塑学外演習	1・2通		1			○		1	1					
	塑造制作A-1	1・2前		1.5				○	1						
	塑造制作A-2	1・2後		1.5				○	1						
	塑造制作B-1	1・2前		1.5				○	1	1					
	塑造制作B-2	1・2後		1.5				○	1	1					
	彫刻制作A-1	1・2前		1.5				○		1					
	彫刻制作A-2	1・2後		1.5				○		1					
	彫刻制作B-1	1・2前		1.5				○	1						
	彫刻制作B-2	1・2後		1.5				○	1						
	金属彫刻制作-1	1・2前		1.5				○	1						
	金属彫刻制作-2	1・2後		1.5				○							
	セラコッタ制作	1・2前		1.5				○		1					
	彫塑特別制作A	2前		1				○	1	1					
	彫塑特別制作B	2前		1				○	1	1					
	彫塑特別制作C	2前		1				○	1	1					
	彫塑特別制作D	2前		1				○	1	1					
	彫塑特別制作E	2前		1				○	1						
	彫塑特別制作F	2前		1				○		1					
	彫塑特別制作G	2前		1				○		1					
	彫塑領域特別演習	1通		3				○	1	1					
	彫塑領域特別研究	2通		3				○	1	1					
小計 (25科目)	—	0	36.5	0			—		1	1	0	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
書領域専門科目	行・草漢字制作	1・2通		3				○	1						隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 14条対応
	隸・楷漢字制作	1・2通		3				○	1						
	古文字書法A	1・2通		3				○	1						
	古文字書法B	1・2通		3				○	1						
	仮名制作A	1・2通		3				○	1						
	仮名制作B	1・2通		3				○	1						
	書学外演習A	1・2通		1.5				○	3						
	書学外演習B	1・2通		1.5				○	3						
	書領域特別演習	1通		3				○	3						
	書領域特別研究	2通		3				○	3						
小計(10科目)		—	0	27	0			—	3	0	0	0	0	—	
構成領域専門科目	平面・立体構成論特講	1・2前		1.5				○				1		14条対応	
	平面・立体構成演習	1・2後		1.5				○				1			
	色彩計画論特講	1・2前		1.5				○		1					
	色彩計画演習	1・2後		1.5				○		1					
	構成領域特別演習	1通		3				○		1		1			
	構成領域特別研究	2通		3				○		1		1			
小計(6科目)		—	0	12	0			—	0	1	0	1	0	—	
総合造形領域専門科目	現代アート表現論	1・2後		1.5				○					1	14条対応	
	現代アート表現演習	1・2前		1.5				○					1		
	メディア表現論	1・2前		1.5				○					1		
	メディア表現演習	1・2後		1.5				○					1		
	現代美術論	1・2前		1.5				○		1					
	現代美術演習	1・2後		1.5				○		1					
	総合造形領域特別演習	1通		3				○		1		2			
総合造形領域特別研究	2通		3				○		1		2				
小計(8科目)		—	0	15	0			—	1	0	0	2	0	—	
クラフト領域専門科目	陶磁造形演習I	1・2前		1.5				○		1				14条対応	
	陶磁造形演習II	1・2後		1.5				○		1					
	木材造形演習I	1・2前		1.5				○		1					
	木材造形演習II	1・2後		1.5				○		1					
	ガラス造形演習I	1・2前		1.5				○				1			
	ガラス造形演習II	1・2後		1.5				○				1			
	漆芸演習	1・2通		2				○		1					
	クラフト領域特別演習	1通		3				○		2		1			
	クラフト領域特別研究	2通		3				○		2		1			
小計(9科目)		—	0	17	0			—	0	2	0	1	0	—	
目ビジュアルデザイン領域専門科目	視覚伝達設計論特講	1・2後		1				○		1				隔年 14条対応	
	視覚伝達設計演習A	1・2前		1				○		1					
	視覚伝達設計演習B	1・2前		1				○		1					
	グラフィックデザイン論特講	1・2前		1.5				○	1						
	グラフィックデザイン演習	1・2後		1.5				○	1						
	画像表現論特講	1・2前		1.5				○				1			
	画像表現演習	1・2後		1.5				○				1			
	ビジュアル・コミュニケーション演習	1・2前		1				○		1					
	ビジュアルデザイン領域特別演習	1通		3				○	1	1		1			
	ビジュアルデザイン領域特別研究	2通		3				○	1	1		1			
小計(10科目)		—	0	16	0			—	1	1	0	1	0	—	
情報デザイン領域専門科目	情報デザイン論特講	1・2前		2				○						兼1 隔年	
	感性情報メディア論特講I	1・2前		1				○						兼1 隔年	
	感性情報メディア論特講II	1・2後		1				○						兼1 隔年	
	情報デザイン設計論特講	1・2前		2				○						兼1 隔年	
	情報デザイン演習	1後		2				○						兼2	
	情報デザイン領域特別演習	1通		3				○						兼2	
	情報デザイン領域特別研究	2通		3				○						兼2 14条対応	
小計(7科目)		—	0	14	0			—	0	0	0	0	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
領域専門科目	生産デザイン論特講	1・2前		2				○	1						隔年 兼1 隔年 兼1 隔年 兼2 兼2 兼2 14条対応
	デザイン解析論特講	1・2通		2				○	1						
	デザインイノベーション論特講	1・2後		2				○							
	プロダクトデザイン演習	1後		2				○	2						
	プロダクトデザイン領域特別演習	1通		3				○	2						
	プロダクトデザイン領域特別研究	2通		3				○	2						
	小計(6科目)	—	0	14	0	—			2	0	0	0	0	兼2	
環境デザイン領域専門科目	環境デザイン論特講	1・2前		2				○		1					隔年 隔年 隔年 14条対応
	サイトプランニング論特講	1・2前		2				○		1					
	都市・地域設計論特講	1・2前		2				○	1						
	環境デザイン演習	1後		2				○	1	1					
	環境デザイン領域特別演習	1通		3				○	1	1					
	環境デザイン領域特別研究	2通		3				○	1	1					
	小計(6科目)	—	0	14	0	—			1	1	0	0	0	—	
建築デザイン領域専門科目	建築構法論特講	1・2前		2				○				1			隔年 隔年 隔年 隔年 14条対応
	建築計画論特講	1・2後		2				○	1						
	建築設計論特講	1・2通		2				○		1					
	建築・都市パッシブデザイン論特講	1・2前		2				○		1					
	建築デザイン演習	1前		2				○	1	1		1			
	建築デザイン領域特別演習	1通		3				○	1	1		1			
	建築デザイン領域特別研究	2通		3			○	1	1		1				
	小計(7科目)	—	0	16	0	—			1	2	0	1	0	—	
合計(238科目)		—	0	389.5	0	—			18	12	0	11	0	兼5	—
学位又は称号	修士(芸術学) 修士(デザイン学)		学位又は学科の分野			美術関係									

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(人間総合科学研究科 世界遺産専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	世界遺産論	1・2前	2			○			6	2		1			
	世界遺産特別演習	1通	3				○		6	2		1			
	世界遺産特別研究	2通	6					○	6	2		1			
	小計(3科目)	—	11	0	0	—	—	—	6	2	0	1	0	0	—
選択科目(共通)	世界遺産学外研修	1・2通		3				○	1						
	無形遺産論	1・2後		1		○			1					兼1	
	宗教論	1・2後		1		○			1						
	文化遺産演習	1・2休		2			○		1						
	文化遺産論	1・2前		1		○			1						
	自然遺産演習	1・2休		2			○		1		1				
	遺産保護行政論	1・2後		1		○			1					兼1	
	遺産の保存と活用	1・2後		1		○			1					兼1	
	自然遺産論	1・2前		1		○			1						
	小計(9科目)	—	0	13	0	—	—	—	4	0	0	1	0	兼3	—
(選択国際遺産学分野)	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	1・2後		1		○			1						
	ユネスコと世界遺産条約	1・2前		1		○			1						
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1・2後		1			○		2						
	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	1・2前		1			○		2						
	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1・2後		1			○		2						
	World Heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	1・2後		1			○		1						
	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1・2前		1			○		1						
	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	1・2休		2				○	2						
小計(8科目)	—	0	9	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	—	
選択遺産科の評価と保存分野	建築遺産論	1・2後		1		○			1						
	美術遺産論I	1・2前		1		○			1						
	美術遺産論II	1・2後		1			○		1						
	保存科学概論	1・2前		1			○		1						
	保存科学演習	1・2休		3			○		1						
	建築遺産演習	1・2後		3			○		1						
	美術遺産演習	1・2休		2			○		1						
	小計(7科目)	—	0	12	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	—
選択ニジメ分野(遺産プログラマ)	文化的景観論	1・2前		1		○			1						
	遺産整備計画論	1・2前		1		○			1						
	遺産観光論	1・2後		1		○				1					
	インタープリテーション概論	1・2後		1		○					1				
	プランニング演習	1・2通		3			○			1					
	遺産整備計画演習	1・2前		2			○		1						
小計(6科目)	—	0	9	0	—	—	—	2	1	0	1	0	0	—	
合計(33科目)		—	11	43	0	—	—	—	6	2	0	2	0	兼3	—
学位又は称号	修士(世界遺産学) 修士(学術)		学位又は学科の分野				美術関係								

教育課程等の概要 (共同学科等)

(人間総合科学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				2			1		オムバス, ｽﾀｲﾌ
	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				3					ｽﾀｲﾌ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	筑波大学・鹿屋体育大学	1			○				1					兼1 ｽﾀｲﾌ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後	筑波大学		1		○				1					兼1 ｽﾀｲﾌ
	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	1・2後	鹿屋体育大学		1		○				1					集中, ｽﾀｲﾌ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前	筑波大学		1		○				1					集中, ｽﾀｲﾌ
	Sport Management (スポーツマネジメント論)	1・2前	鹿屋体育大学		1		○				1					兼1
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲﾌ
	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	1・2前	鹿屋体育大学・筑波大学		1		○				1	1				集中, ｽﾀｲﾌ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前	筑波大学		1		○				1					ｽﾀｲﾌ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	鹿屋体育大学・筑波大学	1			○				2	1				兼1 オムバス, ｽﾀｲﾌ
Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	筑波大学	1			○				1						
小計 (12科目)	—			5	7	0	—			6	5	0	1	0	兼5	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	筑波大学	1			○				1	1		1		オムバス, ｽﾀｲﾌ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前	筑波大学		1		○							1		集中, ｽﾀｲﾌ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後	筑波大学		1		○							1		兼1 集中, ｽﾀｲﾌ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲﾌ
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後	筑波大学		1		○									兼1 ｽﾀｲﾌ
小計 (5科目)	—			1	4	0	—			1	1	0	1	0	兼2	
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後	筑波大学		2		○									兼1 ｽﾀｲﾌ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲﾌ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前	筑波大学		1		○									兼1 隔年, ｽﾀｲﾌ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後	筑波大学		1		○					1				集中, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前	筑波大学		1		○								兼1	隔年, ｽﾀｲﾌﾟ	
	小計 (12科目)	—		0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2		
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		6	5		1			ｽﾀｲﾌﾟ	
	Research Project (課題研究)	2後	鹿屋体育大学・筑波大学	4				○		6	5		1			ｽﾀｲﾌﾟ	
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1	1		1		兼2	集中	
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○		1	1		1		兼2	集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1						集中	
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通	筑波大学		1			○		1	1		1			集中	
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通	筑波大学		1			○					1			集中	
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通	筑波大学		2			○		1	1		1		兼2	集中	
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	鹿屋体育大学・筑波大学	6				○		1	2		1		兼2	集中	
	小計 (9科目)	—		14	7	0	—			6	5		1		兼4	—	
合計 (38科目)		—		20	31	0	—			6	5		1		兼11	—	
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法				開設大学		開設単位数 (必修)		授業期間等									
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。				筑波大学		49 (20)		1学年の学期区分					2期				
								1学期の授業期間					15週				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
(履修方法) 必修科目を含めて30単位以上（筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む）を修得すること。				鹿屋体育大学	21 (18)		1 時限の授業時間			筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分					

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	1・2前	1			○						1			オムニバス, メテイ
	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1・2前	1			○			1						メテイ
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1・2前	1			○				1					メテイ
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1・2後		1		○			1					兼1	メテイ
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1・2前		1		○			1						集中, メテイ
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	1・2後		1		○								兼1	メテイ
	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	1・2前		1		○			1						集中, メテイ
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1・2前		1		○				1					メテイ
	Research Methods (研究方法論)	1・2前	1			○			1					兼1	オムニバス, メテイ
	Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	1・2後	1			○			1						
小計 (10科目)		—	5	5	0	—			4	2	0	1	0	兼3	—
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	1・2後	1			○			1	1		1			オムニバス, メテイ
	Management and Organization (経営マネジメント論)	1・2前		1		○						1			集中, メテイ
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1・2後		1		○						1		兼1	集中, メテイ
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	1・2後		1		○								兼1	メテイ
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント(実践))	1・2後		1		○								兼1	メテイ
小計 (5科目)		—	1	4	0	—			1	1	0	1	0	兼2	
講義・関連	Principles of Development (開発学原論)	1後		2		○								兼1	メテイ
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	1・2前		1		○								兼1	隔年, メテイ
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	1・2前		1		○								兼1	隔年, メテイ
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	1・2前		1		○								兼1	隔年, メテイ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	1・2後		1		○						1				集中, ステイ
	International Politics IA (国際政治学IA)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	International Politics IB (国際政治学IB)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	1・2前		1		○									兼1	隔年, ステイ
	小計 (12科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	1	0	兼2		
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	1・2通	4				○		4	2		1				ステイ
	Research Project (課題研究)	2後	4				○		4	2		1				ステイ
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	1・2通		1			○		1	1		1		兼2	集中	
	JSC Project (JSCプロジェクト)	1・2通		1			○		1	1		1		兼2	集中	
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	1・2通		1			○		1							集中
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	1・2通		1			○		1	1		1				集中
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	1・2通		1			○					1				集中
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	1・2通		2			○		1	1		1		兼2	集中	
実践・海外	On the Job Practice (International)	1・2通	6				○		1	1		1		兼2	集中	
	小計 (9科目)	—	14	7	0	—			4	2	0	1	0	兼2	—	
合計 (36科目)			—	20	29	0	—		4	2	0	1	0	兼9	—	
学位又は称号		修士 (スポーツ国際開発学)			学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 必修科目を含めて30単位以上 (筑波大学と鹿屋体育大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む) を修得すること。								1 学年の学期区分			2期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業時間			75分					

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考					
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学										
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計		
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			4	1		2		7							0	7	兼18	オムニバス・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3							0	3	兼1	オムニバス
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1							0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1							0	1	兼1	集中
	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2			○							0	1						1	1		
	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	1					3	3		共同 ※講義
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2							0	2		オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0							0	0	兼1	
小計(8科目)		—	—	—	6.5	6	0	—	—	5	2	0	5	0	12	3	1	0	0	0	0	4	16	兼20		
専門科目 I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		5	1		1		7							0	7	兼5	
	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1			○							0	5	1					6	6		
	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○							0	3						3	3		
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	5	1		2		8							0	8	兼5	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1					6	6		
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2				○						0	9	1					10	10		オムニバス
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5					10	10		
	フィールドと実験室の融合(台湾)		1後	国立台湾大学		3				○						0	5	1					6	6		
	フィールドと実験室の融合(フランス)		2前	ボルドー大学	1.5					○						0	2	2					4	4		
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2							0	2	兼1	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3				○						0	1						1	1		
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15				○						0	1						1	1		
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15				○						0	2	2					4	4		
小計(13科目)		—	—	—	10	44	0	—	—	5	1	0	2	0	8	14	8	0	0	0	0	22	30	兼5		
専門科目 II	健康と食資源科目群 I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3							0	3		オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2		○			2	2				4							0	4		オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2			○		3	4		3		10							0	10		オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2			○		2	1	1			4							0	4		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		2			○		1					1							0	1		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1							0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		1			○		1					1							0	1		
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0							0	0	兼1	
食料システム学特論		1前	筑波大学		2			○							0							0	0	兼1	集中	
小計(8科目)		—	—	—	1	12	0	—	—	8	6	1	5	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	兼2		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考								
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計						
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員				助手に相当する教員					
健康と食資源科目群II	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	3			○							0	1						1	1						
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学	2			○							0	3						5	5	オムニバス					
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○							0	3	2					5	5	オムニバス					
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		3		○							0	2	2					5	5	オムニバス					
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2	オムニバス					
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					2	2						
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○							0	1	1					1	1						
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○							0	9	9		1			19	19	オムニバス・共同(一部)					
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○							0	1						1	1						
	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○							0	1						1	1						
	応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○							0	1						1	1	※実験・実習					
小計(11科目)		—	—		7	18	0		—					0	0	0	0	0	0	0	20	14	0	5	0	39	39		
健康と食資源科目群III	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	3	5					8	8	オムニバス ※演習					
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1						1	1						
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3						
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3						
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習					
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	1	2					3	3	※演習					
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	1					3	3	※演習					
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5		○							0	2	3					5	5						
小計(8科目)		—	—		0	12	0		—					0	0	0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27		
(研究指導)		1~2通	筑波大学 国立台湾大学 ボルドー大学		—	—	—	—	—	—				6	1	0	0	0	0	0	7	37	30	0	0	0	67	74	
合計(48科目)		—	—		24.5	92	0		—					12	7	1	8	0	0	28	52	44	0	5	0	101	129		
学位又は称号	修士(食料健康科学)																												
卒業要件及び履修方法																													
(修了要件)	2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。			筑波大学		29	(10)																						2期
(履修方法)	・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)			国立台湾大学		53	(7)																						15週
				ボルドー大学		34.5	(7.5)																						筑波大学：75分 国立台湾大学：50分 ボルドー大学：120分
				共同開設科目																									

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	申請大学					連携外国大学									
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授に 相当 員	准 教 授に 相当 員	講 師に 相当 員	助 教に 相当 員		助 手に 相当 員	小 計	合 計	
基礎科目	食料健康科学概論		1前	筑波大学	1			○			4	1		2		7						0	7	兼18	オムニバス・共同(一部)
	環境医学概論		1前	筑波大学	2			○			1			2		3						0	3	兼1	オムニバス
	アントレプレナーシップトレーニングI		1前	筑波大学	2			○			1					1						0	1	兼1	集中
	アントレプレナーシップトレーニングII		1前	筑波大学		2			○		1					1						0	1	兼1	集中
	医学英語		1前	筑波大学		1			○			1		1		2						0	2		オムニバス
	生物資源科学のための英語論文の書き方		1前	筑波大学		1			○							0						0	0	兼1	
小計(6科目)		—	—	—	5	4	0		—	5	2	0	5	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12	兼20	
専門科目I	食料健康科学演習I		1前	筑波大学	1				○		5	1		1		7						0	7	兼5	
	食料健康科学研究I		1前	筑波大学	3					○	5	1		2		8						0	8	兼5	
	日本企業インターンシップ		2後	筑波大学		3				○	1	1				2						0	2	兼1	
	小計(3科目)		—	—	4	3	0		—	5	1	0	3	0	9	0	0	0	0	0	0	0	9	兼5	
専門科目II	健康と食資源科目群I		1前	筑波大学	1			○			1			2		3						0	3		オムニバス
	基礎毒性学		1前	筑波大学		2			○		2	2				4						0	4		オムニバス
	橋渡し研究概論		1前	筑波大学		2			○		3	4		3		10						0	10		オムニバス・共同(一部)
	ガンの生物学		1前	筑波大学		2			○		2	1	1			4						0	4		
	人体病理学・腫瘍学		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響		1前	筑波大学		1			○		1					1						0	1		
	保健医療政策学		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	
	グローバルフードセキュリティ特論		1前	筑波大学		2			○							0						0	0	兼1	集中
小計(8科目)		—	—	1	12	0		—	8	6	1	5	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	兼2		
(研究指導)			1~2通	筑波大学						6	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7		
合計(17科目)			—	—	10	19	0		—	12	7	1	8	0	28	0	0	0	0	0	0	0	28		
学位又は称号	修士(食料健康科学)				学位又は学科の分野					医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)															

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員			助教に相当する教員
卒業要件及び履修方法					開設大学等			開設単位数(必修)			授業期間等											
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)					筑波大学			29 (10)			1 学年の学期区分					2 期						
											1 学期の授業期間					1 5 週						
											1 時限の授業時間					7 5 分						

教育課程等の概要（国際連携学科等）																									
（人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（国立台湾大学）																									
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学									
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計	
基礎科目	バイオアントレプレナーシップトレーニング		1後	国立台湾大学		2		○								0	1				1	1			
	小計（1科目）		—	—	0	2	0	—				0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
専門科目Ⅰ	食料健康科学演習II		1後	国立台湾大学		1		○								0	5	1					6	6	
	食料健康科学研究II		1後	国立台湾大学		2				○						0	5	1					6	6	
	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ		1後	国立台湾大学		2										0	9	1					10	10	
	フィールドと実験室の融合（台湾）		1後	国立台湾大学		3										0	5	1					6	6	
	台湾企業インターンシップI		1後	国立台湾大学		3										0	1						1	1	
	台湾企業インターンシップII		2後	国立台湾大学		15										0	1						1	1	
小計（6科目）		—	—	0	26	0	—				0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	0	10	10		
専門科目Ⅱ	健康と食資源科目群Ⅱ		1後	国立台湾大学	3			○								0	1						1	1	
	グローバルヘルス諸課題		1後	国立台湾大学	2			○								0	3			2			5	5	オムニバス
	生体分子の細胞ネットワーク		1後	国立台湾大学		3		○								0	3	2					5	5	オムニバス
	健康研究メソッドの原理と応用		1後	国立台湾大学		3		○								0	2	2		1			5	5	オムニバス
	環境と産業衛生		1後	国立台湾大学		2		○								0	1			1			2	2	オムニバス
	疾病負荷の測定：方法と応用		1後	国立台湾大学		2		○								0	1	1					2	2	
	分子栄養学		1後	国立台湾大学		2		○								0	1	1					2	2	
	食品安全と健康		1後	国立台湾大学		2		○								0	1	1					1	1	
	台湾農業		1後	国立台湾大学	2			○								0	9	9		1			19	19	オムニバス・共同（一部）
	乳製品のバイオテクノロジー		1後	国立台湾大学		2		○								0	1						1	1	
	創業、疾患、健康におけるDNAプロセッシング		1後	国立台湾大学		1		○								0	1						1	1	
応用微生物学		1後	国立台湾大学		3		○								0	1						1	1	※実験・実習	
小計（11科目）		—	—	7	18	0	—				0	0	0	0	0	0	20	14	0	5	0	39	39		
(研究指導)			1～2通	国立台湾大学	—	—	—	—	—	—						0	22	9	0	0	0	0	31	31	
合計（18科目）			—	—	7	46	0	—			0	0	0	0	0	0	37	22	0	5	0	64	64		
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																		

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員				助教に相当する教員
卒業要件及び履修方法					開設大学等			開設単位数(必修)			授業期間等												
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)											1学年の学期区分					2期							
					国立台湾大学			53(7)			1学期の授業期間					15週							
											1時限の授業時間					50分							

教育課程等の概要（国際連携学科等）																								
（人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（ボルドー大学）																								
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	申請大学					連携外国大学								
											教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	小 計	教 授に 相当 員	准 教 授に 相当 員	講 師に 相当 員	助 教に 相当 員		助 手に 相当 員	小 計	合 計
基礎科目	キャリアパス・セミナー		2前	ボルドー大学	1.5					○										共同 ※講義				
	小計（1科目）		—	—	1.5	0	0			—	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	3		
専門科目Ⅰ	国際科学セミナー		2前	ボルドー大学	1.5				○							0	3				3	3	オムニバス	
	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用		2前	ボルドー大学	3					○						0	5	5				10		10
	フィールドと実験室の融合（フランス）		2前	ボルドー大学	1.5						○					0	2	2				4		4
	フランス企業インターンシップ		2後	ボルドー大学		15					○					0	2	2				4		4
	小計（4科目）		—	—	6	15	0			—	0	0	0	0	0	0	5	7	0	0	0	12		12
専門科目Ⅱ 健康と食資源科目群Ⅲ	水性及び食源性微生物病と食習慣		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	3	5				8	8	オムニバス ※演習
	栄養、マイクロバイオーム、免疫		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1					1	1	
	栄養・生体制御と主要疾患		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1				3	3	
	欧州における食品安全・保健政策		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3	
	農業生産への環境ストレスの影響		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3	
	植物育種学の最先端とその利用		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	1	2				3	3	
	グリーンバイオテクノロジー		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	1				3	3	
	動物性食材の品質管理		2前	ボルドー大学		1.5			○							0	2	3				5	5	
小計（8科目）		—	—	0	12	0			—	0	0	0	0	0	0	12	15	0	0	0	27	27		
（研究指導）			1～2通	ボルドー大学		—	—	—	—	—						0	15	21	0	0	0	36	36	
合計（13科目）			—	—	7.5	27	0			—	0	0	0	0	0	0	15	22	0	0	0	37	37	
学位又は称号	修士（食料健康科学）			学位又は学科の分野			医学関係、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）																	

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数		授業形態		教員等の配置											備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学					合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員			助教に相当する教員
卒業要件及び履修方法					開設大学等			開設単位数(必修)			授業期間等											
(修了要件) 2年以上在学し、所定の履修方法により45単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) ・基礎科目から7.5単位以上(うち必修6.5単位)、専門科目I及び専門科目IIから37.5単位以上(うち必修18単位)、合計45単位以上(うち必修24.5単位)を修得すること。(筑波大学、国立台湾大学、ボルドー大学からそれぞれ15単位以上を修得)											1学年の学期区分					2期						
											1学期の授業期間					15週						
					ボルドー大学			34.5 (7.5)			1時限の授業時間					120分						

教育課程等の概要																
(人間総合科学研究科 教育基礎学専攻 博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	教育哲学研究法I	1・2・3通		3				○						1		
	教育哲学研究法II	1・2・3通		3				○						1		
	教育哲学研究法III	1・2・3通		3				○						1		
	日本教育史研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	日本教育史研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	日本教育史研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	外国教育史研究法I	1・2・3通		3				○							兼1	集中
	外国教育史研究法II	1・2・3通		3				○							兼1	集中
	外国教育史研究法III	1・2・3通		3				○							兼1	集中
	生涯学習・社会教育学研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	生涯学習・社会教育学研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	生涯学習・社会教育学研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	教育制度学研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	教育制度学研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	教育制度学研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	教育行政学研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	教育行政学研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	教育行政学研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	学校経営学研究法I	1・2・3通		3				○			1	1				
	学校経営学研究法II	1・2・3通		3				○			1	1				
	学校経営学研究法III	1・2・3通		3				○			1	1				
	比較・国際教育学研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	比較・国際教育学研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	比較・国際教育学研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	教育組織開発論研究法I	1・2・3通		3				○							兼1	
	教育組織開発論研究法II	1・2・3通		3				○				1			兼1	
	教育組織開発論研究法III	1・2・3通		3				○							兼1	
	教育社会学研究法I	1・2・3通		3				○			1					
	教育社会学研究法II	1・2・3通		3				○			1					
	教育社会学研究法III	1・2・3通		3				○			1					
	高等教育論研究法I	1・2・3通		3				○				1				
	高等教育論研究法II	1・2・3通		3				○				1				
	高等教育論研究法III	1・2・3通		3				○				1				
小計(33科目)	—	—	0	99	0			—		2	4	0	2	0	兼3	—
自由選択科目	教育基礎学研究法	1・2・3通			1			○							兼1	
	キャリア教育学特論I	1・2・3通			3			○							兼1	
	キャリア教育学特論II	1・2・3通			3			○							兼1	
	キャリア教育学特論III	1・2・3通			3			○							兼1	
	小計(4科目)	—	—	0	0	10			—		2	0	0	2	0	兼2
合計(37科目)		—	0	99	10			—		2	4	0	2	0	兼5	—
学位又は称号	博士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間総合科学研究科 学校教育学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	学校教育学特論	1・2・3通		2		○			5	2					
	学校教育学演習	1・2・3前		2			○		4	3					
	小計(2科目)	—	0	4	0		—		9	4	0	0	0	—	
専門科目	カリキュラム研究法I	1・2・3通		3			○			1					
	カリキュラム研究法II	1・2・3通		3			○			1					
	カリキュラム研究法III	1・2・3通		3			○								
	教育方法学研究法I	1・2・3通		3			○		1						
	教育方法学研究法II	1・2・3通		3			○		1						
	教育方法学研究法III	1・2・3通		3			○		1						
	道德教育学研究法I	1・2・3通		3			○		1						
	道德教育学研究法II	1・2・3通		3			○			1					
	道德教育学研究法III	1・2・3通		3			○		1						
	教育工学研究法I	1・2・3通		3			○							兼1 集中	
	教育工学研究法II	1・2・3通		3			○							兼1 集中	
	教育工学研究法III	1・2・3通		3			○							兼1 集中	
	キャリア教育学研究法I	1・2・3通		3			○		1						
	キャリア教育学研究法II	1・2・3通		3			○		1						
	キャリア教育学研究法III	1・2・3通		3			○		1						
	社会科教育学研究法I	1・2・3通		3			○		2	1					
	社会科教育学研究法II	1・2・3通		3			○		2	1					
	社会科教育学研究法III	1・2・3通		3			○		2	1					
	人文科教育学研究法I	1・2・3通		3			○		1	1					
	人文科教育学研究法II	1・2・3通		3			○		1	1					
	人文科教育学研究法III	1・2・3通		3			○		1	1					
	数学教育学研究法I	1・2・3通		3			○		2	1					
	数学教育学研究法II	1・2・3通		3			○		2	1					
	数学教育学研究法III	1・2・3通		3			○		2	1					
	理科教育学研究法I	1・2・3通		3			○		1						
	理科教育学研究法II	1・2・3通		3			○		1						
	理科教育学研究法III	1・2・3通		3			○		1						
	小計(54科目)	—	—	0	81	0		—		10	4	0	0	0	兼3
	合計(56科目)		—	0	85	0		—		10	4	0	0	0	兼3
	学位又は称号	博士(教育学) 博士(学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間総合科学研究科 心理学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	心理学実験実習Ⅰ	1通	2					○							
	心理学実験実習Ⅱ	1・2・3通	2					○							
	心理教育の方法	1・2・3通		2				○							
	心理学先端研究D1	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
	心理学先端研究D2	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
	心理学先端研究D3	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
	心理学先端研究D4	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
	心理学先端研究D5	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
	心理学先端研究D6	1・2・3通		0.5			○								兼1 集中
小計（9科目）	—	4	5	0	—			4	2	0	1	0	兼6	—	
専門科目	感覚知覚心理学特別研究	1・2・3前		2				○							
	認知心理学特別研究	1・2・3後		2				○							
	言語心理学特別研究	1・2・3前		2				○							
	教育心理学特別研究	1・2・3後		2				○							
	教育測定学特別研究	1・2・3前		2				○					1		
	青年心理学特別研究	1・2・3前		2			○								
	社会心理学特別研究	1・2・3後		2				○							
	臨床社会心理学特別研究	1・2・3後		2				○					1		
	集団心理学特別研究	1・2・3後		2					○						
小計（9科目）	—	0	18	0	—			4	2	0	1	0		—	
合計（18科目）		—	4	23	0	—			4	2	0	2	0	兼6	—
学位又は称号	博士（心理学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係									

教育課程等の概要															
(人間総合科学研究科 障害科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	障害科学研究実践法	1・2・3通	1					○	9	8	1	3		兼5	
	特別支援教育実践研究Ⅰ	1・2・3通		1				○	1						
	特別支援教育実践研究Ⅱ	1・2・3通		1				○	1						
	特別支援教育実践研究Ⅲ	1・2・3通		1				○	1						
	小計（4科目）	—	1	3	0	—			9	8	1	3	0	兼5	—
専門科目	分野共通														
	障害科学セミナーⅠ	1・2・3通		1				○	1						
	海外研究活動Ⅰ	1・2・3通		1				○	1						
	海外研究活動Ⅱ	1・2・3通		1				○	1						
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			1	0	0	0	0	—	
視覚障害学	視覚障害学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○			1	2		1		兼2	
	視覚障害学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○			1	2		1		兼2	
	視覚障害学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○								兼2	
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			1	2	0	1	0	兼2	—
聴覚障害学	聴覚障害学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○			2	2					
	聴覚障害学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○			2	2					
	聴覚障害学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○			2	2					
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			2	2	0	0	0	—	
行動的障害・発達	知的・発達・行動障害学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○			4	3		1			
	知的・発達・行動障害学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○			4	3		1			
	知的・発達・行動障害学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○			4	3		1			
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			4	3	0	1	0	—	
障害学・健康	運動・健康障害学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○			2					兼1	
	運動・健康障害学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○			2					兼1	
	運動・健康障害学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○			2					兼1	
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			2	0	0	0	0	兼1	—
障害学・言語	音声・言語障害学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○				1					
	音声・言語障害学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○				1					
	音声・言語障害学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○				1					
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			0	1	0	0	0	—	
障害福祉学	障害福祉学講究Ⅰ	1・2・3通		1		○					1	2		兼2	
	障害福祉学講究Ⅱ	1・2・3通		1		○					1	2		兼2	
	障害福祉学講究Ⅲ	1・2・3通		1		○					1	2		兼2	
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			0	0	1	2	0	兼2	—
障害原理論	障害原理論講究Ⅰ	1・2・3通		1		○			1						
	障害原理論講究Ⅱ	1・2・3通		1		○			1						
	障害原理論講究Ⅲ	1・2・3通		1		○			1						
	小計（3科目）	—	0	3	0	—			1	0	0	0	0	—	
合計（28科目）		—	1	27	0	—			9	8	1	3	0	兼5	—
学位又は称号	博士（障害科学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									

教育課程等の概要															
(人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生涯発達科学基礎論	1・2通	1				○		8	5				兼1	
	生涯発達科学演習Ⅰ	1・2通	1				○		8	5				兼1	
	生涯発達科学演習Ⅱ	1・2通	1				○		8	5				兼1	
	生涯発達科学特論Ⅰ	2・3通	1				○		8	5				兼1	
	生涯発達科学特論Ⅱ	2・3通	1				○		8	5				兼1	
	生涯発達科学特論Ⅲ	2・3通	1				○		8	5				兼1	
	小計(6科目)	—	—	6	0	0	—	—	8	5	0	0	0	兼1	
専門科目	生涯発達科学特別演習Ⅰ	1・2通		1			○		8	5				兼1	
	生涯発達科学特別演習Ⅱ	1・2通		1			○		8	5				兼1	
	生涯発達科学特別演習Ⅲ	2・3通		1			○		8	5				兼1	
	産業社会心理学特論	1・2・3通		1			○		1						
	組織メンタルヘルス特論	1・2・3通		1			○			1					
	職業リハビリテーション特論	1・2・3通		1			○			1					
	対人社会心理学特論	1・2・3通		1			○			1					
	キャリア形成特論Ⅰ	1・2・3通		1			○							兼1 隔年,集中	
	キャリア形成特論Ⅱ	1・2・3通		1			○							兼1 隔年,集中	
	カウンセリング科学特別演習Ⅰ	1・2通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習Ⅱ	1・2通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特別演習Ⅲ	2・3通		1			○		5	3					
	カウンセリング科学特論	1・2・3通		1			○		1						
	学校生活支援カウンセリング特論	1・2・3通		1			○			1					
	生涯発達心理学特論	1・2・3通		1			○		1						
	発達支援科学特論	1・2・3通		1			○							兼1	
	発達支援評価特論	1・2・3通		1			○			1					
	生涯発達支援特論Ⅰ	1・2・3通		1			○							兼1 隔年・集中	
	生涯発達支援特論Ⅱ	1・2・3通		1			○							兼1 隔年・集中	
	リハビリテーション科学特別演習Ⅰ	1・2通		1				○	3	2					兼1
	リハビリテーション科学特別演習Ⅱ	1・2通		1				○	3	2					兼1
	リハビリテーション科学特別演習Ⅲ	2・3通		1				○	3	2					兼1
	リハビリテーション科学特論	1・2・3通		1				○	1						
	コミュニティ発達援助特論	1・2・3通		1				○		1					
	教育支援システム特論	1・2・3通		1				○	1						
	家族発達援助特論	1・2・3通		1				○	1						
	ケアマネジメント特論	1・2・3通		1				○	1						
	精神健康科学特論	1・2・3通		1				○	1						
	生涯発達システム特論Ⅰ	1・2・3通		1				○							兼1 隔年,集中
	生涯発達システム特論Ⅱ	1・2・3通		1				○							兼1 隔年,集中
小計(30科目)	—	—	0	30	0	—	—	8	5	0	0	0	兼7		
合計(36科目)			—	6	30	0	—	—	8	5	0	0	0	兼7	
学位又は称号	博士(生涯発達科学) 博士(カウンセリング科学) 博士(リハビリテーション科学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								

教育課程等の概要															
(人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 3年制博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	ヒューマン・ケア科学基礎論Ⅰ	1・2前	1			○			4					兼1	オムニバス
	ヒューマン・ケア科学基礎論Ⅱ	1・2後	1			○			4					兼1	オムニバス
	ヒューマン・ケア科学基礎論Ⅲ	1・2後	1			○			4	1					オムニバス
	ヒューマン・ケア科学方法論Ⅰ	1・2前	1			○				1		2		兼1	オムニバス
	ヒューマン・ケア科学方法論Ⅱ	1・2後	1			○				2		2			オムニバス
	ヒューマン・ケア科学方法論Ⅲ	1・2後	1			○				1		3			オムニバス
	小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	—	12	5	0	7	0	兼3	—
専門科目	共生教育学演習	1・2・3通		2			○		1			1		兼1	
	共生社会学演習	1・2・3通		2			○					1		兼1	
	教育経営開発論演習	1・2・3通		2			○		1					兼1	
	教育臨床学演習	1・2・3通		2			○		1						
	共生社会学特別研究	2・3通		2			○								※実習
	教育社会学特別研究	2・3通		2			○								※実習
	教育臨床学特別研究	2・3通		2				○	1						
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	—	2	0	0	1	0	兼1	—
発達臨床心理学分野	発達臨床心理学演習Ⅰ	1通		3			○		1						
	発達臨床心理学演習Ⅱ	2・3通		3			○		1						
	発達臨床心理学実習Ⅰ	1・2・3通		3				○	1						
	発達臨床心理学実習Ⅱ	1・2・3通		3				○	2						
	発達臨床心理学特別研究Ⅰ	1・2・3通		3			○		1						
	発達臨床心理学特別研究Ⅱ	1・2・3通		3			○		1						
	発達臨床心理学特別研究Ⅲ	1・2・3通		3			○		1						
	発達臨床心理学実験実習	1・2・3通		3				○	3	1					
	小計(8科目)	—	0	24	0	—	—	—	4	1	0	0	0	0	—
臨床心理学分野	臨床心理学演習Ⅰ	1・2・3通		3			○		2	1					
	臨床心理学演習Ⅱ	1・2・3通		3			○		2	1					
	臨床心理学実習Ⅰ	1・2・3通		3				○	2	1					
	臨床心理学実習Ⅱ	1・2・3通		3				○	2	1					
	臨床心理学特別研究	1・2・3通		3			○		1	1					
	臨床心理学実験実習	1・2・3通		3				○	3	1					
小計(6科目)	—	0	18	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	—	
生活支援学分野	生活支援学演習Ⅰ	1・2・3通		3			○			1					
	生活支援学演習Ⅱ	1・2・3通		3			○		1						
	福祉社会学演習	1・2・3通		3			○		1	1					
	生活支援学特別研究Ⅰ	1・2・3通		3			○								
	生活支援学特別研究Ⅱ	1・2・3通		3			○		1						
	生活者バリアフリー特論	1・2・3通		3				○	1	1					
小計(6科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	—	
高齢者ケア分野	高齢者ケアリング学演習1	1・2・3通		3			○			1		1			
	高齢者ケアリング学演習2	1・2・3通		3			○			1		1			
	認知症ケアリング学演習1	1・2・3通		3			○			1		1			
	認知症ケアリング学演習2	1・2・3通		3			○			1		1			
	高齢者ケアリング学特別研究	2・3通		3			○			1		1			
	小計(5科目)	—	0	15	0	—	—	—	0	1	0	1	0	0	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ト健康社会学分野	健康社会学演習I	1・2・3通		3				○		1			1			
	健康社会学演習II	1・2・3通		3				○		1			1			
	健康社会学特別研究I	2・3前		1				○		1						
	健康社会学特別研究II	2・3後		1				○		1						
	健康社会学研究法	1・2・3前		1				○		1						
	ストレスマネジメント演習I	1・2・3前		2				○		1						
	ストレスマネジメント演習II	1・2・3後		2				○		1						
	ストレスマネジメント特別研究I	2・3前		1				○		1						
	ストレスマネジメント特別研究II	2・3後		1				○		1						
	ストレスマネジメント研究法	1・2・3前		1				○		1						
	運動・栄養学特別研究	1・2・3通		3				○								兼2
小計 (11科目)	—	0	19	0			—		2	0	0	1	0	兼2	—	
社会精神保健学分野	精神保健学演習I	1・2・3前		1.5				○		1	1		1			
	精神保健学演習II	1・2・3後		1.5				○		1	1		1			
	社会精神医学特別研究I	1・2・3前		1.5				○		1	1					※講義
	社会精神医学特別研究II	1・2・3後		1.5				○		1	1					※講義
	臨床社会心理学演習I	1・2・3前		1.5			○					1				※実習
	臨床社会心理学演習II	1・2・3後		1.5			○					1				※演習
	精神保健学的援助演習I	1・2・3前		1			○				1					※演習・実習
精神保健学的援助演習II	1・2・3後		1			○				1					※演習・実習	
小計 (8科目)	—	0	11	0			—		1	1	0	1	0	0	0	—
福祉医療学分野	問題解決型研究法	1・2・3通		3	○					1			1			※演習
	国際福祉医療学特別研究I	2・3前		1.5	○					1			1			
	国際福祉医療学特別研究II	2・3後		1.5	○					1			1			※演習
	福祉医療学演習I	1・2通		3		○					1					
	福祉医療学特別研究	2・3通		3	○						1					※演習
小計 (5科目)	—	0	12	0			—		1	1	0	1	0	0	—	
保健医療政策学分野	環境疫学演習A	1・2・3前		1				○		1						
	環境疫学演習B	1・2・3後		1				○		1						
	環境疫学演習C	1・2・3後		1				○		1						
	保健医療政策学特別研究IIA	2・3前		1.5				○		1						
	保健医療政策学特別研究IIB	2・3後		1.5				○		1						
	国際保健学演習	1・2・3前		1				○		1		1				
	保健医療政策学特別研究IIIA	2・3前		1.5				○		1		1				
	保健医療政策学特別研究IIIB	2・3後		1.5				○		1		1				
	医療経済学演習	1・2・3後		1				○		1		1				
	保健医療政策学演習	1・2・3後		1				○		1		1				
小計 (10科目)	—	0	12	0			—		2	0	0	1	0	0	—	
チヘルス分野	ヘルスサービスマニエール特別研究I	2・3通		3				○		1						※講義・実習
	ヘルスサービスマニエール特別研究II	2・3通		3				○		1						※講義・実習
	ヘルスサービスマニエール演習IA	1・2・3前		1.5				○		1						兼1
	ヘルスサービスマニエール演習IB	1・2・3後		1.5			○		1							兼1
	ヘルスサービスマニエール演習IIA	1・2・3前		1.5				○		1		1				兼1
	ヘルスサービスマニエール演習IIB	1・2・3後		1.5				○		1						兼1
	ヘルスサービスマニエール実践研究演習	1・2・3通		1.5				○		1		1				兼1
	小計 (7科目)	—	0	13.5	0			—		1	0	0	1	0	兼1	—
連携大学院	生活環境学演習	2・3通		3				○								兼1 ※講義・実習
	生活環境学特別研究	2・3通		3				○								兼1 ※講義・実習
	生涯健康学演習	2・3通		3				○								兼1
	生涯健康学特別研究	2・3通		3				○								兼1
	疫学・統計学演習	1・2・2通		3				○								兼1
	疫学・統計学特別研究	1・2・3通		3				○								兼1
小計 (6科目)	—	0	18	0			—		0	0	0	0	0	兼3	—	
合計 (85科目)		—	6	174.5	0			—		12	5	0	7	0	兼7	—
学位又は称号	博士 (ヒューマン・ケア科学) 博士 (教育学) 博士 (心理学) 博士 (体育科学) 博士 (公衆衛生学) 博士 (学術)		学位又は学科の分野					文学関係、教育学・保育学関係、体育関係、医学関係、保健衛生学関係 (看護学関係)、保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)、保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								

教育課程等の概要															
(人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	専門科学英語3	1・2・3通			2		○		3						3～5を3年サイクルで開講。以下同じ。
	専門科学英語4	1・2・3通			2		○		3						
	専門科学英語5	1・2・3通			2		○		3						
	専門科学英語3A	1・2・3前			1		○		3						
	専門科学英語3B	1・2・3後			1		○		3						
	専門科学英語4A	1・2・3前			1		○		3						
	専門科学英語4B	1・2・3後			1		○		3						
	専門科学英語5A	1・2・3前			1		○		3						
	専門科学英語5B	1・2・3後			1		○		3						
	英語ジャーナルクラブ3	1・2・3通			3		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ4	1・2・3通			3		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ5	1・2・3通			3		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ3A	1・2・3前			1.5		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ3B	1・2・3後			1.5		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ4A	1・2・3前			1.5		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ4B	1・2・3後			1.5		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ5A	1・2・3前			1.5		○		3	1					
	英語ジャーナルクラブ5B	1・2・3後			1.5		○		3	1					
	「こころ」の科学演習3	1・2・3通			1		○		1	1					
	「こころ」の科学演習4	1・2・3通			1		○		1	1					
	「こころ」の科学演習5	1・2・3通			1		○		1	1					
	「こころ」の科学演習3A	1・2・3前			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学演習3B	1・2・3後			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学演習4A	1・2・3前			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学演習4B	1・2・3後			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学演習5A	1・2・3前			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学演習5B	1・2・3後			0.5		○		1	1					
	「こころ」の科学セミナー3	1・2・3通			1	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー4	1・2・3通			1	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー5	1・2・3通			1	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー3A	1・2・3前			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー3B	1・2・3後			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー4A	1・2・3前			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー4B	1・2・3後			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー5A	1・2・3前			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	「こころ」の科学セミナー5B	1・2・3後			0.5	○			7	12	1	7		兼10	
	プレミアム論文研究セミナー3	1・2・3通			2		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー4	1・2・3通			2		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー5	1・2・3通			2		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー3A	1・2・3前			1		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー3B	1・2・3後			1		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー4A	1・2・3前			1		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー4B	1・2・3後			1		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー5A	1・2・3前			1		○		4					※講義	
	プレミアム論文研究セミナー5B	1・2・3後			1		○		4					※講義	
小計(45科目)		—	0	0	54		—	7	12	1	7	0	兼10	—	
専門科目	感性科学実験実習	1・2・3通		6			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	感性科学実験実習 A	1・2・3前		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	感性科学実験実習 B	1・2・3後		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	行動科学実験実習	1・2・3通		6			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	行動科学実験実習 A	1・2・3前		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	行動科学実験実習 B	1・2・3後		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	神経科学実験実習	1・2・3通		6			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	神経科学実験実習 A	1・2・3前		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
	神経科学実験実習 B	1・2・3後		3			○	7	8		1		兼8	※講義・演習	
小計(9科目)		—	0	36	0		—	7	8	0	0	0	兼8	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
合計 (54科目)		—	0	36	54	—			7	12	1	7	0	兼10	—
学位又は称号	博士 (感性科学) 博士 (行動科学) 博士 (神経科学) 博士 (学術)	学位又は学科の分野			文学関係、美術関係、医学関係										

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 3年制博士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	スポーツ医学概論Ⅰ	1前	1			○			6	2	1			兼2 オムニバス 兼2 オムニバス 兼2 兼2 兼4 -
	スポーツ医学概論Ⅱ	1後	1			○			2	4		1		
	スポーツ医学セミナーⅠ	1・2・3通			1			○	6	2	1			
	スポーツ医学セミナーⅡ	1・2・3通			1			○	2	4		1		
	スポーツ医学セミナーⅢ	1・2・3通			1			○	1	2		1		
小計 (5科目)		-	2	0	3	-			8	6	1	1	0	兼4 -
合計 (5科目)		-	2	0	3	-			8	6	1	1	0	兼4 -
学位又は称号		博士 (スポーツ医学) 博士 (学術)			学位又は学科の分野			体育関係、医学関係						

教 育 課 程 等 の 概 要															
（人間総合科学研究科 看護科学専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	応用看護科学	1前	3			○			2				2		兼1
	応用統計学	1前	2			○			1	2					
	看護研究方法論	1前	2					○	1	5			2		
	看護学教育	1後		2				○	1						
	チーム医療実践論	1・2通		1				○	2	1					
	臨床教育技法指導演習	1・2通		1				○	2	1					
	小計（6科目）	—	—	7	4	0	—	—	5	5	0	3	0	兼1	
専門科目	看護科学特論I	1・2前		2		○			2	1			3		
	看護科学特論II	1・2前		2		○			1				1		
	看護科学特論III	1・2前		2		○			1	1					
	看護科学特論IV	1・2前		2		○			1	1			1		
	看護科学特論V	1・2前		2		○			1	2					
	看護科学特論VI	1・2前		2		○			1				1		
	高度実践看護学特論	1前		2		○			2	1					
	高度実践看護学演習	1通		4				○	3	1					
	研究倫理学演習	1後	1					○	1	1				1	
	看護科学演習I	1後	2					○	3					4	
	看護科学演習II	2後	1					○	1	5				6	
	看護科学研究	3通	9					○	7	5				6	
小計（12科目）	—	—	13	18	0	—	—	7	5	0	6	0	—		
合計（18科目）		—	20	22	0	—	—	7	5	0	6	0	—		
学位又は称号	博士(看護科学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究方法論I	1・2・3前	1			○			7						兼1
	研究方法論II	1・2・3後		1		○			1	2					
	研究セッション	1・2・3通	3					○	17	8			6		兼2
	大学体育カリキュラム開発論	1・2・3後		1				○	1						
	小計（4科目）	—	4	2	0	—	—	—	17	8	0	6	0	兼3	—
次世代健康スポーツ 専門基礎科目	研究方法論I	1・2・3前	1			○			7						兼1
	健康スポーツ科学研究演習I	1・2通	1				○		4				1		
	研究方法論II	1・2・3後		1		○			1	2					
	健康スポーツ科学研究演習II	2・3通		1			○		4				1		
	小計（4科目）	—	2	2	0	—	—	—	7	2	0	2	0	兼1	—
専門実践科目	プロジェクトローテーション	1通	1			○							4		※演習, 集中
	課題解決研究I (PBR)	2通	2			○			4				2		※演習
	プロジェクトフォーラムI	1・2後	1			○							4		※演習
	課題解決研究II (PBR)	3通		2		○			2						※演習
	プロジェクトフォーラムII	2・3後		1		○							4		※演習
進国際研究推	国際ディベート合宿I	1・2後	1			○							4		※演習
	国際フォーラムI	1・2後	1			○							4		※演習
	国際ディベート合宿II	2・3後		1		○							4		※演習
	国際フォーラムII	2・3後		1		○							4		※演習
	小計（9科目）	—	6	5	0	—	—	—	6	0	0	4	0	—	—
合計（17科目）		—	12	9	0	—	—	—	17	8	0	6	0	兼3	—
学位又は称号		博士（体育科学） 博士（健康スポーツ科学） 博士（学術）			学位又は学科の分野			体育関係							

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間総合科学研究科 コーチング学専攻 3年制博士課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	コーチング学研究法I	1後	1			○			5	4		3		兼1
	コーチング学研究法II	2通	1				○		6	2				兼1 集中
	コーチング学事例研究法	1前	1			○			2	2				兼1
	コーチングの哲学と倫理	1前	1			○			2	1				兼6
小計（4科目）		—	4	0	0	—			10	10	0	3	0	兼9 —
合計（4科目）		—	4	0	0	—			10	10	0	3	0	兼9 —
学位又は称号	博士（コーチング学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			体育関係								

教育課程等の概要															
（人間総合科学研究科 芸術専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻 共通 科目	芸術学特別演習IA	1前		1.5				○		18	3		7		兼3
	芸術学特別演習IB	1後		1.5				○		18	3		7		兼3
	芸術学特別演習IIA	2前		1.5				○		18	3		7		兼3
	芸術学特別演習IIB	2後		1.5				○		18	3		7		兼3
	デザイン学特別演習IA	1前		1.5				○		18	3		7		兼3
	デザイン学特別演習IB	1後		1.5				○		18	3		7		兼3
	デザイン学特別演習IIA	2前		1.5				○		18	3		7		兼3
	デザイン学特別演習IIB	2後		1.5				○		18	3		7		兼3
小計（8科目）		—	0	12	0	—			18	3	0	7	0	兼3	—
合計（8科目）		—	0	12	0	—			18	3	0	7	0	兼3	—
学位又は称号	博士（芸術学） 博士（デザイン学）		学位又は学科の分野			美術関係									

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間総合科学研究科 世界文化遺産学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	文化遺産保護特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	自然保護特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	遺産整備計画特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	文化遺産美術特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	文化的景観特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	保存修復科学特別研究	1・2・3通	3				○		1					
	文化観光特別研究	1・2・3通	3				○			1				
	自然観光特別研究	1・2・3通	3				○			1				
	文化遺産建築特別研究	1・2・3通	3				○					1		
	国際遺産学特別研究	1・2・3通	3				○					1		
小計 (9科目)		—	30	0	0	—			6	2	0	2	0	—
合計 (9科目)		—	30	0	0	—			6	2	0	2	0	—
学位又は称号	博士 (世界遺産学) 博士 (学術)		学位又は学科の分野				美術関係							

教育課程等の概要														
(人間総合科学研究科 生命システム医学専攻 医学を履修する博士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通科目	イニシエーションセミナー	1・2後	1			○			1					
	医学研究概論	1・2前	1			○			1					
	医学セミナー	1・2通	3				○		23					
	医学特殊研究	1・2通	2				○		23					
	医学特別演習	1・2通	5				○		23					
	国際実践医学研究特論	1・2・3・4通		3			○					1		
	最先端医学研究セミナー	1・2通		3			○		1					
	橋渡し研究マネージメント	1・2後		2			○							
	医科学教育実習	2・3通		1				○	23					
	医学専門英語	1・2通		2				○		1				
	メディカルコミュニケーション演習I	1・2前		1				○	23					
	メディカルコミュニケーション演習II	2・3通		3				○	23					
	研究発表と討論	2・3前		1				○		1			1	
	医科学国際討論I	1前		2				○	1	1			2	
	医科学国際討論II	1後		2				○	3	2			2	
	インターンシップI	1・2・3・4通		1				○	1					
	インターンシップII	1・2・3・4通		1				○	1					
	English Topics in Science I	1・2・3・4前		1				○					1	
	English Topics in Science II	1・2・3・4後		1				○					1	
小計 (19科目)	—		12	24	0		—	23	3	0	6	0	兼3	—
専門科目	生命システム医学概論	1・2後	1			○			22	7	2	2		
	分子医科学特論I	1・2前		2		○			4	5	3	5		兼1
	分子医科学特論II	1・2後		2		○			4	5	3	5		兼1
	分子医科学演習I	1・2前		2			○		4	5	3	5		兼1
	分子医科学演習II	1・2後		2			○		4	5	3	5		兼1
	分子医科学実験実習I	1・2前		2				○	4	5	3	5		兼1
	分子医科学実験実習II	1・2後		2				○	4	5	3	5		兼1
	システム統御医学特論I	1・2前		2		○			10	8	5	13		兼1
	システム統御医学特論II	1・2後		2		○			10	8	5	13		兼1
	システム統御医学演習I	1・2前		2			○		10	8	5	13		兼1
	システム統御医学演習II	1・2後		2			○		10	8	5	13		兼1
	システム統御医学実験実習I	1・2前		2				○	10	8	5	13		兼1
	システム統御医学実験実習II	1・2後		2				○	10	8	5	13		兼1
	ゲノム環境医学特論I	1・2前		2		○			6	5	2	11		兼1
	ゲノム環境医学特論II	1・2後		2		○			6	5	2	11		兼1
	ゲノム環境医学演習I	1・2前		2			○		6	5	2	11		兼1
	ゲノム環境医学演習II	1・2後		2			○		6	5	2	11		兼1
	ゲノム環境医学実験実習I	1・2前		2				○	6	5	2	11		兼1
	ゲノム環境医学実験実習II	1・2後		2				○	6	5	2	11		兼1
	睡眠医科学特論I	1・2前		2		○			2					兼11
	睡眠医科学特論II	1・2後		2		○			2					兼11
	睡眠医科学演習I	1・2前		2			○		2					兼11
	睡眠医科学演習II	1・2後		2			○		2					兼11
	睡眠医科学実験実習I	1・2前		2				○	2					兼11
	睡眠医科学実験実習II	1・2後		2				○	2					兼11
小計 (25科目)	—		1	48	0		—	23	17	10	27	0	兼14	—
e ランニング基礎講義	がんの基礎的知識	1・2通		2		○			3					
	総論:臨床腫瘍学	1・2通		1		○								
	各論:臨床腫瘍学	1・2通		1		○								
	臨床研究と統計学	1・2通		1		○								
	がんと倫理	1・2通		1		○								
	精神腫瘍学・社会腫瘍学	1・2通		1		○								
選択科目	緩和医療とチーム医療	1・2通		1		○								
	保健医学物理学講義	1・2通		2		○			1		1			
	臨床腫瘍学(消化器内科)講義及び実習	1・2通		5		○								※実習
	臨床腫瘍学(消化器外科)講義及び実習	1・2通		5		○								※実習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
がん専門選抜講義	臨床腫瘍学(呼吸器内科)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(乳腺・内分泌)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(頭頸部)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(画像診断)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(病理診断)講義及び実習	1・2通		5		○				1						※実習	
	基礎腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		5		○				2		1				※実習	
	臨床緩和医療学・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(皮膚)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	臨床腫瘍学特論講義及び実習	1・2通		5		○										※実習	
	基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	1・2通		5		○				1						※実習	
	診断医学物理学講義	1・2通		2		○				1	1						
	がん専門選抜講義	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		4		○			1	1	1					※実習
		臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習	1・2通		4		○										※実習
		臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習	1・2通		4		○										※実習
		緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		4		○										※実習
		基礎腫瘍・がん医療開発講義及び実習	1・2通		4		○			1							※実習
		基礎医学物理学	1・2通		6		○			1	1	1					
		治療医学物理学	1・2通		6		○			1	1	1					
	医学物理学総合実習	1・2通		4				○	1	1	1					※実習	
	臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習	1・2通		4		○										※実習	
	小計(38科目)	—	0	152	0	—			4	1	1						
専門科目(コア)に根ざした社会・ヒューマニティ	疫学特論	1・2後		2		○										兼2	
	環境衛生学特論	1・2後		3		○			2	1	1	2				共同	
	地域医療学特論	1通		3		○			1	1						共同	
	法医学特論	1・2通		3		○			1			1				共同	
	国際医療学特論	1・2通		3		○										兼2	
	社会精神保健学特論	1・2通		3		○										兼1	
	福祉医療学特論	1・2通		3		○										兼1	
	保健医療政策学特論	1・2通		3		○										兼2	
	ヘルスサービスリサーチ特論	1通		3		○										兼1	
小計(9科目)	—	0	26	0	—				5	2	1	4	0		兼9		
放射線健康リスク管理	放射線健康リスク管理学	1・2通		4		○			2	1						兼7	
	放射線災害医療学	1・2通		2		○			2							兼6	
	放射線科学—その基礎理論と応用—	1・2前		1		○										兼4	
	課題解決型放射線科学演習	1・2通		2			○		2							兼3	
小計(4科目)	—	0	9	0	—				2	1					兼12		
基礎医学(病理学)	病理学・法医学概論	1・2通		1		○			1			1					
	先端医学概論I	1・2通		1			○		2								
	先端医学概論II	1・2通		1			○		2								
	病理診断学実習I	1・2通		1				○	1			1					
	病理診断学実習II	1・2通		1				○	1			1					
小計(5科目)	—	3	2	0	—				2	0	0	1	0				
合計(100科目)		—	16	261	0	—			23	17	10	27	0		兼20		
学位又は称号	博士(医学) 博士(学術)		学位又は学科の分野				医学関係										

教育課程等の概要															
(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 医学を履修する博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	医学研究概論	1・2前	1			○			1						
	医学セミナー	1・2通	3				○		73						
	医学特殊研究	1・2通	2				○		73						
	医学特別演習	1・2通	5				○		73						
	国際実践医学研究特論	1・2・3・4通		3			○		1						
	臨床研究方法論	1・2通		3			○		73						
	最先端医学研究セミナー	1・2通		3			○		1						
	橋渡し研究マネジメント	1・2後		2			○		3		3				
	医科学教育実習	2・3通		1				○	73						
	外国人医学者とのコミュニケーション演習	1・2後		2				○	1			1			
	English Topics in Science I	1・2・3・4前		1				○							兼1
	English Topics in Science II	1・2・3・4後		1				○							兼1
小計(12科目)		—	11	16	0		—	73	0	3	1	0		兼1	
専門科目	疾患制御医学特殊研究	1・2通	2				○		73						
	臨床病態解明学特論I	1・2前		2			○		18	15	29	3	1		
	臨床病態解明学特論II	1・2後		2			○		18	15	29	3	1		
	臨床病態解明学演習I	1・2前		2				○	18	15	29	3	1		
	臨床病態解明学演習II	1・2後		2				○	18	15	29	3	1		
	臨床病態解明学実験実習I	1・2前		2				○	18	15	29	3	1		
	臨床病態解明学実験実習II	1・2後		2				○	18	15	29	3	1		
	臨床外科学特論I	1・2前		2			○		24	16	43	1			
	臨床外科学特論II	1・2後		2			○		24	16	43	1			
	臨床外科学演習I	1・2前		2				○	24	16	43	1			
	臨床外科学演習II	1・2後		2				○	24	16	43	1			
	臨床外科学実験実習I	1・2前		2				○	24	16	43	1			
	臨床外科学実験実習II	1・2後		2				○	24	16	43	1			
	臨床内科学特論I	1・2前		2			○		29	31	32	1			
	臨床内科学特論II	1・2後		2			○		29	31	32	1			
	臨床内科学演習I	1・2前		2				○	29	31	32	1			
	臨床内科学演習II	1・2後		2				○	29	31	32	1			
	臨床内科学実験実習I	1・2前		2				○	29	31	32	1			
	臨床内科学実験実習II	1・2後		2				○	29	31	32	1			
	社会医学特論I	1・2前		2			○								兼3
	社会医学特論II	1・2後		2			○								兼3
	社会医学演習I	1・2前		2				○							兼3
	社会医学演習II	1・2後		2				○							兼3
	社会医学実験実習I	1・2前		2				○							兼3
	社会医学実験実習II	1・2後		2				○							兼3
	臨床試験論	1・2後		2			○		2			1			
	医生物統計学概論	1・2前		1			○		1	1					
	医生物統計学特論	1・2後		2			○		1	1					
	医生物統計学実習	1・2前		2				○	1	1					
	疫学特論	1・2後		1			○		1			1			
小計(30科目)		—	2	56	0		—	73	61	98	5	1		兼3	
がん基礎 eラーニング 講義	がんの基盤的知識	1・2通		2			○			2					
	総論:臨床腫瘍学	1・2通		1			○		4	1					
	各論:臨床腫瘍学	1・2通		1			○		4	1	2				
	臨床研究と統計学	1・2通		1			○		2						
	がんと倫理	1・2通		1			○		1						
	精神腫瘍学・社会腫瘍学	1・2通		1			○		1	1					
選択科目	保健医学物理学講義	1・2通		2			○		1		1	2			
	臨床腫瘍学(消化器内科)講義及び実習	1・2通		5			○		2	2	3				※実習
	臨床腫瘍学(消化器外科)講義及び実習	1・2通		5			○		2		1				※実習
	臨床腫瘍学(呼吸器内科)講義及び実習	1・2通		5			○		2						※実習
	臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	1・2通		5			○		1	1	2				※実習
	臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	1・2通		5			○		1	2					※実習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	1・2通		5		○			2	2					※実習	
	臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	1・2通		5		○			2		1				※実習	
	臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	1・2通		5		○			1	2	1				※実習	
	臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	1・2通		5		○			2	1	1				※実習	
	臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	1・2通		5		○			1	1	1				※実習	
	臨床腫瘍学(乳腺・内分泌)講義及び実習	1・2通		5		○			1	1					※実習	
	臨床腫瘍学(頭頸部)講義及び実習	1・2通		5		○				1	1				※実習	
	臨床腫瘍学(画像診断)講義及び実習	1・2通		5		○				2	3				※実習	
	臨床腫瘍学(病理診断)講義及び実習	1・2通		5		○									※実習	
	基礎腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		5		○			2	2	1				※実習	
	臨床緩和医療学・精神腫瘍学講義及び実習	1・2通		5		○			1						※実習	
	臨床腫瘍学(皮膚)講義及び実習	1・2通		5		○				1	1				※実習	
	臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	1・2通		5		○			2		1				※実習	
	臨床腫瘍学特論講義及び実習	1・2通		5		○			1						※実習	
	基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	1・2通		5		○									※実習	
	診断医学物理学講義	1・2通		2		○			1		1	2				
	がん専門二門選択講義	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	1・2通		4		○			2	1	1				※実習
臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習		1・2通		4		○			2						※実習	
臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習		1・2通		4		○			3						※実習	
緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習		1・2通		4		○			1						※実習	
基礎腫瘍学・がん医療開発講義及び実習		1・2通		4		○									※実習	
基礎医学物理学		1・2通		6		○			1			2				
治療医学物理学		1・2通		6		○			1			2				
医学物理学総合実習		1・2通		4				○	1			2				
臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習		1・2通		4		○			1						※実習	
小計(38科目)		—	0	152	0			—	32	18	19	4	0	兼1		
専門家・門科養成プログラム(根ざした社会・ヒューマン)	疫学特論	1・2後		2		○			1			1			共同	
	環境衛生学特論	1・2後		3		○									兼5 共同	
	地域医療学特論	1通		3		○									兼1 共同	
	法医学特論	1・2通		3		○									兼2 共同	
	国際医療学特論	1・2通		3		○									兼2 共同	
	社会精神保健学特論	1・2通		3		○									兼1	
	福祉医療学特論	1・2通		3		○									兼1	
	保健医療政策学特論	1・2通		3		○									兼2 共同	
	ヘルスサービスリサーチ特論	1通		3		○									兼1	
小計(9科目)		—	0	26	0			—	1	0	0	1	0	兼15	—	
材料専攻(放射線健康リスク管理)	放射線健康リスク管理学	1・2通		4		○			3	2	2				兼3	
	放射線災害医療学	1・2通		2		○			2	2	2				兼3	
	放射線科学—その基礎理論と応用—	1・2前		1		○									兼4 ※実習,集中,オムニバス	
	課題解決型放射線科学演習	1・2通		2			○		1		2				兼2	
小計(4科目)		—	0	9	0			—	4	2	2	0	0	兼7		
成門基研医担専(基礎医学)	病理学・法医学概論	1・2通		1		○									兼2	
	先端医学概論I	1・2通		1			○								兼2	
	先端医学概論II	1・2通		1			○								兼2	
	病理診断学実習I	1・2通		1				○							兼2	
	病理診断学実習II	1・2通		1				○							兼2	
小計(5科目)		—	3	2	0			—						兼3		
合計(104科目)			—	16	261	0			—	73	61	98	5	1	兼15	
学位又は称号	博士(医学) 博士(学術)		学位又は学科の分野				医学関係									

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	実践的教育能力育成科目																	
	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1						兼1	※演習 ｽﾃｲ	
	大学体育授業演習Ⅰ	1後	筑波大学		2			○		5	1						ｽﾃｲ	
	大学体育授業演習Ⅱ	2・3後	筑波大学		2			○		5	1						ｽﾃｲ	
	大学体育授業演習Ⅲ	2・3通	筑波大学		2			○		5	1						集中,ｽﾃｲ	
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3						兼1	共同(一部), オムバス,ｽﾃｲ	
	小計(5科目)	—		1	8	0		—		8	1	0	0	0		兼2		
	実践的研究能力育成科目																	
	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2				○		1							ｽﾃｲ
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1				○		3						兼1	オムバス,集中, ｽﾃｲ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後	鹿屋体育大学		2				○	3						兼1	共同,ｽﾃｲ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前	鹿屋体育大学		2				○	3						兼1	共同,ｽﾃｲ	
体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通	鹿屋体育大学		2				○	3						兼1	共同,集中, ｽﾃｲ		
小計(5科目)	—		1	8	0		—		4	0	0	0	0		兼1			
博士論文研究基礎科目																		
博士論文課題演習Ⅰ	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2					○	9	1					兼1	ｽﾃｲ		
博士論文課題演習Ⅱ	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2					○	9	1					兼1	ｽﾃｲ		
小計(2科目)	—		4	0	0		—		9	1	0	0	0		兼1			
専門基礎科目	高度指導者教養育成科目																	
	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2			○			1						集中,演習	
	国際インターンシップ	1・2・3通	筑波大学		1				○							兼1	集中	
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1			○								兼9	オムバス,ｽﾃｲ	
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1			○		3						兼1	共同(一部), オムバス,ｽﾃｲ	
小計(4科目)	—		0	5	0		—		3	1	0	0	0		兼11			
合計(16科目)				—		6	21	0	—	9	1	0	0	0		兼12		
学位又は称号		博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係											
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等										
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)				筑波大学	17(5)	1学年の学期区分		2期										
						1学期の授業期間		15週										
						1時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分										

教育課程等の概要（共同学科等）

（人間総合科学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻）（筑波大学）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	実践的教育能力育成	大学体育論	1前	1			○			1					兼1	※演習 メテア
		大学体育授業演習Ⅰ	1後		2			○		5	1					メテア
		大学体育授業演習Ⅱ	2・3後		2			○		5	1					メテア
		大学体育授業演習Ⅲ	2・3通		2			○		5	1					集中,メテア
		小計（4科目）	—	1	6	0		—		5	1	0	0	0	兼1	
育成科目	実践的研究能力	大学体育研究演習	1通		2			○		1						メテア
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0	0	
基礎力育成科目	博士論文研究基	博士論文課題演習Ⅰ	1通	2				○		6	1				兼1	メテア
		博士論文課題演習Ⅱ	2通	2				○		6	1				兼1	メテア
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		6	1	0	0	0	兼1	
専門基礎科目	育成高度指導者教養	つくばサマーインスティテュート	1・2前		2			○			1					集中,演習
		国際インターンシップ	1・2・3通		1				○						兼1	集中
		コーチングの哲学と倫理	1前		1			○							兼9	オムハス,メテア
		小計（3科目）	—	0	4	0		—		0	1	0	0	0	兼10	
合計（10科目）		—	5	12	0		—		6	1	0	0	0	兼10		
学位又は称号		博士（体育スポーツ学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
（修了要件） 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。  （履修方法） 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位（必修） ・実践的研究能力育成科目：3単位（必修） ・高度指導者教養育成科目：1単位（必修） ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位（必修）								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		75分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科内の複数専攻の協力により運営する学位プログラム

（人間総合科学研究科 スポーツウエルネス学位プログラム 3年制博士課程）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	課題解決型データ分析論特講①	1前	1			○				1					
	課題解決型データ分析論特講②	1後	1			○				1					
	小計（2科目）	—	2	0	0	—				1					—
専 門 科 目	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ	1通	1				○		5	2					
	スポーツウエルネス研究演習Ⅱ	2通	1				○		5	2					
	スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	3通	1				○		5	2					
	課題解決型プロジェクトワークⅠ	1通	1					○	5	3					
	課題解決型プロジェクトワークⅡ	2・3通	2					○	5	3					
	小計（5科目）	—	6	0	0	—			5	3					—
合計（7科目）		—	6	0	0	—			5	4	0	0	0		
学位又は称号	博士（スポーツウエルネス学）	学位又は学科の分野			体育関係										

教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科の複数専攻の協力により運営する学位プログラム  
 （ヒューマンバイオロジー学位プログラム 5年一貫制博士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	イニシエーションセミナー	1前	1			○			1	1					集中
	世界のサイエンスリーダーズセミナー	1通	1			○			1						
	ビジネスリーダーズセミナー	1通	1			○			1						
	ヒューマンバイオロジーのセレンディピティ	1前		1		○			1	1					
	科学倫理	1前	1			○						1			
	ヒューマンバイオロジーのコミュニケーションI	1前		1			○			1					
	ヒューマンバイオロジーのコミュニケーションII	1後		1			○			1					
	ヒューマンバイオロジーの国際討論I	1前		1		○			1	1		1		兼1 ※演習	
	ヒューマンバイオロジーの国際討論II	1後		1		○			3	1		2		兼1 ※演習	
	研究発表と討論	2前		1			○			1					
	国際研究室ローテーション	2後		5				○	1						
	海外企業におけるインターンシップ	2後		5				○	1						
	適性技術	2後		5				○	1						
	起業家マインド育成	2後		5			○		1					兼1 ※集中	
	国際研究室ローテーション上級コース	3・4・5通		10				○				1			
	海外企業におけるインターンシップ上級コース	3・4・5通		10				○	1						
適性技術上級コース	3・4・5通		10				○	1							
起業家マインド育成・実践コース	3・4・5通		10				○	1					兼1		
キャリアマネジメント学習	3・4・5通		10				○	1							
小計（19科目）	—	—	4	76	0	—	—	7	4	0	5	0	兼4	—	
専門基礎科目	人体解剖学・発生学	1後	2			○			1						
	人体病理学・腫瘍学	1前	2			○			1						
	ヒトの感染・免疫学	1前	2			○			2	5	1	2		兼1 オムニバス	
	ヒトの内分泌・代謝学	1前	2			○			1			1			
	環境医学	1前		1		○			1					オムニバス	
	生化学・分子生物学	1前		1		○			2	3	2	1			
	分子細胞生物学	1後		1		○			1			1			
	基礎毒性学	1後		1		○			1			2			
	有機化学／ケミカルバイオロジー	1後		1		○				2		4			
	創薬科学のフロンティア	1後		1		○			1						
	神経科学特論	1・2前		1		○			1						
	生体高分子の構造生物学	2前		1		○								兼1	
	神経生物学	1後		1			○			1					
	サイエンスにおけるITの活用	1休		2				○						兼1 ※実習	
	基礎計算生物学	1後	2			○			2					兼3	
	数理アルゴリズム	2後		2		○			1			2		※演習	
	高性能計算技術	2後		2		○			2						
	計算構造生物学・創薬	2後		1				○	2			1		※実習	
	ゲノクスデータベースへのアクセスと利用	1前		1			○			1					
	生殖生物学	1後		2			○		1					隔年	
遺伝子工学と遺伝子改変マウス	2前		1			○		1							
エピゲノム生理学	2前		1			○		1		1					
シグナル伝達と創薬デザイン	2前		1			○					1				
幹細胞再生医学	2前		1			○		1			1				
小計（24科目）	—	—	10	23	0	—	—	20	12	4	16	0	兼6	—	
専門科目	ヒューマンバイオロジー基礎実験	1前	4					○	1						
	ヒューマンバイオロジー特論I	1後	1			○			1						
	ヒューマンバイオロジー演習I	1後	1				○		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	ヒューマンバイオロジー特論Ⅱ	2前	1			○			1							
	ヒューマンバイオロジー演習Ⅱ	2前	1				○		1							
	ヒューマンバイオロジー実験実習Ⅱ	2前	1					○	1							
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅰ	1後	2				○		1							
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅱ	2通	10					○	1							
	ヒューマンバイオロジー研究室演習Ⅰ	1後	5					○	1							
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅲ	3通	10					○		1						
	小計（10科目）	—	36	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	—
学位プログラム小計（53科目）		—	50	99	0	—	—	—	24	16	4	20	0	兼10	—	—
学位又は称号	博士（人間生物学）		学位又は学科の分野				医学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科の複数専攻の協力により運営する学位プログラム

（ライフイノベーション学位プログラム（病態機構） 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	医学概論	1前	1			○			6	2	2				兼6
	創薬概論	1前	1			○									兼5
	食品科学概論	1前	1			○									兼5
	バイオリソース概論	1後	1			○									兼5
	自然史概論	1後	1					○							兼2
	バイオインフォマティクス	1前	1				○								兼3
	医薬品・食品マネジメント学	2前	1			○									兼5
	レギュラトリーサイエンス	2前	1			○			1						兼3
	ライフイノベーション実習	1通	1					○		1					兼13
	ライフイノベーションチーム型演習	1通	2				○								兼2
	CITL：責任ある研究行為：基盤編(e-learning)	1通	1			○									兼1
	博士前期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○									兼9
	博士前期インターンシップ 春	1・2前		1				○							兼1
博士前期インターンシップ 秋	1・2後		1				○							兼1	
小計（14科目）	—		13	2	0	—	—	—	7	3	2	0	0	兼45	—
専門科目	疾患の分子細胞生物学I	1前		1		○									兼5
	疾患の分子細胞生物学II	1前		1		○									兼5
	細胞制御論	1前		1		○									兼4
	神経科学特論	1前		1		○			4	4		1			兼1
	ライフイノベーション博士前期演習I秋	1後	1				○		1						兼8
	ライフイノベーション博士前期演習I春	1前	1				○		1						兼8
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	1後	2					○	1						兼8
	ライフイノベーション博士前期研究I春	1前	2					○	1						兼8
	博士前期海外インターンシップ 春	1・2前		1				○							兼1
	ライフイノベーション博士前期演習II秋	2後	1				○		1						兼8
	ライフイノベーション博士前期演習II春	2前	1				○		1						兼8
	ライフイノベーション博士前期研究II秋	2後	2					○	1						兼8
	ライフイノベーション博士前期研究II春	2前	2					○	1						兼8
博士前期海外インターンシップ 秋	1・2後		1				○							兼1	
小計（14科目）	—		12	6	0	—	—	—	4	5	0	1	0	兼22	—
合計（28科目）	—		25	8	0	—	—	—	11	7	2	1	0	兼52	—
学位又は称号	修士（病態機構学）		学位又は学科の分野				医学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科の複数専攻の協力により運営する学位プログラム

（ライフイノベーション学位プログラム（創薬開発） 博士前期課程）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	医学概論	1前	1			○			6	2	2				兼6
	創薬概論	1前	1			○									兼5
	食品科学概論	1前	1			○									兼5
	バイオリソース概論	1後	1			○									兼5
	自然史概論	1後	1					○							兼2
	バイオインフォマティクス	1前	1				○								兼3
	医薬品・食品マネジメント学	2前	1			○									兼5
	レギュラトリーサイエンス	2前	1			○			1						兼3
	ライフイノベーション実習	1通	1					○		1					兼19
	ライフイノベーションチーム型演習	1通	2				○								兼2
	CITL：責任ある研究行為：基盤編(e-learning)	1通	1			○									兼13
	博士前期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○									兼9
	博士前期インターンシップ 春	1・2前		1				○							兼1
	博士前期インターンシップ 秋	1・2後		1				○							兼1
小計（14科目）	—	—	13	2	0	—	—	—	7	3	2	0	0	兼45	—
専門 科目	有機化学/ケミカルバイオロジー	1後		1		○				1		3			兼2
	創薬化学/薬理学	1後		1		○						1			兼2
	創薬トランスレーショナルサイエンス	1前		1		○									兼5
	薬剤設計工学	1前		1		○									兼5
	ライフイノベーション博士前期演習I秋	1後	1				○								兼12
	ライフイノベーション博士前期演習I春	1前	1				○								兼12
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	1後	2					○							兼12
	ライフイノベーション博士前期研究I春	1前	2					○							兼12
	博士前期海外インターンシップ 春	1・2前		1				○							兼1
	ライフイノベーション博士前期演習II秋	2後	1				○								兼12
	ライフイノベーション博士前期演習II春	2前	1				○								兼12
	ライフイノベーション博士前期研究II秋	2後	2					○							兼12
	ライフイノベーション博士前期研究II春	2前	2					○							兼12
	博士前期海外インターンシップ 秋	1・2後		1				○							兼1
小計（14科目）	—	—	12	6	0	—	—	—	0	1	0	4	0	兼20	—
合計（28科目）		—	25	8	0	—	—	—	7	4	2	4	0	兼57	—
学位又は称号	修士（医科学）		学位又は学科の分野				医学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科の複数専攻の協力により運営する学位プログラム

（ライフイノベーション学位プログラム（病態機構） 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	CITI:人を対象とした研究:基盤編(e-learning)	1通	1			○									兼1	
	博士後期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○									兼9	
	博士後期インターンシップ 春	1前		1						1						
	博士後期インターンシップ 秋	1後		1						1						
	小計(4科目)	—	2	2	0				0	1	0	0	0	0	兼10	—
専門科目	ライフイノベーション博士後期演習I秋	1後	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期演習I春	1前	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究I秋	1後	2					○	1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究I春	1前	2					○	1						兼8	
	博士後期海外インターンシップ 春	1・2・3前		1				○		1						
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	2前	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	2後	2					○	1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	2前	2					○	1						兼8	
	博士後期海外インターンシップ 秋	1・2・3後		1				○		1						
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	2前	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	2後	2					○	1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	2前	2					○	1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期演習III秋	3後	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期演習III春	3前	1				○		1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究III秋	3後	2					○	1						兼8	
	ライフイノベーション博士後期研究III春	3前	2					○	1						兼8	
	小計(18科目)	—	24	2	0				1	1	0	0	0	0	兼8	—
合計(22科目)		—	26	4	0				1	1	0	0	0	0	兼18	—
学位又は称号	博士(病態機構学)		学位又は学科の分野				医学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

※研究科の複数専攻の協力により運営する学位プログラム

（ライフイノベーション学位プログラム（創薬開発） 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	CITI:人を対象とした研究:基盤編(e-learning)	1通	1			○									兼1	
	博士後期ライフイノベーションセミナー	1前	1			○									兼9	
	博士後期インターンシップ 春	1前		1					1							
	博士後期インターンシップ 秋	1後		1					1							
	小計(4科目)	—	2	2	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼10	—
専門科目	ライフイノベーション博士後期演習I秋	1後	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期演習I春	1前	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究I秋	1後	2					○							兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究I春	1前	2					○							兼12	
	博士後期海外インターンシップ 春	1・2・3前		1					1							
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	2前	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	2後	2					○							兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	2前	2					○							兼12	
	博士後期海外インターンシップ 秋	1・2・3後		1					1							
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	2後	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	2前	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	2後	2					○							兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	2前	2					○							兼12	
	ライフイノベーション博士後期演習III秋	3後	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期演習III春	3前	1				○								兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究III秋	3後	2					○							兼12	
	ライフイノベーション博士後期研究III春	3前	2					○							兼12	
	小計(18科目)	—	24	2	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼12	—
合計(22科目)		—	26	4	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼21	—
学位又は称号	博士(医科学)		学位又は学科の分野				医学関係									

教育課程等の概要															
(図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	知識と情報の世界	1・2後		2		○				1					
	システム思考	1・2前		2		○				2					オムニバス
	インターネットと法	1・2後		2		○			1						
	知的財産の管理と利用	1・2前		2		○				1					
	図書館とメディアの歴史	1・2前		2		○			2						オムニバス
	情報探索と検索	1・2前		2		○				1		1			オムニバス
	情報行動論	1・2前		2		○					1				
	要求分析とプロジェクト管理	1・2後		2		○				1					
	テクニカルコミュニケーション	1・2後		2		○					1				
	コミュニケーションと文化	1・2前		2		○						2			オムニバス
	情報メディア演習B	1前	2				○			1	1		3		
	情報メディア演習C	1後	2				○				3				
	グローバル研究実習Ia	1・2前		1			○			1					集中
	グローバル研究演習Ib	1・2後		1			○			1					集中
	グローバル研究演習IIa	1・2前		1			○			1					集中
	グローバル研究演習IIb	1・2後		1			○			1					集中
	問題記述と形式化	1・2後		2			○				2				オムニバス
	自然言語処理	1・2前		2			○				1		1		オムニバス
	データ工学特論	1・2前		2			○			2					オムニバス
	セマンティックウェブ	1・2後		2			○					1			
	インフォメトリクス	1・2前		2			○			1					
	コンテンツ制作論	1・2後		2			○				1				
	音声・音響メディア処理	1・2後		2			○						1		
	画像・映像メディア処理	1・2前		2			○						1		
	認知科学特論	1・2後		2			○			1	1				オムニバス
	ヒューマンコンピュータ・インタラクション	1・2前		2			○			1	1				オムニバス
	情報デザイン	1・2後		2			○				1				
	先端情報技術	1・2後		2			○								兼5
	アルゴリズム特論	1・2後		2			○			1					オムニバス
	データサイエンス概論	1・2後		2			○					1			
	映像メディア特論	1・2後		2			○			1					
	情報メディア演習A(情報学)	1前	2				○			2					共同
	情報メディア特別演習(情報学)a	2前・後	2				○			18	19				
	情報メディア特別演習(情報学)b	2前・後	2				○			18	19				
	テキスト解析	1・2前		2			○			1	1				オムニバス
	デジタルドキュメント	1・2後		2			○				1		1		オムニバス
	デジタルライブラリ	1・2後		2			○				2				オムニバス
	デジタルアーカイビング	1・2前		2			○				1		1		オムニバス
	ドキュメント管理	1・2前		2			○			1			1		オムニバス
	メタデータ	1・2後		2			○				1				
	公共図書館	1・2後		2			○				1		1		オムニバス
	文化的多様性と図書館情報サービス	1・2前		2			○			1					
	図書館経営論	1・2前		2			○					1			
	メディア教育	1・2前		2			○				1				
	学校図書館経営	1・2後		2			○			1					
学術情報基盤論	1・2後		2			○			1						
資料と文化	1・2前		2			○			1						
情報メディア演習A(図書館情報学)	1前	2				○			1						
情報メディア特別演習(図書館情報学)a	2前・後	2				○			18	19					
情報メディア特別演習(図書館情報学)b	2前・後	2				○			18	19					
Research Methods in Informatics	1後	2				○				2		1		オムニバス	
Introduction to Informatics	1・2後		2			○									
Practical Seminar A	1後	2				○						1			
Practical Seminar B	1前	2				○			2					共同	
Synthetic Seminar on MSc Research a	2前・後	2				○			18	19					
Synthetic Seminar on MSc Research b	2前・後	2				○			18	19					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	学術コミュニケーション論	1・2後		2		○					1				東京開講 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	デジタルライブラリ	1・2前		2		○				2					
	デジタルコンテンツ論	1・2後		3		○			1	3					東京開講,オムニバ <sup>ス</sup> 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	情報分析	1・2前		2		○			1	1					
	情報活用	1・2後		2		○				1		1			東京開講,オムニバ <sup>ス</sup> 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	情報表現法	1・2前		2			○			1	1	1			
	学校図書館経営	1・2後		2		○			1						東京開講 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	図書館サービス論	1・2前		3		○			3	1	1				
	教育文化政策論	1・2後		1			○		1						東京開講,オムニバ <sup>ス</sup> 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	ドキュメント管理	1・2後		2		○			1			1			
	ライブラリー・ガバナンス論	1・2前		2		○				1		1			東京開講,オムニバ <sup>ス</sup> 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	公共経営論	1・2前		1			○		1						
	LIS研究の最新動向	1・2前		2		○			5	2	2	1			東京開講,オムニバ <sup>ス</sup> 東京開講,オムニバ <sup>ス</sup>
	研究の手引き	1・2前		2			○		3	1	1				
	調査分析法	1・2後		2			○		1						東京開講 東京開講
	文献講読I	1・2前		2			○		17	19					
	文献講読II	1・2後		2			○		18	19					東京開講 東京開講
	特別演習a	2前・後	2				○		18	19					
	特別演習b	2前・後	2				○		18	19					東京開講
	小計 (75科目)	—	30	116	0	—	—	—	18	19	5	10	0	兼17	—
合計 (75科目)		—	30	116	0	—	—	—	18	19	5	10	0	兼17	—
学位又は称号	修士 (情報学) 修士 (図書館情報学)	学位又は学科の分野			文学関係、工学関係										

教 育 課 程 等 の 概 要															
(図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	情報知識化方法研究	1・2・3後		2		○			1						
	専門情報・資料研究II（文学）	1・2・3後		2		○			1						
	専門情報・資料研究III（社会）	1・2・3前		2		○			1						
	国際教育文化政策研究	1・2・3前		2		○			1						
	インタラクティブ情報検索研究	1・2・3前		2		○				1					
	生命情報学研究	1・2・3後		2		○				1					
	知識情報基盤研究	1・2・3前		2		○			1						
	アーカイブズ研究	1・2・3前		2		○			1						
	知識哲学研究	1・2・3後		2		○				1					
	著作権法研究	1・2・3後		2		○				1					
	映像メディア研究	1・2・3後		2		○			1						
	ライブラリー・ガバナンス研究	1・2・3前		2		○			1						
	学校メディアセンター運営研究	1・2・3後		2		○			1						
	情報メディアサービス研究	1・2・3前		2		○			1						
	情報コミュニティ計画研究	1・2・3前		2		○			1						
	メディア影響研究	1・2・3前		2		○				1					
	知識資源の調査研究	1・2・3前		2		○				1					
	計量情報学研究	1・2・3後		2		○			1						
	メディア物理研究	1・2・3後		2		○			1						
	情報アクセスシステム研究	1・2・3前		2		○			1						
	数式処理システム研究	1・2・3後		2		○			1						
	情報伝達共有システム研究	1・2・3後		2		○				1					
	知識情報空間研究	1・2・3前		2		○				1					
	構造化文書処理技術研究	1・2・3前		2		○				1					
	情報探索システム研究	1・2・3後		2		○				1					
	データ解析研究	1・2・3前		2		○				1					
	自然言語処理研究	1・2・3前		2		○				1					
	情報認知研究	1・2・3後		2		○			1						
	知能システム研究	1・2・3前		2		○				1					
	情報デザイン表現研究	1・2・3後		2		○				1					
	コンテンツ共有基盤技術研究	1・2・3前		2		○			1						
	コミュニケーション環境技術研究	1・2・3後		2		○			1						
デジタルネイチャー研究	1・2・3前		2		○				1						
認知心理学研究	1・2・3後		2		○				1						
情報メディア特別演習Ia	1前	1				○			17						
情報メディア特別演習Ib	1後	1				○			18						
情報メディア特別演習IIa	2前・後	1				○			18	19	1	9			
情報メディア特別演習IIb	2前・後	1				○			18	19	1	9			
情報メディア特別演習IIIa	3前・休	1				○			17						
情報メディア特別演習IIIb	3後・休	1				○			18						
グローバル研究実習Ⅲa	1・2・3前		1			○			1					集中	
グローバル研究演習Ⅲb	1・2・3後		1			○			1					集中	
グローバル研究演習Ⅳa	1・2・3前		1			○			1					集中	
グローバル研究演習Ⅳb	1・2・3後		1			○			1					集中	
グローバル研究演習Ⅴa	1・2・3前		1			○			1					集中	
グローバル研究演習Ⅴb	1・2・3後		1			○			1					集中	
小計（46科目）		—	6	74	0	—			18	19	1	9	0	—	
合計（46科目）		—	6	74	0	—			18	19	1	9	0	—	
学位又は称号	博士（情報学） 博士（図書館情報学） 博士（学術）		学位又は学科の分野				文学関係、工学関係								

教育課程等の概要														
(大学院共通科目)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
理生命・環境・研究倫	「分析・操作の対象としての人間」と「人格としての人間」	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 集中
	応用倫理	1・2・3・4・5後		1		○								兼2 集中, オムニバス
	環境倫理学概論	1・2・3・4・5後		1		○								兼2 集中, オムニバス
	研究倫理	1・2・3・4・5前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
	生命倫理学	1・2・3・4・5前		1		○								兼10 オムニバス
	企業と技術者の倫理	1・2・3・4・5前		1		○								兼2 ※演習, 集中, オムニバス
成メ研究目群	研究者のための学術情報流通論	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 ※演習, 集中
情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 ※演習, 集中
	英語発表	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 ※演習, 集中
	科学英語論文ライティング-プラクティス	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 ※演習, 集中
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1・2・3・4・5通		2			○							兼3 集中
	Global Communication Skills Training	1・2・3・4・5前		1			○							兼1 ※講義, 集中
	ザ・プレゼンテーション	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 ※演習, 集中
	サイエンスコミュニケーション概論	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 集中
	サイエンスコミュニケーション特論	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 集中
	サイエンスコミュニケーションータ養成実践講座	1・2・3・4・5休		2				○						兼1 集中
	研究のビジュアルデザイン	1・2・3・4・5後		1				○						兼3 ※講義, オムニバス
人文知コミュニケーション: 人文社会科学と自然科学の壁を超える	1・2・3・4・5後		1			○							兼3 ※集中, オムニバス	
国際性養成科目群	21世紀の中国 —現代中国的多相—	1・2・3・4・5後		2		○								兼1
	国際研究プロジェクト	1・2・3・4・5通		1				○						兼1
	国際インターンシップ	1・2・3・4・5通		1					○					兼1
	地球規模課題と国際社会: 食料問題	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 集中
	地球規模課題と国際社会: 海洋環境変動と生命	1・2・3・4・5後		1		○								兼2 集中, オムニバス
	地球規模課題と国際社会: 社会脳	1・2・3・4・5休		1		○								兼1 集中
	地球規模課題と国際社会: 感染症・保健医療問題	1・2・3・4・5後		1		○								兼3 集中, オムニバス
	地球規模課題と国際社会: 社会問題	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 集中
	地球規模課題と国際社会: 環境汚染と健康影響	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 集中
地球規模課題と国際社会: 環境・エネルギー	1・2・3・4・5休		1		○								兼1 集中	
キャリアマネジメント科目群	教育・研究指導II(教師論)	1・2・3・4・5後		1		○								兼1 ※演習, 集中
	博士のキャリアパス	1・2・3・4・5前		1		○								兼1 ※演習, 集中
	JAPICアドバンストディスカッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	1・2・3・4・5前		1			○							兼1 集中
	JAPICアドバンストディスカッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	1・2・3・4・5後		1			○							兼1 集中
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1・2・3・4・5休		1			○							兼2 ※講義, 集中
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1・2・3・4・5前		1		○								兼2 集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1・2・3・4・5休		1				○						兼10 集中, オムニバス
	筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト	1・2・3・4・5後		1			○							兼2
	アクセシビリティリーダー特論	1・2・3・4・5前		1		○								兼8 集中, オムニバス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	脳の多様性とセルフマネジメント	1・2・3・4・5休		1				○							兼1 ※演習, 集中	
知的基盤形成科目群	化学物質の安全衛生管理	1・2・3・4・5前		1		○									兼5 ※演習, オムニバス	
	放射線科学 ―その基礎理論と応用―	1・2・3・4・5前		1		○									兼4 ※実習, 集中, オムニバス	
	機械工作論と実習	1・2・3・4・5休		1		○									兼2 ※実習, 集中	
	計算科学リテラシー	1・2・3・4・5休		1		○									兼8 集中, オムニバス	
	計算科学リテラシー Computational Science Literacy	1・2・3・4・5休		1		○									兼8 集中, オムニバス	
	計算科学のための高性能並列計算技術(日本語)	1・2・3・4・5休		1		○									兼5 集中, オムニバス	
	計算科学のための高性能並列計算技術 High Performance Parallel Computing Technology for Computational Sciences	1・2・3・4・5休		1		○									兼6 集中, オムニバス	
	生物多様性と地球環境	1・2・3・4・5前		1		○									兼4 ※実習, 集中, オムニバス	
	内部共生と生物進化	1・2・3・4・5前		1		○									兼1 集中	
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1・2・3・4・5休		1					○						兼2 ※講義, 集中	
	UT-Top Academicist's Lecture	1・2・3・4・5前		1		○									兼10	
	こころの神経科学	1・2・3・4・5休		1		○									兼10 集中, オムニバス	
	科学的発見と創造性	1・2・3・4・5前		1		○									兼1 集中	
	宇宙の歴史	1・2・3・4・5後		1		○									兼11 集中, オムニバス	
	自然災害にどう向き合うか	1・2・3・4・5前		1		○									兼1	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1・2・3・4・5休		1		○									兼5 集中, オムニバス	
21世紀と宗教	1・2・3・4・5前		1		○									兼2 集中, オムニバス		
身心基盤形成科目群	塑造実習	1・2・3・4・5後		1				○							兼2 隔年	
	コミュニケーションアート&デザインA	1・2・3・4・5前		1.5		○									兼11 オムニバス	
	コミュニケーションアート&デザインB	1・2・3・4・5後		1.5		○									兼11 オムニバス	
	日本画実習	1・2・3・4・5前		1				○							兼2 隔年	
	書実習基礎	1・2・3・4・5前		1				○							兼2 隔年	
	ヨーガコース	1・2・3・4・5前		1				○							兼1 ※講義, 集中	
	絵画実習A	1・2・3・4・5前		1				○							兼1 隔年	
	現代アート入門	1・2・3・4・5前		1		○									兼1 隔年	
	大学院体育Ia	1通		1				○							兼5	
	大学院体育Ib	1前		1				○							兼3	
	大学院体育Ic	1後		1				○							兼3	
	大学院体育IIa	2通		1				○							兼5	
	大学院体育IIb	2前		1				○							兼3	
	大学院体育IIc	2後		1				○							兼3	
	大学院体育IIIa	1・3通		1				○							兼5	
	大学院体育IIIb	1・3前		1				○							兼3	
	大学院体育IIIc	1・3後		1				○							兼3	
	大学院体育IVa	2・4通		1				○							兼5	
	大学院体育IVb	2・4前		1				○							兼3	
	大学院体育IVc	2・4後		1				○							兼3	
	大学院体育Va	3・5通		1				○							兼5	
大学院体育Vb	3・5前		1				○							兼3		
大学院体育Vc	3・5後		1				○							兼3		
小計(78科目)		—	0	82	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼146	—
合計(78科目)		—	0	81	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼146	—

## 基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
人間学群 教育学類															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	共通 科目・ 関 連 科 目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○			1		1		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○				1		1		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2					○						兼57 全学開設
		第1外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設
		第2外国語	1・2前・後	3					○						兼87 全学開設
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設
		小計（7科目）	—	15	1	0	—			0	1	0	1	0	兼300
教育 学 主 専 攻	専 門 基 礎 科 目	教育基礎論	1前	2			○			1	1		1		
		学校の経営・制度・社会	1後	2			○				1		2		
		心理学概論	1・2前	2			○			1					隔年, 集中
		障害科学I	1前		2		○								兼12 2単位必修
		障害科学II	1後		2		○			1					兼16
		キャリアデザイン入門	1後	1			○				1				兼2
		教育学研究法I	2前	2			○				3				※演習、及び実習・実験
		教育学研究法II	2後	2			○				1				※演習、及び実習・実験
		教育インターンシップ基礎論	2前	1			○			1			4		
		教育インターンシップ実践演習	2通	1				○		1			4		集中
		教育学実践演習	3通	1			○			2					集中
		人間フィールドワークI	1・2通		1				○		1				兼2 集中
		人間フィールドワークII	2・3通		1				○		1				兼2 集中
		人間フィールドワークIII	3・4通		1				○		1				兼2 集中
		専 門 科 目	専 門 科 目	卒業研究	4通	6				○		13	7		9
教育哲学	2前				2		○						1		
日本教育史	2前				2		○				1				
日本教育史演習	3後				1			○			1				隔年
外国教育史	2前				2		○								兼1 隔年
道德教育論	2通				2		○			1					
道德教育論演習	3前				1			○		1					
比較道德教育論	2後				2		○				1				隔年
比較道德教育論演習	3後				1			○			1				
教育思想論	2前				2		○				1				隔年
キャリア教育論	2通				2		○			1					
教育哲学演習	3後				1			○					1		
キャリア教育論演習	3前				1			○		1					
外国教育史演習	3前				1			○							兼1
アジア教育史	2通				2		○				1				集中(一部)
アジア教育史演習	3前				1			○			1				集中
教育思想論演習	3前				1			○			1				隔年
教育課程論	2通				2		○				1				
学習指導論	2前				2		○			1					
教育工学	2後				2		○								兼1 隔年, 集中
視聴覚教育論	2通		2		○								兼1 隔年, 集中		
学習情報処理論	2後		2		○			1					隔年		
教育臨床学	2通		2		○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育臨床学演習	3後		1			○		1						
	社会認識教育論	2通		2		○			1						
	数学教育論	2通		2		○			1						
	科学教育論	2後		2		○			1			1			隔年, 集中
	児童文学論	2通		2		○			1						隔年
	算数数学教材論	2通		2		○			1						集中(一部)
	数学教育史	2前		2		○				1					隔年
	カリキュラム開発演習	3後		2			○			1					隔年
	学習指導論演習	3前		1			○		1						
	児童文学論演習	3前		1			○		1						隔年
	数学教育論演習	3前		1			○		1						
	算数数学教材論演習	3通		1			○		1						集中(一部)
	特別活動論	2通		2		○						1			
	特別活動論演習	3前		1			○					1			
	初等外国語活動	2前		1		○						1			
	初等特別活動論	3通		2		○			1						集中
	生徒・進路指導論	3通		2		○									兼1 集中(一部)
	教育相談論	3通		2		○									兼1 集中
	初等特別支援教育	3通		1		○									兼1 集中
	初等総合的な学習の時間の指導法	3通		1		○									兼1 集中
	教育心理学	1通		1		○									兼1 集中
	教育心理学	1通		3		○									兼1 集中
	教職論	1通		2		○			1						
	日本史概論	1・2通		1		○									兼1 隔年, 集中
	地理学概論	1・2通		1		○									兼1 隔年, 集中
	地誌概論	1・2前		1		○			1						隔年
	社会学概論	1・2後		1		○									兼1 隔年
	哲学概論	1・2後		1		○						1			隔年
	初等教科教育法(国語)	2前		2		○				1					兼3
	初等教科教育法(社会)	2前		2		○			1						兼2
	初等教科教育法(算数)	3前		2		○				1					兼3
	初等教科教育法(理科)	3前		2		○						1			兼2
	初等教科教育法(生活)	2後		2		○			1						兼1
	初等教科教育法(音楽)	2前		2		○									兼3
	初等教科教育法(図画工作)	2後		2		○									兼2 集中
	初等教科教育法(家庭)	2前		2		○									兼1 集中
	初等教科教育法(体育)	2前		2		○									兼2 集中
	初等教科教育法(外国語)	2通		2		○									兼1 集中
	初等国語	2前		1		○				1					
	初等社会	2後		1		○			1						
	初等算数	2後		1		○				1					
	初等理科	2休		1		○						1			集中
	初等生活	2休		1		○			1						集中
	初等音楽	2休		1		○									兼1 集中
	初等図画工作	2休		1		○									兼2 集中
	初等体育	2休		1		○									兼3 集中
	初等道德教育論	2後		2		○			1						兼2
	初等家庭	2休		1		○									兼1 集中
	教育実習(小学校)	3通		5				○	4	1		1			集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	教職実践演習(小)	4後		2		○			4	1		1		集中
	初等外国語	2通		1		○						1		集中
	初等特別活動論	3通		1		○						1		集中
	教育制度論	2前		2		○			1					
	教育制度論演習	3前		1			○		1					
	学校論	2通		2		○								兼1 集中
	学校論演習	3通		1			○							兼1 集中
	学校経営論	2通		2		○			1					
	学校経営論演習	3前		1			○		1					
	教育法制論	2通		2		○								兼1 隔年
	教育行財政論	2通		2		○								兼1 隔年
	教育法制・行財政論演習	3前		1			○							兼1 隔年
	比較教育制度論	2後		2		○			1					隔年
	比較学校経営論	2後		2		○				1				
	比較学校経営論演習	3前		1			○			1				
	比較教育制度論演習	3前		1			○							兼1 隔年, 集中
	生涯学習論	2通		2		○								兼1 集中
	比較教育文化論	2・3前		1			○					1		集中
	比較教育文化論演習	2・3後		2				○	1			1		集中
	国際教育論	2後		2		○						1		
	教育援助政策論	2通		2		○								兼1 隔年
	比較教育文化・教育援助政策論演習	3前		1			○							兼1
	環境教育論	2前		2		○						1		
	人権・平和教育論	2通		2		○				1				集中
	言語教育論	2後		2		○				1		1		隔年
	子どもと外国語	2通		2		○						1		隔年
	生涯学習論演習I	3前		1			○			1				隔年
	生涯学習論演習II	3前		1			○			1				隔年
	地域と教育	2前		2		○			1					
	社会教育論	2前		2		○				1				
	教育社会学I	2通		2		○						1		隔年
	教育社会学探究I	3通		2			○					1		
	教育社会学II	2後		2		○						1		隔年
	教育社会学探究II	3通		2			○					1		隔年
	教育学専門研究	4通		2		○			2					※演習, 集中
	現代社会と社会教育	2・3後		2		○				1				
	生涯学習の理論的検討	2・3後		2		○								兼1 隔年, 集中
	生涯学習実践分析	2・3後		2		○								兼1 隔年, 集中
	社会教育計画論I	2・3前		2		○				1				集中
	社会教育計画論II	2・3前		2		○				1				集中
	社会教育課題研究	2・3後		2			○			1				
	小計 (127科目)	—	20	191	0	—	—	—	13	7	0	9	0	兼35
	合計 (134科目)	—	35	192	0	—	—	—	13	7	0	9	0	兼335
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。 <b>【教育学主専攻】</b> 1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修15単位、選択1～39単位（総合科目（学士基盤科目）、 体育、外国語、国語、芸術から選択） (2) 関連科目 選択6～44単位（学類長が指定した他学群の開設授業科目から選択） 2. 専門基礎科目 必修16単位、選択0～38単位 3. 専門科目 必修6単位、選択42～80単位（このうち38単位までは心理学類及び 障害科学類の科目から選択可）						1 学年の学期区分			2期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			75分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
人間学群 心理学類															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	共通 科目・ 関連 科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○			1				全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1				○			1				全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1				○						兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2						○					兼57 全学開設
		第1外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設
		第2外国語	1・2前・後	3					○						兼87 全学開設
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設
		小計（7科目）	—	15	1	0			—		0	1	0	1	0
心理 学 主 専 攻	専 門 基 礎 科 目	心理学概論	1前	2				○			6	2			
		教育基礎論	1前		2				○						兼3
		学校の経営・制度・社会	1後		2				○						兼3
		障害科学I	1前		2				○						兼12
		障害科学II	1後		2				○		1				兼16
		キャリアデザイン入門	1後	1					○			1			兼2
		心理学研究法	1後	2					○		3	3			
		心理学統計法I	1前	2					○					1	
		心理学統計法II	1後	2					○					1	
		心理学統計法実習	1後	1										1	
	心理学英語セミナー	2後	2						○	3			2		
	心理学実験	2前	2							2	4		4		
	心理学研究実習I	3前	3								1				
	心理学研究実習II	3後		3							1				
	人間フィールドワークI	1・2通		1							1			兼2 集中	
	人間フィールドワークII	2・3通		1							1			兼2 集中	
	人間フィールドワークIII	3・4通		1							1			兼2 集中	
	専 門 科 目	知覚・認知心理学	2前	2					○			2			
		学習・言語心理学	2前	2					○		1	1			集中(一部)
		感情・人格心理学	2後	2					○			2			
神経・生理心理学		2後	2					○		1	1		1		
社会・集団・家族心理学		2前	2					○			1				
発達心理学		2後	2					○		4					
臨床心理学概論		2前	2					○		1					
卒業研究セミナー		3後	2						○	15	9		9	※卒業論文・卒業研究等, 集中	
卒業研究		4通	6						○	15	9		9	※卒業論文・卒業研究等, 集中	
心理学研究法II		3前		3							1				
心理学研究法I		2後		3							1			集中	
心理学史		2・3通		1					○					兼1 隔年, 集中	
心理データ解析		2・3後		2					○				1		
心理学体験実習		1・2通		1						1				集中	
精神疾患とその治療		3・4通		1					○					兼1 隔年, 集中	
教育・学校心理学		2・3前		2					○		2				
産業・組織心理学		2・3後		2					○	1					
社会学概論		3・4通		2					○					兼1 集中	
心理学基礎論		3・4通		2					○		1			集中	
健康・医療心理学		2・3前		2					○	1	1			隔年	
福祉心理学	2・3前		1					○				1	兼5		
司法・犯罪心理学	2・3前		2					○	1				隔年		
人体の構造と機能及び疾病	2・3通		1					○	1				集中		
関係行政論	2・3通		1					○	1				集中		
公認心理師の職責	2・3前		1					○	1			3			
心理学的アセスメント	3・4後		2							1					
心理学的支援法	3・4後		2							1					
心理演習	4通		2						2			1	集中		
心理実習	4通		3						1				集中		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	心理学特講1	2・3・4通		1		○									兼1	隔年, 集中
	心理学特講2	2・3・4通		1		○									兼1	集中
	心理学特講3	2・3・4通		1		○									兼1	隔年, 集中
	心理学特講4	2・3・4通		1		○									兼1	集中
	心理学特講5	2・3・4通		1		○									兼1	隔年, 集中
	心理学特講6	2・3・4通		1		○									兼1	集中
	行動神経科学:ホルモンと行動	2後		2		○			1				1			
	感覚知覚心理学演習	3前		2			○		1							
	比較発達行動学演習	3後		2			○			1						
	行動神経科学演習:神経系と行動	3前		2			○		1	1						
	行動神経科学実験実習	3通		1				○	1				1			集中
	認知心理学演習	3後		2			○		1							
	教育心理学演習	3前		2			○			1						隔年
	青年心理学	2後		2		○			1							
	青年心理学演習	3前		2			○		1							
	老年心理学演習	3休		2			○								兼2	隔年, 集中
	発達臨床心理学演習	3前		2			○		1							
	発達臨床心理学実践実習	2・3・4通		2				○	1							集中
	社会心理学	2前		2		○			1							
	産業心理学演習	3後		2			○		1							隔年
	社会心理学演習	3後		2			○		1							
	カウンセリング心理学	2後		2		○				1						
	臨床心理学演習	3前		2			○		1							
	カウンセリング心理学演習	3後		2			○		1							
	臨床心理学実践演習	3・4通		2			○		2	1			4			隔年, 集中
	臨床心理支援演習	3後		2			○			1						隔年
	小計 (73科目)	—	39	95	0	—	—	—	15	9	0	9	0	兼35		
合計 (100科目)		—	54	96	0	—	—	—	15	9	0	9	0	兼335		
学位又は称号	学士 (心理学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。 <b>【心理学主専攻】</b> 1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修15単位、選択1～28単位 (総合科目 (学士基盤科目)、体育、外国語、国語、芸術から選択) (2) 関連科目 選択6～44単位 (学類長が指定した他学群の開設授業科目から選択) 2. 専門基礎科目 必修21単位、選択0～27単位 3. 専門科目 必修22単位、選択22～59単位 (このうち37単位までは教育学類及び障害科学類の科目から選択可)						1 学年の学期区分		2期								
						1 学期の授業期間		15週								
						1 時限の授業時間		75分								

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
人間学群 障害科学類															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	共通 科目 ・ 関 連 科 目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		1	1				全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1				○		1	1				全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1				○						兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2					○						兼57 全学開設
		第1外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設
		第2外国語	1・2前・後	3					○						兼87 全学開設
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設
		小計（7科目）	—	15	1				—	1	1				兼300
障 害 科 学 主 専 攻	専 門 基 礎 科 目	障害科学I	1前	2				○		7	4		1		
		障害科学II	1後	2				○		4	6	1	5		
		心理学概論	1前	2					○						兼8
		教育基礎論	1前		2				○						兼3
		学校の経営・制度・社会	1後		2				○						兼3
		キャリアデザイン入門	1後	1					○			1			兼2
		障害科学実践入門	1休	2					○		2	4			集中
		障害原理論I	1前	2					○		1				
		障害者福祉論I	1後	1					○				1		
		障害者福祉論II	1後	1					○					2	
		障害科学セミナー	1後	1					○			1			※演習
		障害者教育基礎理論I	1後	1					○		1				
		障害者教育基礎理論II	1後	1					○			1			
		心理学統計法II	1後	2					○						兼1
		障害科学研究法入門	2前	2					○		3	4	1	1	
		障害科学研究法実習	2後	1						○	3	4	1	1	
		Current Topics in Disability Sciences	1・2・3・4後	1						○		1		1	
人間フィールドワークI	1・2通		1					○				1	兼2 集中		
人間フィールドワークII	2・3通		1					○				1	兼2 集中		
人間フィールドワークIII	3・4通		1					○				1	兼2 集中		
専 門 科 目	専 門 科 目	卒業研究I	3通	2					○	13	12	3	7		※卒業論文・卒業研究等, 集中
		卒業研究II	4通	4					○	13	12	3	7		※卒業論文・卒業研究等, 集中
		視覚障害生理病理特講	2前		1				○	1					
		聴覚障害生理病理特講	2前		1				○	1					
		肢体不自由者の生理病理	2後		1				○	1					
		病弱者の生理病理	2後		1				○	1					
		知的・発達障害生理病理特講	2前		1				○						兼1 集中
		医学概論I	2前		1				○	1					
		医学概論II	2前		1				○	1					
		保健医療論	2後		2				○						兼1 集中
		視覚障害と心理	2前		1				○		1				
		聴覚障害と心理	2後		1				○	1					
		運動障害と心理	2後		1				○	1					
		健康障害と心理	3後		1				○	1					兼1 隔年, 集中
		知的・発達障害と心理	2前		1				○		1				
相談援助の基盤と専門職I	2前		2				○				1				
相談援助の基盤と専門職II	3前		2				○								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	相談援助の理論と方法I	2前		2		○						1		
	相談援助の理論と方法II	3前		2		○					1			
	日本の障害科学	1・2後		1		○						2		集中
	障害教育福祉工学	1・2・3・4前		1		○			1					集中
	障害者・障害児心理学	2・3後		1		○			1	4				
	言語障害と心理	2後		1		○				1				
	障害原理論II	2後		2		○			1					集中(一部)
	視覚障害教育概論	2後		1		○				1				
	視覚障害自立活動	3前		2		○				1				
	視覚障害指導法	3後		2		○						1		集中
	視覚障害の理解と支援	3前		2		○			1			1		集中
	視覚障害アセスメント	3前		1		○				1				
	点字の実際	3休		1		○								兼1 隔年, 集中
	聴覚障害児の教育と指導法	2後		1		○				1				
	聴覚障害児の言語指導	3前		1		○			1	1				集中
	聴覚障害とリテラシー	3前		1		○			1					
	聴覚障害とコミュニケーション	3前		1		○				1				兼1
	聴覚補償論	3後		1		○			1					
	聴覚障害自立活動特講	3後		1		○			1	1				集中(一部)
	手話と聴覚障害者	3後		1		○				1				隔年, 集中
	言語障害の理解と支援	3後		1		○				1				
	運動障害教育学	3後		1		○			1					隔年
	運動障害の指導法	2後		1		○			1					集中(一部)
	重複障害の理解と支援	3後		1		○			1	1				
	運動障害教育の自立活動指導法	2通		1		○			1					集中
	健康障害の指導法	3後		1		○			1					兼1 集中
	健康障害教育の自立活動指導法	3後		1		○			1					兼1 隔年, 集中
	高齢障害学I	3前		1		○				1				集中
	高齢障害学II	3前		1		○				1				
	知的障害学校教育論(指導法)	2後		1		○				1				
	知的障害自立活動指導論	3前		1		○				1				集中
	知的障害者の生活と教育・福祉	2前		1		○				1				
	発達障害学校教育論(指導法)	3前		1		○			1	1				
	発達障害の理解と支援	3後		1		○			1	1				
	応用行動分析学の基礎	2前		1		○						2		
	応用行動分析学の展開	2後		1		○			1					
	自閉症スペクトラム障害臨床実習	3通		2				○	1					兼1
	学習障害概論	4後		1		○						1		集中
	障害児教育方法学	2前		2		○				1				隔年
	自立活動論	2前		1		○			1					
	障害児教育総論	2前		1		○			1					
	特別支援教育実習	3通		3				○	1	4				集中
	社会福祉原論I	2前		2		○			1					
	社会福祉原論II	2後		2		○			1					
	社会福祉調査論	3前		2		○				1		3		集中
	相談援助の理論と方法III	2後		2		○								兼1 集中
	相談援助の理論と方法IV	2後		2		○				1				
	地域福祉の理論と方法I	3前		2		○						1		
	地域福祉の理論と方法II	3後		2		○					1	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	福祉行財政論	1・2・3・4後		1		○									兼1	隔年, 集中
	福祉計画論	1・2・3・4後		1		○									兼1	隔年, 集中
	社会福祉経営論	2前		2		○						1				
	社会保障論I	2前		2		○							1			
	社会保障論II	2後		2		○							1			集中
	高齢者福祉論	2後		2		○				1						
	介護技術	2・3・4後		1		○				1						隔年, 集中
	児童福祉論	2後		2		○							1			
	公的扶助論	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年, 集中
	就労支援サービス論	3前		1		○				1						集中
	権利擁護と成年後見制度	3後		2		○					1					
	更生保護制度	1・2・3・4休		1		○									兼1	隔年, 集中
	ソーシャルワーク演習I	2・3後		3			○						2			
	ソーシャルワーク演習II	3・4前		3			○			1			1			
	ソーシャルワーク演習III	3・4前		3			○				1		1			
	ソーシャルワーク演習IV	3・4後		1			○			1	1		2			集中
	ソーシャルワーク実習指導	3・4通		3		○				1	1		2			集中
	ソーシャルワーク実習	3・4通		6				○		1	1		2			集中
	介護実習(事前及び事後指導を含む)	3通		4				○		1	1		2			集中
	高齢福祉実践基礎実習	3・4前		3				○		1						集中
	介護概論I	2後		1		○				1						
	介護概論II	2後		1		○				1						集中
	物理療法特論	1・2・3・4前		2		○				1	1		2			
	物理療法	1・2・3・4前		2		○							2			
小計(110科目)		—	28	142				—		13	12	3	7		兼17	
合計(117科目)		—	43	143				—		13	12	3	7		兼317	
学位又は称号	学士(障害科学)、 学士(特別支援教育学)、 学士(社会福祉学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。 【障害科学主専攻】 1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修15単位、選択1~40単位(総合科目(学士基盤科目)、体育、外国語、情報(上級)、国語、芸術から選択) (2) 関連科目 選択6~45単位(学類長が指定した他学群の開設授業科目から選択) 2. 専門基礎科目 必修24単位、選択0~39単位 3. 専門科目 必修6単位、選択33~72単位 (このうち40単位までは教育学類及び心理学類の科目から選択可)						1 学年の学期区分		2期								
						1 学期の授業期間		15週								
						1 時限の授業時間		75分								

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
情報学群 情報メディア創成学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目 共通科目・関連科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1					○		2	2				全学開設
	総合科目（学問への誘い）	1前	1				○			2	2				全学開設
	総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1			○								兼26 全学開設
	体育	1・2前・後	2						○						兼57 全学開設
	外国語	1・2前・後	4						○						兼53 全学開設
	情報	1前・後	4						○						兼78 ※講義, 全学開設
	小計（6科目）	—	12	1	0			—		2	2	0	0	0	兼214
専門基礎科目	微分積分B	2前	2				○			1					
	線形代数B	2前	2				○			1					
	確率と統計	2前	2				○			1					
	プログラミング	2前	2				○				1				
	コンピュータシステムとOS	2通	2				○					1			集中
	データ構造とアルゴリズム	2前	2				○				1				兼1
	データ構造とアルゴリズム実習	2前	1						○		1				兼1
	データ工学概論	2前	2				○			1					
	メディア社会学	2前		2			○								兼1
	コンテンツビジネス・マーケティング	3・4後		2			○			1					兼1 集中
	情報数学II	2・3・4後		2			○			1					
	情報数学III	2・3・4後		2			○								兼1
	統計分析法	2後		2			○			1					
	情報数学B	2・3・4後		2			○			1					
	情報数学C	2・3・4後		2			○						1		
	Webプログラミング	2後		2			○					1			
	プログラム言語論	3・4前		2			○				1				
	信号とシステム	2後		2			○						1		
	情報理論	2後		2			○			1					
	CG基礎	2後		2			○				1				兼1 ※演習
	パターン認識	3・4後		2			○				1				
	画像・映像情報処理	3・4後		2			○			1			1		
	音声・音響学基礎	3・4前		2			○						1		
	情報デザインI	2後		2			○				1				
	コンテンツ表現演習-1	2前		2					○		1				兼1
	コンテンツ概論	2前		2			○								兼1
	コンテンツ流通基盤概論	2後		2			○						1		兼1
情報通信概論	1後		2			○				1		1			
人間計測の方法	2後		1			○				1					
認知科学	2前		2			○			1	1					
情報メディア特別演習	2通		2					○	1		1			集中	
情報メディア特別演習I	1通		2					○	1		1			集中	
情報メディア特別演習II	2通		2					○	1		1			集中	
ACPC連携講座：ライブ・コンテンツ論	2・3・4前		2			○			1			1			
映像メディア概論	2前		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
情報学群 共通科目	微分積分A	1後	2			○			1							
	線形代数A	1前	2			○			1							
	情報数学A	1前	2			○				1						
	情報社会と法制度	1後		2		○									兼1	
	情報社会と法制度	1後		1		○									兼1	
	知的財産概論	2後		2		○									兼1	
	コンテンツ応用論	1後		2		○				1						
	グローバルチャレンジ演習	1・2・3・4通		2			○								兼1	集中
	知能と情報科学	1前		2		○							1		兼1	
	計算と情報科学	1前		1		○									兼1	
	システムと情報科学	1後		1		○									兼1	
	情報メディア入門A	1前		1		○			1							
	情報メディア入門B	1前		1		○			1	1						
	情報メディア入門C	1前		1		○				1		1				
	知識情報概論	1前・後		1		○									兼1	
	知識情報システム概説	1前		1		○									兼4	
	図書館概論	1後		2		○									兼1	
	プログラミング入門	1後		3			○			1						
	小計 (53科目)		—	24	73	0	—			11	11	2	4	0	兼21	
専門科目	卒業研究A	4前・後	3				○		11	11	2	4		兼4	※卒業論文・卒業研究等,集中	
	卒業研究B	4前・後	3				○		11	11	2	4		兼4	※卒業論文・卒業研究等,集中	
	情報メディア実験A	3前	3					○	5	9	1	4		兼4		
	情報メディア実験B	3後	3					○	5	9	1	4		兼4		
	専門英語A	4前	1				○		11	11	2	4		兼4	集中	
	専門英語B	4後	1				○		11	11	2	4		兼4	集中	
	オートマトンと形式言語	3・4後		2		○								兼1		
	通信ネットワーク	3・4後		2		○				1		1				
	情報通信プラットフォーム論	3・4前		1		○								兼1		
	インタラクティブCG	3・4後		2		○								兼1		
	音楽・音響情報処理	3・4後		2		○			1							
	システム運用・管理	3・4後		1		○								兼1		
	実世界指向システム	3・4後		2		○				1						
	マークアップ言語	3・4前		2		○					1					
	データベースシステムI	3・4後		2		○				1						
	データベースシステムII	3・4後		2		○			1		1					
	情報数学IV	3・4前		2		○			1							
	先端技術とメディア表現	3・4前		1		○				1						
	コンテンツプロデュース論	3・4後		1		○			1							
	映像表現論	3・4後		1		○								兼1		
	映像表現実習	3・4前		1			○							兼1		
	ソフトウェア構成	3・4前		2		○				1						
	情報デザインII	3・4前		1		○				1						
	インタラクションデザイン	3・4前		2		○			1							
	デジタルコンテンツ表現実習	3・4後		1			○			1						
	デジタルドキュメント	3・4後		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	エンタテインメントコンピューティング演習	3・4通		2				○							兼1	集中
	視覚情報科学	3・4前		2			○		1							
	システム数理I	3・4前		1			○		1						兼1	
	システム数理II	3・4前		1			○		1	1						
	知識・自然言語処理	3・4前		1			○		1							
	情報可視化	3・4前		1.5			○		1							
	システム数理III	3・4前		1			○		1	1						
	インターネット動画メディア論	3・4後		2			○								兼1	
	情報数学D	3・4前		2			○		1							
	知覚心理学	3・4後		1			○			1						
	情報メディア創成特別講義A	1・2・3・4前		1			○								兼1	隔年, 集中
	情報メディア創成特別講義B	2・3・4休		1			○					1			兼1	集中
	情報メディア創成特別講義C	1・2・3・4休		1			○								兼3	集中
	情報メディア創成特別講義E	1・2・3・4通		1			○								兼1	集中
	情報メディア創成特別講義F	1・2・3・4休		1			○								兼1	隔年, 集中
情報学群 共通科目	体験型システム開発A	3・4前		3				○							兼1	
	体験型システム開発B	3・4後		3				○							兼1	
	ビジネスシステムデザインA	3・4前		3				○	1						兼2	集中(一部)
	ビジネスシステムデザインB	3・4後		3				○	1						兼2	
小計 (45科目)		—	14	63.5	0	—			11	11	2	4	0	兼28		
合計 (104科目)		—	50	137.5	0	—			11	11	2	4	0	兼263		
学位又は称号	学士 (情報メディア科学)		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。 <b>【情報メディア創成主専攻】</b> 1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修12単位、選択1～10単位 (総合科目 (学士基盤科目)、体育、外国語、国語、芸術から選択) (2) 関連科目 選択6～15単位 (学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)  2. 専門基礎科目 必修24単位、選択32～47単位 3. 専門科目 必修14単位、選択20～35単位							1 学年の学期区分		2期							
							1 学期の授業期間		15週							
							1 時限の授業時間		75分							
(注)																
1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。																
2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。																
3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。																
4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。																

教育課程等の概要															
情報学群 知識情報・図書館学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目 共通科目・関連科目	総合科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1				○		1	2		1			全学開設
	総合科目 (学問への誘い)	1前	1			○			1	2		1			全学開設
	総合科目 (学士基盤科目)	1・2前・後		1		○									兼26 全学開設
	体育	1・2前・後	2					○							兼57 全学開設
	外国語 (英語)	1・2前・後	4					○							兼53 全学開設
	情報	1前・後	4					○							兼78 ※講義, 全学開設
	小計 (6科目)		—	12	1	0		—	1	2	0	1	0	兼214	
専門基礎科目 学類開設科目	統計	2後	2			○			1						
	哲学	2後	2			○				1					
	専門英語A1	2通	1												兼2
	専門英語A2	2通	1												兼2
	知識情報演習 I	2前	2						1	2					
	知識情報演習 II	2通	2						1	1		1			
	知識情報演習 III	2後	2							2		2			
	アカデミックスキルズ	1後	1				○		1	2		1			
	量的調査法	2後		2		○						1			
	多変量解析	2後		2		○						1			
	情報探索論	2前		2		○				1					
	質的調査法	2前		2		○						1			
	情報行動論	2前		2		○					1				
	知識発見基礎論	2前		2		○			1						
	知識資源組織化論	2前		2		○				1					
	データベース概説	2前		2		○			1						
	コンピュータシステムとネットワーク	2後		2		○				1					
	自然言語解析基礎	2後		2		○				1					
	メディア社会学	2前		2		○			1						
	公共経済学	2後		2		○				1					
	生涯学習と図書館	2後		2		○									兼1
	テキスト解釈-1	2後		2			○		1						
	テキスト解釈-3	2後		2			○		1						
経営・組織論	2前		2		○					1					
機械学習	2後		2		○				1						
映像メディア概論	2前		2		○			1							
知的探求の世界II	3前		1				○	1	1		1			兼1 集中	
知的探求の世界I	2通		2				○	1	1		1			兼1 集中	
情報学群 共通科目	知的財産概論	2後		2		○				1					
	コンテンツ応用論	1後		2		○									兼1
	グローバルチャレンジ演習	1・2・3・4通		2			○								兼1 集中
	知能と情報科学	1前		2		○									兼2
	計算と情報科学	1前		1		○									兼1
	システムと情報科学	1後		1		○									兼8
	情報メディア入門A	1前		1		○									兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	情報メディア入門B	1前		1		○									兼2	
	情報メディア入門C	1前		1		○									兼2	
	知識情報システム概説	1前		1		○			1	3						
	図書館概論	1後		2		○			1							
	知識情報概論	1前・後	1			○				1						
	情報数学A	1前	2			○						1			兼4	
	線形代数A	1前		2		○									兼6	
	微分積分A	1後		2		○				1					兼5	
	プログラミング入門	1後	3				○				1	1			兼3	
小計 (44科目)		—	19	59	0	—			10	11	3	8	0	兼33		
専門科目	全専攻共通	卒業研究	4前・後	6				○		14	14	4	10		兼3	※卒業論文・卒業研究等,集中
		専門英語B	3前	1				○		1			2			
		専門英語C	3後	1					○				3			
		学習指導と学校図書館	3前		2		○			1						
		学校図書館メディアの構成	3後		2		○					1				
		読書と豊かな人間性	3前		2		○				1					
		情報メディアの活用	3後		2		○						1			
		インターンシップ	3休		2				○	2		1	1			集中
		国際インターンシップ	3・4通		2				○		2		2			集中
知識科学専攻	知識科学実習A	3前	1					○	5	4	2	4				
	知識科学実習B	3後	1					○	5	4	2	4				
	テクニカルコミュニケーション	3・4前		2		○					1			兼1		
	知識論	3・4前		2		○				1						
	知識形成論	3・4後		2		○				1						
	レファレンスサイエンス	3・4前		2		○				1						
	学術メディア論	3・4前		2		○					1					
	コミュニティ情報論	3・4後		2		○			1							
	図書館建築論	3・4後		2		○								兼1		
	知識構造化法	3・4後		2		○			1							
	情報評価	3・4前		2		○			1							
	データマイニング	3・4後		2		○			1							
	サイエンスコミュニケーション	3・4前		1		○					1					
	データ構造とアルゴリズム	3・4前		2		○			1							
	情報検索システム	3・4前		2		○					1					
	生命情報学	3・4前		2		○					1					
	知識コミュニケーション	3・4後		2		○						1				
メディア社会文化論	3・4後		2		○			1								
ソーシャルメディア分析	3・4後		2		○						1					
Machine Learning and Information Retrieval	3・4後		2		○						1					
知識情報システム専攻	知識情報システム実習A	3前	1					○	2	7	1	4				
	知識情報システム実習B	3後	1					○	2	7	1	4				
	情報サービスシステム	3・4前		2		○						1				
	デジタルドキュメント	3・4後		2		○					1					
	デジタルライブラリ	3・4前		2		○					1					
	情報検索システム	3・4前		2		○					1					
	Webプログラミング	3・4前		2		○					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	マルチメディアシステム	3・4後		2		○			1							
	データ表現と処理	3・4前		2		○				1						
	データベース技術	3・4後		2		○									兼1	
	情報デザインとインタフェース	3・4前		2		○					1					
	ヒューマンインタフェース	3・4前		2		○									兼1	
	クラウドコンピューティング	3・4後		2		○							1			
	テキスト処理	3・4後		2		○			1							
	データ構造とアルゴリズム	3・4前		2		○									兼1	
	マークアップ言語	3・4前		2		○									兼1	
	ソフトウェア工学	3・4後		2		○				1						
	経営情報システム論	3・4前		2		○									兼1	集中
	アーカイブズの利用	3・4後		2		○							1			
	アーカイブズの構築	3・4前		2		○			1							
	メディアアート	3・4前		2		○									兼1	
	Human-computer Interaction	3・4後		2		○							1			
Machine Learning and Information Retrieval	3・4後		2		○							1				
情報資源経営専攻	情報資源経営実習A	3前	1					○	7	3	1	2				
	情報資源経営実習B	3後	1					○	7	3	1	2				
	図書館論	3・4後		2		○						1				
	学術情報基盤論	3・4前		2		○			1							
	経営情報システム論	3・4前		2		○									兼1	集中
	情報サービス経営論	3・4前		2		○				1						
	情報サービス構成論	3・4後		2		○					1					
	コレクションとアクセス	3・4後		2		○			1							
	教育文化政策	3・4前		2		○									兼1	
	メディア教育の実践と評価	3・4後		2		○					1					
	学校図書館論	3・4後		2		○			1							
	情報法	3・4前		2		○					1					
	知的財産権論A	3・4後		2		○					1					
	図書館文化史論	3・4後		2		○			1							
	日本図書館学	3・4前		2		○			1							
	アーカイブズの構築	3・4前		2		○			1							
	アーカイブズの利用	3・4後		2		○							1			
	パブリックガバナンス	3・4後		2		○							1			
インターネット動画メディア論	3・4後		2		○			1								
情報学群共通科目	体験型システム開発A	3・4前		3				○	1							
	体験型システム開発B	3・4後		3				○	1							
	ビジネスシステムデザインA	3・4前		3				○							兼3	集中(一部)
	ビジネスシステムデザインB	3・4後		3				○							兼3	
小計 (75科目)		—	10	135	0	—			14	14	4	10	0	兼12		
合計 (125科目)		—	41	195	0	—			14	14	4	10	0	兼255		
学位又は称号	学士 (図書館情報学)		学位又は学科の分野			文学関係、工学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
(履修科目の登録の上限：45単位（年間））						1 学期の授業期間			15週					
【知識科学主専攻】						1 時限の授業時間			75分					
<p>1. 基礎科目</p> <p>(1) 共通科目 必修12単位、選択1～21単位（総合科目（学士基盤科目）、体育、外国語、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～26単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修19単位、選択32～52単位</p> <p>3. 専門科目 必修10単位、選択24～44単位</p> <p>このうち、他専攻開設科目または情報学群共通科目から8単位以上選択。</p> <p>【知識情報システム主専攻】</p> <p>1. 基礎科目</p> <p>(1) 共通科目 必修12単位、選択1～21単位（総合科目（学士基盤科目）、体育、外国語、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～26単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修19単位、選択32～52単位</p> <p>3. 専門科目 必修10単位、選択24～44単位</p> <p>このうち、他専攻開設科目または情報学群共通科目から8単位以上選択。</p> <p>【情報資源経営主専攻】</p> <p>1. 基礎科目</p> <p>(1) 共通科目 必修12単位、選択1～21単位（総合科目（学士基盤科目）、体育、外国語、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～26単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修19単位、選択32～52単位</p> <p>3. 専門科目 必修10単位、選択24～44単位</p> <p>このうち、他専攻開設科目または情報学群共通科目から8単位以上選択。</p>														

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要																	
医学群 医学類																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		1	2	1	2		全学開設		
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○		1	2	1	2		全学開設			
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								兼26 全学開設		
		体育	1・2前・後	2					○						兼57 全学開設		
		外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設		
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設		
		国語 I	1前・後	1			○								兼10 全学開設		
		小計（7科目）	—	13	1	0			—	1	2	1	2	0	兼224		
		関連科目	医学のための心の科学	行動生理学の基礎	1前		1		○			2		1			兼1
				海外プロジェクト概論（ロシア語圏）	1・2・3・4・5・6後		1		○								兼1
放射線と生命—人体への影響と医療への貢献—	1前				1		○			5	3		2				
神経回路研究の最前線	1前				1		○			4		2	3				
日常生活の中で見られる神経筋疾患	1前				1		○			2	1	1					
臨床感覚器学	1前				1		○			1							
形成外科学入門	1前				1		○			1		3			兼1		
医科生化学	1前				2		○			2	1	2					
医科分子生物学	1前				2		○			1	1						
基礎医学研究の最前線	1前				1		○			8	3				兼2		
小計（11科目）	—	0	13	0			—	27	9	9	5	0	兼5				
専門基礎科目	全主専攻共通	生物・化学実験	1前	1				○	1	1					兼7		
		Clinical Communication in English I	2前	1			○			1			2				
		Clinical Communication in English II	2後	1			○				3		6				
		TOEFL演習	2後	1				○		1							
		Medical Terminology I	2後	1			○				1						
		Medical Terminology II	2通	2			○				1						
		力学1	1前		1		○								兼1		
		電磁気学1	1前		1		○								兼1		
		生物学I	1前		1		○								兼1		
		生物学II	1後		1		○								兼3		
		化学2	1後		1		○								兼1		
		化学3	1後		1		○								兼1		
小計（12科目）	—	7	6	0			—	2	7	0	8	0	兼11				
専門科目	医学主専攻	医学統計学	1後	1			○		1	1							
		医療・福祉現場でのふれあい等	1前	2					15	20	39	3			集中		
		医療概論I	1前	2				○	31	16	18	14					
		医学の基礎	1通	11				○	17	16	20	20			兼4 集中		
		機能・構造と病態I	2通	27			○		62	44	114	36			兼11 ※演習、及び実習・実験, 集中		
		医療概論II	2通	2			○		5	5	13	5			※演習、及び実習・実験, 集中		
		機能・構造と病態II	3通	37			○		75	63	132	49			兼17 ※演習、及び実習・実験, 集中		
		医療概論III	3通	3			○		2	1	7	2			※演習、及び実習・実験, 集中		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	クリニカル・クラークシップ準備学習	4前	18			○			38	27	31	10		兼5	※演習、及び実習・実験、集中
	社会医学実習	4前	2					○	38	27	31	10		兼5	集中
	M4クリニカル・クラークシップ(Phase IA)	4通	11					○	38	27	31	10		兼5	集中
	医療概論IV	4前	2					○	34	19	32	22		兼43	集中
	M5クリニカル・クラークシップ(Phase IB、Phase IIA)	5通	22					○	3						集中
	M6クリニカル・クラークシップ(Phase IIB)	6通	4					○	3						集中
	M6アドヴァンスト・エレクティブズ	6通	11					○	4						集中
	医療概論V	6通	2					○	2	1	2				集中
	医学総括	6通	10			○			54	37	57	4		兼9	集中
	専門語学(英語)C	2・3・4・5・6後		1				○	1						集中
	専門語学(英語)E	2・3後		1				○				1			
	専門語学(英語)G	3・4・5・6通		3				○	1		1	1			
	専門語学(英語)M	2・3・4・5・6後		1				○		1					
	専門語学(英語)N	2・3・4前		1				○		1					集中
	専門語学(英語)O	3・4前		1				○				2			集中
	専門語学(英語)P	5後		1				○				1			集中
	専門語学(ロシア語)	3・4・5・6通		3				○						兼1	
	小計(25科目)	—	167	12	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼100	
新 医 学 主 専 攻	医学統計学	1後	1			○			1	1					
	医療・福祉現場でのふれあい等	1前	2					○	15	20	39	3			集中
	医療概論I	1前	2					○	31	16	18	14			
	医学の基礎	1通	11					○	17	16	20	20		兼4	集中
	機能・構造と病態I	2通	27			○			62	44	114	36		兼11	※演習、及び実習・実験、集中
	医療概論II	2通	2			○			5	5	13	5			※演習、及び実習・実験、集中
	機能・構造と病態II	3通	37			○			75	63	132	49		兼17	※演習、及び実習・実験、集中
	医療概論III	3通	3			○			2	1	7	2			※演習、及び実習・実験、集中
	クリニカル・クラークシップ準備学習	4前	18			○			38	27	31	10		兼5	※演習、及び実習・実験、集中
	社会医学実習	4前	2					○	38	27	31	10		兼5	集中
	M4クリニカル・クラークシップ(Phase IA)	4通	11					○	38	27	31	10		兼5	集中
	医療概論IV	4前	2					○	34	19	32	22		兼43	集中
	M5クリニカル・クラークシップ(Phase IB、Phase IIA)	5通	22					○	3						集中
	医療概論V	6通	2					○	2	1	2				集中
	医学総括	6通	10			○			54	37	57	4		兼9	集中
	研究室実習	6前	15					○	1						集中
	専門語学(英語)C	2・3・4・5・6後		1				○	1						集中
	専門語学(英語)E	2・3後		1				○				1			
	専門語学(英語)G	3・4・5・6通		3				○	1		1	1			
	専門語学(英語)M	2・3・4・5・6後		1				○		1					
	専門語学(英語)N	2・3・4前		1				○		1					集中
	専門語学(英語)O	3・4前		1				○				2			集中
	専門語学(英語)P	5後		1				○				1			集中
	専門語学(ロシア語)	3・4・5・6通		3				○						兼1	
	小計(24科目)	—	167	12	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼100	
合計(79科目)		—	354	44	0	—	—	—	99	86	169	64	0	兼340	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により合計200単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分		2期						
【医学主専攻】						1 学期の授業期間		15週						
1. 基礎科目						1 時限の授業時間		75分						
(1) 共通科目 必修13単位、選択1～5単位（総合科目（学士基盤科目）、外国語から選択）														
(2) 関連科目 選択7単位（学類長が指定した学類開設科目、または他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修7単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修167単位、選択0～2単位														
【新医学主専攻】														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修13単位、選択1～5単位（総合科目（学士基盤科目）、外国語から選択）														
(2) 関連科目 選択7単位（学類長が指定した学類開設科目、または他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修7単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修167単位、選択0～2単位														

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
医学群 看護学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		1	1		2		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			1	1		2		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2					○						兼57 全学開設
		外国語	1・2前・後	4					○						兼53 全学開設
		情報	1前・後	4					○						兼78 ※講義, 全学開設
		国語 I	1前・後	1			○								兼10 全学開設
	小計（7科目）	—	13	1	0			—	1	1	0	2	0	兼224	
	関連科目	哲学通論	2前・後	2			○								兼1 全学開設
		化学概論	1前		1		○								兼10
物理学概論		1前		1		○								兼2	
生物学序説		1前		1		○								兼12	
小計（4科目）	—	2	3	0			—	0	0	0	0	0	兼25		
看護学専攻（保健師コースを含む）	専門基礎科目	心と行動の科学分野	人間関係論	2前	1			○		1	1		1		集中
		心の健康と相談活動	2前	1			○		1	1					
		行動科学	2後	1			○		1						
		看護専門英語	3前	2				○					2		
		コミュニティ・エンパワメント論	2前	1			○		1						
	人間と生命科学分野	人体機能学	1前	2			○								兼6
		人体構造学	1前	2			○			1					兼1
		人体の代謝と栄養	2後	1			○								兼1
		臨床薬理学	2後	1			○								兼1
		遺伝と健康	2後	1			○								兼1
		微生物学	2前	2			○								兼5
		医学史	1後	1			○								兼5
		医療・生命科学とテクノロジー	1前	1			○								兼10
	生涯発達と家族支援	1前	2			○			3	3		2			
	生活支援科学分野	保健統計学	2後	2			○			1					
		保健医療福祉行政論I	3前	1			○						1		兼8
		保健医療福祉行政論II	3休	1			○								兼1 集中
		疫学	2前	2			○			1			1		
		障害理解	2後	1			○			1	1				
		国際保健学	3前	1			○			1					
		日本国憲法	1後	2			○								兼1
		医療経済学	3前		1		○								兼2
		環境保健	3前		1		○								兼1
小計（23科目）	—	29	2												
専門科目	基礎看護学分野	基礎看護学概論	1前	1			○		1						
		基本看護技術	2前	1			○		1	1		2			
		基本看護技術演習	2前	3				○		1	1		2		
		フィジカルアセスメント	2後	2			○		1	1		2			
		看護方法論	2後	1			○		1	1		2			
		看護生命倫理	1後	1			○		3						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	看護技術実習	2休	1					○	1	1		2		集中
	看護過程実習	2休	2					○	1	1		2		集中
地域看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2			○			1	1		2		
	職域における保健活動	2後	1			○			1	1		2		
臨床看護学分野	臨床看護学概論	2前	1			○			1			1		
	疾病の成りたちと回復促進	2後	2			○				1		3		
	臨床看護学方法論	3前	2			○				1		3		
	臨床看護学実習(クリティカルケア)	3後	2					○		1		3		集中
	臨床看護学実習(セルフケア)	3後	2					○	1	1		3		集中
精神看護学分野	精神看護学概論	1後	1			○			1					
	精神看護学方法論	2前	2			○			1			1		
	精神看護学実習	3後	2					○	1			1		集中
高齢者看護学分野	高齢者看護学概論	1後	1			○				1				
	高齢者看護学方法論	3前	2			○						1		
	高齢者看護学実習	3後	2					○		1		1		集中
母性看護学分野	ウイメンズヘルス看護学概論	2前	1			○			1	1				
	母性看護学方法論	3前	2			○			1	1		1		
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1		1		集中
発達看護学分野	小児・発達看護学概論	2前	1			○			1	1		1		
	小児・発達看護学方法論	3前	1			○			1	1		1		
	子どもの健康と障害	2前	1			○				1		1		集中
	小児・発達看護学実習(保育所・施設ふれあい実習)	3休	1					○	1	1		1		集中
在宅看護学分野	小児・発達看護学実習(病院実習)	3後	1					○		1		1		集中
	在宅看護概論	3前	1			○			1			1		
	在宅看護学方法論	3前	1			○			1			1		
看護学の発展	在宅看護学実習	3後	2					○	1			1		集中
	ヘルスプロモーションと看護	3前	1			○			4	1		3		
	家族病理とメンタルヘルス	3前	1			○			1	1				兼1
	看護マネジメント	3前	1			○			1					集中
	災害看護学	3前	1			○			1	1		3		
	国際看護学	2前	1			○			1					集中
	応用看護学演習I(OSCE)	3前	1					○	10	7		15		集中
	応用看護学演習II(IBT)	4後	1					○	10	7		15		集中
	研究方法概論	3後	2			○			1					
	看護学探究概説	4前		2		○			10	7		15		集中：看護学のみ必修
	看護学探究演習	4通		6				○	10	7		15		
	ヘルスプロモーション実習I	3後	2					○		1		1		集中
	ヘルスプロモーション実習II	3後	2					○	1	1		4		集中
医療チーム連携演習	4後	1					○	1					兼5	
応用看護学実習	4前	2					○	10	7		15		集中	
保健師科	公衆衛生看護活動論	3前		2		○				1		2		集中
	公衆衛生看護活動方法論	4前		4		○			1	1		2		集中 保健師
	公衆衛生看護学応用論	4後		2		○			1	1		1		集中 のみ必修

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	公衆衛生看護管理論	4後		2		○				1		1			集中	
	公衆衛生看護学実習	4前		3				○	1	1		2			集中	
小計 (51科目)		—	64	21	0	—			10	7	0	15	0	兼39		
J a p a n · E x p e r t P r o g r a m  ヘルスケアコース	基礎科目 共通科目 総合科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1					○		1	1		2		全学開設	
	総合科目 (Japan-Expertフレッシュマン・セミナー)	1後	1					○					1		全学開設	
	総合科目 (学問への誘い)	1前	1			○			1	1			2		全学開設	
	総合科目 (学士基盤科目)	1・2前・後		1		○									兼26 全学開設	
	体育	1・2前・後	2					○							兼57 全学開設	
	Japan-Expert日本語 中上級話す	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級話す	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級聞く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級聞く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級読む	1後		3				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級読む	1後		3				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級書く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級書く	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級文法	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級文法	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級漢字	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級漢字	1後		2				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 中上級総合日本語	1後		1				○							兼1	
	Japan-Expert日本語 上級総合日本語	1後		1				○							兼1	
	Japan-Expert専門日本語 (ヘルスケアコース)	1後		1				○				1			兼1	
	第2外国語 (英語)	1・2前・後	4					○							兼53 全学開設	
	第2外国語 (初修外国語)	1・2前・後	1					○							兼87 全学開設	
	情報	1前・後	4					○							兼78 ※講義, 全学開設	
小計 (23科目)		—	13	31	0	—			1	1	0	5	0	兼300		
関連科目	哲学通論	2前・後		2				○							兼1 全学開設	
	化学概論	1前		1				○							兼10	
	物理学概論	1前		1				○							兼2	
	生物学序説	1前		1				○							兼12	
	小計 (4科目)		—		5	0	—			0	0	0	0	0	兼25	
専門基礎科目	JE対象科目 Japan-Expert総論	1前	1					○				1				
	障害科学分野	社会保障論I	2前		2				○							兼1
		社会福祉経営論	2前		2				○							兼1
		公的扶助論	1・2・3・4後		2				○							兼1 隔年, 集中
		日本の障害科学	1・2後		1				○							兼2 集中
		Current Topics in Disability Sciences	1・2・3・4後		1				○							兼2
	国際・情報理解分野	グローバルコミュニケーション論	1・2後		2				○							兼1
		文化・開発論	1・2・3後		2				○							兼1
		情報社会と法制度	1後		2				○							兼1
		知的財産概論	2後		2				○							兼1
		知識情報概論	1前		1				○							兼1
		知識情報概論	1後		1				○							兼1
		知識情報システム概説	1前		1				○							兼4
コンピュータシステムとネットワーク		2後		2				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 看護学の発展 ヘルスケア原	国際ヘルスケア演習	4通	6				○		1				3		集中
	国際ヘルスケア概論	3・4後	1				○						1		集中
	ヘルスケア実習I(介護施設)	3・4休	4					○					1		集中
	ヘルスケア実習II(医療施設)	3・4休	4					○					1		集中
小計(18科目)		—	16	21	0	—			1	0	0	3	0	兼15	
合計(130科目)		—	137	84	0	—			10	7	0	15	0	兼389	

学位又は称号	学士(看護学)、 学士(ヘルスケア) (Japan-Expertプログラム 学生のみ)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係)
--------	--	-----------	----------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等		
<p>次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。</p> <p><b>【看護学主専攻】</b></p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択1単位(総合科目(学士基盤科目)から選択) (2) 関連科目 必修2単位(哲学通論)、選択6単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修29単位、選択1単位 3. 専門科目 必修72単位、選択0単位</p> <p>次の履修方法により合計129単位以上を修得すること。</p> <p><b>【保健師コース】</b></p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択1単位(総合科目(学士基盤科目)から選択) (2) 関連科目 必修2単位、選択6単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修29単位、選択1単位 3. 専門科目 必修77単位、選択0単位</p> <p>次の履修方法により合計136単位以上を修得すること。</p> <p><b>【ヘルスケアコース】</b></p> <p>1. 基礎科目 (1) 共通科目 必修13単位、選択必修15単位、選択1~4単位(総合科目(学士基盤科目)、外国語から選択) (2) 関連科目 選択7~10単位(学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)</p> <p>2. 専門基礎科目 必修32単位、選択10単位(看護学主専攻必修科目及びヘルスケアコース科目)</p> <p>3. 専門科目 必修55単位(看護学主専攻必修科目から40単位、ヘルスケアコース必修科目15単位)</p>	1 学年の学期区分	2期	
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	75分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
医学群 医療科学類															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○				1	1		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1				○				1	1		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後	1				○							兼26 全学開設
		体育	1・2前・後	2										○	兼57 全学開設
		外国語	1・2前・後	4										○	兼53 全学開設
		情報	1前・後	4										○	兼78 ※講義, 全学開設
		小計（6科目）	—	13	0	0			—		0	0	1	1	0
	関連科目	科学実験の基礎	2前	1				○			1		1		
		医療科学キャリアセミナー	2前	1				○				1			
		小計（2科目）	—	2	0	0			—		1	1	1	0	0
医療科学専攻・国際医療科学専攻	専門基礎科目 人体の構造と機能分野	人体構造学	1前	2				○							兼2 *
		人体構造学実習	2前	1										○	兼2 *
		人体機能学	1前	2				○							兼6 *
		人体機能学実習	2前	1										○	兼1 集中
		医科生化学	1前	2				○		1	1				兼3 *
		生化学実習	2前	1						1	2				集中
		医科分子生物学	1後	2				○		1					*
		細胞システム学	2後		2			○			1				兼1
		イメージング総論	1-4夏季		1			○							兼2 集中
	疾病の成り立ち及び医学検査の基礎分野	基礎医学総論	2前	2				○		1					兼1 *
		微生物学	2前	2				○		1					兼4 *
		微生物学実習	2前	1						1	1			○	集中
		生命倫理学	4前		1			○		1			1		
		医学史	1後		1			○		3					兼2
		医療・生命科学とテクノロジー	1前		1			○		3	2	1			兼3
	保健医療福祉と医学検査分野	保健衛生論	2前	2				○							兼2 *
		医療法制	3前	1				○							兼10 *
		計量生物学	2後	1				○							兼3 *
	医療工学分野・情報科学分野	医用工学	2前	1				○				1			*
		医用工学実習	2前	1								2			集中
		電磁気学I	1前	1				○							兼1 ※演習, 集中*
		医療情報管理学	4後	1				○		1	1				兼8 *
	共通	医科学英語論文講読の基礎	3・4前	1			○		2	2		2			兼1
	保健医療福祉と生命科学分野	医療経済学	2前		1			○							兼2
		キャリアデザイン研修	2・3・4通		1						1				集中
		国際生命医科学研修	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際生命医科学研修II	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際生命医科学研修III	3・4通		1					1					※その他, 集中
		国際パートナーシップ研修	1・2・3・4休		2	○				1					※演習及び実習・実験・実技, 集中
		国際生命医科学	3・4通		1					1					※実習・実験, 集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際生命医科学II	3・4通		1				○	1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学III	3・4通		1				○	1						※実習・実験, 集中
	実践英語 (TOEFL対策)	2前		1			○								兼1
	小計 (33科目)		25	17											
専門科目	臨床病態学	2前	2					○	3						* 集中 *
	病態検査学	3通	3					○	3						* 集中 *
	臨床薬理学	3前	1					○		1		1			* 集中 *
	臨床薬理学実習	3後	1					○		1		1			兼3 * 集中 *
	病理組織学	2前	2					○	1			1			兼1 * 集中 *
	病理組織学実習	2後	2					○	1			2			* 集中 *
	細胞検査学	2前	2					○							兼2 * 集中 *
	血液検査学	2前	2					○	1						兼1 * 集中 *
	血液検査学実習	2通	1					○	1			1			* 集中 *
	生化学成分検査学	2前	3					○	1	1		1			兼2 * 集中 *
	生化学成分検査学実習	2後	2					○	1		1	1			兼1 * 集中 *
	凝固・線溶学	2通	1					○	1			1			* 集中 *
	凝固・線溶学実習	2後	1					○	1			1			* 集中 *
	遺伝子検査学	2後	1					○	1						* 集中 *
	遺伝子検査学実習	3前	1					○	1						* 集中 *
	RI検査技術学	2後	1					○	1						兼2 * 集中 *
	病原微生物学	2後	2					○	1	1					兼4 * 集中 *
	病原微生物学実習I	3後	1					○	1						兼5 * 集中 *
	病原微生物学実習II	3後	1					○	1						兼5 * 集中 *
	医学物理学概論	2前	1					○	1						* 集中 *
	免疫検査学	2後	2					○		1					兼3 * 集中 *
	免疫検査学実習	3前	1					○		1		2			兼2 * 集中 *
	輸血学	3前	1					○	1						兼1 * 集中 *
	輸血学実習	3前	1					○	1						兼1 * 集中 *
	ゲノム医科学	3前	1					○							兼5 * 集中 *
	衛生化学概論	3・4前		1				○	2						* 集中 *
	国際感染症学	3前		1				○							兼1 * 集中 *
	生理機能検査学	2前	4					○	1						兼2 * 集中 *
	生理機能検査学実習	2後	2					○	1		1				* 集中 *
	画像検査学	3前	3					○	1						兼1 * 集中 *
	先端脳科学	3・4前		1				○							兼5 * 集中 *
	神経科学特論	3・4後		1				○							兼1 * 演習 *
	検査機器学	2前	1					○		1					* 集中 *
	検査情報管理学	3前	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学	2前	1					○		1					* 集中 *
	医療科学概論	1後	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学実習	2前	1					○		1					* 集中 *
	医学検査学フロンティア	4後	2					○	7	1	1	1			兼2 * 集中 *
	多職種連携医療学概論	1・2・3・4休		1				○	1			2			* 集中 *

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際医療科学専攻 (G30 国際医療科学人養成プログラム)	管理学分野 医療安全管理学	3後	2			○	○		1	1					*	
	臨地実習	臨床実習	3春休-4前	8				○		2						集中 *
		卒業研究	4通	4				○		1						集中
		ケア・コロキウム	3後		1			○		1	1					集中
	分子病態学分野	細胞・発生工学	2前		1		○									兼1
		ためになる血液腫瘍学	3・4後		1		○									兼4
		血管生物学のトピックス	3・4後		1		○									兼1 集中
		ライフサイエンスのための病態生化学	4後		2		○									兼1
	病態医工学分野	医療工学	3・4後		1		○					1				
		人工臓器学	3・4前		1		○					2				兼3 集中
		胚操作・動物実験法	2前		1		○									兼2
	応用医学	健康医科学グループワーク	2後		1		○				1					**
	小計 (51科目)		—	67	15	0	—			10	8	4	6	0	兼86	
基礎科目	共通科目	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナー)	1前	2			○					1	1		全学開設	
		総合科目Ⅱ	1前	5		○									兼81 全学開設	
		総合科目Ⅲ	1・2前・後	1		○									兼85 全学開設	
		体育	1・2前・後	2				○							兼57 全学開設	
		Japanese 101	1後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 201	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 301	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 401	1・2後		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 102	1前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 202	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 302	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		Japanese 402	1・2前		2			○							兼2 全学開設	
		情報	1前・後	2				○							兼78 ※講義, 全学開設	
小計 (13科目)		—	12	16	0	—			0	0	1	1	0	兼290		
関連科目	物理学	1前	1			○									兼1	
	物理学実験	1後	0.5					○							兼1	
	化学	1前	1			○					1					
	化学実験	1後	0.5					○			1					
	生物学	1前	1			○			1							
	生物学実験	1後	0.5					○	1							
	医科学グループワーク演習	1・2後		1.5				○		1						
小計 (7科目)		—	4.5	1.5	0	—			1	1	1	0	0	兼2		
専門基礎科目	人体の構造と機能分野	人体構造学	1前	2			○								兼2	
		人体構造学実習	1後	1					○						兼2	
		人体機能学	1前	2			○								兼6	
		人体機能学実習	1後	1					○						兼1 集中	
		生化学	1前	2			○			1	1				兼3	
		生化学実習	1後	1					○	1	2				集中	
		分子生物学	2前	2			○			1						
		細胞システム学	2後		2		○				1				兼1	
		イメージング総論	1-4夏季		1		○								兼2 集中	
医学検査の基礎	医療史	1前	1			○			3					兼2		
	微生物学	2前	2			○			1					兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医学群 保健医療福祉と 情報科学分野	微生物学実習	2前	1					○	1	1					集中
	保健衛生論	2前	2				○								兼2
	医療法制	3前	1				○								兼10
	計量生物学	2後	1				○								兼3
	医用工学	1後	1				○				1				集中
	医用工学実習	1後	1					○			2				集中
	電子工学	1後	1				○								兼1
	医療情報管理学	4後	1				○		1	1					兼8
	生命倫理学	4前		1			○		1			1			兼2
	医療経済学	2前		1			○								兼2
	医科学セミナー	3後		1			○			1					兼2
	キャリアデザイン研修	2・3・4通		1				○		1					集中
	実践英語(TOEFL対策)	2前		1			○								兼1
	国際生命医科学研修	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際生命医科学研修II	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際生命医科学研修III	3・4通		1					1						※その他, 集中
	国際パートナーシップ研修	1・2・3・4休		2	○										兼1 ※演習及び実習・実験・実技, 集中
	国際生命医科学	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学II	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
	国際生命医科学III	3・4通		1					1						※実習・実験, 集中
先導医学の基礎	基礎医学総論	2前		2			○		1						兼1
	医科学英語論文講読の基礎	3・4前		1.5			○		2	2		2			兼1
小計 (33科目)			—	23	19.5										
専門科目	生物化学分野	生化学成分検査学	2前	3				○	1	1		1			兼1
		RI検査技術学	2後	2				○	1						兼2
		遺伝子検査学	3前		1			○	1						集中
		凝固・線溶学	3後		1			○	1			1			兼4
		ためになる血液腫瘍学	3・4後		1			○							兼4
		血管生物学のトピックス	3・4後		1			○							兼1 集中
		ライフサイエンスのための病態生化学	4後		2			○							兼1
		ゲノム医科学	3前		1			○							兼5 集中
	病因・検査学分野 生体防御	免疫検査学	3・4通	2				○			1				兼3 集中
		輸血学	3前	1				○		1					兼1 集中
		国際感染症学	3前	1				○							兼1 集中
		病原微生物学	3・4後		2			○		1					兼1 集中
		衛生化学概論	3・4前		1			○							兼2
	生理機能病理分野	病理組織学	2前	2				○		1			1		兼1
		血液検査学	3後	2				○		1					兼1
		生理機能検査学	2前	4				○		1					兼2 集中
		検査機器学	1後	2				○			1				兼1
		臨床病態学	3後	2				○		1			1		兼1
	臨床薬理学	3前	1				○			1		1		兼1	
	実験医学分野	胚操作・動物実験法	2前	1				○							兼2
細胞・発生工学		2前	1				○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
医科学 応用分野	医科学専門語学	3後・4前	6			○			2	2					兼9		
	医療科学特論I	3後	1			○			1	1					集中		
	医療科学特論II	4前	1			○			1	1							
	医科学演習	3通	1				○								兼1	集中	
	研究演習	3通	4				○								兼1	集中	
	卒業研究	4通	8					○							兼1	集中	
	生理機能 分野	わかりやすい放射線生物学	3・4後		1		○									兼1	
		医学検査学実習	2前		1				○		1					集中	
		先端脳科学	3・4前		1		○									兼5	
		神経科学特論	3・4後		1		○									兼1	※演習
	医工学 分野	医療工学	3・4後		1		○					1					
		人工臓器学	3・4前		1		○					2				兼3	集中
	医療情報・ 検査学 分野	医学検査学フロンティア	4後		2		○			7	1	1	1			兼2	集中
		検査情報管理学	3前		1		○				1						
		画像検査学	3前		2		○			1						兼1	集中
		病態検査学	3通		4		○			3							集中
		細胞検査学	2前		2		○									兼2	
		臨床実習	3通		3				○	2							集中
	先端医学 実践 分野	臨床薬理学実習	3後		1				○		1		1			兼3	
		輸血学実習	3前		1				○	1						兼1	集中
		生理機能検査学実習	2後		2				○	1		1					
		画像検査学実習	3後		1				○	1						兼1	
		血液検査学実習	2通		1				○	1			1				
		生化学成分検査学実習	2後		2				○	1	1		1			兼1	
		病理組織学実習	2後		2				○	1			2				
		凝固・線溶学実習	2後		1				○	1			1				
		遺伝子検査学実習	3前		1				○	1							集中
病原微生物学実習		3前		1.5				○	1						兼1		
ウイルス学実習		3前		0.5				○							兼3		
免疫検査学実習	3前		1				○		1		2			兼2	集中		
医療安全 分野	医療安全管理学	3前		1		○			1	1							
	医療安全管理学実習	3前		0.5				○	1			1					
検査総合 分野	多職種連携医療学概論	1・2・3・4休		1		○			1			2				集中	
小計 (87科目)		—	45	47.5	0	—			10	8	4	6	0	兼86			
合計 (200科目)		—	191.5	116.5	0	—			10	8	4	6	0	兼455			
学位又は称号	学士 (医療医学)、 学士 (国際医療科学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係を除く)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期					
【医療科学主専攻】						1 学期の授業期間			15週					
1. 基礎科目						1 時限の授業時間			75分					
(1) 共通科目 必修13単位、選択0単位 (2) 関連科目 必修2単位、選択6単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修25単位、選択5単位														
3. 専門科目 必修67単位、選択6単位														
【国際医療科学主専攻】														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修13単位、選択0単位														
(2) 関連科目 必修2単位、選択6単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修1単位、選択27単位														
3. 専門科目 必修20単位（G30国際医療科学人養成プログラム開設の医学応用分野科目から修得）、選択55単位														
（備考）														
備考欄に「*」を付した科目は国際医療科学主専攻選択、選択科目に「**」を付した科目は国際医療科学主専攻必修														
次の履修方法により合計125.5単位以上を習得すること。														
【国際医療科学主専攻】（G30国際医療科学人養成プログラム）														
1. 基礎科目														
(1) 共通科目 必修12単位、選択必修4.5単位、選択2.5単位														
(2) 関連科目 必修4.5単位、選択1.5単位（学類長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）														
2. 専門基礎科目 必修23単位、選択7.5単位														
3. 専門科目 必修45単位、選択25単位														

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
体育専門学群															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目・関連科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○		3	2		4		全学開設
		総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			3	2		4		全学開設
		総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後			1	○								兼26 全学開設
		第1外国語	1・2前・後	4				○							兼53 全学開設
		情報	1前・後	4				○							兼78 ※講義, 全学開設
		国語Ⅰ	1前・後	1			○								兼10 全学開設
		国語Ⅱ	1後	1			○								兼9 全学開設
		小計（9科目）	—	12	1	0	—			3	2	0	4	0	兼167
体育学主専攻	専門基礎科目	専門語学A	2前	1				○		1	7		3		兼1
		専門基礎共通演習	2後	1			○				2				
		体育科学シンポジウム	1後	1			○			3	4		5		
		体育・スポーツ専門英語基礎演習	2後	1				○		1	7		3		兼1
		臨海実習	2通	1			○						1		※実習・実験, 集中
		テーピング・マッサージ	1前	1			○			1	1		2		※実習・実験, 集中(一部)
		体育哲学	2後		1		○				1		1		
		体育・スポーツ史	2後		2		○			1			1		
		武道学Ⅰ	2前		1		○			1	1				
		スポーツ社会学	1後		2		○			1			2		
		体育・スポーツ経営学	2前		2		○			2					
		体育・スポーツ心理学	1前		2		○			1			1		
		スポーツ産業学	2前		1		○				1				
		スポーツ政策学Ⅰ	2前		1		○			1			1		
		運動学Ⅰ	2前		1		○			1	1				
		運動学Ⅱ	2後		1		○			1	1				
		一般コーチング学	2前		1		○				1				
		一般トレーニング学	2前		1		○				1				
		個別コーチング学	1後		1		○			2					
		個別トレーニング学	1後		1		○			2					
		解剖学	1前		1		○				1				
		生理学	1休		1		○			1					集中
		運動生理学	1後		1		○			1			1		
		運動生化学	1後		1		○			2					
		運動栄養学Ⅰ	1後		1		○				1				
		スポーツバイオメカニクスⅠ	1前		1		○			1					
		体力学	2後		1		○			2	1				
		健康増進学	2前		1		○				1				
		体育測定評価学(統計学を含む)	2後		1		○			1					
		スポーツ医学Ⅰ(救急処置を含む)	2前		1		○			1	2				
		衛生・公衆衛生学	2前		1		○			1			1		
		健康教育学(精神保健を含む)	2前		1		○			3			1		
		学校保健学Ⅰ(小児保健及び学校安全を含む)	2後		1		○						1		
		体操	1後		1		○			1		1			※実習・実験
体操	2後		1		○			1		1			※実習・実験		
ダンス	1後		1		○								※実習・実験, 集中(一部)		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ダンス	2後		1		○				1					※実習・実験,集中(一部)
	陸上競技	1前		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	2前		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	2後		1		○				1		1			※実習・実験
	陸上競技	1後		1		○				1		1			※実習・実験
	器械運動	1前		1		○			1			1			※実習・実験
	器械運動	2前		1		○				1					※実習・実験
	器械運動	2後		1		○			1			1			※実習・実験
	器械運動	1後		1		○				1					※実習・実験
	水泳競技	1前		1		○						1			※実習・実験
	水泳競技	2後		1		○						1			※実習・実験
	水泳競技	3後		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	1前		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	2後		1		○						1			※実習・実験
	野外運動	3後		1		○						1			※実習・実験
	バレーボール	1前		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	2前		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	3後		1		○				1					※実習・実験
	バレーボール	1後		1		○						1			※実習・実験
	バスケットボール	1前		1		○			1						※実習・実験
	バスケットボール	2前		1		○			1						※実習・実験
	バスケットボール	3後		1		○				1					※実習・実験
	バスケットボール	1後		1		○				1					※実習・実験
	ハンドボール	1前		1		○			1						※実習・実験
	ハンドボール	2前		1		○						1			※実習・実験
	ハンドボール	3後		1		○						1			※実習・実験
	ハンドボール	1後		1		○			1						※実習・実験
	サッカー	2後		1		○			1			1			※実習・実験
	サッカー	2前		1		○				1					※実習・実験
	サッカー	3後		1		○			1			1			※実習・実験
	サッカー	1後		1		○				1					※実習・実験
	ラグビー	2後		1		○						1			※実習・実験
	ラグビー	2前		1		○						1			※実習・実験
	ラグビー	3後		1		○				1					※実習・実験
	ラグビー	1後		1		○				1					※実習・実験
	テニス	3前		1		○				1					※実習・実験
	テニス	3後		1		○				1					※実習・実験
	バドミントン	3前		1		○						1			※実習・実験
	バドミントン	3後		1		○						1			※実習・実験
	卓球	3前		1		○					1	1			※実習・実験
	卓球	3後		1		○					1	1			※実習・実験
	ソフトボール	3前		1		○				1					※実習・実験
	ソフトボール	3後		1		○						1			※実習・実験
	柔道	1後		1		○				1		1			※実習・実験
	柔道	1後		1		○				2					※実習・実験
	柔道	2後		1		○				2					※実習・実験
	剣道	1後		1		○			1						※実習・実験

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	剣道	1後		1		○			1	1					※実習・実験
	剣道	2後		1		○			1	1					※実習・実験
	弓道	1後		1		○				1					※実習・実験
	弓道	1後		1		○				1					※実習・実験
	弓道	2後		1		○				1					※実習・実験
	野外運動（雪上）	1・2・3後		2	○				1			1			集中, ※実習・実験・実技
専門 科目	専門語学B	3通	2					○	5	18	1	3			
	卒業研究	4通	6					○	41	39	2	26			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	保健体育科(体力づくり運動)指導法	1前	1			○			3	5	1	1			
	種目別コーチング演習I	1後	1					○	6	8	2	4			
	種目別コーチング演習II	2後	2					○	3	9	2	5			
	種目別コーチング演習III	3後		2				○	4	6	2	6			
	スポーツキャリア形成I	1後	1			○				2					
	スポーツキャリア形成II	1後	1			○			1						
	スポーツキャリア形成III	3後	1			○			1	1		1			
	スポーツ哲学	1前		1		○				1		1			
	スポーツ倫理学	3前		1		○						1			
	世界の体育・スポーツ史	3前		1		○						1			
	武道学II	3後		1		○			1						
	稽古論	3後		1		○				1					
	現代スポーツ論I(歴史社会学)	3後		1		○			1						
	現代スポーツ論II(産業社会学)	3後		1		○				1					
	メンタルトレーニングの原理と方法	3後		1		○			1			1			
	アダプテッド・スポーツ科学	2後		1				○		2					
	運動学習心理学	3後		1		○						1			
	スポーツ健康心理学	3前		1		○			1						
	スポーツと企業	3前		1		○				1					
	レジャー論	3後		1		○				1					
	スポーツ政策学II	2後		1		○			1			1			
	運動観察論	3前		1		○				1					
	スポーツ技術論	3前		1		○			1						
	スポーツ戦術論	2後		1		○			1						
	身体表現論	3前		1		○				1					
	動きの解剖学	3前		1		○				1					
	運動適応生理学	3後		1		○			1			2			
	コンディショニングのスポーツ生化学	3前		1		○			2						
	健康体力マネジメント	3後		1		○				1					隔年
	発育発達学	3後		1		○			1						
	パフォーマンスと体力	3前		1		○			2	1					
	運動栄養学II	3前		1		○				1					
	アンチ・ドーピング	3前		1		○			1	2					
	スポーツ医学II(内科系)	3後		1		○			1	1					
	スポーツ医学III(外科系)	3後		1		○			1	1					
	スポーツバイオメカニクスII	3前		1		○			1						
	スポーツ用具の力学とバイオメカニクス	3前		1		○				1					
	精神保健学	3後		1		○			1						
	健康社会学	3後		1		○			1			1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツ教育論	2後		1		○				2					
	保健体育教師論	3後		1		○				1					
	体育授業の観察法	2後		1		○				2					集中
	体育のカリキュラムマネジメント	4後		1		○			1						
	武道教育論	3後		1		○				1					
	学校球技指導論	3前		1		○				1					
	学校武道指導論	3後		1		○			1	3					
	指導者のための体力測定法	3後		1		○			1	1					
	体育指導のバイオメカニクス	3後		1		○			1	1					隔年
	からだの成長	1休		1		○				1				兼1	集中
	学校保健学II	3前		1		○						1			
	保健科内容論	3休		1		○			1			1			集中
	スポーツ統計学	3・4後		1		○			1						
	コミュニティ・スポーツの経営・政策論	3後		1		○			2						
	体育・スポーツ行政学	3後		1		○						1			
	地方自治とスポーツ政策	3前		1		○						1			
	スポーツ法学	3前		1		○			1						
	健康づくり政策論	2後		1		○			1						
	サクセスフルエイジング論	2後		1		○				1					隔年
	環境保健学	3後		1		○			1						
	運動療法論	3前		1		○			1	2					
	スポーツ傷害の予防とリハビリテーション	3前		1		○			1	1		2			
	スポーツメディア論	3前		1		○			1			1			集中
	スポーツサービス業と経営戦略	3後		1		○			1						集中
	アダプテッド・スポーツ教育	3後		1		○				2					
	スポーツ産業とイベント・プロモーション	3後		1		○				3					
	スポーツリスクマネジメント論	3前		1		○			1						
	スポーツにおける情報戦略	3後		1		○				1					
	オリンピック教育	4後		1		○			1			1			
	スポーツタレント発掘論	3後		1		○				1					
	スポーツ選手の栄養管理	2・3後		1		○				1					
	指導者のためのスポーツ生化学	3後		1		○			2						
	スポーツを通じた開発	2後		1		○						1			
	体育・スポーツ科学のための英語演習	4後		1				○		1					
	介護予防運動の理論と実技	3後		1		○				1					※実習・実験, 集中
	保健体育科教員養成演習	4前		1				○		1					集中
	運動部活動の指導と経営	3後		1		○			1						
	つくばサマーインスティテュート	2・3前		1		○			1	3					※実習・実験, 集中
	キャリア形成インターンシップA	2・3・4通		1.5				○		1					集中
	キャリア形成インターンシップB	2・3・4通		1.5				○	1	1					集中
	キャリア形成インターンシップC	2・3・4通		1.5				○		1		1			集中
	体育授業観察・分析法演習	3前		2				○		3					集中
	剣道特別実習	1・2・3・4後		1.5				○	1	2					集中
	スポーツと文化	1前		1		○				1					
	ヒューマンハイパフォーマンスを引き出す最新スポーツ科学(2)	1後		1		○			1						
	スポーツ技術を自然科学から考える	1後		1		○						1			
	体育・スポーツ学共通演習A	3後		1				○				2			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	体育・スポーツ学共通演習B	3前		1				○		1	1				
	体育・スポーツ学共通演習C	3後		1				○		1	2				
	体育哲学演習I	3前		2				○			1	1			
	体育哲学演習II	3後		1				○			1	1			
	体育哲学演習III	4後		2				○			1	1			
	体育史・スポーツ人類学演習I	3前		2				○		1		2			
	体育史・スポーツ人類学演習II	3後		1				○		1		2			
	体育史・スポーツ人類学演習III	4後		2				○		1		2			
	武道学演習I	3前		2				○		1	1				
	武道学演習II	3後		1				○		1	1				
	武道学演習III	4後		2				○		1	1				
	スポーツ社会学演習I	3通		2				○		1		1			集中(一部)
	スポーツ社会学演習II	3後		1				○		1		1			集中
	スポーツ社会学演習III	4後		2				○		1		1			
	体育・スポーツ経営学演習I	3前		2				○		2					
	体育・スポーツ経営学演習II	3後		1				○		2					
	体育・スポーツ経営学演習III	4後		2				○		2					
	スポーツ政策学演習I	3通		2				○		1		1			
	スポーツ政策学演習II	3後		1				○		1		1			集中
	スポーツ政策学演習III	4後		2				○		1		1			集中
	スポーツ産業学演習I	3通		2				○			2				集中(一部)
	スポーツ産業学演習II	3後		1				○			1				集中
	スポーツ産業学演習III	4後		2				○			3				
	体育科教育学演習I	3前		2				○			2				
	体育科教育学演習II	3後		1				○			2				
	体育科教育学演習III	4後		2				○			2				
	体育心理学演習I	3前		2				○		1		1			
	体育心理学演習II	3後		1				○		1		1			
	体育心理学演習III	4後		2				○		1		1			
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	3前		2				○			2				
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	3後		1				○			2				
	アダプテッド体育・スポーツ学演習III	4後		2				○			2				
	スポーツ運動学演習I	3前		2				○		1	1				
	スポーツ運動学演習II	3後		2				○		1	1				
	スポーツ運動学演習III	4後		2				○		1	1				
	コーチング論・トレーニング学演習I	3前		2				○		1	4	1			集中
	コーチング論・トレーニング学演習II	3後		2				○		1	4				集中
	コーチング論・トレーニング学演習III	4後		2				○		1	4				集中
	体操コーチング論演習I	3前		2				○		1		1			
	体操コーチング論演習II	3後		2				○		1		1			
	体操コーチング論演習III	4後		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習I	3前		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習II	3後		2				○		1		1			
	体操競技コーチング論演習III	4後		2				○		1		1			集中(一部)
	陸上競技コーチング論演習I	3通		2				○		1	1	1			
	陸上競技コーチング論演習II	3前		2				○		1	1	1			集中
	陸上競技コーチング論演習III	4後		2				○		1	1	1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	水泳競技コーチング論演習I	3前		2				○					1		
	水泳競技コーチング論演習II	3後		2				○					1		
	水泳競技コーチング論演習III	4後		2				○					1		集中
	舞踊論演習I	3前		2				○			1				
	舞踊論演習II	3後		2				○			1				
	舞踊論演習III	4後		2				○			2				
	野外運動論演習I	3前		2				○					1		集中(一部)
	野外運動論演習II	3後		2				○		1					集中(一部)
	野外運動論演習III	3前		1				○		1			1		
	野外運動論演習IV	3後		1				○		1			1		
	バスケットボールコーチング論演習I	3前		2				○		1	1				
	バスケットボールコーチング論演習II	3後		2				○		1	1				
	バスケットボールコーチング論演習III	4後		2				○		1	1				
	バレーボールコーチング論演習I	3前		2				○			1		1		
	バレーボールコーチング論演習II	3後		2				○			1		1		
	バレーボールコーチング論演習III	4後		2				○			1				集中
	ハンドボールコーチング論演習I	3前		2				○		1			1		
	ハンドボールコーチング論演習II	3後		2				○		1			1		
	ハンドボールコーチング論演習III	4後		2				○		1			2		集中
	サッカーコーチング論演習I	3前		2				○		1	1		1		
	サッカーコーチング論演習II	3後		2				○		1	1		1		
	サッカーコーチング論演習III	4後		2				○		1	1		2		
	ラグビーコーチング論演習I	3前		2				○					1		
	ラグビーコーチング論演習II	3後		2				○			1				
	ラグビーコーチング論演習III	4後		2				○			1		1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	3前		2				○		1	2	1	1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	3後		2				○		1	2	1	1		
	ラケットバットスポーツコーチング論演習III	4後		2				○		1	2	1	1		
	柔道コーチング論演習I	3前		2				○			2				
	柔道コーチング論演習II	3後		2				○			2				
	柔道コーチング論演習III	4前		2				○			2				
	剣道コーチング論演習I	3前		2				○		1	1				
	剣道コーチング論演習II	3後		2				○		1	1				
	剣道コーチング論演習III	4後		2				○		1	1				集中
	弓道コーチング論演習I	3前		2				○			1				集中
	弓道コーチング論演習II	3後		2				○			1				集中
	弓道コーチング論演習III	4後		2				○			1				集中
	健康体力学共通演習	3前		2				○		9	6			2	
	応用解剖学演習I	3通		2				○			1				
	応用解剖学演習II	4後		2				○			1				
	運動生理学演習I	3通		2				○		2			2		集中(一部)
	運動生理学演習II	4通		2				○		2			2		集中(一部)
	運動生化学演習I	3通		2				○		2			1		集中
	運動生化学演習II	4後		2				○		2			1		集中
	運動栄養学演習I	3通		2				○			1				
	運動栄養学演習II	4後		2				○			1				集中(一部)
	スポーツバイオメカニクス演習I	3前		2				○		1	1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スポーツバイオメカニクス演習II	4後		2			○		1	1					集中(一部)
	体力学演習I	3通		2			○		2	2					
	体力学演習II	4後		2			○		2	2					
	健康増進学演習I	3通		2			○			1					
	健康増進学演習II	4後		2			○			1					集中
	体育測定評価学演習I	3通		2			○		1						集中
	体育測定評価学演習II	4後		2			○		1						集中
	内科系スポーツ医学演習I	3通		2			○		1	2					集中
	内科系スポーツ医学演習II	4後		2			○		1	2					集中
	外科系スポーツ医学演習I	3通		2			○		1	2		2			集中
	外科系スポーツ医学演習II	4後		2			○		1	2		2			集中
	環境保健学演習I	3前		2			○		1						
	環境保健学演習II	4後		2			○		1						集中
	健康教育学演習I	3通		2			○		4			2			集中
	健康教育学演習II	4後		2			○		4			2			集中
小計(286科目)		—	21	376	0	—			41	39	2	26	2	兼2	

合計(295科目)		—	33	377	0	—			41	39	2	26	2	兼169	
-----------	--	---	----	-----	---	---	--	--	----	----	---	----	---	------	--

学位又は称号	学士(体育学)	学位又は学科の分野	体育関係		
--------	---------	-----------	------	--	--

卒業要件及び履修方法					授業期間等				
------------	--	--	--	--	-------	--	--	--	--

次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。					1 学年の学期区分					2期				
【体育学主専攻】					1 学期の授業期間					15週				
1. 基礎科目					1 時限の授業時間					75分				
(1) 共通科目 必修12単位、選択1～10単位(総合科目(学士基盤科目)、第2外国語(初修外国語)、芸術から選択)														
(2) 関連科目 選択12～25単位(学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択)														
2. 専門基礎科目 必修6単位、選択31～39単位														
3. 専門科目 必修15単位、選択28～43単位														

- (注)
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
  - 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
  - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
  - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
芸術専門学群															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	共通科目	総合科目（フレッシュマン・セミナー）	1前	1				○			2		1		全学開設 全学開設 兼26 全学開設 兼57 全学開設 兼53 全学開設 兼78 ※講義, 全学開設
	共通科目	総合科目（学問への誘い）	1前	1			○			2		1			
	共通科目	総合科目（学士基盤科目）	1・2前・後		1		○								
	関連科目	体育	1・2前・後	2					○						
	関連科目	第1外国語（英語） 情報	1・2前・後 1前・後	4 4				○ ○							
	小計（6科目）	—	12	1	0		—		0	2	0	1	0	兼214	
芸術学・美術・構成・デザイン専攻	専門基礎科目	芸術キャリア教育	2・3通	1			○			1				集中	
	専門基礎科目	アート&デザイン入門	1・2前	1			○					1			
	専門基礎科目	芸術と文化	1・2前	1			○			1					
	専門基礎科目	芸術と社会	1・2後	1			○			2	6	1			
	専門基礎科目	美術史学概論	1前		1		○			1	2	1			
	専門基礎科目	芸術支援学概論	1前		1		○			2		1			
	専門基礎科目	洋画概論	1前		1		○					1			
	専門基礎科目	素描基礎演習1	1・2前		2			○		1					
	専門基礎科目	油彩画基礎演習1	1・2前		2			○				1			
	専門基礎科目	油彩画基礎演習2	1・2後		2			○		1					
	専門基礎科目	版画概論	1前		1		○				1				
	専門基礎科目	版画基礎演習	1・2後		2			○			1				
	専門基礎科目	日本画概論	1後		1		○			1	1				
	専門基礎科目	素描基礎演習2	1・2後		2			○		1	1				
	専門基礎科目	日本画基礎演習1	1・2前		2			○			1				
	専門基礎科目	日本画基礎演習2	1・2後		2			○			1				
	専門基礎科目	彫塑概論	1後		1		○					1			
	専門基礎科目	彫塑基礎演習1	1・2前		2			○		1		1			
	専門基礎科目	彫塑基礎演習2	1・2前		2			○		1		1			
	専門基礎科目	彫塑基礎演習3	1・2後		2			○		1		1			
	専門基礎科目	書概論	1前		1		○			1					
	専門基礎科目	工芸概論	1後		1		○				1				
	専門基礎科目	工芸基礎演習（ガラス）	1・2後		2			○				1			
	専門基礎科目	工芸基礎演習（陶磁）	1・2後		2			○			1				
	専門基礎科目	工芸基礎演習（木工）	1・2後		2			○			1				
	専門基礎科目	総合造形概論	1前		1		○			1					
	専門基礎科目	デジタル写真基礎演習	1・2・3・4前		1			○				1			
	専門基礎科目	立体加工基礎演習	1・2前		2			○				1			
	専門基礎科目	構成概論	1前		1		○				1				
	専門基礎科目	ビジュアルデザイン概論	1後		1		○			1					
	専門基礎科目	グラフィックツール基礎演習	1・2前		1			○			1				
	専門基礎科目	情報・プロダクトデザイン概論	1前		1		○			1					
	専門基礎科目	レンダリング基礎演習	1前		1			○			1				
専門基礎科目	環境デザイン概論	1前		1		○			1	1					
専門基礎科目	プレゼンテーション基礎演習	1前		1			○			1					
専門基礎科目	建築デザイン概論	1後		1		○			1						
専門基礎科目	建築製図基礎演習	1後		1			○			1	1				
専門基礎科目	芸術学概論-1	1前		1		○				1					
専門基礎科目	芸術学概論-2	1後		1		○			1						
専門基礎科目	世界遺産学入門	2前		1		○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	芸術材料論	1・2・3後		1		○									兼1 集中(一部)
	英語基礎演習A-1	2・3・4前		0.5			○						1		
	英語基礎演習A-2	2・3・4後		0.5			○						1		
	英語基礎演習B-1	2・3・4前		0.5			○						1		
	英語基礎演習B-2	2・3・4後		0.5			○						1		
	英語基礎演習C-1	2・3・4前		0.5			○						1		
	英語基礎演習C-2	2・3・4後		0.5			○						1		
	美術史概説A-1	1前		1		○			1						隔年
	美術史概説A-2	1前		1		○				1					隔年
	美術史概説B-1	1後		1		○						1			隔年
	美術史概説B-2	1後		1		○								兼1	隔年
	デザイン史概説A	1前		1		○					1				
	デザイン史概説B	1後		1		○					1				
専門科目	美術史領域研究I	2前	1			○			1	2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域研究II	3前	1			○			1	2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域研究I	2前	1			○			2				1		※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域研究II	3前	1			○			2				1		※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域研究I	2前	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域研究II	3前	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域研究I	2前	1			○				1					※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域研究II	3前	1			○				1					※演習、及び実習・実験、集中
	日本画領域研究I	2前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験、集中
	日本画領域研究II	3前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験、集中
	彫塑領域研究I	2前	1			○			1				1		※演習、及び実習・実験、集中
	彫塑領域研究II	3前	1			○			1				1		※演習、及び実習・実験、集中
	書領域研究I	2前	1			○			3						※演習、及び実習・実験、集中
	書領域研究II	3前	1			○			3						※演習、及び実習・実験、集中
	工芸領域研究I	2前	1			○				2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	工芸領域研究II	3前	1			○				2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	総合造形領域研究I	2前	1			○			1				2		※演習、及び実習・実験、集中
	総合造形領域研究II	3前	1			○			1				2		※演習、及び実習・実験、集中
	構成領域研究I	2前	1			○				1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	構成領域研究II	3前	1			○				1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	ビジュアルデザイン領域研究I	2前	1			○			1	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	ビジュアルデザイン領域研究II	3前	1			○			1	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	情報・プロダクトデザイン領域研究I	2前	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験、集中
	情報・プロダクトデザイン領域研究II	3前	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験、集中
	環境デザイン領域研究I	2前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験、集中
	環境デザイン領域研究II	3前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験、集中
	建築デザイン領域研究I	2前	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	建築デザイン領域研究II	3前	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習I	3後	1			○			1	2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習II	4前	1			○			1	2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	美術史領域特別演習III	4後	1			○			1	2			1		※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習I	3後	1			○			2				1		※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習II	4前	1			○			2				1		※演習、及び実習・実験、集中
	芸術支援領域特別演習III	4後	1			○			2				1		※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習I	3後	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習II	4前	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	洋画領域特別演習III	4後	1			○			2	1			1		※演習、及び実習・実験、集中
	版画領域特別演習I	3後	1			○				1					※演習、及び実習・実験、集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	版画領域特別演習II	4前	1			○				1					※演習、及び実習・実験,集中
	版画領域特別演習III	4後	1			○				1					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習I	3後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習II	4前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	日本画領域特別演習III	4後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習I	3後	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習II	4前	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	彫塑領域特別演習III	4後	1			○			1			1			※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習I	3後	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習II	4前	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	書領域特別演習III	4後	1			○			3						※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習I	3後	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習II	4前	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	工芸領域特別演習III	4後	1			○				2		1			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習I	3後	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習II	4前	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	総合造形領域特別演習III	4後	1			○			1			2			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習I	3後	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習II	4前	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	構成領域特別演習III	4後	1			○				1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習I	3後	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習II	4前	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	ビジュアルデザイン領域特別演習III	4後	1			○			1	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習I	3後	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習II	4前	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	情報・プロダクトデザイン領域特別演習III	4後	1			○			3	3					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習I	3後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習II	4前	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	環境デザイン領域特別演習III	4後	1			○			1	2					※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習I	3後	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習II	4前	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	建築デザイン領域特別演習III	4後	1			○			2	1		1			※演習、及び実習・実験,集中
	美術史特講A-1	2・3前		1		○						1			隔年
	美術史特講A-2	2・3後		1		○						1			隔年
	美術史特講B-1	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史特講B-2	2・3後		1		○				1					隔年
	美術史特講C-1	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史特講C-2	2・3後		1		○				1					隔年
	美術史特講D-1	2・3前		1		○			1						隔年
	美術史特講D-2	2・3後		1		○			1						隔年
	アート展示論	2・3前		1		○				1					隔年
	アート・テキスト論	2・3前		1		○				1					隔年
	美術史演習A-1	2・3前		2		○				1					隔年
	美術史演習A-2	2・3後		2		○				1					隔年
	美術史演習B-1	2・3前		2		○						1			隔年
	美術史演習B-2	2・3後		2		○						1			隔年
	美術史演習C-1	2・3前		2		○			1						隔年
	美術史演習C-2	2・3後		2		○			1						隔年
	美術史演習D-1	2・3前		2		○				1					隔年
	美術史演習D-2	2・3後		2		○				1					隔年
	アート展示論演習	2・3前		2		○				1					隔年,集中(一部)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	アート・テキスト論演習	2・3前		2			○			1					隔年,集中(一部)
	美術史文献学-1	2・3後		2		○			1						※演習,隔年
	美術史文献学-2	2・3後		2		○						1			※演習,隔年
	学外演習I(美術史)	2後		2			○		1	2		1			集中
	学外演習II(美術史)	3後		2			○		1	2		1			集中
	卒業研究(美術史領域)	4通		6			○		1	2		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	芸術支援学IA-1	2・3前		1		○						1			隔年
	芸術支援学IA-2	2・3後		1		○						1			隔年
	芸術支援学IB-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IB-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学IC-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IC-2	2・3後		1		○			1						隔年
	学外演習I(芸術支援学)	1・2通		1.5			○		2			1			集中
	芸術支援学IIA-1	2・3前		1		○						1			隔年
	芸術支援学IIA-2	2・3後		1		○						1			隔年
	芸術支援学IIB-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIB-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIC-1	2・3前		1		○			1						隔年
	芸術支援学IIC-2	2・3後		1		○			1						隔年
	芸術支援学演習A-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習A-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-I	1・2通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-II	2・3通		1			○		1			1			集中
	学外演習II(芸術支援学)	2・3通		1.5			○		2			1			集中
	芸術支援学演習A-III	3・4通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習B-III	3・4通		1			○		1			1			集中
	芸術支援学演習C-III	3・4通		1			○		1						集中
	美術館教育演習I	1・2通		1			○		1						集中
	美術館教育演習II	2・3通		1			○		1						集中
	美術館教育演習III	3・4通		1			○		1						集中
	学外演習III(芸術支援学)	3・4通		1.5			○		2			1			集中
	卒業研究(芸術支援領域)	4通		6			○		2			1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	洋画技法論	2前		1		○			1						
	洋画構想論	2・3後		1		○				1					
	油絵基礎技法演習	2前		2			○			1					
	油絵基礎実習	2通		2				○		1					
	素描実習I-1	1前		1.5				○	1	1					
	素描実習I-2	1後		1.5				○	1	1					
	洋画技法演習	3通		4			○		1						
	素描実習II-A-1	2前		1.5				○		1		1			
	素描実習II-A-2	2後		1.5				○		1					
	素描実習II-B-1	2前		1.5				○		1		1			
	素描実習II-B-2	2後		1.5				○				1			
	油絵実習I-A-1	3前		1.5				○				1			
	油絵実習I-A-2	3後		1.5				○				1			
	油絵実習I-B-1	3前		1.5				○	1						
	油絵実習I-B-2	3後		1.5				○	1						
	油絵実習I-C-1	3前		1.5				○	1						
	油絵実習I-C-2	3後		1.5				○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	油絵実習I-D-1	3前		1.5				○		1					
	油絵実習I-D-2	3後		1.5				○		1					
	洋画野外風景実習I	2前		1				○	2	1		1			集中
	洋画野外風景実習II	3前		1				○	2	1		1			集中
	洋画野外風景実習III	4前		1				○	2	1		1			集中
	油絵実習II-A-1	4前		1.5				○				1			集中(一部)
	油絵実習II-A-2	4通		1.5				○				1			集中(一部)
	油絵実習II-B-1	4前		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-B-2	4通		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-C-1	4前		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-C-2	4通		1.5				○	1						集中(一部)
	油絵実習II-D-1	4前		1.5				○		1					集中(一部)
	油絵実習II-D-2	4通		1.5				○		1					集中(一部)
	卒業研究(洋画領域)	4通		6				○	2	1		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	版画基礎実習-1	2前		1.5				○		1					
	版画基礎実習-2	2後		1.5				○		1					
	リトグラフ演習	2・3前		2				○						兼1	隔年,集中
	版画実習A-1	3前		1.5				○		1					
	版画実習A-2	3後		1.5				○		1					集中(一部)
	版画実習B-1	3前		1.5				○		1					
	版画実習B-2	3後		1.5				○		1					
	版画演習A	4前		3				○		1					
	版画演習B	4後		3				○		1					
	学外演習(版画)	3・4通		1				○		1					集中
	版画実習C-1	3・4前		1.5				○		1					隔年
	版画実習C-2	3・4後		1.5				○		1					隔年
	卒業研究(版画領域)	4通		6				○		1					※卒業論文・卒業研究等,集中
	日本画技法論	2前		1			○			1					
	日本画鑑賞研究	3通		0.5				○	1						集中
	日本画技法演習	3通		4				○		2					
	日本画実習基礎II	2通		1.5				○	1	1					
	日本画実習I-A-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-A-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習I-B-1	3前		1.5				○	1						
	日本画実習I-B-2	3後		1.5				○	1						
	日本画実習I-C-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-C-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習I-D-1	3前		1.5				○		1					
	日本画実習I-D-2	3後		1.5				○		1					
	日本画実習II-A-1	4前		1.5				○		1					
	日本画実習II-A-2	4後		1.5				○		1					
	日本画実習II-B-1	4前		1.5				○	1	1					
	日本画実習II-B-2	4後		1.5				○	1	1					
	日本画実習II-C-1	4前		1				○	1						
	日本画実習II-C-2	4通		1				○	1						
	日本画実習II-D-1	4前		1				○		1					
	日本画実習II-D-2	4通		1				○		1					
	野外風景実習I	2前		1.5				○	1	2					集中
	野外風景実習II	3前		1.5				○	1	2					集中
	日本画基礎実習1	2前		1.5				○	1	2					
	日本画基礎実習2	2後		1.5				○	1	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	卒業研究(日本画領域)	4通		6				○	1	2					※卒業論文・卒業研究等,集中
	彫塑論・演習I	2前		1			○		1			1			※演習,集中(一部)
	彫塑論・演習II	3後		1			○		1			1			※演習
	塑造実習II-A-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-A-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-B-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-B-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-C-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-C-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-D-1	3前		1.5				○	1			1			
	塑造実習II-D-2	3後		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-A	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-B	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-C	4前		1.5				○	1			1			
	塑造実習III-D	4前		1.5				○	1			1			
	彫刻基礎実習	2後		1.5				○	1						
	彫刻実習I-A-1	3前		1.5				○	1						
	彫刻実習I-A-2	3後		1.5				○	1						
	彫刻実習I-B-1	3前		1.5				○	1			1			
	彫刻実習I-B-2	3後		1.5				○	1			1			
	彫刻実習II-A	4前		1.5				○	1						
	彫刻実習II-B	4前		1.5				○	1			1			集中(一部)
	鋳造実習I	3前		1.5				○	1			1			集中(一部)
	鋳造実習II	4後		1.5				○	1			1			集中(一部)
	彫塑特別実習	4通		1				○	1			1			集中
	学外演習(彫塑)	3・4通		1				○	1			1			集中
	塑造実習I-A-1	2前		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-A-2	2後		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-B-1	2前		1.5				○	1			1			
	塑造実習I-B-2	2後		1.5				○	1			1			
	テラコッタ実習	2・3・4前		1.5				○	1			1			
	卒業研究(彫塑領域)	4通		6				○	1			1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	書鑑賞論I	2前		1.5			○		1						
	書鑑賞論II	2後		1.5			○		1						
	書学方法論I	3前		1.5			○		1						
	書学方法論II	3後		1.5			○		1						
	書実習基礎I-1	1前		1.5				○	2						
	書実習基礎I-2	1後		1.5				○	2						
	書実習基礎II-1	2前		1.5				○	2						
	書実習基礎II-2	2後		1.5				○	2						
	書実習漢字制作A-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作A-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作B-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作B-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習漢字制作C-1	4前		1.5				○	1						
	書実習漢字制作C-2	4後		1.5				○	1						
	書実習仮名制作A-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作A-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作B-1	2・3前		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作B-2	2・3後		1.5				○	1						隔年
	書実習仮名制作C-1	4前		1.5				○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	書実習仮名制作C-2	4後		1.5				○	1						
	学外演習(書)A	1・2・3・4通		1.5				○	3						隔年, 集中
	学外演習(書)B	1・2・3・4通		1.5				○	3						隔年, 集中
	中国書法史I	2前		1.5			○		1						
	中国書法史II	2後		1.5			○		1						
	日本書道史I	3前		1.5			○		1						
	日本書道史II	3後		1.5			○		1						
	専門語学(中国語)B-1	2・3・4前		1			○		1						隔年
	専門語学(中国語)B-2	2・3・4通		1			○		1						隔年
	専門語学(中国語)B-3	2・3・4後		1			○		1						隔年
	卒業研究(書領域)	4通		6				○	3						※卒業論文・卒業研究等, 集中
	木材造形論	2前		1			○			1					
	工芸特講	1・2通		1			○			1		1			隔年, 集中
	学外演習(工芸領域)	3通		1				○		2		1			集中
	ガラス基礎演習	2前		1				○				1			
	ガラス技術演習	2後		2				○				1			
	ガラス工芸演習	3前		4				○				1			
	ガラス造形演習	3後		4				○				1			
	ガラス制作演習	2前		1				○				1			
	木工基礎演習	2前		1				○		1					
	木工技術演習	2・3後		2				○		1					
	漆芸技法演習	2・3前		2				○		1					
	漆芸制作演習	2・3後		2				○		1					
	木材造形演習	3前		4				○		1					
	木工制作演習	2前		1				○		1					
	陶磁基礎演習	2前		1				○		1					
	窯芸技術演習	2・3前		1				○		1					
	ロクロ技法演習	2・3後		2				○		1					
	陶磁造形演習I	3前		2				○		1					
	陶磁造形演習II	3後		2				○		1					
	陶磁制作演習	2前		1				○		1					
	卒業研究(工芸領域)	4通		6				○		2		1			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	メディア・アート論	3前		1			○					1			
	現代美術論A	3・4前		1			○		1						
	現代美術論B	3・4後		1			○		1						
	学外演習(総合造形領域)	3通		1				○	1			2			集中
	インスタレーションアート	3・4前		1			○					1			
	メディアアート・プログラミング	2・3前		2				○				1			
	メディアアート・フィジカルコンピューティング	2・3後		2				○				1			
	ハイブリッドアート演習	3・4後		3				○				1			
	卒業研究(総合造形領域)	4通		6				○	1			2			※卒業論文・卒業研究等, 集中
	学外演習(構成領域)	3通		1				○	2	4		5			集中
	色彩学	2前		1			○			1					
	造形発想論	2後		1			○					1			
	平面構成演習	2前		2				○				1			
	立体構成演習	2後		2				○				1			
	造形心理学	2後		1			○			1					
	平面構成総合演習	3前		1				○				1			
	立体構成総合演習	3前		1				○				1			
	色彩構成演習I	2前		1				○		1					
	色彩構成演習II	2後		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	実験造形演習	3後		2			○						1		
	卒業研究(構成領域)	4通		6			○		2	4			5		※卒業論文・卒業研究等,集中
	学外演習(ビジュアルデザイン領域)	3通		1			○		1	1			1		集中
	広告デザイン演習	3・4後		1			○		1						
	ブランディングデザイン演習	3・4前		2			○			1					
	画像論	2・3後		1		○							1		
	コンテンポラリー・フォトグラフィ演習	3後		2			○						1		
	ナラティブイラストレーション演習	2前		2			○						1		
	印刷・製本演習	3後		2			○						1		
	ビジュアルストーリー創作演習	3・4休		1			○						1		集中
	ビジュアルデザインシンキング	2前		2			○			1					
	ビジュアルデザイン演習A	2前		1			○		1						
	ビジュアルデザイン演習B	2後		1			○			1					
	エディトリアルデザイン演習	3・4前		1			○		1						
	グラフィックデザイン特別演習	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	パッケージデザイン演習	3・4前		1			○			1					
	サイエンスビジュアルゼーション演習	3・4休		1			○		1						集中
	卒業研究(ビジュアルデザイン領域)	4通		6			○		1	1			1		※卒業論文・卒業研究等,集中
	人間工学	2後		1		○			1						
	デザイン演習1-A	2前		1			○		1						
	デザイン演習2-A	2前		1			○		1						
	デザイン演習5-A	2後		1			○			1					
	デザイン演習6-A	2後		1			○		1						
	情報・プロダクトデザイン演習1-I	3前		1			○			1					
	情報・プロダクトデザイン演習1-II	3前		1			○		1						
	情報・プロダクトデザイン演習2-I	3休		3			○		1						集中(一部)
	情報・プロダクトデザイン演習2-II	3休		2			○			1					集中
	情報・プロダクトデザイン演習3-I	3後		1			○			1					
	情報・プロダクトデザイン演習3-II	3後		1			○		1						
	生産システムデザイン学	2・3通		2		○			2						
	感性デザイン学	2前		1		○				1					
	プロトタイピング基礎	2前		1		○				1					※演習
	プロトタイピング応用	2前		1		○				1					※演習
	生産材料・技術論	2・3休		2		○				1				兼1	隔年,集中
	情報メディア論I	3前		1		○				1					
	プログラミング基礎	2前		1		○				1					※演習
	情報メディア論II	3後		1		○				1					
	プログラミング応用	2後		1		○				1					※演習
	デザイン解析論基礎	2後		1		○			1						集中
	デザインイノベーション論	2・3前		1		○				1					
	デザイン解析論応用	3後		1		○								兼1	集中
	ダイナミックインタラクションデザイン演習	2後		1			○			1			1		
	学外演習(情報・プロダクトデザイン)	3後		1			○		3	3					集中
	インターンシップ(情報・プロダクトデザイン)	4後		1				○		1					集中
	デザイン系企業研究	3後		3			○			1					
	卒業研究(情報・プロダクトデザイン領域)	4通		6			○		3	3					※卒業論文・卒業研究等,集中
	デザイン演習2-B	2前		1			○			1					
	デザイン演習6-B	2後		1			○		1						
	環境デザイン演習1	3前		3			○		1						
	環境デザイン演習2	3後		3			○			1					
	学外演習(環境デザイン)	3前		1			○		1	2					集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	インターンシップ(環境デザイン)	3後		1				○		1					集中
	都市デザイン論	3後		2			○		1						
	ランドスケープデザイン論	3後		2			○			1					
	住宅地計画論	3前		2			○			1					
	卒業研究(環境デザイン領域)	4通		6				○	1	2					※卒業論文・卒業研究等,集中
	デザイン演習1-B	2前		1				○				1			
	デザイン演習5-B	2後		1				○	1	1					
	建築デザイン演習1	3前		3				○	1						
	建築デザイン演習2	3後		3				○				1			
	建築デザイン演習3	3後		3				○		1					集中(一部)
	建築史	1・2・3・4前		2			○			1					
	建築材料論	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	学外演習(建築デザイン)	3通		1				○	1	2		1			集中
	インターンシップ(建築デザイン)	3通		1				○	1						集中
	建築設計論	3通		2			○			1					集中
	建築環境計画論	3後		2			○			1					
	建築設備計画論	3前		2			○			1					
	建築計画論A	3前		1			○		1						
	建築計画論B	3前		1			○		1						
	建築構法論	3後		2			○					1			
	建築構法論演習	3前		1				○				1			
	構造力学	2・3・4通		2			○							兼1	隔年
	構造計画	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	卒業研究(建築デザイン領域)	4通		6				○	1	2		1			※卒業論文・卒業研究等,集中
	専門語学(英語)1	2・3・4前		1			○					1			
	専門語学(英語)2	2・3・4後		1			○					1			
	美術論A-1	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	美術論A-2	3・4通		1			○			1					隔年,集中
	美術論B-1	3・4前		1			○			1					隔年
	美術論B-2	3・4後		1			○			1					隔年
	彫刻史A-I	2・3前		1			○							兼1	隔年
	彫刻史A-II	2・3後		1			○							兼1	隔年
	芸用解剖学I	3・4前		1.5			○							兼1	隔年
	芸用解剖学II	3・4後		1.5			○							兼1	隔年
	創造的復興:チャレンジ学外演習I	3後		2				○		3		2			集中
	創造的復興:チャレンジ学外演習II	4後		2				○		3		2			集中
	アートセラピー入門1	2・3・4前		1				○				1			集中
	アートセラピー入門2	2・3・4後		1				○				1			集中
	アートセラピー入門3	2・3・4前		1				○				1			集中
	アートセラピー入門4	2・3・4後		1				○				1			集中
	拡張表現スタジオ1-1	1前		1				○				1			
	拡張表現スタジオ1-2	1前		1				○		1					
	拡張表現スタジオ1-3	1後		1				○				1			
	拡張表現スタジオ1-4	1後		1				○	1						
	拡張表現スタジオ2	2後		2				○	2	4		5			集中
	拡張表現スタジオ3	3後		2				○	2	4		5			集中
	拡張表現スタジオ4	4通		2				○	2	4		5			集中
	デザイン基礎演習1	1前		2				○		1					
	デザイン基礎演習2	1後		2				○		1					
	デザイン基礎演習1-I	1前		1				○		1					
	デザイン基礎演習1-II	1前		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	デザイン基礎演習2-I	1後		1			○			1					
	デザイン基礎演習2-II	1後		1			○			1					
	デザイン演習1	2前		1			○			1					
	デザイン演習2	2前		1			○		1						
	デザイン演習3	2前		1			○		1						
	デザイン演習4	2後		1			○			1					
	デザイン演習5	2後		1			○			1					
	デザイン演習6	2後		1			○		1	1					
	環境・建築デザイン演習	3前		3			○			2					
	アート・デザインプロデュース演習1	2・3・4前		1			○		1	3					集中
	アート・デザインプロデュース演習2	2・3・4通		1			○		1	3					集中
	アート・デザインプロデュース演習3	2・3・4後		1			○		1	3					集中
	デザイン特別演習	4通		2			○		5	6		1			集中
	創造的復興:ローカルデザイン演習I	3前		2			○			3		2			
	創造的復興:ローカルデザイン演習II	4前		2			○			3		2			
	建築設備	3・4後		2			○								兼1
	建築関連法規	2・3・4後		1			○								兼3 集中
	建築経済	2・3・4後		1			○								兼1 集中
	建築生産	2・3・4前		1			○								兼1 集中
	小計 (467科目)		—	74	621.5	0	—			23	17	0	13	0	兼19
J a p a n · E x p e r t P r o g r a m 日 本 芸 術 コ ー ス	共通科目 (フレッシュマン・セミナー)	1前	1				○		1	1					全学開設
	共通科目 (Japan-Expertフレッシュマン・セミナー)	1後	1				○								兼1 全学開設
	共通科目 (学問への誘い)	1前	1				○		1	1					全学開設
	共通科目 (学士基盤科目)	1・2前・後		1			○								兼26 全学開設
	体育	1・2前・後	2					○							兼57 全学開設
	Japan-Expert日本語 中上級話す	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級話す	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級聞く	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級聞く	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級読む	1後		3				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級読む	1後		3				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級書く	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級書く	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級文法	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級文法	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級漢字	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級漢字	1後		2				○							兼1
	Japan-Expert日本語 中上級総合日本語	1後		1				○							兼1
	Japan-Expert日本語 上級総合日本語	1後		1				○							兼1
	Japan-Expert専門日本語 (日本芸術コース)	1後		1				○			1				
情報	1前・後	4					○							兼78 ※講義, 全学開設	
(J E 対 象 専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目)	Japan-Expert総論	1前	1				○								兼1
	インターンシップ	3・4通	1							1					
	小計 (23科目)	—	11	30	0	—			2	4	0	0	0	兼162	
合計 (496科目)		—	97	652.5	0	—			23	17	0	13	0	兼234	
学位又は称号	学士 (芸術学)		学位又は学科の分野				美術関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
次の履修方法により合計124単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分			2期							
【芸術学・美術・構成・デザイン主専攻】						1 学期の授業期間			15週							
1. 基礎科目						1 時限の授業時間			75分							
<p>(1) 共通科目 必修12単位、選択1～12単位（総合科目（学士基盤科目）、第1外国語（英語）、第2外国語（初修外国語）、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～24単位（学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修5単位、選択13～20単位</p> <p>3. 専門科目 必修11単位、選択50～64単位</p> <p>・人文学類及び比較文化学類、工学システム学類、社会工学類開設科目で学群長が指定する科目から15単位まで選択可。</p> <p>・工学システム学類、社会工学類開設科目のうち学群長が指定する科目から5単位まで選択可。</p>																
【日本芸術コース】																
1. 基礎科目																
<p>(1) 共通科目 必修9単位、選択必修15単位、選択1～12単位（総合科目（学士基盤科目）、体育、第1外国語（日本語）、第2外国語（初修外国語）、国語、芸術から選択）</p> <p>(2) 関連科目 選択6～24単位（学群長が指定した他学群・学類の開設授業科目から選択）</p> <p>2. 専門基礎科目 必修5単位、選択12～19単位</p> <p>3. 専門科目 必修12単位、選択50～64単位</p> <p>・人文学類及び比較文化学類、工学システム学類、社会工学類開設科目で学群長が指定する科目から15単位まで選択可。</p> <p>・工学システム学類、社会工学類開設科目のうち学群長が指定する科目から5単位まで選択可。</p>																

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(全学群対象科目、自由科目(特設)、教職・博物館に関する科目)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学群対象科目	哲学通論AI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論AII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論BI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論BII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論CI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論CII	2後		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論DI	2前		1		○								兼1 全学開設
	哲学通論DII	2後		1		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	2後		2		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	2前		2		○								兼1 全学開設
	日本国憲法	1後		2		○								兼1 全学開設
日本国憲法	1前		2		○								兼1 集中, 全学開設	
日本国憲法	1・2・3前		2		○								兼1 集中, 全学開設	
日本国憲法	2前		2		○								兼1 集中, 全学開設	
合計(14科目)		—		20		—								兼11
自由科目(特設)	21世紀の中国—現代中国の諸相—	2・3・4後		1		○								兼1 全学開設
	海外武者修行	2・3・4通		1		○								兼1 ※演習, 全学開設
	グローバル共存・共生	3・4後		1		○								兼1 ※演習, 全学開設
	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会I	2・3前		1		○								兼1 全学開設
	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会II	2・3後		1		○								兼1 全学開設
	学際的社会科学演習	3・4後		3			○							兼1 一部集中, 全学開設
	筑波山から学ぶ—地域の文化資源発掘	2・3通		2		○								兼1 一部集中, 全学開設
	国際パートナーシップ研修(中南米)	1・2・3・4通		2		○								兼1 ※演習及び実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	国際パートナーシップ協働演習(中南米)	2・3・4通		2			○							兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	障害学生支援技術	1・2・3通		1			○							兼6 集中, 全学開設
	障害者スポーツボランティア実践講座	1・2・3・4前・後		1		○								兼8 ※演習, 集中, 全学開設
	つくばロボットコンテスト2019	1・2・3通		1				○						兼8 集中, 全学開設
	コンテツツ表現工学	1・2・3後		1					○					兼6 全学開設
	巨大プロジェクトエンジニア入門	1・2前		1		○								兼1 ※演習, 集中(一部), 全学開設
	国際パートナーシップ研修(東南アジア)	1・2・3・4休		2		○								兼1 ※演習及び実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	スポーツが変われば、大学が変わる	1・2・3・4後		1		○								兼1 集中, 全学開設
	創造学群表現学類—OBOG指導によるクリエイティブ体験講座	3・4前		2			○							兼1 集中, 全学開設
	ワーク・ライフ学—男女共同参画とダイバーシティ	1前		1		○								兼2 ※演習, 集中, 全学開設
	次世代起業家養成のための経営・知財必須知識	2・3前		1		○								兼2 ※演習, 集中, 全学開設
	筑波クリエイティブ・キャンプ・ベンチャーアントレプレナー入門講座—	1・2・3・4前		1		○								兼3 集中(一部), 全学開設
	筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト	1・2・3・4後		1			○							兼1 全学開設
	海外語学研修ドイツ語	2・3・4前		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修中国語A	2・3・4前		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修中国語B	1・2・3・4前		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語A	2・3・4後		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語B	2・3・4後		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	海外語学研修ロシア語C	2・3・4後		3		○								兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	囲碁で培う思考力	1・2・3・4後		2		○								兼3 ※演習, 全学開設
	海外語学研修英語A	1・2・3・4後		3			○							兼1 ※実習・実験・実技, 集中, 全学開設
	グローバル教養I: Learning Strategy	1前		1		○								兼1 ※演習, 集中, 全学開設
	グローバル教養II: Future Leaders Program	1後		1		○								兼1 ※演習, 集中, 全学開設
合計(31科目)		—		53		—								兼48
教職・博物館に関する科	こころの発達	1前・後	1			○								兼6 全学開設
	学習の心理	1後	1			○								兼5 全学開設
	教育心理学	2後	2			○								兼2 全学開設
	現代教育と教育理念	1前・後	1			○								兼1 全学開設
	教育史概論	1前	1			○								兼3 全学開設
	教育社会学概論	1通	1			○								兼3 集中, 全学開設
	教育の法と制度	1後	1			○								兼3 全学開設
	学校経営概説	1後	1			○								兼2 全学開設

道德教育I	2前	1	○	兼3	全学開設
道德教育II	2後	1	○	兼3	全学開設
国語科教育概論I	3前	1	○	兼1	全学開設
国語科教育概論II	3前	1	○	兼1	全学開設
国語科教育演習I	3後	2	○	兼1	※演習, 全学開設
国語科教育演習II	3後	2	○	兼1	※演習, 全学開設
国語科指導法	3後	2	○	兼2	※演習, 集中, 全学開設
英語科教育基礎論a	2前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育基礎論b	2後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育概説a	3前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
英語科教育概説b	3後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法Ia	2前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法Ib	2後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法IIa	3前	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等英語科教育法IIb	3後	1	○	兼1	※演習, 全学開設
中等社会・地理歴史科教育法I	3前	1	○	兼1	全学開設
中等社会・地理歴史科教育法II	3後	2	○	兼1	全学開設
中等社会・公民科教育法I	3前	1	○	兼1	全学開設
中等社会・公民科教育法II	3後	2	○	兼1	全学開設
社会科地理歴史指導法	3後	1	○	兼1	全学開設
社会科公民指導法	3前	1	○	兼2	集中, 全学開設
地理歴史科指導法	3後	1	○	兼2	集中, 全学開設
公民科指導法	3前・後	1	○	兼2	集中, 全学開設
数学科教育概論I	3前	1	○	兼1	全学開設
数学科教育概論II	3後	2	○	兼2	全学開設
数学教育内容論	3後	1	○	兼1	全学開設
数学授業研究	3前	1	○	兼1	集中, 全学開設
数学科指導法	3前	1	○	兼1	全学開設
数学教材論	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
理科教育概論IA	2・3前	1	○	兼2	全学開設
理科教育概論IIA	2・3前	1	○	兼1	全学開設
理科教育概論IB	2・3後	1	○	兼2	全学開設
理科教育概論IIB	2・3後	1	○	兼1	全学開設
中等理科教育論I	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
中等理科教育論II	3後	2	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育論	3前	1	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育実践論I	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
中学校理科教育実践論II	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
福祉科指導法I	3前・後	3	○	兼2	集中, 全学開設
福祉科指導法II	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
農業科教育法概論	3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
農業科指導法	3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
技術科教育法概論	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
技術科指導法I	2・3後	3	○	兼1	集中, 全学開設
技術科指導法II	2・3後	3	○	兼1	集中, 全学開設
工業科指導法	3前	4	○	兼1	集中, 全学開設
情報科指導法I	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
情報科指導法II	2・3前	2	○	兼1	集中, 全学開設
保健体育科教育法概論I	2後	1	○	兼1	全学開設
保健体育科教育法概論II	2後	1	○	兼2	全学開設
保健体育科教育法概論III	3前	1	○	兼2	全学開設
美術科教育法概論I	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科教育法概論II	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科指導法I	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
美術科指導法II	2・3前	1	○	兼1	全学開設
美術科指導法演習I	2・3前	1	○	兼1	全学開設
美術科指導法演習II	2・3後	1	○	兼1	集中, 全学開設
造形教育論I	2・3・4前	1	○	兼1	全学開設
造形教育論II	2・3・4後	1	○	兼1	全学開設
工芸科教育法概論I	2・3前・後	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科教育法概論II	2・3前・後	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科指導法	2・3通	1	○	兼1	集中, 全学開設
工芸科指導法演習	2・3通	1	○	兼1	集中, 全学開設
書道科教育法I	3前	1.5	○	兼1	全学開設
書道科教育法II	3後	1.5	○	兼1	全学開設
書道科教育法特講	3後	1	○	兼1	集中, 全学開設

体育理論の授業づくり	3後	1			○							兼1	全学開設
アダプテッド体育授業理論・実習	3通	1							○			兼2	集中, 全学開設
体育授業理論・実習I	3前・後	1								○		兼3	全学開設
体育授業理論・実習II	3後	1								○		兼3	全学開設
体育授業理論・実習III	3後	1								○		兼2	集中, 全学開設
保健授業理論・実習	3前	1								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(国語)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(英語)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(社会)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(地理歴史)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(公民)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(数学)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(理科)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(福祉)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(農業)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(技術)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(工業)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(情報)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(保健体育)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(美術)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(工芸)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
教育実習(書道)	4通	5								○		兼1	集中, 全学開設
養護実習	4通	5								○		兼2	集中, 全学開設
教育課程編成論	3前・後	1			○							兼3	全学開設
教育の方法と技術	3前	1			○							兼6	全学開設
特別支援教育	3前・後	1			○							兼13	全学開設
特別活動の理論と実践	2後	1			○							兼4	全学開設
生徒指導	3通	1			○							兼5	集中, 全学開設
教育相談の基礎	3前・後	1			○							兼3	全学開設
教育相談の実践	3前・後	1			○							兼3	全学開設
進路指導・キャリア教育	3通	1			○							兼1	全学開設
教職論I	1前	1			○							兼2	全学開設
教職論II	1後	1			○							兼3	全学開設
教育相談	3前	1			○							兼2	集中, 全学開設
教職実践演習(中・高)	4通	2						○				兼1	集中, 全学開設
教職実践演習(養護教諭)	4通	2						○				兼1	集中, 全学開設
総合的な学習の時間の指導法I	2後	1			○							兼1	集中, 全学開設
総合的な学習の時間の指導法II	2後	1			○							兼1	集中, 全学開設
職業指導	3・4通	4			○							兼1	集中, 全学開設
介護等体験の意義	1前	1			○							兼1	集中, 全学開設
情報と職業	2・3・4後	1			○							兼1	全学開設
博物館実習	3・4通	3								○		兼6	集中, 全学開設
博物館資料保存論I	2・3前	1			○							兼1	全学開設
博物館資料保存論II	2・3後	1			○							兼1	全学開設
博物館展示論I	2・3前	1			○							兼1	全学開設
博物館展示論II	2・3前	1			○							兼1	集中(一部), 全学開設
博物館情報・メディア基礎論	2・3後	1			○							兼2	全学開設
博物館教育基礎論	2・3後	1			○							兼1	全学開設
博物館学I	2・3前	2			○							兼2	集中(一部), 全学開設
博物館学II	2・3後	2			○							兼3	全学開設
博物館学III	2・3前	2			○							兼2	集中(一部), 全学開設
合計(125科目)	—	228						—				兼120	
学位又は称号	—	—	学位又は学科の分野				—						
卒業要件及び履修方法					授業期間等								
					1学年の学期区分				2期				
					1学期の授業期間				15週				
					1時限の授業時間				75分				

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程／修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	応用倫理	<p>Situational ethical principles such as research ethics for research laboratories and medical ethics for hospitals do not always correspond well each other in giving us a clear direction in pursuing the best quality of life in modern society. Rather than taking individual principles for granted, this course attempts to understand how we may disentangle somewhat conflicting ethical principles. In so doing, this course provides unique perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns.</p> <p>研究倫理や医療倫理など状況に特化した倫理原理は、必ずしも相互に補完する関係にないため、現代社会の中で最善の質を求めるための明確な指針とはなっていない。こうした絡まった倫理原理を解きほぐすことを試みる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（608 松井健一／7回） Provides perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns. 文化や歴史的な文脈から人権や環境に関する問題も含め、応用倫理のための視点を醸成する。</p> <p>（696 大神明／1回） Provides perspectives of industrial doctors and considers ethics related to risks. 産業医の視点からリスクに関わる倫理的な問題を提起する。</p>	集中 オムニバス方式
	環境倫理学概論	<p>Environmental ethics helps us not only think about interpersonal relations in society but also the ones between people and the natural environment. This expansive scope helps us see our daily activities, ethical or not, within ecosystems or biotic communities. This course invites students to think about a need to establish a universally applicable ethical principle/ law for global citizens to tackle with environmental problems. To answer this question, it introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities.</p> <p>環境倫理は、社会における対人関係だけでなく、人と自然環境の関係について考える助けとなる。こうした広い視野を持つことで、我々は生態系の一部として日々の活動が倫理的かどうかを考えることができる。この授業では、学生に対し世界市民として、環境問題を解決するため、ユニバーサルな倫理大綱や法律を構築する必要性について考えてもらう。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（608 松井健一／7回） Introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities. 生物多様性や生命倫理、動物の権利・福祉、生活者のための環境倫理を紹介する。</p> <p>（576 渡邊和男／1回） Introduces ethical principles related to international environmental law. 国際法に関する環境倫理原理を紹介する。</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究倫理	<p>研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。</p> <p>本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習（個別演習・グループ演習）を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動を取りまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（617 岡林浩嗣／9回）上記の講義を行う。演習においては、ワークシートを用いて自らの研究活動の構造を分析した上で、研究倫理上の問題点とその背景について討議する。さらに、研究不正を防止するために必要な施策について討議を行い、グループ単位での発表とその指導を行う。</p> <p>（697 大須賀壮／1回）理化学研究所における研究管理状況をふまえて、適切な実験ノートの取り方について講義を行う。また、演習の際に岡林と合同でグループ討議の指導を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間
	生命倫理学	<p>遺伝子治療、臓器移植、人工臓器、生殖医療、遺伝子診療、薬物やその他の治療法の治験などの現代の医療や医学研究には、インフォームドコンセント、個人の尊厳やプライバシー、脳死判定やリスクマネージメント、治療停止の選択など生命倫理にかかわる多くの問題を含んでいる。現代医療が抱える生命倫理諸問題の基礎知識、基本的考え方を習得するとともに、実例により学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全10回）</p> <p>（467 菅野幸子／1回）テーマとして「生命倫理とその歴史」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（354 柳久子／1回）テーマとして「予防医学における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（303 西村健／1回）テーマとして「再生医学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（241 川崎彰子／1回）テーマとして「生殖医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（90 杉山文博／1回）テーマとして「動物実験と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（700 木澤義之／1回）テーマとして「緩和医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（398 高橋一広／1回）テーマとして「臓器移植と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（705 宗田聡／1回）テーマとして「遺伝学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（196 我妻ゆき子／1回）テーマとして「国際保健における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（125 野口恵美子／1回）テーマとして「医学・医療の倫理」について取り上げ、講義を行う。</p>	オムニバス方式
	企業と技術者の倫理	<p>多くの技術者は企業に属し、その中で社会とビジネス的な関わりを持ちながら仕事を行っている。本講義では、具体的事例や現場の声を取り上げながら、企業における技術者の倫理について議論する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（579 掛谷英紀／7回）技術の社会的役割の変遷について講義を行う。併せて、「東日本大震災と今後の防災・エネルギー」、「企業不正のグレーゾーン（Facebook、NHK受信料等）」の2つのグループ・ディスカッションを行い、21世紀の「人に役立つ技術」を考える。</p> <p>（710 西澤真理子／3回）実際の企業現場の事例を取り上げながら、「企業のリスクコミュニケーション」について講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	事実やデータに基づいて行われる情報発信であるテクニカルコミュニケーションを円滑に行うための基本を、講義と演習で修得する。講義では、発信する内容を組み立てるための発想法の活用法、誰にでも一通りに伝えるための文法、レイアウトデザインの基礎理論、文字と絵の役割の違いなどをあつかう。さらに、語彙を豊富にするための演習、物事を数多くの視点から説明するための演習、専門用語に頼らずに内容の本質を伝える演習などを通して、テクニカルコミュニケーションを実践的に学ぶ。	集中 講義10時間 演習 5時間
	英語発表	This course provides an overview of basic techniques for public speaking and presentations in English. Students are then given ample opportunity to practice these techniques in front of the class.  本講義ではコミュニケーションの基礎理論、英語でのパブリック・スピーキング、プレゼンテーションの技術の修得を目標とする。また、学んだ理論・技術を応用活用する経験として、実際に聴衆を前にしたプレゼンテーションをおこなう。	集中 講義10時間 演習 5時間
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	プレゼンテーションの初歩から中級までを対象とし、異分野学生それぞれによるプレゼンテーションをベースに現代に必要なアカデミックスキルを磨くことを目的とする。参加者が異分野の学生との協働によってアイデアを出し合い、新しいコンテンツの作成に向かって協働することで、異なる領域の知識や技術を互いに理解しコミュニケーション能力を高める。演習トラック毎によって設定する目標を決め、それに従ってコンテンツを実際に作成する。時にドラマレッスンを盛り込む。	集中
	Global Communication Skills Training	Precise communication with people having diverse perspectives and personalities is the key to building relationships, and success. Through practices of communication, including effective listening, effective presentation, assertive communication, we help you learn and practice communication methods. You should be prepared to have open and active class participation and require a certain level of English skill.  対面でのコミュニケーションのスタイルには、人それぞれに個性があります。どのようなコミュニケーションスタイルを持つ相手とも正確に情報を伝達しあうことが、信頼を得て成功するための鍵になります。この授業では、情報を効率よく受け取ったり、正確に話すための練習を通して、コミュニケーション力を高めます。受講するためには、ある程度の英語力が必要です。また、受身ではなく発言や議論を通して積極的に授業に参加することが求められます。	集中 講義 7時間 演習 8時間
	サイエンスコミュニケーション概論	サイエンスコミュニケーション (SC) とは「難しく敬遠されがちなサイエンスをわかりやすく説明することである」という理解はきわめて一面的である。SCの対象は科学技術分野の専門家、非専門家を問わないため、「サイエンスの専門家と非専門家との対話促進」がSCであるとも言いきれない。広い意味でのSCとは、個人々ひいては社会全体が、サイエンスを活用することで豊かな生活を送るための知恵、関心、意欲、意見、理解、楽しみを身につけ、サイエンスリテラシーを高め合うことに寄与するコミュニケーションである。そのために必要なこと、理念、スキルなどについて概観する。	集中
	サイエンスコミュニケーション特論	現代社会は科学技術の恩恵なくして成り立たない。科学技術はわれわれの生活に深く根ざしており、よりよい社会を築いていくためには一人でも多くの人々が科学技術との付き合い方に関心を向けることで、社会全体として科学技術をうまく活用していく必要がある。そのためには様々な立場から科学技術についてのコミュニケーションをし合うことで科学技術を身近な文化として定着させ、社会全体の意識を高める必要がある。このような問題意識から登場したのがサイエンスコミュニケーションという理念である。この理念が登場した背景を知ると同時に、方法論としてはどのようなものがあるのかを議論しつつ、コミュニケーションスキルの向上も目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	サイエンスコミュニケーター養成実践講座	<p>主として、自分の専門の科学を一般の人々にわかりやすく伝えられるコミュニケーション能力の養成を中心に、国立科学博物館の資源や環境を活用した理論と実践を組み合わせ対話型学習を進める。</p> <p>理論面では、サイエンスコミュニケーションとは？サイエンスとは？といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・大学・博物館など、各機関・領域で活躍しているサイエンスコミュニケーターの実践を踏まえた理論を学習する。また、様々な人々に科学を伝える際に効果的なプレゼンテーションの方法について学修する。</p> <p>実践面では、ライティングに関する課題を通じた文章の書き方や表現方法の学習、国立科学博物館の展示室における来館者との双方向的な対話を目指し、自らの専門分野についてのトークを作成・改善・実施・考察する。</p>	集中
	人文知コミュニケーション：人文社会科学と自然科学の壁を超える	<p>哲学、歴史、文学、言語学、社会科学、地域研究などの人文社会分野における学術研究の成果をどのように社会に伝え、人々の知的好奇心を呼び起こし、当該学問分野の社会的認知度を如何に向上させるか、その考え方、方法、それらを担う人材に求められる必要なスキルなどについて学ぶ機会を提供する。人文社会分野における「学問と社会を結ぶ」ためのスキルを磨くための内容を含む。加えて、現在発展が著しい人文社会分野における最先端機器を駆使して行う研究は多くの学術的成果を生み出しており、その魅力は計り知れない。このような最先端研究に基づく解析法は自然科学分野の最先端技術を活用したものでもあり、ここに人文社会科学と自然科学の接点があり、分野融合の意義、有用性、重要性を含めた科学の現状を多くの大学院生に紹介するための科目とする意図も企画者側にある。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(538 池田潤／4回)「文芸・言語学、世界と地域の文化・歴史、世界と地域の社会科学に関する人文社会科学知見に関して、自然科学と最先端科学技術を駆使する成果がどのように活かされているかについて、その相関を俯瞰しつつ解説し、人文社会科学と自然科学・工学的技術の融合の重要性」について講義を行うことで人文社会科学における自然科学基礎的・応用的知的基盤の重要性について学習する。</p> <p>(545 大澤良／4回)「生物多様性、生物の地理的拡散、有用植物や作物の地理的分布などに関する自然科学的研究成果をベースに、それらが人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかなどの人文社会科学知見を加えて分析し、自然科学と人文社会科学的要素がどのように融合・連関をなしているか、その相関を俯瞰しつつ解説し、自然科学と人文社会科学の融合の重要性」について講義を行うことで自然科学の視点から自然科学の基礎的・応用的知的基盤がいかに関係するかに重要な役割を果たしているかについて学習する。</p> <p>(704 白岩善博／2回)「自然科学研究の成果を基盤に、最先端研究成果を如何に社会に広報、拡散、応用するかなどに関して、サイエンスコミュニケーションやトランスフェラブルスキルを駆使して、自然科学的研究成果が人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかを解説し、自然科学の科学的・技術的成果をどのように社会に導入するかの方法論」について講義を行い、さらにそのスキルアップをどう図るかを学ばせることで、大学院修了後のキャリアパスにそれをどう生かすかに関して学習する。</p>	集中 オムニバス方式
国際性養成科目群	21世紀的中国 ―現代中国的多相―	<p>巨大な隣国である中国は、1976年の文化大革命の終結以降、経済の改革開放政策の成果により、大きな変貌をとげた。21世紀初頭の今、ますます存在感を増した中華人民共和国の現在の諸相を、学生にとって身近な目線で講じる。中国と日本の関わりを実際の動きの中で捉えていくことを目論む。</p> <p>現在中国との関わりの深い筑波大学OBを講師とし、現代中国の文化、社会、経済、環境、日中翻訳など、様々な観点から、現場に立つ講師ならではの姿を描き出す。既成の学問の枠で説明されたものを理解して満足するのではなく、実社会の動きの中で課題を捉え、みずから解決していくために何が必要か、講義中から受講者自身で考えだすことを望みたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際研究プロジェクト	学生自らが海外の大学・研究機関における専門および関連分野の研究計画を企画し実現することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受け入れ先の開拓、海外渡航の手続き、海外での研究・実習、受入先でのコミュニケーション、海外での生活等を経験することで、英語によるコミュニケーション能力・国際性・研究マネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。	
	国際インターンシップ	学生自らが国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関で主催される各種トレーニングコースを開拓し参加することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受入先との調整、海外渡航の手続き、海外での職業体験、受入先でのコミュニケーション、海外生活経験を通して、コミュニケーション能力、国際性、キャリアマネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。	
	地球規模課題と国際社会:食料問題	国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。 当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中でGoal 2 & 12に関連した、国際社会が直面する「食料問題」について取り扱う。世界の人口動態と食料生産・消費動向、植物育種新技術、食料生産新技術、植物防除新技術などについての講義を通して国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。	集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。 当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 13 & 14に関連した、国際社会が直面する「海洋環境変動と生命」について取り扱う。CO2濃度上昇に関わる地球規模環境課題、海洋酸性化、地球温暖化による生物影響、北極・南極の海氷融解などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。  (オムニバス方式/全10回)  (541 稲葉一男/5回) 「海洋生物、特に海洋動物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。 (704 白岩善博/5回) 「海洋生物、特に海洋植物・藻類の光合成生物や光合成機能を有する微生物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会:社会脳	国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。 当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中で、主として、Goal 3 & 4に関連するが、社会性や共生という観点から現代に生きる人類に共通する課題とそれに対する取り組みの方向性を提起する先端的な講義を展開する。 国際社会が直面する「社会性の変容」に起因する様々な問題を「社会脳」として新たな分野を創成しそれを取り扱う。 個別課題として、社会性の発達と環境、社会認知の脳内基盤、高齢者の認知機能などについて講義する。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「感染症・保健医療問題」について取り扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(493 福重瑞徳/全5回) 「持続可能な開発目標（SDGs）」、「感染症」、「プロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）手法」をテーマに講義を行い、また、学生はPCMを用いた国際保健に関するプロジェクト形成・発表を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子/全3回) 「国際保健とその歴史」、「人口・リプロダクティブヘルス・栄養」、「慢性疾患とリスク」をテーマに講義を行う。</p> <p>(61 近藤正英/全2回) 「途上国における保健医療問題と優先付け」、「途上国における保健医療制度・医療経済」をテーマに講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会：社会問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」を地域自立と振興の観点から全て網羅する課題である「社会問題」について取り扱う。</p> <p>発展と持続性に関し、天然資源、環境保全、及び経済発展を軸として、国家としてのガバナンス、国家間の懸案事項、ボーダーレス社会での“歪み”、非政府組織や先住民族の存在によるグラスルートでの課題対応をグローバルに概論する。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「環境汚染と健康影響」について取り扱う。</p> <p>国際的汚染問題の概要、ナノ粒子、外因性内分泌攪乱化学物質、環境中親電子物質、エクスポソーム、カドミウム、ヒ素、有機ハロゲン化合物、メチル水銀、トリブチルスズなどの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 7, 9 &amp; 13に関連した、国際社会が直面する「環境・エネルギー」について取り扱う。</p> <p>太陽電池、燃料電池、人工光合成、ナノエレクトロニクスによる省エネルギー、パワーエレクトロニクスによる電力制御、核融合発電などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
キャリア ア マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	JAPICアドバンストディスカッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>世界が益々流動化する中で日本の現状と課題を再確認すると共に、今後の変化に対応する為になにが必要か検証・議論することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中
	JAPICアドバンストディスカッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>グローバルとテクノロジーについて、実ビジネスの観点から議論し学習することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	<p>産業化、技術革新、国際化による変化にともない、人々の生活や働き方、人間関係にもさまざまな変化が生まれています。本科目では、さまざまな属性や特徴を有する個人がどのように「仕事と生活の両立（ワークライフバランス）」を図りながら人生を生きるのか、なぜ男女共同参画やダイバーシティ（多様性）を推進する必要があるのか、その方法と意味を理解することを目指します。特に近年のダイバーシティ推進の重要なトピックである「SOGI」「LGBT+」に代表されるセクシュアル・マイノリティについて集中的に授業を行います。</p> <p>くわえて、授業ではダイバーシティ推進に欠かせない実践力（グループワークにより聴く力、伝える力、情報収集力、マネジメント力等）を身につけることも目標とします。</p>	集中 講義7.5時間 演習7.5時間
	ワークライフミックス – モーハウスに学ぶパラダイムシフト	<p>仕事と私生活を調和した新たなビジネススタイルである、「ワークライフミックス」を講義の基本テーマとして取り上げることで、新たな価値創造の基礎となるアントレプレナーシップや、多角的思考からワークライフを捉え、受講者のキャリアマネジメント能力の向上を図る。</p> <p>また、「ワークライフミックス」を実践している企業である「モーハウス」を事例として取り上げることで、ワークライフに関わる物の見方と考え方を習得し、受講生が自分の仕事や今後のライフプランについて、多様な角度から思考できるようにする。</p>	集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	<p>気象、地質、岩石、昆虫、植物、菌、微生物、内燃機関といった、「生物」と「地学」を合体した内容をフィールドワーク重視の実習形式で実施することにより、受講者が将来理科教員になった場合に役立つ実践的な実習・実験の高度専門知識を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(577 上松佐知子/1回) フィールドでの化石探索を通し、地球の歴史に関する実習を行う。  (556 田島淳史/1回) 「食べものを作る動物たち」をテーマに実習を行う。  (600 野口良造/1回) 「内燃機関の原理と組み立て」をテーマに実習を行う。  (546 戒能洋一・47 澤村京一・51 中山剛・71 八畑謙介/1回) (共同) 「生物に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。  (562 久田健一郎/1回) 「地質調査入門」をテーマに実習を行う。  (573 山岡裕一/1回) 「微生物（菌類）に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 共同（一部）
	アクセシビリティリーダー特論	<p>障害のある人々が包摂された社会を実現するために、身体障害や発達障害といった様々な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行う。また、障害のある人への災害時支援や、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較や展開といったマクロな視点や今日的な話題を通して、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて考える力を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(99 竹田一則/1回) 「障害児・者支援の理念と背景」について講義を行うことで、障害者支援の現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。  (636 野口代/2回) 「障害児・者の現状および支援の流れ、支援体制」について講義を行うことで、支援領域（就学、生活、就職ほか）ごとの支援方法や支援体制について学ぶ。  (253 小林秀之/3回) 「視覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、視覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (136 原島恒夫/4回) 「聴覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、聴覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (405 名川勝/5回) 「運動・内部障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、運動・内部障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (227 岡崎慎治/6回) 「発達障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、発達障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(636 野口代／7回) 「障害のある人への災害時支援」について講義を行うことで、障害種別に災害時に留意すべき事項について学習する。</p> <p>(586 佐々木銀河／8回) 「障害のある人に役立つ支援技術」について講義を行うことで、最新の支援機器や支援技術について学習する。</p> <p>(586 佐々木銀河／9回) 「諸外国と日本における支援の比較と展開」について講義を行うことで、国際的な動向を踏まえた障害者のある人へのアクセシビリティについて学習する。</p> <p>(99 竹田一則・28 野呂文行／10回) (共同) 講義のまとめと討論を行うことで、これまでに学んだ障害の特性や、障害のある人のアクセシビリティを支援するための知識を表現できるようにする。</p>	
知的基盤形成科目群	脳 <span>の</span> 多様性とセルフマネジメント	<p>本学大学院生が産業界や地域社会で自身の能力を十分に発揮できるよう、自己および他者における脳の多様性を適切に理解することを通して、自身の特性に合ったセルフマネジメントスキルを身に付けることを目標とする。</p> <p>講義としては、発達障害から定型発達<span>の</span>連続体として捉えられる「脳の多様性(ニューロダイバーシティ)」について概説する。加えて学業や日常生活において有効なセルフマネジメントテクニック・ツールを紹介する。</p> <p>演習としては、自身にはどのような特性があるかを客観視する個人ワークを行う。また自身の特性に合ったマネジメント方法を身に付ける。さらに社会で活躍する発達障害当事者をゲストスピーカーとして招き、自己および他者における脳の多様性を深く理解するための事例を提供する。</p>	集中 講義 9時間 演習 6時間
	生物多様性と地球環境	<p>本科目では、筑波大学と科学博物館筑波植物園のコラボレーションにより、生物多様性と地球環境についての理解を促進するための講義と展示・フィールドを利用した現場型の生物多様性・地球環境教育についてのフィールド実習を行う。</p> <p>有用植物の進化を実物で見ながら、植物の進化とは異なる人間の手が加わった栽培化シンドロームを実感してもらうことで、生物多様性の実体と生物遺伝資源について、自然科学的・社会科学的にとらえられるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全4回)</p> <p>(545 大澤良／1回) 「栽培植物の起源」についての講義と植物園見学を行うことで、多様性研究の意味について学習する。</p> <p>(695 海老原淳／1回) 「生物多様性ホットスポットとしての日本列島」をテーマとする講義と絶滅危惧であるシダ植物園見学・管理実習を行う。</p> <p>(701 國府方吾郎／1回) 「絶滅危惧植物と生物多様性」をテーマに植物園における社会発信と保全の見学、植物登録管理の実習を行う。</p> <p>(561 林久喜／1回) 「作物の多様性」をテーマに講義と実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 7.5時間 実習 15時間
	内部共生と生物進化	<p>非常に多くの生物が、恒常的もしくは半恒常的に他の生物(ほとんどの場合は微生物)を体内にすまわせている。</p> <p>このような「内部共生」という現象から、しばしば新しい生物機能が創出される。共生微生物と宿主生物がほとんど一体化して、あたかも一つの生物のような複合体を構築する場合も少なくない。</p> <p>共生関係からどのような新しい生物機能や現象があらわれるのか? 共生することにより、いかにして異なる生物のゲノムや機能が統合されて一つの生命システムを構築するまでに至るのか? 共に生きることの意義と代償はどのようなものなのか? 個と個、自己と非自己が融け合うときになにが起こるのか? 共生と生物進化の関わりについて、その多様性、相互作用の本質、生物学的意義、進化過程など、基本的な概念から最新の知見にいたるまでを概観することで、そのおもしろさと重要性についての認識を共有することをめざす。</p>	集中
	海洋生物の世界と海洋環境講座	<p>海は地球上の生命の源であり、生物の多様性を生みだしてきた。地球と我々人間を理解するためには、海洋生物に関する知識が不可欠である。</p> <p>本科目では魚類をはじめ、さまざまな海洋生物の体制、生殖、寄生種に関する観察や実験、講義を行うことにより、海洋生物の多様性および海洋環境についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>下田臨海実験センターにて実施することで、研究調査船による採集や磯採集など野外でのより実践的な実習も行う。</p>	集中 講義 4.5時間 実習 21時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	科学的発見と創造性	科学的発見がおこなわれる現場の歴史的状況を再現し、行為者の創造性がどのような形で発揮されたのか、「ハンソンの理論的負荷性」、「ニュートンの林檎と万有引力の理論」、「ゼメルヴェイスによる産褥熱の予防」、「ジョン・ドルトンと化学的原子論」等様々な事例研究を通じて解明する。 科学的発見が単なる偶然でも、幸運でもなく、周到に企図された創造性によるものであることを理解することを目的とする。	集中
	自然災害にどう向き合うか	国土交通省で活躍する有識者を講師として招聘し、災害列島とも言われる我が国の現状及び温暖化等により今後益々増加する災害リスクに対して、社会としてどのように対応するべきかを考える。 「総合的な津波対策」、「大規模土砂災害への対応」、「地震対策」等のテーマを通じて、防災施設の整備の状況、リスク等を踏まえた今後の社会資本整備のあり方について考え方が整理されること、個人や地域の核としての防災対応力を身につけることを目的とする。	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	「考える」のは人間の特性である。人間は言葉を使って知性によって「考える」。だが「考える」とはどのような営為なのか、東西の哲学がどのように「考え」てきたのかを参照しながら「考える」ことについて「考える」。  (オムニバス方式/全10回)  (575 吉水千鶴子/2回) 仏教の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (537 井川義次/2回) 中国の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (622 千葉建/2回) ドイツ哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (595 津崎良典/2回) フランス哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (588 志田泰盛/2回) インド思想を紹介しながら「考える」ことについて考える。	集中 オムニバス方式
	21世紀と宗教	21世紀の現代社会の情勢は宗教と深く関わっており、複雑な国際情勢、テロなどの暴力と対峙せねばならない現代社会において、それを解く鍵ともなる宗教について正しい知識と理解を得ることは重要である。 当科目では、21世紀の現代社会の情勢と宗教とのかかわりについて、いくつかの事例を取り上げながら考察する。 宗教による対立や政治への介入は紀元前の昔から続いてきた人類の課題とも言え、その歴史や背景を正しく知り、現在のグローバルな社会において正しく対応するための知識と理解を身につけることを目的とする。  (オムニバス方式/全10回)  (549 木村武史/5回) 「先住民族の宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における先住民族宗教の意義について学習する。 (575 吉水千鶴子/5回) 「アジアの民族と宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における伝統宗教の意義について学習する。	集中 オムニバス方式
身心基盤形成科目群	塑造実習	当科目は豊かな心、逞しい精神、豊かな人間力を涵養する大学院生のための塑造の実践講座である。作品鑑賞と、人物モデルを使用した粘土による頭像制作を行う。「デッサン」、「心棒組み」、「大掴みな土付け」、「量塊の構成」、「面と量塊」、「量感豊かな表現、比例・均衡・動勢について」といった制作に関する内容の学習を通して、立体的な形態把握と、これを表現する能力を養うことを目的とする。	隔年
	コミュニケーションアート&デザインA	授業の到達目標及びテーマ：現代アート全般、ビジュアルデザイン全般、陶磁、木工、構成学について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。  (オムニバス方式/全10回)  (445 上浦佑太/1回) (1) ガイダンス (50 國安孝昌/2回) (2) 総合造形の研究、(3) 総合造形の教育 (255 齋藤敏寿/1回) (4) 現代の実材主義的な造形	隔年 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(103 田中佐代子/1回) (5) ビジュアル・コミュニケーション・デザイン (314 原忠信/1回) (6) ブランディングデザイン (343 宮原克人/1回) (7) 木工・漆芸 (439 小野裕子/1回) (8) 特殊造形、環境とアート (503 Mcleod Gary/1回) (9) 写真 (445 上浦佑太/1回) (10) 構成学	
	コミュニケーションアート&デザインB	授業の到達目標及びテーマ：環境デザイン全般、ガラス工芸、メディアアート、絵本や漫画について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。  (オムニバス方式/全10回)  (527 山本美希/1回) (1) ガイダンス (127 野中勝利/1回) (2) 市民参加によるまちづくり (154 藤田直子/1回) (3) ランドスケープデザイン (373 渡和由/2回) (4) サイトプランニング、(5) 住環境の総合的デザイン (307 橋本剛/2回) (6) 快適な環境、(7) 伝統民家のデザイン (465 鄭然ギョン/1回) (8) ガラス (515 村上史明/1回) (9) メディアアート、テクノロジーと芸術 (527 山本美希/1回) (10) 絵本、マンガ、イラストレーション	隔年 オムニバス方式
	日本画実習	日本の芸術を理解し、生涯において楽しむことのできる豊かな人間性を涵養することを目的とする授業。日本画用の筆・和紙・絵具を用いた作品制作を通して、長い歴史に育まれた日本画への理解を深め、豊かなこころを養う。必要に応じて、日本画の鑑賞について、材料や技法についての講義も織り交ぜる。グローバルゼーションの中においては、世界を意識すると同時に日本の芸術文化に改めて注目し理解することが必要で、当科目はそのきっかけとなる。	隔年
	ヨーガコース	当科目は「ヨーガ行法の体系、歴史、思想（ヨーガの日本文化への貢献）」、「ヨーガの効果」、「社会的意義（環境思想への影響、自然科学思想への貢献）」といったヨーガ思想と技法の講義、「予備体操」、「アーサナ」、「呼吸法」、「冥想」の実習を行うことで、インドが生み出したヨーガを通じて、深く自己を掘り下げる東洋の実践的な身心思想を学び実践する。 健康でかつ不安や絶望に対処できる柔軟な身心と強い意志をもって、よりよい人生を築ける自己を養うことを目的とする。	集中 講義10時間 実習20時間
	絵画実習A	全人的な教養教育として、知識のみならず、自分自身の「手仕事」として「絵を描く」という体験は、作る楽しさや喜びを感じつつ、まさに芸術的感性を磨くことが可能である。 当科目は、芸術を楽しむ豊かな人間性を涵養するため、特に油絵具を使用し、制作・実習をおこなうものである。 様々なモチーフの写生などを通して、絵画表現に対する理解を深め、造形感覚を養うことも目的とする。	隔年
	現代アート入門	なぜこれが芸術なのか、現代アートは一見、普通の生活者に無縁のように感じられることが多い。しかし、難しい現代アートも勉強をすれば、誰にでもわかるものなのだ。そうした基礎的芸術教養を身に付ければ、「無用の用」である芸術は、一人ひとりの人生を豊かにしてくれるものになる。 この授業では、現代アートについて、作家としての体験的視点から、多くのヴィジュアル資料を見せながら、現代芸術の考え方（コンセプト）や大きな流れ（芸術運動史や主要な芸術家や作品）を知り芸術への理解を深めることを目的とする。対象は19世紀末から21世紀の現在までとする。	隔年
	大学院体育Ia	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育Ib	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Ic	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIa	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIb	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIc	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育IVa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Va	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学術院共通専門基盤科目	研究のビジュアルデザイン	<p>研究成果を効果的に発表するために必要なビジュアルデザインの基本的な知識や技術を、PowerPointやExcelによる演習課題の制作を通して学ぶ。人間の心身及び諸活動に関する研究成果を効果的に発表するために必要なビジュアルデザインの実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(103 田中佐代子/8回) ビジュアルデザイン全般について講義を行う。  (417 三輪佳宏/1回) プレゼンテーションの構成について講義を行う。  (390 小林麻己人/1回) 研究者による実践例について紹介し講義を行う。</p>	オムニバス方式
	スポーツ芸術表現学への招待	<p>スポーツを題材とした「スポーツ芸術」について、アートのみならずサブカルチャーや文芸など、多様な領域におけるスポーツ芸術の表現について学ぶ。 各回のテーマは以下のとおり。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(24 太田圭/3回) オリンピック芸術競技、スポーツ芸術、リボン・アートボールプロジェクト  (257 嵯峨寿/2回) スポーツと文化  (296 寺山由美/1回) ダンスにおける「表現」  (97 田島直樹/1回) 版画と現代美術における身体を使った芸術  (26 大原央聡/1回) 彫刻とムーブマン  (709 中谷日出/1回) 文化としてのスポーツ  (699 大野益弘/1回) オリンピックとアート</p>	オムニバス方式
	世界遺産を科学する	<p>世界遺産保護における課題と解決方法を自然科学、人文社会科学の視点から講述する。美術史、政策、観光、保存科学、景観保護、自然保護など世界遺産を対象に多様な切り口から知識と総合的な視座を獲得する。同時に国内外の世界遺産における国際協力の事例と手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(192 吉田正人/1回) 自然保護と自然遺産  (20 上北恭史/1回) 遺産整備計画  (55 黒田乃生/1回) 文化的景観  (165 松井敏也/1回) 保存科学  (179 八木春生/1回) 東洋美術史  (211 伊藤弘/1回) 開発観光計画  (426 池田真利子/1回) 国際遺産学  (286 武正憲/1回) エコツーリズムと自然保護  (464 下田一太/1回) 建築遺産  (698 稲葉信子/1回) 国際協力</p>	オムニバス方式
	研究者のための学術情報流通論	<p>自らの専門分野の学術情報流通と評価を見つめなおし、他分野の研究評価の在り方を知ることで、学術全般についての意識を高めるとともに、研究と学術情報流通のあり方についてマクロに考える。</p> <p>(オムニバス方式/全5回)</p> <p>(16 逸村裕/2回) (1)学術情報流通とは  (16 逸村裕/2回) (2)研究評価と学術情報  (16 逸村裕/2回) (3)学術情報の変遷  (714 宮入暢子・16 逸村裕/2回) (4)学術情報流通の現状と未来像1  (714 宮入暢子・16 逸村裕/2回) (5)学術情報流通の現状と未来像2</p>	オムニバス方式
	音響メディア情報	<p>社会における音の課題（音声コミュニケーション、音環境、聴取と認知など）について学び、音楽やメディアアートといった応用的な事例の検討を通じて、実社会におけるコミュニケーションのユニバーサルデザインを考える。</p> <p>(オムニバス方式/全5回)</p> <p>(477 寺澤洋子/1回) (1) 聴覚とデジタルメディア</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(477 寺澤洋子/1回) (2) 音声言語とコミュニケーション (145 平賀譲/1回) (3) 音のパターン認知と音楽 (214 内山俊朗/1回) (4) メディアアートにおける音とインタラク (630 善甫啓一/1回) (5) 空間音響と音環境	
	こころの神経科学	<p>「こころ」を理解するための神経科学的研究の手法と成果について学習し、社会への応用の可能性を考える。専門学問領域の修得を深めるために、分野横断的融合型研究の視点を活用する豊かな発想を養う。</p> <p>分子から精神までを網羅するニューロサイエンスの基礎を学ぶことにより、こころの理解に向けての分野横断的視点や考え方を学ぶことができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)  (96 武井陽介/1回) 神経科学の基礎について講義を行う。  (4 綾部早徳/1回) 感覚と知覚の神経科学について講義を行う。  (357 山田一夫/1回) 記憶と学習の神経科学について講義を行う。  (524 山田洋/1回) 意欲と情動の神経科学について講義を行う。  (169 松本正幸/1回) 意思決定の神経科学について講義を行う。  (509 水挽貴至/1回) 精神疾患の神経科学について講義を行う。  (227 岡崎慎治/1回) 認知機能障害の神経科学について講義を行  (279 高橋阿貴/1回) 攻撃性の神経科学について講義を行う。  (34 小川園子/1回) 社会性の神経科学について講義を行う。  (642 岩木直/1回) 人間工学と神経科学について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	人間総合科学基礎論	人間総合科学学術院の各学位プログラムの学生が、持ち回りで、各自の研究テーマや学位プログラムの学問領域の特徴をプレゼンし、履修者全員で議論することにより、自身の専門とは異なる分野の研究に関する基礎知識、研究手法、物の見方、考え方を学ぶ。この演習を通して、分野融合的視点を身につけることにより、人間に関する総合的理解を深め、探究心に磨きをかける。各学位Pの後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	
	武道学	<p>わが国の武道文化は、広く世界に広がり、異文化の中で興味関心を持って受け入れられている。本授業では、まずその現状についていくつかの事例を参照しつつ学ぶ。</p> <p>また、異文化の中で、わが国の武道が興味関心を持って受け入れられている背景には、身体運動文化としての、そして精神文化としての武道文化の特異性がある。本授業では、映像資料も援用しつつ身体運動文化としての概要を学ぶとともに、武道の精神性について古典文献の講読を通して考える。</p>	
	健康増進学特講	加齢に伴う生活機能の変化と健康との関連に基づき、健康増進(サクセスフルエイジング)に必要なトレーニング法、生活実践法などについて講義する。一般健常者、高齢者、有患者に対する運動処方についても講義する。学習目標は、中年期から高齢期までのヘルスプロモーションのあり方および加齢にともなう体力(生活機能)の低下と健康との関連について理解することである。特に、サクセスフルエイジング、元気長寿のための運動プログラム、中年期における体重管理の意義、健康におよぼす運動習慣化の効果、保健指導の問題点と健康支援の重要性、統計データから読み解く高齢者問題、生活機能、身体機能と介護予防の関係、認知機能と介護予防の関係、心理社会機能と介護予防の関係について学ぶ。	
	トレーニング学	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティーとその研究方法論について学んでいく。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Olympic and Paralympic History (オリンピック・パラリンピック史)	オリンピック競技会、パラリンピック競技会の歴史について、その始まりと発展過程について今日の課題とともに学ぶ。授業計画は次のとおり。(1)古代オリンピックの起源と展開について、(2)ネメア競技祭の復興と展開について、(3)イギリスと近代ギリシャにおける古代オリンピック復興、(4)近代オリンピックの展開、(5)日本におけるオリンピック競技会の歴史、(6)ストックマンデビル競技会の創設、(7)パラリンピック競技会の創設と発展、(8)日本におけるパラリンピック競技会の歴史、(9)筑波大学とオリンピックの歴史。	
	心理統計学特講	心理統計学をはじめ統計学や教育測定学に関する最近の文献を題材にして講義を行い、心理統計学、統計学、教育測定学に関する理解を深める。また、講義で学んだ分析手法等を実際にデータに対して適用してみることを通して、受講者が、自らの研究において、当該手法等を利用できるようにする。	
	社会医学概論	<p>人びとの健康に寄与する要因が多岐にわたること、人びとの健康を増進するには学際的な取り組みが欠かせないことを理解することを目標とする。社会医学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(15 市川政雄/3回) 社会と健康について概説する。  (425 伊藤智子/1回) 家族介護について概説する。  (G32 田宮菜奈子/1回) 地域ケアにおけるヘルスサービスリサーチについて概説する。  (351 森田展彰/1回) 精神保健の実際(家庭内暴力)について概説する。  (431 大谷保和/1回) 精神保健への心理学的アプローチについて概説する。  (63 斎藤環/1回) コミュニティケアとオープンダイアログについて概説する。  (185 山岸良匡/1回) 生活習慣病の疫学について概説する。  (354 柳久子/1回) 小児期からの生活習慣病予防について概説する。  (196 我妻ゆき子/1回) 国際保健学について概説する。  (58 五所正彦/1回) 医学研究のための生物統計学概論について概説する。  (482 Togoobaatar Ganchimeg/1回) 母子保健について概説する。  (493 福重瑞徳/1回) 国際感染症学について概説する。  (500 堀愛/1回) 産業保健について概説する。  (61 近藤正英/1回) 医療経済学について概説する。  (262 笹原信一郎/1回) 長寿医学について概説する。  (429 大井雄一/1回) 産業精神医学・宇宙医学について概説する。  (157 本田克也/1回) 法医学について概説する。  (467 菅野幸子/1回) 法医学について概説する。</p>	オムニバス方式
	医科学セミナーⅠ (ブレインサイエンス)	<p>分子神経生物学からシステム脳科学および臨床医学にわたる様々な神経科学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、神経科学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：脳、神経、病気、精神、パーキンソン病、自閉症、統合失調症、ロボットスーツHAL</p>	
	医科学セミナーⅡ (医科学, 生化学)	<p>生化学, 分子生物学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、生化学, 分子生物学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：代謝、DNA複製、転写、翻訳、遺伝子発現制御、細胞周期、アポトーシス、がん</p>	
	医科学セミナーⅢ (免疫学)	<p>免疫学の分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、研究の最前線を知るとともに、免疫学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。</p> <p>トピック：免疫系は生体を異物から防御するための必須の機構であるが、一方でアレルギーや自己免疫のように不都合な反応も起こしうる。学生を研究者の卵として位置づけ、学外の免疫学研究者の最先端の研究に触れることによって研究に対するモチベーションを高め、また今日の免疫学研究の現状と動向について考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医科学セミナーⅣ（プライマリ・ケア）	プライマ・ケアや保健医療福祉の現場で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、プライマ・ケアや保健医療福祉の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。 トピック：プライマ・ケア、保健医療福祉	
	医科学セミナーⅦ（臨床研究セミナー）	疫学や生物統計学に関する講義の補完として、疫学や生物統計学分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、疫学や生物統計学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。また、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。 トピック：疫学、生物統計学	
	医科学セミナー基礎	医科学研究全般（生化学分野・分子生物学分野・細胞生物学分野・脳神経科学分野・免疫学分野・人を対象とする医学系研究分野など）にわたる最新の話題を第一線で活躍する研究者が紹介する。当該研究者は、担当教員が毎回ゲストとして招く。医科学（生化学分野・分子生物学分野・細胞生物学分野・脳神経科学分野・免疫学分野・人を対象とする医学系研究分野など）に関する現状と課題について理解する能力と、さまざまな観点から論じる能力を身につけることが可能となる。	
	神経科学先端セミナー	遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、生命科学、行動科学、情報科学、社会科学を架橋するニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学び、ヒトのこころの理解を目指す人間科学の研究者としての視野を広げる。	
	教育学理論研究	教育学研究を展開する上で、関連する学問分野の理論的な基礎を学ぶ。「教育」に関わるテーマを研究するのは教育学だけでなく、関連領域として様々な学問分野においてもテーマとなりえる。そのため、様々な学問分野における基礎的な理論や方法について学ぶことで、教育学研究を進めるための視野を広げ、複眼的な視点から教育学を研究する素養を身に付ける。具体的には、教育をテーマにした以下の学問分野における研究から教育学への知見を導く。教育学と思想・哲学/歴史学/外国研究/地方行政学/政治学/社会学/経営学/法律学/文化人類学/福祉学の各学問分野が検討される。	
	次世代教育開発研究	次世代教育開発をテーマに、最新の教育時事の理論的検討やディスカッションを行う。本学が定める汎用コンピテンスである「知の活用力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「国際性」、及び、教育学（前期）学位プログラムの専門コンピテンスである「教育課題発見能力」「教育内容探究能力」「教育的分析能力」「教育課題解決能力」の基礎を培うことを目標とする。具体的には、『Society 5.0 に向けた人材育成』に関わる理論や国内外の実践事例等を中心に広範に調査し、学校教育、キャリア教育、教育工学など多様な視点から分析的・総合的な検討を受講者間の議論を通して行う。	
	Theory of International Education	国際教育に関する諸問題を多角的な視点から理解し、またその論点について十分な知識をもとに論じることができるようになることを目標とする。授業では、国際教育に関する諸問題について、国際教育開発及び国際教育協力、国際理解教育、グローバル化の中での高等教育の変容などを事例として考察し、国際教育及び教育の国際化をめぐる今日的な動向及びその論点について理解を深める。英語によって授業を行う。	
	Research Foundation	This course is the introduction to academic research and publishing. The goal is to acquire basic knowledge and skills required for researchers. It showcases some of the research projects in a variety of domains, and addresses some of the important topics in research activities, such as documentation, research ethics, brainstorming, collaboration, and presentation. We also show some of the useful tools for researchers.	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、ブレインストーミング、協調作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。（取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。）さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身に着ける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(177 森嶋厚行/2回) (3) 研究倫理1: 研究領域紹介(情報数理分野)、研究不正・研究倫理とは、INFOSS情報倫理、(4) 研究倫理2: APRIN e ラーニングプログラム、論文剽窃チェックツール、倫理申請書の作成 (206 李昇姫/2回) (5) ブレインストーミング1: 研究領域紹介(日本図書学)、ブレインストーミングの進め方、(6) ブレインストーミング2: ブレインストーミング後の情報整理、アイデアの整理と創出 (244 金尚泰/2回) (9) プレゼンテーション1: 研究領域紹介(HCI分野)、ポスター・スライド作成・口頭発表の技法、(10) プレゼンテーション2: 各種ツールの高度な利用法 (270 上保秀夫/2回) (1) 文書作成1: 研究領域紹介(メディア情報学)、学術論文とは何か、論文の構造、(2) 文書作成2: LaTeX、Mindmeister などの使い方、研究計画書の作成 (460 Sarcar Sayan/2回) (7) 協調作業1: 研究領域紹介(コンパイラ構成法)、データ共有、(8) 協調作業2: コミュニケーションツール</p>	
情報アクセス		<p>大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコレクティブインテリジェンスや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(71 佐藤哲司/4回) (1) 情報アクセス概説、(2) ソーシャルメディアの情報アクセス、(3) 情報アクセスとユーザプロファイル、(4) ウェブサイエンスの発展 (177 森嶋厚行/3回) (5) クラウドソーシングにおける情報管理と統合、(6) クラウドソーシング設計の構成要素、(7) クラウドソーシング設計の戦略 (276 関洋平/3回) (8) コレクティブインテリジェンスと共創知、(9) 自然言語処理技術を利用した情報アクセス、(10) 情報アクセスの評価</p>	オムニバス方式
カウンセリング方法論基礎 I		<p>広義のカウンセリング領域における基本概念整理を行い、文献検索による課題の絞りこみや様々な研究方法の概要について習得する。本科目においては広義のカウンセリング領域について基本概念や方法等を学ぶことにより、人間の心身及び諸活動に関する幅広い知識と総合的視座を身に付けることを目的とする。他領域の学生にとっても、知識の習得、文献検索、研究方法の修得などから専門知識及び専門技能に必要な倫理を学ぶことが可能となる。</p>	
リハビリテーション方法論基礎 I		<p>目的・ねらい：修士論文作成のために関連分野の基礎的な研究方法の概要を理解し、論文作成の基本について理解を深める。 授業概要：研究方法の基礎として、研究デザイン、学術論文の要件、臨床研究の倫理、実験計画法、調査法、観察法、面接法、質的研究法、事例研究法、文献研究法、検査法などについて概説する。 キーワード：生涯発達、生涯発達科学、研究デザイン</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(全教員/2回)：全体オリエンテーション(2回) (353 八重田淳/1回)：プログラム評価法 (263 佐島毅/1回)：調査的面接法 (44 川間健之介/1回)：尺度構成法 (188 山田実/1回)：医学リハ研究法</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(36 小澤温／1回)：社会福祉調査法 (448 河野禎之／1回)：心理研究法 (403 徳竹忠司／1回)：臨床研究法(1) (406 濱田淳／1回)：臨床研究法(2)	
	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解し、文献や資料のオンライン検索の方法を学ぶ。また、社会調査法の一般的な手順を概説する。さらに、調査や実験データの分析法・検定法などの統計手法について、分析や検定結果の解釈法について文献を用いて理解したり、実際に統計解析ソフトを用いながら理解を深める。  (オムニバス方式／全10回)  (170 水上勝義／2回) 修士論文や特定課題研究報告書における先行文献や資料の役割を学び、それらの収集方法、特にオンライン検索について講義する。 (32 尾縣貢／2回) 論文の書き方及び論文完成までのロードマップと論文の全体像について講義する。 (47 菊幸一／2回) 研究テーマの設定及び研究デザインの具体化について講義する。 (267 柴田愛／2回) 論文の文章表現の仕方、図表の作成の仕方、文献検索の方法、引用の仕方など、論文作成のルールについて講義する。 (372 渡部厚一／2回) 研究倫理の考え方と活用法について講義する。	オムニバス方式
	大学を開くデザインプロジェクト A	複数の教員がプロジェクトを立ち上げ、多様な学生でチームを組み、地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとにプロジェクト対象地域や施設の調査を通して課題を探り、提案のアイデア出しを行い協働者と共有する。その後、課題や提案をまとめ、全教員と全チームで合同発表会を行う。	共同
	大学を開くデザインプロジェクト B	複数の教員が立ち上げたプロジェクトについて、多様な学生のチームが地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとに協働者とプロジェクトの試行や実装実験とワークショップ等の実践を行う。その後、実践の結果と課題をまとめる。	共同
	大学を開くデザインプロジェクト C	複数の教員が立ち上げたプロジェクトについて、多様な学生のチームが地域や大学の協働者・依頼者とともに、アート・デザインの手法を使った地域貢献・大学貢献を実践的に行う。短期・長期留学生の参加を歓迎する。 本科目においては、チームごとに協働者とプロジェクトの実装および制作などの実践を行う。その後、提案と実践の課程および成果や課題をまとめ、全教員と全チームで合同発表会を行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育学 関連科目	専門基礎科目 日本教育史特講	日本教育史のベーシックな知見を習得しながら、歴史的視野から教育や学校の系譜について説明することができるようになるのが目標である。前近代および近代以降の日本の教育や学校について巨視的に概観し、ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの概念とその視点を獲得しながら整理する。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する基礎的な文献を講読し、受講者による発表と討議によって検討する。	
	日本教育史演習	日本教育史に関する論文・資料に習熟しながら、歴史的視野から教育や学校について思考し、展望することができるようになるのが目標である。ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの研究成果にも学びつつ、近現代日本の教育や学校について多角的に再検討を加え、専門的な知見を深めていく。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する専門的な文献を、受講者による発表と討議によって検討する。	
	教育哲学特講	個性の育成と社会性の育成をはじめとした、教育を取り巻く価値の二項対立に注目しながら、現代の教育に関わるさまざまな問題と、教育のあり方を検討していく。具体的には、多文化教育論、教育目的論、教育財の分配論、学校選択制を含む教育政策、ジョン・デューイの教育論、価値多元的社会的社会統合論等を検討対象とする。その際、近代教育理論・教育思想、特にリベラリズム思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。授業の到達目標は、①授業で取り上げる現代の教育課題について他者と討議することができる。②個性の伸張と社会性の育成の両立の課題について、近代教育理論・教育思想をふまえて考察し、自らの考えを論述できる。の2つとする。	
	教育哲学演習	個人の自由の拡大と社会の維持・発展を担う市民性の育成という、対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱える課題について、現代の教育に関わる多様な問題を取り上げながら、考察する。具体的には、学校教育における対話の位置、子どものための哲学実践、シティズンシップ教育思想、熟議民主主義的教育論、近代教育批判としてのフェミニズム思想、教育の国家関与と家庭の問題等を検討対象とする。その際、近代教育理論・教育思想、特にフェミニズム思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。授業の到達目標は、① 授業で取り上げる現代の教育課題について他者と討議し、自分の考えを整理してまとめることができる。② 教育における現代的課題を自ら発見し、その課題の解決法について自らの考えを論述し、わかりやすくプレゼンテーションできる。の2つを目標とする。	
	生涯学習・社会教育学特講	近年における社会教育・生涯学習をテーマとした最新の研究動向を理解し、基礎的な理論と方法を習得することを目的とする。具体的には、社会教育・生涯学習をめぐる学習理論研究、歴史研究、法制度の改正を踏まえた政策動向、地方自治体における生涯学習行政、住民自治や市民活動の展開、社会教育施設をめぐる実践動向など、受講者の関心に基づいた先行研究を取り上げ、討議によって検討を行う。このことを通じて社会教育・生涯学習の研究的視点を習得し、幅広い知識と方法論を身に付ける。	
	生涯学習・社会教育学演習	社会教育・生涯学習の公教育としての意味について検討することで、歴史的に構築されてきた「権利としての社会教育」の思想についての理解を深める。学校教育と並び社会教育が公教育として制度化された背景には、社会教育・生涯学習が「権利」として捉えられてきた背景がある。こうした理論的基盤を構築してきた基本文献を講読する。具体的には、乗杉嘉壽、吉田熊次、春山作樹、下村湖人、小尾範治、川本宇之介、宮原誠一、平沢薫、吉田昇、津高正文、小川利夫、藤岡貞彦、小林文人、島田修一ら戦前から戦後初期にかけて社会教育研究における理論構築を担った基本文献を検討する。検討を通じて、権利としての社会教育・生涯学習の今日的意味と公教育の役割について考察を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育制度学特講	学校間の移行と接続、教育制度論におけるアーティキュレーションの意義と課題について、学術的な研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、教育制度論におけるアーティキュレーションにかかる国内外の先行研究を取り上げ、学校間の移行と接続について、その意義（なぜ必要なのか）、内容（接続において何が問われるのか）、課題（克服すべき点）などに関する学術的成果を概説する。具体的な内容は、学校体系の基本理論、小1プロブレムにおける日本の問題状況、「接続期」の設定とその意義、義務教育学校、中等教育学校、諸外国の改革動向などである。	
	教育制度学演習	今日の我が国及び諸外国の教育改革における資質・能力論の現状とその理論的根拠について学術的研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、今日、我が国及び諸外国の教育政策において、資質・能力（コンピテンシー）論に基づく改革が主流となりつつある。そうした中で、現状の改革動向を踏まえたうえで、その理論的根拠がいかなるものかを、関係文献の読解を中心に検討する。具体的には、奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』、国立教育政策研究所『資質・能力[理論編]』、OECDのキー・コンピテンシー論、グリフィン他『21世紀型スキル』とファデル他『21世紀の学習者と教育の4つの次元』である。	
	学校経営学特講	学校経営に関する理論、現代的動向、及びこれからの研究課題について理解し考察することをテーマとする。学校経営の理論と現代の政策と実践の動向について理解を深めた上で、様々な視点や問題意識をふまえて、今後必要とされる学校経営研究の課題について考えることができるようになることを目標とする。具体的には、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学校経営に関する理論と現代的課題について学び、学校経営に関する研究の成果と課題について討議をおこなう。まず、学校経営に関する基礎理論およびその歴史的展開過程を、代表的な文献の講読を通じて理解する。次いで、小学校・中学校・高等学校の学校経営についての政策と実践に関する様々な文献や調査報告書等を参照しながら、現代的な課題について討議する。それらを踏まえて、これまでの学校経営研究の成果を確かめ、今後求められる研究課題について考える。	
	学校経営学演習	学校経営研究の展開、動向、実際について理解、考察することをテーマとし、学校経営研究の動向、実際、今後の課題について理解し、様々な視点や背景をふまえて、学校経営研究の今後の展望等について論じられるようになることを目標とする。具体的には、学校経営に関するこれまでの研究の展開、学校経営をめぐる最新の研究、諸外国で行われている研究の動向を検討する。小学校、中学校、高等学校を対象とした研究も検討する。研究者の背景や特徴も捉えつつ、文献等を分析し、学校経営研究をめぐる成果、課題、展望について議論、考察する。	
	比較・国際教育学特講	この授業では比較教育研究の理論と実践をテーマとし、比較教育研究の方法論を学び、多様な教育問題を多様なアプローチで研究できることを把握することを目標とする。具体的には、比較教育学研究は地域、国、言語圏、また研究の主体と対象によってアプローチが異なることの理由について検討する。欧米諸国、東洋諸国、旧ソ連諸国における研究方法の特徴を整理する。理論書を基に、比較教育研究の目的、意義、対象、方法について学び、具体的な実践例を分析し、検討する。授業形態は講義、学生の個別発表とグループディスカッションである。	
	比較・国際教育学演習	この授業では比較教育学研究における量的研究と質的研究の方法論を学び、比較教育学研究の国内外の動向を把握する。全体を通して、比較教育学研究における論文の書き方を学ぶことを目標とする。具体的には、『比較教育学研究』と“Comparative Education Review”に特集として編成されている研究論文の検討分析を行い、比較教育学研究の量的研究と質的研究の方法論を整理する。日本語と英語で書かれる論文の特徴を検討し、論文の書き方を学ぶ。	
	道徳教育学特講	道徳教育に関する基礎的知識を確認した上で、道徳教育学研究に資する論文や著書等の文献講読を行う。具体的には国内外の先行研究の動向を調べ、収集できる論文等の読解を通して、道徳教育学分野における先行研究の動向把握を行ったり、自己の問題関心の掘り起こしを試みたりする。あるいは、道徳教育学研究における本質的な問いや考え方などについて考えるために有益な著書を選択し、それを精読することで改めて道徳教育学に関する問題等について掘り下げて検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	道徳教育学演習	各自、道徳教育に関する基礎的知識を踏まえた上で、道徳教育学研究における先行研究群の中から、各自、もっとも関心をもった課題やテーマ等に焦点を当てて、読み込みや関連資料の収集等を行う。演習ではとくに、先行研究に対する批判的検討を心掛ける。受講者はこの課題に取り組むことを通して、各々の研究構想を立てていく。授業の後半では、各々が着想した課題やテーマ等について受講者同士で発表し合い、質疑応答を繰り返しながら構想を固めていけるようにする。なお、研究構想を立てる際は、国内の道徳教育学研究だけでなく、世界的な価値教育の動向や現代的諸課題等についても触れながら、できるだけ国際的な視野に立った道徳教育学研究を目指せるよう努める。	
	カリキュラム論特講	カリキュラムに関する研究動向と今後の課題の分析、検討を通して、この分野の基本的理解を深めることを目標とする。そのため、学段階の教職科目の内容など、教育課程や学習指導要領に関する基礎知識を確認しつつ、より広範なカリキュラム研究における今日の多様な動向を理解する。具体的には、教職科目の各種テキストや教育学関連事典類の比較検討、日本カリキュラム学会をはじめとする専門諸学会の機関誌掲載論文などの講読を行う予定である。	
	カリキュラム論演習	新しい教科の研究開発や教科再編を軸とした演習を通じ、カリキュラム開発に関する専門的理解を深めることを目標とする。いわゆるカリキュラムのユーザーからメーカー、ひいてはマネジャーへと、認識の移行や拡大を促し、この分野の知見を深めるねらいがある。具体的には、文部科学省の研究開発学校や教育課程特例校に代表される、各種研究開発の事例を検討し、その成果と課題にもとづいた新教科の研究開発を試みる。受講者による課題への取り組みと発表が中心となる予定である。	
	教育方法学特講	教育方法学に関する文献講読を通して、研究動向と課題について考察する。これらを通じて、学習指導や授業分析に関する基礎的な知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、学習指導スキルに関する諸理論について、文献を読み進めながら発表および討論を行う。また、学校現場における授業観察や学習補助にも携わることがのぞまれる。これらの取り組みを通じて、理論構築ならびに実践研究のデータ収集をあわせて行う。	
	教育方法学演習	受講者各自の発表と討論を通して、教育方法学に関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学分野で修士論文を執筆する際の応用的知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、授業分析および指導効果要因に関する理論等、受講者各自の関心のあるテーマについて、発表および討論を行う。また、学校現場やビデオにおける授業観察を取り入れ、授業分析の実際にも携わる。これらの取り組みを通じて、研究方法論の基礎についても習得できることを期待したい。	
	キャリア教育学特講	今日のキャリア教育推進施策の特質と課題を明らかにすることを通して、今日的な研究課題についての理解を深めることを目標とする。具体的には、キャリア教育に関する基礎的な理解を前提としつつ、今日のキャリア教育推進施策関連文書を読み解くことを通して、キャリア教育分野の研究課題を検討する。	
	キャリア教育学演習	「キャリア教育学特論Ⅰ」を通して培った今日的な研究課題に関する理解を前提として、学校におけるすべての教育活動を通じたキャリア教育の実践の在り方について理解することを目標とする。具体的には、2017（平成29）年版学習指導要領に基づきつつ、すべての教育活動を通じたキャリア教育の指導計画の策定及びその実践の在り方を検討する。	
	教育社会学特講	最新の教育社会学研究のリーディングスの講読を通じて、グローバルに展開される教育社会学研究の多様な視座を身に着けることを目的とし、国内外の教育社会学の多様化する研究領域・理論的視座・方法論を学ぶ。具体的には、主にJenny Ozga編著『Sociology of Education』（Sage）を使用し、いくつかの論文を選び講読し、討論する。適宜、関連する日本語文献も紹介しながら、1) 教育社会学の理論と方法、2) 教育政策、3) 教育・文化・アイデンティティ、4) 学校教育の4つのテーマを議論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育社会学演習	国内外の教育社会学や関連領域における理論・概念を学び、さまざまな教育現象を分析する視点や方法を身に付けることを目的とし、文献を読みながら、教育社会学研究の課題設定、問いの立て方、研究方法などについて学び、最終的には各受講者が学んだ視点や方法を取り入れた研究構想を発表する。具体的には、受講者の関心に合わせて、学校教育、教育問題、マイノリティと教育、グローバル化と教育、教育政策など多様な研究領域の文献を読み、教育社会学研究の成果や課題を議論する。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。	
	高等教育論特講	授業のテーマは、大学の歴史に関する代表的なテキスト講読を通して、大学の成り立ちを理解すること、そして、現在の課題（教育改革や質保証の在り方、進学機会の拡大など）の解決方法を多国間比較の観点から議論することである。授業の到達目標は次の3つである。 (1) 主要国の大学の歴史と現在の制度の特徴を説明できる。 (2) 現在の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3) 課題の解決方法を他国の制度をモデルに提示できる。 大学（主に日米独）の歴史に関する代表的なテキスト講読を通して、大学の成り立ちを理解し、そして、現在の課題（教育改革や質保証の在り方、進学機会の拡大など）の解決方法を多様な観点から議論する。	
	高等教育論演習	授業のテーマは、大学の国際化（特に学生の国際移動）に関する代表的なテキスト講読を通して、各国において、どのような取り組みが行われてきたかを理解する。そして、現在の課題（英語プログラムの導入や単位互換の促進、国際的な大学教員の養成のあり方など）の解決方法を多国間比較の観点から議論することである。授業の到達目標は次の3つである。 (1) 主要国における大学の国際化の特徴を説明できる。 (2) 現在の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3) 課題の解決方法を他国の制度をモデルに提示できる。 大学の国際化（主に日米英豪独仏中韓）に関する代表的なテキスト講読を通して、各国における国際化の取り組みの違いを理解し、そして、現在の課題（英語プログラムの導入や単位互換の促進、国際的な大学教員の養成のあり方など）の解決方法を多様な観点から議論する。	
	特別活動学特講	特別活動（学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）は、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」のための資質・能力の育成を目指す取組である。本授業では、市民社会・職業社会を生き抜くために必要なこれらの資質・能力を培うために、集団のダイナミクス（協働性）、子どもの自治（自律性）、話し合いによる合意形成（民主性）を、どのように学校制度（カリキュラム）に取り入れていくべきか、多角的に考察する。 春学期には、国内的視点から特別活動の現状・課題・可能性を検討する。第1回～第5回では歴史や理論に関する講義を行い、それをふまえて第6回～第10回では特別活動の各領域において各自テーマを設定し、その理論と実践について発表してもらう。 秋学期には、国際的視点から特別活動の制度やカリキュラムを分析する。第11回～14回では日本型教育モデルの輸出に関する動向や、国際比較の視点・方法について講義を行い、それをふまえて第15回～第19回では、外国の教科外活動の特徴および日本との相違点について発表してもらう。	
	特別活動学演習	会情動的スキルの発達に有効であるとして、世界的に注目を集めている。課外活動は大部分の先進国で導入されているが、日本のようにナショナル・カリキュラムを整備して体系的に実践している国は、ごくわずかである。2016年2月には、「エジプト・日本教育パートナーシップ」が発表され、日本式教育モデルとして“TOKKATSU PLUS”が導入されている。本授業では、特別活動の内容的・方法的な独自性について、国際的な視点から検討し、その教育的意義と課題について考察する。 授業の進め方としては、Lewis, C. (1995) Educating Hearts and Minds をテキストとして、毎回担当を決めて、翻訳・プレゼンテーションをしてもらう。同書の出版は今から20年以上前だが、日本の教育研究で顕著な業績を残しているアメリカ人の目からみた、日本の特別活動の特徴と意義がまとめられており、その多くは現在にも通じる。著者の鋭い切り口で捉えた分析を手がかりに日本の教育を再評価し、その海外発信の可能性について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校教育論	<p>本授業のテーマは「学校教育の制度論」である。到達目標は、学校教育制度に関する今日的な基本課題について学術的な根拠をもとに説明できること、及びその課題について受講生が自分なりの考えを深めることができることである。学校教育に対しては様々なアプローチが可能であるが、本授業は、学校教育を「枠づけているもの」（すなわち制度）という観点から、学校教育の基本課題を取り上げ、検討する。なお、本授業は2コマ続きであり、1コマ目は受講生による報告・協議を含む「協調学習」の方法をとる。</p>	
	学校心理学	<p>授業の目標は、次の4つである。</p> <p>①学校心理学の基礎概念について理解する。</p> <p>②学校心理学が扱う領域に含まれる様々なトピックについて理解を深める（不登校、発達障害など）。</p> <p>③学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。</p> <p>④心理教育的援助サービスの技法（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション）を学ぶ。</p> <p>子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である学校心理学について、その理論や心理教育的援助サービスの実際について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高める。</p>	
	スクールリーダーシップ論	<p>小・中・高等学校・特別支援学校等を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を獲得することを目標とする。具体的には、現代の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等における学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。学校を「組織」として捉える意義と、組織としての学校の特性・独自性を確かめ、実践事例を検討することを通じて、学校経営の改善を推進するために有効なリーダーシップの条件について考えたい。</p>	
	青年の発達	<p>授業の目標は、次の3つと発展的な目標の以下である。</p> <p>①青年、青年期、青年心理学についての理解を深めること</p> <p>②青年心理学の研究パラダイムについて理解すること</p> <p>③青年の発達を理解するための多様な観点を身につけること</p> <p>発展的には、青年の発達に関する学習を通して、自分の修士論文に直結する研究構想及び研究計画の水準を上昇させること。</p> <p>このために、青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年の発達に関する知見を深める。少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする。</p>	
	国際・多文化教育論	<p>学校で多文化状況（外国人、「障がい」を持った子どもなど）が進む中で、形式的平等・実質的平等／平等（equality）と「公正さ」（equity）をテーマにして、望ましい資源配分や対応の在り方を考えることができる資質・能力を身につけることを目標とする。</p> <p>国際・多文化教育は公正のための教育（Equity pedagogy）である。多様な文化的背景（障がいの有無、性別、民族、言語、宗教など）をもつ子どもが学校において直面する問題を事例として取り上げ、形式的平等・実質的平等／平等（equality）・「公正さ」（equity）、「合理的配慮」の観点から検討を加え、具体的な対応を考える。事例ごとに受講生をグループ分けし、順次発表及び討論をしていく形態をとる。</p>	
	生涯学習論	<p>社会教育・生涯学習に関する最新動向について学ぶことで、学齢期だけでなく人生を通じた教育や学習の意義と役割について理解を深める。具体的には、社会教育法の改正、地方自治体における社会教育・生涯学習行政の改編、学校と家庭・地域の連携をめぐる政策動向、ボランティアや市民活動などの市民セクターによる住民自治や地域づくり実践、社会教育施設や職員の現状などについて理解を深める。また、UNESCOをはじめとする諸外国の生涯学習や途上国におけるノンフォーマル教育の実践的展開を踏まえながら、SDGsをめぐる将来展望についても考察する。</p>	
	道徳と人権	<p>道徳教育と人権教育に関する基本的な知識理解を深めながら、国際社会における日本の価値教育の在り方について、新しい地平を拓いていこうとする態度と技能を獲得することを目標とする。具体的には、道徳教育の現代的諸課題について、とりわけ人権教育と関係するテーマに関して、講義、討議、アクティビティ、グループワークなど多様なアプローチ方法を使って学習しながら、今日、国際社会のなかで求められる日本の価値教育のあるべき姿について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理教育的アセスメント	<p>心理教育的援助におけるアセスメントでは、「理解する、対策を立てる、対処する」というプロセスをくりかえしながら、よりよい援助の方向性をたえず模索していく過程が重要な位置を占める。この授業では、面接、主だった心理テスト等を通して、対象者自身および対象者と面接者の関係、さらには対象者の関わる環境を視野に入れたアセスメントの方法について検討する。</p> <p>前半では、心理教育的アセスメントとは何かの概要を述べる。その後、主だった心理テスト(知能テスト、性格テストを中心に)を通してのアセスメントの方法、及び報告書作成とその際の注意事項を議論し学習する。その後、面接を通してのアセスメントの方法を学ぶ。実際に視聴覚教材を用いて、あるカウンセリング面接のクライエントを変化をアセスメントする。</p>	
	スクールカウンセリング実習I	<p>1) 本実習は、学校における「スクールカウンセリング」の実習のため、その理論と技術に関する知識を身につけ、事例検討を通して、これを学習、習得する。</p> <p>2) 「スクールカウンセリング」とは何か  「従来、学校教育において行われてきた教員による教育相談、平成7年度から導入された専門家が行うスクールカウンセリング、その他さまざまな問題や悩みを抱える児童生徒、教師、保護者などへの学校(教育)における援助、さらには心の教育の一環として行われる児童生徒のメンタルヘルスに関わるさまざまな支援と教育、予防のための教育を広く包括するもの」と考える。</p> <p>3) スクールカウンセリングに係る対象は  ・主な対象：①児童・生徒 ②教師 ③保護者(家庭・家族) ④仲間・友人  ・主な実践者：①教師(担任、教科担任、学年主任、部活顧問、生徒指導主任、教育相談担当教員等)、②養護教諭、③カウンセラー、④相談員、⑤その他学校に於いて児童生徒の援助を行うもの(医師、警察、福祉関係者などでカウンセリングに関わる援助を行う者)  ・教育環境：①家庭環境 ②地域社会 ③社会・文化 など</p> <p>4) 授業は、理論と技法の演習、学生によるレポート、教育現場での教員、臨床心理士、学校心理士、および学校ボランティア学生への参加による事例検討、集団討議を通じ、援助のための児童生徒理解と支援技術の習得を目的として進める。</p>	
	スクールカウンセリング実習II	<p>1) 本実習は、高度専門職としての専門的支援技術を身につけることを目的とし、学校における「スクールカウンセリング」の実習を行い、学校での支援の実際、事例検討(カンファレンス)、教職員との連携を通して生徒支援の技術を習得することが目的である。</p> <p>2) 実習校：小学校、中学校、高等学校、対象：小学生、中学生、高校生</p> <p>3) 連携協力者：①中学校・高等学校教員、②スクールカウンセラー、③学校心理士</p> <p>本授業は、学校での生徒支援の実習、学校、大学で行われる生徒支援のための事前打ち合わせ、支援実習中に月に一度、定期的に開催される大学教員、学校教員、専門家(スクールカウンセラー、学校心理士)、学生が一同に会し、事例検討会、支援の実際に関する話し合い等を通して、学生のスクールカウンセリングの専門的支援技術とその能力を向上させ、生徒への効果的支援が可能になることが目標である。</p>	
	学校の社会学	<p>社会的カテゴリーの視点(階層、エスニシティ、ジェンダーなど)から国内外の教育政策・実践の可能性と課題について考察し、公正でインクルーシブな学校教育のあり方について議論を深めることを目的とする。具体的には、社会的包摂・排除、マジョリティ・マイノリティ、インターセクショナルリティ、差別と共生、統合と包摂、居場所、特権、当事者主権、多文化教育などのキーワードを掘り下げながら、マイノリティの視点から学校教育を問い直す。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。</p>	
	学校安全と危機管理	<p>学校における安全・危機管理の基本的事項や原理・原則を理解するとともに、子どもを取り巻く今日的な状況を踏まえた学校安全と危機管理の実践の在り方について考察することができることを目標とする。具体的には、今日、学校や教師が多様に求められている学校安全と危機管理について、その背景やリスク・マネジメント、クライシス・マネジメントの基本的事項を理解する。その上で、事例検討を通して学校安全と危機管理の在り方を受講生とともに考察したい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校経営事例研究	この授業では、学校経営の事例を行う。具体的には、学校経営の事例、課題、展望について考えることができること、学校経営に関して、国際的視野を持って考察できること、教職の意義、役割、職務、進路選択と教育に関する知識を持つことを目指す。このために、日本と外国における教育の理論、教職の意義と教員の役割・職務内容、学校経営の理論と技法、学校経営の実践事例を検討し、学校改革の在り方を考察する。学校経営を中心としながら、教育政策、教育経営、授業実践、教師研究、国際比較研究も視野に入れて、現代の学校と教育をめぐる諸課題にアプローチする。事例研究の方法と国際比較研究の方法についても検討する。	
	学習指導と授業	授業中の教師や児童・生徒の行動や思考を観察、分析することによって、すぐれた授業および指導方法の特徴について考察することを目的とする。これらを通して、授業を科学的に把握するための基礎的能力を育成したい。 本科目では、授業を構成する諸要素について、先行研究を参考にしながらその概念を検討する。また、授業分析の歴史をはじめ、今日における授業分析法、刺激回想法、参与観察法等の諸方法を習得する。必要に応じて、小・中・高等学校等に赴いて観察や記録を行う機会を設けるとともに、これまでのVTRや授業記録も活用する。	
	学習と学級の心理	学習のプロセスを最新の学習科学に基づいて理解し、自らの授業実践にいかすことができるようにすることを目標とする。そのために、最新の学習科学の成果である状況的認知論から教室での学習について考える。単なる座学ではなく、様々な事例や課題を少人数で議論しながら、状況的認知の理解を進めて行く。	
	学校臨床心理	主に児童期後半から青年期にかけて好発する心理・社会的不適応の諸問題に関し、学校という場における臨床心理学的な対応の仕方を、内外の文献の精読を通じて、学習する。具体的には、不登校、いじめ、非行、学校ストレス、抑うつ、不安障害などの不適応と、それらに対する心理教育プログラム等について学ぶ。	
	教育臨床学特講	学校教育および家庭や社会が抱える教育にかかわる問題、児童生徒の問題について、問題の理解（データの見方）、分析の仕方（データ処理）、メカニズムの理解と解明、問題解決に向けた援助方法について学ぶ。具体的には、児童生徒理解、問題理解、そのための研究的アプローチ（関係資料の収集、論文・データの見方、データ処理の仕方、問題のメカニズムの解明と考察）で授業を構成する。教育臨床学的見地からどのように問題を解明・理解し、課題解決にむけた仮説をたてるのか、について学ぶ。	
	教育臨床学演習	学校教育および家庭や社会が抱える教育にかかわる問題、児童生徒の問題について、問題の理解、問題のメカニズムの理解、問題解決に向けた、援助の方法について学び、これを身につけることが主な目的である。具体的には問題解明と解決に向けたアプローチ（教育現場における問題の解決と援助に向けた実践）から授業を構成する。教育臨床の現場においてどのように問題を解明・理解し、問題解決にむけて仮説をたて、支援につなげいかに実践するかを学ぶ。	
	国語科教育学a	国語科の目標、内容、方法に関する研究水準に基づいて、今日的な課題について討議を行い、解決策を検討する。具体的には、国語学習指導の意義、国語科の目標と内容、学習者の把握と指導計画作成の観点、話すこと・聞くことに関する授業づくりの方法、書くことに関する授業づくりの方法、読むことに関する授業づくりの方法、伝統的な言語文化と国語に関する事項の内容、国語科における評価の方法、国語科をとりまく課題について討議する。	
	国語科教育学b	PISA、全国学力・学習状況調査などの評価方法、また、アクティブ・ラーニングなど、現在の国語教育を取り巻く問題を取り上げて関連資料に基づき討議を行い、対応策を検討する。具体的には、PISA2000のもたらした課題、全国学力・学習状況調査、高等学校・大学の入試問題、読解力向上プログラムの背景、「新しい学力観」の帰趨、学校教育における言語活動の位置づけをめぐる議論、アクティブ・ラーニングの諸問題、FD活動の課題などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国語科教育史研究 a	筑波大学附属中央図書館所蔵の学制期以降の教科書を用いつつ、国語科の成立過程における教材選択および構成の推移を初等教育と中等教育、国語関連教科と他教科、国語科成立前と後などの観点によって検討する。具体的には、国語科の教科内容を決定する要素と検討資料、学制期の教科書、教育令期の教科書における初等教育と中等教育の関連、第一次学校令時の教科書制度と初等教育と中等教育の関連、初等教育における国語科の成立と第二次学校令期との間の連続性の有無、第三次学校令期における初等教育と中等教育の関連、古典教育・文学教育の起源について、作文教育における課題の変化とその要因、教科書にみる国語科と他教科との関連について討議する。	
	国語科教育史研究 b	国語教育の実践理論史上には時を隔てた類同性を見出すことができる。それらに関して問題の構造を解明し、解決のための方途を討議する。具体的には、国語科の教育史における時を隔てた類同性に着目することの意味、他教科と国語科の異同を議論する観点、国語科成立時における「話し方」教授の位置づけからみる話すこと・聞くことの問題、明治末期における発表教授不振の要因と随意選題論の成立、学習法の提唱とアクティブ・ラーニング、調べる綴り方と教育課程の問題、調べる綴り方と国語単元学習、第一次・第二次学習指導要領と国語単元学習、第三次・第四次学習指導要領と第七次・第八次学習指導要領、第五次・第六次学習指導要領と第九次学習指導要領などについて討議する。	
	国語科教育実践論研究 a	国語科教育の代表的実践理論を概観した上で、それぞれの領域の授業分析事例について討議し、分析対象とする授業計画や調査計画を立案する。具体的には、国語科授業分析の概説、国語科教育実践理論の代表的研究（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、言語事項の教育、伝統的な言語文化の教育）を概観した上で、国語科授業分析研究の代表的研究（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、言語事項の教育、伝統的な言語文化の教育）を行う。その上で国語科授業分析の目標および指導内容に関する考察をする。	
	国語科教育実践論研究 b	研究授業を院生が自ら企画立案したものを実際の教室で実施する。実施後は、授業中の学習者のデータを記録・分析したものを報告書にまとめる。具体的には、国語科授業分析の調査法方法の考察、国語科授業分析における評価方法の考察をし、独自の授業案の作成や模擬授業の実施および分析をする。授業分析についての復習、ワークシートの作成、ワークシートの検討、アンケート用紙の作成、アンケート用紙の検討をしたうえで、研究授業の実施、研究授業の振り返り、調査データの分析と考察、授業研究調査報告書の作成をする。	
	表現教育論a	国語教科書における表現領域の教材を確認したうえで、表現トレーニングを受講することで各自の表現のスキルや能力を向上させる。具体的には、言語表現論の概説、国語教育における言語表現、教科書に見る言語表現（話すこと・聞くこと）、教科書に見る言語表現（書くこと）、言語表現トレーニング（話すことの基礎）、言語表現トレーニング（話すことへの応用）、言語表現トレーニング（書くことの基礎）、言語表現トレーニング（書くことへの応用）、言語表現の振り返りの方法などについて討議する。	
	表現教育論b	日本における表現教育の主要な事例を歴史的に振り返った上で、特に大村はま実践における事例を討議する。具体的には、言語表現に関する実践事例（戦前）、言語表現に関する実践事例（昭和）、言語表現に関する実践事例（平成）、大村はまにみる表現教育の方法（スピーチ）、大村はまにみる表現教育の方法（インタビュー）、大村はまにみる表現教育の方法（話し合い）、大村はまにみる表現教育の方法（説明的文章）、大村はまにみる表現教育の方法（文学的文章）、大村はまにみる表現教育の方法（総合的な単元）について討議する。	
	文学教育論a	国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか（総論）、文学とはなにか（問題点）、文学を教育することの意義（総論）、文学を教育することの意義（問題点）、中学校における文学教育（総論）、中学校における文学教育（問題点）、高等学校における文学教育（総論）、高等学校における文学教育（問題点）などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文学教育論b	国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての応用的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか（総論）、文学とはなにか（問題点）、文学を教育することの意義（総論）、文学を教育することの意義（問題点）、中学校における文学教育（総論）、中学校における文学教育（問題点）、高等学校における文学教育（総論）、高等学校における文学教育（問題点）などについて応用的な視点から討議する。	
	古典教育論 a	国語科教育、とくに中等教育における古典に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には古典とはなにか（概説）、古典とはなにか（問題点）、古典を教育することの意義（古文）、古典を教育することの意義（漢文）、中学校における古典教育（古文）、中学校における古典教育（漢文）、高等学校における古典教育（古文）、高等学校における古典教育（漢文）などについて討議する。	
	古典教育論 b	国語教育における古典分野について教員としてふさわしい指導方法・指導内容を身につける。具体的には、古典とはなにか（概説）、古典とはなにか（問題点）、古典を教育することの意義（古文）、古典を教育することの意義（漢文）、中学校における古典教育（古文）、中学校における古典教育（漢文）、高等学校における古典教育（漢文）などについて討議する。それらをもとに古典分野についてふさわしい教員像について考察する。	
	国語科リテラシー教育論 a	国語教科書の教材を対象として、リテラシー教育の考え方について実践的に学ぶ。具体的には国語教育におけるリテラシーの考え方、学習指導要領にみるリテラシー教育の思想、国語教科書にみるリテラシー教育の可能性、「話すこと・聞くこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「話すこと・聞くこと」の教材研究（2）高校教科書から、「書くこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「書くこと」の教材研究（2）高校教科書から、「読むこと」の教材研究（1）中学校教科書から、「読むこと」の教材研究（2）高校教科書から、リテラシー教育の考え方に立つ国語教育の在り方などについて概観する。	
	国語科リテラシー教育論 b	教材開発の視点と方法を学び、国語科各領域のリテラシー教材開発を実践的に学ぶ。具体的には、リテラシー教育における教材の機能と役割、教材開発の観点と方法、「話すこと・聞くこと」の教材開発（1）プレゼンテーション、「話すこと・聞くこと」の教材開発（2）メディアの活用、「書くこと」の教材開発（1）説明と描写における修辞、「書くこと」の教材開発（2）論じるということ、「読むこと」の教材開発（1）近現代の文学的文章、「読むこと」の教材開発（2）古文・漢文、「読むこと」の教材開発（3）「実用的な文章」、総括ーリテラシー教育の考え方に立つ教材開発のこれからについて討議する。	
	国語教育特講	各国の教育課程、PISAの結果、教科書の分析に基づき、他国・地域と日本の母語教育における共通点と相違点について討議する。具体的には、研究方法としての他国・地域との比較についての概説、PISAの学習環境に関する結果について、PISAの読解リテラシーに関する結果について、各国・地域における母語教育の位置づけ、中国における語文の教育内容、台湾における国語の教育内容、韓国における国語の教育内容、東アジアにおける共通教材としての漢文、他言語文化圏における古典学習の意義について討議する。	
	国語科研究法	国語科の各領域に関する実践研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。また筑波大学所蔵の現職派遣生の実践レポートを分析対象として、討議をとおしてそれらを分析し評価するとともに自ら提案するための方法を獲得する。その上で実際に実践レポートを作成する。具体的には、国語科の実践研究の水準を把握する意義とその方法、実践研究のレビューの収集、レビュー記述の観点、話すこと・聞くことの実践に関するレビューの分析、などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国語科研究法演習	国語科における各領域（読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、日本語の特質、伝統的な言語文化（古文、漢文）でなされてきた代表的な研究を概観した上で、各自でそれぞれの領域の研究を調査し、討論する。また国語科教育における代表的研究方法を理解した上で、各自でそれぞれの手法から一つを選び調査し演習発表を行う。その際、研究方法だけでなく、各領域の指導内容にも十分に注意を払い検討を進める。これらをとおして国語科教育の研究法を向上させる。	
	社会日本語論Ⅰ a	多言語多文化社会、情報化社会に対応した言語能力や情報処理能力を身につけるために母語教育で習得すべき事項について検討する。具体的には、グローバル時代における母語教育について（ガイダンス）、母語教育における言語基盤教育について、論理展開を支える言語能力について、論理展開に必要な抽象的な概念と児童・生徒の語彙・表現の拡張、小学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、中学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、高等学校における論理展開表現と文型、およびその指導について（分担報告を含む）、国語教育と日本語教育の連携について討議する。	
	社会日本語論Ⅰ b	日本語を主な材料として、社会言語学の主要概念について論じる。一部受講者による議論を含む。具体的には、「母語」教育と「国語」教育について、言語事項から見た国語科と英語科の連携について、言語事項から見た国語教育と日本語教育の連携について、多言語多文化社会における言語情報の提供サービスについて、中学校レベルで求められる言語情報と現在の中学生向け国語辞典（分担報告を含む）、高等学校レベルで求められる言語情報と現在の国語辞典（分担報告を含む）、国語教育で求められる言語情報と日本語教育で求められる言語情報について討議する。	
	社会日本語論Ⅱ a	国語教育と英語教育、国語教育と日本語教育など、関連分野との連携を踏まえた母語教育のあり方について検討する。あわせて、それぞれの学習者が能力や用途に応じて求める言語情報について分析し、それを提供する言語情報サービスとしての国語辞典について考察する。具体的には、「母語」教育と「国語」教育について、言語事項から見た国語科と英語科の連携について、言語事項から見た国語教育と日本語教育の連携について、多言語多文化社会における言語情報の提供サービスについてなどについて討議する。	
	古典日本語論Ⅱ b	文法に重点をおいた、日本語史の基本的概念、基本的知識の習得、定着を行ったのち、応用的な議論を行う。具体的には、国語教育と情報教育（ガイダンス）、規範的な日本語と実際の日本語、コーパスと日本語の分析、各種日本語コーパスとその利用法について、国語科教科書に記載された文法事項の記述の検証（分担報告を含む）、国語科教科書に記載された表記事項の記述の検証（分担報告を含む）、教科書の使用語彙に関する分析（分担報告を含む）、日本語教科書の記述の検証（分担報告を含む）、国語辞書の記述内容の検証（分担報告を含む）について討議する。	
	古典日本語論Ⅰ a	高校で学んだ古典文法を、実例を確認し再検討することで、暗記ではない過去の日本語の実態に迫る。具体的には下一段活用動詞の活用の変遷の再検討、時や推量の助動詞の語誌を、受講生の調査報告をまとめるかたちで進める。具体的には、古典文法の目的と、古語辞典の役割、古文作文と日本語動詞活用の変遷のとらえ方、下一段活用の「蹴る」の実態。再検討の必要性、文献の用例調査報告、文法は変化するのか、などについて討議する。	
	古典日本語論Ⅰ b	原本コピーを講読しながら、文献資料の扱い方、語学的な問題のとらえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究の基本的な事項にふれてゆく。具体的には、日本語史研究と文献資料、能と狂言 狂言の歴史1前史、狂言の歴史2 日本語史上の中世・近世、『狂言記』という資料について、「末広がり」を読む、「釣り女」を読む、「柿山伏」を読む、「武悪」を読むなどについて討議する。そのうえで実際の狂言を鑑賞する。	
	古典日本語論Ⅱ a	狂言諸台本の日本語史料としての位置づけを本質的に考える。その手がかりとして江戸期の版本狂言記を他台本と比較して読む。具体的には、狂言について 能との共通点・相違点、狂言の歴史、狂言台本について、版本狂言記について、版本の講読と他台本との比較1、版本の講読と他台本との比較2、版本の講読と他台本との比較3、版本の講読と他台本との比較4、台本間の位置付けの検討、中世・近世の資料と狂言台本などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会日本語論Ⅱb	基本的な言語処理の知識と方法を身につけ、実際に、国語教科書に記載された「国語の特質」に関わる記述を大規模コーパスから検証する。この過程の中で、言語教育において求められる科学的な思考のあり方について検討する。具体的には、国語教育と情報教育（ガイダンス）、規範的な日本語と実際の日本語、コーパスと日本語の分析、各種日本語コーパスとその利用法について、国語教科書に記載された文法事項の記述の検証（分担報告を含む）、日本語教科書の記述の検証（分担報告を含む）、国語辞書の記述内容などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅰa	日本語研究における活用および関連諸現象の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理することによって主要な論点と立場を洗い出す。また、自ら形態現象を分析する際のデータの収集・分析方法についても、実際の作業を通して検討する。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語の活用研究史、活用(1): 活用と述部複合体、活用(2): 語の範囲と形態論的カテゴリー、活用(3): 付加と対立、活用(4): 連用形の分布、活用(5): 未然形の位置づけ、同形性と補充、日本語の諸方言の活用などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅰb	現代日本語の音声・音韻のしくみについて、自立拍の特性ならびに各行の音声・音韻の特徴を中心に学ぶ。音韻史に関する知識についても扱う。具体的には、現代日本語の拍体系、カ行・ガ行の音声・音韻、サ行・ザ行の音声・音韻、タ行・ダ行の音声・音韻、ハ行・バ行・パ行の音声・音韻、マ行・ナ行の音声・音韻、ヤ行・ワ行の音声・音韻、ラ行の音声・音韻、ア行（母音）の音声・音韻、などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅱa	日本語研究における語構成の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理する。また、自ら形態現象・語彙を分析する際のデータの収集・分析方法についても、コーパス等を用いた実際の作業を通して学ぶ。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語に特徴的な語構成、語構成(1): 複合動詞、語構成(2): 動詞由来複合語、語構成(3): 複合形容詞、語構成(4): 接辞と品詞、語構成(5): 語種と外来語研究、語構成(6): 外来語動名詞の分布と分類、コーパスを用いた形態論・語彙研究、などについて討議する。	
	現代日本語論Ⅱb	現代日本語の韻律のしくみや特徴について理解を深め、音韻ならびに表記にかかわる国語教育上の諸課題について考察する力をつける。また国語教育の問題についても応用的に考える。具体的には、日本語の拍と音節、撥音の音声と音韻、促音の音声と音韻、長音の音声と音韻、特殊拍と表記、共通語アクセント、名詞アクセントの特徴、活用語アクセントの特徴、複合語アクセントの特徴、付属語アクセントの特徴、清濁の対立と音韻現象などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅰa	『源氏物語』注釈史が、諸本の問題に不可分にかかわることを具体的に見、異文発生がケアレシにではなく、必然として生じた問題についてあきらかにすることをこころみる。異文が思想的な問題を考察する糸口にもなり得ることについて解説する。具体的には『源氏物語』注釈史概説（古注）、『河海抄』、『源氏物語』注釈史概説（旧注）、『花鳥余情』、『源氏物語』注釈史概説（旧注）、連歌師、中世における『源氏物語』享受、能、『源氏物語』の諸本などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅰb	『源氏物語』注釈史のなかでも、近代以降、その意味、『源氏物語』理解のための必要性、が見えにくくなっている注釈書を中心にとりあげて、それらがどのような時空のなかで生きていたのかを考え、わたしたしがうしなってしまったものの所在をあきらかにすることをこころみる。具体的には中世の『源氏物語』注釈、『河海抄』、中世の『源氏物語』注釈、『仙源抄』、『源氏物語』注釈史と字書、『節用集』、近世の『源氏物語』、契沖、賀茂真淵、注釈書の諸本などについて討議する。	
	日本文学研究Ⅱa	虚構の物語作品である『源氏物語』が、注釈史のある時期に歴史記述によって注されてきた状況を見つめる。あわせて、『源氏物語』注釈書にのみ伝承される歴史記述のゆくえを見、官撰国史断絶後、歴史はどのように記されたかという問題についても考える。具体的には年代記類概説、官撰国史、類書と歴史記述、『二中歴』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『帝王編年記』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『神皇正統記』、などについて討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本文学研究Ⅱ b	主として近代以降の『源氏物語』研究において、ジャンルが異なることから殆ど注目されることのなかった『三教指帰』注釈書類が『源氏物語』注釈史の伝承と深くかかわることについて具体的に考察する。『源氏物語』が歴史記述によって注された問題を解きあかすことをこころみる。具体的には『源氏物語』注釈史概説、古注、旧注、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』と『大日本史』、『源氏物語』注釈と『帝王編年記』、などについて討議する。	
	日本文学演習Ⅰ a	日本近代文学のうち主に明治期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には明治初期の文学について詳説、明治10年代の文学について一語釈・注釈、明治10年代の文学について一、明治20年代の文学について一語釈・注釈、明治20年代の文学について、明治30年代の文学について一語釈・注釈、明治30年代の文学について、明治40年代の文学について一語釈・注釈、明治40年代の文学についてなどについて討議する。	
	日本文学演習Ⅰ b	日本近代文学のうち主に大正期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には大正前期の文学について一語釈・注釈、大正前期の文学について一討論、大正中期の文学について一語釈・注釈、大正中期の文学について一討論、大正後期の文学について一語釈・注釈、大正後期の文学について一討論、大正期の韻文について一語釈・注釈、大正期の韻文についてなどについて討議する。	
	日本文学演習Ⅱ a	日本現代文学のうち主に昭和期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には日本近現代文学概説一昭和編、昭和文学詳説、昭和戦前期の文学について一語釈・注釈、昭和戦前期の文学について一討論、昭和戦中期の文学について一語釈・注釈、昭和戦中期の文学について一討論、昭和戦後前期の文学について一語釈・注釈、昭和戦後前期の文学について一討論、昭和戦後後期の文学について一語釈・注釈などについて討議する。	
	日本文学演習Ⅱ b	日本現代文学のうち主に平成期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。具体的には日本現代文学概説一平成編、平成文学詳説、平成前期の文学について一語釈・注釈、平成前期の文学について一討論、平成中期の文学について一語釈・注釈、平成中期の文学について一討論、平成後期の文学について一語釈・注釈、平成後期の文学についてなどについて討議する。	
	日本文学表現論a	日本文学の表現が中国文学との交渉を経て形成される過程について考える。具体的には日本文学特性、『風土記』地名起原説明、『古事記』の表記と表現、『万葉集』の表記、『万葉集』の漢文表現、『万葉集』伝承歌の表現、嵯峨朝文学の表現空間、漢詩と和歌との交渉、「古今集」表現の形成などについて討議する。これらを通して文学表現の独自性と中国文学との接触による形成過程を理解し、日本文学の表現が中国文学との交渉を経て形成される過程について考える。	
	日本文学表現論b	日本文学の表現規範を形成した平安時代の文学表現について考える。具体的には菅原道真の漢詩における比喻表現、『古今集』における漢と和、『伊勢物語』におけるかな文形成、『竹取物語』の試行錯誤、『土左日記』の冒険、『和漢朗詠集』の季節感、王朝漢詩の成熟と日本化、『源氏物語』と漢文表現、『源氏物語』の文脈などについて討議する。これらの古典的表現の形成過程を観察することで、文学表現の本質について理解し、日本文学の表現規範を形成した平安時代の文学表現について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国文学研究a	『芸文類聚』所収の詩文を読む。具体的には四部分類について確認したり、経部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、経部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、史部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、史部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、子部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、子部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、集部の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、集部の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定などを行う。	
	中国文学研究b	『芸文類聚』所収の南北朝の作品を読む。具体的には魏晉の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したり、魏晉の詩を取り上げ、出典を確認し、訓みを修正したり、魏晉の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定したり、南朝の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したり、南朝の詩を取り上げ、出典を確認し、訓みを修正したり、南朝の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定したり、北朝の詩を取り上げ、工具書で確認し、試訳し、問題点を指摘したりするなどを行う。	
	中国文学演習 a	『芸文類聚』所収の作品を読む。具体的には漢までの詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、漢までの詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、魏晉の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、魏晉の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、南朝の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、南朝の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定したり、北朝の詩文を取り上げ、試訳し、問題点を指摘したり、北朝の詩文を取り上げ、問題解決を試み、補足し、訳を確定するなどを行う。	
	中国文学演習 b	『芸文類聚』所収の詩を読む。具体的には魏晉の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、魏晉の詩を取り上げ、出典を確認し、試訳を修正し、魏晉の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定し、南朝の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、南朝の詩を取り上げ、出典を確認し、試訳を修正し、南朝の詩を取り上げ、補足し、訓みを確定し、北朝の詩を取り上げ、語義・押韻を確認し、試訳し、問題点を指摘し、北朝の詩を取り上げ、出典を確認するなどを行う。	
	社会科教育学特講	社会科の基本的な概念を学ぶとともに、社会科のあるべき姿を理論的に、また各地の教育現場の実地調査を踏まえて探究する。春学期は、社会科の概念を、学校と地域とのかかわりから、地域に関わる論文を通して探究していく。これにより、文献を通じて、社会科の視点より地域を考察する研究方法を習得する。秋学期は、春学期で得た知見を活かし、調査地域を選定して地域調査を行う。地域とかがわって社会科の学習がいかに行われているかを調査し、その調査結果を報告書もしくは論文としてまとめるまでを授業として行う。	講義 15h 実習 15h
	社会科教育学内容論（地理歴史）	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりにあたっては、現代の諸課題の教材化と、社会的な見方・考え方の育成に焦点を絞って、授業づくりを実施する。さらに、授業評価では、授業を通して身に付けられる履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	
	社会科教育学内容論（公民）	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりでは、現代の諸課題の教材化、社会的な見方・考え方の育成に焦点を当てる。また、授業評価では、ルーブリック評価やパフォーマンス評価といった近年注目される評価論を念頭に置く。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科教育学実践論（地理歴史）	中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。地理では、特に地域調査に重点をおき、地域でのフィールドワークを通じた授業づくりを心掛ける。歴史では、史料批判に重点をおき、多面的・多角的に考えられる資料を考察し、解釈学習を行うことができるような授業づくりを行う。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	
	社会科教育学実践論（公民）	中学校社会科及び高等学校公民科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。「社会科教育学内容論（公民）」で習得した授業づくりに関する理論を基に、作成された学習指導案を活用して実際に授業を実施することになる。なお、単に授業を実施するだけでなく、授業後の評価活動にも積極的に関与して、総合的に授業力を高めることに留意する。履修者を2～4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	
	地理教育特講Ⅰ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。Ⅰでは特に地理教育の本質を理解することに重点をおく。具体的には、地理教育課題を文献などから見だし、その課題についての理論的背景を考察していく。そのために、地理教育の論文および著書を検討し、批判することはむろんのこと、関連する教育学分野は専門分野の論文や著書についても必要に応じて検討を加える。	隔年
	地理教育特講Ⅱ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。ⅡではⅠでの成果を踏まえて、教育実践論文や実践を検討することにより、理論がどのように実践化されるのか、あるいはできるのかを考察する。これにより、地理教育の本質が、授業でどのように実証化できるのかを検証することができ、目標論と内容論、方法論それぞれの理論を統合した授業の構築が可能となる。	隔年
	地理教育特講Ⅲ	これまで教育現場で地理として実践してきたことを学問的に位置付け、論文とすることを学ぶ。自分の実践と関連する地理教育の論文を分析することを通して、社会科教育学ないしは地理教育における、自分の実践を位置付けていく。それにより、自分が今までやっていた実践が、社会科教育学および地理教育の中でどのような意味をもつのかを客観的に評価することができる。こうしたことを通して、地理教育論文の意味や地理教育論文の意義を考え、実践研究の必要性についての自覚を促していく。	
	地理教育演習Ⅰ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。Ⅰでは特に地理授業の構想を立てることに重点をおく。具体的には、地理授業の本質、先行研究から見る地理授業の特性、地理授業の基になる理論の概要、地理授業の理論の構築、地理授業の構成といった、地理授業を構想する際に必要となる基礎的・基本的な内容及び方法論について演習を実施する。本講義で習得した内容及び方法論に基づき、地理教育演習Ⅱでは、より具体的に授業実施を目標に置く。	隔年
	地理教育演習Ⅱ	中等学校での地理教育に関しての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。Ⅱでは特に地理授業を実践することに重点をおく。講義ではまず、中学校地理的分野の授業づくり班と、高等学校地理歴史科地理の授業づくり班の二つにグループ分けする。その上で、それぞれのグループで教材研究を行い、学習指導案を作成する。さらに、それに基づいて模擬授業を実施して、学習指導案の再検討を行う。最終的に、学校教育現場で実験授業を行う。	隔年
	地理教育演習Ⅲ	地理教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。本講義で大切にしたいことは、授業評価である。学習成果をより厳密に評価していくことが、実践報告と実践研究との分かれ目だと考えているため、「地理教育演習Ⅱ」と比して、本講義では授業評価に力点を置く。実践終了後に、履修者は授業の様子を録画したテープから、発話を文字起こしして、授業中に提出された振り返りシート等とともに、評価の材料とする。パフォーマンス評価やルーブリック評価といった最新の評価技術もここで学ぶことになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史教育特講Ⅰ	中等学校での歴史教育に関する基礎を学ぶ。歴史的には、明治時代から現在までの歴史教育史について学ぶ。その上で、1947年からの社会科歴史教育や歴史教育論についての考察を加えていく。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する目標や内容、方法について、理論的および実践的に講義や演習などを通じて学んでいく。加えて、歴史を学ぶ意味やその必要性についても、世界の歴史学者や歴史教育者の考えを知りながら、自分なりの考えが持てるようにする。	隔年
	歴史教育特講Ⅱ	歴史教育について、多方面より発展的に一層学んでいくものである。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する資料や論文を比較しながら読み、それに関する資料も含めて、総合的に考察していく。学生による報告と討論を通じて、歴史教育に関するより深い内容や方法を学ぶものである。授業の目標は次の2点である。(1)日本や世界の歴史教育に関する比較の視点で読むことができる。(2)多面的・多角的に文献を考察しながら報告し討論を通じて、自分の意見を相対化しながら、歴史教育についての理解を深めるのである。	隔年
	歴史教育特講Ⅲ	日本と世界の歴史教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を丁寧に読んでいく。具体的には、日本の1945年以後の「初期社会科」と言われる時代の実践と、アメリカやイギリス、ドイツの歴史授業実践を検討していく。そうした実践に、今まで自分自身が実践してきた授業を重ね合わせていく。こうした作業をすることで、これまでの自分の歴史授業実践の位置づけを知ることができる。こうした作業を繰り返し行ない、歴史教育実践の今後について深く探究する。	
	歴史教育演習Ⅰ	歴史教育演習Ⅰでは、比較研究を行う国や地域の歴史、教育に関する論文を分析・検討する。具体的には、比較研究を行う国や地域として、アメリカやイギリス、ドイツを想定している。こうした国々の歴史や教育に関する論文を扱うことで、日本の歴史教育との比較研究をより深く行うことができる。これらの国や地域の論文を読み、分析・検討という作業を繰り返すことで、国家や地域単位の歴史や歴史教育を比較し、大局から検討する視点を獲得する。	隔年
	歴史教育演習Ⅱ	歴史教育演習Ⅱでは、教員と受講者全員で対象地域および国を実際に訪問し、歴史教育に関する調査を行う。日本の歴史学や歴史教育の現代的課題を明らかにし、今後の展望を考える。訪問する時期や対象地域、国をどこにするかは受講生と相談しながら決定するが、歴史教育演習Ⅰでの論文分析・検討を踏まえる。その際、特に対象国の歴史学と歴史教育の事前調査を綿密に行ない、日本の歴史教育との比較・分析を通じて、歴史教育の今後の展望を考えていく。	隔年
	歴史教育演習Ⅲ	日本史や世界史、歴史総合に関する歴史教育実践の単元構想を行い、検討を行なう。その上で、実際に模擬授業あるいは実験授業を実施して、その授業の目標や内容、方法の妥当性を検討する。その上で、授業者は授業を振り返り、自分や受講者による授業評価を行う。このような過程を経ることで、これからの歴史教育実践の在り方を検討することができる。また、授業づくりに必要とされる資質・能力を高めることができる。特に新設された歴史総合は近現代の日本史と世界史を扱うものであるから、重点的に取り上げる。	
	歴史教育学特講	韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について講義および演習を通じて総合的に考察する。日本と朝鮮半島は隣国であるがゆえに、先史以来、様々なレベルで交流が行われてきた。近代や現代を経て、隣国理解、国際理解教育を推進するために、韓国巡検を実施し、東アジアの歴史に関する現状および教育を理解する。具体的には、韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について、研究動向・教科書問題・歴史認識などの視点から考察する。	
	公民教育特講Ⅰ	公民教育研究に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究（特に中学校社会科公民的分野）に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては特に、中学校社会科公民的分野で焦点となっている、平和学習、人権学習、主権者教育、グローバル経済学習、開発教育といった内容について中心的に取り扱う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公民教育特講Ⅱ	公民教育研究に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究（特に高等学校公民科）に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては、高等学校公民科で焦点となっている、新科目「公共」、生命倫理教育、キャリア教育、アントレプレナーシップ教育といった内容について中心的に取り扱うことにする。	隔年
	公民教育特講Ⅲ	公民教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を読みながら、そこに自身がこれまでに実践してきた授業を重ね合わせて、公民教育実践の今後について深く探究する。授業実践記録として考えられるのは、初期社会科（昭和20年代の社会科）における実践記録、政治的中立性と関連した授業実践、高等学校社会科「現代社会」と関連した授業実践、そして、近年の社会的な見方・考え方と関連した授業実践など、社会科教育史における特徴的な授業記録を取り上げ、今日の公民教育授業を相対化する目を育てる。	
	公民教育演習Ⅰ	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発（特に中学校社会科公民的分野）を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	隔年
	公民教育演習Ⅱ	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発（特に高等学校公民科）を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	隔年
	公民教育演習Ⅲ	公民教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。履修者はそのほとんどが現職教員であるため、自身の授業を振り返りながら単元開発を行う。	
	人文地理学特講Ⅰ	農業地理学についての研究成果を講義するとともに、農業地理の研究の動向や課題について講義する。さらに、農業地理だけでなく、他の地理学でも採用されるGISについて講義するとともに、地理学における方法論としてGISについて考察を加える。こうして、GISを採用した農業地理学の最新の研究動向を概観する。農業地理は地理学の中でも伝統のある研究分野であることから、これにより地理学のもともとの研究意義を考えることができる。	隔年
	人文地理学特講Ⅱ	交通地理学および教育地理学について講義する。交通地理学は、大きくは経済地理に含まれるが、研究内容によっては文化地理に含まれることもあり、極めて多様性のある研究分野である。交通地理学の研究系譜をおうことで地理学全体の研究動向もみえてくる。教育地理学については、教育現象を地理学的に見ることで、教育活動を通して地理学は何を追究する学問かが見えてくる。地理学と教育との関連性を追究し、地理が実用性のある学問であることを認識することができる。	隔年
	人文地理学演習Ⅰ	農業・食料の地理学を中心とする講義と討論を行う。具体的には、農業・食料を、自然条件としての気候、土壌及び地形の観点、経済条件としての需要と消費の観点、社会・政治としての農業の近代化と国家、市場と交通、人口・労働力・土地所有の観点からそれぞれ探究する。その上で、農業・食料における革新、農業・食料の文化的枠組み、農業・食料と環境について、深く協議することを主たる内容とする。このような追究を通して、現代の日本及び世界情勢の理解における地理学の方法の重要性について理解を深めることになる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人文地理学演習Ⅱ	交通地理学や教育学地理学の論文を読み、研究の仕方について学ぶ。また、自分で論文発表をし、理論的な論文に基づき、自ら教材を構築する力を養わせる。また、具体的な対象地域を選び、地域性を背景とした交通や教育についての考察を行う。これにより、地理学の研究が地域性を背景として考察していることを見だし、地理学研究の意義や必要性について議論し、人文地理学についての洞察を深めさせるようにする。それとともに地誌学の重要性も認識することができる。	隔年
	自然地理学特講Ⅰ	地名の謎解きを行う際に自然地理的な知識が役に立つことを示したうえで、気候・地形・水文・土壌・植生の地理学的な見方を教授する。しかるのち、多角的な視点で自然地理学的素材に関する課題追究を行う。最後に、新たな謎解きを模索することで自然地理学的なパースペクティブを総括する。本授業では、自然地理学を構成する諸分野の基礎をテーマとし、自然環境のしくみに関する正しい理解を培うことを到達目標としているが、本授業のように例えば地名に注目することは、地理教育の教材研究としても役立つ視点であると考えている。	隔年
	自然地理学特講Ⅱ	自然地理学の意義を問うたうえで、社会的問題として重要性の高い5つのトピックスについて概説する。さらに、3つのテーマに沿って課題追究を行い、思考を深める。総括として、環境との共生に向けた議論を通じて理解の統合化を図る。本授業では、自然地理学に関連する話題性の高いトピックスをテーマとし、机上の知識を今日的な課題に応用する力を養うとともに、分野横断的な理解を通じて人間社会の望ましい在り方を考察できるようになることを到達目標としているが、先の5つのトピックスや3つのテーマは、地理教育の教材研究としても役立つ視点であると考えている。	隔年
	自然地理学演習Ⅰ	自然景観を読み取る能力について問題提起したうえで、つくば市を対象とした基礎的な読図・図上作業について演習を行う。また、一般的な調査手順や報告書の作成に関して概説し、実際に身近な地域の野外調査を体験する。野外調査にあたっては、等高線抜描図・水系網、土地利用図・新旧地形図比、地形発達史・ハザードマップ、風景面シミュレーションの観点を大切にして準備を進め、実際の調査では、簡易測量、景観観察、水質調査を中心に進める。	隔年
	自然地理学演習Ⅱ	授業におけるフィールドワークの重要性と課題について問題提起したうえで、養老山地を対象とした基礎的な読図・図上作業について演習を行う。また、ダイナミックな地理的事象が見られる典型的な地域において、野外調査を体験する。野外調査にあたっては、地形区分、地形断面図・立体図、水系網・接峰面図、風景面シミュレーションを大切にして準備を進め、実際の調査では、火山地域の景観観察、湿原の観察、湖水の化学的調査、湖底湧水調を中心に進める。	隔年
	地理学野外実験	調査対象地域を選定して、自然地理および人文地理の野外調査を実施する。これにより対象地域の理解を深めるとともに地域の課題を見だし、改善策を考察できるようにする。さらには、地域調査の方法を学ぶ。具体的な調査は、グループごとに調査計画を立案する。次に各グループのテーマに沿って予備調査・本調査・補足調査等を行い、調査結果についてグループ内外でディスカッションを行う。得られた成果は、最終的に冊子体の報告書として刊行する。	
	日本史特講Ⅰ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、東京裁判、植民地支配、靖国神社公式参拝、歴史教科書問題、領土問題、戦争賠償、原爆投下問題について取り上げる。その上で、茨城県内の戦争遺跡、東京大空襲・戦災資料センターを調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	隔年
	日本史特講Ⅱ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、日米終戦、昭和天皇戦争責任、強制連行・強制労働、BC級戦犯裁判、シベリア抑留問題、日朝歴史問題、復員・引き揚げ、戦没者追悼・慰霊について取り上げる。その上で、国立歴史民俗博物館を調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本史演習Ⅰ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、各自の問題意識にもとづき報告する。具体的には、東京裁判、植民地支配、靖国神社公式参拝、歴史教科書問題、領土問題、戦争賠償、原爆投下問題、「大東亜戦争」史観について取り上げる。その上で、最終的には、歴史問題の解決に向けての協議を行い、いまだに解決しない様々の「歴史問題」について、戦争責任と戦後責任の視点から問い直す作業を通じて、解決への道筋を考察する。	隔年
	日本史演習Ⅱ	東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、各自の問題意識にもとづき報告する。具体的には、日米終戦、昭和天皇の戦争責任、強制連行・強制労働、BC級戦犯裁判、シベリア抑留問題、日朝歴史問題、復員・引き揚げ、戦没者追悼・慰霊について取り上げる。その上で、最終的には、アジアの歴史和解に関する協議を行い、いまだに解決しない様々の「歴史問題」について、戦争責任と戦後責任の視点から問い直す作業を通じて、解決への道筋を考察する。	隔年
	民俗学実習	インタビュー調査並びに実地調査を通して、歴史教育における教材研究の在り方を検討するとともに、歴史教育についての理解を深める。具体的には、日本社会の民俗を改めて捉えなおすことを目的とし、長野県の集落を巡り、インタビュー調査並びに実地調査を行い、歴史教育に関する知識と技能を身に付けることができるように授業を計画する。実習の事前学習として、訪問予定の遺跡、博物館、考古学的な成果についてそれぞれまとめて発表をしてから現地の巡検の基礎とする。また、実際の巡検では、グループ毎に調査するとともに、グループディスカッションを通して、各グループの調査内容を共有する。	
	考古学特講Ⅰ	「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、中学・高校歴史教科書に見られる先史時代・古代の扱い、考古学の歴史教育における役割、人類学視点からみる先史時代からの東アジア、北東アジアにおける交易システムと中世に触れる。	隔年
	考古学特講Ⅱ	「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、人類学・考古学的な成果による日本人、日本列島における政治中心と縁辺部の歴史観、民族誌にみる北方文化と日本、物質文化と歴史教育、時代のイメージと理解に触れる。	隔年
	考古学演習Ⅰ	モノ資料に着目し、先史時代の日本列島および周辺地域を俯瞰的に概観し、歴史教育の中で人類学的視点がどのように利用可能か考える。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	隔年
	考古学演習Ⅱ	人類が発祥してから、拡散、分化や接触、そしてグローバルな統合へと向かうプロセスを俯瞰する視点から書かれた参考図書を利用し、人類学的な視点から、われわれはどこから来てどこに向かっているのか考察する。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	考古学実習	考古遺跡や博物館を利用して物質資料を用いた歴史教育について理解を深める。本授業では、北東アジア、東アジアの古代史観を改めて捉えなおすことを目的とし、東北(青森、岩手周辺)あるいは中部高地(山梨、長野)の縄文時代を中心とする遺跡を巡り、遺跡の景観、立地、周辺環境を体感するとともに、遠隔地との交流を示す出土資料を見学する。モノ資料による歴史教育の体感と、歴史教科書に載せられていないような、広域の文化交流や物質移動の側面についても理解を深める。	隔年
	社会学特講 I	社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の誕生・発展・転回、リスク社会、情報・メディア社会、個人化と心理化、グローバリゼーション、再帰的近代化、ポストモダニズム、親密圏と公共圏である。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	隔年
	社会学特講 II	社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の見方、福祉レジーム、社会的包摂と社会的排除、持続可能社会、社会関係資本、監視社会と生権力、サイバーカルチャーである。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	隔年
	社会学演習 I	社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、行為・相互行為・意味、自己・主体・アイデンティティ、他者・関係・コミュニケーション、生命・身体、ジェンダー・セクシュアリティ、家族・ライフコース・教育、差別・逸脱・犯罪、知・言語、歴史・記憶、社会運動・社会構想である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	隔年
	社会学演習 II	社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、近代・社会変動・社会システム、宗教、権力・支配、法・政治、集団・組織、労働・産業・市場、階級・階層、表象・文化・消費、医療・福祉、科学・技術・環境・災害である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	隔年
	政治学特講 I	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、選挙に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求するとともに、選挙に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	隔年
	政治学特講 II	政治学特講 I で行った教材研究をもとに、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発し、模擬授業を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、選挙に関する授業を開発することができるとともに、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。そのため、模擬授業に際しては、有権者の政治意識、選挙制度、選挙運動、投票行動が主たる教育内容として取り上げる。	隔年
	政治学演習 I	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政策決定の制度や過程に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求することができるとともに、策決定に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治学演習Ⅱ	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、政策決定の制度や過程に関する授業を開発することができるのと同時に、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。	隔年
	経済学特講Ⅰ	ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に前半の5つの項目（ミクロ経済学かの目的と概要～消費者余剰）については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	隔年
	経済学特講Ⅱ	ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学（概観）、国内総生産（GDP）、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社をテキストとして採用する。	隔年
	経済学演習Ⅰ	ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に後半の5つの項目（需要の弾力性～厚生経済学の基本原理）については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	隔年
	経済学演習Ⅱ	ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学（概観）、国内総生産（GDP）、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社、グレゴリー・マンキュー(2014)『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社をテキストとして取り上げる。	隔年
	法律学特講Ⅰ	毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、スポーツ事故、授業の進行方法と教員の適格性、学習障害・能力格差、有権者教育、法教育・道徳教育、児童生徒のSNS利用、売春及び薬物、児童生徒及び保護者の信仰である。	隔年
	法律学特講Ⅱ	毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、外国人生徒の扱い、性教育、カンニング、いじめとけんか、学校の地域貢献、保護者からのクレーム、PTAの任意加入、学校の個人情報管理である。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法律学演習 I	2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、授業の進行と教員の適格性、政治思想教育の在り方、いじめ問題、カンニングである。	隔年
	法律学演習 II	2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、学校改革と教員の役割、保護者からのクレーム、学校選択制と学校の統廃合、放射能汚染と風評被害である。	隔年
	哲学特講 I	現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかに関与するかディスカッションする。具体的には、言語論的転回に関するディスカッションを深めた上で、言語論的転回が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学特講 II	現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかに関与するかディスカッションする。具体的には、現代思想における自由に関するディスカッションを深めた上で、哲学が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学演習 I	対話についての主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想における対話に関するディスカッションを深めた上で、対話が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学演習 II	現代思想の主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想においてなぜ言語が問題になるのかについて、ウイトゲンシュタイン、カルナップ、ベンヤミンを取り上げながらディスカッションを深める。次に、社会構成主義とは何かについて、ガーデン、デリダを取り上げてディスカッションをさらに深める。その上で、最終的には、「教室」を脱構築することの意義、「授業」を脱構築することの意義について、総合的なディスカッションを行う。	隔年
	倫理学特講 I	マッキンタイアの『美徳なき時代』を講読し、カントや功利主義に代表される近代倫理学の問題点を検討する。そのさい、カントや功利主義者たちの側からのありうる反論についても考えてみる。なお、授業は受講者が作成したレジュメの発表を基にして行う。具体的な論点は、徳の喪失と道徳的不一、情緒主義、啓蒙主義（カント、ヒューム、デイドロ）、啓蒙主義の失敗、啓蒙主義の失敗の帰結、事実と説明、社会科学の批判、ニーチェかアリストテレスか、復習と議論である。	隔年
	倫理学特講 II	マッキンタイアの『美徳なき時代』を講読し、現代における「徳倫理学」の可能性と限界について考察する。そのさい、カントや功利主義とも対比させ、どの立場がもっとも説得的かどうかについて検討する。なお、授業は受講者が作成したレジュメを基にして行う。具体的な論点は、英雄社会における諸徳、アテナイでの諸徳、アリストテレスの徳論、中世の徳論、諸徳の本性、人生の統一性と伝統、諸徳から徳へ、徳としての正義、徳なき時代に徳を求めてである。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	倫理学演習 I	カントの『道徳の形而上学の基礎づけ』を講読し、そもそも「道徳」とは何かについて考える。解釈が難しい箇所についてはコメントリーや論文等を参照しながら読解を進める。具体的な論点は、善い意志、理性と本能、義務の概念、完全義務と不完全義務、格率と法則、尊敬、思慮と道徳、常識と道徳、実践哲学の必要性である。本授業を通して、履修者には、倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力が習得されると考えている。	隔年
	倫理学演習 II	カントの『道徳の形而上学の基礎づけ』を講読し、自律こそが道徳性の原理であるというカントの思想とその意義を理解する。解釈が難しい箇所についてはコメントリーや論文等を参照しながら読解を進める。具体的な論点は、道徳の普遍性と必然性、理性と経験、意志と強制、定言命法と仮言命法、定言命法の第一法式——普遍的法則、定言命法の第二法式——目的自体、定言命法の第三法式——自律、目的の国、価格と尊厳である。本授業を通して、履修者には、倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力が習得されると考えている。	隔年
	基礎数理学A	学部で学んだ数学をより高い視点から振り返ることでより深い理解を得ることを目標として、微分積分学および線形代数の理論を現代数学の立場から捉えなおす。基礎数理学Aでは数の体系・関数の連続性・微分可能性・ユークリッド空間の線形写像・初等超越関数について検討する。	
	基礎数理学B	基礎数理学Aの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。基礎数理学Bでは関数の線形近似としての微分法・多項式近似としてのテイラーの定理・線形空間と線形写像・行列式とヤコビアン・固有値についての再検討する。	
	基礎数理学C	基礎数理学A・Bの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。基礎数理学Cでは行列の固有値と標準形及び非特異値分解、積分法、広義積分と無限級数、微分形式とその積分について検討する。	
	総合数理学A	数学のより深い理解を目指していくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Aでは集合に関する基礎概念及び選択公理、計算機数学についての基礎概念、特に代表的アルゴリズムと計算量について取り扱う。	
	総合数理学B	総合数理学Aの内容を前提として、数学のより深い理解を目指していくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Bにおいては数理論理の基礎概念（命題論理及び述語論理）および2回の変微分方程式の代表例（双曲型・楕円型・放物型方程式）について取り扱う。	
	総合数理学C	総合数理学A・Bの内容を前提として、数学のより深い理解を目指す。いくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Cにおいては代数学の基礎概念、特に環論および加群のホモロジー代数的理論および外積代数、及びベクトル解析の基礎理論について取り扱う。	
	現代数学基礎A	現代数学の諸分野を概観し、バランスの取れた数学観を身につけることを目標とする。現代数学基礎Aにおいては微分方程式の基礎理論（解の存在・一意性定理、解の定性的理論、級数解と特殊関数論）について概観し、また確率論に関する基礎概念（確率モデル、条件付確率と事象の独立性、確率分布、大数の法則と中心極限定理）について取り扱う。	
	現代数学基礎B	現代数学基礎Aの内容を踏まえて、引き続き現代数学の諸分野を概観し、バランスの取れた数学観を身につけることを目指す。現代数学基礎Bでは主に代数学の基本概念、特に群論と対称性、多項式と代数方程式、可換環論・可換体論、代数方程式のガロア理論について取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代数学基礎C	現代数学基礎A・Bの内容を踏まえて、現代数学の諸分野を概観しバランスのとれた数学観を身につける。現代数学基礎Cでは幾何学、特に曲面の曲率と測地線、ガウス・ボンネの定理、及び複素解析学の基本的な事柄、特に有理型関数と解析接続・留数計算・リーマン面、について取り上げる。	
	現代数学特別研究A	総合数学A・B・Cに引き続き、数学のより幅広い理解を目指していくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。特に統計学における基本概念（推定論及び検定論）について、さらに幾何学における結び目理論の基礎とその応用について取り上げる。	
	現代数学特別研究B	現代数学特別研究Aを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Bでは整数論（一般化中国剰余定理、オイラー関数、平方剰余の相互法則）および複素解析学（解析接続、ガンマ関数とスターリングの公式、ゼータ関数と素数定理）について取り上げる。	
	現代数学特別研究C	現代数学特別研究A・Bの内容を前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Cではフーリエ級数・フーリエ変換と調和解析、曲面および3次元多様体の幾何学の基本概念について取り上げる。	
	現代数学特別研究D	現代数学特別研究A・B・Cの内容を前提として、数学の幅広く深い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。数理統計学（推定論・検定論）および幾何学（結び目理論）についてより進んだ話題について取り上げる。	
	現代数学特別研究E	現代数学特別研究A・B・C・Dを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Eでは整数論と複素解析学の関りについてより進んだ話題について取り上げる。	
	現代数学特別研究F	現代数学特別研究A・B・C・D・Eの内容を前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Fではフーリエ変換と位相群上の調和解析、曲面および3次元多様体の幾何学についてより進んだ話題を取り上げる。	
	数学教育研究方法論	数学教育における教授・学習に関する研究方法の理論的前提や認識論的立場について、研究事例の批評を通して検討する。授業の前半では、質的データの採取及び分析における前提、手法の意義と限界について学ぶとともに、最近のいくつかの研究事例について批判的に検討する。授業の後半では、数学科授業の分析に焦点化し、国際比較研究「学習者の観点からの授業研究（LPS）」による授業・インタビューデータの分析を実例として、数学科の授業の実証的研究における質的研究方法の意義と限界を探る。	
	数学教育学習論	1970年代から今日までにいたる数学の学習に関する実証的研究の動向についてのその概略を講義するとともに、各時代の研究論文を読んで、その研究方法および知見を知る。特に、数学学習における内的理解と外的理解の問題、手続き的知識と概念的知識の関係及びその乖離の問題、数学の問題解決過程と数学学習の問題、数学の信念システムやメタ認知の問題、そして教室における学習と社会的・数学的規範の役割、学習における文化的要因の影響を中心に研究事例を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	数学教育カリキュラム論	数学教育におけるカリキュラム開発について、文献講読を通して考察する。この過程で、数学教育学研究における基礎的用語や基本概念を理解するとともに、数学の指導内容やその取扱いについて学習する。また、数学のカリキュラムの構成原理や数学教育思想など幅広い視点からの考察を行い、日本の学習指導要領の変遷や海外のスタンダード、ナショナルカリキュラムなど実際の数学のカリキュラムを対象に、その学術的な分析や考察ができるように、数学教育学研究の基礎としてカリキュラム開発の理解を深める。	
	数学教育内容論	数学者、数学史、数学教育の三領域において突出した業績をあげたH. Freudenthalの数学的活動論を前提に、数学化を解説し、再組織化による指導系統こそが、教育課程の系統をなすことを確認する。そこでは内容上の矛盾が現れ、生徒のつまづき、それを解消する弁証法的対話も起こり得る。本講義では、内容にかかる研究成果と教科書分析を通して、小学校から高等学校までの算数・数学教材を深める。	
	数学教育実践論演習（代数・幾何）	数学教育における代数・幾何領域に関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。数学教育上の実践的な課題に対する調査やデータ分析や解釈を含むような数学教育学研究を取り上げる。高等学校の代数・幾何領域やこれらに関連する中学校の領域を視野に入れ、これらの実践的な課題に対する基礎的な研究方法を学習する。学習した内容を基に、学生の自身による課題設定や問題解決を行い、その発表と検討を通して、成果をまとめる演習を行う。	
	数学教育実践論演習（解析・確率統計・ICT利用）	数学教育における解析・確率統計領域及びICTに関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。解析領域では、関数、解析幾何、極限、微分積分学の基本定理などについての教材研究に、確率統計領域では統計的推測、ばらつき・変動性の扱い、データサイエンスなどの統計的方法を確認したうえでビッグデータ等の扱いにかかる批判的思考に焦点を当てる。これら領域および代数・幾何領域におけるICTを活用した数学探究を実践する。	
	理科教育基礎論	現代理科教育学研究の動向とその成果を理解し、修士課程で理科教育学研究に取り組み、また修了後、理科教育研究力を有する理科教員となるための基礎を形成することを目標とする。授業全体を通して、歴史的社会的現象である理科教育を対象化し解明するための基本的な枠組みと、その研究成果・動向について講義する。具体的には、理科教育学研究の射程に鑑み、理科教育目的論、理科教育内容論、理科教授・学習論、理科教育評価論及び現代理科教育論の基礎にある科学論等について論究する。	
	理科教育学演習	理科教育学研究を始めるための基礎的演習である。理科教育学研究力とプレゼンテーション力の向上を図ることをねらいとする。理科教育学関連の英語論文を読み、理科教育学研究の実際・困難点・動向を把握する。前半は、理科教育の代表的な国際誌に掲載された最新の英語論文を各自で1本読み、その論文の内容を和訳してまとめ、発表し、相互に批判・検討を行う。後半は、理科教育における科学的な探究もしくは理科学習論に関する英語論文1本を全員で読み、和訳し、内容を検討する。	
	理科教育学習論	D. ホドソン著「新しい理科教授学習論」を使用し、理科学習研究を進める上での教師の実践的力量形成をねらいとする。どのような教授学習方法を用いれば子供一人一人が持っている個性的な世界理解を尊重しながら新たな世界理解を構築できるのかに関して吟味していく。「科学の学習」を「科学を学ぶ」「科学について学ぶ」「科学を実践する」という三つに区分し、具体的な学習法を考究する。それぞれのテーマに関連した参考図書はその都度紹介し、必要に応じて講義の中で取り上げる。	
	理科教育研究方法論	教材、教具、授業プランなどを開発したりしながら理科教育の実践的研究方法を学ぶ。具体的な体験を通しながら様々な方法論を身につけることを目指す。さらに、適切な教材、教具を開発するために、授業を通しての児童・生徒の理解を探る方法論についても検討する。「単語連想法」「運勢ライン法」「関連図法」など教育研究で広く使用されている調査方法に加え、新たな方法を吟味していく。そこで用いられる方法（プローブ：探り針）は、質の高い学習を促進する効果的な手段にもなる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育実践演習	まず、実際の理科授業の動画を見て、理科授業を規定する要因と授業の多様性について考え、議論する。次に、アクティブラーニングの理論・実践に関する書籍を読み、内容をまとめ、発表・議論する。その際、新学習指導要領理科における、理科の資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びのあり方についても検討する。以上を踏まえて、学校現場で実践することを想定し、個人もしくはグループで、中学理科の授業を構想・実践し、相互評価を行う。	
	基礎物理学1	教育現場における生徒の物理学への苦手意識払拭の一助として、理科教員を目指す学生に物理学の面白さを伝えることを目的とした講義を行う。物質の成り立ち、光の性質、力学、熱力学、電磁気学、原子物理学、天文学、素粒子物理学、物性物理学などのテーマについて、まず、物理学における基本概念と基本法則の誕生と変遷に注目して講義を行う。また、この中で、中等教育では触れられない、高度ではあるが興味深い現象や概念についても講義を行う。	
	基礎化学1	<p>周期表、原子と分子の構造、化学結合、物質質量、気体の状態方程式、エンタルピー、物質の三態、溶液と固体の性質など化学の基礎となる項目を講義する。本講義により、高校化学を教えるために必要な化学の基礎的な知識を修得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(555 末木啓介/4回) 元素と物質及び周期表、気体とその状態方程式、化学変化と熱の出入り及びエンタルピーについて解説する。全体のまとめも行う。</p> <p>(584 佐藤智生/2回) 液体と溶液及び物質の三態と溶液の性質、固体とその性質について解説する。</p> <p>(623 長友重紀/2回) 量と濃度及び物質質量、原子と電子及び原子の構造について解説する。</p> <p>(638 藤田健志/2回) 共有結合と分子の構造、イオン結合と金属結合など、化学結合について解説する。</p>	オムニバス方式
	基礎生物学1	<p>分子生物学、形態、生殖、進化、分類、生態などの基礎生物学の内容を、中高生に分かりやすく説明できるようになる。また、基礎生物学分野の研究がもたらす社会的側面についても理解し、討論できるようになる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(565 橋本哲男/4回) 分子生物学によって明らかにされた生命現象の基本原則について、中学・高校の学習内容との関連を踏まえて概説する。また身近な自然から生物を学ぶ視点を提供する。</p> <p>(598 中山剛/4回) 生物の体のつくりについて、特に植物に注目して概説する。また身近な自然から生物を学ぶ視点を提供する。</p> <p>(634 出川洋介/2回) 身の周りの微生物、特にカビ、酵母、キノコなどの菌類について概説し、学習指導に活用するポイントについて述べる。</p>	オムニバス方式
	基礎地学1	<p>理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地球史、生命史、大陸形成史の基礎的な内容について講義する。授業の前半は、生命の誕生以降の地球の歴史と生物の進化およびそれらの相互作用によって作られてきた地球表層史を俯瞰する。また基本的な化石標本の調査と処理および同定記載、ならびに生層序対比、古生物地理、機能形態解析、系統樹作成を含めた進化理論、化石成因論、古生態復元、古環境復元、化学化石分析などの具体的な研究例に基づき、実際の研究を行う上で必要な概念と手法を理解する。後半は、地球を構成する岩石のうち、特に火成岩と変成岩について、基礎的な分類から、その生成過程、起源、テクトニクス等に焦点を当てて講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(577 上松佐知子/5回) 地球の歴史と化石成因論について解説する</p> <p>(559 角替敏昭/5回) 地球の内部構造: 岩石や地震波による地球内部構造の解析法、花崗岩や玄武岩の分類や成因、野外での岩石観察方法について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎物理学2	中等教育における物理学の教員が背景知識として習得していることが望ましい、高度ではあるが興味深い現象や概念について講義する。題材として、結晶構造、相対性理論、フーリエ変換、数の概念、準周期系、カオス、エントロピー、トポロジー、フラクタル、などを扱う。ここでは特に、物理学と密接な関わりをもつ数学との関係に注目し、数学者が作り上げた抽象的な概念を物理学者が如何に現実の現象に応用してきたかを講義し、高度な現象や概念の理解を目指す。	
	基礎化学2	化学平衡、酸と塩基、緩衝作用、酸化と還元、電池、化学熱力学、エントロピー、反応速度、活性化エネルギー、核化学、原子核、同位体、有機化学、立体化学、化学分析、クロマトグラフィーなど化学の基礎となる項目を講義する。本講義により、高校化学を教えるために不可欠な化学の基礎的な知識を修得させる。  (オムニバス方式／全10回)  (584 佐藤智生／4回) 酸化還元反応と電池、化学熱力学とエントロピー、反応速度と活性化エネルギーについて解説する。全体のまと (555 末木啓介／2回) 核化学、原子核、同位体について解説する。 (623 長友重紀／2回) 化学変化と平衡及び化学平衡、酸と塩基及び緩衝作用について解説する。 (638 藤田健志／2回) 有機化学と立体化学、化学分析とクロマトグラフィーについて解説する。	オムニバス方式
	基礎生物学2	理科の教員として必要な生物学の基礎的な知識の習得するため、化学生態学、遺伝学、進化学、動物系統分類学、動物形態学の基礎的な内容について講義する。  (オムニバス方式／全10回)  (546 戒能洋一／4回) 信号化学物質について、同種間の信号物質(フェロモン)、異種間の信号物質(カイロモン、アロモン)、異種間の信号物質(シノモン) (587 澤村京一／3回) 遺伝学の歴史、進化学の歴史、遺伝学・進化学の最前線 (625 八畑謙介／3回) 動物とは何か、動物の多様性と分類、動物の系統と進化	オムニバス方式
	基礎地学2	理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地層学・層序学、鉱物学の基礎的な内容について講義する。授業の前半は堆積岩・堆積物の分類や生成過程、それらに記録された情報を読み取る手法を講義する。また、様々な種類の層序学的手法を用いて地層を対比し年代の新旧を知る方法についても解説する。授業の後半では、石英・長石・かんらん石・輝石などの主要な造岩鉱物の性質や、炭酸塩岩や土壌を構成する各種鉱物の性質について講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。  (オムニバス方式／全10回)  (604 藤野滋弘／5回) 地層学・層序学の基礎について解説する。 (620 興野純／5回) 鉱物学の基礎について解説する。	オムニバス方式
	理科教育実験1	物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。  (オムニバス方式／全10回)  (604 藤野滋弘／3回) 粒子の沈降速度 (613 森下將史／3回) 弦の振動と共鳴、振り子と共鳴 (623 長友重紀／2回) 単分子膜法を利用したアボガドロ数の測定、単分子膜法の改良または他の方法によるアボガドロ数の測定方法の (625 八畑謙介／2回) 骨の折れる実験、動物の中の動物	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育実験2	<p>物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(613 森下将史／3回) 重さのあるばねの振動、坂道を落下する大きさのある物体の運動量とエネルギー  (638 藤田健志／3回) 光化学反応、エステル合成  (625 八畑謙介／2回) 身近な植物の観察と調査の基礎  (559 角替敏昭／2回) 偏光顕微鏡を用いた岩石薄片の観察</p>	オムニバス方式
	物理学教育実験	<p>身近な物理現象の理解と、教育現場における実習実験に創意工夫を行える技能の習得を目指して、実験実習を行う。テーマは大きく2つ行う。1つは、空気抵抗を受けながら落下する物体や自らが興味を抱く運動する物体について、デジタルカメラで撮影した動画から画像解析の技術を用い、物体の運動の解析を行う。もう1つは、エレキギターのパックアップ部に着目し、実際にピックアップ部を自作して電磁誘導により弦の振動を電氣的に検出し、さらにオシロスコープでの観測を行う。</p>	
	化学教育実験	<p>化学実験を行うことを通じて、化学的現象のモデル実験、観察、データ処理、教材制作の方法を研修し、化学教育における実験のあり方を考究する。本実験では各実験テーマについて「指導側と被指導側に分かれて行う」ことにより、化学教育の指導法についての理解力を向上させ、実践に必要な力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(638 藤田健志／5回) クロマトグラフィー実験による分離法理解の指導法  (623 長友重紀／5回) 中和滴定実験による緩衝溶液理解の指導法</p>	オムニバス方式
	生物学教育実験	<p>中高生を対象とした生物観察・実験の指導ができるようになるため、生物学の様々な分野の実験を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(598 中山剛／2回) 果実の観察方法の学習、果実の観察と結果の考察  (546 戒能洋一／1回) 昆虫の行動解析方法の学習  (625 八畑謙介／1回) 昆虫の行動解析と結果の考察  (587 澤村京一／2回) ショウジョウバエの唾腺染色体の観察方法の学習、ショウジョウバエの唾腺染色体の観察と結果の考察  (564 野村港二／2回) 植物の突然変異体の観察方法の学習、植物の突然変異体の観察と結果の考察  (565 橋本哲男／2回) DNAの抽出とPCR法による増幅方法の学習、DNAの抽出とPCR法による増幅実験と結果の考察</p>	オムニバス方式
	地学教育実験	<p>地学教育に欠かせない代表的な実験（例えば化石、地層、岩石、鉱物などの観察および鑑定）の手法を修得する。また野外における調査方法や危機管理方法を学習し、安全教育を実践する手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(577 上松佐知子／6回) 古生代の化石の観察とスケッチ、中生代および新生代の化石の観察とスケッチ、地層の観察とスケッチ  (620 興野純／4回) 珪酸塩鉱物の観察とスケッチ、珪酸塩以外の鉱物の観察とスケッチ</p>	オムニバス方式
	地学教育野外実験1	<p>埼玉県皆野町周辺をフィールドとして、野外巡検の基礎を学ぶ。特に、不整合、高圧低温型変成岩などの観察や、ルートマップ作成方法、クリノメーターでの走向・傾斜の測定方法、露頭の観察方法、ルーペを用いた微細構造の観察、岩石試料の採集方法などを野外で学習する。本野外実験では事前学習を含む巡検の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。この野外実験を履修することにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地学教育野外実験2	埼玉県小鹿野町周辺をフィールドとして、野外巡検の基礎を学ぶ。特に、地質構造、堆積構造、岩石中の微細構造などの観察や、ルートマップ作成方法、クリノメーターでの走向・傾斜の測定方法、露頭の観察方法、岩石試料の採集方法などを野外で学習する。本野外実験では事前学習を含む巡検の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。この野外実験を履修することにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	
	理科野外実習インターンシップ	附属坂戸高校の野外実習に参加し、野外実習における指導法や安全教育などの実践方法を担当教員および附属高校の教員から学ぶ。本インターンシップでは、事前学習を含む野外実習の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。事前学習では、附属高校において指導法や安全教育などの指導方法を学習する。生徒向け野外活動のしおりなどを作成し、野外活動の全体を把握する。野外実習では事前学習で指導を受けた内容を実践する。特に野外での生徒指導方法や、安全対策、危機管理方法について学習する。また生徒の野外での研究活動や成果発表会の指導補助なども行う。事後学習として、附属高校において野外実習の総括を行う。最後にインターンシップのレポートを作成し、担当教員および附属高校教員からの指導を受ける。	
	物理学特講	物理学における基本概念の理解習得と、教育現場における懐深い授業のための話題提供として、物理学における傑出した研究者たちの人物像を中心にセミナー形式の授業を行う。ピタゴラス、アルキメデス、アリストテレス、コペルニクス、ガリレオ、マックスウェル、アインシュタインなどの人物を題材とし、教員が題材とする研究者について概要を説明した後、さまざまな文献で受講生が調査してきた内容を発表し合い、理解を深めるとともに人物像をより具体化することを目指す。	
	化学特講	<p>理科教育を志す受講生が現代化学の広がりや深みを理解できるように、現代化学のトピックスをその基礎になる考え方とともに講義する。本講義により、社会・生活と深くかかわる現代化学の広がりや深みを理解させるとともに、化学における基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、化学教育力を向上させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(584 佐藤智生/3回) 化学と色の関わり、電磁波と化学、化学における光の利用について解説する。</p> <p>(555 末木啓介/3回) 放射性同位体から見た化学、重元素の化学、環境中の放射性核種の化学について解説する。</p> <p>(623 長友重紀/2回) 金属タンパク質の生物無機化学、ヘムタンパク質の機能と構造について解説する。</p> <p>(638 藤田健志/2回) フッ素の関わる化学の基礎と応用について解説する。</p>	オムニバス方式
	生物学特講	自然界における生物の相互関係の理解を深めるため、特に植物・昆虫・菌類の関係を中心に講義と観察・実習を行う。観察・実習では、自然観察に必要な目と技術を養うことを目標とする。具体的には、野外での昆虫採集方法、標本の作り方に関する手法を理解させ、野外での昆虫採集の手法を習得し、標本の作り方、目の同定を実践する。講義では、昆虫を中心に動物の分類や生態を紹介し、自然の仕組みとそれを研究するための基礎的な事項について学習させる。最後に、菅平における代表的な自然植生と人為植生との違いを説明し、理解させる。この授業を通して、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	
	地学特講	理科教育を志す受講生が地学分野の広範囲の内容を理解するため、小学校・中学校・高等学校で実施されている天文教育と気象教育の内容について講義する。授業内容は、地球の自転と太陽と月の動き、月と太陽系惑星の特徴と運動、銀河系と宇宙、太陽系の成因、宇宙の成因、雲と風、天気の変化、気温の変化、地球の熱収支、大気と海洋の循環などである。本授業により、天文学および気象学に関する知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育学特講	現在展開されている理科教育学研究の最新の知見を把握し、それらについての理解を深めることを目標とする。具体的には、主に科学的知識・概念の獲得という部分に焦点を当て、そこに関係する諸側面として特に科学哲学、認識論、認知心理学研究を取り上げながら、各々について講義し、議論する。また、それらを踏まえた上で、現代理科教育論の基本的立場を再確認するとともに、今後の理科教育学研究における課題について総合的に検討する。	
	英語教育研究方法論	英語教育研究におけるデータの収集や解析などの方法論について理解を深めることを目的とし、統計の基礎知識から様々な量的分析の方法を学び、統計ソフトによって実践できることを目指す。具体的には、記述統計及び推測統計の基礎知識や、相関分析、t検定、分散分析、因子分析といった外国語教育研究で広く用いられている統計手法について学ぶ。さらに、統計フリーソフトRについても扱い、基礎的な統計手法や応用的な使用方法までをRで行うことができるようにする。	
	英語教育学習論	第二言語の習得や処理に関する書籍や文献を講読し、第二言語習得の特徴やその指導法について理解・議論する。具体的には、構文学習や用法基盤モデルといった近年着目されている言語習得理論を中心に様々な研究成果を概観し、指導への示唆を理解する。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育の理論と実践について自身の考えを深めることを目指す。	
	英語教育内容論	第二言語理解や処理における特定の技能や要因に関する書籍・文献を講読し、第二言語理解や処理、その指導法について理解・議論する。具体的には、リーディングであればその認知処理や動機づけ、指導とカリキュラム、評価方法などについて扱う。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育における特定の技能や要因に関する自身の考えを深めることを目指す。	
	英語教育実践論	英語教育の実践的な知識を学び、多様な指導環境や児童・生徒の学びの特徴について理解する。具体的には、国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の目標や教材について理解するとともに、各校種の授業見学あるいは映像視聴を行い、より良い英語授業の実践について理論的・批判的に自身の考えを深める。そして、模擬授業の設計、実施、振り返りを通して、各校種の英語の授業づくりと実践に必要な知識と技術を身に付けることを目指す。	
	芸術科教育特講A	芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、芸術教育におけるディシプリンや今日的課題、〈新しい能力〉概念と芸術教育、芸術教育における能力観、芸術教育におけるイメージリテラシー、学習科学と芸術教育等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	
	芸術科教育特講B	芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、描画表現における発達、表現・鑑賞学習への動機づけ、芸術学習における転移、芸術学習におけるメタ認知、鑑賞スキルとその発達等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術科教育実践論演習A	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法を習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、仮説と理論の関係、リサーチクエスションの設定、分析ワークシートの作成、理論生成のプロセス等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	
	芸術科教育実践論演習B	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法を習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、協調学習における理解深化プロセス、パフォーマンス評価による学びの可視化、対話型鑑賞における鑑賞者同士の学習支援等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	
	芸術鑑賞論A-1	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞における協調的学習の知見を理解し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方略を開発できることを目標とする。そのために、近年の教育改革や学習理論において注目されている対話による協調的学習に着目し、対話型鑑賞の考え方やその実践例を概観しつつ、そのプロセスを取り入れた対話型美術鑑賞の可能性と課題について、学校や美術館での対話型鑑賞を想定したミニ実践を通して考察する。	
	芸術鑑賞論A-2	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞に関する方略的な知見を習得し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方略を開発できることを目標とする。そのために、芸術作品の鑑賞プロセスでの思考や概念の変化を事例ごとにマッピングし、パーソンズ(Parsons, M.)の発達理論と対比しつつ、芸術鑑賞におけるスキルやメタ認知のとらえ方について、鑑賞文からのスキル分析や鑑賞における思考の構造化の視点から検討し、芸術教育における実践への具体化を考察する。	
	芸術鑑賞論B-1	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞における協調的学習の知見を理解し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方略を開発できることを目標とする。そのために、芸術鑑賞における解釈や判断等の思考過程に注目し、その過程で葛藤やジレンマ、意味の生成、論争などを促す方法について検討する。さらに美術的な思考の深化を促す美的判断ジレンマやArt as Therapyのプランを立案・実践し、議論する。	
	芸術鑑賞論B-2	鑑賞教育研究の方法論やユニークな方策について理解し、各自の研究に生かす独自の調査方法や研究ツールを開発することができることを目標とする。そのために、芸術鑑賞教育研究に関わる先行研究をレビューし、美術鑑賞プロフィール(AAP)、パフォーマンス評価、対話による鑑賞活動、協同学習を取り入れた鑑賞などの具体的な知見から研究方法を考察し、鑑賞教育研究の方法論について全般的に理解を深め、各自の研究における独自の調査方法をそれぞれが開発する。	
	保健体育教育内容論	保健体育科の教材について、教材開発と学習指導の実践及び研究に関する基礎知識を身につける。各種運動領域の教材、学習及び学習指導に関する開発・実践及び研究に関する知識を踏まえて、教材及び単元計画の開発、学習過程及び指導方法の開発、開発した教材、単元計画、指導方法を検証するための研究を計画できるようにすることを目標とする。具体的には、保健体育科の教材について基本的理論を学ぶ。各種運動・スポーツ種目のトレーニングと指導法に関する知識を踏まえて、教材を開発する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健体育教育実践論演習Ⅰ	教育実習において実習生が直面する問題を理解し、問題解決の助力と指導計画の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の事前指導を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育教育実践論演習Ⅱ	教育実習の準備段階で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生が教育実習前に行う観察実習および指導案作成を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育教育実践論演習Ⅲ	教育の現場で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につける。実習校の指導教員の教育実習生への指導を、自らの授業力の向上に役立てることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の指導を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育カリキュラム論	現在の学校に対する社会的な要請や、児童生徒のニーズを理解する。その上で課題やニーズに対応した、小・中・高校段階のカリキュラムを設定できる力を身につける。また、体育の目標と内容について学び、カリキュラムモデルを理解することを目標とする。具体的には、教科としての体育の意義と学習すべき内容を理解し、発達段階に応じたカリキュラムを考える。学校段階に応じたカリキュラムの考え方を学び、さまざまなカリキュラムモデルを理解し活用できるようになる。	
	保健体育授業づくり論	より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動などについて考えることができること、実現可能な指導計画、教材の考え方を身につけ、良い保健体育授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、保健体育の授業づくりの基礎をふりかえり、さらに実践的な考えの下に年間計画、単元計画、指導計画づくりを検討する。今、この時代に求められる保健体育授業、学校のあり方について考える。より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動について検討する。	
	Education and an Interconnected World	国際教育に関する諸問題について、相互依存を深める世界との関連を視野に入れながら考察する。授業では、国際バカロレア（IB）を含む国際教育の定義を検討し、また、日本における国際化・グローバル化対応の教育政策の動向を概説することで、国際教育をめぐる国内外の取り組みについて検討する。まず、ユネスコやIBの文書、関連論文を手掛かりとして国際教育の定義を検討する。次に、IBのミッション・ステートメント、学習者像、国際的視野の位置づけを確認する。後半は、日本における動向に焦点を当て、戦後の国際理解教育の受容や近年のグローバル人材育成をめぐる議論について検討する。	
	Research Methodology	修士論文の作成に必要な研究方法の基礎理論について検討する。まず、これまでの各自の研究経験を振り返り、修士論文の作成に向けて必要となるステップを確認する。次に、研究の方法論を検討するために、実証主義、構築主義、批判理論といった研究上のスタンスの相違を比較検討し、研究上の問いや研究の意義を吟味する。また、これらのスタンスの相違が研究方法の選択にどのように関わってくるのかを理解する。最後に、量的研究と質的研究における代表的なデータ収集の方法として質問紙調査とインタビュー調査を取り上げ、可能となる分析や留意点について概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Research Design and Methods	修士論文の執筆に必要な理論と実践を修得する。前半部分では、研究計画の立案方法、具体的な「問い」の立て方、先行研究の分析、様々な研究手法について理論を中心に学習を進める。後半部分では、前半に学習した理論を基に実践力を高める授業を実施する。具体的には、修士論文作成のためのインタビュー調査、質問紙調査などを作成し、グループ学習、学校訪問、被験者の招聘などを通じて実際に調査を試み、研究スキルを向上させる。	
	Pedagogy for a Changing World I	国際バカロレア (IB) 等の国際教育の教育者として、教授上のアイデンティティを理解できるようになることを目標とする。振り返りによる批判的洞察を伴う経験学習及びその理論の検討を通して、21世紀の教育者としての行為主体性を理解する。授業では、国際バカロレアのビジョン、協働的探究、批判的思考、学習理論、社会的・情緒的・倫理的 (SEE) 学習、ホリスティック (包括的) 教育、多言語主義、認知的学習的言語運用能力 (CALP) 等をトピックとして扱い、国際教育における教授・学習理論について検討する。	
	Pedagogy for a Changing World II	本授業における学習を通して、国際的な教育者としての教授上のアイデンティティと行為主体性の育成を図る。授業では、国際バカロレア (IB) 等にみられる探究に基づく学習の教授実践の中心的原則である「知の理論 (Theory of Knowledge: TOK)」について検討する。授業では、TOKの枠組みである「知るための方法 (WOKs)」と「知識の領域 (AOKs)」を手がかりとして、感覚、芸術、言語、物語、感情、記憶などに着目し、批判的思考の育成方法及び変容を促す教育について理解する。	
	Assessment for Learning I	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法を理解しながら、学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて考察と実践を深める。ICT活用やポートフォリオといった取り組みについても学ぶ。経験学習を通して、協働活動も行う。授業の前半は、評価に関する理論とIBの各プログラムにおける評価の特徴を理解するとともに、形成的評価・総括的評価、セルフアセスメント、ピアアセスメント等の多様な評価方法を整理する。後半は、評価課題やルーブリックを作成し、発表を行う。	
	Assessment for Learning II	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法についての理解を深化させる。学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて実践的に取り組む。経験学習を通して、協働活動も行い、実際の評価法についてプランナーを作成しながら検討する。授業の前半では、発達段階や学習活動に応じた評価方法について理解を深める。後半では、それらの理解をもとに各プログラムや発達段階に対応した評価課題及びルーブリックを作成し、発表を行う。	
	Curriculum as Process I	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを理解する。発達段階やそれぞれの国の文脈に対応したカリキュラムについても考察する。経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、まず、カリキュラム論における議論を参照し、イデオロギーの相違を整理した上で、IBの各プログラムのカリキュラムフレームを理解する。次に、各国における公的カリキュラムの検討を行い、その特徴を比較する。最後に、カリキュラムのデザインとそのプロセスについて検討し、発表を行う。	
	Curriculum as Process II	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを深く理解する。IBのカリキュラムフレームワークを通して、具体的なカリキュラム・プランニングやデザインを実践する。討論や協働活動、課題発表も行い、探究を深める。授業の前半では、探究学習、概念学習、学際的・教科横断的学習、経験学習など学習形態に応じたカリキュラム・プランニングについて検討する。後半では、カリキュラム・マッピングを行い、ユニットプランナー (単元指導案) を作成し、発表を行う。	
	The IB Primary Years Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの初等教育プログラム (Primary Years Programme: PYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、PYPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、PYPの最終の評価課題であるエキジビションに取り組み、その成果を発表する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	The IB Middle Years Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの中等教育プログラム (Middle Years Programme: MYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、MYPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、MYPの最終の評価課題であるパーソナルプロジェクトに取り組み、その成果を発表する。	
	The IB Diploma Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBのディプロマプログラム (Diploma Programme: DP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、DPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、DPの最終の評価課題である課題論文に取り組み、その成果を発表する。	
	Professional Learning and Reflective Practice	国際バカロレア (IB) における振り返りと専門職能開発を中心として、その役割と意義について検討する。授業の前半では、IBのカリキュラムの改訂サイクル、教師に期待されるセルフスタディ及び生涯学習のあり方について検討する。また、IBによる定期評価及び専門研修の仕組みについて理解する。授業の後半では、振り返りの方法としてのアクションリサーチ、専門職能開発としてのポートフォリオに着目し、その意義と実践方法について理解を深める。	
	Field Research	国際バカロレア (IB) 認定校においてグローバルな文脈を取り入れた探究学習の授業実践を行う。まず、事前に学校訪問及び授業参観を行い、学校の特色や児童生徒の実態を把握しつつ、IBの各プログラムの授業について理解を深める。その後、IB校の教員の助言を受けながら探究学習のユニットプランナー (単元指導案) を作成し、実践する。毎回の授業後に振り返りを行い、授業実践スキルの向上を目指す。指導後には全体での振り返りを行い、各自の授業実践の振り返りを共有し、改善方策を検討する。	
	国際理解教育論	日本における国際理解教育について検討する。在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例としながら現代的な教育課題について考察する。授業では、まず、日本における国際理解教育の展開について整理し、その課題の変遷を把握する。次に、個別の教育課題として、在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例として、その課題の背景にある社会変化及び関連施策について理解を深める。授業の後半では、これらの事例に共通する課題として、教育の機会均等、学校適応、母語保持などを取り上げ、子どもたちの文化的・言語的多様性に対応した学校教育のあり方を検討する。	
	グローバル化と教育	グローバル時代の教育に影響を与える社会・政治理論について検討する。ナショナリズム、多文化主義、新自由主義、シティズンシップ等を鍵概念としながら、現代の教育改革との関わりにおいてその理論的潮流を把握する。授業の前半では、新自由主義と教育改革に関する文献を講読する。新自由主義に基づく考え方が、どのように教育改革や学校経営、授業実践に影響を及ぼしているのか、また世界各国でその潮流にどのような相違がみられるのかを検討する。授業の後半では、多文化主義・間文化主義などの多様性と統合に関する文献を講読する。多様な社会統合モデルを比較検討しつつ、人びとの多様性を包摂するような社会及び教育のあり方について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際教育開発論	主に途上国の教育に焦点化し、各国の教育制度・事情を比較、検討しながら授業を進める。特に、サブサハラアフリカと東南アジアを事例として取り上げ、域内の教育制度や最新の教育改革の動向を検討していく。多くの途上国においては、1990年に開催された「万人のための教育 (Education For All: EFA) 世界会議」以降、初等教育の普遍化が国際的目標となり、2015年をEFA達成の目標年と位置づけ、無償化政策などを通して教育機会の拡大に尽力してきた。結果的に、これまで教育の量的拡大には一定程度、成功してきた。その一方で、教育の質（特に内部効率性とアウトプット）が低下し、格差の拡大、教員離職率の上昇など、急激な量的拡大に伴う様々な課題も引き起こしている。このような状況下において、如何に途上諸国が、教育の質や公平性を改善しようとしているのか、最新の教育改革動向を比較、検討していく。基本的な授業の進め方としては、担当教員の講義形式で実施するが、受講者には受け身の姿勢ではなく、積極的に議論に参加することを期待する。	
	国際教育協力論	国際教育協力について「理論」と「実践」の両面から学習を深めていきたい。まず、国際教育協力に係る仕組みと理論を整理し、概念整理を実施していく。次に、世界的な国際教育協力の歴史の変遷を概観しながら、「垂直的な援助」から「水平的な協力」へと変化してきた実態を確認する。その後、日本の教育協力について、ODA（政府開発援助）大綱の改定も踏まえながら、全体的な仕組みやJICA（国際協力機構）の役割や機能を確認していく。実際に日本の国際教育協力事例を取り上げ、映像や資料を参照しながら具体的な教育課題について議論を深めていく。当該議論においては途上国の中でも、特に東南部アフリカの事例と東南アジアの事例を詳細に取り上げて議論を進めていく計画である。基本的な授業の進め方としては、担当教員の講義形式で実施するが、受講者には受け身の姿勢ではなく、積極的に議論に参加することを期待する。	
	教員養成の国際比較	世界の教員養成改革について今日的な視点も交えて、より広い立場から考察したい。現在、世界中でグローバルに進展する教育改革動向に関連付けながら、教員を各国、地域が如何に養成しようとしているのか、最新の教員養成改革の動向について検証していく。 また、後半部分では諸外国の教員養成改革を日本の教員養成改革と相対的に比較、検証する視点を持ち、現在、日本で進展している教員養成改革についても見識を深め、理解を促す。授業は担当教員の講義形式で実施するが、受講者には積極的に議論に参加することを期待する。	
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	現代日本の教育をめぐる論点を政策、制度、実践といった多角的な視点から理解し、またその課題について十分な知識をもとに論じることができるようになることを目標とする。授業では、日本の教育をめぐるさまざまなテーマを取り上げ、その原理、政策、実践を概説する。具体的には、教育制度、学校経営、数学教育、理科教育、社会科教育、言語教育政策、道徳教育、特別支援教育、高等教育をテーマとし、近年の改革動向とその課題を提示する。授業の内容をもとに討論を行い、論点についての理解を深める。なお、主として英語で授業を行う。	
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	現代日本の教育政策、制度、実践を支える諸理論について理解を深めるとともに、諸外国との比較を行うことで、日本の教育の特徴を検討する。Education in Japan Iで履修した内容をより深化させ、日本の教育に対する理解を促す。具体的に扱う領域は、キャリア教育、学校経営論、特別支援教育の3点とし、近年の改革動向とその課題を提示する。授業の内容をもとに討論を行い、論点についての理解を深める。なお、主として英語で授業を行う。	
	初等国語特講A	小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、漢文学や国語学を中心に扱う。	
	初等国語特講B	小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化について国文学を中心に扱う。また、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどの国語に関する技能についてもトレーニングしていく。なお、いずれの時間も小学校での実践的な指導や教材化に関する討議を含む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等社会特講	<p>初等社会科教育課程の内容構成を前提として、教科「社会」を担当する教員に必要な教科の専門的知識及び技能を習得してもらうことを目標とする。本授業では、初等社会科教育課程を構成する「地域学習」(3・4年)「産業学習」(5年)「国土学習」(5年)「歴史学習」(6年)「政治学習」(6年)「国際学習」(6年)について、地理学・歴史学・社会諸科学(公民)の各学問領域の立場から、社会科の教材開発に必要な専門的知識及び技能を身に付けてもらう。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(14 井田仁康/3回) 産業学習及び国土学習について、地理学の観点から講義を行う。  (42 唐木清志/4回) 政治学習及び国際学習について、社会諸科学(特に、政治学と社会学)の観点から講義を行う。  (250 國分麻里/3回) 地域学習及び歴史学習について、歴史学の観点から講義を行う。</p>	オムニバス方式
	初等数学特講	<p>算数の背景にある数学の基礎的概念や、学問としての数学の知識や技能、数学的な論理の展開の方法を基に、算数についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>具体的には、テキスト(新編 算数科教育研究)を輪読する。この過程で、基礎的概念を学び、問題演習、発表、数学に関する討議を行う。</p>	
	初等理科特講	<p>本授業では、①小学校理科の内容のうち、物理・化学・生物・地学分野に関係する基礎的・基本的知識を身につける、②小学校理科の実験のうち、物理・化学・生物・地学分野に関する基礎的・基本的技能を身につける、の2つを目標とする。具体的には、小学校理科(物理・化学・生物・地学)に関する基礎的・基本的な内容(実験を含む)について解説・検討するとともに、それらの内容から中学校理科の内容への接続という観点に基づいた議論を行う。</p>	
	初等英語特講	<p>年少者が外国語として英語を習得・学習する際のメカニズムを文献講読によって理解し、国内の小学校英語教育について理論的・批判的に考えを深めることができることを目標とする。具体的に、外国語としての英語の習得における年齢要因について、各技能や動機づけ、方略使用の観点から検討する。また、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論についても扱い、英語学や応用言語学などの知見にも触れながら、子どもの発達をふまえた複眼的な検討を行う。</p>	
	初等図画工作特講	<p>小学校学習指導要領の「図画工作」における目標と内容の理論的背景を検討しつつ、指導実践に向けた学習理論について理解することを目標とする。そのために、本授業では、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論について、表現領域と鑑賞領域ごとに子どもの発達をふまえて複眼的に検討を行う。具体的には、描画表現と鑑賞活動における子どもの発達理論、造形表現と鑑賞を支援する学習方略、造形表現と鑑賞を支援するツールの開発、表現と鑑賞をつなぐ図画工作の授業構想について議論する。</p>	
	初等体育特講	<p>小学校期の身体的・精神的・社会的発達の特徴を学習し、初等教育における「体育」の重要性を理解する。それらに対応した、動きづくり、運動の理解、態度形成と言語活動について専門的な知識を身に付ける。さらに、学習指導要領の学習内容に対応した具体的な運動プログラムを考えられるようになることを目標とする。具体的には、小学校段階の身体的な発育の特徴と身体活動の重要性を、講義を通して理解し、基礎的・発展的な「動きづくり」について検討する。また、認知的・精神的な発達の特徴を理解し、小学校体育で求められる運動に関する理解について検討する。社会的な発達と特徴について理解し、体育における仲間作りと態度形成、言語活動とコミュニケーションについて検討する。専門的な知識とともに、具体的な学習内容や指導方法について考える力を身に付ける。</p>	
専門科目	教育学研究Ⅰ	<p>教育学をテーマとして研究するにあたり、学術論文を執筆するための基礎的な理論と方法を学ぶ。</p>	
	教育学研究Ⅱ	<p>教育学の基盤を形成する各学問領域に関する最新の研究論文をそれぞれ2本ずつ選択し、その検討を通して研究論文の執筆に関わる専門的な知識と汎用的なスキルを身につける。また後半では受講者が研究テーマと論文構想を発表し、全員で討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育学研究Ⅲ	各自の研究テーマに即した担当指導教員のもとで、個別に指導を受けながら修士論文の執筆を進め、中間と期末に全員参加による発表と質疑応答を行う全体検討会を実施する。	
	(教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	<p>(134 濱田博文) 学校経営学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(151 藤井徳高) 教育制度学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 教育臨床学や教育相談などの領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(139 樋口直宏) 教育方法学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(215 上田孝典) 社会教育・生涯学習領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。</p> <p>(316 平田諭治) 日本教育史領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(289 田中マリア) 道徳教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(124 根津朋実) カリキュラム開発・評価領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(491 平井悠介) 教育哲学における基本文献を講読し、個別の研究課題との関連のうえで議論するとともに、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための方法を提示することで、現代教育哲学の思考法と研究法一般、および個別研究への応用について研究指導を行う。</p> <p>(481 徳永智子) 教育社会学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(451 京免徹雄) 特別活動学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p>	
	次世代教育研究Ⅰ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、教育学研究の領域別の特色、成果、課題、今後の経営戦略とスクールリーダーの役割等について、研究を展開する上での理論と方法を検討する。	
	次世代教育研究Ⅱ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、スクールリーダーおよび高度専門職業人の基礎的資質と能力形成に向けて、教育学研究の領域別の実践を分析・考察する。	
	次世代教育研究Ⅲ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、修士論文・実践研究報告書の作成に向けて各自の専門領域に沿って学習を深め、成果を発表する。	
	(次世代教育研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	<p>(134 濱田博文) 学校経営学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(151 藤井徳高) 教育制度学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 教育臨床学や教育相談などの領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(139 樋口直宏) 教育方法学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(215 上田孝典) 社会教育・生涯学習領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。</p> <p>(316 平田諭治) 日本教育史領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(124 根津朋実) カリキュラム開発・評価領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(481 徳永智子) 教育社会学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	
	国語教育学研究I	国語科の各領域に関する研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。そのうえで、各自の研究テーマについてのレポートを作成し、討議をととしてそれらを分析し評価するとともに自ら新たな視点を提案するための提案するための知見や方法を獲得する。	
	国語教育学研究II	国語科の各領域に関する研究について、各自の問題意識に基づき研究目的を明確に設定する。そのうえで適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	
	国語教育学研究III	国語科の各領域に関する研究について、各自の研究目的にしたがって、適切な研究方法で調査を行う。そのうえでそれらを総合的に考察し修士論文を執筆する。適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	
	(国語教育学研究I～IIIの担当教員)	(38 甲斐雄一郎) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (572 矢澤真人) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (231 長田友紀) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (535 石塚修) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (552 島田康行) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (544 大倉浩) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (558 谷口孝介) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (601 橋本修) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (599 那須昭夫) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (616 吉森佳奈子) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (602 馬場美佳) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (581 稀代麻也子) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (632 田川拓海) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。	
	地理教育学研究 I	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、地理教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	地理教育学研究 II	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。地理教育学研究 I で身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、地理教育学に関するものと地理学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地理教育学研究Ⅲ	地理教育学研究Ⅰと地理教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、歴史教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	(地理教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(14 井田仁康) 社会科教育学及び地理教育について研究指導を行う (624 森本健弘) 人文地理学及び地理教育について研究指導を行う (614 山中勤) 自然地理学及び地理教育について研究指導を行う	
	歴史教育学研究Ⅰ	週一回のペースで定期的で開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、歴史教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	歴史教育学研究Ⅱ	週一回のペースで定期的で開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。歴史教育学研究Ⅰで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、歴史教育学に関するものと歴史学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	
	歴史教育学研究Ⅲ	歴史教育学研究Ⅰと歴史教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	(歴史教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(250 國分麻里) 社会科教育学及び歴史教育について研究指導を行う (540 伊藤純郎) 日本史及び歴史教育について研究指導を行う。 (594 谷口陽子) 考古学及び歴史教育について研究指導を行う。	
	公民教育学研究Ⅰ	週一回のペースで定期的で開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、公民教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	公民教育学研究Ⅱ	週一回のペースで定期的で開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。公民教育学研究Ⅰで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、公民教育学に関するものと社会諸科学・人文諸科学（社会学、経済学、法律学、倫理学、哲学等）に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公民教育学研究Ⅲ	公民教育学研究Ⅰと公民教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び歴史教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	(公民教育学研究Ⅲの担当教員)	(42 唐木清志) 社会科教育学及び公民教育について研究指導を行う。 (612 森直人) 社会学及び公民教育について研究指導を行う。 (621 鈴木創) 政治学及び公民教育について研究指導を行う。 (578 五十嵐沙千子) 哲学及び公民教育について研究指導を行う。 (607 星野豊) 法律学及び公民教育について研究指導を行う。	
	数学教育学研究Ⅰ	1年生を対象に、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、研究課題を明確化し、修士論文を作成するための準備を行う。	
	数学教育学研究Ⅱ	2年生を対象に、1年次の学修成果に基づいて、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、修士論文の論構成を行い、内容を整理する。	
	数学教育学研究Ⅲ	数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく実証的な討議を通して、修士論文を執筆する。	
	(数学教育学Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(84 清水美憲) 数学教育学において教授・学習の諸問題に関する研究指導を行う。 (12 磯田正美) 数学教育学において研究開発型課題の研究指導を行う。 (327 蒔苗直道) 数学教育学において数学教育史に関する研究指導を行う。	
	理科教育学研究Ⅰ	理科教育の各専門領域ならびに複合領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点から修士論文研究着手の指導を行う。具象的な授業内容は、修士論文完成までのプロセスの概要説明、研究倫理と情報倫理、中学校理科における教育方法、高等学校理科における教育方法、教育方法の観点から見た中学校理科と高等学校理科の接続・一貫性、理科教育学研究における研究方法、理科教育学研究における機器の取り扱い、先行研究の検索方法、外国語文献・資料の検索方法、研究テーマの構想と先行研究の収集、先行研究の分析などである。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	
	理科教育学研究Ⅱ	理科教育の各専門領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点からの修士論文作成の指導を行う。具象的な授業内容は、修士論文作成に関するスケジュールの確認、研究倫理と情報倫理、年間研究計画の確認と見直し、修士論文における図・表・引用文献リストの作成方法、章立ての検討、各章（研究背景、研究目的、研究方法、研究結果など）の執筆および推敲である。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育学研究III	<p>社会人特別選抜学生の論文作成に必要な知識と技能を習得させるために、各人の研究に関わる指導を行う。特に理科教育の各専門領域ならびに複合領域に関する研究方法・教育方法を習得させる。具合的な授業内容は、修士論文作成に関するスケジュールの確認、研究倫理と情報倫理、年間研究計画の確認と見直し、修士論文における図・表・引用文献リストの作成方法、章立ての検討、各章（研究背景、研究目的、研究方法、研究結果など）の執筆および推敲である。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。</p>	
	(理科教育学研究I～IIIの担当教員)	<p>(591 森下将史) 物理学教育 (特に低温物理学、量子固体、量子流体、量子スピン、超流動) について研究指導を行う。  (555 末木啓介) 化学教育 (特に無機化学、核・放射化学) について研究指導を行う。  (623 長友重紀) 化学教育 (特に生体関連化学、生物無機化学、ヘモグロビン 振動分光、共鳴ラマン分光) について研究指導を行う。  (584 佐藤智生) 化学教育 (特に物理化学、機能物性化学、光化学) について研究指導を行う。  (638 藤田健志) 化学教育 (特に有機化学、デバイス関連化学、合成化学) について研究指導を行う。  (564 野村港二) 生物学教育 (特に植物分子・生理科学、応用分子細胞生物学、細胞生物学、科学教育) について研究指導を行う。  (546 戒能洋一) 生物学教育 (特に植物保護科学、動物生理・行動、機能生物化学) について研究指導を行う。  (565 橋本哲男) 生物学教育 (特に遺伝子とタンパク質、ミトコンドリアの機能、生物の進化と系統) について研究指導を行う。  (587 澤村京一) 生物学教育 (特に遺伝・染色体動態、種分化) について研究指導を行う。  (598 中山剛) 生物学教育 (特にプロチスタ、微細構造、分子系統) について研究指導を行う。  (625 八畑謙介) 生物学教育 (特に生物多様性・分類、進化生物学、形態学、分類学) について研究指導を行う。  (634 出川洋介) 生物学教育 (特に菌類の多様性、微生物の働き、生態系の機能、生物の進化と系統) について研究指導を行う。  (559 角替敏昭) 地学教育 (特に地質学、変成岩、地殻進化) について研究指導を行う。  (577 上松佐知子) 地学教育 (特に地質学、層位・古生物学、古生物地理学、ジュラ紀付加体) について研究指導を行う。  (604 藤野滋弘) 地学教育 (特に地質学、地層・層序、堆積岩、津波堆積物) について研究指導を行う。  (620 興野純) 地学教育 (特に岩石・鉱物・鉱床学、無機化学、固体地球惑星物理学) について研究指導を行う。  (547 片平克弘) 理科教授学習過程、理科教育評価、化学教育、科学概念 (粒子概念など) の形成について研究指導を行う。  (428 遠藤優介) 理科教育目的論、ドイツ科学教育論、コンピテンシーの育成を目指した理科教授方略や理科授業の開発について研究指導を行う。  (528 山本容子) 科学的論述力を向上させる教授ストラテジー、国内外の生物教育のカリキュラム研究、理科教育における環境倫理の視点を導入した環境教育の理論的・実践的研究について研究指導を行う。</p>	
	英語教育学研究I	<p>英語教育学研究の基本的な進め方に関して、文献講読を通して理解を深める。具体的には、まず英語教育研究とは何かを学び、研究の目的や研究の種類、研究のプロセスについて知る。そして、研究テーマの決め方や先行研究とのつながりについて理解し、データ収集方法や量的・質的なデータ分析アプローチについても学ぶ。さらに、研究成果を公表する方法や論文の構成、及び引用文献の書き方などの基礎的な知識を得ることで、英語教育研究を行う素養を身に付ける。</p>	
	英語教育学研究II	<p>英語教育学研究の在り方や様々なトピックについて、文献講読によって理解を深める。具体的には英語教育研究の学際性について理解し、第二言語習得論や認知科学、心理言語学といった関わりが強い分野とのつながりについて学ぶ。さらに、教育工学や自然言語学、脳科学といった分野との関わりについても知る。そして、実際の英語教育研究のトピックとして、4技能や文法習得、教員養成、異文化理解など幅広い研究の在り方について学ぶことで、自身が行う研究を深めることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語教育学研究III	英語教育学研究の立案から実施までを行い、その成果を発表する。授業前半では、研究テーマ、研究方法について検討を重ねて決定することを目標とする。授業後半では実際のデータ収集及びデータ解析を行い、分析結果の考察、先行研究との比較などを通して、研究の教育的・学術的な示唆を導くようにする。最後に、研究成果発表に向けての準備を行い、最終的に研究成果をプレゼンテーションにより発表することを目指し、自身の研究成果の公表へとつなげる。	
	(英語教育学研究I～IIIの担当教員)	(484 名畑目真吾) 英語教育や応用言語学について研究の実践、指導を行い、英語教育研究についての論文指導を行う。	
	芸術科教育学研究 I	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、リサーチプランにおけるテーマと方法の発表、データ収集の実施、データの量的・質的分析の検討、先行研究との比較分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	
	芸術科教育学研究 II	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、芸術科教育におけるエッセンシャル・クエッション、ピラミッド・ストラクチャーによる研究構想の具体化、芸術科教育におけるリサーチメソッドの検討、各自の特定課題リサーチデータの分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	
	芸術科教育学研究 III	芸術科教育における課題解決に向けた研究方法について理解を深め、受講者の設定した特定課題についてリサーチを計画し、その遂行と結果について複眼的に考察することを目的とする。さらに、修士論文にかかわる個別の研究テーマに基づいて研究の目的と方法を具体化し、アートベース・リサーチ(Arts-Based Research)の方法論についての理解を深めつつ、それを活用した具体的リサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、各特定課題に対するアートベース・リサーチのメリットや限界をふまえ、アートベース・リサーチの視点からのデータ分析と解釈を行い、各特定課題に対する結論を検討する。	
	(芸術科教育学研究I～IIIの担当教員)	(11 石崎和宏) 芸術科教育の理論と実践、芸術の表現と鑑賞に関わる学習方略について研究指導を行う。	
	保健体育教育学研究 I	保健体育教育学研究 I では、体育のカリキュラム論、学習指導論、指導方略・指導技術などの観点から体育科教育学の基礎を学び、理解する。また、体育科教育学の今日的課題を取り上げて議論することで、各自の問題意識を明確にする。さらに各自の問題意識に基づいた課題を設定し、課題に応じた基礎となる領域の文献を講読するとともに先行研究を探し手学習し、自身の研究についての枠組みをつくる。	
	保健体育教育学研究 II	保健体育教育学研究 I で身に付けた基礎をもとに、各自の問題意識に基づいた課題解決の方法を検討する。体育科教育学研究の進め方について先行研究をもとにさまざまな角度から学ぶことにより、自らの課題解決に適した研究計画を立案する。課題解決のためのプロセスを手順に則って進め、予備的な実践を行ってその成果と課題を明らかにし、現実的な研究の方法を追求する。	
	保健体育教育学研究 III	保健体育教育学 I および II における学習をもとに、自ら立案した研究計画に則って研究を進める。また、海外を含めた体育科教育学研究の動向や研究の基礎、進め方についても並行して学習を進め、自らの研究に役立つ理論や先行研究の知見を活用できるようにする。授業の中で研究発表を行って情報を共有するとともに、研究についての議論を行う。	
	(保健体育科教育学研究I～IIIの担当教員)	(341 宮崎明世) 体育科教育のカリキュラム論、学習指導論、指導方略・指導技術について研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際教育学研究Ⅰ	国際教育学に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際教育学に関する研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際機関（ユネスコ）やOECD、国際バカロレア教育に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	
	国際教育学研究Ⅱ	国際教育学に関する研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、教育の国際比較研究、学校改革と教師の専門性、キャリア教育・シティズンシップ教育、国際教育協力に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	
	国際教育学研究Ⅲ	国際教育学に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	
	(国際教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。 (277 平明子) 国際バカロレア教育領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (446 川口純) 比較・国際教育学分野における国際教育開発及び国際教育協力、世界の教員養成改革、インクルーシブ教育／特別支援教育に関する課題について研究指導を行う。 (449 菊地かおり) 比較・国際教育学分野におけるグローバル化と教育改革、国際理解教育、移民／外国籍児童生徒に関する教育課題について研究指導を行う。 (473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	国際バカロレア教育を中心とした教育に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際バカロレア教育を中心とした教育研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際バカロレア教育の教授法・カリキュラム・アセスメントに関する文献の講読を行い、国際バカロレア教育研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	国際バカロレア教育を中心とした教育研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、国際バカロレア教育の国際比較研究、ディプロマ・プログラム (DP)、中等教育プログラム (MYP)、初等教育プログラム (PYP)、概念学習、探究学習に関する文献の講読を行い、国際バカロレア教育研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	国際バカロレア教育に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際バカロレア教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	
	(International Baccalaureate Education Graduate Seminar I~IIIの 担当教員)	(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。 (277 平明子) 国際バカロレア教育領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (446 川口純) 比較・国際教育学分野における国際教育開発及び国際教育協力、世界の教員養成改革、インクルーシブ教育／特別支援教育に関する課題について研究指導を行う。 (449 菊地かおり) 比較・国際教育学分野におけるグローバル化と教育改革、国際理解教育、移民／外国籍児童生徒に関する教育課題について研究指導を行う。 (473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 関連科目	心理学方法論 I	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。研究者としての研究倫理、人を対象とする研究における研究倫理の重要性をふくめた講義を行う。  (オムニバス方式/全10回)  (133 濱口佳和/1回) ガイダンス (133 濱口佳和/1回) 心理臨床における実践的仮説生成研究法 (362 湯川進太郎/1回) 比較思想的理論心理学の構築 (74 佐藤有耕/1回) 青年心理学研究の方法論 (480 登藤直弥/1回) 構造方程式モデリングの基礎 (357 山田一夫/1回) 脳神経科学と薬理に関する研究法 (34 小川園子・279 高橋 阿貴/1回) (共同) 遺伝とホルモンに関する研究法 (651 大山潤爾/1回) ICTを用いた心理学研究法(呈示刺激制御・映像解析) (297 外山美樹/1回) 心理学における研究倫理の考え方、研究倫理申請書の書き方 (708 Terry Joyce/1回) 英語論文の書き方	オムニバス方式 共同(一部)
	心理学方法論 II	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。この講義の一環として修士論文の中間発表会、最終口答試問の聴講も行う。  (オムニバス方式/全10回)  (480 登藤直弥/1回) 新しい統計結果の表記方法 (297 外山美樹/1回) 心理尺度の作成 (362 湯川進太郎/1回) 対人関係を対象とする指標の測定法 (200 青木佐奈枝/1回) 心理検査法—研究及び臨床活用 (137 原田悦子/1回) 言語プロトコル分析/高齢者研究の意義 (77 沢宮容子/1回) 認知行動療法における実践研究の方法 (4 綾部早穂/1回) ニューロイメージング計測法の原理 (152 藤生英行/1回) バイオフィードバック・トレーニングの考え方と介入法 (505 松田壮一郎/1回) 単一事例研究計画法・行動計測 (236 加藤克紀/1回) 行動の直接観察とその分析法	オムニバス方式
	心理学特別研究A	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目春学期に実施する。5月に実施される修士論文構想発表の事前事後指導を中心に指導を行う。	
	心理学特別研究B	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目秋学期に実施する。修士論文の提出まで、ならびに最終口答試問のための指導を中心に行う。	
	心理学特別研究S	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。留学、休学などの個人的事情により、心理学特別研究AないしBが履修できない学生について、博士前期課程2年目以後に心理学特別研究AないしBの代替科目として特に学位プログラム教育会議から許可を得た者を対象として実施する。	
	(研究指導)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する研究指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学先端研究1	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。	集中
	心理学先端研究2	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、現在の研究展開の在り方に関する世界的動向を、講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。	集中
	心理学キャリア形成	心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解をし、主体的に考えることを目的とした高度専門職行事のためのキャリア育成科目である、国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職として最先端で活躍する講師を招き、その講義を聴き議論をすることにより、将来の進路決定に役立てると共に、心理学という研究領域とその社会との関連性についての考察を深める。	集中
	心理学インターンシップ	心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図る。同時に、将来の進路決定に役立つ体験としても位置づける。	
専門科目	心理基礎科学演習Ⅰ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目春学期に実施するため、特に研究計画を立て、実施の準備を行っていくまでを中心に指導を行う。	
心理基礎科学 共通科目	心理基礎科学演習Ⅱ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目秋学期に実施するため、特に自らの研究計画に基づきながら、研究導入とその際に必要な技能・知識の獲得方法を中心に指導を行う。	
	心理基礎科学演習Ⅲ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目春学期に実施するため、特に実際の研究を実施していきながら、その方法論や分析を自らモニターしていく方法とその際に必要とされる知識・技能の獲得の方法を中心に指導を行う。	
	心理基礎科学演習Ⅳ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目秋学期に実施するため、特に研究計画に基づきながら、実施した研究成果をどのように整理をし、一つの論文としてまとめ上げていくかについて、具体的な指導を行う。	
	(心理基礎科学演習Ⅰ～Ⅳの担当教員)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	
	心理統計学基礎	心理統計に関する基礎的な考え方および知識について、講義および体験型実習を通して解説する。また、心理学において頻繁に用いられることの多い各種統計的検定を中心に、基礎的レベルからの復習を行い理解を深めるとともに、より専門的なレベルの統計学習への橋渡しを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理基礎科学 領域専門科目	心理基礎科学英語1	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、広く心理学が関係する領域全体を対象として、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。加えて、英語で国際的な視点、方法で情報発信していくための基礎技能を身につける。	
	心理基礎科学英語2	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、特に自分自身の研究興味に関連する領域について、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。加えて、英語で国際的な視点、方法により情報発信していくための基礎技能を身につける。	
	(心理基礎科学英語1, 2の担当教員)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	
	感覚知覚心理学特講	情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。前年度に発表された海外雑誌論文の中から数報を選び、様々な観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。	
	心理学と認知支援工学特論	感覚知覚心理学や認知心理学の実験心理学的アプローチを応用して、産業界や社会の課題に対するソリューションを提供できる研究の考え方、進め方について解説する。講義に加えて、受講生参加型ディスカッションと体験実習を含む。具体的には、2例以上の企業との実際の共同研究事例に基づいて、ニーズの抽出・心理学的知見との対応・共同研究のテーマと目標の設定・実験計画・データ解析・結果の解釈までをロールプレイ等を交えて学ぶ。	
	認知心理学特講	Psychonomic Society、Cognitive Science等各雑誌等の認知心理学研究の文献をとりあげ、それに基づく議論を中心に行う。毎回の授業では、1本の論文をとりあげ、当該の文献内容のレビューをしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提を明確化する、当該論文における問題のとらえ方の特徴とその詳細化を把握し、具体的な研究方法とその分析の方法、得られた結果からの展開の仕方について、批判的に検討する。レビュー担当を務める者は、その論文の背景となる関連研究についても広く深く検討をしていくことが求められる。	
	学習心理学特講	学習心理学の最新の成果である、状況的学習論について解説する。状況的認知、活動理論、アクターネットワーク理論と学習環境のアレンジメント、パフォーマンス心理学等、最近の状況論的学習研究について論じる。この研究トレンドの大元にある、レフ・ヴィゴツキーの発達の学習論やヴィトゲンシュタインの言語論等基礎となる考え方、相互行為分析等の状況的学習研究のための方法論、実際に教員が教室で利用できるように開発されたパフォーマンスゲーム等についても解説する。	
	教育心理学特講	教育心理学の分野の文献を講読し、教育心理学の方法論や最新の研究成果についての知識を深める。また、授業を通して、発表レジュメのまとめ方、プレゼンテーションの仕方といったような卒業研究に結びつくようなスキルの獲得を目指す。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。各受講生が興味を持つ論文(英語、日本語)を2本ずつ程度発表する予定である。	
行動デザイン特講	人間行動の記述、予測、制御を目的とした応用行動分析学を中心に据え、「行動」の機能を分析することを達成目標とする。また、最新の発達研究を行動分析的観点から読み解くことにより、新たな研究パラダイムを創出することも目的とする。行動変容に用いることができる最新のテクノロジーを概観すると共に、他分野(医学・工学など)との協働を通じた新しい研究、及びビジネスの可能性を、ディスカッションを通じて探っていく。他分野との協働により、人の行動変容について、新たな視点を提供する、行動のデザインを共に創造していく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	青年心理学特講	青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。すなわち、青年とは誰か、青年期あるいは思春期とはどのような時期かについて心理学的に理解を深め、さらに青年の心理を理解するための多様な観点について身につけ、自分の研究に活用できるようにする。講読する文献は、学位論文などの重厚な研究の購読を基本とし、それ以外にも青年心理学の古典、体系的なテキスト、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする。	
	社会心理学特講	対人社会心理学に関する研究成果に関する最近の英語論文を紹介し合い、この分野についての理解を深める。文献は、審査付き学術雑誌に掲載された英語論文とする。受講者は、順番に論文紹介者となり、1本の英語論文の中身を紹介するレジュメを作成する。論文紹介後は、紹介者とほかの受講者との間で討論を行い、紹介した論文の問題点、質の高い論文にするための修正点を提案し合う。	
	臨床社会心理学特講（心の健康教育に関する理論と実践）	心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的なアプローチを学習する。特に身体心理学の観点から、身体技法を通して感情制御に結びつく体験的気づきを得ることで、「こころ」と「からだ」への実践的理解を深める。受講者は、関連テーマをまとめて発表し、他の受講者との間で討議する。	
心理臨床学共通科目	臨床心理学特講Ⅰ	臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の領域、臨床心理学の方法論、心理臨床の職業倫理、心理臨床家の職業的発達等について、講義と内外の文献精読・討論を行う。以上に加え本講義では、臨床心理学及び心理臨床実務の中で、特に遊戯療法と箱庭療法の理論と実際について講義と内外の文献精読、演習、DVD視聴を通じて理解を深める。さらに、（公財）日本臨床心理士資格認定協会の定める臨床心理士の業務についても講義し、公認心理士との異同について説明する。	
	臨床心理学特講Ⅱ	臨床心理学特講Ⅰに引き続き、臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学及び心理臨床実務における主要な流派の理論と実際、特に、精神分析的療法、来談者中心療法、行動療法・認知行動療法、日本の心理療法について、講義と内外の文献精読・討論を通じて理解を深める。公認心理師法、公認心理師の職責、公認心理師の活動5領域についても講義と討論を行う。	
	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。授業前半は、心理面接に関する基礎の概説。また、関連文献の発表及び討論を行う。後半は、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行う。	
	臨床心理面接特講Ⅱ	この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。そのため、授業では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法に関する体験的な学習を行う。	
	臨床心理基礎実習	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席し、またインテークカンファレンスに出席してケースを臨床心理学的に見立てる力を養う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (693 伊里綾子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	共同
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習ⅡC）	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の習得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、ケースカンファレンス等を通して、相談者の問題や障害に関する理解を深め、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理臨床学領域専門科目	臨床心理実習Ⅱ	臨床心理実習Ⅰに引き続き、心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の修得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、相談者の問題や障害に関する支援アプローチについてグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して学ぶ。心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。	共同
	(臨床心理実習Ⅰ,Ⅱの担当教員)	(77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (693 伊里綾子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	
	発達臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習ⅡD)	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室ケースカンファレンスへの出席も含める。  (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (85 庄司一子) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	共同
	発達臨床心理実習Ⅱ	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室の専任・非常勤相談員によるグループ・スーパービジョンへの出席、発表、討論への参加も含める。  (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (85 庄司一子) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。	共同
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	臨床心理学の研究法で、同時に様々な心理臨床の現場で不可欠の技術でもある心理学的査定の方法について学ぶ。演習Ⅰでは、WISCや田中ビネー等の個別式知能検査、発達検査、ASDやADHDのスクリーニング検査、CBCL等の子どもの問題行動の概括的な評定尺度を扱う。理論的に学習するとともに、グループによる実技指導を通じて検査の具体的手続き等、査定技術の習熟を目指す。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	臨床心理支援において必須とされる心理査定法(検査法)のうち、特にパーソナリティ検査についてその理論と実践方法を学ぶ。MMPI.P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テストなど質問紙法、投影法について理論を学ぶと共に試行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。	
	児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X)	児童虐待、不登校、選択性緘黙、いじめ、非行等、学齢期に好発する児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを担当を決めて輪読する。これを通して、家庭と学校における子どもの問題行動や精神疾患に対する取り組みについて、理論と介入方法についての知見の獲得を目的とする。	隔年
	発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)	幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究手法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アセスメント心理学特講I	臨床心理支援において必須となる心理アセスメントのうち、主にロールシャッハ・テストについてその理論背景と理論について学び、施行法、スコアリング、結果の整理の仕方、解釈法（質的解釈・継列分析）について学ぶ。また、ロールシャッハ・テストから得られる情報と各種アセスメントやその他の臨床情報の複合解釈の方法と実際について、特に、質的分析、継列分析、プロトコル分析を中心に学ぶ。進める。	隔年
	アセスメント心理学特講II	臨床心理支援において必須となる心理アセスメントのうち、主にロールシャッハ・テストについてその理論背景と理論について学び、施行法、スコアリング、結果の整理の仕方、解釈法（主に数量的解釈）について講義や実習、事例解釈を通して学ぶ。また、ロールシャッハ・テストから得られる情報と各種アセスメントやその他の臨床情報の複合解釈の方法と実際について、特に、数量的解釈を中心に学ぶ。	隔年
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開X）	精神医学の枠組みについて理解を深めるとともに、精神医学の理論、アセスメント、治療について学ぶ。精神医学総論、アルコール・薬物依存、児童・思春期の精神疾患、気分障害、統合失調症、認知症、心因性精神障害、摂食障害、パーソナリティ症状精神病、医療連携、治療等について現役の精神科医が講義を行う。	隔年
	神経心理学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開Y）	神経心理学に関する最新の文献を取り上げて討論し、臨床心理学に関連する生物学的・神経科学的知識ならびに研究方法について学び、理解を深める。受講する学生が興味・関心のある学術論文、または専門書籍の章を担当・紹介し、受講生全員で討論する。	隔年
	産業臨床心理学特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y）	職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング、教育研修、職場復帰支援など）について解説する。講師が講義を行うだけでなく、受講生参加型の講義を実施する。この講義を通じて、最新の産業カウンセリングのトピックスについて学びつつ、カウンセリングの知識や技術がどのように現場で生かされているかということを考え、学ぶことを目的とする。	
	学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Z）	学校心理学とは、子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である。この講義では、学校心理学の理論や心理教育的援助サービスの実践について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高めることを目指す。	
	老年心理学特講	人間の生涯的発達の中での老年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」「家族関係も含めて人間関係はどのように変化していくのか」などのテーマについて事例も含めて考えていく。	
	キャリアカウンセリング特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開X）	キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。	
	非行・犯罪心理学（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。非行・犯罪のリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶこと、ならびに犯罪・非行臨床の枠組みについて理解を深めるとともに、犯罪・非行の要因、アセスメント、治療について学ぶことを目的とする。	
	臨床心理家族・地域援助特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、および地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学び、演習等を通して心理臨床実践に活かす。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（474 田附あえか・89 杉江征／1回）（共同）ガイダンスとイントロダクション  （474 田附あえか／5回）家族心理学に関する講義を行う。  （89 杉江征／4回）集団と地域社会における心理支援に関する講義を行う。</p>	隔年 オムニバス方式 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理実践実習 I A	年間を通じて行われる心理相談室及び子ども相談室の運営・管理業務実習、電話受付実習、インテーク実習（陪席）・各ケースの支援実習を通して、心理支援の基礎を学ぶ。随時グループ・スーパーにジョンや個別スーパービジョンを通して、臨床支援原則の理解、地域連携の実際について学ぶ。	
	心理実践実習 I B	医療機関等外部実習先の心理面接や心理検査実習、その他の実習、そして実習後のスーパービジョンを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶとともに、多職種との連携を実践的に学ぶ。その他相談機関の見学等実習を通して、心理援助職の役割や責務、支援原則など幅広い臨床実践について学ぶ。	
	心理実践実習 II A	年間を通じて行われる学内の心理相談室及び子ども相談室における個別ケースを担当する。心理相談室では主に青年・成人を対象とした面接実習を行い、子ども相談室では、子どもへの心理実践としては、プレイセラピー、行動療法、社会・情緒的教育の担当、行動観察、保護者面接陪席が、保護者には育児相談を行う。実習後に行われるグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して、心理支援の基礎・実践についての理解を深める。	
	心理実践実習 II B	医療相談機関等による実習を通して以下を学ぶ。①クライアント情報を基に見立て、導入面接、検査実施、報告書作成をスーパービジョンを受けながら行う。②受診陪席やデイケア実習などを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶ。③多職種連携の実際を学ぶ。	
	(心理実践実習の担当教員)	(77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	
	心理臨床 I	心理臨床のアセスメントについての特別な理論や技法を学ぶ。特に医療機関などで高頻度で使用される心理検査（WISC等個別式知能検査、ロールシャッハ・テスト等の投射法検査）を取り上げ、現場における実施上の留意点、検査結果のまとめ、所見の書き方等、実際の心理臨床の現場で通用する水準の技能を指導する。受講生が現場で実施した検査の報告書にもとづいて、討論とスーパービジョンを行う。	
	心理臨床 II	心理臨床の面接や心理療法についての特別な理論や技法について学ぶ。特に医療機関などで高頻度で使用される心理療法を取り上げ、現場における実施上の留意点、事例報告のまとめ方等、実際の心理臨床の現場で通用する水準の技能を指導する。受講生が現場で実施した検査の報告書にもとづいて、討論とスーパービジョンを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
障害科学 関連科目	基礎科目 障害科学調査・実験実習Ⅰ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、その基本的な研究方法を実習形式で学習する。具体的には、文献検索および文献研究法、視覚検査法、聴覚機能評価法、知能・発達検査法、生理心理実験法、量的調査研究法、質的研究法、事例研究法等を取り上げ、グループ別に実習を行い、実習結果についてレポートを作成する。また、障害科学研究における研究倫理と研究倫理申請の手続きの実際についても説明する。	共同
	障害科学調査・実験実習Ⅱ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、その基本的な研究方法のうちのいくつかを、自身の研究関心に即して選択し、実際に適用し、予備的研究を行い、研究結果を報告としてまとめる。この作業を通して研究実践の基礎を学ぶ。ここでは、先行研究のレビュー、研究課題・方法の設定、研究の実施、結果の分析・考察という一連の流れに即した実習を行う。合わせて、自身の研究に関する研究倫理申請書の作成も行い、指導を受ける。	共同
	障害科学研究法Ⅰ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、先行研究のレビューを行い、その結果をもとに自身が取り組む研究課題および研究方法の明確化を行い、修士論文の研究デザインを作成する。専攻内の修士論文デザイン発表会における発表・討議・指導助言をへて、研究デザインを修正・確定する。なお、発表会における指導助言は論文指導小委員会の教員を中心に行う。	
	障害科学研究法Ⅱ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、修士論文の研究を進め、データの収集・分析を行い、中間発表資料を作成する。専攻内の修士論文中間発表会における発表・討議・指導助言をへて、修士論文の完成に向けて必要な研究内容の修正を行う。なお、発表会における指導助言は論文指導小委員会の教員を中心に行う。	
	障害科学研究法Ⅲ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、修士論文の研究を進め、データの分析・考察を行い修士論文を完成させる。修士論文の研究成果を分かりやすくまとめた最終発表資料を作成し、専攻内の修士論文最終発表会における発表・討議を行う。	
	海外特別研修セミナー	韓国、台湾、中国、インドネシア、ベトナム等の特別支援教育に関する主要大学と連携し、各国の特別支援教育の制度・実情・研究状況等について調査・研究し、連携大学の大学院生・教員と共同セミナーを実施し、それぞれの調査・研究の成果を発表し、相互理解を深める。特別支援教育に関連する連携大学や関連諸機関を視察し、その実情の理解を深める。	共同
	障害科学講究	論文指導教員の指導を受けたうえで、障害科学学会において、修士論文で取り組もうとする研究の研究構想に関連した発表か、または、正式な研究発表（以下研究発表等）を行い、学会における研究発表等に関する質疑応答の結果も含めて、学会の参加内容をレポートにまとめ提出する。	共同
専門科目（共通）	特別支援教育総論	世界と日本の特殊教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講述する。  （オムニバス方式／全20回）  （365 米田宏樹／10回）わが国の特殊教育・障害児教育制度成立の歴史的意義、特殊教育の理念と制度、特別支援教育の理念・思想・制度及び社会的意義と教育動向について詳述する。 （29 岡典子／10回）わが国におけるインクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育との関係について解説する。特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の関係、インクルーシブ教育導入の教育的・社会的要因、インクルーシブ教育の革新性と特殊教育・障害者教育との連続性等について詳述する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	視覚障害教育学	視覚障害児童・生徒の教育について、盲教育・弱視教育の視点から、その制度、教育内容、指導の特質などを解説する。具体的には、インクルーシブ教育システムと視覚障害教育、視覚障害の定義と分類、視覚障害児の学びの場それぞれの教育の特徴、視覚障害特別支援学校のセンター的機能、学習指導要領における視覚障害への配慮について、点字教科書と拡大教科書について、弱視児童生徒に対する見えにくさに対する対応、盲児童生徒の触覚の活用、点字の構成と日本点字表記法、視覚障害教育における交流・共同学習、視覚障害教育における専門性等について、詳述する。	
	視覚障害指導法	視覚障害児に対する指導について、教科と自立活動領域の指導を中心に、その指導内容、指導計画、指導方法、指導の評価等の視点から具体的内容を想定して検討する。  (オムニバス方式/全20回)  (253 小林秀之/11回) 主に弱視児を対象とした自立活動領域の指導について詳述する。主として、自立活動の目標と内容、弱視児に対するアセスメント方法、自立活動の時間における点字指導のあり方、視覚補助具の一つとして弱視レンズの選定と活用指導について理解を深める。 (510 宮内久絵/9回) 視覚障害教育における教科指導や指導のあり方、また盲児を対象とした自立活動の指導について詳述する。主として、視覚障害特別支援学校、弱視特別支援学級、弱視通級指導教室における指導のあり方、触覚に関するアセスメントや触察指導について理解を深める。	オムニバス方式
	視覚障害心理学	講義形式で授業を行う。視覚障害幼児の発達特性、常同行動・パーバリズム、触知覚の特性と概念形成、聴覚の特性と空間概念、障害物知覚と環境認知、点字とコミュニケーション、弱視児の視知覚特性、弱視児の学習と教育について学ぶ。また、弱視児の見えにくさや盲児の触覚認知の特性に応じた学習について理解を深める。	
	視覚障害病態生理学	講義形式で授業を行う。視覚系の構造、視覚障害の原因疾患の病態、視機能への各疾患が及ぼす影響、視機能評価、弱視の見え方と支援方法について学ぶことを目的とする。視覚障害の概念、定義、分類とともに、視覚系の構造と視覚障害をもたらす疾患の病態生理、盲学校在籍者の視覚障害原因の年次推移と現状を概説する。さらに、視覚の獲得過程、視機能とその検査方法、弱視の見え方、指導上の留意点について論ずる。加えて、眼光学や視覚補助具について取り上げる。	
	肢体不自由教育学	わが国の肢体不自由教育の成立過程を欧米諸国と比較して概説するとともに、肢体不自由特別支援学校における児童生徒の障害の重度化、重複化の動向とこれが教員の専門性、教育の独自性に及ぼす影響について講述する。また、肢体不自由教育における今日的課題である障害の重度、重複化や多様化への対応について、教育課程の基準の弾力化、自立活動の指導、教授方法などの観点から概説する。	
	肢体不自由指導法	肢体不自由特別支援学校に就学する児童生徒のうち、脳性まひ等の脳性疾患に着目し、その障害特性を概説する。あわせて諸特性に基づく教科指導及び自立活動の指導の在り方について、具体的な実践を通じて概説する。	
	肢体不自由心理学	肢体不自由児者の発達および心理学的課題について、運動学習、肢体不自由という心理的課題、肢体不自由が子供の発達に及ぼす影響、運動発達と認知発達、運動発達と認知発達の相互作用、社会性の発達と課題、コミュニケーションの発達と課題、中途障害者の心理、障害受容と社会参加を取り上げ、論述する。	
	肢体不自由病態生理学	肢体不自由の病態生理について基礎的な理解をするため、骨・筋ならびに運動に関わる中枢神経系の機能と構造の基礎および、その障害について学ぶ。具体的には、運動障害の総論、骨のマクロの構造と機能、骨の微細構造とホルモンとの関係、骨格筋のマクロの構造とその機能、骨格筋の微細構造と筋収縮のメカニズム、運動に関わる神経系の構造と機能に関連し、大脳の機能、錐体路、錐体外路とその障害、脳性まひを中心に生理学、医学の観点から概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	障害児教育課程論	障害児教育における教育課程編成の原理と実際について概説し、障害の重度化、重複化あるいは多様化の中で、法令や学習指導要領に規定される特例を用いた弾力的な教育課程の編成について整理し、特別支援教育における教育課程の編成及び教育課程開発の在り方についての理解を深める。特に学校の社会的役割にもとづく教育課程の編成、教育課程編成に関わる法令・規定、特別支援教育における教材論・学習指導の原理等の特徴、各障害別の学習特性と教育的ニーズにもとづく教育課程の編成や授業実践の特徴等について講述する。	
	知的障害教育学	知的障害のある人々の生涯にわたる支援を実現するために、いかなる教育的支援や福祉的支援が必要なかを概観するとともに、知的障害のある人たちが「支援を受けながら自己実現を図る」力をつけていくために行われるべき学校における指導と支援のあり方、個別の教育支援計画を媒介にした学校と諸機関・地域資源との連携のあり方について講述する。具体的には、個人と家族、生活を取り巻く状況の変化（知的障害者教育・福祉の歴史）、知的障害のある人の生活と家族の生活、社会生活への参加とそれを支える仕組み、社会参加と自律・自立を促す教育実践のあり方、知的障害教育における教育実践情報の蓄積と個別の教育支援計画等をトピックとする。	
	知的障害指導法	知的障害児童生徒・自閉症児童生徒の学習特性とその特性に応じた指導法について解説し、合わせて、学校における授業実践の在り方を、特別支援学校、通常学校特別支援学級、通常学校通級指導教室（自閉症児）の別に講述する。また、学校卒業後の生活と支援の在り方についても学習する。具体的なトピックスは、知的障害児の学習特性と生活教育、知的障害教育教科の特徴、知的障害児童生徒教科等を合わせた指導（日常生活・遊びの指導・生活単元学習・作業学習）、教科別・領域別の指導（各教科の指導・自立活動の指導）、知的障害特別支援学校における授業の展開の実際、特別支援学級における授業の展開等。	
	知的障害心理学	知的障害の発達支援に必要な教育心理学および発達心理学の基礎について講義する。典型的な心理的発達と知的障害の心理的発達の異同について説明し、能力の水準に応じて考えるべき問題と、能力の水準に関係なく蓄積されていく知識や経験の区別について講義する。また、個の特性に応じた適切な発達支援について講義する。	
	知的障害病態生理学	知的障害および関連する発達障害の定義と、定義に関連する病態生理学的知見について基本的事項を講述する。また、虐待や非行、精神疾患についても概説し討論する。具体的トピックは、発達とその障害、中枢神経系の解剖学・生理学、操作的診断基準、知的障害、自閉症、注意欠如多動性障害、学習障害、知的障害・発達障害と虐待、知的障害・発達障害と非行等	
	聴覚障害指導法	聴覚障害指導法とりわけ言語指導の理論や指導方法に関する基本的な事項を中心に、歴史的背景や指導に対する考え方、実際の指導方法について講述する。また、近年の指導方法を巡るさまざまな考え方についても講ずる。  (オムニバス方式/全20回)  (107 鄭仁豪/全10回) 聴覚障害指導法の中心テーマである言語指導法について、内外における歴史的経緯やその変遷から、指導の概要や方法を論じる。 (264 左藤敦子/全10回) 聴覚障害児の言語指導について、発達の観点から、最新の動向を含めた教育の内容とその指導法を論ずる。	オムニバス方式
	重複障害指導法	重複障害児の指導について、教育学、心理学、生理学の観点から理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。そのため、重複障害児の指導における教育課程、健康上の課題、感覚の発達、コミュニケーション、教材教具を取り上げる。  (オムニバス方式/全10回)  (44 川間健之介/5回) 重複障害児の指導における教育課程、健康上の課題について講述する。 (263 佐島毅/5回) 重複障害児の指導における感覚の発達、コミュニケーション、教材教具について講述する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援学校教育実習	障害のある子どもたちの指導に必要な知識、技能、態度を習得するため、特別支援学校において3週間の実習を行う。附属視覚特別支援学校・附属聴覚特別支援学校・附属桐が丘特別支援学校（肢体不自由教育）・附属大塚特別支援学校（知的障害教育）・附属久里浜特別支援学校（知的障害教育、自閉症に特化）の5校を教育実習校とし、学生は単位習得状況に即して5校から1校を選択する。教科・自立活動等の授業の参観、ホームルーム・クラブ活動への参加、指導法や教材教具等に関する講義・実習の受講、および担当教科・領域の授業実習を行う。また、ホームルームの運営の実習も行う。	
	発達・行動・言語障害指導法	<p>発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症等）、行動（情緒）障害（不登校、選択性緘黙等）、言語障害（吃音、構音障害等）について、それぞれについて「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」を講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（52 熊谷恵子／6回）学習障害及び注意欠如多動症の「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。  （128 野呂文行／8回）自閉スペクトラム症及び不登校・選択性緘黙の「心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。  （345 宮本昌子／6回）吃音及び構音障害の「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。</p>	オムニバス方式
	発達・行動障害生理・心理学	<p>発達・行動障害生理・心理学における今日的課題を科学的に分析、理解できること、および実践科学としての障害科学における発達・行動障害生理・心理学的側面からの課題解決の専門的な知識・技能を得られることを目的に、医学・生理学、心理学など基礎科学の知見から発達・行動障害生理・心理学における今日的課題を分析、整理するとともに、実践科学として解消すべき課題は何かを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（108 柘植雅義／5回）発達・行動障害生理・心理学とは／発達・行動障害生理・心理学における最新動向と課題とは／発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅲ（行動障害の理論的成果と課題）／発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅲ（行動障害の分析・支援方法の成果と課題）／発達・行動障害生理・心理学における課題別討議（行動障害の支援）  （227 岡崎慎治／5回）発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅰ（病態生理学的知見の実態）／発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅰ（病態生理学の成果と課題）／発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅱ（発達障害の心理学的成果と課題）／発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅱ（発達障害のアセスメント・支援方法の成果と課題）／発達・行動障害生理・心理学における課題別討議（発達障害の支援）</p>	オムニバス方式
	言語障害生理・心理学	<p>正常な機能を備えた中枢神経系を有していれば、適切な言語環境からの刺激で、子どもは正式な訓練なしでも言葉を話すようになる。一方、言語発達障害のある子どもは期待された年齢段階で期待される水準の話し言葉を獲得できない。これまで、原因不明とされてきた言語発達障害の謎が近年、解明されつつある。本講義では、生理・心理学の側面から言語獲得を阻害する要因について学び、適切な支援法について考える。</p>	
	病弱教育学	<p>病弱児教育の対象や教育措置について概観するとともに、それぞれの教育措置に対応する教育課程を理解する。また、病弱教育の歴史の理解から、現在の病弱教育の成立過程を概観し、現在の病弱教育の動向及び課題について理解する。具体的には、病弱教育の歴史（戦前）、病弱教育の歴史（戦後）、病弱教育の意義、病弱教育の対象、病弱児の教育形態、病弱児の教育課程、病弱児の自立活動、移行教育、病弱児教育の現状と課題を中心に概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（99 竹田一則／2回）病弱教育の意義、病弱教育の対象について講述する。  （711 深澤美華恵／8回）病弱教育の歴史（戦前）、病弱教育の歴史（戦後）、病弱児の教育形態、病弱児の教育課程、病弱児の自立活動、移行教育、病弱児教育の現状と課題について講述する。</p>	オムニバス方式 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	病弱指導法	<p>病弱児の指導について、教育課程・教育形態との関連をもとに、それぞれの教育的ニーズを概観し、それに応じた指導の基礎を理解し、指導のあり方を検討する。具体的にはアレルギー疾患、悪性新生物、心臓疾患、腎臓疾患、筋・骨格疾患、心身症、精神疾患を中心に疾患と教育的ニーズを理解し、さらに病弱児に対する指導、特別支援学校（病弱）における指導（訪問教育を含む）、特別支援学級における指導（院内学級を含む）、通常の学級における指導（通級による指導を含む）、病弱児に対する自立活動の実際それぞれについて概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（99 竹田一則／2回）アレルギー疾患、悪性新生物、心臓疾患、腎臓疾患、筋・骨格疾患、心身症、精神疾患を中心に疾患と境域的ニーズについて講述する。</p> <p>（711 深澤美華恵／8回）病弱児に対する指導、特別支援学校（病弱）における指導（訪問教育を含む）、特別支援学級における指導（院内学級を含む）、通常の学級における指導（通級による指導を含む）、病弱児に対する自立活動の実際について講述する。</p>	オムニバス方式 隔年
	病弱心理学	<p>病弱児の発達、中途発病による心理的特徴に関する基礎的な理論、発達・心理のとらえ方、発達臨床、心理臨床の基礎について解説を行う。具体的には病弱と発達、病弱児の心理的特徴（身体的疾患）、病弱児の心理的特徴（精神的疾患）、中途障害としての病弱児の心理的特徴、病弱児・者のための心理アセスメント方法I（幼児・児童）、病弱児・者のための心理アセスメント方法II（成人）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例I（幼児）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例II（児童）、病弱者の心理援助のための諸理論と実践事例（成人）などを中心に概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（99 竹田一則／2回）病弱と発達、病弱児の心理的特徴（身体的疾患・精神的疾患・中途障害としての病弱）について講述する。</p> <p>（711 深澤美華恵／8回）病弱児・者のための心理アセスメント方法I（幼児・児童）、病弱児・者のための心理アセスメント方法II（成人）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例I（幼児）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例II（児童）、病弱者の心理援助のための諸理論と実践事例（成人）などについて講述する。</p>	オムニバス方式 隔年
	病弱病態生理学	<p>病弱の原因となる基礎的な疾患や病的な状態の病態生理を理解するために、小児期における疾病の経過および特徴や病態生理ならびにその治療や対応の概略について理解する。具体的には気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、肥満・メタボリック症候群、小児がん、心身症・精神疾患、発達障害、心疾患・腎疾患などを中心に概説し理解を深める。</p>	
	聴覚障害教育学	<p>聴覚障害教育の原理や教育内容、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導などの多様な学びの場における教育の実際について理解するとともに、インクルーシブ教育時代における聴覚障害教育の在り方を考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（107 鄭仁豪／10回）聴覚障害教育の原理や教育内容の理解を目指し、聴覚障害者の生涯教育の観点から、聴覚障害教育の原理、教育制度、教育内容、教育方法、その変遷などについて講述する。また、最近の話題にふれながら、今後のインクルーシブ教育の在り方について考える。</p> <p>（264 左藤敦子／10回）聴覚障害の特質、聴覚障害教育の概要と歴史の変遷をふまえて、聴覚障害教育の全般を聴覚障害乳幼児、児童、生徒の発達段階に基づいて講述する。また、聴覚障害教育が直面している今日的課題の視点にたち、特別支援学校（聴覚障害）、特別支援学級と通級指導教室における指導・支援のあり方について、理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	聴覚障害心理学	<p>聴覚障害児者における発達上の問題点の背景を理解するために、聴覚障害のある個人の個体的側面と環境的側面、それらの側面の関連から聴覚障害の発達を捉え、聴覚障害児者の理解と指導に必要な基礎的知識を理解するとともに、</p> <p>聴覚障害教育におけるコミュニケーションの発達や聴覚認知理論と実際について、聴覚障害児者の理解と指導に必要な基礎的知識を学習することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(107 鄭仁豪/10回) 認知や知能の特徴、リテラシーの発達、記憶の方略、社会性の発達などの発達要因と聴覚障害との関連を検討し、聴覚障害教育現場で必要とされる基礎的知識全般について概観</p> <p>(264 左藤敦子/10回) 聴覚障害児のコミュニケーション方法の理論や実際に関して、音声的側面、聴覚的側面、音楽的認知等を中心に、指導方法とその応用について概観する。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害病態生理学	<p>聴覚障害に関連する聴覚器官の生理機能について、外耳、中耳、内耳、中枢聴覚系、音響学の基礎ならびに聴覚活用を支援するための補聴器や人工内耳の基礎について学ぶとともに、聴覚障害の生理病理的側面への理解を深め、聴覚障害児の音声生成、発声発語についての正しい知識を身につけることにより、聴覚障害児の音声言語指導の基礎を学ぶことを目的とする。</p>	
	知的・発達障害心理学特講	<p>知的障害、自閉スペクトラム症、学習障害、ADHDなどについて、発達のメカニズムをふまえながら、認知、言語、記憶、情動といった心的機能の特性と、有効な指導法を講義する。また、知能検査を中心としたアセスメント結果を発達支援に結びつける考え方などについて、事例の検討も交えながら講義・演習を行う。</p>	
	知的・発達障害指導法特講	<p>知的障害、発達障害の発達支援に必要な教育心理学および発達心理学の基礎について講義する。典型的な発達と知的障害、発達障害の異同について説明し、能力の水準に応じて考えるべき問題と、能力の水準に関係なく蓄積されていく知識や経験の区別について講義する。さらに、知的障害、発達障害の能力の水準、認知能力の特徴に応じた適切な指導について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(227 岡崎慎治/10回) 初回のガイダンス、知的障害の定義と分類、発達障害の定義と分類、基礎的心理機能と学力および習得度、発達障害と前頭葉機能、学習とメタ認知、日常生活・生活単元学習・あそびの指導について担当する。</p> <p>(52 熊谷恵子/10回) 知能検査における知能観の概説、知能検査演習、指導案作成の概要と既成の指導案検討、読み書きの特徴と指導、算数の特徴と指導、指導案の検討について担当する。</p>	オムニバス方式
	行動障害指導法特講	<p>行動障害に関する心理的特徴、アセスメント方法、指導計画の立案、指導法、指導の実際についての基礎的知識を講義するとともに、実践論文を取り上げ、指導の実際を演習形式により学ぶ。特に行動論的立場からの指導法について取り上げる。</p>	講義 10時間 演習 20時間
	臨床発達心理学	<p>発達心理学の最近の考え方、および基礎的な知見について理解する。またそれを教育や臨床の実践に結びつける方法について理解する。さらに教育や臨床の実践から発達心理学の理論に還元できることについて理解する。</p> <p>(1) 臨床発達心理学とは：新しい発達観、インクルージョン、基礎と実践、(2) 臨床発達心理士の職務、(3) 発達の支援とは：発達の最近接領域、足場作り、(4) 発達の原理・基盤的命題、(5) 発達課題、遺伝と環境、発達加速現象など、(6) 臨床発達心理学の研究法、(7) 対象の理解：査定・検査・評価・診断の方法、理解のプロセス、(8)～(11) 発達の各期とその特徴と臨床Ⅰ－乳児期・幼児期・児童期の特徴、臨床の実際、(12)～(15) 発達の各期とその特徴と臨床Ⅱ－成人前期・成人後期・高齢期の特徴、臨床の実際、(16) 知能の生涯発達について、(17) 言語の生涯発達について、(18) 社会的スキルの生涯発達について、(19)～(20) 最近のトピックス</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育臨床発達援助論	<p>定型発達の児童生徒も含めて、教育臨床場面における児童生徒の発達支援の原理と方法についての理解を深める。教育臨床場面における課題に対して、アセスメントを実施し適切な援助計画を立案できる力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(52 熊谷恵子/10回) 教育臨床場面に必要とされる児童生徒のアセスメントについて講義する。また「いじめ」や「自殺」など深刻な学校臨床に関する対応方法について講義・実習を行う。</p> <p>(128 野呂文行/10回) 生徒指導に関する講義を実施する。特に、予防的対応としての学級全体・学校全体に対する指導の方法について解説する。</p>	オムニバス方式 隔年
	行動問題面接指導法特講	<p>知的障害を伴わない発達障害のある児童生徒の多くは、通常の学級において教育を受ける。そのような児童生徒の中には、多動による離席や教室からの飛び出し、他の児童生徒に対するちょっかいや他害など、行動上の問題を示すものも少なくない。この授業では、発達障害のある児童生徒の示す行動上の問題について、担任教師に対するコンサルテーションや学校組織内のコーディネーションを通じて、問題解決を行うための知識・技術の習得を目指す。特に応用行動分析学の分野で研究知見が示されている、包括的な行動支援の枠組みである「学校規模の積極的行動支援 (School-wide Positive Behavior Support)」の観点から、面接やコンサルテーション、コーディネーションの技法について演習や実習をまじえながら講義をする。</p>	
	臨床発達心理査定法特講	<p>学校教育場面において必要とされる臨床心理学的評価の諸方法について、演習をまじえながら具体的・実践的な講義を行う。認知機能・知的機能の評価(岡崎)、感覚の評価(原島)、行動・情緒面の評価(野呂)を中心に、基本的な理論、基本的技法、実際の臨床場面での適用方法と配慮事項について講述する。</p> <p>学校教育場面において必要とされる臨床発達心理学的評価の諸方法について、その理論と具体的な技法について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(128 野呂文行/5回) オリエンテーション: 心理教育的アセスメントの意義と方法、学級・学校内の実態把握の方法について</p> <p>(136 原島恒夫/5回) 感覚機能の評価方法と支援への適用について</p> <p>(227 岡崎慎治/10回) 認知機能・知的機能の評価方法と支援への適用について</p>	オムニバス方式
	行動臨床心理学	<p>障害のある児童生徒に加えて、定型発達児童生徒の支援の基礎となる臨床心理学に関する理論、アセスメント法、介入法に関する基礎的知識を習得する。アセスメント理論として「標準化された検査」「行動観察法」を中心に講義を行う。また介入の理論としては、「行動論的アプローチ」を中心に講義を行い、理解を深める。さらに実際の行動問題の理解に必要な理論と介入の実践について、詳細に講義する。さらに行動問題の開発に向けた連携の在り方についても解説する。</p>	隔年
	障害学生支援学特講	<p>高等教育機関における障害学生支援に関わる理念ならびに関連法案について講述する。また、支援対象となる障害種(視覚、聴覚、運動、発達障害等)ごと、支援領域(時系列的理解、バリア解消、生活、就職ほか)ごとに支援方法を検討する。大学等の高等教育機関における障害学生の支援について、支援対象となる障害と支援のあり方について習得することを目標とする。また、障害学生や支援学生にも参加してもらい、障害学生支援について具体的な理解をはかる。</p> <p>学校教育場面において必要とされる臨床発達心理学的評価の諸方法について、その理論と具体的な技法について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(405 名川勝/4回) 障害学生支援の理念と背景、障害学生の現状および支援の流れ、支援体制、運動・健康障害学生の支援と介助、バリアの調査と解消、生活・就職の支援、国内外における障害学生支援</p> <p>(136 原島恒夫/2回) 聴覚障害学生の理解と支援</p> <p>(253 小林秀之/2回) 視覚障害学生の理解と支援</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(227 岡崎慎治/2回) 発達障害学生の理解と支援	
	障害学生支援学演習	<p>高等教育段階における障害学生への支援に関して、参加学生は各テーマに基づき、文献調査あるいはフィールド調査を行い、発表、議論する。議論結果によっては更にテーマを深めて発表を行う。受講学生は「障害学生支援学特講」をあらかじめ履修したものと実施する。また「特講」内で本学における障害学生支援に参加する機会を紹介するので、これらにも関わることでフィールドを得ることが望ましい。</p> <p>大学等、高等教育機関における障害学生の支援について、関連文献あるいはフィールド調査に基づき議論を行うことにより、課題に対する理解を深める。テーマは支援理念、支援体制、高大連携、各障害（視覚障害、聴覚障害、運動障害、発達障害等）・各分野（入学、学習、試験、実習、研究、生活、就職、情報保障、バリア解消、人材育成、健康管理ほか）における支援方法ならびにそれらの研究方法などを対象とする。受講学生はそれぞれのテーマを定めて文献レビュー、調査報告を行う。</p> <p>受講学生は、障害学生支援に関するより総合的な視野と思考方法を学び、実践に寄与することのできる素養を身につけることを目標とする。</p> <p>(405 名川勝) 主に、身体障害の理解と支援（就職支援・生活支援、バリア調査と解消、試験時の配慮、研究方法ほか）の観点から、調査・研究の動向と紹介、報告と議論、最終報告とグループ</p> <p>(227 岡崎慎治) 主に、発達障害の理解と支援（就職支援・生活支援、バリア調査と解消、試験時の配慮、研究方法ほか）の観点から、調査・研究の動向と紹介、報告と議論、最終報告とグループディスカッションを行う。</p>	共同
	特別支援教育学	わが国の特別支援教育の理念と制度について、歴史的、社会的、あるいは国際比較の観点から講述するとともに、理念を実現するための学校組織マネジメントについても解説する。具体的なトピックスは、特別支援教育の理念の成立とその背景、特別支援教育の理念を実現する制度設計、特別支援教育の到達点と課題、欧米における障害児教育の動向と特別支援教育、インクルーシブ教育の国際動向と特別支援教育、特別支援教育における学校組織マネジメント、障害のある子どもの自立と自己実現と教育の役割等。	
	Special Lecture on Disability Sciences	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。諸外国における障害科学に関連する課題について、その背景にある歴史的・文化的背景と併せて理解し、課題解決に資する知識・技能を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(510 宮内久絵/5回) 日本における障害科学に関連する諸課題について、講義とディスカッションを通じて理解を促す。10回目のまとめ・総括では、あらためて日本と他の諸国における課題を比較検討し、その根底にある歴史的・文化的背景を含め理解を深める。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/5回) 開発途上国における障害科学に関連する諸課題について、講義とディスカッションを通じて理解を促す。</p>	オムニバス方式
専門科目	視覚障害学特講 I	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。視覚障害学における諸事項について理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、視覚障害学領域における諸事項について論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文/4回) ガイダンスとして、視覚障害学について概説し、主に、視覚器と視覚障害原因疾患の理解と視機能評価方法の理解につながる授業を担当し、まとめとして総括・あらためて視覚障害と題し、講義を行う。</p> <p>(253 小林秀之/4回) 視覚障害特別支援学校、弱視特別支援学級及び弱視通級指導教室の現状について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/4回) 開発途上国における視覚障害教育について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(510 宮内久絵/4回) インクルーシブ教育と視覚障害特別支援学校及び、諸外国との比較から見る日本の視覚障害教育について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。	
	視覚障害学特講 II	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。視覚障害学における学問上・研究上の課題について理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文/4回) 視覚障害原因疾患の現代的課題と視機能評価の現代的課題について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(253 小林秀之/4回) 視覚障害教育に携わる教員の専門性と視覚障害教育における交流及び共同学習について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/4回) 南アジアにおけるインクルーシブ教育の課題と可能性について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(510 宮内久絵/4回) イギリスにおける視覚障害教育の変遷と現状及びインクルーシブ教育下における視覚障害教育とそれを支える条件について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p>	オムニバス方式
	視覚障害学演習 I	<p>演習形式の複数の授業を行う。日本における視覚障害学の諸課題について、文献収集・分析力ならびに実践情報収集・分析力を身につけ、データに基づき議論できるようになることを目的とする。日本における視覚障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文) 主に、視覚障害生理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 主に、視覚障害心理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(253 小林秀之) 主に、視覚障害教育学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 主に、開発途上国における視覚障害教育に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 主に、先進国における視覚障害教育に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	共同
	視覚障害学演習 II	<p>演習形式の複数の授業を行う。諸外国における視覚障害学の諸課題について、文献収集・分析力ならびに実践情報収集・分析力を身につけ、データに基づき議論できるようになることを目的とする。諸外国における視覚障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文) 主に、視覚障害生理学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 主に、視覚障害心理学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(253 小林秀之) 主に、視覚障害教育学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 主に、開発途上国における視覚障害教育に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 主に、先進国における視覚障害教育に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	
	視覚障害学演習Ⅲ	<p>視覚障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、視覚障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討議を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(39 柿澤敏文) 生理学的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(253 小林秀之) 盲・弱視者への学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 福祉経済学的手法内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 文献研究の手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 心理・臨床的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	聴覚障害学特講Ⅰ	<p>聴覚障害学領域における教育、文化・社会、心理、医学生理、言語学的論点などの諸事項に関する基本的知識を学習することを目指し、聴覚障害学領域における諸事項について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の観点から、講述する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪／4回) 講義全般の概要(課題と方法)の説明を行うとともに、聴覚障害学における心理学的側面から、聴覚障害における発達の捉え方や認知発達について講ずる。</p> <p>(136 原島恒夫／3回) 聴覚障害学における病態生理学的観点から、聴覚障害幼児の早期発見の方法やそれに伴う診断・アセスメントについて講ずる。</p> <p>(264 左藤敦子／3回) 聴覚障害学における教育学的視点からコミュニケーションや文字言語といった言語教育と発達について講じる。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害学特講Ⅱ	<p>聴覚障害学領域の諸事項に関する学術的な最新の研究課題について、聴覚障害児者の教育、心理、病態生理、福祉などの側面から課題を整理し理解するとともに、示された課題の解決や対応のためのアプローチについて講述する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪／4回) 聴覚障害学における研究の視点とアプローチについて概説を行うとともに、聴覚障害と認知と学習、問題解決方略について、最新研究の知見をまじえながら、講述する。</p> <p>(264 左藤敦子／3回) 聴覚障害児者の音声言語や文字言語について、発達の側面から、最新研究をまじえて、講ずる。</p> <p>(136 原島恒夫／3回) 聴覚障害児者の聴覚補償の現状や、聴能評価の教育への活用について、最新研究をまじえて講ずる。また、これらの聴能学的研究の進歩による専門性の変化についても講述する。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害学演習Ⅰ	<p>聴覚障害学の諸課題に関する情報収集の方法や分析能力を身につけるために、関連分野の基礎的ならびに応用的研究論文を講読し、研究上の論点を整理する。また、示された課題とその解決方法について、聴覚障害学における教育学・心理学・生理病理学の諸側面から議論を行うことにより、具体的な事例に基づく問題解決方法を学ぶ。</p> <p>(複数担当方式／以下の教員全員 全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪) 主に、聴覚障害心理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(136 原島恒夫) 主に、聴覚障害生理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 主に、聴覚障害教育学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	
	聴覚障害学演習Ⅱ	<p>聴覚障害学演習Ⅰにおける研究課題に対応できる体系的学修の成果に基づき、特定の課題に関する課題の設定、分析方法、資料の収集と整理、研究成果のまとめと報告といった科学的手続きについて学習し、聴覚障害学に関する基礎的ならびに応用的研究能力を培う。具体的には、聴覚障害学における問題意識および各受講生の関心に基づき、聴覚障害学における特定課題を設定し、研究方法（事例研究、授業研究、調査研究、実験研究、文献研究など）の採用、データの収集と分析に基づく研究プロポーザルの作成、データ収集と分析、研究の展開とディスカッション、成果発表と課題の抽出といった一連の作業を通して、聴覚障害学における研究手法について学ぶ。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪) 主に、聴覚障害心理学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英語論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(136 原島恒夫) 主に、聴覚障害生理学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 主に、聴覚障害教育学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英語論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	共同
	聴覚障害学演習Ⅲ	<p>聴覚障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、聴覚障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(136 原島恒夫) 聴覚補償および読話、聴覚障害の早期発見・早期介入、聴覚障害インクルーシブ教育など聴能学視点および聴覚生理心理学的視点から研究指導を行う。</p> <p>(107 鄭仁豪) 心理学的手法を用いた聴覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 聴覚障害者に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	運動障害学特講Ⅰ	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、運動障害学領域における教育学・指導法、心理学に係る基礎的事項について論述する。運動障害学について概説し、運動障害心理学に対する理解を深め、それに基づく運動障害教育学と指導法についての考察を深める。</p>	
	運動障害学特講Ⅱ	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、運動障害学領域における学問上・研究上の課題について論述する。運動障害教育学における課題である脳性まひの運動発達特性、脳性まひの知覚認知の発達特性など心理学的視点から論述するとともに、障害の重度・重複化に対応した教育課程、教員の専門性などについても考察する。</p>	
	運動障害学演習Ⅰ	<p>日本における運動障害学の諸課題について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点からの邦文論文を講読したり、特別支援学校の研究紀要等の教育実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。また必要に応じて、福祉や医療、労働等関連の状況についても文献等に基づき方法収集を行い、教育・福祉・医療の連携における障害科学の役割について考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動障害学演習Ⅱ	諸外国における運動障害学の諸課題について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点からの英文論文を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。また必要に応じて、福祉や医療、労働等関連の状況についても文献等に基づき方法収集を行い、教育・福祉・医療の連携における障害科学の役割について考察する。	
	運動障害学演習Ⅲ	運動障害学を専門研究領域とする教員の指導の下、運動障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。  (44 川間健之介) 心理学的手法を用いた運動障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	病弱特講Ⅰ	病弱領域における諸事項について、生理学・心理学等の障害科学の視点から講述する。具体的には病弱の原因疾患の理解と課題について、アレルギー疾患（気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー）、生活習慣病とメタボリック症候群等を取り上げる。	
	病弱特講Ⅱ	病弱領域における諸事項について、生理学・心理学等の障害科学の視点から講述する。具体的には病弱の原因疾患の理解と課題について、小児白血病・心身症・発達障害・摂食障害・緘黙・重度重複障害等を取り上げる。	
	病弱演習Ⅰ	日本における病弱諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、課題解決能力を涵養する。具体的には、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、生活習慣病とメタボリック症候群、白血病をはじめとする小児がんなどの病弱に関わる課題を設定し、それぞれ発表と討議を行い、問題意識高め、理解を深める。	
	病弱演習Ⅱ	日本における病弱諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、課題解決能力を涵養する。具体的には、摂食障害、心身症、自閉症スペクトラム症、ADHD、学習障害、重度重複障害などの病弱に関わる課題を設定し、それぞれ発表と討議を行い、問題意識高め、理解を深める。	
	病弱演習Ⅲ	病弱分野を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、病弱領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。  (99 竹田一則) 病弱教育に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、知的・発達・行動障害学領域における諸事項について論述する。  (オムニバス方式/全10回)  (担当者全員/1回) (共同) ガイダンス (担当者全員/1回) (共同) 「知的・発達・行動障害」とは (128 野呂文行/1回) 自閉症スペクトラムならびに情緒障害の理解 (108 柘植雅義/1回) Evidence-based Education Policyに基づく知的・発達・行動障害の教育 (52 熊谷恵子/1回) LDの理解と支援 (227 岡崎慎治/1回) ADHDの理解と支援 (252 小島道生/1回) 知的障害の理解と支援 (365 米田宏樹/1回) 知的障害教育の現状と課題 (担当者全員/1回) 知的・発達・行動障害の支援専門性 (担当者全員/1回) (共同) まとめと討論	オムニバス方式 共同 (一部)
	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	知的・発達・行動障害学の学問上・研究上の課題について、生理学・心理学・教育学等様々な障害科学の研究アプローチ方法の観点から講述する。  (オムニバス方式/全10回)	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(担当者全員/1回) (共同) ガイダンス  (担当者全員/1回) (共同) 「知的・発達・行動障害」における研究とは  (128 野呂文行/1回) 知的・発達・行動障害研究における応用行動分析的アプローチならびに認知行動療法的アプローチの現状と課題  (108 柘植雅義/1回) Evidence-based Education Policyを支える実践研究のあり方  (52 熊谷恵子/1回) 知的・発達・行動障害研究における学校臨床的アプローチの現状と課題  (227 岡崎慎治/1回) 知的・発達・行動障害研究における生理心理学的アプローチの現状と課題  (252 小島道生/1回) 知的・発達・行動障害研究における心理学的アプローチの現状と課題  (365 米田宏樹/1回) 知的・発達・行動障害研究における教育学的アプローチの現状と課題  (担当者全員/1回) 知的・発達・行動障害に係る研究の最新動向  (担当者全員/1回) (共同) まとめと討論</p>	
	知的・発達・行動障害学演習 I	<p>日本における知的・発達・行動障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(128 野呂文行) 主として自閉症児に対する応用行動分析に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (108 柘植雅義) 主として発達障害の教育に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (52 熊谷恵子) 主として発達障害の心理・指導法に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (227 岡崎慎治) 主として発達障害の生理・心理に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (252 小島道生) 主として知的障害の心理・指導法に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (365 米田宏樹) 主として知的障害の教育に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	知的・発達・行動障害学演習 II	<p>諸外国における知的・発達・行動障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(128 野呂文行) 主として自閉症児に対する応用行動分析に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (108 柘植雅義) 主として発達障害の教育に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (52 熊谷恵子) 主として発達障害の心理・指導法に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (227 岡崎慎治) 主として発達障害の生理・心理に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (252 小島道生) 主として知的障害の心理・指導法に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。  (365 米田宏樹) 主として知的障害の教育に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	知的・発達・行動障害学演習 III	<p>知的・発達・行動障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、知的・発達・行動障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(108 柘植雅義) 発達障害児に対する学校教育研究に関連する内容を中心に研究指導を行う。  (52 熊谷恵子) 心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。  (128 野呂 文行) 応用行動分析学的手法を用いた知的障害児・自閉症児に関連する内容を中心に研究指導を行う。  (227 岡崎慎治) 生理心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(365 米田宏樹) 知的障害児に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教育史・福祉史に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(252 小島道生) 心理学的手法を用いた知的障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	言語障害学特講 I	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、言語障害学領域における諸事項について論述する。具体的トピックは以下の通り。言語・発話・コミュニケーションの典型発達、言語障害の分類と原因、言語発達障害のアセスメント、構音障害のアセスメント、吃音のアセスメント、言語発達障害の支援、構音障害の支援、吃音の支援等。</p>	
	言語障害学特講 II	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、言語障害学領域における諸事項について論述する。具体的トピックは以下の通り。通常での生活を視野に入れた言語障害教育研究・実践の動向、通常学級と通級指導教室の連携の実態、言語障害のある子どもが通常学級で感じる困難さ、発達障害を重複する言語障害のある子供の支援、教育現場における言語指導の現状と課題、通級指導教室での支援の実際と課題、親指導の実際と課題、言語障害教育に携わる教員の専門性、言語障害教育に携わる教員と他職種連携等。</p>	
	言語障害学演習 I	<p>日本における言語障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。言語障害生理学に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害心理・指導法に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害教育の理念と制度に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。</p>	
	言語障害学演習 II	<p>諸外国における言語障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。言語障害生理学に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害心理・指導法に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害教育の理念と制度に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。</p>	
	言語障害学演習 III	<p>言語障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、言語障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(345 宮本昌子) 心理学的手法を用いた音声・言語障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	障害福祉学特講 I	<p>社会福祉学における諸事項について理解し、課題解決に資する専門的な知識・技能を修得するために、障害福祉学領域における諸事項について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) *第1回は合同でガイダンス</p> <p>(405 名川勝/全3回) 障害福祉に関する諸政策の現状と課題について、障害のある人の地域での暮らしと障害福祉について、障害福祉における権利擁護について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(517 森地徹/全3回) 障害者権利条約と障害福祉の関係について、障害福祉における当事者性について、障害福祉における障害児福祉について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(433 大村美保/全3回) 障害福祉サービスの利用プロセスについて、障害福祉における就労及び所得補償の支援について、障害福祉における地域包括ケアシステムについて、それぞれ講義を行う。</p>	オムニバス
	障害福祉学特講 II	<p>障害福祉学における学問上・研究上の課題について理解し、課題解決に資する専門的な知識・技能を修得するために、障害福祉学領域における学問上・研究上の課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) *第1回は合同でガイダンス</p> <p>(405 名川勝/全3回) 生活学領域から見た障害福祉について、意思決定支援と障害福祉について、障害者の介助にかかわる制度と介助関係について、それぞれ講義を行う。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(517 森地徹/全3回) 障害福祉とICFとの関係について、障害福祉と合理的配慮との関係について、障害福祉とケアマネジメントとの関係について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(433 大村美保/全3回) 障害者虐待とその対応について、犯罪行為のある障害者への対応について、障害者の社会的孤立とその対応について、それぞれ講義を行う。</p>	
	障害福祉学演習 I	<p>日本における障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題について、文献収集とその分析力並びに福祉実践に関する情報収集とその分析力についてそれぞれ身につけ、それらを踏まえた上でデータに基づいて議論できるようになるために、日本における基礎的及び応用的な研究論文を収集及び分析をしたり、福祉実践に関する情報の収集及び分析をしたりして、そのことを踏まえた上で障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題の解決に向けた方法について討議することとする。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	障害福祉学演習 II	<p>海外における障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題について、文献収集とその分析力並びに福祉実践に関する情報収集とその分析力についてそれぞれ身につけ、それらを踏まえた上でデータに基づいて議論できるようになるために、海外における基礎的及び応用的な研究論文を収集及び分析をしたり、福祉実践に関する情報の収集及び分析をしたりして、そのことを踏まえた上で障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題の解決に向けた方法について討議することとする。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	障害福祉学演習 III	<p>障害福祉学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、障害福祉学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(36 小澤温) 知的障害者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(360 山中克夫) 高齢者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	障害原理論特講 I	<p>障害とは何かという本質的問いについて、人間社会と障害という観点から講述する。「障害」ということばは、純粋に心身の疾患や生理学的な状態像を意味する場合と、より社会的文脈において用いられる場合があるが、本講義ではとくに後者の内容を中心に扱う。種々の社会的条件が障害に及ぼす影響を及ぼすかについて、縦軸（時間軸）と横軸（国や地域）の異同を意識しながら考えていく。具体的には、政治・経済、諸科学、文化・宗教等を指標の例として取り上げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	障害原理論特講Ⅱ	障害原理論とはどのような研究分野なのかについて、基礎的事項を講述する。前半部分では、研究手法や研究課題の特徴について、具体的なテーマを例示しながら説明する。この段階ではとくに、複数の障害種を横断的に捉える観点や特別支援教育と障害者福祉の交点にかかわるテーマ等、障害原理論分野に固有の課題設定について学ぶ。後半では、いくつかの研究テーマを事例的に提示しながら、実際に研究を行う際のデータ収集の方法、分析の観点、留意事項等について解説する。	
	障害原理論演習Ⅰ	障害原理論分野の研究を行ううえで必要となる手続きの基礎を修得する。まず実際に障害原理論分野の学術論文を輪読し、そもそも障害原理論の研究とはいかなるものかについて、内容と方法論の両側面から特徴を把握する。次に、データベース等を活用して障害原理論分野の文献検索・収集方法を学び、キーワードを手がかりに英文および邦文の二次資料を収集する。さらに一次資料を用いて、データの読み取り方、分析の仕方、考察の導き方等の基本的技術を獲得する。	
	障害原理論演習Ⅱ	障害原理論分野の研究の幅広さを理解する。とりわけ近年の研究動向を把握することで、実際に障害原理論研究に取り組むための予備的学習を行う。具体的には、いくつかの研究テーマを設定したうえで英文で書かれた学術論文をレビューし、内容についてディスカッションを行う。取り上げるテーマとしては、特別支援教育・障害者福祉の歴史に関するもの、障害概念や障害者の権利に関するもの、障害者にかかわる法制度・政策にかかわるものを想定している。	
	障害原理論演習Ⅲ	障害原理論を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、障害原理論領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。  (29 岡典子) 文献研究的手法によって障害と社会の関係を明らかにするような内容を中心に研究指導を行う。	
	理療科教育特講Ⅰ	理療科教員養成施設は、我が国唯一の特別支援学校自立教科(理療)の教諭を養成する教育機関として位置づけられている。歴史・現状・法規等の様々な障害科学の視点から、理療科教育領域における諸事項について論述する。  (オムニバス方式/全10回)  (31 緒方昭広/5回) 理療科教育、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師(理療)免許、視覚障害者とあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師、特別支援学校自立教科(理療)免許について講述する。 (370 和田恒彦/5回) 理療科教員養成施設の設置目的、法的位置づけ、理療科教員養成施設の現状(入学状況、就職状況など)、理療科教育の歴史的変遷、理療科教員養成施設の歴史的変遷、教員免許更新講習、専修免許等などの動向について講述する。	オムニバス方式
	理療科教育特講Ⅱ	様々な障害科学の視点から、理療科教育領域における学問上・研究上の課題について論述する。具体的トピックは以下の通り。理療および理療科教育の先行研究、視覚障害者と理療教育、理療教育の現状と課題、理療教育における視覚補償、個々の視覚障害のニーズに応じた理療臨床教育、ICTを利用した理療教育、理療科教員養成の現状と課題、理療教員養成の将来展望に関する討議  (オムニバス方式/全10回)  (31 緒方昭広/5回) 理療および理療科教育の先行研究、視覚障害者と理療教育、理療教育の現状と課題について講述する。 (370 和田恒彦/5回) 理療教育における視覚補償、個々の視覚障害のニーズに応じた理療臨床教育、ICTを利用した理療教育について講述する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理療科教育演習Ⅰ	日本における理療科教育の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。日本における理療（あん摩マッサージ指圧・鍼・灸）の諸課題、日本におけるおよび理療科教育の諸課題、あん摩マッサージ指圧鍼灸する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、理療科教育にする日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。	共同
	理療科教育演習Ⅱ	諸外国における理療科教育の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的には、あん摩マッサージ指圧鍼灸する諸外国における研究論文の検索・収集・研究動向の分析と討議を行う。	共同
	理療科教育演習Ⅲ	<p>理療及び理療科教育を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、理療及び理療科教育領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(31 緒方昭広) 理療に関する内容を中心に研究指導を行う。 (370 和田恒彦) 理療科教育に関する内容を中心に研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
カウンセリング 関連科目	基礎科目 カウンセリング方法論基礎II	論文の読み方、書き方等研究構想発表に向けた基本を学び、2年生の修士論文中間発表会・口述試験への参加により、自らの研究テーマを検討する。自らの研究構想を発表し、発表に対する助言指導を通して、研究テーマ・指導教員の選択などの検討を進め、修士論文作成への準備とする。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング方法論基礎III	2年生の修士論文中間発表会・口述試験への参加および自らの研究構想発表を通じて、最終的な研究テーマの決定・指導教員の選択を行い、具体的な修士論文作成への準備を進める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	(研究指導)	(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床 (22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント (30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ (138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学] アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP)、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか (152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究 (207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究 (222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究 (320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ (cyberbullying) の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか	
	カウンセリング研究法I	修士論文構想発表会にてプレゼンテーションを行い、全教員の指導を受け、修士論文の調査と執筆を進める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング研究法II	修士論文構想発表会および中間発表会にてプレゼンテーションを行い、全教員の指導を受け、修士論文の執筆をすすめる。最終的には修士論文最終口述試験にて執筆した論文の内容について、全教員の審査を受ける。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	(研究指導)	(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床 (22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント (30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ (138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学] アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP)、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか (152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究</p> <p>(222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究</p> <p>(320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ（cyberbullying）の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか</p>	
専門科目	<p>カウンセリング心理学</p> <p>カウンセリング特別研究I</p> <p>カウンセリング特別研究II</p> <p>カウンセリング特別研究III</p> <p>(研究指導)</p>	<p>授業概要：カウンセリングとは、言語および非言語コミュニケーションを通して、行動変化を試みる人間関係である。その人間関係を研究対象とする、「カウンセリング心理学」に基づき、カウンセラーの意義と役割について明らかにするとともに、カウンセリング関係の成立条件、カウンセラーの資質と能力、職業倫理などを取り上げて、カウンセラーとして期待される態度と行動について学ぶ。授業では配付される講義資料とスライドを中心に進められる。また、カウンセリングの実際をより具体的に理解するために、適宜ワークシート、事例提示等を用いて講義する。受講者はカウンセリングの倫理について授業担当教員と契約を結ぶ必要がある。</p> <p>目的・ねらい：対人援助の状況で展開する人間関係のダイナミズムと、援助対象者一人ひとりの心理学的現実を理解し、カウンセラーとして必要なカウンセリングの視点や理論について理解を深める。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、各人の関心に合わせた研究計画の立て方・具体化の方法・作業の進め方や、重点的な履修の内容・方法に対してアドバイス・指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、修士論文の骨子や草稿の作成や、論文作成に向けての文献の調査・消化方法、中間報告会の準備について、計画の進捗度合いに応じて指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、修士論文の草稿の完成および最終原稿の作成および完成に取り組むとともに、表現や文献表記など最終段階としての指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床</p> <p>(22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント</p> <p>(30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング]仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ</p> <p>(138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学]アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床（Evidence-Based Practice: EBP）、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか</p> <p>(152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究</p> <p>(207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究</p> <p>(222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究</p> <p>(320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ（cyberbullying）の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達臨床心理学Ⅰ	<p>授業概要：胎生期から成人期までの発達とそれを支える環境について概説する。また、乳幼児期から発達過程における心理臨床的な課題や、支援について論じる。特に、実験や観察等の映像も用いながら、具体的な行動のどこに発達のな特徴や支援の視点をみることができるとかを提示する。</p> <p>目的・ねらい：個性をもって生まれた一人の人間が、周りの人や環境と相互作用をしながら成長する、ダイナミックで柔軟な発達をイメージできることを目指す。</p>	
	生涯発達臨床心理学Ⅱ	<p>授業概要：人間の生涯的発達の中での特に中高年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」そして、これらの知見を踏まえた上で、問題を抱えた高齢者をどのように理解し、どのように対応していったらいいのか」などのテーマについて実習や事例検討も含めて考えていきたい。</p> <p>目的・ねらい：生涯発達の視点からみた老年期の心理的な特徴について学ぶ。老年期の一般的な心身の変化、日常生活に及ぼす影響について学ぶ。また、様々な高齢者に対する個別の理解、対応のあり方について学ぶ。</p>	
	学校心理学	<p>授業概要：一人ひとりの子どもを対象とした心理教育的援助サービス（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネート）の理論と実践の体系である「学校心理学」について、講義、文献購読、実習を通して学習する。具体的には、現代の子どもがもつ学校生活での苦戦に対応した心理教育的援助サービスについて、実践例を通して検討する。また援助サービスのシステムやコーディネーターの役割について焦点をあてる。*「学校心理士」申請における必須科目である。</p> <p>目的・ねらい：学校心理学の基礎理論を学ぶとともに、子どもや子どもの援助者（教師、保護者、学校組織）を援助することに関する理論や方法論を学ぶ。</p>	
	学校教育相談	<p>授業概要：認知行動カウンセリングの視点から、学校教育相談の実践について理解を深める。とくに学校不適応の心理、不登校、いじめ、自殺予防、学校危機介入の課題を取り上げる。履修学生は、以下のいずれかの授業発表レポートが課される。a. 教育相談の対象となる病理について、カプラン精神医学テキストをもとに資料を作成し他学生に説明する。b. これまで職場などで対応してきた事例について報告する。様式は講義中に指定する。</p> <p>目的・ねらい：学校教育相談の現代的課題についての基礎知識の習得、その解決に向けての実際的な技能・能力の獲得・向上を目指す。</p>	隔年
	健康心理学	<p>授業概要：心理学的ストレスモデルやそれに関連する諸理論について解説するとともに、本モデルを応用した実践（認知行動療法など）について紹介する。なお、ポジティブ心理学に関するグループまたは個人発表が課される。</p> <p>授業のねらい：ストレッサーとコーピングなどのストレス理論、感情と健康に関する諸理論を学ぶことで、今後の健康の維持・向上について考えを深める。</p>	
	職場のメンタルヘルス	<p>授業概要：本講義では職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング、教育研修、職場復帰支援など）について解説する。単に講師が講義を行うだけでなく、受講生参加型の講義を行う。なお、職場のポジティブ・メンタルヘルスに関するグループまたは個人発表が課される。</p> <p>授業のねらい：わが国における職場のメンタルヘルス対策の意義や推進方法についての知識や技能を獲得するとともに、心理専門職として社会の要請に応えられるような素養を身に付ける。また、人々がさらに健康にいきいきと働けるようになるために役立つポジティブ・メンタルヘルスの概要についても理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	組織心理学	<p>授業概要：組織とは、人間からなり人間のためにある。その中で人間同士の相互作用により生じてくる心理学的・行動学的特性について学び、組織の在り方、制度、組織間の連携および運営などについて企業組織をベースに概観する。さらに、それぞれの受講者が所属する組織について事例発表、およびケーススタディを通じ、組織心理学に関する実際的課題について議論する。</p> <p>目的・ねらい：組織心理学の過去の研究で得られた基本的な知見、理論、方法論などの概要を理解するとともに、現実場面を通じ、さまざまな組織の理解を深める。</p>	
	キャリア心理学	<p>授業概要：キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。</p> <p>目的・ねらい：キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。</p>	
	人格心理学	<p>授業概要：心理学における重要な構成概念である人格（パーソナリティ）について、その概念、理論を解説するとともに、人格査定)の方法(心理テスト)について体験的に学ぶ。さらに、人格の障害としてのパーソナリティ障害について、その疾病概念、診断基準、病態、治療等について解説するとともに、他の精神疾患や社会病理としての犯罪との関連について解説する。</p> <p>目的・ねらい：パーソナリティについて理解を深めるとともに、パーソナリティ障害の概念、アセスメント、治療について実践的な方法を学ぶ。</p>	
	人間関係論	<p>授業概要：現代社会の対人関係に関するトピックスを取り上げ、研究の動向を紹介する。</p> <p>目的・ねらい：現代の社会心理学の研究動向を学習し、日常生活の心理現象が社会によって規定されていることを理解し、科学的アプローチの基本的態度を学ぶ。</p>	
	非行・犯罪心理学	<p>授業概要：非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。</p> <p>目的・ねらい：非行・犯罪のリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶ。</p>	
	家族心理学	<p>家族心理学に関する基本的な理論の学習とロールプレイを組み合わせることで、理論を実践的に学習する。まず、家族の構造と関係性、コミュニケーション理論、家族の中で育つ子どもの心、問題のエコシステムックに見立てる方法を学ぶ。その上で、家族・組織の中で困っている状況にある人に対するシステムズコンサルテーションの模擬事例を作成し、ロールプレイを通して学ぶ。</p> <p>目的：ねらい：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族心理学に関する基本的な理論を知る。</li> <li>②家族心理学に関する基本的な理論を、支援の現場に活用するために必要な「システムックなものの方」を身につける。</li> </ol>	
	グループプロセス	<p>授業概要：グループプロセスについて体験的に理解し、学校、組織、地域におけるグループプロセス（グループカウンセリング、相互コンサルテーション、コーディネーション）について知識と方法を獲得する。またコミュニティアプローチをもちいて、グループづくり、傾聴、援助的関わりについて、体験的に学習する。</p> <p>目的・ねらい：グループプロセスの理論や方法論を学ぶこと、およびグループプロセスのファシリテーションを行うスキルを習得することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理・教育アセスメント	<p>授業概要：心理臨床場面においては、まず、問題となる心理・行動を明確にした上で、その原因を探り、解決への糸口を探っていく。この一連の過程の中で、重要な役割を担っているのが心理・教育アセスメントである。本講義においては、まず、心理・教育アセスメントの意義と全体像を理解するために実践例を詳細に報告する。その上で、心理検査の標準化の過程、活用法について知能検査を中心にその理論的背景、実施法、採点法、解釈および活用する方法について学ぶ。その上で、産業領域、学校・教育領域、病院臨床領域、発達・福祉領域におけるアセスメントの実際について学んでいく。</p> <p>目的・ねらい：心理・教育アセスメントの意義と全体像について学ぶ。心理検査の理論的背景及び作成過程について学ぶ。心理・教育アセスメントの実際について学ぶ。</p>	
	ヘルピング・スキル	<p>授業概要：ヒューマン・サービス（心理・医療・教育・福祉・司法・矯正・産業・官公庁）で必要とされる援助スキル全般を学習する。</p> <p>目的・ねらい：カウンセリングとは、言語および非言語コミュニケーションを通して、健常者の行動変化を試みる人間関係である。本授業では、インテークから終結までのCl、Th両者の課題、指針を理解するとともに、以下のスキルを身につける。まず、従来のカウンセリング訓練で行われている探求段階のスキル（初対面のクライアントに接し、クライアント自身が自分自身の思考・感情・行動を積極的に探求していこうとすることを促すコミュニケーション・スキル）を身につける。次に、洞察段階のスキル（クライアント自身が何故その問題が生じ維持しているか理解するスキル）を身につけ、行動段階のスキル（クライアント自身が新しい行動や思考を相談室や生活の中で試し生活改善に役立てていく）へと展開することを実験することを目的とする。</p>	隔年
	カウンセリング方法論	<p>授業概要：対話を用いる対人援助の目的や方法、変容過程について、講義、映像視聴、ディスカッション、演習を通して学ぶ。</p> <p>目的・ねらい：カウンセリングを統合的に行うために必要な、基本的な理論や技法について学ぶ。例えば、クライアントの語りや態度のどこに注目して見立てるのか、共感をどう伝えて関係をどう使うのか、内的な経験を探索する手助けはどのようにするのかなどについて、体験的に学ぶことを目的とする。</p>	
	心理療法	<p>授業概要：心理療法は人間の心まつわる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、心理臨床及び臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について事例研究も交えながら、学習していく。</p>	隔年 集中
	認知行動療法	<p>授業概要：認知行動療法の基礎となる学習理論、その応用となる技法の紹介を行う。さらに認知行動療法における治療の実際について概説する。</p> <p>目的・ねらい：認知行動療法について、理論に基づく基礎知識を身につける。その実際と応用について、事例も交えながら、深く把握する。</p>	集中
	心理診断法	<p>授業概要：心理検査の科学性について解説するとともに、質問紙法検査、知能検査、投映法検査などを紹介する。</p> <p>目的・ねらい：心理診断（査定）の基本的な考え方、目的、方法について体験を通して体系的に学ぶ。</p>	隔年 集中
	心身医学	<p>授業概要：心理社会的ストレスが原因となる神経症、うつ病などの精神性疾患や、種々の身体症状を呈する心身症が増加しつつあり、一般社会、職場、学校などにおけるメンタルヘルスが重要視されるようになって来た。この講義では心身医学、医療心理学の視点より、人間の精神と身体の関係についての理解を深め、ストレスに対する心と体の反応、ストレスと各種疾患の関係、さらにその予防と治療、対策について学習する。</p> <p>目的・ねらい：これらの講義を通して心身の健康管理やストレスの対処法を学び、自分自身のみならず、他人の心をも理解する能力を養いたい。また心理専門家として必要な心身医学の知識の習得を目指す。</p>	隔年 集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理・教育統計法	<p>授業概要：社会科学における統計学の用い方の基礎を解説する。本講義は、「社会調査法」「データ解析法」履修のための基本要件である。</p> <p>目的・ねらい：質問紙や実験等で得られた数量データを統計的に解析する方法を学び、第一に、修士論文作成に備えること、第二に、課程修了後の実務でも広く役立つ統計的な知識やデータの見方を身に付けることを目的とする。</p>	
	社会調査法	<p>授業概要：社会調査のスキル習得のために実習を行う。グループで小規模な調査を行い、データ解析を体験する。本実習は、カウンセリング学位プログラム所属の学生で「心理・教育統計法」を受講済みであることを受講要件とする。</p> <p>目的・ねらい：社会調査の基本的技能（現象の規定要因の整理、質問項目の作成と調査票の設計、データ入力と単純集計、多変量解析、考察とプレゼンテーション）を、実習を通して、学習する。</p>	
	データ解析法	<p>授業概要：研究に必要なデータ解析の具体的な手法について、統計解析ソフト（SPSS）を用いて実習する。本授業は、原則として「心理・教育統計法」「社会調査法」を受講済みであることを基本要件とする。</p> <p>目的・ねらい：質問紙や実験等で得られた数量データを、実際にパソコンと統計解析ソフト（SPSS）を使って解析する方法を学び、修士論文作成に向けての実践的な力を養うことを目的とする。</p>	
	事例研究法	<p>授業概要：実践の問題からはじまる研究の一連の流れと様々な判断のポイントを研究例を参考に解説する。特にグラウンデッドセオリーを中心として質的研究法に焦点を当てる。さらに、実際のデータ収集から分析、その結果をまとめることまで研究の一連の流れを実習する。</p> <p>目的・ねらい：臨床実践における問題や課題を研究につなげ、臨床的妥当性と科学的研究としての質を確保する質的な研究を計画実施するための方法について学ぶ。</p>	集中
	人間行動基礎論Ⅰ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、生物としての人間の行動の生理学的な背景について論議する。</p> <p>目的・ねらい：生物としての人間の行動の生理学的な背景について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅱ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人の言語使用についての諸問題を考察する。</p> <p>目的・ねらい：人の言語使用の諸問題について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅲ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人間の記憶と認知過程について、特に記憶を中心に論議する。</p> <p>目的・ねらい：人間の記憶と認知過程について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅳ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人間の知覚についての諸問題を論議する。</p> <p>目的・ねらい：人間の知覚に関する諸問題について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	<p>授業概要：カウンセリングと心理療法のトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。毎回、本学位プログラムの修了生を講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい：</p> <p>①最新のカウンセリングと心理療法のトピックスについて学ぶ。</p> <p>②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。</p> <p>③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということ具体的に考える。</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	<p>授業概要：家族・福祉カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で家族・福祉カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい：  ①最新の家族・福祉カウンセリングのトピックスについて学ぶ。  ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。  ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	<p>授業概要：学校カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で学校カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい：  ①最新の学校カウンセリングのトピックスについて学ぶ。  ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。  ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	<p>授業概要：産業カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で産業カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい：  ①最新の産業カウンセリングのトピックスについて学ぶ。  ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。  ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング基礎面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室心理相談部主催で行われるケースカンファレンスへの参加ならびに各教員によって行われる実習指導を通じて、相談実習に関する基礎的技術や相談内容のまとめと報告の方法を学ぶ。  ※本実習を履修する場合は、「カウンセリング心理学」を履修済みもしくは履修中であること。  目的・ねらい：相談の実例を通じた学習を通じて、カウンセリング各理論の理解を深めるとともに、相談記録のまとめ方や発表方法に関する基礎的理解を深める。</p>	
	生涯発達カウンセリング応用面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室心理相談部主催で行われるケースカンファレンスへの参加ならびに各教員によって行われる実習指導、同相談室での相談研修活動等を通じて、相談技術の向上とカウンセリング各理論の実践への応用方法を学び、対人援助における基礎的スキルを習得する。  ※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。  目的・ねらい：相談の実例を通じた学習を通じて、諸講義で学んだカウンセリング各理論が実際の相談場面でどのように応用されているのかについての理解を深める。</p>	
	生涯発達カウンセリング特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、生涯発達に関連した相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。  ※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。  目的・ねらい：生涯発達に関連した相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	産業カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、産業・組織領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	非行・犯罪心理学 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、非行・犯罪心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	教育カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、教育に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	家族カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、親子関係及び家族心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	学校カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、学校心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	健康心理カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、健康心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	精神衛生カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、メンタルヘルス領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	臨床心理カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、臨床心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達カウンセリング 実践面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室における相談室事例への継続的な関与とそれに対する指導助言を受けることを通じて、実践的な相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し単位を取得し、特別面接実習のいずれか1科目を選択した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に継続的に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リハビリテーション科学関連科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	<p>目的・ねらい：研究テーマの設定、文献研究を中心に先行文献要約、資料・データの収集・解析、論文の書き方・まとめ方、プレゼンテーションの方法等について理解し、抄録を作成して全体発表会で発表することができる。</p> <p>授業概要：研究能力・論文作成能力を高めるために、担当教員の指導のもとに文献研究を行う。主に研究テーマの設定、文献資料の収集・解析、論文の書き方・まとめ方、プレゼンテーションの方法等について指導を受ける。また、研究成果について学会形式に準じて発表を行い、プレゼンテーション方法について実習し、学習課題について理解を深める。研究テーマは修士論文の作成に向けたものであることが望ましい。研究指導は、2～3名の学生について1教員が対応する個別指導の形式で行う。担当教員と指導日を相談して決める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄の通り。</p> <p>キーワード：生涯発達、研究方法、研究発表</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学, 社会福祉学, 精神神経科学] 認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学, 特別支援教育, 社会心理学, 神経生理学] 学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p>	
	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	<p>目的・ねらい：修士論文研究のテーマの設定、研究計画、資料・データの解析方法等についてグループ指導で検討を深め、研究の意義、研究方法の適切さ、具体的な実施可能性等などについて、充分論考した研究計画を作成することができる。</p> <p>授業概要：第1回目に、2年次の研究テーマや研究計画について学会に準じた形式で発表する（1年次研究計画発表会）。第2回目以降、修士論文の作成を念頭において、研究テーマの設定や方法、研究計画などについてグループ指導を行う。グループごとに数名の教員が担当し、学生を交えて多面的に議論を深め、研究計画等の充実を図る。</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p>	
	リハビリテーション 研究法 I	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、研究デザインを考えると同時に、研究の倫理的な配慮についても学ぶことを目的とする。 授業概要：生涯発達科学の研究法について演習を通して具体的に指導する。 キーワード：修士論文、研究倫理審査</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション 研究法 II	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、調査・実験の実施及びその結果の集計・分析を行い、実践的な研究能力を身につけることを目的とする。 授業概要：生涯発達科学の研究法について演習を通して具体的に指導する。 キーワード：修士論文、集計、分析</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[療育教育・スポーツ領域における療育の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション概説	<p>目的・ねらい：障害児・者に対するリハビリテーションの理論と実践について、横断的・総合的な視点で各分野の概要を理解し、支援のあり方について理解を深める。</p> <p>授業概要：医学、心理学、教育学、社会学等の幅広い観点から、リハビリテーションの発展過程と現代社会における定位を解説するとともに将来へのあり方を展望し、リハビリテーションの理念と実際について概説する。</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(136 原島恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(31 緒方昭広) 専門領域：[療育科教育]ペインクリニック（痛み）科における疾患・症状、鍼通電による精神性発汗の脊髄統合気候に関する研究、療育教育に関する研究、鍼通電と自律神経機能</p>	
	リハビリテーション研究基礎論	<p>目的・ねらい：リハビリテーション関連分野における修士論文作成のために研究法の概要を理解し、論文作成について理解を深める。</p> <p>授業概要：リハビリテーション分野の研究法の基礎として、研究デザイン、学術論文の要件、臨床研究の倫理、実験計画法、調査法、観察法、面接法、質的研究法、事例研究法、文献研究法、検査法などについて概説する。</p> <p>キーワード：生涯発達、生涯発達科学、研究デザイン</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(403 徳竹忠司) 専門領域：[特別支援教育]はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧、末梢循環、視覚障害、特別支援教育</p> <p>(406 濱田淳) 専門領域：[泌尿器科学、泌尿器科学]東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(264 左藤敦子) 専門領域：[特別支援教育、聴覚障害、言語発達、読み書きの発達]インクルーシブ教育、聴覚障害時の読み書きに関する研究</p> <p>(136 原島恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(128 野呂文行) 専門領域：[特別支援教育]応用行動分析学、行動療法</p> <p>(405 名川勝) 専門領域：[社会福祉学、特別支援教育]障害者、地域生活支援、権利擁護、成年後見、意思決定支援</p>	
	リハビリテーション特別研究	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、これまで得られた結果をまとめて、先行文献を参照しながら考察を加え、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションに関する研究を、文献研究、実験実習などを通して具体的に指導する。</p> <p>キーワード：修士論文、論文執筆、最終発表会</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	医学的リハビリテーション	<p>目的・ねらい：さまざまな障害の医学的背景についての理解を深め、包括的なりハビリテーションを実践する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業概要：医学的リハビリテーションをめぐる今日的課題について、医学生物学的側面から制度的な問題まで多面的に検討し、今後のリハビリテーションのあるべき姿を考察する。</p> <p>キーワード：リハビリテーション医学、精神疾患、神経疾患、当事者、チーム医療、連携</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育特講	目的・ねらい：本講義では、特別支援教育の理念及び歴史、社会的・制度的・経営的事項を含めた現状を踏まえ、障害種別ごとの教育の基本的な考えを理解する。 授業概要：特別支援教育の制度、カリキュラムを踏まえて視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、及び発達障害の、その教育の理念と歴史及び現状について解説し、関連諸分野との連携について概説する。	共同
	ダイバーシティ概論	目的・ねらい：ダイバーシティに関する知識、研究動向について理解を深める。 授業概要：ダイバーシティ（LGBT、障害等の多様な状況に対応した社会づくり）をめぐる今日的課題について、多面的に検討し、今後のダイバーシティのあるべき姿を考察する。 キーワード：ダイバーシティ、LGBT、障害	
	職業リハビリテーション	目的・ねらい：職業リハビリテーションの知識、研究動向、研究手法を習得する。 授業概要：障害をもつ人々の85%は、「働く機会さえあれば働きたい」というアメリカの調査結果がある。「働く機会」が十分に創造されていないのはなぜか？本講義では、リハビリテーションそのものへの問いかけから始まり、働くことを手段とする職業リハビリテーションの哲学、職業リハビリテーションの科学、海外における職業リハビリテーションの実践等について紹介し、職業リハビリテーション領域における具体的な研究アプローチを学習する機会を提供する。 キーワード：就労移行支援、競争的雇用、就労継続支援、援助付き雇用	
	地域リハビリテーション	目的・ねらい：地域リハビリテーションの国際及び国内の経過を学び、地域リハビリテーションの内容と実践、その重要性を理解することにより、実践に関われるようにする。あわせて、地域福祉および地域ケア、ケアマネジメントとの関係を理解する。 授業概要：地域リハビリテーションのサービスシステムを検討し、現状と課題を学習する。さらに、地域福祉論と地域ケア論における地域リハビリテーションの位置づけを検討する。 キーワード：地域リハビリテーション、地域福祉、地域ケア、ケアマネジメント	
	統計学	目的・ねらい：基礎的な統計処理能力の向上を目的とする 授業概要：記述統計及び推測統計の基礎を学び、研究デザインに応じた統計解析の手法を選択する力を養う。 キーワード：記述統計、推測統計、尺度、データ収集、データ解析	共同
専門科目	特別支援教育授業論	目的・ねらい：特別支援教育における学級経営や指導計画の立案、授業実践の方法について理解する。 授業概要：特別支援教育の理念に基づき、特別支援学校及び小中学校特別支援学級における学校体制、学級経営、指導計画の立案・作成と評価、授業実践の在り方の実際について考究する。 キーワード：学級経営、個別指導計画、授業評価、授業実践、教材研究	共同
	特別支援教育教育課程論	目的・ねらい： ・学校の社会的役割にもとづく教育課程の編成を考える。 ・教育課程編成に関わる法令・規定等を理解する。 ・特別支援教育における教材論・学習指導の原理等の特徴を知る。 ・各障害別の教育課程の編成や授業実践の特徴を知り、重複障害教育における教育課程を考える。 授業概要：障害児教育における教育課程編成の原理と実際について概説する。とくに、障害の重度化、重複化あるいは多様化の中で、法令や学習指導要領に規定される特例を用いた弾力的な教育課程の編成について整理し、特別支援教育における教育課程の編成及び教育課程開発の在り方について考究する。 キーワード：教育課程編成、学習指導要領、指導原理	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育 コーディネーター論	<p>目的・ねらい：通常の学校等に在籍する障害のある児童生徒に対する支援における特別支援教育コーディネーターの役割と専門性、およびその実際を理解する。</p> <p>授業概要：特別支援学校および小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割と専門性、学校間の協力体制の構築、校内支援体制の構築、コーディネーターの育成について取りあげ講義するとともに、特別支援教育コーディネーターの実際について学ぶ。</p> <p>キーワード：校内体制、特別支援教育コーディネーター、校内委員会、個別の指導計画、個別の教育支援計画</p>	
	障害者福祉論	<p>目的・ねらい：障害者福祉の理念、思想、歴史の流れを理解する。そして、障害者の生活実態を踏まえて、障害者自立支援法等の諸制度を理解する。</p> <p>授業概要：障害および障害者の社会福祉学における概念を理解し、障害者福祉の理念、思想、歴史を理解する。さらに、障害者の生活実態とその生活を取り巻く環境を理解する。障害者総合支援法と関連する諸制度に関する理解を深め、障害者支援に関して学習する。</p> <p>キーワード：障害者福祉、障害者施策、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害</p>	
	職業指導論	<p>目的・ねらい：障害児の職業指導に関する必要な知識を取得し、学校卒業後の職業生活に関する種々の制度等について理解する。</p> <p>授業概要：障害児・者の雇用と就労に関する国内外の動向と法制度の概要、就労支援サービス利用者のニーズ、就労支援・職業リハビリテーション関連機関と関連専門職の役割と機能、就労支援のプロセスと就労支援技術、医療・教育分野との連携について述べる。</p> <p>キーワード：職業指導、キャリア開発、キャリア教育</p>	
	リハビリテーション 事例研究	<p>目的・ねらい：事例報告やディスカッションを通じ、それぞれの専門領域における実践技術の向上、他領域の実践を知るによりリハビリテーションへの理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションの観点から事例を検討し、リハビリテーションにおける連携の諸問題について理解を深め、相談援助のための知識・技術を修得する。</p> <p>キーワード：事例研究、ケーススタディ、連携事例</p>	共同
	特別支援教育 事例研究	<p>目的・ねらい：障害児・者等の事例報告やディスカッションを通じ、それぞれの専門領域における実践技術の向上、他領域の実践への包括的理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業概要：障害児・者等の事例を検討し、事例を中心とした各領域・職種間における連携の諸問題について理解を深めるとともに、相談援助のための知識・技術を修得する。</p> <p>履修条件：専修免許取得予定者に限る</p> <p>キーワード：事例研究、ケーススタディ、連携、移行支援</p>	共同
	視覚障害学特論	<p>目的・ねらい：本講義では、視覚障害の正しい理解と、それに基づく指導・支援の方向について考える視点を明確に持つことをねらいとする。</p> <p>授業概要：視覚障害児・者の感覚・知覚・認知の特性を概観し、医学的・心理学的視点を含めて包括的に発達、学習、教育支援の視点を学ぶ。</p> <p>キーワード：視覚障害 弱視 盲</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	聴覚障害学特論	<p>目的・ねらい：聴覚障害の機序と評価・診断・指導法について学ぶ。さらに、聴覚障害によって生じる幼児期の言語コミュニケーションの課題を理解し、言語発達評価と指導の実際について理解を深める。コミュニケーション障害が、聴覚障害児の生活や生涯発達に及ぼす影響について、受講者の議論を通じた思索を支援する。</p> <p>授業概要：本講では、小児期の聴覚障害児における聴覚認知、言語・社会的相互交渉の特性と障害について、聴覚医学 (Audiology) の観点で、障害の実態とメカニズム、さらに指導法について講義を行う。</p> <p>聴覚障害のリハビリテーションについて、基礎的な用語の解説から、最近の医学的知見に基づいた、聴覚の補償（補聴器・人工内耳）や、コミュニケーション障害の指導、および家族支援の実際まで幅広く講義する。小児のコミュニケーション障害において誤り易い聴覚障害児と知的障害児との共通性と相違点など鑑別に必要な視点について、事例や最近の研究知見をとおして理解を深める。</p> <p>さらに、近年、特別支援教育学や言語聴覚障害学で注目される、新生児聴覚検査による超早期診断、軽中等度難聴児の聞こえとコミュニケーション、心理・社会的適応の課題、手話によるコミュニケーション法の選択などのトピックスに触れ、支援の科学的根拠について議論する。</p> <p>キーワード：聴覚障害、リハビリテーション、言語コミュニケーション障害、生涯発達</p>	
	言語障害学特論	<p>目的・ねらい：言語・コミュニケーション障害にはどのような種類・原因・特徴があり、生活にどのような影響を及ぼしうるか、さらに言語障害に対する指導・支援の実際と研究動向を理解し、専門家および関連職種との役割と責任、研究の方向性について考察する能力を養う。</p> <p>授業概要：まず言語・コミュニケーション障害の種類、言語・コミュニケーション障害に対する評価・診断、治療および支援の枠組みについて概説し、次に小児期から老年期までにわたる各障害の基本概念、原因と発生メカニズム、症状、評価・診断、指導・訓練・相談・マネジメントの方法と実際について概説する。</p> <p>キーワード：言語障害、コミュニケーション障害、リハビリテーション</p>	
	運動障害学特論	<p>目的・ねらい：運動障害のある人のリハビリテーションのアプローチについて説明できる。</p> <p>授業概要：運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、医学的・教育的・心理学的側面から学習する。</p> <p>キーワード：運動障害、リハビリテーション</p>	
	知的障害学特論	<p>目的・ねらい：知的障害に関して、教育および福祉の理念、心理的アセスメント、指導法の理論的背景と概要が理解でき、具体的な支援方法を考えることができることを目標とする。</p> <p>授業概要：知的障害の心理や認知特性、教育課程や指導法、そして福祉制度ならびに評価や支援の実際について概説する。</p> <p>キーワード：知的障害、認知特性、教育課程、福祉制度、支援方法</p>	共同
	精神障害学特論	<p>目的・ねらい：統合失調症と躁うつ病に関する実践的な知識や対応能力を身につける。</p> <p>授業概要：現代における二大精神障害とされる統合失調症とうつ病に関する臨床的・実践的な講義を行う。</p> <p>キーワード：統合失調症、うつ病</p>	
	高次脳機能障害特論	<p>目的・ねらい：高次脳機能障害とそのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>授業概要：高次脳機能障害について、まず総論として概念・方法論について、次に各論として個々の高次脳機能障害についてできるだけ具体的な事例を提示しながら概説し、研究動向とリハビリテーションについても触れる。</p> <p>キーワード：高次脳機能障害、神経心理学、リハビリテーション</p>	
	健康障害学特論	<p>目的・ねらい：各種疾患や社会の諸問題についての理解を深め、リハビリテーションの実践能力を高める。</p> <p>授業概要：健康障害を有する者および高齢者および健康障害を有する者をめぐる諸問題を多面的に検討し、包括的なリハビリテーションのあり方を考察する。</p> <p>キーワード：脳血管障害、神経疾患、老化、高齢者</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高齢障害学特論	<p>目的・ねらい：高齢者をめぐる諸問題についての理解を深め、リハビリテーションの実践能力を高める。</p> <p>授業概要：高齢者をめぐる諸問題を多面的に検討し、包括的なリハビリテーションのあり方を考察する。</p> <p>キーワード：老化、高齢者、虚弱</p>	
	発達障害学特論	<p>目的・ねらい：発達障害を理解し、通常の学校にいる子ども達がどのように支援されるべきかについて学ぶ。</p> <p>授業概要：発達障害を理解する上で必要となる心理学的な知識（認知的な特徴、発達、行動等）、学習上での特徴を取り上げ、さらに、支援のための通常学校でのシステム、教育相談など、指導につなげるためのリソースについても講義する。</p> <p>キーワード：発達障害、学習障害（症）LD、注意欠如多動障害（症）ADHD、自閉スペクトラム障害（症）</p>	
	視覚障害学演習	<p>目的・ねらい：視覚障害教育、医療、福祉、リハビリテーションにおける今日的課題と、その実際における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：視覚障害教育、医療、福祉、リハビリテーションに関する内外の文献及び実際例をもとに、医学的・教育的・心理学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：視覚障害 弱視 盲</p>	
	運動障害学演習	<p>目的・ねらい：リハビリテーションの実践現場における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、内外の文献及び実際例をもとに、教育的・心理学的側面から学習する。小児期から高齢期にいたる運動障害はじめとする障害のリハビリテーションの今日的課題について事例及び文献を通して医学生物学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：運動障害、小児、高齢者、肢体不自由者</p>	
	高齢障害学演習	<p>目的・ねらい：高齢期におけるさまざまな障害の医学的背景についての理解を深め、あわせてリハビリテーションに関係する医療・福祉制度や倫理的課題についても学ぶことにより、包括的なリハビリテーションを実践する能力を身につけることを目的とする。リハビリテーションに関わるさまざまな職種間の理解を深める場としたい。</p> <p>授業概要：高齢期におけるさまざまな障害のリハビリテーションをめぐる今日的課題について、事例及び文献を通して理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：高齢障害、虚弱、リハビリテーション</p>	
	発達障害学演習	<p>目的・ねらい：発達障害教育、医療、福祉、リハビリテーションにおける今日的課題の観点から、子どもの観察や支援における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：発達障害児者の学校場面における様子を観察する時のポイントについて学んだ上で、主に教育相談室に来室した発達障害の子どもとの面接（初回面接ならびに学習支援やSSTなど）に立ち会うなどし、子ども達のニーズを把握するために重要な観察ポイントを学ぶ。それを踏まえて、論文に書かれている子ども達の実態をイメージできるようにする。</p> <p>キーワード：学習障害（症）LD、注意欠如多動性障害（症）ADHD、高機能自閉スペクトラム症ASD、発達障害</p>	
	社会リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：社会リハビリテーションの理論と内容、方法、具体的な実践活動を理解し、実践における応用力を学ぶ。</p> <p>授業概要：社会リハビリテーションの理論に基づいて、社会生活力を高める各種プログラムや、機会均等化、環境改善を進めるための具体的な実践方法や課題を学ぶ。</p> <p>キーワード：社会リハビリテーション、社会生活力、ソーシャルスキル、エンパワメント、社会環境改善</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職業リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：生涯発達科学の視点による職業リハビリテーション関連研究のリーサークエスチョンを探り、その答えを探すための研究デザインを演習から学ぶことを目的とする。</p> <p>授業概要：キャリアデザイン、キャリア移行支援、キャリア開発などをキーワードに、生涯発達科学における職業リハビリテーション研究方法論を演習形式により修得する。研究法に慣れ親しみ、学術論文を読める力を養い、研究計画を策定・実施するために必要な基本能力を養うために、実際に調査票を作成し、仮データに基づいた分析等を行う。</p> <p>キーワード：リーサークエスチョン、研究デザイン</p>	
	リハビリテーションカウンセリング	<p>目的・ねらい：リハビリテーションカウンセリングの研究によって得られた知見がサービスの実践でどのように活かされているか、リハビリテーションサービスの連携役として果たすべき役割と機能とは何かについて学習する。</p> <p>授業概要：リハビリテーションカウンセリングは、障害をもつ人々の総合的な自立生活と自己実現を総合的に支援するカウンセリング心理学の応用科学領域であり、もともとは職業リハビリテーションを総合的にマネジメントするための手法としてアメリカを中心に展開されている。したがって本講義では、アメリカの大学院リハビリテーションカウンセラー教育法を取り入れ、Scientist-Practitionerに必要なスキル習得を目指す。</p> <p>キーワード：リハビリテーション心理学、リハビリテーションサービス管理学</p>	
	リハビリテーション課題研究	<p>目的・ねらい：得られた研究成果について全国規模の学会や研究会で発表し、研究論文を学術誌に投稿することで、それぞれの専門領域における研究課題について研究力向上を図る。</p> <p>授業概要：当年度春学期開始後（2年次の院生は12月1日以降）になされた各自の関連学会等における発表をもとに、その際の議論に基づいて、研究を深める。また、この発表をもとに学会誌等へ論文を投稿する。</p> <p>キーワード：学会発表、論文の投稿</p>	
	リハビリテーション英語	<p>目的・ねらい：リハビリテーションの領域で使われる英語に慣れ親しむことを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションの英語論文を効果的に読む方法、妥当な検索キーワードの選び方、英語の図表の書き方と読み方、正しい英語文献の書き方、国際共同研究の進め方、国際学会プレゼンテーションなどについて実践的に学ぶ。</p> <p>キーワード：Rehabilitation、evidence-based practice、APA、reading statistics、oral presentation</p>	
	国際リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：国際学会発表や国際ジャーナルへの投稿論文執筆に関するスキルを向上することを目的とする。</p> <p>授業概要：英語による学会発表用ポスターの作成、プレゼンテーション技法、アカデミックライティング力を向上するために、グループワークによる演習を行う。</p> <p>キーワード：国際ネットワーク、国際比較研究、国際障害リハビリテーション関連学会</p>	
	質的研究法	<p>目的・ねらい：基礎的な質的研究の手法を学び、研究設問に応じたテキストデータの分析能力を向上することを目的とする。</p> <p>授業概要：グラウンデッドセオリー、修正版グラウンデッドセオリアプローチ、KJ法、内容分析、ケース媒介法、テキストマイニング等、研究デザインに応じた質的分析の手法を選択する力を養う。</p> <p>キーワード：GT、M-GTA、KJ、CM、TEM</p>	
	多変量解析法	<p>目的・ねらい：基礎的な多変量解析の手法を学び、量的研究における多様な統計処理能力の向上を目的とする</p> <p>授業概要：主成分分析、因子分析、重回帰分析、共分散構造分析等、研究デザインに応じた多変量解析の手法を選択する力を養う。原則として「統計学」の受講を前提とする。</p> <p>キーワード：探索的因子分析、確認的因子分析、多変量分散分析、クラスター分析、重回帰分析、共分散構造分析、AMOS</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
フロンティア医科学関連科目	人体構造学概論	<p>目標：人体を構成する各器官の構造について、構成する細胞と組織を含めて理解する。人体を構成する器官（運動器、神経系、感覚器、内分泌系、循環系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系）の特徴について機能と関連づけて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全12回)</p> <p>(490 濱田理人/4回) 運動器（骨格系、筋系）、循環系、呼吸器系の構造について概説する。  (395 首藤文洋/4回) 感覚器、内分泌系、消化器系の構造について概説する。  (79 志賀隆/4回) 神経系、泌尿器系、生殖器系の構造について概説する。</p>	オムニバス方式
	人体構造学実習	<p>目標：人体を構成する運動器、神経系、内臓の構造について理解する。人体を構成する各種器官について、全身における相互の位置関係を含めて論じることができる。</p> <p>(79 志賀隆/3回) 骨学標本を用い骨の構造を修得する。  (79 志賀隆/2回) 人体模型の観察を通して人体の構造を修得する。  (328 増田知之/5回) ご遺体を用いて内臓、脳の観察をする。</p>	
	臨床医学概論	<p>臨床医学の実践は病める人を対象とする。その人の持つ医学的問題点を明らかにし、対応策を講じる。考え得る治療法の中から、その人の価値観と決定に従って最善のものを実行する。</p> <p>目標：医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう基本的な診療能力を身に付ける。同時に患者さんの思いを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(86 正田純一/2回) 医学と医療、臨床研究および神経・筋疾患について臨床的に概説する。  (123 二宮治彦/1回) 輸血及び血液疾患（造血幹細胞、貧血の成因）について概説する。  (106 千葉滋/1回) 輸血および血液疾患（血液疾患の診断と治療）について概説する。  (86 正田純一/2回) 消化器疾患について概説する。  (43 川上康/2回) 内分泌代謝疾患（間脳、下垂体疾患の診断と治療および糖・脂質代謝異常）について概説する。  (376 磯部和正/1回) 検査概論（正常値と基準値）について概説する。  (98 竹越一博/1回) 検査概論（血液生化学検査、腫瘍マーカー）について概説する。  (86 正田純一/2回) 画像診断学（定量的画像解析および3次元画像解析）について概説する。  (66 榮武二/2回) 粒子線の物理学的・生物学的特徴および粒子線治療について概説する。  (281 高橋伸二/1回) 麻酔薬の歴史および吸入麻酔薬と静脈麻酔薬、筋弛緩薬について概説する。  (86 正田純一/2回) 自己免疫病（病因と制御）について概説する。  (382 大原佑介/1回) 外科総論（疼痛制御と感染症予防、輸血の歴史）について概説する。  (5 新井哲明/1回) 内因性精神障害、心因性精神障害および精神障害の生物学的背景について概説する。  (122 西山博之/1回) 男性生殖器とホルモンについて概説する。</p>	オムニバス方式
	医科学特講	<p>目標：最先端医学研究について理解を深め、ヒトの各種疾患や病態を理解する。また、その研究で用いられている最新の研究手法を自身の研究に活かすことを目的とする。最先端の研究成果を理解し説明できる。</p> <p>医学研究の最先端や基礎医学、臨床医学、社会医学の境界を越えた学際的なテーマについてのトピックスを取り上げ、希望によりコースを選択して学習する。各教員が研究者としてどのようなテーマに取り組んでいるかを学びながら、問題点を的確にとらえ、解決するための方法論、その評価法、現代医学の限界や今後の展望について学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医情報処理学特論	<p>目標：いわゆる「電子カルテ」システムの概要について理解する。医療情報とその処理技術が、いかに我が国の現代医療を支え、病院機能並びに、医療安全を支えているかを理解する。現在の我が国の医療の今日的課題に医療情報とその処理技術がいかに役立つかを論じることができる。</p> <p>イントロダクション・総論で解説を行った後、医療と個人情報保護、病院情報システム概説について解説する。また、附属病院医療情報経営戦略部を見学後、「電子カルテ」システムについて、地域連携システムおよび医療情報システム標準化の課題について解説する。さらに、医療安全へのITの活用事例について解説した後、最後に総合討論を行う。</p>	
	医学英語I	<p>The goal of this course is for students to develop the English proficiency they need to effectively and energetically communicate their professional achievements within the international scientific community. To this end, students will be divided into three classes and will take four modules. In the first module, they will study the basics of scientific communication. Thereafter, they will rotate through three modules on scientific writing, scientific presentation, and multimedia communication. Classes will be conducted entirely in English, so students will also hone their listening skills.</p> <p>Upon completion of the course, students will have a foundation for sharing knowledge and ideas with other scientists in English.</p> <p>英語を用いた国際的な科学コミュニケーションスキルを習得し、他の科学者と知識や考えを共有できる英語能力を身に着ける。講義はすべて英語で行うためリスニング能力の向上も図る。</p> <p>本コースは4つのモジュールから成る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学コミュニケーションの基礎</li> <li>(2) 記述</li> <li>(3) プレゼンテーション</li> <li>(4) マルチメディアコミュニケーション</li> </ol>	
	医学英語II	<p>The goal of this course is for students to develop the English proficiency they need to effectively and energetically communicate their professional achievements within the international scientific community. To this end, students will be divided into three classes and will take four modules. In the first module, they will study the basics of scientific communication. Thereafter, they will rotate through three modules on scientific writing, scientific presentation, and multimedia communication. Classes will be conducted entirely in English, so students will also hone their listening skills.</p> <p>Upon completion of the course, students will have a foundation for sharing knowledge and ideas with other scientists in English.</p> <p>英語を用いて他の科学者へ自身の意見を伝え、双方向性のコミュニケーション（ディスカッション）できる英語能力を身に着ける。医学英語IIでは特に医学分野に特化した表現技法の習得を目的とする。講義はすべて英語で行うため、リスニング能力の向上も図る。</p> <p>本コースは4つのモジュールから成る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医学分野における科学コミュニケーションの基礎</li> <li>(2) 記述 (scientific writing)</li> <li>(3) プレゼンテーション (scientific presentation)</li> <li>(4) マルチメディアコミュニケーション</li> </ol>	
	研究マネジメント基礎	<p>目標：研究開発を中心とした各種プロジェクトの推進に必要な様々な基礎専門知識とスキルの基礎を習得する。自分自身の修士論文研究の研究計画の立案、マイルストーンの設定ができる。また、研究推進のためのマネジメントができる。各回の授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) - (2) プロジェクト・マネジメント概論および医学部門で進行中の研究の進め方の実際について解説する。</li> <li>(3) プロジェクトをスムーズに推進するための知識とスキル（意思決定法、マイルストーン管理、リスク・マネジメント、知的財産マネジメントなど）について学ぶ。</li> </ol>	講義 6時間 演習 9時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(4) プロジェクトをスムーズに推進するための知識とスキル（チームプレイ、コミュニケーション力、交渉力、プレゼンテーション力、文章力、企画力など）について学ぶ。</p> <p>(5) - (7) 研究企画演習（グループワーク）</p> <p>(8) - (10) プロジェクト・マネジメント演習（グループワーク）</p>	
	医科学特別演習	<p>修士論文を作成するための研究の実践および指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(2 青沼和隆・56 小池朗・158 本間覚・173 宮内卓) 循環器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(5 新井哲明) 精神医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(13 磯辺智範) 放射線健康リスク科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(18 井上貴昭) 救急・集中治療医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(19 入江賢児) 分子細胞生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(25 大根田修) 再生医学・幹細胞生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(23 大鹿哲郎) 眼科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(41 加藤光保) 実験病理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(43 川上康) 臨床検査学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(66 柴武二) 医学物理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(68 櫻井武) 分子行動生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(69 櫻井英幸) 放射線腫瘍学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(75 佐藤幸夫) 呼吸器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(82 島野仁) 代謝・内分泌内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(86 正田純一) 分子スポーツ医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(90 杉山文博) モデル動物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(95 高橋智) 解剖学・発生学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(98 竹越一博) スポーツ医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(104 田中誠) 麻酔・蘇生学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(106 千葉滋・123 二宮治彦) 血液内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(110 土屋尚之) 分子遺伝疫学・社会健康医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(122 西山博之) 腎泌尿器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(125 野口恵美子) 遺伝医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(126 野口雅之) 診断病理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(129 橋本幸一) 臨床研究地域イノベーション学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(135 濱田洋実) 産婦人科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(140 久武幸司・303 西村健) 遺伝子制御学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(141 檜澤伸之・9 石井幸雄・73 佐藤浩昭) 呼吸器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(144 兵頭一之介) 消化器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(147 平松祐司) 心臓血管外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(159 本間真人) 臨床薬剤学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(149 武川寛樹) 顎口腔外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(162 前野哲博) 地域医療教育学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(163 榎正幸) 分子神経生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(164 増本幸二) 小児外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(168 松崎一葉) 産業精神医学・宇宙医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(176 森川一也) 細菌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(182 柳沢裕美) 血管マトリックス生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(184 山縣邦弘) 腎臓内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(187 山崎正志) 整形外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(224 大林典彦) 生理化学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(304 丹羽隆介) 発生遺伝学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(323 Ho Kiong) 分子寄生虫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(174 村谷匡史・525 山田朋子) ゲノム生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(390 小林麻己人) 分子発生生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(240 川口敦史) 分子ウイルス学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(456 小金澤禎史) 神経生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(79 志賀隆) 解剖学・神経生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(80 設楽宗孝) システム神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動神経内分泌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(169 松本正幸) 認知行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(563 長崎幸夫) バイオマテリアル領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(566 深水昭吉) 分子生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(246 杵村憲樹) 創薬化学・有機化学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(195 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(366 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(259 坂口昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(313 林悠) 脳機能発達学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(223 大庭良介) 細菌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	
	インターンシップI	<p>企業における就業体験を通して、コミュニケーションスキルの重要性を認識し就業意識を高める。働く場での自身を振り返ることで自己理解を深め、自分自身に不足している能力を補うために必要な知識・技術を整理しキャリアパスを形成する。</p> <p>(1) インターンシップ説明会、(2) インターンシップ学習の実施、(3) レポート提出ならびに報告会</p>	
	インターンシップII	<p>研究所における技術開発などの就業体験を通して、研究開発に必要な専門能力の向上と職業意識の啓発の場とする。専門技術が実務の中でどのように活用されているのかを把握し、自身に必要な知識や技術を整理しキャリアパスを形成する。</p> <p>(1) インターンシップ説明会、(2) インターンシップ学習の実施、(3) レポート提出ならびに報告会</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎医科学演習	<p>修士論文研究の遂行上必要となる先端的な研究論文を紹介すると共に、討論することによって自身の研究戦略を明確にすることを目的とする。学生は所属する各研究グループの研究について、以下のことを修得する。</p> <p>(1) 修士論文研究に関連する文献を収集し、その内容について正しく理解し、分析することを学ぶ。</p> <p>(2) 文献の内容についてまとめ、発表・討論することを修得する。</p> <p>(3) 自身の研究に必要なプロトコールを作成し、研究を組み立てることを学ぶ。</p> <p>所属する研究グループとその専門分野は以下のとおりである。</p> <p>(2 青沼和隆・56 小池朗・158 本間覚・173 宮内卓・197 渡邊重行・375 石津智子・394 下條信威・348 村越伸行・49 久賀 圭祐) 循環器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(5 新井哲明・70 佐藤晋爾・305 根本清貴・396 白鳥裕貴・102 太刀川弘和) 精神医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(13 磯辺智範・518 森祐太郎) 放射線健康リスク科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(18 井上貴昭・394 下條信威・415 丸島愛樹) 救急・集中治療医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(19 入江賢児・470 須田恭之・507 水野智亮) 分子細胞生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(25 大根田修・520 山下午晴) 再生医学・幹細胞生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(23 大鹿哲郎) 眼科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(41 加藤光保・274 鈴木裕之・533 渡邊幸秀) 実験病理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(43 川上康・356 山内一由・376 磯部和正) 臨床検査学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(53 熊谷嘉人・629 新開泰弘) 環境医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(66 榮武二・248 熊田博明) 医学物理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(68 櫻井武) 分子行動生理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(69 櫻井英幸・10 石川仁・229 奥村敏之・380 大西かよ子) 放射線腫瘍学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(75 佐藤幸夫・389 後藤行延) 呼吸器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(269 澁谷和子・399 田原聡子・438 小田ちぐさ・485 鍋倉宰) 免疫制御医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(82 島野仁・273 鈴木浩明・167 松坂賢・355 矢作直也・180 矢藤繁・597 中川嘉) 代謝・内分泌内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(86 正田純一) 分子スポーツ医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(90 杉山文博・336 水野聖哉) モデル動物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(311 林太智・332 松本功・391 近藤裕也・400 坪井洋人) 膠原病内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(95 高橋智・247 工藤崇・490 濱田理人) 解剖学・発生学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(98 竹越一博) スポーツ医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(104 田中誠・212 猪股伸一・281 高橋伸二) 麻酔・蘇生学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(209 石井一弘・374 石井亜紀子) 神経内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(106 千葉滋・123 二宮治彦・309 長谷川雄一・260 坂田麻実子・384 加藤貴康・388 栗田尚樹・420 横山泰久) 血液内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(110 土屋尚之・322 古川宏・447 川崎綾) 分子遺伝疫学・社会健康医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(122 西山博之・81 島居徹・387 河合弘二・251 小島崇宏) 腎泌尿器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(125 野口恵美子・512 宮寺浩子) 遺伝医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(126 野口雅之・283 高屋敷典生・385 加野准子) 診断病理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(129 橋本幸一) 臨床研究地域イノベーション学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(135 濱田洋実・339 水口剛雄) 産婦人科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(140 久武幸司・318 福田綾・303 西村健) 遺伝子制御学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(141 檜澤伸之・9 石井幸雄・73 佐藤浩昭・350 森島祐子) 呼吸器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(144 兵頭一之介・204 安部井誠人・409 福田邦明・412 松井裕史) 消化器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(147 平松祐司・261 坂本裕昭) 心臓血管外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(159 本間真人・310 篠野健太郎・401 土岐浩介) 臨床薬理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(149 武川寛樹・181 柳川徹) 顎口腔外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(162 前野哲博・407 瀧野淳) 地域医療教育学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(163 榊正幸・393 塩見健輔・410 榊和子・434 岡田拓也) 分子神経生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(164 増本幸二・284 高安肇・397 新開統子) 小児外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(168 松崎一葉・262 笹原信一郎・429 大井雄一) 産業精神医学・宇宙医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(330 増本智彦・349 森健作) 放射線診断学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(176 森川一也・340 宮腰昌利) 細菌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(182 柳沢裕美) 血管マトリックス生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(184 山縣邦弘・213 臼井丈一・254 齋藤知栄・383 甲斐平康) 腎臓内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(187 山崎正志・119 西浦康正・335 三島初・386 鎌田浩史) 整形外科領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(224 大林典彦・498 船越祐司) 生理化学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(304 丹羽隆介) 発生遺伝学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(323 Ho Kiong) 分子寄生虫学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(174 村谷匡史・525 山田朋子) ゲノム生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(390 小林麻己人) 分子発生生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(240 川口敦史・443 加藤広介) 分子ウイルス学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(456 小金澤禎史) 神経生理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(79 志賀隆・328 増田知之) 解剖学・神経生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(80 設楽宗孝・509 水挽貴至) システム神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動神経内分泌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(169 松本正幸) 認知行動神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(563 長崎幸夫) バイオマテリアル領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(566 深水昭吉) 分子生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(246 杓村憲樹) 創薬化学・有機化学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(195 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(292 鶴嶋英夫) 脳神経外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(366 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(259 坂口昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(313 林悠) 脳機能発達学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(223 大庭良介) 細菌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(15 市川政雄・500 堀愛) 国際社会医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(61 近藤正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(105 田宮菜奈子・425 伊藤智子) ヘルスサービスリサーチ領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(157 本田克也・467 菅野幸子) 法医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子・493 福重瑞穂・58 五所正彦・333 丸尾和司) 臨床試験・臨床疫学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(63 斎藤環・351 森田展彰・431 大谷保和) 社会精神保健学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(111 徳田克己・337 水野智美) 臨床心理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(306 橋爪祐美・435 岡本紀子) 高齢者ケアリング学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(354 柳久子) 福祉医療学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) 国際発達ケア・エンパワメント科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(27 大原信) 医療情報学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(54 倉田昌直) 先端消化器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(382 大原佑介・398 高橋一広) 消化器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(143 人見重美) 感染症内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(156 堀米仁志) 小児科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(217 内田和彦) 分子腫瘍学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(285 竹内薫) 環境微生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(342 宮園弥生・408 福島紘子) 小児科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(344 MIYAMASU Flaminia・506 Mathis Bryan James・516 Mayers Thomas David) 医学英語教育学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(371 和田哲郎) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(416 三好浩稔・379 大川敬子) 医工学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(417 三輪佳宏) 分子薬理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(421 蕨栄治) 環境医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(96 武井陽介・395 首藤文洋) 解剖学・神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(185 山岸良匡) 社会健康医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(482 Togoobaatar Ganchimeg) 国際看護学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(557 田中俊之) 構造生物化学の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 強制教育学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(100 武田文) 健康社会学・ストレスケアマネジメント分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(89 杉江征・200 青木佐奈枝) 臨床心理学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(133 濱口佳和) 発達臨床心理学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	留学生セミナー	<p>This course provides international students with an opportunity to get prepared for disasters they might face in Japan.</p> <p>By the end of this course, students will be able:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- To understand the concept and principles of disaster prevention and preparedness.</li> <li>- To obtain practical skills for disaster prevention and preparedness.</li> </ul> <p>留学生が日本での災害に備えることを目的とする。東京消防署での1日スキルトレーニングを含む2日間のフルセミナーに参加し、このコースを通して、防災の考え方と知識を学び、実践できる能力を身に着ける。</p>	
	医科学セミナーV (キャリアパス)	<p>アカデミアや企業の医科学研究者育成だけでなく、サイエンスコミュニケーター、産官学マネージャー、医系事務官等、様々な分野の医療人育成を目指す。各方面で活躍している外部講師陣による講義・面談、及び、グループディスカッション・ライティングなどの実習を実施する。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の修士論文研究の目的や社会的意義を領域外の人に説明できる。</li> <li>2. 自身の将来計画を説明ができ、その実現のための具体的方策を提言できる。</li> <li>3. 自身のキャリアについて、社会人と意見交換することができる。</li> </ol>	
	医科学セミナーVI (疫学・生物統計学)	<p>疫学や生物統計学に関する講義の補完として、疫学や生物統計学分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、疫学や生物統計学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。また、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。</p> <p>トピック: 疫学、生物統計学</p>	
	人体生理学特論	<p>人体機能のメカニズムに関する様々なトピックを解説する。</p> <p>目標: 人体機能のメカニズムについてさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(80 設楽宗孝/2回) インTRODクシヨンで講義の概要説明の後、視覚認識の脳内メカニズムを解説する。  (456 小金澤禎史/2回) 循環の調節および呼吸の調節を解説する。  (169 松本正幸/2回) 前頭前野と認知機能および中脳ドーパミンニューロンの役割を解説する。  (524 山田洋/2回) 意思決定の神経経済学を解説する。  (509 水挽貴至/2回) 情動とモチベーションの神経機構を解説する。</p>	オムニバス方式
	生化学特論	<p>DNAの複製、転写、翻訳および代謝、細胞周期、細胞シグナル伝達などの分子基盤について解説する。</p> <p>目標: 人体機能の分子メカニズムについて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(318 福田綾/3回) DNA、染色体、ゲノム、転写と遺伝子発現調節、代謝について解説する。  (19 入江賢児/1回) DNAの複製、修復、組換えについて解説する。  (140 久武幸司/1回) 翻訳の機構と調節について解説する。  (393 塩見健輔/2回) 代謝について解説する。  (507 水野智亮/1回) 細胞周期について解説する。  (410 榊和子/1回) 細胞内シグナル伝達について解説する。  (217 内田和彦/1回) 細胞増殖とガンについて解説する。</p>	オムニバス方式
	国際実践医科学研究特論I	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学の研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の活動や研究について英語で説明ができる。</li> <li>2. 活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。</li> </ol>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際実践医科学研究特論II	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <p>さらに、海外の担当者あるいは研究者との短期間の協働研究、調査活動、技術トレーニング等の活動の中で修得した知識や技術を自らの研究課題や将来のキャリアに活かす。活動の中で学んだ国際的な活動あるいは研究の動向を、自身のキャリア計画にどのように生かすかを考えることができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自身の活動や研究について英語で説明ができる。</li> <li>活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。</li> <li>新しいキャリアを開拓できる。</li> </ol>	
	国際実践医科学研究特論III	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <p>複数箇所あるいは長期の主体的な国際活動を行い、その中で見出した医科学分野のニーズや動向および自身の特性に基づき世界の発展や持続に貢献するキャリア計画を構築することのできる視野を身につける。または新たな取り組みを提案し実行に移すことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自身の活動や研究について英語で説明ができる。</li> <li>活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。</li> <li>新しいキャリアを開拓できる。</li> </ol>	
専門基礎科目	人体病理学概論	<p>目標：ヒトの代表的な病気概念と発病のメカニズムの基本を理解する。ヒトの病気の種類とそれぞれの成り立ちの概略を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(126 野口雅之/2回) 病理学で学ぶ事、細胞診断学について概説する  (283 高屋敷典生/2回) 基礎病理と診断病理について概説する。  (41 加藤光保/4回) 循環障害、炎症について概説する。  (126 野口雅之/5回) 腫瘍について概説する。  (126 野口雅之/1回) 免疫・アレルギーについて概説する。  (274 鈴木裕之/1回) 腫瘍について概説する。  (126 野口雅之/1回) 病理診断技術について概説する。  (126 野口雅之/1回) 中枢神経について概説する。  (385 加野准子/1回) 消化器について概説する。  (126 野口雅之/1回) 消化器について概説する。  (126 野口雅之/1回) 腎泌尿器について概説する。</p>	オムニバス方式
	実験動物科学特論・同実習	<p>目標：マウスをはじめとする実験動物の特性、マウスの胚発生、遺伝子改変マウスを用いた最新の研究成果を理解する。動物実験の規制、実施方針、原則を理解し、適正な動物実験計画を立案でき、動物の取扱い、麻酔、投与、試料採取等の基本的な動物実験を実践できる。</p> <p>(1) 動物実験関連法規、ガイドラインについて解説する。(2) 動物実験における苦痛の軽減について解説する。(3) マウス遺伝学について解説する。(4) マウス胚の初期発生について解説する。(5) 遺伝子導入マウスについて解説する。(6) 遺伝子欠損マウスについて解説する。(7) ゲノム編集マウスについて解説する。(8) 生命科学動物資源センター利用法およびマウス・ラットの取扱い、麻酔、投与方法、試料採取法について解説する。(9) マウスの胚操作法、体外授精、マイクロインジェクションについて解説する。(10) In vivo イメージングについて解説する。</p>	
	内科学概論	<p>内科学、小児科学の概要について、特に成人、小児の基本的疾患について疾患概念、発症機序、診断、治療の概要について学ぶ。</p> <p>目標：成人、小児の基本的疾患についてさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(342 宮園弥生/2回) 小児科学 (小児成長発育・栄養、小児循環器・呼吸器) について概説する。  (184 山縣邦弘/1回) 小児科学 (水・電解質・小児消化器) について概説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(184 山縣邦弘/1回) 小児科学 (小児内分泌・代謝) について概説する。</p> <p>(43 川上康/2回) 成人内分泌 (甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・下垂体疾患) について概説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 栄養・代謝 (糖尿病・脂質代謝異常) について概説する。</p> <p>(106 千葉滋・309 長谷川雄一/全2回) 血液学 (造血幹細胞・血球分化・凝固・線溶系・出血傾向、貧血・輸血・造血器腫瘍・骨髄移植) について概説する。</p> <p>(2 青沼和隆・49 久賀圭祐/1回) 循環器病学 (不整脈・心臓突然死・植え込み型除細動器) について概説する。</p> <p>(197 渡邊重行/1回) 循環器病学 (虚血性心疾患・高血圧・心不全 (心臓弁膜症・心筋症)) について概説する。</p> <p>(141 檜澤伸之・350 森島祐子/1回) 呼吸器病学 (気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・間質性肺疾患) について概説する。</p> <p>(184 山縣邦弘・254 齋藤知栄/2回) 腎臓病学 (一次性糸球体疾患・糸球体腎炎症候群・ネフローゼ症候群・二次性糸球体疾患 (代謝性疾患に伴う糸球体病変・血管疾患に伴う糸球体病変・全身性疾患に伴う糸球体病変)、急性腎不全・慢性腎不全・血液透析・腹膜透析) について概説する。</p> <p>(204 安部井誠人/1回) 消化器内科学 (肝炎・肝硬変・肝癌・胆石症・膵炎) について概説する。</p> <p>(144 兵頭一之介/1回) 消化器内科学 (消化器の癌・潰瘍・炎症性疾患) について概説する。</p> <p>(391 近藤裕也/1回) 自己免疫疾患 (関節リウマチ・シェーグレン症候群・全身性エリテマトーデスなど) について概説する。</p> <p>(374 石井亜紀子/1回) 神経疾患 (脳血管障害・神経筋疾患・感染症) について概説する。</p> <p>(184 山縣邦弘/1回) 加齢と神経 (アルツハイマー病・変性疾患) について概説する。</p>	
	外科学概論	<p>外科学の概要を、各科の基本的疾患を中心にそれらの疾患概念、疫学、発症機序、診断、治療の進歩について学ぶ。</p> <p>目標：外科学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(335 三島初/1回) 運動器の機能再建について概説する。</p> <p>(54 倉田昌直/1回) 胆道癌の外科治療について概説する。</p> <p>(75 佐藤幸夫/1回) 増加する肺癌とその手術最前線について概説する。</p> <p>(147 平松祐司/1回) 最前線の小児心臓外科について概説する。</p> <p>(75 佐藤幸夫/1回) 脳神経外科の最先端について概説する。</p> <p>(212 猪股伸一/1回) 麻酔薬と麻酔の進歩について概説する。</p> <p>(18 井上貴昭/1回) ショックの病態生理について概説する。</p> <p>(292 鶴嶋英夫/1回) 脳神経外科とテクノロジーについて概説する。</p> <p>(164 増本幸二/1回) 新生児外科疾患治療の進歩について概説する。</p> <p>(371 和田哲郎/1回) 聴平衡覚の最前線について概説する。</p>	オムニバス方式
	ライフサイエンスにおける病態生化学	<p>代表的疾患のアップデートなトピックスを含め、病因、病態、診断、治療について、分子レベルあるいは遺伝子レベルまでほりさげて生化学的観点から学習する。特に生体内の代謝内分泌制御において重要な働きをもつホルモンやシグナル分子について理解を深め、生命科学研究に必要な様々な生理と病態の理念を学ぶ。</p> <p>目標：臓器や領域を越えたサイエンスにれてもらいたい。生化学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(43 川上康/2回) CaとPの代謝とその異常、甲状腺疾患の生化学について解説する。</p> <p>(597 中川嘉/2回) 肥満の分子病態について解説する。</p> <p>(274 鈴木裕之/2回) 癌遺伝子と癌抑制遺伝子について解説する。</p> <p>(143 人見重美/2回) 感染免疫とエイズの病態について解説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 骨の代謝異常について解説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 神経・筋の代謝とその異常 (神経変性疾患、進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症) について解説する。</p> <p>(180 矢藤繁/2回) 糖尿病の基礎知識と研究トピックス、脂質代謝異常、動脈硬化症の基礎知識と研究トピックスについて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(82 島野仁/2回) エネルギー代謝の転写因子 (生理)、エネルギー代謝と生活習慣病 (病態) について解説する。  (355 矢作直也/2回) ニュートリゲノミクスについて解説する。  (273 鈴木浩明/2回) 内分泌疾患の分子病態 (副腎、脳下垂体) について解説する。</p>	
	臨床検査総論	<p>最新の臨床検査医学に関連する項目を学び、臨床検査が医療と密接に関連することを理解する。  目標：臨床検査の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(376 磯部和正/2回) 臨床検査の基礎 (正常値、感度/得意度、検査後確率) および加齢、栄養評価と臨床検査について解説する。  (384 加藤貴康/1回) 血液一般検査、血液凝固検査と診断治療について解説する。  (356 山内一由/2回) 血液生化学検査と診断治療および先端医療を支える臨床検査について解説する。  (98 竹越一博/1回) 遺伝子検査について解説する。  (43 川上康/2回) 臨床検査と治療および腫瘍マーカーと診断治療について解説する。  (375 石津智子/2回) 超音波検査と診断治療および生理機能検査の現状と未来について解説する。</p>	オムニバス方式
	English Discussion & Presentation I	<p>テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業 (分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論) を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。Iでは、分子細胞生物学をトピックとする。</p> <p>(1) タンパク質の立体配座、ダイナミクス、酵素学、(2) 転写、(3) 遺伝子発現における転写後調節、(4) 遺伝子発現の制御動物における small RNA を介した遺伝子サイレンシング、(5) シグナル伝達、(6) 細胞応答と環境要因への適応 (I) --- 酸素、(7) 細胞の反応と環境要因への適応 (II) --- 発生、(8) 細胞の反応と環境要因への適応 (III) --- 細胞の移動、(9) 細胞応答と環境要因への適応 (IV) --- 細胞死、(10) 細胞間コミュニケーションを解析するための先端技術、(11) 学生による論文発表I、(12) 学生による論文発表II</p>	
	English Discussion & Presentation II	<p>テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業 (分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論) を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。IIでは、がん生物学をトピックとする。</p> <p>(1) がん生物学、(2) RNA制御とその癌との関係、(3) 腫瘍ウイルス学、(4) テロメア生物学、(5) ゲノム不安定性のメカニズムとその癌との関連性、(6) がんのエピジェネティクス、(7) 癌はどのように成長しますか?、(8) 腫瘍の微小環境、(9) 癌細胞におけるシグナル伝達、(10) がんゲノミクス、(11) 癌研究における動物モデル</p>	
	神経科学特論	<p>神経科学分野において重要な論文を読み、内容を深く理解することで、基礎から応用までの幅広い知識を養う。  目標：原著論文を読みこなし、トピックについて論じることができる。さらに、英語によるプレゼンテーション能力が向上し、自身自身の研究分野においても英語で議論ができる。</p> <p>(オムニバス方式/全11回)</p> <p>(183 柳沢正史/1回) カプサイシン受容体：疼痛経路における熱活性化イオンチャネル  (183 柳沢正史/1回) Homer1aは睡眠中の興奮性シナプスを恒常的に縮小する  (313 林悠/1回) 子猫の片側閉眼による生理的影響を受けやすい期  (259 坂口昌徳/1回) 睡眠は洞察力を刺激する  (183 柳沢正史/1回) 不安を選択的に緩和するための分子および神  (502 本城咲季子/1回) Arc / Arg3.1とCaMKII <math>\beta</math> の動的相互作用による不活性シナプスの逆シナプスタギング  (366 LAZARUS MICHAEL/1回) 哺乳類の概日振動子のユニバーサルリセット合図としての温度  (183 柳沢正史/1回) 慢性的な睡眠制限後の神経行動学的力学：一晚の回復に対する用量反応効果  (68 櫻井武/1回) 海馬の波紋はシナプスを下方制御する</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(183 柳沢正史/1回) 性的に二形性の視床下部回路は、母体のケアとオキシトシンの分泌を制御する (183 柳沢正史/1回) 鎮痒 $\kappa$ オピオイド作動薬TRK-820 (塩酸ナルフラフィン)	
	神経科学英語	神経科学研究における英語でのコミュニケーションスキルを涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下のことを学ぶことを目的とする。 ・神経科学英語の基礎知識 ・神経科学研究の基礎的な概念およびコミュニケーション方法 ・神経科学に関する効果的なプレゼン方法 I. 講義：口述および記述による理解と表現、神経科学論文の作製と表し方、神経科学研究の概念とコミュニケーション、神経科学研究の効果的な記述方法 II. テュートリアル：ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	神経回路	中枢神経系における神経回路の基本的な機能について系統的な理解を涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下における神経回路の機能を解析し理解することを目的とする。 ・細胞およびシナプスの機能 ・正常および異常な可塑性 ・個体発生 I. 講義：神経回路の統合原理：中枢性パターンジェネレーター、研究方法、ケーススタディー：歩行神経回路他、可塑性、発達、神経回路の相互作用、神経回路とロボット、 II. ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	認知神経科学	認知と生物学との関係に関する理解を涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下について認知神経科学を理解し、議論することを目的とする。 ・認知過程における分子および細胞変化の関連性 ・認知過程 ・神経科学と認知科学 ・脳活動による認知機能表現 I. 講義：記憶表現、古典的条件付け課題、外傷性脳損傷と認知、宣言記憶、行動計画、前頭前野の機能、ニューロイメージング、線条体と認知 II. プレゼンテーション、課題学習	
	分子細胞神経生物学	分子細胞神経生物学の統計的理解を涵養する。 目的：本コースを通して、以下について理解することを目的とする。 ・細胞および細胞内における神経および脳機能の解析と理解 ・神経およびグリア細胞の機能解析における解剖学的、遺伝学的、生理学的、薬理的、生化学的アプローチ I. 講義：シナプス伝達の電気生理学およびイメージング、推測統計における誤りと混同、神経形態研究における新たな手法、シナプス形成・成熟・可塑性、大脳基底核におけるGABA性神経伝達、シナプス前組織と小胞サイクル、神経モデリング、脳組織における細胞内分画、マイクロRNA、グリア細胞の基礎、アストロサイト、マイクログリア、 II. ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	Scientific Ethis	倫理的行動を定義する科学および法的枠組みで一般的に認められている慣習について学習する。この学習により、学生は多数の倫理的問題とそれらを適切に議論し解決する方法を習得する。そのため、授業では伝統的な講義とソクラテス式問答法を用いた双方向の議論を行う。さらに、グループに別れて議論を行い、その結果をホームワークとしてレポートにまとめる。 (1) クラス紹介と倫理ディスカッション、(2) 一般倫理、(3) 一般科学的問題パートI、(4) 一般科学的問題パートII、(5) ラボの問題パートI、(6) ラボの問題パートII、(7) 科学的不正行為の事例研究その1、(8) 科学的不正行為の事例研究その2、(9) 全トピックの包括的なレビューその1、(10) 全トピックの包括的なレビューその2	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Scientific Critical Reading & Analysis	<p>学術ジャーナルや専門書などの科学的な文献の構造や作法について講義を行うとともに、文献の内容について学生が互いに発表、観察、ピアレビューを行うことで、学生がこれら文献を十分に理解するための読解力を身につけ、またそれを他者に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション技術を向上させることを目的とする。</p> <p>授業の構成は次のとおりである。まず、文献の内容について図表を用いて整理する技術、またそれを他者に伝えるための技術について講義する。次に、個々の学生が文献の内容についてプレゼンテーションを行うとともに、担当教員の監督の下、参加学生間でディスカッションを行う。最後に、未知の課題文献に対する総括的な演習を行う。なお、本授業はすべて英語により実施する。</p> <p>(1) イントロダクション、データと言語I、(2) データと言語II、(3) 学術論文の作法I、(4) 学術論文の作法II、演習、(5) 学術論文の構造と分解、(6)～(8) 文献のプレゼンテーションとディスカッション、(9) 授業の振り返りと集中的なレビュー、(10) 未知の課題文献に対する総括演習</p>	
専門科目	機能形態学特論・同実習	<p>組織学の研究で用いられる基本的な研究手法について、原理と応用を理解する。特に、電子顕微鏡、in situハイブリダイゼーション法、免疫組織化学、神経路トレーシング法を学び、実習では組織の電子顕微鏡観察の実際を学ぶ。</p> <p>目標：形態学の基本的な研究手法について、理論に基づいて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全5回)</p> <p>(96 武井陽介/1回) 細胞構造の可視化について解説する。  (395 首藤文洋/2回) 電子顕微鏡の原理と応用について解説する。  順行性および逆行性神経路トレーシング法の原理と応用について解説する。  (462 佐々木哲也/1回) 免疫組織化学の原理と応用について解説する。  (490 濱田理人/1回) in situハイブリダイゼーションの原理と応用について解説する。</p>	オムニバス方式
	腫瘍学	<p>悪性腫瘍の定義、病因、進展のメカニズムを学ぶ。</p> <p>目標：悪性腫瘍の診断、治療の基盤も理解する。腫瘍の病因、悪性化の機構、および診断治療の基本を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(41 加藤光保/2回) 腫瘍の概念と定義について解説する。細胞周期、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、幹細胞と発がんについて解説する。  (274 鈴木裕之/2回) 化学発がん、増殖抑制、老化、アポトーシスとがんについて解説する。  (126 野口雅之/1回) 細胞増殖について解説する。  (140 久武幸司/1回) 転写とがんについて解説する。  (19 入江賢児/1回) 細胞間接着と細胞運動について解説する。  (126 野口雅之/1回) 腫瘍診断学（内視鏡診断）について解説する。  (126 野口雅之/1回) 腫瘍診断学（放射線診断）について解説する。  (283 高屋敷典生/1回) 腫瘍診断学（組織・細胞診断）について解説する。  (126 野口雅之/1回) 腫瘍診断学（遺伝子診断）について解説する。  (144 兵頭一之介/1回) 腫瘍治療学（化学療法・分指標的治療）について解説する。  (69 櫻井英幸/1回) 腫瘍治療学（放射線治療）について解説する。  (75 佐藤幸夫/1回) 腫瘍治療学（手術療法）について解説する。  (106 千葉滋/1回) 造血器腫瘍と骨髄移植について解説する。  (387 河合弘二/1回) 生殖器・泌尿器の癌について解説する。  (164 増本幸二/1回) 小児のがんについて解説する。  (126 野口雅之/1回) 消化器の癌について解説する。  (126 野口雅之/1回) 神経系の癌について解説する。  (339 水口剛雄/1回) 婦人科の癌について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	薬理学	<p>目標：薬理学の概念と最新の薬理学的研究、創薬技術を理解し説明できる。薬理学に関する基礎的知識を学修する機会を提供している。</p> <p>(1) 薬理学の基本概念を述べることができる。  (2) 受容体とシグナル伝達について説明できる。  (3) 薬物の生体への作用について説明できる。  (4) 薬理学分野の最先端研究に触れ、その内容を理解し説明できる。  (5) 創薬の方法を説明できる。</p> <p>(163 榎正幸/2回) 薬理学概論を説明する。神経系の薬理について解説する。  (434 岡田拓也/1回) 生理活性物質とシグナル伝達について解説する。  (163 榎正幸/1回) 創薬について解説する。  (417 三輪佳宏/1回) 薬物動態学について解説する。  (393 塩見健輔/1回) 神経系の薬理について解説する。  (410 榎和子/1回) 神経系の薬理について解説する。  (224 大林典彦/1回) 循環器系の薬理学について解説する。  (498 船越祐司/1回) 代謝系の薬理について解説する。  (68 櫻井武/1回) 新規神経ペプチドの生理機能について解説する。</p>	オムニバス方式
	ゲノム医学概論	<p>ゲノム科学の基本原則とその医学への応用方法を修得する。</p> <p>目標：ゲノム解析研究、診断・治療におけるゲノム診断とゲノム情報の臨床応用について、方法と課題を論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(125 野口恵美子/7回) ヒトの遺伝子と染色体、その解析法、分子遺伝学的解析法の原理、メンデル遺伝病、ヒトの染色体異常の種類と発生機構、主な染色体異常症および遺伝カウンセリングについて概説する。学期末には試験を実施する。  (174 村谷匡史/2回) 微細欠失/増幅、トリプレットリピート、エピジェネティクスと疾患およびミトコンドリア遺伝病、インプリンティング病について概説する。  (110 土屋尚之/2回) 多因子疾患の遺伝因子および免疫疾患の遺伝因子について概説する。  (322 古川宏/1回) HLAと免疫遺伝学について概説する。  (512 宮寺浩子/1回) パーソナルゲノム医療の原理について概説する。  (125 野口恵美子/1回) 出生前遺伝子診断について概説する。  (98 竹越一博/1回) 臨床検査と遺伝子診断について概説する。  (126 野口雅之/1回) がんの遺伝子診断について概説する。  (176 森川一也/1回) 感染症の遺伝子診断について概説する。  (408 福島絃子/1回) 血液疾患の遺伝子診断について概説する。  (387 河合弘二/1回) 固形がんの遺伝子治療について概説する。  (159 本間真人/1回) ゲノム薬理学について概説する。</p>	オムニバス方式
	医工学概論	<p>医療機器の開発だけでなく、生物学的素材（細胞や組織など）や体内情報の評価・解析にも工学的な視点が活かされていることを理解する。</p> <p>目標：医療機器のしくみと課題、あるいは生体の特性について、工学的な観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(416 三好浩稔/5回) 医工学と生体情報計測、生体電極とトランスデューサー、治療機器について概説する。  (563 長崎幸夫/1回) バイオマテリアルと人工臓器について概説する。  (379 大川敬子/4回) バイオメカニクス、生体材料の力学特性、血液レオロジーと微小循環、細胞のバイオメカニクスについて概説する。</p>	オムニバス方式
	放射線医科学特論	<p>放射線医学を基礎および臨床の両面から理解する。基礎は放射線物理学と生物学に関し、臨床は画像診断学、放射線腫瘍学および核医学を含め、その現状を学習する。また、放射線管理についても習得する。</p> <p>目標：放射線医学の基礎的事項・臨床応用をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(66 柴武二／2回) コースの概説をする。  (472 武居秀行／2回) 放射線物理学と放射線計測学について解説する。  (518 森祐太郎／2回) 放射線生物学と放射線防護学について解説する。  (66 柴武二／2回) 放射線工学と加速器について解説する。  (248 熊田博明／2回) 放射線シミュレーションについて解説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線の利用と安全取り扱いについて概説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線診断の基礎について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線診断の臨床応用について解説する。  (69 櫻井英幸／2回) 放射線腫瘍学の基礎と臨床応用について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線リスクコミュニケーションについて解説する。</p>	
	精神医学概論	<p>精神医学の実践は心を病む人を対象とする。その人の持つ精神医学的問題点を明らかにし、対応策を講じる。考え得る治療法の中から、その人の価値観と決定に従って最善のものを実行する。患者さんの思いと精神医学の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な精神疾患と神経科学に関する基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(5 新井哲明／2回) 精神医学総論について概説する。  (5 新井哲明／1回) 内因性精神障害について概説する。  (221 太田深秀／1回) 認知症・器質性精神障害について概説する。  (396 白鳥裕貴／1回) 精神科救急と精神医療の役割について概説する。  (102 太刀川弘和／1回) 薬物依存症・自殺予防について概説する。  (280 高橋晶／1回) 災害精神支援について概説する。  (5 新井哲明／1回) バイオマーカーについて概説する。  (305 根本清貴／1回) 精神障害の脳画像について概説する。  (5 新井哲明／1回) 睡眠学について概説する。</p>	オムニバス方式
	臨床老年病学	<p>高齢者に多発する疾患について学び、老年病の特異性を理解する。また、高齢社会を迎えた現在、老年病対策の現状を分析し、今後を展望する。</p> <p>目標：臨床老年病学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス形式／全10回)</p> <p>(374 石井亜紀子)／3回) アルツハイマー病の病態機序と臨床について解説する。  (412 松井裕史／2回) 老化と消化管の形態・機能、消化管疾患について解説する。  (374 石井亜紀子)／2回) 高齢者のサルコペニアやフレイルの問題  (354 柳久子／3回) 高齢者の社会保障制度について解説する。</p>	オムニバス方式
	臨床薬理学特論	<p>薬物の効果や副作用には薬物の体内動態（体液・組織中濃度）が関与している。薬物の効果や副作用を理解するために1）薬物体内動態解析法、2）薬物動態を制御する特殊製剤、3）薬物動態に影響する代謝酵素や輸送蛋白の基礎知識と研究方法について学ぶ。</p> <p>目標：薬物の効果や副作用について薬物動態を用いて解析し論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(401 土岐浩介／2回) 臨床薬物動態学、薬物の吸収について解説する。  (310 篠野健太郎／2回) 薬物の組織分布、医薬品開発における薬物動態試験について解説する。  (159 本間真人／4回) 薬物代謝酵素・輸送タンパク、薬物の副作用、薬物間相互作用および治療薬物モニタリングについて解説する。  (159 本間真人／2回) 薬物動態学（トピックス）について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	橋渡し研究概論	<p>医薬品や医療機器（治療器具、医用材料、治療・診断装置など）等の開発・応用において科学技術的シーズが如何にして臨床現場におけるニーズに結びつけられているかの全体プロセスを理解する。併せてそのプロセスの効率的な運用のために必要な各種の先進的技術、経済的要因、各種規制・手続き、人材等について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスについて説明できる。</li> <li>2. 安全性・有効性の科学的実証研究（前臨床研究、臨床研究（治験））の重要性につき説明できる。</li> <li>3. 医薬品・医療機器開発の置かれている社会的状況、開発に関わる関係者・関係機関につき説明できる。</li> <li>4. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスにおいて用いられる技術、知的財産確保の重要性について説明できる。</li> </ol> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（129 橋本幸一／3回）橋渡し研究プロセス概論について概説する。医薬品開発Ⅱ（前臨床試験、臨床試験の進め方）、プロジェクトマネジメントについて概説する。</p> <p>（174 村谷匡史／2回）医薬品開発（探索の進め方）、先進技術（バイオインフォマティクス）について概説する。</p> <p>（129 橋本幸一／1回）医薬品開発の世界的潮流と日本の役割について概説する。</p> <p>（129 橋本幸一／2回）技術イノベーション論、橋渡し研究の実際例について概説する。</p> <p>（292 鶴嶋英夫／1回）橋渡し研究の実際例（医療機器）について概説する。</p> <p>（251 小島崇宏／1回）橋渡し研究の実際例（医薬品）について概説する。</p>	オムニバス方式
	創薬フロンティア科学	<p>現在、製薬企業をはじめとする創薬分野では、従来型の経験や偶発的事象に基づく創薬から、コンピュータシミュレーション技術を駆使した論理的な創薬へとパラダイムシフトしている。つまり、ゲノムワイドでの創薬ターゲットタンパク質分子の同定と創薬リード化合物のin silicoスクリーニング/分子設計及びコンビナトリアルケミストリーなどの手法による化学合成が行われるようになってきている。また、薬物体内動態の評価系や薬物送達系の進展も目覚ましい。このような新薬開発のプロセスを俯瞰的に基礎から理解するとともに、医学-薬学の連関を深めることを目的とする。</p> <p>目標：新薬開発のプロセスの今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創薬の概要について説明できる。</li> <li>2. 低分子化合物について説明できる。</li> <li>3. 構造変換について説明できる。</li> <li>4. in silico解析について説明できる。</li> <li>5. ドッキングシミュレーションについて説明できる。</li> <li>6. 抗体創薬を説明できる。</li> <li>7. ドラッグデリバリーについて説明できる。</li> <li>8. 薬物動態を説明できる。</li> <li>9. 漢方薬について説明できる。</li> <li>10. 創薬開発の問題点を説明できる。</li> </ol>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒトの感染と免疫	<p>感染症を惹起する病原微生物、特に病原細菌とウイルスの生物学的な特性、宿主免疫システム、および病原微生物と宿主の免疫との相互関係を分子レベルで理解する。これらの基本的知識をもとに、ヒトの感染症の制御法を開発する基盤的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌の生物学的特性を説明できる。</li> <li>2. 病原細菌および非病原細菌の特徴を説明できる。</li> <li>3. 細菌の病原性の機構と制御を説明できる。</li> <li>4. 感染症の制御、抗菌剤、薬剤耐性などについて説明できる。</li> <li>5. 寄生虫や真菌の複製機構を説明できる。</li> <li>6. 寄生虫や真菌の病原性について分子レベルで説明できる。</li> <li>7. ウイルスゲノムの複製の分子機構について説明できる。</li> <li>8. ウイルスの病原性について分子レベルで説明できる。</li> <li>9. ウイルス工学の概要を説明できる。</li> <li>10. ウイルスに対する制御メカニズムや戦略を説明できる。</li> <li>11. 免疫システムを構成する細胞や組織を説明できる。</li> <li>12. 抗体の構造と機能を説明できる。</li> <li>13. リンパ球の分化と抗原受容体の遺伝子再構成を説明できる。</li> <li>14. 自然免疫について説明できる。</li> <li>15. 獲得免疫について説明できる。</li> <li>16. 免疫病の病理を説明できる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(176 森川一也/全4回) 細菌の生物学的特性について概説する。/PBL・グループ討論を通して問題解決能力を養う。  (323 Ho Kiong/全2回) 寄生虫や真菌の病原性発現機構および寄生虫や真菌感染の宿主応答について概説する。  (240 川口敦史/全4回) ウイルスの病原性の分子機構について概説する。/PBL・グループ討論を通して問題解決能力を養う。  (269 澁谷和子/全4回) 免疫学入門について概説する。/免疫システム(獲得免疫)について概説する。  (438 小田ちぐさ/全2回) 免疫システム(自然免疫)について概説する。  (399 田原聡子/全2回) 感染症に対する免疫について概説する。  (332 松本功・400 坪井洋人/全2回) 自己免疫病、アレルギーについて概説する。</p>	オムニバス方式
	Stem cell therapy	<p>The objective of this class is to learn basic knowledge and the latest research progress on regenerative medicine and stem cell biology fields by reading original articles. In addition, this class aims to improve individual ability to extract the point at issue of the article and discuss with other participants.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To be able to find and select the appropriate original article from major scientific journals by using online searching system.</li> <li>2. To be able to read and understand the contents of the article, prepare document for the presentation, review the findings of the article within a limited time period.</li> <li>3. To be able to understand the explanation of the presenter, ask question, and have discussion about significance of the articles or problems to be solved.</li> <li>4. To be able to value the importance and scientific position of the selected articles in the related research field.</li> </ol> <p>再生医療と幹細胞生物学の分野の論文を読み、基礎知識と最先端の研究について学ぶ。さらに、論文の論点を抽出し他者と議論する能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オンライン検索システムを使い、主要学術雑誌から適切な論文を探すことができる。</li> <li>2. 論文を理解してプレゼンテーション資料を作成し、限られた時間内で要約することができる。</li> <li>3. 発表者の説明を理解して質問し、問題点について議論できる。</li> <li>4. 関連分野における論文の重要性と位置づけを理解できる。</li> </ol>	
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	<p>目標：医薬品、医療機器、再生医療製品等の医薬品医療機器等法による規制と承認審査について体系的に理解する。医薬品医療機器等法による医薬品等の規制、承認制度、安全対策について説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の薬価制度について説明できる。</li> <li>2. 医薬品副作用被害救済制度について説明できる。</li> </ol>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(1) イントロダクションを説明する。(2) 医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス総論について解説する。(3) 医薬品の規制と審査について解説する。(4) 再生医療等製品の規制と審査について解説する。(5) 医療機器の規制と審査について解説する。(6) 医薬品・医療機器等規制における国際協力関係について解説する。(7) 薬価制度について解説する。(8) 医薬品・医療機器の安全対策について解説する。(9) 医薬品等副作用被害救済制度について解説する。(10) 総括を行う。	
	適正技術教育	<p>現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。それにより、これからの社会で必要とされる問題解決力、現場対応力、起業力を身につける。</p> <p>1. 適正技術の科目の履修に必要な基礎知識（適正技術教育、途上国や過疎地域の現状、フィールド活動等）について、講義と討論により学修する。</p> <p>2. 現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。</p> <p>授業項目：</p> <p>(1) 適正技術教育入門の受講  (2) 現地（途上国、国内過疎地域）へのフィールドトリップ  (3) 途上国向けの製品開発と討議、最終報告会での発表  (4) (1)～(3)のレポートの提出</p>	
	医学物理学詳論IA	<p>医学物理分野において、基礎となる放射線物理学について教授する。</p> <p>目標：放射線の物理特性を理解し、医学・工学双方の観点から幅広い知識と技術を臨床応用できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(66 柴武二／2回) 原子と原子核の構造について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線の分類について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 電離放射線の量と単位について解説する。  (472 武居秀行／2回) 間接電離放射線（光子ビーム）について解説する。  (472 武居秀行／2回) 光子と物質の相互作用について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 間接電離放射線（中性子ビーム）について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 中性子と物質の相互作用について解説する。  (248 熊田博明／2回) 直接電離放射線について解説する。  (248 熊田博明／2回) 直接電離放射線と物質の相互作用について解説する。  (472 武居秀行／2回) 放射性崩壊について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論IB	<p>医学物理分野において、基礎となる放射線計測学について教授する。</p> <p>目標：放射線計測の原理を理解し、目的に応じた線量計の選択および取扱いができる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(13 磯辺智範／2回) 放射線の量と単位について解説する。  (472 武居秀行／2回) 荷電粒子平衡と放射平衡について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 線量測定について解説する。  (518 森祐太郎／2回) 熱量計による線量測定と化学（フリッケ）線量計について解説する。  (472 武居秀行／2回) 空洞理論について解説する。  (472 武居秀行／2回) 電離箱について解説する。  (518 森祐太郎／2回) 電離箱線量計による光子および電子ビームの校正について解説する。  (66 柴武二／2回) 相対線量測定技術について解説する。  (472 武居秀行／2回) パルスモード検出器について解説する。  (66 柴武二／2回) 計数と統計について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医学物理学詳論II	<p>医学物理分野の治療領域における臨床応用の一部として、放射線治療物理学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線治療技術全般について正しく説明できる。</li> <li>2. 放射線治療関連装置・機器の精度管理を行うことができる。</li> <li>3. リスクを最小限にした放射線治療の計画を立てることができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(66 榮武二/2回) 放射線治療に関わる物理のミニマムエッセンスについて解説する。  (13 磯辺智範/2回) 放射線治療に関わる技術のミニマムエッセンスについて解説する。  (13 磯辺智範/4回) 放射線治療関連装置・機器について解説する。  (472 武居秀行/2回) 放射線治療に関わる放射線計測について解説する。  (66 榮武二/2回) 吸収線量と線量分布計算について解説する。  (248 熊田博明/4回) 治療計画手法について解説する。  (248 熊田博明/2回) 中性子捕捉療法について解説する。  (13 磯辺智範/2回) 放射線治療に関わる品質管理について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論III	<p>医学物理分野の診断領域における臨床応用の一部として、放射線診断および核医学に関する物理学および診断学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種画像検査機器の原理について正しく説明できる。</li> <li>2. 各種画像検査におけるイメージング手法および解析法について説明できる。</li> <li>3. 核医学における放射性医薬品の性質を理解し、安全に取扱うことができる。</li> <li>4. 各種画像診断装置の特性を理解し、疾病ごとに適切なモダリティを選択することができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(13 磯辺智範/16回) X線撮影・透視、X線CT、磁気共鳴、超音波、測定装置(核医学)、核医学イメージング装置の性能評価と保守管理、画像診断学総論、脳神経の画像診断、頭頸部の画像診断、呼吸器の画像診断、乳腺の画像診断、消化器の画像診断、泌尿器の画像診断、婦人科の画像診断、骨軟部の画像診断、造血器の画像診断および小児の画像診断について解説する。  (66 榮武二/2回) 放射性同位元素、トレーサ動態・定量解析について解説する。  (248 熊田博明/1回) 放射性医薬品について解説する。  (66 榮武二/1回) 画像処理(核医学)について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論IV	<p>医学物理分野の情報工学における臨床応用の一部として、情報処理や画像工学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータシステムに必要な各種理論を説明できる。</li> <li>2. 医療情報システムについて説明できる。</li> <li>3. 運用性と安全性を考慮し、理想的な医療情報システムの実践プランを提案できる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(66 榮武二/2回) 情報理論について解説する。  (66 榮武二/2回) 信号理論について解説する。  (66 榮武二/2回) 画像工学について解説する。  (66 榮武二/2回) コンピュータシステムについて解説する。  (248 熊田博明/4回) 医療情報システム(情報処理学)について解説する。  (472 武居秀行/2回) 医療における情報について解説する。  (472 武居秀行/2回) 医療情報学について解説する。  (13 磯辺智範/2回) 放射線治療における情報について解説する。  (472 武居秀行/2回) セキュリティについて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医学物理学詳論V	<p>医学物理学の応用として、放射線生物学と放射線腫瘍学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線による細胞の損傷、回復、さらに放射線と化学療法剤や温熱療法との相互作用、増感効果を説明できる。</li> <li>2. 腫瘍の成り立ちとメカニズムについて説明できる。</li> <li>3. 各領域の放射線治療法の概要を説明できる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(69 櫻井英幸／2回) 放射線腫瘍学の総論について解説する。  (13 磯辺智範／2回) 放射線治療技術と方法について解説する。  (229 奥村敏之／6回) 脳神経、頭頸部、呼吸器、乳腺、および小児の放射線治療について解説する。  (10 石川仁／4回) 泌尿器、骨軟部および造血器の放射線治療について解説する。  (69 櫻井英幸／4回) 消化器および婦人科の放射線治療について解説する。  (66 榮武二／2回) 放射線の人体への影響について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理問題解決型演習	<p>医学物理学は物理工学の知識と成果を医学に応用する分野である。この分野に携わる研究者は、何か問題が生じたときに解決手段を見出す能力を持たなければならない。本演習では、幾つかの課題を解くことで、医学物理分野における種々の問題を解決する能力を養う。</p> <p>目標：臨床の医学物理分野における種々の問題を解決できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(66 榮武二／6回) 医学物理学分野の論文抄読、放射線防護に関する理論および放射線検出器の制作について学ぶ。  (13 磯辺智範／6回) 医学物理学分野の演習問題、画像検査分野に関する理論および核医学分野に関する理論について学ぶ。  (66 榮武二／2回) 医用画像処理等の理論について学ぶ。  (66 榮武二／4回) 放射線計測、標準測定、患者線量校正等の理論について学ぶ。  (248 熊田博明／2回) 放射線治療分野に関する理論について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	医学物理問題解決型実習	<p>医学物理学は物理工学の知識と成果を医学に応用する分野である。この分野に携わる研究者は、何か問題が生じたときに解決手段を見出す能力を持たなければならない。臨床現場で生じる問題を想定したテーマの実習により、問題解決型の実用的な知識と技術を養う。</p> <p>目標：臨床の医学物理分野における種々の問題を解決できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(13 磯辺智範／8回) X線の発生と装置の出力、散乱X線の除去、撮影と透視の品質管理、超音波、磁気共鳴イメージング (MRI) 装置、コンピュータ断層撮影 (CT) 装置、放射性同位元素の放射能測定装置および個人線量計 (中性子) について学ぶ。  (66 榮武二／4回) シンチレーションカウンタ、吸収線量測定、光子線 (基本的な線量記述用語) および電子線治療について学ぶ。  (66 榮武二／4回) ガンマ線スペクトロメータ (NaI)、シンチレーション検出器によるサンプル分析、個人線量計 (光子、電子) および放射線機器について学ぶ。  (66 榮武二／2回) 線形加速器からの漏洩放射線、線量評価および品質保証/品質管理について学ぶ。  (248 熊田博明／2回) 中性子サーベイ機器、遮蔽計算および確率的サンプリングによる粒子輸送について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境医学概論	<p>環境中には多くの化学物質が存在し、人体に重大な影響をもたらす。しかし、近年の分子学的研究が明らかにしているように、環境科学物質への曝露が引き起こす疾病は、少なくともその一部が、生体中のタンパク質のようなマクロ分子との相互作用に起因する。本講義では、環境科学物質への曝露がもたらす諸症状と、それら物質への初期反応と細胞防御について学ぶ。</p> <p>目標：環境医学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(1) 概論 (2) 環境物質の化学的特性について概説する。(3) 環境化学物質の解毒および代謝活性化-1について概説する。(4) 環境化学物質の解毒および代謝活性化-2について概説する。(5) 環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-1について概説する。(6) 環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-2について概説する。(7) 環境中発がん物質について概説する。(8) 遺伝的多型について概説する。(9) エクスポソーム-1について概説する。(10) エクスポソーム-2について概説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学関連科目 基礎科目	疫学概論	<p>健康ないし疾病の要因について人間集団を対象にして宿主 (host)、病因 (agent)、環境 (Environment) の各面から包括的に究明し、法則性を見いだす疫学の原理について学ぶ。</p> <p>目標：初歩的な研究デザインについて概観し、人間集団を対象とした研究を行う際の研究実施計画の重要性を理解する。疫学の基本を理解し、その基本的手法と用法について説明することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/6回) 疾病とその予防に関する疫学的アプローチ、疾病頻度の測定 (罹患と死亡)、診断検査の妥当性と信頼性の評価、ランダム化比較試験、疫学と公共政策および疫学における倫理的課題について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/4回) コホート研究、ケースコントロール研究、因果関係の推論 (バイアス、交絡、相互作用) および疾患における遺伝要因と環境要因の役割について解説する。</p>	オムニバス方式
	医生物統計学概論	<p>目標：医学研究で用いられる統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学研究のタイプを指摘できる。</li> <li>2. 統計手法の基礎および手法の原理を説明できる。</li> <li>3. 確率と確率分布の意味を説明できる。</li> <li>4. 研究目的が定まったとき、相応しい評価項目のデータの形、および相応しい解析手法を選択できる。</li> <li>5. 解析結果等解釈が困難な結果に対し、解決への考察ができる。</li> </ol> <p>(1) 医学研究の紹介、医学研究の分類について概説する。(2) データの記述について概説する。(3) 確率と確率分布について概説する。(4) 推定と仮説検定について概説する。(5) 群間比較について概説する。(6) 相関分析と線形回帰分析について概説する。(7) カテゴリカルデータ解析について概説する。(8) ロジスティック回帰分析について概説する。(9)-(10) 生存時間解析について概説する。</p>	共同
	医生物統計学実習	<p>目標：統計解析ソフトウェアSAS OnDemand for Academicsを使用した医学データ解析の考え方や解析手法を習得する。SAS OnDemand for Academicsを使用して基本的なデータ操作、統計解析を行い、結果の解釈を行うことができる。</p> <p>(1) 操作方法、基礎文法について学ぶ。(2) データセットの作成と管理について学ぶ。(3) 記述統計とデータの可視化①について学ぶ。(4) 記述統計とデータの可視化②について学ぶ。(5) 仮説検定と群間比較について学ぶ。(6) 線形回帰分析について学ぶ。(7) カテゴリカルデータについて学ぶ。(8) ロジスティック回帰分析について学ぶ。(9) 生存時間解析について学ぶ。(10) 付加的話題とまとめ</p>	共同
	公衆衛生学特別演習	<p>修士論文を作成するための研究の実践および指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(15 市川政雄) 国際社会医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(61 近藤正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(105 田宮菜奈子) ヘルスサービスリサーチ領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(157 本田克也) 法医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子) 臨床試験・臨床疫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(58 五所正彦) 生物統計学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) ヘルスプロモーション領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(63 斎藤環) 精神保健学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(351 森田展彰) 社会精神保健学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(168 松崎一葉) 産業精神医学・宇宙医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(111 徳田克己) 臨床心理学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(337 水野智美) 臨床心理学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(306 橋爪祐美) 高齢者ケアリング学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。	
	疫学・生物統計学セミナー	疫学や生物統計学に関する講義の補完として、関連する教科書を読み、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。 目標：疫学や生物統計学の手法やその応用についてさまざまな観点から論じることができる。	共同
	量的研究の批判的評価法	The course will provide students with experience in critically appraising a range of research methods and familiarize them with a variety of bio-statistic approaches. Students will use a variety of frameworks to critically appraise literature from their chosen field of study and examine and discuss the implications for evidence-based practice.  この科目では、科学論文において使用された手法や解析について、クリティカル・アプレイザルを行う機会を提供する。それぞれの専門領域におけるクリティカル・アプレイザルのフレームワークを応用して、エビデンスに基づく実践について議論を行う。	
	システマティックレビュー・メタアナリシス入門	Systematic reviews and meta-analyses are useful for decision-making as well as evidence-based clinical and public health practice. This course will provide a detailed description of the systematic review process, discuss the strengths and limitations of the method, and provide step-by-step guidance on how to perform a systematic review and meta-analysis. Specific topics to be covered include: formulation of the review question, searching of literature, quality assessment of studies, data extraction, meta-analytic methods, assessment of heterogeneity and report writing. RevMan statistical software will be used to perform meta-analysis during the computer lab, along with tutorials on how to effectively use tools such as PubMed for conducting reviews.  システマティックレビューやメタ解析は、エビデンスに基づく臨床や公衆衛生実施を含め、意思決定のために大変有用な手法である。この科目では、システマティックレビューに関する詳しい説明を段階を踏んで行う。また、その強みや限界についても討議する。レビュークエスションの作成、文献検索、研究の質の評価、データ抽出、メタ解析手法や報告書作成についてを含める。RevMan統計ソフトを利用し、PubMedによるレビューやメタ解析演習を行う。	
専門科目	健康行動科学論	目標：ヘルスプロモーションの概念および保健行動の変容の理論と方法を環境ストレス各分野での実例を通して理解する。保健行動の変容について様々な観点から論じることができる。  (オムニバス方式/全10回)  (262 笹原信一郎/2回) ヘルスプロモーションの概念と健康生成論について解説する。 (429 大井雄一/1回) ヘルスビリーフモデルと対人関係ストレスについて解説する。 (479 道喜将太郎/1回) 変化のステージモデルと復職支援について解説する。 (351 森田展彰/1回) プリシードプロシードモデルと家族関係におけるストレス・児童虐待について解説する。 (63 斎藤環/2回) 自己効力感と社会的引きこもり、ソーシャルサポートとコントロール所在とオープンダイアログについて解説する。 (431 大谷保和/1回) ストレス、ストレス対処と薬物依存について解説する。 (168 松崎一葉/10回) 計画的行動モデルとハラスメントについて解説する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	疫学特論	<p>疫学の原理と応用について学ぶ。情報科学や統計科学を用いて行われる疫学研究や臨床研究への応用についても学び、EBM (Evidence-Based Medicine) の研究に役立たせる。また、疫学的手法を用いた演習を実施し、疫学の実際を理解する。</p> <p>目標：疫学研究の目的、方法、解析結果とその意義について説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/10回) 研究をデザインする、リサーチクエスチョン、サンプリングとリクルートメント、測定方法(精度と正確性)およびサンプルサイズとパワーについて解説する。</p> <p>(196 我妻ゆき子/2回) がんの疫学研究について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/8回) コホート研究をデザインする、ケースコントロール研究をデザインする、ランダム化比較試験をデザインする、質問調査法をデザインする。</p>	オムニバス方式
	臨床試験論	<p>臨床試験は病気に対する新しい治療法や薬の安全性・有効性を検証するために行われる、ヒトを対象とした医学研究である。臨床試験は厳密な科学性と倫理性を兼ね備える必要があるため、GCP (Good Clinical Practice) と呼ばれる基準に則って実施される。本講義ではGCPに沿って臨床試験のデザインから実行までを概観する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. GCPに準拠した臨床試験の実施ステップについて説明できる。</li> <li>2. 臨床試験に関する倫理指針を理解し、適切な研究デザインを企画し、実施するための研究プロトコルを作成できる。</li> <li>3. 臨床試験の実際に関する内容を理解し、その意義と欠点を理解し、その向上のためになる質問や討論することができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/3回) 臨床研究に関する倫理、GCPについておよびプロトコル作成について解説する。</p> <p>(58 五所正彦/1回) 臨床試験における生物統計について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/1回) 臨床試験の品質保証について解説する。</p> <p>(196 我妻ゆき子/1回) 臨床試験におけるデータマネージメントについて解説する。</p>	オムニバス方式
	ヘルスプロモーション	<p>ヘルスプロモーション、アドボカシー、コミュニケーション、エンパワメントの理論と実践について、多面的な研究成果を活用し取得することを目的とする。</p> <p>目標：ヘルスプロモーションの今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(1) ヘルスプロモーション国際動向、(2) ヘルスプロモーション理論、(3) ヘルスプロモーション方法、(4) ヘルスプロモーション技術、(5) エンパワメント理論、(6) エンパワメント技術、(7) ヘルスプロモーションとアドボカシー、(8) ヘルスプロモーションとコミュニケーション、(9) ヘルスプロモーション演習1、(10) ヘルスプロモーション演習2</p>	
	環境保健学	<p>環境保健学的方法論の一つである疫学の基礎を理解し、気候変動の健康影響など、環境疫学に関する問題群に関する知識を得る。</p> <p>目標：健康に影響を与える基本的な環境疫学の問題について説明することができる。</p> <p>(1) Introductionと疾病発生の計測について解説する。(2) 因果モデルについて解説する。(3) 誤分類、validity &amp; precisionについて解説する。(4) 研究デザインと解析について解説する。(5) 各論：大気汚染について解説する。(6) 各論：水汚染について解説する。(7) 各論：放射線、電磁場について解説する。(8) 内分泌攪乱化学物質について解説する。(9) 各論：地球環境変化の健康影響Iについて解説する。(10) 各論：地球環境変化の健康影響IIについて解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医生物統計学特論	<p>目標：生物統計に関する専門書 Applied Survival Analysis の抄読会を通し、統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生存時間解析の原理や結果を理解できる。</li> <li>2. 生存時間データの解析に対して適切な統計手法を選択することができる。</li> <li>3. 生存時間解析における結果の解釈を正しく説明できる。</li> </ol>	共同
	保健医療政策学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療政策論の基礎を学び世界の保健システムの課題を学ぶ。</li> <li>2. わが国の保健医療制度の現状と課題を学ぶ。</li> </ol> <p>目標：保健医療システムについて、基礎的な理論を踏まえたうえで、保健医療政策学的な視点から論じることができる。</p> <p>(1) 健康、保健医療、政策について解説する。(2) 健康の決定要因と政策について解説する。(3) 国家の役割と保健システムについて解説する。(4) 日本の医療提供制度について解説する。(5) 日本の医療保障制度について解説する。(6) 保健医療政策学の実践について解説する。(7) グローバルヘルスポリシーについて解説する。(8) 保健医療政策過程論について解説する。(9) 保健医療計画論について解説する。(10) 健康政策、保健医療政策の広がりについて解説する。</p>	
	医療管理学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国の保健医療介護サービスの管理に必要な制度を学ぶ。</li> <li>2. わが国の保健医療介護福祉のサービスの実態を学ぶ。</li> <li>3. 保健医療介護 サービス管理の視点からヘルスサービリサーチを学ぶ。</li> </ol> <p>目標：保健医療介護福祉の制度とその現場での管理について、基礎的な理論を踏まえたうえで、ヘルスサービリサーチの視点から論じることができる。</p>	
	医療経済学	<p>医療経済学の基礎として、ミクロ経済学や厚生経済学の健康への応用を解説する。</p> <p>目標：保健医療システムをサービスの市場としての理解できる。保健医療サービスの経済評価を吟味できる。</p> <p>(1) 保健医療とお金・景気について解説する。(2) 医療保険の経済学について解説する。(3) 需要の法則について解説する。(4) 生産理論について解説する。(5) 市場メカニズムについて解説する。(6) 医療供給者の行動について解説する。(7) 厚生経済学入門について解説する。(8) 保健医療サービスの経済評価について解説する。(9) 衡平性：正義と公正について解説する。(10) 総合討論を行う。</p>	
	ヘルスサービリサーチ概論	<p>本講義では、保健医療福祉分野の各職種において、自らのサービス（病院だけでなく、施設ケア、在宅ケアも含む）の質を科学的に評価・分析し、日常業務に還元し、さらには学術論文に発展させる方法の初歩を取得することを目的とする。</p> <p>目標：保健医療福祉サービスに関する今日的課題をヘルスサービリサーチの視点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス形式／全10回)</p> <p>(105 田宮菜奈子／1回) サービスの質の評価の概念とヘルスサービリサーチ  (425 伊藤智子／1回) Andersonモデルと生存分析、法医学データ  (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービリサーチの実際  (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービリサーチの医療政策への応用  (105 田宮菜奈子／1回) 臨床医学とヘルスサービリサーチ  (105 田宮菜奈子／1回) 薬剤ヘルスサービリサーチ  (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービリサーチに必要な統計学  (105 田宮菜奈子／1回) 内的妥当性とヘルスサービリサーチ  (105 田宮菜奈子／1回) 公衆衛生とヘルスサービリサーチ  (105 田宮菜奈子／1回) まとめ</p>	オムニバス形式
	精神保健学	<p>目標：精神健康の問題を持つ人の評価や援助における基本的な概念、手法および社会的なシステムを理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレスのメカニズムや評価について、説明できる。</li> <li>2. 心理学的な発達や危機について説明できる。</li> <li>3. メンタルヘルスケアを行う方法について説明できる。</li> <li>4. 精神障害を持つ人の現状や援助システムについて説明できる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全10回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(63 斎藤環／3回) 発達障害、不登校・ひきこもり、人格障害について解説する。  (351 森田展彰／3回) 精神医学入門、児童虐待、自殺について解説する。  (431 大谷保和／3回) ストレスとメンタルヘルス、心理発達、心理療法について解説する。  (63 斎藤環／1回) アルコール・薬物乱用について解説する。</p>	
	高齢者ケアリング学特論	<p>高齢者とその家族及び地域社会を対象にしたヒューマン・ケアリングの意味と効果を探求するために、その研究方法として質的研究法およびミックス法の理論と実際を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(306 橋爪祐美／4回) 超高齢社会におけるヒューマンケアリングの探求の意味、高齢者の家族・地域社会を対象としたミックス法による研究について解説する。  (435 岡本紀子／4回) 高齢者を対象としたミックス法による研究について解説する。  (306 橋爪祐美・435 岡本紀子／2回) 質的研究法およびミックス法を使用したデータ分析の実際について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ニューロサイエンス関連科目	基礎科目 Seminar for Career Development キャリアプランセミナー	前期課程における科目履修の方法、必要単位、修了要件についての理解を促す。特に、修士論文研究資格審査、最終審査の内容と準備の方法について指導する。その上で、修士取得に向けて、課程修了後のキャリア形成プランも含めて、各自で計画を立案する。一部は学位プログラム宿泊（1泊2日）として行う。	共同
	専門基礎科目 Introduction to Neuroscience A 神経科学基礎論A	指定の教科書に沿って、分子・細胞神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、分子・細胞神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。  (オムニバス方式/全10回)  (169 松本正幸/1回) 1. Introduction, イントロダクション (357 山田一夫/1回) 2. Structure of the Central Nervous System, 中枢神経系の構造 (96 武井陽介/1回) 3. Neurons, 神経細胞 (502 本城咲季子/1回) 4. Action Potential, 活動電位 (502 本城咲季子/1回) 5. Midterm Review/Discussion (633 鶴田文憲、395 首藤文洋/1回) (共同) 6. Synapses I, シナプス I (645 佐藤主税・656 三尾和弘/1回) (共同) 7. Synapses II, シナプス II (79 志賀隆/1回) 8. Development of the Nervous System I, 神経系の発生 I (328 増田知之/1回) 9. Development of the Nervous System II, 神経系の発生 II (328 増田知之/1回) 10. Final Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
	Introduction to Neuroscience B 神経科学基礎論B	指定の教科書に沿って、システム神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、システム神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。  (オムニバス方式/全10回)  (80 設楽宗孝/1回) 1. Visual System, 視覚 (4 綾部早穂/1回) 2. Smell and Taste, 味覚・嗅覚 (456 小金澤禎史/1回) 3. Motor System I, 運動制御 I (452 國松淳/1回) 4. Motor System II, 運動制御 II (452 國松淳/1回) 5. Midterm Review/Discussion (524 山田洋/1回) 6. Cerebellum and Basal Ganglia, 小脳と大脳基底核 (313 林悠/1回) 7. Brain Stem, 脳幹 (509 水挽貴至/1回) 8. Motivation and Emotion, 意欲と情動 (366 LAZARUS MICHAEL・430 大石陽/1回) (共同) 9. Sleep and Biological Rhythm, 睡眠とリズム (524 山田洋/1回) 10. Final Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
Introduction to Neuroscience C 神経科学基礎論C	指定の教科書に沿って、行動・認知神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、行動・認知神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。  (オムニバス方式/全10回)  (646 高島一郎/1回) 1. Neurological Disorders and Repairment, 神経疾患と脳の修復 (462 佐々木哲也/1回) 2. Neurotransmitter and Neuropharmacology, 神経伝達物質と神経薬理学 (34 小川園子/1回) 3. Hormones and Behavior, ホルモンと行動 (279 高橋阿貴/1回) 4. Genes and Behavior, 遺伝子と行動 (279 高橋阿貴/1回) 5. Midterm Review/Discussion (236 加藤克紀/1回) 6. Early Experience and Neural Development, 初期経験と発達 (259 坂口昌徳/1回) 7. Learning and Memory I, 記憶と学習 I (203 阿部高志/1回) 8. Learning and Memory II, 記憶と学習 II (653 武田裕司/1回) 9. Basic Concepts in Cognitive Neuroscience, 認知神経科学の基礎	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(203 阿部高志/1回) 10. Final Review/Discussion 2 classes	
	Introduction to Neuroscience D 神経科学基礎論D	指定の教科書に沿って、障害・臨床・支援神経科学の領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、障害・臨床・支援の神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。  (オムニバス方式/全10回)  (305 根本清貴/1回) 1. Introduction to Psychiatry, 精神医学概論 (377 井出政行/1回) 2. Psychiatric Disorders I, 精神疾患I (221 太田深秀/1回) 3. Psychiatric Disorders II, 精神疾患II (5 新井哲明/1回) 4. Neurodegenerative Disorders, 神経変性疾患 (221 太田深秀/1回) 5. Midterm Review/Discussion (360 山中克夫/1回) 6. Dementia, 認知症 (227 岡崎慎治/1回) 7. Developmental Disorders, 発達障害 (80 設楽宗孝・534 秋山英三/1回) (共同) 8. Decision-making, 意思決定 (642 岩木直/1回) 9. Non-Invasive Measurements of Brain Function, 非侵襲脳機能測定 (360 山中克夫/1回) 10. Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
	Research Proposal Writing in English 1 基礎科学英語1	履修学生各自の研究内容に関する口頭発表と質疑応答などからなる基礎英語コミュニケーション演習で、英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となって行う。「修士論文研究の英語プロポーザル及び修士論文英語アブストラクト」を作成するに足る基礎科学英語力、論理的思考力、表現力の養成を目指す。	共同
	Research Proposal Writing in English 2 基礎科学英語2	基礎科学英語1の単位取得者を対象とした応用英語コミュニケーション演習。履修学生の各自の研究内容に加えて、関連する研究領域に関して、英語で的確に説明することを学ぶ。英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となって行う。「修士論文を英語で執筆」するに足る科学英語力、論理的思考力、表現力を養成する。	共同
専門科目	Neuroscience Laboratories A 神経科学実験・実習A	分子・細胞神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories B 神経科学実験・実習B	システム神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories C 神経科学実験・実習C	行動・認知神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories D 神経科学実験・実習D	障害・臨床・支援神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	English journal Club 1 英語ジャーナルクラブ1	分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の基礎的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English journal Club 2 英語ジャーナルクラブ2	英語ジャーナルクラブ1の単位取得者のみ受講可能。分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の先端的、応用的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	共同
	Neuroscience Research seminar 1 神経科学先端セミナー1	遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的の研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、ニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学ぶ。	共同
	Neuroscience Research seminar 2 神経科学先端セミナー2	神経科学先端セミナー1の単位取得者のみ受講可能。遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的の研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、ニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学ぶ。	共同
	Translational Neuroscience Internship 実践的神経科学インターンシップ	神経科学の実践的研究の現場を体験することにより、前期課程修了後のキャリア形成に役立てる。原則として、企業、研究所、支援現場での実習とする。 1) 産業技術総合研究所：技術研修制度、食品総合研究所：インターン制度、NTTコミュニケーション科学研究所：インターンシッププログラム、情報通信研究機構：研修員制度 等 2) 附属特別支援学校、近隣の病院、リハビリテーション、高齢者介護施設 等	共同、集中
	Neuroscience Thesis Research 1 修士論文研究指導1	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究のテーマを決定し、関連する基礎的な先行研究についての文献を検索、学習し、必要に応じて予備実験・研究を実施する。	
	Neuroscience Thesis Research 2 修士論文研究指導2	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。合わせて、2年次4月の修士論文研究資格試験に向けての準備を行う。単位認定には、修士論文研究構想発表会での発表が必須条件とする。	
	Neuroscience Thesis Research 3 修士論文研究指導3	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。単位認定には、修士論文研究資格試験合格が必須条件とする。	
	Neuroscience Thesis Research 4 修士論文研究指導4	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する、修士論文の作成を進める。合わせて、修士論文最終試験、修士論文最終公开发表に向けての準備を行う。	
	(研究指導)	(79 志賀隆) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (96 武井陽介) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (259 坂口昌徳) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (328 増田知之) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (366 LAZARUS MICHAEL) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (502 本城咲季子) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (656 三尾和弘) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (645 佐藤主税) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (80 設楽宗孝) システム神経科学領域についての研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(169 松本正幸) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(313 林悠) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(524 山田洋) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(4 綾部早穂) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(203 阿部高志) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(279 高橋阿貴) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(357 山田一夫) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(646 高島一郎) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(5 新井哲明) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(360 山中克夫) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(227 岡崎慎治) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(221 太田深秀) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(653 武田裕司) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(642 岩木直) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学 関連科目 専門基礎科目	看護科学論	<p>卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論や看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深める。さらに看護に関する普遍的な法則性の追究、看護の経験的あるいは実証的な合理性の明確化などを通して看護を科学的に探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/6回) 看護における知と知識開発、看護における経験的知識・理論、まとめ：看護理論の科学性と看護の発展</p> <p>(175 森千鶴/2回) 精神看護における経験的知識・理論  (171 水野道代/2回) がん看護における経験的知識・理論  (268 柴山大賀/2回) 慢性看護における経験的知識・理論  (369 涌水理恵/2回) 家族看護における経験的知識・理論  (469 杉本敬子/2回) 看護理論 (大理論・中範囲理論)  (492 福澤利江子/2回) 看護理論の教育  (482 Togoobaatar Ganchimeg/2回) ヘルスケアにおける経験的知識・理論</p>	オムニバス方式
	看護コミュニケーション論	<p>看護職の基本的な資質である豊かな人間性を発展させ、看護の対象となる様々な生活背景をもつ人々の理解のためのコミュニケーションについて、看護の視点から理論と方法を教授する。ヘルスコミュニケーションやノンバーバルコミュニケーションの技法や実際を学び、その上で集団指導・個別指導および実際に起こりえる看護場面を想定したロールプレイを行う。アクティブラーニング手法を用いた教育により学生の学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(444 金澤悠喜/2回) 看護コミュニケーションの実際  (225 大宮朋子・476 出口奈緒子/5回) 概要、ヘルスコミュニケーション  (142 日高紀久江/2回) 看護におけるノンバーバルコミュニケーション  (242 川野亜津子・444 金澤悠喜/11回) 個別指導・集団指導におけるコミュニケーション</p>	オムニバス方式
	看護コンサルテーション論	<p>専門看護師に必要なコンサルテーションの概念、過程、タイプとモデル、技法、チーム医療におけるコンサルテーションの機能と役割、コンサルテーションの実際について学び、討議をとおして理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(175 森千鶴/18回) コンサルテーションの概念、過程とモデル、チーム医療におけるコンサルテーション、コンサルテーションの事例分析、精神看護におけるコンサルテーションの実際、がん看護におけるコンサルテーションの実際  (40 Katsumata Asako Takekuma/2回) 在宅看護におけるコンサルテーションの実際</p>	オムニバス方式
	看護学研究法	<p>看護研究における科学的研究プロセスの理解と、その基本的な手法の帰納的・質的研究法、演繹的・量的研究法の研究方法論を学際的に教授する。また研究倫理と、具体的な対象者の関わり方について、人間の尊厳を前提とした関わり方、およびそれに基づく研究者としての基本的資質について論じ、看護を科学的に探究する研究方法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/3回) 看護研究の基礎、研究課題の設定方法  (40 Katsumata Asako Takekuma・469 杉本敬子/3回) 研究の問いの設定方法、文献レビューの方法  (7 安梅勅江/3回) 質的研究の例から考える実践の理解、質的研究の実践法  (423 阿部吉樹/9回) 量的研究のデザインと方法、質的研究のデザインと方法、質的デザインと量的デザインの統合  (469 杉本敬子/3回) 理論、モデル、概念枠組みの活用と開発  (489 萩野谷浩美/9回) 標本抽出の方法、測定とデータ収集の方法、データの質の評価</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健統計学	<p>統計学の基礎の理解を深め、看護研究の中でも量的研究に求められる統計解析法の基本的内容を習得する。全20回で構成し、うち前半10回は後期課程「応用統計学」と合同で行う。講義の前半10回を統計基礎として、推測統計学の基礎を学び、後半10回においては、量的研究を実施するために必要な知識の習得、実際に用いられている統計手法を学び、統計分析ソフトウェアSPSSの使用方法について基礎的な演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(78 山海知子/8回) オリエンテーション、統計思想の歴史、データと尺度、平均値の比較(パラメトリックとノンパラメトリック)、分散分析と多重比較、実験計画法など、交絡、交互作用、偏り、因果関係、多変量解析の基本、量的研究論文のクリティーク、多変量解析の実際</p> <p>(201 浅野美礼/5回) 重要な確率分布、推定(正規分布、t分布)、量的研究のデザイン、サンプルサイズの求め方、多変量解析</p> <p>(423 阿部吉樹/7回) 標準偏差と標準誤差、統計的検定(第1種の過誤と第2種の過誤、対立仮説と検出力)、測定の妥当性と信頼性、多変量解析の実際、SPSSの基礎演習</p>	オムニバス方式
	国際看護学	<p>国際的な視点からみた看護活動、人材育成、組織化、施策化を行うため、健康をめぐる世界動向と課題、国際機関及び国際協力の役割と展望を概観する。</p> <p>異文化と多様性を科学的・論理的に分析・理解し、当事者主体の倫理に裏づけされたエンパワメント、ネットワーキング、システム構築等を活用した看護実践方法、国際協力実践方法、国際比較研究方法を学ぶ。</p>	
	看護倫理学	<p>看護現場において倫理的問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うために必要な知識について、総論的知識のレクチャーと事例を用いた討論を通して教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(171 水野道代/6回) 看護者の倫理綱領の講義と討議、倫理原則に沿った事例検討</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/2回) 看護者の倫理綱領の討議</p> <p>(521 山下美智代/4回) 倫理原則に沿った事例検討</p> <p>(142 日高紀久江/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(225 大宮朋子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(242 川野亜津子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(514 牟田理恵子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p>	オムニバス方式
	看護教育論	<p>看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(175 森千鶴/8回) 継続教育の現状と課題-新人看護師の実践力の育成と方法、看護の実践と発展を支えるリフレクション</p> <p>(489 萩野谷浩美/4回) 卒後継続教育-中堅スタッフの育成</p> <p>(142 日高紀久江/4回) 卒後継続教育-スタッフのキャリア開発</p> <p>(175 森千鶴/2回) 専門看護師が担う教育的役割</p> <p>(175 森千鶴/2回) ベッドサイドにおける卒後教育</p>	オムニバス方式
	フィジカルアセスメント	<p>複雑な健康問題を持った対象の身体状況を審査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。専門看護師として必要な知識や技術について、講義やシュミレーション等による演習を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(eラーニング/9回) 医学的診断の考え方、呼吸器、循環器、消化器、運動系、中枢神経・感覚系のアセスメント、生殖器系のアセスメント、痛みのアセスメント、精神症状のアセスメント</p> <p>(142 日高紀久江/3回) 健康状態の包括的なアセスメント、適切に症状を訴えられない患者のアセスメント(中枢神経・感覚系)</p> <p>(521 山下美智代/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント(消化器系)</p> <p>(489 萩野谷浩美/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント(呼吸・循環系)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(437 小澤典子/2回) 適切に症状を訴えられない患者のアセスメント (疼痛) (175 森千鶴・468 菅谷智一/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント (精神症状)	
	病態生理学	エビデンスに基づき、対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術について教授し (e-ラーニング)、専門看護師として対象の治療及び療養過程を総体的に支援する上で必要な知識と技術をグループ発表と討議を通して教授する。  (オムニバス方式/全20回)  (171 水野道代・521 山下美智代/10回) 呼吸、循環、消化、水・電解質バランスを中心とする生体機能の臨床病態について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (423 阿部吉樹/10回) 脳、自律神経、運動、内分泌・代謝、造血、生体防御を中心とする生体機能の臨床病態について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。	オムニバス方式
	臨床薬理学	エビデンスに基づき、薬物療法の身体への影響を臨牀的な観点から解釈、判断するために必要な知識と技術について教授し (e-ラーニング)、専門看護師として対象の薬物治療と療養過程を総体的に支援する上で必要な知識と技術をグループ発表と討議をとおして教授する。  (オムニバス方式/全20回)  (268 柴山大賀/7回) 呼吸器系、循環器系、代謝異常、自己免疫異常など、様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (159 本間真人/2回) 薬物動態と薬力学、薬物処方上の留意点と調整、薬物の与薬と服薬管理について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (423 阿部吉樹/7回) 消化器系、感染症、神経系、腎疾患など、様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (175 森千鶴・468 菅谷智一/4回) 精神疾患を含む様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。	オムニバス方式
	看護教育学	看護専門職者として看護基礎教育にかかわる基盤となる力を養う。看護基礎教育に必要な学習理論、教授方法、教育評価に関する知識を教授する。  (オムニバス/全20回)  (175 森千鶴/4回) 看護師教育課程における今日的課題、教育制度、看護学教育と学習理論 (33 岡山久代/10回) 看護学教育におけるカリキュラムの構築、評価看護教育における倫理、看護教育における実習指導と評価、助産教育における教授活動の実際、母性看護学教育における授業案及び演習指導案の作成、助産師教育の歴史と諸外国の助産教育制度 (242 川野亜津子/6回) 看護学教育基礎教育における教授活動の実際	オムニバス方式
	地域母子保健論	地域母子保健の意義について理解し、変化する社会における地域母子保健の課題、政策、看護活動について学ぶ。また、地域母子保健における事例を通して、母子への支援や政策的課題を研究的視点から考察する能力を養う。  (オムニバス方式/全10回)  (444 金澤悠喜/4回) 地域母子保健と地域連携の実際 (225 大宮朋子・476 出口奈緒子/1回) 地域母子保健活動における家庭訪問とは (225 大宮朋子・444 金澤悠喜・476 出口奈緒子/3回) 地域母子保健活動における家庭訪問の実際 (492 福澤利江子/2回) 国際協力と母子保健活動、グローバル化における母性保健	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と健康	<p>女性のライフステージにおける健康問題の特徴について、概論的に教授する。女性の健康問題の予防・改善のためのエビデンスに基づいたケアについてプレゼンテーションとディスカッションを通して学ぶ。講義での学びを基に大学生を対象とした健康教育を企画・実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(33 岡山久代／18回) 女性のライフステージにおける健康問題、助産師による思春期の性に関する健康教育、女性の健康問題と支援、プレコンセプションケア、健康教育グループワーク、健康教育プレゼンテーション  (72 佐藤豊実／1回) 女性の健康問題と支援、婦人科疾患  (241 川崎彰子／1回) 不妊症と生殖補助医療</p>	オムニバス方式
	女性の精神保健学	<p>女性のライフサイクルに伴って変化する精神の健康と健康問題、および妊娠・出産・産褥を経験する女性の精神の健康と健康問題を理解し、アセスメントするための能力を養う。周産期のメンタルヘルスにおけるケアシステムの課題と政策を分析し、研究的視点から考察する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(33 岡山久代／5回) 女性のライフサイクルとメンタルヘルス、メンタルヘルスの問題を持つ周産期事例の検討、周産期のメンタルヘルスの現状と課題  (175 森千鶴／2回) 妊娠・出産・産褥を経験する精神障害者の理解とケア  (429 大井雄一／2回) 働く女性の精神保健、働くパパ・ママのメンタルヘルス、健康生成論に関する調査研究  (444 金澤悠喜／1回) 暴力被害を受けた女性へのケア</p>	オムニバス方式
	生殖生命倫理学	<p>助産領域において生じる倫理的問題を理解するための知識について、総合的な講義と倫理的葛藤に関わる倫理的調整に必要な技能を養うために、事例を用いた討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(171 水野道代／6回) 看護職者の倫理綱領と看護倫理、誠実・正義・忠実の原理を中心とする問題の理解と討議  (40 Katsumata Asako Takekuma／2回) 看護職者の倫理綱領と専門看護師の役割・機能  (521 山下美智代／4回) 善行の原理を中心とする問題の理解と討議、自律の原理を中心とする問題の理解と討議  (125 野口恵美子／1回) 生命倫理  (242 川野亜津子／2回) 生殖医療に関する葛藤の事例  (33 岡山久代／5回) 生命倫理、助産実践における倫理事例</p>	オムニバス方式
	周産期のフィジカルアセスメント	<p>助産領域におけるエビデンスに基づいたフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。そのうえで、エビデンスに基づいた創造的看護実践についてディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(79 志賀隆／2回) 妊娠・分娩・産褥に関する解剖・生理学  (242 川野亜津子・444 金澤悠喜／5回) 妊娠期・分娩期・産褥期のフィジカルアセスメント  (342 宮園弥生／1回) 新生児のフィジカルアセスメント  (242 川野亜津子／2回) 妊娠・分娩・産褥期の超音波診断、胎児のフィジカルアセスメント：NST/CTG</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	<p>この科目の授業目標は以下の3点にある。①World Health Organization(WHO)のPrimary Health Care等の国際看護理論や国際保健の実践モデルについて学び、グローバルヘルスへの看護の役割を理解する。②国際的な視野でのエンパワメント理論に基づく発達ケアの研究手法、実践技術を学び、研究の展開を考える。③国内外の様々な住民を対象とした疫学研究成果を健康支援活動に展開するための疫学的研究方法や実践の実例を学ぶとともに、わが国における保健行政や医療・介護保険の仕組みを理解し、学校・地域・職域など様々な人々へのQOL向上を目的とした公衆衛生学・公衆衛生看護学的な健康支援を考案する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma・469 杉本敬子・482 Togoobaatar Ganchimeg・492 福澤利江子/5回) 目標①を担当する。 (7 安梅勅江/5回) 目標②を担当する。 (78 山海知子・225 大宮朋子・476 出口奈緒子・196 我妻ゆき子/10回) 目標③を担当する。</p>	オムニバス方式
	国際保健・公衆衛生看護学演習	<p>グローバルヘルスにおける看護研究、エンパワメント理論に基づく発達ケアに関する研究、疫学並びに学校保健・地域保健における公衆衛生学および公衆衛生看護学研究の文献クリティーク等を通じて、研究の動向と課題を捉え、研究への展開を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma, 469 杉本敬子, 482 Togoobaatar Ganchimeg, 492 福澤利江子/7回) グローバルヘルスに関する演習を担当する。 (7 安梅勅江/6回) エンパワメント理論に基づく発達ケアに関する演習を担当する。 (78 山海知子, 225 大宮朋子, 476 出口奈緒子/7回) 疫学、公衆衛生学・公衆衛生看護学を担当する。</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学特論	<p>思春期から成熟期・更年期にかけての女性の健康に焦点を当て、ウィメンズヘルスの視点から看護の方法を体系的に把握する。海外の文献を中心に論文講読を行い、女性と家族の健康と看護に関する最新の研究動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解する。</p>	共同
	ウィメンズヘルス看護学演習I	<p>思春期から更年期にある健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、科学的思考を実践に生かすために、より高度な看護活動の方策、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について理解し、看護実践研究の基礎的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(33 岡山久代/9回) 健康問題のある女性と家族への支援、ウィメンズヘルス看護学・助産学領域の研究対象と研究動向、健康リスクのある女性への支援に関する論文クリティーク、母子関係・母性性の発達過程の障害と支援に関する論文クリティーク、ウィメンズヘルス看護学・助産学領域の研究の今後の方向性 (242 川野亜津子/8回) 周産期女性の健康障害と看護に関する論文クリティーク、家族・サポートシステムの障害と看護に関する論文クリティーク (444 金澤悠喜/3回) 胎児・新生児の障害と支援に関する論文クリティーク</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学演習II	<p>思春期から更年期の発達課題にそった健康支援における最新の研究内容および水準を理解し、実践科学として意味のある研究計画を作成する能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/8回) 性成熟期の健康支援に関する研究論文のクリティーク、包括的文献レビューと討論 (33 岡山久代/7回) 思春期・更年期の健康支援に関する研究論文のクリティーク (444 金澤悠喜/5回) 周産期の健康支援に関する研究論文のクリティーク</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ウィメンズヘルス看護学演習III	<p>ウィメンズヘルス看護学・助産学領域における看護実践や文献等から研究テーマを見出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討し、自らが取り組むべき研究課題を探索できる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(33 岡山久代/4回) ウィメンズヘルス看護学、助産学領域における課題の探索  (242 川野亜津子/12回) リサーチクエスションの明確化、課題研究の計画と検討、倫理審査書類の作成、研究計画書検討会  (444 金澤悠喜/4回) 研究デザインの作成  (242 川野亜津子・33 岡山久代・444 金澤悠喜/10回) 研究計画発表</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学演習IV	<p>授業概要：科学的根拠に基づいたケアを提供するために、周産期および女性の生涯を通じての助産実践について、Evidence-baseで思考し、研究していく過程について、ウィメンズヘルス看護学・助産学分野の研究を例に、講義、討議、および演習を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(33 岡山久代/14回) 助産ケアにおけるEvidence-based practiceの現状、助産に関するRCTを用いた研究、システムティックレビュー  (242 川野亜津子/10回) 助産ケアにおけるEvidence-based practiceの研究動向、助産ケアに関するコホート研究  (444 金澤悠喜/6回) 助産に関するシステムティックレビュー、助産ケアの質を評価するための研究</p>	オムニバス方式
	助産学特論I	<p>ローリスク妊産婦および新生児・乳児に対して、高度専門職者としての質の高い助産実践と確かな診断をするための知識・技術および問題解決能力を習得する。助産師の倫理、助産診断とは、妊娠期・分娩期の助産診断、妊娠期・分娩期の医学診断と治療、乳房の診断と母乳育児、産褥期・新生児期の助産診断、胎児・新生児期の医学診断と治療について学習する。</p>	
	助産学演習I	<p>ローリスク妊産婦および新生児に対して、高度な助産実践者として確かな技術と科学的根拠に基づいた助産ケアを提供するための基本的知識・技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/6回) 産褥・新生児の助産診断および基本的な分娩介助法  (444 金澤悠喜・242 川野亜津子/11回) 基本的な分娩介助法の実践、分娩進行の診断に基づいた分娩介助  (444 金澤悠喜/3回) 分娩直後のケア、フリースタイルにおける分娩介助法</p>	オムニバス方式
	助産学特論II	<p>最新の周産期のエビデンスやガイドラインに基づく診断と治療、助産ケアを学ぶ。またローリスクのみではなくハイリスクの管理や、異常の診断と救急処置、異常分娩介助など緊急時の対応方法について学ぶ。さらに、ハイリスク事例を分析し、エビデンスに基づいた助産ケアを検討することにより、臨床における課題について解決するための研究・教育的基礎能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/4回) 帝王切開分娩の管理とケア、ハイリスク妊娠・分娩に対するケア  (242 川野亜津子/11回) 胎児機能不全と助産ケア、切迫早産の管理とケア、分娩誘発の管理とケア、NRF Sと分娩管理、母子感染、個別的産科管理と合併症妊娠の対策、脳神経系の発達・神経学的診察法、先天性代謝異常、小児の救急医療  (242 川野亜津子・444 金澤悠喜/2回) ハイリスク妊娠・分娩に対するケア  (135 濱田洋実/3回) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態と理解、多胎妊娠の病態と分娩管理の実践、産科出血の要因と病態、医療処置</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	助産学演習II	<p>身体的、心理・社会的にハイリスク状態にある周産期の母子とその家族の事例を通して、プライマリーケアを踏まえ、予防・早期発見、異常の診断、周産期救急への対応について、質の高いケアを学ぶ。さらに、ハイリスク事例に関する政策的課題を分析し対策すること、ハイリスク事例に関する臨床の課題を研究的に分析することを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(444 金澤悠喜/5回) 出生直後の新生児ケア、新生児蘇生法、我が国の地域母子保健と子育て包括支援センターの現状  (444 金澤悠喜・242 川野亜津子/5回) ハイリスク妊娠・分娩に対するケア  (242 川野亜津子/10回) 低出生体重児を出産した母親と家族のアセスメントと育児支援、母子保健と地域連携：要支援事例、疾患をもつ子どもと家族のアセスメントと支援、分娩時の救急対応、ペリネイタルロス、感染症・予防接種、遺伝カウンセリング</p>	オムニバス方式
	助産学特論III	<p>質の高い助産ケアを提供するための実践能力を育成する教育、助産ケアの質を保証するための組織における管理方法について学習する。また、母子保健サービスの領域における高度な専門職者に求められる管理能力について学習する。</p> <p>助産師に求められるウィメンズヘルスケア能力、助産師の高度実践教育、助産業務ガイドライン、産科医療保障制度、助産師のキャリアプラン、助産実践能力の評価、助産所の開設と法的義務・規則、助産における人材育成と教育、大学病院でのトップマネジメント、パースセンターの立ち上げと管理、MFICUの管理、産科病棟および産科外来管理の実際について学習する。</p>	
	助産学演習III	<p>助産の質を評価し保障することについて助産管理の視点から研究的に学習する。エビデンスに基づく助産ガイドラインをクリエイトすることにより、研究的視点で助産ケアを学習する。また、助産院の開設・運営に必要な事業計画を作成することにより、助産ケアの質を保証するための管理について学習する。</p>	共同
	助産学実習I	<p>ローリスクの妊産婦および新生児の助産ケアについて、科学的根拠に基づいた実践が可能となる能力を習得する。また、助産実践の過程を通じて、対象への問題解決能力と個別対応が可能な能力、さらには高度専門職者としての助産観を育む。</p> <p>(分娩介助実習 10例) 正常な分娩経過の産婦を受け持ち、分娩期の経過診断と分娩予測、健康生活診断を行う。助産診断に基づき、ケアプランを作成・実施する。分娩介助を行い、その後、退院まで褥婦と新生児のケアを行う。</p> <p>(継続事例実習 1例) ローリスクで、経膈分娩が可能と予測される妊婦を継続事例として受け持つ。妊娠中期から受け持ち、妊婦健康診査に合わせて外来実習を行う。妊娠期には必要な保健指導を計画・実施する。分娩介助を行い、その後、退院まで褥婦と新生児のケアを行う。産褥入院中に必要な保健指導を計画・実施する。産後2か月頃に家庭訪問を実施する。</p>	共同
	助産学実習II	<p>ハイリスク事例とその家族を対象に、科学的根拠をもって個別対応の助産過程を展開し、可能な範囲でケアの実際に関与する。また、受け持ったケースをレポートにまとめることでケアの質の改善に向けた研究課題、政策的課題、助産実践能力の養成について検討する。</p> <p>(妊娠期ハイリスク実習) MFICUに産科合併症で長期安静入院・薬物治療を要する妊婦を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索する。</p> <p>(分娩・産褥期ハイリスク実習) 帝王切開分娩の母児を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索</p> <p>(NICU・GCU実習) 入院児を受け持ち、看護ケアを展開するとともに、母児へのケアの質の改善に向けた課題を探索する。</p>	共同
	発達支援看護学特論	<p>講義および文献詳読をとおして、発達支援看護学の視点から科学的根拠に基づいた看護の方法を体系的に教授する。また、子ども・女性・家族の健康と看護に関する最新の動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解できるよう導く。</p>	共同
	家族看護学特論	<p>講義および討議をとおして、小児を教育する家族を中心に、家族を取り巻く社会や地域、保健医療制度のなかで家族への支援調整ができる能力を教授する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族看護学演習	講義および討議をとおして、家族看護専門看護師による卓越した介入が必要な患者やその家族の健康や生活に関するアセスメント、家族への具体的な看護介入の方法、家族員の健康障害に関わる治療の過程について教授する。	共同
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	<p>家族看護援助方法に関する最新の研究動向を調査・整理し、家族への独創的な新しい看護援助法の検討や、臨床の場で有効性や安全性の検討等を行う能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/3回) トランスレーショナル・リサーチの概要および家族を対象とした調査研究の手法についての教授  (482 Togoobaatar Ganchimeg/3回) リサーチレビューについて教授および討議  (33 岡山久代/2回) 家族看護領域の国内研究の動向  (268 柴山大賀/2回) 家族看護領域の国内研究の動向と新しい実践方法の検討  (40 Katsumata Asako Takekuma/3回) 家族を援助するための新しい実践方法の検討および実践に向けてのトランスレーショナルリ  (492 福澤利江子/2回) 家族を対象とした調査研究の手法についての教授  (437 小澤典子/3回) 新しい実践方法の検討と研究計画立案の討議  (369 涌水理恵、437 小澤典子/2回) 研究計画立案・倫理についての教授</p>	オムニバス方式
	家族生活アセスメント学	<p>家族看護の対象である家族を系統的に捉え、家族の健康および生活をアセスメントするために必要な理論および方法とその活用について知識および能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/5回) 家族のセスメントツールについての討議および高齢者を介護する家族のアセスメント  (437 小澤典子/3回) 家族のアセスメントモデルについての討議  (514 牟田理恵子/2回) 慢性疾患患者および家族のアセスメントについての討議  (469 杉本敬子/2回) パーストラウマに関する母子および家族のアセスメントについての討議  (175 森千鶴/2回) 精神疾患を有する患者の家族のアセスメントについての討議  (225 大宮朋子/2回) 地域で暮らす患者家族のアセスメントについての討議  (142 日高紀久江/2回) 意識障害を持つ患者家族のアセスメント  (369 涌水理恵、437 小澤典子/2回) 家族アセスメントツール・モデル活用事例についての討議</p>	オムニバス方式
	家族アセスメント/インターベンション学	<p>事例を通していくつかの特徴的な家族の「機能」「構造」「成長・発達区分」のアセスメントおよび、家族看護過程を展開する能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/4回) 家族アセスメントとインターベンションについての概説および家族カウンセリング・家族療法についての討議  (437 小澤典子/4回) 小領域の家族症候のアセスメントと看護過程についての討議、および小児がんターミナル期の患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議  (225 大宮朋子/2回) 家族のストレス対処力についての教授  (242 川野亜津子/2回) 妊娠期から産後の母親のアセスメントおよび看護過程についての討議  (425 伊藤智子/2回) 訪問看護を受ける患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議  (423 阿部吉樹/2回) 慢性疾患を有する患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議  (468 菅谷智一/2回) 精神疾患を有する患者家族のセスメントおよび看護過程についての討議  (521 山下美智代/2回) 急性期にある患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族看護実践学	<p>家族を対象とし看護介入について、理論を復習しつつ事例を検討する能力を教授する。また健康障害を有する家族員の治療の過程を踏まえたうえで、家族に援助計画（看護介入）を立案し、専門看護師の役割・機能に照らし合わせながら科学的に介入を評価する能力を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（369 涌水理恵／6回）家族を対象とした理論及びモデルについての教授および小児患者と家族を対象とした看護過程についての討議 （437 小澤典子／2回）がん患者と家族を対象とした看護過程についての討議 （369 涌水理恵・437 小澤典子／12回）実習と並行して受け持ち患者家族のアセスメントおよび計画立案の実施と評価修正についての討議</p>	オムニバス方式
	家族看護学基盤実習	<p>家族看護に関する専門的知識に基づき、家族をアセスメントする能力と家族支援の実戦能力の基盤となる能力を家族看護過程の展開を通して教授する。</p>	共同
	家族看護学展開実習	<p>家族看護に関する専門的知識に基づき高度な実践能力、さらに援助成果について科学的に評価できる能力を教授する。また家族看護のケア開発能力および倫理的判断能力を教授する。</p>	共同
	家族看護学統合実習	<p>看護科学特別実習および家族看護学実習Iで習得した援助方法を活用して、健康障害を抱えている家族員と家族に対して健康障害査定や家族査定の能力および看護介入能力を教授する。</p>	共同
	がん看護学特論I	<p>がん患者の保健行動を理解するために必要な看護理論・基本概念をテーマとして討論を行い、専門的ながん看護を行っていく上で基盤となる主要理論ならびにその活用について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／8回）自己概念、社会学習理論 （521 山下美智代／8回）ストレス・コーピング、ソーシャルサポート （514 牟田理恵子／4回）QOL</p>	オムニバス方式
	がん看護学演習I	<p>がん患者や家族によくみられる問題をアセスメントし援助する方法を教授するために、専門的ながん看護を实践する上で基盤となる主要理論を用いた援助プログラムを題材に、その主要理論を活用しながら、がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦痛を包括的に理解し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合して適切に提供する方法について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／10回）認知行動療法 （521 山下美智代・514 牟田理恵子／10回）危機介入療法</p>	オムニバス方式
	がん看護学特論II	<p>がん看護において重要な、治療の選択、診断・治療、病名・予後告知、種々の症状に伴う諸問題を的確にアセスメントし、包括的な支援を提供できるための看護援助の方法を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／4回）治療の選択 （521 山下美智代／8回）遺伝診断、家族ケア （514 牟田理恵子／8回）病名・予後告知、症状管理</p>	オムニバス方式
	がん看護学演習II	<p>がんによる苦痛症状および苦悩を抱える患者・家族を包括的にアセスメントし、その苦痛症状および苦悩を緩和するために理学療法的介入や心理的支援などの看護実践指針を作成する。作成をした看護実践指針とその評価は発表を行い、医療スタッフやがん看護の専門家を交えた討議をとおして、科学的、実証的、論理的妥当性のある看護実践指針を作成する方法について教授する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	がん看護学特論III	<p>薬物療法や代替・相補療法などを用いて創意工夫をこらしながら、がんがもたらすさまざまな苦痛症状および苦悩を緩和するために必要な能力を習得させるために、専門看護師の役割と機能を踏まえた事例の討議を活用しながら心理、社会、霊的な援助に対する知識と・技能について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(171 水野道代・437 小澤典子/4回) 家族支援事例の発表・討議 (521 山下美智代/4回) 臨床判断事例の発表・討議 (514 牟田理恵子/12回) コンサルテーション、コーディネーション、教育事例の発表・討議</p>	オムニバス方式
	基礎腫瘍学特論	<p>病態生理学全般の中から、特に、腫瘍の発生・進展プロセス、がんの診断や病期決定・経過観察のために必要な種々の検査方法に関して、がん看護に関連した専門的な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/計10回)</p> <p>(171 水野道代/4回) 基礎腫瘍学、がん発生と予防、(内科的・外科的)治療について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (521 山下美智代/3回) がん検査医学について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (514 牟田理恵子/3回) 悪性腫瘍の疫学治療について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。</p>	オムニバス方式
	臨床腫瘍学特論	<p>病態生理学全般の中から、特に、代表的な治療法および代表的疾患(腫瘍)の標準治療および症状管理に関して、がん看護に関連した専門的知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/計10回)</p> <p>(521 山下美智代/5回) 代表的疾患(腫瘍)の標準治療および症状管理、oncology emergency/支持療法について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識 (171 水野道代/3回) 薬物療法の諸理論、がん看護における腫瘍学知識の活用について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (514 牟田理恵子/2回) 放射線腫瘍学/放射線生物学について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。</p>	オムニバス方式
	緩和ケア特論	<p>がん患者に頻繁に見られる苦痛症状をマネジメントする上で必要な医学的知識を教授し、それらの苦痛症状が患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響を理解するとともに、症状マネジメントに必要な看護援助を探求するために討議を行う。さらに、ケース発表を通してがんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解したうえで、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し、適切に援助を提供する方法を考察し、実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/計20回)</p> <p>(171 水野道代/13回) 苦痛症状の理解と管理についてe-ラーニングで学習した知識に加え、臨床判断や緩和ケア介入におけるリソース活用法について学生との討議を交えて教授する。 (521 山下美智代/3回) 心理社会的支援について学生との討議を交えて教授する。 (514 牟田理恵子/4回) 緩和ケアにおける看護師の役割、患者・家族とのコミュニケーションについて学生との討議を交えて教授する。</p>	オムニバス方式
	がん看護学実習I	<p>専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、がんの診断・治療に関わる臨床場面(診療や症例・退院調整カンファレンス等)を通して、がん患者の療養管理をするために必要な能力を習得できるよう指導する。</p>	共同
	がん看護学実習II	<p>複雑で対応困難な問題をもつがん患者やその家族への看護を通して、高度ながんの専門的知識・技術・判断能力を用いた質の高い看護援助法の開発、倫理的判断能力を習得できるよう指導する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	がん看護学実習III	がん看護専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）を実践の場で遂行できる能力を習得できるよう指導する。	共同
	精神保健看護学特論	専門性の高い精神看護を行う上で必要な精神保健医療福祉に関する制度と体制、精神的な問題を抱えた人の精神・身体状態の評価に必要な理論と方法、精神力動理論に基づいたアセスメントについて、心身相互作用の面、精神科診断学の側面、精神科臨床検査から理解できるよう講義及びプレゼンテーション、討議を通して学習を深める。	共同
	精神保健看護学演習	精神的な問題を抱えた人とその家族に対して、専門性の高い精神看護を展開する上で必要な精神領域の治療に関する理論と方法、看護介入の理論と方法について、講義と演習、討議、またプレゼンテーションを通して学習を深める。 また、精神科治療の技法を理解し、セルフケア理論や対人関係理論に基づく看護介入方法、ケースマネジメント及び精神科チーム医療について学習する。  (オムニバス方式/全20回)  (175 森千鶴/16回) 精神科治療技法と看護：薬物療法、精神力動的介入、行動療法、認知行動療法、SST、心理教育、危機介入、認知行動理論に基づく看護介入、精神科ケースマネジメント理論と介入、精神科リーム医療の展開 (468 菅谷智一/4回) 対人関係論に基づく看護介入、セルフケア理論に基づく看護介入	オムニバス方式
	精神看護学特論I	精神看護の専門看護師として、ケアとキュアを融合した高度な実践に必要な精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識、精神的な問題を抱えた人とその家族の理解および精神・身体状態の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学習する。 特に精神・身体状態のアセスメントにあたってセルフケア理論や精神機能の発達、心理社会的成長発達の特徴をふまえた討議を通して学習を深める。	共同
	精神看護学特論II	精神看護の専門看護師として、ケアとキュアを融合した高度な実践に必要な精神科薬物療法と精神療法に関する概論と各論について、講義および事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学習する。 特に慢性期にある精神疾患をもつ患者の理解を深め、対象者が受けている薬物療法、精神療法、認知行動療法、自律訓練法などの治療法を理解し、対象者への指導方法について討議を通して学習を深める。  (オムニバス方式/全20回)  (175 森千鶴/14回) 精神科薬物療法、精神療法概論、精神療法各論、行動療法、認知行動療法理論とその具体例 (468 菅谷智一/6回) リラクゼーション法、自律訓練法、漸進的筋弛緩法、危機理論	オムニバス方式
	精神看護学特論III	精神看護の専門看護師として、慢性期精神疾患患者へのケアとキュアを融合した高度な看護実践を展開するために必要な理論と方法について、講義および事例展開、最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学習する。 特に慢性期精神疾患である統合失調症、アディクション傾向のある患者、遷延性うつ病患者の特徴を理解し、精神機能の評価及び生活状態のアセスメント方法について討議を通して深く学習する。	共同
	精神看護学演習I	精神看護の専門看護師によるケアとキュアを融合した高度な看護介入が必要な患者やその家族に対するアセスメントと具体的な看護介入方法について事例展開をすることによって学習する。特に急性期、回復期、慢性期の違いについて理解し、それぞれの時期に必要な看護介入方法について討議し、活用方法を演習する。また精神療法の技法である認知行動療法やSST・心理教育などを体験することによって理解を深める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神看護学演習II	精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、高度実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究活動について、事例の分析とエビデンスに基づく援助計画の立案、討議を通して学習する。特に倫理調整では処遇困難事例や重度の慢性疾患患者や家族の葛藤について事例を分析することによって理解を深める。またケースマネジメントや精神科医療チームにおける専門看護師の役割について討議を通して理解を深める。	共同
	精神看護学実習I	ケアとキュアを融合した高度な精神看護実践に必要な精神看護に関連する理論・技法に基づき、また精神看護学演習Iで立案したケアプランに沿って、専門性の高い看護ケアを実施し、科学的視点から評価を行う。精神看護専門看護師としてケアとキュアを融合した高度な看護実践能力を習得する。 学生は2名以上の患者を受け持ち、診療場面や治療について理解を深め、医療チームメンバーと連携を踏ると共に、実践内容について文献を活用したり、専門看護師との討議を通して評価を行う。	共同
	精神看護学実習II	精神看護学実習I、看護科学特別実習（CNS役割実習）を基盤とし、精神看護学演習II、精神看護学特論IIIで立案したケアプランに沿って、慢性期精神疾患患者に対してケアとキュアを融合した高度な看護ケアを実施し、科学的視点から評価する。慢性期精神疾患患者のQOLの向上をめざしたケアとキュアを融合した高度な看護実践能力、さらに援助成果について科学的に評価できる能力を習得する。 特に倫理調整や精神科保健医療福祉チームでの調整が必要な患者を2名以上受け持ち、看護実践を行い、文献を活用したり専門看護師との討議を通して評価を行う。	共同
	慢性看護学特論I	講義と討議により、慢性、病者や家族が抱える慢性病特有の複雑で解決困難な問題とその背景および、そのような状況におかれる人々の行動理解に役立つ諸理論を教授する。  (オムニバス方式/全20回)  (142 日高紀久江/4回) 慢性病者の特徴と看護の役割の講義と討議 (268 柴山大賀/4回) 病みの軌跡の講義と討議 (201 浅野美礼・489 萩野谷浩美/4回) (共同) 看護理論の講義と討議 (268 柴山大賀・423 阿部吉樹/4回) (共同) 慢性看護の理論の講義と討議 (142 日高紀久江・268 柴山大賀・201 浅野美礼・423 阿部吉樹・489 萩野谷浩美/4回) (共同) 慢性看護の理論の実践応用に関する討議	オムニバス方式 共同 (一部)
	慢性看護学演習I	演習形式で、慢性病者の複雑な状態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントの方法を修得し、高度実践に応用可能な標準的な看護計画を立案する。看護計画は、専門領域の代表疾患事例について看護理論や健康行動理論を活用して立案し、身体機能、生活、心理社会の各視点を網羅したアセスメントツール、問題（看護診断）の抽出および問題構造の明確化(関連図)、解決目標と介入プランの実際（他職種との連携を含む）、介入効果の評価方法、のすべてを含むものとする。	共同
	慢性看護学特論II	慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術の理論と方法について理解することを目的としており講義形式で実施する。慢性病の発症予防、発病期、慢性安定期、急性増悪期、進行期、終末期、各病期の経過の特徴の理解（計6回）と、慢性病の各病気に対応する支援技術として、慢性疾患の予防、診断・治療、患者の自己管理支援や患者教育、リハビリテーション、症状マネジメント、ターミナルケアについて学習を深め、また慢性病の治療やケアには自己決定を要することが多いため患者の権利擁護や自己決定支援についての理解を深める（計14回）。	共同
	慢性看護学演習II	ロールプレイや実技演習を通して慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術を学習し、高度看護実践の場で応用可能な支援技術を習得することを目標とする。授業は演習形式で行い、慢性病の発症予防のための健康教育、診断ならびに治療に伴う専門的な看護支援、患者の自己管理支援、症状の維持向上を目的としたリハビリテーション、長期的な視点で考える症状マネジメントや患者教育、ターミナルケア、そして患者と家族を対象とした権利擁護や自己決定支援などの倫理調整について、計10項目の支援技術についてその実際を学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	慢性看護学特論III	<p>慢性病者に適用される医療・福祉の制度や体制、および質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策とその評価方法について学習することが目的であり、講義形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(142 日高紀久江／16回) 慢性病者を支える保健・医療・福祉制度、質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策  (7 安梅勅江／2回) 質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策：コミュニティ・エンパワメント  (201 浅野美礼／2回) 質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策：看護情報の管理</p>	オムニバス方式
	慢性看護学特論IV	<p>講義と討議により、慢性病者の治療環境を質の高い生活に向けて調整する方策とその評価方法の理論と実際について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(268 柴山大賀／8回) 病棟・外来・地域における治療環境の調整の講義と討議  (201 浅野美礼／2回) 病棟における治療環境の調整の講義と討議  (423 阿部吉樹／4回) 地域・職場における治療環境の調整の講義と討議  (142 日高紀久江／2回) 居宅における治療環境の調整の講義と討議：在宅看護の現状と課題  (489 萩野谷浩美／2回) 居宅における治療環境の調整の講義と討議：在宅での患者・家族への指導  (78 山海知子／2回) 職場における治療環境の調整の講義と討議</p>	オムニバス方式
	慢性看護学演習IV	<p>演習形式で、病棟、外来、地域、居宅、職場のそれぞれの臨床現場を見学し、関連する文献の検討結果をふまえて、教員、慢性看護の専門家、学生同士で討議を行うことをとおして、慢性病者の治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策の実際について考察を深める。授業計画としては、5つの場のそれぞれについて、現地の見学とその後の文献検討と討議で2回分とし、合わせて10回で構成する。</p>	共同
	慢性看護学実習I	<p>医療機関において慢性病の医療、看護の実践経験をもつ看護師、医師、大学教員の指導のもと、地域社会で療養生活を営む慢性病者を対象に実習を行う。</p> <p>実習内容として、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理についての理解を深め、治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策の実際について学習することを目的にしている。</p>	共同
	慢性看護学実習II	<p>専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、多様な治療環境（病棟・外来・地域）において支援対象者を設定し、入院から退院後の期間にわたる支援を継続することにより、慢性疾患看護専門看護師の役割機能を各自の専門領域に関して実践する。授業計画としては、病棟、外来における慢性疾患医療が実施され、地域との連携が充実している医療施設において、高い専門性を持つ看護師の指導のもと実習を行う。発病期または急性増悪により入院した慢性疾患患者を受け持ち、包括的なアセスメントに基づいて、専門看護師の役割を発揮するための支援計画を立案し、実施、評価する。実習での実践内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のそれぞれの視点から実習報告書を作成する。</p>	共同
専門科目 (共通)	インターンシップ	<p>看護実践経験を持たない学生が、看護を科学的に捉える実践経験を得るための実習である。学生は病院、学校、保健所・保健センター、訪問看護ステーションなどで自らの課題に応じた計画を主体的に実践、評価し、看護科学特別研究に繋がるように探求する。授業計画としては、学生自らが設定した課題について実習計画を立案し、実習施設の調整を主体的に行い、実習計画に基づいた実践と評価をしたのち、その成果を報告書としてまとめる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護科学特別実習	看護学における高度専門職業人になるための自分自身の課題を明確にし、自己成長するために、看護職としての自分自身の現状をアセスメントし、個人の現状に合致した場において課題を設定し研究的視点を持ちながら実践する実習である。さらにそこで得られた知見を、臨地における実証的研究として特別研究につなげられるように探求する。授業計画としては、学生自らが設定した課題について実習計画を立案し、実習施設の調整を主体的に行い、実習計画に基づいた実践と評価をしたのち、その成果を報告書としてまとめる。	
	看護科学特別研究	<p>看護科学に関する各専門研究領域で、各専任教員が指導学生に対して、科学的視点から文献検索、研究計画書の作成、研究デザイン、データ収集、データ解析、結果の考察、倫理的配慮など一連のプロセスを通して、修士論文または特定の課題についての研究成果の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) 国際発達ケアおよびエンパワメント科学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(33 岡山久代) 周産期のメンタルヘルスやウィメンズヘルス看護学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(78 山海知子) 公衆衛生学、疫学（コホート研究など）、産業保健、地域健康学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma) 国際看護、プライマリヘルスケア、看護倫理、高齢者ケア、看護管理に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(142 日高紀久江) リハビリテーション看護学や慢性看護学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(171 水野道代) がん看護や緩和ケアに関する研究課題について、適切な研究手順により調査を実施し、その結果を系統的に示すために必要な研究能力を教授しながら、研究指導を行う。</p> <p>(175 森千鶴) 精神科リハビリテーション看護や看護学教育に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(201 浅野美礼) 主に成人の療養環境におけるソフト面（看護情報の活用）あるいはハード面（物理的な生活環境）に関する課題について、機能や効能を測定する方法を開発・改良することをめざした研究指導を行う。</p> <p>(225 大宮朋子) 公衆衛生看護学、健康社会学、産業保健、学校保健に関する研究の実践、指導ならびに健康生成論salutogenesisに立脚したヘルスプロモーション、ストレス対処に関連した研究についての論文指導を行う。</p> <p>(242 川野亜津子) 周産期の健康支援と家族発達支援、精神的・身体的ストレスマネジメントに関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(268 柴山大賀) 量的手法を用いて、成人期にある慢性疾患患者に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(369 涌水理恵) さまざまな生活環境あるいは発達段階また健康状態にある子どもと家族に関する研究課題について、質的・量的の手法を用いて、臨床実践やアプローチに主眼をおいた研究指導を行う。</p> <p>(423 阿部吉樹) 慢性看護学に関する課題のうち、とくに学生が強く関心をもっている課題に対する研究指導を行う。</p> <p>(437 小澤典子) あらゆる健康状態にある子どもと家族に関する研究課題について、質的・量的の手法を用い、研究指導を行う。</p> <p>(469 杉本敬子) グローバルな視点での、母子保健、ウィメンズヘルス、ヘルスケア教育に関連したトピックについて研究指導を行う。</p> <p>(489 萩野谷浩美) 看護技術、および看護教育、患者のストレス評価等に関する研究指導をする。</p> <p>(492 福澤利江子) 女性の周産期の体験の国際比較、出産中の継続的・非医療的支援（ドゥーラサポート）、尺度翻訳と文化的改変、プライマリヘルスケアに関連したトピックの研究について研究指導を行う。</p> <p>(521 山下美智代) 急性期にあるがん患者及びがん体験者への支援に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(482 Togoobaatar Ganchimeg) 公衆衛生学・疫学の分野で発達している最新の研究方法を看護研究に活かすため、主に母子保健分野における国際共同研究プロジェクトの計画と実施、システムティックレビューの方法論、海外論文の読み方、統計的手法について研究指導を行う。</p> <p>(444 金澤悠喜) ウィメンズヘルス看護学および助産学の分野を専門とし、特に子どもが誕生後の夫婦関係および親への発達過程や育児支援に関する研究指導を行う。</p> <p>(468 菅谷智一) 精神科看護、児童・思春期精神科看護、活動集団療法等、精神看護に関する課題について研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(514 牟田理恵子) がん看護および緩和ケアに関する課題について 研究指導を行う。 (476 出口奈緒子) 学校保健を中心とした公衆衛生看護学に関する 課題について研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
体育学 関連科目	専門基礎科目 研究基礎科目 体育・スポーツ学分野研究方法論	人文社会科学の研究にとって必要な知識基盤として、様々な研究方法論の基礎を学習する。論文執筆のために必要な手順について理解し、人文社会科学の研究手法論について興味を持ち、理解するための基礎を自ら学んでいくことを目的とする。  (オムニバス方式/全10回)  (148 深澤浩洋/1回) (1) イントロダクション (554 清水論/1回) (2) 社会調査の手法 (219 大石純子/1回) (3) 歴史研究I:文献学的手法 (148 深澤浩洋/1回) (4) 科学的思考とは何か:哲学的思考、科学的思考 (299 仲澤真/1回) (5) 数理統計的手法I:大規模社会調査とデータ分析 (65 坂入洋右/1回) (6) 心理臨床的方法:カウンセリング (530 李燦雨/1回) (7) 歴史研究II:歴史人類学的手法 (266 澤江幸則/1回) (8) 数理統計的手法II:質問紙調査とデータ分析 (457 國部雅大/1回) (9) 数理統計的手法III:実験計画法と統計データ分析 (65 坂入洋右/1回) (10) 研究計画書を書く:プロジェクト申請、博士論文への手順	オムニバス方式
	健康体力学分野研究方法論	体育学における健康体力学分野の研究に必要な概念と研究方法について学び、自ら研究計画を立案できる基礎を作る。  (オムニバス方式/全10回)  (161 前田清司/1回) 健康体力学分野における様々な研究方法について概説し、文献研究、研究計画、研究実施、研究成果の公表など、一連の研究の手順について解説する。 (150 藤井範久/1回) ヒトを対象としたバイオメカニクスに関する研究方法について、身体の力学的構造と機能や動きの観点から解説する。 (220 大藏倫博/1回) ヒトを対象とした健康増進に関する研究方法について、特に運動による介入研究の観点から解説する。 (234 麻見直美/1回) ヒトを対象とした栄養学に関する研究方法について、特に食事による介入研究の観点から解説する。 (48 木塚朝博/1回) ヒトを対象とした発育・加齢研究に関する研究方法について、幼少年期、青年期、中高年期における運動の観点から解説する。 (100 武田文/1回) ヒトを対象とした公衆衛生学的研究に関する研究方法について、健康、心理社会的変数、質問紙、横断・縦断調査の観点から解説する。 (28 大森肇/1回) 動物を対象とした生理・生化学的研究に関する研究方法について、組織、臓器、全身レベルの観点から解説する。 (101 武政徹/1回) 動物を対象とした分子生物学的研究に関する研究方法について、遺伝子、蛋白質、細胞レベルの観点から解説する。 (92 征矢英昭/1回) 動物からヒトへの橋渡し研究に関する研究方法について、特に運動に関連するトランスレーショナルリサーチの観点から解説する。 (120 西嶋尚彦/1回) 健康体力学分野の研究に必要な統計学的手法について、特に統計の必要性や統計方法の観点から解説する。	オムニバス方式
	コーチング学分野研究方法論	コーチング学の様々な研究方法に関して方法別に学ぶ。コーチングを学問として捉えるには様々な分野研究方法を学ぶ必要がある。学際的に応用できるように、様々な角度から学習を行う。  第1回 イントロダクション:研究方法の紹介、第2回 コーチング学研究法:チームマネジメント、コーチング原論、第3回 バイオメカニクス研究法1:3次元動作分析法、キネマティクス、キネティックス、第4回 トレーニング学研究法:トレーニングの諸原則、体力評価、第5回 質的研究法:エピソード記述、事例、第6回 アンケートの方法:質問紙法、多変量解析、第7回 運動学研究法:マイネル、現象学的還元、第8回 生理学研究法:最大酸素摂取量、AT、第9回 コーチング学における統計学:確率、基本統計量、第10回 まとめ	
	研究ワークショップ	スポーツ・健康科学分野のテーマに関する研究について、各自の研究をまとめて学会等において発表ができるようになることを目標として、必要な知識と具体的方法を、講義、演習、発表練習およびディスカッションを通して学ぶ。  (オムニバス方式/全10回)	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(65 坂入洋右/3回) テーマ設定と研究計画法、調査法、実験法、観察法・質的研究法について解説する。 (471 仙石泰雄/4回) データ解析法について解説する。 (220 大藏倫博/3回) 発表資料の作成法、研究発表の方法(プレゼンテーション法)について解説する。	
	研究基礎共通実習 (PBL)	本授業は、スポーツ科学や体育科学にかかわる問題を自ら発見し解決する過程を、グループでの協働作業を通して学ぶことを目的とする。授業は、チューターとしての教員と少人数のグループを構成する学生によって進められる。具体的には、毎時間、あるテーマに沿ってシナリオを読み、疑問点を出し合う。そして、問題点を整理し、各自が自分の意見を述べ、さらに深い問題を発見する。まとめとして、個人あるいはグループで問題を解決する方法を探り、レポートする。学生は、こうした過程を通して、発言者の意図を理解し、グループの目的を達成するために効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。	共同
	健康・スポーツ科学のための統計学	健康科学研究とスポーツ科学研究での実験と調査から得られるデータ分析の手法を実践し、数理モデルなどの理論を理解することを通して、研究データの統計分析の実践技能を養う。 基礎的および先端的健康・スポーツ科学研究に用いる統計的分析法について概説する。  (オムニバス方式/全20回)  (120 西嶋尚彦/16回) 大学のサイトライセンスソフトのSPSSとRを使用した研究データの統計分析を実践し、技能を向上させる。統計分析は、平均値構造の分析、分散分析モデルでの分析、共分散分析、相関構造の分析、回帰分析、多変量統計解析と構造方程式モデリング、質的データの要因分析と回帰分析、達成度評価のテスト理論の分析、データマイニング手法での分析などを実践する。 (220 大藏倫博/4回) 健康科学研究における基礎的・応用的なデータの統計分析の実際を講義する。	オムニバス方式
	つくばサマーインスティテュート	Tsukuba Summer Instituteは次の5つのコースからなる短期研修プログラムである。(1) CoRP (Collaborative Research Planning) スポーツのホットトピックに関する研究の計画立案(担当 233 小野誠司)、(2) SPAC (Sport, Physical Activity and Culture in Japan) 日本のスポーツ・身体文化理解(担当 609 松元剛)、(3) LAB (Laboratory Workshop) 運動生理・生化学、神経科学、リハビリテーション等の実験方法(担当 28 大森肇)、(4) IDS (International Development through Sport) スポーツによる国際開発(担当 219 大石純子)、及び(5) QSPE (Quality School Physical Education) 学校体育のカリキュラム、教師教育及び授業研究について; JICA研修員対象(担当 308 長谷川悦示)。大学院受講生はこのうち主に(1)に参加する(条件を満たせば、(5)を除く(2)(3)(4)の参加は認められる)。自国の体育・スポーツの現状と課題、自分の研究について他国の研究者や学生に伝えられること、研究テーマの設定から論文投稿までのプロセスを理解し、自分の研究テーマと研究方法についてプレゼンテーションができること、国際交流や共同研究の重要性を認識することを目標とする。	集中講義 10時間 演習 20時間
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	本講義では、主に英国やヨーロッパにおける事例を紹介しながら、スポーツ政策の国際的動向について把握するとともに、それらの諸実践を分析するための理論的枠組みについて理解することを目的とする。具体的には、教員による講義および履修学生によるプレゼンテーションを通じて、開発と平和のためのスポーツ、エリートスポーツ、オリンピック・パラリンピックのレガシーなどに関わる政策を対象としながら、スポーツ政策の国際的動向と課題、そして今後の可能性について学修する。	集中
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向など、指導者の質保障を多面的にとらえ、指導者育成の観点からコーチ教育について考える。  (オムニバス方式/全10回)  (609 松元剛/4回) 「スポーツにおける戦略論」、「スポーツ・コーチングの国際的枠組み」、「Long Term Athlete Development モデル等に対する考え方」、「コーチングにおけるTGfU理論の活用」の4テーマを設定し、国際的枠組みの観点から学ぶ。 (372 渡部厚一/1回) 「アンチ・ドーピングの考え方」について (494 福田崇/1回) 「トレーニング・コンディショニングの意義・事例・研究動向」について学ぶ。 (609 松元剛/2回) 「メンタルトレーニングの意義・事例」、「メンタルトレーニングに関する最新の研究動向」といった心理学	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(691 和久貴洋/2回)「我が国のスポーツシステムの現状と展望・情報戦略」、「日本のトップスポーツの競技力向上の取組と課題」のテーマでスポーツ政策の観点から学びを深める。	
	Management and Organization (経営マネジメント論)	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。 講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 更に、スポーツ国際開発 (IDS) のマッピング、NGOでのIDS活動、組織マネジメント理論、ケース探索と理論的適応などを議論を踏まえて検討する。	集中
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	開発援助の実践力を高めるべくロジックモデルを改変された「プロジェクト・サイクル・マネジメント」に沿った計画・評価の手法を学ぶ。 ・基礎講座：国際協力のトレンド、プロジェクトのPDCAサイクル ・実践講座：ケールスタディーを用いた実践的検討：プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM)、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)、評価・モニタリング手法	集中
	JSC Seminar (JSCセミナー)	スポーツの推進に寄与するスポーツイノベーション人材を戦略的に発掘・育成する。日本スポーツ振興センターの持つ資源や事業を活用してスポーツ現場における組織間の越境学習を行い、人材育成ノウハウ、カスタマイズ型の育成プログラムを学ぶ。目標は、以下の通り。 1. 国際舞台において、「1 指導的役割 (コーチング)」や「2 スポーツ事業を企画・推進する役割 (スポーツアドミニストレーター)」を担う人材に求められる資質や能力を育成する。 2. グローバルかつイノベーション人材の発掘や育成、活用のために必要なシステムおよびプログラムなどについて実践的に学習する。プロジェクト会議、ワークショップ、カンファレンス企画及び開催、コンサルテーション活動などを視察・支援するために不可欠な基礎知識や情報、物事の見方等を身につける。	共同
	JSC Project (JSCプロジェクト)	スポーツ界の最前線における多種多様な職務経験の機会を幅広い候補者に提供していく。日本スポーツ振興センターが保有する資源 (各種受託事業、JISS、国際連携等) を活用することによって、パートナーシップ締結団体の組織の壁を越えた「越境学習」プログラムを遂行する。組織や人材の連携と協働、あるいは「スポーツ資源の開発」の基礎的経験を通して、「人の間」に入り尽力するために、自分自身の課題や将来構想のヒントを経営的な視点から整理できる能力を身につける。	共同
	On the Job Practice (Domestic)	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間の研修を行う。 スポーツと国際開発に関連のある組織の活動に関わることにより、実践経験を積む。各自の興味関心、ニーズや強みなどの理解し、組織における事業の特徴や経営方策などを理解する。こうした学習を通して、受講生各自がキャリアプランを構築する。	共同
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	スポーツ社会学における理論と実践的研究を基礎にして、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考力を身につける。 スポーツと身体に関する具体的事例について討議を行い、権力の作用について学習する。IDS・SDPの理論について理解し、実践に関する批判的思考力を身につける。	
スポーツ文化・経営政策	スポーツ経営学	体育・スポーツの推進に相応しいスポーツ経営の考え方、及び経営組織と事業運営について解説する。まず、各組織体のスポーツ経営に直接・間接的に多大な影響を及ぼすスポーツ関連法および国のスポーツ政策 (スポーツ基本計画2000、スポーツ基本法2011、スポーツ基本計画2012等) について批判的に検討した上で、スポーツ経営の現代的課題とその解決に向けた経営方略を概説する。次に、スポーツ関連法及び政策の理解を基に、学校体育と地域スポーツが直面している経営課題を整理し、この領域におけるスポーツ事業や経営過程をめぐる実態と課題について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
系列	体育・スポーツ哲学	<p>体育ならびにスポーツの概念、現状、背景となる思想・社会的状況について洞察する力を養うことを目指す。体育・スポーツ概念の鍵の一つである身体の捉え方や身体を経験をめぐって、体育哲学とスポーツ哲学のそれぞれのスタンスから講義を行う。</p> <p>スポーツに関しては、身体的契機、知的契機、感性的契機の三契機から、また、体育に関しては、関係性、重層性、超越性という三つの視点から論ずる。</p> <p>こうした基本的な考え方を踏まえつつ、体育・スポーツに関する現代の特徴を取り上げ、哲学的に考察、ディスカッションする。</p>	集中
	スポーツ史学	<p>人間の歩みの総体である歴史、その歴史に対するより正しい認識と解釈を求め人類が試みてきた様々な方法を学習する。資料を取り扱う諸学問に通じる質的研究方法、とりわけ史学の営みを通して、驚嘆する感性と懐疑する精神を身に付け、現代の体育・スポーツを意識的に探究する。講義は、受講生とのコミュニケーションを取りながら講義形式をベースに行い、人類進化の序幕、歴史とは何か、歴史研究とは何か、歴史学における原則、史料収集論、史料解説と解釈、歴史学における理論とスポーツなどを通して、スポーツを史的に探究する。</p>	
	スポーツ産業学	<p>レジャー・スポーツ産業を対象に人文・社会科学的な視点から検討し、レジャー・スポーツ産業に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/10回)</p> <p>(299 仲澤眞/8回) レジャー・スポーツ産業について、消費者行動論および企業行動論を中心に講義する。 (257 嵯峨寿/1回) レジャーの思想とスポーツの関係を中心に講義する。 (282 高橋義雄/1回) オリンピック思想とスポーツビジネスの関係を中心に講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ社会学	<p>スポーツ社会学に関する研究方法や基本的概念について学習する。スポーツと地域の暮しや環境問題などについて様々なトピックスなどを取り上げて、社会学の立場から検討し、討議を行っていく。こうした学習活動を通じて、スポーツ社会学に関する理解を深める。</p>	
	スポーツ政策学	<p>スポーツ政策の現状と課題に対する理解を深めるとともに、スポーツ政策学の理論と視座を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(62 齋藤健司/4回) 国内外のスポーツ政策の動向の現状と課題及び政策学の理論を概説した後、政策決定、政策実施、政策評価などの政策過程論の視点から実際のスポーツ政策を分析する。 (47 菊幸一/3回) スポーツの公共性からみたスポーツ政策の現状と課題、及び文化政策からみたスポーツ政策の特徴について理解する (487 成瀬和弥/3回) 国内の地方自治体のスポーツ政策を中心に、その特徴、現状と課題などについて解説する。</p>	オムニバス方式
	フェアプレイ論	<p>フェアネスの歴史的概観やフェアプレイを奨励する運動を踏まえ、フェアプレイが主張される意味について、複数の価値観、道徳観から考察する。また、フェアプレイを奨励する運動に言及する。実際にフェアプレイに徹するスポーツパーソンを育成するにはどうしたらよいか、どのようにフェアプレイ教育を展開していけばよいかということについて考察し、自分なりの見解を論理的に展開できることを目標とする。毎回あるテーマについて、グループディスカッションを行い、その結果を発表する。</p> <p>フェアネスの概念、スポーツのルールとエトス、フェアプレイの歴史、フェアプレイをめぐる問題の語られ方(個人と組織)、アンフェアの背景、フェアプレイキャンペーン、フェアプレイ奨励の方策、フェアプレイ教育の構想</p>	
	身体文化論	<p>伝統文化、体操、体育、スポーツなどを具体的に取り上げながら、文化的社会的に構築される身体と身体観について理解を深める。文化社会学、歴史学、哲学を基礎にしながら領域を越えて議論し、身体文化に対するアプローチを切り開く。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(148 深澤浩洋/5回) (1)身体文化の背景と枠組み、(2)身体文化の諸事例と枠組みとの関連性、(3)身体文化の可能性、(4)身体の捉え方、(5)コミュニケーションする身体</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(530 李燦雨/5回) (1) 伝統的な武文化ー東・西洋の戦士文化、(2) 近代以降の武文化ー軍事と体育、(3) 身体の武化から文化へー訓練から祭りへ、術から芸へ、(4) 戦争で点綴される人類の歴史と文化、(5) 武文化の視点と「我が人生の城」	
	スポーツ法学	<p>スポーツに関する基本法令、判例、法制度及び法的諸問題について概説し、スポーツ法学に関する理論、スポーツ法の体系及びスポーツ法政策の基礎知識を学ぶ。</p> <p>スポーツ法の体系、スポーツ基本法、スポーツ権、スポーツ仲裁法、アンチ・ドーピング法、体育に関する法令、スポーツの知的財産権、スポーツ放送法、プロスポーツ関連法、スポーツビジネス関連法、選手契約などを解説し、議論する。</p>	
	スポーツ行政学	<p>行政学の視点から、日本のスポーツを検討し、中央政府や地方自治体の組織、制度及び政策などについて、その基礎知識を学ぶ。日本のスポーツ行政過程の構造や機能について理解を深める。また、授業の後半(5回目以降)にはグループディスカッションを行う。グループごとに日本のスポーツ問題を検討し、仮説を設定してその問題を解決するための方策を立案する。グループごとに、その内容を発表し、他のグループとディスカッションを行う。</p>	
	スポーツビジネス論	<p>(1) プロスポーツの運営や(2) スポーツメーカーのブランディング、(3) スポーツツーリズムなどを事例に、スポーツとビジネスの関係について理解を深めていく講義である。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(299 仲澤眞/4回) プロスポーツの事例を中心に講義する。 (257 嵯峨寿/3回) スポーツメーカーのブランディングを中心に講義する。 (282 高橋義雄/3回) スポーツツーリズムの事例を中心に講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツを通じた開発論	<p>国際社会では、複雑に相互依存が深化する世界構造の下で、社会課題を改善するために、「地域・地球規模の連携」、「社会関係資本の構築」、「国際的課題の改善」を求める「スポーツを通じた開発」或は「開発と平和のためのスポーツ」行動が地球規模的に展開され始めている。</p> <p>本講座では、国内外の課題を探求し、その課題に対して採られる「スポーツを通じた開発」の事例を各専門領域の理論によって読み解くために議論を交わしながら検討する。</p> <p>(1) 既存研究によるケースの批判的検討(3回)、(2) 課題的検討(2回)、(3) 方法論的検討(2回)、(4) 実践的検討(3回)</p>	
	スポーツメディア論	<p>現代社会におけるスポーツイベントとメディアの親和性について、その歴史について学習し、映像メディアを介して表象化される人種、ジェンダー、ナショナルリティの諸問題について理解を深める。</p> <p>1. スポーツイベントの成立構造について、スポーツの組織と連盟、メディア、資本主義企業、そして代理店の関係から説明することができるようにする。</p> <p>2. 身体パフォーマンスをもとにした集合的想像力と表象、及びその文化政治について例をあげながら説明することができるようにする。</p> <p>3. 人間とメディアとの関係について、歴史を踏まえて、例をあげながら説明することができるようにする。</p>	共同, 集中
	スポーツ文化・経営政策共通実習	<p>スポーツ文化・経営政策に関連する諸事象について問題発見・課題解決能力の涵養を図り、生きた知識を身につけることを目的とする。各自が選択した担当教員の指導の下、スポーツ関連施設や組織等で行われている活動に触れたり調査を行ったりする。</p> <p>(148 深澤浩洋) スポーツ文化に関連するテーマでシンポジウムを企画し実施・運営の実験を経験する。また、オリンピック・ムーブメントに関連するテーマでセミナーやシンポジウムを企画し実施・運営の実験を経験する。</p> <p>(62 齋藤健司) スポーツ政策や法に関する研究会・発表会等を組織、運営し、実際の学会大会の実施を支援し経験する。</p> <p>(299 仲澤眞) 公共性や公益性に配慮したスポーツビジネスの実際と理論について学び、実務者との意見・情報交換を基礎に、スポーツマーケティングについての理解を深める。また、スポーツ経営の実践的領域に赴き、経営実践を経験したり資料を収集し、経営課題の整理とその解決策を検討する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、行政機関、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、行政機関、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	地域スポーツ経営論	地域スポーツをめぐる政策動向とその背景をふまえ、地域スポーツクラブの現代的意義とその組織化の方法論について理解する。まず、地域スポーツ経営領域の特質と固有のミッションを基準としながら、わが国におけるクラブ育成状況やクラブマネジメントの実態を評価する。次に、この現状評価とクラブ理念型との乖離を埋めるクラブの戦略的課題を特定化する。さらに、経営課題を克服するための組織マネジメントの要点を、いくつかのクラブ先進事例から読み解くことで、コミュニティ振興とスポーツ振興の同時達成の方法を解説する。	隔年
	スポーツリスクマネジメント論	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	
健康・スポーツ教育系列	体育科学習指導論	良質な体育授業を実施するために必要な学習指導上の諸条件とそれを具体化していくために必要な教員の資質について模擬授業の立案計画と実施による直接的な実践体験を通して学修する。体育科教育に必要とされる学習指導方略、学習指導過程、学習組織、学習指導モデルなど専門知識と技能について理解を深める。 受講生は複数の授業者グループごとに、授業計画を立案し、教師役・生徒役・観察者を相互に役割分担して模擬授業を実施する。体育授業を分析する方法と授業を省察する能力の向上をねらって、受講者はe-Learningによる授業評価システムを用いてビデオ収録された授業映像を視聴しながら、観察分析データを参照して授業評価・省察を実施し、反省会ではそれをもとに討議する。第1～3回は指導案作成、第4～6回は模擬授業実施。第7回に中間反省会。第8～10回は修正案による模擬授業実施。第11回は最終反省会（最終課題の確認）を実施する。	
	学校健康教育論	本授業では、学校における健康および安全の課題について、教育的視点から論じる。具体的には、学校における健康教育の現状と課題について解説するとともに、喫煙防止教育、飲酒防止教育、薬物乱用防止教育、食に関する指導、性に関する指導等を取り上げ、その内容と方法について講義する。また、学校における健康教育の指導者として身に付けるべき資質・能力について概説する。本授業を通して、学校における健康教育の課題、考え方や進め方等について、理解を深めることを目的とする。	集中
	アダプテッド・スポーツ教育論	特別支援教育におけるアダプテッド・スポーツ教育について、特別支援教育の制度とアダプテッド・スポーツ、障害のある生徒とアダプテッド・スポーツ、インクルーシブ体育とアダプテッド・スポーツ、体育・スポーツにおける支援という視点から講述し、アダプテッド・スポーツの方法について ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) の概念をもとに説明できること、発達障害のある子どもの実態を複合的に説明でき、発達障害のある子どもの支援に対して多面的にアイデアを出すことができることを目標としている。	共同
	スポーツカウンセリング論	カウンセリングの基本的な理論と技法を理解するとともに、スポーツ競技者や生徒や一般成人の心身の健康増進および競技や日常生活におけるパフォーマンスの向上を目的とした指導や援助の基本的技術を学ぶ。スポーツ競技者や生徒や一般成人の心身の問題の改善やパフォーマンス向上を目的とした心理的サポートとして、指導者や援助者に必要なカウンセリングの理論と方法を、健康心理学およびスポーツ心理学の最新の知見を踏まえて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健社会学	健康の概念に関する医学モデルと社会モデルの各理論、健康づくり、健康増進および健康の社会的要因に関する基本パラダイムを学ぶ。また超少子高齢社会における公衆衛生の基本戦略、親子保健・老人保健の各領域における直近の健康課題とそれに対応する各種の法制度・政策・サービスの現状を理解する。	共同
	学校体育経営論	現在生じている学校体育及びその関連問題についての相互批判的議論を通じて、多角的で俯瞰的な視野をもつと共に、学校体育の総合的な経営理念や経営哲学を鍛える。具体的には、「学校体育における専門性とは何か」「学校体育における教育内容の選択原理は何か」「義務教育における自由化（競争原理の導入）の是非」等の本質的問いについて、ディベート形式の集団討議を通じて議論を深める。そして最終的には、学校体育経営の哲学の根幹となる「学校体育の存在意義」について批判的に考察し、各自の教育改革プランを構想する。	隔年
	武道授業指導論	学校における武道の指導法について検討し実習する。  (オムニバス方式／全10回)  (329 増地克之／2回) 柔道の基本動作である礼法、姿勢、進退、組み方、崩し、体捌き、受身の指導法について理解を深める。 (228 岡田弘隆／3回) 学習指導要領に挙げられている技の中から代表的な投技、抑込技の指導法について解説し、実習させる。 (57 香田郡秀、302 鍋山隆弘、205 有田祐二／5回) 学校における剣道の指導法について検討し実習する。学校における武道の指導法について検討し実習する。	オムニバス方式
	スポーツ心理学	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目：スポーツ心理学（臨床スポーツ心理学）の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理（事例中心）、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	集中
	保健教材論	本授業では、中学校および高等学校における保健科教育の教材について分析し、実践的に演習する。保健の教育内容を踏まえて、学習者の思考・判断を促したり、学習意欲を高めたりするような教材のあり方について理解するとともに、その具体的な教材づくりを行う。また、作成した教材を授業の中でどのように活用するかについてディスカッションする。本授業では、保健科教育における教材の分析を通して、教材開発や活用方法についての理解を深めることを目的とする。	
	野外教育プログラム論	本授業では、野外教育で展開される各種プログラムを多面的に理解し、野外教育プログラムを自ら計画・運営・評価する能力を高めることを目標とする。具体的には、各種プログラムの特徴・目的・指導法・安全管理等について理解を深めるとともに、プログラムの計画や運営する能力を高め、地域の様々な資源（自然環境、地域文化等）を生かしたプログラム開発に取り組む。授業の最終回には、グループワークとして、ある条件を満たした「野外教育プログラム」のプレゼンテーションが課される。	
	野外教育指導論	野外教育プログラムであるキャンプやASE (Action Socialization Experience) 指導の特徴の一つは、グループを指導することにある。本時では、1) キャンプやASEなどのグループカウンセリングの理論と方法について理解すること。2) グループの特徴について体験的に理解すること。3) 自然体験活動を活用したプログラムにおけるカウンセリングの諸課題について理解することが目的である。なお、2) については、野性の森内のASE施設における活動を実際に体験することによって理解を深める。	
	体育授業観察分析法I	体育授業の組織的観察法についての、そのねらい、手段、手順を学習し、この方法を用いて実際の体育授業を観察し分析し評価する能力を育成する。 学習目標：体育の学習指導を方向付けている様々な研究法や理論について理解する。また、実際の授業を観察し、そこに適用されている学習指導論を分析、評価することによって、基礎的な研究力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体育授業観察分析法II	アダプテッド体育の視点をもった授業づくりのための理論を学び、特別支援学校や特別支援教育対象生徒が参加する体育授業を観察評価するとともに教材開発を行う。  (オムニバス方式/全10回)  (256 齊藤まゆみ/全5回) アダプテッド体育と授業観察の方法について、ニーズの把握、課題の設定と場の設定を行えるよう具体例をもとに演習を行う。また、開発した教材の評価と再構成を行う。 (266 澤江幸則/全5回) アダプテッド体育の対象となる子どもの運動場面の観察を通して事例検討を行い、体育教材の開発を行う。	集中 オムニバス方式
	健康・スポーツ教育インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	健康・スポーツ教育インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	野外教育実習(キャンプ)	本授業では、代表的な野外教育プログラムの形態である「組織キャンプ」について、自らその教育的価値を実体験しながら、基本的な計画(事前授業)・運営(本実習)・評価(事後授業)の方法を実践的に学習する。具体的なプログラムや学習内容は、野外生活スキル、冒険教育プログラム、環境教育プログラム、キャンプマネジメント、キャンプカウンセリング、指導法、安全教育と安全管理、環境倫理、環境配慮スキル、サバイバル技術等を含んでいる。	集中 共同
	舞踊授業指導論	体育授業としての舞踊(ダンス)の授業(学習指導)における理論と実践方法について関連する文献と実践事例を基に検討するとともに、主な学習内容(創作系、リズム系、フォークダンス系)の特性を踏まえた指導計画を作成し検討していく。ダンスの特性、学習内容、指導計画、指導言語、学習評価などに着目し、舞踊の授業指導への理解を深める。それらの知見を基に、学習者と指導者の関係性から授業をどのように創造していくのかを検討する。	隔年
ヘルスフィットネス系列	体力学特講	体力・運動能力に関する様々な概念や構成要素を復習し、発達加齢段階や各種レベルに応じた測定法、最新の解析法を解説することを通して、運動遊び、エクササイズ、トレーニングなどが、健康体力や競技体力に及ぼす効果について学ぶ。  (オムニバス方式/全10回)  (48 木塚朝博/3回) 体力概念の多様性と再定義について解説し、体力・運動能力における新しい測定評価法を開発する意義を理解させる。 (118 鍋倉賢治/2回) エネルギー代謝の概念と評価法を解説し、持久性体力とパフォーマンスとの関係について理解させる。 (218 榎本靖士/2回) パワーと運動効率の評価方法および発達特性について概説し、さまざまな運動場面で応用できるよう理解させる。 (233 小野誠司/3回) 視覚情報や平衡感覚を主とした感覚情報が体力・運動能力に及ぼす影響について解説し、視覚-運動系や動体視力を基盤とする体力・運動能力の意義を理解させる。	オムニバス方式
	スポーツ生理学特講	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード：重村式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード：ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ生化学特講	スポーツ生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、スポーツ生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に着ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関してスポーツ生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。演習の最後に受講生の発表会を行い、教員と受講生の間で討議を行う。参考図書；脳を鍛えるには運動しかない（NHK 出版）、からだの中からストレスをみる（学会出版センター）、使えるスポーツサイエンス（講談社サイエンティ）	共同
	スポーツ栄養学特講	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動（身体活動）、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨（フィーマールアスリートトライアドを含む）、貧血、水分代謝、休養（睡眠・時差）などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	ヘルスフィットネス分野における基礎的研究と応用・臨床的研究の関係性および研究をスポーツ実践（現場）や生活・健康に生かすための課題や工夫について解説する。  （オムニバス方式／全10回）  （48 木塚朝博／1回）ヘルスフィットネスにおける基礎から応用への橋渡し （120 西嶋尚彦／1回）測定評価における統計分析データからトレーニング現場への橋渡し （220 大藏倫博／1回）生活機能に関する研究から健康づくり指導への橋渡し （233 小野誠司／1回）サイバネティクス系能力の研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （118 鍋倉賢治・218 榎本靖士／1回）（共同）持久系能力の研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （121 西保岳／1回）呼吸循環および体温研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （101 武政徹／1回）分子レベル研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （92 征矢英昭／1回）動物実験研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （28 大森肇／1回）サプリメント研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （234 麻見直美／1回）栄養摂取から食生活実践への橋渡し	オムニバス方式 共同（一部）
	体育測定評価学特講（発育発達学を含む）	目標：運動能力とその発達、体育、運動・スポーツにおける測定学および評価学の基礎的および先端的な研究方法について理解する。専門とする研究分野における基礎的および先端的な実験方法、調査方法における測定方法を理解する。 授業計画の概要：尺度水準と水準ごとの記述統計量、体育評価で用いる達成度評価テストの構成、運動技能の達成度評価、動作技能の達成度評価、戦術技能の達成度評価、構造方程式モデリングを適用した因果関係の測定、実験デザインと分散分析による平均値の差で要因の効果を測定する。スポーツビッグデータからプレーの達成度を測定する。	
	スポーツ栄養学実験実習	スポーツ栄養学領域の調査、実験を行うに必要な知識と技術を、実験・実習を通して学習する。それぞれの履修者のこれまでの学習背景、現在からこれからの研究領域を考慮して、履修者それぞれの知識ニーズに個別に対応した課題設定を行って実施する。	集中
	スポーツ生理学実験	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関する研究方法を理解することを目的として、実験実習を行う。履修はスポーツ生理学の基礎を学んだものに限る。 骨格筋系のキーワード：筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮を誘導する動物（マウス）実験系、打撲刺激、鍼刺激、切片の免疫組織化学、蛋白質解析（ウェスタンブロット）、mRNA解析（Real-time PCR）、培養骨格筋細胞、細胞外フラックスアナライザ 呼吸循環系のキーワード：最大酸素摂取量、血管機能測定、呼吸機能測定、体温調節機能	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ生化学実験	実験を行うことを通して、実験機材の取り扱いかた、研究資料の収集法、実験材料の分析法を身に着ける。これによって、運動と代謝・内分泌応答に関する基礎的測定と評価法を理解し、研究を遂行できる実践能力を養成する。	共同
	体力学実習	<p>体力学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における研究計画、研究方法、プレゼンテーションについて実習する。</p> <p>(オムニバス方式/全40回)</p> <p>(118 鍋倉賢治/10回) 体力学に関する測定方法の実習  (218 榎本靖士/10回) 体力学に関する分析方法の実習  (233 小野誠司/10回) 体力学に関する評価方法の実習  (48 木塚朝博/10回) 体力学に関する研究計画およびプレゼンテーションの実習</p>	オムニバス方式
	健康増進学実習	<p>一般健常者、高齢者、有疾患者を対象とした健康指標の検査・測定方法およびトレーニング方法の実際を学習する。学習目標は、中年から高齢者、有疾患者を対象とした健康運動指導法および健康支援法に関する実際を学び、基本的な指導ができるようになることである。</p> <p>(オムニバス方式/40回)</p> <p>(161 前田清司/20回) 第1回～10回は健康運動指導法および健康支援法の実際を学ぶ。第11回～20回は中年者を対象とした健康度評価法の実際を学ぶ。  (220 大藏倫博/20回) 第21回～40回は高齢者を対象とした健康度評価法の実際を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	体育測定評価学実習 (発育発達学を含む)	<p>目標：実験や調査のデータを統計分析して、結果を図表でまとめる。スポーツデータサイエンスのデータ分析手法を適用して、試合のプレー、トレーニング分析などのデータから知見をマイニングする。</p> <p>授業計画の概要：自分の研究データを用いて、実験デザインおよび調査デザインに適合した統計分析手法を適用し、データを分析する。研究論文を参照して、方法を記述し、結果の図表を作成する。データ分析の手続きに従い、従属変数と独立変数、平均値構造と相関構造、因果関係の分析モデルを理解する。</p>	
	基礎ヘルスフィットネス演習	<p>最新のヘルスフィットネス分野の研究に関する動向を学び、研究デザインの組み立て方や分析方法について修得する。健康体学分野に所属する教員がオムニバス方式で担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(48 木塚朝博/1回) ヘルスフィットネスにおける基礎とは何かを考える  (120 西嶋尚彦/1回) 体育測定評価学からヘルスフィットネスを考える  (220 大藏倫博/1回) 健康増進学からヘルスフィットネスを考える  (233 小野誠司/1回) 体力学サイバネティクス特性からヘルスフィットネスを考える  (118 鍋倉賢治・218 榎本靖士/1回) (共同) 体力学エネルギー特性からヘルスフィットネスを考える  (101 武政徹/1回) 運動生理学筋生理系からヘルスフィットネスを考える  (121 西保岳/1回) 運動生理学呼吸循環器系からヘルスフィットネスを考える  (92 征矢英昭/1回) 運動生化学神経内分泌系からヘルスフィットネスを考える  (28 大森肇/1回) 運動生化学代謝系からヘルスフィットネスを考える  (234 麻見直美/1回) 運動栄養学からヘルスフィットネスを考える</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	ヘルスフィットネスインターンシップ春	<p>春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織 (例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など) において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア ス レ テ ィ ッ ク コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ 系 列	ヘルスフィットネスインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	運動器のしくみと働き（基礎編）	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深いかかわりを持っている。地上性の脊椎動物（哺乳類）では、基本的に自身の身体の移動のために最も適した、骨格に基盤とする身体プロポーションをもち、その骨格をその目的（歩行、走行）が効率的に行えるように筋が配置され、また筋の特性もその運動にあっている。歩行、走行以外にも重要な運動があるが、いずれの運動においても関節の構造も大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現されることとなる。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素としてかかわっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことがらについて、詳細を解説していく。	
	スポーツバイオメカニクス特講	スポーツ動作や様々な基礎的運動をバイオメカニクスの側面から考察するために必要な基礎事項や分析手法、特に逆動力学的計算について解説する。具体的には、並進運動および回転運動における力学的法則を確認した後、剛体リンクモデルによる関節トルク算出手法について解説する。その際に、身体部分慣性特性係数についても解説するとともに、体育総合実験棟において身体運動の計測方法、地面反力の計測方法についても実演を行う。さらに、得られたデータをもとに、動作の変動性係数や動作逸脱度を用いた身体運動を評価する方法を解説する。	隔年
	スポーツ用具と動きのしくみ	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ（メカニズム）について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	
	女性スポーツ医学論特講	<p>月経の調節機構と加齢による変化、妊娠による身体機能の変化と胎児の発育を学ぶ。激しいスポーツ活動に起因する月経異常の発現機転を理解する。また、妊婦のスポーツ活動が母体および胎児に及ぼす影響を理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（346 向井直樹／6回）全体を概観するとともに整形外科医の立場から運動器の外傷障害の女性の特徴、無月経と外傷や障害の関係の関係を解説し、さらに妊娠とスポーツ、閉経にかかわる諸問題についての最新の知見について紹介する。</p> <p>（372 渡部厚一／4回）内科医の立場から、女性特有の機能である妊娠・分娩と月経の調節機構について発達加齢の観点も含め概説し、運動性無月経や月経困難症などの婦人科的問題、栄養障害や貧血などの内科的問題の各論をスポーツ活動と関連付けて解説する。</p>	オムニバス方式
	機能解剖学実験	<p>身体運動の分析法について、以下の実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Anakin Systemを使用したマーカーを使用しない動作計測法のデモンストレーションと実際にその装置を使用してヒトの動作の計測を行う。</li> <li>2) 力の測定として、ロードセルを使用した筋力の測定を行う。ロードセルの原理、使用法についても学習する。</li> <li>3) 筋電図法の種類や測定時の注意事項について学び、実際に表面電極を使用した筋電図測定を行う。</li> <li>5) 立位における重心動揺を、フォースプレートを使用して測定する。</li> <li>6) 歩行分析に関して、動作と床反力の測定を行う。</li> </ol>	集中
	運動器のしくみと働き（応用編）	<p>上肢の運動を上肢帯の運動、肩関節、肘関節、手関節における運動、さらに手部における運動に分け、それぞれの運動に関与する筋について、詳細を学習するとともに、これらの関節の詳細も学習する。下肢に関しても同様に、股関節、膝関節、足関節及び足部における運動に関与する筋の詳細を学習し、これらの関節の詳細も学習する。さらに、呼吸運動も含む体幹の運動についても、それに作用する筋について学習する。さらに、身体の総合的な運動である姿勢保持や歩行について、それらの分析法についても学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ医学基礎論実習I	<p>スポーツ医学（内科系）に関連する実習として、一般健常者、中高齢者、肥満者などにおける運動プログラムや食生活改善プログラムなどの生活習慣改善プログラムの実践により、その実際を学ぶ。さらに、これら生活習慣改善プログラムを通じて、種々の健康関連指標の評価方法や解析方法などを学習し、運動や食生活改善などの生活習慣改善が健康関連指標に与える影響を学ぶ。この実習により、スポーツ医学（内科系）の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論実習II	<p>スポーツ傷害に関する基本的な身体特性の評価、受傷機転の解析、予防法について、実習を通して理解を深め、スポーツ医学に関する基本的能力を養う。この実習により、スポーツ医学（外科系）の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。スポーツ傷害に関する基本的な身体の評価方法について学ぶことで、受講生がテーマを決定し、研究計画を立てることが出来るようにする。</p>	共同
	アスレティックコンディショニング論特講	<p>競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(88 白木仁/2回) 「コンディショニングトレーニング総論」と「競技力向上のためのコンディショニングトレーニング」を担当する。</p> <p>(49 久賀圭祐/2回) 「突然死・過換気症候群とコンディショニング」を2回にわたり詳説する。</p> <p>(346 向井直樹/2回) 「競技別コンディショニング」と「アンチドーピングとコンディショニング」を担当する。前者では陸上・スケート競技のサポートを解説し、後者では薬物の利用とアンチドーピングの情報を提供する。</p> <p>(618 金森章浩/2回) 「骨・関節系の外傷・障害のリコンディショニング」を2回にかけて概説する。</p> <p>(372 渡部厚一/2回) 「感染症に対するコンディショニング」と「高所・暑熱環境に対するコンディショニング」を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/8回) : 世話人「コンディショニング・コンディショニングの概念」を再考し、「コンディショニングのエビデンス」を吟味し、フィールドで利用できる情報を提供する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 「疲労回復を促すためのコンディショニング」と「トレーニング計画とコンディショニング」を担当する。</p>	オムニバス方式
	アスレティックリハビリテーション論特講	<p>スポーツ選手が傷害から復帰するために必要なリハビリテーションの基本を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(88 白木仁/8回) 部位別のアスレティックリハビリテーションとして肩と体幹を担当する。またエクササイズ以外の方法としてテーピング・マッサージを概説する。</p> <p>(346 向井直樹/4回) 部位別の中で下腿、足・足関節を担当し、手術後のアスレティックリハビリテーションについて解説する。また代表的な外傷・障害については症例を基にした事例を供覧する。</p> <p>(618 金森章浩/2回) 部位別の中で骨盤・大腿・膝関節を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/4回) アスレティックリハビリテーションで用いられるエクササイズと併用される物理療法につき概説し、上肢を例に具体的なリハビリテーションを紹介する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 競技特性を考慮したアスレティックリハビリテーションを概説する。</p>	オムニバス方式
	アスレティックトレーナー特講	<p>アスレティックトレーナーの現状を把握し、現在まで発展してきた経緯と遺産を理解する。歴史的背景からみたアスレティックトレーナー成り立ちや現代社会における特徴をまとめ、その将来を展望する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(88 白木仁/5回) アスレティックトレーナーの概論・歴史及びプロスポーツにおける競技力への貢献・社会的貢献についての講義を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/4回) アスレティックトレーナーのアマスポーツにおける役割・資質・教育についての講義を担当する。</p> <p>(494 福田崇/1回) アスレティックトレーナーの養成についての講義を担当する。</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	テーピング・マッサージ実習	<p>テーピング及びマッサージを実施する上での運動学的、解剖学的、生理学的な基礎知識や方法について解説しながら、実習を行う。実習はベーシックとアドバンストの2つに分かれて実施する。</p> <p>(88 白木仁) マッサージの講義とアドバンストのグループを主として担当  (287 竹村雅裕) テーピングの講義とベーシックのグループを主として担当  (494 福田崇) ベーシック・アドバンストの両方のサポートをするとともに実技試験を担当</p>	集中 共同
	スポーツ内科学特講	<p>スポーツ現場で頻繁に認められる内科的疾患について、診断・治療・予防法の概要を解説するとともに、スポーツ種目別の特徴、ヘルスプロモーションの視点としてのチームマネジメントとの関連性について事例を挙げ、ディスカッションを行う。具体的テーマとして、心臓突然死とメディカルチェック、スポーツ貧血、運動誘発喘息とアナフィラキシー、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策、過換気症候群、熱中症と低体温症、内科的コンディション評価とオーバートレーニングなどを取り上げる。</p>	集中, 隔年 共同
	アスレティックコンディショニング論演習	<p>競技力向上を目的としたコンディショニングやトレーニングを実践し、パフォーマンスに関わるスポーツ傷害予防やコンディショニングの方法についてグループで実習を行う。</p> <p>(88 白木仁) 骨・関節系の問題を抱えるアスリートに関する指導・助言をする。  (346 向井直樹) スポーツドクターという立場から、特にコンディショニングをの悪化を予防する・回避するコンディショニングにつき指導・助言する。  (287 竹村雅裕) 人の動き・動作の面からコンディショニングの調整・ベストパフォーマンスの発揮に関わる指導・助言をする。  (494 福田崇) オーバートレーニングの防止やコンディショニング作りにも重きをおいたコンディショニングの観点から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックリハビリテーション論演習	<p>スポーツ傷害からの早期復帰に必要な知識を駆使して、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成できるようになる。</p> <p>(88 白木仁) 骨・関節系の問題を抱えるアスリートに関する指導・助言をする。  (346 向井直樹) 個人競技・種目に関わるスポーツドクターという立場から、指導・助言する。  (287 竹村雅裕) 人の動き・動作の面からコンディショニングの回復・ベストパフォーマンスの回復に関わる指導・助言をする。  (494 福田崇) 競技特性を考慮したプログラミングの観点から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックコンディショニング論実習	<p>アスレティックコンディショニング論特講・演習で身に着けた知識・手段・方法・技術を実践を通じて確認をする。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。  (346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。  (287 竹村雅裕) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。  (494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックリハビリテーション論実習	<p>アスレティックリハビリテーション論特講・演習で身に着けた知識・技術・プロセスを実際に体験して学習する。</p> <p>(88 白木仁) 柔道整復学の面から指導・助言をする。  (346 向井直樹) 整形外科の面から、指導・助言する。  (287 竹村雅裕) スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。  (494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックトレーナー演習	<p>アスレティックトレーナーの組織的将来展望についての知見を習得することを目的として、アスレティックトレーナーとしての役割、資質、養成、教育、競技力への貢献、社会的貢献に関する文献的検討を演習形式で行う。更に、アスレティックトレーナーのアマスポーツ（学校における授業や部活動、地域スポーツクラブなど）での役割、プロスポーツ（ナショナルレベル、インターナショナルレベル）での役割に関する文献的検討も行う。</p>	共同 集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アスレティックコンディショニングインターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
コーチング系列	コーチングのバイオメカニクス	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	隔年
	コーチング論（事例討議）	コーチには、当該スポーツ競技／種目の技術・戦術、トレーニングの指導だけでなく、トレーニング環境を整備したり、多様なステークホルダーと連携し目標を達成していくための能力も求められる。また、その前提となる「コーチング哲学」をどのように構築するかも重要である。本講義では、コーチング現場で活躍中のコーチを招いて、コーチング実践の場における現状と課題を知り、それらをもとに学生相互で討議することによって将来のコーチングに資する実践知の獲得をめざす。	共同
	身体技法論	目標：気功、呼吸法、武術、整体法、体操、ボディワーク等の身体技法について理解し、それらと体育やスポーツとの関係や意味について、個々の身体技法として活用する方法を知る。 授業計画：東洋の身体知（embodied wisdom）に対し、西洋の身体知ともいべきソマティクス（Somatics-身体を内側から捉える理論）の臨床的実践技法であるボディワークをテーマに、その理論的背景を学びながら、技術（art）の習得を図る。体験的解剖学に基盤づき、基本的な身体の構造や機能を学びながら、実際に動き（movement）、触れ（touch）、声を出し（vocalization）、身体の経験や気づきを言語化し（verbalization）討議を加える。前半は骨格系、後半は内臓を中心に取り上げる。	
	身体表現論	<私>にとって身体とは何かを問うことを通して、「身体表現」について考察する。自らの「身体表現」と他者の「身体表現」の違いを捉え、私たちがどのようにコミュニケーションを成立させているのかを検討する。特に、ダンスの場面における事例を取り上げ、「身体表現」の特性について考える。また、身体を持つ力に着目し、「身体表現」という括りでダンスとスポーツを捉えることで、体育・スポーツ学を多角的に検討することを試みる。	
	スポーツ運動学	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実践現場および研究においてもスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト（運動ゲシュタルト）として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	
	武道文化論	武道は日本で発祥し、長い歴史の中で宗教や芸能など様々な文化と交流をもちつつ独自の運動文化として成立したものである。そのユニークさゆえに海外ではジャパノロジー（日本学、日本研究）の対象ともなっている。世界で日本人がリーダーシップを取っていける数少ない領域であり、将来国際社会で活躍する者にとって必須の学習課題である。近年、日本刀ブームであるが、刀剣は単なる武器ではなく古来神聖なものとして扱われてきており、実に深淵な思想体系を有している。本講義は、武道文化の中でも刀剣の思想に焦点を当て、最新の研究成果をテキストとし、PBL（Problem Based Learning）方式で学習・議論を重ねていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体操コーチング総合演習	<p>目標：体操についての国内外の映像資料や文献を調査し、本領域特性を理解するとともに、各種のねらいや対象に応じた体操の実践力と指導力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(418 本谷聡/5回) 学校体育における「体づくり運動」教材のあり方を検討し、各種のねらいに応じた動きの高め方や「体ほぐしの運動」についての運動プログラムを考案し、教育現場における指導方法を学習する。</p> <p>(130 長谷川聖修/5回) 国内外の先駆的な体操指導の実践例を比較検討し、乳幼児から、親子、障がい者、高齢者までの幅広い対象者がアクティブなライフスタイルを構築するための体操プログラムを考案し、指導現場に役立つ体操コーチングのあり方を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	体操競技コーチング総合演習	<p>体操競技および器械運動に関する国内外の文献講読と実習を行い、それぞれの種目の基本技の技術と指導方法、安全に関する配慮などについて理解する。器械運動の内容に関しては、マット運動、とび箱運動、平均台運動、鉄棒運動の基本的な技を身に付けてとともに、効果的に指導する方法を学習する。また、体操競技の内容については、男子6種目(ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)、女子4種目(ゆか、平均台、段違い平行棒、跳馬)のそれぞれについて種目特性を理解するとともに実習を通して基本技術と指導法を学習し、専門家として必要な資質を身に付ける。</p>	
	陸上競技コーチング総合演習	<p>陸上競技の技術、トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにして、体育的側面及び競技的側面から有効なコーチングへの手がかりを検討する。</p> <p>(オムニバス形式/全10回)</p> <p>(226 大山下圭悟/5回) 主に投擲競技のコーチングにかかわる知見、陸上競技における傷害の予防やコンディショニングに関わる文献から得られる知見を手掛かりとして、コーチング実践への適用につなげるための検討および討論を行う。</p> <p>(450 木越清信/5回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技のコーチングにかかわる文献から得られる知見を手掛かりとして、コーチング実践への適用につなげるための検討および討論を行う。</p>	オムニバス方式
	水泳競技コーチング総合演習	<p>水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛込み)に関するバイオメカニクスおよび運動生理学的な測定手法を学習し、実験プロトコルを作成した上で各種測定を実施し、正確にデータを収集する能力の獲得を目指す。また、実験で得られたデータの分析方法も学習し、測定データを正しく解釈する能力の獲得を目指す。</p>	
	バレーボールコーチング総合演習	<p>国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バレーボールのコーチとしての基礎的資質を高める。</p>	共同
	バスケットボールコーチング総合演習	<p>バスケットボールの複雑な競技特性に言及する、1) 吉井四郎(1985)バスケットボール指導全書(全3巻、大修館書店)、2) ウドゥン(2000)UCLAバスケットボール(武井光彦監訳・内山治樹他訳、大修館書店)、3) Krause, J. and Pim, R. L. (ed.) (1994) Coaching basketball, Contemporary Books、4) Weineck, J. und Haas, H (1999) Optimales Basketballtraining, Spitta Verlag など、日英独の代表的な古典というべき文献の精読を通じて、コーチングの前提要件たる理論知の獲得を図る。併せて、実際のコーチング場面で直面する諸問題を解決するための方策について発表・討議することで、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題についての理解を深める。</p>	
	ハンドボールコーチング総合演習	<p>ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して、さまざまな問題に対処できる専門的な指導力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 會田宏/4回) ハンドボールにおけるコーチングの目的と目標、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術のコーチングについて解説する。</p> <p>(497 藤本元/3回) ハンドボールにおける発達段階に応じたコーチング、指導計画の作成について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(523 山田永子/3回) ハンドボールにおけるコーチング実践活動をスーパーバイズし、コーチング活動の評価について解説する。	
	サッカーコーチング総合演習	演習形式でサッカーのコーチングに関わる理論の理解を深めると同時に、コーチングの実践を通してサッカーコーチとしての能力を高める。授業の前半は主に講義形式で「サッカーの構造」「プレーの原則」「タレント発掘」「サッカーのコーチング」等について整理する。その後、各自でコーチングプランを作成し、受講者間でそのプランを洗練する作業をおこなう。後半ではそのプランに基づきコーチング実践と省察によって自身のコーチング能力を改善する。	
	ラグビーコーチング総合演習	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングの現場で直面する様々な問題に対して、その対処法や考え方について学び、各自の指導論・指導法を構築していくことを目的とする。授業の前半ではラグビーのコーチングに必要な理論(指導法、ゲーム分析の視点、パフォーマンス評価、スカウティングなど)を学習した後、後半から各自で設定したテーマに対するコーチングの実践活動を行い、コーチとしての指導力の向上を図るものとする。	
	テニスコーチング総合演習	国内外の専門文献や研究書を講読し、テニスのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、テニスのコーチとしての基礎的資質を高める。	
	バドミントンコーチング総合演習	国内外の専門文献や研究書を講読し、バドミントンのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バドミントン競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バドミントンのコーチとしての基礎的資質を高める。	
	野球コーチング総合演習	野球のコーチングに関して、チームのリクルート、マネジメントの仕方及び戦略、戦術、戦法、試合の進め方、投球および打撃動作の観察方法、さらには走塁および守備の考え方、改善方法、チーム練習方法、年代別の課題などに焦点を当て、新たな考え方に関して討論し、提案していくことで、野球の指導者としての資質を高める。	共同
	柔道コーチング総合演習	柔道における技の分類について説明し、理解させる。投技(手技16本、腰技10本、足技21本、真捨身技5本、横捨身技16本)、固技(抑込技10本、絞技12本、関節技10本)全般について実習するとともに、併せてその指導法についても学び、実践する。柔道のすべての技についてその理合を説明し、それを理解させた上で実践させるとともに、効果的な指導法について、各自で考えさせた上で必要に応じて補足説明を行い、実践させる。それにより、柔道の指導者としての基礎的資質を高めることを目的とする。	共同
	剣道コーチング総合演習	<p>剣道の試合・審判規則について学習し、審判の理論と実践能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(205 有田祐二/3回) 剣道における審判員の意義と目的、任務と心得について学習し、剣道審判法の重点事項内容を解説しつつ、理解を深める。</p> <p>(302 鍋山隆弘/3回) 審判要領や現行の規則についての解釈とその運用、協調性と連携について解説し、実習を行いつつ、理解を深める。</p> <p>(57 香田郡秀/4回) 見落としやすい有効打突、判定にあたっての留意点、審判員としての注意点について解説し、実習を行いつつ、理解を深める。</p>	オムニバス方式
	弓道コーチング総合演習	日本の伝統的運動文化としての「弓道」の特性を理解するとともに、弓道指導における基礎・基本となる「基本体(基本の姿勢・基本の動作)」「射法八節」についてその理論学習と実践を通じて弓道コーチングの実践を学習する。「基本の姿勢」「基本の動作」を合わせた「基本体」を正しく身につける。また、弓射の基本法則である「射法八節」の理論を理解し、正しく身につけて実践する。また初級者への示範・指導ができるようにする。対象に応じた指導法を理解し、安全かつ効果的に学習できる指導法を理解・習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	舞踊指導総合演習	舞踊（ダンス）教育における内容の中でも表現・創作ダンス（モダンダンス）とリズム系ダンスを中心に、各々の特性と技法、指導法、上演に関する理解を深めるとともに、実習を通して基礎的、応用的な能力を養う。舞踊における身体、イメージ、リズム、動きの関係について、多様なテーマ（課題）から即興的に表現・創作するとともに、舞台に向けたダンス作品を創作、上演する。自らの踊る力を養成すると共に、どのように学習者の実態を捉えた指導法についても学んでいく。	
	スポーツコーチング総合演習	個別研究領域に含まれていないスポーツ競技／種目を専門とする学生を対象に、種目横断的にその指導法についての理論や指導実践を学び、望ましいコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。各教員の専門スポーツ競技／種目におけるコーチング実践の知、またその背景となる科学的知見を手がかりにして、自身の専門スポーツ競技／種目における先行研究の調査、コーチング実践などを行う。	共同
	コーチングインターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	コーチングインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	競技マネジメント論	国内外のスポーツ競技団体、スポーツリーグ組織、スポーツクラブ・チームを対象にマネジメントの視点から検討し、スポーツ関係組織・機構の経営に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。  (オムニバス方式／全10回)  (282 高橋義雄／4回) 国内外のスポーツ組織について、事例をあげて説明するとともにグループワークを導入し、受講生の調査報告方法についても学ばせる。 (186 山口香／3回) 講師が関与するJOCや柔道関係の組織団体をはじめとした各種団体のマネジメントの動向と、マネジメントに必須な知見を教授する。 (32 尾縣貢／3回) 講師が関与するJOCや陸上競技関係の組織団体をはじめとした各種団体のマネジメントの動向とマネジメントに必須な知見を教授する。	集中 オムニバス方式
	舞踊上演マネジメント論	舞踊公演やイベントの企画・運営を取り扱い、過去に行われた舞踊公演の例に、実情や問題点を検証する。また、現在、活発に行われている舞踊公演の仕組みや、様々な形態のイベントについて学ぶ。さらに、独自のイベントを企画・運営するための知識として、イベントに関わる経済的問題、様々な助成制度とその活用方法を学ぶ。	
	スポーツ情報戦略論	競技スポーツにおいて、情報をどのように活かすかが競技パフォーマンスに大きく影響する。競技スポーツにおける「情報」とは、単に自チームやライバル／相手チームのスカウティング情報だけでなく、ルールや人事に関する情報、マテリアルやテクノロジーに関する情報などの競技を取り巻く情報、さらには経済や社会の環境変化に関するより広い視点での情報も競技パフォーマンスに関係している。これらの情報を戦略にマッチさせながら、どのようにマネジメントするかについて、実践知をもとに体系的に学ぶ。	
ナショナルリー	プログラム特別インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン コーチ 系列	プログラム特別インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	日本文化論（宗教, 思想, 古典芸能など）	スポーツ界のリーダーとして世界で活躍するためには、グローバル化社会における自文化のオリジナリティーを自覚することも必要である。こういった考えのもと、日本文化論として宗教、思想、古典芸能などを取り上げ、フィールドワークも含めつつ学習し、日本文化の粋を理解する。 本授業では特に宗教の中でも日本古来の民俗信仰であるところの神道に焦点をあて、武神タケミカヅチを祀る鹿島神宮と霊峰筑波山に鎮座する筑波山神社におけるフィールドワークを含めながら、両神宮・神社の宮司に特別にお願いをしてレクチャーをしていただく。	共同
専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	体育哲学およびスポーツ哲学における研究方法について理解を深め、文章の解釈力や洞察力の涵養を目指す。併せて、修士論文のテーマを掘り下げ、研究計画として結実させる。関連文献の講読を行い、問題設定の仕方や研究方法論についての理解を深める。 演習の前半では、体育・スポーツ哲学の基礎的な文献を講読する。選定する文献は、受講者の研究テーマに基づいて定めるが、形而上学、実践学、倫理学、美学などの大枠に沿ったものとする。 後半では、受講者の研究テーマに対して、先行研究に当たる文献のテキストクリティークを行う。	共同
	体育・スポーツ哲学演習II	体育哲学およびスポーツ哲学に関連する研究課題、問題群における理路や問題の背景等を理解し、受講者自身の問題意識を掘り下げ明確化することを目指す。 文献（論文や著書）のうち、受講者の研究テーマに関連するものについて、概要をまとめ、報告・議論を行う。それとともに、受講者自身のリサーチクエスチョンとそれを解決する方法を探り、その方法に則って思索を深め、論じてゆく。 また、受講者同士でディスカッションを行い、説明力ならびに質問力を養う。	
	体育史・スポーツ人類学演習I	自身の研究したいテーマに基づき、体育・スポーツ史およびスポーツ人類学（スポーツ国際開発学含む）に関する論文を以下の学術雑誌あるいは学術書「スポーツ人類学研究（スポーツ人類学会機関誌）、スポーツ史研究（スポーツ史学会機関誌）、体育史研究（体育史学会機関誌）、体育学研究（日本体育学会機関誌）」から選び、その研究論文の内容、研究方法について検討する。 研究方法については、史料批判を含め文献研究の方法論について検討する。また特定の地域のスポーツ文化に関する参与観察の方法論についても考察し、それらについて発表してディスカッションする。より良い発表の方法についても修得する。	共同
	体育史・スポーツ人類学演習II	自身の修士論文のテーマを意識して、それに関連する体育・スポーツ史、スポーツ人類学およびスポーツ国際開発学に関する論文を外国の学術雑誌や学術書から選び、その研究方法と論文の構成について検討する。諸外国の学術雑誌は主に「International Journal of Sport History」、「Journal of Sport for Development」の中から選択する。 これらを先行研究とし、その批判的なまとめを各自が作成して発表し、ディスカッションする。	共同
	スポーツ社会学演習I	スポーツ社会学に関する専門文献、研究論文の講読を、スポーツ社会学を研究するための基本的能力を身に着ける。スポーツ、体育、舞踊そして伝統スポーツにおける身体の歴史と政治推力についての文献資料を用いる。また、フィールドワークを通して、スポーツ社会学の基本的な研究能力を向上させる。	
	スポーツ社会学演習II	社会学の理論を基礎にしなが、スポーツ社会学を研究するための研究方法論について学習し、論文執筆を自主的、自立的に行っていく。その際、学生や教員との議論を繰り返す、応答する中で、自らの立ち位置と思考を深めていく。こうした演習を通して、研究力を向上させ、論文執筆を行う	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	武道学演習I	<p>武道学全体を鳥瞰的に把握し、武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学における新たな問題を設定して修士論文のテーマを決める。</p> <p>具体的には中林信二『武道のすすめ』、源了圓『文化と人間形成』、相良亨『武士の思想』、寒川恒夫『日本武道と東洋思想』、前林清和『武道における身体と心』、酒井利信『刀剣の歴史と思想』などの研究成果に加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、武道学全体の動向を把握した上で、自らの問題意識を明確にする。</p>	
	武道学演習II	<p>武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学領域における研究方法論を学び、自らの修士論文テーマに適した方法論を確立する。</p> <p>具体的には、中林信二『武道論考』、前林清和『近世日本武芸思想の研究』、酒井利信『刀剣観の日本精神史的研究』、酒井利信編『武道研究の道標』『武道研究の最前線』などに加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、文献学手法を学ぶ。特に事例の収集の仕方および分類方法、さらに行間の読み方を身につける。</p>	
	体育・スポーツ経営学演習I	<p>体育・スポーツ経営学に関する内外（外国は主にアメリカ合衆国を中心に）の文献を購読しながら、経営理論の動向及び方向性を検討する。</p> <p>学校体育・大学スポーツのマネジメント、地域・コミュニティスポーツのマネジメント、スポーツマネジメントの研究方法に関する文献を中心にレビューし、わが国のスポーツ経営との比較考察を行う。</p> <p>スポーツビジネス、プロスポーツ、スポーツマーケティングに関連する文献を中心にレビューし、海外におけるスポーツビジネスの変遷やトレンドを把握するとともに、今後の発展性について議論する。</p>	
	体育・スポーツ経営学演習II	<p>体育・スポーツ経営をめぐるトピックスや具体的な経営課題を取り上げ、関連する文献や論文を収集するとともに、研究の視点や課題解決の方法について議論し、研究論文としてまとめる。</p> <p>地域スポーツ、民間スポーツ施設、プロスポーツをめぐるマネジメント課題を特定化し、その課題に関する先行研究や資料を収集し研究課題や研究方法について議論する。</p> <p>学校体育（主に運動部活動と教科体育）のマネジメント課題が、時々の学習指導要領の改訂に伴ってどのように変容してきたのかを、文献に基づいて議論する。</p>	
	スポーツ政策学演習I	<p>国内及び国外のスポーツ政策及びスポーツ政策研究に関する動向について調査検討し、スポーツ政策の実務的な課題を理解するとともに、スポーツ政策学に関する内外の文献を購読し理論的な認識を深める。スポーツ政策に関する特定の調査研究課題を議論し、決定した後、各自の課題に関して報告発表を行い、全体で議論する。また、関連する文献を選定し、概要をまとめ報告し、全体で当該文献の理論の検討及び批判を行い、議論する。</p>	共同
	スポーツ政策学演習II	<p>スポーツ政策に関する各自の研究テーマに関する文献及び資料の収集・批判及び検討、研究方法論及び分析の枠組みの検討を行い、実際の調査研究の成果を発表し、議論を深める。まず、研究テーマに関する先行研究の検討、援用する研究方法・理論のレビューを行い、分析の枠組みとして応用可能か議論する。また、実際に選定した方法論に基づき、研究テーマに関する調査内容を発表し、議論する。</p>	共同
	スポーツ法学演習	<p>国内及び国外のスポーツ法に関する動向を調査検討し、現状の認識を深めるとともに、スポーツ法学に関する文献資料を購読し、研究の方法や理論に関する理解を深める。スポーツ法に関する動向についていくつかのトピックを紹介する。スポーツ法学に関する国内外の基本的な文献および資料の中から課題を選定し、報告発表を行い、全体で議論する。さらに、課題と関連する法学文献の理論内容を検討する。</p>	
	スポーツ産業学演習I	<p>スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、当該領域の研究手法論について学習する。本授業はいずれの回においても複数指導体制（299 仲澤眞、257 嵯峨寿）で行い、主要先行研究の解説、主要な研究方法論の解説、研究計画の立案についての指導を通して、学位論文の作成に必要な基礎的な内容の習得を目的とする。</p> <p>（299 仲澤眞）主に数理統計学的手法を用いて、スポーツ消費者行動に関する研究指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(257 嵯峨寿) 主に社史分析の手法を用いて、スポーツ関連企業行動に関する研究指導を行う。	
	スポーツ産業学演習II	<p>スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き、研究の独自性・意義、学位論文の作成に必要な実践的な内容を習得することを目的とする。本授業はいずれの回においても複数指導体制(299 仲澤眞、257 嵯峨寿)で行う。</p> <p>(299 仲澤眞) 主に数理統計学的な手法を用いて、スポーツ消費者行動に関する研究指導を行う。</p> <p>(257 嵯峨寿) 主に社史分析の手法を用いて、スポーツ関連企業行動に関する研究指導を行う。</p>	共同
	体育科教育学演習I	<p>体育の教科論、カリキュラム論、学習指導論、教師教育論に関する内外の文献を講読し、体育授業の学習指導論並びにその研究方法論について理解する。また、学校での校内授業研究に参加して、体育授業を分析・省察する視点について実習する。さらに学生が教師・生徒役を担当する模擬授業を利用して、授業の計画立案・実行・分析・省察の過程を通して学生が授業を発達させていくことを検証する。授業では、模擬授業等で収集した組織的観察データや授業省察データを活用して、統計手法や質的分析によって結果をまとめたり、ゲームパフォーマンス分析のためにStudioCode等による分析方法についても学修する。春・秋学期に数回の学校での授業研究を参観する機会がある。授業分析の演習については、授業参観ごとに実施する計画である。秋C学期については、つくば模擬授業の授業計画立案を課題とする。</p>	
	体育科教育学演習II	<p>体育科教育学の研究領域における学術論文を講読して、研究テーマの設定方法、先行研究のレビュー方法、研究における理論の選択、研究デザインの設定、データ収集の方法、データ分析の方法、結果のまとめ方、考察の進め方、さらに結論の書き方を学修して、最終的な修士論文を完成させる能力を身につける。</p> <p>春学期においては、月曜日の午後の授業時間を基本として、毎週1回のゼミ形式で実施する。受講生は、研究論文を購読しながら、論文の背景となっている問題点と理論的な基盤を明確にして、研究デザインを具体的に構想する。研究方法に応じて教的データ並びに質的データの処理方法を決定して、修士論文研究に取り掛かる。秋学期においては、修士論文の進捗状況を随時、確認しながら、論文完成に向けて探求する。1ヶ月に1回程度、体育科教育学研究室での研究会(月曜17時から19時)において成果を発表して教員と所属学生からの意見交換を行う。</p>	
	体育授業観察分析演習	<p>体育授業の観察法に関する基礎的知識を習得する。また、実際の授業を計画立案して観察法を分析し、その活用方法について理解することを学修する。</p> <p>受講者はガイダンスにつづいて、数回の授業案検討会を行い、授業グループに分かれて教材研究、授業計画案を討議・作成し、模擬授業のリハーサルを行う。模擬授業は、筑波大学内体育施設(中央体育館等)で実施し、その後最終反省会を行う。</p> <p>また、受講者はe-Learning授業評価システムを活用して模擬授業動画を視聴しながら授業省察を学修することを最終課題として学修する。</p>	
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	<p>アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を購読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (うち10回共同)</p> <p>(256 齊藤まゆみ/全20回) アダプテッドスポーツの体験とその指導法について実践を通して学ぶとともに、アダプテッド・スポーツ科学に関する文献購読とディスカッションを行い、アダプテッド・スポーツ科学に関する研究動向と課題が説明できるようにする。</p> <p>(266 澤江幸則/全20回) アダプテッド・スポーツ科学に関する文献購読とディスカッションを行い、アダプテッド・スポーツ科学に関する研究動向と課題が説明できるようにするとともに、運動指導場面において計画の立案、実践、検討会を行い質の高い指導者を育成する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	<p>アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を購読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論し、アダプテッド体育・スポーツ学についての論文指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(256 齊藤まゆみ) アダプテッド体育・スポーツのなかでも聴覚障害、視覚障害、肢体不自由のある人を対象とした体育・スポーツ指導法について、実践研究、質的研究の手法を用いた研究指導を行う。 (266 澤江幸則) アダプテッド体育・スポーツのなかでも発達障害、知的障害のある人を対象とした体育・スポーツ指導法について、発達心理学、質的研究の手法を用いた研究指導を行う。	
	体育心理学演習I	体育心理学の研究法に関する講義と体験的学習を通して、スポーツ・体育心理学領域における研究の実際を知り、心理学的研究法に関する理解を深める。また、海外の文献を読んで実際の研究を理解し、各自の問題意識に基づいて研究計画を立てる。本演習を通して、スポーツ・体育心理学領域における諸問題を解決するための研究遂行能力の基礎を身につける。  (65 坂入洋右) スポーツ・体育心理学領域における、健康心理学およびスポーツカウンセリングの調査的・実践的研究法に関する概説を行う。受講生各自は関心のある海外の文献を探して紹介し、自身の研究計画を立てる。 (457 國部雅大) スポーツ・体育心理学領域における、知覚運動制御および運動学習の実験研究法に関する概説を行う。受講生各自は関心のある海外の文献を探して紹介し、自身の実験研究計画を立てる。	共同
	体育心理学演習II	体育・スポーツ心理学関連の学術雑誌から関心のある掲載論文を受講生自身が探し出し、抄録を作成して発表し、研究課題等について討議する。本演習を通して、関連テーマの理解および研究論文作成の方法を学ぶ。また、修士論文作成に繋がるよう各自の研究課題を具体化し、実際に研究を遂行する取り組みを行う。  (65 坂入洋右) スポーツ・体育心理学関連の領域における過去の研究を参照しながら、健康心理学およびスポーツカウンセリングに関する研究課題を受講生各自が設定し、修士論文作成へ向けて研究を遂行するための作業を行わせ、指導を行う。 (457 國部雅大) スポーツ・体育心理学関連の領域における過去の研究を参照しながら、知覚運動制御および運動学習に関する研究課題を受講生各自が設定し、修士論文作成へ向けて研究を遂行するための作業を行わせ、指導を行う。	共同
	体育心理学実習	スポーツにおけるセルフコントロール、性格の診断法、知覚運動学習の基本的実験研究法を、実践・実験実習、データ分析、発表、レポート作成を通して学ぶ。スポーツ・体育心理学領域における実験、調査、観察などの研究法、およびメンタルトレーニングなどの介入法を実践的に学ぶことを目標とする。  (65 坂入洋右) 質問紙調査実習、メンタルトレーニング実習、カウンセリング実習などを担当する。 (457 國部雅大) 知覚運動制御に関する基本的な実験実習、運動学習に関する実験実習などを担当する。	共同
	体育・スポーツ学特別演習	社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などを講義し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身につける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身につける。	
	体育・スポーツ学特別演習II	社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講義し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く学習し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論を深め、修士学位論文を作成する。自分自身のテーマを決定し、研究遂行する。	
健康体力学分野	健康教育学演習I	国内及び国外の健康教育に関する文献資料を購読することを通して、健康教育に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論する。本授業は、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き等、論文の作成に必要な基本的な内容を習得することを目的とする。本授業は複数指導体制(100 武田文、441 片岡千恵、519 門間貴史)で行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康教育学演習II	国内及び国外の健康教育に関する文献資料を購読することを通して、健康教育に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論を深める。本授業は、得られた結果の吟味、考察の論旨・構成等、論文の作成に必要な内容の理解を深め、実践的な能力を育成することを目的とする。本授業は複数指導体制（100 武田文、441 片岡千恵、519 門間貴史）で行う。	共同
	運動生理学演習I	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、研究論文等の議論や発表を行う。1年次対象である。 骨格筋系のキーワード：分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード：運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	共同
	運動生理学演習II	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、英文研究論文等の議論や発表を行う。 骨格筋系のキーワード：分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード：運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	共同
	運動生化学演習I	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に着ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。	共同
	運動生化学演習II	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な能力を向上させる。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。研究力を向上させ、修士論文を作成できるようにする。	共同
	運動栄養学演習I	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠（休養）の組み立て方を理解するために、栄養（食生活）、身体活動（運動）・トレーニング、休養（睡眠）をメインkey wordsとする基礎研究で、主にエネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、たんぱく質代謝、骨代謝・カルシウム代謝、カルシウム以外のミネラル代謝、水分代謝に関連するスポーツ・運動栄養学領域の主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	
	運動栄養学演習II	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠（休養）の組み立て方とその実践法について学ぶために、栄養（食生活）、身体活動（運動）・トレーニング、休養（睡眠）をメインkey wordsとし、エネルギー補給法、Female Athlete Triadの予防・改善、貧血予防・改善、からだづくり、熱中症・脱水対策、体力・持久力の向上、食育・食生活改善に関連する実践的研究で、主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	
	体力学演習I	体力科学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における文献研究、研究計画、研究方法について演習する。  (オムニバス方式／全30回)  (118 鍋倉賢治／8回) オリエンテーションおよび運動中のエネルギー代謝（特に持久性競技）に関する上記内容について (218 榎本靖士／7回) パワーおよび運動効率に関する上記内容について (233 小野誠司／7回) 視覚-運動系および体性感覚-運動系に関する上記内容について	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(48 木塚朝博/8回) 体力・運動能力およびテスト開発に関する上記内容について、まとめ	
	体力学演習II	<p>体育科学に関する内外の学術論文を題材に討議を行い、体力学領域における科学的知見に関わる情報を収集し、文献研究の方法について演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(118 鍋倉賢治/8回) オリエンテーションおよび運動中のエネルギー代謝(特に持久性競技)に関する上記内容について</p> <p>(218 榎本靖士/7回) パワーおよび運動効率に関する上記内容について</p> <p>(233 小野誠司/7回) 視覚-運動系および体性感覚-運動系に関する上記内容について</p> <p>(48 木塚朝博/8回) 体力・運動能力およびテスト開発に関する上記内容について、まとめ</p>	オムニバス方式
	健康増進学演習I	<p>人体の形態、運動機能、体力・運動能力等の発達・加齢変化に関する測定評価法、トレーニング法、統計解析法などに関する内外の文献を討議する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回～10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回～20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回～30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。</p>	
	健康増進学演習II	<p>修士論文作成における当該分野の関連知識と方法論を修得する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回～10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回～20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回～30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。</p>	
	体育測定評価学演習I	<p>目標：運動能力の研究に関する基礎的および先端的な科学研究の方法を理解し修得する。</p> <p>授業計画の概要：達成度評価のテスト理論と尺度構成手続きを理解する。運動能力の測定方法を理解する。運動能力の測定モデルの理論を理解する。実技テストで測定できない動作技能や戦術技能を測定対象として、構成概念の測定モデルを想定して、測定項目を構成する。測定を実施する。</p>	
	体育測定評価学演習II	<p>目標：運動能力に関する実際の研究データの分析を通して、基礎的および先端的な研究方法を実践する。</p> <p>授業計画の概要：測定されたデータからデータセットを作成し、データチェックし、欠損値を処理して、記述統計量を分析する。相関行列を算出して、多変量統計解析により、尺度特性を分析する。従属変数と独立変数から、平均値構造から要因の効果を測定する。論文を参照して、方法と結果を記述する。</p>	
	内科系スポーツ医学演習I	<p>内科系スポーツ医学領域に関連する英語文献(研究論文)を抄読・紹介し、研究の背景、研究目的、研究方法、研究結果、研究結果の解釈、考察などについて討議することで、内科系スポーツ医学領域の研究についての基礎的な理解を深める。また、内科系スポーツ医学領域の研究論文を抄読・紹介することで、研究に関連する新たな情報を得ることも目標とする。さらに、英文論文を抄読・紹介することにより、英語力の向上を目指すとともに、英文論文の構成の基礎などについても学ぶ。</p>	共同
	内科系スポーツ医学演習II	<p>内科系スポーツ医学領域に関連する修士論文の作成に向けて、当該修士論文の研究に関する関連知識や研究方法論などを学習する。具体的には、修士論文の研究計画、研究の進捗状況、研究結果、研究結果の考察などについてプレゼンテーションを行い、これらについての討議を行う。これらのプロセスを経て、内科系スポーツ医学領域に関連した修士論文を作成することを目標とする。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力や議論する能力についても身につけることを目指す。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論特講I	<p>スポーツ医学(内科系)の基礎として、健康の維持・増進および疾患の予防・治療における運動の効果について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(161 前田清司/14回) 循環器疾患、肥満、メタボリックシンドロームなどを取り上げ、運動実践と食生活改善がこれらの予防に与える効果について解説し、疾病予防や健康づくりの対策を学習する。</p> <p>(98 竹越一博/5回) 糖尿病、ホルモンなどを取り上げ、運動実践、食生活改善、薬物療法がこれらに与える影響について解説する。</p> <p>(372 渡部厚一/1回) 呼吸器疾患を取り上げ、運動実践が呼吸器疾患の予防や治療に与える影響について解説する。</p>	
	外科系スポーツ医学演習I	<p>スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、基礎知識を学び、研究テーマの設定に向け、先行研究論文を読み、まとめる力をつける。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。</p> <p>(346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。</p> <p>(287 竹村雅裕) : (世話人) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。</p> <p>(494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	外科系スポーツ医学演習II	<p>スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、専門的な知識を学び、修士論文執筆及び学会発表を進めるうえでの実践力を養う。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。</p> <p>(346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。</p> <p>(287 竹村雅裕) : (世話人) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。</p> <p>(494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論特講II	<p>運動による運動器の変化について、骨組織の形態、骨代謝と軟骨代謝の生化学マーカー、軟部組織の3回に分けて解説する。いずれも自身や研究室で実験した結果を基にしており、運動負荷による変化をどのように把握できるかに重点を置いた構成としている。</p>	
	スポーツバイオメカニクス演習I	<p>スポーツバイオメカニクスに関する国内外の文献を購読し、現在のスポーツバイオメカニクス分野の研究課題などについてディスカッションする。また、修士論文に関する実験・データ分析の進捗状況を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、研究を進めていく上での課題を明確にするとともに、スポーツバイオメカニクス領域に関する幅広い知見を身につけることを目標とする。</p>	共同
	スポーツバイオメカニクス演習II	<p>修士論文作成に必要な国内外の文献を購読し、修士論文との関連性についてディスカッションする。データの分析結果に関する考察を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、できる限り客観的な考察を行う能力を身につけることを目標とする。また考察がまとまった段階においては、国内外の学会で研究発表を行い、学外のバイオメカニクス研究者からの意見についても積極的に取り入れるように指導する。</p>	共同
	スポーツバイオメカニクス実験	<p>スポーツバイオメカニクスの研究手法、特に動作分析手法について実習するとともに、データのまとめ方を学習する。具体的には、高速度ビデオを用いた二次元および三次元動作解析、フォースプラットフォームを用いた地面反力測定を行う。次に、取得したデータをもとに、身体重心位置算出、関節角度算出などのキネマティクスの分析、関節トルクなどのキネティクスの分析をプログラミング言語MATLABを用いて行う。さらに得られたデータに対して考察を行い、分析結果について学会形式で発表を行い、ディスカッションを通してバイオメカニクスの研究手法の習得を目標とする。</p>	共同
	応用解剖学演習I	<p>応用解剖学に関して、解剖学及び機能形態学の知識に基づいた研究の組み立て方、実験の取り組み方等について、基礎的な指導を行うとともに、実際に予備的な実験を行う。これらと並行して、自身の修士論文に関連する文献を探索し、先行研究における不備な点、明らかになっていない点、あるいは相反する研究結果を見つけ出し、それらの解決に自身の修士論文がどのように貢献できるか考えさせ、その実践への糸口をつかむ。</p>	
	応用解剖学演習II	<p>「応用解剖学演習I」で得られた知見をもとに、修士論文の研究計画を詳細に決定し、それに従って実験、調査等を行う。また、6月に開催される修士論文の経過報告に対して、論文のまとめ方、プレゼンテーションの仕方について指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コーチング学分野	コーチング論・トレーニング学演習I	<p>スポーツ・コーチング及びトレーニングに関する内外文献の抄読や実践を通して、研究法などを習得し、科学的知見に基づくコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。</p> <p>(239 河合季信) 競技スポーツを対象として、記述的パフォーマンス分析や競技者育成システム等に関する内外文献を抄読し、専門競技でその方法を実践する。</p> <p>(46 木内 敦詞) 個人やチームの心理的パフォーマンスにアプローチした文献渉猟を行いながら、自己の興味の本質がどこにあるのかについて、議論を深める。</p> <p>(290 谷川聡) スポーツパフォーマンス構造と複雑系生体学システムの視点を内外文献から得て、統合していきスポーツコーチング・トレーニングのあり方を議論する。</p> <p>(609 松元剛) スポーツ・コーチングに関連した組織論、マネジメント論、戦術学習論、パフォーマンス評価論を中心とした内外文献を抄読し、最新の理論をまとめる。</p> <p>(326 前村公彦) 様々なスポーツにおけるパフォーマンス構造およびトレーニングについて議論し、エビデンスに基づいたコーチング及びトレーニングのあり方を探求する。</p>	共同
	コーチング論・トレーニング学演習II	<p>スポーツ・コーチング及びトレーニングに関して、より発展的な内容に関して、内外文献の抄読や実践を行い、研究手法を身につけ論文作成能力を養う。</p> <p>(239 河合季信) 自身の研究テーマを中心に、記述的パフォーマンス分析や競技者育成システムなどについて内外文献を抄読しながら、具体的な研究計画を練る。</p> <p>(46 木内敦詞) 自身の研究テーマを中心に、個人やチームの心理的パフォーマンスにアプローチした文献渉猟を行いながら、具体的な研究計画を練る。</p> <p>(290 谷川聡) 自身の研究テーマを中心に、スポーツパフォーマンスに関わる文献を抄読して、論文作成能力を養う。</p> <p>(609 松元剛) スポーツ・コーチングに関連した組織論、マネジメント論、戦術学習論、パフォーマンス評価論を中心とした内外文献を抄読し、自身の修士論文作成へと繋げる。</p> <p>(326 前村公彦) 自身の研究テーマに関連した論文抄読を行い、研究論文の構想の練り方、組み立て方、オリジナルな視点の立て方など論文指導を行う。</p>	共同
	スポーツ運動学演習I	<p>演習Iでは以下の内容について専門文献の講読等を通じて学習し、専門的知識を身につける。また、スポーツ運動学の研究方法についての理解度を深める。いずれの教員の授業も、日本語、ドイツ語、また英語の専門文献読み発表し、議論を重ねる、というスタイルで授業をしていく。さらに学生には、常に、現場の目線とは何かについて問い続けていく。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(76 佐野淳/20回) 授業は、運動学の専門文献を通じて、自然科学的運動研究と現象学的運動研究(発生論的運動学)の思考原理上の違いについて理解するように進める。</p> <p>(301 中村剛/10回) とくに現象学的な専門文献を講読し、発生論的運動学の運動研究の方法論について専門的知識を身につけ、この学問の存在意義とその本質を理解するように進める。</p>	オムニバス方式
	スポーツ運動学演習II	<p>スポーツ運動学演習Iの履修を前提として(内外の文献の講読による専門知識の習得)、毎週、個別に指導を行い、研究論文(修士論文)の構想の練り方、組み立て方、オリジナルな視点の立て方など論文指導を行う。</p> <p>(76 佐野淳) 自身の研究テーマが実践現場にどう役立つかについて議論し、スポーツ運動学理論の実践性の理解を深める。</p> <p>(301 中村剛) 今日のスポーツ運動学にとって重要となる現象学的分析方法について議論する。</p>	共同
	体操コーチング論演習I	<p>体操の運動方法ならびにコーチングに関する内外の文献や資料を題材として、ねらい、対象、運動方法、指導法、評価などについて理解を深めるとともに、討議を通じて、体操コーチングに関する論理的な思考を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(418 本谷聡/15回) Gymnastikに関連するドイツ語圏における文献購読により、体操の概念について資料を収集し、その概念について討議する。加えて、ドイツにおける体操学校の現状と課題について、ビデオ視聴を通じて学習する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(130 長谷川聖修/15回) 国内外の先駆的な体操指導の実践例について文献・資料・ビデオを通じて検討し、これからの体操指導のあり方を討議し、理解を深める。	
	体操コーチング論演習II	<p>子どもの体力低下・二極化や超高齢社会の到来など、社会的な諸問題について、国内外の文献・資料を調査し、課題を解決するために有用な体操のプログラムやコーチングに関して論文指導を行う。</p> <p>(418 本谷聡) 学校体育の「体づくり運動」における諸問題を検討し、それらを解決する実践的かつ魅力的な運動プログラムを開発するとともに、運動効果を多面的に検証するための研究指導を行う。</p> <p>(130 長谷川聖修) 超高齢社会を健やかに暮らすために、高齢者を対象としてロコモティブシンドローム予防体操プログラム等を検討し、これをWEBサイトにて動画発信し、評価を受ける電子アンケート調査に関する研究指導を行う。</p>	共同
	体操競技コーチング論演習I	<p>体操競技の男子6種目（ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒）、女子4種目（平均台、跳馬、段違い平行棒、ゆか）について、それぞれの種目の発達史、種目特性、技の体系、技術およびコーチング法、ルール等について、国内外の文献や資料の講読と討議を行い、体操競技の指導者としての専門的知識を身に着ける。資料として、主に、現行採点規則の原語版、ドイツ語圏および英語圏の専門文献、日本国内の研究論文などを用いる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(458 齋藤卓/15回) 採点規則に関する内容 (198 渡辺良夫/15回) : 国内外の専門文献、研究論文に関する内容</p>	オムニバス方式
	体操競技コーチング論演習II	<p>体操競技コーチング論の基礎的な理論領域を体系的に理解し、研究方法について学習する。体操競技の競技特性、技術、体系論、安全確保と指導法などについての国内外の研究論文を講読し、討議を行うことで専門性を養う。発生運動学における発生分析の方法論と、構造分析論における始原論的分析論、体系論的分析論、地平論的分析論を体操競技コーチング論領域で用いるための方法について学習し、修士論文を作成するために必要な専門的知識を養い修士論文を作成する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(458 齋藤卓/15回) 構造分析論にかかわる内容 (198 渡辺良夫/15回) 発生分析論にかかわる内容</p>	オムニバス方式
	陸上競技コーチング論演習I	<p>陸上競技の技術、トレーニング、指導法の研究について実践し、データ分析、プレゼンテーションについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)</p> <p>(226 大山下圭悟/15回) 主に投擲競技の技術、トレーニング、指導法および、陸上競技における傷害予防の視点からの課題を題材として、研究実践を行い、データ分析、結果提示の手法について学ぶ。</p> <p>(450 木越清信/15回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技の技術、トレーニング、指導法に関する課題を題材として、研究実践を行い、データ分析、結果提示の手法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	陸上競技コーチング論演習II	<p>陸上競技種目の技術特性、指導法やトレーニング法について概説し、実験データの活用、実践への適用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(226 大山下圭悟/15回) 主に投擲競技の技術、トレーニングについて、実験データを題材として内容の検討を行い、コーチングへの適用について議論する。</p> <p>(450 木越清信/15回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技の技術、トレーニングについて、実験データを題材として内容の検討を行い、コーチングへの適用について議論する。</p>	オムニバス方式
	水泳競技コーチング論演習I	<p>水泳競技（競泳・水球・シンクロ・飛込み）における競技レベルに応じた技術（各種泳法）、技術トレーニング、体力トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにし、現場におけるコーチングに貢献する研究課題を抽出し、検討する。また、その研究課題を解決する研究方法論について多角的に討議し、修士論文の作成に向けて必要な基礎的知識の獲得を目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	水泳競技コーチング論演習II	水泳競技（競泳・水球・シンクロ・飛込み）における競技レベルに応じた技術（各種泳法）、技術トレーニング、体力トレーニング、指導法について、国内外の文献研究から得られた知見をもとに、コーチング場面における実践的な展開を想定したグループディスカッションを行い、更に修士論文作成に向けた具体的な方法論等について検討を行う。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力についても身につけることを目指す。	共同
	バレーボールコーチング論演習I	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルールや競技特性、基本的な技術、基本的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術、バレーボール競技者に必要な一般的体力要素、ケガを予防するためのトレーニング方法、基礎的なゲーム分析の視点とその方法、競技力を定着させるための指導の方法などについて学習する。また、研究法について学習し、修士論文を作成するための基礎的資質を高める。	共同
	バレーボールコーチング論演習II	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールの発達史、応用技術、応用的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な特異的体力要素、パフォーマンスを向上させるためのトレーニング方法、分析ソフトを用いた応用的ゲーム分析方法、競技力を向上させるための指導の方法などについて理解を深める。また、バレーボールコーチング論の研究法について理解し、修士論文を作成する。	共同
	バスケットボールコーチング論演習I	複雑なバスケットボールの競技特性について言及する最新の内外のスポーツ科学・トレーニング科学等の諸々の知見を援用しながら、バスケットボール競技のコーチングを、(1) 競技力の構造、(2) コーチの思想・倫理論（フィロソフィー、ディシプリン）、(3) チームマネジメント論、(4) 体力論（エネルギー系体力の内実）、(5) トレーニング論I（期分け、トレーニング構成）、(6) トレーニング論II（最適トレーニング）、(7) 技術・戦術論I（基礎技術、個人戦術）、(8) 技術・戦術論II（グループ戦術、チーム戦術）、(9) 学習・指導論（練習の多様性、文脈干渉効果）などの多角的視点から検討する。	共同
	バスケットボールコーチング論演習II	バスケットボールの複雑な競技特性を踏まえ、あらゆるレベルに共通するオフェンスとディフェンスの考え方や基礎となるドリルを学び、コーチングの前提要件たる指導法の向上を目指す。併せて、実際のコーチング場面で直面する、コーチング・フィロソフィーやディシプリン、チームマネジメント、エネルギー系体力の内実、期分けやトレーニング構成にかかわるトレーニング論、基礎技術や個人戦術やグループ戦術そしてチーム戦術にかかわる技術・戦術論、また、練習の多様性や文脈干渉効果などを踏まえた学習・指導論などにおける諸問題を解決するための方策について検証し、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題について発表・討議する。	
	ハンドボールコーチング論演習I	国内外における文献の精読を通して、ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習する。  (オムニバス方式/全30回)  (1 會田宏/10回) ハンドボールのコーチングに関する研究に必要な基礎知識、コーチングに臨む態度、ハンドボール競技の歴史と展望、競技力の構造について解説する。 (497 藤本元/10回) ハンドボールにおけるゲームの局面構造、技術と戦術の発達、チームマネジメントの実際、ゲームプランとトレーニングプランの作成について解説する。 (523 山田永子/10回) ハンドボールにおけるゲームプラン実現のためのトレーニング内容と方法、ゲーム中における指揮、ゲームパフォーマンスの評価とゲーム・トレーニングプランの修正、競技レベル、年齢および性別に応じたコーチングと一貫指導について解説する。	オムニバス方式
	ハンドボールコーチング論演習II	ハンドボールのコーチングに関する研究方法論について学習し、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成する。  (オムニバス方式/全30回)  (1 會田宏/10回) コーチングに関する研究に臨む態度、研究において明らかにするべき知の概念について解説する。 (497 藤本元/10回) 国内外の先行研究の精読、研究テーマの設定、研究デザインの作成と検討、データの収集と倫理的問題への対応について解説する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(523 山田永子/10回) データの分析と統計的手法、データの解釈、公共性のある論文作成、研究成果のまとめ、口頭による研究発表について解説する。	
	サッカーコーチング論演習 I	サッカーコーチに求められる資質である論理的思考とコミュニケーション能力を高めることと、修士論文作成に向けての科学的手法によるサッカーのコーチングに関する問題解決能力を高める。サッカーの指導に必要な具体的な問題を自ら設定し、それに関わる内外の文献資料を広く収集する。そして、自らのテーマに関して口頭で発表し、発言能力を高める。  (3 浅井武) サッカーの自然科学的手法について指導を行う。 (117 中山雅雄) サッカーの人文科学的手法について指導を行う。 (455 小井土正亮) サッカーの実践的テーマの分析法について指導を行う。	共同
	サッカーコーチング論演習 II	自らが設定したサッカーのコーチングに関するテーマへのアプローチの仕方や、研究の進捗について、定期的に発表と討論を繰り返し、各種の文献を読解し専門的理解を深める。研究の実践を通して論文指導をおこなう。  (3 浅井武) サッカーの主に自然科学的テーマについての課題の研究指導を行う。 (117 中山雅雄) サッカーの主に人文科学的テーマについての課題の研究指導を行う。 (455 小井土正亮) サッカーの主に実践的テーマについての課題の研究指導を行う。	共同
	ラグビーコーチング論演習 I	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングに関する様々な文献・映像の検討と討論を通して、基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業はオムニバス方式とし、最初は様々なゲームパフォーマンス分析の手法について学ぶとともに、実際の分析手法を用いてゲーム構造に関する理解を深める。次に分析ツールを利用したデータ収集と解析を行い、パフォーマンスの評価法について学習する。最後に先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行い、実践知の習得を図る。  (オムニバス方式/30回)  (321 古川拓生/15回) 映像分析ソフトやGPS等のツールを活用したゲーム分析やパフォーマンス評価の実際について学ぶ。 (463 嶋崎達也/15回) コーチングやトレーニングの実戦研究を通じて、データの収集及び収集データの検討を行い、各自の研究課題の明確化を図る。	オムニバス方式
	ラグビーコーチング論演習 II	授業は演習形式とし、ラグビーのコーチングやトレーニングに関する研究の実践を通じ、研究に関する計画上および実施上の問題の検討と討議をとおして問題の解決と研究の進展を図ることを目的とする。授業では、各自が設定した研究テーマに対し指導・助言を行い、データ分析やアカデミック・ライティング、プレゼンテーションの力を高め、最終的には修士論文の作成に必要な知識と技能を習得する。	
	ラケットバットスポーツコーチング論演習 I	野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性を学ぶ。ラケットバットスポーツの歴史・指導方法そして研究に関してその意義と現状との差異に関して集団で討論し、また、発育段階における問題点を明らかにして、体系的な指導方法に関してモデルの構築を行う。それを通じてコーチングと研究遂行する基礎的資質を身に着ける。	共同
	ラケットバットスポーツコーチング論演習 II	野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性について理解を深める。ラケットバットスポーツに関して体力・技術・心理などの視点から、さらに戦略・戦術・戦法などの視点から従来の方法にとられないコーチング及び指導法を討論し、修士論文の作成に必要な能力を向上させる。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	柔道コーチング論演習I	<p>授業は演習形式とし、柔道のコーチングに関する文献・資料を題材として、その現状を討議し、問題点を探りながら基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業はオムニバス方式とし、先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(228 岡田弘隆/10回) 柔道におけるコーチングやトレーニングに関する文献を精読し、各テーマについて討論を行う。  (329 増地克之/10回) 柔道におけるコーチングやトレーニングに関して資料をもとに指導を行い、各自の研究課題の明確化を図る。  (228 岡田弘隆/10回) 柔道における競技分析的研究等に関する文献を精読し、各テーマについて討論を行う。</p>	オムニバス方式
	柔道コーチング論演習II	<p>修士論文の作成に向けて、柔道のコーチングに関する研究方法論について学習し、専門的知識を深め、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成することを目的とする。また、データ分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。</p> <p>(228 岡田弘隆) 修士論文作成に向け、柔道のコーチング及び指導法に関して、各自の研究課題に即した研究指導を行う。  (329 増地克之) 柔道の競技力向上を目的とした指導法に関する文献を精読し、様々なデータや資料を取り上げ、論文作成に向けて研究指導を行う。</p>	共同
	柔道コーチング論実習「形」	<p>柔道の七つの形である(投の形、固の形、柔の形、極の形、講道館護身術、五の形、古式の形)を行う。投の形と固の形は合わせて乱取の形ともいわれ、それぞれ代表的な技15本を学ぶ。柔の形は、柔の理によって、攻撃防御の方法を緩やかな動作で行う。極の形は、真剣勝負の形とも称され、柔道の技法を駆使した実践的な形で、俊敏な体さばきと効果的な極め方を学ぶ。講道館護身術は、新しい時代にふさわしい表現をとり、武器を持って襲いかかる等の諸暴力などを予想し、身を護る最も代表的な防御法について学ぶ。五の形と古式の形は技を離れて表現され、芸術の世界にひたらせる形である。</p> <p>また、段の取得および形競技大会への参加まで視野に入れ行う。</p>	
	剣道コーチング論演習I	<p>研究論文作成のために必要な剣道の試合・審判・形(型)・指導法についての素養を身につける。</p> <p>(57 香田郡秀) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の審判、形(型)に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。  (302 鍋山隆弘) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の試合に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。  (205 有田祐二) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の指導法に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。</p>	共同
	剣道コーチング論演習II	<p>剣道全般に関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。</p> <p>(57 香田郡秀) 剣道の審判、形(型)などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。  (302 鍋山隆弘) 剣道の試合などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。  (205 有田祐二) 剣道の指導法などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。</p>	共同
	弓道コーチング論演習I	<p>弓道に関する文献(古伝書を含む)を読み下し、弓術・弓具・指導法等に関する理解を深める。伝統的弓道とその指導法を理解し、現代における基本的指導のあり方を理解・修得する。弓道における「五射六科」の内容を学習し、その理解と現代的応用方法について考え、論議する。年齢や経験の違う対象者に対する弓道指導の留意点について理解する。安全で効果的に弓道指導を行う上での現代的課題と弓道指導の将来展望を俯瞰できる能力と実践力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	弓道コーチング論演習II	弓道指導に関する文献、古文書、研究論文等により、「五射六科」のうち、弓器・弓工に関する理解を深めるとともに、その実践を試みることを通じて現代的な課題を探っていく。また、伝統的弓道指導法、現代的弓道指導法に関して理解し、その違いと課題を探っていく。指導法に関して様々な観点を見だし、新たな指導法の可能性を考えていく。弓道指導法、弓具管理法に関する先行研究を理解し、現在の弓道コーチングのあり方、弓道コーチングの将来を展望する。	
	野外運動論演習I	<p>本授業では、野外運動における自然と文化、人間理解等について、基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標に、2名の教員によるオムニバス方式により、授業を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(67 坂本昭裕/15回) この授業では、野外運動実践における事例研究の目的、意義、方法、提示の方法について理解を深め、実際に自験例についてまとめることを演習する。自験例は、野外運動の指導実践(たとえば、キャンプカウンセリング、ASEのファシリテーションなど)をまとめる。さらに、本時において自験例を提示し事例を検討することについて体験的に学修する。</p> <p>(532 渡邊仁/15回) 本授業では、野外教育・野外運動に関する海外文献を輪読しながら、テクニカルタームとその周辺概念を理解すると同時に、様々なトピックを題材として野外教育・野外運動を多角的な視点から捉えることを目的とする。具体的には、歴史、哲学、教育思想、基礎理論、指導論、技術論、関連団体、指導者育成、現状の諸問題、国内外事情等の関心の高いトピックをいくつか選択して進める。</p>	オムニバス方式
	野外運動論演習II	<p>野外運動・野外教育分野における修士論文の作成に向けて、まず、興味関心のある実践や研究について国内外の動向を把握し、自分自身の研究課題を探求する。具体的には、関連する先行研究についてレビューし、研究課題あるいは、テーマの設定を行う。次に、研究・調査を計画し、研究課題を解決するための適切な研究方法論について学修し関連の知識を得る。これらについて、毎回プレゼンテーションを行い、研究を進める上での諸問題について討議する。</p> <p>(67 坂本昭裕) 野外運動・野外教育分野におけるセラピューティック実践を対象とし、主に心理学的手法を用いて研究指導を行う。</p> <p>(532 渡邊仁) 組織キャンプや冒険教育プログラムにおける効果や構造解明の課題を設定し、野外教育学研究法等の手法を用いて研究指導を行う。</p>	共同
	野外運動論実習	<p>本時においては、野外教育に関連した外部団体と連携し、野外教育プログラムについて、1) 企画・立案、2) 実施・運営、3) 評価に関与することを通して、総合的に野外教育事業をマネジメントする能力を修得することがねらいである。具体的には、企画では、野外教育事業の対象、目的、プログラム、組織について立案することを実習する。運営では、実地踏査、参加者の募集、参加者への指導を実践する。さらに評価においては、報告書等の作成を通じて振り返りを行う。</p>	共同
	舞踊論演習I	<p>舞踊(ダンス)分野に関する国内・国外の文献、資料を中心に近年の舞踊論における研究の動向と諸問題について学習するとともに、舞踊論の研究手法論について理解を深める。さらに、研究対象を明確にするための考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(317 平山素子/10回) 主に、舞踊における身体と表現に関する研究について理解を深める。</p> <p>(296 寺山由美/20回) 主に、舞踊教育および舞踊文化に関する研究について理解を深める。また、修士論文執筆に向けての計画を立てる。</p>	オムニバス方式
	舞踊論演習II	<p>舞踊論・舞踊教育学分野における修士論文の作成に向けて、国内外の舞踊に関する論文や研究資料を参考に研究動向を把握しながら、論文作成のための方法論と関連知識を身につける。その上で、自らの修士論文の研究課題を選定し、関連する先行研究の検討を行う。さらに、研究目的や研究方法を明確にして研究を進め、修士論文として研究成果をまとめる。また、研究発表の方法やプレゼンテーションの方法も習得し、他者へ自分の考えを伝達する能力を養成する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	舞踊表現技術実習	コンテンポラリーダンスを扱う。呼吸、フロアを使ったムーブメントやカウンターバランスなどの動きの理論を体験し、音楽、動きのコンセプトなど発想を広げる。個々が多様な身体表現の可能性を探る機会を促す。	
	コーチング学特別演習	社会人特別選抜入学者でコーチング分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。コーチング学分野に関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身に着ける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身に着ける。	
	コーチング学特別演習II	社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く理解し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論することによって自分自身のテーマを決定し、修士学位論文を作成する。	
	コーチング特別課題研究I (設計)	それぞれの専門種目において、国をリードする監督やコーチとなり、将来的には統括祖機での指導的役割を担う人材を養成を目的とするナショナルリーディングコーチ系列の科目である。自らのトップレベルの競技経験から導き出された課題をいかに科学的に研究するかについての方法論を中心に指導する。	
	コーチング特別課題研究II (展開とまとめ)	それぞれの専門種目において、国をリードする監督やコーチとなり、将来的には統括祖機での指導的役割を担う人材を養成を目的とするナショナルリーディングコーチ系列の科目である。自らのトップレベルの競技経験から導き出された課題を科学的方法論に従いながら分析し、それらを論文としてまとめる。	共同
	(研究指導)	(1 會田宏) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。 (3 浅井武) サッカーコーチング論領域についての研究指導を行う。 (21 内山治樹) バスケットボールコーチング論領域についての研究指導を行う。 (28 大森肇) 運動生化学領域についての研究指導を行う。 (46 木内敦詞) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。 (48 木塚朝博) 体力学領域についての研究指導を行う。 (57 香田郡秀) 剣道コーチング論領域についての研究指導を行う。 (62 齋藤健司) スポーツ政策学領域についての研究指導を行う。 (64 酒井利信) 武道学領域についての研究指導を行う。 (65 坂入洋右) 体育心理学領域についての研究指導を行う。 (67 坂本昭裕) 野外運動論領域についての研究指導を行う。 (76 佐野淳) スポーツ運動学領域についての研究指導を行う。 (83 清水紀宏) 体育・スポーツ経営学領域についての研究指導を行う。 (88 白木仁) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。 (92 征矢英昭) 運動生化学領域についての研究指導を行う。 (93 高木英樹) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (100 武田文) 健康教育学領域についての研究指導を行う。 (101 武政徹) 運動生理学領域についての研究指導を行う。 (118 鍋倉賢治) 体力学領域についての研究指導を行う。 (120 西嶋尚彦) 体育測定評価学領域についての研究指導を行う。 (121 西保岳) 運動生理学領域についての研究指導を行う。 (130 長谷川聖修) 体操コーチング論領域についての研究指導を行う。 (150 藤井範久) スポーツバイオメカニクス領域についての研究指導を行う。 (160 本間三和子) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (161 前田清司) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。 (198 渡辺良夫) 体操競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (220 大藏倫博) 健康増進学領域についての研究指導を行う。 (228 岡田弘隆) 柔道コーチング論領域についての研究指導を行う。 (233 小野誠司) 体力学領域についての研究指導を行う。 (234 麻見直美) 運動栄養学領域についての研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(243 川村卓) ラケットバットスポーツコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(256 齊藤まゆみ) アダプテッド体育・スポーツ学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(287 竹村雅裕) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(290 谷川聡) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(296 寺山由美) 舞踊論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(299 仲澤眞) スポーツ産業学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(301 中村剛) スポーツ運動学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(117 中山雅雄) サッカーコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(321 古川拓生) ラグビーコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(226 大山下圭悟) 陸上競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(346 向井直樹) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(372 渡部厚一) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(418 本谷聡) 体操コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(441 片岡千恵) 健康教育学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(450 木越清信) 陸上競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(458 齋藤卓) 体操競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(471 仙石泰雄) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(494 福田崇) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(497 藤本元) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(523 山田永子) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(530 李燦雨) 体育史・スポーツ人類学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(86 正田純一) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(148 深澤浩洋) 体育・スポーツ哲学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(266 澤江幸則) アダプテッド体育・スポーツ学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(282 高橋義雄) スポーツマネジメント領域についての研究指導を行う。</p> <p>(219 大石純子) 武道学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(609 松元剛) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(554 清水諭) スポーツ社会学領域についての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ・オリンピック学関連科目	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	オリンピックムーブメント、パラリンピックムーブメントの変容について学ぶとともに、今日の課題を解決する方途を見出し、今後のムーブメントについて模索する。具体的な内容は次のとおりである。 オリンピックムーブメントの定義、近代におけるオリンピックムーブメントの変容、日本のオリンピックムーブメント、東京2020大会のオリンピックムーブメント オリンピック・パラリンピックとアート パラリンピックムーブメント、パラリンピックの価値、日本のパラリンピックムーブメント、2020年のパラリンピックムーブメントのレガシー	
	Olympic Movement and Sport Law (オリンピックムーブメントとスポーツ法)	オリンピックムーブメントに関わる法として、オリンピック憲章やアンチドーピングなどについて、どのように解釈され機能しているのかについて講義する。具体的には、オリンピック憲章の構成とその内容、オリンピック・ムーブメントに関するオリンピック憲章での定義、その法律的意義、これまでのオリンピック憲章におけるオリンピック・ムーブメントの変遷を学ぶ。	
	International Sport Event Management (国際スポーツイベントマネジメント論)	スポーツイベントを開催するスポーツ施設について、その歴史の変遷、現在の構造と機能、経営方法について学修する。また、国際的なスポーツイベントを招致し、準備、開催に至るプランニング、組織づくり、人材配置、さらにリスクマネジメントについて、事例をもとにして学ぶ。さらに、オリンピック・パラリンピックに必須のボランティアに関するマネジメントについて事例をもとに学ぶ。	集中
	Anti-Doping (アンチ・ドーピング)	スポーツ界におけるドーピングの歴史と規程や国際基準からなる世界アンチ・ドーピング機構によるアンチ・ドーピングプログラムの概要、日本で展開されているアンチ・ドーピングの全体像を紹介する。また、各国が行っているアンチ・ドーピングプログラムや近年生じているドーピング問題を題材として、スポーツのインテグリティやフェアネスに対する考え方を理解したうえで、国際比較などからアンチ・ドーピングプログラムが抱える課題やあるべき未来像を考察する。	集中
	Japanese Culture (日本文化)	日本における礼儀、日本食、祭り、和服や書道を通して、日本文化としてのおもてなしの心やマナーについて学習する。それらと欧米などのマナーについて比較し、それぞれの文化に基づく多様なマナーがあることを学修する。また、日本における名刺交換や面談時のマナーなど、ビジネスマナーについても修得する。	
	Sport and Diversity (スポーツとダイバーシティ)	スポーツにおけるダイバーシティ(多様性)に関わるこれまでの課題について取り上げ、今後の共生社会のあり方をスポーツを基軸に考えていく。具体的には、スポーツとジェンダーの問題、つまり女性のスポーツへの参加、スポーツ組織における主導的な立場についてやLGBTとスポーツについて学ぶ。また、障害者のスポーツについて学習し、理解を深める。具体的にはパラリンピックやパラリンピック以外の世界大会、また、障害(身体障害、知的障害、精神障害)の特性について、講義内で議論が可能と思われる事例を提示しながら学ぶ。	
	Olympic and Paralympic Education (オリンピック・パラリンピック教育)	この授業を通して、日本や他の国々におけるオリンピック教育やパラリンピック教育の展開について学ぶとともに、東京2020年以降も持続可能発展的に継続されるようになるにはどうしたら良いかを考える。特に日本においては、1964年東京大会時におけるオリンピック学習、1998年長野冬季大会における一校一国運動、2020年東京大会におけるオリンピック・パラリンピック教育の内容と展開、さらにこれらの教育を通して形成される人材像について学修する。	
Taiku (Physical Education) (体育)	このコースでは、理論と実践の観点からスポーツ教育学や体育教育に関する今日的課題について概説し、考察していく。特に、日本国内における課題として、部活動などの運動部活動の適切なあり方や教師教育について、また、国際的な文脈の中での体育の課題、つまり教育システムが異なる環境で育ってきた人たちにどのように体育の内容を整理して教授するか、ということ言語の問題と合わせて学修する。さらに後半では、選定した体育理論を実践的な指導の場面に適用することを学修する。	集中	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Cross-Cultural Communication (異文化コミュニケーション)	グローバル化時代における異文化コミュニケーションの基礎について学ぶ。背景、過去の所属及び分野にかかわらず、多様な視点や性格を持つ人々との良好なコミュニケーションをとるための方法論について修得する。スポーツとオリンピック研究のためのMAプログラムに定められた学問的目標と結びつけて、グローバル化された環境における異文化間コミュニケーションを達成する。研究成果を効果的に提供し、プレゼンテーションスタイルを改善し、率直かつ専門的でさらに偏見の無い意見を表明することを目的としたコミュニケーションスキルの強化を図る。	
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	このコースでは、プロジェクトの目的と目標に沿って、研究プロジェクトの管理、計画立案、概要構築を中心に学習する。このコースは、スポーツとオリンピック研究のためのMAプログラムに記されている学術目標と結びついており、研究プロジェクトの準備、管理さらにはプロジェクト成功を実現するように導くことを目的とする。	
専門科目 (共通)	TIAS Internship A (TIASインターンシップ A)	国内外の競技連盟やオリンピック委員会、パラリンピック委員会などのスポーツ組織や、国や自治体におけるスポーツ行政組織、国際展開しているスポーツ関連企業などにおいて、4週間のインターンシップ先を決定し、スポーツ組織や競技大会などの現場における実践的知識を学びながら、キャリアパスの構築につなげる。秋学期(2月～3月)に受け入れ可能な組織にて行う。なお、A、Bのいずれかを選択する。	
	TIAS Internship B (TIASインターンシップ B)	国内外の競技連盟やオリンピック委員会、パラリンピック委員会などのスポーツ組織や、国や自治体におけるスポーツ行政組織、国際展開しているスポーツ関連企業などにおいて、4週間のインターンシップ先を決定し、スポーツ組織や競技大会などの現場における実践的知識を学びながら、人的ネットワークを構築し、実践的スキルと知識を身につけ、キャリアパスの構築につなげる。春学期(7月～9月)に受け入れ可能な組織にて行う。なお、A、Bのいずれかを選択する。	
	TIAS Research Project (TIAS課題研究)	学生は、以下のような研究専攻の1つに基づいて独自の研究プロジェクトを実施し、最終報告書を作成する。過去に書かれた最終報告書を先行研究として活用しつつ、これまでに取り組みがなされていない課題に関して、実践的にアプローチしていく。 1) オリンピック・パラリンピック教育 2) スポーツマネジメント 3) スポーツ医科学 4) ティーチング、コーチングと日本文化	
専門科目 (専門分野)	Seminar in Olympic and Paralympic Education I (オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	オリンピック・パラリンピック教育を専門とする指導教員(148 深澤浩洋、266 澤江幸則)のもと、各自の研究計画に基づき、オリンピック・パラリンピック教育に関する先行研究を整理し、文献研究や実務的研究を行うことでオリンピック・パラリンピック教育に関する研究計画を深める。また、実際に各国で行われているオリンピック・パラリンピック教育についての情報を集める。	
	Seminar in Olympic and Paralympic Education II (オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	オリンピック教育、パラリンピック教育を専門とする指導教員のもと、オリンピック教育やパラリンピック教育に関する先行研究を検討し、研究論文を書くための文献資料をまとめ、それについて発表しディスカッションする。合わせて、プレゼンテーションの能力を向上させる。毎回プレゼンテーションを行い、オリンピック・パラリンピック教育の論文としてふさわしい要素を備えるようにする。	
	Seminar in Sport Management I (スポーツマネジメント演習 I)	スポーツマネジメントを専門とする指導教員のもと、教員による話題提供及び国内外の事例に関する研究の紹介を交えながら、スポーツマネジメントに関わる研究方法について学ぶ。また、履修学生の課題に応じたスポーツマネジメント関連の研究論文を購読し、その内容について批評的にまとめて発表し、ディスカッションしながら研究テーマを深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Seminar in Sport Management II (スポーツマネジメント演習 II)	本演習では、スポーツマネジメントを専門とする指導教員のもと、履修学生による各自の研究テーマに基づいた最終課題研究論文に関する進捗状況についてプレゼンテーションを行い、スポーツマネジメントに関わる研究について議論を行う。加えて、適宜、国内のスポーツイベント、スポーツ関連団体に関するフィールドワークを行い、スポーツマネジメントの現場における現状と課題について把握するとともに、その課題の解決策について討論する。	
	Seminar in Sport Science and Medicine I (スポーツ医科学演習 I)	スポーツ医科学を専門とする指導教員のもと、研究論文の作成に必要なスポーツ医科学の論文構成方法などについて学習する。また、必要な実験計画や方法について少人数にてディスカッションし、研究を遂行する上で必要な能力を身に着ける。 論文作成に必要な、スポーツ医科学に関する研究方法論の基礎的な知識と技能をを身につけ、実験計画、データ処理等の専門的な知識を身につける。	
	Seminar in Sport Science and Medicine II (スポーツ医科学演習 II)	スポーツ医科学を専門とする指導教員のもと、受講生それぞれが取り組んでいる研究論文のプレゼンテーションを行い、スポーツ医科学の方法論の視点からディスカッションする。一人一人の研究上の課題について検討し、より良い研究論文になるようディスカッションを行う。必要な実験計画や方法についてもディスカッションしながら検討する。	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I (ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	ティーチング、コーチングまたは武道学を専門とする指導教員(219 大石純子、239 河合季信、471 仙石泰雄)の指導のもと、これまでに研究されてきた先行研究について取り上げ、それぞれの研究課題や論文の構成について、ディスカッションする。それを踏まえて、自身の関心を深め、研究論文の作成に資する資料やデータを収集する。研究課題の設定、研究計画のデザイン、データの収集と処理、プレゼンテーションスキルについて学ぶ。	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II (ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	この演習では、ティーチング、コーチングまたは武道学を専門とする指導教員(219 大石純子、239 河合季信、471 仙石泰雄)の指導に基づいて、研究論文の作成に資する実験方法やデータ収集と分析方法について学ぶ。研究課題を設定し、自らの研究についてのプレゼンテーションを実施する。	
	Olympism and Legacy (オリンピズムとレガシー)	オリンピズムとオリンピック・レガシーについて、それらの意義を学ぶとともに、今後の国や地域等に応じたレガシーのあり方を考え、これからのオリンピック・レガシーについて構想することを通じてオリンピズムを反映したレガシーに対する洞察力を持つことを目指す。 オリンピズムの要諦を確認したのち、オリンピック・レガシーが言及されるようになった契機やその具体的な導入の経緯等を講ずる。それらを踏まえて、スポーツメガイイベントの実際を調査し、レガシーの理念を反映したアクションを構想し、プレゼンテーションを行う。	
	Sport Organisation and Governance (スポーツ組織とガバナンス論)	主に国際スポーツ競技連盟(IF)や国内スポーツ競技連盟(NF)で働く実務家をゲスト講師として招き、IFやNFの組織構造やそこでの業務について実務レベルでその内容を理解するとともに、国内外のスポーツ組織に関わるステークホルダーの役割と責務を把握することを目的とする。また、専門家による講義を通じて国際オリンピック委員会(IOC)が提唱するステークホルダー間の相互作用に注目しながら、「オリンピックムーブメント」を展開するシステム及びスポーツ界のガバナンスのグローバル・モデルについて議論する。	集中
	International Sport Marketing (国際スポーツマーケティング)	スポーツマーケティング、スポンサーシップ、スポーツメディアの各分野において国内外で活躍する実践家をゲスト講師として招き、北米、ヨーロッパ、アジア、日本における事例を踏まえながら、1) スポーツマーケティングに関する歴史的背景、2) スポーツマーケティングの目的と基本的なシステム、3) マーケティングの具体的な実践方法、4) スポーツマーケティングに重要なメディアの諸権利、5) スポーツに関するメディアの歴史と技術革新、及びそのマネジメント方法、について学ぶことを目的とする。	集中
	Sport Technology and Biomechanics (スポーツ工学とバイオメカニクス)	スポーツ工学とそれに関連するバイオメカニクスの背景と最新の情報の習得に向けて、スポーツに関連した空気や水中での流体工学、スポーツ用具開発のための基礎知識、スポーツ用のウェア開発のための基礎知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Sport Medicine (スポーツ医学)	スポーツ活動中に生じる外傷、障害、内科的問題の診断・治療・リハビリテーション、年齢や性差による特徴、スポーツマスイベントにおける突然死等のアクシデントと救護活動の実際について科学的知見のみならず、スポーツ行政や政策、マスイベント運営の視点から解説し、スポーツ活動におけるスポーツ医学の役割について学ぶ。また、アスレティックリハビリテーションやコンディショニングの最新情報やあんま、鍼灸などの東洋医学のスポーツ医学への応用についても紹介する。	
	Exercise Physiology and Human Performance (運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	ヒューマンパフォーマンスに関連する運動生理学的背景と最新の動向を修得するために、呼吸循環や体温調節に関する生理学知識、動体視力等に関連した神経生理学、運動によって変化する脳機能、運動習慣に関連した血管機能変化、ヨガ等の東洋的身体技法の生理学的効果について学ぶ。	
	Elite Sport Coaching (エリートスポーツコーチング論)	一流競技者のパフォーマンス向上に関するコーチング、トレーニング理論及び方法を学び実践する。特に、高強度トレーニング、ファンクショナルトレーニングの処方にあて、様々な最新トレーニング用具を活用する方法について学習し、特定の運動種目を対象としたトレーニングプログラムを作成する。	
	Budo (武道)	日本の武道、特に剣術について学ぶために茨城県鹿嶋市で行われている鹿島神流の剣術について現地に出かけて史料とともに学ぶ。1泊2日のスタディーツアーとして実施し、現代武道と古武道について視察し、その相違について学習する。	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ ツウ ウェル ネス学 関連 科目	分野 共通	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	<p>現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(170 水上勝義／4回) 現代の長寿社会における人間存在の生理的・心理的・社会的課題を取り上げ、スポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。 (47 菊幸一／4回) 人間存在の社会的な特質を文献講読を通して明らかにし、スポーツとヘルスの相乗的・相関的關係について講義する。 (51 久野譜也／2回) 我が国の超高齢化による社会課題の克服策と人生100年時代に向けた新たな社会システムを構築するためのイノベーションの方向性について講義する。 (282 高橋義雄／2回) 人類が築いてきたスポーツをスポーツイベントに注目し、現代社会における多様な課題について現実にみられる現象を解説し、21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションについて講義する。 (267 柴田愛／4回) 行動疫学の観点から長寿社会における健康増進・慢性疾病予防にむけたスポーツや運動・身体活動、座位行動の果たす役割について講義する。研究倫理の考え方の基礎について講義する。 (186 山口香／2回) 国際競技大会及びオリンピック・ワールドカップ等で個人やチームが最高のパフォーマンスを上げるためのマネジメントにおける問題点や課題を取り上げ、効果的な取り組みや施策について講義する。 (32 尾縣貢／2回) スポーツマネジメントの観点からみた国内外のスポーツにおける問題点や課題を取り上げ、スポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。</p>	オムニバス方式
		スポーツ健康研究方法論Ⅰ	<p>研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。 (282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、プレゼンテーションの方法について指導を行う。 (32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。 (186 山口香) 主に自然科学的研究の手法を用いて、現代における高度競技マネジメントに関わる研究テーマ作成の指導を行う。 (51 久野譜也) 研究テーマに沿った具体的な研究手法、データ解析手法、及び論理的思考力の向上を目指した指導を行う。 (267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。 (170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、プレゼンテーションの方法について指導を行う。</p>	
		専門 科目 (選 択)	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	<p>学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。 (282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表会に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(186 山口香) II の内容を発展させ、研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。</p> <p>(170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>	
	スポーツ健康研究方法論Ⅲ	<p>学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。</p> <p>(282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(186 山口香) II の内容を発展させ、研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。</p> <p>(170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>	9月末修了者用
スポーツプロモーション分野	<p>専門科目（選択）</p> <p>スポーツプロモーション領域</p>	<p>現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。スポーツの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、現代社会におけるスポーツのポジティブ/ネガティブな作用を分析し、そこからスポーツプロモーションの基本理念を概説する。また、プロフェッショナルスポーツの成立と発展過程をも視野に入れつつ、文化としてのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。</p> <p>スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。</p> <p>グローバル化する世界のスポーツ状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツライフスタイルを通じた多様なスポーツライフスタイル構想から、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。</p>	
	スポーツプロモーション論	<p>演習 1</p>	
	スポーツプロモーション論	<p>演習 2</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーション論実習	現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題を明らかにする。学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を、政策科学の視点から政策課題化し、それに基づく政策目標-政策対象-政策条件-政策計画のシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、政策展開に必要な環境的・物的・人的・文化的資源を査定し、当該政策実施における既存資源を評価し、過剰/不足資源を明確にする。さらに、明確化された不足資源の整備・開発を計画すると共に、政策展開の視点から見た有効資源のシステムをデザインし、具体的な政策モデルをシミュレーションする。	
	スポーツイベント論特講	スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。	
	スポーツイベント論演習1	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、経営学分野、特にイノベーション研究を取り上げ、その課題を演習する。国際、国、地域、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的な事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的な事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	
	スポーツイベント論演習2	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究方法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的な事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的な事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	
	スポーツイベント論実習	スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究方法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。学生の現職経験から導かれるスポーツイベント問題を、スポーツプロモーションと地域形成の視点から政策課題化し、それに基づくスポーツイベント展開のマネジメントのシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、スポーツイベント編成に必要な諸エージェントと資源を査定し、当該イベント展開における関係エージェントと資源のシステム化をシミュレーションし、具体的なスポーツイベントの政策マネジメントモデルを企画・立案する。	
	スポーツプロモーション研究方法論IV	<p>スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存在状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。</p> <p>(47 菊幸一) スポーツプロモーション論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。  (282 高橋義雄) スポーツイベント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーション研究 方法論Ⅴ	<p>スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視 角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文ある いは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の実職 経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存 立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化 する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかに し、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この 研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、 それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告 書を作成する。</p> <p>(47 菊幸一) スポーツプロモーション論の観点からみた諸政策の 課題に関する研究指導を行う。 (282 高橋義雄) スポーツイベント論の観点からみた諸政策の課題 に関する研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 領 域	スポーツマネジメント論特 講	<p>地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における 問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するた めの具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニ アにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについて も講義する。地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄が わが国のスポーツの更なる発展には求められている。マネジメント の面から、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取 組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて 概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・ トレーニングのマネジメントについても講義する。</p>	
	スポーツマネジメント論演 習 1	<p>スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文 献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポー ツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポー ツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよ び学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握さ せ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎とな るための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討してい く。</p>	
	スポーツマネジメント論演 習 2	<p>スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読す ることにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課 題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基 本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが 進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび 学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、 それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるた めの方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。</p>	
	スポーツマネジメント論実 習	<p>学生の実職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校 の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジ メント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そし て、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、そ の方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメ ント戦略を構築していく。</p>	
	高度競技マネジメント論特 講	<p>国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナルリ ズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそ のシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競 技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題 を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育 成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源の システム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・ 開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義す る。</p>	
	高度競技マネジメント論演 習 1	<p>オリンピックにおいて競技者の最高パフォーマンスを発揮させ るために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポー ツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチ ームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として 理解する。国際競技大会において競技者及びチームの最高パフォー マンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、 国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析 論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論、 スポンサー対応論等の総合的戦略として理解させ、オリンピック競 技大会やワールドカップ等の具体的事例に対応する国際競技スポ ーツマネジメントのシミュレーションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高度競技マネジメント論演習2	スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上で基礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。	
	高度競技マネジメント論実習	学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。	
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	<p>現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。</p> <p>(32 尾縣貢) スポーツマネジメント論の観点からスポーツに内在する課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p> <p>(186 山口香) 高度競技マネジメント論の観点から、競技力向上等に関する取り組みや施策の課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p>	
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	<p>現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。</p> <p>(32 尾縣貢) スポーツマネジメント論の観点からスポーツに内在する課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p> <p>(186 山口香) 高度競技マネジメント論の観点から、競技力向上等に関する取り組みや施策の課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
専門科目(関連)	スポーツプロモーション法制論特講	スポーツプロモーションに関係する法制度全般を概説し検討する。また、今後のスポーツ立法政策について考える。スポーツ関連法制について概観し、スポーツプロモーションに向けたスポーツ法制度の構造や諸課題を具体的な事例を通じて講義する。アマチュアスポーツやスポーツ行政だけでなくプロスポーツやスポーツの経済的活動に関する法制度も解説する。	隔年
	スポーツの倫理と教育	<p>我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理と教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができることを目標とする。我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理について、ルールやエトス、フェアプレイなどをめぐって講義する。また我が国のスポーツ教育政策の歴史を概観し、スポーツ教育の諸課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)  (308 長谷川悦示/5回) スポーツと学校教育、学習指導要領の変遷、体育教師の実践的指導力、体育教師の実践的指導力および教授行動分析について講義する。  (148 深澤浩洋/5回) スポーツと暴力性、スポーツを通じての個の確立・自律性、スポーツのルールとエトス、スポーツパーソンシップおよびフェアプレイの奨励について講義する。</p>	オムニバス方式 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーションとビジネス	<p>スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。スポーツプロモーションの視点から、プロスポーツの運営やスポーツメーカーのブランディングの事例を取り上げ、スポーツビジネスの現状と課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(299 仲澤眞/6回) コミュニケーション論とプロモーション戦略、メディアの多様化とプロモーション戦略、プロサッカーにおけるプロモーション事例、プロ野球におけるプロモーション事例、パブリックリレーション活動について講義する。 (257 嵯峨寿/4回) スポーツ用品企業のスポーツプロモーション、企業のオリンピックビジネス、企業の社会的責任とスポーツ、2019 ラグビーW杯のプロモーション戦略について講義する。</p>	オムニバス方式 隔年
	トップアスリートのトレーニング	<p>トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶトップアスリートの競技力向上のためのトレーニング及びバイオメカニクスを学ぶ。ジュニア期のトレーニング、年間計画、身体運動におけるバイオメカニクスの目的、活用法などについて考える。 この講義は前半をトレーニング論(6回)、後半をバイオメカニクス論(4回)とし、それぞれ別の教員が担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(88 白木仁/4回) トップアスリートのトレーニングの現状と関わるスタッフ、競技力向上のためのトレーニングの考え方とトレーニング方法について講義する。 (239 河合季信/2回) トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワークについて講義する。 (218 榎本靖士/4回) スポーツバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法およびスポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する。</p>	オムニバス方式
	トップコーチング	<p>世界のトップをめざした競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチに求められる役割や資質について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(239 河合季信/2回) 世界のトップスポーツの動向とコーチの役割、コーチングと研究・サポート体制との連携および期待される成果について講義する。 (290 谷川聡/2回) 個人記録系スポーツにおけるトップコーチング(陸上競技の事例)について解説する。 (466 吹田真士/2回) 大学スポーツにおけるトップコーチング(バドミントンの事例)について解説する。 (228 岡田弘隆/2回) 武道におけるトップコーチング(柔道の事例)について解説する。 (455 小井土正亮/2回) 団体球技系スポーツにおけるトップコーチング(サッカーの事例)について解説する。</p>	オムニバス方式
	生涯スポーツのトータルマネジメント	<p>競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めることを目標にする。競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ野外教育・スポーツ、舞踊、体操などの歴史や教育的側面を踏まえた最新のコーチングやマネジメントについて学ぶ。また、障害者スポーツについての現状と課題を検証し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(67 坂本昭裕/2回) 不登校児や発達障害児、非行少年などの野外教育プログラムのマネジメントを取り上げる。 (317 平山素子/2回) ダンスの多様性と歴史を紹介し、身体発のコミュニケーション方法を様々な角度から検証する。 (296 寺山由美/2回) 30代から80代における生涯スポーツでのダンスの実態を取り上げ、指導者と参加者がどのような点に留意して活動を進めているか検討する。 (418 本谷聡/2回) 体操についての国内外の映像や資料を題材として、これからの体操のあり方について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		(266 澤江幸則/2回) 障害のある人や子どものスポーツ実践の可能性を示すとともに、その実践を支えるための方法論について、アダプテッド・スポーツ的観点から検討する。		
ヘルスプロモーション分野	専門科目(選択) ヘルスプロモーション領域	ヘルスプロモーション論特講	健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。	
		ヘルスプロモーション論演習1	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。	
		ヘルスプロモーション論演習2	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。	
		ヘルスプロモーション論実習	地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。	
		健康開発プログラム論特講	行動科学の考え方を応用して、健康行動(主に、身体活動や運動)を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。	
		健康開発プログラム論演習1	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。	
		健康開発プログラム論演習2	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリードィング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。	
		健康開発プログラム論実習	効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。	
		ヘルスプロモーション研究方法論IV	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。  (51 久野譜也) 主に地域、職域、及びヘルスケア産業におけるヘルスプロモーションの課題の研究指導を行う。 (267 柴田愛) 主に健康開発プログラム論の観点からみた様々な健康課題に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヘルスプロモーション研究方法論V	<p>文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。</p> <p>(51 久野譜也) 主に地域、職域、及びヘルスケア産業におけるヘルスプロモーションの課題の研究指導を行う。 (267 柴田愛) 主に健康開発プログラム論の観点からみた健康課題に関する研究指導を行う</p>	9月末修了者用
ストレスマネジメント領域	ストレスマネジメントシステム論特講	ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。	
	ストレスマネジメントシステム論演習1	学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、具体的な事例を取り上げ分権的な考察を行いながら検討する。この分析をもとに、学生の現職経験から得られる実践的課題を整理し、その課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。	
	ストレスマネジメントシステム論演習2	学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。	
	ストレスマネジメントシステム論実習	現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。学生の現職経験から導かれるストレスマネジメントの具体的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、また課題解決を志向したシステム開発について実習する。	
	ストレスマネジメントシステム研究方法論IV	<p>学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。</p> <p>(170 水上勝義) ストレスマネジメント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	
	ストレスマネジメントシステム研究方法論V	<p>学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。</p> <p>(170 水上勝義) ストレスマネジメント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
専門科目(関連)	生活機能増進法論特講	<p>身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(346 向井直樹/2回) 運動と骨代謝骨代謝の基本と運動の影響、老化と骨代謝骨代謝と老化についてについて講義する。</p> <p>(287 竹村雅裕/2回) 運動療法の基礎運動機能の評価方法の基礎知識、運動処方基礎等尺性・等長性運動などの基礎知識について講義する。</p> <p>(88 白木仁/2回) 運動処方と強化筋の柔軟性の維持と筋力の強化について股関節・骨盤を中心に講義する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 運動実践実際の運動現場における日々のコンディショニング、評価について言及する。</p> <p>(386 鎌田浩史/2回) 身体特性の評価方法、身体特性と障害、特に関節の障害について講義する。</p>	
	健康増進基礎論特講	<p>健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ。心身の健康を維持・増進するためには運動、休養、栄養などの知識、研究が必要である。本授業では運動が心身に与える影響を運動解剖学的、スポーツ生理学、生化学、筋生理学、心理学の観点からそれぞれの専門家が概説し健康増進の科学的理解と研究に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(28 大森肇/4回) 運動と代謝、代謝疾患に対する運動療法、運動と骨格筋、骨格筋の可塑性を支える分子について講義する。</p> <p>(457 國部雅大/2回) 運動と知覚、運動と脳機能について講義する。</p> <p>(161 前田清司/2回) 運動と血管、生活習慣と血管について講義する。</p> <p>(202 足立和隆/2回) 運動器(骨格系、筋系、神経系)の基礎、ヒトの特性(進化、成長、加齢)について講義する。</p>	オムニバス方式
	健康社会論	<p>地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する乳幼児期~高齢期までの各ライフステージにおける健康問題を、家庭・地域・職場など生活領域別にとりあげ、各問題と社会環境要因との関わりを論じる。そして問題解決に必要な社会的支援策のあり方について、公衆衛生の観点から解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(100 武田文/5回) 健康に関わる概論と理論、地域保健及び産業保健について講義する。</p> <p>(519 門間貴史/5回) 健康課題の現状、保健医療制度、地域保健及び産業保健の現状と課題について講義する。</p>	オムニバス方式
	健康支援の理論と実践	<p>国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的な事例について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(234 麻見直美/2回) 各ライフステージに於ける食生活サポートの実際について講義する。</p> <p>(65 坂入洋右/2回) 身心のセルフコントロール法、カウンセリングの理論と実際について講義する。</p> <p>(48 木塚朝博/2回) 青年期に身に付けたい体の使い方、幼少年期における体育活動と運動遊びについて講義する。</p> <p>(28 大森肇/2回) 言語発達に及ぼす模倣運動の影響、心を育て頭を活かす上手な身体の使い方について講義する。</p> <p>(220 大藏倫博/2回) 肥満・メタボリックシンドローム予防および高齢者における介護予防の理論と実践について講義する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒューマン・ケア科学概論	<p>人を支援する課題に向けて、高齢者ケアリング学・社会精神保健学・生活支援学・保健医療政策学・福祉医療学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・福祉学・保健学・看護学の理論と実践を学習する。実学としてのヒューマン・ケア科学について、その理論とアプローチの効果を概説する。また、子どもから高齢者の健康生活上の問題や虐待、生活リズムの変調、うつや自殺に関連する事項をとりあげ、人々の心身の安寧を脅かす現象を概説する。さらに障害福祉について諸外国の現状を比較すると共に、保健医療政策への応用としての経済学や今日的な課題についての生命倫理を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(435 岡本紀子/2回) ヒューマン・ケア科学概論オリエンテーション、高齢者へのヒューマン・ケアアプローチの可能性と効果について講義する。  (354 柳久子/2回) 保健・医療・福祉分野における生命倫理について講義する。  (351 森田展彰/2回) 子ども虐待・DV への介入と援助について講義する。  (61 近藤正英/2回) ヘルスプロモーション経済学について講義する。  (337 水野智美/2回) バリアフリーとQOL の向上、各国の障害福祉の実情について講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ健康統計学特講	<p>ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析について理解することを目標とする。統計学の初心者の理解を促進するために、ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析などスポーツ健康統計学の基礎について、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術学関連科目	基礎科目 西洋美術史-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史を中心に、イタリア・ルネサンスまでの作例に言及し、講義を行う。西洋美術史の特徴について考える。とりわけ、ギリシア神話とキリスト教聖書を主題とする作品について講じ、西洋美術史における宗教観、世界観と美術との関係を探る。</p> <p>授業計画：(1) 西洋美術史の特質、(2) エクセキアスとマンテーニャ、(3) ヴェローナ、サンゼノ教会堂、(4) ジョット、(5) パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂1、(6) パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂2、(7) アレクサンドロス美術、(8) アレクサンドロス・モザイク、(9) ビザンティン美術史、(10) 神と人、人と人の対面</p>	隔年
	西洋美術史-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西欧近世における南北の美術と近代における受容について、文字史料と視覚資料の参照と分析を通じた理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世の北方およびイタリア美術の具体的な作例について多面的に講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業目標および内容に関する説明、(2) 中世末期の西欧美術、(3) 近世西欧美術の南北交流① ジョルジョ・ヴァザーリ『列伝』、(4) 近世西欧美術の南北交流② バルトロメオ・ファツィオ『名士録』、(5) 近世西欧美術の南北交流③ カーレル・ファン・マンデル『絵画書』、(6) 近世西欧美術の受容様態① ブリュッヘからヴェネツィアへ、(7) 近世西欧美術の受容様態② ローマからアントウェルペンへ、(8) 近代西欧美術の展開① 「英国美術秘宝展」(1957)、(9) 近代西欧美術の展開② 「プリミティブ・フランクマン展」(1902)、(10) まとめ</p>	隔年
	日本美術史	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術を編年的に理解するため、代表的作例を鑑賞し、時代様式を理解するとともに、どのような作品が評価されてきたのかを、時代背景と共に考察する能力を養うことを目的とする</p> <p>授業の概要：各時代の代表作を取り上げ、講述し、作品の生まれた時代背景等、多面的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 仏教伝来と法隆寺、(2) 東大寺・興福寺の美術、(3) 木彫仏の成立、(4) 密教の美術、(5) 浄土教の美術、(6) 鎌倉時代の美術、(7) やまと絵の成立、(8) 神道美術、(9) 似絵と頂相、(10) 禅宗美術</p>	隔年
	美術論	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術と社会との関わりについて学び、作品の制作と発表に役立つ美術理論を理解することを目標とする。</p> <p>授業の概要：欧米と日本のアーティストコロニー（芸術家村）を取り上げ、芸術家における「場」の問題について考察する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術家の集団肖像画、(2) バルビゾン派の画家たち、(3) フランスの印象派とセーヌ河畔の村、(4) アメリカの印象派とオールド・ライム、(5) 北欧の印象派：特にスケーエンについて、(6) ドイツの芸術家村ヴォルプスヴェーデ、(7) グレー村の日本人画家たち、(8) エコール・ド・パリとモンパルナスの異邦人たち、(9) 東京の芸術家村①、(10) 東京の芸術家村②</p>	隔年
	芸術教育論-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育批評の理論と方法について学び、学校教育における芸術教育実践の理解・解釈・評価と教育方法開発に携わる基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：テキストに基づいて芸術教育実践の観察批評を実際に行う理論と方法の基礎を学ぶ。図画工作、美術、工芸の各教科の実践について、映像資料や、学校教員を招いての特別講義等を通して理解を深める。</p> <p>授業計画：(1) 芸術教育批評の考え方と方法①（記述・分析）、(2) 芸術教育批評の考え方と方法②（解釈・主題化）、(3) 芸術教育批評の事例、(4) 映像批評等を活用した学習場面の把握・記述、(5) 映像批評等を活用した学習場面の解釈、(6) 授業実践の例 造形あそび等、(7) 授業実践の例 絵や立体等、(8) 芸術教育批評の視点をを用いた現象分析の実際、(9) 学校における授業実践の現地観察の方法、(10) 学校における授業実践の現地観察の成果と課題</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育論-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育批評の理論と方法について学び、学校教育における芸術教育実践の理解・解釈・評価と教育方法開発に携わる基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：図画工作、美術、工芸のいずれかの教科の授業実践を实地に観察し、芸術教育批評の理論と方法を用いて現象を深く分析し、結果を批評として表現する。</p> <p>授業計画：(1) 授業観察の事前指導、(2) 関連資料の収集と分析、(3) 授業実践における取材、(4) 授業実践の観察記録整理・分析、(5) 教師と学習者の相互影響の検討、(6) 学習者間の相互影響の検討、(7) 芸術活動の特質に注目した現象の理解(教師の視点から)、(8) 芸術活動の特質に注目した現象の理解(学習者の視点から)、(9) 解釈と主題化に関する議論、(10) 芸術教育批評の公開と議論</p>	隔年
	美術技法論-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術（洋画、版画）の多様な表現とその技法について理解する。</p> <p>授業の概要：洋画および版画の表現内容や表現方法、構想、技法材料について分析、論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(319 福満正志郎/3回) (1) 現代の美術における構想の意味、(2) 現代の絵画表現における構想と技法、(3) 現代の絵画表現における独創性について</p> <p>(114 内藤定壽/3回) (4) 海外の絵画技法書の比較と技法論の可能性、(5) 混合技法の定義について、(6) 模写から入る美術論の可能性</p> <p>(97 田島直樹/2回) (7) 版画の“刷り”の効果について、(8) ステートとヴァリエーションについて</p> <p>(499 星美加/2回) (9) CG技術を活用した絵画制作の可能性について、(10) 現代の作品発表活動の可能性について</p>	隔年 オムニバス方式
	美術技法論-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術（日本画・彫塑）における表現技法について歴史的、理論的に分析等を行うことにより、表現方法及び技術についての実際的な応用力をつけ、多様な対応ができるようにする。</p> <p>授業の概要：美術の表現方法について、歴史的、理論的に分析を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(24 太田圭/2回) (1) 日本画制作における表現技法について、(2) 日本画におけるマチュールについて（コラージュ・箔押し技法）</p> <p>(324 程塚敏明/2回) (3) 支持体（和紙）における表現技法について（裏彩色・もみ紙技法）、(4) 金属箔を用いた表現技法について（銀箔への変色技法）</p> <p>(361 山本浩之/2回) (5) 岩絵具による表現技法について（彩色技法）、(6) 古典にみる表現技法とその応用について</p> <p>(511 宮坂慎司/2回) (7) モデリングによる彫塑技法について①（石膏技法・ブロンズ技法）、(8) モデリングによる彫塑技法について②（テラコッタ技法・乾漆技法）</p> <p>(26 大原央聡/2回) (9) カービングによる彫塑技法について①（木彫技法）、(10) カービングによる彫塑技法について②（石彫技法）</p>	隔年 オムニバス方式
	書論	<p>授業の到達目標及びテーマ：書論に対する基礎的な知識を身につけるとともに、書論史研究の方法について理解を深め、関連する諸問題を包括的に検討する力を培う。</p> <p>授業の概要：書の研究における書論の位置を理解し、書論を講読する際の文献学的な知識を習得する。更に中国書論を中心に幾つかの文献を実際に講読し、そこで論じられる主な内容を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) (2) 書論研究の基本的な考え方、(3)～(15) 文献講読、(16) (17) 書論文献と書誌学、(18)～(29) 文献講読、(30) 学習のまとめ</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	書鑑賞論	<p>授業の到達目標及びテーマ：書の鑑賞・鑑定に対する基本的な知識を身に付けるとともに、書の鑑賞・鑑定をめぐる学術的な方法について理解を深め、実践的な鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：学術研究を念頭に置いた書の鑑賞・鑑定をめぐる基本的な考え方やその方法を身に付け、実際の書の作例に基づく鑑賞・鑑定の実践を積み重ねる。</p> <p>授業計画：(1) (2) 書の鑑賞・鑑定の基本的な考え方、(3) (4) 書跡本体の鑑定、(5) (6) 鑑定の傍証、(7)～(30) 歴代の遺品に対する鑑定</p>	隔年
	ダイナミックインタラクションデザイン演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：情報・プロダクト・メディアアートを融合した、オブジェによるインタラクション設計の基礎を習う。人間の感情、判断の根源となる感性的な行動をハイテック電子技術や形の素材の仕組みを利用したローテックを用い、創造的インタラクション設計を行う。</p> <p>授業の概要：グループワークショップ形式でのプロトタイピングを行う。</p> <p>授業計画：(1) 課題説明 チーム構成、(2) プレインストーミング、発表、(3) 先行事例の研究、テーマ設定およびアイデア展開、(4) 仕組みなどの具体案の設計、(5) 中間発表、(6) モデル制作、(7) モデル制作、(8) モデル制作、(9) シミュレーション映像撮影、(10) 最終プレゼンテーション</p>	
	インターンシップ	<p>授業の到達目標及びテーマ：企業などの一般社会における美術・デザイン分野に関わる業務の体験を行い、美術・デザイン分野における実践的、実質的あるいは実務的な能力を学ぶ。</p> <p>授業の概要：企業などの一般社会において美術・デザイン分野に関わる業務の体験を行い、インターンシップ研修での実務経験等に関する報告書を提出する。</p> <p>授業計画：企業などの一般社会における美術・デザイン分野に関わる業務の説明・解説を踏まえて、現場での実習を行う。</p> <p>1) 企業などによる美術・デザイン分野に関わる業務の説明・解説を受講する。</p> <p>2) 企業などにおいて、インターンシップ研修を行う。</p> <p>3) インターンシップを行った企業などで経験した実務内容等に関する報告書を提出する。報告書にはインターンシップを行った企業などによる評価を含める。</p>	
専門科目	西洋近世美術史特講I-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する講義。「受難伝」の図像を分析し講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 「キリストのエルサレム入城」から「最後の晩餐」、(3) 「使徒たちへの暇乞い」から「菜園での祈り」、(4) 「キリストの捕縛」から「キリストの打擲」、(5) 「パリサイ人に告発されるキリスト」から「ピラトの前のキリスト」、(6) 「鞭打ち」から「カルヴァリオ」、(7) 「磔刑」から「十字架降下」、(8) 「埋葬」から「冥府への降下」、(9) 「我に触れるな」から「エマオへの道での邂逅」、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史特講I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する講義。キリストの生涯をめぐる図像を分析し講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 降誕、洗礼、(3) 荒野の誘惑、十二使徒の選抜、(4) 山上の垂訓、(5) 変容、(6) 最後の晩餐、(7) 受難、(8) 磔刑、(9) 復活と昇天、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史特講II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史の特定課題に関する講義。15世紀ネーデルラント絵画を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 15世紀ネーデルラント絵画のアイデンティティ、(3) 絵画とパトロン、(4) 注文主と図像形式、(5) 流行と様式批判、(6) 経済活動と技法、(7) コピーとレプリカ、(8) 祈念像、(9) 奉献画、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋近世美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史の特定課題に関する講義。16世紀ネーデルラント絵画を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 16世紀ネーデルラント絵画のアイデンティティ、(3) 絵画とマーケット、(4) 社会背景と主題、(5) 流行と様式批判、(6) 工房経営、(7) コピーとレプリカ、(8) ロマニズム、(9) 対抗宗教改革と美術、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する演習。西欧近世の美術を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世ないし近代の美術に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世ないし近代美術史における特定課題に関する演習。西欧近世ないし近代の美術を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術コレクションに関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する演習。西欧近世の美術コレクションを多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近代における西洋近世美術の展示に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋美術史における特定課題に関する演習。近代における西欧近世美術の展示を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	近・現代美術論特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。本授業では「美術における身体」をテーマに講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 裸体画の美術史① 西洋1、(3) 裸体画の美術史② 西洋2、(4) 裸体画の美術史③ 日本1、(5) 裸体画の美術史④ 日本2、(6) 「美人」の美術史① 日本1、(7) 「美人」の美術史② 日本2、(8) 「サイボーグ・フェミニズム」以後①、(9) 「サイボーグ・フェミニズム」以後②、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	近・現代美術論特講I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。本授業では「国家を表象する女神像」をテーマに講述する。</p> <p>授業計画：(1) 国家を表象する女神像の考察① フランス：マリアンヌ、(2) 国家を表象する女神像の考察② イギリス：ブリタニア、(3) 国家を表象する女神像の考察③ ドイツ：ゲルマニア、(4) 日本を表象する図像の考察① 天皇の肖像、(5) 日本を表象する図像の考察② 皇后の肖像、(6) 日本を表象する図像の考察③ 古代神話の女神像、(7) 倭姫命について①、(8) 倭姫命について②、(9) 倭姫命について③、(10) 倭姫命について④ アンヌ</p>	隔年
	近・現代美術論特講II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。「日本近代美術史と省庁、官僚」をテーマとする。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 日本近代美術史と省庁①、(3) 日本近代美術史と省庁②、(4) 内務省および内務官僚と美術①、(5) 内務省および内務官僚と美術②、(6) 「官製日本美術史」の形成①、(7) 「官製日本美術史」の形成②、(8) 「国宝」の政治学①、(9) 「国宝」の政治学②、(10) 総括</p>	隔年
	近・現代美術論特講II-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。「日本近代美術史における《地域美術史》」をテーマとする。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) ローカル・アートヒストリー（地域美術史）とは、(3) 地域美術史① 地方都市の画塾、(4) 地域美術史② 近・現代の画家1、(5) 地域美術史③ 近・現代の画家2、(6) 地域美術史④ 地方のコレクターとそのネットワーク、(7) 地域美術史⑤ 地方における近・現代の美術史家、(8) 地域美術史に関する研究の動向、(9) 地域美術史に関する展覧会の動向、(10) 総括</p>	隔年
	近・現代美術論演習I-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近・現代の美術に関する英語の文献講読により近・現代の美術に関する理解を深め問題意識を高める。</p> <p>授業の概要：近・現代美術史における特定の課題に関する演習。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、学生プロフィール記入、(2) 近・現代美術史に関する資料および作品へのアプローチについて、(3) 文献輪読①、(4) 文献輪読②、(5) 文献輪読③、(6) 文献輪読④、(7) 文献輪読⑤、(8) 文献輪読⑥、(9) 文献輪読⑦、(10) 文献輪読⑧</p>	隔年
	近・現代美術論演習I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術史に関して明治政府が発行した外国語文献を講読し、翻訳および註釈を付けることにより、近代日本の対外美術戦略の一端を明らかにする。</p> <p>授業の概要：美術史用語や内容について註釈を付け、解題の充実した現代日本語による翻訳を完成させることを目指す。</p> <p>授業計画：(1) 翻訳と註釈の進め方について、(2) 翻訳と註釈の発表と全体討議①、(3) 翻訳と註釈の発表と全体討議②、(4) 翻訳と註釈の発表と全体討議③、(5) 翻訳と註釈の発表と全体討議④、(6) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑤、(7) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑥、(8) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑦、(9) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑧、(10) 翻訳・解題の出版に関する編集会議</p>	隔年
	近・現代美術論演習II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近・現代の美術に関して各自が設定したテーマについて研究発表することにより近・現代の美術に関する理解を深め問題意識を高める。</p> <p>授業の概要：近・現代美術史における特定の課題に関する演習。各自の見解を明確にした上で最新の研究成果をふまえた発表を求める。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、学生プロフィール記入、(2) 近・現代美術史に関する資料および作品へのアプローチについて、(3) 教員による研究発表、(4) 発表演習①、(5) 発表演習②、(6) 発表演習③、(7) 発表演習④、(8) 発表演習⑤、(9) 発表演習⑥、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	近・現代美術論演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術史に関して明治政府が発行した外国語文献を講読し、翻訳および註釈を付けることにより、近代日本の文化財保護政策の一端を明らかにする。</p> <p>授業の概要：美術史用語や内容について註釈を付け、解題の充実した現代日本語による翻訳を完成させることを目指す。</p> <p>授業計画：(1) 翻訳と註釈の進め方について、(2) 翻訳と註釈の発表と全体討議①、(3) 翻訳と註釈の発表と全体討議②、(4) 翻訳と註釈の発表と全体討議③、(5) 翻訳と註釈の発表と全体討議④、(6) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑤、(7) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑥、(8) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑦、(9) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑧、(10) 翻訳・解題の出版に関する編集会議</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と宗教について講義を行う。公的な建造物、神殿と附属彫刻を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と宗教について講義を行う。私的な領域、奉納記念物と葬礼美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と社会について講義を行う。アルカイックからクラシック期の、僭主政治から民主政成立期にかけての、政治体制と美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と社会について講義を行う。クラシック期からヘレニズム期にかけての美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と宗教について、特に公的な建造物、神殿と附属彫刻を主題として設定する。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と宗教について、特に私的な領域、奉納記念物と葬礼美術を主題として設定する。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋古代美術史演習Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と社会について、アルカイックからクラシック期の、僭主政治から民主政成立期にかけての政治体制と美術を主題として設定する。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と社会について、クラシック期からヘレニズム期にかけての美術を主題として設定する。</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：編年的に日本美術の代表作を鑑賞し、その特性を探り、研究的な視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 近世初頭の美術と表現について①、(2) 近世初頭の美術と表現について②、(3) 近世初頭の美術と表現について③、(4) 近世風俗画について①、(5) 近世風俗画について②、(6) 初期の浮世絵、(7) 美人画と役者絵、(8) 錦絵について、(9) 北斎と広重、(10) ジャポニズム</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：編年的に日本美術の代表作を鑑賞し、その特性を探り、研究的な視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 日本絵画における特定課題の講義、(2) 近世初頭の美術と表現について①、(3) 近世初頭の美術と表現について②、(4) 琳派の表現①、(5) 琳派の表現②、(6) 琳派の表現③、(7) 琳派の継承①、(8) 近代日本画① 文展、(9) 近代日本画② 美術院、(10) 日本の絵画の特質について</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：近世初頭の風俗画から浮世絵の成立、大正新版画までを対象に代表作を通して、我が国を代表する浮世絵を考察する。</p> <p>授業計画：(1) 初期風俗画について、(2) 都市の成立と人物表現について、(3) 歌舞伎と役者絵について、(4) 版画技法と表現の変化について、(5) 絵暦交換会について、(6) 大首絵とその代表的絵師、(7) 出版の統制について、(8) 風景表現について、(9) 明治期の浮世絵について、(10) 大正新版画について</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：特定の美術作品について、時代様式や背景となる事象を通して、美術作品が歴史的に評価され、伝来している意味を解釈し、研究的な視点を養うことを目的とする。</p> <p>授業の概要：仏教美術の諸相を代表作品を通して鑑賞し、時代様式について考える。</p> <p>授業計画：(1) 仏教美術の彫刻表現について①、(2) 仏教美術の彫刻表現について②、(3) 仏教美術の彫刻表現について③、(4) 仏教寺院の内陣の構想について①、(5) 仏教寺院の内陣の構想について②、(6) 仏教寺院の内陣の構想について③、(7) 仏教美術の大陸からの受容のあり方について①、(8) 仏教美術の大陸からの受容のあり方について②、(9) 仏教美術の国風的表現について①、(10) 仏教美術の国風的表現について②</p>	隔年
	日本美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の文献史料）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料調査（写真撮影）の方法、(2) 文献史料の調査①、(3) 文献史料の調査②、(4) 文献史料の調査③、(5) 文献史料の調査④、(6) 調査史料のディスカッション、(7) 文献史料の補完調査①、(8) 文献史料の補完調査②、(9) 文献史料の調査と研究視点、(10) 文献史料の総合的な検討を行う</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本美術史演習I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（文献史料）を講読し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料講読の方法、(2) 文献史料の講読①、(3) 文献史料の講読②、(4) 文献史料の講読③、(5) 文献史料の講読④、(6) 文献史料の講読⑤、(7) 文献史料の講読⑥、(8) 文献史料の講読⑦、(9) 文献史料の講読⑧、(10) 文献史料の総合的な検討を行う</p>	隔年
	日本美術史演習II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の作品）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 実際の作品の調査のあり方について、(2) 作品調査の方法について、(3) 第1回調査、(4) 調査作品についてのディスカッション、(5) 調査作品のディスクリプション、(6) 第2回調査（第1回調査の補完を行う）、(7) 調査報告のあり方について、(8) 先行研究について、(9) 資料調査と研究視点、(10) 総合的な解釈</p>	隔年
	日本美術史演習II-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の作品）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 作品調査①、(2) 作品調査②、(3) 研究主題に基づき、検討を加える①、(4) 研究主題に基づき、検討を加える②、(5) 先行研究について、検討を加える①、(6) 先行研究について、検討を加える②、(7) 研究主題について、口頭発表し、検討する①、(8) 研究主題について、口頭発表し、検討する②、(9) 研究主題について、口頭発表し、検討する③、(10) 研究主題の総合的な検討を行う。</p>	隔年
	美術史学外演習I	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の文献史料）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料調査（写真撮影）の方法、(2) 文献史料の調査①、(3) 文献史料の調査②、(4) 文献史料の調査③、(5) 文献史料の調査④、(6) 調査史料のディスカッション、(7) 文献史料の補完調査①、(8) 文献史料の補完調査②、(9) 文献史料の調査と研究視点、(10) 文献史料の総合的な検討を行う。</p>	
	美術史学外演習II	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（文献史料）を講読し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料講読の方法、(2) 文献史料の講読①、(3) 文献史料の講読②、(4) 文献史料の講読③、(5) 文献史料の講読④、(6) 文献史料の講読⑤、(7) 文献史料の講読⑥、(8) 文献史料の講読⑦、(9) 文献史料の講読⑧、(10) 文献史料の総合的な検討を行う。</p>	
	芸術支援学外演習A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる運営の実際について、現地調査をもとに多角的に理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる運営の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：美術館、美術ギャラリー、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：野外現代美術展会場、芸術祭、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術支援学学外演習A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる運営の実際について、現地調査をもとに多角的に理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる運営の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。また学外演習の運営への参加も芸術支援の訓練としてとらえ、参加者が効果的な学習ができるよう工夫し貢献する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：学校教育、美術館教育、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：アートとコミュニティ、アートと社会参加、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術支援学学外演習B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる実践と研究について、現地調査をもとに深く理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる実践と研究の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：授業公開研究会、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：ワークショップ、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術支援学学外演習B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる実践と研究について、現地調査をもとに深く理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる実践と研究の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。また学外演習の運営への参加も芸術支援の訓練としてとらえ、参加者が効果的な学習をできるよう工夫し貢献する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：学術研究会、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：リサーチフォーラム、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術教育方法論A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する研究の多様なアプローチを理解し、各自の研究手法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：主として現代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、比較教育の視点からの探究事例を論じる。</p> <p>授業計画：(1) 美術教育の比較研究（日本）、(2) 美術教育の比較研究（英国ほか）、(3) デザイン教育の比較研究（日本）、(4) デザイン教育の比較研究（英国ほか）、(5) 工芸教育の比較研究（日本）、(6) 工芸教育の比較研究（英国ほか）、(7) 鑑賞教育の比較研究（日本）、(8) 鑑賞教育の比較研究（英国ほか）、(9) 教員養成の比較研究（日本）、(10) 教員養成の比較研究（英国ほか）</p>	隔年
	芸術教育方法論A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する研究の多様なアプローチを理解し、各自の研究手法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：主として現代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、より適切な解釈を提示できる能力の育成を目指して、文献資料の収集と整理、解説、要約、問題点の提示、討論、論述などを行う。</p> <p>授業計画：(1) 研究データベースについて（国内の事例）、(2) 研究データベースについて（海外の事例）、(3) 学術論文のレビューについて、(4) 国内の主要な研究動向、(5) 海外の主要な研究動向、(6) 研究目的、方法、結果の相互関連、(7) 関連研究の把握と独自性の探究、(8) 調査方法の概観、(9) 調査方法の信頼性と妥当性、(10) プレゼンテーション技法</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育方法論B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する史的探究の事例を中心に、芸術教育に関する主要な研究方法を理解し、各自の研究方法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：近代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、主として19世紀後半から現在までの英国における中等教育の変革を事例として論じる。</p> <p>授業計画：(1) 芸術教育方法研究の概観（美術思想とのかかわり）、(2) 芸術教育方法研究の概観（教育思想とのかかわり）、(3) 芸術教育方法研究の概観（社会的諸制度とのかかわり）、(4) 芸術教育方法研究の概観（理念と方法論の関係）、(5) 芸術教育方法研究の概観（成果と課題）、(6) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの基本理念）、(7) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの方法論）、(8) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの方法の実際）、(9) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの成果）、(10) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの課題）</p>	隔年
	芸術教育方法論B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する史的探究の事例を中心に、芸術教育に関する主要な研究方法を理解し、各自の研究方法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：近代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、芸術思想、教育思想、社会的諸制度などの背景を含めて理解し、その探究から導かれる諸問題について多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 研究課題と方法の設定（テーマの選択）、(2) 研究課題と方法の設定（テーマと方法の妥当性の検討）、(3) 研究課題と方法の設定（研究の構造化）、(4) 研究課題と方法の設定（全体構想の図式化）、(5) 資料収集と分析（収集法）、(6) 資料収集と分析（先行研究の成果）、(7) 資料収集と分析（先行研究の限界）、(8) 資料収集と分析（研究の位置づけの明確化）、(9) 資料解釈と論文構成（問題の所在）、(10) 資料解釈と論文構成（目的の明確化）</p>	隔年
	芸術学習支援論A	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法を理解し、学習活動を支援する基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法、その指導者育成について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの概要、(2) 美的発達段階の研究（Aesthetic Development Interview）、(3) 美的発達段階論（説明する鑑賞者、構成する鑑賞者）、(4) 美的発達段階論（分類する鑑賞者、解釈する鑑賞者、再創造する鑑賞者）、(5) 幼児の学習支援の考え方、教材と方法、(6) 小学校低学年の学習支援の考え方、教材と方法、(7) 小学校中・高学年の学習支援の考え方、教材と方法、(8) 中等教育以降における学習支援の考え方、教材と方法、(9) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの立案）、(10) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの行動プラン策定）、(11) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのファシリテーション）、(12) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのVSTの位置づけ）、(13) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの実践）、(14) 子ども対象の実地演習の評価（子ども・アート・ラウンジの成果）、(15) 子ども対象の実地演習の評価（今後の課題）、(16) VTSコーチングの基礎、(17) VTSコーチングの実地演習（受容的態度）、(18) VTSコーチングの実地演習（行動の理解）、(19) VTSコーチングの実地演習（集団における啓発）、(20) VTSコーチングの実地演習（改善への示唆）</p>	講義 7.5時間 演習 22.5時間 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術学習支援論B	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法を理解し、学習活動を支援する基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの考え方、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの方法、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの活用、(4) 学習支援の考え方と実際、(5) ファシリテーション技法（基本質問の理解）、(6) ファシリテーション技法（パラフレーズの理解）、(7) ファシリテーション技法（パラフレーズの応用）、(8) ファシリテーション技法（動作）、(9) ファシリテーション技法（態度）、(10) ファシリテーション技法（リンク）、(11) ビデオ実地演習（教材の検討）、(12) ビデオ実地演習（技法の習得）、(13) ビデオ実地演習の評価、(14) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの立案）、(15) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの行動プラン策定）、(16) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのファシリテーション）、(17) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのVSTの位置づけ）、(18) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの実践）、(19) 子ども対象の実地演習の評価（子ども・アート・ラウンジの成果）、(20) 子ども対象の実地演習の評価（今後の課題）</p>	講義 7.5時間 演習 22.5時間 隔年
	芸術支援ワークショップⅠ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術支援における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) 日本の美術・デザイン・工芸教育の特色と課題、(2) 日本と英国の中等美術教育におけるアートライティングの比較、(3) アートライティング教育の意義と方法、(4) 高校生アートライター大賞の目的、歴史、運営、(5) 高校生アートライター大賞の選考基準、(6) 過去受賞作品の検討、(7) 選考過程リハーサル、(8) 第一次選考作品の検討、(9) 第一次選考作品の評価、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年
	芸術支援ワークショップⅡ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術教育における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) 「制作体験」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習における「表現」、(2) 「作品探究」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習における「鑑賞」、(3) 「芸術支援」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習の社会的視点、(4) 高校生アートライター大賞の参加者の意識、(5) 高校生アートライター大賞に参加した指導者の意識、(6) 選考過程リハーサル、(7) 第二次選考作品の検討、(8) 第二次選考作品の評価、(9) 筑波大学学生賞の選考、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年
	芸術支援ワークショップⅢ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術教育における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) ワークショップ活動の企画、(3) アートライティング学習の評価方法、(4) アートライティング学習の奨励方法、(5) アートライティング学習支援の実践、(6) アートライティング学習支援メッセージの作成、(7) アートライティング学習による交流支援の計画、(8) アートライティング学習による交流支援の実施、(9) アートライティング学習による交流支援の評価、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術学習支援演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの高度な実践とコーチングの方法を学ぶ。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの考え方、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの方法、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの活用、(4) コーチングの実際、(5) コーチング技法（基本質問の理解）、(6) コーチング技法（パラフレーズの理解）、(7) コーチング技法（パラフレーズの応用）、(8) コーチング技法（動作）、(9) コーチング技法（態度）、(10) コーチング技法（リンク）、(11) コーチングの実地演習（学習プログラムの検討）、(12) コーチングの実地演習（行動プラン策定）、(13) コーチングの実地演習（教材の選定）、(14) コーチングの実地演習（演習授業での指導実践）、(15) コーチングの実地演習（指導実践の振り返り）、(16) コーチングの実地演習（指導実践の改善）、(17) コーチングの実地演習（グループワークの指導実践）、(18) コーチングの実地演習（学習者からの振り返り）、(19) コーチングの実地演習の評価（学習者の達成状況）、(20) コーチングの実地演習の評価（今後の課題）</p>	隔年
	芸術学習支援演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの高度な実践とコーチングの考え方と技法を実地に応用する。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーを初心者に指導するためのコーチングの考え方と技法を実地に身につける。</p> <p>授業計画：(1) コーチングとファシリテーション、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの適用上の課題、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの発展、(4) コーチングの実地応用、(5) コーチング技法（視線の活用）、(6) コーチング技法（高度なパラフレーズ）、(7) コーチング技法（作品テーマに応じたパラフレーズ）、(8) コーチング技法（身体性）、(9) コーチング技法（表情）、(10) コーチング技法（中立性の保持）、(11) コーチングの実地演習（作品の配列）、(12) コーチングの実地演習（学習者への導入）、(13) コーチングの実地演習（想定と実際）、(14) コーチングの実地演習（テーマ別演習）、(15) コーチングの実地演習（知識の活用）、(16) コーチングの実地演習（語彙の検討）、(17) コーチングの実地演習（相互作用）、(18) コーチングの実地演習（肯定と励まし）、(19) コーチングの実地演習の評価（課題の共有）、(20) コーチングの実地演習の評価（改善提案）</p>	隔年
	洋画技法論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：絵画・西洋絵画の様式について理解し、技法上の特性について学ぶ。</p> <p>授業の概要：絵画・西洋絵画の様式について理解し、技法上の特性について分析、論述する。</p> <p>授業計画：(1) 絵画の形式について－絵画の物理的性質と表現、(2) 絵画の形式について－絵画の観念的性質と表現、(3) 絵画における造形上の基本的要素について、(4) 西洋絵画の様式について① クラシック、フィレンツェ・ライン、(5) 西洋絵画の様式について② バロック、ベネチア・ライン、(6) 絵画の様式について③ 技法・材料と様式、(7) 絵画空間の構造について① 遠近法、(8) 絵画空間の構造について② 前景、中景、後景、(9) 絵画空間の構造について③ プランの分離体系、(10) 現代における絵画表現の意義と独自性について</p>	
	西洋美術技法演習-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：技法・材料実験ならびに制作実践を通して、洋画に関する技法を習得する。</p> <p>授業の概要：西洋絵画を中心に、古典から現代に及ぶ様々な作品例・技法例を示し絵画制作にかかわる多様な表現方法について講じる。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(155 仏山輝美/8回) (1) ガイダンス (課題説明)、(4) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践① 平面性、(5) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践② 色料、(6) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践③ 筆致、(7) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践④ マチエール、(8) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践① 色相、(9) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践② 補色、(10) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践③ (114 内藤定壽/2回) (2) 絵画表現の構想とその方法① 主題、モチーフの検討、(3) 絵画表現の構想とその方法② 技法・材料の検討	
	西洋美術技法演習-2	授業の到達目標及びテーマ：技法・材料実験ならびに制作実践を通して、洋画に関する技法を習得する。 授業の概要：西洋絵画を中心に、古典から現代に及ぶ様々な作品例・技法例を示し絵画制作にかかわる多様な表現方法について講じる。 授業計画：(1) ガイダンス (現代の美術表現における課題)、(2) 実験制作-1 ① レポート、エスキース、(3) 実験制作-1 ② 素材、技法の検討、(4) 実験制作-1 ③ 表現意図と表現効果、(5) 作品の中間評価、講評、(6) 実験制作-2 ① 構想、エスキース、(7) 実験制作-2 ② 素材、技法の工夫、(8) 実験制作-2 ③ 表現意図の再確認、(9) 実験制作-2 ④ 表現効果の工夫、(10) 作品の展示、講評	
	洋画制作A-1	授業の到達目標及びテーマ： ・戸外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体モデルに基づく人物画の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・制作実践を通して、色彩と表現内容、色彩と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 授業の概要：風景画、静物画、人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、色彩の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。 授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 風景画制作、(7)～(9) 人物写生、(10)～(14) 作品制作① (自由課題)、(15)～(19) 作品制作② (自由課題)、(20) 作品講評、授業のまとめ	
	洋画制作A-2	授業の到達目標及びテーマ： ・人体モデルに基づく人物画 (もしくは構想画) の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・作品制作を通して、色彩と表現内容、色彩と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 授業の概要：構想に基づく人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、色彩の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。 授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 人物写生 (裸婦モデル)、(6)～(9) 人物写生にもとづく作品制作 (自由課題)、(10) 作品講評、授業のまとめ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体および選択されたモチーフをテーマに絵画制作を行う。</li> <li>・作家としての表現を確立するための基礎を養い、学外における作品発表を目標に制作を行う。</li> <li>・特に絵画制作における素材や技法について研究する。</li> </ul> <p>授業の概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋画制作B では特に技法について個別に質疑応答を行い、各々の目的に応じたより高度な表現を目指す。</li> <li>・経年変化に耐える基底材、地塗りやメディウムの工夫を行い、制作工程、制作システムについて実験的な試みを行う。</li> <li>・油絵具、アクリル絵具やテンペラはもちろん、様々な材料に関心をもつと同時に、より高度な絵画技法を経験させる。</li> </ul> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 作品制作（自由課題）、(7)～(8) 風景画制作、(9)～(11) 静物画制作、(12)～(14) 人物写生（裸婦モデル）、(15)～(19) 作品制作（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体モデルに基づく人物画、本人の構想に基づく構想画をテーマに絵画制作を行う。</li> <li>・作家としての表現に結び付く応用力を養い、学外における作品発表を目標に制作を行う。</li> <li>・特に絵画制作における素材や技法について高度な研究を行う。</li> </ul> <p>授業の概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に設定されたテーマによるモチーフの選択を行い、テーマにそって素材、技法について最も適したものを追求する。</li> <li>・積極的な基底材、地塗りやメディウムの工夫を行い、制作工程、制作システムについて高度な表現を身につけさせる。</li> <li>・様々な材料に関心をもつと同時に、混合技法などより高度な絵画技法を経験させる。</li> </ul> <p>授業計画：(1) ガイダンス、第2回～5回：人物写生I（裸婦モデル）、第6回～9回：人物写生にもとづく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体モデルに基づく人物画の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。</li> <li>・制作実践を通して、構想と表現内容、構想と表現方法の連関について理解し、実践する。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。</li> </ul> <p>授業の概要：風景画、静物画、人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、構想の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 風景画制作、(4)～(6) 静物画制作、(7)～(9) 人物写生（裸婦モデル）、(10) 作品制作① 各自の設定したテーマに基づき独自の構想的表現を試みる、(11)～(14) 作品制作①（自由課題）、(15)～(19) 作品制作②（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体モデルに基づく人物画（もしくは構想画）の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。</li> <li>・作品制作を通して、構想と表現内容、構想と表現方法の連関について理解し、実践する。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。</li> </ul> <p>授業の概要：構想に基づく人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、独自の構想表現の拡大、表現意図の確認等によって、制作の向上を目指し指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品展示、作品講評、(3)～(5) 人物写生（裸婦モデル）、(6)～(9) 人物写生に基づく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画制作D-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風景・静物及び人物を対象とした油彩画制作によって、油彩表現の特性を理解するとともに客観的な観察を基にした基礎的な描写力や表現力を習得する。</li> <li>多様なモチーフによる制作実践を通して、表現内容と構図・形態の造形的関連性について理解し、構図・形態に関する独自の表現方法を追求する能力を習得する。</li> <li>多様なモチーフによる制作実践を通して、構図・形態の観点から基礎的な造形の知識・技法を実制作に具体的に応用できる能力を習得する。</li> <li>多様なモチーフによる制作実践によって、構図・形態の観点から柔軟な発想力・構想力が展開できる能力を習得する。</li> </ul> <p>授業の概要：多様なモチーフを対象とした制作によって、特に油彩表現の特性と構図と形態の表現効果に着目した描画方法を具体的に体験し、受講生各自が独自の構想に基づく表現へ展開する契機とする。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 風景画制作、(4)～(6) 静物画制作、(7)～(9) 人物写生（裸婦モデル）、(10)～(14) 作品制作①（自由課題）、(15)～(19) 作品制作②（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作D-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人体モデルによる人物画制作とともにさまざまなモチーフを基にした構想画表現にも取り組み、受講生各自が自身の表現の体質や美的方向性を見極め、独自の表現様式を獲得する契機とする。</li> <li>制作実践を通して、構図・形態と表現内容・方法の連関について理解し、独自の表現様式の確立を実践する。</li> <li>制作実践および作品発表を通して、自立的に表現活動を展開するための基本的な姿勢と能力を獲得する。</li> </ul> <p>授業の概要：人体モデルを基にした表現から個々の表現する主題や内容に沿った基底材等のサイズ選択や多様な描画材の適用及び構想の展開などによって、独自の表現様式を段階的に模索する。特に、構図と形態の表現効果に着目した描画方法や様式について実験・試行する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 人物写生（裸婦モデル）、(6)～(9) 人物写生にもとづく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画特別制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。</li> <li>自らの作品における色彩（色料）の表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。</li> <li>制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。</li> </ul> <p>授業の概要：絵画表現の独自性を理解し、表現の主題と内容をしっかりと見据えて造形し発信する態度を養成する。また、作品の自主制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 作品制作①～⑤、制作方法論の構築を見据えた制作実践とその評価、(7)～(10) 作品制作⑥～⑨ 自作作品の色彩分析を踏まえた制作実践、(11)～(14) 作品制作⑩～⑬ 参考作品の色彩分析を踏まえた制作実践、(15)～(17) 作品制作⑭～⑯ 色彩・色料に着目した作品展開のための制作実践、(18)～(19) 作品制作⑰～⑱ 表現主題と色彩の連関に着目した作品展開のための制作実践、(20) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を確立する。</li> <li>・自らの作品制作において色彩（色料）の表現効果をさらに発展させ、独自の絵画表現を展開する力を育てる。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作方法論を構築する。</li> </ul> <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 絵画空間と色彩、(3) 作品制作② 形態と色彩、(4) 作品制作③ 質感と色彩、(5) 作品制作④ 混色と重色、(6) 作品制作⑤ 色彩と色料、(7) 作品制作⑥ 筆触と色彩、(8) 作品制作⑦ 絵画の物理的性質と色彩・色料、(9) 作品制作⑧ 技法・材料の多様性と色彩、(10) 作品講評</p>	
	洋画特別制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、表現のテーマやねらいに沿った絵画技法、技法材料を選択できるようにする。</li> <li>・技法や素材による表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して高度な絵画技法を展開する力を身につける。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作技法を確立する。</li> </ul> <p>授業の概要：これまでに学んだ絵画技法を整理し、統合し、自分の目的に沿った絵画技法として確立させる。さらに、用いた素材の安定性、経年変化、人体、環境への影響などについて理解させる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 作品制作①② 自作作品にみる絵画技法の分析、傾向と課題、(4)～(5) 作品制作③④ 自作作品における絵画技法実験と危険性、(6)～(7) 作品制作⑤⑥ 参考作品にみる絵画技法の分析、傾向と課題、(8)～(9) 作品制作⑦⑧ 参考作品にみられる実験的絵画技法、人体、環境への危険性、(10) 作品制作⑨ 作品の経年変化について、(11)～(12) 作品制作⑩⑪ 作品の人体・環境への影響について、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ 表現主題と絵画技法の連関に着目した作品展開の方法の検討、制作実践、(15)～(19) 作品制作①-⑤ 絵画技法の確立を見据えた制作実践とその評価（画用液、筆、支持体ほか）、(20) 作品講評</p>	
	洋画特別制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、表現のテーマやねらいに沿った絵画技法、技法材料を選択できるようにする。</li> <li>・技法や素材による表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して高度な絵画技法を展開する力を身につける。</li> <li>・人体や環境への影響について十分理解させ、安全な制作環境について理解させる。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作技法を確立する。</li> </ul> <p>授業の概要：高度な描画と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々に向けた絵画技法について助言・指導を行う。その上で作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 乾性油、(3) 作品制作② 樹脂、(4) 作品制作③ ニス、(5) 作品制作④ 描画技法、(6) 作品制作⑤ 筆、(7) 作品制作⑥ 刷毛、(8) 作品制作⑦ 画面の安定、(9) 作品制作⑧ 光沢、(10) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。</li> <li>・自らの作品における構想とイメージの表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。</li> </ul> <p>授業の概要：絵画表現の独自性を理解し、表現の主題と内容をしっかりと見据えて造形し発信する態度を養成する。また、作品の自主制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① テーマに基づいた構想、(3) 作品制作② イメージと構想、(4) 作品制作③ 造形要素と構想、(5) 作品制作④ 構想表現のための技法・材料実験、(6) 作品制作⑤ イメージのリアリティについて、(7) 作品制作⑥ 参考作品にみる構想表現の検討、(8) 作品制作⑦ 参考作品の構想についての技法・材料実験、(9) 作品制作⑧ 参考作品の構想表現を踏まえた制作実践、(10)～(12) 作品制作⑨-⑪ イメージの展開に着目した作品制作の方法と検討、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ イメージと構想の連関に着目した作品展開のための制作実践、(15) 作品制作⑭ 主題と構想、(16) 作品制作⑮ イメージと構想、(17) 作品制作⑯ 造形要素と構想、(18) 作品制作⑰ 技法・材料実験、(19) 作品制作⑱ イメージとリアリティ、(20) 作品講評</p>	
	洋画特別制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。</li> <li>・自らの作品における構想とイメージの表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。</li> <li>・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を構築する。</li> </ul> <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 構想表現の検討、(3) 作品制作② 構想の技法・材料実験、(4) 作品制作③ 独自の構想表現の制作実践、(5) 作品制作④ イメージ展開の方法の検討、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ イメージ展開のための技法・材料実験、制作実践、(10) 作品講評</p>	
	洋画特別制作D-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に設定・選択した主題に沿って独自の表現様式や方法を追求し、作品化する。</li> <li>・自らの作品における構図・形態の表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して表現を展開する力を身につける。</li> <li>・制作実践及び作品発表を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。</li> </ul> <p>授業の概要：受講生各自が自身の表現の主題と内容を基に基底材のサイズ・描画材等を選択し、作品制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 作品制作①-④ 自作作品の構図・形態分析を踏まえた制作実践、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ 参考作品にみる構図・形態の分析、制作実践、(10)～(12) 作品制作⑨-⑪ 構図・形態に着目した作品展開、制作実践、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ 表現主題と構図・形態の連関に着目した作品展開の方法の検討、制作実践、(15) 作品制作⑭ 主題と形態、(16) 作品制作⑮ 構想と形態、(17) 作品制作⑯ 構図と形態、(18) 作品制作⑰ 形態の対比・調和、(19) 作品制作⑱ 調子と形態、(20) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作D-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：  ・個別に設定・選択した主題に沿って独自の表現様式や方法を追求し、作品化する。  ・自らの作品における構図・形態の表現効果をさらに発展させ、独自の表現を展開する力を身につける。  ・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を確立する。</p> <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 構図の検討、(3) 作品制作② 形態の技法・材料実験、(4) 作品制作③ 独自の構図・形態の表現の制作実践、(5) 作品制作④ イメージと構図の展開の方法の検討、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ イメージと形態の展開のための技法・材料実験、制作実践、(10) 作品講評</p>	
	洋画野外風景実習	<p>授業の到達目標及びテーマ：屋外において自然風景の写生に取り組み、風景画制作の実践のための手立てと描画方法を習得して、受講者個々の描写力・表現力を高める。</p> <p>授業の概要：自然に学ぶ態度を培い、観察力や洞察力に基づく描写力を高めて、独創的な絵画表現のための礎となるよう風景画制作における受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 風景画制作① 構図、(3) 風景画制作② 明暗、(4) 風景画制作③ 色彩、(5) 風景画制作④ 形態、量感、質感、(6) 風景画制作⑤ 空間、奥行き、(7) 風景画制作⑥ マチエール、テクスチャ、(8) 風景画制作⑦ 筆致、(9) 風景画制作⑧ 技法・材料と表現、(10) 風景画制作⑨ 作品講評、作品展示</p>	集中 共同
	版画制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：実際の制作を通して版画の技法研究を行い、各版種の特徴・性質を把握し、今後の作品制作に活かす。また、指導者養成の目的のもと、技術習得に努める。</p> <p>授業の概要：木版画、スクリーンプリントの原理を理解し、技法を習得する。合わせて、教材としての版画の指導方法について実践を通して考察する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(7) 課題①「陰刻と陽刻を組み合わせた作品」、(8)～(11) 課題②「顔」、(12)～(15) 課題③「スクリーンプリント/ブロック法」、(16)～(20) 課題④「コラグラフ」、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：実際の制作を通して版画の技法研究を行い、各版種の特徴・性質を把握し、今後の作品制作に活かす。また、指導者養成の目的のもと、技術習得に努める。</p> <p>授業の概要：銅版画（エッチング・アクアチント）、コラグラフの原理を理解し、技法を習得する。合わせて、教材としての版画の指導方法について実践を通して考察する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（腐蝕銅版画に関する説明、下準備）、(2)～(6) 課題①「エッチングによる制作」、(7)～(10) 課題②「アクアチントを併用した制作」、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代の多様な版表現について、独自の視点で分析し、表現者として発表できるようになる。</p> <p>授業の概要：専門とする版種に関する作家・作品・技法について、調査・研究・実験制作を通して自己の制作に活かす。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「作家についての研究」報告書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(14) 課題② 発表に関連する実験制作1、(15)～(20) 課題③ 発表に関連する実験制作2、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代における版表現の可能性について、技術的側面から検証できるようになる。</p> <p>授業の概要：専門とする版種に関する作家・作品・技法について、調査・研究・実験制作を通して自己の制作に活かす。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「技法についての研究」報告書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(10) 課題② 発表に関連する実験制作、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	版画特別制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了に向けて、計画的に制作研究を行う。また、その成果としての作品を効果的に展示する方法を身につける。</p> <p>授業の概要：個別に設定されたテーマによって版種を選び、修了研究に向けて版画の制作実験を試みる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 課題①「版画史についての研究」に関する研究計画書の作成・検討、(7)～(14) 課題② 自由課題による自主制作1、(15)～(20) 課題③ 自由課題による自主制作2、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画特別制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了に向けて、計画的に制作研究を行う。また、その成果としての作品を効果的に展示する方法を身につける。</p> <p>授業の概要：個別に設定されたテーマによって版種を選び、修了研究に関連した版画の制作研究を行う。また、学外で作品の成果発表を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「現代版画についての研究」に関する研究計画書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(10) 課題② 自由課題による自主制作、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画技法演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：同質の版画作品を複数枚刷ることが可能な技術を養う。共同作業で作品集を作ることで協調性を養う。</p> <p>授業の概要：版画の性能の特徴である複数性を応用して、版画集を作成する。その形態や体裁・仕掛けについて協議し、共同制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス[版画集の形態について]、(2)～(4) デザインの決定・制作プロセスの協議、(5)～(10) 材料の調達・加工・組み立て・編集・製本、最終回に作品講評及びディスカッションを行う。</p>	隔年
	版画技法演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：リトグラフの原理を理解し、各種描画材の特徴を応用して多様な表現ができるようになる。</p> <p>授業の概要：アルミ板を使用した平版の様々な技法について演習を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) リトグラフの描画材及びテクニックについて、(7)～(8) リトグラフの製版について、(9)～(10) リトグラフの刷りについて、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	隔年
	版画学外演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：版画に関する歴史的な作品や現代の版表現を用いた作品について、実地で鑑賞・研究することにより、版画芸術に係る知識や技法等を集積し、多様な展開にも対応できるようにする。</p> <p>授業の概要：各自のテーマに基づき、実地研修を行う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) 事前指導（オリエンテーション・演習内容の検討・資料作成）、(4)～(8) 実地指導（収集した資料をもとに分析）、(9)～(10) 事後指導（研究対象テーマに関するレポート作成・発表会）</p>	集中
	日本美術技法演習-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：古典、中世、近代の作品・模写を通して、専門的素材の用法及び材料使用にともなう種々の技法について演習を行い、伝統的日本画の表現技法のあり方について考察する。</p> <p>授業の概要：中国宋元画の複製（色紙）を模本として、絹本に日本画の素材と材料及び技法を用いて、古典模写を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2) 古典模写について（模本の選択、中国宋元画について）、(3)～(4) 薄美濃紙による上げ写し、(5) 絹染め（絵絹を矢車の実によって染色し、古色をつける）、(6)～(9) 絹本への上げ写し、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本美術技法演習-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：古典、中世、近代の作品・模写を通して、専門的素材の用法及び材料使用にともなう種々の技法について演習を行い、伝統的日本画の表現技法のあり方について考察する。</p> <p>授業の概要：中国宋元画の複製（色紙）を模本として、絹本に日本画の素材と材料及び技法を用いて、古典模写を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2) 胡粉による地塗り（胡粉と膠の種類についての検討）、(3) 古色の表現（日本画の色材と水干絵具について）、(4)～(8) 彩色による表現、(9) 模写の完成と保存（表装について）、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、与えられたテーマに対処しながら、創作的内容を伴う表現力を修得する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、主題の設定から表現方法について検討することで、独創的表現力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(4) 主題の設定と資料収集、(5)～(6) 材料技法・制作方法の検討、(7)～(19) 「各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、与えられたテーマに対処しながら、造形的内容を伴う表現力を修得する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を追求しながら、日本画の表現技法と構想力・描写力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(4) 主題の設定と資料収集、(5)～(6) 材料技法・制作方法の検討、(7)～(19) 「各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と技法との必然性について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を効果的に伝える方法を修得する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現技法の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と技法についての効果について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を効果的に展開する方法を修得する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現技法の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と日本画の形式について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについての表現意図と構成力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現形式の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と日本画の支持体について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについての表現意図と構成力及び表現力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 支持体の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本画特別制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な知識と技術を用いて、高度な表現技法を伴う制作研究を行い、作家としての表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、主題の設定と表現技法の必然性について考察するとともに、多様な日本画表現の可能性について深く追求できる画力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅰ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅱ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な表現技法を応用して、高度な制作研究を行い、作家としての表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、主題の設定と表現技法の必然性を追求し、多様な日本画表現の可能性について対応できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅳ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅴ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な知識と技術を用いて、作家としての独自性のある表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、作品と展示方法の関係について考察するとともに、日本画表現の可能性について展開できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(9) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現と展開の関係Ⅰ」、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な表現力を応用して、作家としての現代生のある表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、作品と展示方法の関係について展開するとともに、現代日本画の可能性について対応できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(9) 課題①「自由制作をテーマとした現代的な日本画表現と展開の関係Ⅱ」、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了研究を見据えて各自でテーマを設定し、高度な表現技法と創作的内容を伴う制作研究を計画的に行い、独自性のある質の高い作品を追求する。</p> <p>授業の概要：修了制作を踏まえた制作を課題とし、主題の設定と表現技法の必然性について考察するとともに、日本画表現の可能性について深く追求できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅰ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅱ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了研究を見据えて各自でテーマを設定し、高度な表現技法と創作的内容を伴う制作研究を計画的に行い、批評性を備えた質の高い作品を追求する。</p> <p>授業の概要：修了制作を踏まえた制作を課題とし、日本画表現の可能性について深く追求できる力を養うとともに、成果を効果的に発表する力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅳ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅴ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅵ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本画野外風景実習	<p>授業の到達目標及びテーマ：特定した野外において、各自がモチーフとしての風景を選択し、数日間写生を行うことにより移ろい変化していく対象を捉える描写力と持久力を養い、風景表現の技術を高める。</p> <p>授業の概要：学外実習として、約一週間、特定の写生地滞りして、鉛筆写生を通して風景表現の実習を行う。</p> <p>授業計画：(1) 事前指導（オリエンテーション）、(2)～(9) 実地指導、(10) 事後指導（写生から日本画による制作への展開）</p>	集中
	彫塑学外演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現存する歴史的な作品や現代彫刻作品を実地に訪ねて鑑賞・研究することにより、彫刻芸術に係る知識や技法等を集積し多様な展開にも対応できるようにする。</p> <p>授業の概要：各自のテーマに基づき、実地研修を行う。</p> <p>授業計画：(1) 事前指導（オリエンテーション）、(2) 事前指導（演習場所、日程の検討）、(3) 事前指導（演習内容の検討）、(4) 事前指導（資料作成）、(5) 実地指導（実見場所について）、(6) 実地指導（歴史的・美術史的な背景について）、(7) 実地指導（各自の研究対象テーマに基づく発表会 中間）、(8) 実地指導（調査対象と研究テーマについて）、(9) 実地指導（各自の研究対象テーマに基づく発表会 まとめ）、(10) 事後指導（まとめ、レポート作成）</p>	集中
	塑造制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：塑造活動を通じて、彫塑の特質及び造形要素と具体的な表現との関連を究明させるとともに、創造的で確かな立体表現力を練磨する。</p> <p>授業の概要：裸婦モデルによる塑造制作を行い、立体表現の感覚を養う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) ポーズの研究とデッサン、(4) 制作台の整備、(5)～(6) 制作、心棒組み、(7)～(10) 制作 あら付とプロポーシオンの検討、(12)～(23) 制作 量の構成、(24)～(29) 制作 仕上げ、(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	塑造制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：塑造制作1での成果と課題を踏まえ、より発展的に制作を行う。塑造活動を通じて、彫塑の特質及び造形要素と具体的な表現との関連を究明させるとともに、創造的で確かな立体表現力を練磨する。</p> <p>授業の概要：裸婦モデルによる塑造制作を行い、立体表現の感覚を養う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) ポーズの研究とデッサン、(4) 制作台の整備、(5)～(6) 制作、心棒組み、(7)～(10) 制作 あら付とプロポーシオンの検討、(12)～(23) 制作 量の構成、(24)～(29) 制作 仕上げ、(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	彫刻制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：彫刻素材がもつ彫刻的な特質を活かして創造的な立体表現力を高める。木材と石材を総合的に扱うことにより、カービングによる表現の可能性を探る。</p> <p>授業の概要： ・クス材等の丸太や木材を用いて、彫刻制作を行う。 ・黒御影石、大理石などのブロック石材を用いて、手彫りを主とした彫刻制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) 各自で用意した木材を基に、イメージの具体化を図る。材の底だし（木彫）、(2) 石彫制作の概要説明と石材の選定（石彫）、(3)～(14) デッサンまたはエスキース制作、工具、安全作業について等、(15)～(19) こなし、石取り法、(20)～(28) あら彫り、(29)～(30) 講評・評価を行う。（研究成果の反省と展望）</p>	
	彫刻制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：彫刻素材がもつ彫刻的な特質を活かして創造的な立体表現力を高める。木材と石材を総合的に扱うことにより、カービングによる表現の可能性を探る。</p> <p>授業の概要：「彫刻制作1」での制作に基づき、素材のもつ彫刻的な特質を活かして彫刻制作を行う。</p> <p>授業計画：(1)～(11) あら彫り、中彫り、小造り、(12)～(27) 小造り、仕上げ、砥石研磨、(28) 作品の移動・設置について（門型クレーンの使用法）、(29)～(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	金属彫刻制作	<p>授業の到達目標及びテーマ：鑄造・溶接等の金属処理法を駆使した頭像作品の制作を通して彫塑の造形感覚を養う。</p> <p>授業の概要：鑄造・溶接等の金属処理を駆使して、実験的で創造的な彫塑の制作研究を行う。</p> <p>授業計画：(1) 蝟型鑄造法の概要、材料・道具準備の説明、(2)～(6) 粘土原型制作I、(7) 粘土原型の雌型作り、(8) 蝟原型修正、直付制作、(9) 鑄型作り(湯道取り付け、耐火石膏埋没)、(10) 焼成(温度と時間について)、(11)～(14) 鑄造、(15)～(19) 仕上げ、(20) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	集中
	テラコッタ制作	<p>授業の到達目標及びテーマ：テラコッタ(陶造形)は独自の素材と技法を有する立体造形である。各種材料や技法を習得し、研究制作を通してテラコッタ表現の本質を追究する。</p> <p>授業の概要：独自の素材と技法を有するテラコッタ(陶造形)技法を用いて立体造形を行う。</p> <p>授業計画：(1) テラコッタ(陶造形)について解説、(2) 各種素材の説明 粘土の調整法と土練り、(3) 各種技法の説明、(4)～(9) 各種材料や技法を基に試作及び制作、(10) 焼成前の彩色方と乾燥、(11)～(13) 素焼き、(14) 仕上げ(化粧土など彩色)、(15) 手捻りによる小品制作について、(16) 仕上げと乾燥、(17)～(18) 低温焼成および高温焼成、(19) 仕上げ、(20) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作A	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と素材に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における素材とフォルムとの関係を探究する。彫塑特別制作B～Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作B	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と技法に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における技法と素材との関係を探究する。彫塑特別制作A, C, Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作C	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得とフォルムに関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術におけるフォルムと空間の関係を探究する。彫塑特別制作A, B, Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	彫塑特別制作D	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と空間生に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における空間性について探究する。彫塑特別制作A～Cと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作（実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ）、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	漢字演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：中国古代の青銅器の銘文（金文）と帛書簡牘文字資料を書法の観点からとらえ、いくつかの具体的遺品を実地に模写・臨書することを通して、詳しくその分析を進め、漢字書法の習得のための一助とする。</p> <p>授業の概要：半紙、画仙紙半切・全紙などの用具を用いて、基礎的な運筆技法や字形の取り方などの習得からはじめ、最終的には臨書作品の完成をめざして段階的に学習を進める。</p> <p>授業計画：(1) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その一）、(2)～(6) 青銅器銘文（金文）の書法についての講義、(7)～(15) 青銅器銘文（金文）についての実習、(16) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その二）、(17)～(20) 帛書簡牘文字についての講義、(21)～(29) 帛書簡牘文字についての実習、(30) 総括的講評</p>	隔年
	漢字演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：書聖とされる東晋の王羲之によるいくつかの具体的遺品を実地に模写・臨書することを通して、詳しくその分析を進め、漢字書法の習得と自らの作品表現のための一助とする。</p> <p>授業の概要：具体的な遺品のテキストを教材とし、半紙、画仙紙半切・全紙などの用具を用いて、基礎的な運筆技法や字形の取り方などの習得からはじめ、章法についても詳しく学び、最終的には臨書作品の完成をめざして段階的に学習を進める。</p> <p>授業計画：(1) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その一）、(2) 王羲之の書の特質についての講義（その一）、(3)～(14) &lt;集字聖教序&gt;&lt;興福寺断碑&gt;についての実習、(15) 総括的講評（その一）、(16) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その二）、(17) 王羲之の書の特質についての講義（その二）、(18)～(29) &lt;喪乱帖&gt;&lt;孔侍中帖&gt;についての実習、(30) 総括的講評（その二）</p>	隔年
	漢字演習C	<p>授業の到達目標及びテーマ：行書・草書における代表的な古典の臨書を通して、当該書体の技法に習熟するとともに、做書を中心とした創作を試み、幅広い表現力を培う。</p> <p>授業の概要：行書・草書における歴代の名品を幾つか取り上げ、それぞれ臨書と做書を繰り返すことによって、多様な行書・草書表現を学習する。</p> <p>授業計画：(1) 学習の進め方、(2) 臨書古典の選定、(3)～(29) 選定古典の臨書と做書、(30) 学習のまとめ</p>	隔年
	漢字演習D	<p>授業の到達目標及びテーマ：隸書・楷書における代表的な古典の臨書を通して、当該書体の技法に習熟するとともに、做書を中心とした創作を試み、幅広い表現力を培う。</p> <p>授業の概要：隸書・楷書における歴代の名品を幾つか取り上げ、それぞれ臨書と做書を繰り返すことによって、多様な隸書・楷書表現を学習する。</p> <p>授業計画：(1) 学習の進め方、(2) 臨書古典の選定、(3)～(29) 選定古典の臨書と做書、(30) 学習のまとめ</p>	隔年
	仮名演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：古筆学的な理解をもとに学書を進めることにより、当該科目の知識と技量を修得することができる。</p> <p>授業の概要：高野切第二種を基調として授業を進める。</p> <p>授業計画：(1)～(4) 高野切古今集の名称の由来、伝称筆者、寄合書きと伝存状況、書写年代および筆者、(5)～(7) 源兼行・高野切第二種筆者説の検証、(8)～(12) 高野切第二種の現存状況、(13) 高野切第二種原寸臨書、(14) 高野切第二種大字臨書、(15) まとめ、(16)～(23) 高野切第二種の同筆・類筆古筆、(24) 高野切第二種の使用仮名と書風の特徴、(25) 高野切第二種の字典作成要領、(26)～(27) 高野切第二種復元巻鑑賞、(28) 高野切第二種復元（1首）、(29) 大字做書（半切）、(30) まとめ</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	仮名演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：古筆学的な理解をもとに学書を進めることにより、当該科目の知識と技量を修得することができる。</p> <p>授業の概要：十五番歌合を基調として授業を進める。</p> <p>授業計画：(1) 草仮名の歴史と草仮名古筆、(2)～(4) 歌合の歴史と歌合古筆、(5) 藤原公任撰「十五番歌合」の内容、(6) 十五番歌合の書写年代および筆者、(7)～(9) 藤原伊房・十五番歌合筆者説の検証、(10)～(12) 十五番歌合の現存状況、(13) 十五番歌合原寸臨書、(14) 十五番歌合大字臨書、(15) まとめ、(16)～(21) 十五番歌合の同筆・類筆古筆、(22) 十五番歌合の使用仮名、(23) 十五番歌合の書式・書風の特徴、(24) 十五番歌合の字典作成要領、(25) 十五番歌合復元巻鑑賞、(26) 中院通村補写本、(27) 十五番歌合の趣による近現代書作品、(28) 十五番歌合復元(1首)、(29) 大字倣書(全紙)、(30) まとめ</p>	隔年
	書学外演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に東京国立博物館、国立新美術館、出光美術館、五島美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 鑑賞書跡の事前調査、(3)～(4) 東京国立博物館における鑑賞、(5)～(6) 国立新美術館における鑑賞、(7)～(8) 出光美術館における鑑賞、(9)～(10) 五島美術館における鑑賞</p>	
	書学外演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に書道博物館、東京都美術館、国立民俗歴史博物館、根津美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>(1) オリエンテーション、(2) 鑑賞書跡の事前調査、(3)～(4) 書道博物館における鑑賞、(5)～(6) 東京都美術館における鑑賞、(7)～(8) 国立歴史民俗博物館における鑑賞、(9)～(10) 根津美術館における鑑賞</p>	隔年
	書学外演習C	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に成田山書道美術館、東洋文庫、静嘉堂文庫、三井記念美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 鑑賞書跡の事前調査 (3)～(4) 成田山書道美術館における鑑賞、(5)～(6) 東洋文庫における鑑賞、(7)～(8) 静嘉堂文庫における鑑賞、(9)～(10) 三井記念美術館における鑑賞</p>	隔年
	平面・立体構成論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：平面表現・立体表現それぞれについて、各造形要素に着目して構成と表現効果の関連を分析的に検証できるようにすることを目指す。</p> <p>授業の概要：素材や色など表現における基礎的な造形要素に着目し、平面から立体まで横断的に表現事例を比較する。構成に応じて得られる表現効果と応用・展開の可能性を学ぶ。与えられたテーマに沿った研究発表を通して、多面的視点に基づく観察力を養う。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 「形」に着目した構成と表現効果、(3) 「色」に着目した構成と表現効果、(4) 「光」に着目した構成と表現効果、(5) 「時間」と「動き」に着目した構成と表現効果、(6) 「錯覚」に着目した構成と表現効果、(7) 「偶然性」に着目した構成と表現効果、(8) 「重力」に着目した構成と表現効果、(9) 「鑑賞方法」に着目した構成と表現効果、(10) まとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	平面・立体構成演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形要素に着目して平面・立体問わず横断的に造形表現の先行事例を検証することで、構成と表現効果の関連を分析的に解釈できるようにする。また、そこで得られた観点をもとに実際に制作を行い、表現における展開の幅を広げる。</p> <p>授業の概要：設置形式や状況、鑑賞方法に関する物理的制約を課し、それを効果的に活用した表現を探る。関係する先行事例の検証をふまえて、各自の造形的関心に基づいて平面または立体における展開を模索する。作品は年度末に公開展示する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、テーマの発表、(2)～(5) 先行事例調査の発表、(7)～(10) 作品プランの検討、意見交換、(11) 中間報告、マケット提出、(12)～(17) 本制作、(18)～(19) 作品講評、(20) まとめ</p>	隔年 一部集中
	平面・立体構成演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形要素に着目して平面・立体問わず横断的に造形表現の先行事例を検証することで、構成と表現効果の関連を分析的に解釈できるようにする。また、そこで得られた観点をもとに実際に制作を行い、表現における展開の幅を広げる。</p> <p>授業の概要：素材や色、あるいはそれらの組み立て方に関する物理的制約を課し、それを効果的に活用した表現を探る。関係する先行事例の検証をふまえて、各自の造形的関心に基づいて平面または立体における展開を模索する。作品は年度末に公開展示する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、テーマの発表、(2)～(5) 先行事例調査の発表、(7)～(10) 作品プランの検討、意見交換、(11) 中間報告、マケット提出、(12)～(17) 本制作、(18)～(19) 作品講評、(20) まとめ</p>	隔年 一部集中
	現代アート表現論	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在のアートの動向を実地調査し、各自の研究と照らし合せ、自身の立ち位置を探る。</p> <p>授業の概要：現代アートの知見を踏まえて、その動向を調査する。多領域の学生の意見を交えながら自身の研究と比較して、各自の研究に反映させていく。</p> <p>授業計画：(1) インTRODクシヨン、(2) 現代アートの動向、(3) 各自研究のプレゼンテーション① 現代アート作家のリサーチ発表、(4) 各自研究のプレゼンテーション② 環境とアート、(5) 各自研究のプレゼンテーション③ ビジュアルデザインとアート、(6) 各自研究のプレゼンテーション④ 環境芸術、(7) 各自研究のプレゼンテーション⑤ 地域と芸術、(8) 各自研究のプレゼンテーション⑥ 現在のアートの役割、(9) 美術館での作品視察、(10) レポートプレゼンテーション</p>	
	現代アート表現演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在のアートの動向を実地調査し、各自の研究と照らし合せ、制作研究を行う。</p> <p>展示発表にすることによって各自の研究を深める。</p> <p>授業の概要：現代アートの動向を調査し、各自の研究を深め、実験制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) インTRODクシヨン、(2) 現代アートの流れ、(3) 各自研究のプレゼンテーション ①総合造形表現として ②ビジュアルデザイン表現として、(4) 各自研究のプレゼンテーション ③建築デザイン表現として ④クラフト表現として、(5) 各自研究のプレゼンテーション ⑤構成表現として、(6) 各自研究のプレゼンテーション ⑥現代アートと各自表現の関わりについて、(7) 制作研究① イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(8) 制作研究② イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(9) 制作研究③ イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(10) 制作研究④ 作品再考案提出、(11) 制作研究⑤ 作品制作進捗報告、(12) 制作研究⑥ 作品制作進捗報告、(13) 制作研究⑦ 作品制作進捗報告、(14) 制作研究⑧ 作品制作進捗報告、(15) 制作研究⑨ 作品制作進捗報告、(16) 制作研究⑩ 作品制作進捗報告、(17) 作品搬入・会場設置・展示、(18) プレゼンテーション、(19) プレゼンテーション、(20) 作品撤去・搬出</p>	
	メディア表現論	<p>授業の到達目標及びテーマ：テクノロジーを用いたメディア表現について理解を深める。</p> <p>授業の概要：自身の研究範囲の発表、および周辺領域のディスカッションを行う。</p> <p>授業計画：(1) テクノロジーを用いたメディア表現について、(2) 情報技術を用いたメディアアートについて、(3) ハイブリッドアートについて、(4) 自然エネルギーを用いたメディアアートについて、(5) 医療空間におけるメディアアートについて、(6) 海外事例、(7) ディスカッション①、(8) ディスカッション②、(9) ディスカッション③、(10) まとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	メディア表現演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形材料やテクノロジーを用いたワークショップを通じて、多様なメディア表現への理解を深める。</p> <p>授業の概要：ワークショップの企画および運営を行う</p> <p>授業計画：(1) メディア表現の事例研究、(2) ワークショップの事例研究、(3) 企画案発表①、(4) 企画案発表②、(5) ワークショップ設計①、(6) ワークショップ設計②、(7) ワークショップ設計③、(8) ワークショップ設計④、(9) ワークショップ実施①、(10) ワークショップ実施②、(11) ワークショップ実施③、(12) ワークショップ実施④、(13) ワークショップ実施⑤、(14) 中間評価、(15) ワークショップ実施⑦、(16) ワークショップ実施⑧、(17) ワークショップ実施⑨、(18) ワークショップ実施⑩、(19) ワークショップ実施⑪、(20) まとめ</p>	
	現代美術論	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代美術を学ぶ学生として、より高度なテキストを使い講読し解説を行う。社会に出て、作家として必要な基礎から高度な知識、考え方、芸術哲学を修得する。</p> <p>授業の概要：総合造形の視点から現代美術論を論じる。テキストの講読とレポート添削を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代アートバブル」吉井仁実著の読解と解説／5回</li> <li>・「芸術起業論」村上隆著の読解と解説／5回</li> </ul>	
	現代美術演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代美術を学ぶ学生として、より高度な作品展示を目指し展覧会の企画、運営、制作、出品、広報など全てを学生で行う。社会に出て、作家として必要な展覧会技術を修得する。</p> <p>授業の概要：総合造形の視点から現代美術論を考えた討論を行い、一つの展覧会を立ち上げる。</p> <p>授業計画：(1) 各自のポートフォリオの発表と批評、(2) 各自のポートフォリオの発表と批評展覧会計画、(3) 各自のポートフォリオの発表と批評、(4) 各自のポートフォリオの発表と批評(場所選びと内容)、(5) 展覧会計画(場所選びと内容)、(6) 展覧会計画(場所選びと内容)、(7) 展覧会計画(場所選びと相手側との交渉)、(8) 展示場所所有者との交渉、(9) 展示場所所有者との交渉、(10) 展示場所に合せた作品制作、(11) 展示場所に合せた作品制作、(12) 展示場所に合せた作品制作、(13) 会場設営・会場運営計画、(14) 広報物の制作と発注、(15) 最終打ち合わせ、(16) カタログのデザイン計画、写真撮影計画、(17) 会場にての展示作業、(18) 会場サイン設置、(19) 実際の展示作業、(20) 講評会</p>	
	陶磁造形演習I	<p>授業の達成目標：土(粘土)から陶磁に至るシステムを深く理解し作品の制作研究を通し、専門的な技術・知識を修得できる。</p> <p>授業のテーマ：土(粘土)から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、研究者、教育者等養成の為、土(粘土)から陶磁へ変化するシステムの理解と応用をテーマとして、実材主義的造形の立場から作品制作の理論と研究を行う。</p> <p>授業計画：各自設定したテーマに沿って、制作を行い、工芸的造形の立場から作品の理論づけと作品発表を行う。</p> <p>(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容共有、(2) 各自のテーマに基づいた制作過程における計画等について指導、作品発表計画について、(3) 陶磁による造形と思考研究(日本編)技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(4) 陶磁による造形と思考研究(日本編)技法及び制作意図の調査と報告②、作品制作、(5) 陶磁による造形作家研究(日本編)技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(6) 陶磁による造形と思考研究(作品制作に於ける素焼き①、本焼き①)、(7) 陶磁による造形と思考研究(欧米編)技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(8) 陶磁による造形と思考研究(欧米編)技法及び制作意図の調査と報告②、作品制作、(9) 工芸的造形を基盤とした造形と思考研究、技法及び制作意図の調査と報告、作品制作、(10) まとめ、研究成果報告・作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	陶磁造形演習Ⅱ	<p>授業の達成目標：陶磁制作の応用として土（粘土）から陶磁に至るシステムを深く理解するため、自ら設定したテーマに関して理論と制作の双方から実践的に考察し、高度な表現と研究を通して修得できる。</p> <p>授業のテーマ：土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、造形作家、研究者、教育者等養成の為、陶磁による造形に関して理論と制作から実践的に研究し、高度な表現を通して修得させる。</p> <p>授業計画：各自設定したテーマに沿って、制作を行い、工芸的造形の立場から作品の理論づけと作品発表を行う。</p> <p>(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容の共有、(2) 各自のテーマに基づいた制作過程における計画等について指導、作品発表計画について、(3) 制作技法研究及び実験的作品制作（技法研究・ヨーロッパ編）、(4) 工芸領域に関連する展覧会等の企画及び運営について、作品制作、(5) 学期を通しての研究報告書の作成について、作品制作、(6) 装飾技法研究及び実験的作品制作（技法研究・東洋編）、(7) 作品制作に於ける素焼き、本焼き、焼成方法の研究、(8) 装飾技法研究及び作品制作、(9) 各自のテーマに基づいた制作過程に於ける計画と発表について指導、(10) 研究成果報告・作品講評</p>	
	陶磁造形論特講	<p>授業の到達目標：土（粘土）から陶磁に至るシステムを深く理解し作品の理論研究を通し、専門的な技術・知識を修得できる。</p> <p>授業テーマ：土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、研究者、教育者等養成の為、土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用をテーマとして、実材主義的造形の立場から作品制作の理論を講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容共有、(2) 陶磁による造形と思考研究1（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（古代）、(3) 陶磁による造形と思考研究2（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（中世）、(4) 陶磁による造形と思考研究3（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（近世）、(5) 陶磁による造形と思考研究4（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（近代）、(6) 陶磁による造形と思考研究5（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（現代）、(7) 陶磁による造形と思考研究6（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（近世）、(8) 陶磁による造形と思考研究7（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（近代）、(9) 陶磁による造形と思考研究8（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（現代）、(10) まとめ</p>	
	木材造形演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：作品制作を通して木の造形について理解する。各自のテーマに基づき木材の特性を生かした造形表現を行う。</p> <p>授業の概要：各自テーマを設定し、具体的な作品制作を通して木材造形の研究を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 形態の検討、(3) 素材の検討、(4) 制作方法の検討、(5) 模型制作、(6) 模型作品の検討、(7) 作図、(8) 図面の検討、(9) 制作（木取りについて）、(10) 制作（機械加工について①）、(11) 制作（機械加工について②）、(12) 制作（機械加工について③）、(13) 制作（機械加工について④）、(14) 制作（機械加工について⑤）、(15) 制作（塗装について①）、(16) 制作（塗装について②）、(17) 制作（プレゼン方法について①）、(18) 制作（プレゼン方法について②）、(19) 発表、(20) まとめ</p>	
	ガラス造形演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形思考を強化していくために各自扱う素材とガラス素材を組み合わせて制作を行い、自身の研究を深める。</p> <p>授業の概要：ガラス素材と自身の研究と関連させて実制作を行い、自身が扱う素材との違いを体験する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、課題説明、(2) 作品のエスキースチェックとアドバイス、(3) テストピース制作① 原型を基に石膏型作成、ガラスを詰めて焼成、(4) テストピース制作② 焼成後の加工と実制作のアイデアを固める、(5) 実制作のスケジュールチェックとアドバイス、(6) 実制作① 各自扱う素材でパーツ制作、(7) 実制作② 原型を基に石膏型作成、ガラスを詰めて焼成、(8) 実制作③ 焼成後の加工と仕上げ、(9) 実制作④ 各自の素材で制作された作品とガラス作品を調整し完成させる、(10) 作品講評</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ガラス特別演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：ガラスを素材とした造形作品に関する国内・海外の文献・資料を題材にして組成や技法、歴史について発表後討議を行い、ガラス造形作品について専門的知識を身に付ける。</p> <p>授業の概要：ガラス造形作品についての知見を広める。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) ガラス素材の組成について① 熱膨張係数について、(3) ガラス素材の組成について② 成分について、(4) ガラス素材の技法について① ホットワークについて、(5) ガラス素材の技法について② コールドワークについて、(6) ガラス素材の技法について③ フラットワークについて、(7) ガラス造形作品の歴史について① 古代からアールヌーヴォー以前まで、(8) ガラス造形作品の歴史について② アールヌーヴォーからスタジオグラス運動まで、(9) ガラス造形作品の歴史について③ スタジオグラス運動以降、(10) 総評</p>	
	漆芸演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：漆芸の技法・知識を理解する。課題に基づき漆芸の特性を生かした造形表現を理解する。</p> <p>授業の概要：漆芸の基礎的な技術（乾漆、蒔絵、螺鈿）を習得し、各自の表現を試みる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 素地について、(3) 素地の制作方法について、(4) 漆について、(5) 漆の取り扱い方法について、(6) 素地制作（木）、(7) 素地制作（粘度）、(8) 様々な漆芸技法について、(9) 漆芸制作（乾漆技法：型作成）、(10) 漆芸制作（乾漆技法：型仕上げ）、(11) 漆芸制作（乾漆技法：布着せ）、(12) 漆芸制作（乾漆技法：下地）、(13) 漆芸制作（乾漆技法：きゅう漆）、(14) 漆芸制作（呂色上げ技法）、(15) 漆芸制作（塗り立て技法）、(16) 漆芸制作（加飾方法：沈金）、(17) 漆芸制作（加飾方法：蒔絵）、(18) 漆芸制作（加飾方法：螺鈿）、(19) 発表、(20) まとめ</p>	
	視覚伝達設計論特講	<p>視覚伝達デザインにおける遊戯性についてとりあげ、ワークショップ、ゲームなど参加型の授業を通じて課題発見力、課題解決力、プレゼンテーション力を養う。遊びとデザインを主題に、関連する作家、方法、ケーススタディについての概説、およびワークショップを行い、プレゼンテーションでは履修生が考案したワークショップやゲームを実施する。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) ブレインストーミングとゲームストーミング、(3) 子供の遊び、(4) 大人の遊び、(5) 経験設計の概念、(6) ユーザーエクスペリエンスとサービスデザイン、(7) 遊び体験のデザイン、(8) ワークショップ、ゲーム発表（グループ1）、(9) ワークショップ、ゲーム発表（グループ2）、(10) ワークショップ、ゲーム発表（グループ3）</p>	
	視覚伝達設計演習	<p>視覚伝達デザインにおける素材・物質性を主題に、実践的な視覚伝達デザインの考察力と表現力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション、課題1] 授業全体の説明、ブレインストーミングの方法、(2) [課題1] 事例紹介、ブレインストーミング、(3) [課題1] 課題の提出と講評、(4) [課題1] 課題の提出と講評、(5) [課題2] 課題2に関するオリエンテーション、(6) [課題2] ブレインストーミング、(7) [課題2] 中間チェック1（コンセプト、アイデア）、(8) [課題2] 中間チェック2（スケッチ、モックアップ）、(9) [課題2] プレゼンテーション1、(10) [課題2] 中間チェック3（フィードバック、ブラッシュアップ）、(11) [課題2] プレゼンテーション2（作品提出、講評）、(12) [課題2] 展示に向けたオリエンテーション、(13) [課題2] 展示プラン中間チェック1、(14) [課題2] 展示プラン中間チェック2、(15) [課題2] 作品の展示、プレゼンテーション、講評、集中：製紙工場の見学、展覧会の視察、ワークショップ等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グラフィックデザイン演習A	<p>各受講者の研究テーマに基づく、ビジュアルデザインの発展的な考察・立案を主題とし、専門的で高度なビジュアルデザインの考察力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 書体・レイアウトに関する講義とミニレポートの提出、(3) [課題1] 名刺 (タテ型) 課題の提出と講評、(4) [課題1] 名刺 (ヨコ型) 課題の提出と講評、(5) [課題2] 研究発表用スライドのビジュアルデザインに関する講義、(6) [課題2] グループAのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(7) [課題2] グループBのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(8) [課題2] グループCのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(9) [課題3] アイデアスケッチのチェック、(10) [課題3] 途中経過のチェック、(11) [課題3] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評、(12) [課題4] 収集資料の確認、(13) [課題4] アイデアスケッチのチェック</p>	
	グラフィックデザイン演習B	<p>エディトリアルデザイン、インフォグラフィック、データグラフィック、広告デザインを中心に、受講者の研究テーマに基づいた、平面的な媒体に関する発展的なテーマの課題制作を通して、専門的で高度なビジュアルデザインの表現力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 課題内容の理解・レポート発表・討論、(3) [課題1] アイデアスケッチの発表・討論、(4) [課題1] 途中経過の発表・討論、(5) [課題1] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評、(6) [課題2] 各自のテーマ・目次案を発表・討論、(7) [課題2] 資料データの収集状況を発表・討論、(8) [課題2] 全体構成のラフ (冊子状にする) 案とフォーマットデザイン案発表 (pdf) ・討論、(9) [課題2] 途中経過の発表・討論、(10) [課題2] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評</p>	
	画像表現論特講	<p>デザイン、美術、サブカルチャーなどを横断的に探索しつつ、画像表現 (絵による表現) の特質、意義、可能性について理解を深めること。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [テーマ1] アートトーク1、(3) [テーマ2] 「物語」に関する調査1、(4) [テーマ2] 物語構造について、(5) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アンジュール』、(6) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アライバル』1、(7) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アライバル』2、(8) [テーマ3] 言葉のない絵本精読「赤ずきん」絵本、(9) [テーマ4] 多種多様な表現手法、(10) [テーマ5] マンガ文献精読、(11) [テーマ5] マンガ文献精読2、(12) [テーマ6] マンガの文体練習、(13) [テーマ7] 物語表現考察1、(14) [テーマ7] 物語表現考察2、(15) 7つのテーマから一つ選び、レポート提出</p>	
	画像表現演習	<p>デザイン、美術、サブカルチャー等多様に広がる画像表現 (絵による表現) について、制作を通してその可能性を探る。受講者の研究テーマに応じた制作を行い、幅広い画像表現について理解を深める。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 小説のマンガ化、(3) [課題1] 講評、(4) [課題2] 画像による物語表現、(5) [課題2] プランチェック、(6) [課題2] 絵コンテチェック、(7) [課題2] ダミーチェック、(8) [課題2] 進捗状況発表、(9) [課題2] 進捗状況発表、(10) [課題2] 講評</p>	
	ビジュアル・コミュニケーション演習	<p>実践的なビジュアル・コミュニケーションの発想力、制作力、評価方法を身につける。</p> <p>学外からデザイナー等を講師として招き、実践的活動を踏まえたビジュアル・コミュニケーションの発想、制作、評価などについて学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 「ビジュアル・コミュニケーションの発想力」に関する課題説明、(3) [課題1] 中間発表、(4) [課題1] 発表及び講評、(5) [課題2] 「ビジュアル・コミュニケーションの制作力」に関する課題説明、(6) [課題2] 中間発表、(7) [課題2] 発表及び講評、(8) [課題3] 「ビジュアル・コミュニケーションの評価方法」に関する課題説明、(9) [課題3] 中間発表、(10) [課題3] 発表及び講評</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境デザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインの多様な課題と総合的な設計論について理解する。</p> <p>授業の概要：公共空間、商業・業務施設、住宅地における総合的なサイトプランニング手法とプレイスメイキング手法を論述。</p> <p>授業計画：(1) 街路の課題と滞留環境のデザイン手法、(2) 公園の課題と多面的利用環境のデザイン手法、(3) 公共施設の課題と多面的利用環境のデザイン手法、(4) 商業施設の課題と公的利用環境のデザイン手法、(5) 業務施設の課題と創造的な仕事環境のデザイン手法、(6) 公的施設の課題と創造的な場づくりの手法、(7) 住宅団地の課題と共用環境のデザイン手法、(8) 住宅の課題とインテリア環境のデザイン手法、(9) プレイスメイキングの実施と枠組み環境のデザイン手法、(10) 現代の環境デザインの多様性について</p>	隔年
	パッシブデザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：「自然環境と調和した建築・都市デザイン」の実現に向け、そのための基礎理論と手法を理解し、習得する。</p> <p>授業の概要：建築及び都市におけるパッシブデザインの手法・原理・課題について講述する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 屋根のデザイン、(3) 壁のデザイン、(4) 床の断熱・蓄熱、(5) 開口部と日射のコントロール、(6) 日光の有効利用、(7) 換気と通風、(8) 地形の利用、(9) 樹木によるコントロール、(10) まとめ</p>	隔年
	都市・地域デザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在の都市が抱える諸問題を実態的に把握し、都市づくりやまちづくりにおける計画や設計について、その果たすべき役割や責任を考察することにより、計画論としての複眼的な問題意識を確立するとともに、論理的な思考とその表現方法を獲得する。</p> <p>授業の概要：都市や地域におけるまちづくりの実態、計画・設計に関わる制度論や方法論について、ケーススタディを用いて考察と講述を行う。後半はテーマに応じた受講生の発表をもとに議論する。</p> <p>授業計画：(1) 現在の都市が抱える様相と都市づくりの課題、(2) 中心市街地の実態、(3) 東京都心の問題、(4) 都市居住と居住環境、(5) 都市景観と居住環境、(6) 都市デザインと都市景観、(7) まちづくりと都市デザイン、(8) 都市計画と規制緩和、(9) 都市づくりの合意形成、(10) 都市の将来像</p>	隔年
	ランドスケープデザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：人間活動が景観構造・生産的機能・生態的過程にどのような影響を与え、それらを変化させるのか、人の感性や文化を含めたランドスケープの総体の理解を通して、自然域から都市域まで様々な場におけるランドスケープの構造・機能・変化過程を解明する方法を習得する。さらに生産的プロセスや社会的プロセスとランドスケープデザインとの関係や、それを踏まえたエコロジカルデザインの手法を習得する。</p> <p>授業の概要：田園（農村部）や都市のランドスケープ構造を、エコロジカルな視点で読み解くことに主眼を置き、歴史や実態、ケーススタディを用いた考察と講述を行う。後半はテーマに応じた受講生の発表をもとに議論する。</p> <p>授業計画：(1) ランドスケープデザイン概念と領域、(2) エコロジカル・ランドスケープ①（自然）、(3) エコロジカル・ランドスケープ②（土地利用）、(4) 田園とランドスケープ、(5) 都市とランドスケープ、(6) 公園・緑地のデザイン、(7) 庭園・広場のデザイン、(8) ランドスケープデザインの手法、(9) ランドスケープデザインを支える仕組み、(10) ランドスケープデザインの意義と課題</p>	隔年
	環境デザイン演習1	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインに関する課題設定、コンセプト、構想、計画、デザインにかかる一連のプロセス、表現方法について習得する。</p> <p>授業の概要：環境デザインにかかわる具体的な課題をもとに計画、設計、デザインを実践的に行う。</p> <p>授業計画：(1) 課題の提示、関連事例の解説、(2) 現地調査、敷地条件の確認、(3) 設計指導①（コンセプト、構想）、(4) 設計指導②（構想、計画）、(5) 設計指導③（基本計画・エスキス模型）、(6) 中間発表、講評、(7) 設計指導④（基本計画、設計）、(8) 設計指導⑤（基本設計）、(9) 設計指導⑥（基本設計、模型）、(10) 提出、発表、講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境デザイン演習2	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインに関する課題設定、コンセプト、構想、計画、デザインにかかる一連のプロセス、表現方法について習得する。</p> <p>授業の概要：環境デザインにかかわる具体的な課題をもとに計画、設計、デザインを実践的に行う。</p> <p>授業計画：(1) 課題の提示、関連事例の解説、(2) 現地調査、敷地条件の確認、(3) 設計指導①（コンセプト、構想）、(4) 設計指導②（構想、計画）、(5) 設計指導③（基本計画・エスキス模型）、(6) 中間発表、講評、(7) 設計指導④（基本計画、設計）、(8) 設計指導⑤（基本設計）、(9) 設計指導⑥（基本設計、模型）、(10) 提出、発表、講評</p>	
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ：地域・社会における課題解決を考えることで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の概要：地域において、地域再生に向けたプランを計画・提案することで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力を身につけ、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)ブレインストーミング、班分け、課題抽出、(3) 課題解決に向けたリサーチ（地域性）、(4) 課題解決に向けたリサーチ（創造性）、(5) リサーチのまとめ、(6) 中間発表会、(7) リサーチを踏まえた課題解決のための立案、(8) 立案したプランの実施準備（日程）、(9) 立案したプランの実施準備（方法）、(10) 最終発表会</p>	
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習 II	<p>授業の到達目標及びテーマ：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において、地域・社会の課題解決を考え、創造的で柔軟な思考方法について学んだ。それらを継続しつつ地域・社会の課題解決に関わる新たな視点を獲得し、情報発信力、つながり力、突破力、継続力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の概要：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において実施した地域再生に向けたプランを評価し、新たなプランを計画・提案することで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力、継続力を身につけ、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)ブレインストーミング、班分け、「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」「創造的復興：チャレンジ学外特別演習 I」で実施した活動の評価、(3) 課題解決に向けたリサーチ（地域性）、(4) 課題解決に向けたリサーチ（創造性）、(5) リサーチのまとめ、(6) 中間発表会、(7) リサーチを踏まえた課題解決のための立案、(8) 立案したプランの実施準備（日程）、(9) 立案したプランの実施準備（方法）、(10) 最終発表会</p>	
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ：創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得し、複眼的視点で復興支援を捉えることの出来る情報発信力、つながり力、突破力を備えた人材の育成を目標とする。</p> <p>授業の概要：地域の課題に対し、地域再生に向けたプランを実施する。その中で、文化的資源の活用や、地域住民との協力など、創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得し、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において立案した課題解決プランに基づき、地域においてイベント等を実践する。（班ごとに実施内容が異なるため、計画例を以下に示す）  (1) 「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 II」における課題解決プランの確認、(2) 地域（人・場所・日程）との調整①、(3) 地域（人・場所・日程）との調整②、(4) イベント実施場所の確認、(5) イベント進行の確認、役割分担について①、(6) イベント進行の確認、役割分担について②、(7) イベント実施場所における会場設営準備①、(8) イベント実施場所における会場設営準備②、(9) イベントにおける展示発表準備①、(10) イベントにおける展示発表準備②、(11) イベントの最終調整（開催場所や地域において）、(12) イベント会場の設営①、(13) イベント会場の設営②、(14) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）①、(15) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）②、(16) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）③、(17) 実施場所の片付け、(18) イベント総括、(19) 最終報告会（全チームによる）、(20) 全体のまとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ：「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」において、創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得した。継続して課題に取り組み、複眼的視点で復興支援を捉えることの出来る情報発信力、つなぐ力、突破力、継続力を備えた人材の育成を目標とする。</p> <p>授業の概要：「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」において実施した地域再生に向けたプランを評価し、新たなプランを計画・提案することで、文化的資源の活用や、地域住民との協力など、創造的復興に必要な視点や方法を経験的・継続的に習得し、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅱ」において立案した課題解決プランに基づき、地域においてイベント等を実践する。（班ごとに実施内容が異なるため、計画例を以下に示す）</p> <p>(1) 「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」で実施した活動の評価、(2) 「創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅱ」における課題解決プランの確認、(3) 地域（人・場所・日程）との調整、(4) イベント実施場所の確認、(5) イベント進行の確認、役割分担について①、(6) イベント進行の確認、役割分担について②、(7) イベント実施場所における会場設営準備①、(8) イベント実施場所における会場設営準備②、(9) イベントにおける展示発表準備①、(10) イベントにおける展示発表準備②、(11) イベントの最終調整（開催場所や地域において）、(12) イベント会場の設営①、(13) イベント会場の設営②、(14) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）①、(15) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）②、(16) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）③、(17) 実施場所の片付け、(18) イベント総括、(19) 最終報告会（全チームによる）、(20) 全体のまとめ</p>	
	研究・制作発表特別演習Ⅰ	<p>授業を通して行った研究や作品制作について、その成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション力や自己の研究を客観的に分析する力を養う。</p> <p>(35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(11 石崎和宏) 芸術支援の観点から、研究の構想や章構成等について指導を行う。</p> <p>(115 直江俊雄) 芸術支援の観点から、研究の構想や章構成等について指導を行う。</p> <p>(114 内藤定壽) 主に技法に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(155 仏山輝美) 主に色彩に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(319 福満正志郎) 主に構想に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(499 星美加) 主に技法に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(97 田島直樹) 版画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(24 太田圭) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(324 程塚敏明) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(361 山本浩之) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(26 大原央聡) 作品のプレゼンテーションにかかわる指導を行い、安全面、効果的な作品発表について個別または集団で指導を行う。</p> <p>(511 宮坂慎司) 作品のプレゼンテーションにかかわる指導を行い、安全面、効果的な作品発表について個別または集団で指導を行う。</p> <p>(45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作に関する材料や構想について指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく表現の分析方法について指導する。</p> <p>(50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について指導を行う。</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について指導を行う。</p> <p>(255 齋藤敏寿) 陶磁制作に関する構想や技法について指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する構想や表現方法について指導を行う。</p> <p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する技法と表現方法について指導を行う。</p> <p>(103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン, サイエンスビジュアルレーションについて指導を行う。</p> <p>(314 原忠信) ブランド体験デザインについて指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションについて指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトの表現について指導を行う。</p> <p>(127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p>	
	研究・制作発表特別演習Ⅱ	<p>授業を通して行った研究や作品制作について、その成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション力や自己の研究を客観的に分析する力を養い、修了研究へとつなげていく。</p> <p>※指導体制については「研究・制作発表特別演習Ⅰ」と同じ</p>	
	芸術学学位プログラム特別演習	<p>造形芸術に関して、各専門領域における研究の実践指導を行う。 (○は研究指導担当教員)</p> <p>○ (35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (11 石崎和宏) 芸術支援に関する文献、資料等の効果的な用い方を示し、研究を深化させるための助言および指導を行う。</p> <p>○ (115 直江俊雄) 芸術支援に関する文献、資料等の効果的な用い方を示し、研究を深化させるための助言および指導を行う。</p> <p>○ (114 内藤定壽) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (155 仏山輝美) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に色彩と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (319 福満正志郎) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に構想と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (499 星美加) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (97 田島直樹) 版画に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (24 太田圭) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (324 程塚敏明) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (361 山本浩之) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (26 大原央聡) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (511 宮坂慎司) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作と中国書学・書道史について研究指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく事例調査や制作実践を通して、造形表現における情報基盤の拡充を目的とした研究指導を行う。</p> <p>○ (50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について研究指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について研究指導を</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について研究指導を行う</p> <p>○ (255 齋藤敏寿) 陶磁造形に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン, サイエンスビジュアルレーションについて研究指導を行う。</p> <p>○ (314 原忠信) ブランド体験デザインについて研究指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションについて研究指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトに関する研究指導を行う。</p> <p>○ (127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p>	
	<p>芸術学学位プログラム特別研究</p>	<p>造形芸術について、各専門領域に対応した修了研究の実践指導を行う。また、社会人学生に対しては職務の状況に合わせて個別指導を行う等、柔軟に対応する(14条対応)。(○は研究指導担当教員)</p> <p>○ (35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (11 石崎和宏) 芸術支援に関する論文の構成や考証方法について、各課題に即した助言を行い、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (115 直江俊雄) 芸術支援に関する論文の構成や考証方法について、各課題に即した助言を行い、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (114 内藤定壽) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (155 仏山輝美) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に色彩と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (319 福満正志郎) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に構想と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (499 星美加) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (97 田島直樹) 版画に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (24 太田圭) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (324 程塚敏明) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (361 山本浩之) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (26 大原央聡) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (511 宮坂慎司) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作と中国書学・書道史について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく事例調査や制作実践を通して、造形表現における情報基盤の拡充を目的として、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (255 齋藤敏寿) 陶磁造形に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法研究から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から修了研究へ向けた指導を行う。</p>	<p>14条対応</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン,サイエンスビジュアルリゼーションについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (314 原忠信) ブランド体験デザインについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションにについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン学関連科目	デザイン学基礎論	<p>デザインはプロダクト、エンタテインメント、建築、空間、経験など、人間が関わるすべての対象を人のために設計するための枠組みである。本講義では、こうしたデザインの現状、方法、思想、歴史などについて概説し、デザイン学の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(189 山中敏正/1回) 主にプロダクト、情報のデザインの歴史的 position 付けについて講述する。  (132 花里俊廣・358 山田協太/1回) (共同) 主に建築、空間のデザインの歴史的 position 付けについて講述する。  (60 小山慎一・568 星野聖/1回) (共同) 視覚心理学による研究の方法とデザインとの関連について講述する。  (643 氏家弘裕・642 岩木直/1回) (共同) 視覚情報処理から見たデザインの果たす役割について研究事例をもとに講述する。  (214 内山俊朗・606 星野准一/1回) (共同) エンタテインメントおよび情報デザイン実践における思考方法の特徴とその活用方法の基礎について講述する。  (235 貝島桃代/1回) 建築環境における人の行動特性と設計のありかたについて具体的事例をもとに講述する。  (190 山本早里/1回) 空間における視覚情報の果たす役割について、具体的事例をもとに講述する。  (395 首藤文洋・328 増田知之/1回) (共同) 人体の構造や生理的特性とデザインの関係について概説する。  (359 山田博之/1回) ビジネスにおけるデザインの位置づけと価値創出について具体的事例をもとに講述する。  (442 加藤研/1回) 建築空間の設計方法論について具体的事例をもとに講述する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専門科目	感性脳科学特講	<p>デザインの根本はプロダクトが感覚機能をインターフェースとして人体の作用をコントロールすることにある。この過程では、広く感性という語にカテゴライズされる複数の高次脳機能現象が中心的役割を担っている。感性という、本能と経験により個人ごとに形成され、人生の中で絶えず変化し続ける現象を深く理解するためには、脳と人体の基本的な生理構造に関する知識が不可欠である。同種の物理特性を持つ現象のうち、感覚機能に影響する範囲のものだけが感性に作用することがその一例として挙げられる。本講では感性の理解に必用な人体構造の生物学的側面について概説する。また、その応用として、感覚刺激や経験の効果で誘発される脳活動など身体反応の特性、およびそれらを捕捉して解析する技法を紹介し、捕捉された生理反応をデータとして、デザインが感性、感情や身心にもたらす効果を分析する先端的研究の概要を説明する。</p>	隔年
	視覚情報デザイン論特講	<p>美しさ、見やすさ、誘目性など、デザインの問題の多くは視覚的な問題である。本科目では、講義を通じて、形態認知、色彩認知、審美、視覚的注意など、視覚の基礎知識を習得する。また、パッケージデザイン、プロダクトパターン、照明、建築物外観等、心理学的手法が実際の視覚情報デザインに応用された事例について、講義とディスカッションを行なう。さらに、プロジェクト型の学習を通じて実際に実験・調査を行い、心理学的な実験・調査手法を習得する。</p>	隔年
	色彩デザイン論特講	<p>デザイン分野における色彩計画には、感性だけでなく科学的な知見に基づく客観性が求められる。本講義では色彩デザインの高度・専門的な知識および実践力を習得することを目標とし、色彩デザインを行うための諸理論を講じ、調査・設計・評価などを含めた色彩デザインの実践方法までを論じる。</p>	隔年
	感知情報学特講	<p>デザインの対象を感性による表現および感性による受容と捉え、そのような現象の根源にあるところの働きを分析的に捉えるための手法の修得を目標とする。人の感覚を捉える方法と、その原因となる刺激との対応関係を明らかにするための心理統計的手法、多変量解析などを用いた総合的分析を元にした研究方法を論じる。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デザイン思考	デザインに関わる仕事をしていると「なぜそのようなユニークなものをつくることができるのか？」とクライアントに尋ねられることがよくある。また「自分には新しいものをつくる才能がなく創造力に自信がない」とデザインを学ぶ学生から相談を受けることもよくある。このような人たちと話をすると、デザインには生まれ持った才能が必要で、創造力は鍛えることができないと信じているケースが多いことに気がつく。プロダクトデザイン、インタラクションデザインの制作プロセスを通して、それらにはポイントやコツがあることについて解説をする。	隔年
	デザインイノベーション特講	デザインにおけるイノベーションについて事例を通して学習し、プロジェクトマネージメントの視点からデザインを行うための視点と技術を養う。 また、ユーザーエクスペリエンスの向上のための具体的なワークショップと市場調査、それらのプレゼンテーションを行い、ユーザーにとっての価値とは何かについてのディスカッションを行う。	隔年
	建築計画論特講	建築計画学は、ビルディングタイプの学問と批判されて久しいが、近年では、新しい建物形式も生まれつつある。その背景には、こういった新しい建物を必要とする新しい機能についてのソフト面での展開がある。例えば、シェア居住の流れは、集合住宅には、それまでなかったような共用スペースを生むようになったし、病院では、以前には医療のための機械とも考えられ機能のみを求め計画されてきたが、医療自体の進歩に伴って患者やその家族にとっても快適な空間となることを求めて、新しい形態が現れている。近年の新しいビルディングタイプを計画する際には、どのような新たな変化に対しどんな新しい建築が計画されていくかは、十分に整理されていない。このように本授業では、新しい建築のあり方を決定づけているこういった基本コンセプトを言説や図面、写真などから明らかにし、これらの生まれてきた背景を探る。	隔年
	建築意匠論特講	住宅論、建築論、都市論の視点から敷地周辺の環境や都市を観察し、その結果がどのように建築意匠に定着されるかについて、具体的な事例を取り上げて講述する。また、建築意匠論の実践として、受講生は各自で建築プロジェクトの提案を行う。提案は、任意で設定した敷地のコンテキストを分析した上で行うものとし、その場所で可能な建築意匠のあり方について学修する。授業の最後に、各自がまとめた建築プロジェクトの発表会と講評を行う。	隔年
	建築構法論特講	受講生は任意に複数の建築物を取り上げ、建築の収まりの視点から作品鑑賞を行う。分析対象としては建築家の作品や歴史建造物等が考えられる。建築の部分と全体との関係、歴史・風土との関係等、収まりがどのようなコンテキストに位置付けられるかについて考察する。講義前半では一般図の他に詳細図、構造図、設備図等の必要な資料を収集し、どの部分の収まりを分析するか、テーマの絞り込みを行う。講義後半では、分析結果の報告会を行い、最後に分析した建築物の見学会を行う。	隔年
	建築・都市フィールドデザイン論特講	建築及び都市の実地に即したデザイン手法・原理・課題を、世界各地の建築および都市環境の具体例をつうじて学ぶ。そこで暮らす人々の生活スタイル、社会構造、自然・生態との関わりを考察の主要な視座とする。さらにそうした場所における新たな建築・環境の設計の可能性について議論を行うとともに各自が独自の調査を行い、その結果をもとに建築・環境の具体的なデザイン提案を行う。建築・環境のデザイン提案を発表し、講評することをつうじて学修成果を客観的に省察し、建築及び都市の実地に即したデザインの知識を深め、技能を身に付ける。	隔年
	プレイスメイキング論	人が心地良く楽しいと感じる場をつくるプレイスメイキングの方法論は、都市・職場・住宅などの住環境の改善に向けた重要な手法である。場づくりを軸とした分野横断型の住環境プロジェクトについての解説とディスカッションを行う。講義を通じて、人を支える道具デザイン、基盤と枠組みをつくる街路や建築物の環境・建築デザイン、利用と運営を促進する情報デザインの条件、多様なデザイン分野の役割、共同方法、良好な場づくり手法を習得する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間工学と生体計測特講	本科目では、まず(1) 基本的な医学・生理学・解剖学的な知識、脳科学に関する知識の習得。(2) 人間工学と生体計測学に関する基本的な技術の習得のための概要を講述する。さらに、確率過程論や時系列解析論を使った生体モデル構築法、最適制御など制御理論の観点から捉えたヒト運動系の解析方法、信号処理や画像処理などを用いた生体信号解析手法、センサ・電子回路の設計技法、人間工学や生体計測学に関する要素技術などの発展的な内容を自ら調査し、それらを使ったインターフェース設計、医用応用、イノベーション創発のための仕組みを考案し、発表と講評を通じて具体的な知識の活用方法を習得する。	隔年
	エンタテインメントデザイン特講	超スマート社会において生活の質を高めるエンタテインメントのデザインと実現技術について解説する。(1) アニメ、ゲーム、玩具などの多様な事例によるエンタテインメントの発達の歴史とイノベーション、(2) 五感体験、ストーリー、キャラクター、ゲーミングなどの構成要素と、動機付けやエンゲージメントなどのエンタテインメントの心理、(3) エンタテインメントを実現するための映像・音響メディア技術、VR・デバイス技術、ロボット技術、人工知能技術、(4) 人と人、人と社会のつながりを重視しながら、遊び、学び、健康などの生活の質を高める未来のエンタテインメントのあり方について考えるとともに、コンセプトを文章、イラスト、ビデオなどで魅力的かつ効果的に伝える手法を学ぶ。	隔年
	デザインとケア特講	ケア特に介護の現場では、認知症高齢者のために多くの非薬物的アプローチが行われている。そこではさまざまな視覚聴覚的なマテリアルが用いられている。たとえば、認知症の人を対象とした回想法では、懐かしい写真、音楽、映像、実物をトリガーとして、昔話に花咲かせる。また、グループホームケアでは、何より家庭らしさが大切にされており、現場では、家庭を感じるインテリアなど、思い思いの工夫が行われている。また、認知症の行動・心理症状の予防や改善に対しても、環境的な配慮がなされている。そうした認知症の非薬物的アプローチについて、ここではデザインという切り口から受講者と考えていきたい。	隔年
	形態学とデザイン	木の葉を例として思い浮かべると判り良いように、生き物をデザインの対象物とする場合、葉脈や葉の成り立ちといった詳細な生物学的知識を前提にデザインした場合と、そうでない場合で、デザインの深みや精度に大きな違いが生じる。本科目では、肉眼解剖学・組織学・生理学(筋、骨、皮膚、各種感覚器の構造と機能)といった医学的知識のうち、人および擬人化キャラをデザインするうえで有用と思われる知識のみをセレクトし、デザインの観点から判りやすく概説する。さらに、「ゆるキャラ」や「盛り」に関する最新の研究を紹介し、人を対象としたデザインとサブカルチャーの世界も論じたい。	隔年
	プロジェクト演習A-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題からそれらの背景にある理論的課題を解決する、知識を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、創造力の基礎を学ぶ。	
	プロジェクト演習A-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある理論的課題を解決する、知識を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、創造力の基礎を学ぶ。	
	プロジェクト演習B-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題について、応用的課題を解決する高度・専門的な知識を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことでデザイン力、分析力、提案力、創造力の応用について学ぶ。	
	プロジェクト演習B-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある応用的課題を解決する、高度・専門的な知識を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関するデザイン力、分析力、提案力、創造力の応用について学ぶ。	
	プロジェクト演習C-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題からそれらの背景にある課題を解決する、総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎を実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	プロジェクト演習C-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある課題を解決する、総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎を実践的に学ぶ。	
	プロジェクト演習D-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題を解決する、高度で総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎から応用を実践的に学ぶ。	
	プロジェクト演習D-II	建築デザインにかかわる課題を解決する、高度で総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎から応用を実践的に学ぶ。	
	インターンシップ	デザインに関する実践的環境について、数日～3週間程度の間現場環境に就いて、実際のデザイン実務について実習する。国内外の企業や実践的プロジェクトにおける実習やインターンシップの機会も活用して、デザインの目的やプロセスを体験として修得する。自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	
	アドバンストインターンシップ(長期)	デザインに関する実践的環境について、数週間以上の長期にわたって現場環境に就いて、実際のデザインプロジェクトに加わることでより具体的な業務としてのデザインを実習する。国内外の企業や実践的プロジェクトにおける実習やインターンシップの機会も活用して、デザインの目的やプロセスを体験として修得する。自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	
	建築デザインインターンシップ1	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る基本設計を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ2	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る実施設計のうち平面図・断面図・立面図等の一般図の作図を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ3	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る実施設計のうち詳細図の作図を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ4	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る工事監理を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	海外研修	本研修は海外で学生それぞれが設定するデザインテーマに基づいて、フィールドワークに取り組む。または海外で行われる国際学会等に出席し研究発表を行う。国際的な視野を涵養することとともに、国際的な情報収集力および情報発信力を身に着ける。	
	デザイン学特別演習1	修了研究へ向けて、学生自らが設定した課題に関して、その背景、目的を明確にし、研究の学術的な価値について議論を交えて指導を行い、明確にする。さらに研究仮説を立て、その定義を明確にするための議論を行い、具体的な修了研究のための調査実験の計画を導く。	
	デザイン学特別演習2	修了研究へ向けて、学生自らが設定したテーマに関して、設定した研究目的、学術価値、仮説、をもとに調査実験を行った結果を、教員全員参加の講評会形式で発表し、結果ならびに考察について指導を行うことにより、修了研究にまとめるための最終的な課題を明確にする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(研究指導)	<p>プロダクト、情報、建築、環境、構成などのデザインに関する課題に関して研究の実践、指導を行い、修士論文について論文指導を行う。</p> <p>(60 小山慎一) プロダクト、情報のデザインに関して、知覚心理学科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(132 花里俊廣) 建築、都市環境のデザインに関して、建築計画学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(189 山中敏正) プロダクト、情報のデザインに関して、感性科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(190 山本早里) 建築、環境および構成学のデザインに関して、色彩学・認知心理学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(235 貝島桃代) 建築、都市環境のデザインに関して、建築行動学の手法を用いて課題解決のための実践研究について研究指導を行う。</p> <p>(358 山田協太) 建築、都市環境のデザインに関して、フィールドサーベイ分析の手法を用いて課題解決のための理論的かつ実践的研究について研究指導を行う。</p> <p>(359 山田博之) プロダクト、情報、ビジネスのデザインに関して、感性科学の手法を用いて課題解決のための実践的・応用的研究について研究指導を行う。</p> <p>(642 岩木直) プロダクト、情報、ビジネスの課題解決を行う際の脳活動を、脳機能イメージングの手法を用いて解明する基礎的研究について研究指導を行う。</p> <p>(328 増田知之) 人体の構造や生理的特性とデザインの関係に関するところの働きについて、生理学の手法を用いて解明する基礎的研究について研究指導を行う。</p> <p>(373 渡和由) 建築・都市・地域のデザインに関して、プレイスメイキングの手法を用いた課題解決のための実践的・応用的研究について研究指導を行う。</p> <p>(442 加藤研) 建築、都市環境のデザインに関して、建築構法学の手法を用いて課題解決のための実践研究について研究指導を行う。</p> <p>(643 氏家弘裕) プロダクト、情報のデザインに関して、人間工学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(649 布田健) 建築、環境のデザインに関して、人間工学・ユニバーサルデザインの手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(655 平光厚雄) 建築、環境のデザインに関して、音響工学・音響心理学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(657 山口秀樹) 建築、環境のデザインに関して、視覚認知科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
世界遺産学関連科目	基礎科目	世界遺産論	世界遺産学位プログラムの教員全員の研究内容の紹介。遺産の評価と保存、マネージメントとプランニング、国際協力などについての討論を通じて、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告、文化遺産・自然遺産保護の現場の訪問を通じて研究の先端に触れる。履修する大学院生は、最も関心を抱いている文化遺産・自然遺産の分野を選び、研究対象となりうる課題について発表することを求められる。	
		世界遺産特別演習	専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定する。論文講読を通じて、論文執筆の基礎を身につけると同時に、研究倫理に関する基礎的な常識を身につける。履修する大学院生は、年2回、演習の中間および最後に、自らの修士研究テーマについて発表することを求められる。	
		世界遺産特別研究	指導教員から修士論文の研究方法について指導を受け、セミナーでの発表、修士論文中間発表を経て、修士論文作成を行い、最終試験において審査を受ける。  (192 吉田正人) 自然保護の現場における生物多様性の保全から世界自然遺産を含む自然保護法制度などの研究課題の研究指導を行う。 (20 上北恭史) 歴史的建造物の保存や修理、集落の保存・地域振興に関する研究課題の研究指導を行う。 (55 黒田乃生) 現地調査や文献調査などの手法を用いて農村地域の文化的景観の保全を対象にした研究課題について研究指導を行う。 (165 松井敏也) 科学的分析手法を用いて文化財保存環境、文化財のFirstAidと防災対策、建造物の保存、文化財材料科学、鉄製文化財の腐食等の研究課題について研究指導を行う。 (179 八木春生) 現地調査、文献調査などの美術史の研究手法を用いて北魏前期の仏教美術、南北朝時代後期の北齊、北周時代、あるいは隋時代の仏教美術を対象とした研究課題について研究指導を行う。 (211 伊藤弘) 遺産とその成立要件である周辺環境との関係に着目し、資源開発と観光をはじめとする持続的な利活用方策に関する研究課題について研究指導を行う。 (464 下田一太) 歴史的建造物や埋蔵遺構、集落や都市を対象として、それらの多様な意義や価値を各種資料や現地調査より読み解き、保存や活用に資する研究課題について研究指導を行う。 (286 武正憲) 現地調査や文献調査などの手法を用いて、自然を観光対象とする地域における持続的な利活用方策に関する研究課題について研究指導を行う。 (426 池田真利子) 遺産保全の在り方や利活用に関して、特にヨーロッパの都市文化やアメニティ、歴史、経済等の人文的な複合的要素や地域性に注目しつつ、フィールドワークや文献調査を基に研究指導を行う。	
専門科目	全分野共通	文化遺産論	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけでなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになることが求められる。	
		文化遺産演習	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登録された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学ぶ課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。	
		自然遺産論	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセイフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	
		自然遺産演習	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教論	近年、注目を集めるようになってきている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・雲仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。	
	無形遺産論	無形遺産の概念、保護の体制、遺産保護の事例を通して、無形遺産への理解を深め、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。文化財保護法における無形遺産と、ユネスコ無形文化遺産条約における無形文化遺産の違い、無形文化遺産を保護するための国際的・国内的政策と地域の取り組みについても学ぶ。	
	遺産保護行政論	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。	
	世界遺産特別講義	世界文化遺産ないし関連遺産の学際研究及び保存・活用の現状と課題を学ぶ。本授業は、世界文化遺産の保護に長年にわたって携わってこられた専門家を講師に招き、その経験と知識を学ぶ集中講義である。講師は、富士山の世界文化遺産登録に携わった専門家など、世界遺産条約に関して深い経験を持った方を講師として招聘する。	
	世界遺産学インターンシップ	遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修を行なう。インターンシップ先は、世界遺産保全に関する行政機関、研究所、テレビ局、博物館・美術館など多岐にわたるが、研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意する。研修機関からの評価をい考慮して、インターンシップの成果を評価する。	
国際遺産学分野	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	Encompassing history, philosophy and public policies, the lecture series is about the overall picture of heritage protection in contemporary society. It deals with a range of activities from the level of international organizations including the World Heritage Convention to those of the national heritage policies of different countries.  歴史、哲学、公共政策など現代社会における遺産保護を総合的にとらえて講述する。世界遺産条約などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り上げる。	
	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産)	世界遺産条約について、条約の成立に至る歴史的背景を含む制度の詳細、運用の実態の分析を通して、またそれをユネスコが行う文化と自然に関わる総合的な活動の中に位置付けて理解することで、現代社会における世界遺産条約の役割、特に文化遺産・自然遺産保護の国際的な枠組みにおける条約の位置づけ、その現状と今後について考察する。	
	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	Through the case of transnational cooperation, we shall learn the effects and challenges of international frameworks for cltural/natural heritage conservation.  世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力のの事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わる国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。	
	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	In this lecture, participants will develop their own opinions about what kind of civil participation for World Heritage could be realised and in which way, (i)by learning which tasks and regional conflicts the World Heritage (especially cultural heritage and landscape) faces precisely, (ii) by considering the historical, architectural, sociological and geographical context of certain case studies, (iii) by exploring civil engagement and participation for the preservation of cultural heritage other than the UNESCO World Heritage, and the diversification of World Heritage, and (iv) by understanding the upcoming heritage policies (inc. cultural and economic policy and urban regime) in the EU countries.	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>本講義では、①現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、②その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに③世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、④世界遺産の多様化、⑤EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現され得るのかを考えることを目標とする。</p>	
	World heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	<p>Is it possible to establish a sustainable society through conservation of cultural and natural heritage? Through various case studies from developing countries, we shall explore future directions for achievement of Sustainable Development Goals.</p> <p>果たして、文化遺産・自然遺産の保護を通じて、持続的な社会を構築することは可能か？ 開発途上国における様々な事例を通じて、国連持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた将来の方向性を探求する。</p>	
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	<p>We shall study the roles and actions of international agencies such as UNESCO, UNEP and NGOs such as IUCN, ICOMOS and ICCROM, which deal with the conservation of cultural and natural environment.</p> <p>文化遺産と自然環境の保全に関する国際機関 (UNESCO, UNEP 等) および文化遺産と自然環境の保全に関するNGO (IUCN, ICOMOS, ICCROM等)の役割とその機能について学ぶ。</p>	
	International Conventions for Heritage Conservation(国際条約論)	<p>Through an extensive lecture, which will tackle with environment, heritage conservation and development, with case studies of various countries and regions in the world, we shall learn how we continue to live with heritage, how at times we need to fight for conservation and to respect sustainable livelihoods in the rapidly changing world.</p> <p>この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続的な社会を実現するかを学ぶ。</p>	
	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	<p>By carrying out field studies at an identified site outside Japan, we shall learn what is actually at stake in identifying with our own eyes the issues and challenges, who are the actors, what are their respective roles, and how consensus-building is made for chosen solution for better heritage conservation and sustainable development.</p> <p>海外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るためには、何が課題であり、誰がどのような役割を果たし、どのようにして合意形成を図るかを学ぶ。</p>	
遺産の評価と保存分野	建築遺産論	<p>多様な歴史的背景や環境条件、意匠の特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復旧の理念や技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。</p>	
	建築遺産演習	<p>建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法等を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美術遺産論I	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟、また敦煌莫高窟などを対象とする。この授業では、その中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	
	美術遺産論II	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	
	美術遺産演習	演習(学外)。大阪市立美術館や東京国立博物館など、中国の仏教造像や陶磁器などを多く所蔵する美術館、博物館で、学芸員から説明を受けながら、作品を様々な角度から観察することを経験する。それにより、斜め上、あるいは下方、また側面からでは、正面から見たのとは異なる印象を持つことを体感し、写真ではなく実物を見ることの重要性を理解できるようになる。また作品の基本的な取り扱い方を学び、実際に作品に触れることで、目でみるだけでは理解できない情報を作品から得る方法を習得する。このような経験から、それらの作品を作った工人たちが、どのような角度で見られることや手取りを意識していたかを考えられるようになる。そして美術作品の時代性だけでなく、工人達の意図をより正しく理解できるようにする。	
	保存科学概論	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷に対し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを目指す。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。	
	保存科学演習	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての実地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究結果等と併せて総合的に考究させることを目指す。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家による指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。	
遺産のマネジメントと	遺産整備計画論	遺産の歴史的価値を評価して未来へ残していくために、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の条例の理解および保護計画事例を把握し、遺産も持つ歴史的活に基づいた保護手法について評価、判断ができる能力を身につける。また遺産の積極的活用について理解し、具体的な活用を案を提案して計画能力を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ランニング分野	遺産整備計画演習	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画棟の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。	
	文化的景観論	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について国内外の相違を紹介し、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。	
	遺産観光論	観光に関する用語や意義、歴史的かつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる、自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体的事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。	
	プランニング演習	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるように持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。	
	インタープリテーション概論	インタープリテーションの歴史・期待される効果・実施上の注意点や課題について理論的な概要を学習する。自然遺産および文化遺産の価値を利用者にどのように伝えるのか、その技術や伝えるべき対象の価値の捉え方について、実際の事例を体験することを通して考察する。教育目標は自然遺産・文化遺産の価値をとらえ、それを伝える技術を理解し、遺産の利活用と保全におけるインタープリターの果たす役割を理解することである。授業目標の到達目標は、インタープリテーション・プログラムを提案できるような能力を身につけることであり、その習得度はプレゼンテーションとレポート課題によって確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報学関連科目	データサイエンス実践	<p>研究機関等が提供するオープンデータの拡充とともに、それらの分析手法に習熟したデータサイエンティストの社会的需要が高まっている。講義前半では、データサイエンスと数学および統計学の関連について概観したのち、統計学的手法に基づくデータ分析を実践し、最新の「計算代数統計」と呼ばれる手法の導入までを目指す。後半では、インフォメトリクスデータに基づく分析の理論と手法について学習する。特に、それらのデータの特性である低頻度事象の存在や、それに起因する統計的尺度の標本量依存性に配慮した分析に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：178 森継修一)</p> <p>(178 森継修一/5回) (1)データサイエンスの構成要素と統計学、(2)データ分析の数理的基礎、(3)相関と因果、回帰、(4)データ分析に基づく社会的価値創造、(5)最新の「計算代数統計」の応用 (191 芳鐘冬樹/5回)、(6)インフォメトリクスの基本的問題:壺のモデル、(7)オープンデータのリソースとLotka型データ、(8)LNREモデル、(9)統計量の標本量依存性と二項補間・補外、(10)ネットワークの成長モデルと標本量依存性</p>	オムニバス方式
	機械学習とパターン認識	<p>本講義では機械学習手法の原理と実践的利用についての体系的な知識を学ぶ。特に、データサイエンスの基礎技法である画像認識や文書分類、クラスタリングを行うための機械学習手法として、ニューラルネットワークやベイジモデルに基づく教師あり学習と教師なし学習を扱う。線形代数や確率論に基づいた機械学習の基本的な原理について講義するとともに、画像データやテキストデータのパターン認識に関する演習を適宜交えることで理解を深める。また、データマイニングにおける応用や、大規模データに対する並列処理など、機械学習に関連した技法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：294 手塚太郎)</p> <p>(294 手塚太郎/4回) (1)機械学習におけるタスク (教師あり学習、教師なし学習、訓練データ、テストデータ)、(2)線形分類器による分類 (分離超平面、重み行列)、(3)ニューラルネットワークの学習 (損失関数、勾配降下法)、(4)畳み込みニューラルネットワークによる画像認識 (フィルター、誤差逆伝播法) (531 若林啓/4回) (5)確率分布とベイジモデル (最尤推定、事前分布、ベイジ推定)、(6)ナイーブベイジモデルによる文書分類 (潜在変数、MAP推定)、(7)混合ガウスモデルによるクラスタリング (EMアルゴリズム)、(8)隠れマルコフモデルによる系列ラベリング (遷移確率、グラフィカルモデル) (131 長谷川秀彦/2回) (9)データマイニング、(10)並列計算とMapReduce</p>	オムニバス方式
	メディアデザイン	<p>芸術・デザイン・メディアアートの知見から、情報デザインの仕組みを理解するとともに、ハードウェア制作やソフトウェア制作を通じた実世界志向インタラクションおよびインフォグラフィクスの手法を学ぶ。実世界志向のインタラクションは近年、スマートフォンやウェアラブル端末などの情報機器の普及によって産業界から注目を集めており、またインフォグラフィクスを応用した画面表示やコミュニケーションのための表現がコンテンツ制作者に求められている。本講義ではグラフィックデザイン手法を基盤とし、ビジュアル表現に関して議論ができるスキルを養い、その応用例として展覧会を実施し、それにまつわるビジュアル作りやキャプション作りなど実社会で使用するスキルを身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：244 金尚泰)</p> <p>(244 金尚泰/5回) (1)「研究紹介とビジュアル表現」：データと情報の違いを明確にし、情報として伝えるためのグラフィックデザイン手法全般を議論する。(2)「データから情報へ」：グラフィックデザイン手法の考え方、応用例を解説するとともにデザイン要素として用いられるアフォーダンス、色彩、レイアウト、黄金比、タイプフェイスを理解する。(3)「自分の研究テーマを題材にインフォグラフィックスを試作」：夫々研究テーマの考え方を発表してもらい、アイデアスケッチと構成、ビジュアル表現に関して議論する。(4)「プレゼンテーションと講評」：制作したインフォグラフィックスの制作プロセスをプレゼンテーションし、データの整理、表現方法、各要素の応用を含むインフォグラフィックス全般の流れを議論する。(5)「ビジュアル表現」まとめ：事例紹介を通しビジュアル表現の考え方やコツ、制作手法に関する理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(232 落合陽一／5回) (6)「研究紹介とメディア表現」：メディア機器の開発とそれを用いた表現について、メディアアートの現状を含め手法全般を議論し、アイデア出しを行う。(7)「プロトタイピング」：デジタルファブリケーション手法とラピッドプロトタイピング手法について議論し、実際にツールに関して手を動かして制作を行う。(8)「インスタレーション」：メディアアートのインスタレーション手法について学び、インタラクション手法・展示手法について議論を行う。(9)「展覧会準備」：展覧会を用いて実際に制作した作品の発表を行うための準備をする。(10)「まとめ」：制作期間を振り返って、学びを互いに共有する。</p>	
	ビジュアルライゼーション	<p>医療分野や気象学、生物学などで得られる計測データ、購買情報等の人々の行動データ、物理現象の解析に用いられるコンピュータシミュレーションから得られる数値データなど、膨大で複雑なデータを人間が理解し、解釈するためにコンピュータグラフィックスを用いた情報可視化技術が必須となってきている。本講義では情報可視化の基礎を学ぶとともに、科学的なデータを可視化するサイエンティフィックビジュアルライゼーションと社会的なデータを可視化するインフォメーションビジュアルライゼーション、そしてこれらのデータを扱うための3次元ユーザインタフェース(AR)についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：496 藤澤誠)</p> <p>(496 藤澤誠／5回) (1)情報可視化のためのCG技術の基礎、(2)シミュレーションとデータ構造、(3)サイエンティフィックビジュアルライゼーションの基礎、(4)ボリュームビジュアルライゼーション、(5)フロー&amp;バイオメディカルビジュアルライゼーション (402 時井真紀／5回) (6)インフォメーションビジュアルライゼーションの基礎、(7)データ分析法とビジュアルライゼーション、(8)位置情報とビジュアルライゼーション、(9)インフォメーションビジュアルライゼーション応用、(10)3次元ユーザインタフェースとAR</p>	オムニバス方式
	生体生命情報	<p>生命が持つ情報の側面について学ぶ。具体的には、遺伝情報、生体内の情報処理、脳活動、生体信号等を題材に、様々な現象の計測やモデル化、データの保存、分析、表現等について学ぶ。特に、バイオインフォマティクスで使われる生命情報を扱う手法や、生命をモデル化するためのシステムバイオロジーの考え方、生体信号処理や知覚システムモデリングの手法、生体情報を用いた芸術表現など関連分野の知識について理解することを目的とする。さらに、近年の生物学の研究において、必須となっている情報学の考え方や手法を、関連する生命現象とともに学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：325 真榮城哲也)</p> <p>(325 真榮城哲也／5回) (1)ゲノムと遺伝情報、(2)遺伝情報の類似性、(3)遺伝子発現と遺伝子調節ネットワーク、(4)システム科学と生命のモデル化、(5)脳活動計測 (477 寺澤洋子／5回) (6)デジタル信号と生体信号処理、(7)聴覚システムと音の知覚、(8)聴覚モデリング、(9)聴覚情景分析の脳機能、(10)生体情報とメディアアート</p>	オムニバス方式
	感性認知情報	<p>メディアサイエンスを理解し応用するために不可欠な、人間の感性・認知の働きについて学ぶ。以下の項目に関する講義・ディスカッションを行う：(1)人間の認知過程、とりわけ理性的な思考や客観性のある解析過程について、計算論的モデル化によるアプローチの基礎を学び、具体的な事例・領域への適用について論じる。(2)インタフェースの成立基盤となる物体認知や運動学習などに関する心理学的知見について学び、その方法論を実践的に学習する。(3)創造性における感性情報の働きや感性情報評価の概念について解説する。感性、認知、行動と生体情報、パーソナリティなどの融合科学として、デザイン発想、製品開発に応用された事例を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：145 平賀譲)</p> <p>(145 平賀譲／4回) (1)受講に関する説明・講義内容の概説及び導入、(2)人間の認知過程の計算論的モデル化の意義と役割(概論)、(3)モデル化の具体例①：ゲーム、パズル、音楽認知等の事例を通じて、(4)モデル化の具体例②：ゲーム、パズル、音楽認知等の事例を通じて</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(352 森田ひろみ/3回) (5)物体認知の基本的性質の解説と代表的な心理学的研究の紹介、(6)運動学習の基本的性質の解説と代表的な心理学的研究の紹介、(7)物体認知又は運動学習に関する心理実験の実践</p> <p>(206 李昇姫/3回) (8)感性の働きとしての創造性と脳科学との関わり、(9)脳の活性化を導く身体性インタラクティブデザインの事例、(10)生理、運動、心理など感性情報を取り入れたプロダクトデザインの設計の応用事例</p>	
	構造化データ	<p>本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：298 中井央)</p> <p>(298 中井央/5回) (1)構造化データ処理系の概要、(2)正規表現と字句解析、(3)文脈自由文法と構文解析の概要、(4)再帰的下向き構文解析、(5)意味解析</p> <p>(272 鈴木伸崇/5回) (6)XMLのデータ構造とスキーマ言語、(7)XMLにおける検索言語、(8)構造化データとデータベース、(9)グラフデータ検索、(10)グラフデータのスキーマ</p>	オムニバス方式
	知識情報分析	<p>知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：363 横山幹子)</p> <p>(363 横山幹子/5回) (1)知識の定義：正当化された真なる信念、(2)知識の定義：ゲティア問題、(3)知識の共有：相対主義の概略、(4)知識の共有：概念相対主義、(5)知識の共有：概念相対主義への批判</p> <p>(116 中山伸一/5回) (6)知識表現の方法：文章、映像、図表、(7)知識表現の方法：意味ネットワーク、フレーム、スクリプト、(8)知識と情報、データ：アフォーダンス、(9)情報・データ取得の方法：テスト、調査、計測、(10)知識形成の方法：クラスタリング、ニューラルネットワーク</p>	オムニバス方式
	情報プラクティス	<p>情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報検索行動のユーザモデル、そして、ユーザの検索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：270 上保秀夫)</p> <p>(270 上保秀夫/4回) (1)オリエンテーション、(5)サーチエンジンユーザの検索パターン、(6)コラボラティブサーチ、(7)情報検索におけるユーザ実験の手法</p> <p>(414 松林麻実子/3回) (2)情報探索行動モデル、(3)文脈重視の情報行動、(4)情報行動から情報プラクティスへ</p> <p>(427 于海濤/3回) (8)サーチエンジンユーザの検索行動モデルの構築、(9)サーチエンジンユーザの検索行動モデルの学習、(10)サーチエンジンユーザの検索行動予測手法の評価</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報推薦	<p>情報推薦システムの諸側面について学習する。まずこれまで情報推薦に用いられてきた協調フィルタリング、内容ベースフィルタリング、アソシエーションルール、様々な情報を機械学習で統合的に利用した推薦、といった代表的手法について学ぶ。情報推薦は、利用者が興味を持つアイテムの推薦を目的とする。興味を持つ要因としてはいくつかあるが、推薦では利用者の問題関心と合致していることに加え、目新しさや思いがけなさ、即ちセレンディビティも重要となる。適切・有効な推薦が行えたかを判定する評価基準についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：291 辻慶太)</p> <p>(291 辻慶太/5回) (1)情報推薦システムの概要、代表例、問題点、(2)協調フィルタリング：ユーザベースとアイテムベース協調フィルタリング（アソシエーションルール）、(3)内容ベースフィルタリング：内容の表現方法、類似度の算出方法、機械学習の利用、(4)知識ベース型推薦システム：制約型、事例型、(10)情報推薦システムの構築③：Rの基礎と各種推薦関連パッケージの利用 (504 松村敦/5回) (5)ハイブリッド型情報推薦システム：状況に応じた推薦方法の切替えや統合、(6)情報推薦システムの評価：精度、再現率、新規性や多様性、セレンディビティといった指標、評価実験の手法、(7)多様化する情報推薦システム：多様化する評価指標の向上を目指したシステム、目的や位置情報など推薦システムが利用される状況（コンテキスト）を考慮したシステム、(8)情報推薦システムの構築①：プログラミング基礎および協調フィルタリングの実装、(9)情報推薦システムの構築②：協調フィルタリングの実装</p>	オムニバス方式
	ヒューマンコンピュータインタラクション	<p>本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：334 三河正彦)</p> <p>(334 三河正彦/5回) (1)イントロダクションおよびヒューマンインタラクションの基礎、(2)ヒューマンインタラクションの基礎、(3)システム構築のための要素技術と最新動向I（センサ）、(4)システム構築のための要素技術と最新動向II（入出力デバイス）、(5)システム構築のための要素技術と最新動向III（ソフトウェア技術） (17 井上智雄/5回) (6)システムの設計・実装、(7)システムの評価、(8)ヒューマンインタラクションの応用、(9)ヒューマンインタラクションの周辺技術、(10)利用者から見たシステム・まとめ</p>	オムニバス方式
	コミュニケーション行動	<p>本授業では量的調査による対人コミュニケーションに関する分析について論じる。主として各種のメディア使用が対人コミュニケーションや選択行動へ与える影響について学ぶ。従来のマスメディアから現在のソーシャルメディアまでの各種のメディアの歴史の変遷を踏まえ、それぞれの使用がいかによりユーザのアイデンティティ形成や言語使用、コミュニケーションメディア観、対人関係特にソーシャル・サポート・ネットワークの構築に影響するのかなどについて学際的な視点から理解を深め、国内外の既存研究を読み解くための基本的なスキルを習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：112 歳森敦)</p> <p>(112 歳森敦/5回) (1)ガイダンス・各種メディアの定義、(2)メディア研究の変遷、(3)メディア・リテラシーからネット・リテラシーへ、(4)メディア使用とコミュニケーション行動、(5)メディア使用と集団形成 (529 叶少瑜/5回) (6)メディアと言語使用・アイデンティティの形成、(7)メディア使用と印象形成、(8)メディア使用とソーシャル・サポート・ネットワーク、(9)異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響、(10)コミュニケーションにおけるメディアの行方</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニティ分析	<p>情報や知識は、コミュニティが繋がり、断絶し、ときに衝突し、影響を与え合うインタラクションの中で生み出され、活性化され、伝達される。本講義ではコミュニティ研究の基礎理論を学ぶとともに、エスニシティ、地域、言語等、コミュニティのカテゴリごとにフィールドワークなどの質的調査に基づく既存研究をレビューする。さらに公民館、図書館、学校、病院、地域コミュニティなどの場でコミュニティ間にインタラクションの必要な場面が生じた際に、メンバー特性を踏まえ、コミュニティ内の情報や知識がどう発生・受容・変容するかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：59 後藤嘉宏)</p> <p>(59 後藤嘉宏/5回) (1)コミュニティ研究の理論的系譜1、(2)コミュニティ研究の理論的系譜2、(3)知識の継承と変容の理論的系譜、(4)コミュニティのカテゴリ①：エスニシティ、(5)コミュニティのカテゴリ②：地域・言語・宗教・階層 (478 照山絢子/5回) (6)コミュニティのカテゴリ③：障害・ジェンダー・セクシュアリティ、(7)インタラクションの場①：地域コミュニティ・公民館・図書館、(8)インタラクションの場②：学校・病院、(9)インタラクションの場③：家庭、(10)身近な異質性と異文化—まとめにかえて</p>	オムニバス方式
	デジタルヒューマニティーズ	<p>デジタルヒューマニティーズは人文学資料にデジタル技術を適用することで、伝統的手法では得られなかった知見を得ることを目的としている。講義では、テキストを資源化するためのテキストエンコーディング、絵図から作成当時の文化や社会を考察する図像分析、歴史文書に自然言語処理手法を適用する文書解析、古地図や古文書の記述を地理情報システムにマッピングする手法、画像ファイルを簡単に流通させるための規格であるInternational Image Interoperability Framework (IIIF：トリプルアイエフ)等について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：216 宇陀則彦)</p> <p>(216 宇陀則彦/5回) (1)デジタルヒューマニティーズの世界、(7)画像共有のためのフレームワーク、(8)地理情報システム、(9)デジタルアーカイブ、(10)デジタルヒューマニティーズの可能性 (368 和氣愛仁/5回) (2)デジタルヒューマニティーズの技術 (XMLから人工知能まで)、(3)古代エジプト語データベースの構築、(4)古代エジプト語データベースの利用、(5)テキストエンコード、(6)近代日本語資料の分析と共有</p>	オムニバス方式
	知的財産と情報の安全	<p>情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっていく。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：347 村井麻衣子)</p> <p>(347 村井麻衣子/6回) (1)知的財産法の概要、(2)特許法、商標法、不正競争防止法など、(3)著作権法、(4)著作権に関する事例、(5)プライバシー、(6)個人情報保護法制 (258 阪口哲男/4回) (7)サイバー犯罪、インターネット上の権利侵害、(8)情報の安全と暗号化技術、(9)知的財産保護のための技術、(10)情報システムの安全</p>	オムニバス方式
	図書館メディア文化史	<p>本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：113 呑海沙織)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(113 呑海紗織/4回) (1)オリエンテーション、古代のメディアと図書館の起源、(2)羊皮紙とコデックス、(3)活版印刷とインキュナブラ、(7)英米における近代図書館の成立</p> <p>(199 綿拔豊昭/3回) (4)古代中国の記録メディアから紙の発明まで、(5)江戸時代の出版流通、(8)文庫の発生から江戸時代の武家文 (172 溝上智恵子/3回) (6)修道院図書館からルネサンス期の図書館まで、(9)書籍館の誕生から占領期の図書館まで、(10)プレゼンテーション</p>	
	パブリックサービス	<p>本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとりえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチュラリズムの観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：193 吉田右子)</p> <p>(193 吉田右子/5回) (1)パブリックサービスとは、(2)公共図書館サービスの理論と実践：日本、(3)公共図書館サービスの理論と実践：北米、(4)公共図書館サービスの理論と実践：ヨーロッパ、(5)公共図書館サービスと社会的公正性/リベラル・マルチカルチュラリズム</p> <p>(392 三波千穂美/5回) (6)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：企画・決定、(7)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：検討・手順書作成、(8)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：広報・準備、(9)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：実施・評価、(10)パブリックサービスの課題と展望</p>	オムニバス方式
	ライブラリーマネジメント	<p>本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみに止まらず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携（官民連携や学社連携も含む）などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：208 池内淳)</p> <p>(208 池内淳/4回) (1)オリエンテーション、(2)図書館の社会的役割、(3)図書館政策、(4)図書館関連法制度</p> <p>(381 大庭一郎/3回) (5)図書館情報サービスの計画、(6)図書館の組織デザイン、(7)図書館の人的資源管理</p> <p>(454 小泉公乃/3回) (8)図書館の経営戦略と経営組織、(9)図書館の経営評価、(10)パブリックガバナンスと図書館経営</p>	オムニバス方式
	学術情報基盤	<p>本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き（学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現）について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度（学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク）について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：414 松林麻実子)</p> <p>(414 松林麻実子/5回) (1)ガイダンス：学術コミュニケーションと学術情報流通、(2)電子化によるフォーマルコミュニケーションの変化、(3)電子化によるインフォーマルコミュニケーションの変化、(4)オープンアクセス・オープンサイエンスとは、(5)個人の対話から学術プラットフォームへ</p> <p>(16 逸村裕/5回) (6)学術雑誌のビジネスモデル、(7)大学図書館の研究支援サービス、(8)学術情報ネットワークとは、(9)研究者評価、(10)まとめ</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アーカイブズ	<p>2011年の東日本大震災以降、歴史的に重要な文書記録の救出・保存が日本各地で取り組まれている。また日本では2011年の公文書管理法施行以後、行政文書の管理と保存が国の重要課題となった。本講義では、日本と欧米諸国におけるアーカイブズ施設（文書館・公文書館）、アーカイブズ資料（歴史資料・行政文書）及び専門職アーキビストとその養成の具体的事例に基づき、アーカイブズ学の全体像を論じるとともに、図書館の類縁施設であるアーカイブズ施設に関する基礎知識を獲得する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：87 白井哲哉）</p> <p>（87 白井哲哉／4回）(1)序論A：アーカイブズ学とは何か—いくつかの基本概念、(2)日本におけるアーカイブズ施設とアーカイブズ資料1—国家機関と地方自治体、(3)日本におけるアーカイブズ施設とアーカイブズ資料2—大学と企業、(4)アーカイブズ資料の救出—災害の経験から  (542 江前敏晴／2回) (5)記録媒体として紙の特性、(6)紙媒体歴史資料の保存科学  (488 BARYSHEV EDUARD／4回) (7)序論B：集合的記憶・記録・アーカイブズ、(8)欧米諸国におけるアーカイブズ施設と専門職アーキビスト、(9)欧米諸国におけるアーカイブズ学の発達、(10)アーカイブズ施設の活用—情報時代のアーカイブズ学とその課題</p>	オムニバス方式
	博物館情報メディア	<p>博物館はメディアである、博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている（梅棹1987）と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を鑑みつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：109 辻泰明）</p> <p>（109 辻泰明／3回）(1)博物館と情報メディア、総論、(2)ヴァーチャル・ミュージアムと映像リテラシーの重要性、(10)博物館情報メディアの最新動向と今後の課題  (703 白石信子)／3回) (7)博物館と映像メディア、(8)博物館情報メディアと教育、(9)博物館情報メディアとマーケティング  (716 宮本聖二／4回) (3)デジタル化の進展とインターネット配信、(4)博物館、図書館、文書館の連携とポータルサイト、(5)文化遺産の概念とその歴史、(6)資料の整理と組織化</p>	オムニバス方式
	情報組織化	<p>本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効率的に利用するための組織化について学ぶ。主にWWWやデジタルライブラリー等のネットワークを介して提供・共有される情報資源を対象とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述、分類や識別の手法について学ぶ。また、Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述も対象とし、記述に対するRDF Schema、OWL、SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロジーについても理解を深める。あわせて、電子情報資源を対象としたレコード識別の方法として、適切な識別子を用いた同定、データクリーニング、自動同定の手法について解説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：404 永森光晴）</p> <p>（404 永森光晴／3回）(2)メタデータ、(3)スキーマ、(4)オントロジー  (278 高久雅生／3回) (7)目録、(8)典拠コントロール、(9)分類  (237 加藤誠／4回) (1)情報組織化の概要、(5)識別子、(6)情報資源の同定、(10)総括と議論</p>	オムニバス方式
	メディア教育	<p>本講義では、生涯学習社会における学校図書館や公共図書館、ネットワーク環境などを含むアナログからデジタルまでの学習環境の在り方、これらの学習環境におけるメディアの利活用や教育等を統合的に扱い、その基盤となる理論やモデル、実践について学ぶ。具体的には、メディアを活用して効果的に情報を収集・判断・創造・発信するために必要とされる「メディアリテラシー」の概念、メディア教育や学習環境の整備の重要性、現状や課題等についての理解を深め、今後の展開等について考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：146 平久江祐司）</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(146 平久江祐司/4回) (1)授業の全体像、目的、方法の説明、(8)学校図書館の目的・役割及びその現状と課題、(9)学校図書館におけるメディアの収集・保存・提供、(10)学校図書館におけるメディアリテラシーの育成</p> <p>(271 鈴木佳苗/3回) (2)メディア利用の現状と影響、メディアリテラシーの概念、メディア教育の概要、(3)国内外のメディア教育の歴史と現状、(4)メディア教育のプログラムの構成、メディア教育の今後の課題</p> <p>(291 辻慶太/3回) (5)公共図書館における学習環境と関連メディアの現状、(6)ネットワーク上の学習環境の歴史、(7)ネットワーク上の学習環境の現状と今後の課題</p>	
専門科目 (方法論的 基盤科目群)	研究法基礎	<p>まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、ブレインストーミング、協調作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。(取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。) さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者: 178 森継修一)</p> <p>(178 森継修一/2回) (3) 研究倫理1: 研究領域紹介(情報数理分野)、研究不正・研究倫理とは、INFOSS情報倫理、(4) 研究倫理2: APRIN e ラーニングプログラム、論文剽窃チェックツール、倫理申請書の作成</p> <p>(232 落合陽一/2回) (9) プレゼンテーション1: 研究領域紹介(HCI分野)、ポスター・スライド作成・口頭発表の技法、(10) プレゼンテーション2: 各種ツールの高度な利用法</p> <p>(109 辻泰明/2回) (1) 文書作成1: 研究領域紹介(メディア情報学)、学術論文とは何か、論文の構造、(2) 文書作成2: LaTeX、Mindmeister などの使い方、研究計画書の作成</p> <p>(298 中井央/2回) (7) 協調作業1: 研究領域紹介(コンパイラ構成法)、データ共有、(8) 協調作業2: コミュニケーションツール</p> <p>(199 綿拔豊昭/2回) (5) ブレインストーミング1: 研究領域紹介(日本図書学)、ブレインストーミングの進め方、(6) ブレインストーミング2: ブレインストーミング後の情報整理、アイデアの整理と創出</p>	オムニバス方式
	文献調査法	<p>近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探索し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者: 352 森田ひろみ)</p> <p>(352 森田ひろみ/2回) (1) ガイダンス、実験心理学分野の文献探索、(2) 実験心理学分野の文献講読</p> <p>(206 李昇姫/2回) (9) 感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献探索、(10) 感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献講読</p> <p>(381 大庭一郎/2回) (3) 図書館情報学分野の文献探索、(4) 図書館情報学分野の文献講読</p> <p>(276 関洋平/2回) (5) 自然言語処理・情報検索分野の文献探索、(6) 自然言語処理・情報検索分野の文献講読</p> <p>(347 村井麻衣子/2回) (7) 知的財産法分野の文献探索、(8) 知的財産法分野の文献講読</p>	オムニバス方式
	Literature Survey	Students will learn information sources and methods of searching and obtaining literature in various research areas. Furthermore, students will learn how to read literature.	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：145 平賀譲)</p> <p>(145 平賀譲／2回) 音楽・音響情報処理の情報源・文献探索、(4) 音楽・音響情報処理の文献購読  (427 于海涛／2回) (7) 機械学習と情報検索の情報源・文献探索、(8) 機械学習と情報検索の文献購読  (460 Sarcar Sayan／2回) (9) ヒューマン-コンピュータ・インタラクションの情報源・文献探索、(10) ヒューマン-コンピュータ・インタラクションの文献購読  (325 真榮城哲也／2回) (1) システム科学および生命情報学の情報源・文献探索、(2) システム科学および生命情報学の文献購読  (191 芳鐘冬樹／2回) (5) 計量書誌学の情報源・文献探索、(6) 計量書誌学の文献購読</p>	
	調査とデータ分析	<p>本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：59 後藤嘉宏)</p> <p>(59 後藤嘉宏／2回) (2) 質的調査：調査計画と調査実施、(3) 質的調査：分析と考察  (271 鈴木佳苗／2回) (6) 内容分析：内容分析の計画と実施、(8) 内容分析：内容分析の実施と考察  (402 時井真紀／2回) (7) データ分析：統計解析ソフトウェア入門、(9) データ分析：オープンデータを用いた解析  (131 長谷川秀彦／2回) (1) ガイダンス：質的調査と量的調査、データ分析の基本、(10) まとめ  (529 叶少瑜／2回) (4) 量的調査：量的調査票の作成とデータ収集、(5) 量的調査：分析と考察</p>	オムニバス方式
	Survey and Data Analysis	<p>This course covers qualitative survey, quantitative survey, and data analysis using a computer. With lectures and group work, students are expected to learn how to plan and implement a survey and conduct data analysis. In addition to traditional data analysis methods, newly developed statistical methods will be presented, which will help understand characteristics of data from different view points.</p> <p>本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：294 手塚太郎)</p> <p>(294 手塚太郎／2回) (1) ガイダンス：質的調査と量的調査、データ分析の基本、(10) まとめ  (427 于海涛／2回) (4) 量的調査：量的調査票の作成とデータ収集、(5) 量的調査：分析と考察  (478 照山絢子／2回) (2) 質的調査：調査計画と調査実施、(3) 質的調査：分析と考察  (531 若林啓／2回) (8) 内容分析：内容分析の実施と考察、(9) データ分析：オープンデータを用いた解析  (460 Sarcar Sayan／2回) (6) 内容分析：内容分析の計画と実施、(7) データ分析：統計解析ソフトウェア入門</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (実践指導科目群)	研究計画	本演習では第三者に自分の研究を体系的かつ明確に説明することを目的として、プレゼンテーションとドキュメンテーション技術の基礎を修得する。まず学生個人個人の研究テーマを題材に、研究計画書作成の基礎を学ぶ。続いて多様な専門領域におけるアカデミック・ライティングの特徴を理解し、論文執筆のスキルを修得する。	共同
	業務計画	自らの専門業務における業務経験を踏まえて、当該業務の体系化と改善、事業開発に資するような業務改善プログラムを作成・考案する。作成したプログラムに関する発表と評価を経て、教員のアドバイスを基づきプログラムの改善を行う。	東京開講 共同
専門科目 (研究指導科目群)	情報学特別演習a (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について修士論文指導を行う。情報学特別演習aは春学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり	つくば・東京開講
	情報学特別演習b (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について修士論文の指導を行う。情報学特別演習bは秋学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり	つくば・東京開講
	(研究指導)	(16 逸村裕) 学術情報流通、大学図書館機能、情報利用者の探索行動の解明を研究課題とし、図書館及び大学諸活動、情報リテラシーの動向、物理的な資料情報源の保存、情報専門職に関して研究指導を行う。 (17 井上智雄) 高度情報環境における、人のコミュニケーションや協同の仕組みの解明を研究課題とし、知的活動や健康な日常生活に役立つコミュニケーションの仕組み・インタラクション環境に関する研究指導を行う。 (59 後藤 嘉宏) 図書館からマスコミ、電子媒体までを射程に入れたコミュニケーションの基礎理論の構想を研究課題とし、社会情報学、コミュニケーション思想史に関わる理論と実証に関する研究指導を行う。 (71 佐藤哲司) 情報空間の構造を知識として表現し、変換・統合・共有・アクセスするための情報アクセス高度化、知識写像を研究対象とし、データ工学や情報検索に関する研究指導を行う。 (87 白井哲哉) 日本の地域コミュニティが管理する公文書及び歴史資料（古文書）の構造と情報、大震災にかかわる文書・記録・資料を研究対象とし、文書・記録・資料の保全に関する研究指導を行う。 (109 辻泰明) 映像メディア、映像アーカイブ、映像コンテンツのインターネット配信を取り上げ、文化、社会、産業、技術、歴史などの観点から、映像メディアに関する研究指導を行う。 (112 歳森敦) 地域公共サービスと地域施設、特に図書館や情報センターを研究対象とし、広域的な視点から微視的な視点までを総合し、サービスや施設の運営・計画に関する研究指導を行う。 (113 呑海沙織) 歴史的時軸の中で、図書館・情報メディアが文化的・社会的に、どのように進展してきたのかを取り上げ、知識情報基盤の形成という視点から図書館文化史に関する研究指導を行う。 (116 中山伸一) 知識抽出に関する研究、知識の分析研究、感性データの計測と予測研究、創造技法やデータマイニングなど知識化技法や知識抽出技法に関する研究指導を行う。 (131 長谷川秀彦) 大規模な疎行列に対する連立一次方程式の解法や固有値計算のアルゴリズムの開発・評価、並列コンピュータや高速な数値計算ソフトウェアの開発・評価、コンピュータ教材の作成やデータマイニングに関する研究指導を行う。 (145 平賀謙) 音楽に関する認知過程、特に高次の構造認識的な面を、コンピュータ上の認知モデル構築を通じて理解・解明することを研究課題とし、音楽に関わる情報処理過程に関する研究指導を行う。 (146 平久江祐司) 学校図書館の活動および学校図書館と公共図書館の連携・協力を取り上げ、学校図書館の支援システム、学校図書館活動の評価、情報リテラシー教育、利用者への情報提供に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(172 溝上智恵子) 高等教育政策と文化政策を研究課題とし、日本・アメリカおよびカナダの高等教育政策、およびカナダとアメリカの文化関連施設の形成や展示物と多文化主義との関連性に関する研究指導を行う。</p> <p>(177 森嶋厚行) これからの社会に必要とされる高度なデジタルコンテンツ管理、検索、統合、変換等を実現するための先端ソフトウェア技術に関して、主にデータベース関連技術やXML等のWWW関連技術などを用いたアプローチから研究指導を行う。</p> <p>(178 森継修一) 情報システムのひとつとしての数式処理システムの機能を高度化するため基本となるアルゴリズムを研究対象とし、効率のよいアルゴリズムの開発、実際のプログラム開発と実験的検証に関して研究指導を行う。</p> <p>(191 芳鐘冬樹) ビブリオメトリクスに基づく学術コミュニケーションの分析と、自然言語処理技術を応用した知的情報検索システムの構築を研究課題とし、計量書誌学・計量情報学に関する研究指導を行う。</p> <p>(193 吉田右子) 北欧公共図書館の機能、アメリカ公共図書館の理念および実践にかかわる歴史、日本における地域住民と公共図書館の関係性に関して研究指導を行う。</p> <p>(199 綿抜豊昭) 江戸時代の情報伝達手段である「往来物」を中心に、江戸時代の庶民向け書物について、図書館学、図像画などを視野に入れて、人文科学的な観点から研究指導を行う。</p> <p>(208 池内淳) 公共図書館サービスの最適供給、図書館の最適規模、図書館の公共性の再定義を研究課題とし、公共図書館政策に関する規範的・実証的なアプローチから研究指導を行う。</p> <p>(216 宇陀則彦) 学術情報のリンキングと情報資源の透過的利用、コンテンツの再構成を研究課題とし、学術情報リンキング、情報資源共有、資料研究支援に関して研究指導を行う。</p> <p>(232 落合陽一) 人間と計算機資源の自然な連携様態「デジタルネイチャー」を研究テーマとし、実世界志向コンピュータグラフィクス、ヒューマンインターフェイス、メディアアートに関して研究指導を行う。</p> <p>(244 金尚泰) グラフィックデザイン、芸術学、VR・ARを用いたコンテンツ制作コンテンツ開発に必要とされるデザイン表現・CG関連先端テクノロジーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(258 阪口哲男) デジタル図書館の展開に適応した基盤技術の開発、WANやLANに分散した情報の特性に基づくシステム構成方式、情報の蓄積・加工・利用のためのソフトウェア環境の構築に関して研究指導を行う。</p> <p>(270 上保秀夫) 知識情報資源にアクセスする新しい手法の提案・開発・評価、情報行動に影響を及ぼす様々な要素の分析、協調作業による情報探索・検索の理解・支援に関して研究指導を行う。</p> <p>(271 鈴木佳苗) 児童青少年の活字メディア、映像メディア、電子メディアの利用実態とメディア利用が児童青少年の発達に及ぼす学力的側面と対人的・心理的側面への影響に関して研究指導を行う。</p> <p>(272 鈴木伸崇) スキーマ進化に伴うXML変換アルゴリズムの開発、XPath充足可能性問題を解くための効率のよいアルゴリズムの開発を研究課題とし、XML等の構造化文書に関する研究指導を行う。</p> <p>(276 関洋平) 集合知を利用した協調アノテーション技術や、メディアまたは文書ジャンルを横断した情報アクセス技術、およびその評価などに関して研究指導を行う。</p> <p>(278 高久雅生) デジタルドキュメントの作成・流通・管理・提供の過程における効果的なドキュメント管理手法、利用者のドキュメント探索・活用方法に関して、研究指導を行う。</p> <p>(291 辻慶太) 図書館におけるレファレンスサービスの実態調査、Wikipedia閲覧者に対する図書推薦、貸出履歴や各種情報を用いた大学図書館における図書推薦システムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(294 手塚太郎) 非記号的情報と言語的・記号的情報を横断した情報検索システムを高度化させるために、言語の意味構造を確率モデルとして表現し、大量の文書集合から学習させる手法に関して研究指導を行う。</p> <p>(298 中井央) 新たなプログラミング言語の開発や汎用のコンピュータ以外のためのプログラミングへのニーズを視野に入れ、プログラミング言語およびそのコンパイラの構成法に関して研究指導を行う。</p> <p>(325 真栄城哲也) 知識の構造の解析と表現方法、遺伝子や蛋白質等の生体分子の複雑な相互作用の解析・予測および高速シミュレーション手法、生物知識を表現し解析に利用する方法に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(334 三河正彦) ネットワークを介した人間と人間あるいは人間と機械間の円滑なコミュニケーションを視野に入れ、ロボティクスを利用した知的システムまたは知的インタフェースに関する研究指導を行う。</p> <p>(347 村井麻衣子) インターネットやデジタル技術が発達した現代における著作権法のあり方を視野に入れ、知的財産法、特に著作権法に関して研究指導を行う。</p> <p>(352 森田ひろみ) 視覚的特徴の統合過程、形態情報の脳内表現、視覚的注意、手続き記憶の特性を研究対象とし、心理実験手法を用いた人間の視覚や認知に関する研究指導を行う。</p> <p>(363 横山幹子) 知識の本質や知識を共有する可能性について分析哲学的な視点から取り上げ、知識と実在論の関係を考えることや相対主義の諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(206 李昇姫) 情報メディア及びデザイン発想を支援する感性情報の評価を研究対象とし、感性デザイン、感性情報評価、感性インタラクションに関する研究指導を行う。</p> <p>(368 和氣愛仁) 言語学（日本語文法論およびコーパス言語学）を主たる研究分野とし、言語資料をはじめとした人文学資料研究におけるICTの活用、特にWWWおよび関連技術を用いた研究資源・成果の共有と手法の標準化等について、人文学的見地に立脚しつつ研究指導を行う。</p> <p>(237 加藤誠) データ自体の分析によるデータ内容に関する問い合わせや柔軟で効率的なオープンデータへのアクセスを目指したデータ検索エンジンに関する研究指導を行う。</p>	
	グローバル研究演習I	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。</p>	つくば・東京開講
	グローバル研究演習II	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。</p>	つくば・東京開講

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ライフサイエンス（病態機構／創薬開発） 関連科目	医学概論	<p>悪性新生物、心疾患、脳血管疾患は日本人の死因の上位を占める疾患である。また、整形外科疾患および外傷（スポーツ外傷も含む）は日常的に遭遇することの多い疾患である。これらの疾患について、主に臨床医学の側面からその病態、治療法、治療成績、ならびに解決すべき課題について概説し、関連する研究分野の世界的な動向について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（187 山崎正志／2回）整形外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （378 榎本剛史／1回）消化器外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （415 丸島愛樹／1回）脳神経外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （8 家田真樹／1回）循環器内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （91 関根郁夫／1回）腫瘍内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （350 森島祐子・141 檜澤伸之／1回）（共同）呼吸器内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （37 小田竜也／1回）悪性腫瘍学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （293 鄭允文／1回）再生医学について概説し、国内外の研究動向について説明する。  （86 正田純一／1回）分子スポーツ学について概説し、国内外の研究動向について説明する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	創薬概論	<p>各製薬企業が新薬を上市するまでにどのようなプロセスを経る必要があるのか、また各社に特徴的な創薬戦略について学習する。また、感染症に対するワクチンの開発と実用化について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（611 宮前友策／2回）創薬プロセスおよび創薬研究に関する講義を  （673 保富康宏／4回）創薬における実験動物研究の重要性およびワクチン開発の現状に関する講義を行う。  （668 杉山哲也／4回）創薬におけるオープンイノベーションに関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	食品科学概論	<p>食品科学は食品を対象とした学問であり、扱う研究分野は非常に広範囲である。また、食品科学に関する研究は日々進歩しており、過去の事例から最新情報まで広くフォローする必要がある。本講義では、食品科学技術に関して、物理的、化学的、生物学的、生化学的、工学的アプローチに基づき、基礎から先端応用まで概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（536 礪田博子／3回）栄養的価値、健康への有益な効果を持つ機能性食品に関して研究の基礎と最前線について説明する。  （585 坂本和一／2回）遺伝子栄養学基礎：脂質代謝、骨代謝、色素代謝、炎症などに対するファイトケミカルの働きと制御機構を分子生物学的視点から説明する。  （610 MARCOS ANTONIO DAS NEVES／3回）食品加工などにおけるその化学特性に関する講義を行う。  （539 市川創作／2回）食品加工時または食品の消化などにおける物理化学特性に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	バイオリソース概論	<p>本講義ではライフサイエンスイノベーションの推進におけるバイオリソースの重要性とバイオリソースセンターの役割について理解を深めることを目指す。そのために動植物個体、細胞、微生物リソース、及び関連技術、付随情報について、スペシャリストによる講義を受ける。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（631 高橋真哉／2回）生命科学研究におけるモデル生物とバイオリソースについて概説する。  （666 小林正智／2回）リソースセンターの役割（法令遵守と規則、質保証）について概説する。  （674 吉木淳／2回）疾患研究におけるマウスリソース（マウスリポジットリ）について概説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(648 中村幸夫/2回) 疾患研究における細胞リソース (細胞バンク) について概説する。 (661 大熊盛也/2回) 微生物リソースと多様性 (微生物コレクション) について概説する。	
	自然史概論	動物学と植物学における研究例のいくつかを紹介し、自然史研究について概観できるようになることを目指す。各分野での概論を講義した後、動物学分野では、動物の進化における寄生生物の発生、寄生蠕虫類・動物地理学・生物多様性の研究、寄生蠕虫類の分類と多様性について講義を行う。寄生蠕虫類の分類については実習を行い、その理解を深める。植物学では、植物におけるフラボノイド化合物の特性と分布、コケ植物の生態学・形態学、コケ植物の分類学について講義を行う。コケ植物の分類学については実習を行い、その理解を深める。	講義：7.5時間 実験・実習：15時間
	バイオインフォマティクス基礎	本科目では、バイオインフォマティクスに関する基本的な事項を学ぶ。データプロセッシング、シーケンス解析、データ可視化、ネットワークとグラフ、クラスタリング、スーパーコンピュータと並列計算に関する講義に加えて、計算機を利用した演習を通して、基礎理論や実践的手法の理解を深める。	講義：7.5時間 演習：7.5時間
	医薬品・食品マネジメント学	近年、ライフサイエンス分野の研究成果を基にした製品開発や製品化に関しては、知的財産権の管理が重要になってきている。今後は当該分野の研究者も、これらに関する知識を持ち、自身でもその管理に関わることが課題になっていくと考えられる。本科目では、4人の第一線の専門家により、医薬品・食品ビジネスマネジメントに関わる知財管理、運用、投資について、創薬・機能性食品・薬用化粧品開発の実例を提示してもらい、理解を深める。  (オムニバス方式/全10回)  (692 秋元浩/4回) 知的財産に関する基礎・応用について説明する。さらに、その実際について、研究開発と知財戦略の融合、ライフサイエンス分野の経営管理の観点から説明する。 (707 寺崎直/2回) 特許制度の概要と医薬品・食品の特許管理について説明する。 (717 山本信行/2回) 製薬会社における戦略計画立案とプロジェクト管理について説明する。 (580 柏木健一/2回) 機能性食品のビジネスモデル、機能性食品市場参入の障壁について説明する。	オムニバス方式
	レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンスは、科学技術基本計画において、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。本講義においては、日本およびヨーロッパにおいて、レギュラトリーサイエンスが、医薬品および医療機器の有効性、安全性、質の保証において果たす重要な役割について、概説する。  (オムニバス方式/全10回)  (687 Le Gal Fontes Cecil/5回) 医薬品・食品のサーキットと規制に関する講義を行う。 (688 RAGE ANDRIEU Virgnie/5回) 欧州連合における健康製品と食品市場に関する講義を行う。	オムニバス方式
	ライフイノベーション実習	ライフサイエンス分野の国立研究開発法人 (理化学研究所、産業技術総合研究所、物質材料研究機構など) および製薬企業の研究所を見学する機会を提供する。さらに、各研究所における先端研究に関する講義を行う。学生は、各研究所の研究への独自の取り組み方を学習し、学習した成果をレポートにまとめる。学習成果は学生の研究活動に活かされるだけでなく、大学院修了後のキャリアパスを考える材料となることを目的とする。	講義：3時間 実験・実習：24時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ライフイノベーションチーム型演習	本科目は、ライフサイエンスに基づいてアプローチ可能な実社会の中の問題を見つけ出し、プログラム内の異分野の研究を行う学生との協働作業により解決策を提案する演習科目である。本演習を通してイノベーションに必要とされる社会的ニーズの的確な把握と、関連する他分野の専門家との共同作業を行うための能力を養成する。具体的には、ライフサイエンス研究における方法やアプローチ、特許調査の重要性と特許出願、新規研究プロジェクトの計画において必須とされる知識・スキルなどを講義する他、受講者によるプレゼンテーションや受講者同士でのディスカッションなどを行う。	
	責任ある研究行為：基盤編	研究活動を行うにあつては研究倫理規範に精通していることが必須である。本コースは、一般財団法人構成研究推進協会（APRIN）が提供するe-ラーニングを利用することにより、学生は責任ある研究行為について理解する。「責任ある研究行為：基盤編（RCR）」を受講し、研究における不正行為、データの扱い、共同研究のルール、利益相反、オーサーシップ、盗用、社会への情報発信、ピア・レビュー、メンタリング、公的研究費の取扱いについて学ぶ。	
	博士前期ライフイノベーションセミナー	本授業では、海外の協力教員が、ライフサイエンスにおける基礎から最先端の研究トピックに関するセミナーを行う。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、「どのように経歴を伸ばすか？」や「論文を書くこと、審査プロセス、エディターやレフェリーの見方からみえるもの」について学び、研究者の資質、研究者に必要なプレゼンテーション、ディスカッション、コミュニケーション能力などを学生が獲得することを目的とする。	
	博士前期インターンシップ I	一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の人も協働できる能力、新たな問題に対する対応力を養い、社会人としての実践力を修得する。	
	博士前期インターンシップ II	前期課程における研究に関連する課題の分野横断的な解決の糸口を見つけることを目的として、一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の人も協働できる能力、新たな問題に対する対応力を養い、社会人としての実践力を修得する。ライフイノベーション博士前期研究 I 春およびライフイノベーション博士前期研究 I 秋を履修していることを履修の条件とする。	
専門科目（共通）	ライフイノベーション博士前期演習 I 秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する論文の内容について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における基礎知識を身に付けるためのトレーニングを行う。	
	ライフイノベーション博士前期演習 I 春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する論文の内容について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における国内外の研究情勢を調査するためのトレーニングを行う。	
	(ライフイノベーション博士前期演習 I 秋, 春の担当教員)	(660 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (648 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (183 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (673 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	各自が所属する所属研究室において、研究計画を立案し、研究の遂行に必要な基礎的な研究スキルを身に付けつつ、研究を進める。研究の進捗状況をプレゼンテーションし、議論を深めることにより、研究の軌道修正を行う。	
	ライフイノベーション博士前期研究I春	各自が所属する所属研究室において、立案した研究計画に基づき、研究を進める。研究の遂行に必要な研究スキルおよび知識を明確にし、その習得に取り組む。研究の進捗状況をプレゼンテーションし、議論を深めることにより、研究の軌道修正を行う。	
	(ライフイノベーション博士前期研究I秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患関する研究指導を行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chip デバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	
	ライフィノベーション博士前期演習II秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する最新の学術論文について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における最新の研究知識を身に付ける。	
	ライフィノベーション博士前期演習II春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する最新の学術論文について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における国内外の研究情勢を理解する。	
	(ライフィノベーション博士前期演習II秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフインベーション博士前期研究II秋	各自が所属する所属研究室において、研究活動を行い、研究の進捗状況を随時ディスカッションし、研究の軌道修正を行う。修士論文または特定課題研究報告書の完成に向けて、執筆活動に取り組む。	
	ライフインベーション博士前期研究II春	各自が所属する所属研究室において、研究活動を行い、研究の進捗状況を随時ディスカッションし、研究の軌道修正を行う。得られた研究成果は学会発表や論文発表により社会に発信する。得られた研究成果を学会発表や論文発表により社会に還元する。	
	(ライフインベーション博士前期研究II秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患に関する研究指導を行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(536 磯田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chipデバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	
専門科目 (病態機構)	疾患の分子細胞生物学I	<p>本授業は、分子生物学・細胞生物学の基本原則と疾患制御へのつながりを概説する。転写制御からin vivo疾患モデルまでを取り上げ、生物学的プロセスへの洞察、そして生物学的メカニズムが疾患や生理機能に対してどのように根本的に関わっているかを説明する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(683 Jane Mellor/2回) クロマチン、転写とRNA生物学、老化と応用目的としての老化防止合成物のスクリーンに関する講義を行う。</p> <p>(684 Panagis Filippakopoulos/2回) ケミカルバイオロジーとエピジェネティック制御、タンパク質ファミリーの構造解析に関する講義を行う。</p> <p>(686 Lionel Larue/2回) 上皮間葉転換、疾患のマウスモデルに関する講義を行う。</p> <p>(679 Eirikur Steingrimsdottir/2回) モデルシステムとしてのショウジョウバエ、全国民のハイスループットシーケンシングとアソシエーション研究に関する講義を行う。</p> <p>(686 Lionel Larue, 679 Eirikur Steingrimsdottir/1回) (共同)メラニン細胞系譜の発生とゲノム編集テクノロジーの応用に関する</p> <p>(682 Colin Goding/1回) 生理学およびがん幹細胞に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	疾患の分子細胞生物学II	<p>本授業は、疾患の分子細胞生物学Iと相補的な授業として行う。講義は、がん細胞生物学から代謝の制御解除とがんの関係までを取り上げ、これらの研究領域における最先端の情報を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(682 Colin Goding/2回) 侵入と休止状態の進化のドライバーに関する講義を行う。</p> <p>(684 Panagis Filippakopoulos/2回) がんの標的検証に関する講義を行う。</p> <p>(685 Mads Gyrd-Hansen/2回) ユビキチンシステム、健康と病気におけるホスト-病原体相互作用と炎症に関する講義を行う。</p> <p>(680 Eric O'Neill/2回) 環境放射線によるDNA損傷と修復、栄養ストレスが引き起こす細胞シグナリングに関する講義を行う。</p> <p>(681 Custodia Garcia Jimenez/2回) 栄養、代謝とシグナリング、がんにおける制御解除された代謝に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	細胞制御論	<p>再生医療、発生生物学、幹細胞生物学、がん生物学に関する最先端の研究内容を取り上げ、疾患への治療と創薬への応用について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu/2回) ヒトの細胞老化メカニズムの基本的な理解、発癌の基本的な理解と細胞老齢への関わりに関する講義を行う。</p> <p>(641 伊藤弓弦/2回) ヒト幹細胞の品質管理、発生生物学から考えるiPS/ES細胞研究に関する講義を行う。</p> <p>(652 久野敦/2回) 糖鎖の基礎、糖鎖バイオマーカーのインパクトと診断薬開発への応用に関する講義を行う。</p> <p>(676 桑原知子/2回) 成人神経発生と神経変性疾患に関する講義を行う。</p> <p>(293 鄭允文/2回) 病通常および腫瘍組織中の幹細胞、再生医療と抗癌標的療法における幹細胞に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (創薬開発)	創薬化学概論	<p>本講義では、有機化学、ケミカルバイオロジー、薬理学の基礎、ならびにこれらに基づく新薬開発への応用例を概説する。具体的には化学構造、官能基、反応、分子設計、合成を中心として、創薬に必要な有機化学について説明するとともに、化合物スクリーニング、標的同定、リガンドおよび受容体相互作用について講義する。さらに薬物の作用様式と作用機序、in vitroからin vivo薬理の基礎、ならびに薬剤の生体機能への作用について特定の疾患に焦点を絞り解説した後、創薬開発の実践について紹介する。</p> <p>(オムニバス形式全10回)</p> <p>(246 杓村憲樹/1回) 創薬化学の為の有機化学について講義を行う。  (526 山本直司/1回) 有機化合物の構造について講義を行う。  (627 大好孝幸/1回) 有機合成における化学結合と反応について講義を行う。  (615 吉田将人/1回) 生物有機化学、特に分子設計、合成、活性評価について講義を行う。  (459 斉藤毅/1回) 有機化学からケミカルバイオロジーへの展開について講義を行う。  (635 南雲陽子/1回) 標的の同定や化合物スクリーニングにおけるケミカルバイオロジーについて講義を行う。  (611 宮前友策/3回) リガンド-受容体相互作用やタンパク質間相互作用について講義を行う。  (483 南雲康行/1回) 基礎薬理学への導入について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	創薬トランスレーショナルサイエンス	<p>トランスレーショナルサイエンスでは、創薬の過程において、非臨床段階で得られた知見を効率良く、迅速に臨床段階へ橋渡しすることを目的としている。当該領域において重要な研究ツールであるPET、CT、MRI等のバイオイメージング手法は、動物とヒトで試験プロトコールが類似していること、同一個体において長期的試験が可能なこと、生体において視覚的・定量的なデータが得られること、非侵襲的技術であることなどの利点を有している。本講義では、これら手法の原理、創薬開発における解析例を概説するとともに、研究開発の最前線における経験や、創薬の魅力伝える。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(611 宮前友策/2回) 生体における薬理作用の可視化、創薬開発研究に向けたイノベーション・マネジメントに関する講義を行う。  (650 宮田桂司/2回) 企業における創薬開発を実例としてトランスレーショナルサイエンスについて説明する。  (669 須藤勝美/2回) トランスレーショナルサイエンス研究に関する講義を行う。  (678 村上佳裕/2回) バイオイメージングにおけるトレーサー化学に関する講義を行う。  (654 野田昭宏/2回) バイオイメージングの原理およびデータ解析、品質管理に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬剤設計工学	<p>薬剤設計工学の基礎となる物理化学と材料科学について学ぶ。また、薬剤設計に必要な薬物動態と薬剤アッセイ法について講義する。さらに、関連分野の先進的な研究や最先端技術についても紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(539 市川創作/2回) 薬剤設計における物理化学に関する講義を行う。  (670 陳国平/4回) 薬剤設計における物質科学および関連する先端研究に関する講義を行う。  (662 金森敏幸・667 杉浦慎治/4回) (共同) 薬剤設計におけるin vitro解析および関連する先端研究に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程／一貫制博士課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学 院 共 通 科 目	生命・環境・研究倫理科目群 応用倫理	<p>Situational ethical principles such as research ethics for research laboratories and medical ethics for hospitals do not always correspond well each other in giving us a clear direction in pursuing the best quality of life in modern society. Rather than taking individual principles for granted, this course attempts to understand how we may disentangle somewhat conflicting ethical principles. In so doing, this course provides unique perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns.</p> <p>研究倫理や医療倫理など状況に特化した倫理原理は、必ずしも相互に補完する関係にないため、現代社会の中で最善の質を求めるための明確な指針とはなっていない。こうした絡まった倫理原理を解きほぐすことを試みる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（627 松井健一／7回） Provides perspectives to ethical principles by incorporating cultural and historical contexts of human rights and environmental concerns. 文化や歴史的な文脈から人権や環境に関する問題も含め、応用倫理のための視点を醸成する。</p> <p>（686 大神明／1回） Provides perspectives of industrial doctors and considers ethics related to risks. 産業医の視点からリスクに関わる倫理的な問題を提起する。</p>	集中 オムニバス方式
	環境倫理学概論	<p>Environmental ethics helps us not only think about interpersonal relations in society but also the ones between people and the natural environment. This expansive scope helps us see our daily activities, ethical or not, within ecosystems or biotic communities. This course invites students to think about a need to establish a universally applicable ethical principle/ law for global citizens to tackle with environmental problems. To answer this question, it introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities.</p> <p>環境倫理は、社会における対人関係だけでなく、人と自然環境の関係について考える助けとなる。こうした広い視野を持つことで、我々は生態系の一部として日々の活動が倫理的かどうかを考えることができる。この授業では、学生に対し世界市民として、環境問題を解決するため、ユニバーサルな倫理大綱や法律を構築する必要性について考えてもらう。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（627 松井健一／7回） Introduces many environmental ethical ideas related to biodiversity, bioethics, animal rights/ welfare, and household activities. 生物多様性や生命倫理、動物の権利・福祉、生活者のための環境倫理を紹介する。</p> <p>（601 渡邊和男／1回） Introduces ethical principles related to international environmental law. 国際法に関する環境倫理原理を紹介する。</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究倫理	<p>研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。</p> <p>本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習（個別演習・グループ演習）を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正（FFP）、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動を取りまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（632 岡林浩嗣／9回）上記の講義を行う。演習においては、ワークシートを用いて自らの研究活動の構造を分析した上で、研究倫理上の問題点とその背景について討議する。さらに、研究不正を防止するために必要な施策について討議を行い、グループ単位での発表とその指導を行う。</p> <p>（687 大須賀壮／1回）理化学研究所における研究管理状況をふまえて、適切な実験ノートの取り方について講義を行う。また、演習の際に岡林と合同でグループ討議の指導を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間
	生命倫理学	<p>遺伝子治療、臓器移植、人工臓器、生殖医療、遺伝子診療、薬物やその他の治療法の治験などの現代の医療や医学研究には、インフォームドコンセント、個人の尊厳やプライバシー、脳死判定やリスクマネージメント、治療停止の選択など生命倫理にかかわる多くの問題を含んでいる。現代医療が抱える生命倫理諸問題の基礎知識、基本的考え方を習得するとともに、実例により学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全10回）</p> <p>（503 菅野幸子／1回）テーマとして「生命倫理とその歴史」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（336 柳久子／1回）テーマとして「予防医学における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（288 西村健／1回）テーマとして「再生医学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（224 川崎彰子／1回）テーマとして「生殖医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（583 杉山文博／1回）テーマとして「動物実験と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（689 木澤義之／1回）テーマとして「緩和医療と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（404 高橋一広／1回）テーマとして「臓器移植と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（692 宗田聡／1回）テーマとして「遺伝学と生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（182 我妻ゆき子／1回）テーマとして「国際保健における生命倫理」について取り上げ、講義を行う。</p> <p>（117 野口恵美子／1回）テーマとして「医学・医療の倫理」について取り上げ、講義を行う。</p>	オムニバス方式
	企業と技術者の倫理	<p>多くの技術者は企業に属し、その中で社会とビジネス的な関わりを持ちながら仕事を行っている。本講義では、具体的事例や現場の声を取り上げながら、企業における技術者の倫理について議論する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（605 掛谷英紀／7回）技術の社会的役割の変遷について講義を行う。併せて、「東日本大震災と今後の防災・エネルギー」、「企業不正のグレーゾーン（Facebook、NHK受信料等）」の2つのグループ・ディスカッションを行い、21世紀の「人に役立つ技術」を考える。</p> <p>（693 西澤真理子／3回）実際の企業現場の事例を取り上げながら、「企業のリスクコミュニケーション」について講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 9時間 演習 6時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	事実やデータに基づいて行われる情報発信であるテクニカルコミュニケーションを円滑に行うための基本を、講義と演習で修得する。講義では、発信する内容を組み立てるための発想法の活用法、誰にでも一通りに伝えるための文法、レイアウトデザインの基礎理論、文字と絵の役割の違いなどをあつかう。さらに、語彙を豊富にするための演習、物事を数多くの視点から説明するための演習、専門用語に頼らずに内容の本質を伝える演習などを通して、テクニカルコミュニケーションを実践的に学ぶ。	集中 講義10時間 演習 5時間
	英語発表	This course provides an overview of basic techniques for public speaking and presentations in English. Students are then given ample opportunity to practice these techniques in front of the class.  本講義ではコミュニケーションの基礎理論、英語でのパブリック・スピーキング、プレゼンテーションの技術の修得を目標とする。また、学んだ理論・技術を応用活用する経験として、実際に聴衆を前にしたプレゼンテーションをおこなう。	集中 講義10時間 演習 5時間
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	プレゼンテーションの初歩から中級までを対象とし、異分野学生それぞれによるプレゼンテーションをベースに現代に必要なアカデミックスキルを磨くことを目的とする。参加者が異分野の学生との協働によってアイデアを出し合い、新しいコンテンツの作成に向かって協働することで、異なる領域の知識や技術を互いに理解しコミュニケーション能力を高める。演習トラック毎によって設定する目標を決め、それに従ってコンテンツを実際に作成する。時にドラマレッスンを盛り込む。	集中
	Global Communication Skills Training	Precise communication with people having diverse perspectives and personalities is the key to building relationships, and success. Through practices of communication, including effective listening, effective presentation, assertive communication, we help you learn and practice communication methods. You should be prepared to have open and active class participation and require a certain level of English skill.  対面でのコミュニケーションのスタイルには、人それぞれに個性があります。どのようなコミュニケーションスタイルを持つ相手とも正確に情報を伝達しあうことが、信頼を得て成功するための鍵になります。この授業では、情報を効率よく受け取ったり、正確に話すための練習を通して、コミュニケーション力を高めます。受講するためには、ある程度の英語力が必要です。また、受身ではなく発言や議論を通して積極的に授業に参加することが求められます。	集中 講義 7時間 演習 8時間
	サイエンスコミュニケーション概論	サイエンスコミュニケーション (SC) とは「難しく敬遠されがちなサイエンスをわかりやすく説明することである」という理解はきわめて一面的である。SCの対象は科学技術分野の専門家、非専門家を問わないため、「サイエンスの専門家と非専門家との対話促進」がSCであるとも言いきれない。広い意味でのSCとは、個人ひいては社会全体が、サイエンスを活用することで豊かな生活を送るための知恵、関心、意欲、意見、理解、楽しみを身につけ、サイエンスリテラシーを高め合うことに寄与するコミュニケーションである。そのために必要なこと、理念、スキルなどについて概観する。	集中
	サイエンスコミュニケーション特論	現代社会は科学技術の恩恵なくして成り立たない。科学技術はわれわれの生活に深く根ざしており、よりよい社会を築いていくためには一人でも多くの人が科学技術との付き合い方に関心を向けることで、社会全体として科学技術をうまく活用していく必要がある。そのためには様々な立場から科学技術についてのコミュニケーションをし合うことで科学技術を身近な文化として定着させ、社会全体の意識を高める必要がある。このような問題意識から登場したのがサイエンスコミュニケーションという理念である。この理念が登場した背景を知ると同時に、方法論としてはどのようなものがあるのかを議論しつつ、コミュニケーションスキルの向上も目指す。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	サイエンスコミュニケーター養成実践講座	<p>主として、自分の専門の科学を一般の人々にわかりやすく伝えられるコミュニケーション能力の養成を中心に、国立科学博物館の資源や環境を活用した理論と実践を組み合わせた対話型学習で進める。</p> <p>理論面では、サイエンスコミュニケーションとは？サイエンスとは？といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・大学・博物館など、各機関・領域で活躍しているサイエンスコミュニケーターの実践を踏まえた理論を学習する。また、様々な人々に科学を伝える際に効果的なプレゼンテーションの方法について学修する。</p> <p>実践面では、ライティングに関する課題を通じた文章の書き方や表現方法の学習、国立科学博物館の展示室における来館者との双方向的な対話を目指し、自らの専門分野についてのトークを作成・改善・実施・考察する。</p>	集中
	人文知コミュニケーション：人文社会科学と自然科学の壁を超える	<p>哲学、歴史、文学、言語学、社会科学、地域研究などの人文社会分野における学術研究の成果をどのように社会に伝え、人々の知的好奇心を呼び起こし、当該学問分野の社会的認知度を如何に向上させるか、その考え方、方法、それらを担う人材に求められる必要なスキルなどについて学ぶ機会を提供する。人文社会分野における「学問と社会を結ぶ」ためのスキルを磨くための内容を含む。加えて、現在発展が著しい人文社会分野における最先端機器を駆使して行う研究は多くの学術的成果を生み出しており、その魅力は計り知れない。このような最先端研究に基づく解析法は自然科学分野の最先端技術を活用したものでもあり、ここに人文社会科学と自然科学の接点があり、分野融合の意義、有用性、重要性を含めた科学の現状を多くの大学院生に紹介するための科目とする意図も企画者側にある。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(567 池田潤／4回) 「文芸・言語学、世界と地域の文化・歴史、世界と地域の社会科学に関する人文社会科学知見に関して、自然科学と最先端科学技術を駆使する成果がどのように活かされているかについて、その相関を俯瞰しつつ解説し、人文社会科学と自然科学・工学的技術の融合の重要性」について講義を行うことで人文社会科学における自然科学基礎的・応用的知的基盤の重要性について学習する。</p> <p>(572 大澤良／4回) 「生物多様性、生物の地理的拡散、有用植物や作物の地理的分布などに関する自然科学的研究成果をベースに、それらが人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかなどの人文社会科学知見を加えて分析し、自然科学と人文社会科学的要素がどのように融合・連関をなしているか、その相関を俯瞰しつつ解説し、自然科学と人文社会科学の融合の重要性」について講義を行うことで自然科学の視点から自然科学の基礎的・応用的知的基盤がいかに人文社会科学に重要な役割を果たしているかについて学習する。</p> <p>(691 白岩善博／2回) 「自然科学研究の成果を基盤に、最先端研究成果を如何に社会に広報、拡散、応用するかなどに関して、サイエンスコミュニケーションやトランスフェラブルスキルを駆使して、自然科学的研究成果が人間及び人間の生活とどのようなかかわりを有してきたかを解説し、自然科学の科学的・技術的成果をどのように社会に導入するかの方法論」について講義を行い、さらにそのスキルアップをどう図るかを学ばせることで、大学院修了後のキャリアパスにそれをどう生かすかに関して学習する。</p>	集中 オムニバス方式
国際性養成科目群	21世紀的中国 —現代中国的多相—	<p>巨大な隣国である中国は、1976年の文化大革命の終結以降、経済の改革開放政策の成果により、大きな変貌をとげた。21世紀初頭の今、ますます存在感を増した中華人民共和国の現在の諸相を、学生にとって身近な目線で講じる。中国と日本の関わりを実際の動きの中で捉えていくことを目論む。</p> <p>現在中国との関わりの深い筑波大学OBを講師とし、現代中国の文化、社会、経済、環境、日中翻訳など、様々な観点から、現場に立つ講師ならではの姿を描き出す。既成の学問の枠で説明されたものを理解して満足するのではなく、実社会の動きの中で課題を捉え、みずから解決していくために何が必要か、講義中から受講者自身で考えだすことを望みたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際研究プロジェクト	<p>学生自らが海外の大学・研究機関における専門および関連分野の研究計画を企画し実現することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受け入れ先の開拓、海外渡航の手続き、海外での研究・実習、受入先でのコミュニケーション、海外での生活等を経験することで、英語によるコミュニケーション能力・国際性・研究マネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。</p>	
	国際インターンシップ	<p>学生自らが国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関で主催される各種トレーニングコースを開拓し参加することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受入先との調整、海外渡航の手続き、海外での職業体験、受入先でのコミュニケーション、海外生活経験を通して、コミュニケーション能力、国際性、キャリアマネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。</p>	
	地球規模課題と国際社会:食料問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中でGoal 2 &amp; 12に関連した、国際社会が直面する「食料問題」について取り扱う。世界の人口動態と食料生産・消費動向、植物育種新技術、食料生産新技術、植物防除新技術などについての講義を通して国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 13 &amp; 14に関連した、国際社会が直面する「海洋環境変動と生命」について取り扱う。CO2濃度上昇に関わる地球規模環境課題、海洋酸性化、地球温暖化による生物影響、北極・南極の海氷融解などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（570 稲葉一男／5回）「海洋生物、特に海洋動物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。</p> <p>（691 白岩善博／5回）「海洋生物、特に海洋植物・藻類の光合成生物や光合成機能を有する微生物に関する形態学、生理学、生化学、分子生物学的手法を駆使した最先端の科学的知見を基盤に、地球規模かつローカルな海洋環境の変化を海洋動物がどのような仕組みで感知するか、さらにその環境変化によってどのような生物学的変化を引き起こすか」について講義を行うことで地球規模の海洋環境変動が生命に与える影響について学習する。</p>	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会:社会脳	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」の中で、主として、Goal 3 &amp; 4に関連するが、社会性や共生という観点から現代に生きる人類に共通する課題とそれに対する取り組みの方向性を提起する先端的な講義を展開する。</p> <p>国際社会が直面する「社会性の変容」に起因する様々な問題を「社会脳」として新たな分野を創成しそれを取り扱う。</p> <p>個別課題として、社会性の発達と環境、社会認知の脳内基盤、高齢者の認知機能などについて講義する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「感染症・保健医療問題」について取り扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(525 福重瑞徳/全5回) 「持続可能な開発目標（SDGs）」、「感染症」、「プロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）手法」をテーマに講義を行い、また、学生はPCMを用いた国際保健に関するプロジェクト形成・発表を行う。</p> <p>(182 我妻ゆき子/全3回) 「国際保健とその歴史」、「人口・リプロダクティブヘルス・栄養」、「慢性疾患とリスク」をテーマに講義を行う。</p> <p>(59 近藤正英/全2回) 「途上国における保健医療問題と優先付け」、「途上国における保健医療制度・医療経済」をテーマに講義を行う。</p>	集中 オムニバス方式
	地球規模課題と国際社会：社会問題	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」を地域自立と振興の観点から全て網羅する課題である「社会問題」について取り扱う。</p> <p>発展と持続性に関し、天然資源、環境保全、及び経済発展を軸として、国家としてのガバナンス、国家間の懸案事項、ボーダーレス社会での“歪み”、非政府組織や先住民族の存在によるグラスルートでの課題対応をグローバルに概論する。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「環境汚染と健康影響」について取り扱う。</p> <p>国際的汚染問題の概要、ナノ粒子、外因性内分泌攪乱化学物質、環境中親電子物質、エクスポソーム、カドミウム、ヒ素、有機ハロゲン化合物、メチル水銀、トリブチルスズなどの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
	地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標（SDGs）」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、Goal 7, 9 &amp; 13に関連した、国際社会が直面する「環境・エネルギー」について取り扱う。</p> <p>太陽電池、燃料電池、人工光合成、ナノエレクトロニクスによる省エネルギー、パワーエレクトロニクスによる電力制御、核融合発電などの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	集中
キャリア ア マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	JAPICアドバンストディスカッションコースI-流動化する世界とこれからの日本	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>世界が益々流動化する中で日本の現状と課題を再確認すると共に、今後の変化に対応する為になにが必要か検証・議論することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中
	JAPICアドバンストディスカッションコースIII-テクノロジーとグローバルで拓く未来	<p>最新の社会問題、国際問題、ビジネス上の課題を対象に議論を行うため、産業界のトップリーダーを講師として招聘する。</p> <p>グローバルとテクノロジーについて、実ビジネスの観点から議論し学習することで、社会人基礎力として重要なさまざまな能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>事前学習を通じて情報収集力を、授業時間中の議論を通じてディベート力を、レポート作成を通じてまとめる能力を身につける。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	<p>産業化、技術革新、国際化による変化にともない、人々の生活や働き方、人間関係にもさまざまな変化が生まれています。本科目では、さまざまな属性や特徴を有する個人がどのように「仕事と生活の両立（ワークライフバランス）」を図りながら人生を生きるのか、なぜ男女共同参画やダイバーシティ（多様性）を推進する必要があるのか、その方法と意味を理解することを目指します。特に近年のダイバーシティ推進の重要なトピックである「SOGI」「LGBT+」に代表されるセクシュアル・マイノリティについて集中的に授業を行います。</p> <p>くわえて、授業ではダイバーシティ推進に欠かせない実践力（グループワークにより聴く力、伝える力、情報収集力、マネジメント力等）を身につけることも目標とします。</p>	集中 講義7.5時間 演習7.5時間
	ワークライフミックス – モーハウスに学ぶパラダイムシフト	<p>仕事と私生活を調和した新たなビジネススタイルである、「ワークライフミックス」を講義の基本テーマとして取り上げることで、新たな価値創造の基礎となるアントレプレナーシップや、多角的思考からワークライフを捉え、受講者のキャリアマネジメント能力の向上を図る。</p> <p>また、「ワークライフミックス」を実践している企業である「モーハウス」を事例として取り上げることで、ワークライフに関わる物の見方と考え方を習得し、受講生が自分の仕事や今後のライフプランについて、多様な角度から思考できるようにする。</p>	集中
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	<p>気象、地質、岩石、昆虫、植物、菌、微生物、内燃機関といった、「生物」と「地学」を合体した内容をフィールドワーク重視の実習形式で実施することにより、受講者が将来理科教員になった場合に役立つ実践的な実習・実験の高度専門知識を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(602 上松佐知子/1回) フィールドでの化石探索を通し、地球の歴史に関する実習を行う。  (586 田島淳史/1回) 「食べものを作る動物たち」をテーマに実習を行う。  (619 野口良造/1回) 「内燃機関の原理と組み立て」をテーマに実習を行う。  (574 戒能洋一・611 澤村京一・616 中山剛・635 八畑謙介/1回) (共同) 「生物に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。  (592 久田健一郎/1回) 「地質調査入門」をテーマに実習を行う。  (597 山岡裕一/1回) 「微生物（菌類）に関するフィールドワーク」をテーマに実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 共同（一部）
	アクセシビリティリーダー特論	<p>障害のある人々が包摂された社会を実現するために、身体障害や発達障害といった様々な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行う。また、障害のある人への災害時支援や、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較や展開といったマクロな視点や今日的な話題を通して、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて考える力を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(91 竹田一則/1回) 「障害児・者支援の理念と背景」について講義を行うことで、障害者支援の現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。  (644 野口代/2回) 「障害児・者の現状および支援の流れ、支援体制」について講義を行うことで、支援領域（就学、生活、就職ほか）ごとの支援方法や支援体制について学ぶ。  (237 小林秀之/3回) 「視覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、視覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (128 原島恒夫/4回) 「聴覚障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、聴覚障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (420 名川勝/5回) 「運動・内部障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、運動・内部障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。  (209 岡崎慎治/6回) 「発達障害児・者の理解と支援」について講義を行うことで、発達障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(644 野口代／7回) 「障害のある人への災害時支援」について講義を行うことで、障害種別に災害時に留意すべき事項について学習する。</p> <p>(610 佐々木銀河／8回) 「障害のある人に役立つ支援技術」について講義を行うことで、最新の支援機器や支援技術について学習する。</p> <p>(610 佐々木銀河／9回) 「諸外国と日本における支援の比較と展開」について講義を行うことで、国際的な動向を踏まえた障害者のある人へのアクセシビリティについて学習する。</p> <p>(91 竹田一則・119 野呂文行／10回) (共同) 講義のまとめと討論を行うことで、これまでに学んだ障害の特性や、障害のある人のアクセシビリティを支援するための知識を表現できるようにする。</p>	
知的基盤形成科目群	脳 <span>の</span> 多様性とセルフマネジメント	<p>本学大学院生が産業界や地域社会で自身の能力を十分に発揮できるよう、自己および他者における脳の多様性を適切に理解することを通して、自身の特性に合ったセルフマネジメントスキルを身に付けることを目標とする。</p> <p>講義としては、発達障害から定型発達<span>の</span>連続体として捉えられる「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）」について概説する。加えて学業や日常生活において有効なセルフマネジメントテクニック・ツールを紹介する。</p> <p>演習としては、自身にはどのような特性があるかを客観視する個人ワークを行う。また自身の特性に合ったマネジメント方法を身に付ける。さらに社会で活躍する発達障害当事者をゲストスピーカーとして招き、自己および他者における脳の多様性を深く理解するための事例を提供する。</p>	集中 講義 9時間 演習 6時間
	生物多様性と地球環境	<p>本科目では、筑波大学と科学博物館筑波植物園の<span>コ</span>ラボレーションにより、生物多様性と地球環境についての理解を促進するための講義と展示・フィールドを利用した現場型の生物多様性・地球環境教育についてのフィールド実習を行う。</p> <p>有用植物の進化を実物で見ながら、植物の進化とは異なる人間の手が加わった栽培化シンドロームを実感してもらうことで、生物多様性の実体と生物遺伝資源について、自然科学的・社会科学的にとらえられるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全4回)</p> <p>(572 大澤良／1回) 「栽培植物の起源」についての講義と植物園見学を行うことで、多様性研究の意味について学習する。</p> <p>(685 海老原淳／1回) 「生物多様性ホットスポットとしての日本列島」をテーマとする講義と絶滅危惧であるシダ植物園見学・管理実習を行う。</p> <p>(690 國府方吾郎／1回) 「絶滅危惧植物と生物多様性」をテーマに植物園における社会発信と保全の見学、植物登録管理の実習を行う。</p> <p>(591 林久喜／1回) 「作物の多様性」をテーマに講義と実習を行う。</p>	集中 オムニバス方式 講義 7.5時間 実習 15時間
	内部共生と生物進化	<p>非常に多くの生物が、恒常的もしくは半恒常的に他の生物（ほとんどの場合は微生物）を体内にすまわせている。</p> <p>このような「内部共生」という現象から、しばしば新しい生物機能が創出される。共生微生物と宿主生物がほとんど一体化して、あたかも一つの生物のような複合体を構築する場合も少なくない。</p> <p>共生関係からどのような新しい生物機能や現象があらわれるのか？ 共生することにより、いかにして異なる生物のゲノムや機能が統合されて一つの生命システムを構築するまでに至るのか？ 共に生きることの意義と代償はどのようなものなのか？ 個と個、自己と非自己が融け合うときになにが起こるのか？ 共生と生物進化の関わりについて、その多様性、相互作用の本質、生物学的意義、進化過程など、基本的な概念から最新の知見にいたるまでを概観することで、そのおもしろさと重要性についての認識を共有することをめざす。</p>	集中
海洋生物の世界と海洋環境講座	<p>海は地球上の生命の源であり、生物の多様性を生みだしてきた。地球と我々人間を理解するためには、海洋生物に関する知識が不可欠である。</p> <p>本科目では魚類をはじめ、さまざまな海洋生物の体制、生殖、寄生種に関する観察や実験、講義を行うことにより、海洋生物の多様性および海洋環境についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>下田臨海実験センターにて実施することで、研究調査船による採集や磯採集など野外でのより実践的な実習も行う。</p>	集中 講義 4.5時間 実習 21時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	科学的発見と創造性	科学的発見がおこなわれる現場の歴史的状況を再現し、行為者の創造性がどのような形で発揮されたのか、「ハンソンの理論的負荷性」、「ニュートンの林檎と万有引力の理論」、「ゼメルヴァイスによる産褥熱の予防」、「ジョン・ドルトンと化学的原子論」等様々な事例研究を通じて解明する。 科学的発見が単なる偶然でも、幸運でもなく、周到に企図された創造性によるものであることを理解することを目的とする。	集中
	自然災害にどう向き合うか	国土交通省で活躍する有識者を講師として招聘し、災害列島とも言われる我が国の現状及び温暖化等により今後益々増加する災害リスクに対して、社会としてどのように対応するべきかを考える。 「総合的な津波対策」、「大規模土砂災害への対応」、「地震対策」等のテーマを通じて、防災施設の整備の状況、リスク等を踏まえた今後の社会資本整備のあり方について考え方が整理されること、個人や地域の核としての防災対応力を身につけることを目的とする。	
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	「考える」のは人間の特性である。人間は言葉を使って知性によって「考える」。だが「考える」とはどのような営為なのか、東西の哲学がどのように「考え」てきたのかを参照しながら「考える」ことについて「考える」。  (オムニバス方式/全10回)  (599 吉水千鶴子/2回) 仏教の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (566 井川義次/2回) 中国の思想を参照して「考える」ことについて考える。 (635 千葉建/2回) ドイツ哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (615 津崎良典/2回) フランス哲学思想を参照して「考える」ことについて考える。 (612 志田泰盛/2回) インド思想を紹介しながら「考える」ことについて考える。	集中 オムニバス方式
	21世紀と宗教	21世紀の現代社会の情勢は宗教と深く関わっており、複雑な国際情勢、テロなどの暴力と対峙せねばならない現代社会において、それを解く鍵ともなる宗教について正しい知識と理解を得ることは重要である。 当科目では、21世紀の現代社会の情勢と宗教とのかかわりについて、いくつかの事例を取り上げながら考察する。 宗教による対立や政治への介入は紀元前の昔から続いてきた人類の課題とも言え、その歴史や背景を正しく知り、現在のグローバルな社会において正しく対応するための知識と理解を身につけることを目的とする。  (オムニバス方式/全10回)  (576 木村武史/5回) 「先住民族の宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における先住民族宗教の意義について学習する。 (599 吉水千鶴子/5回) 「アジアの民族と宗教の関り」について講義を行うことで現代グローバル社会における伝統宗教の意義について学習する。	集中 オムニバス方式
身心基盤形成科目群	塑造実習	当科目は豊かな心、逞しい精神、豊かな人間力を涵養する大学院生のための塑造の実践講座である。作品鑑賞と、人物モデルを使用した粘土による頭像制作を行う。「デッサン」、「心棒組み」、「大掴みな土付け」、「量塊の構成」、「面と量塊」、「量感豊かな表現、比例・均衡・動勢について」といった制作に関する内容の学習を通して、立体的な形態把握と、これを表現する能力を養うことを目的とする。	隔年
	コミュニケーションアート&デザインA	授業の到達目標及びテーマ：現代アート全般、ビジュアルデザイン全般、陶磁、木工、構成学について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。  (オムニバス方式/全10回)  (639 上浦佑太/1回) (1) ガイダンス (578 國安孝昌/2回) (2) 総合造形の研究、(3) 総合造形の教育 (609 齋藤敏寿/1回) (4) 現代の実材主義的な造形	隔年 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(96 田中佐代子/1回) (5) ビジュアル・コミュニケーション・デザイン (621 原忠信/1回) (6) ブランディングデザイン (628 宮原克人/1回) (7) 木工・漆芸 (638 小野裕子/1回) (8) 特殊造形、環境とアート (534 Gary Roderick MCLEOD/1回) (9) 写真 (639 上浦佑太/1回) (10) 構成学	
	コミュニケーションアート&デザインB	授業の到達目標及びテーマ：環境デザイン全般、ガラス工芸、メディアアート、絵本や漫画について概説し各諸分野の位置付けを明らかにする。  (オムニバス方式/全10回)  (555 山本美希) (1) ガイダンス (118 野中勝利/1回) (2) 市民参加によるまちづくり (144 藤田直子/1回) (3) ランドスケープデザイン (631 渡和由/2回) (4) サイトプランニング、(5) 住環境の総合的デザイン (291 橋本剛/2回) (6) 快適な環境、(7) 伝統民家のデザイン (501 鄭然ギョン/1回) (8) ガラス (645 村上史明/1回) (9) メディアアート、テクノロジーと芸術 (555 山本美希/1回) (10) 絵本、マンガ、イラストレーション	隔年 オムニバス方式
	日本画実習	日本の芸術を理解し、生涯において楽しむことのできる豊かな人間性を涵養することを目的とする授業。日本画用の筆・和紙・絵具を用いた作品制作を通して、長い歴史に育まれた日本画への理解を深め、豊かなところを養う。必要に応じて、日本画の鑑賞について、材料や技法についての講義も織り交ぜる。グローバル化の中においては、世界を意識すると同時に日本の芸術文化に改めて注目し理解することが必要で、当科目はそのきっかけとなる。	隔年
	ヨーガコース	当科目は「ヨーガ行法の体系、歴史、思想（ヨーガの日本文化への貢献）」、「ヨーガの効果」、「社会的意義（環境思想への影響、自然科学思想への貢献）」といったヨーガ思想と技法の講義、「予備体操」、「アーサナ」、「呼吸法」、「冥想」の実習を行うことで、インドが生み出したヨーガを通じて、深く自己を掘り下げる東洋の実践的な身心思想を学び実践する。 健康でかつ不安や絶望に対処できる柔軟な身心と強い意志をもって、よりよい人生を築ける自己を養うことを目的とする。	集中 講義10時間 実習20時間
	絵画実習A	全人的な教養教育として、知識のみならず、自分自身の「手仕事」として「絵を描く」という体験は、作る楽しさや喜びを感じつつ、まさに芸術的感性を磨くことが可能である。 当科目は、芸術を楽しむ豊かな人間性を涵養するため、特に油絵具を使用し、制作・実習をおこなうものである。 様々なモチーフの写生などを通して、絵画表現に対する理解を深め、造形感覚を養うことも目的とする。	隔年
	現代アート入門	なぜこれが芸術なのか、現代アートは一見、普通の生活者に無縁のように感じられることが多い。しかし、難しい現代アートも勉強をすれば、誰にでもわかるものなのだ。そうした基礎的芸術教養を身に付ければ、「無用の用」である芸術は、一人ひとりの人生を豊かにしてくれるものになる。 この授業では、現代アートについて、作家としての体験的視点から、多くのヴィジュアル資料を見せながら、現代芸術の考え方（コンセプト）や大きな流れ（芸術運動史や主要な芸術家や作品）を知り芸術への理解を深めることを目的とする。対象は19世紀末から21世紀の現在までとする。	隔年
	大学院体育Ia	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレー、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育Ib	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Ic	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して豊かな心を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIa	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIb	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIc	人間性を高める契機としてスポーツを位置づけ、その活動を通して逞しい精神を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IIIc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の基盤作りのために自己とスポーツとのよい関係を築く。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	大学院体育IVa	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育IVc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活の実現のために自己とスポーツとの良い関係を継続させる。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Va	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。春学期および秋学期を通して継続的に学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、スポーツの種目特性およびつくば市の地域特性等を考慮して、水泳、テニス、バレエ、つくばマラソンを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vb	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の始まりならびに季節を踏まえて、春学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、ボディワーク、マリンスポーツ、日本の体育・スポーツ文化、ランニングの世界を各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	
	大学院体育Vc	よりよく生きるための契機としてスポーツを位置づけ、充実した研究生生活とスポーツライフの両立を通して自己を成長させ続ける力を養う。年度の後半ならびに季節を踏まえて、秋学期ならではの学修活動を行うことによって、教育目標の達成を目指す。コースは、各スポーツ種目の運動特性およびわが国の地域特性等を考慮して、器械運動、スノースポーツ、氷上スポーツを各コースとして開設する。またこの場合、各コースは自身のスポーツ実践によって得られる実体験を基礎として学修活動を展開するため、実技を中心に行われる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育学関連科目	教育学特論Ⅰ	教育学研究の課題と方法について、担当教員の専門領域を中心に、検討する。その上で、担当教員の指導の下で、博士論文の構想を作成する。併せて専門領域の最新の研究動向も検討する。なお、博士論文構想発表会で、その構想を発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	
	教育学特論Ⅱ	教育学の研究課題と方法について、論文の作成を通じて、検討する。本特論では、特に専門学会に投稿できる水準の論文の作成方法を学ぶ。そのために先行研究の検討、論文の課題の設定、研究課題に応じた方法の選択、論文の構成と一貫性などについて検討する。なお、作成した論文は、投稿形式論文発表会において発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	
専門基礎科目	教育学演習Ⅰ	担当教員の指導の下で、博士論文の構想と具体的な内容について検討を行う。構想については、研究の目的と方法、論文の構成、先行研究の検討、論文の概要、研究の成果について検討する。その概要については博士論文中間発表会で発表し、他の教員からも指導助言を受ける。	
	教育学演習Ⅱ	国際学会での発表を行えるような研究者としての知識と技能を養うことを目的とする。そのために、英文による論文作成のための基本的知識と技能の習得を図る。その成果として、海外での研究発表を行うこととする。	
	フィールドワーク研究	社会人の学生を対象に、現場でのフィールドワークの研究方法について修得することを狙いとする。そのために、学校、大学、職場等での、フィールドワークの意義、方法、具体的な手順等について、担当教員の専門領域に適した内容を習得する。	
専門科目	教育哲学研究法Ⅰ	教育哲学の思考法を理解するために、教育哲学における基本文献を講読し、研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための研究指導も併せて行う。講読する基本文献は、John Dewey, <i>Democracy and Education</i> (1916)とし、外国語文献を理解するための研究方法を理解するとともに、教育目的を内在的にとらえるデューイ思想に教育哲学的思考の一つのあり方を理解することを目指す。	
	教育哲学研究法Ⅱ	教育哲学の思考法を理解、深化するために、教育哲学と関連する諸分野（倫理学、政治＝社会哲学等）における基本文献を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を、教育哲学へと接合させる論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、John Rawls, <i>Theory of Justice</i> (1971)とし、現代政治哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、教育の課題との関連性について理解、考察を深めることを目指す。	
	教育哲学研究法Ⅲ	教育哲学の思考法を理解、深化させるために、近代教育学の探究の外に置かれた家庭をめぐる課題を探究する教育哲学研究を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を応用した論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、Harry Brighouse and Adam Swift, <i>Family Values</i> (2014)とし、現代教育哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、国家と家庭の対立の調停という教育哲学的課題の探究を深めることを目指す。	
	高等教育論研究法Ⅰ	質的研究法の基礎を学び、観察や面接などの実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータを用いて現象の説明を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、質的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	
	高等教育論研究法Ⅱ	量的研究法の基礎を学び、質問紙調査などの実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータを用いて仮説の検証を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、量的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高等教育論研究法III	比較教育学の研究方法を援用し、外国の大学を対象とする研究方法の基礎を学ぶ。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータの分析結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、比較教育学の研究方法を以て論文作成のための知識・技能を身につける。	
	日本教育史研究法I	日本教育史における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を設定し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム／オリエンタリズム／コロニアリズムとの結びつきを課題化する。	
	日本教育史研究法II	日本教育史における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるために研究動向を把握し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム／オリエンタリズム／コロニアリズムとの結びつきを調査する。	
	日本教育史研究法III	日本教育史における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究方法を構想し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム／オリエンタリズム／コロニアリズムとの結びつきを方法化する。	
	生涯学習・社会教育学研究法I	生涯学習・社会教育学に関する研究について、基本文献や最新の学術文献を購読するとともに、関連領域を含めた歴史、思想、法制度、政策、行財政などについて理解を深め、研究の基盤となる知見を習得する。そのうえで、それぞれの研究テーマに関わる先行研究について発表しあい、研究の到達点や残された課題、新しい研究方法や研究の視点などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	
	生涯学習・社会教育学研究法II	生涯学習・社会教育学に関する研究課題について、国内外の研究動向を踏まえながら、各自の課題意識や研究関心を探求し、研究テーマの検討を行う。そのうえで、それぞれの研究テーマについて発表しあい、問題の所在やテーマの妥当性、研究の意義などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	
	生涯学習・社会教育学研究法III	生涯学習・社会教育学に関する研究方法について、国内外の先行研究を踏まえながら、各自の研究テーマに即した方法論を検討する。そのうえで、それぞれの研究方法について発表しあい、課題と方法の整合性や理論的枠組みの考察、調査方法の正確性、仮説の設定と結論を導く論理構成などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	
	教育制度学研究法I	教育制度学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	
	教育制度学研究法II	教育制度学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	
	教育制度学研究法III	教育制度学における先行研究について検討する。研究課題を設定する際の先行研究の踏まえ方について適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究の枠組みについて発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校経営学研究法I	学校経営学についての基本文献を講読するとともに、戦後の学校経営に関する教育政策の歴史的展開をたどりながら、研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究的な関心について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の教育政策および研究の進展について討議し、学校経営学の最新の研究動向を把握する。これらのことを通して、各受講生が論文作成をおこなうための研究課題を明確にして、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	
	学校経営学研究法II	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題について発表しあい、それに関わる最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究方法の在り方を把握する。これらのことを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討して、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	
	学校経営学研究法III	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究を推進するための最先端の基礎概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題、ならびに研究方法の具体について発表しあい、同時に最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究課題と研究方法の在り方を把握する。これらのことを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討するとともに、論文全体の構成を吟味し、論文作成のための総合的な能力を育てる。	
	比較・国際教育学研究法I	比較・国際教育学における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究の系譜を学ぶとともに教育理念・思想、教育制度・政策、教育内容と方法などを研究対象とするさいに、比較・国際教育学の視座から設定できる研究課題の枠組みに焦点を当てて関連文献の検討を行う。さらに、比較教育学研究における研究者のアイデンティティとポジションナリティ形成に焦点を当てて、研究倫理に関する指導を行う。	
	比較・国際教育学研究法II	比較・国際教育学における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。特に、比較教育学研究の歴史的展開において各時代における研究動向を関連文献の検討を通して整理する。また、研究対象別に各時代、各地域の政治・経済・社会体制の違いによる研究動向の特徴を捉える。冷戦の終焉、グローバル化と新自由主義の進展が各国の教育に与える影響を分析する研究の標準化に関する批判的検討を行い、研究の独自性、学術的価値について議論する。	
	比較・国際教育学研究法III	比較・国際教育学における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究における質的調査と量的調査の特徴を把握し、研究対象の地域的、政治・経済・社会的特徴に対応した研究方法について関連文献の検討を通して議論する。研究対象に関わる一次資料の入手に必要な外国語運用能力、エスノグラフィー、ライフヒストリー、ライフストーリー、参与観察などの方法に求められる研究者ネットワークの課題について議論する。	
	教育社会学研究法I	教育社会学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	
	教育社会学研究法II	教育社会学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	
	教育社会学研究法III	教育社会学における国際的な研究課題とそのための研究方法について検討する。そのために適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	カリキュラム研究法I	「教育課程」や「学習指導要領」といった基本的な用語に関し、大学の学部段階や教職課程の基礎知識の保有を前提としつつ、今日のカリキュラム研究における多様な動向を理解することを目指す。理論面では、1960年代「隠れたカリキュラム」から1970年代「再概念化（主義）」以降に展開した、多様な「カリキュラム」概念の動向を概観する。実践面では、主に近年の研究開発学校や教育課程特例校などを検討する予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	
	カリキュラム研究法II	ここ20年ほどの「カリキュラム（・）マネジメント」に関する諸文献や資料を、批判的に講読する。いわゆる「Plan-Do-Check-Act(ion)サイクル」と並び、現在政策的に用いられる「カリキュラム・マネジメント」は、研究面の用法とは明らかに異質である。この科目では、「カリキュラム（・）マネジメント」の淵源を1970年前後の欧州SBCD（School-Based Curriculum Development）論の動向に求めつつ、関連する教育課程経営などの諸論考を検討対象とする予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	
	カリキュラム研究法III	この科目では、カリキュラム研究の方法的な側面を扱う。教育学を含む社会科学の研究方法は多種多彩であり、カリキュラム研究もその例外ではない。すなわち、歴史や哲学的なアプローチ、国際比較、観察や聞き取りといった質的調査、質問紙調査に代表される量的調査、特徴的な実践事例の検討など、多面的かつ複合的に研究方法を組み合わせる傾向がみられる。この科目では、特に研究方法に注目して、各種ジャーナル等の学術論文を講読する。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	
	教育方法学研究法I	学習指導理論と学習過程を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、学習指導理論と学習過程に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	
	教育方法学研究法II	教授スキルと指導効果を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教授スキルと指導効果に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	
	教育方法学研究法III	教師効果と学習意欲を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と学習意欲に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	
	道徳教育学研究法I	道徳教育学研究の基礎的事項をおさえるため、道徳教育に関する用語や位置づけ、特質などについて、大学の学部段階や教職課程の基礎知識を確認するとともに、これまで道徳教育学分野において積み重ねられてきた議論について要点をおさえる。具体的には受講者とともに道徳教育に関する基本文献や論争史などを輪読し、道徳教育学研究の基礎的事項について理解を深めつつ、適宜、受講者のとくに関心のある課題を重点的に討議する。これらを通して、道徳教育学研究に必要な基礎的知識・能力等を育てる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	道徳教育学研究法II	道徳教育学に関する学術論文を収集整理し、道徳教育学研究において、これまでいかなる研究課題が検討されてきたのか把握する。また、それらを読解する中で、道徳教育学研究を掘り下げていく際の視点や論点などについての勘所をつかむ。さらに、それら読解してきた学術論文をはじめ、道徳教育の先行研究群に対して、受講者のとくに関心のある課題について各々さらに掘り下げ、討議する。これらを通して、道徳教育学分野における論文作成にかかわる研究能力の育成を図る。	
	道徳教育学研究法III	道徳教育学研究分野における論文執筆技能の向上を目的としつつ、受講者が研究能力を培うための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究の系譜に位置づけ直し、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について掘り下げていく。受講者は順番に自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めていく。	
	キャリア教育学研究法I	キャリア教育の目的について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、戦後日本の学校教育における職業指導・進路指導・職業教育、及び、アメリカを中心に理論化がなされてきたvocational guidance, career guidance, career education, career and technical education等との比較検討を、主要な先行研究を対象として分析しつつ議論することを中核とする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	
	キャリア教育学研究法II	キャリア教育の内容について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達段階に即して育成すべき資質・能力とそれらにふさわしい指導内容の検討（国内外の先行研究の分析）を中核に据えつつ、資質・能力をめぐるベンチマーク（到達目標）の設定や学習状況のモニタリング、学習成果の評価の在り方も視野に収めて議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	
	キャリア教育学研究法III	キャリア教育の方法について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方を扱う。前者に関しては特に教科・科目を通じた実践の在り方、後者については予防・開発的な支援・指導の在り方に焦点をあてながら、国内外の関連研究の分析を行い、議論をする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	
	社会科教育学研究法I	社会科教育の論文作成の基礎について考察する。論文の目的の設定、論文の枠組みについて講義や討論を通して考察し、論文の基礎についての理解と考察を深める。	
	社会科教育学研究法II	社会科教育の先行研究となる論文が、どのように目的を設定し、論文の枠組みを立てているか分析し、その結果を共有し批判的考察をすることで論文を構成する能力を育む。	
	社会科教育学研究法III	社会科教育学の目的、方法、内容を踏まえて、どのようにオリジナリティを持たせた論文を作成できるのか、自分の研究成果を論文として書きながら考察し、論文作成の実践力を身につける。	
	人文科教育学研究法I	現時点における言語教育（国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育）研究の範囲とそれぞれの水準を把握することをめざして、主たるレビューに依拠しつつ関連分野における先行研究の講読、討議を行う。次いで受講者が各自の関心に即した領域についてテーマを設定し、自らの先行研究の収集・整理によって行ったレビューを行い、他の参加者との討論を通してレビューの内容を洗練させるとともに自らの研究課題を鮮明にすることを旨とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人文科教育学研究法II	言語教育（国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育）の実態に即してその問題を明らかにするとともに、それぞれの問題の構造を理解することを目指す。そのために国際比較、また主要なトピックにかかわって歴史的な視点に基づく基本的な文献や原資料を用いつつ、教育課程における言語教育の位置づけ、教材選択の視点、指導方法の選択、児童生徒の学習の実際、そして評価の在り方など、時宜に応じたテーマに関して意見 交換・討論を行う。	
	人文科教育学研究法III	言語教育（国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育）に関する調査研究に関して、代表的な研究や最新の研究を読んだり各自の調査研究を報告し合ったりすることで、実験的調査や観察調査・フィールドワークなどの手法を洗練させることをねらう。第1回から第5回は基礎的・代表的な文献を批判的に検討する。その際、国語教育だけでなく日本語教育や英語教育などの研究もみることによって他領域の研究目的や手法との共通性や差異についても考え研究手法の幅を広げていく。第6回から第10回は、各自の調査研究について報告を行いながら討議する。その際、当該調査手法の適否だけでなく、他の視点からの分析や別手法・分析が行えないかなどについても検討することで、さらなる調査や分析に発展させる。	
	数学教育学研究法I	数学教育学の内外の文献の検討を通して研究方法論の基礎を学ぶとともに、具体的な実証的研究の事例を批判的に検討する。特に、数学学習、数学的問題解決、数学における理解等に関する実証的研究の進展を、各時代における他の研究分野からの影響と研究パラダイムの進展に注意しながら検討するとともに、その根底にある研究方法論の展開を時系列に沿って検討する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題（リサーチクエスション）の設定のあり方と研究方法論を学ぶ。	
	数学教育学研究法II	数学教育におけるカリキュラム改革について、海外の事例に関する文献講読を通して検討し、数学カリキュラムを比較文化的視点を加味して検討する。また、数学カリキュラムの構成原理、学問領域としての数学と学校数学との関係のあり方を規範的に考察する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題の意義とその具体化のあり方、その研究目的に基づく適切な研究方法の考察を行う。	
	数学教育学研究法III	数学教育学における理論的研究・歴史研究を中心に内外の文献を検討し、研究方法論について学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げ批判的に検討する。特に、数学教育研究が数学教育の教育課程や実践の改善に対して果たす役割を考察し、各自の研究目的からみた数学教育改善への示唆を導出する。この過程で、各自の研究課題に引きつけて、数学教育学の特質とその意義を考察する。	
	理科教育学研究法I	理科教育学の基本的テーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での基礎を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書を読み、その研究方法と着想について論究する。ここでは、理科教育・科学教育の基礎研究について、特に、理科教育研究の問いのあり方、探究的な科目としての「理科」のあり方、女子の理科教育、科学教育改革の動向等を取り上げ、そこでの研究方法論の妥当性を探る。	
	理科教育学研究法II	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教育の内容・カリキュラム研究の方法論について検討する。具体的には、教科書分析、教材分析、教育内容としてのNOS (Nature of Science) 論、アナロジー論等の研究方法を扱う。	
	理科教育学研究法III	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での高度な実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教授学習研究の研究手法論について検討する。具体的な事例としては、科学概念変容研究、協同学習と社会的構成論、アーギュメントテーション論等の研究方法を扱う。	
	(研究指導)	(523 平井悠介) 教育哲学について研究指導を行う。 (274 田中正弘) 高等教育論について研究指導を行う。 (299 平田諭治) 日本教育史について研究指導を行う。 (196 上田孝典) 生涯教育・社会教育学について研究指導を行う。 (141 藤井徳高) 教育制度学及び比較・国際教育学について研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(125 濱田博文) 学校経営学及び教育社会学 について研究指導を行う。なかでも、学校改善、校長職論等を中心に研究指導を行う。</p> <p>(249 佐藤博志) 学校経営学について研究指導を行う。なかでも、教育改革の国際比較、学校経営・学校組織等を中心に研究指導を行う。</p> <p>(510 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(484 川口純) 比較・国際教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(488 菊地かおり) 比較・国際教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(516 徳永智子) 教育社会学について研究指導補助を行う。</p> <p>(116 根津朋実) カリキュラム研究について研究指導を行う。</p> <p>(131 樋口直宏) 教育方法学について研究指導を行う。</p> <p>(275 田中マリア) 道徳教育学について研究指導を行う。</p> <p>(143 藤田晃之) キャリア教育学について研究指導を行う。</p> <p>(490 京免徹雄) キャリア教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(36 甲斐雄一郎) 人文科教育学及び外国語教育学について研究指導を行う。なかでも、国語科の形成課程の研究等について研究指導を行う。</p> <p>(213 長田友紀) 人文科教育学について研究指導補助を行う。なかでも、コミュニケーション教育、音声言語教育の研究等について研究指導補助を行う。</p> <p>(519 名畑目真吾) 外国語教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(12 井田仁康) 社会科教育学及び理科教育学の研究指導を行う。中でも、特に地理教育の観点より研究指導を行う。</p> <p>(232 國分麻里) 社会科教育学研究の中でも、特に歴史教育の観点より研究指導補助を行う。</p> <p>(40 唐木清志) 社会科教育学研究の中でも、特に公民教育の観点より研究指導を行う。</p> <p>(80 清水美憲) 数学教育学において数学の教授・学習過程に関する諸問題に関する実証的研究のための研究指導を行う。</p> <p>(11 礪田正美) 数学教育学において研究開発型課題の研究指導を行う。</p> <p>(308 蒔苗直道) 数学教育学において数学教育史に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(556 山本容子) 理科教育学について研究指導補助を行う。</p> <p>(470 遠藤優介) 理科教育学について研究指導補助を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 関連科目	専門科目 共通	心理学実験実習	教員指導のもとで、履修者が学士課程の心理学統計実習等のインストラクターを務める。インストラクターとして学類生に各種の心理統計の実際を体験的に教える活動を通して、研究推進における心理学統計についての理解を深め、さらに将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。	
		心理学研究マネジメント実習1	教員指導のもとで、履修者が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設する。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に大枠としての研究の進め方の指導方法について、体験的に学ぶことを目的とする。	
		心理学研究マネジメント実習2	教員指導のもとで、履修者が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に、グループメンバーの学生の個人差を考慮しながら、より有効な教育・研究指導の在り方について、体験的に学ぶことを目的とする。	
		心理学先端研究1	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。	集中
		心理学先端研究2	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、研究者としての研究展開の在り方を講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。	集中
		心理学先端研究3	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学と深い関連性を有する周辺の領域から先端的研究者を招聘し、心理学と他領域との関連性や今後の融合的転回の在り方について、講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。	集中
		心理学特別研究D1	心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期1年目に履修する。特に研究計画を構築して博士論文構想発表会に備えること、また論文形式の研究成果報告の方法について指導を行う。	
		心理学特別研究D2	心理学特別研究D1に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期2年目に履修する。特に研究計画全体を考察・展開しながら個々の研究を計画・実施・とりまとめを行なっていくプロセスについて指導を行う。	
		心理学特別研究D3	心理学特別研究D1、D2に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期3年目に履修する。特に個々の研究の結果をまとめながら、一つの大きな研究としてのまとまりをつけていくプロセス、ならびに成果発表のためのプレゼンテーション法などについて、指導を行う。	
		(研究指導)	(71 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (129 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (283 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (343 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (518 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (537 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (73 沢宮容子) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (82 杉江征) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (124 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する研究指導を行う。 (186 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (3 綾部早穂) 感覚知覚・認知心理学(嗅覚心理学)に関する研究指導を行う。 (658 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理基礎科学	心理基礎科学英語1	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。特に自分自身の専門領域としての具体的なテーマに沿った心理学関連のe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。	
	心理基礎科学英語2	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。自分自身の専門領域に関連する周辺領域について、具体的なテーマに沿った心理学・諸関連科学に関連するe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。	
	心理学インターンシップ	現在の社会に存在する、心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図りつつ、社会における心理学に対する期待と要求について、一研究者として学ぶことを目的とする。	
	(心理基礎科学英語1, 2, 心理学インターンシップの担当教員)	(71 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (129 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (283 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (343 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (518 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (537 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (3 綾部早穂) 感覚知覚・認知心理学(嗅覚心理学)に関する研究指導を行う。 (658 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	
	臨床心理学特講D	心理臨床学の各領域について、専攻する指導学生の研究実施ならびにより高度な臨床的技術の獲得を支援するための演習である。各専門領域における実践について、理論、技法、研究法を学ぶ。  (73 沢宮容子) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (82 杉江征) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (124 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する研究指導を行う。 (186 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する研究指導を行う。	
心理臨床学	臨床心理学実習DI	博士後期課程学生として必要な、心理臨床の実践に関する理論や技法を体験的に学ぶことを目的とする実習科目である。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、自ら修士課程学生に対して助言し、指導者としての技能を習得する。	
	臨床心理学実習DII	臨床心理学実習DIに引き続き、心理臨床の実践について理論や技法を体験的に学ぶ。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、修士課程学生に対して助言し、教員による指導を補佐する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
障害科学関連科目	基礎科目 障害科学研究実践法	障害科学の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、国内外の研究および研究方法論に焦点をおき、広く障害科学を修める。併せて各自の研究の方法について考究する。具体的には、文献研究法、視覚・聴覚・知能・発達検査法、生理心理実験法、量的調査研究法、質的研究法、事例研究法等ならびにそれぞれの研究方法の複合的な活用による課題解決手法などを学ぶ。	
	海外研究活動Ⅰ	指導教員の指導を受けた研究内容について、指導教員と連名で、かつ筆頭発表者として、海外で開催される国際学会で英語での発表を行う。学会名、場所、日時、研究発表ならびに質疑応答の内容についてレポートを作成することが求められる。なお、口頭発表・ポスター発表等の別は問わない。	
	海外研究活動Ⅱ	指導教員の指導の下、学会発表以外で、海外における障害科学に関連する研究活動等を行う。当該研究活動に関する研究計画書と研究活動成果報告書を作成し、提出することが求められる。	
専門科目	視覚障害講究Ⅰ	視覚障害学を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	視覚障害講究Ⅱ	視覚障害学を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	視覚障害講究Ⅲ	視覚障害学を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：視覚障害)	(37 柿澤敏文) 生理学的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (237 小林秀之) 盲・弱視者への学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (245 佐島毅) 心理・臨床的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (542 宮内久絵) 文献研究の手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (352 和田恒彦) 理療科教育に関する内容を中心に研究指導を行う。 (349 LAMICHHANE KAMAL) 福祉経済学的手法内容を中心に研究指導を行う。	
	聴覚障害講究Ⅰ	聴覚障害学を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	聴覚障害講究Ⅱ	聴覚障害学を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	聴覚障害講究Ⅲ	聴覚障害学を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：聴覚障害)	(128 原島恒夫) 生理学的手法を用いた聴覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (101 鄭仁豪) 心理学的手法を用いた聴覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (247 左藤敦子) 聴覚障害者に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	知的・発達・行動障害講究Ⅰ	知的・発達・行動障害学を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	知的・発達・行動障害講究Ⅱ	知的・発達・行動障害学を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	知的・発達・行動障害講究Ⅲ	知的・発達・行動障害学を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
(研究指導：知的・発達・行動障害)	(102 柘植雅義) 発達障害児に対する学校教育研究に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (47 熊谷恵子) 心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (119 野呂文行) 応用行動分析学的手法を用いた知的障害児・自閉症児に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (209 岡崎慎治) 生理心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(347 米田宏樹) 知的障害児に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教育史・福祉史に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (234 小島道生) 心理学的手法を用いた知的障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	運動障害・病弱講究Ⅰ	運動障害学・病弱を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	運動障害・病弱講究Ⅱ	運動障害学・病弱を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	運動障害・病弱講究Ⅲ	運動障害学・病弱を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：運動障害・病弱)	(91 竹田一則) 病弱教育に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (42 川間健之介) 心理学的手法を用いた運動障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	音声・言語障害講究Ⅰ	音声・言語障害学を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	音声・言語障害講究Ⅱ	音声・言語障害学を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	音声・言語障害講究Ⅲ	音声・言語障害学を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：音声・言語障害)	(326 宮本昌子) 心理学的手法を用いた音声・言語障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	障害福祉学講究Ⅰ	障害福祉学を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	障害福祉学講究Ⅱ	障害福祉学を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	障害福祉学講究Ⅲ	障害福祉学を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：障害福祉学)	(420 名川勝) 権利擁護に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (475 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (548 森地徹) 障害児童福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (34 小澤温) 知的障害者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (342 山中克夫) 高齢者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	障害原理論講究Ⅰ	障害原理論を専門分野とする者に対して、博士論文のデザイン発表に向けた指導を行う。	
	障害原理論講究Ⅱ	障害原理論を専門分野とする者に対して、学会発表や学術論文への投稿に向けた指導を行う。	
	障害原理論講究Ⅲ	障害原理論を専門分野とする者に対して、博士論文の中間発表に向けた指導を行う。	
	(研究指導：障害原理論)	(28 岡典子) 文献研究的手法によって障害と社会の関係を明らかにするような内容を中心に研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
カウンセリング科学関連科目	基礎科目 カウンセリング科学基礎論	目的・ねらい：カウンセリングに関する文献検索能力を養い、担当教員の専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、担当教員の指導の下で研究計画の策定を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング科学演習I	目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究方法を習得する。その上で、担当教員の指導の下で研究計画に基づいた研究を進める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング科学演習II	目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究方法を習得する。その上で、担当教員の指導の下で研究計画に基づいた研究を進め、論文作成の基礎を学習する。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング科学特論I	目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの収集法を学ぶ。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング科学特論II	目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの解析法を学ぶ。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング科学特論III	目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの分析法を学び、論文構成に関して検討する。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	(研究指導)	(5 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床 (22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学, 老年臨床心理学, 心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント (29 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学, キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ (130 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学, 犯罪心理学, 精神保健学] アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP), EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか (142 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学, 認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究 (191 飯田順子) 専門領域：[学校心理学, スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究 (205 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス, 産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究 (302 藤桂) 専門領域：[社会心理学, メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ (cyberbullying) の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか	
専門科目	産業社会心理学特論	目的・ねらい：生涯発達心理学領域における、文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文を目的とする。 授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、産業社会心理学に係わる諸研究について、先行研究相互の関連性や相違点を明確化し、研究計画の策定に応用していく。具体的には、論文の輪講、グループ討議を実施する。 キーワード：文献レビュー、投稿論文作成	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	組織メンタルヘルス特論	<p>目的・ねらい：組織メンタルヘルス領域における、文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、組織メンタルヘルスに係わる諸研究について、先行研究相互の関連性や相違点を明確化し、研究計画の策定に応用していく。具体的には、論文の輪講、グループ討議を実施する。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	対人社会心理学特論	<p>目的・ねらい：社会心理学の観点から、個人レベル・対人レベル・集団レベル・コミュニティレベルの心理的過程について理論的・実証的に分析するための技術を身につけ、研究成果の論文化を目的とする。そして、現場の問題に対してどのような支援・援助が可能かを見出ししていく。</p> <p>授業概要：各自の研究関心をベースとして、社会心理学領域における諸問題に着目し、先行研究をレビューし独自の観点から整理する。そのうえで、従来にはないアプローチに基づく研究計画を立案し、データ収集、データ解析、先行研究との照合に基づく考察のプロセスをゼミ形式によって進行させ、各自のテーマの論文化を目指す。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	キャリア形成特論I	<p>目的・ねらい：カウンセリング科学の方法に関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関する基本を復習・修得し、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力の向上を図る。</p> <p>授業概要；各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに講義・授業を進める。</p>	隔年集中
	キャリア形成特論II	<p>目的・ねらい：カウンセリング科学の方法に関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関して、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力を獲得・実力アップを図る。</p> <p>授業概要；各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに講義・授業を進める。</p>	隔年集中
	カウンセリング科学特別演習I	<p>目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって資料、データ解析に関する論文指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p>	
	カウンセリング科学特別演習II	<p>目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって資料、データ解析結果の考察に関する論文指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p>	
	カウンセリング科学特別演習III	<p>目的・ねらい：カウンセリングに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって論文執筆、まとめに関する論文指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p>	
	(研究指導)	<p>(5 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床</p> <p>(22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学, 老年臨床心理学, 心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント</p> <p>(29 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学, キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ</p> <p>(130 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学, 犯罪心理学, 精神保健学] アディクション臨床, エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP), EBPの啓発・国際発信, 薬物問題支援のための技術支援 ほか</p> <p>(142 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学, 認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究, 内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明, メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(191 飯田順子) 専門領域：[学校心理学, スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究</p> <p>(205 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス, 産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究</p> <p>(302 藤桂) 専門領域：[社会心理学, メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ（cyberbullying）の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか</p>	
	カウンセリング科学特論	<p>目的・ねらい：カウンセリング科学領域における、文献検索スキルの熟達、専門領域の最新知識および最新の統計解析を含めた研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、カウンセリング科学に係わる諸問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、ドラフト論文を作成する。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	学校生活支援カウンセリング特論	<p>目的・ねらい：学校生活支援カウンセリング領域における、文献検索能力の向上、専門領域の最新知識 および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、学校生活支援カウンセリング領域における諸問題について、先行研究相互の関連性や相違点を明確化し、研究計画の策定を行う。具体的には、論文の輪講、グループ討議を実施し、ドラフト論文を作成する。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	生涯発達心理学特論	<p>目的・ねらい：生涯発達心理学領域における、文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、人の生涯発達に係わる諸問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、ドラフト論文を作成する。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	生涯発達支援特論I	<p>目的・ねらい：生涯発達支援に関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関する基本を復習・修得し、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力の向上を図る。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに 講義・授業を進める。</p>	隔年集中
	生涯発達支援特論II	<p>目的・ねらい：生涯発達支援に関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関して、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力を獲得・実力アップを図る。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに 講義・授業を進める。</p>	隔年集中
	コミュニティ発達援助特論	<p>目的・ねらい：社会心理学の観点から、個人レベル・対人レベル・集団レベル・コミュニティレベルの心理的過程について理論的・実証的に分析するための技術を身につけ、研究成果の論文化を目的とする。そして、現場の問題に対してどのような支援・援助が可能かを見出ししていく。</p> <p>授業概要：各自の研究関心をベースとして、社会心理学領域における諸問題に着目し、先行研究をレビューし独自の観点から整理する。そのうえで、従来にはないアプローチに基づく研究計画を立案し、データ収集、データ解析、先行研究との照合に基づく考察のプロセスをゼミ形式によって進行させ、各自のテーマの論文化を目指す。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族発達援助特論	<p>目的・ねらい：子どもの発達や養育者の養育行動、家族の精神的健康の子どもへの影響などについて、英語論文・文献講読を通して、体系的に、また最新の知見を整理することを目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマに関する知見を、英語論文・文献の講読、討論を通して整理する。担当した論文については、レビューを作成し、その研究内容や研究方法、分析方法などを学び、討論を行う。これらの作業を通して、自らの研究の位置づけや方法論について検討する。</p> <p>キーワード：英語論文レビュー、文献講読</p>	
	精神健康科学特論	<p>目的・ねらい：メンタルヘルス領域の諸問題について、理論的・実証的に分析するための技術を身につけ、研究成果の論文文化を目的とする。そして、現場の問題に対してどのような支援・援助が可能かを見出していく。</p> <p>授業概要：各自の研究関心をベースとして、メンタルヘルス領域における諸問題に着目し、内外の先行研究をレビューし独自の観点から整理する。そのうえで、従来にはないアプローチに基づく研究計画を立案し、データ収集、データ解析、先行研究との照合に基づく考察のプロセスをゼミ形式によって進行させ、各自のテーマの論文文化を目指す。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	
	生涯発達システム特論I	<p>目的・ねらい：生涯発達システムに関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関する基本を復習・修得し、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力の向上を図る。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに 講義・授業を進める。</p>	隔年集中
	生涯発達システム特論II	<p>目的・ねらい：生涯発達システムに関して、英文での論文作成法、文献研究、質的方法、統計的方法等に関して、博士後期課程にふさわしいアドバンスドコース用の技術・能力を獲得・実力アップを図る。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連付けながら、上記の方法に関して一つのテーマについて、具体例を受講者から提出してもらい、それをもとに 講義・授業を進める。</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リハビリテーション科学 基礎科目 リハビリテーション科学関連科目	リハビリテーション科学 基礎論	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する文献検索能力を養い、担当教員の専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、担当教員の下で研究計画の策定の基礎を学ぶ。</p> <p>(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245 佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(426 濱田 淳) 専門領域：[泌尿器科学, 泌尿器科学] 東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学, 特別支援教育, 社会心理学, 神経生理学] 学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育] 発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育] 聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(22 大川 一郎) 専門領域：[臨床心理学] 老年心理学</p> <p>(29 岡田 昌毅) 専門領域：[キャリア心理学] キャリア心理学、キャリア発達、キャリア・カウンセリング、カウンセリング心理学、心理・社会的発達、組織心理学</p> <p>(487 河野 禎之) 専門領域：[臨床心理学, 社会福祉学, 精神神経科学] 認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究] 腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション科学 演習I	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究方法を習得する。その上で、担当教員の指導の下で研究計画に基づいた研究を進める。担当教員の研究指導科目等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p>	
	リハビリテーション科学 演習II	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究方法を習得する。その上で、担当教員の指導の下で研究計画に基づいた研究を進め、論文作成の基礎を学習する。担当教員の研究指導科目等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p>	
	(研究指導：リハビリテーション科学演習I, II)	<p>(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245 佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション科学特論I	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの収集法を学ぶ。</p> <p>(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(426 濱田 淳) 専門領域：[泌尿器科学、泌尿器科学]東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(22 大川 一郎) 専門領域：[臨床心理学]老年心理学</p> <p>(29 岡田 昌毅) 専門領域：[キャリア心理学]キャリア心理学、キャリア発達、キャリア・カウンセリング、カウンセリング心理学、心理・社会的発達、組織心理学</p> <p>(487 河野 禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション科学特論II	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの解析法を学ぶ。</p> <p>(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(426 濱田 淳) 専門領域：[泌尿器科学、泌尿器科学]東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(22 大川 一郎) 専門領域：[臨床心理学]老年心理学</p> <p>(29 岡田 昌毅) 専門領域：[キャリア心理学]キャリア心理学、キャリア発達、キャリア・カウンセリング、カウンセリング心理学、心理・社会的発達、組織心理学</p> <p>(487 河野 禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション科学特論III	<p>目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画にそって、論文作成のための研究に必要な資料、データの分析法を学び、論文構成に関して検討する。</p> <p>(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245 佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(426 濱田 淳) 専門領域：[泌尿器科学、泌尿器科学]東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(22 大川 一郎) 専門領域：[臨床心理学]老年心理学</p> <p>(29 岡田 昌毅) 専門領域：[キャリア心理学]キャリア心理学、キャリア発達、キャリア・カウンセリング、カウンセリング心理学、心理・社会的発達、組織心理学</p> <p>(487 河野 禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	職業リハビリテーション特論	目的・ねらい：職業リハビリテーションに関する文献検索能力を養い、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文を目的とする。 授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、人の生涯発達に係わる職業リハビリテーションに関する問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、論文を作成する。 キーワード：文献レビュー、投稿論文作成	
	障害科学特論	目的・ねらい：研究テーマに関する論文を読み、聴覚障害・言語障害児者の聴覚・心理・言語学的特性と障害状況・機序、リハビリテーション支援などについての理解を深めると共に、博士論文作成に関連した議論を行う。さらに、テーマに関する文献リストを提出し、先行研究についてレビューを行う過程について学習する。 授業概要：各自の研究テーマについて研究計画書に沿ってデータベース等によって基本的な文献を検索し、文献リストを作成し、最先端の研究動向と問題点についての的確に理解する。また、独自の視点と問題意識等を確立し、研究の展開方向を明確化する。文献検索スキルを習得し、文献研究発表会で発表する。その後、総説論文を作成して投稿論文として完成させる。 キーワード：研究計画の絞り込み、文献研究等	隔年集中
	発達支援科学特論	目的・ねらい：発達障害を理解し、どのように支援されるべきかについての文献研究、専門領域の知識および研究方法を習得する。 授業概要：発達障害を理解する上で必要となる心理学的な知識（認知的な特徴、発達、行動等）、学習上での特徴を取り上げ、さらに、支援のための通常学校でのシステム、教育相談など、指導につなげるためのリソースについても理解を深める。最終的には、発達障害支援科学に関する研究計画を設定・実施し、研究論文を作成する。 キーワード：発達障害、発達支援、文献研究	
	発達支援評価特論	目的・ねらい：発達支援におけるに時間的・空間的視点に基づく評価について理解し、それらの研究方法に必要な基礎的な知識を修得する。 授業概要：障害のある子どもの発達評価と家族を含めた支援と各自の研究テーマと関連づけながら、発達支援に係わる諸問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、ドラフト論文を作成する。 キーワード：障害児、発達支援、家族支援、評価	
	コミュニケーション発達支援特論	目的・ねらい：コミュニケーション障害のある人々の生涯発達支援における、文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文を目的とする。 授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、コミュニケーション発達支援に係わる諸問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、ドラフト論文を作成する。 キーワード：文献レビュー、投稿論文作成	隔年集中
	リハビリテーション科学特別演習I	目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって資料、データ解析に関する論文指導を行う。担当教員の研究指導科目等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	リハビリテーション科学特別演習II	目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって資料、データ解析結果の考察に関する論文指導を行う。担当教員の研究指導科目等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	リハビリテーション科学特別演習III	目的・ねらい：リハビリテーションに関する指導教員の専門領域における研究計画に基づき、研究の実践、指導を行い、設定した研究テーマにそって論文執筆、まとめに関する論文指導を行う。担当教員の研究指導科目等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
(研究指導：リハビリテーション科学特別演習I, II, III)	(34 小澤 温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(42 川間 健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(245 佐島 毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(335 八重田 淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(176 山田 実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(47 熊谷 恵子) 専門領域：[教育心理学, 特別支援教育, 社会心理学, 神経生理学] 学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(102 柘植 雅義) 専門領域：[特別支援教育] 発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(128 原島 恒夫) 専門領域：[特別支援教育] 聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(352 和田 恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究] 腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション科学特論	<p>目的・ねらい：各種疾患や社会の諸問題についての理解を深めるとともに、リハビリテーション科学に関わる研究に必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p>授業概要：老年学、リハビリテーション科学領域における文献検索能力の向上、専門領域の最新知識 および研究デザインを習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文文化を目的とする。</p> <p>キーワード：文献レビュー、研究デザイン、論文作成</p>	
	教育支援システム特論	<p>目的・ねらい：教育に関連する諸問題についての理解を深めるとともに、教育支援システムに関わる研究に必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p>授業概要：小学校、中学校、高等学校および特別支援学校における特別支援教育に関する諸問題を多面的に検討し、科学的な根拠に基づく包括的な教育支援システムのあり方を考察する。</p> <p>キーワード：教育、支援システム、特別支援教育、小学校、中学校、高等学校</p>	
	ケアマネジメント特論	<p>目的・ねらい：生涯発達システム領域における専門領域のソーシャルワークおよびケアマネジメントに関する最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、ソーシャルワークおよびケアマネジメントに関する課題の学習を通して研究計画を立案する。計画に基づいて研究を実施し、その結果の分析・解析と研究課題に関する文献の検討を通して、学会誌投稿論文執筆に向けた指導を行う。その間、学会発表や中間発表などを通じて、明らかにされた課題を含め、より高度な研究展開と論文の完成を目指す。</p> <p>キーワード：文献レビュー、ソーシャルワーク、ケアマネジメント</p>	
	中高年・障害者発達支援特論	<p>目的・ねらい：中高年や障害者の生涯発達に係わる文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法を習得する。その上で、研究計画の策定を行い、実施し、研究成果の論文文化を目的とする。</p> <p>授業概要：各自の研究テーマと関連づけながら、中高年及び障害者の生涯発達に係わる諸問題の解決手法の学習を通して研究計画の策定を行う。具体的には、研究計画を設定・実施し、その結果分析と研究課題に関連する文献の批評を通して、ドラフト論文を作成する。</p> <p>キーワード：文献レビュー、投稿論文作成</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ヒューマン・ケア科学／パブリックヘルス関連科目 専門基礎科目	ヒューマン・ケア科学特論 I	<p>対人援助にかかわる諸問題を、さまざまな学問分野から交叉的かつ体系的に把握し、基礎的な知識および研究方法を学ぶ。すなわち、対人援助の基本として対象の対人的理解、援助方法の策定と介入、そして対象の置かれている状況の社会的制度的理解と援助について、共生教育学、臨床心理学の分野から論じるとともに、研究方法を概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(487 河野禎之／3回) 共生教育学の分野で研究を進める際の研究方法について、特に心理測定に焦点を当てて概説する。 (73 沢宮容子／3回) 臨床心理学の分野から、特に認知行動療法、認知行動カウンセリング、REBT、ポジティブ心理学等について概説する。 (186 青木佐奈枝／2回) 臨床心理学分野における研究方法について、特にトラウマやPTSD、自殺問題を題材に挙げ概説する。 (82 杉江征／2回) 臨床心理学分野における研究方法について、特に大学生と学生相談、自律訓練法、認知行動療法、ポジティブ心理学、アスリートの自己形成、大学生の自殺予防等を題材に挙げ概説する。</p>	オムニバス方式
	ヒューマン・ケア科学特論 II	<p>対人援助にかかわる諸問題を、さまざまな学問分野から交叉的かつ体系的に把握し、基礎的な知識および研究方法を学ぶ。すなわち、対人援助の基本として対象の対人的理解、援助方法の策定と介入、そして対象の置かれている状況の社会的制度的理解と援助について、社会精神保健学、発達臨床心理学、共生教育学の分野から論じるとともに、研究方法を解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(61 斎藤環／3回) 社会精神保健学の分野、とりわけひきこもりなどの非社会的問題、あるいはコミュニティケアやそれを支えるメンタルヘルスシステムについて論ずる。 (333 森田展彰／3回) 社会精神保健学の分野で扱う代表的な社会病理である家庭内の暴力やアディクションの理解と支援問題について主に論じる。 (473 大谷保和／2回) 社会精神保健領域で研究を進める際の心理学的な方法論(研究計画の作成や尺度構成法等を含む)について概説する。 (124 濱口佳和／2回) 子どもの心理社会的不適応や問題行動の形成と心理学的介入方法について概説する。</p>	オムニバス方式
	ヒューマン・ケア科学特論 III	<p>対人援助にかかわる諸問題を、さまざまな学問分野から交叉的かつ体系的に把握し、基礎的な知識および研究方法を学ぶ。すなわち、対人援助の基本として対象の対人的理解、援助方法の策定と介入、そして対象の置かれている状況の社会的制度的理解と援助について、福祉医療学、福祉社会学、ストレスマネジメント、高齢者ケアリング学の分野から論じるとともに、研究方法を解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(336 柳久子／2回) 地域における保健・医療・福祉に関する実践的研究に必要な知識や技術について概説する。 (322 水野智美／2回) 障害児者を取り巻く問題のなかでも、特に発達障害児・者およびその家族の抱える問題と対応策に関する研究方法を解説する。 (157 水上勝義／2回) ストレスマネジメントや、高齢者のメンタルヘルス、ヘルスプロモーションなどの問題に係る研究について概説する。 (290 橋爪祐美／2回) 高齢者ケアリング学の分野から専門職自身の家族介護、移住外国人の家族介護支援問題と多世代共生型ケアを中心に論じる。 (477 岡本紀子／2回) 高齢者の健康問題をふまえ、高齢者のセルフケアをはじめ、具体的なケアの探求とその方法について概説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	パブリックヘルステ論Ⅰ	<p>公衆衛生学は学際的な領域であるため、健康問題の要因とその解決・支援方法、それに係る社会的制度等について、基本分野に加えてさまざまな関連分野から、基礎的知識と研究方法を習得する必要がある。そこで本科目では、公衆衛生の基本分野と関連分野から、国際保健学、疫学・統計学、医療経済学について論じるとともに研究法を解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(531 堀愛／2回) 公衆衛生学の事例を通して、問いの定式化から研究結果を導き出すまでの方法論を概説する。  (14 市川政雄／2回) 公衆衛生学は実学であり、実証と実装が欠かせない。その実際について具体例を挙げながら論じるとともに、研究者の役割について考える。  (653 高橋秀人／2回) 疫学・統計学の観点から、パブリックヘルスについて概説する  (474 大久保麗子／2回) 効果の測定方法、費用効果分析を中心に、医療経済学の研究法を解説する。  (59 近藤正英／2回) 保健医療政策学への経済学的应用としての医療経済学を概説する。</p>	オムニバス方式
	パブリックヘルステ論Ⅱ	<p>公衆衛生学は学際的な領域であるため、健康問題の要因とその解決・支援方法、それに係る社会的制度等について、基本分野に加えてさまざまな関連分野から、基礎的知識と研究方法を習得する必要がある。そこで本科目では、公衆衛生の基本分野と関連分野から、健康社会学、生涯健康学、運動・栄養学について論じるとともに研究法を解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(549 門間貴史／2回) 健康社会学の研究手法（調査法やデータ解析など）について、様々な実証研究の事例をとりあげて解説する。  (92 武田文／2回) 健康社会学の領域から主に地域保健と産業保健に関する代表的な研究テーマとその知見を紹介し、近時の研究課題について論じる。  (657 横山徹爾／2回) 生涯健康学について、疫学的エビデンスを踏まえて論じる。  (203 大蔵倫博／2回) 身体活動や健康関連体力の測定評価法および健康増進エクササイズの理論と実践方法について論じるとともに、体育科学分野の研究法について解説する。  (219 麻見直美／2回) 運動・栄養学分野のうち、公衆栄養および食育に関連する理論や実証研究を中心に取り上げて論じる。</p>	オムニバス方式
	パブリックヘルステ論Ⅲ	<p>公衆衛生学は学際的な領域であるため、健康問題の要因とその解決・支援方法、それに係る社会的制度等について、基本分野に加えてさまざまな関連分野から、基礎的知識と研究方法を習得する必要がある。そこで本科目では、公衆衛生の基本分野と関連分野から、生活支援学、環境保健学、ヘルスサービスリサーチについて論じるとともに研究法について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(105 徳田克己／2回) 幼児、障害児・者、高齢者に対するバリアフリー支援の方法と改善（間違っている点字ブロック、迷惑ランナー、歩きスマホ、エスカレータの駆け下りなど）について論じる。  (648 牛山明／2回) 健康について生活環境学の視点から解説し、あわせて環境因子の健康リスクに関して具体例を交えて論じる。  (467 伊藤智子／2回) ヘルスサービスリサーチの研究法について、二次的データ分析の方法（データの特徴、分析上の注意など）を主軸にして、実際の研究を交えながら概説する。  (255 杉山雄大／2回) ヘルスサービスリサーチの政策へのトランスレーションについて、その概念と実例について概説する。  (99 田宮菜奈子／2回) ヘルスサービスリサーチの歴史、概念、基本的考え方、内外での最新状況を研究事例を紹介しつつ概説する。</p>	オムニバス方式
専門科目	ヒューマン・ケア科学演習	<p>ヒューマン・ケア科学の各研究分野（共生教育学、福祉社会学、高齢者ケアリング学、社会精神保健学、福祉医療学、臨床心理学、発達臨床心理学、ストレスマネジメント）における多様な研究テーマやトピックに関する文献購読や発表討論を通して、最新理論や研究手法を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒューマン・ケア科学特別研究	<p>ヒューマン・ケア科学の各研究分野における具体的研究課題の立案・実施から博士論文の作成までを指導する。</p> <p>(61 斎藤環) 社会精神保健学に係る研究課題の論文指導を行う。  (322 水野智美) 福祉社会学に係る研究課題の論文指導を行う。  (333 森田展彰) 社会精神保健学に係る研究課題の論文指導を行う。  (336 柳久子) 福祉医療学に係る研究課題の論文指導を行う。  (290 橋爪祐美) 高齢者ケアリング学に係る研究課題の論文指導を行う。  (73 沢宮容子) 臨床心理学に係る研究課題の論文指導を行う。  (124 濱口佳和) 発達臨床心理学に係る研究課題の論文指導を行う。  (157 水上勝義) ストレスマネジメントに係る研究課題の論文指導を行う。</p>	
	パブリックヘルス演習	<p>公衆衛生学の各研究分野（健康社会学、医療経済学、国際保健学、ヘルスサービスリサーチ、疫学・統計学、生涯健康学、生活環境学、生活支援学、運動・栄養学）における多様な研究テーマやトピックに関する文献購読や発表討論を通して、最新理論や研究手法を学ぶ。</p>	
	パブリックヘルス特別研究	<p>公衆衛生学の各研究分野における具体的研究課題の立案・実施から博士論文の作成までを指導する。</p> <p>(92 武田文) 健康社会学に係る研究課題の論文指導を行う。  (59 近藤正英) 医療経済学に係る研究課題の論文指導を行う。  (14 市川政雄) 国際保健学に係る研究課題の論文指導を行う。  (99 田宮菜奈子) ヘルスサービスリサーチに係る研究課題の論文指導を行う。  (105 徳田克己) 生活支援学に係る研究課題の論文指導を行う。  (203 大藏倫博) 運動学に係る研究課題の論文指導を行う。  (219 麻見直美) 栄養学に係る研究課題の論文指導を行う。  (657 横山徹爾) 生涯健康学に係る研究課題の論文指導を行う。  (653 高橋秀人) 疫学・統計学に係る研究課題の論文指導を行う。  (648 牛山明) 生活環境学に係る研究課題の論文指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ニューロサイエンス関連科目	基礎科目 Neuroscience Professional Career Development キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー	学位取得後のキャリア形成を含めて学位取得に向けての計画を明確にすること、研究者として遵守すべき研究倫理について教育すること、前期課程科目（神経科学基礎論、英語ジャーナルクラブ、神経科学先端研究セミナーなど）のTFとして指導にあたる際の準備を進めることを目的とした演習。一部は学位プログラム合宿（1泊2日）として行う。	
	専門基礎科目 Advanced Scientific Research Proposal in English 1 高度専門科学英語1	英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となり、博士論文を英語で執筆するに足る科学英語力、論理的思考力、表現力を養成する。希望者には、NIH Predoctoral Fellowship 相当の研究費や奨学金の申請書作成指導を行う。	
専門科目	Advanced Scientific Research Proposal in English 2 高度専門科学英語2	高度専門科学英語1の単位取得者を対象とした高度英語力養成演習。英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となり、博士論文や国際誌投稿論文を英語で執筆するに足る科学英語力、論理的思考力、表現力を養成する。希望者には、NIH Predoctoral Fellowship 相当の研究費や奨学金の申請書作成指導を行う。	
	Advanced Neuroscience Seminer 1 神経科学専門セミナー1	つくばブレインサイエンスセミナー、睡眠機構セミナー、人間系コロキウムなどの学内セミナーに加えて、神経科学関係の研究所、学会で開催する学外セミナー学内、学外の組織が主宰するセミナーに参加（参加証とレポート提出で出席を確認）して、分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の4つの領域の専門的内容についての知識を深める。	
	Advanced Neuroscience Seminer 2 神経科学専門セミナー2	神経科学専門セミナー1の単位取得者のみ受講可能。つくばブレインサイエンスセミナー、睡眠機構セミナー、人間系コロキウムなどの学内セミナー、に加えて、神経科学関係の研究所、学会で開催する学外セミナー学内、学外の組織が主宰するセミナーに参加（参加証とレポート提出で出席を確認）して、分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の4つの領域の専門的内容についての知識を深める。	
	Advanced Neuroscience Seminer 3 神経科学専門セミナー3	神経科学専門セミナー1,2の単位取得者のみ受講可能。つくばブレインサイエンスセミナー、睡眠機構セミナー、人間系コロキウムなどの学内セミナー、に加えて、神経科学関係の研究所、学会で開催する学外セミナー学内、学外の組織が主宰するセミナーに参加（参加証とレポート提出で出席を確認）して、分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の4つの領域の専門的内容についての知識を深める。	
	Advanced Neuroscience Internship 神経科学専門研究インターンシップ	神経科学基盤的研究に必須となる最先端の技法や知識の習得や、実践的現場の体験を目的としたインターンシップ（2-4週間程度）を通して、後期課程修了後のキャリア形成に役立てる。 1) 理研BSIの各種Program、玉川大脳科学トレーニングコース、生理学研究所のトレーニングコース、日本神経化学会、神経回路学会、行動神経内分泌研究会の若手育成セミナーなど。 2) 海外提携校への派遣、CSHプログラム、FENSプログラム、等 3) 産総研の技術研修制度、食品総合研究所インターン制度、NTTコミュニケーション科学研究所インターンシッププログラム、情報通信研究機構研員制度 等 4) 附属特別支援学校、近隣の高齢者施設 等	集中
	Neuroscience Dissertation Research 1 博士論文研究指導1	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文研究のテーマ決定、文献研究、予備研究を実施する。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは以下の通り。	
	Neuroscience Dissertation Research 2 博士論文研究指導2	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文研究を進める。合わせて、QE1の準備を進める。QE1の合格を単位認定の必須条件とする。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは、博士論文研究指導1に同じ。	QE1の合格が単位認定必須条件
	Neuroscience Dissertation Research 3 博士論文研究指導3	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文研究を進める。合わせて、QE2の準備を進める。QE2の合格を単位認定の必須条件とする。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは、博士論文研究指導1に同じ。	QE2の合格が単位認定必須条件
	Neuroscience Dissertation Research 4 博士論文研究指導4	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文研究を進める。合わせて、QE3の準備、投稿論文の作成を進める。QE3の合格を単位認定の必須条件とする。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは、博士論文研究指導1に同じ。	QE3の合格が単位認定必須条件

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Neuroscience Dissertation Research 5 博士論文研究指導5	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文作成を進める。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは、博士論文研究指導1に同じ。	
	Neuroscience Dissertation Research 6 博士論文研究指導6	主・副研究指導教員の指導のもと、博士論文を完成する。合わせて、博士論文最終試験、博士論文最終公開発表に向けての準備を行う。各研究指導教員の専門領域、研究テーマは、博士論文研究指導1に同じ。	
	(研究指導)	(89 武井陽介) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (241坂口昌徳) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (310 増田知之) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (348 LAZARUS MICHAEL) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (533 本城咲季子) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (661 三尾和弘) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (650 佐藤主税) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (75 設楽宗孝) システム神経科学領域についての研究指導を行う。 (156 松本正幸) システム神経科学領域についての研究指導を行う。 (296 林悠) システム神経科学領域についての研究指導を行う。 (554 山田洋) システム神経科学領域についての研究指導を行う。 (3 綾部早穂) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。 (188 阿部高志) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。 (265 高橋阿貴) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。 (339 山田一夫) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。 (652 高島一郎) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。 (4 新井哲明) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。 (342 山中克夫) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。 (204 太田深秀) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。 (659 武田裕司) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。 (646 岩木直) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学 関連科目 専門基礎科目	応用看護科学	<p>看護理論の背景にある哲学を踏まえ、看護理論の開発と検証、分析と評価の方法、また概念開発と分析の方法、さらに研究への理論の活用と研究からの理論構築の方法について、課題やディスカッションを通して理解を深め、今後の看護科学の発展への課題について科学的に探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(38 katsumata Asako Takekuma/12回) Nursing Knowledge(看護知識)とは、看護理論の開発と検証、実践への理論の活用、研究からの理論構築  (158 水野 道代/6回) 哲学 経験主義と合理主義—その起源と違い、哲学 科学的探究と科学的知識—その方法と目的  (505 杉本 敬子/6回) 看護理論の分析と評価、研究への理論の活用  (524 福澤 利江子/6回) 概念開発と分析 方法の比較、理論及び理論開発への貢献</p>	オムニバス方式
	応用統計学	<p>統計学の基礎の理解に基づき、看護科学研究、特に量的研究に用いられる多変量解析法を理解するため、各自の研究分野における学術論文に関するクリティークを通して学習する。全20回で構成し、うち前半10回は前期課程「保健統計学」と合同で行う。講義の前半10回を統計基礎として、推測統計学の基礎を学び、後半10回においては、量的研究の進め方の講義や各自の研究分野の紹介と最近の動向並びに当該分野における代表的な量的研究論文をクリティークをプレゼンテーションし、統計的方法論の理解と研究への展開を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(74 山海 知子/8回) オリエンテーション、統計思想の歴史、データと尺度、平均値の比較(パラメトリックとノンパラメトリック)、分散分析と多重比較、実験計画法など、量的研究の進め方、担当者による研究分野の紹介と最近の動向並びに量的研究論文クリティーク  (187 浅野 美礼/4回) 重要な確率分布、推定(正規分布、t分)、担当者による研究分野の紹介と最近の動向並びに量的研究論文クリティーク  (252 柴山 大賀/4回) 担当者による研究分野の紹介と最近の動向並びに量的研究論文クリティーク  (74 山海 知子(阿部 吉樹)/4回) 標準偏差と標準誤差、統計的検定(第1種の過誤と第2種の過誤、対立仮説と検出力)(保健統計学との共通授業のみ)</p>	オムニバス方式
	看護研究方法論	<p>講義と討議により、自立した研究者として看護科学の実践研究を企画・実施・評価するための研究方法論を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(252 柴山 大賀/6回) 研究方法の基礎  (158 水野 道代/2回) 研究デザインとバイアス  (187 浅野 美礼/2回) 測定の理論と実際1  (524 福澤 利江子/2回) 測定の理論と実際2  (225 川野 亜津子/2回) 調査研究の実際  (351 涌水 理恵/2回) 介入研究の実際  (207 大宮 朋子/2回) 質的研究と混合研究法の実際  (517 Togoobaatar Ganchimeg・524 福澤 利江子/2回) システムティックレビューとメタアナリシスの実際</p>	オムニバス方式
	看護学教育	<p>看護教育に必要な教授・学生理論と看護教育における教育方法について講義や討議、演習を通して学ぶ。具体的には、看護教育課程の特徴と変遷、カリキュラムの構築、教育観・教材観・学習者観の理解に基づく授業設計の方法、内的動機付け理論、問題解決学習理論、成人学習理論、目標達成理論などの教授-学習理論について講義を行う。また、授業の後半には実習指導案を作成するとともに、受講生によるプレゼンテーション討議を実施する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護科学特論	<p>今後の看護科学の発展に向け、独創的で創造的な研究課題に取り組むために必要な知識と研究技法の実際について、看護科学のさまざまな専門分野の視点から教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(学位プログラム長/2回) 研究学位と看護研究の学際性に関する講義  (6 安梅 勅江/2回) 国際発達ケア・エンパワメント科学に関する研究の実際  (31 岡山 久代/2回) 周産期のメンタルヘルス・ウィメンズヘルス看護学に関する研究の実際  (74 山海 知子/2回) 公衆衛生看護学に関する研究の実際  (38 katsumata Asako Takekuma/2回) 国際看護学、看護管理学に関する研究の実際  (134 日高 紀久江/2回) リハビリテーション看護学や慢性看護学に関する研究の実際  (158 水野 道代/2回) がん看護、緩和ケア、QOLに関する研究の実際  (161 森 千鶴/2回) 精神看護学・看護教育学に関する研究の実際  (6 安梅 勅江・31 岡山 久代・74 山海 知子・38 katsumata Asako Takekuma・134 日高 紀久江・158 水野 道代・161 森 千鶴/2回) 学生が希望する他の専門領域へのゼミの参加  (6 安梅 勅江・31 岡山 久代・74 山海 知子・38 katsumata Asako Takekuma・134 日高 紀久江・158 水野 道代・161 森 千鶴/2回) 学生のプレゼンテーションと総合討議</p>	オムニバス方式
	研究倫理学演習	<p>看護研究者として必要な研究倫理に関する基礎的な知識、研究を推進するための研究の倫理的な配慮について、e-learning教材(CITI-Japan)と討議により具体的な事例を通して学び、実践力を習得する。</p>	共同
	看護科学演習I	<p>看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案・発表し、建設的に討議をすることで論文作成の技術を探求させる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(505 杉本 敬子/7回) 概念分析や研究計画の発表と討議  (38 katsumata Asako Takekuma/5回) 看護科学の研究学位にふさわしい研究計画に関する発表と討議  (517 Togoobaatar Ganchimeg/2回) 研究計画のための文献検討  (524 福澤 利江子/2回) 測定方法についての発表と討議  (6 安梅 勅江/4回) 研究計画書の発表と討議</p>	オムニバス方式
	看護科学演習II	<p>演習により、看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自の研究課題の独創性や新奇性について、根拠をもって発表し、建設的に討議をおこなうことで、研究遂行能力を探求させる。自らの研究課題を設定し、研究概念枠組みを組み立て、作成した研究計画書にそって研究を進める上での課題等を明確にして改善し、科学的根拠に基づく独創性の高い論文を作成することができることを目標とする。授業計画としては、大学院生各自が自らの研究計画書に沿って進めている研究状況を発表し、他の大学院生や教員との討議を通して、自らの研究上の課題、改善点を明確にする回と、討議で指摘された問題等に関する改善方法を基に、修正した自らの研究について発表・討議する回(状況に応じて2回目以降は適宜追加)で構成する。</p>	共同
	看護科学研究	<p>研究指導教員によって演習形式で、3年次に開講する。院生が、研究計画書審査の結果をふまえ、看護科学に関する特定の研究課題について自立した研究活動を行い、科学的根拠に基づいた創造性・独創性の高い博士論文を完成できるよう最終指導にあたる。各研究指導教員が指導する研究課題は以下のとおり。</p> <p>(6 安梅勅江) 国際発達ケアおよびエンパワメント科学と小児と家族の生涯発達および看護に関する課題について研究指導を行う。  (31 岡山久代) 周産期のメンタルヘルスやウィメンズヘルス看護学に関する課題について研究指導を行う。  (74 山海知子) 公衆衛生学・公衆衛生看護学に関する課題について研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(38 katsumata Asako Takekuma) 国際看護、プライマリヘルスケア、看護倫理、高齢者ケア、看護管理に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(134 日高紀久江) リハビリテーション看護学や慢性看護学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(158 水野道代) がん看護、緩和ケア、QOLに関する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(161 森千鶴) 精神看護学に関する課題について研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ医学関連科目	スポーツ医学概論 I	<p>スポーツ医学に必要な身体の構造と機能および異常に関する基礎的事項について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(147 前田清司/1回) 本授業の概要を解説するとともに、血管系の構造、機能、異常について概説し、定期的な運動や食生活改善が血管系に与える影響について解説する。</p> <p>(55 小林裕幸/1回) 骨格筋の構造、機能、異常について概説し、特に骨格筋の廃用性萎縮について解説する。</p> <p>(159 宮内卓/1回) 中高年へのスポーツ指導者に必要な生活習慣病薬の薬理学について、降圧薬、抗不整脈薬、抗糖尿病薬などを取り上げて解説する。</p> <p>(122 羽田康司/1回) 臨床神経生理学や障害者スポーツを加味したリハビリテーション医学について解説する。</p> <p>(327 向井直樹/1回) スポーツ活動と運動器について、骨に及ぼす影響、手術後のアスレティックリハビリテーション、競技団体によるコンディショニング、女性アスリートの観点から解説する。</p> <p>(273 竹村雅裕/1回) アスレティックリハビリテーションと障害予防について、特にリスクファクターや予防手段の観点から解説する。</p> <p>(354 渡部厚一/1回) スポーツイベントにおける健康管理について、特に発生疾患、環境、安全管理の観点から解説する。</p> <p>(251 柴田 愛/1回) 身体活動と健康増進について、身体活動、座位行動、健康増進、中高齢者の観点から解説する。</p> <p>(651 菅原 順/1回) 人間情報工学の観点から、生体情報のデータ収集、機器・指標の開発、社会実装などについて解説する。</p> <p>(268 高橋 義雄/1回) スポーツ医学の社会史について、歴史、社会学、スポーツ医学の観点から解説する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ医学概論 II	<p>疾病に対する運動療法、疾病予防と運動、スポーツ障害等に対する対処法、理学療法などのスポーツ医学の応用的事項について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(90 竹越一博/1回) 本授業の概要を解説するとともに、運動とホルモンについて、特にカテコールアミン、肥満、多因子遺伝の観点から解説する。</p> <p>(183 渡邊 重行/1回) 虚血性心疾患の病態と負荷心電図について、特に負荷陽性所見と冠血流予備能の観点から解説する。</p> <p>(380 金森章浩/1回) 膝関節の傷害の治療と予防について、特に膝関節の傷害とバイオメカニクスの観点から解説する。</p> <p>(372 岡本嘉一/1回) スポーツ外傷における医療画像の役割について、MRI、靭帯、腱、筋肉、コンディショニングの観点から解説する。</p> <p>(497 下山寛之/1回) スポーツ栄養学について、エネルギー代謝および身体組成の観点から解説する。</p> <p>(526 福田 崇/1回) アスレティックリハビリテーションについて、アスレティックトレーナー、アスレティックリハビリテーション、トレーニングの観点から解説する。</p> <p>(352 和田恒彦/1回) スポーツ分野における物理療法について、マッサージ、鍼、灸、電気、温熱、水治の観点から解説する。</p> <p>(285 中田由夫/2回) 研究倫理およびスポーツ統計学について概説するとともに、研究デザインと運動疫学について解説する。</p> <p>(46 久野譜也/1回) 生活習慣病および介護予防のための運動と地域システムについて、高齢化、健康サービス産業、医療経済の観点から解説する。</p>	オムニバス方式
専門科目	スポーツ医学セミナー I	<p>スポーツ医学概論 I で学んだ事項について、各指導教員のもとで研究デザインや研究手法などの基礎を実習する。</p> <p>(147 前田清司) 血管系の評価方法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(55 小林裕幸) 骨格筋の評価方法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(159 宮内卓) 薬理的な研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(122 羽田康司) リハビリテーション医学に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(327 向井直樹) スポーツ活動と運動器に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(273 竹村雅裕) アスレティックリハビリテーションと障害予防に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(354 渡部厚一) スポーツイベントにおける健康管理に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(251 柴田 愛) 身体活動と健康増進に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(651 菅原 順) 人間情報工学的な研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(268 高橋 義雄) スポーツ医学の社会史についての研究を行うための研究手法を学習する。</p>	
	スポーツ医学セミナー II	<p>スポーツ医学概論IIで学んだ事項について、各指導教員のもとで研究デザインや研究手法などの基礎を実習する。</p> <p>(90 竹越一博) ホルモンの評価方法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(183 渡邊 重行) 虚血性心疾患の病態と負荷心電図に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(380 金森章浩) 膝関節の傷害の治療と予防に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(372 岡本嘉一) スポーツ外傷における医療画像の役割に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(526 福田 崇) アスレティックリハビリテーションに関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(497 下山寛之) エネルギー代謝および身体組成に関する評価方法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(352 和田恒彦) スポーツ分野における物理療法に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(285 中田由夫) 運動疫学に関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p> <p>(46 久野譜也) 生活習慣病および介護予防のための運動と地域システムに関する研究手法について、測定機器の使い方、測定方法、解析方法などを実習する。</p>	
	スポーツ医学セミナー III	<p>スポーツ医学分野で最先端の研究を行っている外部講師から最近の知見を学び、専任教員を含めて討論を行う。さらに、キャリアパスの実例についても学ぶ。</p>	
	博士論文研究指導 I	<p>博士論文の研究計画について、指導教員が研究指導を行う。また、立案した研究計画を研究計画発表会において発表する。</p>	
	博士論文研究指導 II	<p>博士論文作成に必要な研究の実施、解析などについて、指導教員が研究指導を行う。</p>	
	博士論文研究指導 III	<p>博士論文の作成について、指導教員が論文指導を中心に行う。</p>	
	(研究指導)	<p>(55 小林裕幸) インスリン抵抗性と運動療法、骨格筋の廃用性萎縮、自転車競技の医学に関連した研究指導を行う。</p> <p>(90 竹越一博) 遺伝子診断、生活習慣病における運動療法、アンチドーピング、カテコールアミンに関連した研究指導を行う。</p> <p>(122 羽田康司) リハビリテーション医学に関連した研究指導を行う。</p> <p>(147 前田清司) 運動と生活習慣病予防、運動と血管、競技力向上とコンディショニングに関連した研究指導を行う。</p> <p>(183 渡邊 重行) 心筋虚血、血管機能、核医学に関連した研究指導を行う。</p> <p>(285 中田由夫) 運動疫学に関連した研究指導を行う。</p> <p>(327 向井直樹) 骨形成・吸収、軟骨代謝、スポーツ傷害に関連した研究指導を行う。</p> <p>(352 和田恒彦) 鍼、灸、あん摩マッサージ指圧、物理療法、スポーツ障害、障害者スポーツに関連した研究指導を行う。</p> <p>(380 金森章浩) 膝関節の傷害の治療と予防、バイオメカニクスに関連した研究指導を行う。</p> <p>(46 久野譜也) 生活習慣病および寝たきり予防法の構築、健康政策、地域・職域の健康づくりシステムに関連した研究指導を行う。</p> <p>(651 菅原 順) 人間情報工学に関連した研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
体育科学関連科目	専門基礎科目	<p>研究方法論 I</p> <p>将来にわたって自立して研究していくための研究方法の基礎を広く学習し、体育科学を俯瞰して洞察する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(140 藤井 範久/3回) オリエンテーション・博士取得までのプロセス・研究倫理 (202 大石 純子/1回) 体育・スポーツ文化系の研究の実際と論文作成 (60 齋藤 健司/1回) スポーツ経営・政策系の研究の実際と論文作成 (63 坂入 洋右/1回) 体育・スポーツ教育系の研究の実際と論文作成 (114 西保 岳/1回) 運動生命科学系の研究の実際と論文作成 (507 仙石 泰雄/1回) 運動・コーチング科学系の研究の実際と論文作成 (203 大藏 倫博/1回) 健康体力系の研究の実際と論文作成 (527 藤井 直人/1回) 英文論文の作成方法</p>	オムニバス方式
		<p>研究方法論 II</p> <p>協同プロジェクトの企画について検討することを通して、博士論文作成のための研究方法、成果の発表方法等を習得する。演習形態で実施する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) プロジェクト内容に関するブレインストーミング、(3) プロジェクトテーマの検討、(4) 役割分担の検討、(5) 各テーマに関する文献・資料調査、(6) 各テーマに関する質問調査、(7) 各テーマの研究結果のまとめ、(8) プロジェクト成果発表の実施に関する企画検討、(9) プロジェクト成果発表の実施体制に関する検討、(10) 成果発表会運営に関する役割分担の検討</p>	共同
		<p>研究セッション</p> <p>研究方法、研究計画に関する具体的な事例を取り上げ討論し、体育科学に関する基礎的、応用的な方法論を具体的に吟味する。具体的には、研究報告会IおよびIIの実施に際し、発表者、司会、質問者それぞれの立場から報告会の運営に参画する。異なる研究領域の研究者や学生に対して、研究計画、研究概要を説明し、質疑応答することを通して、自身の研究内容、研究方法、研究改革などを振り返り、理解を深める。また、異なる研究領域の研究発表に対する質疑を通じて、体育科学全体の研究動向や研究方法などについて洞察力を高める。</p>	
専門科目	研究応用科目	<p>健康スポーツ科学研究演習 I</p> <p>健康スポーツ科学に関する最先端の研究の遂行、指導を行い、その成果を国際論文として発表するために必要な学習と指導を、個別及びチームで実施する。</p> <p>(63 坂入 洋右) 心理学の手法を用いて、健康・スポーツ心理学領域の課題の研究指導を行う。 (85 征矢 英昭) 生化学の手法を用いて、健康・スポーツ生化学領域の課題の研究指導を行う。 (114 西保 岳) 生理学の手法を用いて、健康・スポーツ生理学領域の課題の研究指導を行う。 (140 藤井 範久) バイオメカニクスの手法を用いて、健康・スポーツ工学領域の課題の研究指導を行う。 (527 藤井 直人) 生化学の手法を用いて、健康・スポーツ生化学領域の課題の研究指導を行う。また、メンター教員として、その他の専門領域の学生に対する研究指導が可能な教員を含む指導体制が構築できるよう調整する。</p>	左記個別テーマ担当の教員のほか、全ての研究指導担当教員が別途担当する
		<p>健康スポーツ科学研究演習 II</p> <p>健康スポーツ科学Iを踏まえ、健康スポーツ科学に関する最先端の研究の内容をさらに向上・発展させ、その成果を基に国際誌に掲載可能な論文を作成する。</p> <p>(63 坂入 洋右) 心理学の手法を用いて、健康・スポーツ心理学領域の課題の研究指導と論文指導を行う。 (85 征矢 英昭) 生化学の手法を用いて、健康・スポーツ生化学領域の課題の研究指導と論文指導を行う。 (114 西保 岳) 生理学の手法を用いて、健康・スポーツ生理学領域の課題の研究指導と論文指導を行う。 (140 藤井 範久) バイオメカニクスの手法を用いて、健康・スポーツ工学領域の課題の研究指導と論文指導を行う。 (527 藤井 直人) 生化学の手法を用いて、健康・スポーツ生化学領域の課題の研究指導と論文指導を行う。また、メンター教員として、その他の専門領域の学生に対する研究指導が可能な教員を含む指導体制が構築できるよう調整する。</p>	左記個別テーマ担当の教員のほか、全ての研究指導担当教員が別途担当する

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究実践科目	プロジェクトローテーション	As a basic course for the Problem-Based Research I/II, students will participate in several practical research projects in order to obtain fundamental knowledges and skills for the practical research.  課題解決研究I・IIを推進するための基礎として、複数の実践的研究プロジェクトに参加し、各自が実践的研究を遂行するために必要な知識と技能を修得する。 健康スポーツ科学に関する最先端の研究成果を社会に実装するための基礎的能力の養成を目的として、実践領域(対象)として、スポーツ・教育・地域・産業(アスリート・青少年・高齢者・一般人)のカテゴリーから複数の研究・実践機関を訪問してプロジェクトに参加し、体験的理解を深める。	
	課題解決研究I	プロジェクトローテーションでの経験を基盤とし、各受講生の専門的研究成果の応用が可能な分野において、外部機関と連携した実践的研究プロジェクトに参加し、その結果を実践報告書としてまとめる。課題解決研究の指導は、研究指導教員・実践指導者・メンター教員の三者がチームを組んで実施する。なお、実践報告書は、QEを受ける際の必要条件の一つであり、産学官連携外部評価委員の評価を受ける。	
	課題解決研究II	課題解決研究Iの経験と成果を踏まえて、各受講生の専門的研究成果の応用が可能な分野において、外部機関と連携した実践的研究プロジェクトに参加し、特定の研究テーマを中心的役割を担って推進し、その成果を論文として公表する。課題解決研究の指導および論文作成の指導は、研究指導教員・実践指導者・メンター教員の三者がチームを組んで実施する。	
	プロジェクトフォーラムI	研究プロジェクトの遂行に際して、毎年、研究成果の発表と次年度の研究計画のプレゼンテーションを行うためのプロジェクトフォーラムを開催する。受講生は、フォーラムの準備と実施に携わるとともに、各自の研究計画及び研究成果を発表する。研究の計画及び遂行の内容に関しては、各受講生の研究指導教員が指導するが、フォーラムの準備、実施、研究発表に関わる事前事後の指導は、本授業の担当教員が行う。	集中
	プロジェクトフォーラムII	プロジェクトフォーラムIの内容を踏まえ、更に進展・発展的な研究プロジェクトの遂行に際し、研究成果の発表と次年度の研究計画のプレゼンテーションを行うためのプロジェクトフォーラムを開催する。受講生は、各自の研究計画及び研究成果を発表することに加え、フォーラムの企画・運営に中核的に携わることを通して、研究成果の発表の場を主体的に運営する能力を養成する。研究の計画及び遂行の内容に関しては、各受講生の研究指導教員が指導するが、フォーラムの企画、運営、研究発表に関わる事前事後の指導は、本授業の担当教員が行う。	集中
国際研究科目	国際ディベート合宿I	設定したテーマに関して、最先端の研究者を国内外から招聘し、学際的な研究領域の教員及び受講生が参加して、英語で集中討議を行う。先端研究を幅広く応用し、チームを組んで社会的課題を解決するために必要な実践的、学際的、国際的研究能力を養成するため、以下の3タイプのディベートを実施する。 (1) 実践現場で合宿を行い、専門領域の異なる研究者と受講生が、社会的課題に関して共通の体験を踏まえた討議を行う。 (2) 専門領域の異なる研究者及び実践者が集まり、共通の研究対象・研究課題に関する討議を行う。 (3) 海外の研究者を招聘し、最先端の学問的課題に関して英語で討議を行う。	集中
	国際ディベート合宿II	国際ディベート合宿Iの経験を踏まえ、設定したテーマに関して、最先端の研究者を国内外から招聘し、学際的な研究領域の教員及び受講生が参加して、英語で集中討議を行う。受講生は、合宿の企画・運営に携わるとともに、各自の研究計画及び成果を発表、並びに司会等を担当することで、国際的ディベートに必要な技能を習得する。 (1) 実践現場で合宿を行い、専門領域の異なる研究者と受講生が、社会的課題に関して共通の体験を踏まえた討議を行う。 (2) 専門領域の異なる研究者及び実践者が集まり、共通の研究対象・研究課題に関する討議を行う。 (3) 海外の研究者を招聘し、最先端の学問的課題に関して英語で討議を行う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際フォーラム I	<p>Students will present their research outcomes related to Human Performance and Health and Sport Sciences at an international conference. During this process, they will obtain suggestions from their supervisor and professors in different research fields.</p> <p>健康スポーツ科学に関する各自の研究の成果を、国際会議等の場で実際に発表する。その前後において、各学生の専門的学問領域の指導教員と異分野の教員陣によるディスカッションと指導を通じた必要な準備を行う。</p> <p>事前指導を受けて専門領域の国際会議で研究成果を発表した後、授業において多様な専門領域からなる教員および学生に対するプレゼンテーションとディスカッションを行い、異分野の研究者と連携しチームで研究を進めるための能力を養成する。</p>	集中
	国際フォーラム II	<p>Based on the "Internatinal Forum I", students will present more developed their research outcomes related to Human Performance and Health and Sport Sciences at an international conference. During this process, they will obtain suggestions from their supervisor and professors in different research fields.</p> <p>国際フォーラムIの内容を踏まえ、更に発展的な健康スポーツ科学に関する各自の研究の成果を、国際会議等の場で実際に発表する。その前後において、各学生の専門的学問領域の指導教員と異分野の教員陣によるディスカッションと指導を通じた必要な準備を行う。</p> <p>事前指導を受けて専門領域の国際会議で研究成果を発表した後、授業において多様な専門領域からなる教員および学生に対するプレゼンテーションとディスカッションを行い、異分野の研究者と連携しチームで研究を進めるための能力を養成する。</p>	集中
	(研究指導)	<p>(21 内山治樹) 運動・コーチング科学系において、コーチングの哲学、競技スポーツの原理論、バスケットボールの競技論をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(45 木塚朝博) 健康体力科学系において、体力・運動能力、サイバネティクス、発育発達、トレーニング法をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(60 齋藤健司) スポーツ経営・政策科学系において、スポーツ政策、スポーツ法、体育・スポーツ行政をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(62 酒井利信) 体育・スポーツ文化科学系において、武道学、武道の文化性・宗教性、刀剣の思想、国際社会におけるジャパノロジーとしての武道をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(63 坂入洋右) 体育・スポーツ教育科学系において、リラクゼーション、セルフコントロール、カウンセリングをキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(78 清水諭) 体育・スポーツ文化科学系において、身体文化、身体技法、日常生活における政治をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(85 征矢英昭) 運動生命科学科学系において、スポーツ神経科学、認知機能、前頭前野・海馬の可塑性、脳代謝、持久力、ストレス耐性、神経変性疾患をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(93 武政徹) 運動生命科学科学系において、運動による骨格筋の適応変化、筋肥大・遅筋化・筋萎縮に関わる分子運動生理学、遺伝子ドーピングをキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(111 鍋倉賢治) 健康体力科学系において、持久系体力、有氣的・無氣的エネルギー代謝、トレーニング、マラソンをキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(113 西嶋尚彦) 健康体力科学系において、スポーツ統計学、スポーツデータサイエンス、体力・運動能力の発達学、体育測定評価学、達成度評価をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(114 西保岳) 運動生命科学科学系において、運動と血圧、体温調節、低圧環境と運動をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(140 藤井範久) 運動・コーチング科学科学系において、動力学的解析、身体運動のモデリング、シミュレーションをキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(203 大藏倫博) 健康体力科学系において、中高齢期、運動プログラム開発、生活習慣病の予防、高齢者の介護(転倒、認知症) 予防をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(219 麻見直美) 運動生命科学科学系において、骨代謝と栄養・運動、栄養アセスメント、運動・スポーツと食生活・栄養をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(231 小池関也) 運動・コーチング科学科学系において、用具-人体連成系のモデリングと分析、動作生成メカニズムの定量化、センシング技術の開発をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(44 菊幸一) スポーツ経営・政策科学系において、体育的需要、暴力、フロー、公共性をキーワードとして取り上げ、研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツウエルネス学関連科目	基礎科目 課題解決型データ分析論特講1	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになることを目標に、社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。	
	課題解決型データ分析論特講2	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。	
専門科目	スポーツウエルネス研究演習 I	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンター教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。 中間報告会Iに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。  (44 菊幸一) 主にスポーツプロモーション政策の観点から、研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。 (268 高橋義雄) 主にスポーツプロモーション政策の観点から、研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。 (30 尾縣貢) 主にスポーツマネジメントの観点から、研究テーマの設定や研究計画の立案について指導する。 (173 山口香) 主に高度競技マネジメントの観点から研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。 (46 久野譜也) 主にヘルスプロモーションに関する政策論及びビジネス論の観点から課題解決力を向上させる研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。 (251 柴田愛) 主に行動疫学の観点から、健康行動推進に関する研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。 (157 水上勝義) 主にメンタルヘルス政策の観点から、研究テーマの設定や研究計画に関する指導を行う。	
	スポーツウエルネス研究演習 II	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。 中間報告会IIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で1回以上の発表を行う(海外での調査研究に代えることができる)。  (44 菊幸一) 主にスポーツプロモーション政策の観点から、Iを発展させた研究の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導する。 (268 高橋義雄) 主にスポーツイベント政策の観点から、Iを発展させた研究の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導する。 (30 尾縣貢) 主にスポーツマネジメントの観点から、Iを発展させた、データ収集、資料・データの解析、統計処理、プレゼンテーションの方法について指導する。 (173 山口香) 主に高度競技マネジメントの観点から、Iを発展させたデータ収集、資料・データの解析、統計処理、プレゼンテーションの方法について指導する。 (46 久野譜也) 主にヘルスプロモーションの観点から、Iを発展させた研究の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導する。 (251 柴田愛) 主に行動疫学の観点から、Iを発展させた研究の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導する。 (157 水上勝義) 主にメンタルヘルス政策の観点から、Iを発展させた研究の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	<p>博士論文合格できる取りまとめ力を身につけるスポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。</p> <p>スポーツウエルネス研究演習ⅡまたはⅢで、国際学会で口頭発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)</p> <p>(44 菊幸一) 主にスポーツプロモーション政策の観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめと海外プレゼンテーションの方法について指導する。</p> <p>(268 高橋義雄) 主にスポーツイベント政策の観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめと海外プレゼンテーションの方法について指導し、国際学会での発表の指導も行う。</p> <p>(30 尾縣貢) 主にスポーツマネジメントの観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめ方や国際学会等でのプレゼンテーションの方法について指導する。</p> <p>(173 山口香) 主に高度競技マネジメントの観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめと海外プレゼンテーションの方法について指導する。</p> <p>(46 久野譜也) 主にヘルスプロモーションの観点から、Ⅱを発展させた博士論文のとりまとめに関する指導を行う。</p> <p>(251 柴田愛) 主に行動疫学の観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめと海外プレゼンテーションの方法について指導する。</p> <p>(157 水上勝義) 主にメンタルヘルス政策の観点から、Ⅱを発展させた研究成果のまとめと海外プレゼンテーションの方法について指導する。</p>	
	課題解決型プロジェクトワークⅠ	<p>世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。</p> <p>この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)を行う。</p> <p>(44 菊幸一) 主にスポーツプロモーション政策推進の観点から、事前計画の指導を行う。</p> <p>(268 高橋義雄) 主にスポーツイベント政策推進の観点から、事前計画の指導を行う。</p> <p>(30 尾縣貢) 主にスポーツマネジメントの観点から、事前計画の指導を行う。</p> <p>(173 山口香) 主に高度競技マネジメントの観点から、事前計画の指導を行う。</p> <p>(46 久野譜也) 主にヘルスプロモーションの観点から、課題設定のための論理的思考及びプロジェクト計画書作成のための指導を行う。</p> <p>(251 柴田愛) 主に健康行動推進のための施策や取り組みの構築および推進の観点から、事前計画作成の指導を行う。</p> <p>(157 水上勝義) 主にメンタルヘルス政策推進の観点から、事前計画の指導を行う。</p> <p>(354 渡部厚一) 主にスポーツ医学の観点から、事前計画の指導を行う。</p>	
	課題解決型プロジェクトワークⅡ	<p>世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。</p> <p>この授業では、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。</p> <p>(44 菊幸一) 主にスポーツプロモーション政策推進の観点から、フィールドワークおよび事後報告作成の指導を行う。</p> <p>(268 高橋義雄) 主にスポーツイベント政策推進の観点から、プロジェクトのフィールドワークおよび事後報告作成にむけた指導を行う。</p> <p>(30 尾縣貢) 主にスポーツマネジメントの観点から、フィールドワークおよび事後報告作成および発表の指導を行う。</p> <p>(173 山口香) 主に高度競技マネジメントの観点から、フィールドワークおよび事後報告作成および発表の指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(46 久野譜也) 主に政府・自治体・健保・ヘルスケア企業等におけるそれぞれの観点における健康施策に関するプロジェクトの立案、実行、評価、改善に関する指導を行う</p> <p>(251 柴田愛) 主に健康行動推進のための施策や取り組みの構築および推進の観点から、フィールドワークおよび事後報告作成の指導</p> <p>(157 水上勝義) 主にメンタルヘルス政策推進の観点から、フィールドワークおよび事後報告作成の指導を行う。</p> <p>(354 渡部厚一) 主にスポーツ医学の観点から、フィールドワークおよび事後報告書作成および発表の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コーチング学関連科目	コーチング学研究法Ⅰ	<p>近年、研究者には、論文を作成する能力とともに、研究倫理審査申請、競争的研究資金・助成金公募申請など、研究活動をマネジメントする能力が求められてきている。本科目では、これらの要請に応えるために、コーチング学における研究方法について学習するとともに、研究マネジメント力の開発を目指す。それらを通して、自立した研究者として活動していくための資質を養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 會田 宏/1回) コーチング学における研究の対象と方法  (309 前村公彦/1回) コーチング論・トレーニング学研究法  (286 中村 剛/1回) スポーツ運動学研究法  (208 大山卞圭悟/1回) 個別コーチング学研究法Ⅰ (個人)  (226 川村 卓/1回) 個別コーチング学研究法Ⅱ (球技)  (311 増地克之/1回) 個別コーチング学研究法Ⅲ (武道)  (552 山田永子/1回) 学術雑誌への投稿と査読への対応  (489 木越 清信/1回) 博士論文のまとめ方  (575 木内敦詞/1回) 研究倫理と研究倫理審査申請書の書き方  (620 長谷川悦示/1回) 競争的研究資金・助成金公募申請書の書き方</p>	オムニバス方式
	コーチング学研究法Ⅱ	<p>コーチング学に関する実務能力と高度研究能力を兼ね備えた実務型博士の養成を目指し、学生が自立して高度研究活動を実践するために、具体的なテーマに基づいた研究計画について各アドバイザーコミティの指導のもとで学習する。</p> <p>(1 會田 宏) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅱ (球技)、個別コーチング学領域・コーチング学Ⅲ (武道) の研究指導を行う。  (30 尾縣 貢) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (575 木内敦詞) 一般コーチング学領域・コーチング論の研究指導を行う。  (51 香田郡秀) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅲ (武道) の研究指導を行う。  (579 坂本昭裕) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (595 本間三和子) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (110 中山雅雄) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅱ (球技) の研究指導を行う。  (173 山口 香) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅲ (武道) の研究指導を行う。  (184 渡辺良夫) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (208 大山卞圭悟) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (210 岡田弘隆) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅲ (武道) の研究指導を行う。  (222 河合季信) 一般コーチング学領域・コーチング論の研究指導を行う。  (226 川村 卓) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅱ (球技) の研究指導を行う。  (276 谷川 聡) 一般コーチング学領域・トレーニング学、個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (282 寺山由美) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。  (286 中村 剛) 一般コーチング学領域・スポーツ運動学の研究指導を行う。  (620 長谷川悦示) 一般コーチング学領域・コーチング論の研究指導を行う。  (309 前村公彦) 一般コーチング学領域・トレーニング学の研究指導を行う。  (311 増地克之) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅲ (武道) の研究指導を行う。  (315 松元 剛) 一般コーチング学領域・コーチング論の研究指導を行う。  (463 秋山 央) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅱ (球技) の研究指導を行う。  (489 木越 清信) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅰ (個人スポーツ) の研究指導を行う。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(552 山田永子) 個別コーチング学領域・コーチング学Ⅱ(球技)の研究指導を行う。	
	コーチング学事例研究法	<p>コーチングにおける実践力の構造を理解し、受講生自らのコーチング実践を事例研究としてまとめる方法を学習する。具体的には、コーチング実践における記録の取り方、必要なデータの抽出方法、競技力(あるいは技能、記録など)を向上させる過程を記述する方法を身につけ、異なる専門種目の受講生が読んでも体験を共有できる「ケースレポート」として提示する方法を学習する。さらに、受講生による実践事例の報告とそれに対するグループ討論を通して、コーチング実践力の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(184 渡辺良夫/1回) コーチング実践力の構造と事例研究の意義  (184 渡辺良夫/1回) コーチング実践を事例研究として提示する方法</p> <p>(309 前村公彦/1回) 事例研究の紹介: ダンス  (286 中村 剛/1回) 事例研究の紹介: 体操競技  (1 會田 宏/1回) 事例研究の紹介: 野球  (184 渡辺良夫/4回) 事例の発表と討論  (1 會田 宏/1回) 事例研究を論文として投稿する方法</p>	オムニバス方式
	コーチングの哲学と倫理	<p>コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(222 河合季信/1回) コーチが有すべき指導哲学および指導倫理  (137 深澤浩洋/1回) コーチングとフェアプレー  (60 齋藤健司/1回) コーチングと人権  (173 山口 香/1回) コーチングと暴力・体罰  (595 本間三和子/1回) コーチングとハラスメント  (683 浅川 伸/1回) コーチングとドーピング・薬物乱用  (327 向井直樹/1回) コーチングと事故防止・安全対策  (688 勝田 隆/1回) 新しい時代にふさわしいコーチング: 「インテグリティ」と「コンピテンシー」の視点から  (1 會田 宏/2回) 新しい時代にふさわしいコーチングを議論する</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術学 関連科目	芸術学特別演習IA	<p>教育目標との関連：芸術及びデザインに関する高度な学識と専門的な能力の養成（博士論文作成準備－1）</p> <p>授業の到達目標：自立的な研究活動や創造的な活動（資料収集、研究に関する基礎固め）</p> <p>授業概要：研究倫理、著作権に関わる理解を深める。博士論文作成に関わる指導の一環として、学期末に各自の研究成果を提示する口頭発表を行う。複数の教員による講評により、論文作成上の問題点について対処する機会とする。指導教員による事前の個別的な指導を含む、高度な演習。</p>	
	芸術学特別演習IB	<p>教育目標との関連：芸術及びデザインに関する高度な学識と専門的な能力の養成（博士論文作成準備－2）</p> <p>授業の到達目標：自立的な研究活動や創造的な活動（研究基盤の確立）</p> <p>授業概要：芸術学特別演習IAでの反省を踏まえ、博士論文作成に関わる指導の一環として、学期末に各自の研究成果を提示する口頭発表を行う。複数の教員による講評により、論文作成上の問題点について対処する機会とする。指導教員による事前の個別的な指導を含む、高度な演習。</p>	
	芸術学特別演習IIA	<p>教育目標との関連：芸術及びデザインに関する高度な学識と専門的な能力の養成（査読論文作成に関わる活動－1）</p> <p>授業の到達目標：自立的な研究活動や創造的な活動（査読論文作成と投稿）</p> <p>授業概要：博士論文作成に関わる指導の一環として、査読論文の作成に関わる研究成果を学期末に口頭発表を行う。複数の教員による講評により、論文作成上の問題点について対処する機会とする。指導教員による事前の個別的な指導を含む、高度な演習。</p>	
	芸術学特別演習IIB	<p>教育目標との関連：芸術及びデザインに関する高度な学識と専門的な能力の養成（査読論文作成に関わる活動－2）</p> <p>授業の到達目標：自立的な研究活動や創造的な活動（査読論文作成と投稿、および、博士論文の全体構成の検討）</p> <p>授業概要：博士論文作成に関わる指導の一環として、査読論文の作成に関わる研究成果やそれに関わる芸術学特別演習IIAでの反省点、博士論文作成に関わる論文の全体構成の検討について学期末に口頭発表を行う。複数の教員による講評により、論文作成上の問題点について対処する機会とする。指導教員による事前の個別的な指導を含む、高度な演習。</p>	
	<p>（研究指導）</p> <p>○は研究指導教員</p>	<p>○（10 石崎和宏）美術教育における学習方略の研究（美術鑑賞の認知発達、学習支援ツールの開発）、フランツ・チゼックの美術教育論</p> <p>○（24 太田圭）日本画制作におけるマチエールを主とした表現・技法の研究</p> <p>○（26 大原央聡）木彫制作、及びそれに関わる表現技法の研究</p> <p>○（33 長田年弘）西洋古代美術史（ギリシア・ローマ・初期キリスト教）</p> <p>○（43 菅野智明）中国書法史、特に近代の書論・書文化論についての研究</p> <p>○（94 田島直樹）版画制作、腐蝕銅版画・ステート・版表現に関する</p> <p>○（96 田中佐代子）ビジュアルデザイン、特に研究者のためのビジュアルデザインについての研究</p> <p>○（108 内藤定壽）洋画制作、アクリル絵具と油絵具の併用による混合技法</p> <p>○（109 直江俊雄）芸術教育（美術教育史、日本と諸外国の美術教育、学校・美術館等における教育方法）</p> <p>○（118 野中勝利）都市デザイン、都市景観、都市計画、まちづく</p> <p>○（144 藤田直子）エコロジカル・デザイン、ランドスケープ・エコロジー、グリーンインフラ・デザイン</p> <p>○（145 仏山輝美）油彩画制作、絵画の形式に着目した制作実践・制作方法論</p> <p>（190 李昇姫）人間の創造活動における感性の働きと感性情報による創造プロセスの解明</p> <p>○（281 寺門臨太郎）西洋近世・近代美術史、ミュージアム・スタディーズ</p> <p>○（291 橋本剛）建築・都市パッシブデザイン論、自然環境と調和した建築・都市環境デザインに関する研究</p> <p>○（295 林みちこ）日本近現代美術史、日英美術交流史、博覧会研究</p> <p>（501 鄭然ギョン）ガラス造形制作、ガラス素材の色彩に関する研究、及び芸術心理学を応用したドローイング表現に関する研究</p> <p>（530 星美加）ミクストメディアと3DCG技術を活用した絵画制作</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(534 Gary Roderick MCLEOD) フォトメディア、ヴィジュアル・ リテラシー、ビジュアル方法論 (540 水野裕史) 日本美術史、特に中近世における画題形成に関 する研究 (543 宮坂慎司) 塑造による具象彫刻制作および表現技法の研究 (555 山本美希) マンガ・絵本を中心とする画像を用いた物語表 現の研究、文字のない絵本	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン学関連科目	デザイン学特別研究A	デザイン学の博士修了研究へ向けて、学生自らが設定した課題に関して、その背景と目的の整合性を明確にし、研究の学術的な価値について議論を交えて指導する。 さらに研究仮説を立て、その定義を明確にするための議論を行い、具体的な修了研究のための調査実験の計画を導く。	
	デザイン学特別研究B	デザイン学の博士修了研究へ向けて、学生自らが設定した課題の研究仮説を確認し、仮説検証のために必要な調査実験の計画について議論し、具体的な調査実験の指導およびその試行の評価と議論を行い、修了研究を具体化する。	
	デザイン学特別研究C	デザイン学の博士修了研究へ向けて、具体的な調査実験の結果およびその分析について講評会形式で議論を深めることで課題を発見し、その課題解決のための調査実験計画の指導およびその実施について議論を行い、具体的な修了研究の分析を進める。	
	デザイン学特別研究D	デザイン学の博士修了研究へ向けて、調査実験の結果およびその分析に基づき仮説の検証、目的との対応について考察した結果を講評会形式で議論を深め、修了研究における高度な考察をまとめる。	
	インターンシップ	デザインに関する高度な実践的環境について、現場環境に就いて、実際のデザイン実務について実習する。国内外の企業や実践的プロジェクトにおける実習やインターンシップの機会も活用して、デザインの目的やプロセスを体験として修得する。自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	集中
	海外研修	本研修は海外で学生それぞれが設定する高度なデザインテーマに基づいて、フィールドワークに取り組む。または海外で行われる国際学会等に出席し研究発表を行い、海外の研究者と交流を行う。国際的な視野を涵養することとともに、国際的な情報収集力および情報発信力を身に着ける。	集中
	(研究指導) ○は研究指導教員	○ (123 花里俊廣) コンベンショナルな環境行動論の手法を用い、一部については、ビッグデータに対応した研究手法も併用し、主に集合住宅について研究する。 ○ (177 山中 敏正) 感性科学を基盤としたデザイン研究の指導を行う。 ○ (57 小山慎一) 心理学実験、行動観察、質問紙調査、脳機能イメージング、生理学的計測を用いたデザインの評価に関する研究の指導を行なう。 ○ (340 山田協太) フィールドワークを基礎としたデザインの研究指導を行う。 ○ (341 山田博之) コミュニケーションツールの開発と評価、及び学習のためのプロダクト開発に関する研究指導を行う。 ○ (178 山本早里) 色彩に関するデザインの調査分析および色彩デザインの実践の研究指導を行う。 (200 内山俊朗) プロダクトデザイン、インタラクションデザインにおけるプロトタイプング手法とその実践を指導する。 (400 首藤 文洋) 感覚を通じた感性脳機能の評価と作用機構の解明を神経科学(脳科学)的方法で研究する。 (625 星野准一) 超スマート社会において生活の質を高めるエンタテインメントデザインの研究指導を行う。 (564 星野聖) 医用生体計測とヒューマンインターフェース設計および医用応用に関する研究指導を行う。 (647 氏家 弘裕) 実験心理学的手法や生理学的計測法を用いて視覚情報デザイン及びその評価法を研究する。 (342 山中克夫) 認知症高齢者の非薬物的アプローチを中心に、デザインという切り口から研究方法を指導する。 ○ (310 増田知之) サブカルチャーとデザインについて、統計学的手法と形態学的視点から解析を進める。 ○ (646 岩木直) 認知脳機能計測技術を用いたサービス・プロダクトデザインの評価方法の研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
世界遺産学関連科目 専門科目	世界遺産学特別研究（研究指導）	<p>世界遺産ならびに関連する国際的・国内的な文化遺産・自然遺産の保全制度の比較研究を通じて、研究者としての能力を養う。既往研究に基づいた問題設定、適切な研究・分析の方法、研究倫理をふまえた論文執筆など、世界遺産学を担う研究者にふさわしい能力を身につける。</p> <p>（20 上北恭史）遺産整備計画に関する研究について、主に文化遺産の遺産整備・社会的活用の既存研究の把握と理解、フィールドワークによるデータの分析等を通して、専門性の確立と論文作成の指導を行う。</p> <p>（165 八木春生）中国仏教造像や陶磁器を研究対象とし、美術史的な研究方法に考古学的手法を加えながら作品の分析を行い、それらがいかなる目的のために制作されたかなど新たな観点から評価できるよう研究指導を行う。</p> <p>（50 黒田乃生）国内外の文化的景観を対象に、フィールドワークによる事例の探求と、文献資料による概念の考究を通して、歴史的な変遷に着目した空間分析と理論の展開に関する研究指導を行う。</p> <p>（151 松井敏也）保存修復科学の新しい理論の構築および原理の追求を自然科学的手法により行ない、その評価と検証を考究しながら、独創的で新たな学問領域の萌芽となるような課題の発見させる研究指導を行う。</p> <p>（199 伊藤弘）文化遺産や自然遺産を対象とした、持続的な観光の在り方に関して、各遺産に見出されてきた様々な価値を把握しながら、その周辺環境も含めた継承に主眼を置いて研究指導を行う。</p> <p>（271 武正憲）自然を対象とした観光資源化およびその保全のあり方に関して、概念の考究およびフィールドワークによる社会科学的な研究方法を用いて、調査結果の分析・研究発表・論文執筆に関する指導指導を行う。</p> <p>（500 下田一太）日本やアジアを中心とした建築・都市遺産に関する建築史、修復に関する事例研究を通じて、建築を対象とした遺産保護について研究指導を行う。</p> <p>（466 池田真利子）主としてヨーロッパの遺産保全の在り方や活用に関して、人文的な諸要素や地域性、政策について広く議論を行い、研究・分析方法や理論・実証に関して実践的かつ学術的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医学 関連 科目	医学研究概論	<p>医学研究に必要な試薬の管理、実験廃液の分別、遺伝子組換え体の取り扱い、情報の管理、研究倫理、研究不正の防止などに関する基礎的知識を学修する。また、自らの研究に応用できる医学地区の共同利用施設や機器の利用方法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/計10回)</p> <p>(162 森川一也・546 Mayers Thomas David/1回) コース概要、医学と生命倫理  (162 森川一也/1回) 筑波大学の安全管理体制、遺伝子組換え体や毒劇物等の取扱い  (162 森川一也/1回) 臨床研究のガイドラインと手続き  (120 橋本 幸一・278 鶴嶋 英夫・292 長谷川雄一/1回) 未来医工融合研究センター (CIME)、細胞調製装置 (CPF) の利用法  (229 工藤崇/1回) 動物実験施設の利用法  (301 福田綾/1回) 医学共同利用施設 (工作・電顕・組織標本)、医学共通機器室等の利用法  (162 森川一也/4回: e-learning) 研究倫理、研究者の行動規範、情報、個人情報等の取扱い等のe-learning学習指導 (APRIN)</p>	<p>講義 9時間  演習 6時間  オムニバス方式</p> <p>演習</p>
	医学セミナー	<p>学位プログラム担当教員または招聘する研究者による講演を受講し、質疑応答に参加する。そして、関連分野の原著論文を読み、その研究分野の背景、研究方法、および研究成果の特徴について理解する。加えて、今後の課題、医学研究における当該研究の意義について考察し、その内容について指導教員等と討論を行い、レポートを作成して理解を深める。これにより、医学の様々な分野について詳細に議論し応用力を磨く訓練を行うとともに、科学的文章に対する理解を深め、文章作成のための技術力向上に取り組む。</p>	
	医学特殊研究	<p>研究指導教員の個別指導によって、学位論文のテーマの設定に必要な基礎的知識の取得方法とその内容について学ぶ。また討論を通じて各自の研究テーマを設定し、その研究実施に必要な研究方法を選択し、必要な申請手続きを行い、博士論文作成の見通しを立てる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健) 遺伝子制御学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (19 入江 賢児) 分子細胞生物学領域の研究テーマ設定と遺伝子制御学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (392 小林 麻己人) 分子発生生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (149 榎 正幸) 分子神経生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (88 高橋 智) 解剖学・発生学・細胞工学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (39 加藤 光保) 実験病理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (253 澁谷 和子) 免疫制御医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (25 大根田 修) 再生医学・幹細胞生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (223 川口 敦史) 感染生物学 (分子ウイルス学) 国際医療学・医学ウイルス学・蛋白質代謝学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (162 森川 一也) 感染生物学 (細菌学) 領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (305 Ho Kiong) 感染生物学 (分子寄生虫学) 領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (494 小金澤 禎史) 神経生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (156 松本 正幸) 認知行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (64 榮 武二) 医学物理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (450 三好 浩稔) 医工学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (169 柳沢 裕美) 血管マトリックス生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (104 土屋 尚之) 分子遺伝疫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (172 山岸 良匡) 社会健康医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。  (117 野口恵美子) 遺伝医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(48 熊谷 嘉人・154 松崎 一葉) 環境医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(170 柳沢 正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(608 杓村 憲樹) 創薬化学・有機化学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(181 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(241坂口 昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(348 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(300 VOGT Kaspar Manuel) 神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(296 林 悠) 脳機能発達学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(65 櫻井 武) 分子行動生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(66 櫻井 英幸) 放射線腫瘍学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(13 磯辺 智範) 放射線健康リスク科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(4 新井 哲明) 精神医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(97 田中 誠) 麻酔・蘇生学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(18 井上 貴昭) 救急・集中治療医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(146 本間 真人) 臨床薬剤学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(148 前野 哲博) 地域医療教育学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(182 我妻 ゆき子) 臨床試験・臨床疫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 臨床研究地域イノベーション学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(35 小田 竜也) 消化器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(136 平松 祐司) 心臓血管外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(174 山崎 正志) 整形外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫) 呼吸器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(150 増本 幸二) 小児外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(115 西山 博之) 腎泌尿器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(83 関堂 充) 形成外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(127 原 尚人) 乳腺内分泌外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実) 婦人周産期医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(56 小松 洋治) 脳神経外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(23 大鹿 哲郎) 眼科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹) 顎口腔外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭) 呼吸器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(171 山縣 邦弘) 腎臓内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(100 千葉 滋) 血液内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・153 松坂 賢) 代謝・内分泌内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(41 川上 康) 臨床検査学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(86 高田 英俊) 小児科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(135 人見 重美) 感染症内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(84 関根 郁夫) 臨床腫瘍学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) ヘルスサービスリサーチ領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(61 斎藤 環) 社会精神保健学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(59 近藤 正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	
	医学特別演習	<p>各指導教員から研究指導を受け、研究結果に対する解析の仕方を学び、その意義について理解するとともに、研究成果に基づいた次の研究計画を立案し、それを実行することを繰り返し、学位論文作成につなげる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健) 遺伝子制御学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(19 入江 賢児) 分子細胞生物学領域の研究テーマ設定と遺伝子制御学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(392 小林 麻己人) 分子発生生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(206 大林 典彦) 生理化学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(149 榎 正幸) 分子神経生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(88 高橋 智) 解剖学・発生学・細胞工学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(253 澁谷 和子) 免疫制御医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(25 大根田 修) 再生医学・幹細胞生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(223 川口 敦史) 感染生物学（分子ウイルス学）領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(162 森川 一也) 感染生物学（細菌学）領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(305 Ho Kiong) 感染生物学（分子寄生虫学）領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(494 小金澤 禎史) 神経生理学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(156 松本 正幸) 認知行動神経科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(64 榮 武二) 医学物理学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(450 三好 浩稔) 医工学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(169 柳沢 裕美) 血管マトリックス生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(104 土屋 尚之) 分子遺伝疫学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(172 山岸 良匡) 社会健康医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(117 野口恵美子) 遺伝医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(48 熊谷 嘉人・154 松崎 一葉) 環境医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(223 川口 敦史) 国際医療学・医学ウイルス学・蛋白質代謝学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(170 柳沢 正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(608 杵村 憲樹) 創薬化学・有機化学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(181 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(241坂口 昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(348 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(300 VOGT Kaspar Manuel) 神経科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(296 林 悠) 脳機能発達学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(65 櫻井 武) 分子行動生理学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(66 櫻井 英幸) 放射線腫瘍学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(13 磯辺 智範) 放射線健康リスク科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(4 新井 哲明) 精神医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(97 田中 誠) 麻酔・蘇生学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(18 井上 貴昭) 救急・集中治療医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(146 本間 真人) 臨床薬理学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(148 前野 哲博) 地域医療教育学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(182 我妻 ゆき子) 臨床試験・臨床疫学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 臨床研究地域イノベーション学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(35 小田 竜也) 消化器外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(136 平松 祐司) 心臓血管外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(174 山崎 正志) 整形外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫) 呼吸器外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(150 増本 幸二) 小児外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(115 西山 博之) 腎泌尿器外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(83 関堂 充) 形成外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(127 原 尚人) 乳腺内分泌外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実) 婦人周産期医学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(56 小松 洋治) 脳神経外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(23 大鹿 哲郎) 眼科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹) 顎口腔外科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭) 呼吸器内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(171 山縣 邦弘) 腎臓内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(100 千葉 滋) 血液内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・153 松坂 賢) 代謝・内分泌内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(41 川上 康) 臨床検査学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(86 高田 英俊) 小児科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(135 人見 重美) 感染症内科学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(84 関根 郁夫) 臨床腫瘍学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) ヘルスサービスリサーチ領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(61 斎藤 環) 社会精神保健学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。 (59 近藤 正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の研究計画の立案・実行と研究結果に対する解析の指導を行う。	
	国際実践医学研究特論	国際共同研究に参加し、情報の交換と理解、および研究実践による先端技術と論理的思考方法を涵養する。あるいは、海外での研修を通して、海外の研究者と議論し、国際的に通用する研究を体感するとともに 研究手技・語学力を身につける。また、海外教育研究実習に参加し、英語による研究討論および実習指導を実践する。以上により、国際的に通用する研究者となるために必要なことを理解する。	共同
	最先端医学研究セミナー	ポストゲノム時代の医学生物学研究を支える新たな技術や概念について講義を受け、内容について討論を行なうとともに、関係論文を読み、レポートを作成して理解を深める。主な内容は、以下のとおりである。 (1) 哺乳動物遺伝学：遺伝子改変マウスをはじめとした哺乳動物モデルを用いた最先端の医学生物学研究について、技術基盤と有用性を学ぶ。(2) 医学物理・化学：最先端の研究機器や物理化学的技術について、またこれらを駆使した最先端の研究について聴講し、医学生物学研究に必要な物理学、物理化学、化学的知識について理解する。	共同
	橋渡し研究マネジメント	「医薬品や医療機器などの開発においては倫理的、科学的に適切な方法による安全性・有効性の科学的実証研究（前臨床研究、臨床研究（治験））は欠かせない。こうした状況にあって倫理的・科学的観点のみならず技術経営的観点（技術動向の理解、事業化の方向性企画・立案・検証、リスクマネジメント、知識マネジメント等）に立脚し戦略的に医療・医薬・健康に関わる研究開発のマネジメントを担える人材を目指し、専門知識と関連する知識を習得する。  (オムニバス方式／全10回)  (120 橋本 幸一／4回) 橋渡し研究概論、医薬品開発（前臨床試験、臨床試験）、プロジェクトマネジメント、レギュラトリーサイ (160 村谷 匡史／2回) 医薬品開発（探索研究）、バイオイン フオマティクス (120 橋本 幸一／1回) 医薬品開発の世界的潮流と日本の役割 (120 橋本 幸一／1回) 技術イノベーション論 (278 鶴嶋英夫／1回) 橋渡し研究の実際例（医療機器） (233 小島崇宏／1回) 橋渡し研究の実際例（医薬品）	オムニバス方式
	医科学教育実習	ティーチング・フェローとして、研究指導教員に協力し、担当する科目の目標、学習内容、評価基準の作成、授業と試験問題の作成・採点の補助を行う。研究指導教員が担当している学類または修士課程の科目が、当該教育組織の人材養成の目的の中で、どのような役割を担っているかを理解し科目教育に必要な技能を修得し、教育の組織的展開の意義を理解する。 教育のあり方についての理解、教育改善の推進に貢献する知識、教員としての技能、態度等を修得したかについて評価を受ける。	
	キャリアパス・セミナー	学位プログラム担当教員あるいは招聘された講演者の講演を聞き、討論を行うことにより、医学学位プログラム修了者に拓ける多様な将来像を認識し、自らのキャリアパスについて深く考察する。同級生や教員との議論を通じて、その実現に向けて、博士課程においてどのように学修するか計画を立てる。研究指導教員の指導を受けて、今後の学習の目標と計画についてレポートを作成し、評価を受ける。	
	医学専門英語	Students will first learn the basic principles of scientific writing style and composition. They will then apply these principles by writing and editing their own research papers.  英文科学論文における単語の選び方、構文、論文構成などの形式と書き方の基礎を学修するとともに、誤りやすい問題点を認識する。習得した知識を用いて学生自身のこれまでの研究成果に基づく英文科学論文を執筆してその推敲を行う。これらにより、履修者は、効果的な英文科学論文の書き方を習得する。さらに学生相互の論文の推敲とそれに伴う議論を通じて、英語による討論能力を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	メディカルコミュニケーション演習I	<p>A literature-based, seminar-type course for the students to evaluate and review the latest scientific breakthrough in Medical Sciences. The goal of this course is for students to develop the proficiency they need to effectively and energetically communicate their professional achievements within the international scientific community.</p> <p>履修者は医科学領域の最新の科学論文を読み、内容をよく理解した上で、プレゼンテーションを行い、他の学生や教員との議論を行う。この科目を通じて、履修者は、自身の研究成果を国際的な研究者コミュニティにおいて、わかりやすく、効果的かつ説得力のあるプレゼンテーションを行うことの重要性を理解するとともに、その能力を涵養する。</p>	
	メディカルコミュニケーション演習II	<p>研究指導教員の指導のもとで、国際会議で自分の研究成果について発表する準備を行い、国際会議に参加する。会議における自分の発表に関する討論内容、他の研究者の発表から学んだこと、他の研究者の発表に関する討論内容、会議で学んだことを自らの今後の研究にどのように活かしていくかについてレポートにまとめ報告する。</p>	
	研究発表と討論	<p>学位プログラム担当教員や研究員等の医科学に関する最新の研究成果の英語の発表を聞き、重要なポイントを理解し、研究内容に関する討論を英語で行う。また、学生が自らの研究成果を英語で発表し、討論する。これにより、英語による効果的なプレゼンテーション法、ディスカッションの方法を学ぶとともに、聴衆からの英語の質問を理解し、議論する能力を涵養する。</p>	
	医科学国際討論I	<p>インターネット回線を使って国立台湾大学、京都大学と本学の講義室を連結し、各大学の教員による英語の授業の聴講と討論、各大学の学生による英語の論文紹介と討論を通して、各大学の教員の専門とする生命科学の分野の知識および英語によるサイエンスコミュニケーション能力を身につける。Iでは主に細胞の分子生物学について学修する。</p>	
	医科学国際討論II	<p>インターネット回線を使って国立台湾大学、京都大学と本学の講義室を連結し、各大学の教員による英語の授業の聴講と討論、各大学の学生による英語の論文紹介と討論を通して、各大学の教員の専門とする生命科学の分野の知識および英語によるサイエンスコミュニケーション能力を身につける。IIでは主にがん生物学について学修する。</p>	
	臨床研究方法論	<p>最新の臨床研究の水準を理解するために、英文原著論文・総説を読み、その内容を説明できるようにする。臨床現場で得た研究のシーズにその論文検討で得た成果を当てはめ、自らの研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線診断の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 放射線腫瘍学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線健康リスク科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 精神医学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(266 高橋 晶) 災害精神支援学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 救急・集中治療医学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(146 本間 真人・293 旗野健太郎・414 土岐 浩介) 臨床薬剤学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 瀧野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舩本 祥一) 地域医療教育学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験・臨床疫学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭・175 山田 雅信・442 町野 毅・458 山田 武史) 臨床研究地域イノベーション学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 消化器外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 心臓血管外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 呼吸器外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 整形外科の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 小児外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 腎泌尿器外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(83 関堂 充・395 佐々木 薫) 形成外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) 乳腺内分泌外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小畠 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 婦人周産期医学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡 孝浩・435 星 崇仁) 眼科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村 文吾・431 廣瀬 由紀) 耳鼻咽喉科頭頸部外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 顎口腔外科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓・246 佐藤 明・262 関口 幸夫・345 吉田健太郎・360 石津智子・436 星 智也・329 村越 伸行・456 山崎 浩) 循環器内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 呼吸器内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所 康志・418 中馬越清隆) 神経内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(171 山縣 邦弘・197 臼井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐 平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川 雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 血液内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 膠原病内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博・167 矢藤 繁) 代謝・内分泌内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(41 川上 康・338 山内 一由) 臨床検査学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (303 藤澤 康弘・359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・461 渡邊 玲) 皮膚科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 紘子) 小児科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (135 人見 重美) 感染症内科学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (84 関根 郁夫・52 小島 寛) 臨床腫瘍学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (99 田宮 菜奈子) ヘルスサービスリサーチの研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (61 齋藤 環) 社会精神保健学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。  (59 近藤 正英) 保健医療政策学・医療経済学の研究テーマにどう役立てるかを明らかにできるようにする。</p>	
	外国人医学者とのコミュニケーション演習	<p>This discussion seminar is open to all students in the medical program including international students. We will read current issue articles in publications such as Nature, and students will be encouraged to think about and express opinions about those issues.</p> <p>日本人学生および留学生が国際的な医学・医療問題の英文記事や論文を読み、英語で討論を行う。</p>	共同
	インターンシップ I	<p>企業等のインターンシップに参加し、就業意識と実務能力を向上させるとともに、社会が医学分野の博士人材に求めている役割について理解する。訪問企業や分野等に関する事前調査内容と、就業体験内容をレポートにまとめ、社会が医科学に求めている役割と自己の個性・適性について考え、キャリア・パス形成につなげる。IとIIは異なるインターンシップに参加する。</p>	
	インターンシップ II	<p>企業等のインターンシップに参加し、就業意識と実務能力を向上させるとともに、社会が医学分野の博士人材に求めている役割について理解する。訪問企業や分野等に関する事前調査内容と、就業体験内容をレポートにまとめ、社会が医科学に求めている役割と自己の個性・適性について考え、キャリア・パス形成につなげる。IとIIは異なるインターンシップに参加する。</p>	
	English Topics in Science I	<p>To reinforce English vocabulary and fluency in discussing scientific concepts in a diverse array of research fields while introducing cutting edge technologies. Students will develop critical thinking and questioning skills for use in conferences, presentations and daily scientific work. Course I covers biochemistry, molecular biology and related fields.</p> <p>最新のテクノロジーを英語により学びつつ、さまざまな研究分野における科学的討論のための英語の語彙力やコミュニケーション能力を高める。学生は、この科目を通じて、博士課程学生にふさわしいレベルの、学会や日々の研究の場において有用な批判的視点や質問のスキルを身につける。Iでは生化学、分子生物学等を題材とした授業を行う。</p>	
	English Topics in Science II	<p>To reinforce English vocabulary and fluency in discussing scientific concepts in a diverse array of research fields while introducing cutting edge technologies. Students will develop critical thinking and questioning skills for use in conferences, presentations and daily scientific work. Course II covers molecular genetics, immunology, microbiology and related fields.</p> <p>最新のテクノロジーを英語により学びつつ、さまざまな研究分野における科学的討論のための英語の語彙力やコミュニケーション能力を高める。学生は、この科目を通じて、博士課程学生にふさわしいレベルの、学会や日々の研究の場において有用な批判的視点や質問のスキルを身につける。IIでは分子遺伝学、免疫学、細菌学等を題材とした授業を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合医学研究特論	学位プログラム担当教員による、基礎医学、臨床医学、社会医学領域のそれぞれの研究分野において、実際に行なわれている研究内容や方法論に関する講義を受け、自らの研究分野とは異なる分野の研究者と討論することにより、研究の視野を広げる。学生は、講義内容と自分自身の学位論文研究を関連づけて、自分の学位論文研究にどのように活かすかを考察し、レポートにまとめる。	
	分子医科学特論I	<p>生命現象の基本原理解や疾患の病態生理について、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの解析で得られた最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成  (88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 藤 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学</p>	
	分子医科学特論II	<p>生命現象の基本原理解や疾患の病態生理について、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの解析で得られた最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成  (88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 藤 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害</p>	
	分子医科学演習I	<p>分子医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 蕨 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプロプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害</p>	
	分子医科学演習II	<p>分子医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成  (88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 蕨 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプロプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害</p>	
	分子医科学実験実習I	<p>分子医科学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成  (88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 蕨 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプロプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害</p>	
	分子医科学実験実習II	<p>分子医科学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(132 久武 幸司・288 西村 健・301 福田 綾) 転写、クロマチン、iPS細胞、脂肪細胞  (19 入江 賢児・506 須田 恭之・539 水野 智亮) 酵母遺伝学、遺伝子発現、RNA  (392 小林 麻己人) ストレス応答、ゼブラフィッシュ遺伝学、エピジェネティクス  (206 大林 典彦・529 船越 祐司) シグナル伝達、G蛋白質、リン脂質代謝酵素、がん  (149 榎 正幸・439 榎 和子・397 塩見 健輔・476 岡田 拓也) 神経細胞分化、軸索ガイダンス、シナプス形成</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(88 高橋 智・229 工藤 崇・522 濱田 理人・462 蔵 栄治) 発生工学、遺伝子改変マウス  (88 高橋 智) 遺伝子発現制御、リプロプログラミング、幹細胞、プロテアソーム、ユビキチン、オートファジー、カルパイン  (451 三輪 佳宏) 分子薬理学  (89 武井 陽介) 解剖学・神経科学：精神神経疾患、動物モデル、ニューロン、グリア、発達障害</p>	
	システム統御医学特論I	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを目指した研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞  (253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構  (25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	システム統御医学特論II	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを目指した研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞  (253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構  (25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	システム統御医学演習I	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的な概念を基盤に個体、細胞レベルで理解し、疾患の予防・治療法の開発研究を行っている最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構  (25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医工学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	システム統御医学演習II	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的な概念を基盤に個体、細胞レベルで理解し、疾患の予防・治療法の開発研究を行っている最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞  (253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構  (25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医工学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	システム統御医学実験実習I	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを旨とした研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞  (253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構  (25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医工学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	システム統御医学実験実習II	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを旨とした研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・560 渡邊 幸秀・479 沖田 結花里) がん幹細胞の特性の理解とその制御  (320 水野 聖哉) 遺伝子改変マウス、マウスES細胞  (253 澁谷 和子) 免疫応答の制御機構</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(25 大根田 修・550 山下 年晴) 機能性ヒト幹細胞の解析、臨床応用に向けた幹細胞加工法の開発  (162 森川 一也・323 宮腰 昌利・305 Ho Kiong・223 川口 敦史・272 竹内 薫・483 加藤 広介) 感染病原体の複製と病原性発現の分子機構、宿主の感染防御機構  (494 小金澤 禎史) 神経系による循環・呼吸調節などの生体恒常性維持機構  (156 松本 正幸) 記憶や注意、情動、意思決定などの神経基盤  (64 榮 武二) 陽子線治療技術  (450 三好 浩稔・364 大川 敬子) 再生医学とバイオ人工臓  (169 柳沢 裕美・499 佐田亜衣子・551 山城 義人) 血管壁の新規細胞外基質の同定と機能解析、疾患モデルの作成と治療応用</p>	
	ゲノム環境医学特論I	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびそれらの相互作用、生体の環境適応とその医学的意義に関連する自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、ゲノム環境医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 自己免疫疾患のゲノム解析、ヒト免疫系ゲノム多様性  (48 熊谷 嘉人・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー  (154 松崎 一葉・244 笹原信一朗・471 大井 雄一・515 道喜将太郎・532 堀 大介) 職場ストレス要因による健康障害とその対策  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) アトピー、花粉症、喘息のゲノム解析  (503 菅野 幸子) 法医学における死因解明と個体識別  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス、それらを用いた神経科学  (212 尾崎 遼) バイオインフォマティクスの技術開発、大規模データ解析  (223 川口 敦史) 国際感染症のゲノム疫学、熱帯医学、国際保健医療学、ウイルス感染症の防御と病態形成機序</p>	
	ゲノム環境医学特論II	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびそれらの相互作用、生体の環境適応とその医学的意義に関連する自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、ゲノム環境医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 自己免疫疾患のゲノム解析、ヒト免疫系ゲノム多様性  (48 熊谷 嘉人・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー  (154 松崎 一葉・244 笹原信一朗・471 大井 雄一・515 道喜将太郎・532 堀 大介) 職場ストレス要因による健康障害とその対策  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) アトピー、花粉症、喘息のゲノム解析  (503 菅野 幸子) 法医学における死因解明と個体識別  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス、それらを用いた神経科学  (212 尾崎 遼) バイオインフォマティクスの技術開発、大規模データ解析  (223 川口 敦史) 国際感染症のゲノム疫学、熱帯医学、国際保健医療学、ウイルス感染症の防御と病態形成機序</p>	
	ゲノム環境医学演習I	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびその相互作用、ならびに、生体の環境適応とその医学的意義に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 自己免疫疾患のゲノム解析、ヒト免疫系ゲノム多様性</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(48 熊谷 嘉人・462 蕨 栄治・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー  (154 松崎 一葉・244 笹原信一朗・471 大井 雄一・515 道喜将太郎・532 堀 大介) 職場ストレス要因による健康障害とその対策  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) アトピー、花粉症、喘息のゲノム解析  (503 菅野 幸子) 法医学における死因解明と個体識別  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス、それらを用いた神経科学  (212 尾崎 遼) バイオインフォマティクスのアルゴリズム、大規模データ解析  (223 川口 敦史) 国際感染症のゲノム疫学、熱帯医学、国際保健医療学、ウイルス感染症の防御と病態形成機序</p>	
	ゲノム環境医学演習II	<p>疾病要因としての遺伝的要因、環境要因およびその相互作用、ならびに、生体の環境適応とその医学的意義に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 自己免疫疾患のゲノム解析、ヒト免疫系ゲノム多様性  (48 熊谷 嘉人・462 蕨 栄治・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー  (154 松崎 一葉・244 笹原信一朗・471 大井 雄一・515 道喜将太郎・532 堀 大介) 職場ストレス要因による健康障害とその対策  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) アトピー、花粉症、喘息のゲノム解析  (503 菅野 幸子) 法医学における死因解明と個体識別  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス、それらを用いた神経科学  (212 尾崎 遼) バイオインフォマティクスのアルゴリズム、大規模データ解析  (223 川口 敦史) 国際感染症のゲノム疫学、熱帯医学、国際保健医療学、ウイルス感染症の防御と病態形成機序</p>	
	ゲノム環境医学実験実習I	<p>ゲノム環境医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 遺伝子バリエーション解析、ゲノムデータベース  (48 熊谷 嘉人・462 蕨 栄治・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 細胞培養、western blot、RT-PCR、LC/MS  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) 遺伝子バリエーション解析、エピジェネティクス  (503 菅野 幸子) 法医学:DNA解析を用いた個体識別、中毒に関する実験  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム生物学:ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス  (212 尾崎 遼) 応用数学・確率・統計・パターン認識・機械学習、プログラミング、大規模生命データ解析  (223 川口 敦史) ウイルス感染症の防御と病態形成機序 医学ウイルス学: ウイルス価測定法、抗体価測定法、ウイルス遺伝子解析法</p>	
	ゲノム環境医学実験実習II	<p>ゲノム環境医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(104 土屋 尚之・304 古川 宏・485 川崎 綾) 遺伝子バリエーション解析、ゲノムデータベース  (48 熊谷 嘉人・462 蕨 栄治・502 新開 泰弘・464 安孫子ユミ) 細胞培養、western blot、RT-PCR、LC/MS  (117 野口恵美子・544 宮寺 浩子) 遺伝子バリエーション解析、エピジェネティクス</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(503 菅野 幸子) 法医学:DNA解析を用いた個体識別、中毒に関する実験  (160 村谷 匡史・553 山田 朋子) ゲノム生物学:ゲノム・エピゲノム解析とバイオインフォマティクス  (212 尾崎 遼) 応用数学・確率・統計・パターン認識・機械学習、プログラミング、大規模生命データ解析  (223 川口 敦史) ウイルス感染症の防御と病態形成機序医学ウイルス学: ウイルス価測定法、抗体価測定法、ウイルス遺伝子解析法</p>	
	睡眠医科学特論I	<p>睡眠覚醒の謎の解明、睡眠障害治療への新しいアプローチを目指した研究についての最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。履修学生自身の研究研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定  (608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計・ナルコレプシー治療薬の創出・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学:in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う。  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	
	睡眠医科学特論II	<p>睡眠覚醒の謎の解明、睡眠障害治療への新しいアプローチを目指した研究についての最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。履修学生自身の研究研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定  (608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計・ナルコレプシー治療薬の創出・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学:in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う。  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	
	睡眠医科学演習I	<p>睡眠医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。履修学生自身の研究研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計 ・ナルコレプシー治療薬の創出 ・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学:in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う。  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	
	睡眠医科学演習II	<p>睡眠医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。履修学生自身の研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定  (608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計 ・ナルコレプシー治療薬の創出 ・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学:in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う。  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	
	睡眠医科学実験実習I	<p>睡眠医科学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定  (608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計 ・ナルコレプシー治療薬の創出 ・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学:in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う。  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	睡眠医学実験実習II	<p>睡眠医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(170 柳沢 正史) 睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明・遺伝性睡眠異常マウス家系の樹立と原因遺伝子の同定  (608 沓村 憲樹) オレキシン作動薬、オピオイド系薬物の設計と合成の設計・ナルコレプシー治療薬の創出・鎮痛薬、抗鬱薬、頻尿治療薬、抗マラリア薬、原虫治療薬、抗癌薬の創出  (181 LIU QINGHUA) 遺伝学的手法を統合的に活用した、マウスの睡眠覚醒制御における鍵遺伝子の同定  (241 坂口 昌徳) 睡眠と記憶の関係の解明。このために光遺伝学や神経行動科学、多チャンネル神経活動同時記録装置など、世界最先端の研究手法を用いる。  (348 LAZARUS MICHAEL) 睡眠覚醒制御におけるアデノシンおよびドーパミンの役割の解明  (300 VOGT Kaspar Manuel) 内因性睡眠物質による睡眠覚醒調節機構の解明。神経科学: in vivo電気生理学および機能的イメージングを用いた、睡眠/覚醒時における神経回路ダイナミクスの解析を行う  (296 林 悠) 脳の発達・老化に注目した睡眠の意義の解明および、分子生物学・発生学に基づく睡眠の進化プロセス解明。  (65 櫻井 武) 大脳辺縁系、大脳基底核や脳幹の機能と睡眠・覚醒制御に関する講義を行う。</p>	
	臨床病態解明学特論I	<p>放射線診療・治療及び放射線健康リスク、精神医学・災害精神支援、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究など、臨床病態解明に関する諸分野において、学生は自らの最新の研究内容を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、それぞれの分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。特論Iでは主として各領域の基礎的側面に焦点を当てる。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見  (66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。  (13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。  (4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究  (266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義  (97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する  (18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範  (146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。  (148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 瀧野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究  (182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用  (53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究  (120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究  (100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究  (120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床病態解明学特論II	<p>放射線診療・治療及び放射線健康リスク、精神医学・災害精神支援、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究など、臨床病態解明に関する諸分野において、学生は自らの最新の研究内容を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、それぞれの分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。特論IIでは主として各領域の応用的側面に焦点を当てる。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見  (66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。  (13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。  (4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究  (266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義  (97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する  (18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範  (146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。  (148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 濱野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究  (182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用  (53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究  (120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究  (100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究  (120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	
	臨床病態解明学演習I	<p>放射線診療・治療及び健康リスク、精神医学・災害精神支援学、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究など、関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。演習Iでは主として各領域の基礎的側面に焦点を当てる。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見  (66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。  (13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。  (4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究  (266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義  (97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する  (18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範  (146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。  (148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 濱野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究  (182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究  (120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究  (100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究  (120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	
	臨床病態解明学演習II	<p>放射線診療・治療及び健康リスク、精神医学・災害精神支援学、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究など、関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。演習IIでは主として各領域の臨床応用に焦点を当てる。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見  (66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。  (13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。  (4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究  (266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義  (97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する  (18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範  (146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。  (148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 濱野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究  (182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用  (53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究  (120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究  (100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究  (120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	
	臨床病態解明学実験実習I	<p>放射線診療・治療及び健康リスク、精神医学・災害精神支援学、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究などに関連する実験の方法と原理について実践的に学ぶ。各研究グループのキーワードは以下の通りである。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見  (66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 斉志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。  (13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。  (4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究  (266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義  (97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する  (18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範  (146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 瀨野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究</p> <p>(182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用</p> <p>(53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践</p> <p>(120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究</p> <p>(100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究</p> <p>(120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	
	臨床病態解明学実験実習II	<p>放射線診療・治療及び健康リスク、精神医学・災害精神支援学、麻酔・蘇生・集中治療・救急医学、臨床薬理学、地域医療・医学教育、臨床疫学、生物統計学、橋渡し研究、創薬研究などに関連する実験の方法と原理について臨床応用を学ぶ。各研究グループのキーワードは以下の通りである。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(312 増本 智彦・330 森 健作・372 岡本 嘉一・394 齋田 司・421 那須 克宏・437 星合 壮大) 放射線医学の臨床応用の最新の知見</p> <p>(66 櫻井 英幸・9 石川 仁・211 奥村 敏之・230 熊田 博明・368 大西かよ子・449 水本 齊志・561 照沼 利之) 粒子線を含む放射線を利用した癌治療を学ぶ方法選択の指導を行う。</p> <p>(13 磯辺 智範・547 森 祐太郎・508 武居 秀行) 放射線防護の最新技術と放射線健康リスクに関する最新の知見を学ぶ。</p> <p>(4 新井 哲明・67 佐藤 晋爾・289 根本 清貴・362 井出 政行・204 太田 深秀・401 白鳥 裕貴) 脳科学の進歩を踏まえた臨床精神医学の追究</p> <p>(266 高橋 晶) 大規模災害時の被災者及び救援者の精神的健康の維持に関する講義</p> <p>(97 田中 誠・139 福田 妙子・195 猪股 伸一・267 高橋 伸二・306 星 拓男・366 大坂 佳子・396 左津前 剛・398 清水 雄・419 中山 慎・457 山下 創一郎・459 山本 純偉) 麻酔・蘇生に関わる研究を遂行する能力を獲得する</p> <p>(18 井上 貴昭・384 河野 了・399 下條 信威・422 西野 衆文・448 丸島 愛樹) 初期診療から多臓器不全までテーマは広範</p> <p>(146 本間 真人・293 篠野健太郎・414 土岐 浩介) 薬物の効果・副作用と関連する薬物動態の解析方法と変動因子を学ぶ。</p> <p>(148 前野 哲博・346 吉本 尚・405 高屋敷明由美・427 瀨野 淳・438 前野 貴美・377 片岡 義裕・297 春田 淳志・441 舛本 祥一) 地域医療と医学教育に関する研究</p> <p>(182 我妻 ゆき子・525 福重 瑞穂) 臨床試験と臨床疫学に関する理論とその応用</p> <p>(53 五所 正彦・316 丸尾 和司) 生物統計学の理論および実践研究</p> <p>(120 橋本 幸一・87 高野 晋吾・152 松阪 諭) 橋渡し研究、臨床研究、地域イノベーション学に関する研究</p> <p>(100 千葉 滋) 創薬トランスレーショナルサイエンス学領域・分子創薬学領域・生体材料・再生医工領域に関する研究</p> <p>(120 橋本 幸一) 医薬品・医療機器審査科学領域に関する研究</p>	
	臨床外科学特論I	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学など、臨床外科学に関する諸分野において、学生は自らの最新の研究内容を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、それぞれの分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。特論Iでは主として各領域の基礎的側面に焦点を当てる。</p> <p>(115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する</p> <p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒</p> <p>(136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を獲得する</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来の外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ</p> <p>(150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する</p> <p>(83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建</p> <p>(127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う</p> <p>(56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発</p> <p>(23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡 孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める</p> <p>(98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村 文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的手法を用いた研究について講義を行う</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	
	臨床外科学特論II	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学など、臨床外科学に関する諸分野において、学生は自らの最新の研究内容を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、それぞれの分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。特論IIでは主として各領域の臨床応用に焦点を当てる。</p> <p>(115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する</p> <p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒</p> <p>(136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を獲得する</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説</p> <p>(174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来の外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ</p> <p>(150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する</p> <p>(83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建</p> <p>(127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う</p> <p>(56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発</p> <p>(23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡 孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める</p> <p>(98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村 文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的手法を用いた研究について講義を行う</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床外科学演習I	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、について関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行う。各研究グループのキーワードは以下の通りである。演習Iでは主として各領域の基礎的側面に焦点を当てる。</p> <p>(115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する</p> <p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒</p> <p>(136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を獲得する</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説</p> <p>(174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来の外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ</p> <p>(150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する</p> <p>(83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建</p> <p>(127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ</p> <p>(69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う</p> <p>(56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発</p> <p>(23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡 孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める</p> <p>(98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村 文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的手法を用いた研究について講義を行う</p> <p>(138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	
	臨床外科学演習II	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、について関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。演習IIでは主として各領域の臨床応用の側面に焦点を当てる。</p> <p>(115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する</p> <p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒</p> <p>(136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を</p> <p>(72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説</p> <p>(174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ</p> <p>(150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建  (127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ  (69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う  (56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発  (23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める  (98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的的手法を用いた研究について講義を行う  (138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	
	臨床外科学実験実習I	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、について関連する実験の方法と原理について実践的に学ぶ。各研究グループのキーワードは以下の通りである。I, IIでは異なる手法を習得する。  (115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する  (35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒  (136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を獲得する  (72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説  (174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来の外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ  (150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する  (83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建  (127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ  (69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う  (56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発  (23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める  (98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的的手法を用いた研究について講義を行う  (138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	
	臨床外科学実験実習II	<p>泌尿生殖器学、消化器外科学、循環器外科学、呼吸器外科学、整形外科学、小児外科学、形成外科学、内分泌外科学、産婦人科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、について関連する実験の方法と原理について実践的に学ぶ。各研究グループのキーワードは以下の通りである。I, IIでは異なる手法を習得する。  (115 西山 博之・383 河合 弘二・386 木村 友和・233 小島 崇宏・434 星 昭夫) 泌尿生殖器に関する疾患と治療を概説する</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(35 小田 竜也・49 倉田 昌直・58 近藤 匡・279 鄭 允文・355 明石 義正・363 榎本 剛史・369 大原 佑介・374 小川 光一・404 高橋 一広・429 久倉 勝治・447 松村 英樹) 癌の特性と治療、臓器再生研究と創傷治癒  (136 平松 祐司・313 松崎 寛二・365 大坂 基男・243 坂本 裕昭・446 松原 宗明・379 加藤 秀之) 循環機能研究に必要な知識と技能を身に付け、臨床研究者として国際的に通用する能力を獲得する  (72 佐藤 幸夫・15 市村 秀夫・385 菊池 慎二・391 小林 尚寛・390 後藤 行延・403 鈴木 久史) 増加する肺癌の現況その低侵襲手術につき解説  (174 山崎 正志・112 西浦 康正・122 羽田 康司・317 万本 健生・319 三島 初・382 鎌田 浩史・424 野澤 大輔・428 原 友紀・409 塚越 祐太) 運動器機能の重要性、および病態と治療を解説する。従来の外科的手法のみならず分子生物学的手法や組織工学的手法を学ぶ  (150 増本 幸二・270 高安 肇・402 新開 統子) 先天性難治疾患の原因の解明と治療法について概説する  (83 関堂 充・395 佐々木 薫) 外傷・腫瘍・先天異常などによる変形・欠損に対する外観および機能再建  (127 原 尚人・298 坂東 裕子・357 井口 研子・411 都島由希子) エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ  (69 佐藤 豊実・126 濱田 洋実・32 沖 明典・217 小島 真奈・321 水口 剛雄・370 大原 玲奈・214 越智 寛幸・224 川崎 彰子・417 中尾 砂理・454 八木 洋也) 女性生殖器を中心とした正常と異常を学び、研究・実験を行う  (56 小松 洋治・76 柴田 靖・155 松丸 祐司・278 鶴嶋 英夫・194 石川 栄一・356 阿久津博義・413 鶴淵 隆夫・444 松田 真秀) 脳神経外科分野の新規診断・治療の研究開発  (23 大鹿 哲郎・371 岡本 史樹・373 岡本 芳史・430 平岡 孝浩・435 星 崇仁) 視機能と視覚の基礎を学び理解を深める  (98 田淵 経司・353 和田 哲郎・406 田中 秀峰・423 西村 文吾・431 廣瀬 由紀) 蝸牛機能に関する分子生物学的、電気生理学的手法を用いた研究について講義を行う  (138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 口腔腫瘍の実験構築・データ解釈・討論</p>	
	臨床内科学特論I	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、について、学生は自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、内科学分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血器腫瘍の分子基盤  (27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防  (2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する  (133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患 (慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌) からテーマを選び、研究実験を行う  (193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所 康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究  (171 山縣 邦弘・197 白井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐 平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究  (235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発  (77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性  (41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・303 藤澤康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。</p> <p>(86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発</p> <p>(135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学</p> <p>(84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	
	臨床内科学特論II	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、について、学生は自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、内科学分野の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行う。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血管腫瘍の分子基盤</p> <p>(27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する</p> <p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌)からテーマを選び、研究実験を行う</p> <p>(193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究</p> <p>(171 山縣 邦弘・197 臼井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究</p> <p>(235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性</p> <p>(41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査</p> <p>(359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・303 藤澤康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。</p> <p>(86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発</p> <p>(135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学</p> <p>(84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	
	臨床内科学演習I	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行う。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血管腫瘍の分子基盤</p> <p>(27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌)からテーマを選び、研究実験を行う</p> <p>(193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究</p> <p>(171 山縣 邦弘・197 白井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究</p> <p>(235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性</p> <p>(41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査</p> <p>(359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・303 藤澤 康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。</p> <p>(86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発</p> <p>(135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学</p> <p>(84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	
	臨床内科学演習II	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行う。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血器腫瘍の分子基盤</p> <p>(27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防</p> <p>(2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する</p> <p>(133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌)からテーマを選び、研究実験を行う</p> <p>(193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究</p> <p>(171 山縣 邦弘・197 白井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究</p> <p>(235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発</p> <p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性</p> <p>(41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査</p> <p>(359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山 奈緒子・303 藤澤 康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。</p> <p>(86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発</p> <p>(135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学</p> <p>(84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床内科学実験実習I	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、に関する実験やデータ解析の原理と方法について実践によって学ぶ。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血器腫瘍の分子基盤 (27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防  (2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する  (133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌)からテーマを選び、研究実験を行う  (193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究  (171 山縣 邦弘・197 白井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究  (235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発  (77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性  (41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査  (359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・303 藤澤 康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。  (86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発  (135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学  (84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	
	臨床内科学実験実習II	<p>血液内科学、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科学、腎臓内科学、膠原病内科学、代謝内分泌内科学、臨床検査学、皮膚科学、小児科学、感染症内科学、臨床腫瘍学、に関する実験やデータ解析の原理と方法について実践によって学ぶ。各グループのキーワードを以下に列挙する。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(100 千葉 滋・218 小原 直・242 坂田麻実子・292 長谷川雄一・287 錦井 秀和・378 加藤 貴康・388 日下部 学・389 栗田 尚樹・460 横山 泰久) 正常造血及び造血器腫瘍の分子基盤 (27 大原 信・189 安部井誠人・258 鈴木 英雄・433 福田 邦明・443 松井 裕史・453 森脇 俊和) 消化器がんの分子標的治療や遺伝子治療などH. pylori及び酸関連疾患の病態と治療、消化管悪性腫瘍の疫学と予防  (2 青沼 和隆・7 家田 真樹・159 宮内 卓) 循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより解析し、新たな治療法を開発する  (133 檜澤 伸之・8 石井 幸雄・70 佐藤 浩昭・332 森島 祐子・387 際本 拓未・440 増子 裕典・445 松野 洋輔) 主要呼吸疾患の病態を分子細胞生物学的立場から討論・実験を行う主要呼吸疾患(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌)からテーマを選び、研究実験を行う  (193 石井 一弘・358 石井 亜紀子・410 辻 浩史・416 富所康志・418 中馬越清隆) 神経変性疾患の分子病態に関する研究  (171 山縣 邦弘・197 白井 丈一・238 齋藤 知栄・376 甲斐平康・381 金子 修三・452 森戸 直記) 腎臓疾患の発症進展機構と治療法、予防法の研究  (235 後藤 大輔・294 林 太智・314 松本 功・393 近藤 裕也・408 千野 裕介・412 坪井 洋人) 免疫難病発症の分子機構解明および新規分子標的治療戦略の開発</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(77 島野 仁・166 野牛 宏晃・167 矢藤 繁・259 鈴木 浩明・153 松坂 賢・337 矢作 直也・263 関谷 元博) 病態メカニズムを念頭に考えることの重要性</p> <p>(41 川上 康・338 山内 一由) 分子生物学的手法の検査と循環器生理検査</p> <p>(359 石井 良征・361 石塚 洋典・375 沖山奈緒子・303 藤澤 康弘・461 渡邊 玲) 皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視点から総合的に病態を研究し、新しい診断・治療法を開発する。</p> <p>(86 高田 英俊・236 小林 千恵・239 齋藤 誠・324 宮園 弥生・367 大戸 達之・432 福島 絃子) 発生・発達過程の解析と小児疾患の治療開発</p> <p>(135 人見 重美) 薬剤耐性菌の耐性機序の解明, 病院感染の疫学</p> <p>(84 関根 郁夫・52 小島 寛) 悪性腫瘍の原因、病態、診断、治療に関する研究</p>	
	社会医学特論I	<p>社会医学研究における基本概念、知識および技術を修得し、その成果を相互発表・質疑応答に対応することにより、修得の程度を確認する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 最新のテキストを用いてヘルスサービスリサーチ遂行のための基本的知識・技術を修得する。</p> <p>(61 齋藤 環) メンタルヘルスの現状や課題に関する文献を読み、適宜事例も参照しながら、その内容について検討し評価する。</p> <p>(59 近藤 正英) 日本の医療供給体制、医療保険制度、国民医療費の現状や課題について講義する。</p>	
	社会医学特論II	<p>社会医学研究における基本概念、知識および技術を修得し、その成果を相互発表・質疑応答に対応することにより、修得の程度を確認する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 最新のテキストを用いてヘルスサービスリサーチ遂行のための基本的知識・技術を修得する。</p> <p>(61 齋藤 環) メンタルヘルスの現状や課題に関する文献を読み、適宜事例も参照しながら、その内容について検討し評価する。</p> <p>(59 近藤 正英) 日本の医療供給体制、医療保険制度、国民医療費の現状や課題について講義する。</p>	
	社会医学演習I	<p>社会医学研究の文献抄読および討論を通じ、社会医学の現状と課題に研究者としてどう取り組むかを学び、修得する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 内外の医療介護サービス提供の現状とその課題を、最新のヘルスサービスリサーチ文献抄読と討論から修得する。</p> <p>(61 齋藤 環) メンタルヘルスに関連する原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、考察のあり方を理解し、その研究の意義や限界、今後の課題について討論する。</p> <p>(59 近藤 正英) 医療供給体制や医療保険制度に関する論文を読み、その内容と評価を議論する。</p>	
	社会医学演習II	<p>社会医学研究の文献抄読および討論を通じ、社会医学の現状と課題に研究者としてどう取り組むかを学び、修得する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 内外の医療介護サービス提供の現状とその課題を、最新のヘルスサービスリサーチ文献抄読と討論から修得する。</p> <p>(61 齋藤 環) メンタルヘルスに関連する原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、考察のあり方を理解し、その研究の意義や限界、今後の課題について討論する。</p> <p>(59 近藤 正英) 医療供給体制や医療保険制度に関する論文を読み、その内容と評価を議論する。</p>	
	社会医学実験実習I	<p>自らの社会医学的研究課題を明確にし、方法論を吟味し、質の高い社会医学的意義のある研究を遂行するための能力を身につける。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 自らのリサーチクエストをもとに、質の高い研究デザインを構築するプロセスを、教員、外部からの専門家・経験者や同僚との討論を通じて身につける。</p> <p>(61 齋藤 環) メンタルヘルスに関連する臨床データの収集方法や解析、事例インタビューの技法について、その原理や手法を実践から学ぶ。</p> <p>(59 近藤 正英) 医療供給体制や医療保険制度に関する学位論文作成のために、講義や討論による研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会医学実験実習II	<p>自らの社会医学的研究課題を明確にし、方法論を吟味し、質の高い社会医学的意義のある研究を遂行するための能力を身につける。 I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <p>(99 田宮 菜奈子) 自らのリサーチクエストをもとに、質の高い研究デザインを構築するプロセスを、教員、外部からの専門家・経験者や同僚との討論を通じて身につける。 (61 斎藤 環) メンタルヘルスに関連する臨床データの収集方法や解析、事例インタビューの技法について、その原理や手法を実践から学ぶ。 (59 近藤 正英) 医療供給体制や医療保険制度に関する学位論文作成のために、講義や討論による研究指導を行う。</p>	
	臨床試験論	<p>臨床試験は病気に対する新しい治療法や薬の安全性・有効性を検証するために行われる、ヒトを対象とした医学研究である。臨床試験は厳密な科学性と倫理性を兼ね備える必要があるため、GCP (Good Clinical Practice) と呼ばれる基準に則って実施される。本講義ではGCPに沿って臨床試験のデザインから実行までを概観する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. GCPに準拠した臨床試験の実施ステップについて説明できる。</li> <li>2. 臨床試験に関する倫理指針を理解し、適切な研究デザインを企画し、実施するための研究プロトコルを作成できる。</li> <li>3. 臨床試験の実際に関する内容を理解し、その意義と欠点を理解し、その向上のためになる質問や討論をすることができる。</li> </ol> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(182 我妻ゆき子/3回) 臨床研究に関する倫理、GCPについて、プロトコル作成 (53 五所正彦/1回) 臨床試験における生物統計 (525 福重瑞穂/1回) 臨床試験の品質保証 (182 我妻ゆき子/1回) 臨床試験におけるデータマネージメント</p>	オムニバス方式
	医生物統計学概論	<p>目標：医学研究で用いられる統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学研究のタイプを指摘できる。</li> <li>2. 統計手法の基礎および手法の原理を説明できる。</li> <li>3. 確率と確率分布の意味を説明できる。</li> <li>4. 研究目的が定まったとき、相応しい評価項目のデータの形、および相応しい解析手法を選択できる。</li> <li>5. 解析結果等解釈が困難な結果に対し、解決への考察ができる。</li> </ol> <p>(1) 医学研究の紹介、医学研究の分類について概説する。(2) データの記述について概説する。(3) 確率と確率分布について概説する。(4) 推定と仮説検定について概説する。(5) 群間比較について概説する。(6) 相関分析と線形回帰分析について概説する。(7) カテゴリカルデータ解析について概説する。(8) ロジスティック回帰分析について概説する。(9)-(10) 生存時間解析について概説する。</p>	共同
	医生物統計学特論	<p>目標：生物統計に関する専門書 Applied Survival Analysis の抄読会を通し、統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生存時間解析の原理や結果を理解できる。</li> <li>2. 生存時間データの解析に対して適切な統計手法を選択することができる。</li> <li>3. 生存時間解析における結果の解釈を正しく説明できる。</li> </ol>	共同
	医生物統計学実習	<p>目標：統計解析ソフトウェアSAS OnDemand for Academicsを使用した医学データ解析の考え方や解析手法を習得する。SAS OnDemand for Academicsを使用して基本的なデータ操作、統計解析を行い、結果の解釈を行うことができる。</p> <p>(1) 操作方法、基礎文法について学ぶ。(2) データセットの作成と管理について学ぶ。(3) 記述統計とデータの可視化①について学ぶ。(4) 記述統計とデータの可視化②について学ぶ。(5) 仮説検定と群間比較について学ぶ。(6) 線形回帰分析について学ぶ。(7) カテゴリカルデータについて学ぶ。(8) ロジスティック回帰分析について学ぶ。(9) 生存時間解析について学ぶ。(10) 付加的话题とまとめ</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	疫学特論	<p>疫学の原理と応用について学ぶ。情報科学や統計科学を用いて行われる疫学研究や臨床研究への応用についても学び、EBM (Evidence-Based Medicine) の研究に役立たせる。また、疫学的手法を用いた演習を実施し、疫学の実際を理解する。</p> <p>目標：疫学研究の目的、方法、解析結果とその意義について説明できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(182 我妻ゆき子／10回) 研究をデザインする、リサーチクエスチョン、サンプリングとリクルートメント、測定方法 (精度と正確性) およびサンプルサイズとパワーについて解説する。</p> <p>(182 我妻ゆき子／2回) がんの疫学研究について解説する。</p> <p>(525 福重瑞穂／8回) コホート研究をデザインする、ケースコントロール研究をデザインする、ランダム化比較試験をデザインする、質問調査法をデザインする。</p>	オムニバス方式
専門科目 (国際協力型がん臨床指導者養成プログラム)	がん基礎eラーニング講義		
	がんの基盤的知識	<p>(39 加藤 光保・260 鈴木 裕之・64 榮 武二)</p> <p>がんは制御不能の異常細胞の増殖を本態としており、その背景にある基礎病理や分子生物学的な基盤は十分に理解する必要がある。本講義では、発がんの要因、発がん機構についての腫瘍病理学、分子生物学など腫瘍学に関して基礎的、社会的な観点で講義を行い、腫瘍の成り立ちからその社会に与える影響までの基盤的知識をeラーニング講義で体系的に習得する。</p>	共同
	総論：臨床腫瘍学	<p>(84 関根 郁夫・258 鈴木 英雄・35 小田 竜也)</p> <p>近年がん治療は集学的 (multidisciplinary) に実施されるため、臨床腫瘍学の全体像を把握するためには手術療法や化学療法、放射線療法のみならず、腫瘍免疫学や、腫瘍疫学、あるいは緩和医療など多岐にわたってがんの臨床的周辺領域について習熟する必要がある。本講義では、専門科目の概要、臨床腫瘍医に必須の幅広い知識をeラーニング講義で習得する。</p>	共同
	各論：臨床腫瘍学	<p>(100 千葉 滋・35 小田 竜也・453 森脇 俊和・359 石井 良征・76 柴田 靖・353 和田 哲郎)</p> <p>腫瘍学を学ぶ上で最も基礎となる、疫学、診断、ならびに治療法を各々の腫瘍について体系的に紹介する。がん一般に通用する治療法は必ずしも存在しないため、各臓器や組織型別にがんの腫瘍学的特徴をまとめ、病理所見や進展の状況、あるいは患者の状態によって、総合的に治療法を取捨選択する集学的治療の意義を理解する。これらの知識をeラーニング講義で習得する。</p>	共同
	臨床研究と統計学	<p>(182 我妻 ゆき子・120 橋本 幸一)</p> <p>臨床試験を適切に策定、実施、運用していく上で医療者が知っておかなければならない基本的な項目について学習する。倫理審査手順や臨床試験登録をはじめ、GCP、プロトコール作成項目、同意書、臨床研究デザインや臨床試験のタイプについて基礎的な内容を概説する。また、よく使用される生物統計学的解析手法についても理解する。これらの知識をeラーニング講義で習得する。</p>	共同
	がんと倫理	<p>(35 小田 竜也)</p> <p>ライフサイエンスの発展とともに生命倫理上の問題は複雑化してきている。とりわけ価値観の多様化、国際化、少子高齢化をはじめとした社会の変容に伴って生じうる人の尊厳や人権に関わる問題はますます重要視されている。また遺伝子組換え等の新規技術に係る安全性の問題も理解する必要がある。これらの諸問題に適切に対応する為に、生命倫理や新規技術等に関する指針やそれに関する法令について学習する。これらの知識をeラーニング講義で習得する。</p>	
	精神腫瘍学・社会腫瘍学	<p>(289 根本 清貴)</p> <p>がんに対する集学的治療の進展により長期生存できる患者が増加してきている。一方、がんであることを知った患者の中には適応がうまく行えず専門的な介入が必要な場合も少なくない。このような状況下で精神腫瘍学 (サイコオンコロジー) は注目されるようになった概念である。本項目では「がんが心に与える影響と、その治療法」及び「心ががんに与える影響」を学習する。また、がん医療人としてがん患者、家族と能動的に接する「患者教育」について学習する。これらの知識をeラーニング講義で習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	緩和医療とチーム医療	(146 本間 真人・158 水野 道代) 痛みをはじめとした身体的・精神的な苦痛をやわらげ、患者のQOLを最大限に維持することを図る医療が緩和医療である。現在、各地域で院内に緩和ケアチーム、さらに在宅緩和ケアを確立し、円滑な病診連携、早期からのがん緩和医療を可能にすることが求められる。本項目では緩和医療学と医療従事者お互い対等に連携することで患者中心の医療実現を目指す医療環境モデルについて学習する。これらの知識をeラーニング講義で習得する。	共同
	がんゲノム医療	(117 野口恵美子、160 村谷 匡史、35 小田 竜也、242 坂田麻美子) 次世代シーケンサーの急速な普及に伴い、個人のゲノム情報を大量に得ることが可能となった。これらの情報は癌患者の診断や治療法選択のために有益であるが、一方でゲノム情報は個人情報を含むためその取扱いには注意を要する。ゲノム情報の解析と臨床応用を含めて幅広い知識を学ぶ。さらに、個人情報保護や倫理的諸問題に対する知識を習得する。これらについてeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	共同
	小児・AYA・希少がん	(84 関根郁夫、150 増本幸二、115 西山博之、69 佐藤豊実) 小児期およびAdolescent and Young Adult (AYA) 世代に発症する悪性腫瘍に着目し、疫学、病態、診断、治療法の成人との違いについて、身体的特徴や精神心理的および社会的問題などの概論を含めて理解する。また、がんの治療に伴う妊孕性の低下や生殖医療についても学習する。あわせて、罹患数の少ない希少がんの特徴、診断と治療、支援およびそれらの課題についてもeラーニング講義を用いて理解する。	共同
	ライフステージに応じたがん医療	(158 水野 道代・427 濱野 淳) 患者のライフステージを踏まえ、常にQOLの回復・維持・向上を視座に入れたがん医療の実践について学ぶ。各年代におけるがん医療の問題点を把握し、年代に応じて適切な治療法を選択し社会復帰へ向けた包括的な支援について、患者のライフステージに合わせた視点から理解する。これらについてeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	共同
選択科目	保健医学物理学講義	(64 榮 武二・13 磯辺 智範・230 熊田 博明) 放射線を安全に管理し有効に利用するためには保健物理に関する知識が必要不可欠である。本科目では医学物理学分野の中の保健物理に関連する内容について、その基礎的な知識を習得する。放射線防護に関わる国際機関の役割や放射線同位元素に関わる国内の関係法規、放射線管理に必要な計測学および防護学について学習する。	共同
	臨床腫瘍学（消化器内科） 講義及び実習	(189 安部井 誠人・443 松井 裕史・433 福田 邦明・453 森脇 俊和・258 鈴木 英雄) 臨床腫瘍学のうち、消化管と肝胆膵領域の悪性腫瘍に対する最新かつ専門的な内科的診断・治療法について習得する。組織診断、画像診断、遺伝学的診断など多様化する診断法を専門的に学び、個々の患者に適した治療法（内視鏡的治療、化学療法、放射線療法、免疫療法）が選択できるようになる事を学習目標とする。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学（消化器外科） 講義及び実習	(35 小田 竜也・58 近藤 匡・363 榎本 剛史) 臨床腫瘍学のうち、消化管（食道、胃、小腸、結腸、直腸）及び肝胆膵の腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来るようになる事を学習目標とする。さらに、手術術前・後に行う追加治療（放射線、化学療法、免疫療法など）と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む消化器癌に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学（呼吸器内科） 講義及び実習	(133 檜澤 伸之・70 佐藤 浩昭) 臨床腫瘍学のうち、呼吸器領域の悪性腫瘍、特に肺癌、中皮腫などの特性、診断法、治療法に関して専門的知識を習得する。その基礎となる病態の理解とともに、遺伝学的診断や免疫療法など最新の診断、治療法を専門的に学ぶ。さらに臨床研究を主体的に遂行可能な能力の獲得および臨床的、基礎的研究手法を習得する。	講義 15時間 実習 120時間 共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床腫瘍学(呼吸器外科)講義及び実習	(72 佐藤 幸夫・385 菊池 慎二・390 後藤 行延) 臨床腫瘍学のうち、呼吸器領域の悪性腫瘍(肺癌、縦隔腫瘍、中皮腫など)に対する外科的アプローチについて学習する。これらの疾患に対する手術適応と手術法、術前・術後に行われる補助療法までの集学的治療法について専門的に学習する。また、呼吸機能温存や低侵襲手術の考え方、胸腔鏡手術についてもそのメリット、デメリットを理解し個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来る様になる事を学習目標とする。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(造血器)講義及び実習	(100 千葉 滋・292 長谷川 雄一・218 小原 直・242 坂田 麻実子・287 錦井秀和) 臨床腫瘍学のうち、造血器の腫瘍は白血病、悪性リンパ腫、形質細胞腫に大別される。これらの疾患について、骨髄やリンパ節の生検材や吸引料を用いて、どのように診断が行われるかを学習する。特に遺伝子解析が盛んに用いられており、その内容を習得する。また、いずれも抗がん剤が治療の中心であり、特に造血器の腫瘍に対する化学療法では厳しい骨髄抑制を始めとする副作用を伴うことを学習する。さらに、造血幹細胞移植について専門的知識を習得する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(婦人科)講義及び実習	(69 佐藤 豊実・32 沖 明典・321 水口 剛雄・214 越智 寛幸・417 中尾 砂理) 臨床腫瘍学のうち、婦人科がん領域の診断、治療、病理、腫瘍生物学などについてがん専門医として必須の知識、技術を習得する。具体的には以下の項目について学ぶ。1. 診断と進行期の決定、2. 病理組織・細胞診断、3. 癌患者の病態生理とその管理、4. 発癌、浸潤と転移、5. 腫瘍生物学、6. 臨床統計と臨床試験、7. 腫瘍免疫学、8. 化学療法、9. 治療薬剤の薬理学、10. 放射線治療、11. 評価と治療法、12. 手術。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(泌尿器)講義及び実習	(115 西山 博之・383 河合 弘二) 臨床腫瘍学のうち、泌尿器科悪性腫瘍の診断から治療の選択及び実施の全ての過程について学習する。泌尿器科領域では副腎がん、腎細胞がん、前立腺がん、尿路上皮癌、胚細胞腫瘍など、尿路・生殖器・後腹膜領域と広範にわたる臓器を対象にしており、その治療法も外科的治療のみならず化学療法、放射線療法、内分泌療法、免疫療法と多岐に渡る。これらを包括的に学び、さらに骨盤外科医に必須である神経因性膀胱や生殖機能に関連する管理や医療技術も習得する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(小児)講義及び実習	(236 小林 千恵・150 増本 幸二・402 新開 統子・270 高安肇) 臨床腫瘍学のうち、小児臨床腫瘍学について実用的な知識および技能を修得する。小児腫瘍は頻度が少なく、進行が早い、抗癌剤や放射線治療が奏功することが多く、遠隔転移例も一定の率で救命可能となった。トランスレーショナルリサーチ、臨床試験、治験、および先端的診療実践等の多様な臨床研究が同時におよびシームレスに実施されるなかで、それぞれの臨床的・社会的意義を理解する。多職種によるトータルケア体制を経験し、チームリーダーの役割を知る。国際共同研究を通じて、地球規模の視点を養う。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(脳・神経)講義及び実習	(76 柴田 靖・194 石川 栄一・444 松田 真秀) 臨床腫瘍学のうち、原発性脳・脊髄腫瘍、転移性脳腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来る様になる事を学習目標とする。さらに、手術術前・後に行う追加治療(放射線、化学療法、免疫療法など)と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む脳神経腫瘍に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(運動器)講義及び実習	(112 西浦 康正・319 三島 初) 臨床腫瘍学のうち、骨・軟部・神経領域の原発性腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来る様になる事を学習目標とする。さらに、手術術前・後に行う追加治療(放射線、化学療法、免疫療法など)と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む骨・軟部・神経領域の原発性腫瘍に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間 共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床腫瘍学(乳腺・内分泌) 講義及び実習	(127 原 尚人・298 坂東 裕子) 臨床腫瘍学のうち、体表臓器、特に乳癌と甲状腺癌を中心に、疫学、診断、術前薬物療法、術後薬物療法、放射線療法、再発治療、終末医療について包括的に学習する。腫瘍に対する外科的アプローチについては、手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来るようになることを目標とする。さらに遺伝学的診断の理解を深め、多様化する治療法の中で個々の患者に適した治療法の決定が出来るようになる事を学習目標とする。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(頭頸部) 講義及び実習	(353 和田 哲郎・98 田淵 経司・409 塚越 祐太) 臨床腫瘍学のうち、頭頸部領域の悪性腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来るようになる事を学習目標とする。さらに、手術術前・後に行う追加治療(放射線、化学療法、免疫療法など)と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む頭頸部領域の悪性腫瘍に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間
	臨床腫瘍学(画像診断) 講義及び実習	(421 那須 克宏・330 森 健作) 画像検査は病理組織学的な診断に先行してがんに対する臨床的診断を与える役割をもつ。さらに画像検査は病変の再発や遠隔転移の確認で定期的実施されるため、がんに関わる臨床医は各種画像検査の特徴や限界について習熟する必要がある。本項目では、単純写真・造影検査・CT・MRI・US・血管造影・核医学などの画像検査を通じて、種々の悪性腫瘍に対する画像診断の進め方、スクリーニング、病期診断、治療効果判定などを理解するとともに低侵襲性治療(IVR)について学習する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍学(病理診断) 講義及び実習	マイクロレベルの知見が臨床にシームレスに応用される現代において、病理診断学的重要性はますます高まっている。腫瘍の細胞学的な診断や、病理組織診断について、検体の処理から固定、染色法、保存法について理論を学び、最適な標本作製と観察法について実践的に学習する。組織診断や細胞診断の基礎を学んで実際に病理診断業務に携わる。また補助診断としての免疫組織学的診断や遺伝子診断などについてもその基礎的理論を理解し、何例かについては実際に診断を行ってみる。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	基礎腫瘍学(放射線腫瘍学) 講義及び実習	(66 櫻井 英幸・64 柴 武二・211 奥村 敏之・9 石川 仁・230 熊田 博明・13 磯辺 智範・449 水本 齊志) 腫瘍学を専門にする医師の中で、主に放射線腫瘍学を専門とするRadiation Oncologist放射線腫瘍医を対象とする。放射線治療の基礎となる放射線生物学、放射線物理学、腫瘍病理学、臨床腫瘍学、放射線診断学、放射線治療技術学について学習する。学生が個々にテーマを持ち、基礎的な生物実験または物理実験に参加し、その結果を論文発表する能力を習得する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床緩和医療学・精神腫瘍学 講義及び実習	(148 前野 哲博) 臨床の現場において、疾患の進行と共に変化する身体症状、精神症状、スピリチュアルな問題及びそのマネジメントは近年クローズアップされている。これらの苦痛へのアプローチの方法について概説し、各疾患に特徴的な症状、対応方法を学習する事に加え、患者のサイコソーシャルな問題やスピリチュアルな問題へのチームアプローチについても学習する。加えて、同分野の臨床研究を計画・実施できる能力を涵養する。	講義 15時間 実習 120時間
	臨床腫瘍学(皮膚) 講義及び実習	(303 藤澤 康弘・359 石井 良征) 臨床腫瘍学のうち、皮膚・皮膚疾患の、特に皮膚悪性腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来るようになる事を学習目標とする。さらに、手術術前・後に行う追加治療(放射線、化学療法、免疫療法など)と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む皮膚・皮膚疾患の、特に皮膚悪性腫瘍に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間 共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床腫瘍学(口腔)講義及び実習	(138 武川 寛樹・168 柳川 徹・455 山縣 憲司) 臨床腫瘍学のうち、舌癌、上・下顎歯肉癌、口底癌、口蓋癌、唾液腺癌、顎骨骨肉腫、悪性黒色腫等、顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する外科的アプローチについて学習する。腫瘍に対する手術切除の目的・意義を理解し、手術切除のメリット、デメリットを勘案した上で、個々の患者に適した手術適応、術式の決定が出来る様になる事を学習目標とする。さらに、手術前・後に行う追加治療(放射線、化学療法、免疫療法など)と手術を組み合わせた集学的治療についても学び、外科治療を含む舌癌、上・下顎歯肉癌、口底癌、口蓋癌、唾液腺癌、顎骨骨肉腫、悪性黒色腫等、顎・口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する抗がん治療戦略について包括的に理解する。	講義 15時間 実習 120時間 共同
	臨床腫瘍薬学特論講義及び実習	(146 本間 真人) 腫瘍学において日進月歩の薬物治療を理解するためには、各種薬剤の分子生物学的知見や薬力学・物理化学的なメカニズムを精解することが求められる。本項目では臨床的な見地から、抗がん剤をはじめとする薬物の体内動態と薬効及び副作用の解析に関する基礎知識を体系的に学習し、さらにその研究方法についても習得することを目標とする。	講義 15時間 実習 120時間
	基礎腫瘍学(医療開発研究)講義及び実習	(39 加藤 光保) 基礎腫瘍学は免疫学や病理学の知見の集積であり、その複雑なメカニズムは徐々に明らかになってきている。このような腫瘍の成り立ちとメカニズムについて基盤となる知識を確立することを目標とし、さらにがんの発生と予防に応用することも目指す。また基礎腫瘍学から早期臨床・トランスレーショナル研究について必要な知識・技術を系統的に学ぶ。	講義 15時間 実習 120時間
	診断医学物理学講義	(64 榮 武二・13 磯辺 智範・230 熊田 博明) 放射線診断に関する装置開発や品質管理等を行うためには診断医学物理学の知識が必要不可欠である。本科目では基礎医学を含めた放射線診断に関連する医学物理学分野について、その基礎的な知識の習得を目的とする。単純X線撮影、X線CT、IVR、MRIの装置や撮影原理、線量測定法、品質管理について系統的に学習する。	共同
がん専門選択eラーニング講義	臨床腫瘍学(放射線腫瘍学)講義及び実習	(66 櫻井 英幸・64 榮 武二・211 奥村 敏之・9 石川 仁・230 熊田 博明・13 磯辺 智範・449 水本 斉志) 腫瘍学を専門にする医師の中で、主に臨床で放射線腫瘍学を専門とするRadiation Oncologist放射線腫瘍医を対象とする。悪性腫瘍の放射線治療の特性、適応、治療計画、患者管理、有害事象などの知識をeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 実習 30時間 共同
	臨床腫瘍学(外科系)講義及び実習	(35 小田 竜也、278 鶴嶋 英夫) 腫瘍学を専門にする医師の中で、主に手術を専門とするsurgical oncologist=外科系腫瘍専門医を対象とする。外科系がん疾患の病態、疫学、病理診断、放射線診断、遺伝学的診断、外科治療、周術期管理、薬物療法、放射線療法をeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 演習 30時間 共同
	臨床腫瘍学(内科系)講義及び実習	(84 関根 郁夫・100 千葉 滋) 腫瘍学を専門にする医師の中で、主に抗癌剤による化学療法を専門とするmedical oncologist=腫瘍内科医を対象としており、その領域において必要な内科系がん疾患の病態、疫学、病理診断、放射線診断、遺伝学的診断、外科治療、薬物療法、放射線療法をeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 演習 30時間 共同
	緩和医療・精神腫瘍学講義及び実習	(148 前野 哲博) がんの進行と共に変化する症状、精神状態、及びそのマネジメントについて学ぶ。臓器別の疾患に特徴的な症状、対応方法を各論として学習する事に加え、がん終末期の患者の精神的ケア、患者を取り巻く家族、社会への対応も学ぶ。これらの最新知識をeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 演習 30時間
	基礎腫瘍・がん医療開発講義及び実習	(39 加藤 光保) 腫瘍学を専門とする医師・研究者の中で、主に基礎腫瘍学、がんの医療開発を専門とする者を対象とする。基礎腫瘍学の本幹を成す免疫学、病理学の最新の知見の習得を目指す。さらに、早期臨床・トランスレーショナル研究についても学ぶ。これらの最新知識をeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 演習 30時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎医学物理学	(64 榮 武二・13 磯辺 智範・230 熊田 博明) 治療医学物理学および診断医学物理学において装置開発等の研究を行う際、力学、電磁気学、熱力学・統計力学、量子力学等の基礎物理学に関する知識が必要不可欠である。本科目では医学の中で扱う物理学に注目し、医学と理工学、双方の観点から基礎的な知識を学ぶ。なお、講義ではeラーニングを利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	共同
	治療医学物理学	(64 榮 武二・13 磯辺 智範・230 熊田 博明) 放射線治療に関する装置開発や品質管理、治療計画の立案等を行うためには治療医学物理学の知識が必要不可欠である。本科目では放射線治療に関連する医学物理学分野について、その基礎的な知識の習得を目的とする。X線治療、密封小線源治療、温熱療法、粒子線治療の装置原理や線量測定法、品質管理について系統的に学習する。なお、一部の講義にeラーニングを利用する。	共同
	医学物理学総合実習	(64 榮 武二・13 磯辺 智範・230 熊田 博明) 本科目は0JT形式として、学内実習(2単位)により医学物理学に関する基礎研究の最前線について知り、臨床実習(2単位)により放射線診断および放射線治療の品質管理等の実践的な知識・技術について学び、医学物理学に関する基礎理論を实践へと昇華することを目指す。あわせて、医学物理学分野における課題抽出および解決能力を養うことを目的としている。	共同
	臨床腫瘍学(薬学系)講義及び実習	(146 本間 真人) がん診療に携わる薬剤師を対象とする。科学的根拠のある薬物療法を实践すべく、必要な基礎的知識や統計学的基板を学ぶ。さらに病院と地域薬局の連携や、がん患者と薬剤師の関わり方、臨床で求められる実務手技などについても学習する。これらについてeラーニング講義を利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	講義 45時間 実習 30時間
門 専 家 門 養 科 目 成 育 ブ ロ グ ラ タ ム ・ ヒ ュ ー マ ン ・ ケ ア に 根 ざ し た 社 会 医 学 専	社会精神保健学特講	メンタルヘルス問題の実態や発生要因に関する基礎的な知識や評価・支援の方法について講義を行う。さらにこうした基礎的理解をもとにして、トラウマ、アディクション、児童虐待、家庭内暴力、自殺などの諸問題に対して、個人的な治療のみならず、行政や法制度を含む体制の整備をどのように進めるのかについても講義する。	
	福祉医療学特講	医療の高度化、高齢化に伴い「チーム医療・チームケア」の重要性が高まっている。これまでの医師中心の医療から、生活支援やリハビリテーションを含む他職種連携の医療福祉への流れを理解する必要があり、行政の関与も不可欠である。高齢者のみならず障害を有する者、あるいは小児を含めた医療・福祉・保健とその連携が重要となり、地域を巻き込んだ地域包括ケアの確立が喫緊の課題となっている。以上を踏まえ、これらを担う多くの専門職種の教育、職種間の連携の重要性などを中心として学習する。	
	保健医療政策学特講	保健医療政策学の基礎を修得するために、保健医療制度、医療供給体制、医療保険制度、国民医療費、グローバルヘルス等の現状とその課題を論じ、これらの分析に必要な基本的な研究方法として経済学を中心とした社会科学のアプローチを解説する。また、根拠に基づいた保健医療政策の基礎としての疫学についても解説する。	
	ヘルスサービスリサーチ特講	ダブルメジャーの大学院生としてヘルスサービスリサーチ関係の研究・論文執筆を希望する学生のために、ダブルメジャーとして実施する2つの異なる研究の特性および両者のシナジー効果を踏まえて、研究指導を行う。各学生の研究進捗状況を、別の専攻分野での進捗との関係も踏まえた上で共有し、研究方法、論文の書き方について討論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（放射線災害の全時相に対応できる人材養成）	放射線健康リスク管理学	原子力災害の全時相に対応に必要な基本事項（放射能・放射線の単位、種類、性質、被ばくの形式、放射線の人体への影響、被ばくによる発がんリスク、リスクコミュニケーション）について理解を深めることで、放射線の健康リスクについて科学的に議論できる力を習得する。講義は対面に加えe-learningを利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	
	放射線災害医療学	放射線災害医療に関する基本事項（災害医療の種類、被災者と支援スタッフのメンタルヘルス、原子力災害における医療機関の対応、被ばく傷病者の搬送、避難退域時検査、簡易除染）について理解を深めることで、原子力災害に特化した緊急被ばく医療に対応できる技術を習得する。講義は対面に加えe-learningを利用し、系統的かつ網羅的に学習する。	
	放射線科学 ーその基礎理論と応用ー	放射線を用いた先端科学を理解するための基礎的知識を講義により習得し、実習により放射性物質を取り扱うための基本的技術を習得する。本科目は2日間の集中講義・実習であり、1日目には「放射線を用いた最先端の科学」について講義する。2日目、筑波大学放射線初心者教育に準じた「放射線取扱に必要な法規」に関する講義と、「サーベイメータの取り扱い」と「スミア法による表面汚染評価と除染法」の実習を行う。	集中 ・講義 12時間 ・実習 6時間
	課題解決型放射線科学演習	原子力災害医療に関する演習（緊急被ばく医療、リスクコミュニケーション、疫学調査）により放射線災害時の全時相に対応するための基礎技術を習得し、PBLテュートリアルを通じて原子力災害医療に関する新たな研究課題を抽出し解決できる能力を習得する。本科目は少グループで課題シナリオに取り組むだけでなく、グループごとにプレゼンテーションを行うことで、意見をアウトプットする方法論についても習得する。	
た専門基礎科目（病理専門医資格を担保し）	病理学・法医学概論	人体病理学の基礎（1. 標本の取り扱いとホルマリン固定法、2. パラフィン標本作製技術およびクリオスタットを用いた新鮮凍結材料の薄切技術、3. 免疫組織染色の基礎と増感法、4. 免疫組織染色を用いた診断およびコンパニオン診断への応用、5. FISHを用いた診断の有用性、6. NGSを用いたゲノム診断の医療への応用と病理医の役割）について、さらに法医学の基礎（1. 医療事故における病理解剖の意義と死因解明学、2. 死後CTによる診断の有用性と限界）などについて集中講義を行う。	
	先端医学概論I	医学学位プログラムを担当する基礎医学、生命科学関連分野の研究指導教員が、自らの研究グループの研究を解説する。E-learningを利用して、受講者は10回以上を受講し、興味を持った複数のグループの研究内容に関連する論文を読むとともに、実際に研究室を訪問して教員と討論する。講義、論文（講義担当教員が提示する3つ以上の論文）、討議内容を題材としたレポートを作成し、授業担当教員と研究指導教員が評価する。IとIIでは異なる内容を扱う。	
	先端医学概論II	医学学位プログラムを担当する臨床医学、社会医学関連分野の研究指導教員が、自らの研究グループの研究を解説する。E-learningを利用して、受講者は10回以上を受講し、興味を持った複数のグループの研究内容に関連する論文を読むとともに、実際に研究室を訪問して教員と討論する。講義、論文（講義担当教員が提示する3つ以上の論文）、討議内容を題材としたレポートを作成し、授業担当教員と研究指導教員が評価する。IとIIでは異なる内容を扱う。	
	病理診断学実習I	筑波大学附属病院病理部あるいは本プログラムを提携して推進する自治医科大学附属病院、獨協医科大学附属病院の病理部においてヒト組織全般に渡って生検組織、手術的に摘出した臓器、あるいは血液、尿などの液性検体について病理診断、細胞診断および遺伝子診断の実務全般を研修するとともに指導教員とともに実際の診断業務にあたる。どの大学の病理部において研修を行ってもインターネットを利用したdigital画像試験で学習進捗状況を同じレベルで判定し、学習効果を向上させる。	
	病理診断学実習II	筑波大学附属病院病理部あるいは本プログラムを提携して推進する自治医科大学附属病院、獨協医科大学附属病院の病理部において専攻する臓器を対象とした生検組織、手術的に摘出した臓器、あるいは血液、尿などの液性検体について病理診断、細胞診断および遺伝子診断の実務全般を研修するとともに指導教員とともに実際の診断業務にあたる。どの大学の病理部において研修を行ってもインターネットを利用したdigital画像試験で学習進捗状況を同じレベルで判定し、学習効果を向上させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報学 関連科目	情報学セミナー a	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスを得る機会を持つことである。情報学セミナーaは春学期に開講する。	共同
	情報学セミナー b	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスを得る機会を持つことである。情報学セミナーbは秋学期に開講する。	共同
	研究インターンシップ	国際研究機関、国立研究所、企業の研究所、大学の研究室等、所属する学位プログラム以外の組織で研究活動に従事する。研究テーマは受け入れ先の指示に従う。最先端の研究に参加する機会を得るほか、共同研究を経験することにより、研究者同士の議論の仕方、研究の進め方や成果のまとめ方に様々なスタイルがあることを学び、研究に貢献する。研究インターンを募集している研究機関に応募するほか、個別に受け入れを交渉してもよい。	共同
	研究指導実践	将来、大学教員になって研究指導を行うことを想定し、学群生の卒業研究指導を担当教員の監督下で行う。前半の講義で研究指導に様々なスタイルがあることを学び、卒業研究の研究指導の流れと要点について理解する。後半の演習で、学群生のプレゼンテーションや論文の執筆に関わりながら実際に学群生の研究指導を経験し指導スキルを修得する。	共同
	PBL	専門職につくことを想定し、問題解決型の演習を行う。課題発見および課題設定は履修生が行うことを原則とし、プロジェクト進行は、PDCAサイクルにのっとり管理する。研究の段取りを自ら行い、進捗状況に応じてスケジュールの修正を行い、一定の成果を出すことを目的とする。担当教員に定期的に報告を行い、アドバイスをもらう。	共同
	情報学総合演習Ia (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学総合演習Iaは1年次生を対象に春学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり	
	情報学総合演習Ib (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別総合Ibは1年次生を対象に秋学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり	
	情報学総合演習IIa (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別演習IIaは3年次生を対象に春学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり	
情報学総合演習IIb (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別演習IIbは3年次生を対象に秋学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(研究指導)	<p>(16 逸村 裕) 学術情報流通、大学図書館機能、情報利用者の探索行動の解明を研究課題とし、図書館及び大学諸活動、情報リテラシーの動向、物理的な資料情報源の保存、情報専門職に関して高度な研究指導を行う。</p> <p>(17 井上 智雄) 高度情報環境における、人のコミュニケーションや協同の仕組みの解明を研究課題とし、知的活動や健康な日常生活に役立つコミュニケーションの仕組み・インタラクション環境に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(54 後藤 嘉宏) 図書館からマスコミ、電子媒体までを射程に入れたコミュニケーションの基礎理論の構想を研究課題とし、社会情報学、コミュニケーション思想史に関わる理論と実証に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(68 佐藤 哲司) 情報空間の構造を知識として表現し、変換・統合・共有・アクセスするための情報アクセス高度化、知識画像を研究対象とし、データ工学や情報検索に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(81 白井 哲哉) 日本の地域コミュニティが管理する公文書及び歴史資料(古文書)の構造と情報、大震災にかかわる文書・記録・資料を研究対象とし、文書・記録・資料の保全に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(103 辻 泰明) 映像メディア、映像アーカイブ、映像コンテンツのインターネット配信を取り上げ、文化、社会、産業、技術、歴史などの観点から、映像メディアに関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(106 歳森 敦) 地域公共サービスと地域施設、特に図書館や情報センターを研究対象とし、広域的な視点から微視的な視点までを総合し、サービスや施設の運営・計画に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(107 呑海 沙織) 歴史的時間軸の中で、図書館・情報メディアが文化的・社会的に、どのように進展してきたのかを取り上げ、知識情報基盤の形成という視点から図書館文化史に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(121 長谷川 秀彦) 大規模な疎行列に対する連立一次方程式の解法や固有値計算のアルゴリズムの開発・評価、並列コンピュータや高速な数値計算ソフトウェアの開発・評価、コンピュータ教材の作成やデータマイニングに関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(163 森嶋 厚行) これからの社会に必要とされる高度なデジタルコンテンツ管理、検索、統合、変換等を実現するための先端ソフトウェア技術に関して、主にデータベース関連技術やXML等のWWW関連技術などを用いたアプローチから高度な研究指導を行う。</p> <p>(164 森継 修一) 情報システムのひとつとしての数式処理システムの機能を高度化するため基本となるアルゴリズムを研究対象とし、効率のよいアルゴリズムの開発、実際のプログラム開発と実験的検証に関して高度な研究指導を行う。</p> <p>(179 芳鐘 冬樹) ビブリオメトリクスに基づく学術コミュニケーションの分析と、自然言語処理技術を応用した知的情報検索システムの構築を研究課題とし、計量書誌学・計量情報学に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(180 吉田 右子) 北欧公共図書館の機能、アメリカ公共図書館の理念および実践にかかわる歴史、日本における地域住民と公共図書館の関係性に関して高度な研究指導を行う。</p> <p>(185 綿拔 豊昭) 江戸時代の情報伝達手段である「往来物」を中心に、江戸時代の庶民向け書物について、図書学、画像画などを視野に入れて、人文科学的な観点から高度な研究指導を行う。</p>	
	グローバル研究演習III	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIIは1年次生を対象として開講する。</p>	
	グローバル研究演習IV	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IVは2年次生を対象として開講する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グローバル研究演習V	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Vは3年次生を対象として開講する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ヒューマンバイオロジー関連科目	基礎科目 イニシエーションセミナー	セミナーに参加して、ヒューマンバイオロジー学位プログラムの人材養成の目的、カリキュラムの内容、修了に必要な要件、学生に対する各種サポートについて学ぶ。また、国際社会で活躍している教育研究者、行政官、企業で活躍する経営者・研究者などの講演を聴き、課程修了後のキャリアパスの多様性を理解する。さらに、将来の職業選択と今後の学修計画について同期生および招待講演者と話し合い、今後の学修の目標と計画について発表を行うとともにレポートを提出する。	集中
	世界のサイエンスリーダーズセミナー	世界をリードする研究者の専門分野における基礎知識と最近の研究動向を講演から学び、その内容や関連事項についてメンター教員と討論を行うことにより、研究発表と討論の方法を習得すると同時に、研究に関する専門力と目利き力を養う。また、レポートを作成し、研究の進め方について理解を深め、研究遂行能力を養う。またセミナーで学んだ最近の研究トピックに関連する論文を読んで、それらをメンター教員と関連トピックについて話し合うこと、ならびに研究の理解を深めるために最近の研究トピックに関するレポートを書くことで、理解を深め、論文を書くことの基礎を身につける。	
	ビジネスリーダーズセミナー	世界のトップビジネスリーダーを招き、オムニバス形式でキャリア形成やビジネスに関する成功と失敗の話などの経験を紹介する。学生は自らのキャリアパスを考える機会を持ち、また国際的ビジネスに関する知識を習得し、海外の文化的背景も含め、その基盤を理解する。オムニバス形式の講演を聞き、その要点と自身へのフィードバックをレポートで提出する。これによって、国際的ビジネスの複雑さ、面白さ、リスクやグローバルなビジネス戦略を学ぶ。	
	ヒューマンバイオロジーのセレンディピティ	Human Biologyの各専門分野における、講師自らが成し遂げた「思わぬ発見」や「breakthroughをもたらした実験やアイデア」に関する研究とその過程について学び、その意義についての討論に参加するとともに、関連分野の原著論文を読み、その内容について指導教員等と討論を行い、レポートを作成して理解を深める。これにより、Human Biologyの様々な分野について詳細に議論し、知識を蓄え応用力を磨く訓練を行うとともに、研究における意外性のある発展が科学的で論理的な考え方を背景にした考察から生まれることを理解する。	
	科学倫理	本コースでは、広く受け入れられている科学の考え方や倫理的行動を定めた法的枠組みについて学習する。コースの終了時には、多数の科学倫理に関する問題点を明らかにし、これらを適切に議論し、解決法を見いだすことができるようになる。そのため、授業では伝統的な講義とソクラテス式問答法を用いた双方向の議論を行う。さらに、グループに別れて議論を行い、その結果をホームワークとしてレポートにまとめる。iTunesモジュールによるデジタル学習により、学んだ概念を補習する。 授業項目：(1) クラス紹介と倫理ディスカッション、(2) 一般倫理、(3) 一般科学的問題パートI、(4) 一般科学的問題パートII、(5) ラボの問題パートI、(6) ラボの問題パートII、(7) 科学的不正行為の事例研究その1、(8) 科学的不正行為の事例研究その2、(9) 全トピックの包括的なレビューその1、(10) 全トピックの包括的なレビューその2	
	ヒューマンバイオロジーの国際討論I	テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業（分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論）を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。Iでは、分子細胞生物学をトピックとする。 授業項目：(1) タンパク質の立体配座、ダイナミクス、酵素学、(2) 転写、(3) 遺伝子発現における転写後調節、(4) 遺伝子発現の制御動物におけるsmall RNAを介した遺伝子サイレンシング、(5) シグナル伝達、(6) 細胞応答と環境要因への適応 (I) --- 酸素、(7) 細胞の反応と環境要因への適応 (II) --- 発生、(8) 細胞の反応と環境要因への適応 (III) --- 細胞の移動、(9) 細胞応答と環境要因への適応 (IV) --- 細胞死、(10) 細胞間コミュニケーションを解析するための先端技術、(11) 学生による論文発表I、(12) 学生による論文発表II	講義：7.5時間 演習：7.5時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒューマンバイオロジーの国際討論Ⅱ	<p>テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業（分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論）を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。Ⅱでは、がん生物学をトピックとする。</p> <p>授業項目：(1) がん生物学、(2) RNA制御とその癌との関係、(3) 腫瘍ウイルス学、(4) テロメア生物学、(5) ゲノム不安定性のメカニズムとその癌との関連性、(6) がんのエピジェネティクス、(7) 癌はどのように成長しますか？、(8) 腫瘍の微小環境、(9) 癌細胞におけるシグナル伝達、(10) がんゲノミクス、(11) 癌研究における動物モデル</p>	講義：7.5時間 演習：7.5時間
	国際研究室ローテーション	ヒューマンバイオロジー学位プログラムの担当教員が主宰する海外の研究室のうち、学生自身が興味のある1～2の研究室を選択し、その研究室で4週間研究に従事し、研究の目的や研究の進め方、得られた研究成果について派遣先の指導教員ならびに帰国後に研究指導教員と議論する。これにより、多様な研究技術を習得し、研究結果解析能力と国際性を養う。学生からの活動報告ならびに派遣先の教員からの評価に基づき、教務委員会が研究指導教員の研究室の研究内容との相違を含めた派遣の必要性・意義、活動内容、成果について総合的に評価を行う。	
	海外企業におけるインターンシップ	本コースでは、インターンシップが可能な海外企業を自ら探すことから始まり、実際にこれを行い、ビジネスチャンスの知識を身につける。授業から得られた科学的知識がどのように実際の実務に取りこめるかを考える。また、今日のビジネス環境における基礎研究と応用研究の役割について理解を深め、どのようにビジネスの成功とその社会への還元につながるかを学ぶ。さらに、ビジネスチャンスに関する情報を探索し入手する方法、専門家とネットワークを形成し、可能な共同研究者を特定できるようにすることなども学習する。	
	適正技術	<p>現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。それにより、これからの社会で必要とされる問題解決力、現場対応力、起業力を身につける。</p> <p>1. 適正技術の科目の履修に必要な基礎知識（適正技術教育、途上国や過疎地域の現状、フィールド活動等）について、講義と討論により学修する。</p> <p>2. 現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。</p> <p>授業項目：</p> <p>(1) 適正技術教育入門の受講 (2) 現地（途上国、国内過疎地域）へのフィールドトリップ (3) 途上国向けの製品開発と討議、最終報告会での発表 (4) (1)～(3)のレポートの提出</p>	
	起業家マインド育成	シーズとなる技術、或いはアイデアを自ら社会に還元するために必要とされるマインドとスキルを育成する。社会ニーズの把握、マーケティングや流通の理解、起業、さらに事業の継続に必要とされる考え方とスキルを講義で学習するとともに、実際に企業を訪問して学習する。成功事例に加えて失敗事例についても学ぶ。教育目標としてはヒューマンバイオロジー・食と健康に関するビジネスの創出や起業の基本的プロセスについて説明できるようになる。授業の達成目標は、ベンチャー企業の起業やビジネスの継続知識・技術を学習し、ヒューマンバイオロジー学位プログラムで修得が求められる実効的な知識・能力、特に、ヒューマンバイオロジー・食料健康科学の専門知識の活用能力、異分野・異業種間での交流・連携も含めた統合的なプロジェクト・マネジメント能力を習得する。	
	国際研究室ローテーション上級コース	ヒューマンバイオロジー学位プログラムの担当教員が主催する海外の研究室のうち、学生自身が興味ある1～2の研究室を選択し、その研究室で8週間以上博士論文研究の一部を実施し、研究の目的や研究の進め方、得られた研究成果、今後の研究方針について派遣先の指導教員ならびに帰国後に研究指導教員と議論する。これにより、学位論文作成に多様な研究遂行能力や結果の評価能力を習得する。学生からの活動報告ならびに派遣先の教員からの評価に基づき、教務委員会が研究指導教員の研究室の研究内容との相違を含めた派遣の必要性・意義、活動内容、成果について総合的に評価を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外企業におけるインターンシップ上級コース	本コースでは、インターンシップが可能な海外企業を自ら探すことから始まり、ビジネスチャンスにつながる知識と方策を実践により身につける。さらに、インターンシップの計画について海外企業と交渉したうえで設定し、これを実施する。授業から得られた科学的知識を実際の実務経験に統合することが期待される。そのうえで、基礎研究、応用研究の成果が、社会実装にどのようにトランスレーションされるかの実践を通して理解を深める。	
	適正技術上級コース	適正技術教育から得られた実践的なスキルに基づいて、学生が対象となるコミュニティ（途上国や国内過疎地域など）で新しいビジネスを開始するためのトライアルを行う。現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。それにより、これからの社会で必要とされる問題解決力、現場対応力、起業力を身につける。 1. 適正技術の科目の履修に必要な基礎知識（適正技術教育、途上国や過疎地域の現状、フィールド活動等）について、講義と討論により学修する。 2. 現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。	
	起業家マインド育成・実践コース	「起業家マインド育成」で学習した内容をもとに、実際の起業案を作成して発表する。起業案作成に必要な、プロジェクト・マネジメント、市場調査、組織構築、資金計画、スケジューリング、リスク管理、出口戦略などを学習する。教育目標としては、ヒューマンバイオロジー・食と健康に関する特定のテーマに基づいて、起業または実現可能性の高いビジネスモデルを創出できるようになる。また、授業の達成目標はベンチャー企業の起業やビジネスの継続知識・技術を、起業シミュレーションを通じて学習する。具体的にはヒューマンバイオロジー学位プログラムで修得が求められる汎用的知識・能力、特に、ヒューマンバイオロジー・食料健康科学の専門知識の活用、アイデアを具体化・実行する実践力、プレゼンテーションや自己アピールなど表現力、多国籍間における対話・交渉力など統合的プロジェクト・マネジメント力を習得する。	
	キャリアマネジメント学習	本コースでは、国際社会の中でリーダーとして活躍するために必要なビジネスコミュニケーションスキル、ソーシャルマナーを講義やワークショップにより身につける。同時にチーム管理、プロジェクト管理の基本的知識と方策を、同様に講義やワークショップにより学ぶ。これにより、学生は卒業後のキャリア開発を目的としたインターンシップに参加する準備を整える。また、国際社会において成功する社会的人として必要な実践的な知識を習得することができる。	
専門基礎科目	人体解剖学・発生学	生物の一種としてのヒトの体の構造を細胞、組織、臓器、器官系として理解する。肉眼解剖学として、総論講義、頭部、胸部、腹部および会陰部の5回の部位別の講義を行い、人体の生物としての特徴を理解する。また、そのような特徴がなぜ形成されるかを発生学総論1、発生学総論2、消化器系発生学、循環・呼吸器系発生学、頭頸部および神経系発生学の5回の発生学講義より理解する。理解した内容についてテーマを選択してレポートを提出する。	
	人体病理学・腫瘍学	ヒトの病気の原因、発生機序、形態変化について、循環障害（浮腫、血栓症、梗塞など）、炎症、腫瘍などの基礎的な疾患概念を理解するとともに、生体内で何が起きているのかを総論的に理解できるようになる。また、各論的な知識を自ら取得できるような学習方法を学ぶ。後半は、種々のがんの専門医の授業によりがん医療と最新研究の現状を学ぶ。複数の授業の後に行う小テストと最終レポートにより評価する。  (オムニバス方式/全20回)  (39 加藤 光保/7回) 病理学概論、組織ホメオスタシスと再生、循環障害、炎症、がん幹細胞 (260 鈴木裕之/3回) 細胞傷害と細胞死、変性・過形成・肥大、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、 (560 渡邊幸秀/3回) がん細胞の特性、化学発がん、肺がん (479 沖田 結花里/2回) 浸潤と転移、乳がん (35 小田 竜也/2回) 胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝臓がん (100 千葉滋/1回) 白血病 (321 水口剛雄/1回) 婦人科がん (383 河合弘二/1回) 泌尿器がん	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒトの感染・免疫学	<p>感染症を惹起する病原微生物、特に病原細菌とウイルスの生物学的な特性、宿主免疫システム、および病原微生物と宿主の免疫との相互関係を分子レベルで理解する。さらに、免疫応答の異常としての自己免疫疾患とアレルギーについて理解する。</p> <p>目標：ヒトの感染症と免疫応答の制御法を開発する基盤的能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(253 澁谷 和子/3回) 免疫学概要およびT細胞の分化と機能について解説する。  (407 田原 聡子/2回) B細胞の分化と機能について解説する。  (481 小田ちぐさ/2回) 腫瘍免疫応答について解説する。  (520 鍋倉 幸/1回) 自然免疫応答について解説する。  (314 松本 功/1回) 自己免疫疾患について解説する。  (412 坪井洋人/1回) アレルギーについて解説する。  (162 森川一也/4回) 細菌学全般について解説する。  (223 川口敦史/4回) ウイルス学全般について解説する。  (305 Ho Kiong/2回) 寄生虫や真菌全般について解説する。</p>	オムニバス方式
	ヒトの内分泌・代謝学	<p>エネルギー代謝に関する生化学・分子生物学、ホルモンの生理機能とシグナル伝達機構、ホルモンの異常により引き起こされる疾患の分子メカニズムと治療法について解説する。</p> <p>目標：ヒトの内分泌代謝疾患の成因と発症に至る病態生理について論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(77 島野仁/4回) エネルギー代謝、ホルモン作用、糖尿病について解説する。  (616 中川嘉/2回) エネルギー代謝の転写調節機構について解析する。  (337 矢作直也/全2回) ニュートリゲノミクスについて解説する。  (153 松坂賢/6回) 脂肪酸代謝、糖尿病、骨代謝について解説する。  (263 関谷元博/2回) 中間代謝産物によるエネルギー代謝制御機構について解説する。  (259 鈴木浩明/4回) 下垂体および副腎の機能と病態について解説する。</p>	オムニバス方式
	環境医学	<p>授業概要：我々は生活環境を介して様々な物質に曝露されており、地球規模の環境汚染と健康との関係が注目されている。医学的な立場で環境問題に取り組むには、疫学研究を基盤としたフィールドサイエンスと、実験動物や培養細胞を用いた実験科学の融合が重要である。本講義では、地下水を介した地球規模汚染が知られているヒ素を題材として、フィールドサイエンスと実験科学の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>授業の達成目標：環境汚染地域でのサンプリング、断面調査および介入研究を理解する。ヒトの代替としての実験動物の使用およびメカニズム解明のための細胞実験を理解する。</p> <p>授業計画：1. 概論 2. ヒ素汚染の実態 3. フィールドサイエンス (その1) 4. フィールドサイエンス (その2) 5. フィールドサイエンス (その3) 6. 実験科学 (その1) 7. 実験科学 (その2) 8. 実験科学 (その3) 9. 総合討論 (その1) 10. 総合討論 (その2)</p>	
	生化学・分子生物学	<p>DNAの複製、転写、翻訳および代謝、細胞周期、細胞シグナル伝達などの分子基盤について解説する。</p> <p>目標：人体機能の分子メカニズムについて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(301 福田綾/3回) DNA、染色体、ゲノム、転写と遺伝子発現調節、代謝について解説する。  (19 入江賢児/1回) DNA の複製、修復、組換えについて解説する。  (132 久武幸司/1回) 翻訳の機構と調節について解説する。  (397 塩見健輔/2回) 代謝について解説する。  (539 水野智亮/1回) 細胞周期について解説する。  (439 榊和子/2回) 細胞内シグナル伝達について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	分子細胞生物学	<p>生命の単位である細胞は、環境に応じて、細胞増殖、細胞分化、細胞死など、様々な振る舞いをしめす。また細胞は障害性のストレスに対して恒常性を維持するために様々な防御機構を備えている。本講義では、上記の基本的な生命現象を支える細胞内の分子メカニズムを学び、討論する。また学生は細胞生物学の最新原著論文を紹介し、質疑応答することによってさらに理解を深める。</p>	
	基礎毒性学	<p>授業概要：生体内において、薬、環境物質などの化学物質の吸収、分布、代謝および排泄（ADME）は、その薬理作用や毒性に影響する。特に代謝には種々の酵素（群）が関与しており、解毒だけでなく、有害性の獲得も知られている。本講義では、化学物質の毒性発現について学ぶ。</p> <p>授業の達成目標：化学物質の薬効および有害性の量-反応関係を理解する。化学物質の解毒および発がんや組織傷害に係る代謝活性化の分子メカニズムを理解する。異物代謝の中心的役割を担うチトクロムP450（CYP）の誘導能および遺伝的多型を理解する。</p> <p>授業計画：1. 概論 2. 化学物質のADME 3. 薬と毒物 4. 化学物質の解毒（その1） 5. 化学物質の解毒（その2） 6. 化学物質の代謝活性化（その1） 7. 化学物質の代謝活性化（その2） 8. 薬効および有害性の個体差と遺伝的多型 9. 総合討論（その1） 10. 総合討論（その2）</p>	
	創薬フロンティア科学	<p>本講義は、筑波大学と東京理科大学の大学間の連携協定に基づき実施する講義である。創薬の方法について、東京理科大学薬学部所属の創薬の専門家を招いて講義を行なう。基本的な化学合成の方法から、創薬リード化合物のin silico スクリーニング/分子設計及びコンビナトリアルケミストリー手法、コンピュータシミュレーション技術を駆使した論理的な新薬開発のプロセス、薬物体内動態研究の動向等、最新の創薬技術までを俯瞰的に理解する。理解した内容についてテーマを選択し、創薬についてのレポートを提出する。</p>	
	神経科学特論	<p>神経科学分野において重要な論文を読み、内容を深く理解することで、基礎から応用までの幅広い知識を養う。</p> <p>目標：原著論文を読みこなし、トピックについて論じることができる。さらに、英語によるプレゼンテーション能力が向上し、自分自身の研究分野においても英語で議論ができる。</p> <p>（オムニバス方式/全11回）</p> <p>（170 柳沢正史/1回）カプサイシン受容体：疼痛経路における熱活性化イオンチャネル</p> <p>（170 柳沢正史/1回）Homer1aは、睡眠中の興奮性シナプスを恒常的に縮小する</p> <p>（296 林悠/1回）子猫の片側閉眼による生理的影響を受けやすい期間</p> <p>（241 坂口昌徳/1回）睡眠は洞察力を刺激する</p> <p>（170 柳沢正史/1回）不安を選択的に緩和するための分子および神経基質</p> <p>（533 本城咲季子/1回）Arc / Arg3.1とCaMKII <math>\beta</math> の動的相互作用による不活性シナプスの逆シナプスタギング</p> <p>（348 LAZARUS MICHAEL/1回）哺乳類の概日振動子のユニバーサルリセット合図としての温度</p> <p>（170 柳沢正史/1回）慢性的な睡眠制限後の神経行動学的力学：一晚の回復に対する用量反応効果</p> <p>（65 櫻井武/1回）海馬の波紋はシナプスを下方制御する</p> <p>（170 柳沢正史/1回）性的に二形性の視床下部回路は、母体のケアとオキシトシンの分泌を制御する</p> <p>（170 柳沢正史/1回）鎮痒 <math>\kappa</math> オピオイド作動薬TRK-820（塩酸ナルフラフィン）</p>	オムニバス方式
	神経生物学	<p>本講義では、神経細胞と神経ネットワークの機能についての基本的な理解に努める。最初に、神経の静止膜電位と活動電位の発生および伝播基盤から、神経細胞における電気的信号の基本原則を学ぶ。次に、イオンチャネル等を介したカルシウム流入による神経伝達物質放出の基本原則に基づいて、シナプス伝達による神経間の情報伝達基盤を学ぶ。こうした一連の基本原則から、実際の脊髄反射等の生体生理現象をどのように説明可能であるかを実践的に理解する。最後に、学習、記憶と知覚認知領域における最新の概念とこれらの脳機能プロセスが、基本的な神経細胞機能と神経ネットワークの観点からどのように理解可能であるかを応用的に学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	サイエンスにおけるITの活用	広い意味での計算科学を俯瞰し、科学におけるITの活用について解説する。さらに、いくつかの重要なトピック（統計解析、主成分分析、クラスタリング、FFT解析、画像解析、機械学習等）について、理論的に理解したうえで、実践的なプログラミングスキルを習得し、具体的な事例を題材にして実際に解析システムを構築し、解析と検討を行う。本科目の目標は、各自の研究に直接応用できる高度な数値解析・プログラミングスキルの基礎を身につけることである。	講義：15時間 実習：30時間
	基礎計算生物学	本講義の目標は、計算機を用いて生物学で現れる各種の問題を解くための基礎的な手法について理解することである。分子系統解析、分子動力学法、数式による現象のモデル化とアルゴリズム解法、数値シミュレーション、生物多様性、高性能計算、成分分析法、データ解析法等について説明する。基本的な授業形態は講義であり、必要に応じて演習も行う。	
	数理アルゴリズム	近年の計算機性能の飛躍的な向上に伴って、科学や工学の様々な分野において、計算科学は理論、実験に次ぐ第3の科学として必要不可欠なものとなっている。本講義では、これらの分野でコンピュータを活用するための基本的な考え方と手法について習得する。科学計算で現れる各種のモデリングとアルゴリズムについて、とくに大規模な線形計算を中心に物理現象を表すモデリングと応用例、行列演算に関する基本的事項、線形方程式の反復解法、固有値問題の解法について学ぶ。	講義：7.5時間 演習：7.5時間
	高性能計算技術	本講義では、今日の先端的科学技術計算（計算科学、計算工学）を支える高性能コンピューティング技術に関して、並列処理システム、プロセッサアーキテクチャ、相互接続ネットワーク、数値計算アルゴリズム、性能最適化手法等のハードウェアからアプリケーションまでのあらゆる階層に跨がる技術について概説する。また、最先端の実システムと実アプリケーションについても紹介する。本講義は高性能計算システムを利用するアプリケーション側の学生と、高性能計算システムを提供するシステム側の学生の両方を対象とし、どちらの立場にも他方の考え方を理解させ、コデザイン概念に基づく高性能計算技術の基礎を身につかせることを目指す。	
	計算構造生物学・創薬	現在、生体機能解析および創薬の分野においては、計算科学をベースとした研究手法による、原子分子レベルでの作用機序の知見が必須となっている。本講義では、それらの基礎となる計算科学・物理学の知識、および各種研究手法（バイオインフォマティクス、分子動力学計算、第一原理計算）を学習するとともに、(1)分子動力学計算、(2)第一原理計算、(3)創薬シミュレーションのそれぞれのテーマに関してコンピュータを活用した実践形式の実習を行う。	講義：5時間 実習：10時間
	ゲノミクスデータベースへのアクセスと利用	バイオインフォマティクスの経験が全くない学生を想定し、学位研究でも頻繁に用いられるRNAシーケンシングおよび、ChIPシーケンシングのデータ解析が行えるようになることを目標とする。中央計算機システムに接続したコンピューターを学生が各1台使用できる端末室において、講義形式の説明、テキストを用いながら教員とTAがサポートして進める練習課題、プロジェクト形式のデータ解析、および結果の発表とディスカッションを英語で行う。この中で、公共データベースの利用法、ウェブツールを用いた解析、Linux環境でのファイル処理の自動化、インフォマティクス解析のモジュール構造など、他のプログラミング言語にも共通した概念を経験させる。また、ヒトゲノム研究の科学的・社会的意義やデータプライバシーについてもカバーする。	
	遺伝子工学と遺伝子改変マウス	生命科学研究では、遺伝子改変技術とその方法を応用した遺伝子改変マウスの作成は必須の研究方法である。本授業では、マイクロインジェクションによるトランスジェニックマウスの作製、ES細胞を用いた相同遺伝子組換えによるジーンターゲットング法や、CRISPR/Cas9を用いた最新のゲノム編集法などの遺伝子工学の基盤的技術と、その応用である遺伝子改変マウス作製手法について理解する。また、自身の研究におけるそれらの技術応用について討論し、レポートを提出する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	エピゲノム生理学	本講義では、2つの遺伝情報（ゲノムとエピゲノム）について、生物学的、医学的および社会的重要性を概説する。また、学生は、DNAあるいはヒストンのエピゲノム調節に関する最新の論文を自ら選び、熟読し、パワーポイントでスライドを作成してプレゼンテーションを行う。聴く側の学生からは質問を充分に行い、教員が用意したpeer review sheet (PRS) を使って発表者の課題設定や論旨の展開などについて評価を行う。さらに、発表者のために、発表や質疑応答の準備状況などについて、今後のプレゼンテーションの役に立つよう、PRSに良かった点と改善点についてもワンポイントアドバイスを記述する。この双方向性の形式によって、エピゲノムのもつ生理学的意義について学修する。	
	シグナル伝達と創薬デザイン	細胞機能を制御する細胞内応答、すなわちシグナル伝達について学習し、さらには、シグナル伝達の破綻が引き起こす疾患について学ぶ。これらを理解した上で、これまでに開発された薬と新薬を開発するためのストラテジーについて学び、創薬研究の基礎知識を習得する。各教員が、がん、免疫、糖尿病、感染症などのシグナル伝達の講義や、医薬品開発についての講義を実施する。  (オムニバス方式/全10回)  (529 船越祐司/5回) コース概要、がんのシグナル伝達、抗腫瘍薬 (407 田原 聡子/1回) アレルギーとシグナル伝達 (223 川口敦史/1回) 抗ウイルス薬の開発 (77 島野仁/1回) 糖尿病とシグナル伝達 (153 松坂賢/1回) 抗糖尿病薬 (120 橋本 幸一/1回) シグナル伝達系に作用する薬のトランスレーショナルリサーチ	オムニバス方式
	幹細胞再生医学	再生医学および幹細胞に関する研究に必要なヒト幹細胞に対する基礎知識を習得し実際の幹細胞治療の現状と問題点を理解するとともに、将来の幹細胞を用いた細胞治療法について学ぶ。さらに幹細胞研究に必要な実験の原理と手法について学び、自身で研究内容を構築し目的とする結果を得ることができる技術を身につける。また実験が失敗した場合にも、結果を考察し、改善点を見出し新しい実験を組み立てることができる能力を育成することを目的とする。	
専門科目	ヒューマンバイオロジー基礎実験	4つの異なる研究室で、教員の講義をもとに各研究の概要を学び、基礎的な実験方法・研究の概念とその原則を理解する。また、基本的な実験やシミュレーションを行うことで、上記の理解を深める。これにより、各研究内容の背景と概要を理解し、研究者との議論による基礎的な実験方法やシミュレーションの理解、研究に関連する論文や書籍の収集をする能力を身につけ、基本的な実験/シミュレーションを行い、理解を深めることができるようになる。	
	ヒューマンバイオロジー特論Ⅰ	専門分野とすることを希望する複数の研究室のプログレスミーティングに参加し、最新の研究成果の発表を題材とし、研究内容に関する討論を行い、専門知識を学ぶとともに研究の進め方を学修する。	
	ヒューマンバイオロジー演習Ⅰ	専門分野とすることを希望する複数の研究室の抄読会に参加し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	ヒューマンバイオロジー特論Ⅱ	専門分野とすることを希望する複数の研究室のプログレスミーティングに参加し、最新の研究成果の発表を題材とし、研究の目的、方法、結果を理解し、その意義や残された課題について討論を行い、実践的な研究の進め方を学修する。	
	ヒューマンバイオロジー演習Ⅱ	専門分野とすることを希望する複数の研究室の抄読会に参加し、最新の原著論文を自ら抄読し、これを発表し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論するとともにプレゼンテーション能力を涵養する。	
	ヒューマンバイオロジー実験実習Ⅱ	専門分野とすることを希望する特定の研究室で主要な研究手技の原理と方法について実践によって学ぶ。	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅰ	専門分野とすることを希望する特定の研究室で、主要な研究手技の原理と方法について、実践によって学ぶ。	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅱ	専門分野とすることを希望する特定の研究室で行われている研究プロジェクトの目的、方法、意義を実践によって理解し、学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(188 阿部 高志)ヒトを対象として断眠負荷や認知課題負荷などに対する睡眠や眠気と関係する心理・生理・行動上の変化およびその個人差の発生要因を取り上げ、睡眠の機能や「眠気」の機序解明に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(19 入江 賢児)出芽酵母の遺伝子発現の転写後制御機構を課題として、遺伝学・分子生物学・生化学・細胞生物学の実験手法、研究の進め方を学修する。</p> <p>(25 大根田 修)疾患の治療に応用できる様々な組織由来の幹細胞を用いた細胞治療に対する問題点を取り上げ、幹細胞の特性解析の課題の研究指導を行う。</p> <p>(39 加藤 光保)がんの発生・進展、特にがん幹細胞の増加機構におけるトランスフォーミング増殖因子b関連分子の役割について研究指導を行う。</p> <p>(649 狩野 繁之)国際感染症の対策、特にマラリア流行対策に関する地球規模課題を取り上げ、SDGs (持続可能な開発目標) の達成の加速化というグローバルな課題の研究指導を行う。</p> <p>(223 川口 敦史)ウイルス感染症に対する最新の研究動向とその発症分子基盤を取り上げ、インフルエンザウイルスを中心とした新興ウイルス感染症課題の研究指導を行う。</p> <p>(577 小林 悟)ショウジョウバエにおける生殖細胞形成過程を取り上げ、生殖細胞形成に関わる遺伝子の発現調節機構に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(241坂口 昌徳)睡眠中の記憶固定化に対するメカニズムを取り上げ、個々の課題の研究指導を行う。</p> <p>(65 櫻井 武)動物の行動表出にかかわる、情動・報酬系・睡眠覚醒制御系や、食欲・代謝制御などに関して、介在する神経経路や神経伝達物質の機能・役割について講義や組織学、分子遺伝学、光遺伝学などをもちいた研究の指導を行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也)生物分野に関係する数理的なモデルの計算手法やデータ解析のための手法を取り上げ、アルゴリズムを実行するためのプログラミングや計算結果の可視化の課題の研究指導を行う。</p> <p>(582 重田 育照)第一原理計算、分子動力学計算、バイオインフォマティクスの各種手法を駆使し、計算生物物理学の研究を行う。また、自らテーマを設定し研究を遂行することで、学位論文等を作成する。</p> <p>(253 澁谷 和子)アレルギーや自己免疫疾患、がんなど免疫系が関与する疾患における免疫受容体の役割を取り上げ、免疫関連疾患病態の分子メカニズム解明の研究指導を行う。</p> <p>(77 島野 仁)エネルギー代謝および生活習慣病に対する専門知識および最新の研究内容を取り上げ、生活習慣病克服のための課題の研究指導を行う。</p> <p>(88 高橋 智)個体を用いた転写因子の臓器形成および機能発現に対する分子機構の解明を行い、転写因子機能と疾患発症解明の研究指導を行う。</p> <p>(587 千葉 智樹)細胞内タンパク質分解機構に着目し、その生理的役割に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(618 丹羽 隆介)昆虫をモデル系とした分子遺伝学的、発生生物学的、および内分泌学的解析を中心として、生殖・発生タイミング・寄生に関連した課題の研究指導を行う。</p> <p>(590 野村 暢彦)人また人の暮らしにかかわる微生物の相互作用や集団化 (バイオフィーム) に着目した課題の研究指導を行う。</p> <p>(296 林 悠)睡眠が脳発達や老化に果たす役割や、脳の複雑化に伴い睡眠が複雑な生理状態へと進化した経緯について議論し、解明するための研究の指導を行う。</p> <p>(593 深水 昭吉)細胞と個体の寿命を取り上げ、生体分子のメチル化が担う役割の解明を目指し、メチル化酵素の同定とメカニズムに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(300 VOGT Kaspar Manuel) 各自の研究課題についての研究計画に基づき、実験、実験データの解析、論文作成指導を行う。睡眠時の徐波発生機構の解明を目指して各々で個別のテーマを設定し、動物実験、生化学実験、データ解析のためのプログラミングの手法等を学ぶ。</p> <p>(533 本城 咲季子)大脳皮質・視床における神経活動のダイナミクスを取り上げ、睡眠が中枢神経系において果たす生理的意義を課題とした研究指導を行う。</p> <p>(170 柳沢 正史)睡眠研究に対する最新の研究成果や原著論文を取り上げ、睡眠研究における専門知識および手技、論文作成技能の習得を課題に研究指導を行う。</p> <p>(169 柳沢 裕美)血管生物学、マトリクス生物学、幹細胞生物学、遺伝子工学に対する基本的手技、原理を特論や演習にて学習し、各自の課題に沿って研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(600 和田 洋)海産無脊椎動物（ウニ、ヒトデ、貝類）とヤツメウナギを対象に進化発生学的な問題を取り上げ、新規形態進化とゲノム進化に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(348 LAZARUS MICHAEL)特定神経集団の活性と動物の行動や脳波の関係を調べるため、光遺伝学、化学遺伝学、光薬理学、神経活動記録、in vivoイメージングなどの原理・技術を学ぶ。</p> <p>(181 LIU QINGHUA)生物の生存欲求に関わる様々な行動を取り上げ、それらを制御する神経メカニズムの理解を目指した研究指導を行う。</p>	
	ヒューマンバイオロジー研究室演習Ⅰ	<p>指導教員とのチュートリアルを通して、論文のトピックを選択するために必要な基本的な知識を得る方法を学ぶ。指導教員との話し合いを通じて研究対象を選択し、研究の実施方法を決定し、動物実験や遺伝子組換えなどの研究に必要な申請手続きを行う。グローバル問題に関する基礎的な知識と情報を蓄積し、その分野における研究状況を理解し、論文のトピックを選択する。これらを通して、グローバルな問題を解決するために世界の動向、選択した研究テーマの意義、研究の実施に必要な研究方法、研究に必要な規制や申請手続きを説明できることができるようになる。</p>	
	ヒューマンバイオロジー研究Ⅲ	<p>学位論文につながる研究テーマについて、研究指導教員の指導の下で、研究計画を設定し、研究を遂行する。当該分野の研究の最新の動向を広く理解するために発表された原著論文に精通するとともに学会での討論などを通じて、独立した研究者としての最先端の専門知識を習得する。また、自らの研究結果を適切に解釈し、必要な技能を習得して、それを不断に向上させるとともに新たな研究手法の確立にも励んで研究を進展させるとともに、論文としてのまとめ方と論文執筆の技能を習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ライフイノベーション（病態機構／創薬開発） 基礎科目	人を対象とした研究:基盤編	ライフサイエンス分野の研究活動を行うにあつては、人を対象にした研究に関する倫理規範に精通していることが必須である。本コースは、一般財団法人構成研究推進協会（APRIN）が提供するのe-ラーニングを利用することにより、学生は人を対象にした研究における責任ある研究行為について理解する。「人を対象とした研究：基盤編（HSR）」を受講し、生命倫理学の歴史と原則、研究倫理審査委員会による審査、研究における個人情報の取り扱い、人を対象としたゲノム・遺伝子解析研究、研究で生じる集団の被害、インフォームド・コンセプト、特別な配慮を要する研究対象者、カルテ等の診療記録を用いた研究、生命医科学研究者のための社会科学・行動科学、国際研究、多能性幹細胞研究の倫理、研究臨死審査委員会の委員に就任する際に知っておくべきことについて学ぶ。	
	博士後期ライフイノベーションセミナー	本授業では、海外の協力教員が、ライフサイエンスにおける基礎から最先端の研究トピックに関するセミナーを行う。また、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。これらのインタラクティブなやり取りを通して、ライフサイエンス分野におけるイノベーションに貢献する研究者の資質、研究者に必要なプレゼンテーション、ディスカッション、コミュニケーション能力などを学生が獲得することを旨とする。	
	博士後期インターンシップ I	一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の研究者と協働できる能力、専門分野外での課題設定能力を養い、社会人としての実践力を修得・拡充する。	
	博士後期インターンシップ II	後期課程における研究をもとに設定した課題の分野横断的な解決の糸口を見つけることを目的として、一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の研究者と協働できる能力、社会人としての実践力を修得・拡充する。ライフイノベーション博士後期研究II春およびライフイノベーション博士後期研究II秋を履修していることを履修の条件とする。	
専門科目	ライフイノベーション博士後期演習I秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、専門分野の学術論文の内容について発表し、専門分野に関する知識を深める。	
	ライフイノベーション博士後期演習I春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、専門分野の学術論文の内容について発表し、科学的なプレゼンテーション能力およびディスカッション能力を身に付ける。	
	（ライフイノベーション博士後期演習I秋、春の担当教員）	（664 大石勝隆）先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （672 桑原知子）成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （655 中村幸夫）最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （671 Wadhwa KAUL Renu）分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （170 柳沢正史）行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （669 保富康宏）免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （670 吉木淳）マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （569 市川創作）生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 （568 礪田博子）天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(668 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフイノベーション博士後期研究I秋	各自の所属研究室において、研究計画を立案し、研究活動を進める。研究の進捗状況に関して随時議論することにより、研究の方向性に軌道修正を行う。	
	ライフイノベーション博士後期研究I春	各自の所属研究室において、立案した研究計画に基づき、研究を行う。研究の進捗状況を定期的に発表し、議論を深めることにより、研究内容を深める。	
	(ライフイノベーション博士後期研究I秋, 春の担当教員)	<p>(664 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患関する研究指導を行う。</p> <p>(655 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(671 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(170 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(669 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(670 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(569 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(568 磯田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(668 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chip デバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	
	ライフイノベーション博士後期演習II秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、関連分野に関する論文の科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、幅広い知識を身に付ける。	
	ライフイノベーション博士後期演習II春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、関連分野に関する論文の科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、分野にとらわれないディスカッション能力を身に付ける。	
	(ライフイノベーション博士後期演習II秋、春の担当教員)	<p>(664 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(655 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(671 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(170 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(669 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(670 吉木淳) マウスリソース工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(569 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(568 磯田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(668 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフイノベーション博士後期研究II秋	各自の所属研究室において、研究活動を行う。研究の進捗状況に関して随時議論し、専門分野だけでなく関連分野における意義を明確にし、研究の新たな展開について検討し、取り組む。	
	ライフイノベーション博士後期研究II春	各自の所属研究室において、立案した研究計画に基づき、研究を行う。研究の進捗状況を定期的に発表する。批判的な議論を通して、多角的に研究内容を検討し、研究の軌道修正を行う。	
	(ライフイノベーション博士後期研究II秋, 春の担当教員)	<p>(664 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患関する研究指導を行う。</p> <p>(655 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(671 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(170 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(669 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(670 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(569 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(568 磯田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(668 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chip デバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ライフインベーション博士後期演習III秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、専門分野および関連分野における最新の研究知識を身に付ける。	
	ライフインベーション博士後期演習III春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、専門分野および関連分野に関する学術論文を批判的に読む力を身に付ける。	
	(ライフインベーション博士後期演習III秋, 春の担当教員)	<p>(664 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(655 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(671 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(170 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(669 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(670 吉木淳) マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(569 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(568 磯田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(668 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフインベーション博士後期研究III秋	各自の所属研究室において、これまで行ってきた研究活動により得られた研究成果を博士論文としてまとめるために、論文の執筆および補足研究に取り組む。	
	ライフインベーション博士後期研究III春	各自の所属研究室において、これまで行ってきた研究活動により得られた研究成果を国際学会や筆頭英語論文として発表する。また、発表のための補足研究に取り組む。	
	(ライフインベーション博士後期研究III秋, 春の担当教員)	<p>(664 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(655 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(671 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(170 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(669 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(670 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(569 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(568 磯田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(666 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(665 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(668 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(629 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(581 櫻井 鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chip デバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(663 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	

授業科目の概要（共同学科等）				
（人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	筑波大学・鹿屋体育大学	International Development and Peace through Sport I（スポーツ国際開発論I）	<p>スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。講義では特に、開発問題に焦点をあて、地球規模の問題と持続可能で平和な社会を築くためのスポーツの利用について議論を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発に関する理論と実践の概要について                      （7 北村尚浩／1回）スポーツ産業とその発展について                      （8 萩原悟一／1回）スポーツ組織におけるリーダーシップについて。マネジメントのその展開                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と青少年の育成に関する議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と女性に関する議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と障害者についての議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と平和についての議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と健康についての議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発と社会的弱者についての議論                      （9 山口拓／1回）スポーツを通じた国際開発における課題についての議論</p>	オムニバス方式メディア
	鹿屋体育大学	Olympic Movement Studies（オリンピックムーブメント論）	<p>オリンピック・ムーブメントの変遷およびオリンピック・ムーブメントの中身について概観し、今後のオリンピック・ムーブメントについて展望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリンピックムーブメントとは？</li> <li>2. オリンピックムーブメントの歴史</li> <li>3. 東京2020とオリンピックムーブメント</li> <li>4. パラリンピックムーブメント</li> <li>5. スポーツを通じた国際交流</li> <li>6. 日本の伝統スポーツ</li> <li>7. スポーツ指導における子ども保護</li> <li>8. スポーツ指導における子ども保護</li> <li>9. オリンピックムーブメントと教育</li> <li>10. 今後のオリンピックムーブメント</li> </ol>	メディア
	筑波大学・鹿屋体育大学	Diffusion of Japanese Culture（日本文化伝播論）	<p>前半においては、武道のような伝統的日本文化に関する知識、その伝播に付随する諸課題について学ぶ。加えて、伝統的日本文化が諸外国においてどのように捉えられているのか、また、日本人が自国の伝統文化をどのように海外に発信してきたのかなどについても学ぶ。</p> <p>後半においては、学生自身が伝統的日本文化について英語で説明することを通して、日本文化の伝統についての理解を一層深めるとともに、それに関する英語表現の拡充を目指す。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	<p>スポーツ社会学における理論と実践的研究を基礎にし、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考をする。</p> <p>授業計画：(1) 文化的パフォーマンスと記号的意味、(2) ロサンゼルス1984オリンピックにおける変容、(3) 消費社会におけるスポーツイベントの意味、(4) 1964東京オリンピックと都市開発、(5) オリンピック会場建設の歴史的意味、(6) 2020東京オリンピックと都市開発、(7) 1968メキシコオリンピックにおける人種差別撤廃運動、(8) フットボールにおける暴力の諸問題、(9) 日本における女性アスリートの歴史とその意味、(10) スポーツによる開発と平和</p>	メディア
	鹿屋体育大学	Sport Promotion (スポーツプロモーション論)	<p>スポーツプロモーションの政策と成果に、国際的動向を学び、そこでの課題について考究する。</p> <p>第1回 テーマの選択  第2回 スポーツプロモーション政策の現状  第3回 スポーツプロモーションの方法論  第4回 地域スポーツクラブによるプロモーションの世界的動向  第5回 日本の伝統スポーツのグローバル化  第6-7回 各ライフステージ別スポーツプロモーションについて学生が選んだテーマのグループディスカッション  第8回 テスト</p>	集中 メディア
	筑波大学	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	<p>国際スポーツ政策の理論と実践の概要を提供する。英国やヨーロッパの例を用いながら、国際スポーツ政策の現状と課題そして今後の可能性について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) 比較研究法と概念、(2) 実在的評価、(3) レガシーのメタ評価、(4) ロンドン2012オリンピックレガシーの分析、(5) 東京2020オリンピックレガシー、(6) エリートスポーツ政策評価、(7) 日本におけるエリートスポーツ政策の分析、(8) 国際スポーツリーダーシップにおけるジェンダー平等、(9) WADAにみるアンチ・ドーピング運動政策、(10) アスリート権利とデュアルキャリア</p>	集中 メディア
	鹿屋体育大学	Sport Management (スポーツマネジメント論)	<p>スポーツ産業について文献、資料などを用いて世界的市場の動向、経営体の組織、運営などに関する考察を通じて、スポーツ産業のあり方について考究する。</p> <p>第1回 スポーツマネジメントの導入 (8 萩原悟一)  第2回 大学スポーツマネジメント (8 萩原悟一)  第3回 プロスポーツのマネジメント (8 萩原悟一)  第4回 スポーツ参加に関するマネジメント (8 萩原悟一)  第5回 スポーツマーケティング：スポンサーシップ (14 隅野美砂輝)  第6回 スポーツマーケティング：マーケットリサーチ (14 隅野美砂輝)  第7回 マーケティングプロモーション (14 隅野美砂輝)  第8回 プレゼンテーション (14 隅野美砂輝)</p>	メディア
	筑波大学	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	<p>講義では、学生は障害者のスポーツについて学ぶ。その際に、パラリンピックやパラリンピック以外の世界大会、また障害(身体障害、知的障害、精神障害)の特性など、講義内で議論が可能と思われる事例なども提示していく。</p> <p>授業計画：(1) Sport for Allと障害者スポーツの概要、(2) パラリンピックに関する理解を深める、(3) 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて、(4) 障害者スポーツに関する日英比較、(5) パラリンピックムーブメントにおける競技、(6) 各国における障害者スポーツに関する学生によるプレゼンテーションと議論。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	鹿屋体育大学	Health Promotion (ヘルスプロモーション論)	<p>寿命の延伸とともに長期にわたって自立した生活を営むことは重要なことといえます。本コースでは、学生は「活力ある老いと身体活動および運動の役割」について学びます。</p> <p>第1回: 高齢者における自立のために必要な体力について  第2回: 高齢者における身体運動時の安全性について  第3回: 高齢者の運動療法について  第4回: 途上国における健康社会的な課題について  第5回: 運動(身体活動量)に対する急性および慢性的適応  第6回: 健康と疾病に対する身体活動量の効果  第7回: 動身体活動に対する理解とプロモーション  第8回: 試験2(レポート)</p>	集中メディア
	筑波大学	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	<p>トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向などの面から、コーチ教育について考える。</p> <p>授業計画: (1) コーチングとフィジカルリテラシー、(2) メンタルトレーニングの意義・事例、(3) スポーツ・コーチングの国際枠組み、(4) アンチ・ドーピングの考え方、(5) トレーニング・コンディショニングの意義・事例・研究動向、(6) 我が国のスポーツシステムの現状と展望・情報戦略、(7) 日本のトップスポーツの競技力向上の取組と課題、(8) Long Term Athlete Development モデル等に対する考え方、(9) メンタルトレーニングに関する最新の研究動向、(10) コーチングにおける TGfU 理論の活用</p>	メディア
	筑波大学・鹿屋体育大学	Research Methods (研究方法論)	<p>スポーツを通じた国際開発と平和構築に関わる研究の基礎となる方法論の理論について、事例を踏まえながら学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 清水論/3回) スポーツを通じた国際開発に関する研究の基礎的態度について  (3 山田理恵/1回) 歴史人文的研究手法について  (17 金森サヤ子/3回) 疫学的研究手法について  (1 清水論/1回) 文化人類学的観点からの研究手法について  (7 北村尚浩/1回) 社会学的観点からの研究手法について  (9 山口拓/1回) 社会調査法について</p>	オムニバス方式 メディア
	筑波大学	Cross cultural studies in physical sport education (比較体育科教育論)	<p>比較体育科教育論では、海外の体育・スポーツの歴史、研究、文化を学ぶと共に、グローバルな視点と研究課題を探究することを目的とする。受講終了時における学習目標を5項目示す。1) 体育の専門用語と背景 2) 実践専門研究と理論を用いたデータ研究の英語表現の違い 3) 量的、質的、行動分析研究の動向と課題 4) 社会現象がもたらす海外の体育事情 5) 国際体育・スポーツ研究ジャーナルの論文執筆に関する要点 で構成されている。講義はすべて英語で行い、読解力、文章作成、研究方法論の内容が組み込まれる。更に、国際体育系ジャーナル執筆に用いられる3種類(American Psychological Associationスタイル, Harvardスタイル, Chicago スタイル)の参考文献公式フォーマット演習も取り入れることにより、国際的な体育・スポーツ研究に精通した人材を育成する。</p>	メディア
講義・応用	筑波大学	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	<p>このコースでは、「スポーツ国際開発学」の観点に基づく、文化的、社会的、国際的な問題解決の見解をスポーツイベントやに関する批判的思考法について学ぶ。特にIDS研究により集中した内容を取り扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(9 山口拓/1回) スポーツ国際開発に関する批判的観点からの分析  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた開発と健康問題及び公衆衛生  (1 清水論/1回) スポーツを通じた開発とマイノリティ  (9 山口拓/1回) ここまでの内容についてのポジティブ・ネガティブ双方の観点からの議論  (10 大石純子/1回) 武道をと通じた国際開発</p>	オムニバス方式 メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(9 山口拓/1回) QPEとスポーツ国際開発 (松元剛/1回) スポーツ国際開発とスポーツイベント (9 山口拓/1回) スポーツを通じた紛争解決 (9 山口拓/2回) スポーツによる外交	
	筑波大学	Management and Organization (経営マネジメント論)	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。本講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画：(1) 地球化とスポーツ、(2) IDS の位置づけ、(3) グループ議論・討論 (1~2回を踏まえ、当該領域の発展経緯を話し合う)、(4) NGOsとIDS、(5) IDS マネジメント、(6) グループ議論・討論 (4~5回を踏まえ、当該領域の運営形態を話し合う)、(7) 古典的マネジメント、(8) 人財育成マネジメント、(9) 偶発性マネジメント、(10) グループ議論・討論 (7~9回を踏まえ、各手法の優位性や課題を話し合う)、(11) 課題レポート・発表	集中メディア
	筑波大学	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	開発援助実務者をサポートするために国際機関によって開発された実用的基礎技術としてのプロジェクト・マネジメント手法について学習する。主に参加型計画、モニタリング、評価を含むProject Cycle Management (PCM)を採り上げる。 授業計画：(1) 国際協力におけるPCM、(2) プロジェクトのPDCA サイクル、(3) PCM手法の全体像、(4) 理論分析と課題分析、(5) 課題分析演習、(6) 定式化されたPDM理論、(7) PDM の実際の演習、(8) プロジェクト評価の全体像、(9) プロジェクト評価演習、(10) 課題のプレゼンテーション	集中メディア
	筑波大学	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方など研究プロジェクトの実行方法について学ぶ。 授業計画：(1) 研究プロジェクトに関する理論と実際の概要、(2) 研究課題の選択とアウトラインの作り方、(3) アウトラインの発表と学生間のディスカッション、(4) アウトラインに対する学術的観点からの指導及びコメント、(5) アブストラクトの作り方、研究動機、課題の設定、研究の意義、目的、研究仮説、研究方法と全体の流れについて、(6) アブストラクトに関する学術的指導と議論、(7) 各自の研究プロジェクトの発表と最終ディスカッション	メディア
	筑波大学	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント (実践))	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方などの基礎理論に基づいて研究プロジェクトを実践実行する力を養う。 授業計画：(1) 研究プロジェクトの実施に関する一般的な手法と観点 (研究動機、タイムマネジメント力、指導教員との関係、批判的分析力、俯瞰的観点など)、(2) 修士論文レベルの研究の実際、研究方法、研究の進め方、問題設定の仕方、ホットトピックについて、(3) 研究プロジェクトを進めるにあたってのチェックリストについて、研究計画の準備、倫理的配慮と倫理委員会の許諾について、(4) 修士論文完成に向けての実際的な段階について、(5) 修士論文研究計画の発表と検討	メディア
講義・関連	筑波大学	Principles of Development (開発学原論)	異なる学問領域を持つ学生を考慮し、開発学の基本的概念と理論、国際的潮流について紹介する。また、国内外共通の開発課題や開発政策の理解を深めることを目指す。開発理論、人間開発、貧困と格差、そしてグローバル化と開発に焦点を当てる。急速にグローバル化している世界における、現在の開発課題と機会の理論基盤と実証的分析を比較する。授業のキーワード：開発理論、開発政策、経済成長、貧困と不平等、人間開発、グローバリゼーション	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論の流れを学生に紹介することである。公共政策の基本的な目標は問題解決であり、それはまた授業の主な目的となる。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論の流れの習得を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究へのアプローチを探ることである。公共政策の基本的な目標は問題解決である。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	本講義では、公共政策と政策決定における主要な理論潮流の概説について学んでいく。公共政策の本質的目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するののかも議論する。	隔年 メディア
	筑波大学	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	本講義では、概説された公共政策と政策決定における主要な理論潮流を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究のアプローチを考察する。公共政策の本質的目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するののかも議論する。	隔年 メディア
	筑波大学	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	スポーツと平和の理論と実践を概観し、課題解決や多文化共生に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。本講義では、特に平和課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和理解の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画: (1) スポーツと平和に関する理論研究について、(2) 異文化共生研究について、(3) グループディスカッション、(4) 課題研究の成果発表とディスカッション。	集中 メディア
	筑波大学	International Politics IA (国際政治学IA)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、国際的な政治体制について、国際社会情勢について、日本と他国におけるメディア構造の比較などについて、とりあげていく。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア
	筑波大学	International Politics IB (国際政治学IB)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的に取り上げる内容としては、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについてである。授業は、教員による講義の他、学生による関連学術論文のプレゼン、ディスカッションなどによってすすめられる。	隔年 メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	International Politics IIA (国際政治学IIA)	この講義では、世界の情報社会に関する問題、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供していく。具体的なトピックとしては、国際的な政治体制に関する内容、国際社会情勢に関する内容、日本と他国におけるメディア構造の比較について、などである。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア
	筑波大学	International Politics IIB (国際政治学IIB)	この講義では、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについて取り上げる。授業は、教員による講義の他、学生によるプレゼン、相互のディスカッションなどによる。	隔年 メディア
	筑波大学	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の概要を学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学 (アジア) は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)多様性と共通性、(2)発展と経済の多様性、(3)貧困と不平等、(4)農業と地域開発、(5)人口変動	隔年 メディア
	筑波大学	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の具体的内容に触れながら学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学 (アジア) は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)教育、(2)移民、(3)国際貿易、(4)海外直接投資、(5)グローバルイゼーションと貧困改善	隔年 メディア
演習・学内	鹿屋体育大学・筑波大学	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	学生は、論文(特定課題レポート)を書くために、下記5つの課題領域と指導教員を選出し、社会課題を解決するIDSの手法、戦略、評価法等に関する調査・研究を行う。  課題領域:スポーツを通じた開発と平和 (Development and Peace thorough Sport)、スポーツを通じた教育・青少年育成 (Education and Youth Development through Sport)、スポーツとジェンダー・人種・民族 (Sport and Gender, Race, Ethnicity)、健康と環境 (Health and Environment)、アダプテッド・高齢者のスポーツ (Aged and Adapted Sport)	メディア
	鹿屋体育大学・筑波大学	Research Project (課題研究)	研究テーマを設定し、実践的課題に対して、先行研究を踏まえて、修士論文または課題レポートを作成するにあたって、それぞれの指導教官の下で個別指導を受ける。  (1 清水諭) スポーツ社会学、身体論、スポーツ文化に関する研究指導を行う。 (2 佐藤貴弘) 比較体育科教育に関する研究指導を行う。 (3 山田理恵) 歴史的、文化人類学的アプローチから、スポーツを通じた地域開発に関する研究指導を行う。 (4 森克己) スポーツと法に関する研究指導を行う。 (5 松元剛) コーチング、フラッグフットボール、戦術的知識、大学スポーツに関する研究指導を行う。 (10 大石純子) 武道論、武道史、武道の海外普及、武道と女性に関する研究指導を行う。 (7 北村尚浩) 体育・スポーツ社会学、青少年に関する研究指導を行う。 (9 山口拓) 開発人類学と青少年スポーツ、カンボジアにおける体育科教育に関する研究指導補助を行う。 (6 イスラム・モハモド・ムニル) 高齢者の健康づくり及び途上国対先進国の中高齢者の機能的体力の評価に関する研究に関する研究指導を行う。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(8 萩原悟一) スポーツマネジメント、スポーツマーケティングに関する研究指導を行う。	
演習・学外	筑波大学	JSC Seminar (JSCセミナー)	日本スポーツ振興センターが開催する研修およびセミナーに参加し、レポート作成やその他の業務を通じて学習する。事前準備として、学生は自身の学術的興味や目的に従って参加するセミナーを選択する。セミナーは1日から数日間のもので多様であるので、各自の都合に合わせて途中でリタイアすることが無いように準備する。セミナーの具体例として、国際スポーツイベントのレガシーに関するもの、ソーシャルメディアの利用に関するもの、スポーツライフに関するものなどがある。事後には、所定の手順に従って報告書をまとめて指導をうける。	集中
	筑波大学	JSC Project (JSCプロジェクト)	日本スポーツ振興センターで展開されている事業プロジェクトに参加し、事業運営、マネジメントの実際について学ぶ。事前準備として、提示されたプロジェクトリストの中から、学生自身の興味関心に従ってプロジェクトを選択し、所定の申請手続きと諸指導を受ける。実習期間中は、プロジェクトの推進を実践的に経験学習する。プロジェクトの例としては、国際的なイベント入札に関するもの、政策情報の収集と分析に関するもの、国内におけるスポーツタレントの発掘と開発、選手育成、コーチング、スポーツインテグリティープロジェクトなどがある。事後指導としては、経験学習を振りかえってレポートにまとめる。	集中
	筑波大学	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	自分の研究テーマに沿って、興味関心のある分野について、海外の大学における教員及び学生とコミュニケーションをとり、授業に積極的に参加して、研究能力を深める。事前に、興味関心のある分野の明確化、その分野を得意とする大学の選定、先方との連絡連携について、指導教員と十分な連携を取りながら準備する。海外での安全留意や先方の受け入れ先を明確にしたうえで、渡航し、所定のセミナーや授業などに参加する。事後には、報告書をまとめて提出すると同時に、先方への令状や今後の人脈の確保に努める。	集中
	筑波大学	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	国際カンファレンスや国際研究セミナーで発表を行うなどして議論を深め、また自己の研究テーマに沿って資料収集を行い、研究能力を高める。事前に、参加するカンファレンスでの発表内容について、指導教員と十分な連携を取りながら研究を深め、発表内容を煮詰める。発表するための所定の申請手続きも行う。カンファレンスに参加したら、しっかり発表するとともに、参加者と議論を深め、研究に対する視野を広げ、人脈を広げる。事後には、指摘された課題や今後の研究課題について整理するとともに、報告書をまとめて提出する。	集中
	筑波大学	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	NPOやNGOの活動の実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。事前準備として、世界各地で多様な活動を実施しているNPOやNGOに関する情報を収集し、参加する組織の焦点を絞る。指導教員と十分な連携を取りながら、組織と連絡を取り、活動参加への許諾を得る。実際の参加にあたっては、安全への配慮、健康面での留意事項に注意して渡航し、活動に参加する。現地では、その地の風習や慣習を尊重しつつ、安全に配慮して活動実態を肌を通して学ぶ。事後には、学んだ経験を報告書にまとめるとともに、活動における課題などについても整理して報告する。	集中

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践・母国	筑波大学	On the Job Practice (Domestic)	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間(1日7時間×4週間)の研修を行う。事前に、指導教員、受け入れ先組織と十分な連絡相談を重ねたのち、受け入れの許諾をえること。許可が下りたら詳細な実習計画書を作成し指導教員の署名捺印を得たのち提出する。実習生調書、保険への加入などの手続きも進めること。実習中は無報酬を原則とし、受け入れ組織の規則や慣習に従って、真摯に実習に努める必要がある。実習中は実習記録を作成する。実習後は、実習記録と実習報告書を所定の手続きを踏まえて提出するとともに、実習先指導者による評価を受け、評価表を大学に提出すること。	集中
実践・海外	鹿屋体育大学・筑波大学	On the Job Practice (International)	Local- International NGOの実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。現地-/国際NGO、機関等やJICA等のインターン/ボランティア・スタッフとして、4カ月(16週間)程度の活動に従事する中で課題の本質を学ぶ。 「現地-/国際NGO、機関等の実際を知ること、市民社会組織の役割と限界を学び、実際的な取り組みから理論と実際の異なりを把握できるようになる。」	集中

授業科目の概要(共同学科等)			
(人間総合科学学術院 スポーツ国際開発学共同専攻 修士課程) (筑波大学)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	International Development and Peace through Sport I (スポーツ国際開発論I)	<p>スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。講義では特に、開発問題に焦点をあて、地球規模の問題と持続可能で平和な社会を築くためのスポーツの利用について議論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発に関する理論と実践の概要について  (7 北村尚浩/1回) スポーツ産業とその発展について  (8 萩原悟一/1回) スポーツ組織におけるリーダーシップについて。マネジメントのその展開  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と青少年の育成に関する議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と女性に関する議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と障害者についての議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と平和についての議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と健康についての議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発と社会的弱者についての議論  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた国際開発における課題についての議論</p>	オムニバス方式 メディア
	Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	<p>前半においては、武道のような伝統的日本文化に関する知識、その伝播に付随する諸課題について学ぶ。加えて、伝統的日本文化が諸外国においてどのように捉えられているのか、また、日本人が自国の伝統文化をどのように海外に発信してきたのかなどについても学ぶ。</p> <p>後半においては、学生自身が伝統的日本文化について英語で説明することを通して、日本文化の伝統についての理解を一層深めるとともに、それに関する英語表現の拡充を目指す。</p>	メディア
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	<p>スポーツ社会学における理論と実践的研究を基礎にして、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考をすすめる。</p> <p>授業計画：(1) 文化的パフォーマンスと記号的意味、(2) ロサンゼルス1984オリンピックにおける変容、(3) 消費社会におけるスポーツイベントの意味、(4) 1964東京オリンピックと都市開発、(5) オリンピック会場建設の歴史的意味、(6) 2020東京オリンピックと都市開発、(7) 1968メキシコオリンピックにおける人種差別撤廃運動、(8) フットボールにおける暴力の諸問題、(9) 日本における女性アスリートの歴史とその意味、(10) スポーツによる開発と平和</p>	メディア
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	<p>国際スポーツ政策の理論と実践の概要を提供する。英国やヨーロッパの例を用いながら、国際スポーツ政策の現状と課題そして今後の可能性について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) 比較研究法と概念、(2) 実在的評価、(3) レガシーのメタ評価、(4) ロンドン2012オリンピックレガシーの分析、(5) 東京2020オリンピックレガシー、(6) エリートスポーツ政策評価、(7) 日本におけるエリートスポーツ政策の分析、(8) 国際スポーツリーダーシップにおけるジェンダー平等、(9) WADAにみるアンチ・ドーピング運動政策、(10) アスリート権利とデュアルキャリア</p>	集中 メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Sport and Person with Disabilities (PWDs) (スポーツと障がい者)	<p>講義では、学生は障害者のスポーツについて学ぶ。その際に、パラリンピックやパラリンピック以外の世界大会、また障害(身体障害、知的障害、精神障害)の特性など、講義内で議論が可能と思われる事例なども提示していく。</p> <p>授業計画：(1)Sport for Allと障害者スポーツの概要、(2)パラリンピックに関する理解を深める、(3)身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて、(4)障害者スポーツに関する日英比較、(5)パラリンピックムーブメントにおける競技、(6)各国における障害者スポーツに関する学生によるプレゼンテーションと議論。</p>	メディア
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	<p>トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向などの面から、コーチ教育について考える。</p> <p>授業計画：(1) コーチングとフィジカルリテラシー、(2) メンタルトレーニングの意義・事例、(3) スポーツ・コーチングの国際枠組み、(4) アンチ・ドーピングの考え方、(5) トレーニング・コンディショニングの意義・事例・研究動向、(6) 我が国のスポーツシステムの現状と展望・情報戦略、(7) 日本のトップスポーツの競技力向上の取組と課題、(8) Long Term Athlete Development モデル等に対する考え方、(9) メンタルトレーニングに関する最新の研究動向、(10) コーチングにおける TGFU 理論の活用</p>	メディア
	Research Methods (研究方法論)	<p>スポーツを通じた国際開発と平和構築に関わる研究の基礎となる方法論の理論について、事例を踏まえながら学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 清水論/3回) スポーツを通じた国際開発に関する研究の基礎的態度について。  (3 山田理恵/1回) 歴史人文的研究手法について。  (17 金森サヤ子/3回) 疫学的研究手法について。  (1 清水論/1回) 文化人類学的観点からの研究手法について  (7 北村尚浩/1回) 社会学的観点からの研究手法について。  (9 山口拓/1回) 社会調査法について。</p>	オムニバス方式 メディア
	Cross cultural studies in physical sport education(比較体育科教育論)	<p>比較体育科教育論では、海外の体育・スポーツの歴史、研究、文化を学ぶと共に、グローバルな視点と研究課題を探索することを目的とする。受講終了時における学習目標を5項目示す。1) 体育の専門用語と背景 2) 実践専門研究と理論を用いたデータ研究の英語表現の違い 3) 量的、質的、行動分析研究の動向と課題 4) 社会現象がもたらす海外の体育事情 5) 国際体育・スポーツ研究ジャーナルの論文執筆に関する要点で構成されている。講義はすべて英語で行い、読解力、文章作成、研究方法論の内容が組み込まれる。更に、国際体育系ジャーナル執筆に用いられる3種類(American Psychological Association スタイル, Harvardスタイル, Chicago スタイル)の参考文献フォーマット演習も取り入れることにより、国際的な体育・スポーツ研究に精通した人材を育成する。</p>	メディア
講義・応用	International Development and Peace through Sport II (スポーツ国際開発論II)	<p>このコースでは、「スポーツ国際開発学」の観点に基づく、文化的、社会的、国際的な問題解決の見解をスポーツイベントやに関する批判的思考法について学ぶ。特にIDS研究により集中した内容を取り扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(9 山口拓/1回) スポーツ国際開発に関する批判的観点からの分析  (9 山口拓/1回) スポーツを通じた開発と健康問題及び公衆衛生  (1 清水論/1回) スポーツを通じた開発とマイノリティ  (9 山口拓/1回) ここまでの内容についてのポジティブ・ネガティブ双方の観点からの議論  (10 大石純子/1回) 武道をと通じた国際開発  (9 山口拓/1回) QPEとスポーツ国際開発</p>	オムニバス方式 メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義・関連		(松元剛/1回) スポーツ国際開発とスポーツイベント (9 山口拓/1回) スポーツを通じた紛争解決 (9 山口拓/2回) スポーツによる外交	
	Management and Organization (経営マネジメント論)	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。本講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会的実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画：(1) 地球化とスポーツ、(2) IDS の位置づけ、(3) グループ議論・討論 (1~2回を踏まえ、当該領域の発展経緯を話し合う)、(4) NGOsとIDS、(5) IDS マネジメント、(6) グループ議論・討論 (4~5回を踏まえ、当該領域の運営形態を話し合う)、(7) 古典的マネジメント、(8) 人財育成マネジメント、(9) 偶発性マネジメント、(10) グループ議論・討論 (7~9回を踏まえ、各手法の優位性や課題を話し合う)、(11) 課題レポート・発表	集中メディア
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	開発援助実務者をサポートするために国際機関によって開発された実用的基礎技術としてのプロジェクト・マネジメント手法について学習する。主に参加型計画、モニタリング、評価を含むProject Cycle Management (PCM)を採り上げる。 授業計画：(1) 国際協力におけるPCM、(2) プロジェクトのPDCA サイクル、(3) PCM手法の全体像、(4) 理論分析と課題分析、(5) 課題分析演習、(6) 定式化されたPDM理論、(7) PDMの実際的演習、(8) プロジェクト評価の全体像、(9) プロジェクト評価演習、(10) 課題のプレゼンテーション	集中メディア
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方など研究プロジェクトの実行方法について学ぶ。 授業計画：(1) 研究プロジェクトに関する理論と実際の概要、(2) 研究課題の選択とアウトラインの作り方、(3) アウトラインの発表と学生間のディスカッション、(4) アウトラインに対する学術的観点からの指導及びコメント、(5) アブストラクトの作り方、研究動機、課題の設定、研究の意義、目的、研究仮説、研究方法と全体の流れについて、(6) アブストラクトに関する学術的指導と議論、(7) 各自の研究プロジェクトの発表と最終ディスカッション	メディア
	Research Project Management 【Practical】 (研究プロジェクトマネジメント (実践))	研究プロジェクトの計画、内容の構築や詳細の進め方などの基礎理論に基づいて研究プロジェクトを実践実行する力を養う。 授業計画：(1) 研究プロジェクトの実施に関する一般的な手法と観点 (研究動機、タイムマネジメント力、指導教員との関係、批判的分析力、俯瞰的観点など)、(2) 修士論文レベルの研究の実際、研究方法、研究の進め方、問題設定の仕方、ホットトピックについて、(3) 研究プロジェクトを進めるにあたってのチェックリストについて、研究計画の準備、倫理的配慮と倫理委員会の許諾について、(4) 修士論文完成に向けての実際的な段階について、(5) 修士論文研究計画の発表と検討	メディア
	Principles of Development (開発学原論)	異なる学問領域を持つ学生を考慮し、開発学の基本的概念と理論、国際的潮流について紹介する。また、国内外共通の開発課題や開発政策の理解を深めることを目指す。開発理論、人間開発、貧困と格差、そしてグローバル化と開発に焦点を当てる。急速にグローバル化している世界における、現在の開発課題と機会の理論基盤と実証的分析を比較する。授業のキーワード：開発理論、開発政策、経済成長、貧困と不平等、人間開発、グローバリゼーション	メディア
	Public Policy for Social Development IA (社会開発のための公共政策IA)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論的流れを学生に紹介することである。公共政策の基本的な目標は問題解決であり、それはまた授業の主な目的となる。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Public Policy for Social Development IB (社会開発のための公共政策IB)	この講義の主な目標は、公共政策と政策決定における主要な理論的流れの習得を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究へのアプローチを探ることである。公共政策の基本的な目標は問題解決である。授業を通して一緒に、この目標がどのように達成されるかを探っていく。我々は、関連する政策主体と制度、政策のニーズと制約、そして結局のところ、なぜいくつかの公共政策が成功し、他が失敗するのかを特定していくことになる。	隔年 メディア
	Public Policy for Social Development IIA (社会開発のための公共政策IIA)	本講義では、公共政策と政策決定における主要な理論潮流の概説について学んでいく。公共政策の本質的目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するのかも議論する。	隔年 メディア
	Public Policy for Social Development IIB (社会開発のための公共政策IIB)	本講義では、概説された公共政策と政策決定における主要な理論潮流を踏まえて、政策と政治分析を組み合わせた公共政策研究のアプローチを考察する。公共政策の本質的目標は問題解決であるが、その方途を探るとともに、この目標がどのように達成されるかを分析する。また、公共政策に関連する政策アクターや制度、政策の必要性や制約を考察しつつ、なぜある公共政策が成功し、他の公共政策が失敗するのかも議論する。	隔年 メディア
	Multicultural Coexistence (多文化共生論)	スポーツと平和の理論と実践を概観し、課題解決や多文化共生に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。 本講義では、特に平和課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和理解の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 授業計画: (1) スポーツと平和に関する理論研究について、(2) 異文化共生研究について、(3) グループディスカッション、(4) 課題研究の成果発表とディスカッション。	集中 メディア
	International Politics IA (国際政治学IA)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、国際的な政治体制について、国際社会情勢について、日本と他国におけるメディア構造の比較などについて、とりあげていく。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア
	International Politics IB (国際政治学IB)	この講義の主な目的は、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的に取り上げる内容としては、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについてである。授業は、教員による講義の他、学生による関連学術論文のプレゼン、ディスカッションなどによってすすめられる。	隔年 メディア
	International Politics IIA (国際政治学IIA)	この講義では、世界の情報社会に関する問題、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供していく。具体的なトピックとしては、国際的な政治体制に関する内容、国際社会情勢に関する内容、日本と他国におけるメディア構造の比較について、などである。基本的な授業の進め方は、教員による講義の他、学生が2-3の関連する学術論文を読んでプレゼンや議論をするなどである。	隔年 メディア
	International Politics IIB (国際政治学IIB)	この講義では、一般社会、特に日本と東南アジアの情報社会に関する問題と課題の概要を学生に提供することである。具体的には、日本と他国におけるインターネットの歴史、インターネット上におけるポリティカルコミュニケーションについて、E-government、ビッグデータと社会について、などについて取り上げる。授業は、教員による講義の他、学生によるプレゼン、相互のディスカッションなどによる。	隔年 メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Economics of Development in Asia I (アジアにおける開発経済学I)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の概要を学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学(アジア)は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)多様性と共通性、(2)発展と経済の多様性、(3)貧困と不平等、(4)農業と地域開発、(5)人口変動	隔年 メディア
	Economics of Development in Asia II (アジアにおける開発経済学II)	本講義は、アジア経済特に東南アジア経済の発展構造の具体的内容に触れながら学習することを目的とする。アジアは多数の低所得国やいくつかの発達した経済という多様性を含んでおり、経済分野において、開発課題と地域統合という2つ課題が顕著である。そこで、開発経済学(アジア)は、アジア地域における経済開発実績と課題に焦点を当てる。 授業計画：(1)教育、(2)移民、(3)国際貿易、(4)海外直接投資、(5)グローバルイゼーションと貧困改善	隔年 メディア
演習・学内	IDS Seminar: International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発学課題演習)	学生は、論文(特定課題レポート)を書くために、下記5つの課題領域と指導教員を選出し、社会課題を解決するIDSの手法、戦略、評価法等に関する調査・研究を行う。  課題領域: スポーツを通じた開発と平和 (Development and Peace thorough Sport)、スポーツを通じた教育・青少年育成 (Education and Youth Development through Sport)、スポーツとジェンダー・人種・民族 (Sport and Gender, Race, Ethnicity)、健康と環境 (Health and Environment)、アダプテッド・高齢者のスポーツ (Aged and Adapted Sport)	メディア
	Research Project (課題研究)	研究テーマを設定し、実践的課題に対して、先行研究を踏まえて、修士論文または課題レポートを作成するにあたって、それぞれの指導教官の下で個別指導を受ける。  (1 清水諭) スポーツ社会学、身体論、スポーツ文化に関する研究指導を行う。 (2 佐藤貴弘) 比較体育科教育に関する研究指導を行う。 (3 山田理恵) 歴史的、文化人類学的アプローチから、スポーツを通じた地域開発に関する研究指導を行う。 (4 森克己) スポーツと法に関する研究指導を行う。 (5 松元剛) コーチング、フラッグフットボール、戦術的知識、大学スポーツに関する研究指導を行う。 (10 大石純子) 武道論、武道史、武道の海外普及、武道と女性に関する研究指導を行う。 (7 北村尚浩) 体育・スポーツ社会学、青少年に関する研究指導を行う。 (9 山口拓) 開発人類学と青少年スポーツ、カンボジアにおける体育科教育に関する研究指導補助を行う。 (6 イスラム・モハモド・ムニル) 高齢者の健康づくり及び途上国対先進国の中高齢者の機能的体力の評価に関する研究に関する研究指導を行う。 (8 萩原悟一) スポーツマネジメント、スポーツマーケティングに関する研究指導を行う。	メディア
演習・学外	JSC Seminar (JSCセミナー)	日本スポーツ振興センターが開催する研修およびセミナーに参加し、レポート作成やその他の業務を通じて学習する。事前準備として、学生は自身の学術的興味や目的に従って参加するセミナーを選択する。セミナーは1日から数日間のものまで多様であるので、各自の都合に合わせて途中でリタイアすることが無いように準備する。セミナーの具体例として、国際スポーツイベントのレガシーに関するもの、ソーシャルメディアの利用に関するもの、スポーツライフに関するものなどがある。事後には、所定の手順に従って報告書をまとめて指導をうける。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	JSC Project (JSCプロジェクト)	日本スポーツ振興センターで展開されている事業プロジェクトに参加し、事業運営、マネジメントの実際について学ぶ。事前準備として、提示されたプロジェクトリストの中から、学生自身の興味関心に従ってプロジェクトを選択し、所定の申請手続きと諸指導を受ける。実習期間中は、プロジェクトの推進を実践的に経験学習する。プロジェクトの例としては、国際的なイベント入札に関するもの、政策情報の収集と分析に関するもの、国内におけるスポーツタレントの発掘と開発、選手育成、コーチング、スポーツインテグリティプロジェクトなどがある。事後指導としては、経験学習を振りかえってレポートにまとめる。	集中
	Seminar in Universities Abroad (国外大学セミナー)	自分の研究テーマに沿って、興味関心のある分野について、海外の大学における教員及び学生とコミュニケーションをとり、授業に積極的に参加して、研究能力を深める。事前に、興味関心のある分野の明確化、その分野を得意とする大学の選定、先方との連絡連携について、指導教員と十分な連携を取りながら準備する。海外での安全留意や先方の受け入れ先を明確にしたうえで、渡航し、所定のセミナーや授業などに参加する。事後には、報告書をまとめて提出すると同時に、先方への令状や今後の人脈の確保に努める。	集中
	International Conference and Seminar (国際カンファレンス・セミナー)	国際カンファレンスや国際研究セミナーで発表を行うなどして議論を深め、また自己の研究テーマに沿って資料収集を行い、研究能力を高める。事前に、参加するカンファレンスでの発表内容について、指導教員と十分な連携を取りながら研究を深め、発表内容を煮詰める。発表するための所定の申請手続きも行う。カンファレンスに参加したら、しっかり発表するとともに、参加者と議論を深め、研究に対する視野を広げ、人脈を広げる。事後には、指摘された課題や今後の研究課題について整理するとともに、報告書をまとめて提出する。	集中
	NGO Activities (NGO等プロジェクト)	NPOやNGOの活動の実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。事前準備として、世界各地で多様な活動を実施しているNPOやNGOに関する情報を収集し、参加する組織の焦点を絞る。指導教員と十分な連携を取りながら、組織と連絡を取り、活動参加への許諾を得る。実際の参加にあたっては、安全への配慮、健康面での留意事項に注意して渡航し、活動に参加する。現地では、その地の風習や慣習を尊重しつつ、安全に配慮して活動実態を肌を通して学ぶ。事後には、学んだ経験を報告書にまとめるとともに、活動における課題などについても整理して報告する。	集中
実践・母国	On the Job Practice (Domestic)	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間(1日7時間×4週間)の研修を行う。事前に、指導教員、受け入れ先組織と十分な連絡相談を重ねたのち、受け入れの許諾をえること。許可が下りたら詳細な実習計画書を作成し指導教員の署名捺印を得たのち提出する。実習生調書、保険への加入などの手続きも進めること。実習中は無報酬を原則とし、受け入れ組織の規則や慣習に従って、真摯に実習に努める必要がある。実習中は実習記録を作成する。実習後は、実習記録と実習報告書を所定の手続きを踏まえて提出するとともに、実習先指導者による評価を受け、評価表を大学に提出すること。	集中
実践・海外	On the Job Practice (International)	Local- International NGOの実践に触れ、課題発見や課題解決に向けた計画・活動・評価等に関する取り組みを学ぶ。本実習では、特に経験知の獲得を目標に、各組織が取り組む諸課題の特性と課題解決に向けた方略を実体験を通じて学ぶ。現地-/国際NGO、機関等やJICA等のインターン/ボランティア・スタッフとして、4カ月(16週間)程度の活動に従事する中で課題の本質を学ぶ。 「現地-/国際NGO、機関等の実際を知ることで、市民社会組織の役割と限界を学び、実際的な取り組みから理論と実際の異なりを把握できるようになる。	集中

## 授業科目の概要（共同学科等）

（人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻 3年制博士課程）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実践的教育能力育成科目	筑波大学	大学体育論	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。授業設計のレポートおよび授業中の討論への積極性から総合的に評価する。	メディア 講義 9時間 演習 6時間
	筑波大学	大学体育授業演習I	大学新入生対象の教養体育授業、または模擬授業研究会「つくば実習」を演習の場とする。主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に学ぶ。体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とし、主観的な評価方法と組織的な評価方法を網羅的に経験する。授業場面の言動、省察記録、面談等から、体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	筑波大学	大学体育授業演習II	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	筑波大学	大学体育授業演習III	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	集中 メディア

鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的指導演習	<p>大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 山本正嘉) 1. 大学体育スポーツ指導における理論知と実践知  (7 山本正嘉) 2. 大学体育スポーツ指導者のリテラシーとコンピテンシー  (8 高橋仁大) 3. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング  1: 技術の診断と処方  (8 高橋仁大) 4. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング  2: コーチングの実際  (8 高橋仁大) 5. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目1  (8 高橋仁大) 6. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目2  (17 金高宏文) 7. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目3  (17 金高宏文) 8. 大学体育スポーツ指導の実際: 個人種目4  (6 前田明) 9. 大学体育スポーツ指導の実際: チーム種目1  (6 前田明) 10. 大学体育スポーツ指導の実際: チーム種目2  (8 高橋仁大・山本 正嘉・17 金高宏文・6 前田明) 11. 大学体育スポーツ指導の計画と実践1: 指導実践1  (8 高橋仁大・山本 正嘉・17 金高宏文・6 前田明) 12. 大学体育スポーツ指導の計画と実践2: 指導実践1の振り返り  (8 高橋仁大・山本 正嘉・17 金高宏文・6 前田明) 13. 大学体育スポーツ指導の計画と実践3: 指導実践2  (8 高橋仁大・山本 正嘉・17 金高宏文・6 前田明) 14. 大学体育スポーツ指導の計画と実践4: 指導実践2の振り返り  (8 高橋仁大) 15. 実践的体育スポーツ指導者を目指して</p>	オムニバス方式 共同 (一部) メディア
実践的研究能力育成科目	筑波大学	<p>大学体育研究演習</p> <p>体育・スポーツに関する研究方法・論文執筆方法をテキスト「身体活動科学における研究方法」に沿って体系的に学ぶ。専門とする1つの狭い研究領域だけでなく、体育・スポーツ・健康科学に関する周辺領域の価値観や研究方法を理解することで、大学体育・大学スポーツの発展に寄与する実践研究への着眼力を獲得することを到達目標とする。大学体育・大学スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。</p>	メディア
鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究方法論	<p>スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(7 山本正嘉) 1. 実践的研究の意義  (7 山本正嘉) 2. 大学体育・スポーツにおける実践を意識した研究のあり方  (8 高橋仁大) 3. 体育・スポーツ実践における経験知(実践知)を記述・分析する方法論  (8 高橋仁大) 4. 実践知を客観的に記述・検証する方法論  1: ゲーム・戦術を記述・検証する  (17 金高宏文) 5. 実践知を客観的に記述・検証する方法論  2: 動きを記述・検証する  (17 金高宏文) 6. 実践知を客観的に記述・検証する方法論  3: コーチングおよびチームマネジメントを記述・検証する  (6 前田明) 7. 実践知を客観的に記述・検証する方法論4: コンディショニングを記述・検証する  (6 前田明) 8. 実践的研究を進めるための研究計画と研究倫理</p>	オムニバス方式 集中 メディア
鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習I	<p>体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータをもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。</p>	共同 メディア

	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習II	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。その過程で、当該研究の発表の場である「スポーツパフォーマンス・カンファレンス (SPERC)」での自らの発表や他の研究者の発表視聴を通じて実践研究の見識を深める。評価は、演習への積極的な参加態度や「スポーツパフォーマンス・カンファレンス (SPERC)」での発表や『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿の成果から総合的に判断する。	共同メディア
	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習III	光学式モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードカメラ、オブジェクトトラッキングシステム、球質診断装置等の先端的な研究機器をスポーツパフォーマンス研究センター等に設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。必要に応じてその種目の競技場や体育館に設置しデータを取得する。その後、得られたデータの分析法、フィードバック法を検討し、状況に合わせたデータ処理、データ提供をどのようにすべきか議論する。さらに上記の客観的データに加えて、アスリートおよびその他の実験協力者の内省報告を重視し、主観的データも併せた研究を行う。	共同集中メディア
博士論文研究基礎力育成科目	筑波大学 鹿屋体育大学	博士論文課題演習I	研究テーマを定め、それに関わる課題を設定し、それに答えるためのデータを収集し、そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し、緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。	メディア
	筑波大学 鹿屋体育大学	博士論文課題演習II	春学期には、投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、ゲラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。秋学期には、QE（博士論文執筆開始資格認定検査）へ向けた準備を進める。	メディア
専門基礎科目	筑波大学	つくばサマーインスティテュート	筑波大学体育系と学術協定を結んでいる海外の大学と共同で企画する、英語を公用語とするプログラムである。体育・スポーツ領域にかかわる大学生・大学院生、若手研究者を対象とし、日本の体育・スポーツ文化を理解し、体育・スポーツ教育、スポーツ科学に関わる諸外国の現状と課題について情報を共有し、協力して国際的課題に取り組むグローバル人材として資質の向上を図ることをねらいとする。	集中演習
	筑波大学	国際インターンシップ	国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関が主催する各種トレーニングコースへの参加の成果を単位認定する科目である。 学内教員、教育組織など、コーディネーターによりプランニングされた海外の大学や研究所訪問、および大学院生との交流も対象となる。	集中
	筑波大学	コーチングの哲学と倫理	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。  (オムニバス方式/全10回)  (14 河合季信) ①コーチが有すべき指導哲学および指導倫理 (15 深澤浩洋) ②コーチングとフェアプレー (10 齋藤健司) ③コーチングと人権 (13 山口香) ④コーチングと暴力・体罰	オムニバス方式メディア

		(5 本間三和子) ⑤コーチングとハラスメント (18 浅川伸) ⑥コーチングとドーピング・薬物乱用 (JADA) (16 向井直樹) ⑦コーチングと事故防止・安全対策 (19 勝田隆) ⑧新しい時代にふさわしいコーチング: 「インテグリティ」と「コンピテンシー」の視点から (JSC) (コーチング学専攻教員) ⑨新しい時代にふさわしいコーチングを議論する1 (コーチング学専攻教員) ⑩新しい時代にふさわしいコーチングを議論する2	
鹿屋体育大学	最先端スポーツ科学理論	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による特別講義や論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。  (オムニバス方式/全8回)  (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ①生命科学1 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ②生命科学2 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ③特別講義 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ④文化・社会科学1 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑤文化・社会科学2 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑥特別講義 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑦論文指導研究会への参画 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑧学位論文発表会への参画	オムニバス方式 共同 (一部) メディア
筑波大学	(研究指導)	(1 木内敦詞) 大学教育学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (2 坂本昭裕) 臨床心理学的あるいは野外運動的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (3 白木仁) スポーツ医学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (4 高木英樹) バイオメカニクスあるいはコーチング学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (5 本間三和子) コーチング学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。	
鹿屋体育大学	(研究指導)	(6 前田明) バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (7 山本正嘉) トレーニング学の立場から、スポーツの実践現場に則した現実的なトレーニング研究のあり方に関する研究指導を行う。 (8 高橋仁大) コーチング学およびゲームパフォーマンス分析の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。	

授業科目の概要(共同学科等)			
(人間総合科学学術院 大学体育スポーツ高度化共同専攻 3年制博士課程) (筑波大学)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	大学体育論	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。授業設計のレポートおよび授業中の討論への積極性から総合的に評価する。	メディア 講義 9時間 演習 6時間
	大学体育授業演習I	大学新入生対象の教養体育授業、または模擬授業研究会「つくば実習」を演習の場とする。主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に学ぶ。体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とし、主観的な評価方法と組織的な評価方法を網羅的に経験する。授業場面の言動、省察記録、面談等から、体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	大学体育授業演習II	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	大学体育授業演習III	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	集中 メディア
	実践的研究能力育成科目	大学体育研究演習	体育・スポーツに関する研究方法・論文執筆方法をテキスト「身体活動科学における研究方法」に沿って体系的に学ぶ。専門とする1つの狭い研究領域だけでなく、体育・スポーツ・健康科学に関する周辺領域の価値観や研究方法を理解することで、大学体育・大学スポーツの発展に寄与する実践研究への着眼力を獲得することを到達目標とする。大学体育・大学スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。

博士論文研究基礎力育成科目	博士論文課題演習I	研究テーマを定め、それに関わる課題を設定し、それに答えるためのデータを収集し、そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し、緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。	メディア	
	博士論文課題演習II	春学期には、投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、ゲラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。秋学期には、QE（博士論文執筆開始資格認定検査）へ向けた準備を進める。	メディア	
専門基礎科目	高度指導者教養育成科目	つくばサマーインスティテュート	筑波大学体育系と学術協定を結んでいる海外の大学と共同で企画する、英語を公用語とするプログラムである。体育・スポーツ領域にかかわる大学生・大学院生、若手研究者を対象とし、日本の体育・スポーツ文化を理解し、体育・スポーツ教育、スポーツ科学に関わる諸外国の現状と課題について情報を共有し、協力して国際的課題に取り組むグローバル人材として資質の向上を図ることをねらいとする。	集中演習
	国際インターンシップ	国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関が主催する各種トレーニングコースへの参加の成果を単位認定する科目である。 学内教員、教育組織など、コーディネーターによりプランニングされた海外の大学や研究所訪問、および大学院生との交流も対象となる。	集中	
	コーチングの哲学と倫理	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。  (オムニバス方式/全10回)  (14 河合季信) ①コーチが有すべき指導哲学および指導倫理 (15 深澤浩洋) ②コーチングとフェアプレー (10 齋藤健司) ③コーチングと人権 (13 山口香) ④コーチングと暴力・体罰 (5 本間三和子) ⑤コーチングとハラスメント (18 浅川伸) ⑥コーチングとドーピング・薬物乱用 (16 向井直樹) ⑦コーチングと事故防止・安全対策 (19 勝田隆) ⑧新しい時代にふさわしいコーチング：「インテグリティ」と「コンピテンシー」の視点から（コーチング学専攻教員）⑨新しい時代にふさわしいコーチングを議論する1 (コーチング学専攻教員) ⑩新しい時代にふさわしいコーチングを議論する2	オムニバス方式 メディア	
(研究指導)	(1 木内敦詞) 大学教育学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (2 坂本昭裕) 臨床心理学的あるいは野外運動的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (3 白木仁) スポーツ医学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (4 高木英樹) バイオメカニクス的あるいはコーチング学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (5 本間三和子) コーチング学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。			

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	筑波大学	食料健康科学概論	<p>人類が地球規模で直面する健康の維持・増進や食料の安全供給等の課題の解決には、食料が健康に及ぼす影響を科学的に理解する必要がある。本科目では、本専攻で養う専門力の3つの柱、すなわち「健康と食資源を結びつける力」「健康安全保障問題を捉える力」「食料安全保障問題を捉える力」にかかわる系統的基礎知識と俯瞰的理解力・思考力を身につける。現在課題となっている遺伝子組換え作物・食品の開発・流通と国内規制に関わる内容も取り扱う。筑波大学の教員を中心に、ボルドー大学および国立台湾大学の教員からも講義を受けることで、世界的な視野で「食と健康」に関する問題を俯瞰する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（1 熊谷嘉人・35 山岡裕一／1回）（共同）総論－食料健康科学とは</p> <p>（30 Lombardo Fabien Claude・32 江面浩・34 松倉千昭／1回）（共同）食料安全保障I</p> <p>（2 市川政雄・12 森川一也・26 鄭齡／1回）（共同）健康安全保障I</p> <p>（13 大庭良介・36 氏家清和・33 北村豊・37 阿部淳一ピーター／1回）（共同）食資源と健康I</p> <p>（39 Suming Chen・52 Ming-Ju Chen／1回）（共同）食料安全保障II</p> <p>（44 Chang-Chuan Chan・41 Chau - Ti Ting・50 Han-Yi E. Chou／1回）（共同）健康安全保障II</p> <p>（40 Tang-Long Shen・42 Chih - Kang Chiang・45 Tsai-Kun Li／1回）（共同）食資源と健康II</p> <p>（38 Catherine Bennetau・47 Pierre Pétriacq／1回）食料安全保障III</p> <p>（43 Thierry Noël・51 Michel Hernould／1回）（共同）健康安全保障III</p> <p>（46 Dominique Rolin／1回）食資源と健康III</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	筑波大学	環境医学概論	<p>食資源や医薬品を含めた化学物質の安全性を含む社会医学に関する専門知識を学習する。具体的には、分子細胞生物学的な理解という側面で、環境化学物質の化学的特性、環境化学物質による有害反応とその解毒に生体内代謝が重要な役割をしていること、環境化学物質を感知して応答・適応するシステム、を理解する。加えて、公衆衛生学的な側面で、環境リスクやエクスポゾームについて理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（1 熊谷嘉人／4回）概論、環境物質の化学的特性、環境科学物質の解毒および代謝活性化-1・2</p> <p>（22 秋山雅博／2回）環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-1・2</p> <p>（23 安孫子ユミ／2回）環境中発がん物質、遺伝的多型</p> <p>（48 中山祥嗣／2回）エクスポゾーム-1・2</p>	オムニバス方式
	筑波大学	アントレプレナーシップトレーニングI	<p>シーズとなる技術、或いはアイデアを自ら社会に還元するために必要とされるマインドとスキルを育成する。社会のニーズの把握、マーケティングや流通の理解、起業、さらに事業の継続に必要なとされる考え方とスキルを講義で学習するとともに、実際に企業を訪問して学習する。成功事例の他、失敗事例についても学ぶ。食料健康科学の専門知識の活用能力、異分野・異業種間でのマネジメント能力を学習する。</p>	集中

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	アントレプレナーシップトレーニングII	アントレプレナーシップトレーニングIで学習した内容をもとに、実際の起業案を学生グループごとに作成して発表する。起業案作成に必要な、プロジェクトマネジメント、市場調査、組織構築、スケジューリング、リスク管理、出口戦略などを学習する。食料健康科学の専門知識の活用、アイデアを具体化・実行する実践力、プレゼンテーションや自己アピールなど表現力、多国籍間における対話・交渉力などを学習する。	集中
	国立台湾大学	バイオアントレプレナーシップトレーニング	アジア企業におけるR&D やプロジェクトマネジメントの基本を学習する。特に食料・農業分野の事例を中心に学習する。さらに、台湾での起業に必要な、社会事情、政策、産学共同の現状について学習する。最終的には、グループ学習を通じて、台湾現地での社会事情に即した起業案を作成する。	
	ボルドー大学	キャリアパス・セミナー	インターンシップや就職先を探す上で不可欠な考え方やスキルを育成する。就職口やインターンシップの探し方を学んで実践し、求職の申し込みや面接の流れを理解して実践する。各自の専門プロジェクトに関連するキャリア選択を模索し、将来的なキャリア決定に個人的スキル、適性、能力を結びつける。仕事とキャリアの選択肢を十分に理解する。同時に、それぞれの専門プロジェクトに関連したトピックが企業内でどのように把握・分析されて企業戦略となるかといった技術観察をする。  (4 Dominique Rolin・18 Claudine Trossat) 産学連携、バイオ技術観察の計画方法、情報調査の進め方 (11 Michel Hernould) インターンシップ世話人	講義 10時間 実習 20時間 共同
	筑波大学	医学英語	学生が科学者として挙げた成果を効果的かつ精力的に世界の科学者コミュニティへ伝えていく際に必要となる英語の語学力を伸ばすことが本授業の目標である。その目標達成のため、学生は科学的ライティング、科学的プレゼンテーションのそれぞれについて、2名の英語ネイティブの教員から指導を受ける。学生全員が科学的討論の仕方を学ぶ。扱われるトピックは健康安全保障を含む医科学に関連した内容となる。  (オムニバス方式/全10回)  (20 MIYAMASU Flaminia/5回) 科学的ライティング (28 Mathis Bryan/5回) 科学的プレゼンテーション	オムニバス方式
	筑波大学	生物資源科学のための英語論文の書き方	食料安全保障に関する科学論文を英文で書くために必要な基礎事項、例えば論文の構成、適切な表現方法、図表の作り方、雑誌のエディターとのコミュニケーション方法について、社会科学側面も含めて学習する。各回の講義では、背景、材料と方法、図表、結果、議論、要旨と引用文献、口頭発表、投稿プロセスについて具体的な事例と共に学習する。	
専門科目 I	筑波大学	食料健康科学演習I	「食と健康」に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。また、場合によっては、原著論文の代わりに特許などイノベーションに関わる事項を対象としてもよい。食料健康科学演習Iでは筑波大学の担当教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門基礎知識、物質の生体への効用・安全性評価に関する専門力を涵養する。各担当教員によるセミナー(各人10回)。学生は少なくとも1名の担当教員を選択して学習する。  (1 熊谷嘉人) 環境医学 (2 市川政雄) グローバルヘルス (4 大根田修) 幹細胞生物学 (12 森川一也) 細菌遺伝学 (13 大庭良介) 微生物分子生物学 (26 鄭齡) 実験病理学 (30 Lombardo Fabien Claude) 植物生理学	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(32 江面浩) 遺伝分子育種 (34 松倉千昭) 植物分子育種学 (35 山岡裕一) 植物寄生菌 (37 阿部淳一ピーター) 菌根類 (33 北村豊) 農産食品加工	
	国立台湾大学	食料健康科学演習II	「食と健康」に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。また、場合によっては、原著論文の代わりに特許などイノベーションに関わる事項を対象としてもよい。食料健康科学演習IIでは国立台湾大学の担当教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門力、アジアの社会・自然環境における課題発見・解決能力を涵養する。各担当教員によるセミナー（各人10回）。学生は少なくとも1名の担当教員を選択して学習する。  (2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学 (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料 (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学 (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発 (39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー	
	ボルドー大学	国際科学セミナー	Research Federation of Integrative Biology and Environment（統合生物学・環境調査連盟）開催の科学セミナーに10回参加して各分野の知識を習得し、シニア科学者による国際研究セミナーを経験する。セミナーのテーマは世界中から招待される科学者によって異なるが、植物生物学、バイオテクノロジー、植物生理学、代謝学に関連したものとなる。チュートリアルでは、セミナーでのノートの取り方と簡潔な概要の作成方法を指導する。招待された科学者と議論し、自分の科学的関心とR&Dを結びつけることができる。	
	筑波大学	食料健康科学研究I	「食と健康」に関する研究の方法と原理について、国際連携食料健康科学専攻が有する共同実験室及び担当教員のラボに滞在し、具体的な研究テーマを通して実践的に学ぶ。食料健康科学研究Iでは、筑波大学の指導教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門基礎技術、物質の生体への効用・安全性評価に関する専門基礎技術を習得する。成果をレポートとして報告し、各担当教員が成績評価を行う。  (1 熊谷嘉人) 環境医学 (2 市川政雄) グローバルヘルス (4 大根田修) 幹細胞生物学 (12 森川一也) 細菌遺伝学 (13 大庭良介) 微生物分子生物学 (26 鄭齡) 実験病理学 (30 Lombardo Fabien Claude) 植物生理学 (32 江面浩) 遺伝分子育種 (33 北村豊) 農産食品加工 (34 松倉千昭) 植物分子育種学 (35 山岡裕一) 植物寄生菌 (37 阿部淳一ピーター) 菌根類	
	国立台湾大学	食料健康科学研究II	「食と健康」に関する研究の方法と原理について、担当教員のラボに滞在し、具体的な研究テーマを通して実践的に学ぶ。食料健康科学研究IIでは、国立台湾大学の指導教員のもとで学習することで、健康と食品科学に関する専門性を身につける。成果をレポートとして報告し、各担当教員が成績評価を行う。  (2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学 (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料 (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学 (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー	
	国立台湾大学	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ	<p>食料安全保障とグローバルヘルスの未解決のニーズに関して、生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプを実施し、R&amp;Dにおける社会関連、環境関連の課題に取り組むスキルを強化する。学生は、医療ケアと食料安全保障を社会に適したアプローチと技術を橋渡しするプロセスに対して、特に生化学と分子生物学のアプローチで参画する。また、定期的に担当教員の指導を受けながら関連の研究室に滞在し、研究進捗報告書をまとめる。最後に、「生物医科学研究の橋渡しのためのシンポジウム」を公開で実施する。</p> <p>(2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス  (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学  (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料  (25 Shu-Chun Ten) 遺伝学・分子生物学  (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学  (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発  (39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー</p>	
	ボルドー大学	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用	<p>トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスは、食品科学と補完医療における統合オミクス解析の3大分野である。この授業では、人の栄養学分野におけるデータ統合の生物的事例と、研究で直面する課題を紹介する。生合成経路と食品流通での作用を調査し、分子の生合成から人の健康へのプラスとマイナスの影響（ビタミン、マイクロトクシン、カロテノイドやポリフェノールなどの二次代謝産物）までを重点的に取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全25回)</p> <p>(2 Antonie de Daruvar/5回) バイオインフォマティクス  (3 Catherine Bennetau/2回) 健康・栄養、統合生物学  (4 Dominique Rolin/3回) 機能ゲノム学、統合生物学 (メタボローム・フラクソーム解析)  (11 Michel Hernould/2回) 植物学、統合生物学  (13 Philippe Gallusci/2回) エピジェネティクス、統合生物学  (25 Kentaro Mori/2回) 植物学、統合生物学 (トランスクリプトミクス、NGS)  (31 Patricia Thebault/5回) バイオインフォマティクス  (34 Stéphanie Krisa/2回) 植物化学、統合生物学 (機能性分子)  (35 Valérie Schurdi-Levraud/2回) 植物育種学、統合生物学</p>	オムニバス方式
	国立台湾大学	フィールドと実験室の融合 (台湾)	<p>「食と健康」の諸問題に関し、台湾でのフィールド実習を企画・実施して社会・自然環境中で研究開発課題を発掘する。発掘した課題を研究室に持ち帰り、担当教員と議論を重ねて研究室での研究開発課題として成立させ、実際に自身で研究開発を実施する。フィールドと研究室合わせて108時間以上実施する。学生は成果をレポートとして担当教員に提出する。</p>	
	ボルドー大学	フィールドと実験室の融合 (フランス)	<p>欧州の農家の疑問と消費者の要望から、学生と共に実験室での取り組みを計画する。学生はもたらされたデータを収集し、教員と共にもっとも効果的に結果を処理するデータ検索方法を選択する。最終的に、当初の専門のおよび科学的疑問の実験を分析して結論を出し、その発表に向けて取り組む。この授業の目的は、社会経済的要望を解決すべき科学的疑問に置き換え、申請募集に対する計画書となるプロジェクトを構築できるよう学生を育成し、ワークパッケージ、プロジェクト管理、資金援助を説明することである。また、プロジェクトチームとして教員と協力し、プロジェクトチーム管理とコミュニケーションのスキルを育成する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	日本企業インターンシップ	日本の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に出向き、就業体験を通じて、日本の企業風土や文化を学習するとともに、学習内容を特定課題研究執筆や就職へ活用することを目指す。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ関連の委員会で承認された施設の中から選択する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。	
	国立台湾大学	台湾企業インターンシップI	台湾の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に出向き、72時間以上の就業体験を通じて、台湾・アジアの企業風土や文化を学習する。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ委員会で承認された施設の中から選択する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。	
	国立台湾大学	台湾企業インターンシップII	台湾の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に540時間以上出向き、特定課題研究の作製や就職を目指したインターンシップを実施する。インターンシップ派遣時には担当教員、研究指導教員、メンター教員と連絡を取り、特定課題研究や就職とどのようにリンクさせるかについてあらかじめ議論する。学外インターンシップで不足する知識・技術については、担当教員、研究指導教員、メンター教員を通じて学習する。インターンシップの成果は報告書としてまとめ、成果報告会で発表する。	
	ボルドー大学	フランス企業インターンシップ	フランスの企業や私的研究所等の学外の協力拠点に出向き、600時間以上の就業体験を通じて、フランスの企業風土や文化を学習する。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ委員会で承認された施設の中から選択する。就職や特定課題研究を目指した取り組みとし、学外インターンシップで不足する知識・技術については、担当教員、研究指導教員、メンター教員を通じて学習する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。	
専門科目II	健康と食資源科目群I	筑波大学	基礎毒性学 <p>毒性学は、物質が生命体や生物系に及ぼす毒性作用の根底にある特質やメカニズムを研究する学問である。また毒性学は、投薬量の濃度、期間、生命体の毒性物質曝露頻度に関連した有害作用の定量的評価も扱う。他の科学分野と同様に、毒性学も薬剤、食品添加物、農薬、工業化学物質として使用される、比較的安全な化学物質の開発に貢献している。本授業では、1) 毒性学の一般的側面（特に化学毒性学および分子毒性学） 2) 高分子の機能障害と細胞損傷をもたらす、解毒と代謝の活性化に関与する毒物の生体内変化 3) 毒物に対する初期の反応と細胞の保護 4) 毒性評価の4点を主に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 熊谷嘉人/6回) 毒性学概論、毒物の吸収・分布・排泄、毒物の生体内変化：解毒-1・2、毒物の生体内変化：代謝活性化、酸化ストレスと毒物  (22 秋山雅博/2回) 毒物に対する細胞保護システム、変異原性とガン  (23 安孫子ユミ/2回) 標的臓器と毒性物質、毒性評価</p>	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	橋渡し研究概論	<p>医薬品や医療機器（治療器具、医用材料、治療・診断装置など）等の開発・応用において科学技術的シーズが如何にして臨床現場におけるニーズに結びつけられているかの全体プロセスを理解する。併せてそのプロセスの効率的な運用のために必須な各種の先進的技術、経済的要因、各種規制・手続き、人材等について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスについて説明できる。</li> <li>2. 安全性・有効性の科学的実証研究（前臨床研究、臨床研究（治験））の重要性につき説明できる。</li> <li>3. 医薬品・医療機器開発の置かれている社会的状況、開発に関わる関係者・関係機関につき説明できる。</li> <li>4. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスにおいて用いられる技術、知的財産確保の重要性について説明できる。</li> </ol> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（10 橋本幸一／3回）橋渡し研究プロセス概論について概説する。医薬品開発Ⅱ（前臨床試験、臨床試験の進め方）、プロジェクトマネジメントについて概説する。</p> <p>（11 村谷匡史／2回）医薬品開発（探索の進め方）、先進技術（バイオインフォマティクス）について概説する。</p> <p>（10 橋本幸一／1回）医薬品開発の世界的潮流と日本の役割について概説する。</p> <p>（10 橋本幸一／2回）技術イノベーション論、橋渡し研究の実際例について概説する。</p> <p>（18 鶴嶋英夫／1回）橋渡し研究の実際例（医療機器）について概説する。</p> <p>（16 小島崇宏／1回）橋渡し研究の実際例（医薬品）について概説する。</p>	オムニバス方式
	筑波大学	ガン生物学	<p>ガンの生物学をテーマにしたオムニバス方式の遠隔講義。インターネット回線を使った国立台湾大学、京都大学との交流授業、英語による論文紹介と討論を通して、ガンの生物学の専門知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力を身につける。筑波大学が主催し、国立台湾大学、京都大学よりテーマにあった講師が参画する。</p> <p>（オムニバス方式／全13回）</p> <p>（3 入江賢児／4回）ガンの生物学、ゲノム不安定性とガン化の仕組、RNA制御とガン化、神経のガン</p> <p>（6 加藤光保・17 鈴木裕之／1回）（共同）ガンはどのように成長するか</p> <p>（8 高橋智／1回）ガン研究のための動物モデル</p> <p>（13 大庭良介／3回）ガン化とは、テロメアの生物学、ガンのエピジェネティクス、ガンの比較ゲノム学</p> <p>（14 大林典彦・27 船越祐司／1回）（共同）ガン細胞内でのシグナル伝達</p> <p>（15 川口敦史／1回）腫瘍のウイルス学</p> <p>（3 入江賢児・13 大庭良介・25 須田恭之・29 水野智亮／1回）（共同）学生論文発表</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		人体病理学・腫瘍学	<p>ヒトの病気の原因、発生機序、形態変化について、循環障害（浮腫、血栓症、梗塞など）、炎症、腫瘍などの基礎的な疾患概念を理解するとともに、生体内で何が起きているのかを総論的に理解できるようになる。また、各論的な知識を自ら取得できるような学習方法を学ぶ。後半は、種々のがんの専門医の授業によりがん医療と最新研究の現状を学ぶ。複数の授業の後に行う小テストと最終レポートにより評価する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（6 加藤光保／7回）病理学概論、組織ホメオスタシスと再生、循環障害、炎症、がん幹細胞</p> <p>（17 鈴木裕之／3回）細胞傷害と細胞死、変性・過形成・肥大、がん遺伝子とがん抑制遺伝子</p> <p>（31 渡邊幸秀／3回）がん細胞の特性、化学発がん、肺</p>	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(24 沖田結花里/2回) 浸潤と転移、乳がん (5 小田竜也/2回) 胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝臓 (9 千葉滋/1回) 白血病 (19 水口剛雄/1回) 婦人科がん (21 河合弘二/1回) 泌尿器がん	
	筑波大学	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響	国連が提起した「持続可能な開発目標(SDGs)」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。 当科目は「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「環境汚染と健康影響」について取り扱う。 国際的汚染問題の概要、ナノ粒子、外因性内分泌攪乱化学物質、環境中親電子物質、エクスポソーム、カドミウム、ヒ素、有機ハロゲン化合物、メチル水銀、トリブチルスズなどの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。	
	筑波大学	保健医療政策学	1. 保健医療政策論の基礎を学び世界の保健システムの課題を学ぶ。 2. わが国の保健医療制度の現状と課題を学ぶ。 目標: 保健医療システムについて、基礎的な理論を踏まえたうえで、保健医療政策学的な視点から論じることができる。  (1) 健康、保健医療、政策について解説する。(2) 健康の決定要因と政策について解説する。(3) 国家の役割と保健システムについて解説する。(4) 日本の医療提供制度について解説する。(5) 日本の医療保障制度について解説する。(6) 保健医療政策学の実践について解説する。(7) グローバルヘルスポリシーについて解説する。(8) 保健医療政策過程論について解説する。(9) 保健医療計画論について解説する。(10) 健康政策、保健医療政策の広がりについて解説する。	
	筑波大学	グローバルフードセキュリティ特論	「食と健康」に関するトピックの中で、食料安全保障研究に焦点を当てる。食料安全保障研究は近い将来に訪れる世界規模の食料危機に対応すべく盛んになっている分野である。当該研究分野のトピックや最先端の技術を講義する。加えて、各学生の指導担当教員が、グローバルフードセキュリティに関連するそれぞれの研究分野の研究トピックを紹介し、現在の課題や解決に向けての研究方法を理解させる。レポートとレビューによって評価する。	
	筑波大学	食料システム学特論	本科目では食料システムという観点で食料安全保障について学習する。食料資源の生産から消費までの課程は、多種多様不齊な生物体を対象とすること、省エネルギー・省資源等の持続性を要求されること、自然の影響を受け人為的制御が困難であること等の理由から、その最適化や効率化のためにはシステムとして取り扱うことが有効である。ここでは食料システムの構築に必要な不可欠な理論や技術について解説する。	
健康と食資源科	国立台湾大学	グローバルヘルス諸課題	「グローバルヘルス諸課題」では、分野横断的なグローバルヘルスのテーマと、疾病がもたらすグローバル規模での社会的負荷に関する知識を身に付け、またグローバルヘルス改善のための協調の方法を学ぶ。また講義のほか、アジアやアフリカのグローバルヘルスの事例についても取り上げる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
目群II	国立台湾大学	生体分子の細胞ネットワーク	<p>本科目の内容は、細胞内の情報分子の紹介、作用メカニズム、参与プロセス、及びそれが調節する細胞機能と生物反応である。これらの細胞情報伝達は、生物の中で独自性と共通性を持つ。このため、動物細胞の組織、植物、微生物内の重要なプロセスについて例を挙げて紹介する。本科目は、講義とテーマ討論の方法による。国立台湾大学がメインの実施校となり、筑波大学と京都大学とテレビ会議システムを用いて同時に実施し、国際的な学習交流とインタラクションを促進する。全ての授業は英語で行われる。</p> <p>(オムニバス方式/全18回)</p> <p>(7 Chun-Che Chang/2回) 環境因子に対する細胞応答と順応—発生 (26 Shyh-Jye Lee/2回) シグナル伝達 (28 Tang-Long Shen/10回) 顕微鏡使用とセントラルドグマ、タンパク質の構造・動態・酵素活性、環境因子に対する細胞応答と順応—細胞遊走、環境因子に対する細胞応答と順応—細胞死、環境因子に対する細胞応答と順応—転写制御 (57 Chia-Ying Chu/2回) 遺伝子発現制御 (small RNA) (58 Feng-Ting Huang/2回) 転写</p>	オムニバス方式
	国立台湾大学	健康研究メソッドの原理と応用	<p>健康安全保障問題の理解に必要な公衆衛生学研究に共通な手法(研究デザイン、データ収集、統計的解析など)を学習する。具体的には、システムティックレビューとメタ解析、問題設定、横断研究、ケースコントロール研究、コホート研究、医療サービスの評価、実証研究、データ解析手法、研究倫理などである。学生は、学習を通じて、自身の研究テーマを設定し、授業時間中に発表することを求められる。</p> <p>(オムニバス方式/全18回)</p> <p>(6 Chuhsing Kate Hsiao/2回) データ解析手法 (17 Kuo-Liong Chien /2回) コホート研究、実証研究 (30 Wei J. Chen/12回) 問題設定、横断研究、ケースコントロール研究、研究倫理 (41 Hsien-Ho Lin/1回) システムティックレビューとメタ解析 (49 Ming-Chin Yang/1回) 医療サービスの評価</p>	オムニバス方式
	国立台湾大学	環境と産業衛生	<p>環境と産業衛生に関する基礎知識を習得し、現場視察を通じて、その実社会での応用と実際的な問題について理解する。人の健康に影響する環境要因を熟知し、環境と産業衛生の分野でよく使われる変数や指標を理解することを目指す。講義のテーマは、大気汚染、室内空気、水と廃水、食品安全と廃棄物管理、ベクター媒介及び人獣共通感染症、毒性学とリスク評価、産業衛生、産業医学、換気とPPEなどに及ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(3 Chang-Fu Wu/2回) 導入・大気汚染、産業衛生 (15 Jia-Yang Chen/1回) 食品・水・固形廃棄物 (37 Ching-Yu Lin/1回) リスク評価 (45 Kun-Hsien Tsai/1回) ベクター媒介及び人獣共通感染症 (59 Hsiao-Yu Yang/1回) 産業医学</p>	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国立台湾大学	疾病負荷の測定：方法と応用	<p>人々の健康の測定と定量化は、健康政策の策定と優先順位設定に役立つ。ここ数年、世界疾病負荷調査（GBD）によって、疾病負荷研究が大きく進展している。本授業では、国内及び世界レベルで疾病負荷を数値化するために使用される概念と方法の概要を説明する。GBDを主としつつ、他のアプローチにも言及する。講義、コンピューター実習、実践的グループワーク、担当官庁の訪問などを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全18回)</p> <p>(41 Hsien-Ho Lin／17回) 概説、死因分析、YLL、YLD、システマティックレビューとメタ分析の役割、疾病のモデル化、台湾の健康メトリクス、CRA、台湾・シンガポールの疾病負荷研究、疾病負荷の金銭的負担、SDGs、最終発表</p> <p>(60 Shu-Sen Chang／1回) 外傷及び精神疾患の負荷測定</p>	オムニバス方式
	国立台湾大学	分子栄養学	<p>本科目は米国ミシシッピ大学、台湾大学、台湾師範大学、屏東科技大学等の4校の共同で実施する。授業の内容は、テレビ会議システムによって同時進行し、すべての講義と討論は英語で行う。主な授業内容は、栄養生化学、栄養ゲノム学、栄養代謝学、エピゲノム学である。主に飲食と栄養が個人の遺伝子と代謝に与える影響、特に、どのように分子の側面から健康に影響するのかを探る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分子栄養学の分野を理解する</li> <li>2. 栄養と飲食のメカニズムを学習する</li> <li>3. 栄養のコントロールを通じて理想的な健康状況を維持する方法を熟知する</li> <li>4. 飲食の栄養成分が遺伝子病に与える影響を理解する</li> </ol>	
	国立台湾大学	食品安全と健康	<p>加工食品が健康的か否かは現在大きな問題となっている。本科目では、食の安全について毒性学のアプローチで明らかとなっている基礎的知識について、食品添加物規格の例を用いながら紹介する。毒性学と食の安全についての歴史にも焦点を当てる。化学的な毒性学・分子栄養学的理解に加え、行政、規制、産業、政策決定における歴史と現状も講義する。</p>	
	国立台湾大学	台湾農業	<p>台湾における食料資源の現状を作物と畜産の2つの観点で学習する。具体的には、社会・経済・政策的な問題（農村論、農業政策、貿易）、生物多様性の問題、作物育種に関する問題、作物の疾病・汚染に関する問題、工業化に関する問題、バイオテクノロジーの応用、機能的食品などである。オムニバス方式の授業。試験により評価する。</p> <p>(オムニバス方式／全17回)</p> <p>(5 Chin-Cheng Chou／1回) 台湾における動物疾病予防の課題</p> <p>(10 How-Jing Lee／1回) 台湾農業における害虫防除の現状</p> <p>(12 Huu-Sheng Lur／1回) 台湾における農業政策と国際共同</p> <p>(13 Iou-Zen Chen／1回) 台湾における果樹生産</p> <p>(18 Ming-Ju Chen／1回) 動物病院、ファイトロン、学内施設のガイド付き見学</p> <p>(27 Suming Chen・38 Chung-Kee Yeh／1回) (共同) 台湾における農業の機械化と自動化</p> <p>(32 Yu-Ten Ju／1回) 台湾における畜産序説</p> <p>(33 Zueng-Sang Chen／1回) 台湾の土壌特性、汚染、浄化技術</p> <p>(35 Cheng-Wei Chen／1回) 台湾における農業市場と農家との関係</p> <p>(40 Ho-Chia Chueh／1回) 台湾の農村社会序論</p> <p>(43 Jen-Chih Chen／1回) 台湾の植物産業における収穫後技術</p> <p>(46 Li-Ying Sung／1回) 動物生産と繁殖の先端バイオテクノロジー</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(47 Men-Chi Chang/1回) 現代農業へのバイオテクノロジーの応用 (48 Ming-Che Hu/1回) 環境システムモデリング序説 (54 Yann-Rong Lin/1回) 作物の起源、栽培化、近代的育種 (55 Yi-Chen Lo/1回) 台湾における農業バイオテクノロジーと機能性食品 (56 Chia-Lin Chung/1回) 台湾における主な植物病害の現状と管理	
	国立台湾大学	乳製品のバイオテクノロジー	乳製品のバイオテクノロジーを通して、健康と食資源を結びつける力、食料安全保障問題を学習する。本コースでは、遺伝子組み換え(GM)動物の食料安全保障リスク評価、GM食料の社会的栄養、ミルクの設計と成分、ミルク加工食品の設計と成分、機能性食品と栄養補助食品、バイオセンサーやオミクスなどを学習する。加えて乳製品のバイオテクノロジーにかかわる校外参観を実施する。	
	国立台湾大学	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング	創薬、疾患、健康に関連し、DNAプロセッシング(複製、転写、修復、組み換え)の基礎知識や研究方法について、教授と学生との討論形式で学習を進める。学生は教授が指定する文献を通じて、研究倫理を養成、医科学研究の歴史と伝統、最新研究課題などについて学習を進める。特に、トポイソメラーゼによる転写制御プログラムについて、創薬、疾患、健康に関連した研究方法の理解できることを目標とする。	
	国立台湾大学	応用微生物学	受講している学生は、特に冬虫夏草類など昆虫に寄生した菌で、伝統中国医学(TCM)で用いられてきたことで知られる在来菌の収集を行う野外学習への参加を必須とする。さらに収集した菌を特定して培養し、分析する練習も行う。本授業では、それら菌類の生物学的検定と毒性試験を実施し、グローバルヘルス向上を目的とした医学や健康補助の分野での利用法を調査する。最終的には、将来の産業化を視野に入れ、冬虫夏草類の実験室培養と発酵増殖の実験について学ぶ。生物多様性について学び、台湾の生物資源の産業利用ができるようになることを目標とする。	講義 18時間 実験・実習 90時間
健康と食資源科目群 III	ボルドー大学	水性及び食源性微生物病と食習慣	食源病(「食品媒介性疾患」、「食品媒介性感染症」、「食中毒」とも言う)は、世界中にまん延する公衆衛生問題である。食源性微生物病は有害化学物質や、細菌および糸状菌による天然毒素の存在だけでなく、食品の腐敗や、病原菌・ウイルス・寄生生物による水や食品汚染によっても生じる。水中ウイルス、食源性細菌、寄生生物など食源病の原因となる代表的な微生物を例にとり、その生活環、自然宿主、感染形態、および食源病の生理病理学を紹介する。その他、飲食物内に存在する可能性のあるマイコトキシン、新興毒素、これらの産生菌類を取り上げる。急性毒性と慢性毒性、毒素汚染の検出と定量、EU基準について学ぶ。  (オムニバス方式/全12回)  (1 Alain Blanchard/1回) 細菌学、合成生物学 (14 Thierry Noël/2回) 微生物学、菌類学 (15 Véronique Dubois/2回) 細菌学、ウイルス学 (21 Gérard Barroso/2回) 菌類学、菌類の系統発生 (23 Isabelle Accoceberry/1回) 感染症菌類学、寄生菌学 (24 Karine Dementhon/2回) 菌類の分子生物学 (26 Laure Beven/1回) 細菌学、生化学 (27 Loïc Rivière/1回) 分子寄生虫学	講義 16時間 演習 8時間 オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボルドー大学	栄養、マイクロバイオーム、免疫	不十分または不適切な食事摂取は特定の微量栄養素を欠乏させ、宿主保護に不可欠な免疫系の機能不全を引き起こす。栄養不足は、適応免疫や先天性免疫を含むさまざまな免疫系に影響を与えかねない。例えば肥満や栄養による行動障害などさまざまな病態が免疫機能に影響をおよぼし、病原体、慢性炎症、自己免疫、ガンリスク上昇に対する防御を弱める。ここでは、栄養摂取、微生物相、免疫系の通常機能や病的機能の相互関係を中心に取り上げる。	
	ボルドー大学	栄養・生体制御と主要疾患	糖尿病や心臓血管病など代表的な人の慢性疾患は、遺伝的背景と重要な栄養成分が関連する生活習慣の相互作用が特徴である。極端な場合、障害が「メタボリックシンドローム」を引き起こし、グルコースホメオスタシスや心臓血管に影響を与えることもある。近年、肥満や栄養に関連する疾病が増加し、栄養や生活習慣が健康に影響を与える根拠を理解する必要性がさらに高まっている。通常の、および修正後の栄養ホメオスタシスモデルと事例を紹介し、動物モデルへの影響を学習する。全身、臓器、細胞レベル、分子レベルでの栄養のシグナル伝達、統合、短期的な実験効果、長期的な疫学調査を中心に学ぶ。	
	ボルドー大学	欧州における食品安全・保健政策	企業が新しい機能食品を開発する際には、市場となる地域の既存の食品安全・保健制度を理解する必要がある。欧州では健康は公的課題である。政府や欧州の組織が資金提供し、国や欧州レベルの組織が保健や食品の安全を評価し、国際的な食品安全政策を決定している。欧州内には国それぞれに独自の食習慣があるため、同じ目標とねらいを順守し、かつ国ごとに適合させた規制が求められる。ここでは、欧州の食品安全評価にかかわる政策や関連法規、EU域外との相違等を紹介する。また、欧州と欧州各国で食品安全評価法が確立された経緯も紹介する。消費者情報、食品法、申し立てシステム、栄養学的アプローチにおける食品補助サプリメントの特異性などを全般的に考察する。さらに化学物質および微生物の毒性評価を学習する。	
	ボルドー大学	農業生産への環境ストレスの影響	植物にとって環境要因との相互作用は植物自身が成長する上での鍵であり、生産量と作付け体系の効率にとっても鍵となる。ここでは、非生物的（温度、光、水、栄養量）および生物的（植物病原性微生物や共生微生物）要因の影響を中心に作物の生理機能や生産性を上げる。植物の適応戦略と防御機構を学習する。植物感染時の植物病原性糸状菌のマイコトキシン生産についても植物の防御機構に対する反応として学習する。	講義 20時間 演習 4時間
	ボルドー大学	植物育種学の最先端とその利用	植物育種学は食品、飼料、工業用の植物種の開発に重要な役割を担っている。植物育種には、遺伝子クローン作成などの分子レベルから個体レベルまでさまざまな側面があり、栽培植物の分子生物学、生理学、病理学、後成遺伝学、生物情報学、バイオテクノロジー、遺伝学の知識が不可欠である。ここでは、21世紀の植物育種の課題を取り上げ、分子マーカー、遺伝子クローニング、ゲノム選抜、遺伝子型と環境の相互作用、および関連のバイオテクノロジーを含む最新の植物育種戦略を作成する。個人プロジェクトでは選んだ種について品質や耐性の育種を実施する。	講義 20時間 演習 4時間
	ボルドー大学	グリーンバイオテクノロジー	植物バイオテクノロジーの戦略や方法の最新状況に関する知識を深めることを目標としている。GMOの開発と利用、ゲノム編集技術、合成生物学などを学ぶ。この分野での研究や産業プロジェクトの立ち上げに活用できるさまざまな戦略をより一層理解するための事例を中心に取り上げる。また、技術的な事柄だけでなく、遺伝子組換え作物の取扱いに関連して、カルタヘナ議定書（遺伝子組換え生物の取扱いを定めた国際的な枠組み）や生物多様性条約をはじめとする各種関連法規や国際ルールを学ぶ。	講義 20時間 演習 4時間

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボルドー大学	動物性食材の品質管理	<p>現在、動物性食材の品質評価には、植物用のものと同等の技術、または特定の技術が用いられている。ここでは、動物性食材の品質とその評価を理論的および実践的手法を通じて学ぶ。品質評価案は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欧州で採用されている食材の標準評価システムを順守した、動物性食材の官能検査およびテクスチャー評価（機械的手法/レオロジー）</li> <li>2. 加工食材における動物性物質の不正使用を明らかにする核酸検出同定検査を基にした組成評価</li> </ol>	
	筑波大学	(研究指導)	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1 熊谷嘉人) 環境医学に関する研究指導を行う。</li> <li>(2 市川政雄) グローバルヘルスに関する研究指導を行う。</li> <li>(4 大根田修) 幹細胞生物学に関する研究指導を行う。</li> <li>(10 橋本幸一) 医療系薬学に関する研究指導を行う。</li> <li>(12 森川一也) 細菌遺伝学に関する研究指導を行う。</li> <li>(13 大庭良介) 微生物分子生物学に関する研究指導を行う。</li> </ol>	
	国立台湾大学	(研究指導)	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1 Bor-Shiunn Lee) 口腔生体工学に関する研究指導を行う。</li> <li>(2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルスに関する研究指導を行う。</li> <li>(4 Chien-Kuo Lee) 分子免疫学に関する研究指導を行う。</li> <li>(8 Chun-Pin Chiang) 口腔病理学に関する研究指導を行う。</li> <li>(9 Fuu Sheu) 食品安全に関する研究指導を行う。</li> <li>(11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学に関する研究指導を行う。</li> <li>(14 Je-Ruei Liu) 機能性食品に関する研究指導を行う。</li> <li>(16 Jing-Jer Lin) テロメアとガンに関する研究指導を行う。</li> <li>(18 Ming-Ju Chen) 動物性食料に関する研究指導を行う。</li> <li>(19 Ming-Yuan Min) 神経生物学に関する研究指導を行う。</li> <li>(20 Nei-Li Chan) 構造生物学に関する研究指導を行う。</li> <li>(21 Ning-Sing Shaw) 分子栄養学に関する研究指導を行う。</li> <li>(22 Shan-Chwen Chang) 感染症に関する研究指導を行う。</li> <li>(23 Shih-Torng Ding) 動物性脂質科学に関する研究指導を行う。</li> <li>(24 Show-Li Chen) ウイルスとガンに関する研究指導を行う。</li> <li>(25 Shu-Chun Ten) クロマチン動態と加齢に関する研究指導を行う。</li> <li>(26 Shyh-Jye Lee) 動物発生学に関する研究指導を行う。</li> <li>(27 Suming Chen) 生物資源分析工学に関する研究指導を行う。</li> <li>(28 Tang-Long Shen) 応用微生物学に関する研究指導を行う。</li> <li>(29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発に関する研究指導を行う。</li> <li>(30 Wei J. Chen) 遺伝学的な精神病に関する研究指導を行う。</li> <li>(31 Yuan-Tay Shyu) 食品バイオテクノロジー、微生物学、農業政策に関する研究指導を行う。</li> <li>(34 Chau-Ti Ting) ゲノム進化学に関する研究指導を行う。</li> <li>(36 Chih-Kang Chiang) 毒理学・リスク分析に関する研究指導を行う。</li> <li>(39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジーに関する研究指導を行う。</li> <li>(42 Hung-Chih Yang) 病毒と免疫に関する研究指導を行う。</li> <li>(44 Kuan-Chen Cheng) 機能性食品開発に関する研究指導を行う。</li> </ol>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(50 Nai-Chun Lin) 微生物と植物の相互作用に関する研究指導を行う。 (51 Shi-Chuen Miaw) 免疫学に関する研究指導を行う。 (52 Shih-Kuo Chen) 神経生物学に関する研究指導を行う。 (53 Shih-Shun Lin) 植物遺伝子のオーミクスに関する研究指導を行う。	
	ボルドー大学	(研究指導)	(1 Alain Blanchard) 細菌学、合成生物学に関する研究指導を行う。 (2 Antoine de Daruvar) バイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 (3 Catherine Bennetau) 動物栄養学に関する研究指導を行う。 (4 Dominique Rolin) 機能ゲノムミクス、統合生物学 (メタボローム・フラクソーム解析) に関する研究指導を行う。 (5 Eric Gomès) 植物生理学、植物病理学、機能ゲノミクスに関する研究指導を行う。 (6 Jean-Michel Mérillon) 植物化学、バイオテクノロジーに関する研究指導を行う。 (7 Jean-Pierre Savineau) 動物学、生理学的調節・主要疾患に関する研究指導を行う。 (8 Jochen Lang) 栄養・生理学的調節・ヒトの主要疾患に関する研究指導を行う。 (9 Maria Urdaci) DNA分析による不正検知に関する研究指導を行う。 (10 Michael Kann) ウイルス学、宿主、病原体相互作用に関する研究指導を行う。 (11 Michel Hernould) 植物学、バイオテクノロジーに関する研究指導を行う。 (12 Nicolas Larmonier) マイクロバイオーム・免疫に関する研究指導を行う。 (13 Philippe Gallusci) 植物エピジェネティクス、植物分子生物学に関する研究指導を行う。 (14 Thierry Noël) 微生物学、菌類学、分子生物学に関する研究指導を行う。 (15 Véronique Dubois) 感染性細菌学、抵抗性に関する研究指導を行う。 (16 Benoit Grossiord) 食材の微生物学的品質に関する研究指導を行う。 (17 Claudine Jacquot) DNA分析による不正検知に関する研究指導を行う。 (18 Claudine Trossat) 植物生化学、生物学に関する研究指導を行う。 (19 Frédéric Gévaudant) 植物組織発生学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。 (20 Frédéric Delmas) 植物組織発生学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。 (21 Gérard Barroso) 菌類遺伝学、バイオテクノロジー、進化学に関する研究指導を行う。 (22 Guillaume Durand) RNAの生物学に関する研究指導を行う。 (23 Isabelle Accoceberry) 感染性菌類学、寄生菌学に関する研究指導を行う。 (24 Karine Dementhon) 菌類の分子生物学に関する研究指導を行う。 (25 Kentaro Mori) 植物生理学に関する研究指導を行う。 (26 Laure Beven) 細菌学、生化学に関する研究指導を行う。 (27 Loïc Rivière) 分子寄生虫学に関する研究指導を行う。 (28 Marie-Pierre Ellies-Oury) 食肉及び動物性食材の品質に関する研究指導を行う。 (29 Matthieu Raoux) バイオセンサーに関する研究指導を行う。 (30 Muriel Denayrolles) 食材の微生物学的品質に関する研究指導を行う。	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			<p>(31 Patricia Thebault) バイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(32 Pierre-François Bert) 植物遺伝育種学に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 Stéphanie Cluzet) 植物細胞生物学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 Stéphanie Krisa) 機能性低分子に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 Valérie Schurdi-Levraud) 植物育種遺伝学と進化に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 Virginie Lauvergeat) 植物生物学、植物病理学、機能ゲノム学に関する研究指導を行う。</p>	

## 授業科目の概要(国際連携学科等)

(人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程) (筑波大学)

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	筑波大学	食料健康科学概論	<p>人類が地球規模で直面する健康の維持・増進や食料の安全供給等の課題の解決には、食料が健康に及ぼす影響を科学的に理解する必要がある。本科目では、本専攻で養う専門力の3つの柱、すなわち「健康と食資源を結びつける力」「健康安全保障問題を捉える力」「食料安全保障問題を捉える力」にかかわる系統的基礎知識と俯瞰的理解力・思考力を身につける。現在課題となっている遺伝子組換え作物・食品の開発・流通と国内規制に関わる内容も取り扱う。筑波大学の教員を中心に、ボルドー大学および国立台湾大学の教員からも講義を受けることで、世界的な視野で「食と健康」に関する問題を俯瞰する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 熊谷嘉人・35 山岡裕一/1回) (共同) 総論-食料健康科学とは (30 Lombardo Fabien Claude・32 江面浩・34 松倉千昭/1回) (共同) 食料安全保障I (2 市川政雄・12 森川一也・26 鄭齡/1回) (共同) 健康安全保障I (13 大庭良介・36 氏家清和・33 北村豊・37 阿部淳一ピーター/1回) (共同) 食資源と健康I (39 Suming Chen・52 Ming-Ju Chen/1回) (共同) 食料安全保障II (44 Chang-Chuan Chan・41 Chau-Ti Ting・50 Han-Yi E. Chou/1回) (共同) 健康安全保障II (40 Tang-Long Shen・42 Chih-Kang Chiang・45 Tsai-Kun Li/1回) (共同) 食資源と健康II (38 Catherine Bennetau・47 Pierre Pétriacq/1回) 食料安全保障III (43 Thierry Noël・51 Michel Hernould/1回) (共同) 健康安全保障III (46 Dominique Rolin/1回) 食資源と健康III</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	筑波大学	環境医学概論	<p>食資源や医薬品を含めた化学物質の安全性を含む社会医学に関する専門知識を学習する。具体的には、分子細胞生物学的な理解という側面で、環境化学物質の化学的特性、環境化学物質による有害反応とその解毒に生体内代謝が重要な役割をしていること、環境化学物質を感知して応答・適応するシステム、を理解する。加えて、公衆衛生的な側面で、環境リスクやエクスポソームについて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 熊谷嘉人/4回) 概論、環境物質の化学的特性、環境科学物質の解毒および代謝活性化-1・2 (22 秋山雅博/2回) 環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-1・2 (23 安孫子ユミ/2回) 環境中発がん物質、遺伝的多型 (48 中山祥嗣/2回) エクスポソーム-1・2</p>	オムニバス方式
	筑波大学	アントレプレナーシップトレーニングI	<p>シーズとなる技術、或いはアイデアを自ら社会に還元するために必要とされるマインドとスキルを育成する。社会のニーズの把握、マーケティングや流通の理解、起業、さらに事業の継続に必要とされる考え方やスキルを講義で学習するとともに、実際に企業を訪問して学習する。成功事例の他、失敗事例についても学ぶ。食料健康科学の専門知識の活用能力、異分野・異業種間でのマネジメント能力を学習する。</p>	集中

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	アントレプレナーシップトレーニングII	アントレプレナーシップトレーニングIで学習した内容をもとに、実際の起業案を学生グループごとに作成して発表する。起業案作成に必要な、プロジェクトマネジメント、市場調査、組織構築、スケジューリング、リスク管理、出口戦略などを学習する。食料健康科学の専門知識の活用、アイデアを具体化・実行する実践力、プレゼンテーションや自己アピールなど表現力、多国籍間における対話・交渉力などを学習する。	集中
	筑波大学	医学英語	<p>学生が科学者として挙げた成果を効果的かつ精力的に世界の科学者コミュニティへ伝えていく際に必要となる英語の語学力を伸ばすことが本授業の目標である。その目標達成のため、学生は科学的ライティング、科学的プレゼンテーションのそれぞれについて、2名の英語ネイティブの教員から指導を受ける。学生全員が科学的討論の仕方を学ぶ。扱われるトピックは健康安全保障を含む医科学に関連した内容となる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(20 MIYAMASU Flaminia/5回) 科学的ライティング (28 Mathis Bryan/5回) 科学的プレゼンテーション</p>	オムニバス方式
	筑波大学	生物資源科学のための英語論文の書き方	<p>食料安全保障に関する科学論文を英文で書くために必要な基礎事項、例えば論文の構成、適切な表現方法、図表の作り方、雑誌のエディターとのコミュニケーション方法について、社会科学側面も含めて学習する。各回の講義では、背景、材料と方法、図表、結果、議論、要旨と引用文献、口頭発表、投稿プロセスについて具体的な事例と共に学習する。</p>	
専門科目I	筑波大学	食料健康科学演習I	<p>「食と健康」に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。また、場合によっては、原著論文の代わりに特許などイノベーションに関わる事項を対象としてもよい。食料健康科学演習Iでは筑波大学の担当教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門基礎知識、物質の生体への効用・安全性評価に関する専門力を涵養する。各担当教員によるセミナー（各人10回）。学生は少なくとも1名の担当教員を選択して学習する。</p> <p>(1 熊谷嘉人) 環境医学 (2 市川政雄) グローバルヘルス (4 大根田修) 幹細胞生物学 (12 森川一也) 細菌遺伝学 (13 大庭良介) 微生物分子生物学 (26 鄭齡) 実験病理学 (30 Lombardo Fabien Claude) 植物生理学 (32 江面浩) 遺伝分子育種 (34 松倉千昭) 植物分子育種学 (35 山岡裕一) 植物寄生菌 (30 Lombardo Fabien Claude) 植物生理学 (33 北村豊) 農産食品加工</p>	
	筑波大学	食料健康科学研究I	<p>「食と健康」に関する研究の方法と原理について、国際連携食料健康科学専攻が有する共同実験室及び担当教員のラボに滞在し、具体的な研究テーマを通して実践的に学ぶ。食料健康科学研究Iでは、筑波大学の指導教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門基礎技術、物質の生体への効用・安全性評価に関する専門基礎技術を習得する。成果をレポートとして報告し、各担当教員が成績評価を行う。</p> <p>(1 熊谷嘉人) 環境医学 (2 市川政雄) グローバルヘルス (4 大根田修) 幹細胞生物学 (12 森川一也) 細菌遺伝学 (13 大庭良介) 微生物分子生物学 (26 鄭齡) 実験病理学</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(30 Lombardo Fabien Claude) 植物生理学 (32 江面浩) 遺伝分子育種 (33 北村豊) 農産食品加工 (34 松倉千昭) 植物分子育種学 (35 山岡裕一) 植物寄生菌 (37 阿部淳一ピーター) 菌根類	
	筑波大学	日本企業インターンシップ	日本の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に向き、就業体験を通じて、日本の企業風土や文化を学習するとともに、学習内容を特定課題研究執筆や就職へ活用することを目指す。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ関連の委員会で承認された施設の中から選択する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。	
専門科目 II	健康と食資源科目群 I	筑波大学	基礎毒性学  毒性学は、物質が生命体や生物系に及ぼす毒性作用の根底にある特質やメカニズムを研究する学問である。また毒性学は、投薬量の濃度、期間、生命体の毒性物質曝露頻度に関連した有害作用の定量的評価も扱う。他の科学分野と同様に、毒性学も薬剤、食品添加物、農薬、工業化学物質として使用される、比較的安全な化学物質の開発に貢献している。本授業では、1) 毒性学の一般的側面（特に化学毒性学および分子毒性学） 2) 高分子の機能障害と細胞損傷をもたらす、解毒と代謝の活性化に関与する毒物の生体内変化 3) 毒物に対する初期の反応と細胞の保護 4) 毒性評価の4点を主に学ぶ。  (オムニバス方式／全10回)  (1 熊谷嘉人／6回) 毒性学概論、毒物の吸収・分布・排泄、毒物の生体内変化：解毒-1・2、毒物の生体内変化：代謝活性化、酸化ストレスと毒物 (22 秋山雅博／2回) 毒物に対する細胞保護システム、変異原生とガン (23 安孫子ユミ／2回) 標的臓器と毒性物質、毒性評価	オムニバス方式
		筑波大学	橋渡し研究概論  医薬品や医療機器（治療器具、医用材料、治療・診断装置など）等の開発・応用において科学技術的シーズが如何にして臨床現場におけるニーズに結びつけられているかの全体プロセスを理解する。併せてそのプロセスの効率的な運用のために必須な各種の先進的技術、経済的要因、各種規制・手続き、人材等について理解する。 1. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスについて説明できる。 2. 安全性・有効性の科学的実証研究（前臨床研究、臨床研究（治験））の重要性につき説明できる。 3. 医薬品・医療機器開発の置かれている社会的状況、開発に関わる関係者・関係機関につき説明できる。 4. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスにおいて用いられる技術、知的財産確保の重要性について説明できる。  (オムニバス方式／全10回)  (10 橋本幸一／3回) 橋渡し研究プロセス概論について概説する。医薬品開発Ⅱ（前臨床試験、臨床試験の進め方）、プロジェクトマネジメントについて概説する。 (11 村谷匡史／2回) 医薬品開発（探索の進め方）、先進技術（バイオインフォマティクス）について概説する。 (10 橋本幸一／1回) 医薬品開発の世界的潮流と日本の役割について概説する。 (10 橋本幸一／2回) 技術イノベーション論、橋渡し研究の実際例について概説する。 (18 鶴嶋英夫／1回) 橋渡し研究の実際例（医療機器）について概説する。 (16 小島崇宏／1回) 橋渡し研究の実際例（医薬品）について概説する。	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	ガンの生物学	<p>ガンの生物学をテーマにしたオムニバス方式の遠隔講義。インターネット回線を使った国立台湾大学、京都大学との交流授業、英語による論文紹介と討論を通して、ガンの生物学の専門知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力を身につける。筑波大学が主催し、国立台湾大学、京都大学よりテーマにあった講師が参画する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(3 入江賢児/4回) ガンの生物学、ゲノム不安定性とガン化の仕組、RNA制御とガン化、神経のガン  (6 加藤光保・17 鈴木裕之/1回) (共同) ガンはどのように成長するか  (8 高橋智/1回) ガン研究のための動物モデル  (13 大庭良介/3回) ガン化とは、テロメアの生物学、ガンのエピジェネティクス、ガンの比較ゲノム学  (14 大林典彦・27 船越祐司/1回) (共同) ガン細胞内でのシグナル伝達  (15 川口敦史/1回) 腫瘍のウイルス学  (3 入江賢児・19大庭良介・25 須田恭之・29 水野智亮/1回) (共同) 学生論文発表</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
		人体病理学・腫瘍学	<p>ヒトの病気の原因、発生機序、形態変化について、循環障害(浮腫、血栓症、梗塞など)、炎症、腫瘍などの基礎的な疾患概念を理解するとともに、生体内で何が起こっているのかを総論的に理解できるようになる。また、各論的な知識を自ら取得できるような学習方法を学ぶ。後半は、種々のがんの専門医の授業によりがん医療と最新研究の現状を学ぶ。複数の授業の後に行う小テストと最終レポートにより評価する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(6 加藤光保/7回) 病理学概論、組織ホメオスタシスと再生、循環障害、炎症、がん幹細胞  (17 鈴木裕之/3回) 細胞傷害と細胞死、変性・過形成・肥大、がん遺伝子とがん抑制遺伝子  (31 渡邊幸秀/3回) がん細胞の特性、化学発がん、肺  (24 沖田結花里/2回) 浸潤と転移、乳がん  (5 小田竜也/2回) 胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝臓  (9 千葉滋/1回) 白血病  (19 水口剛雄/1回) 婦人科がん  (21 河合弘二/1回) 泌尿器がん</p>	オムニバス方式
	筑波大学	地球規模課題と国際社会:環境汚染と健康影響	<p>国連が提起した「持続可能な開発目標(SDGs)」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。</p> <p>当科目は「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち、Goal 3に関連した、国際社会が直面する「環境汚染と健康影響」について取り扱う。</p> <p>国際的汚染問題の概要、ナノ粒子、外因性内分泌攪乱化学物質、環境中親電子物質、エクスポソーム、カドミウム、ヒ素、有機ハロゲン化合物、メチル水銀、トリブチルスズなどの個別課題を含めて講義することにより、国際社会で活躍できる能力と人間力を養う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	筑波大学	保健医療政策学	<p>1. 保健医療政策論の基礎を学び世界の保健システムの課題を学ぶ。 2. わが国の保健医療制度の現状と課題を学ぶ。 目標：保健医療システムについて、基礎的な理論を踏まえたうえで、保健医療政策学的な視点から論じることができる。</p> <p>(1) 健康、保健医療、政策について解説する。(2) 健康の決定要因と政策について解説する。(3) 国家の役割と保健システムについて解説する。(4) 日本の医療提供制度について解説する。(5) 日本の医療保障制度について解説する。(6) 保健医療政策学の実践について解説する。(7) グローバルヘルスポリシーについて解説する。(8) 保健医療政策過程論について解説する。(9) 保健医療計画論について解説する。(10) 健康政策、保健医療政策の広がりについて解説する。</p>	
	筑波大学	グローバルフードセキュリティ特論	<p>「食と健康」に関するトピックの中で、食料安全保障研究に焦点を当てる。食料安全保障研究は近い将来に訪れる世界規模の食料危機に対応すべく盛んになっている分野である。当該研究分野のトピックや最先端の技術を講義する。加えて、各学生の指導担当教員が、グローバルフードセキュリティに関連するそれぞれの研究分野の研究トピックを紹介し、現在の課題や解決に向けての研究方法を理解させる。レポートとレビューによって評価する。</p>	
	筑波大学	食料システム学特論	<p>本科目では食料システムという観点で食料安全保障について学習する。食料資源の生産から消費までの課程は、多種多様不斉一な生物体を対象とすること、省エネルギー・省資源等の持続性を要求されること、自然の影響を受け人為的制御が困難であること等の理由から、その最適化や効率化のためにはシステムとして取り扱うことが有効である。ここでは食料システムの構築に必要な不可欠な理論や技術について解説する。</p>	
	筑波大学	(研究指導)	<p>(1 熊谷嘉人) 環境医学に関する研究指導を行う。 (2 市川政雄) グローバルヘルスに関する研究指導を行う。 (4 大根田修) 幹細胞生物学に関する研究指導を行う。 (10 橋本幸一) 医療系薬学に関する研究指導を行う。 (12 森川一也) 細菌遺伝学に関する研究指導を行う。 (13 大庭良介) 微生物分子生物学に関する研究指導を行う。</p>	

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（国立台湾大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	国立台湾大学	バイオアントレプレナーシップトレーニング	アジア企業におけるR&D やプロジェクトマネジメントの基本を学習する。特に食料・農業分野の事例を中心に学習する。さらに、台湾での起業に必要な、社会事情、政策、産学共同の現状について学習する。最終的には、グループ学習を通じて、台湾現地での社会事情に即した起業案を作成する。	
専門科目 I	国立台湾大学	食料健康科学演習II	「食と健康」に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。また、場合によっては、原著論文の代わりに特許などイノベーションに関わる事項を対象としてもよい。食料健康科学演習IIでは国立台湾大学の担当教員のもとで学習することで、健康と食資源に関する専門力、アジアの社会・自然環境における課題発見・解決能力を涵養する。各担当教員によるセミナー（各人10回）。学生は少なくとも1名の担当教員を選択して学習する。  (2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学 (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料 (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学 (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発 (39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー	
	国立台湾大学	食料健康科学研究II	「食と健康」に関する研究の方法と原理について、担当教員のラボに滞在し、具体的な研究テーマを通して実践的に学ぶ。食料健康科学研究IIでは、国立台湾大学の指導教員のもとで学習することで、健康と食品科学に関する専門性を身につける。成果をレポートとして報告し、各担当教員が成績評価を行う。  (2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学 (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料 (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学 (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発 (39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー	
	国立台湾大学	生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプ	食料安全保障とグローバルヘルスの未解決のニーズに関して、生物医科学研究の橋渡しのためのブートキャンプを実施し、R&Dにおける社会関連、環境関連の課題に取り組むスキルを強化する。学生は、医療ケアと食料安全保障を実社会に適したアプローチと技術を橋渡しするプロセスに対して、特に生化学と分子生物学のアプローチで参画する。また、定期的に担当教員の指導を受けながら関連の研究室に滞在し、研究進捗報告書をまとめる。最後に、「生物医科学研究の橋渡しのためのシンポジウム」を公開で実施する。  (2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルス (11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学 (18 Ming-Ju Chen) 動物性食料 (25 Shu-Chun Ten) 遺伝学・分子生物学 (28 Tang-Long Shen) 応用微生物学 (29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発 (39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジー	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	国立台湾大学	フィールドと実験室の融合（台湾）	「食と健康」の諸問題に関し、台湾でのフィールド実習を企画・実施して社会・自然環境中で研究開発課題を発掘する。発掘した課題を研究室に持ち帰り、担当教員と議論を重ねて研究室での研究開発課題として成立させ、実際に自身で研究開発を実施する。フィールドと研究室合わせて108時間以上実施する。学生は成果をレポートとして担当教員に提出する。		
	国立台湾大学	台湾企業インターンシップI	台湾の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に出向き、72時間以上の就業体験を通じて、台湾・アジアの企業風土や文化を学習する。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ委員会で承認された施設の中から選択する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。		
	国立台湾大学	台湾企業インターンシップII	台湾の企業や私的研究所等の学外の協力拠点に540時間以上出向き、特定課題研究の作製や就職を目指したインターンシップを実施する。インターンシップ派遣時には担当教員、研究指導教員、メンター教員と連絡を取り、特定課題研究や就職とどのようにリンクさせるかについてあらかじめ議論する。学外インターンシップで不足する知識・技術については、担当教員、研究指導教員、メンター教員を通じて学習する。インターンシップの成果は報告書としてまとめ、成果報告会で発表する。		
専門科目II	健康と食資源科目群II	国立台湾大学	グローバルヘルス諸課題	「グローバルヘルス諸課題」では、分野横断的なグローバルヘルスのテーマと、疾病がもたらすグローバル規模での社会的負荷に関する知識を身に付け、またグローバルヘルス改善のための協調の方法を学ぶ。また講義のほか、アジアやアフリカのグローバルヘルスの事例についても取り上げる。	
		国立台湾大学	生体分子の細胞ネットワーク	本科目の内容は、細胞内の情報分子の紹介、作用メカニズム、参与プロセス、及びそれが調節する細胞機能と生物反応である。これらの細胞情報伝達は、生物の中で独自性と共通性を持つ。このため、動物細胞の組織、植物、微生物内の重要なプロセスについて例を挙げて紹介する。本科目は、講義とテーマ討論の方法による。国立台湾大学がメインの実施校となり、筑波大学と京都大学とテレビ会議システムを用いて同時に実施し、国際的な学習交流とインタラクションを促進する。全ての授業は英語で行われる。  (オムニバス方式／全18回)  (7 Chun-Che Chang／2回) 環境因子に対する細胞応答と順応—発生 (26 Shyh-Jye Lee／2回) シグナル伝達 (28 Tang-Long Shen／10回) 顕微鏡使用とセントラルドグマ、タンパク質の構造・動態・酵素活性、環境因子に対する細胞応答と順応—細胞遊走、環境因子に対する細胞応答と順応—細胞死、環境因子に対する細胞応答と順応—転写制御 (57 Chia-Ying Chu／2回) 遺伝子発現制御 (small RNA) (58 Feng-Ting Huang／2回) 転写	オムニバス方式
		国立台湾大学	健康研究メソッドの原理と応用	健康安全保障問題の理解に必要な公衆衛生学研究に共通な手法（研究デザイン、データ収集、統計的解析など）を学習する。具体的には、システムティックレビューとメタ解析、問題設定、横断研究、ケースコントロール研究、コホート研究、医療サービスの評価、実証研究、データ解析手法、研究倫理などである。学生は、学習を通じて、自身の研究テーマを設定し、授業時間中に発表することを求められる。  (オムニバス方式／全18回)  (6 Chuhsing Kate Hsiao／2回) データ解析手法 (17 Kuo-Liong Chien /2回) コホート研究、実証研究	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(30 Wei J. Chen/12回) 問題設定、横断研究、ケースコントロール研究、研究倫理 (41 Hsien-Ho Lin/1回) システマティックレビューとメタ解析 (49 Ming-Chin Yang/1回) 医療サービスの評価	
	国立台湾大学	環境と産業衛生	環境と産業衛生に関する基礎知識を習得し、現場視察を通じて、その実社会での応用と実際的な問題について理解する。人の健康に影響する環境要因を熟知し、環境と産業衛生の分野でよく使われる変数や指標を理解することを目標とする。講義のテーマは、大気汚染、室内空気、水と廃水、食品安全と廃棄物管理、ベクター媒介及び人獣共通感染症、毒性学とリスク評価、産業衛生、産業医学、換気とPPEなどに及ぶ。  (オムニバス方式/全6回)  (3 Chang-Fu Wu/2回) 導入・大気汚染、産業衛生 (15 Jia-Yang Chen/1回) 食品・水・固形廃棄物 (37 Ching-Yu Lin/1回) リスク評価 (45 Kun-Hsien Tsai/1回) ベクター媒介及び人獣共通感染症 (59 Hsiao-Yu Yang/1回) 産業医学	オムニバス方式
	国立台湾大学	疾病負荷の測定：方法と応用	人々の健康の測定と定量化は、健康政策の策定と優先順位設定に役立つ。ここ数年、世界疾病負荷調査 (GBD) によって、疾病負荷研究が大きく進展している。本授業では、国内及び世界レベルで疾病負荷を数値化するために使用される概念と方法の概要を説明する。GBDを主としつつ、他のアプローチにも言及する。講義、コンピューター実習、実践的グループワーク、担当官庁の訪問などを行う。  (オムニバス方式/全18回)  (41 Hsien-Ho Lin/17回) 概説、死因分析、YLL、YLD、システマティックレビューとメタ分析の役割、疾病のモデル化、台湾の健康メトリクス、CRA、台湾・シンガポールの疾病負荷研究、疾病負荷の金銭的負担、SDGs、最終発表 (60 Shu-Sen Chang/1回) 外傷及び精神疾患の負荷測定	オムニバス方式
	国立台湾大学	分子栄養学	本科目は米国ミシシッピ大学、台湾大学、台湾師範大学、屏東科技大学等の4校の共同で実施する。授業の内容は、テレビ会議システムによって同時進行し、すべての講義と討論は英語で行う。主な授業内容は、栄養生化学、栄養ゲノム学、栄養代謝学、エピゲノム学である。主に飲食と栄養が個人の遺伝子と代謝に与える影響、特に、どのように分子の側面から健康に影響するのかを探る。 1. 分子栄養学の分野を理解する 2. 栄養と飲食のメカニズムを学習する 3. 栄養のコントロールを通じて理想的な健康状況を維持する方法を熟知する 4. 飲食の栄養成分が遺伝子病に与える影響を理解する	
	国立台湾大学	食品安全と健康	加工食品が健康的か否かは現在大きな問題となっている。本科目では、食の安全について毒性学のアプローチで明らかとなっている基礎的知識について、食品添加物規格の例を用いながら紹介する。毒性学と食の安全についての歴史にも焦点を当てる。化学的な毒性学・分子栄養学的理解に加え、行政、規制、産業、政策決定における歴史と現状も講義する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国立台湾大学	台湾農業	<p>台湾における食料資源の現状を作物と畜産の2つの観点で学習する。具体的には、社会・経済・政策的な問題（農村論、農業政策、貿易）、生物多様性の問題、作物育種に関する問題、作物の疾病・汚染に関する問題、工業化に関する問題、バイオテクノロジーの応用、機能性食品などである。オムニバス方式の授業。試験により評価する。</p> <p>(オムニバス方式/全17回)</p> <p>(5 Chin-Cheng Chou/1回) 台湾における動物疾病予防の課題  (10 How-Jing Lee/1回) 台湾農業における害虫防除の現状  (12 Huu-Sheng Lur/1回) 台湾における農業政策と国際共同  (13 Iou-Zen Chen/1回) 台湾における果樹生産  (18 Ming-Ju Chen/1回) 動物病院、ファイトトロン、学内施設のガイド付き見学  (27 Suming Chen・38 Chung-Kee Yeh/1回) (共同) 台湾における農業の機械化と自動化  (32 Yu-Ten Ju/1回) 台湾における畜産序説  (33 Zueng-Sang Chen/1回) 台湾の土壌特性、汚染、浄化技術  (35 Cheng-Wei Chen/1回) 台湾における農業市場と農家との関係  (40 Ho-Chia Chueh/1回) 台湾の農村社会序論  (43 Jen-Chih Chen/1回) 台湾の植物産業における収穫後技術  (46 Li-Ying Sung/1回) 動物生産と繁殖の先端バイオテクノロジー  (47 Men-Chi Chang/1回) 現代農業へのバイオテクノロジーの応用  (48 Ming-Che Hu/1回) 環境システムモデリング序説  (54 Yann-Rong Lin/1回) 作物の起源、栽培化、近代的育種  (55 Yi-Chen Lo/1回) 台湾における農業バイオテクノロジーと機能性食品  (56 Chia-Lin Chung/1回) 台湾における主な植物病害の現状と管理</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	国立台湾大学	乳製品のバイオテクノロジー	<p>乳製品のバイオテクノロジーを通して、健康と食資源を結びつける力、食料安全保障問題を学習する。本コースでは、遺伝子組み換え (GM) 動物の食料安全保障リスク評価、GM食料の社会的栄養、ミルクの設計と成分、ミルク加工食品の設計と成分、機能性食品と栄養補助食品、バイオセンサーやオミクスなどを学習する。加えて乳製品のバイオテクノロジーにかかわる校外参観を実施する。</p>	
	国立台湾大学	創薬、疾患、健康におけるDNAプロセッシング	<p>創薬、疾患、健康に関連し、DNAプロセッシング (複製、転写、修復、組み換え) の基礎知識や研究方法について、教授と学生との討論形式で学習を進める。学生は教授が指定する文献を通じて、研究倫理を養成、医科学研究の歴史と伝統、最新研究課題などについて学習を進める。特に、トポイソメラーゼによる転写制御プログラムについて、創薬、疾患、健康に関連した研究方法の理解できることを目標とする。</p>	
	国立台湾大学	応用微生物学	<p>受講している学生は、特に冬虫夏草類など昆虫に寄生した菌で、伝統中国医学 (TCM) で用いられてきたことで知られる在来菌の収集を行う野外学習への参加を必須とする。さらに収集した菌を特定して培養し、分析する練習も行う。本授業では、それら菌類の生物学的検定と毒性試験を実施し、グローバルヘルス向上を目的とした医学や健康補助の分野での利用法を調査する。最終的には、将来の産業化を視野に入れ、冬虫夏草類の実験室培養と発酵増殖の実験について学ぶ。生物多様性について学び、台湾の生物資源の産業利用ができるようになることを目標とする。</p>	講義 18時間 実験・実習 90時間

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国立台湾大学	(研究指導)	<p>(1 Bor-Shiunn Lee) 口腔生体工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 Chang-Chuan Chan) 環境疫学とグローバルヘルスに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 Chien-Kuo Lee) 分子免疫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 Chun-Pin Chiang) 口腔病理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 Fuu Sheu) 食品安全に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 Hsinyu Lee) シグナル伝達学に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 Je-Ruei Liu) 機能性食品に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 Jing-Jer Lin) テロメアとガンに関する研究指導を行う。</p> <p>(18 Ming-Ju Chen) 動物性食料に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 Ming-Yuan Min) 神経生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 Nei-Li Chan) 構造生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(21 Ning-Sing Shaw) 分子栄養学に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 Shan-Chwen Chang) 感染症に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 Shih-Torng Ding) 動物性脂質科学に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 Show-Li Chen) ウイルスとガンに関する研究指導を行う。</p> <p>(25 Shu-Chun Ten) クロマチン動態と加齢に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 Shyh-Jye Lee) 動物発生学に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 Suming Chen) 生物資源分析工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 Tang-Long Shen) 応用微生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 Tsai-Kun Li) 医薬品と健康食品の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 Wei J. Chen) 遺伝学的な精神病に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 Yuan-Tay Shyu) 食品バイオテクノロジー、微生物学、農業政策に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 Chau-Ti Ting) ゲノム進化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 Chih-Kang Chiang) 毒理学・リスク分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(39 Han-Yi E. Chou) 幹細胞とナノバイオテクノロジーに関する研究指導を行う。</p> <p>(42 Hung-Chih Yang) 病毒と免疫に関する研究指導を行う。</p> <p>(44 Kuan-Chen Cheng) 機能性食品開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(50 Nai-Chun Lin) 微生物と植物の相互作用に関する研究指導を行う。</p> <p>(51 Shi-Chuen Miaw) 免疫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 Shih-Kuo Chen) 神経生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(53 Shih-Shun Lin) 植物遺伝子のオーミクスに関する研究指導を行う。</p>	

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻 修士課程）（ボルドー大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	ボルドー大学	キャリアパス・セミナー	<p>インターンシップや就職先を探す上で不可欠な考え方やスキルを育成する。就職口やインターンシップの探し方を学んで実践し、求職の申し込みや面接の流れを理解して実践する。各自の専門プロジェクトに関連するキャリア選択を模索し、将来的なキャリア決定に個人的スキル、適性、能力を結びつける。仕事とキャリアの選択肢を十分に理解する。同時に、それぞれの専門プロジェクトに関連したトピックが企業内でどのように把握・分析されて企業戦略となるかといった技術観察をする。</p> <p>（4 Dominique Rolin・18 Claudine Trossat）産学連携、バイオ技術観察の計画方法、情報調査の進め方 （11 Michel Hernould）インターンシップ世話人</p>	講義 10時間 実習 20時間 共同
専門科目 I	ボルドー大学	国際科学セミナー	<p>Research Federation of Integrative Biology and Environment（統合生物学・環境調査連盟）開催の科学セミナーに10回参加して各分野の知識を習得し、シニア科学者による国際研究セミナーを経験する。セミナーのテーマは世界中から招待される科学者によって異なるが、植物生物学、バイオテクノロジー、植物生理学、代謝学に関連したものとなる。チュートリアルでは、セミナーでのノートの取り方と簡潔な概要の作成方法を指導する。招待された科学者と議論し、自分の科学的関心とR&amp;Dを結びつけることができる。</p>	
	ボルドー大学	オミクスとバイオインフォマティクスの食料健康科学への応用	<p>トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスは、食品科学と補完医療における統合オミクス解析の3大分野である。この授業では、人の栄養学分野におけるデータ統合の生物学的事例と、研究で直面する課題を紹介する。生合成経路と食品流通での作用を調査し、分子の生合成から人の健康へのプラスとマイナスの影響（ビタミン、マイクロトクシン、カロテノイドやポリフェノールなどの二次代謝産物）までを重点的に取り上げる。</p> <p>（オムニバス方式／全25回）</p> <p>（2 Antonie de Daruvar／5回）バイオインフォマティクス （3 Catherine Bennetau／2回）健康・栄養、統合生物学 （4 Dominique Rolin／3回）機能ゲノム学、統合生物学（メタボローム・フラクソーム解析） （11 Michel Hernould／2回）植物学、統合生物学 （13 Philippe Gallusci／2回）エビジェネティクス、統合生物学 （25 Kentaro Mori／2回）植物学、統合生物学（トランスクリプトミクス、NGS） （31 Patricia Thebault／5回）バイオインフォマティクス （34 Stéphanie Krisa／2回）植物化学、統合生物学（機能性分子） （35 Valérie Schurdi-Levraud／2回）植物育種学、統合生物学</p>	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボルドー大学	フィールドと実験室の融合（フランス）	欧州の農家の疑問と消費者の要望から、学生と共に実験室での取り組みを計画する。学生はもたらされたデータを収集し、教員と共にもっとも効果的に結果を処理するデータ検索方法を選択する。最終的に、当初の専門的および科学的疑問の実験を分析して結論を出し、その発表に向けて取り組む。この授業の目的は、社会経済的要望を解決すべき科学的疑問に置き換え、申請募集に対する計画書となるプロジェクトを構築できるよう学生を育成し、ワークパッケージ、プロジェクト管理、資金援助を説明することである。また、プロジェクトチームとして教員と協力し、プロジェクトチーム管理とコミュニケーションのスキルを育成する。	
	ボルドー大学	フランス企業インターンシップ	フランスの企業や私的研究所等の学外の協力拠点に向き、600時間以上の就業体験を通じて、フランスの企業風土や文化を学習する。体験学習を行う施設は、契約されたインターンシップ拠点、または、自らが申し込みしてインターンシップ委員会で承認された施設の中から選択する。就職や特定課題研究を目指した取り組みとし、学外インターンシップで不足する知識・技術については、担当教員、研究指導教員、メンター教員を通じて学習する。インターンシップの成果はレポートとしてまとめ、成果報告会で発表する。	
専門科目 II	ボルドー大学	水性及び食源性微生物病と食習慣	食源病（「食品媒介性疾患」、「食品媒介性感染症」、「食中毒」とも言う）は、世界中にまん延する公衆衛生問題である。食源性微生物病は有害化学物質や、細菌および糸状菌による天然毒素の存在だけでなく、食品の腐敗や、病原菌・ウイルス・寄生生物による水や食品汚染によっても生じる。水中ウイルス、食源性細菌、寄生生物など食源病の原因となる代表的な微生物を例にとり、その生活環、自然宿主、感染形態、および食源病の生理病理学を紹介する。その他、飲食物内に存在する可能性のあるマイコトキシン、新興毒素、これらの産生菌類を取り上げる。急性毒性と慢性毒性、毒素汚染の検出と定量、EU基準について学ぶ。  (オムニバス方式／全12回)  (1 Alain Blanchard／1回) 細菌学、合成生物学 (14 Thierry Noël／2回) 微生物学、菌類学 (15 Véronique Dubois／2回) 細菌学、ウイルス学 (21 Gérard Barroso／2回) 菌類学、菌類の系統発生 (23 Isabelle Accoceberry／1回) 感染症菌類学、寄生菌学 (24 Karine Dementhon／2回) 菌類の分子生物学 (26 Laure Beven／1回) 細菌学、生化学 (27 Loïc Rivière／1回) 分子寄生虫学	講義 16時間 演習 8時間 オムニバス方式
	ボルドー大学	栄養、マイクロバイオーム、免疫	不十分または不適切な食事摂取は特定の微量栄養素を欠乏させ、宿主保護に不可欠な免疫系の機能不全を引き起こす。栄養不足は、適応免疫や先天性免疫を含むさまざまな免疫系に影響を与えかねない。例えば肥満や栄養による行動障害などさまざまな病態が免疫機能に影響をおよぼし、病原体、慢性炎症、自己免疫、ガンの上昇に対する防御を弱める。ここでは、栄養摂取、微生物相、免疫系の通常機能や病的機能の相互関係を中心に取り上げる。	
	ボルドー大学	栄養・生体制御と主要疾患	糖尿病や心臓血管病など代表的な人の慢性疾患は、遺伝的背景と重要な栄養成分が関連する生活習慣の相互作用が特徴である。極端な場合、障害が「メタボリックシンドローム」を引き起こし、グルコースホメオスタシスや心臓血管に影響を与えることもある。近年、肥満や栄養に関連する疾病が増加し、栄養や生活習慣が健康に影響を与える根拠を理解する必要性がさらに高まっている。通常の、および修正後の栄養ホメオスタシスモデルと実例を紹介し、動物モデルへの影響を学習する。全身、臓器、細胞レベル、分子レベルでの栄養のシグナル伝達、統合、短期的な実験効果、長期的な疫学調査を中心に学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボルドー大学	欧州における食品安全・保健政策	企業が新しい機能食品を開発する際には、市場となる地域の既存の食品安全・保健制度を理解する必要がある。欧州では健康は公的課題である。政府や欧州の組織が資金提供し、国や欧州レベルの組織が保健や食品の安全を評価し、国際的な食品安全政策を決定している。欧州内には国それぞれに独自の食習慣があるため、同じ目標とねらいを順守し、かつ国ごとに適合させた規制が求められる。ここでは、欧州の食品安全評価にかかわる政策や関連法規、EU域外との相違等を紹介する。また、欧州と欧州各国で食品安全評価法が確立された経緯も紹介する。消費者情報、食品法、申し立てシステム、栄養学的アプローチにおける食品補助サプリメントの特異性などを全般的に考察する。さらに化学物質および微生物の毒性評価を学習する。	
	ボルドー大学	農業生産への環境ストレスの影響	植物にとって環境要因との相互作用は植物自身が成長する上での鍵であり、生産量と作付け体系の効率にとっても鍵となる。ここでは、非生物的（温度、光、水、栄養量）および生物的（植物病原性微生物や共生微生物）要因の影響を中心に作物の生理機能や生産性を取り上げる。植物の適応戦略と防御機構を学習する。植物感染時の植物病原性糸状菌のマイコトキシン生産についても植物の防御機構に対する反応として学習する。	講義 20時間 演習 4時間
	ボルドー大学	植物育種学の最先端とその利用	植物育種学は食品、飼料、工業用の植物種の開発に重要な役割を担っている。植物育種には、遺伝子クローン作成などの分子レベルから個体レベルまでさまざまな側面があり、栽培植物の分子生物学、生理学、病理学、後成遺伝学、生物情報学、バイオテクノロジー、遺伝学の知識が不可欠である。ここでは、21世紀の植物育種の課題を取り上げ、分子マーカー、遺伝子クローニング、ゲノム選抜、遺伝子型と環境の相互作用、および関連のバイオテクノロジーを含む最新の植物育種戦略を作成する。個人プロジェクトでは選んだ種について品質や耐性の育種を実施する。	講義 20時間 演習 4時間
	ボルドー大学	グリーンバイオテクノロジー	植物バイオテクノロジーの戦略や方法の最新状況に関する知識を深めることを目標としている。GMOの開発と利用、ゲノム編集技術、合成生物学などを学ぶ。この分野での研究や産業プロジェクトの立ち上げに活用できるさまざまな戦略をより一層理解するための事例を中心に取り上げる。また、技術的な事柄だけでなく、遺伝子組換え作物の取扱いに関連して、カルタヘナ議定書（遺伝子組換え生物の取扱いを定めた国際的な枠組み）や生物多様性条約をはじめとする各種関連法規や国際ルールを学ぶ。	講義 20時間 演習 4時間
	ボルドー大学	動物性食材の品質管理	現在、動物性食材の品質評価には、植物用のものと同等の技術、または特定の技術が用いられている。ここでは、動物性食材の品質とその評価を理論的および実践的手法を通じて学ぶ。品質評価案は以下のとおり。 1. 欧州で採用されている食材の標準評価システムを順守した、動物性食材の官能検査およびテクスチャー評価（機械的手法/レオロジー） 2. 加工食材における動物性物質の不正使用を明らかにする核酸検出同定検査を基にした組成評価	
	ボルドー大学	(研究指導)	(1 Alain Blanchard) 細菌学、合成生物学に関する研究指導を行う。 (2 Antoine de Daruvar) バイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 (3 Catherine Bennetau) 動物栄養学に関する研究指導を行う。 (4 Dominique Rolin) 機能ゲノミクス、統合生物学（メタボローム・フラクソーム解析）に関する研究指導を行う。 (5 Eric Gomès) 植物生理学、植物病理学、機能ゲノミクスに関する研究指導を行う。 (6 Jean-Michel Merillon) 植物化学、バイオテクノロジーに関する研究指導を行う。 (7 Jean-Pierre Savineau) 動物学、生理学的調節・主要疾患に関する研究指導を行う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
			<p>(8 Jochen Lang) 栄養・生理学的調節・ヒトの主要疾患に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 Maria Urdaci) DNA分析による不正検知に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 Michael Kann) ウイルス学、宿主、病原体相互作用に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 Michel Hernould) 植物学、バイオテクノロジーに関する研究指導を行う。</p> <p>(12 Nicolas Larmonier) マイクロバイオーム・免疫に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 Philippe Gallusci) 植物エピジェネティクス、植物分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 Thierry Noël) 微生物学、菌類学、分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 Véronique Dubois) 感染性細菌学、抵抗性に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 Benoit Grossiord) 食材の微生物学的品質に関する研究指導を行う。</p> <p>(17 Claudine Jacquot) DNA分析による不正検知に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 Claudine Trossat) 植物生化学、生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 Frédéric Gévaudant) 植物組織発生学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 Frédéric Delmas) 植物組織発生学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(21 Gérard Barroso) 菌類遺伝学、バイオテクノロジー、進化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 Guillaume Durand) RNAの生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 Isabelle Accoceberry) 感染性菌類学、寄生菌学に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 Karine Dementhon) 菌類の分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 Kentaro Mori) 植物生理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 Laure Beven) 細菌学、生化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 Loïc Rivière) 分子寄生虫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 Marie-Pierre Ellies-Oury) 食肉及び動物性食材の品質に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 Matthieu Raoux) バイオセンサーに関する研究指導を行う。</p> <p>(30 Muriel Denayrolles) 食材の微生物学的品質に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 Patricia Thebault) バイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(32 Pierre-François Bert) 植物遺伝育種学に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 Stéphanie Cluzet) 植物細胞生物学、植物分子生物学に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 Stéphanie Krisa) 機能性低分子に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 Valérie Schurdi-Levraud) 植物育種遺伝学と進化に関する</p> <p>(36 Virginie Lauvergeat) 植物生物学、植物病理学、機能ゲノム学に関する研究指導を行う。</p>	